

森の木遺跡発掘調査報告書

東九州自動車道（佐伯～県境間）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(4)

2016

大分県教育庁埋蔵文化財センター

森の木遺跡発掘調査報告書

東九州自動車道（佐伯～県境間）
建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(4)

2016

大分県教育庁埋蔵文化財センター

森の木遺跡発掘調査報告書

2016

序 文

本書は、大分県教育委員会が、国土交通省九州地方整備局佐伯河川国道事務所から依頼を受け、平成21年～22年度に実施した東九州自動車道（佐伯～県境間）建設工事に伴う森の木遺跡の発掘調査報告書です。

遺跡の所在する佐伯市は、大分県の南部に位置し、宮崎県との県境方面に連なる祖母傾山系から派生する山嶺と谷が幾重にもみられる起伏に富んだ地形を呈しています。高い山と深い谷、そして谷底を滔々と流れる清流は一幅の山水画のようで、四季折々に私たちの目を楽しませてくれます。また、この地域の海岸部には、入り組んだリアス式海岸とともに海が広がっています。弥生時代には、下城遺跡・白濁遺跡・長良貝塚が形成されるなど、海の幸を食べていた海人の姿が想像されます。

本書で報告する森の木遺跡は、縄文時代草創期を主体とした県下最古の縄文集落であります。縄文時代草創期の土器とともに、竪穴建物や炉穴が多数出土しており、集落の在りかたや当時の生活を知る貴重な調査例となりました。

本書が埋蔵文化財に対する保護・啓発、さらには学術研究の一助として活用されれば幸いです。

最後に、この発掘調査に多大なご支援とご協力をいただきました関係各位に対し、衷心から感謝申し上げます。

平成28年3月31日

大分県教育庁埋蔵文化財センター

所 長 後 藤 一 重

例 言

1. 本書は、国土交通省九州地方整備局佐伯河川国道事務所から依頼を受けて、大分県教育委員会が実施した東九州自動車道（佐伯～県境間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本書で報告する森の木遺跡は、平成21年度・平成22年度に発掘調査を実施し、平成23～27年度に整理作業を行った。
3. 発掘調査は、実測作業・写真撮影・発掘作業員の労務管理等の業務を発掘調査支援委託業務として株式会社イビソクに委託して実施した。
4. 出土遺物の整理作業や報告書作成に伴う諸作業については、大分県教育庁埋蔵文化財センター職員が担当したほか、遺物の洗浄・注記・接合・実測・トレースについては平成22年度に株式会社イビソク、平成23・24・26年度は九州文化財総合研究所に委託し実施した。
5. 出土遺物の写真撮影は、綿貫俊一・高山加代（埋蔵文化財センター）が行った。
6. 出土遺物ならびに図面・写真等は、大分県教育庁埋蔵文化財センターにおいて保管している。
7. 遺物の出土状況に関する詳細なデータは、大分県教育庁埋蔵文化財センターで保管している。
8. 発掘調査に際して、以下の方々より助言を頂いた。

吉武牧子（佐伯市教育委員会）・福田 聡（佐伯市教育委員会）
下村 智（別府大学）
矢野健一（立命館大学）
9. 整理作業及び報告書作成段階において、後藤一重・小柳和宏・江田 豊・横澤 慈（埋蔵文化財センター）からご助言・ご支援をいただいた。
10. 本書の執筆は綿貫俊一が行った。
11. 本書の編集は坂本嘉弘（埋蔵文化財センター）と協議しながら綿貫が行った。

凡 例

1. 測量座標値は、世界測地系を用いた。標高はすべて海拔をあらわす。
2. 本書で使用する方位は、いずれも座標真北である。
3. 壁面土層図は、名称・注記等の内容について原図記載のとおりであるが、表現を大幅に補った。
4. 石器類の縮尺については統一していない。
5. 土器の色調については、『新版 標準土色帖』を用いた。
6. 観察表における石器のUフレは、使用痕ある剥片、Rフレは加工痕ある剥片の省略記号である。腰岳・牟田系黒曜岩・姫島産黒曜岩については化学分析を行なっておらず、推定産地として標記している。

目 次

序文
例言
凡例
目次

第1章	はじめに	1	(9) 遺物出土状況	152	
第1節	調査の経過	1	第4節	弥生時代・古墳時代の 遺構と遺物	154
1	調査に至る経緯	1	1	弥生時代	154
2	調査の経過	1	2	古墳時代	154
第2節	調査組織の構成	2	第5節	中世・近世の遺構	155
第2章	遺跡の立地と環境	3	1	建物・構造物	155
第1節	地理的環境	3	2	土坑	160
第2節	歴史的環境	4	第6節	遺跡出土の遺物	161
第3章	調査の成果	5	1	旧石器時代後期	161
第1節	調査の方法と遺跡の概要	5	2	縄文時代	172
1	調査の方法	5	(1)	草創期の区分	172
2	遺跡の概要	6	(2)	縄文時代草創期初頭	172
(1)	第1次調査の概要	6	(3)	縄文時代草創期前半	172
(2)	土層	6	(4)	縄文時代草創期中頃	175
(3)	遺構	6	(5)	縄文時代草創期後半	175
(4)	遺物	11	(6)	縄文時代早期前半	178
第2節	旧石器時代	13	(7)	縄文時代早期中頃	179
1	調査の状況	13	(8)	縄文時代早期後半	180
2	遺物	13	(9)	縄文時代前期	236
第3節	縄文時代	22	(10)	縄文時代後期	236
1	草創期の遺構と遺物	22	(11)	縄文時代の石器	239
(1)	堅穴建物	22	(12)	弥生時代以降	301
(2)	土坑	43	①	弥生時代	301
2	草創期・早期の遺構と遺物	44	②	古墳時代	301
(1)	堅穴建物	44	③	中世	301
(2)	配石・石組炉・集石	72	④	近世	301
(3)	炉穴	75	第4章	まとめ	305
(4)	集石遺構	86	遺物観察表		
(5)	土坑を伴う集石遺構	98	遺構一覧表		
(6)	土坑	110	写真図版		
(7)	陥し穴遺構	150			
(8)	柱穴その他	152			

挿 図 目 次

第1図	森の木遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/25000) …… 3	第39図	S259実測図 (1/40) …… 43
第2図	森の木遺跡の位置と周辺地形図 (1/5000) …… 5	第40図	S259出土遺物実測図 …… 43
第3図	森の木遺跡 全体図 (1/400) …… 7～8	第41図	S077実測図 (1/40) …… 44
第4図	G列北面 東西土層断面図 (1/80) …… 9～10 4列東面 南北土層断面図 (1/80) 3列西面 南北土層断面図 (1/80)	第42図	S077出土遺物実測図 …… 45
第5図	D列北面 (8-9グリッド) 東西土層断面図 (1/80) …… 11	第43図	S080実測図 (1/40) …… 45
第6図	D列北面 (10-12グリッド) 東西土層断面図 (1/80) …… 11	第44図	S083実測図 (1/40) …… 46
第7図	9CD区東壁土層断面図 (1/80) …… 12	第45図	S083出土遺物実測図 …… 46
第8図	8CDトレンチ西面 南北土層断面図 (1/80) …… 13	第46図	S108実測図 (1/40) …… 47
第9図	IV層遺物分布図 (1/600) …… 14	第47図	S124実測図 (1/40) …… 47
第10図	0E区IV層遺物出土状況 (1/40) …… 15	第48図	S124出土遺物実測図 …… 47
第11図	IV層 (旧石器時代) 遺物出土状況 (1/40) …… 15	第49図	S126実測図 (1/40) …… 48
第12図	IV層出土遺物実測図 (1) …… 16	第50図	S133実測図 (1/40) …… 48
第13図	IV層出土遺物実測図 (2) …… 17	第51図	S134実測図 (1/40) …… 49
第14図	IV層出土遺物実測図 (3) …… 18	第52図	S135実測図 (1/40) …… 49
第15図	IV層出土遺物実測図 (4) …… 19	第53図	S157・S158・(S203土坑) 実測図 (1/40) …… 50
第16図	IV層出土遺物実測図 (5) …… 20	第54図	S157出土遺物実測図 (1) …… 51
第17図	IV層出土遺物実測図 (6) …… 21	第55図	S157出土遺物実測図 (2) …… 52
第18図	S190出土遺物実測図 …… 22	第56図	S158出土遺物実測図 …… 53
第19図	S190実測図 (1/40) …… 22	第57図	S159実測図 (1/40) …… 53
第20図	S245・S277・(S276・S309土坑) 実測図 (1/40) …… 23	第58図	S159出土遺物実測図 …… 54
第21図	S245出土遺物実測図 (1) …… 24	第59図	S160実測図 (1/40) …… 55
第22図	S245出土遺物実測図 (2) …… 25	第60図	S160出土遺物実測図 (1) …… 56
第23図	S246実測図 (1/40) …… 27	第61図	S160出土遺物実測図 (2) …… 56
第24図	S246出土遺物実測図 …… 28	第62図	S162・(S221土坑) 実測図 (1/40) …… 57
第25図	S246出土遺物実測図 …… 28	第63図	S162出土遺物実測図 …… 57
第26図	S273実測図 (1/40) …… 29	第64図	S164・(S205土坑) 実測図 (1/40) …… 58
第27図	S273出土遺物実測図 …… 29	第65図	S164出土遺物実測図 …… 59
第28図	S277出土遺物実測図 …… 30	第66図	S172実測図 (1/40) …… 59
第29図	S358 (S391・S392・S393土坑) 実測図 (1/40) …… 32	第67図	S172出土遺物実測図 …… 60
第30図	S358遺物出土状況実測図 (1/20) …… 33	第68図	S186出土遺物実測図 …… 60
第31図	S358出土遺物実測図 (1) …… 34	第69図	S186・S187・(S168・S185土坑) 実測図 (1/40) …… 61
第32図	S358出土遺物実測図 (2) …… 35	第70図	S215実測図 (1/40) …… 62
第33図	S358出土遺物実測図 (3) …… 36	第71図	S216実測図 (1/40) …… 63
第34図	S383 (S384・S385・S553土坑) 実測図 (1/40) …… 38	第72図	S253実測図 (1/40) …… 63
第35図	S383出土遺物実測図 (1) …… 39	第73図	S253出土遺物実測図 …… 63
第36図	S383出土遺物実測図 (2) …… 40	第74図	S275実測図 (1/40) …… 64
第37図	S383出土遺物実測図 (3) …… 41	第75図	S347・(S351・S352・S364土坑) 実測図 (1/40) …… 65
第38図	S383出土遺物実測図 (4) …… 42	第76図	S347出土遺物実測図 (1) …… 66
		第77図	S347出土遺物実測図 (2) …… 67
		第78図	S347出土遺物実測図 (3) …… 68

第79図	S370 (S223・S371)・(S362・S372土坑)実測図(1/40) ……69	第122図	S039出土遺物実測図 ……86
第80図	S370出土遺物実測図 ……70	第123図	S042実測図 (1/40) ……87
第81図	S370・S372出土遺物実測図 ……71	第124図	S042出土遺物実測図 ……87
第82図	S372出土遺物実測図 ……71	第125図	S043実測図 (1/40) ……88
第83図	S040実測図 (1/40) ……72	第126図	S045実測図 (1/40) ……89
第84図	S040出土遺物実測図 ……72	第127図	S046実測図 (1/40) ……90
第85図	S041実測図 (1/40) ……72	第128図	S051実測図 (1/40) ……90
第86図	S050実測図 (1/40) ……72	第129図	S051出土遺物実測図 ……90
第87図	S057実測図 (1/40) ……73	第130図	S052・S053実測図 (1/40) ……91
第88図	S057出土遺物実測図 ……73	第131図	S056実測図 (1/40) ……91
第89図	S072実測図 (1/40) ……73	第132図	S061・S062実測図 (1/40) ……91
第90図	S075実測図 (1/40) ……73	第133図	S063実測図 (1/40) ……92
第91図	S075出土遺物実測図 ……73	第134図	S065実測図 (1/40) ……92
第92図	S085実測図 (1/40) ……74	第135図	S065出土遺物実測図 ……92
第93図	S086実測図 (1/40) ……74	第136図	S070実測図 (1/40) ……93
第94図	S088実測図 (1/40) ……74	第137図	S070出土遺物実測図 ……93
第95図	S121・S145土坑実測図 (1/40) ……75	第138図	S073実測図 (1/40) ……93
第96図	S147実測図 (1/40) ……75	第139図	S074実測図 (1/40) ……94
第97図	S147出土遺物実測図 ……75	第140図	S087実測図 (1/40) ……94
第98図	S184実測図 (1/40) ……76	第141図	S244実測図 (1/40) ……95
第99図	S184出土遺物実測図 ……76	第142図	S247実測図 (1/40) ……95
第100図	S188実測図 (1/40) ……77	第143図	S248実測図 (1/40) ……95
第101図	S194 (S243) 実測図 (1/40) ……78	第144図	S329実測図 (1/40) ……96
第102図	S205・(S224) 実測図 (1/40) ……78	第145図	S329出土遺物実測図 ……96
第103図	S205(S224) 出土遺物実測図 ……79	第146図	S339実測図 (1/40) ……97
第104図	S205(S224) 出土遺物実測図 ……79	第147図	S339出土遺物実測図 ……97
第105図	S207 (S163)・(S208土坑) 実測図 (1/40) ……79	第148図	S340実測図 (1/40) ……97
第106図	S163・S207出土遺物実測図 ……79	第149図	S004実測図 (1/40) ……98
第107図	S228実測図 (1/40) ……80	第150図	S034実測図 (1/40) ……98
第108図	S249実測図 (1/40) ……80	第151図	S044実測図 (1/40) ……99
第109図	S249出土遺物実測図 ……81	第152図	S047実測図 (1/40) ……99
第110図	S268実測図 (1/40) ……81	第153図	S048実測図 (1/40) ……99
第111図	S359実測図 (1/40) ……82	第154図	S049出土遺物実測図 ……100
第112図	S359出土遺物実測図 ……82	第155図	S049・S071集石部実測図 (1/40) ……100
第113図	S361実測図 (1/40) ……82	第156図	S049・S071皿状ビット部分実測図 (1/40) ……100
第114図	S366実測図 (1/40) ……83	第157図	S058実測図 (1/40) ……101
第115図	S366・S368出土遺物実測図 ……83	第158図	S064実測図 (1/40) ……101
第116図	S368実測図 (1/40) ……84	第159図	S066・S067・S068・S069位置図 ……101
第117図	S376実測図 (1/40) ……84	第160図	S066実測図 (1/40) ……102
第118図	S379出土遺物実測図 ……85	第161図	S067実測図 (1/40) ……102
第119図	S379・390実測図 (1/40) ……85	第162図	S067出土遺物実測図 ……102
第120図	S035実測図 (1/40) ……86	第163図	S068実測図 (1/40) ……102
第121図	S039実測図 (1/40) ……86	第164図	S069実測図 (1/40) ……102

第165图	S079·(S078土坑)实测图(1/40)	103	第208图	S106实测图(1/40)	117
第166图	S089实测图(1/40)	103	第209图	S107实测图(1/40)	117
第167图	S090实测图(1/40)	103	第210图	S109实测图(1/40)	117
第168图	S116实测图(1/40)	103	第211图	S110·S111实测图(1/40)	117
第169图	S266实测图(1/40)	104	第212图	S110出土遗物实测图	118
第170图	S330实测图(1/40)	104	第213图	S112实测图(1/40)	118
第171图	S330出土遗物实测图	104	第214图	S113实测图(1/40)	119
第172图	S332·S333·S334实测图(1/40)	105	第215图	S113出土遗物实测图	119
第173图	S332·S338出土遗物实测图	105	第216图	S114实测图(1/40)	119
第174图	S335实测图(1/40)	106	第217图	S117实测图(1/40)	119
第175图	S336实测图(1/40)	106	第218图	S118实测图(1/40)	120
第176图	S334出土遗物实测图	107	第219图	S119实测图(1/40)	120
第177图	S337出土遗物实测图	108	第220图	S120实测图(1/40)	120
第178图	S337·S346(下部)实测图(1/40)	108	第221图	S122出土遗物实测图	120
第179图	S338实测图(1/40)	108	第222图	S122实测图(1/40)	120
第180图	S348·S349·S350实测图(1/40)	109	第223图	S123实测图(1/40)	121
第181图	S350出土遗物实测图	109	第224图	S125实测图(1/40)	121
第182图	S382实测图(1/40)	109	第225图	S129出土遗物实测图	121
第183图	S382出土遗物实测图	109	第226图	S129实测图(1/40)	121
第184图	S003实测图(1/40)	110	第227图	S130实测图(1/40)	121
第185图	S005实测图(1/40)	110	第228图	S131实测图(1/40)	122
第186图	S006实测图(1/40)	111	第229图	S132实测图(1/40)	122
第187图	S006出土遗物实测图	111	第230图	S136实测图(1/40)	122
第188图	S059出土遗物实测图	111	第231图	S138·S169实测图(1/40)	122
第189图	S078出土遗物实测图	111	第232图	S140实测图(1/40)	123
第190图	S081实测图(1/40)	112	第233图	S141实测图(1/40)	123
第191图	S082实测图(1/40)	112	第234图	S142·S170实测图(1/40)	123
第192图	S084实测图(1/40)	112	第235图	S142出土遗物实测图	123
第193图	S092实测图(1/40)	112	第236图	S143实测图(1/40)	124
第194图	S093实测图(1/40)	113	第237图	S146实测图(1/40)	124
第195图	S094实测图(1/40)	113	第238图	S149实测图(1/40)	124
第196图	S095实测图(1/40)	113	第239图	S150实测图(1/40)	124
第197图	S096实测图(1/40)	113	第240图	S151实测图(1/40)	125
第198图	S097实测图(1/40)	114	第241图	S153实测图(1/40)	125
第199图	S098·S128实测图(1/40)	114	第242图	S154实测图(1/40)	125
第200图	S099·S100实测图(1/40)	115	第243图	S155实测图(1/40)	125
第201图	S100出土遗物实测图	115	第244图	S155出土遗物实测图	126
第202图	S101出土遗物实测图	115	第245图	S156出土遗物实测图	126
第203图	S101实测图(1/40)	115	第246图	S161实测图(1/40)	126
第204图	S102实测图(1/40)	116	第247图	S165实测图(1/40)	127
第205图	S103实测图(1/40)	116	第248图	S166实测图(1/40)	127
第206图	S104实测图(1/40)	116	第249图	S167实测图(1/40)	127
第207图	S105实测图(1/40)	116	第250图	S171实测图(1/40)	128

第251図	S173実測図 (1/40)	128	第294図	S261実測図 (1/40)	141
第252図	S174実測図 (1/40)	128	第295図	S262実測図 (1/40)	141
第253図	S175 (S176) 実測図 (1/40)	128	第296図	S263・S264実測図 (1/40)	141
第254図	S177・S178実測図 (1/40)	129	第297図	S263・S265・S272出土遺物実測図	141
第255図	S177出土遺物実測図	130	第298図	S265実測図 (1/40)	142
第256図	S178出土遺物実測図	131	第299図	S267実測図 (1/40)	142
第257図	S181実測図 (1/40)	131	第300図	S270・S271実測図 (1/40)	142
第258図	S181出土遺物実測図	131	第301図	S278実測図 (1/40)	143
第259図	S182実測図 (1/40)	132	第302図	S331実測図 (1/40)	143
第260図	S183実測図 (1/40)	132	第303図	S341・S357実測図 (1/40)	143
第261図	S185出土遺物実測図	132	第304図	S353・S354出土遺物実測図	144
第262図	S192実測図 (1/40)	133	第305図	S363出土遺物実測図	144
第263図	S193実測図 (1/40)	133	第306図	S367実測図 (1/40)	145
第264図	S195実測図 (1/40)	133	第307図	S367出土遺物実測図	145
第265図	S196実測図 (1/40)	133	第308図	S369実測図 (1/40)	145
第266図	S198実測図 (1/40)	134	第309図	S369出土遺物実測図	145
第267図	S199実測図 (1/40)	134	第310図	S378実測図 (1/40)	146
第268図	S200実測図 (1/40)	134	第311図	S371出土遺物実測図	146
第269図	S201実測図 (1/40)	134	第312図	S372出土遺物実測図	146
第270図	S202実測図 (1/40)	135	第313図	S381実測図 (1/40)	147
第271図	S206実測図 (1/40)	135	第314図	S381出土遺物実測図	147
第272図	S208・S210出土遺物実測図	135	第315図	S384・S385実測図 (1/40)	147
第273図	S209実測図 (1/40)	136	第316図	S384・S385出土遺物実測図	148
第274図	S210実測図 (1/40)	136	第317図	S391・S393出土遺物実測図	148
第275図	S211実測図 (1/40)	136	第318図	S391・S392・S393実測図 (1/40)	149
第276図	S212実測図 (1/40)	136	第319図	S076実測図 (1/40)	150
第277図	S214実測図 (1/40)	137	第320図	S115実測図 (1/40)	150
第278図	S217実測図 (1/40)	137	第321図	S148実測図 (1/40)	151
第279図	S219実測図 (1/40)	137	第322図	S152実測図 (1/40)	151
第280図	S220実測図 (1/40)	137	第323図	S226実測図 (1/40)	151
第281図	S221出土遺物実測図	138	第324図	S241出土遺物実測図	152
第282図	S222実測図 (1/40)	138	第325図	S255出土遺物実測図	152
第283図	S225実測図 (1/40)	138	第326図	S387・S395出土遺物実測図	152
第284図	S225出土遺物実測図	138	第327図	1H区内石皿出土状況実測図① (1/40)	153
第285図	S229実測図 (1/40)	139	第328図	1H区内石皿出土状況実測図② (1/40)	153
第286図	S250実測図 (1/40)	139	第329図	11F区配石遺構実測図 (1/40)	153
第287図	S250出土遺物実測図	139	第330図	9D区配石遺構実測図 (1/40)	153
第288図	S252実測図 (1/40)	139	第331図	遺物出土状況実測図 (1/20)	154
第289図	S252出土遺物実測図	139	第332図	S251実測図 (1/20)	154
第290図	S254・S255・S256実測図 (1/40)	140	第333図	S251出土遺物実測図	154
第291図	S257実測図 (1/40)	140	第334図	SB055a実測図 (1/60)	155
第292図	S258実測図 (1/40)	140	第335図	SB055a柱穴出土遺物実測図	155
第293図	S260実測図 (1/40)	140	第336図	森の木遺跡 中世・近世遺構位置図 (1/600)	156

第337・338図	SB055bc実測図(1/60)……………	157	第381図	出土遺物実測図36-縄文時代早期-(23)……………	203
第339図	SB001実測図(1/60)……………	158	第382図	出土遺物実測図37-縄文時代早期-(24)……………	204
第340図	SA001実測図(1/60)……………	159	第383図	出土遺物実測図38-縄文時代早期-(25)……………	205
第341図	SA002実測図(1/60)……………	159	第384図	出土遺物実測図39-縄文時代早期-(26)……………	206
第342図	S127実測図(1/40)……………	160	第385図	出土遺物実測図40-縄文時代早期-(27)……………	207
第343図	S127出土遺物実測図……………	160	第386図	出土遺物実測図41-縄文時代早期-(28)……………	208
第344図	出土遺物実測図1-旧石器時代-(1)……………	162	第387図	出土遺物実測図42-縄文時代早期-(29)……………	209
第345図	出土遺物実測図2-旧石器時代-(2)……………	163	第388図	出土遺物実測図43-縄文時代早期-(30)……………	210
第346図	出土遺物実測図3-旧石器時代-(3)……………	164	第389図	出土遺物実測図44-縄文時代早期-(31)……………	211
第347図	出土遺物実測図4-旧石器時代-(4)……………	165	第390図	出土遺物実測図45-縄文時代早期-(32)……………	212
第348図	出土遺物実測図5-旧石器時代-(5)……………	166	第391図	出土遺物実測図46-縄文時代早期-(33)……………	213
第349図	出土遺物実測図6-旧石器時代-(6)……………	167	第392図	出土遺物実測図47-縄文時代早期-(34)……………	214
第350図	出土遺物実測図7-旧石器時代-(7)……………	168	第393図	出土遺物実測図48-縄文時代早期-(35)……………	215
第351図	出土遺物実測図8-旧石器時代-(8)……………	169	第394図	出土遺物実測図49-縄文時代早期-(36)……………	216
第352図	出土遺物実測図9-旧石器時代-(9)……………	170	第395図	出土遺物実測図50-縄文時代早期-(37)……………	217
第353図	出土遺物実測図10-旧石器時代-(10)……………	171	第396図	出土遺物実測図51-縄文時代早期-(38)……………	218
第354図	森の木遺跡Ⅱ層遺物分布図(1/600)……………	173	第397図	出土遺物実測図52-縄文時代早期-(39)……………	219
第355図	森の木遺跡Ⅲ層遺物分布図(1/600)……………	174	第398図	出土遺物実測図53-縄文時代早期-(40)……………	220
第356図	出土遺物実測図11-縄文時代草創期-(1)……………	176	第399図	出土遺物実測図54-縄文時代早期-(41)……………	221
第357図	出土遺物実測図12-縄文時代草創期-(2)……………	177	第400図	出土遺物実測図55-縄文時代早期-(42)……………	222
第358図	出土遺物実測図13-縄文時代草創期-(3)……………	178	第401図	出土遺物実測図56-縄文時代早期-(43)……………	223
第359図	出土遺物実測図14-縄文時代早期-(1)……………	181	第402図	出土遺物実測図57-縄文時代早期-(44)……………	224
第360図	出土遺物実測図15-縄文時代早期-(2)……………	182	第403図	出土遺物実測図58-縄文時代早期-(45)……………	225
第361図	出土遺物実測図16-縄文時代早期-(3)……………	183	第404図	出土遺物実測図59-縄文時代早期-(46)……………	226
第362図	出土遺物実測図17-縄文時代早期-(4)……………	184	第405図	出土遺物実測図60-縄文時代早期-(47)……………	227
第363図	出土遺物実測図18-縄文時代早期-(5)……………	185	第406図	出土遺物実測図61-縄文時代早期-(48)……………	228
第364図	出土遺物実測図19-縄文時代早期-(6)……………	186	第407図	出土遺物実測図62-縄文時代早期-(49)……………	229
第365図	出土遺物実測図20-縄文時代早期-(7)……………	187	第408図	出土遺物実測図63-縄文時代早期-(50)……………	230
第366図	出土遺物実測図21-縄文時代早期-(8)……………	188	第409図	出土遺物実測図64-縄文時代早期-(51)……………	231
第367図	出土遺物実測図22-縄文時代早期-(9)……………	189	第410図	出土遺物実測図65-縄文時代早期-(52)……………	232
第368図	出土遺物実測図23-縄文時代早期-(10)……………	190	第411図	出土遺物実測図66-縄文時代早期-(53)……………	233
第369図	出土遺物実測図24-縄文時代早期-(11)……………	191	第412図	出土遺物実測図67-縄文時代早期-(54)……………	234
第370図	出土遺物実測図25-縄文時代早期-(12)……………	192	第413図	出土遺物実測図68-縄文時代草創期・早期-(55)…	235
第371図	出土遺物実測図26-縄文時代早期-(13)……………	193	第414図	出土遺物実測図69-縄文時代草創期・前期……………	237
第372図	出土遺物実測図27-縄文時代早期-(14)……………	194	第415図	出土遺物実測図70-縄文時代前期・中期・後期……………	238
第373図	出土遺物実測図28-縄文時代早期-(15)……………	195	第416図	出土遺物実測図71-縄文時代の石器-(1)……………	241
第374図	出土遺物実測図29-縄文時代早期-(16)……………	196	第417図	出土遺物実測図72-縄文時代の石器-(2)……………	242
第375図	出土遺物実測図30-縄文時代早期-(17)……………	197	第418図	出土遺物実測図73-縄文時代の石器-(3)……………	243
第376図	出土遺物実測図31-縄文時代早期-(18)……………	198	第419図	出土遺物実測図74-縄文時代の石器-(4)……………	244
第377図	出土遺物実測図32-縄文時代早期-(19)……………	199	第420図	出土遺物実測図75-縄文時代の石器-(5)……………	245
第378図	出土遺物実測図33-縄文時代早期-(20)……………	200	第421図	出土遺物実測図76-縄文時代の石器-(6)……………	246
第379図	出土遺物実測図34-縄文時代早期-(21)……………	201	第422図	出土遺物実測図77-縄文時代の石器-(7)……………	247
第380図	出土遺物実測図35-縄文時代早期-(22)……………	202	第423図	出土遺物実測図78-縄文時代の石器-(8)……………	248

第424図	出土遺物実測図79 -縄文時代の石器- (9) ……………	249	第467図	出土遺物実測図122 -縄文時代の石器- (52) ……………	292
第425図	出土遺物実測図80 -縄文時代の石器- (10) ……………	250	第468図	出土遺物実測図123 -縄文時代の石器- (53) ……………	293
第426図	出土遺物実測図81 -縄文時代の石器- (11) ……………	251	第469図	出土遺物実測図124 -縄文時代の石器- (54) ……………	294
第427図	出土遺物実測図82 -縄文時代の石器- (12) ……………	252	第470図	出土遺物実測図125 -縄文時代の石器- (55) ……………	295
第428図	出土遺物実測図83 -縄文時代の石器- (13) ……………	253	第471図	出土遺物実測図126 -縄文時代の石器- (56) ……………	296
第429図	出土遺物実測図84 -縄文時代の石器- (14) ……………	254	第472図	出土遺物実測図127 -縄文時代の石器- (57) ……………	297
第430図	出土遺物実測図85 -縄文時代の石器- (15) ……………	255	第473図	出土遺物実測図128 -縄文時代の石器- (58) ……………	298
第431図	出土遺物実測図86 -縄文時代の石器- (16) ……………	256	第474図	出土遺物実測図129 -縄文時代の石器- (59) ……………	299
第432図	出土遺物実測図87 -縄文時代の石器- (17) ……………	257	第475図	出土遺物実測図130 -縄文時代の石器- (60) ……………	300
第433図	出土遺物実測図88 -縄文時代の石器- (18) ……………	258		-弥生時代～近世-	
第434図	出土遺物実測図89 -縄文時代の石器- (19) ……………	259	第476図	出土遺物実測図131……………	301
第435図	出土遺物実測図90 -縄文時代の石器- (20) ……………	260	第477図	森の木遺跡 調査区西部遺構配置図 (1/300) ……………	302
第436図	出土遺物実測図91 -縄文時代の石器- (21) ……………	261	第478図	森の木遺跡 調査区東部遺構配置図 (1/300) ……………	303
第437図	出土遺物実測図92 -縄文時代の石器- (22) ……………	262	第479図	出土遺物実測図132 -弥生時代～近世- ……………	304
第438図	出土遺物実測図93 -縄文時代の石器- (23) ……………	263	第480図	隆帯文土器口縁部分類 ……………	306
第439図	出土遺物実測図94 -縄文時代の石器- (24) ……………	264	第481図	隆帯文土器・擬隆帯文土器の分類図 ……………	308
第440図	出土遺物実測図95 -縄文時代の石器- (25) ……………	265	第482図	縄文時代草創期・早期前半の土器分布と集落景観図 (1/400) ……	313
第441図	出土遺物実測図96 -縄文時代の石器- (26) ……………	266			
第442図	出土遺物実測図97 -縄文時代の石器- (27) ……………	267			
第443図	出土遺物実測図98 -縄文時代の石器- (28) ……………	268			
第444図	出土遺物実測図99 -縄文時代の石器- (29) ……………	269			
第445図	出土遺物実測図100 -縄文時代の石器- (30) ……………	270			
第446図	出土遺物実測図101 -縄文時代の石器- (31) ……………	271			
第447図	出土遺物実測図102 -縄文時代の石器- (32) ……………	272			
第448図	出土遺物実測図103 -縄文時代の石器- (33) ……………	273			
第449図	出土遺物実測図104 -縄文時代の石器- (34) ……………	274			
第450図	出土遺物実測図105 -縄文時代の石器- (35) ……………	275			
第451図	出土遺物実測図106 -縄文時代の石器- (36) ……………	276			
第452図	出土遺物実測図107 -縄文時代の石器- (37) ……………	277			
第453図	出土遺物実測図108 -縄文時代の石器- (38) ……………	278			
第454図	出土遺物実測図109 -縄文時代の石器- (39) ……………	279			
第455図	出土遺物実測図110 -縄文時代の石器- (40) ……………	280			
第456図	出土遺物実測図111 -縄文時代の石器- (41) ……………	281			
第457図	出土遺物実測図112 -縄文時代の石器- (42) ……………	282			
第458図	出土遺物実測図113 -縄文時代の石器- (43) ……………	283			
第459図	出土遺物実測図114 -縄文時代の石器- (44) ……………	284			
第460図	出土遺物実測図115 -縄文時代の石器- (45) ……………	285			
第461図	出土遺物実測図116 -縄文時代の石器- (46) ……………	286			
第462図	出土遺物実測図117 -縄文時代の石器- (47) ……………	287			
第463図	出土遺物実測図118 -縄文時代の石器- (48) ……………	288			
第464図	出土遺物実測図119 -縄文時代の石器- (49) ……………	289			
第465図	出土遺物実測図120 -縄文時代の石器- (50) ……………	290			
第466図	出土遺物実測図121 -縄文時代の石器- (51) ……………	291			

表 目 次

第1表	森の木遺跡遺物観察表（土器・陶磁器）	315～341
第2表	森の木遺跡遺物観察表（石器）	341～351
第3表	森の木遺跡遺物観察表（土錘）	352
第4表	森の木遺跡遺物観察表（錢貨）	352
第5表	森の木遺跡遺構一覧表	352～356

写真図版目次

写真図版 1	森の木遺跡空中写真（2次調査）南西から北東方向	写真図版 9	2次 4H東壁中央 土層断面（西から） 2次 基本土層 土層断面（南から）
写真図版 2	森の木遺跡空中写真（2次調査）南から北方向	写真図版 10	2次 4F旧石器 出土状況① 2次 4F旧石器 出土状況② 2次 旧石器（集石か） 遺物出土状況（北から）
写真図版 3	森の木遺跡空中写真（2次調査）北から南方向	写真図版 11	2次 S190 完掘状況（南東から） 3次 S245・S277 出土状況（東から）
写真図版 4	森の木遺跡空中写真（4次調査） 2次調査～4次調査の遺構分布	写真図版 12	3次 S245・S277 出土状況（東から） 4次 S246 遺物出土状況（南から）
写真図版 5	森の木遺跡空中写真（2次調査）上が北 縄文時代草創期の南側竪穴建物群を中心とした遺構群	写真図版 13	4次 S246 完掘状況（南から） 3次 S273 完掘状況（東から）
写真図版 6	森の木遺跡空中写真（2次調査）上が北 縄文時代草創期の南側竪穴建物群を中心とした遺構群	写真図版 14	4次 S358 遺物出土状況（南から） 4次 S358 完掘状況（南から）
写真図版 7	森の木遺跡空中写真（3次調査）上が北 中央の区画が3次調査区 縄文時代草創期の北側竪穴建物群を中心とした遺構群で、その下が2次調査区の南側竪穴建物群が広がる	写真図版 15	4次 S383 遺物出土状況（西から） 4次 S383・S384・S385 完掘状況（北西から）
写真図版 8	森の木遺跡空中写真（4次調査）上が北	写真図版 16	3次 S259 土層断面（南から）

- 3次 S259 完掘状況（東から）
- 写真図版 17
- 2次 S077 完掘状況（東から）
- 2次 S080 完掘状況（西から）
- 写真図版 18
- 2次 S083 検出状況（北から）
- 2次 S083 遺物出土状況（北から）
- 2次 S108 土層断面（南から）
- 写真図版 19
- 2次 S124 土層断面（東から）
- 2次 S126 完掘状況（西から）
- 2次 S133 完掘状況（西から）
- 写真図版 20
- 2次 S134 完掘状況（北から）
- 2次 S135 完掘状況（南から）
- 写真図版 21
- 2次 S157・S158・S203 遺物出土状況（南西から）
- 2次 S157・S158・S203 完掘状況（西から）
- 写真図版 22
- 2次 S159 完掘状況（西から）
- 2次 S160 遺物出土状況・土層断面（南から）
- 写真図版 23
- 2次 S162・S188・S221・S227 完掘状況（東から）
- 2次 S164・S205 完掘状況（東から）
- 写真図版 24
- 2次 S172 完掘状況（東から）
- 2次 S168・S185・S186・S187 土層断面（南西から）
- 写真図版 25
- 2次 S168・S187 土層断面（西から）
- 2次 S185・S186 土層断面（西から）
- 写真図版 26
- 2次 S168・S185～S187 完掘状況（北から）
- 2次 S168・S185～S187 完掘状況（南東から）
- 写真図版 27
- 2次 S215 完掘状況（南東から）
- 2次 S216 遺物出土状況（南西から）
- 写真図版 28
- 2次 S216 完掘状況（北西から）
- 3次 S253 完掘状況（北から）
- 写真図版 29
- 4次 S347 遺物出土状況（西から）
- 4次 S347 完掘状況（西から）
- 写真図版 30
- 4次 S370・S371・S372 遺物出土状況（南から）
- 4次 S370 完掘状況（西から）
- 写真図版 31
- 2次 S040・S042 検出状況（東から）
- 2次 S041 検出状況（東から）
- 写真図版 32
- 2次 S050 検出状況（南から）
- 2次 S050 完掘状況（南から）
- 2次 S057 検出状況（南から）
- 写真図版 33
- 2次 S057（下層部） 検出状況（東から）
- 2次 S072 検出状況（北から）
- 2次 S072 土層断面（北から）
- 写真図版 34
- 2次 S085 検出状況（北東から）
- 2次 S086 検出状況（北西から）
- 2次 S088 検出状況（東から）
- 写真図版 35
- 2次 S121 土層断面（南西から）

2次 S121・S145 遺物出土状況（東から）

写真図版 36
2次 S184 遺物出土状況（南東から）
2次 S188 検出状況（南東）

写真図版 37
2次 S188 土層断面（北から）
2次 S243 土層断面（北東から）

写真図版 38
2次 S243 完掘状況（東から）
2次 S224 土層断面（北から）

写真図版 39
2次 S224 完掘状況（南から）
2次 S207・S208・S225 完掘状況（北から）

写真図版 40
2次 S207・S208・S225 完掘状況（北東から）
2次 S228 土層断面（南西から）

写真図版 41
2次 S228 完掘状況（南西から）
2次 S084 遺物出土状況（東から）

写真図版 42
3次 S249 出土状況（東から）
4次 S359 遺物出土状況（東から）

写真図版 43
4次 S361 完掘状況（東から）
4次 S361 土層断面（南東から）

写真図版 44
4次 S366 遺物出土状況（東から）
4次 S366 完掘状況（東から）

写真図版 45
4次 S368 遺物出土状況（東から）
4次 S368 土層断面（南東から）

写真図版 46
4次 S390 検出状況（東から）
4次 S390 検出状況（南東から）
4次 S390・S379 完掘状況（東から）

写真図版 47
2次 S035 検出状況（北から）
2次 S039・S041 検出状況（東から）

写真図版 48
2次 S041 堀方掘削後（南から）
2次 S043 検出状況（南から）

写真図版 49
2次 S045 検出状況（南から）
2次 S045 検出状況（北東から）

写真図版 50
2次 S046 検出状況（東から）
2次 S051 検出状況（南から）

写真図版 51
2次 S052・S053 検出状況（西から）
2次 S056 検出状況（南から）

写真図版 52
2次 S061 検出状況（北東から）
2次 S062 検出状況（北東から）

写真図版 53
2次 S063 検出状況（北から）
2次 S065 検出状況（西から）

写真図版 54
2次 S070 検出状況（北から）
2次 S073 検出状況（南から）

写真図版 55
2次 S074 検出状況（北東から）
3次 S244 検出状況（西から）

写真図版 56

3次 S247 検出状況 (西から)

3次 S248 土層断面 (北から)

写真図版 57

2次 S004 検出状況 (西から)

2次 S034 土層断面 (南東から)

写真図版 58

2次 S034 完掘状況 (東から)

2次 S044 検出状況 (東から)

写真図版 59

2次 S047 検出状況 (東から)

2次 S047 検出状況 (東から)

2次 S047 (下部) 検出状況 (南から)

写真図版 60

2次 S048 土層断面 (西から)

2次 S048 (下部) 検出状況 (西から)

写真図版 61

2次 S049 検出状況 (東から)

2次 S049・S071 完掘状況 (北から)

写真図版 62

2次 S058 検出状況 (東から)

2次 S064 検出状況 (南東から)

写真図版 63

2次 S090 土層断面 (東から)

2次 S066・S067 検出状況 (北から)

2次 S068・S069 検出状況 (北東から)

写真図版 64

2次 S066 土層断面 (西から)

2次 S068 土層断面 (南から)

2次 S069 土層断面 (南から)

写真図版 65

2次 S078・S079 土層断面 (南西から)

2次 S079 検出状況 (南西から)

2次 S089 検出状況 (南東から)

写真図版 66

2次 S090 検出状況 (西から)

2次 S090 完掘状況 (北から)

3次 S266 検出状況 (南から)

写真図版 67

4次 S330・S332~4・S336~8 集石遠景(南東から)

4次 S330・S332~4・S336~8 集石遠景(北西から)

写真図版 68

4次 S330 検出状況 (東から)

4次 S330・S336 検出状況 (北から)

4次 S330 検出状況 (北から)

写真図版 69

4次 S332・S333・S334 検出状況 (南から)

4次 S335 検出状況 上部 (南西から)

4次 S335 検出状況 下部 (南西から)

写真図版 70

4次 S336 検出状況 (北から)

4次 S337 検出状況 (南から)

4次 S337・S346 土層断面 (西から)

写真図版 71

4次 S338 検出状況 (南から)

4次 S348・S349・S350 検出状況 (南から)

4次 S349 土坑内の状況 (南から)

写真図版 72

4次 S382 遺物出土状況 (東から)

2次 S003 土層断面 (北から)

2次 S003 完掘状況 (東から)

写真図版 73

2次 S005 検出状況 (北から)

2次 S005 完掘・土層断面 (北から)

2次 S081 完掘状況 (東から)

写真図版 74

- 2次 S046 完掘状況 (南から)
- 2次 S082 完掘状況 (北から)
- 2次 S084 完掘状況 (北から)

写真図版 75

- 2次 S108 完掘状況
- 2次 S135 土層断面 (西から)
- 2次 S092 完掘状況 (東から)

写真図版 76

- 2次 S104 土層断面 (南から)
- 2次 S109 土層断面 (南から)
- 2次 S112 土層断面 (西から)

写真図版 77

- 2次 S117 遺物出土状況 (南から)
- 2次 S129 完掘状況 (北東から)
- 2次 S130 完掘状況 (東から)

写真図版 78

- 2次 S131 完掘状況 (南東から)
- 2次 S132 完掘状況 (南から) 炉穴
- 2次 S136 完掘状況 (南から)

写真図版 79

- 2次 S140 完掘状況 (東から)
- 2次 S146 土層断面 (北東から)
- 2次 S141 完掘状況 (西から)
- 2次 S147 完掘状況 (北西から)
- 2次 S149 土層断面 (南から)
- 2次 S150 土層断面 (東から)
- 2次 S151 土層断面 (東から)
- 2次 S173 完掘状況 (南西から)

写真図版 80

- 2次 S155 遺物出土状況 (西から)
- 2次 S175・S177・S178 遺物出土状況 (東から)
- 2次 S174 完掘状況 (南東から)
- 2次 S182 完掘状況 (東から)
- 2次 S181 遺物出土状況 (北から)

- 2次 S183 完掘状況 (東から)

- 2次 S195 遺物出土状況 (西から)

- 2次 S196 完掘状況 (南から)

写真図版 81

- 2次 S198 完掘状況 (北から)

- 2次 S201 完掘状況 (南西から)

- 2次 S209 土層断面 (南から)

- 2次 S210 土層断面 (南西から)

- 2次 S211 遺物出土状況・土層断面 (南から)

- 2次 S212 完掘状況 (西から)

- 2次 S222 完掘状況 (東から)

- 2次 S225 土層断面 (西から)

写真図版 82

- 2次 S229 完掘状況 (北から)

- 3次 S260 完掘状況 (北から)

- 3次 S258 完掘状況 (東から)

- 3次 S261 完掘状況 (北から)

- 3次 S263・S264・S265 完掘状況 (西から)

- 3次 S265 完掘状況 (南から)

- 3次 S267 完掘状況 (南から)

- 3次 S270・S271 完掘状況 (南から)

写真図版 83

- 3次 S127 完掘状況 (南西から)

- 4次 S331 遺物出土状況 (南から)

- 4次 S341 完掘状況 (北から)

- 4次 S367 遺物出土状況 (南東から)

- 4次 S369 遺物出土状況 (南西から)

- 4次 S384・S385 完掘状況 (南東から)

- 2次 S076 土層断面 (西から)

- 2次 S115 完掘状況 (南から)

写真図版 84

- 2次 S226 完掘状況 (西から)

- 2次 1F区6410 遺物出土状況 (北西から)

- 2次 1F区6411 遺物出土状況 (南東から)

- 2次 9Fグリッド 遺物出土状況 (東から)

- 2次 古銭 出土状況 (北から)

写真図版 85

2次 1Eグリッド 遺物出土状況（西から）
2次 0Eグリッド 遺物出土状況（北から）
3次 S251 出土状況（西から）

写真図版 86

隆帯文系土器
隆帯文系土器と草創期無文土器

写真図版 87

石器と隆帯文系土器
草創期石器

写真図版 88

草創期の土器・石器と早期の土器・石器
草創期・早期の土器

写真図版 89

草創期の土器・石器
草創期の土器

写真図版 90

早期の石器・草創期の土器
草創期前半の石器・旧石器時代のナイフ形石器等・
縄文時代早期の石器

写真図版 91

隆帯文系土器群
隆帯文系土器群

写真図版 92

隆帯文系土器
隆帯文系土器

写真図版 93

隆帯文系土器
縄文時代草創期の土器

写真図版 94

縄文時代早期の土器
縄文時代早期の土器

写真図版 95

縄文時代早期の土器
縄文時代早期の土器

写真図版 96

縄文時代早期の土器
縄文時代早期の土器

写真図版 97

縄文時代早期の土器
縄文時代早期・前期初頭の土器

写真図版 98

縄文時代早期・前期初頭の土器
縄文時代早期の土器

写真図版 99

縄文時代早期の土器
縄文時代早期の土器

写真図版 100

縄文時代早期の土器
縄文時代早期の土器

写真図版 101

縄文時代早期の土器
縄文時代早期の土器

写真図版 102

縄文時代前期の土器
縄文時代前期・後期の土器

写真図版 103

縄文時代早期の石器
縄文時代早期の石器

写真図版 104

縄文時代早期の石器
縄文時代早期の石器

写真図版 105

縄文時代早期の石核

縄文時代早期の石核

写真図版 106

縄文時代早期の石器 楔形石器、エンド・スクレ

イパー、石斧等

縄文時代早期の石器 磨石・凹石

写真図版 107

縄文時代早期の石器

縄文時代早期の石器 石錘

写真図版 108

縄文時代早期の台石

写真図版 109

縄文時代早期の台石 表面

縄文時代早期の台石 裏面

第1章 はじめに

第1節 調査の経過

1 調査に至る経緯

東九州自動車道（佐伯～県境間）は、北九州市から宮崎市に至る東九州自動車道全線延長 436km の内、佐伯 IC から蒲江 IC を経て、宮崎県境までの総延長 29km の区間である。大分県教育委員会では、平成 12 年度にこの区間の埋蔵文化財分布調査を実施した。その結果、周知遺跡である森の木遺跡や梅牟礼遺跡を含む 23 箇所の調査対象地がリストアップされることとなった。森の木遺跡は平成 10 年 7 月～10 月の道路拡幅に伴う調査（第 1 次調査）で良好な縄文時代早期の包含層が確認されており、自動車道の予定地内においても遺物包含層の存在が予測されていた。調査の環境が整った平成 21 年、国土交通省九州地方整備局佐伯河川国道事務所から平成 21 年 4 月 13 日付の調査依頼があり、同年 5 月 21 に確認調査を実施した。

試掘調査は 12 箇所のトレンチを設け行い、Ⅱ層中から縄文時代後期の土器、Ⅲ層中から縄文時代早期の土器集石が出土した。特にⅢ層中の遺物はほぼ全域で観察された。こうした確認調査の結果から平成 21 年度・平成 22 年度に本調査を実施した。

2 調査の経過

第 2 次調査範囲 (4, 450m²)

平成21年 7 月 2 日(木) 除草作業とグリッド設定

7 月 3 日(金) 調査区の設定及び、水準点・基準点の設置

7 月 7 日(火) 重機で区域 1 南西部から表土除去開始

7 月 13 日(月) 作業員による包含層の掘り下げ開始 Ⅱ層（アカホヤ）の上面で石匙・下部で塞ノ神式土器

10 月 19 日(月) E 3 区・F 3 区で竪穴建物を検出 その後、続々と竪穴建物を検出

10 月 23 日(金) 佐伯市立上堅田小学校 6 年 42 名が発掘体験

11 月 19 日(木) 煙道付炉穴を確認

12 月 1 日(火) 空中写真撮影

12 月 2 日(水) F 4 区・G 4 区付近のⅣ層上面で旧石器を確認したため、トレンチを設定し掘り下げ

12 月 3 日(木) 2 次調査終了

第 3 次調査 (350m²)

平成22年 1 月 5 日(火) 調査区の設定及び、水準点・基準点の設置

1 月 6 日(水) 重機で表土除去開始

1 月 8 日(木) 包含層の掘り下げ開始

1 月 15 日(金) C 8・C 9 区付近で竪穴建物を確認

2 月 4 日(木) 空中写真撮影

2 月 10 日(水) 3 次調査終了

第 4 次調査 (1, 765m²)

平成23年 4 月 26 日(月) 調査区の設定及び、水準点・基準点の設置

5 月 6 日(木) 重機で表土除去開始

5 月 17 日(月) 包含層の掘り下げ開始

6 月 17 日(木) 佐伯市立青山小学校 6 年が発掘体験

7 月 6 日(火) 竪穴建物を確認

7 月 8 日(木) 佐伯市立上堅田小学校 6 年が発掘体験

8 月 6 日(金) 空中写真撮影

8 月 10 日(火) 調査終了

8 月 16 日(月)・17 日(火) 2 次～3 次調査区の埋め戻し

第2節 調査組織の構成

平成21年度

埋蔵文化財センター	所長	佐藤英一
	管理予算班主幹（総括）	宮永敬三
	管理予算班副主幹	徳脇仁志
	一般事業班主幹	綿貫俊一（Ⅱ次・Ⅲ次調査担当）
	受託事業班主事	越智淳平（Ⅱ次調査担当）
	受託業者	株式会社イビソク（Ⅱ次・Ⅲ次調査受託）

平成22年度

埋蔵文化財センター	所長	山口博文
	管理予算班主幹（総括）	春山義光
	管理予算班副主幹	徳脇仁志
	資料管理班次長兼課長補佐	栗田勝弘（Ⅲ次調査担当）
	受託事業班主幹（総括）	小柳和宏
	受託事業班主事	越智淳平（Ⅲ次調査担当）
	大型事業班課長補佐（総括）	後藤一重
	受託業者	株式会社イビソク（Ⅲ次調査受託） 株式会社 九州文化財総合研究所（整理受託）

平成23年度

埋蔵文化財センター	所長	山口博文
	管理予算班主幹（総括）	春山義光
	受託事業班主事	越智淳平（整理担当）
	受託業者	株式会社イビソク（整理受託）

平成24年度

埋蔵文化財センター	所長	山口博文
	管理予算班主幹（総括）	春山義光
	資料管理班主幹	染矢和徳（整理担当）

平成25年度

埋蔵文化財センター	所長	宮内克己
	管理予算班主幹（総括）	春山義光
	資料管理班嘱託	高橋信武（整理担当）

平成26年度

埋蔵文化財センター	所長	松村洋一
	管理予算班主幹（総括）	藤田幸三
	資料管理班・受託事業班嘱託	高橋信武（整理担当） 小野千恵美（整理担当）

平成27年度

埋蔵文化財センター	所長	後藤一重
	管理予算班主幹（総括）	安藤正廣
	資料管理班主幹	綿貫俊一（報告書担当）
	受託事業班嘱託	坂本嘉弘（レイアウト担当）・小野千恵美（整理担当） 高山加代（整理担当）・古殿鈴代（整理担当） 吉田あかり（整理担当）

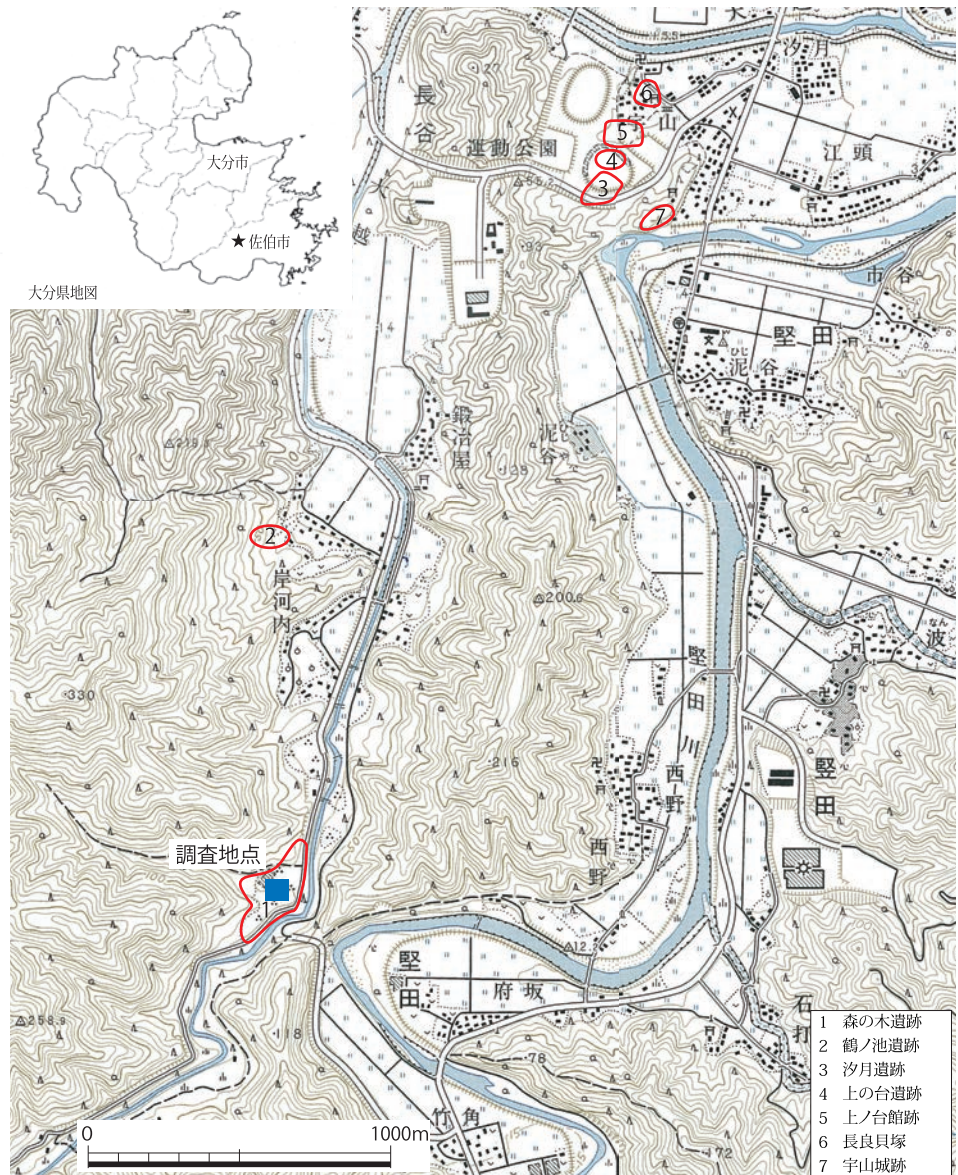
第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

大分県南部の沿岸部はリアス式海岸が発達し、その内陸部の大半は中央構造線沿いの山地地形である。佐伯市の海岸部は、北に四浦半島、南に鶴見半島に囲まれるように湾を形成している。これらの海岸部には多くの良港が津々浦々に存在している。そのうち佐伯湾には県南の大河川である番匠川と堅田川が流れ込んでいる。番匠川は、西方の豊後大野市・臼杵市との境界にある佩楯山・石神山付近に源流がある。また堅田川は、南方の宮崎県境にある陸地（かちじ）峠や石神越近くに源を發し、蛇行しながら北流している。これらの川には多くの支流があり、その間には急峻な山々が連なっている。遺跡のある佐伯市大字堅田地区も例外ではなく、標高数mからいっきに標高 100～350 m 前後まで急な勾配が続く。この地域は、佐伯市のなかでは市街地の南に接する地域に当たり、両河川の中・下流域には沖積地が広がり、水田として利用されている。また高城山の東麓裾部、中山峠の西側・南側裾部である下城地区・中山地区、あるいは宇山など、大越川・堅田川中下流域の山沿いには小規模ながら扇状地や小台地が形成され、畑地や民家として利用されている。

佐伯堅田 IC (長谷) の東にある山塊 (標高 127 m) は、その南方の県境から延びる山嶺の末端である。この、山嶺の西側に堅田川、東側にその支流の大越川が北流する。大越川はその東にある山塊との間に挟まれた狭小な谷間であり、森の木遺跡の位置は、佐伯堅田 IC から南に約 2.5km の距離を置いた場所である。ここは大越川の中流から水田耕作を行っている下流域との接点付近に当たる。森の木遺跡は、大越川の左岸側にある山塊の尾根末端から延びる小舌状台地上に立地する。この小舌状台地は南側を大越川、北側をその支流に挟まれた合流部でもある。ここは森の木遺跡を中心とした小盆地のなかであることに加え、東側の山塊の幅が最も幅狭く標高の低い部分が南側にあるため、その東側約 300 m の距離に堅田川本流が北流している。

行政的には「大分県佐伯市大字長谷字森の木」に位置し、座標では北緯 32° 51' 45" 東経 131° 51' 45" にあたる。



第1図 森の木遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/25000)

第2節 歴史的環境

森の木遺跡が含まれる堅田川流域には、第二次世界大戦後の1948年（昭和23）の6月と11月の時期に調査された長良貝塚・下城遺跡がある。両遺跡はカキ殻などの貝が地表面に露出していることで知られていたが、発掘調査の結果、貝層中からは弥生時代前期末・中期前半ごろの土器が出土した。このとき出土した土器は、現在「下城式土器」と名称が付けられ、後に大分県の北部・中部・南部の各所で出土したことから大分の弥生土器を代表する標式名として知られている。両遺跡においては貝層の下の粘土層（ローム層）上面から縄文時代早期の押型文土器や集石が出土していた。この他、堅田川流域での調査で注意される遺跡として汐月遺跡がある（佐伯市教育委員会1990）。この遺跡の平塚地区西斜面では、縄文時代早期の押型文土器と石鏃が出土しており、長良貝塚・下城遺跡と同様な一連の遺跡群であることが想定される。汐月遺跡では、他にも柿ノ木畑地区で弥生時代後期終末（3世紀前半）の土器、古墳時代中期（5世紀中頃）の土器や堅穴建物遺構、古墳時代後期末（6世紀後半）の土器や不定形の大型土坑が出土し、平塚・柚ノ元調査区では奈良時代（8世紀中頃）の巨大な掘り方を有する掘立柱建物と土師質土器・墨書土器が出土している。平塚・柚ノ元調査区のある上ノ台は、平安後期の文書『本朝世紀』に藤原純友が「豊後国佐伯院に襲い来り・・・」とある「佐伯院」に比定されていた場所でもあり（佐脇1975）、巨大な掘り方を有する掘立柱建物と土師質土器・墨書土器の出土はその可能性を有しているといえよう。この遺跡からは、12世紀～14世紀代の白磁碗・青磁碗も出土している。

佐伯を含む地域が史書に記されたのは715年（靈龜元）～740年（天平12）までに成立したとされる古事記で、「海部郡、郷四所」のなかの「穂門郷 郡の南に在り・・・」という部分が佐伯に相当し、上記した汐月遺跡の8世紀中頃の資料がこの時代に相当する。その後の平安時代・鎌倉時代に成立した文献上でも「佐伯院」「佐伯荘」が散見されるが、実際の資料に乏しい。そのなかで鎌倉時代の13世紀前半に建立されたと推定される十三重の塔が、既にこの地方の地頭職を得ていた佐伯氏（初代佐伯惟康等）によるものと推定されている。佐伯氏系図をみると初代の惟康以降、一族は鎌倉時代・室町時代・安土桃山時代を通じて発展していくようである。そうした佐伯氏に関わる遺跡・史跡には梅牟礼城跡・木戸城跡・龍護寺・山上寺跡・宇山城跡（堅田川流域）・八幡山城跡（堅田川流域）・常楽寺（堅田川流域）があるほか、多数の廃寺跡や石塔類がある。特に石塔類は、堅田川流域に限っても27地点もある（大分県教育委員会2013）。このように堅田川流域が中世段階において栄えていた地域であることがうかがえる。

肥沃な沖積地の発達した堅田川流域は、鎌倉・室町・安土桃山時代を通して佐伯氏一族が地頭職として支配する荘園であったことが新熊野神社及び熊野神社の棟札と常楽寺の鰐口に記された墨書・金石文の内容からわかる。中世を通じて栄えた佐伯氏一族であるが、『大友興廃記』などの野史によると、佐伯は1586年（天正14）に九州南部の戦国大名である薩摩島津氏の侵入を受ける。『大友家文書録』には、このときの戦いで佐伯氏は島津氏の兵を退けているが、堅田川や大越川周辺はその主戦場となったようである。今日に残る伝承には、島津の兵は八幡山砦・宇山城の戦いで敗北し、鯨越（府坂峠：森の木遺跡の東南に隣接する狭小な峠）を越えて森ノ木原（森の木遺跡の位置）に布陣したという（佐伯市教育委員会1989）。

1593年（文禄2）、佐伯惟定のとき主家大友氏が改易となり、佐伯氏は佐伯を去る。そして佐伯は豊臣秀吉の直轄領（太閤蔵入地）となった。江戸時代の1601年（慶長6）になると佐伯は毛利高政の領地となり、佐伯藩が立藩される。森の木遺跡が含まれる堅田川流域も佐伯藩に含まれ、近世村落が成立し、現在に至る原形ができあがった。

賀川光夫 1971『大分県の考古学』吉川弘文館

佐伯市教育委員会 1990『汐月遺跡』佐伯市文化財調査報告書

佐伯市教育委員会 1989『佐伯氏一族の興亡 - 中世の秋に拾う -』

佐脇貫一 1975「海部と穂門と佐伯」『佐伯史談』No. 102, 佐伯市談会, 3-8

第3章 調査の成果

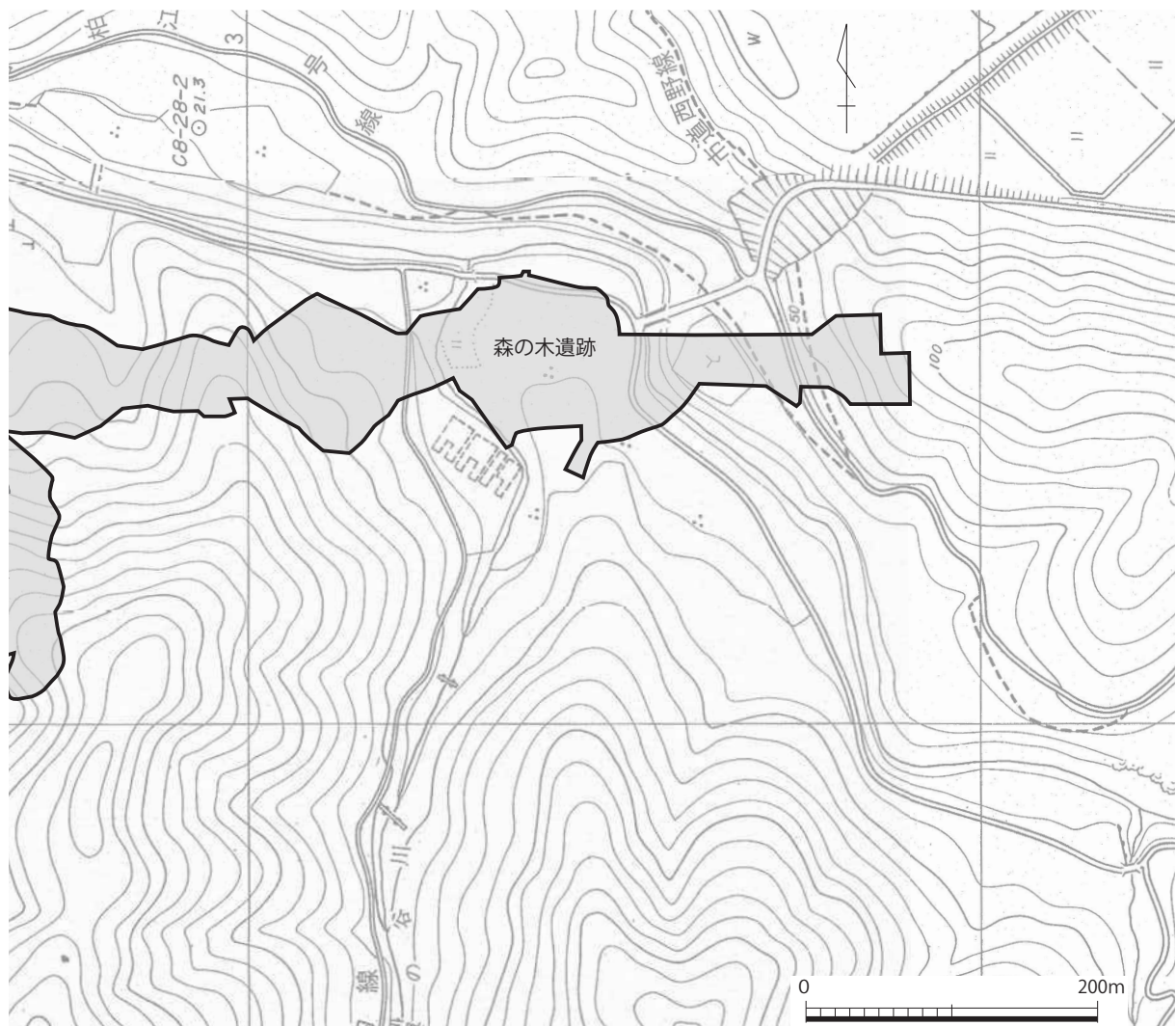
第1節 調査の方法と遺跡の概要

1 調査の方法

森の木遺跡は、西から延びる尾根が急激に標高を下げたところから始まる平らな舌状台地もしくは河岸台地であるが、その規模は東西約140m、南北約70mの広がりがある。この平らな舌状台地は、平成10年7月～10月に行った第1次調査、そして今回の調査に先立つ平成21年の試掘で全域に遺物が広がることが判明していた。そのため西を基点に0～12の列と北を基点にA～J列を設定し、その交差した10m方眼の区画を舌状地形の平坦地が被われるように設定した。またその区画は、台地の地勢が真北から東へ73°振れた方向に延びるため、これに直交・平行するように設定した。

遺跡の堆積層を調査するためにF列とG列の東西方向の境界断面、2列・3列南北方向の境界断面(E列～I列間)、4列・5列南北方向の境界断面(C列～H列間)、C列・D列境界の断面(8列～12列間)、7列・8列境界の断面(C列～D列間)、9列・10列境界の断面(C列～D列間)を残し、掘り下げていった。I層・II層までは重機で掘り下げ、その下位は移植ゴテ、草削り、スコップ等を用いて掘り下げた。特にスコップでの掘り下げは、調査を効率的に行うことを目的として遺物・遺構の少ない場所で行った。

小さな土器・石器の破片は、基本的に層位ごとに標高・平面分布位置を記録し、取り上げた。また大型の石器(台石など)や集石については、平面図や垂直分布図・平面分布図を20分1で作図しつつ取り上げた。遺構については、主なものに集石・配石、竪穴建物、炉穴があるが、集石・配石は掘り下げるなかで包含層中から出土した礫の集中度が著しいもの、竪穴建物は



第2図 森の木遺跡の位置と周辺地形図(1/5000)

直径が2m以上のもの、炉穴は長楕円形の土坑で内部に焼土面のあるものについて認定し、記録（図化・写真撮影）した。

2 遺跡の概要

(1) 第1次調査の概要

森の木遺跡の東から南にかけて、県道赤木吹原佐伯線が通っている。平成11年以前は、段丘が川岸付近に張り出しながら直角状に屈折しており、交通上の不便をきたしていた。そのためカーブを緩やかにするために北側に道路を移動させることが計画されたのが第1次調査の発端である。調査は1998年7月1日～1998年10月27日までの間実施された。報告書によると、遺物と遺構はアカホヤ層下の黒土層（4・5・6層）から出土し、押型文土器と無文土器が出土したことから縄文時代早期の遺跡であることが分かった（大分県教育委員会2000）。遺構は、集石が11箇所、土坑4箇所であった。遺物には、土器の他、石鏃5点、石錐1点、石斧1点、スクレイパー類35点、彫器様石器3点、石核18点、砂岩製大型剥片石器24点、同石核2点、礫器46点、敲石・磨石6点が出土している。とりわけ、砂岩製大型剥片石器、礫器が多く出土したことが注意を引いた。

大分県教育委員会2000『森の木遺跡～県道赤木吹原佐伯線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～』大分県文化財調査報告書 第109集

(2) 土層

森の木遺跡の西端部は、その西方から延び下ってくる尾根と接することもあって、厚い堆積物が残されている。他方、遺跡がのる舌状台地の北部や東部は薄い地層の堆積となっている。調査工程の都合からG列北面（F列・G列東西方向境界断面）のG2・G3区北面付近で基本となる堆積物の調査を行った。その結果、以下のような基本堆積物が観察された（第4図）。

I層：暗褐色。表土であり、耕作土。乾くと灰白色となる。

II層：黒褐色。アカホヤが多く含まれている。縄文時代前期の遺物が含まれており、包含層I層として捉えた。

III a層：暗褐色。やや赤みがかかった色調で、厚さは20cm前後。縄文時代早期後半の平椀式土器などが含まれており、包含層II層として捉えた。

III b層：黒褐色。粘性が強く、固くしまる。厚さ100cm前後になる部分もある。表記に「III層」とした部分もある。縄文時代早期・草創期中頃土器が含まれており、包含層IIIとして捉えた。

IV a層：暗黄褐色。ローム層。粘質であるが、しまる。上部に旧石器時代の石器が含まれている。

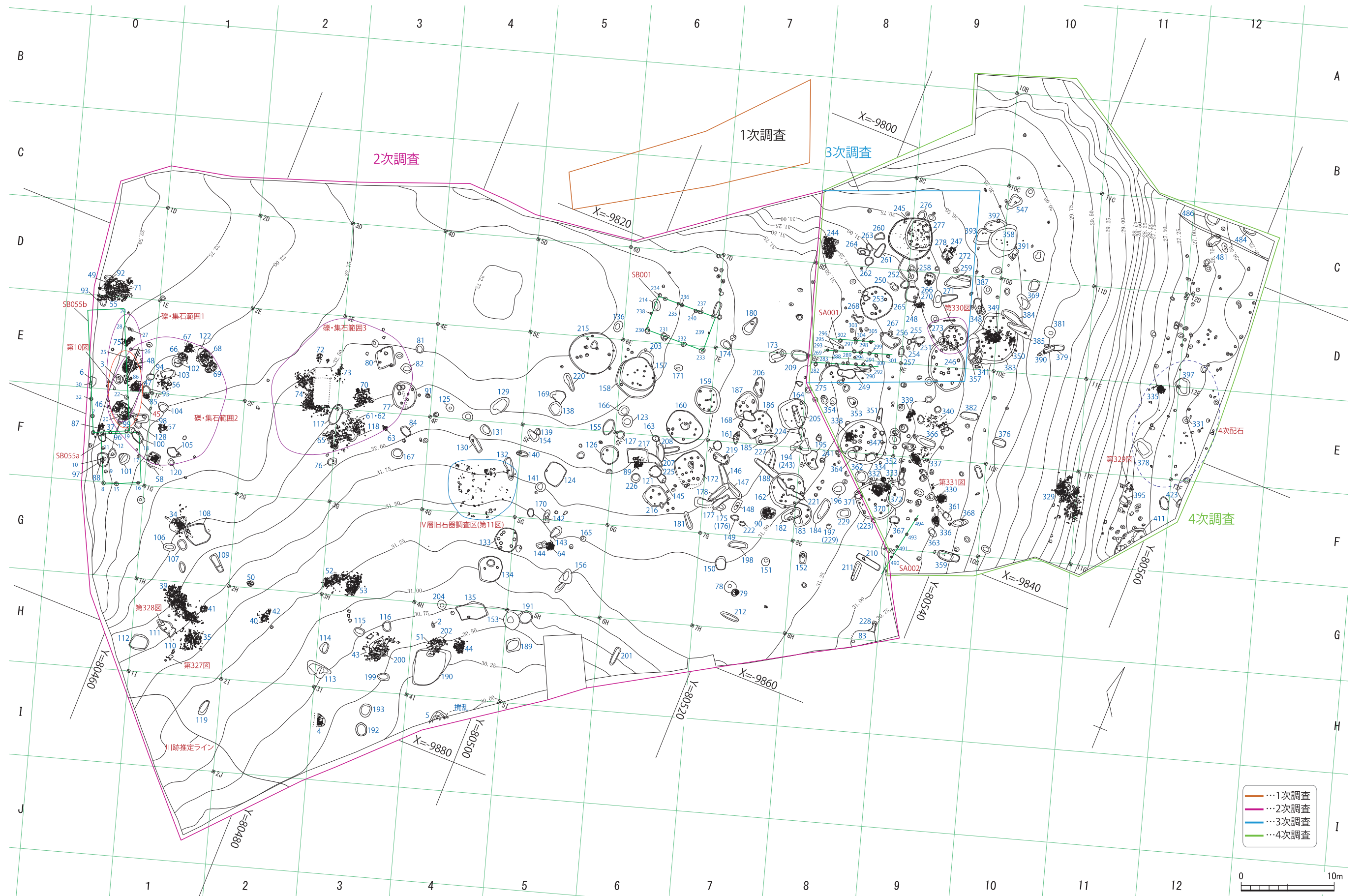
IV b層：暗黄褐色のローム層。小型の礫を含む。IV a層との前後関係は明確ではないが、あるいはIV a層の部分的な分布か。上部に旧石器時代の石器が含まれている。

(3) 遺構

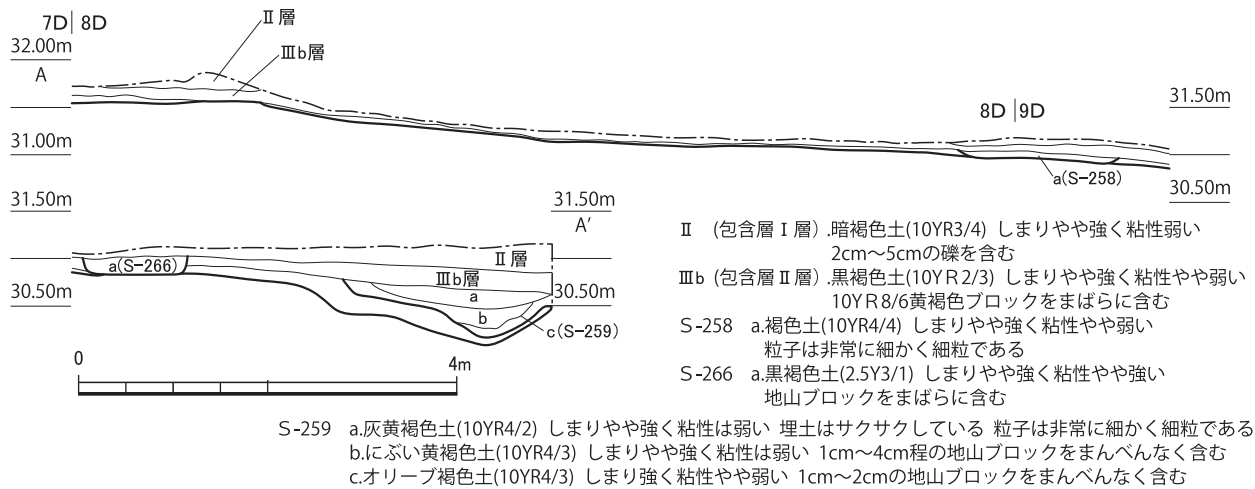
森の木遺跡から検出された縄文時代草創期・早期の遺構は、集石、配石、陥穴、竪穴建物、煙道付炉穴、炉穴、土坑がその内訳である。古墳時代中期の土坑1箇所である。また明確な所属時期は明確ではないが、中世もしくは近世頃の掘立柱建物が1箇所、柵列状柱穴群4箇所確認した。

集石は、熱を利用した調理遺構ということもあって焼けて色が赤化している。浅い皿状の窪みを有する例とそうでない例がある。その分布は、森の木遺跡の全域に分布するが、西半部に集中する傾向があり、なかでも南側傾斜面での分布が目立つ。配石は、大型の石を単体もしくは数個組み合わせたもので構成されており、集石と同様に西半部南側傾斜面に分布する傾向にある。陥穴は数が少なく、南側傾斜面にある1基のみである。竪穴建物は円形・楕円形を基調とし、直径が5mから2.5m前後のものも多く、中央部から西半分が多く分布する。煙道付炉穴と炉穴は、細長い窪みの穴で、竪穴建物の分布と同じである。

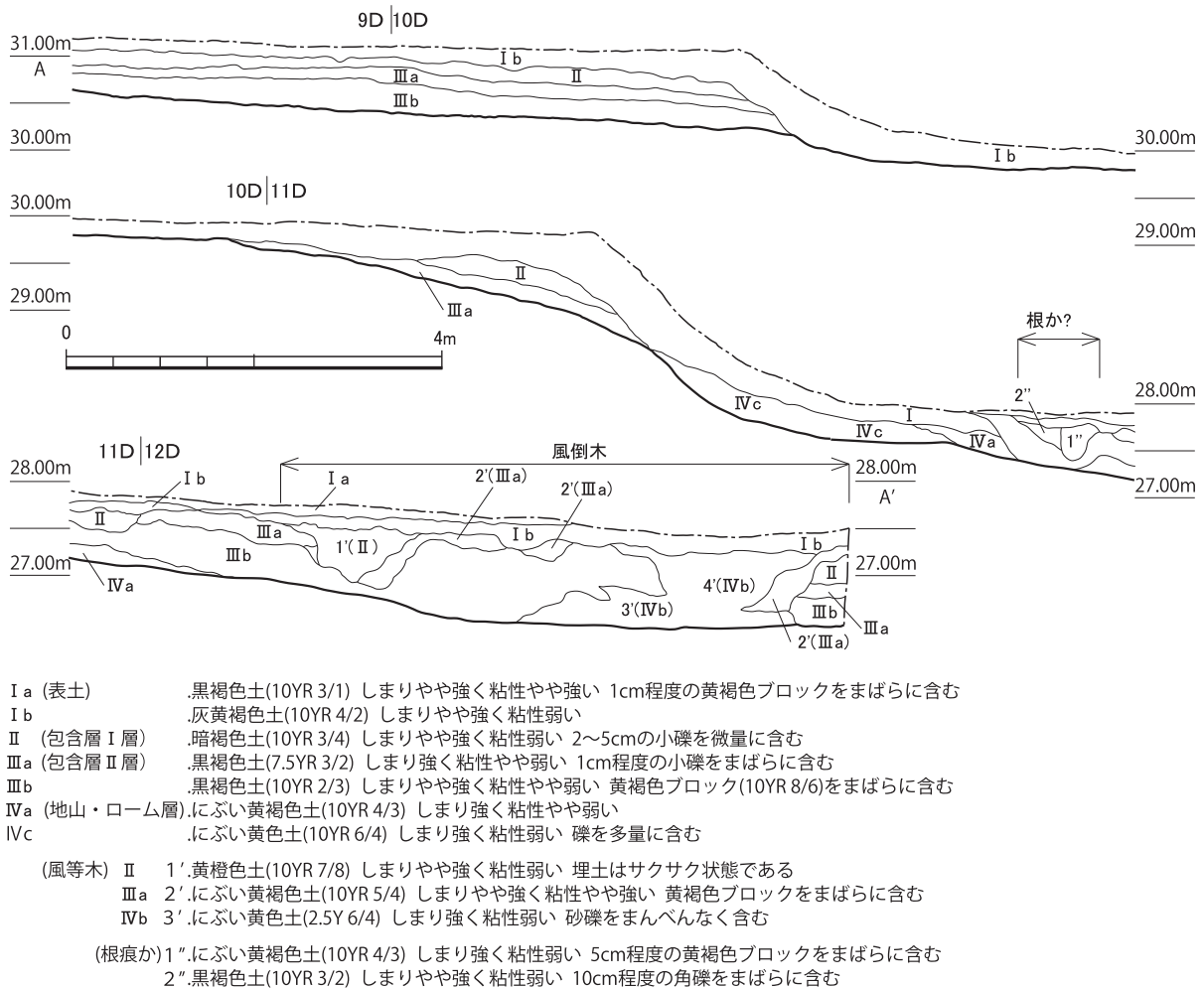
古墳時代の遺構は、浅い皿状の土坑があるだけで、他に遺構はない。掘立柱建物・柵列状柱穴群は、西部に分布するが、所属する時期が不明である。



第3図 森の木遺跡 全体図 (1/400)



第5図 D列北面(8-9グリッド) 東西土層断面図(1/80)



第6図 D列北面(10-12グリッド) 東西土層断面図(1/80)

(4) 遺物

森の木遺跡では、縄文時代草創期・早期頃を中心とした膨大な遺物が出土した。それらを見ると、旧石器時代～古墳時代、鎌倉時代・室町時代・江戸時代に及ぶ資料を含んでいる。今回、すべての数量を提示することはできなかったが、遺跡の全貌がうかがえる程度には挿図として提示できた。

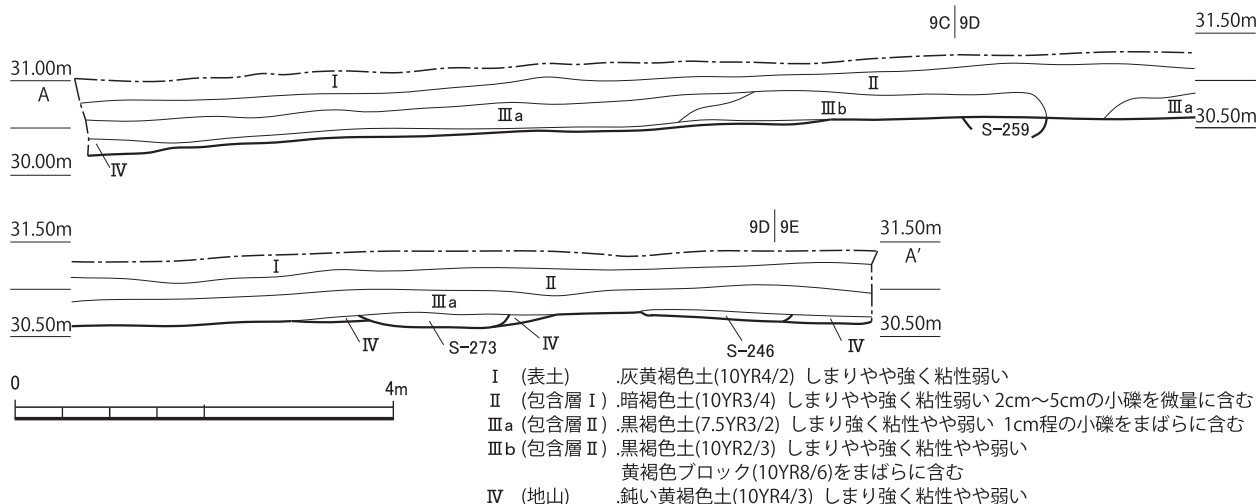
旧石器時代の資料については、ナイフ形石器が数点のほかは、多数の縦長剥片が出土した。これに、石核が含まれている。これらは、大半が縄文時代草創期・早期の包含層・遺構内から出土している。また、縄文時代の遺構をIV層上面で精査した際に第IV層内から出土したものもある。それらの分布を瞥見すると、第2次調査区の谷状斜面部で散発的に分布していたが、標高の高い部分にはほとんど見られなかった。そのため、斜面部のF4区IV層を若干掘り下げたところ、遺物が出土した。したがってIV層が本来の包含層といえる。しかし旧石器時代の石器石材の大半は泥岩系の岩石を用いるが、これは縄文時代草創期・早期の石器と同様で、同包含層では縦長剥片やナイフ形石器など定型的な資料を除いてその区分は困難である。

縄文時代草創期は、大きく2時期に区分できる資料が出土している。一つは、腰岳・牟田系の黒曜岩を用いた楔形細石刃核である。この種の楔形細石刃核は、長崎県佐世保市の福井洞穴や泉福寺洞穴の調査で出土し、隆起線文土器（豆粒文土器）や爪形文土器を伴うことが知られており、本遺跡の楔形細石刃核も同様な時期のものとして推定される。本遺跡では隆起線文土器は出土していないが、関連する資料として腰岳・牟田系の黒曜岩を石材とした細石刃が数点出土している。もう一つの時期は、隆帯文土器の時期であり。この隆帯文土器は、幾つかの時期に細分できる可能性もあるが、概ね近年宮崎県地域で類例の増加している隆帯文系の土器に相当する土器である。この種の土器としては、県内で始めて出土した土器であり、最北の隆帯文系土器ということになる。近年南九州での事例と同様に隆帯文土器の段階に竪穴建物が検出されることを裏付けている。また、南九州では隆帯文や早期前半までの段階に、煙道付炉穴が検出されていることからすれば、本遺跡の煙道付炉穴も同様な時期に形成されたものもあると思われる。こうした遺構は、IV層上面で遺構検出作業中に見つかっている。

縄文時代早期は、森の木遺跡の中心的な時期で、最も多くの資料と遺構が出土している。土器の特徴から大雑把に、5段階程度に大別できる。古い段階が、無文土器群で、次に押型文土器前半の土器群（稻荷山式土器・早水台式土器・下菅生B式土器）、押型文土器後半の土器群（田村・高山寺式土器）、早期終末土器群（手向山式土器・平栴式土器・塞の神式土器）に区分できる。無文土器や押型文土器前半の土器群はIII層（III b）から出土し、早期終末土器群はIII a層を中心に出土する傾向がある。石器には、石鏃を中心に多量の剥片石器と石斧、環状石斧、台石、礫器、敲石・磨石がある。剥片石器の石材は、この地域の近隣で入手が可能と思われる泥岩・チャートを多用している。台石、礫器、敲石・磨石などは、遺跡の南を流れる大越川の河床にある川原石と同様なものである。姫島産黒曜岩も出土しているが、III a層の平栴式土器の分布に近い部分では重さ3.9 kgの巨大な原石に近い石核が出土している。

縄文時代前期は、古く攪乱されたり、再堆積したりしたと思われるII層を中心として轟4式土器・轟5式土器が出土している。明確な遺構はなく、出土した石器もそれ以前の早期の石器とあまり区分はできない。また遺構も出土していない。

この他、弥生時代以降の資料も若干出土している。C9区では弥生時代中期前半の下城式甕形土器、D9区からは弥生時代中期末後期初頭の土器が舌状台地中央部付近のD9区の土坑から出土している。また古墳時代中期（5世紀）の土師器が浅い土坑内から出土している。歴史時代の資料も散発的に出土している。13～14世紀の土師質土器、14世紀代と15世紀代の陶磁器、そして江戸時代の陶磁器がある。これらは、いずれもごく少量で、包含層が表土掘削時に多小削られていたとしても大規模な遺跡が存在していた形跡はうかがえない。



第7図 9CD区東壁土層断面図(1/80)

第2節 旧石器時代

1 調査の状況

森の木遺跡が立地する舌状台地は良好な平坦地を形成しており、更新世に遡る茶褐色粘質土層（ローム層）が堆積していた。また、縄文時代早期前半に遡る土器類が出土していたこともあり、当初から旧石器時代の文化層の存在が予測されていた。表土剥ぎに伴う大量の土砂を盛り上げていたが、これが雨に打たれると夥しい量の石器類が現れたが、この中にナイフ形石器、細石刃と考えてよい資料が含まれていた。また、縄文時代早期の包含層であるⅢ a 層・Ⅲ b 層の調査が進み、Ⅳ層上面を精査・清掃する中で同層内から縦長剥片などの資料が散発的に出土していた。こうした状況から、調査の進捗や旧石器と推定される資料の分布も考え、調査区内に3箇所の旧石器探査区画を設定し（4F トレンチ、8DC トレンチ、9・10E レンチ）、掘削を行った（第9図）。

4F トレンチでは自然礫を配置したかのような分布のなかに石器・剥片類が散在する状況で出土した（第11図）。出土層位は、Ⅳ層。出土状況を見ると、分布域の中に微細な碎片（チップ）のないのが最大の特徴である。石器・剥片類も比較的に大きい例の多いことが特徴である。石器以外の礫は、大型の石から小型の石まであり、部分的に集められているかのような状況がうかがえる。

8DC のトレンチでは、めぼしい旧石器時代資料は出土しなかったが、ここではⅣ層以下の地層も掘り下げている。そこでこの層位関係を報告しておく（第8図）。Ⅳ層は、これまで旧石器が出土した黄褐色の粘質土層（ローム）で、その下のⅤ層は黄褐色のパミス層（AT）である。Ⅵ層は、薄く部分的に堆積した層である。この堆積関係から、大野川流域や五ヶ瀬川流域で観察される黒色帯やその下のローム層が、薄いⅥ層を除いて無いことを示していた。Ⅶ層～Ⅸ層は砂礫層・礫層であり、あるいは段丘礫層に関係する層かもしれない。

なお、調査区の西端、0E 区のⅣ層から台石が出土している（第10図）。付近には礫はなく、持ち込まれたと考えられる平らな石で、長さ 3 cm、幅約 20 cm、厚さ 7 cm の大きさを有する。

2 遺物

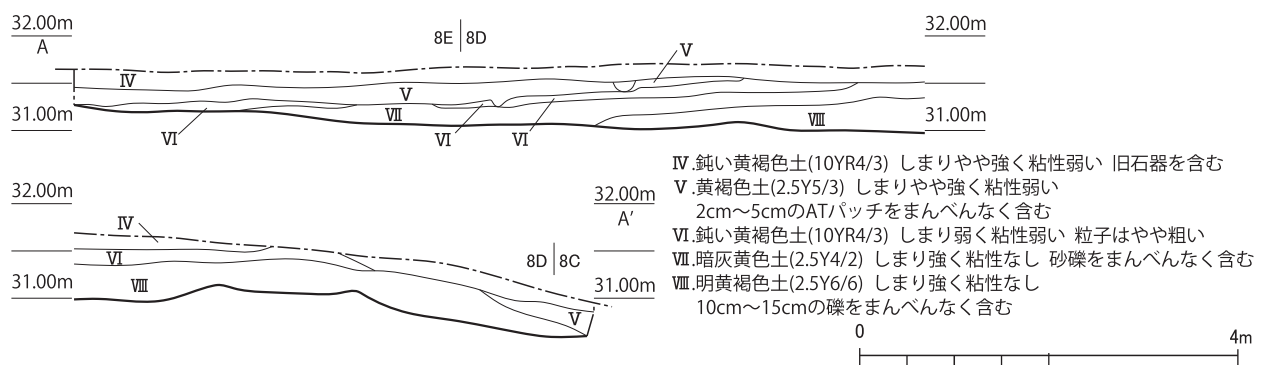
4F トレンチで出土した資料のうち取り上げたのは 49 点であった。そのうち 8 点を報告している（第12図 8・13、第15図 23～26・34）。次に、4F トレンチで出土した遺物を含め、調査区のⅣ層で出土した石器類について観察するが、定型的な石器は出土していない。

スクレイパー 幅広い扇形の剥片で、端部と打面部から続く左側縁の交点が尖る特徴を有する。加工痕は、打面部から遠い近位端部に裏面側からの打撃で作出している（第12図 3）。スクレイパーとしては大型の例である。

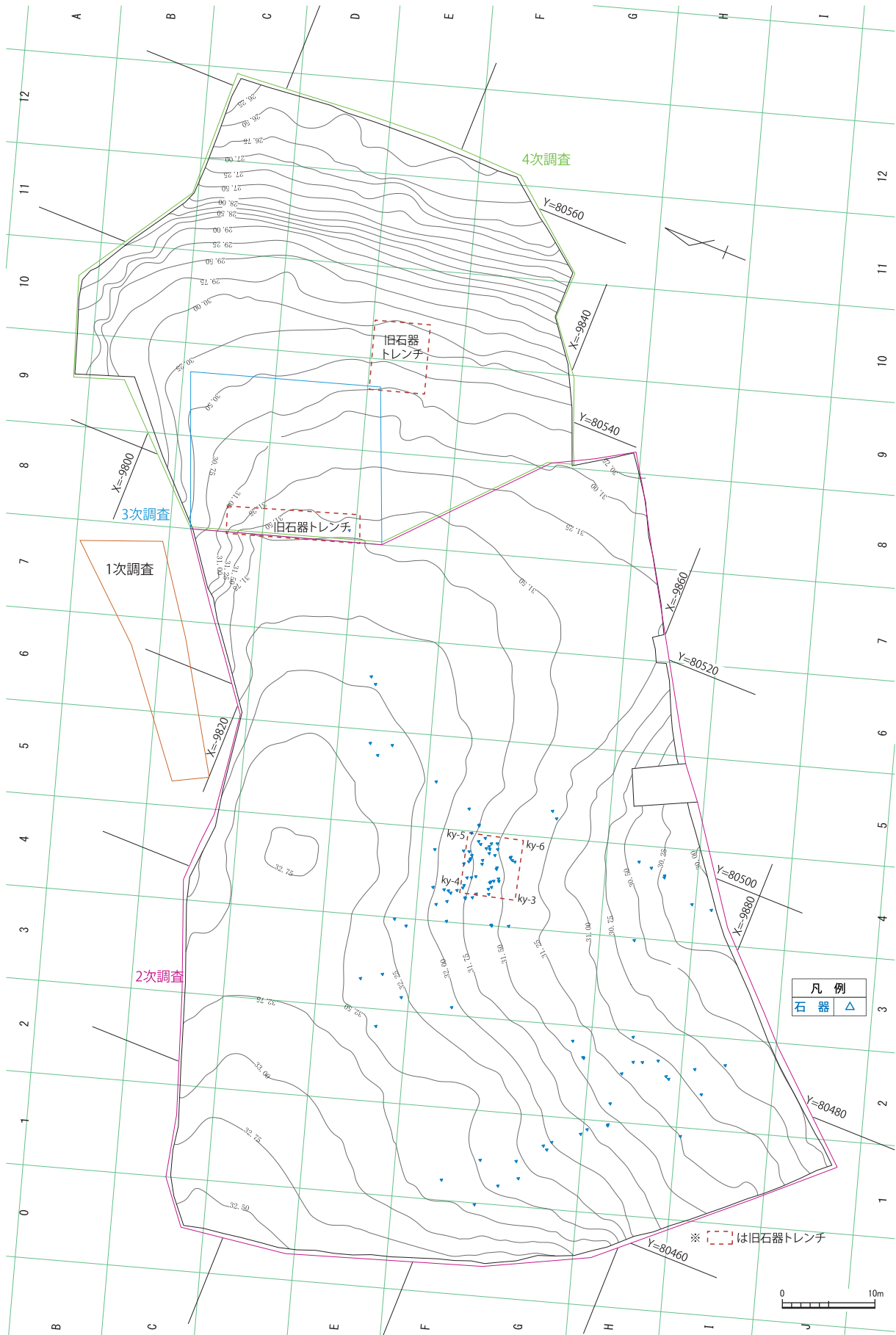
使用痕を有する剥片 表面の片側縁に微細な剥離のある例（第12図 1・7、第14図 20）、裏面の片側縁に微細な剥離のある例（第12図 2、第15図 27）、表裏両面の片側に微細な剥離痕のある例（第12図 4）がある。

加工痕ある剥片 角礫の節理面で割りとられた素材の直線的な幅広い端部を鋸歯状に加工した例である（第12図 5）。他に例はなく、単なるイレギュラーの可能性もある。棒状の細長い礫の端部をほんの僅かに加工した例がある（第12図 6）。

剥片 加工痕、使用痕のない例を剥片に分類した。礫面を残した初期工程の例（第14図 16・19、第15図 25・26）、対向



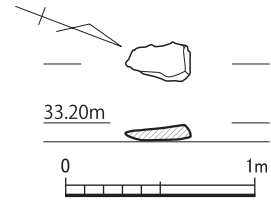
第8図 8CD トレンチ西面 南北土層断面図 (1/80)



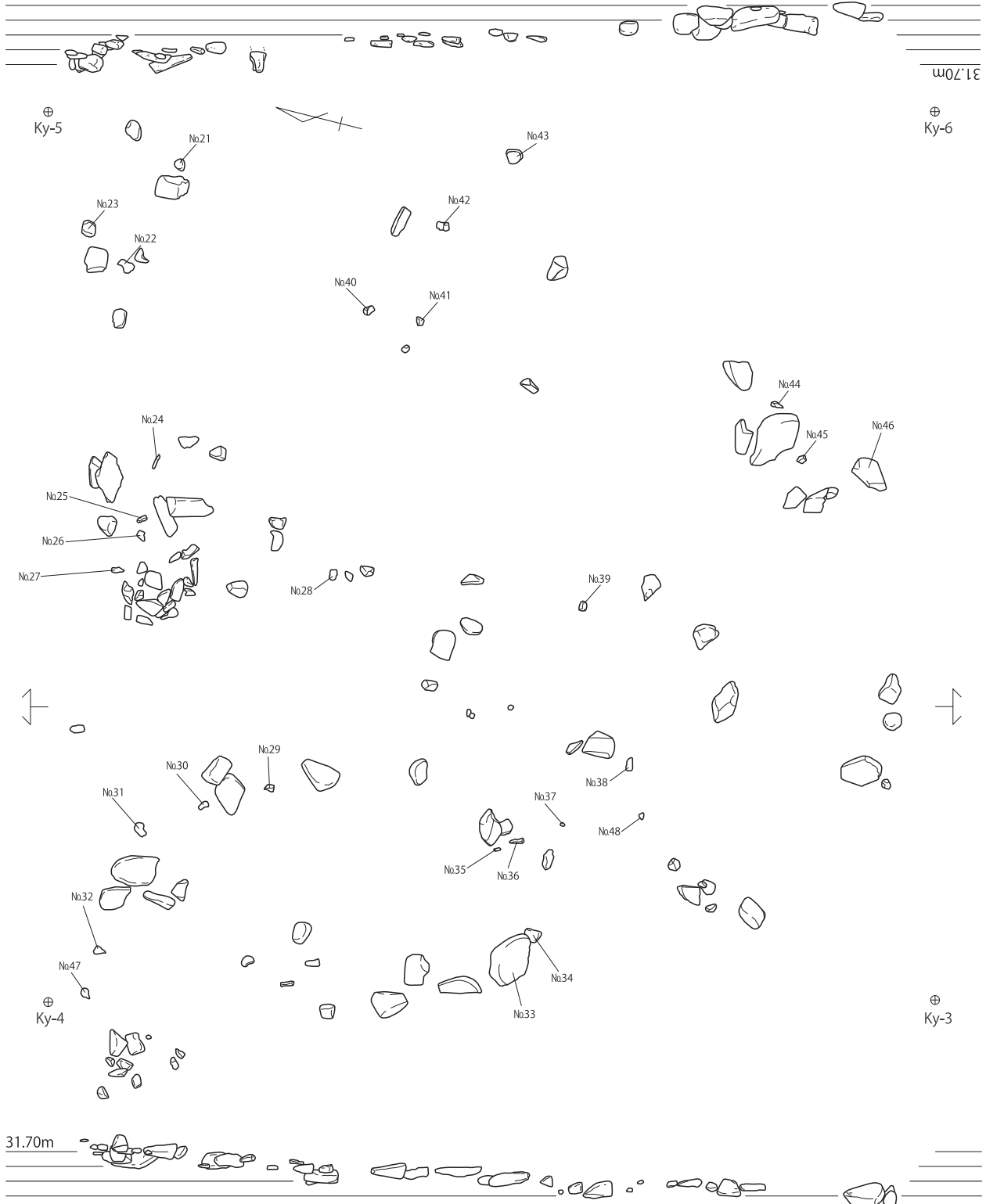
第9図 IV層遺物分布図 (1/600)

する方向からの剥離の例（第14図17）、求心的な方向のもとに剥離された例（第14図18・21・22、第15図23・24）がある。

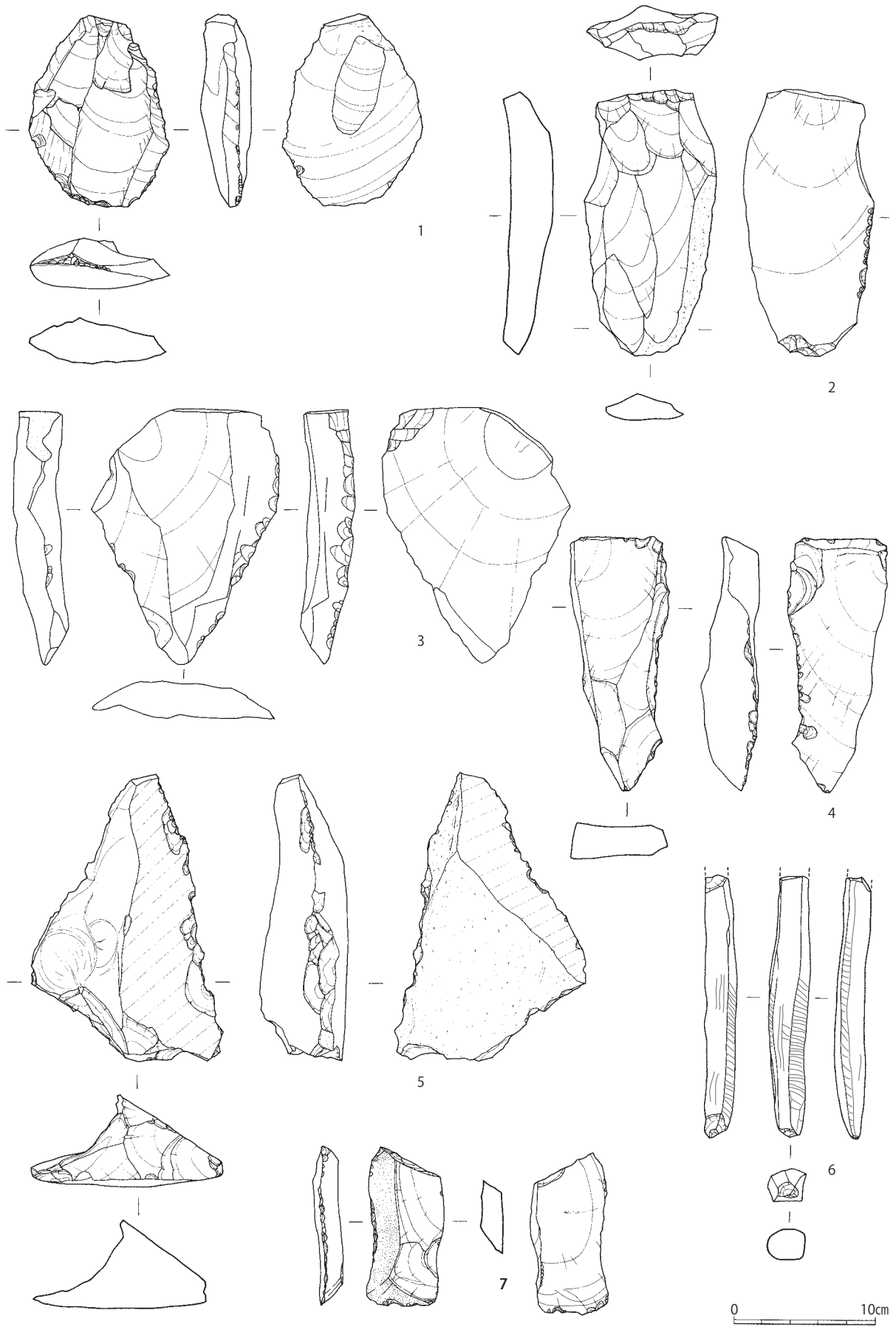
縦長剥片 いずれも単設の打面から割りとった細長い剥片である（第13図12・13・14）。このうち後二者は、厚めの剥片で、その角度から角柱形の石核から剥離されている。このうち端部や側辺部に礫面が残存しているものもあり（13・14）、角礫の角部を利用してわりとった



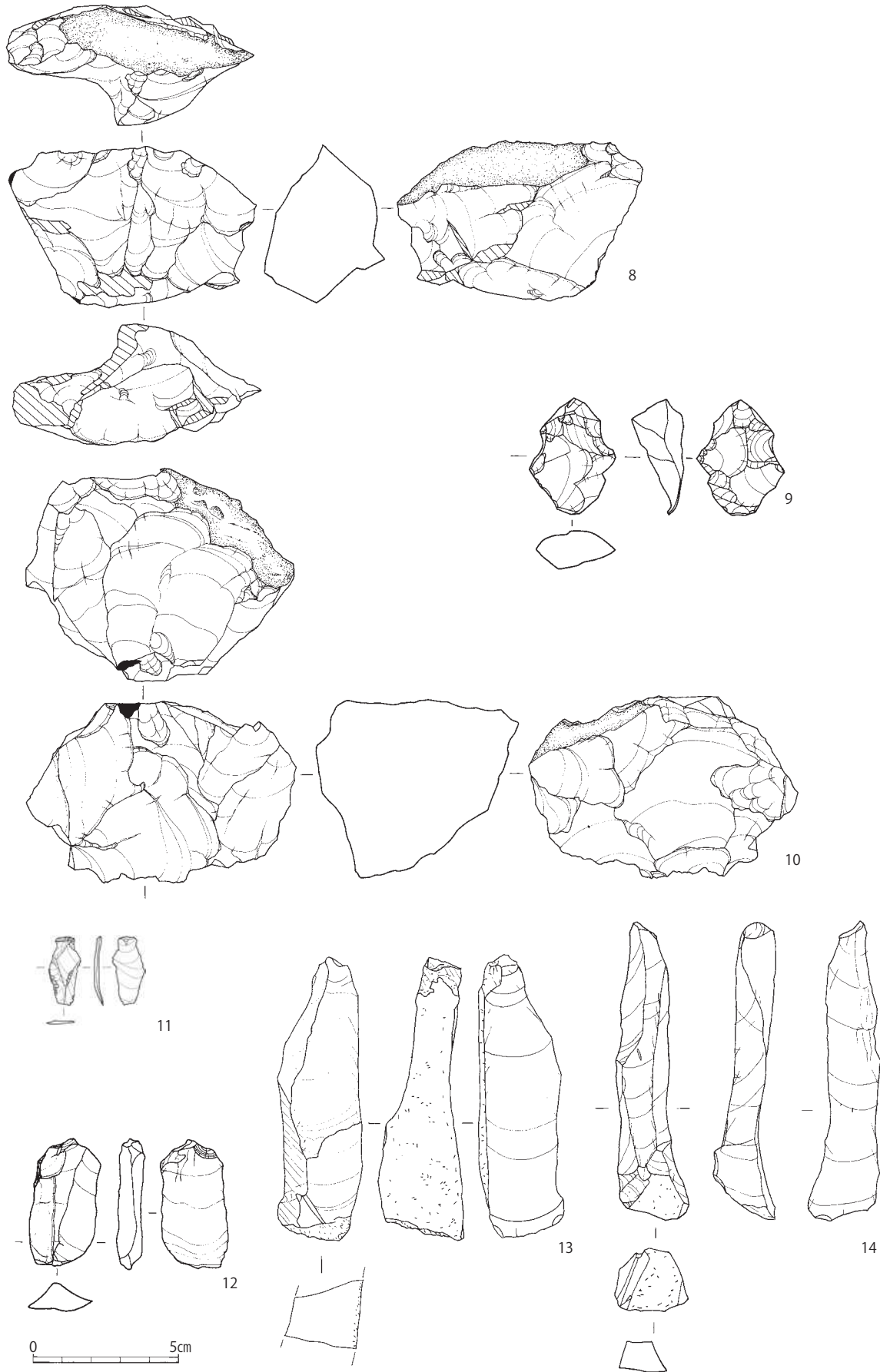
第10図 OE区IV層遺物出土状況(1/40)



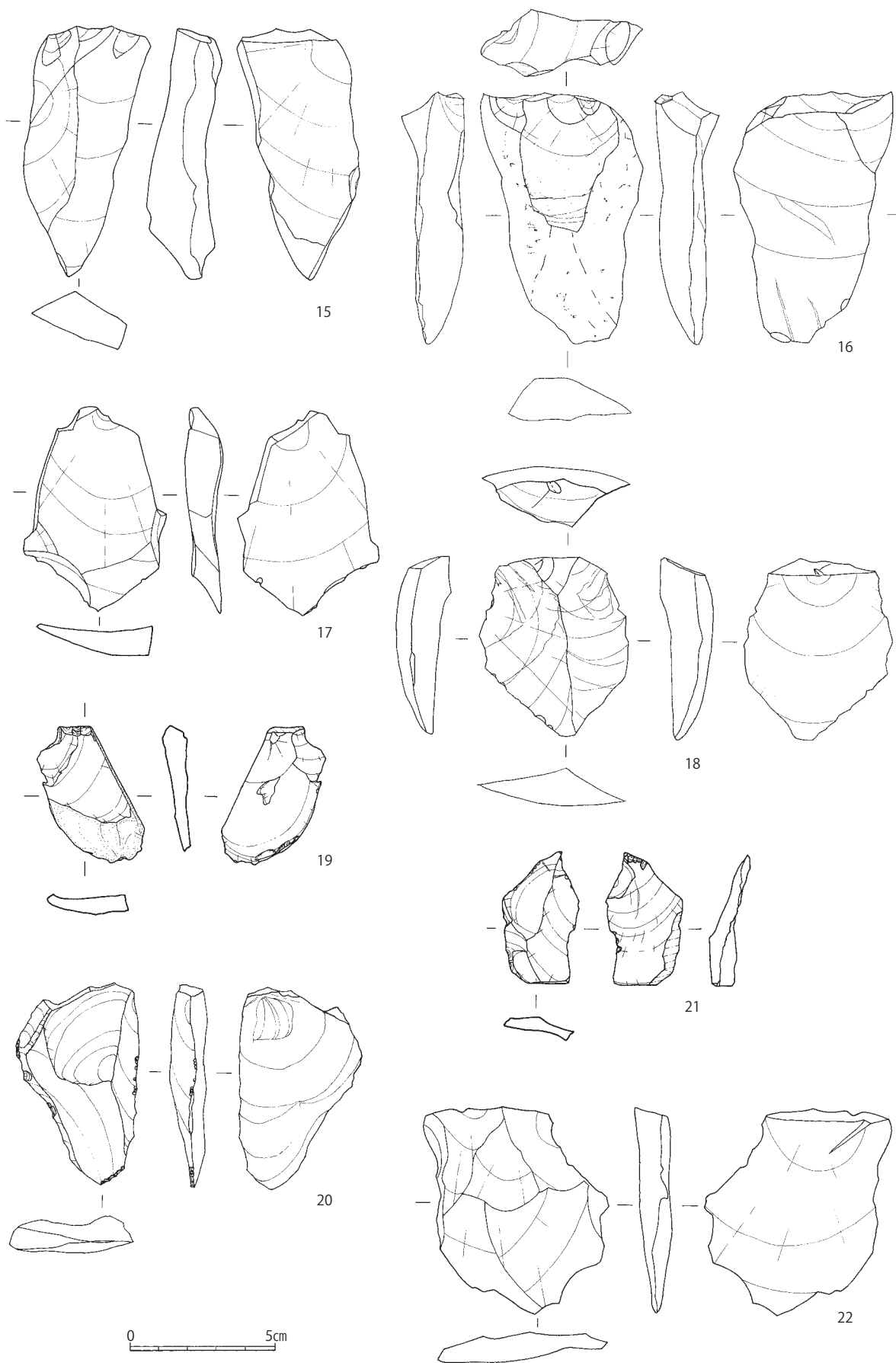
第11図 IV層(旧石器時代)遺物出土状況(1/40)



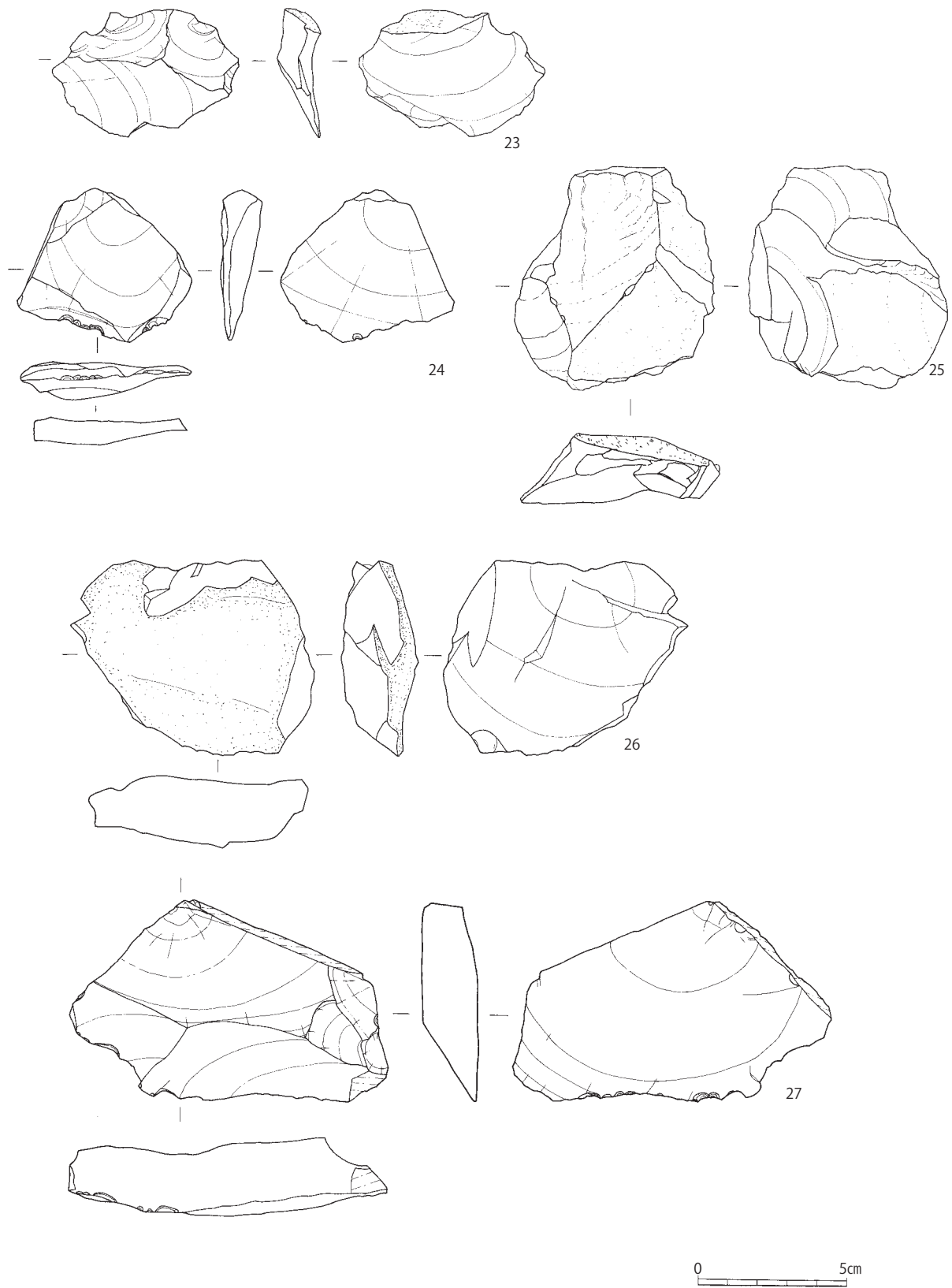
第12図 IV層出土遺物実測図(1) ※6は縄文時代早期の加工具



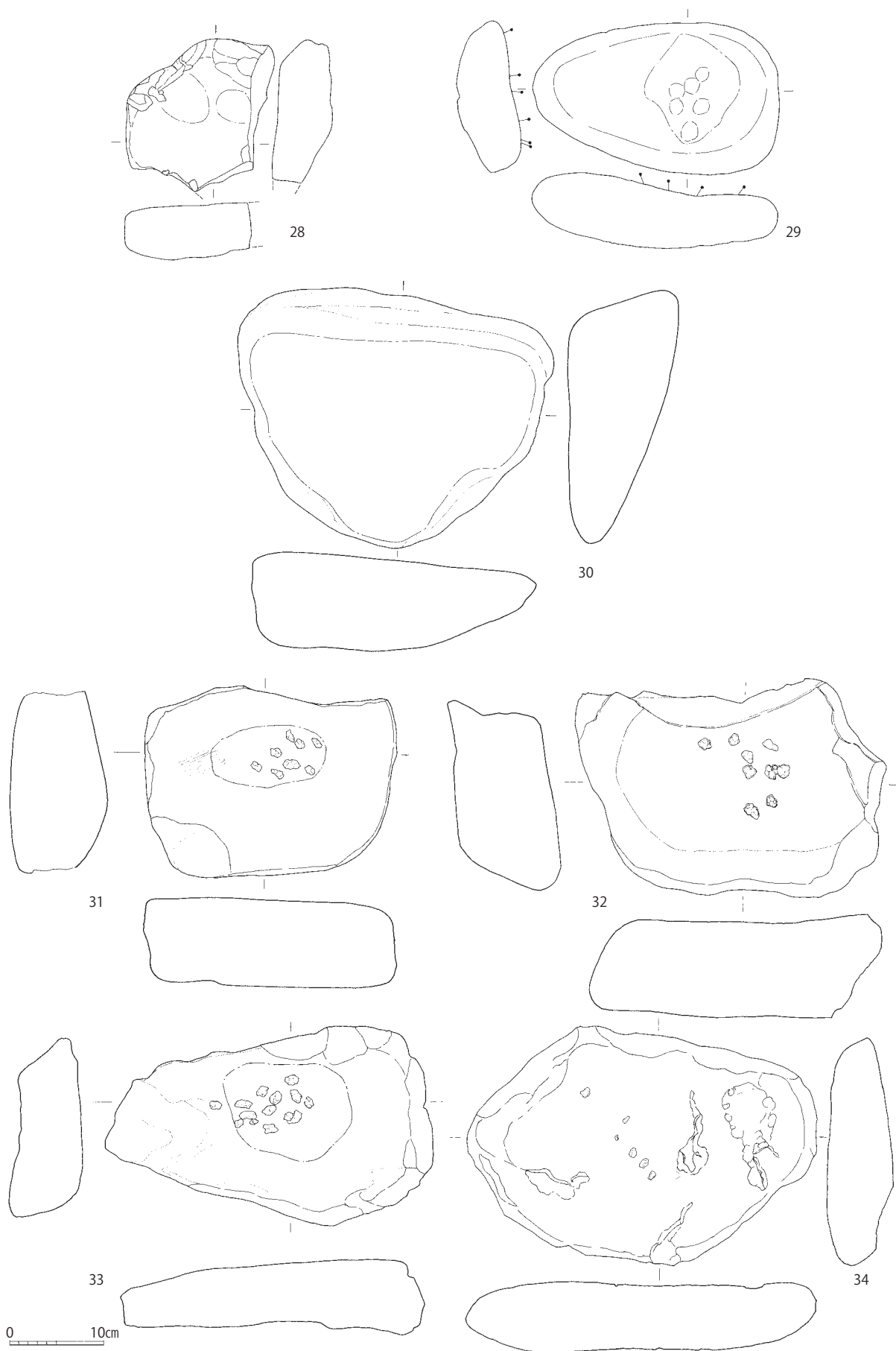
第13図 IV層出土遺物実測図(2)



第14図 IV層出土遺物実測図(3)



第15図 IV層出土遺物実測図(4)

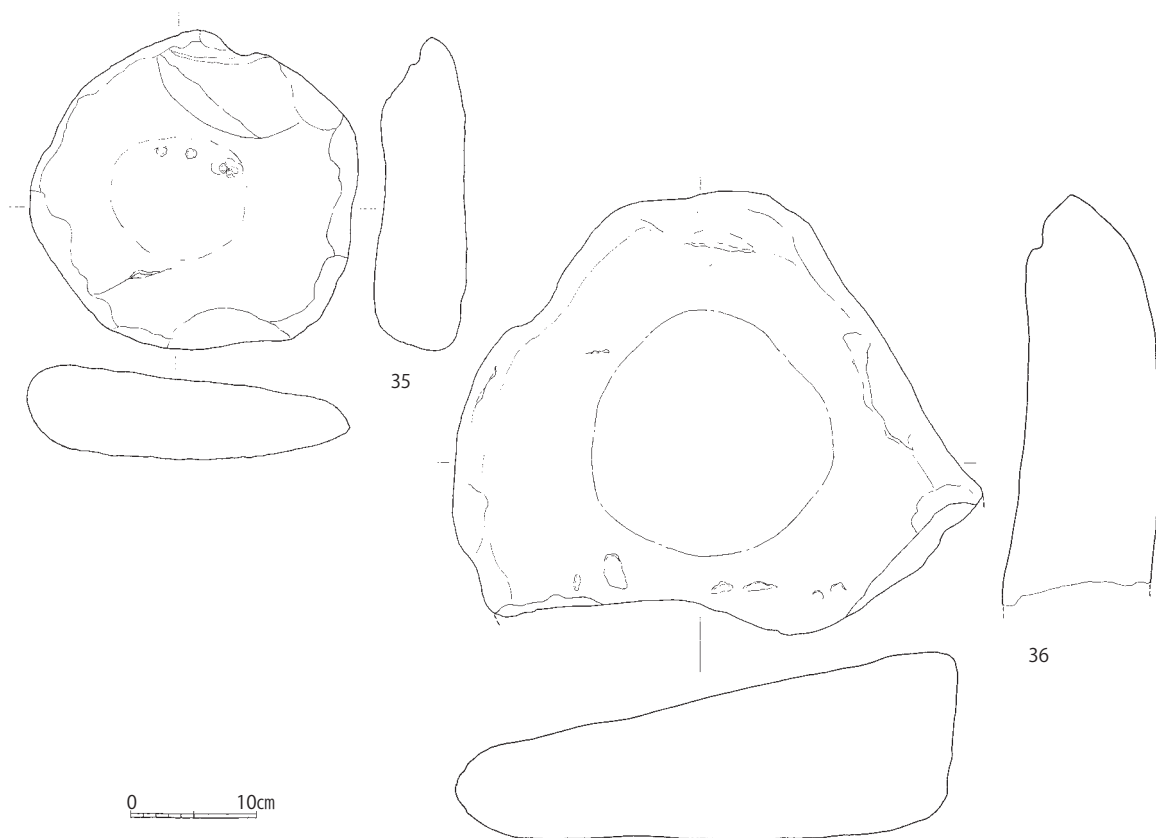


第16図 IV層出土遺物実測図(5)

ことがうかがえる。なお、使用痕のある剥片として挙げた例には（第12図1・2）、裏面のポジ面と同様な剝離方向を有する剝離痕が表面側（ネガ面）にも観察される。これは打面再生を繰り返していたとしても、単設の打面であったことを示している。

台石 丸みを帯びた側縁部に打痕がなく、表裏に幅広の面をもち、何がしかの打痕や傷跡が残る資料を台石とした。しかし、なかには判断に躊躇するものもあり、出土時に単体もしくはそれに近い状況の例を台石としている（配石も含めている）。形態は、楕円形の例（第16図29）、多角形の例（第16図28・30・34、第17図36）、方形の例（第16図31）、円形の例（第17図35）がある。図示したとおり側縁部を割っている例もあるが、それが形の調整であったのかははっきりしない。後述するが、台石と推定される縄文時代早期の配石のなかには、径50cm前後の大きさの巨大で平坦面がある石の縁部に礫器状の加工痕・成形痕があり、IV層の台石に観察される割痕にもその可能性があろう。台石の使用痕跡についてであるが、刺突状の窪みがまばらに分布する例や（第16図31・32・33・34、第17図35）、やや摩滅していると思われる例（第16図28・29・30、第17図36）がある。

これまで記述してきたようにIV層出土の石器類には、ナイフ形石器や細石刃といった標識的な遺物がなく、その位置づけを困難にしている。しかし提示した資料にみられる縦長剥片の存在と出土層位がIII層を除去した後のIV層上部域であることが参考になる。また、IV層をぬいた下層にAT層が見られることは、少なくともAT上位石器群のいずれかということになる。この点については後述したい。



第17図 IV層出土遺物実測図(6)

第3節 縄文時代

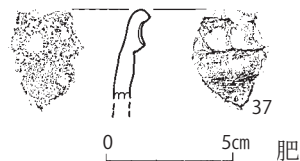
1 草創期の遺構と遺物

(1) 竪穴建物

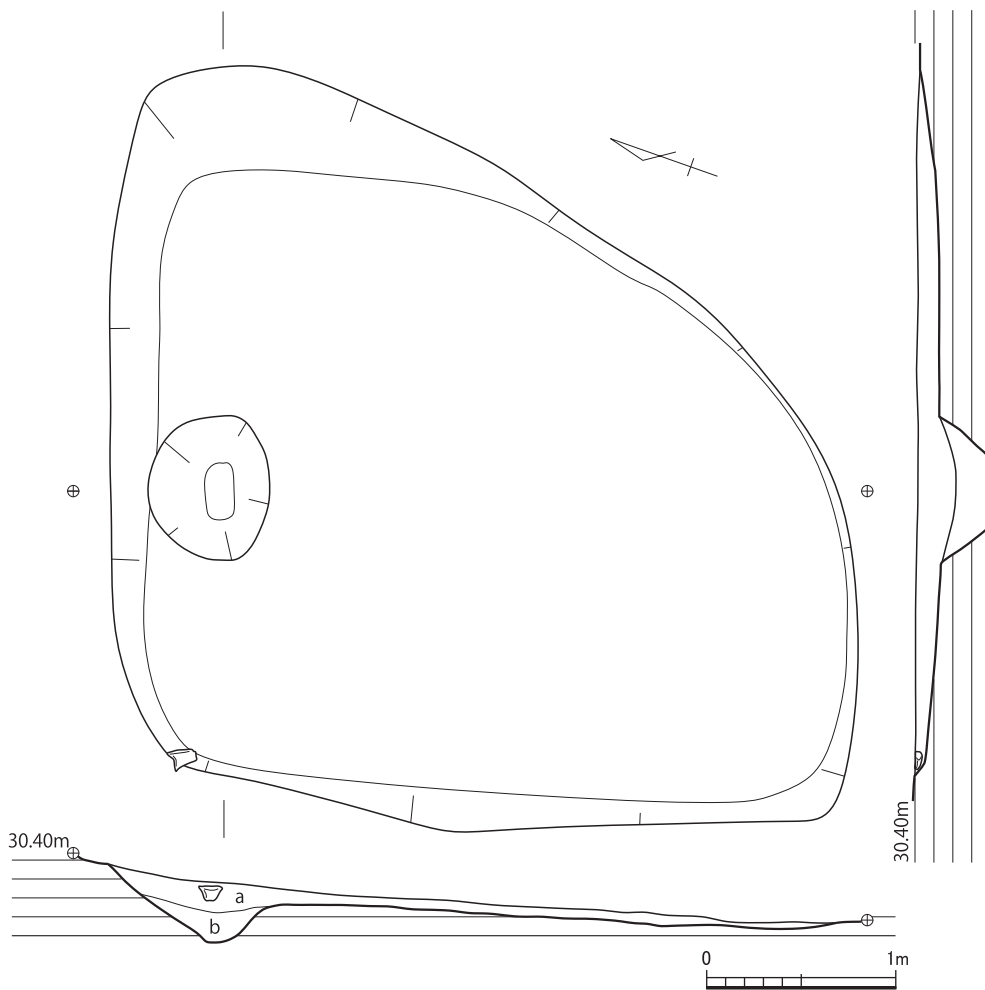
S190 調査区西部で第2次調査区の範囲にあり、区画では4H区に位置する(第3図・第477図)。この辺りは、弧状に湾曲した谷地形の底部になる。周囲には若干の集石や小土坑があるものの関連性はわからない。この遺構の平面形は、北側と西側が直線的で、南側から東側にかけては外側へ湾曲するという不定形な特徴を有した竪穴建物、もしくは土坑である。

内部から外部への立ち上がりである壁面は、ゆるやかな傾斜で、床面は比較的に平坦である。なお立ち上がりは、谷底部側の南側で浅くなっている。また土坑内部施設として、北壁の中央付近に接して小さな土坑があり、その規模は、上面の長軸幅が75cm、短軸幅が62cm、床面からの深さが22cmである。土坑の平面形は、長い楕円形を呈しており、北壁の中央部付近に沿うように位置する。この土坑の断面形は、緩やかな逆台形をしている。土坑の覆土は、二枚あり、下層に炭化物粒を微量含む。

土器 出土遺物は、土器が1点出土しただけである(第18図37)。やや外傾する隆帯文系土器の口縁部破片で、頂部から外面側1.7cm幅を肥厚させている。この肥厚部に、左から右へ指圧痕を0.3cm程度重ねている。外面側の指圧痕は、拓影上の計測で0.9cmである。厚部をつまむ様につけているので、内面の上部が緩やかに凹んでおり、部分的に浅い円形の指圧痕跡が観察される。指圧痕以外の部分は、内外ともナデ調整。



第18図 S190出土遺物実測図

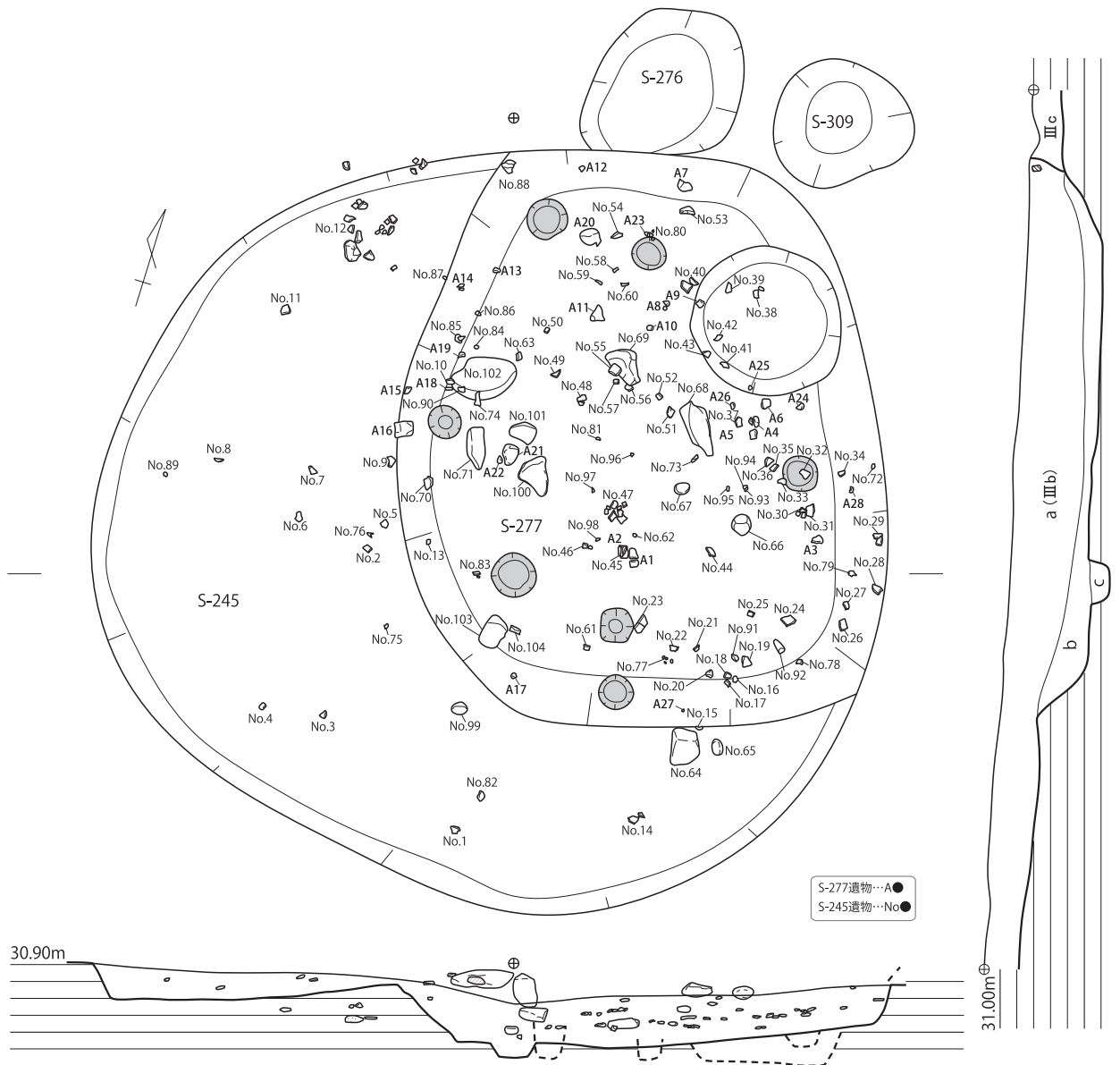


a.黒褐色土(10YR2/2) しまりはやや強く粘性やや弱い 粒子は粗くボソボソしている 遺物を含む
 b.褐色土(10YR4/4) しまりは強く粘性なし 砂礫をまんべんなく含む 3mm程度の炭化物を微量に含む

第19図 S190実測図(1/40)

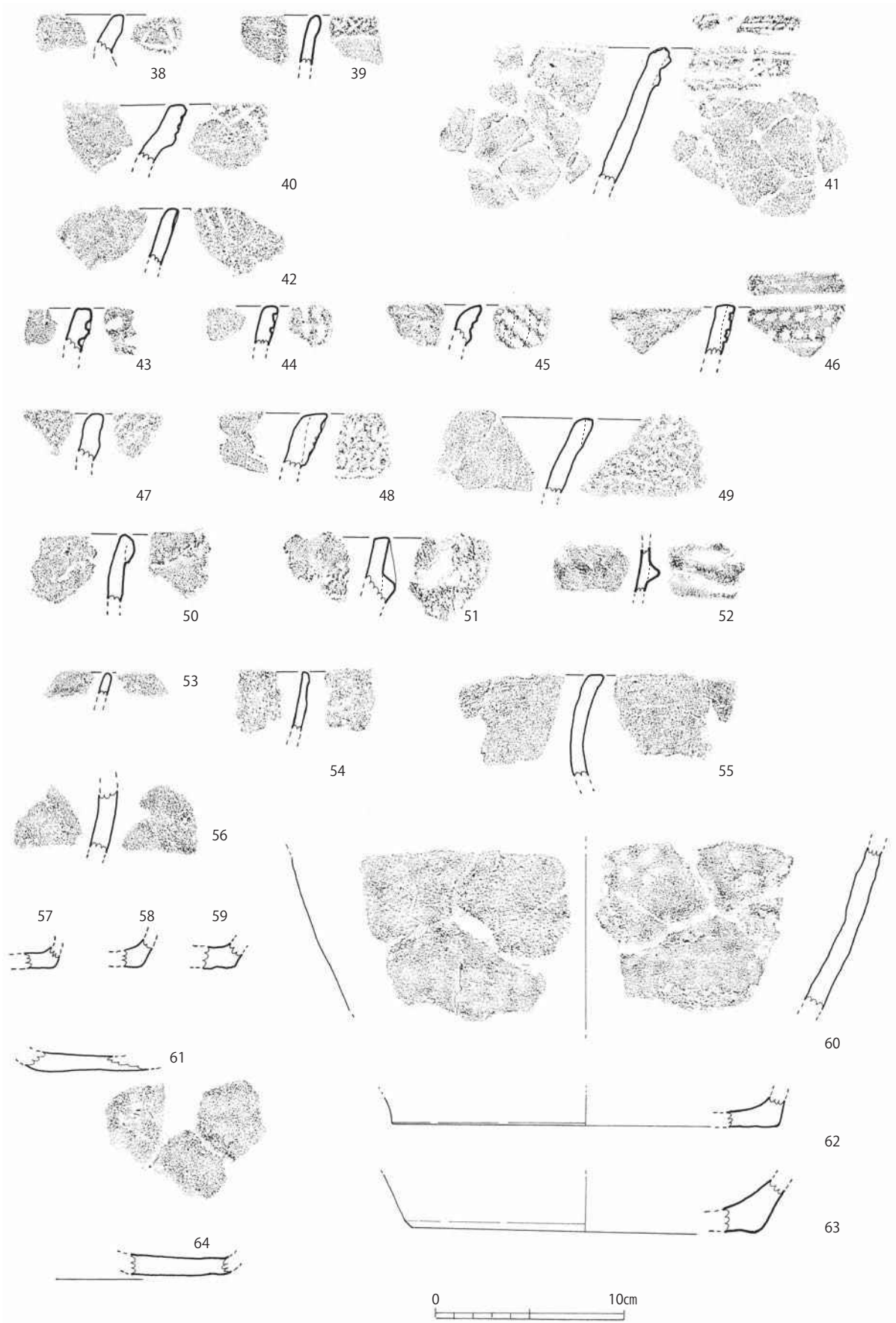
S245 調査区の西部域で第3次調査区の範囲にあり、区画では8・9C区に位置する(第3図)。この辺りは、舌状台地の北側の縁沿い近くで、西から東へ延びる舌状台地下り勾配のある場所である。直径460cmのS277を切る形で構築されている。平面形は、胴張りの方形で南北340cm、東西290cm、深さ30cmの規模を有する(第20図)。遺構の壁は外傾するように皿状に立ち上がる。柱穴は、遺構内の壁沿いに7基配されるものの、やや不規則である。遺構内には、配石状の石が配される。

土器 S245から出土した土器は10種類ある。列記すると、A: 隆線を口縁部外面に二条貼り付け、その谷間と口唇部に連続する刺突文をほどこす例(第21図41)、B: 口縁部の外面を肥厚させた面にX字条の短沈線を施すもの(39・40)、C: 口縁部の外面に隆帯を貼り付けるか肥厚させた表面に円形もしくは三角形の刺突を二段にわたって施した例(43・44・46)、D: 口縁部の外面に隆帯を貼り付け、表面に下向きハの字爪形文を複数段にわたって施す例(48)、E: 口縁部の外面の最上部に隆帯を貼り付けた例(47・50)、F: 口縁部の外面の最上部に隆帯を貼り付けるか、肥厚させ、表面に刻目を付けた例(45) G: 口縁部の外面に垂下する短沈線を斜行ぎみに施すもの(第21図42)、H: 口縁部外面の上部から下がった部分に突出した隆

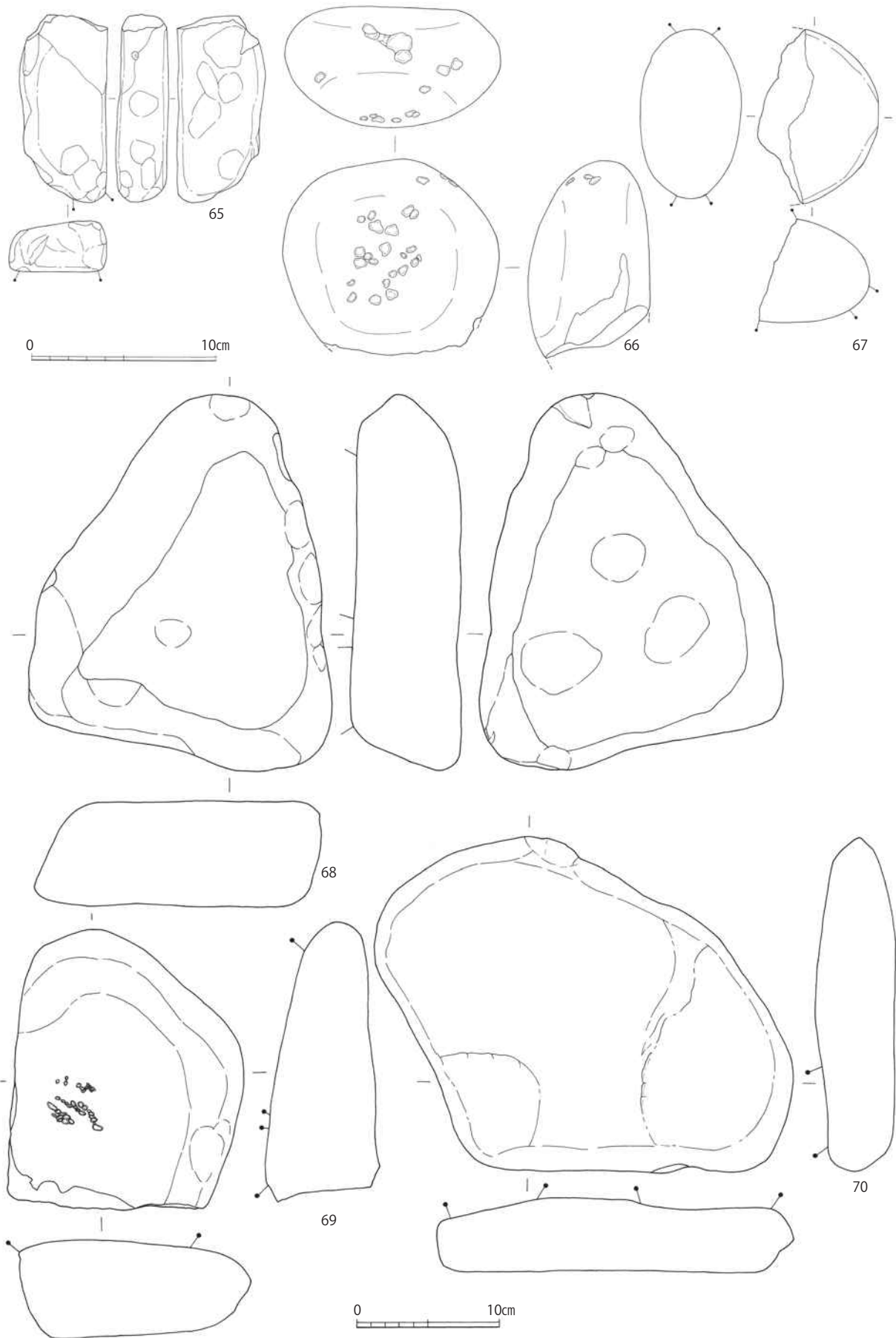


- S-245(理土) Ⅲb層 a.黒褐色土(2.5Y3/1) しまりやや強く粘性は弱い 砂礫をまばらに含む 土器等の遺物を多量に含む
 S-277(理土) b.灰黄褐色土(10YR4/2) しまり強く粘性やや弱い 砂礫をまばらに含む
 Pit c.黒褐色土(10YR3/2) しまりやや強く粘性は弱い
 包含層Ⅲc (Ⅲc層) 黒褐色(10YR3/2) しまりやや強く粘性はやや弱い Ⅲb層よりやや明るい。

第20図 S245・S277・(S276・S309土坑) 実測図(1/40)



第21図 S245出土遺物実測図(1) ※49は押型文土器



第22図 S245出土遺物実測図(2)

帯を貼り付けただけの例(51・52)、I: やや肥厚させた口縁部外面上部にハの字形の短沈線を施し、その下部を水平の短沈線でつないだ例(38)、J: 隆帯などの文様のない無文土器で、外傾もしくは直口する例と(53・58)、外反する例(55)、などがある。最後のJには、隆帯文土器の無文部破片が含まれている可能性もある。このほか、土器の胴部破片(56・60)、底部破片(57～59・62～64)がある。胴部破片のうち大型破片の上部胴径が31cm、破片の上下幅が約9cmある(60)。胴部破片は、上下端部が擬口縁であることと、中央部の破損接合面を勘案すると、上下5cm前後の粘土帯を接合したものであろう。底部破片は、いずれも立ち上がり部分と底部の境界が明確な例であり、底部直径は20.2cm(62)・18.0cm(63)である。

石器 石鏃等の良好な剥片石器は出土していない。器種としては、磨石(第22図65・67)、敲石(66)と台石(68・70)がある。磨石は、立方体の角礫を利用した例と(65)、半割された円礫を用いた例がある(67)。前者は(65)、下側の端部と裏面に、後者(67)は表裏の曲面に磨滅痕が観察される。敲石は、円礫を三分の一程度割った例で、表面と曲面部に径0.3cm～0.6cm前後の打痕が観察される(66)。台石は、最大長軸25.5cm・最大幅21.5cm・厚さ7.5cmの大きさを有し、平面形が二等辺三角形をした例(68)と、最大長軸32.2cm・最大幅22.5cm・厚さ6.7cmの大きさを有し、平面形が扇形をした例(70)であり、前者は表裏の両面に磨滅痕と推定される部分があり、後者は表面側の二箇所に磨滅痕がある。

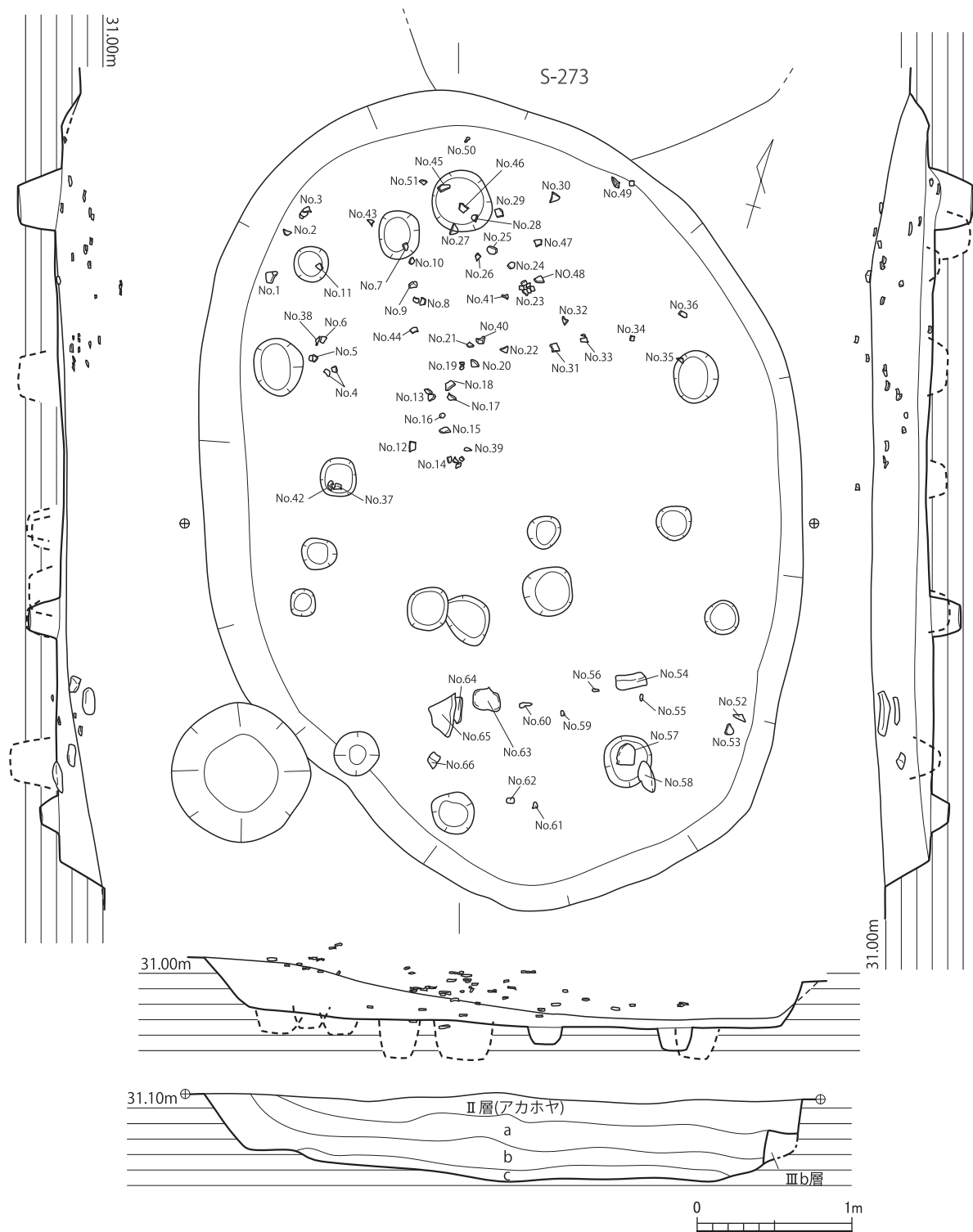
S246 調査区東部で第3次調査区と第4次調査区にまたがる部分にあり、区画では9DE区に位置する。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の東端部に位置し、東方の低地を斜め下方に臨む場所に位置する。この遺構の平面形は、南北に532cm、東西390cmの楕円形である(第23図)。内部から外部への立ち上がりである壁面は、東壁部分の一部で垂直に近い部分もあるが、概してゆるやかな傾斜で、30°～70°の勾配がある。壁高は、30cm前後である。床面は比較的平坦である。なお立ち上がりは、谷底部側の南側で浅くなっている。またS246の土坑内部施設として柱穴が17基あり、うち14基の柱穴が長軸の北端から三分の二までの間にある。そしてその分布は、環状に分布している。残りの柱穴3基は、南側の壁裾付近に沿って配置されている。柱穴の深さは、15～25cmと浅い。

堆積層 S246の最上部にはII層のアカホヤが堆積し、その下にa・bとしたIII層が堆積している。C層には、まばらに下位IV層のロームのブロックが観察されるので、貼り床と考えられる。

なお、後述するS246内の台石の分布に触れておきたい。台石は、今回3点を提示したが(第25図88:No.57、89:No.64、90:No.54)、この他にも3点の大きな石がある(No.58・No.63・No.68)。これらは、いずれもS246内の南側柱穴群と、その南側にある3基の柱穴とに挟まれた空間付近に集中している(第23図)。堅果類・肉等の等、何かをすりつぶすなどの作業台が台石とすれば、それらがS246内の南側に分布することは作業内容を反映しているものとして考えられるので、ここで事実を記しておく。

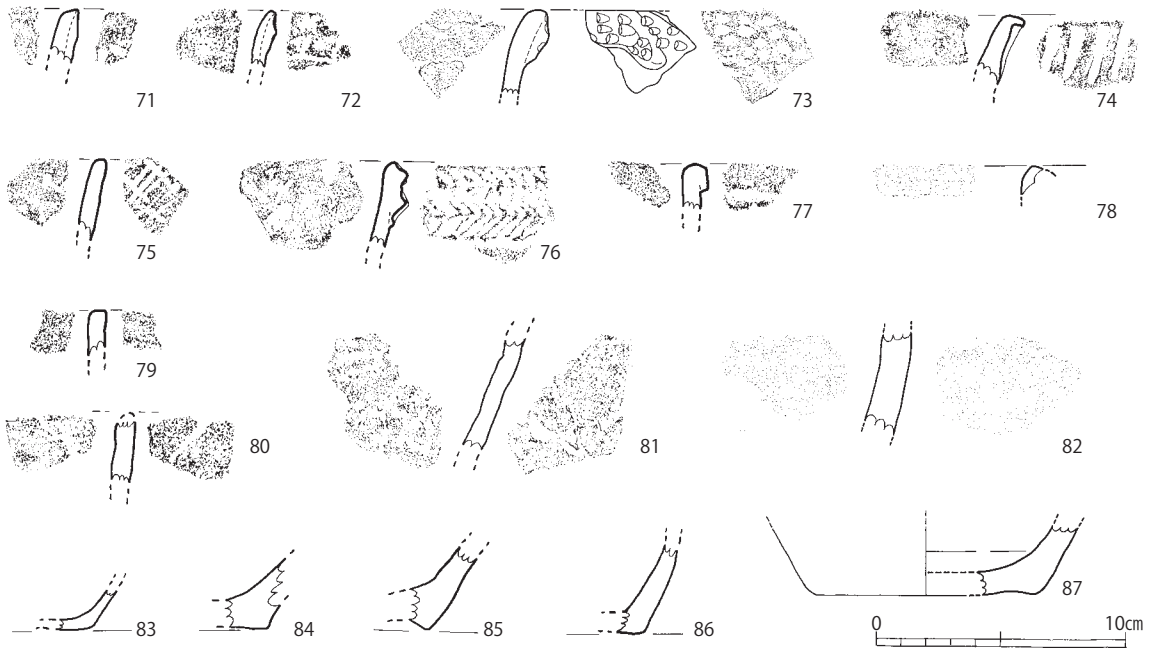
土器 S246から出土した土器は7種類ある。列記すると、A: 口縁部外面上部を緩やかな山形状の隆帯を貼り付け(もしくは肥厚)、数段にわたって横・縦刺突した例(71・73)、B: 口縁部外面上部を緩やかな山形状の隆帯を貼り付け(もしくは肥厚)、その上をヘラでノの字状の短い沈線(もしくは刺突)を二段施し、その下に横方向の沈線を一条施した例(72)、C: 口縁部外面上部を上から下へヘラで斜行沈線を施した例(74)、D: 口縁部の外面に斜格子状に短沈線を施した例(75)、E: 口縁部の外面の上部に並行する隆帯を二条貼り付け、表面に綾杉状(矢羽根状)の文様を施した例(76)、F: 口縁部の外面の最上部に隆帯を貼り付けた例(77)、G: 口縁部の外面に隆帯のない無文土器の例、もしくはない部位の例(78・79・80)、などがある。この他、H: 無文の胴部破片(81・82)、平底の底部破片がある(83～87)。底部破片のうち一例は底部径が9cmに復元できる。これまで述べてきた土器の基本的な調整は、隆帯を貼り付けた後に(隆帯を貼り付けない場合を含める)、ナデ調整を行い、その後にヘラ等で施文を施している。

石器 S246からは、石鏃等の良好な剥片石器は出土していない。器種としては、台石だけである。現状で、最大長幅17.7cm×17.0cmと(第25図88)、最大長幅16.2cm×17.0cm(89)、最大長幅17.2cm×13.4cm(90)の大きさがあるが、いずれも打割によって平面形が多角形をしているが、これらの打割痕の中には打点やリングが明瞭な剝離痕のある例もあり(89)、あるいは成形を意図したものかもしれない。使用痕跡は、礫の表面に観察される磨滅である。断面の厚さは、厚い例と(89・90)、やや薄い例がある(88)が、それらは現状で2.1kg(89)・3.1kg(90)・2.0kg(88)もあり、もともとは更に重く大きい台石であったことを勘案すると打割にたいへんな力を要したと推定される。

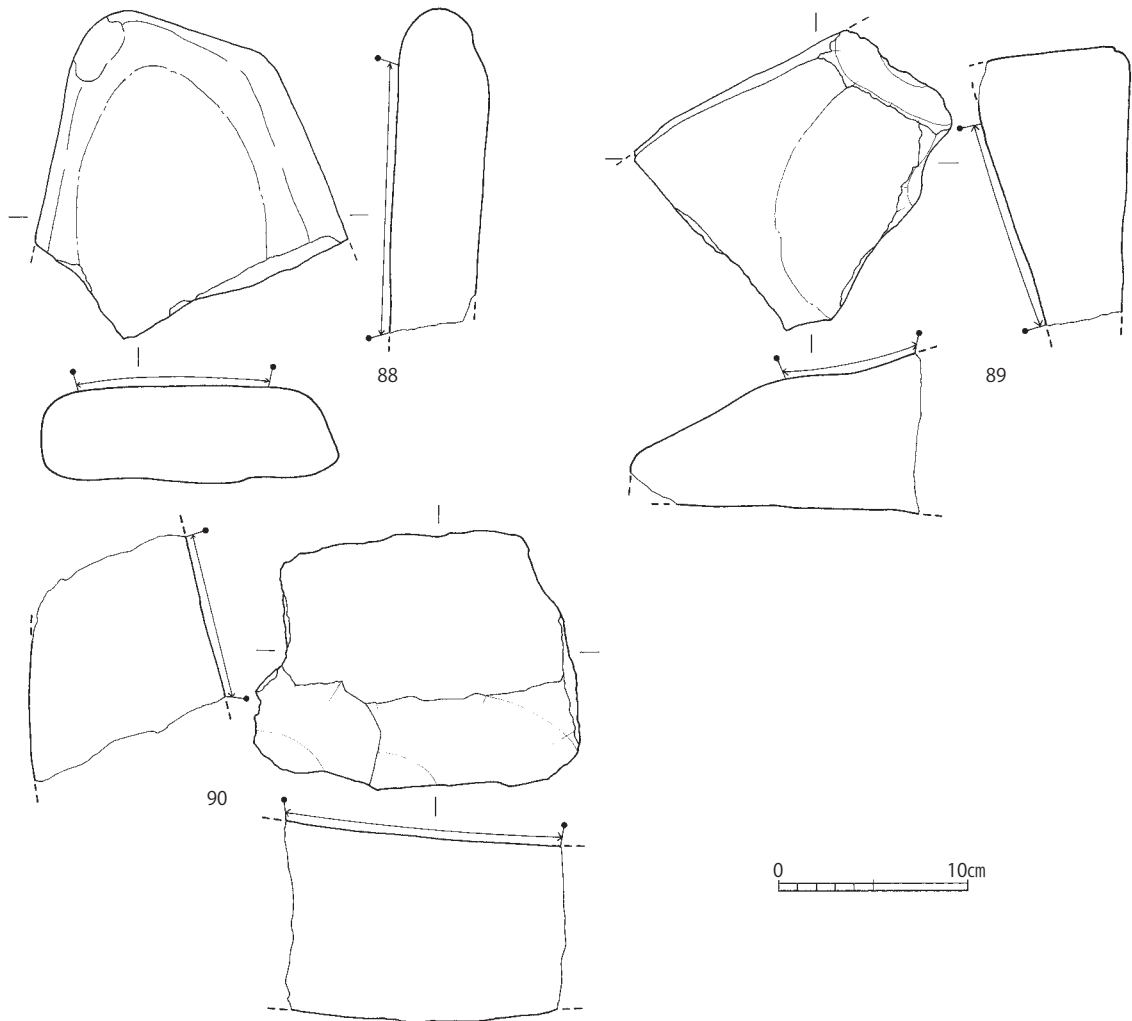


- a.黒褐色土(10YR3/2) しまりやや弱く粘性弱い 粒子は非常に細かく細粒である アカホヤをまばらに含む
- b.灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや強く粘性はやや弱い 地山ブロックをまばらに含む
- c.暗褐色土(10YR3/3) しまり強く粘性はやや強い 地山ブロックをまばらに含む 砂礫を微量に含む

第23図 S246実測図(1/40)



第24図 S246出土遺物実測図



第25図 S246出土遺物実測図

S273 調査区東部で第3次調査区と第IV次調査区にまたがる部分にあり、区画では9D区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の東端部に位置し、東方の低地を斜め下方に臨む場所に位置する。S273は、南側に接するS246に遺構を切られる関係にある(S273が古く、S246が新しい)。この遺構の平面形は、東側の遺構ラインが不明瞭であることと、南側の遺構ラインがS273に切られることで不明瞭であるが、およそ南北が235cm前後、東西270cm前後の規模を有する楕円形の遺構と推定する(第26図)。

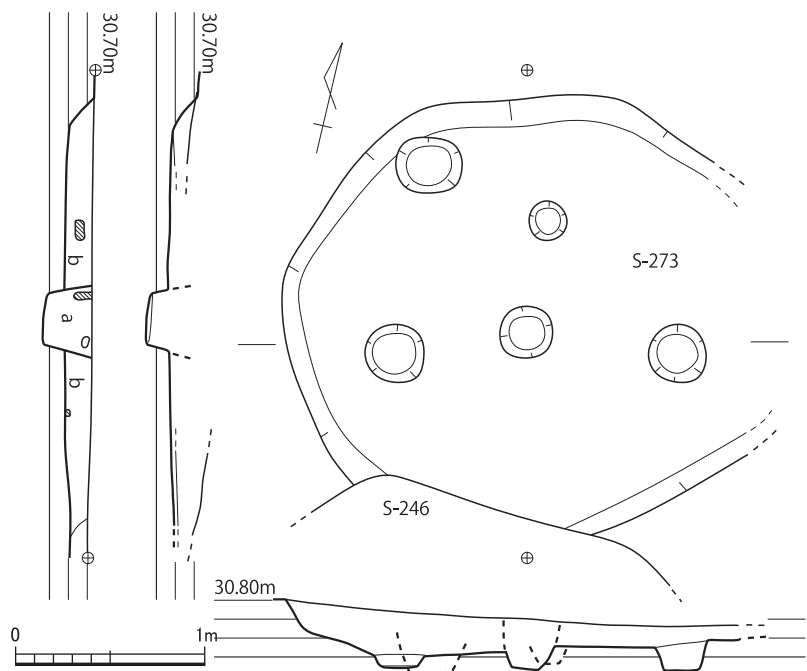
内部から外部への立ち上がりである壁面は、概してゆるやかな傾斜で、40°前後の勾配がある皿状の断面形である。壁高は、15cm~20cm前後である。床面は比較的に平坦である。またS273の堅穴建物の内部構造として柱穴が5基あり、うち3基が遺構の東西ラインに並ぶが、中央の1基は覆土上位からの掘り込みであり、S273とは無関係である。したがって、遺構中央部の東西ライン状の2基が主柱穴と推定する。他の柱穴2基は、遺構内の北側に偏った位置に不規則な分布となっている。柱穴の深さは、15~25cmと浅い。柱穴の直径は、大きいもので30cm前後、小さいもので20cmである。柱穴の深さは、15cm~20cm前後である。

堆積層 S273の遺構内堆積は、灰黄褐色土一枚だけであった。

土器 S246から出土した土器は3種類ある。列記すると、A：口縁部上部の外側を玉状に隆帯を貼り付け、隆帯の裾部から胴部方向へ刺突を施した例(95)、B：口唇部に斜行する刺突状の刻目を施した例(93)、G：口縁部の外面に隆帯のない無文土器の例(91・92)、がある。なお底部が1点あり、平底である(96)。

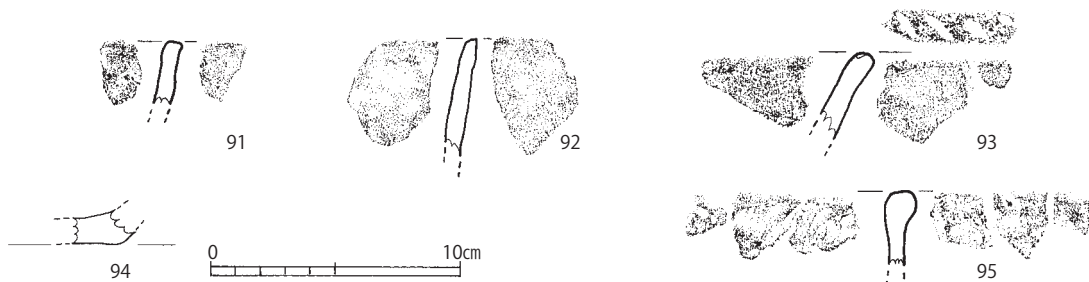
S277 調査区の西部域で第3次調査区の範囲にあり、区画では8・9C区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東へ延びる舌状台地の北側の縁沿いで、下り勾配のある場所に位置する。南北340cm×東西290cmのS245に上部が切られていることが、断面図から判る(第20図)。平面形は、直径460cmの円形である(第20図)。遺構の壁は外傾するように皿状に立ち上がる。柱穴は、遺構内の壁沿いに7基掘られるものの、やや不規則である。

土器 S277から出土した土器は5種類ある。列記すると、A：口縁部外面側上部に幅広い隆帯を貼り付け、棒状工具で円形の刺突を上下二段に施した例(第28図102)、B：剣菱状に口縁部を肥厚させ、外面上部に並行する幅広い隆帯を二条貼り



a.黒褐色土(10YR3/1) しまりやや強く粘性弱い 埋土はサクサクしている
b.灰黄褐色土(10YR4/2) しまり強く粘性弱い 地山ブロックをまばらに含む 遺物を含む

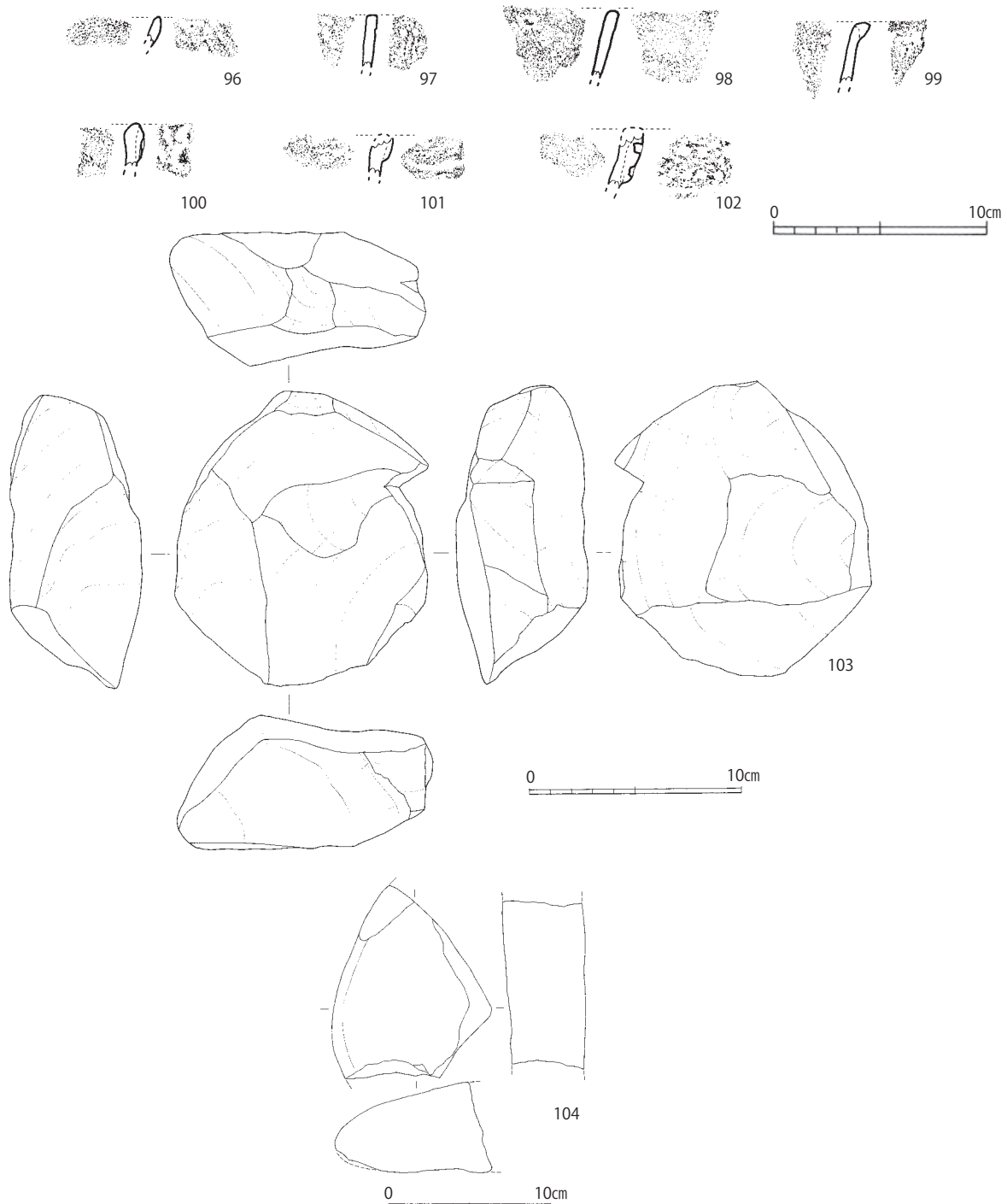
第26図 S273実測図(1/40)



第27図 S273出土遺物実測図

付け、棒状工具で隆帯を太く刻んだ例 (100)、C：口縁部外面上部に扁平な隆帯を貼り付けただけの例 (101)、D：口縁部の外面上部に外方へ突出する細い隆線を貼り付けた例 (99)、F：口縁部外面上部に斜め下位に斜行する凹線を施した例 (96)、E：文様や隆帯をほどこさない無文土器 (97・98) などがある。土器に見られる調整は、基本的にナデ調整であり、隆帯・隆線の貼り付けについても同様である。

石器 S277からは、石鏃等の良好な剥片石器は出土していない。器種としては、石核と台石だけである (第28図 103・104)。石核は、現状で幅 13.7 cm × 16.9 cm ・厚さ 6.2 cm の大型石核である (103)。形態は、やや扁平な円盤形石核にみえるが、表裏と周辺に大きな幅広剥片を割り取った面がある。台石は、円形の大きなものであったと考えられるが、破碎されている (104)。法量は残存部の最大長 10.7 cm ・最大幅 9.6 cm ・厚さ 5.6 cm である。



第28図 S277出土遺物実測図

S358 調査区東部で第IV次調査区にあり、区画では9C・10C区にまたがる部分に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の東端部に位置し、東方の低地を斜め下方に臨む場所に位置する。この遺構の平面形は、南北(長軸)377cm、東西(短軸)298cmの楕円形である。遺構の内部から外部への立ち上がりである壁面は、東壁や西壁で急角度に近い部分もあるが、北壁や南壁の曲率半径が大きくゆるやかな傾斜勾配である。壁高は、30cm前後である。床面は比較的に平坦である。また内部施設として柱穴は確認されていない。

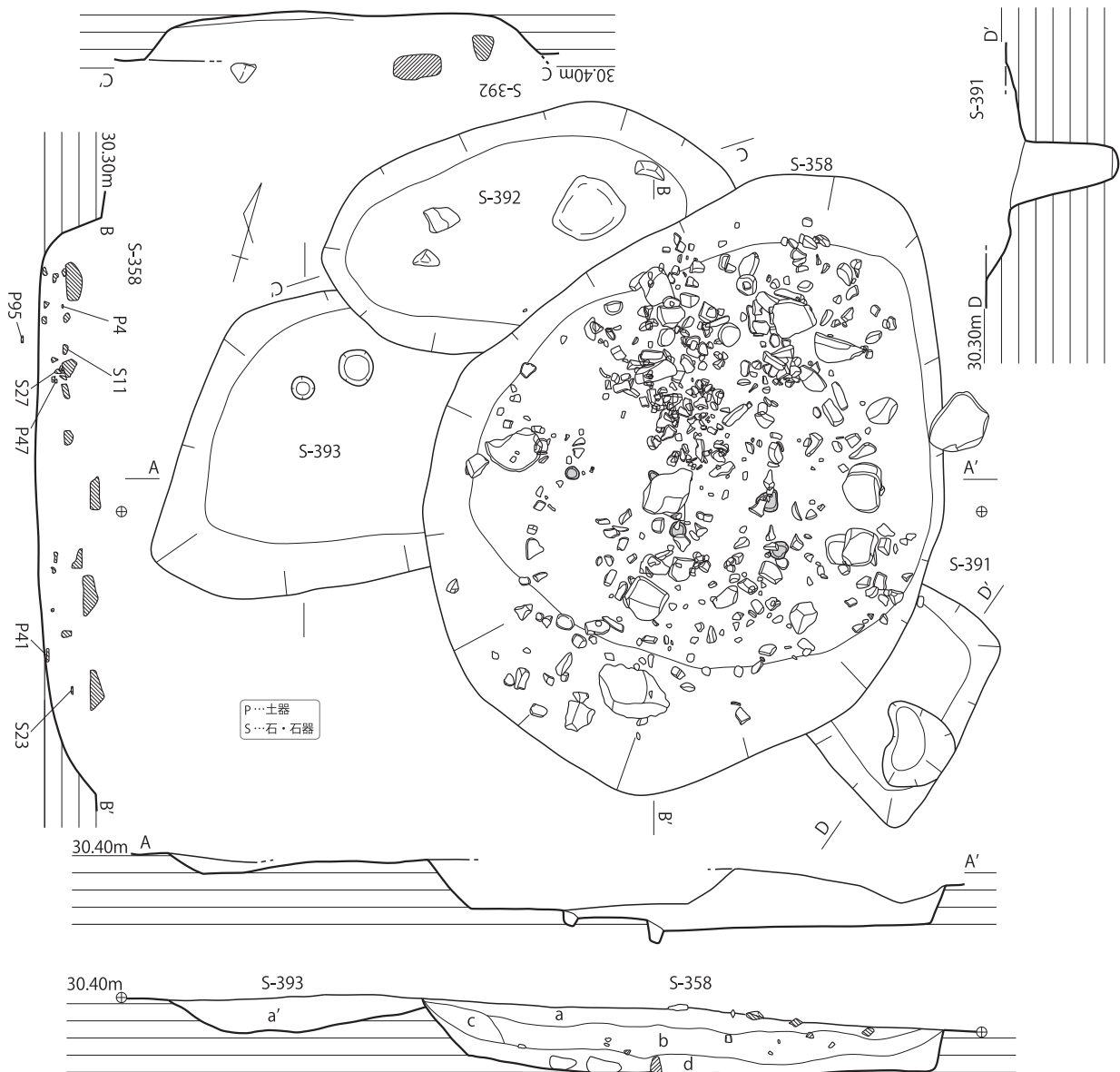
出土状況 遺構内部における遺物は全域で数多く出土している(第30図)。とりわけ遺構内の北半部に小礫が密集する場所がある。この小礫が密集する部分が集石遺構であるとする、遺構が廃絶した後に集石として使われたことを物語っているのかもしれない。また遺構内部において約30cm～100cmの間を開けて巨大な礫が分布している。例えば長幅で数値をしめすとa:45cm×30cm、b:22cm×22cm(S1)、c:36cm×24cm(S41)、D:22cm×18cm(S4 No.4/第33図138)、e:30cm×23cm(S40)、f:37cm×30cm(S35/No.35/第33図141)、g:32cm×15cm(S8)、h:25cm×21cm、i:32cm×22cmである。このなかにdとfのように台石として取り上げたものもある。これら以外の物は顕著な使用痕が認められなかったもので取り上げていないが、使用痕跡がほとんど残らないうちに使用が終了した台石であった可能性はあるし、そうであれば屋内作業施設としての重要性は高い。

土器 S358から出土した土器は7種類ある。列記すると以下のとおりである。A:口縁部外面上部に断面三角形の細い隆線を二条貼り付け、さらに部分的に刻目を入れた例で、調整はナデである(第31図106)。B:口縁部外面最上部から僅かに下がった部分に断面が半月形の密接させた二条の細い隆線と部分的に垂下する一条の短い隆線を貼り付け、斜めの刻目を入れた例である(108)。また本例は口唇部が平坦であることと、並行する隆線の接着状況から上位の隆線を貼り付けたのちに下位の隆線を貼り付けている。C:口縁部の最上部を欠くが、おそらく若干下がった口縁部外面に低い無刻目の隆帯を一条貼り付けた例で、調整はナデ調整である(116)。D:口縁部外面上部におそらく幅広の隆帯を貼り付け、表面に円形の刺突を三段にわたって施した例である(図105)。また本例は、刺突の内部状況から土器の器面に對し上向きに刺突し、調整はナデである。E:口縁部の内面上部に右斜め下方へ斜行沈線を施した楕円文で、混入であろう(109)。F:口縁部の破片で、幅広い隆帯を貼り付けたか、肥厚させた口縁部の上部外面に垂下する斜行沈線を施した例であるが、規則性はない(109)。G:口縁部の外面に隆帯のない無文土器の例、もしくはない部位の例(110～114)、などがある。この中には口唇部の6cm下で水平に割れている部分があり、粘土帯の接合痕と推定される。これからすると、6cm幅の粘土帯が復元できる。この他、無文の胴部破片(115・117～123、第32図124～134)、平底の底部破片がある(135)。これまで述べてきた土器の基本的な調整は、ナデ調整を行っている。なお隆帯文土器破片・無文部破片の上部破損部と下部破損部を観察すると、程度の差こそあれ水平部分が存在している(第31図115～第32図134)。それらの長さをみると、4.4cm・3.8cm・3.6cm・4.8cm・4.5cm・5.8cm・5.7cm・4.6cm・5.8cm・4.1cm・4.0cm・4.8cm・4.6cm・7.4cm・4.6cm・3.8cm・9.0cm・7.3cm・6.0cm・7.0cmとなる。数量的にみると3.5cm～5.0cmまでに55%が入り、その平均値は4.26cmである。次いで、5.6cm～6.0cmまでに20%が入り、その平均は5.8cmである。この結果から、粘土帯の縦幅について4.2cm前後、5.8cm前後が平均的な事例として想定できる。

石器 剥片石器としては、エンド・スクレイパーがある(第33図136)。この石器の表面に観察される剥離痕の方向から多面体の石核から剥離された素材剥片を用いていると思われる。幅に対して長さが二倍強あり、遠位の端部側の幅が広い。この幅広い半月形の部分に裏面(ポジ面)からの打撃による細かい調整剥離で成形している。エンド・スクレイパーは、縄文時代草創期に特徴的な石器で、西日本でみられるようになる。

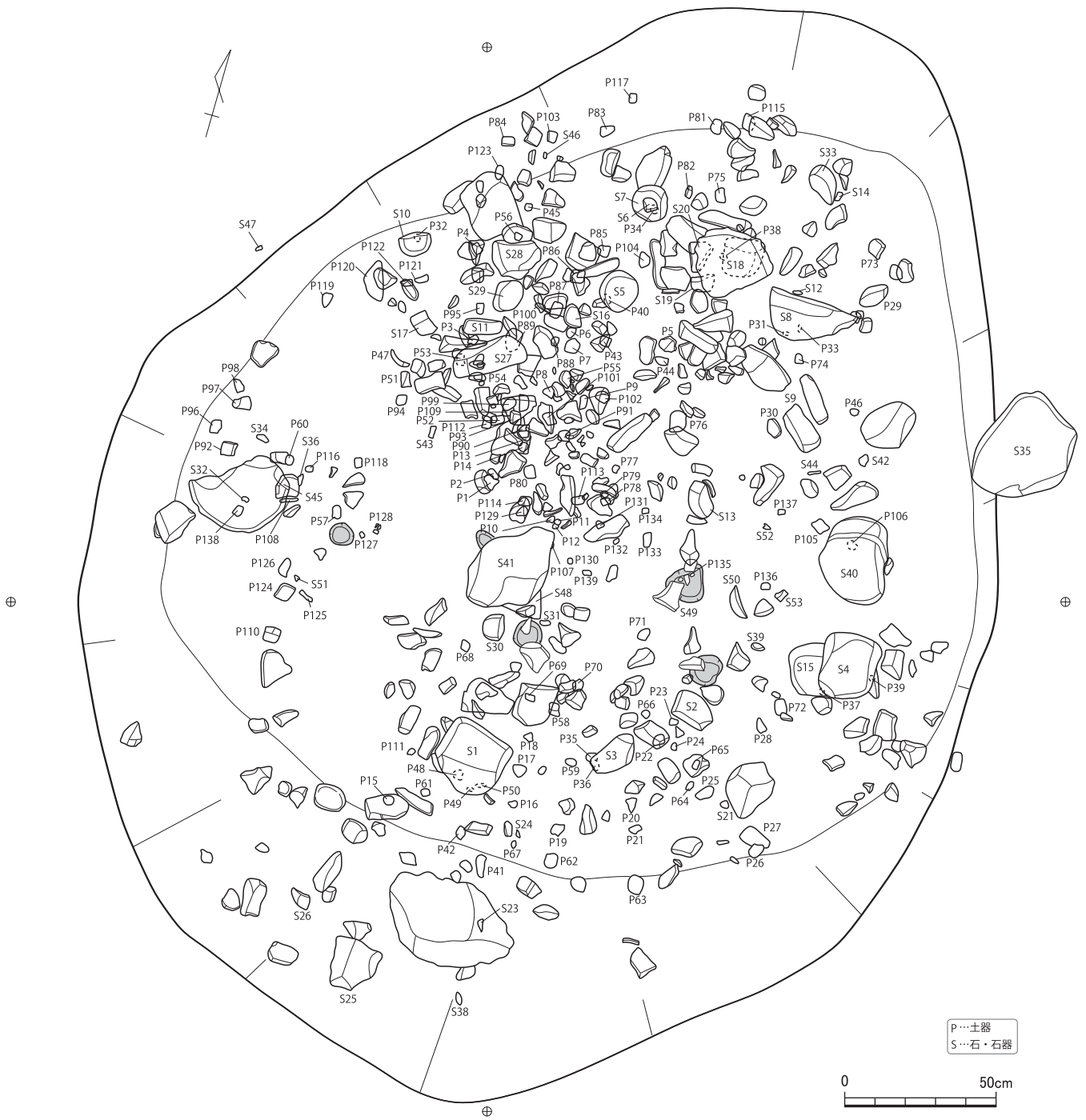
石核は小型で残核段階の例であり、裏面の礫面を打面として剥片剥離を行っている(第33図137)。剥離面は概ね幅広の剥片と折り取り面(明確な打点がない)で構成されている。

台石と認定した例が4点ある。このうち2例は、何らかの理由による打割で割られている(139・140)。使用の痕跡は、いずれもわずかな磨滅であり、平らな片側の面だけに観察される。最も大きな例で、34.3cm×28.6cm×9.0cmの大きさを有し(141)、小さなもので、20cm×推定18cm×4.7cmの大きさを有するもので(140)、重量感のある河原の岩石が選択されている。上述したように、重量感のある巨大な平たい岩石は本遺構から多数出土していたが、台石として認定しなかったものである。しかし、何らかの作業に伴って持ち込まれたことは確実で、その大きさ・重量・形態で共通する台石と同様な機能を有するものであった可能性は高い。

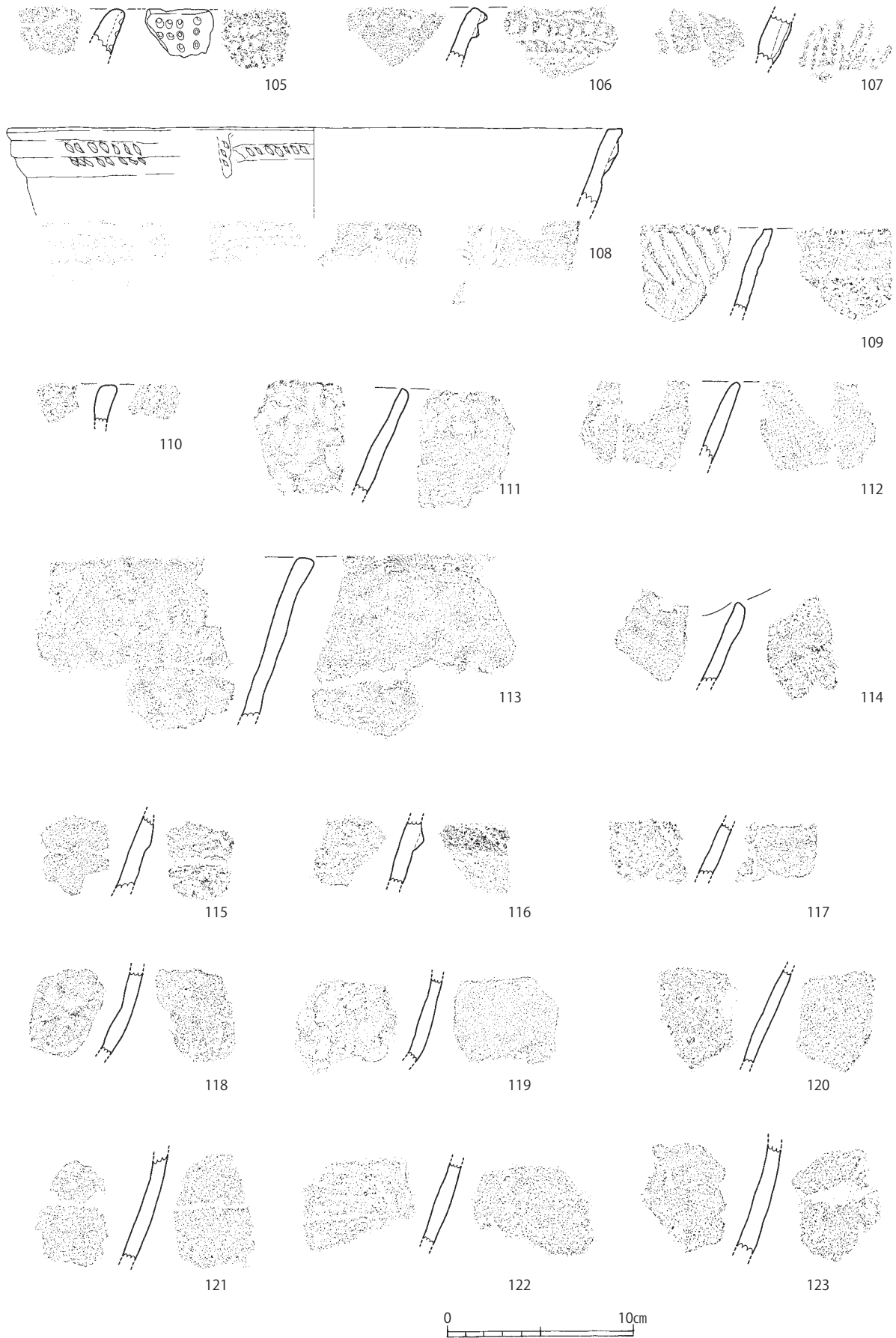


- a. 黒色土(10YR2/1) しまり強く粘性やや弱い 礫と土器をまばらに含む
- b. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり弱く粘性やや弱い
- c. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや強く粘性やや強い 小礫と土器をまばらに含む
- d. 暗褐色土(10YR3/3) しまり強く粘性やや強い 小礫と中礫をまばらに含む 土器片・石皿・台石を含む
- a'. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや強く粘性やや強い 小礫をまばらに含む 土器をまばらに含む

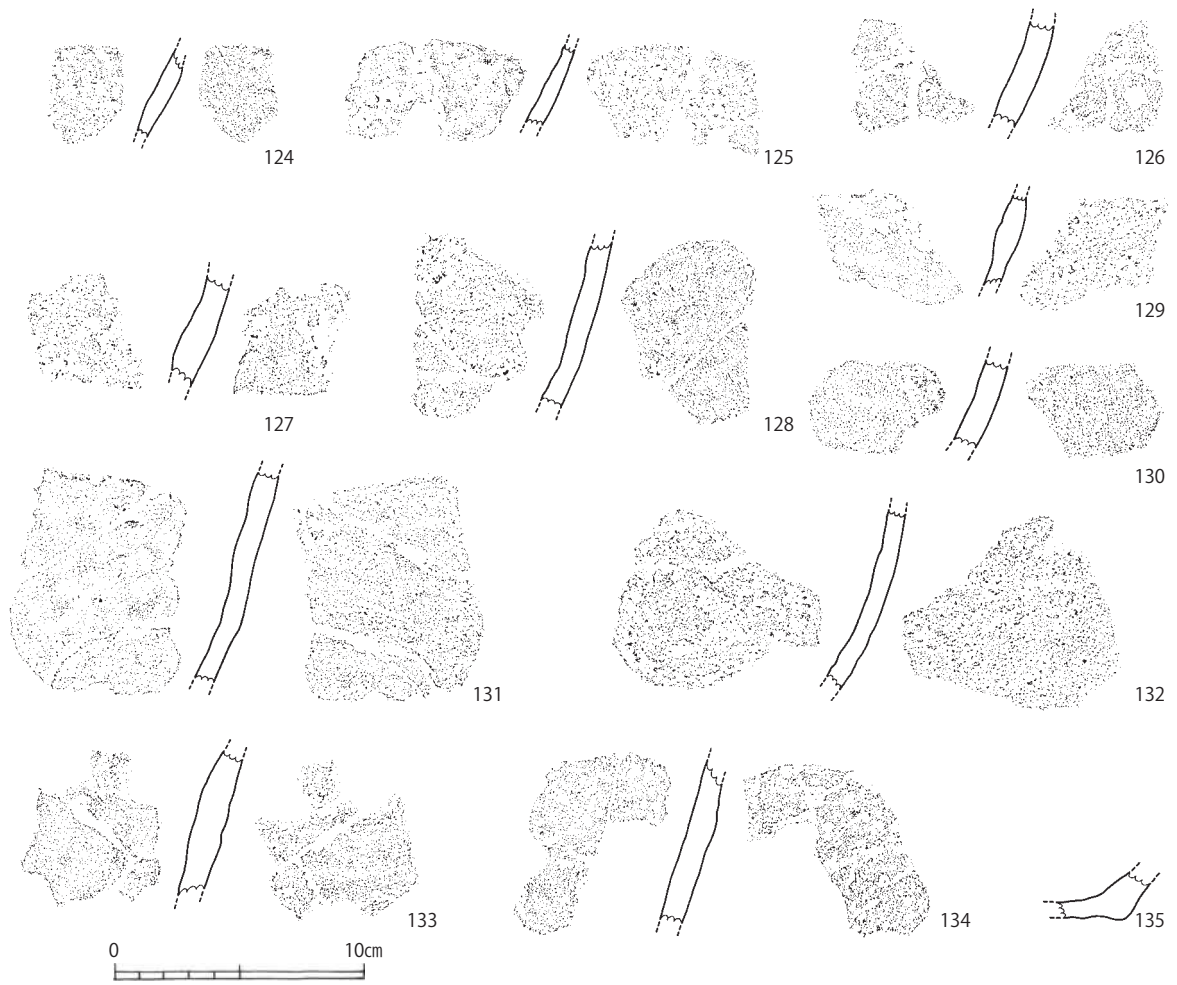
第29図 S358(S391・S392・S393土坑)実測図(1/40)



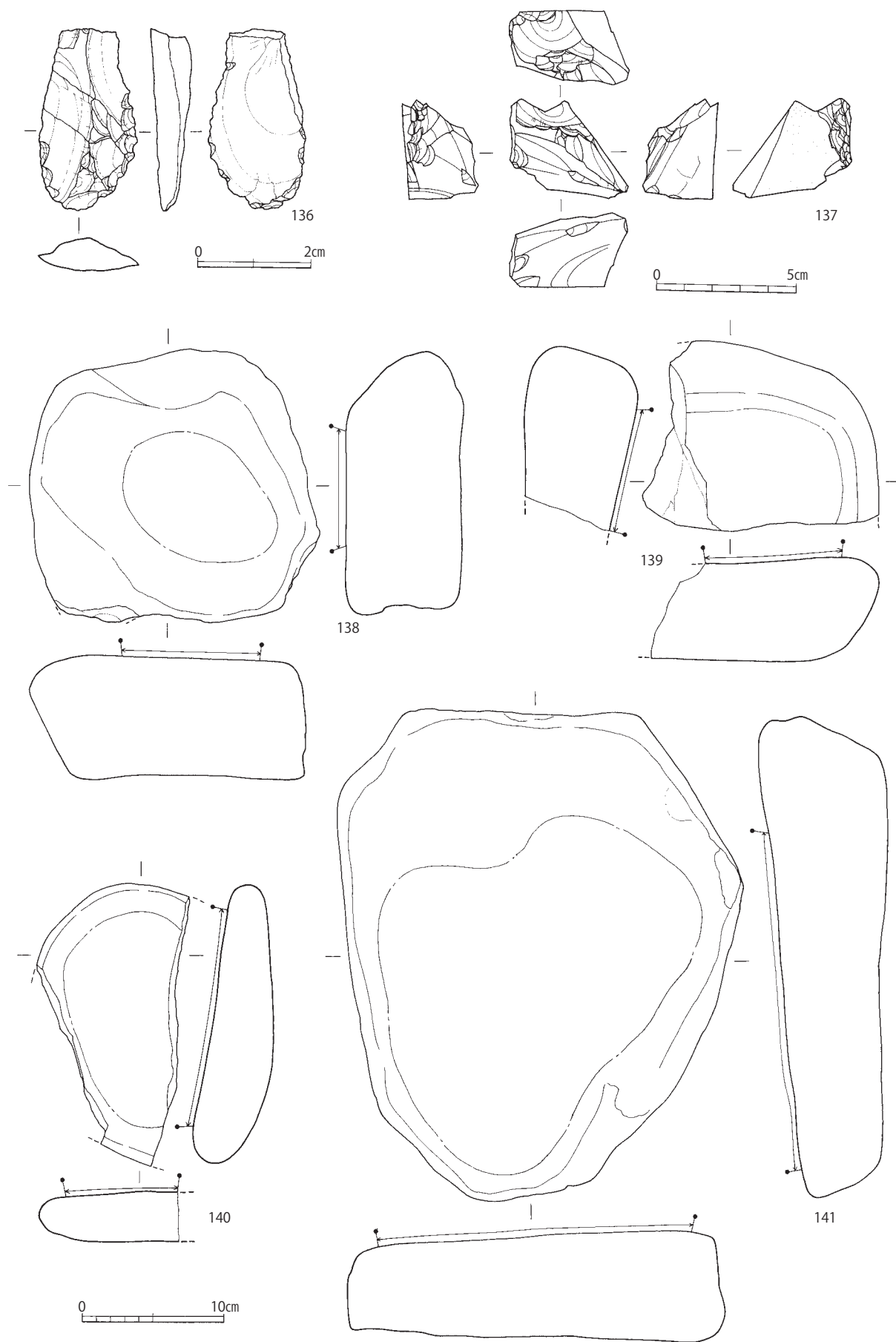
第30図 S358遺物出土状況実測図(1/20)



第31図 S358出土遺物実測図(1) ※109は楕円押型文土器



第32図 S358出土遺物実測図(2)



第33図 S358出土遺物実測図(3)

S383 S383は、調査区東部で第IV次調査区にあり、区画では9E区・9D区にまたがる部分に位置する（第3図・第478図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の東端部に位置し、東方の低地を斜め下方に臨む場所に位置する。この遺構は、S384・S385・S553等の遺構によって北壁・南壁が切られている。そのため南北方向は明確ではないが、遺構ラインの曲り具合から推定して、南北方向が約600cm、東西方向が460cmの広がりをもつ楕円形に近い遺構と考えられ（第34図）、西壁に角張った部分のある不規則な平面形をしている。壁の立ち上がりは、遺構断面図や土層堆積図を検討すると一部に50°近い勾配のある壁もあるが、概して各壁の曲率半径は極めて大きく、ゆるやかな曲線上の勾配である。したがって通常の壁という状況にはない。遺構内の勾配は、南北方向はほぼ水平で、東西方向は西側から東へ高度が低くなっていく。西壁下と東壁下の比高差は、後者が約35cm程度低くなっている。

S383遺構内においては、25個の柱穴が存在している。これらは、床面精査の際に窪みを全て記録したものであるが、弥生時代の竪穴建物にみるような配置上の規則性はなく、特に小規模なものについては柱穴でない可能性もある。しかし、柱穴の全体的な分布傾向をみると、遺構の中央部分にNo.121(S121)とした大きな礫周辺には小さな柱穴があり、その北側・南側に若干のスペースを空けて柱穴群が分布していることがうかがえる。柱穴の深さは、深いもので30cm～36cm、浅いもので10cm～20cmまでの例が多い（第34図）。竪穴建物の中央部を取り囲むように分布していることがうかがえる。

土器 S383から出土した土器は7種類ある。A：口縁部外面上部に幅広い隆帯を貼り付け、表面上に綾杉状（矢羽状）の文様を上下二条施した例（第35図152・154）で、調整はナデである。B：口縁部外面最上部を隆帯を貼り付けるか肥厚させ、表面に棒状工具で二段の刺突を施した例（142・143・144）。C：口縁部の上部外面に幅広い隆帯を貼り付け、表面にX字状の刻目を施した例（146）。本例は、口縁部内面に稜を形成する。調整はナデ。D：口縁部外面上部に上外方へ突出する隆帯を貼り付け、平らな器面にX字状の刻目を施した例（148）。調整はナデ。E：口縁部外面上部に幅広い隆帯を貼り付け、平らな器面に縦方向の短い沈線を施した例（149～151）。後二者は、同一個体。F：口縁部外面上部に幅広い隆帯を貼り付け、平らな器面に鋸歯状に短沈線を施した例（145）。調整はナデ。G：口唇部から口縁部最上部に斜め外方に突出する無刻目の隆線を貼り付けた例（147）。H：口縁部上部に半月形の無刻目の隆線を貼り付けた例（155）。I：口縁部の外面上部に隆帯のない無文土器の例、もしくはない部位の例がある（156～159）。この他、無文部破片がある（160～第36図174）。土器の底部破片が出ており、いずれも平底である（175～180）。

石器 石鏃が1点出土している（第36図181）。形態は、3対2で幅より長軸の長い二等辺三角形である。長軸に対して直交する方向から押圧剥離を表裏に加え、最後に基部方向から長軸方向に押圧剥離を加えている。石鏃の未成品は2点出土している（182・183）。前者は、形態が二等辺三角形の形になりつつある段階の例で、裏面の右側面下半を中心に押圧剥離が加えられている。先端部付近の表面左側縁側の肩部と右側縁のカーブが大きな突出部として残っている（182）。後者は、最大長2.7cm、最大幅2.2cmであり、そのうちの最大幅が下半域あるなど、有茎尖頭器の初期工程段階のような特徴を有している。その加工は、表面側の右側縁・裏面の左側縁、要するに表裏の関係にある部分へ集中的に押圧剥離を加えている。基部は現状で突出したままで、あたかも有茎尖頭器の未成品段階のような逆三角形の特徴を示している。

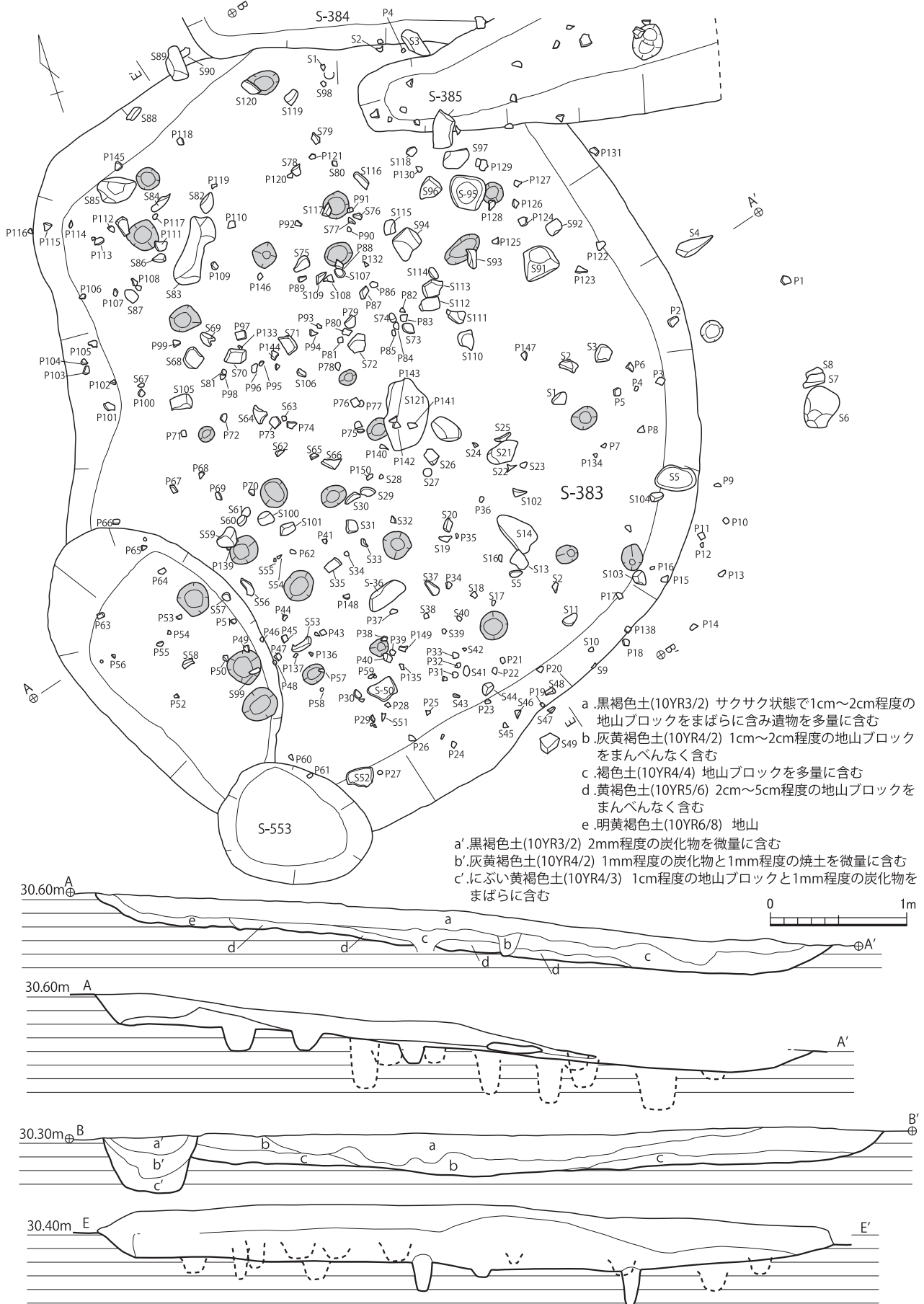
サム・エンド・スクレイパーが1点出土している（184）。これは、ボディの部分が短く、大半が刃部のフロントに相当する。刃部は押圧剥離で円形に近い形に仕上げられており、石鏃の基部調整技術とは大きな違いがある。このサムエンドスクレイパーは縄文時代草創期に特徴的な石器の一つである。

通常のスクレイパー、もしくは使用痕ある剥片に分類される例は、上下両端に細かい剥離の見られるもので、あるいは楔形石器に分類するべきものかもしれない（186）。横刃形石器のようなスクレイパーは、横方向に緩やかにカーブする刃部が表裏両面の調整によって作出されたものである（191）。

砥石が1点出土しており（192）、結晶片岩を用いた長方形で小型の例であり、表裏に使用による磨滅がある。

このほか剥片があり、寸詰まりの例や（185・187・188）、幅広の剥片がある（189・190）。このうち、1点は下端がやや尖り気味で裏面を調整しかけたような剥離の存在から（187）、180°回転させた石鏃の未成品とするべきかもしれない。砥石は1点出土しており（193）、長軸が7cmの小型の例で、一箇所から二箇所の使用による打痕跡がある。

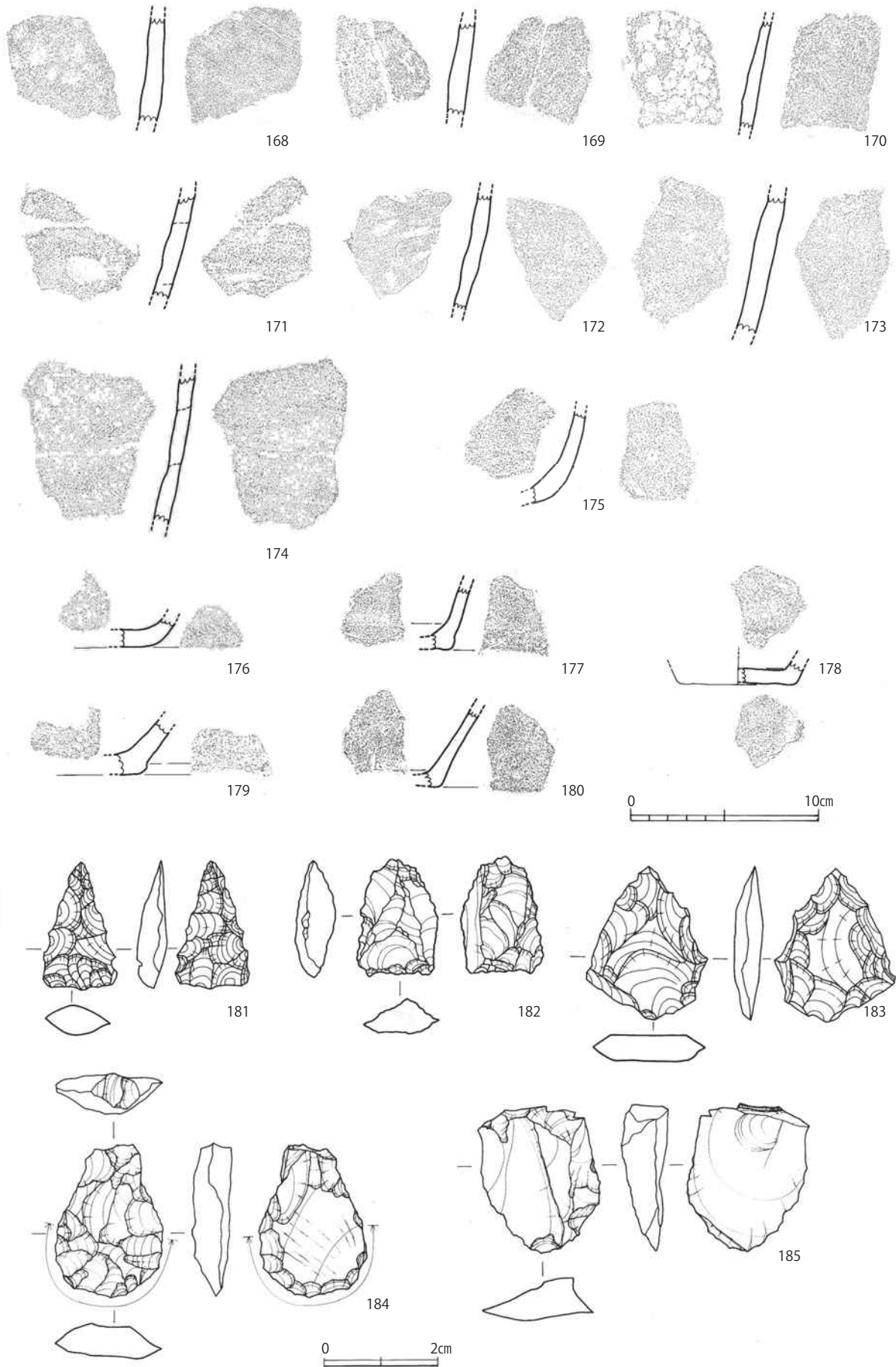
使用痕のある台石は5点ある。いずれも片面側に使用痕がある。使用痕は、磨滅や衝撃による傷などがあるが、前者はすべての資料に観察される。磨滅に加え傷痕のある例は1点だけで、円形・短い楕円形の傷が一つないし複数個連続して、間隔を



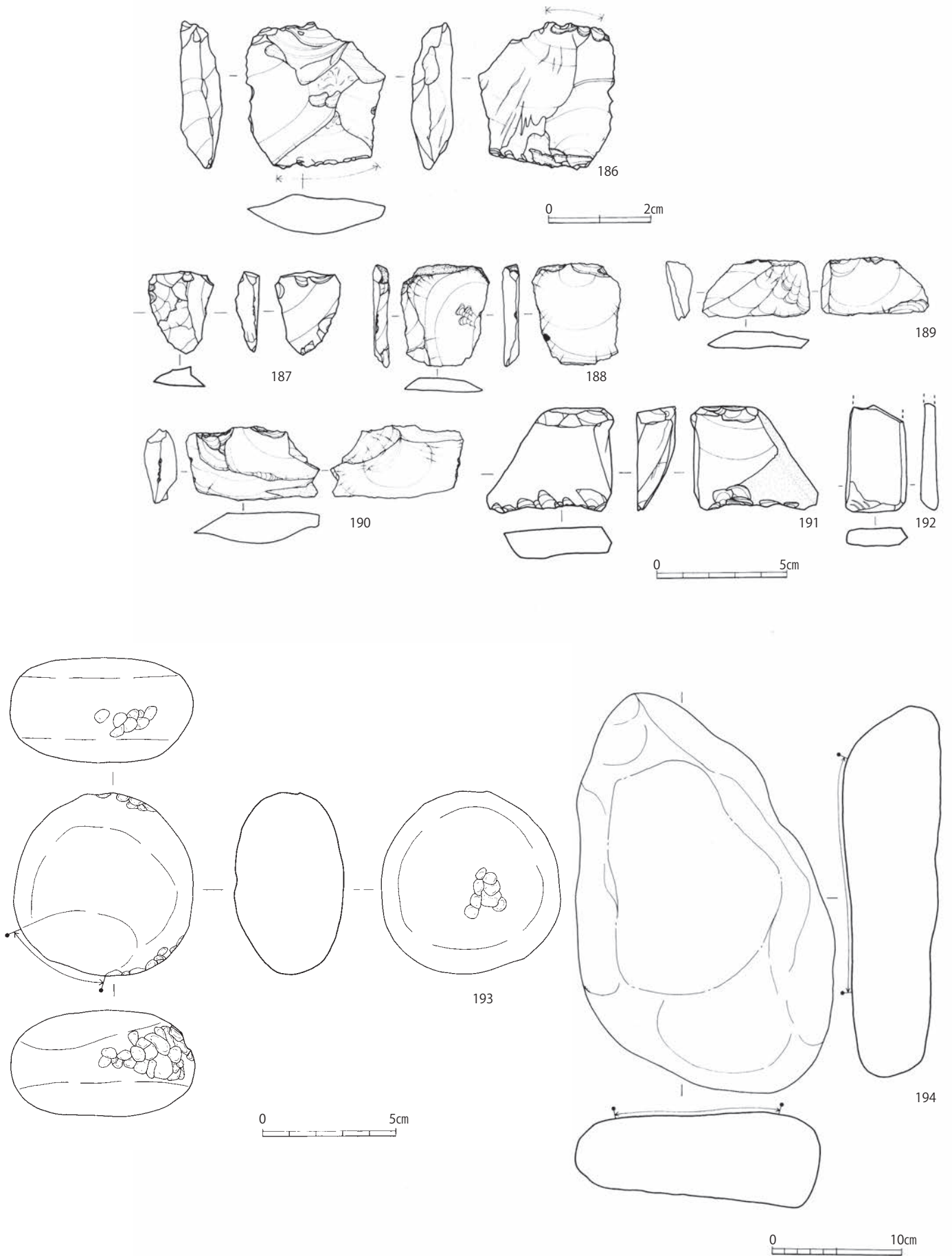
第34図 S383(S384・S385・S553土坑) 実測図(1/40)



第35図 S383出土遺物実測図(1)



第36図 S383出土遺物実測図(2)

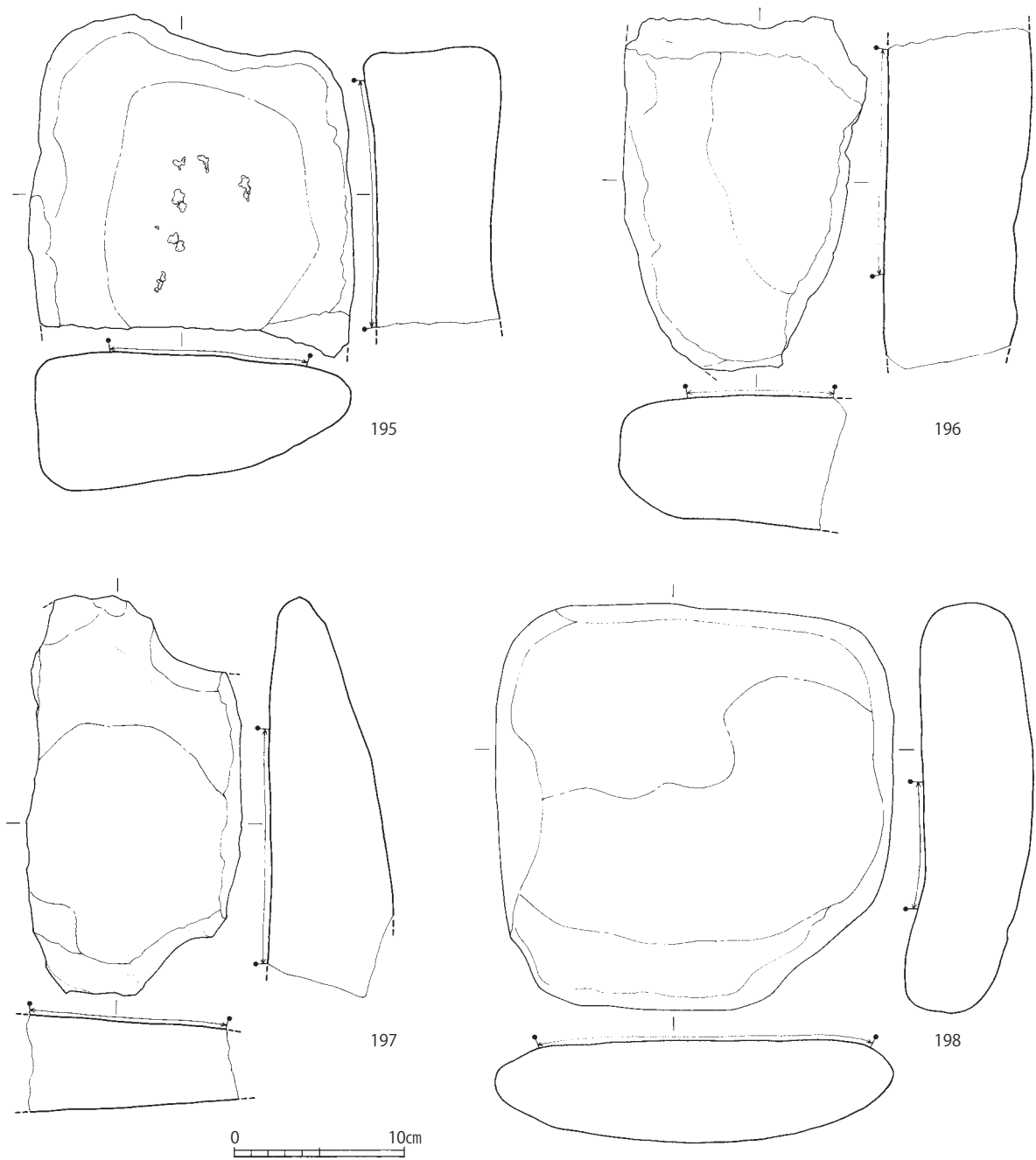


第37図 S383出土遺物実測図(3)

第3章 調査の成果

あけて六箇所程度観察される(195:No. 94)。台石は、長楕円形に近い例(194:No. 5)と、方形の平面形をした例(198:No. 95)の完全品があり、前者は長軸30.2cm・短軸20.0cm・厚さ7.5cm・重量5.2kg、後者は長幅24.7cm×23.6cm・厚さ6.6cm・重量6.41kgの法量を有する中型の台石である。他の3点は打割によって割とられた台石である(195:No. 94・196:No. 52/・197:No. 84)。

このほか磨滅痕等が明瞭でなかったのととりあげなかった大きな石が、ほかにも点々とあるが(S383)、使用痕の有無を除けば台石と変わりない。

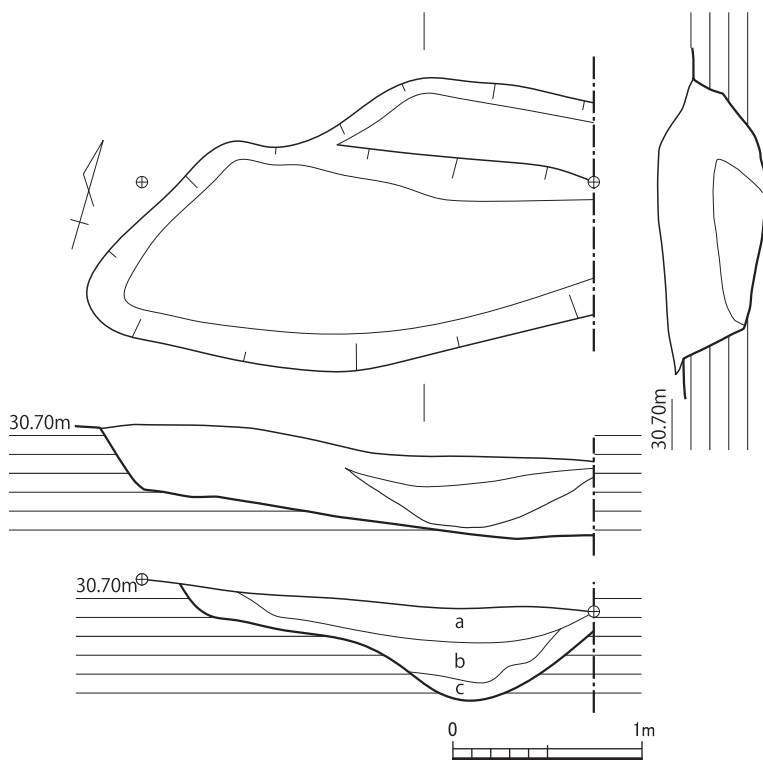


第38図 S383出土遺物実測図(4)

(2) 土坑

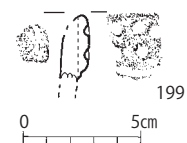
S259 調査区東部の第Ⅲ次調査区東端で、区画では9D区北部にあたる部分に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の東端部に位置し、やや勾配のある場所である。また、東方の低地を斜め下方に臨む場所に位置する。この遺構の平面形は、東西に長い270cm、南北に144cm幅を有する細長い不定形の形である(第39図)。しかし東端部を3次調査区の壁で断ち切られている。土坑の平面形を見ると、内部が二段となっている。土坑内の東半部は緩やかな曲線を描くように急に深くなっている。土坑内は深くなっているほかに格別な特徴もなく、覆土に地山のブロック粒を含むにすぎない。

土器 遺物は土器が1点提示できるにすぎない。口縁部上部に幅広い隆帯を貼り付け、表面を棒状工具で円形の刺突を二段にわたって施した例である(第40図199)。



- a. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや強く粘性は弱い 埋土はサクサクしている 粒子は非常に細かく細粒である
- b. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや強く粘性は弱い 1cm~4cm程の地山ブロックをまんべんなく含む
- c. オリーブ褐色土(10YR4/3) しまり強く粘性やや弱い 1cm~2cmの地山ブロックをまんべんなく含む

第39図 S259実測図(1/40)



第40図 S259出土遺物実測図

2 草創期・早期の遺構と遺物

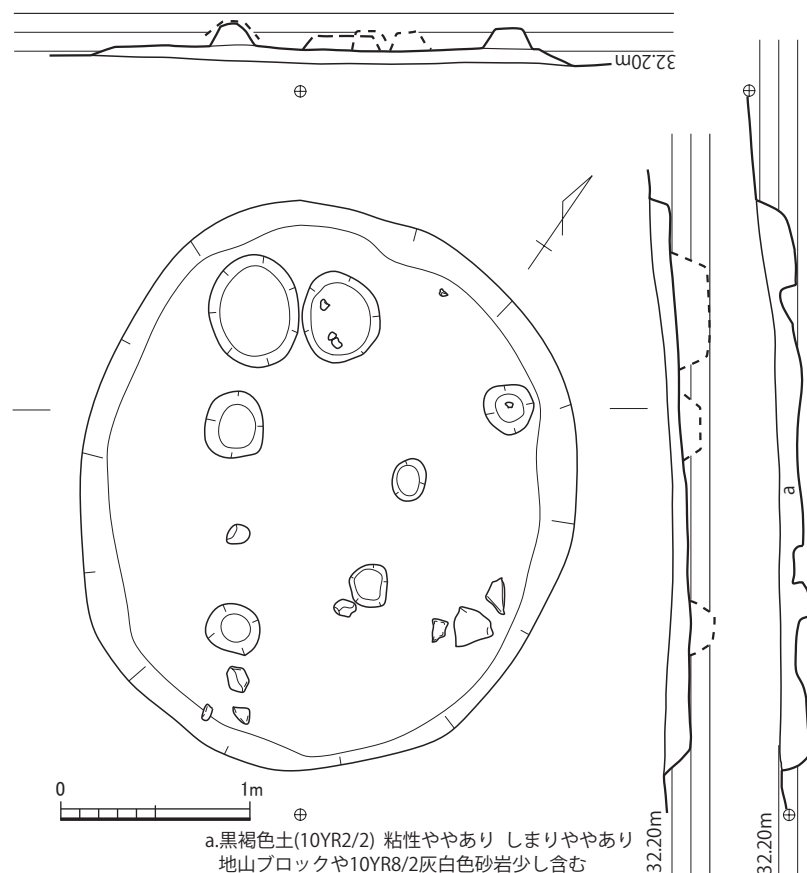
(1) 竪穴建物

ここでは縄文時代草創期か縄文時代早期の遺構であるのか、土器片が安定してでていないために時期の判断ができなかった遺構を報告するが、全体的な遺構分布の構成から所属時期を考えていきたい。いずれにしるⅡ層（アカホヤ）・Ⅲa層・Ⅲ層の下にあるⅣ層上面に掘り込まれた遺構であり、草創期中頃もしくは早期初頭頃の遺構であることは疑いない。ただし、後述するように北部と南部竪穴建物群に属するものは縄文時代草創期と考えている。

S077 調査区西部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では3E区の南東部分に位置する（第3図・第477図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の最も標高の高い地勢に南接する部分で、丁度南側に展開する扇形をした谷の谷頭にあたる。

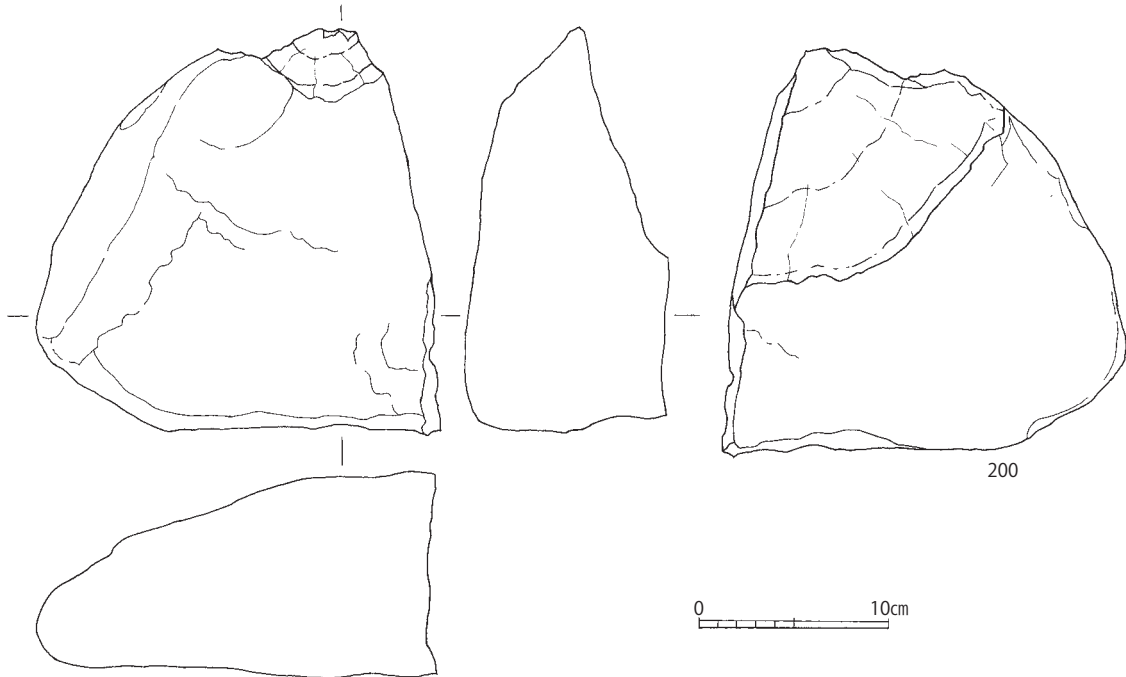
遺構は、南北方向が約300cm、東西方向が260cmの広がりをもつ比較的にきれいな形をした楕円形である（第41図）。壁の立ち上がりは、遺構断面図や土層堆積図を見てもわかるように西壁・東壁の立ち上がりに20°/25°近い緩やかな勾配のある壁もあるが、北壁・南壁の立ち上がりは70°/50°前後であり、明瞭な遺構ラインであった。遺構内には、緩やかな起伏がある他、はっきりした柱穴や土坑も観察された。西北部には直径が60cmと48cmの土坑が西北部に二個並んで位置するが、深さは20cm・10cmと浅い。その東方から南側にかけて5箇所の柱穴が検出された。それらの柱穴に整然とした並びはない。柱穴の深さは様々で、深い例で10cmから20cm程度の深さであり、突出した深さの例はない。また、遺構内施設であるのか、東壁近くに台石が据えられていた。遺構内の地層堆積は区分できるような違いはなく、一枚だけであった。

遺物 台石は、上記したように遺構の東壁際に据えられていた（第41図）。台石は、縦・横の長さが21cmと21.4cmであり、厚さは11cmの大きさを有する（第42図200）。右端の分厚い部分で割りとられた面がある。また表裏に大きく打ち割りを行った剥離面がある。表面にあきらかな使用痕はないが、これらの点は他の台石と変わることはない。

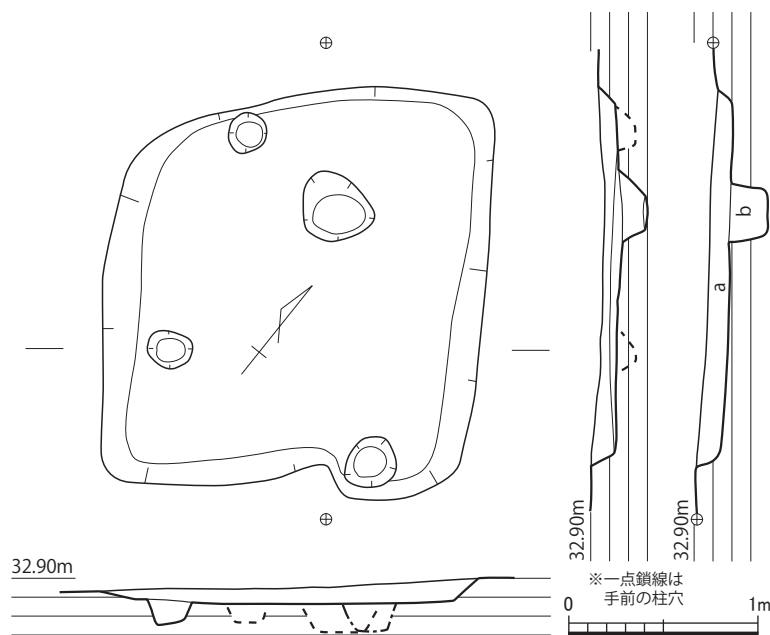


第41図 S077実測図(1/40)

S080 調査区西部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では3E区のほぼ中央部分に位置する(第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の最も標高の高い地勢に南接する部分で、丁度南側に展開する扇形をした谷の谷頭にあたる。S080の南東にS077が隣接する。遺構は、南北方向が約220cm、東西方向が200cmの広がりをもつが、やや歪むもののきれいな方形である(第43図)。壁の立ち上がりは、遺構断面図や土層堆積図を見てもわかるように西壁が緩やかな勾配の壁であるが、北壁・南壁・東壁の立ち上がりは45°/65°前後の明瞭な遺構ラインであった。なお、明瞭な部分での壁の立ち上がりの高さは12cm前後である。遺構内は、柱穴が3基、土坑が1基検出した。柱穴は東壁を除く壁沿いにあるが、その配置に規則性はない。



第42図 S077出土遺物実測図



a.黒褐色土(10YR2/2) しまりやや強く粘性は弱い 地山ブロックや砂礫をまばらに含む
 b.にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり強く粘性は弱い 地山ブロックや砂礫をまばらに含む

第43図 S080実測図(1/40)

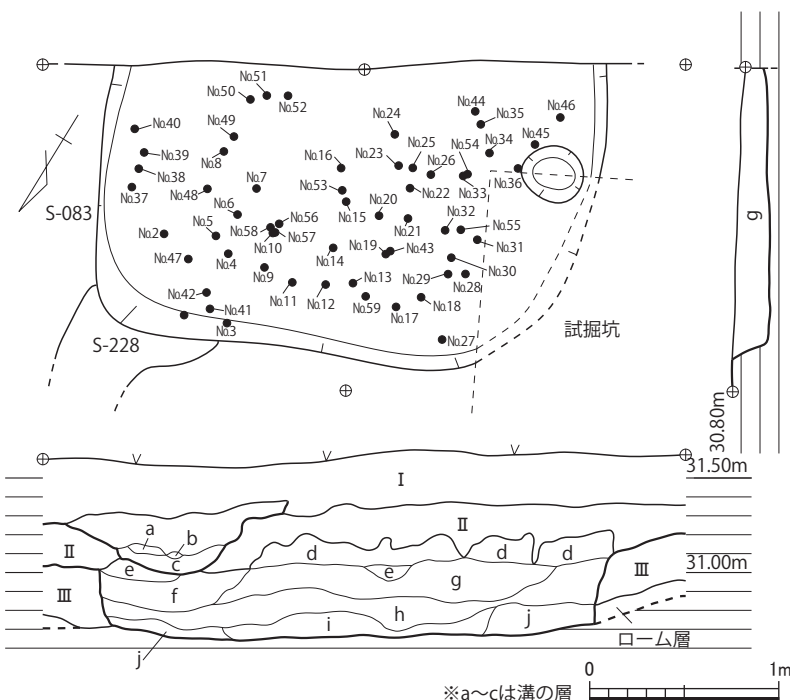
S083 調査区東部で第II次調査区の南西隅部にあり、区画では8G・8H区に跨るように位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の東端で、南側にある部分で、東側の低地を見下ろす場所にあたる。

遺構は、調査区の南側の壁ラインに接しており(第44図)、おそらく半分強程度が調査範囲にかかっていると思われる。現状で、南北方向が約160cm、東西方向が260cmである。遺構ラインは、やや内側にカーブしているものの、明らかに一辺を形成するように90°屈折しており、隅丸方形のプランを基本としたものであろう。また東壁・西壁の内側への緩やかなカーブは南壁方向に曲がりはじめていることがわかるが、カーブの頂点を中間点とすると残りは一辺の三分の一程度が残りの未掘部分である。そうすると南北が240cm、東西が260cmの隅丸方形の遺構と推定される。

遺構検出は、第IV層面であったが、遺構の南側壁面方向に延びていることもあって断面を精査したところ、遺構はII層(アカホヤ)直下からIII層とIV層の上面から深さ10cmまで掘りこまれていることがわかった。したがって、III層上面から遺構は掘り込まれており、床面までの深さは約40cm近くあった。西壁の中央の裾部に柱穴が一基あるが、他は観察されなかった。したがって、この竪穴は縄文時代早期後半に近い頃の遺構と推定できる(註)。床面は平らに整形されている。なおS228の北東部のコーナー付近にあって、北へ延びる煙道付炉穴がある。なお、S083は煙道付炉穴を切る関係にある。遺物は、覆土であるG層・H層・F層から出土したが、提示できる資料は多くない。

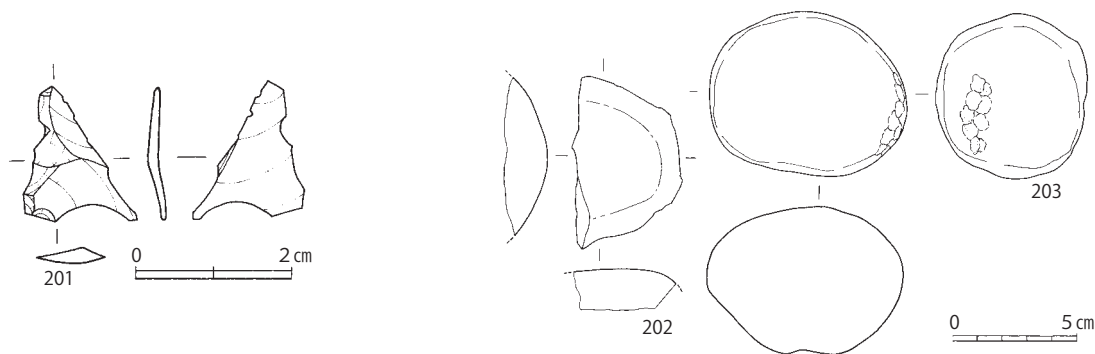
石器 石鏃の未成品と(第45図201)、敲石(203)、敲石の破損品(202)が出土している。敲石は、長さが7.8cm、幅6.3cm、厚さ5.7cm前後の大きさを有し、平面形が楕円形、端部の形は円形、側面形は楕円形という卵の形をしている。

註：森の木遺跡では、縄文時代早期後半から終末の手向山式土器・平椀式土器・塞ノ神式土器が出土している。



- ※a~cは溝の層
- a.(溝覆土)暗褐色シルト(10YR3/4) 粘性なし しまり弱い 植物質含む 遺物片をわずかに含む
 - b.(溝覆土)黒褐色土(10YR2/3) 粘性なし しまり弱い アカホヤを少し含む
 - c.(溝覆土)黒褐色土(10YR3/3) 粘性やや弱い しまりやや強い 混じり少ない
 - d.(覆土)暗褐色土(10YR3/4) 粘性やや弱い しまり弱い 遺物片をわずかに含む
 - e.(覆土)黒褐色土(10YR2/3) 粘性やや弱い しまり弱い 混じり少ない d層より粘性が強い
 - f.(覆土)黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性やや弱い しまり弱い 混じり少ない
 - g.(覆土)黒褐色土(7.5YR2/2) 粘性やや弱い しまり弱い 小礫をわずかに含む
 - h.(覆土)暗褐色土(10YR3/3) 粘性なし しまりややあり φ2~5cmの礫を少し含む
 - i.(覆土)暗褐色粘質土(10YR3/4) 粘性あり しまりややあり 混じり少ない
 - j.(覆土)暗褐色粘質土(10YR3/4) 粘性あり しまりなし 地山ブロックをわずかに含む 層よりシルト質

第44図 S083実測図(1/40)



第45図 S083出土遺物実測図

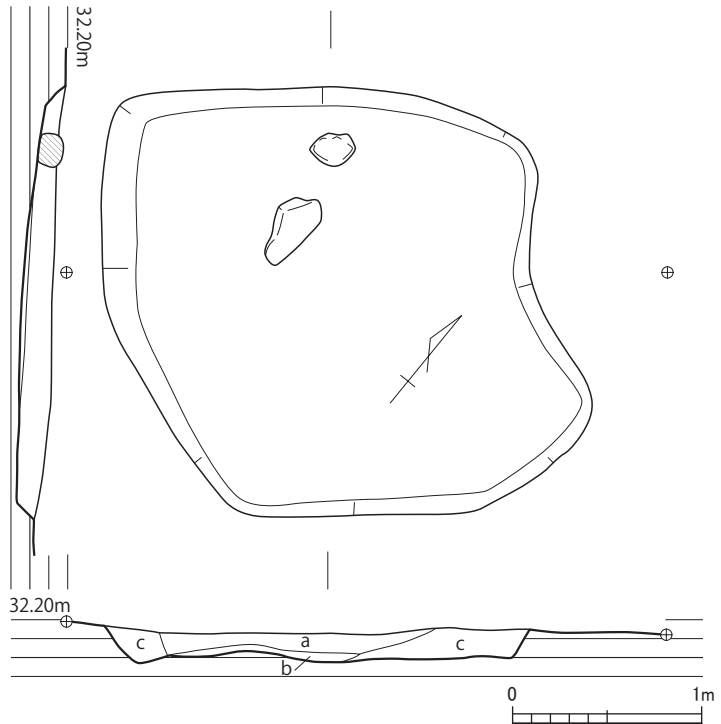
S108 調査区西部で第II次調査区にあり、区画では1G区の中央部分に位置する(第3図・第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の西側部分にあたる。地勢的には南側に展開する谷の斜面に占地している。遺構ラインが真北から西へ130°振れた一辺(標高の高い側)と、これに並行する一辺(標高の低い側)として直線的な部分があるので、方形を基本とした遺構といえる(第46図)。遺構は全体的に歪んでいるが、概ね約220cm×約230cmの規模である。壁の立ち上がりは10cm～16cmで、その勾配は45°～60°である。なお、遺構内には柱穴はない。

遺物 S108からは明確な遺物は出土していないが、台石と思われる礫が出土している。

S124 調査区の中央部域で第2次調査区の範囲にあり、区画では5F区に位置する(第477図)。この辺りは、I次調査区の南側に広がる谷地形の斜面部である(第3図)。遺構は、平面形が歪んでいるが、方形を基本とした隅丸方形である。遺構の規模は、南北280cm、210cmである。壁の立ち上がりは5cmから10cmで、勾配はやや急である。

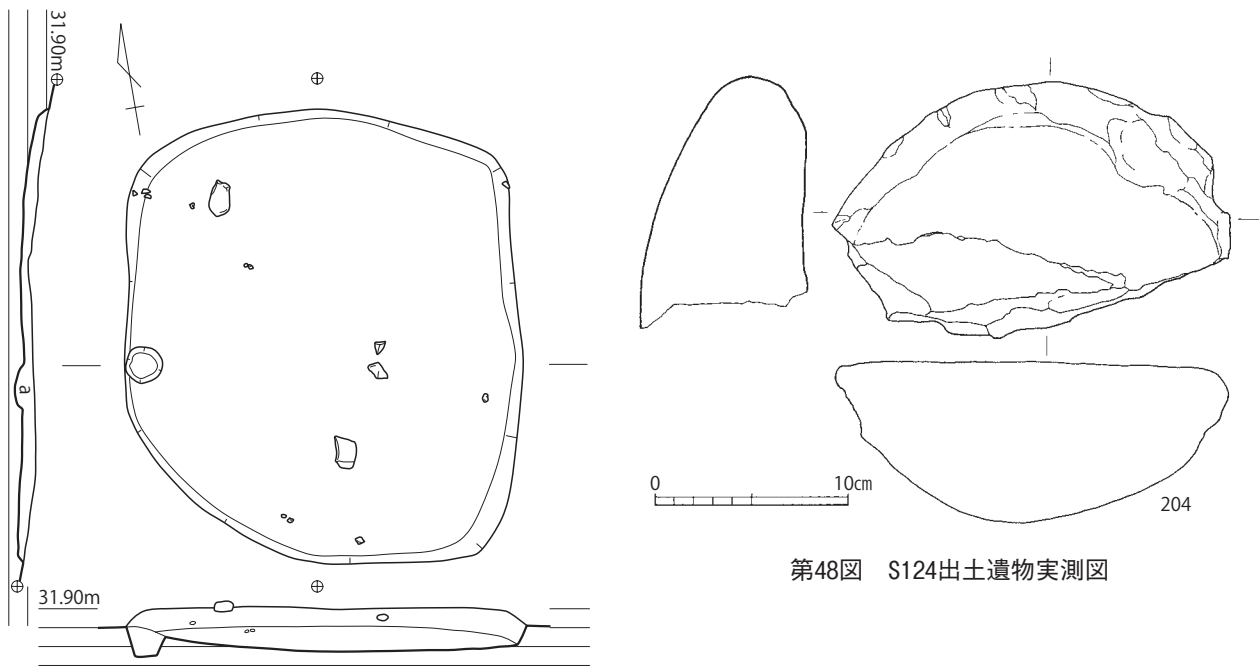
遺構内には、西壁付近に柱穴が1基ある。柱穴は深さが約12cmと浅い(第47図)。

遺物 S124からの遺物で提示できるものは台石だけである。台石の長幅厚は、20.8cm・13.5cm・8.5cmの大きさを有するが、打割によって下半が割れている。断面をみると、裏面が丸く、表面が平らな面となっており、この部分が作業面と推定される(第48図204)。



a.黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性やや弱い しまり強い 植物質を含む
 φ2～5cmの礫をわずかに含む
 b.黒褐色土(10YR3/4) 粘性やや弱い しまり弱い 植物質を含む
 c.暗褐色土(10YR3/4) 粘性やや弱い しまりやや強い 地山ブロックを少し含む

第46図 S108実測図(1/40)



a.黒褐色土(7.5YR3/4) 粘性やや弱い
 しまりやや弱い 地山ブロックを微量に含む

第47図 S124実測図(1/40)

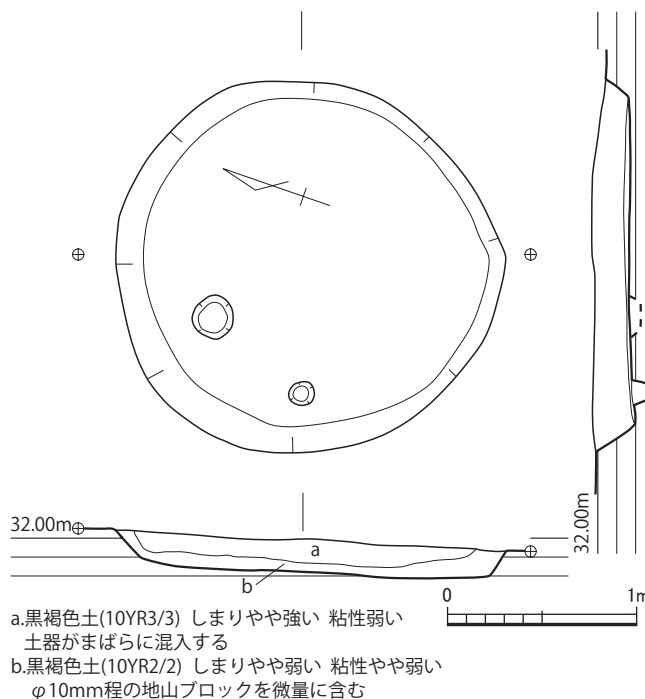
第48図 S124出土遺物実測図

S126 調査区中央部で第II次調査区にあり、区画では5F区と6F区の境界に位置する(第3図・第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の緩やかな傾斜地にあたる。遺構は、円形を基本とした明瞭な遺構ラインで(第49図)、概ね南北204cm・東西200cmという正円形に近い形と規模を有しており、IV層の上面で確認した。壁の立ち上がりは14cm~22cmで、その勾配は47°~58°である。なお、遺構内には2箇所に柱穴などがあるが、その位置は西側に偏っている。柱穴の深さは、7cmと12cmであり浅い。この柱穴の他に柱穴・土坑などはない。

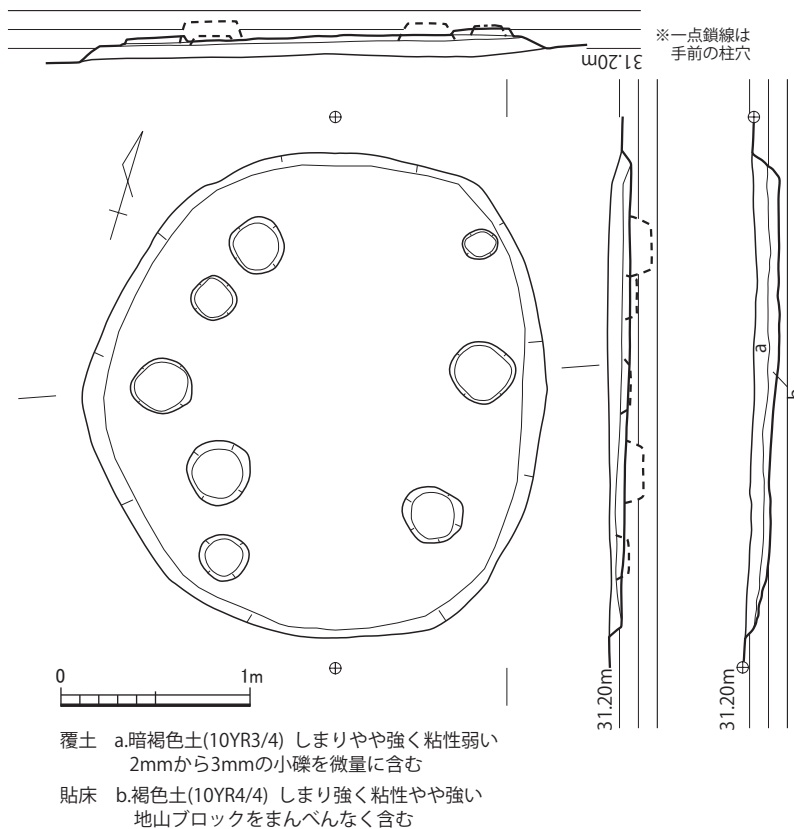
遺物 S126からは遺物は出土していない。

S133 調査区の西部で第II次調査区の範囲にある。区画では4G区5G区に位置する(第3図・第477図)。この辺りは、弧状に湾曲した谷地形の谷底部斜面になる。この遺構は、円形を基本とした明瞭な遺構ラインで(第50図)、概ね南北256cm・東西244cmという正円形に近い形と規模を有しており、IV層の上面で確認した。壁の立ち上がりは7cm~15cmで浅い。その勾配が急な部分もあるが、概ね緩やかで徐々に遺構検出面に移行している部分もある。遺構内には8基の柱穴があるが、その位置は西壁沿いに5基、東壁沿いに3基がある。概ね柱穴の径が大きい。柱穴の深さは、4cm~12cmであり浅い。特に浅い例は柱穴でない可能性もある。

遺物 S133からは遺物は出土していない。



第49図 S126実測図(1/40)

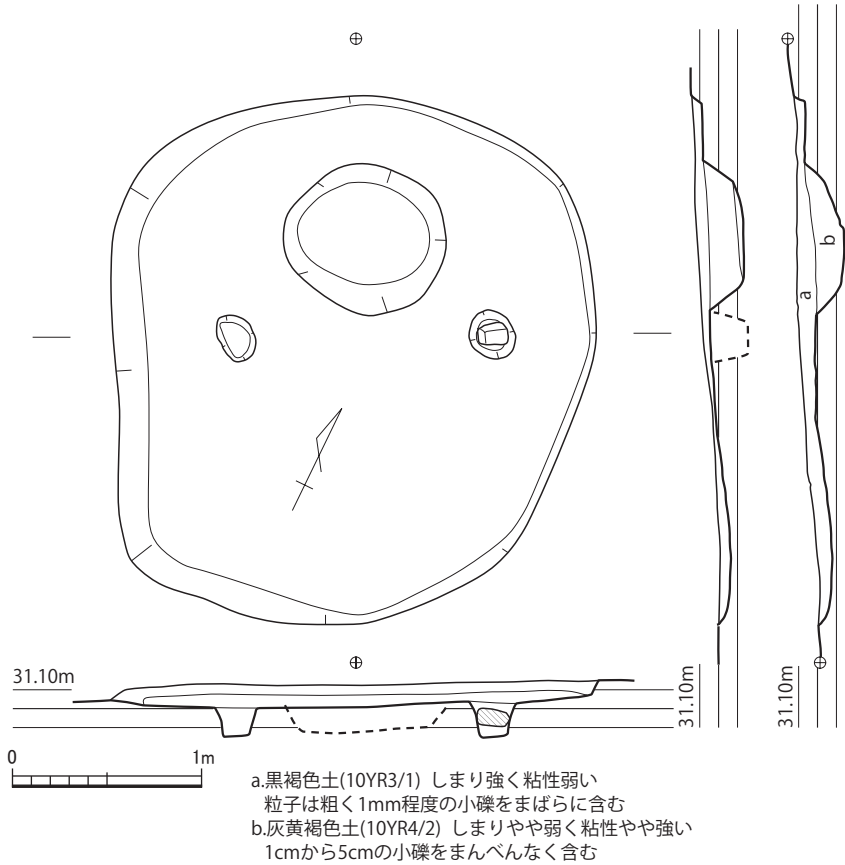


第50図 S133実測図(1/40)

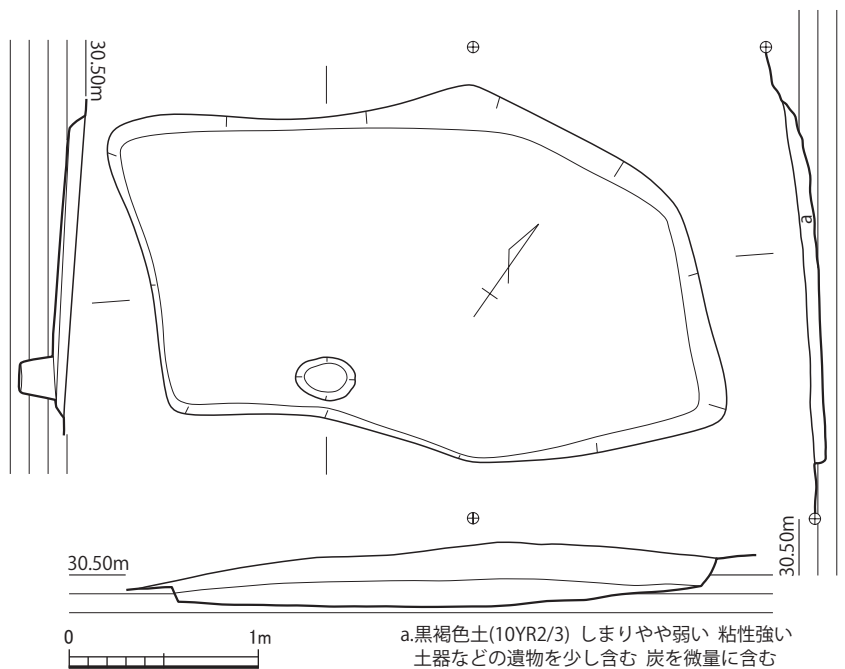
S134 調査区の西部で第2次調査区の範囲にある。区画では4G区に位置する(第3図)。この辺りは、弧状に湾曲した谷地形の谷底部斜面になる。この遺構は、円形を基本とした明瞭な遺構ラインで(第51図)、概ね南北280cm・東西258cmという規模を有しているが、その平面形を見る限り角部(隅部)の丸い方形を基本としたプランである。壁の立ち上がりは4cm~6cmで浅い。その勾配が急な部分もあるが、南壁は緩やかで、徐々に遺構検出面に移行している部分である。

遺構内には2基の柱穴があるが、その位置は南北方向に対し63°(117°)振れた遺構の中央部分に相対するように並んでいる。柱穴の深さは15cmと17cmで、後者には内部に石が入れられている。柱穴間は110cm空くが、柱穴と東壁・西壁の間は36cm・38cmであるなどほぼ等間隔である。遺構は、この相対する柱穴を挟んで北側と南側に二分される。柱穴の北側には、85cm×80cmの規模を有する楕円形の土坑がある。この土坑の深さは約20cmである。

S135 調査区の西部で第2次調査区の範囲に在る。区画では4G区と4H区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、弧状に湾曲した谷地形の谷底部底面になる。この遺構は、長方形を基本とした遺構ラインで(第52図)、北から東に51°(西に129°)長軸が振れた方位である。概ね長軸280cm・短軸200cmという規模を有し、深さは約8cm前後と浅い。地形の勾配もあり、遺構は谷頭に近い部分の標高が高く、谷底に近い部分の標高は低い。遺構内には、柱穴の窪みが谷底に近い部分の壁際に一基ある。柱穴状の窪みは、深さ17cmで、平面形は楕円形である。S135から出土した遺物はない。

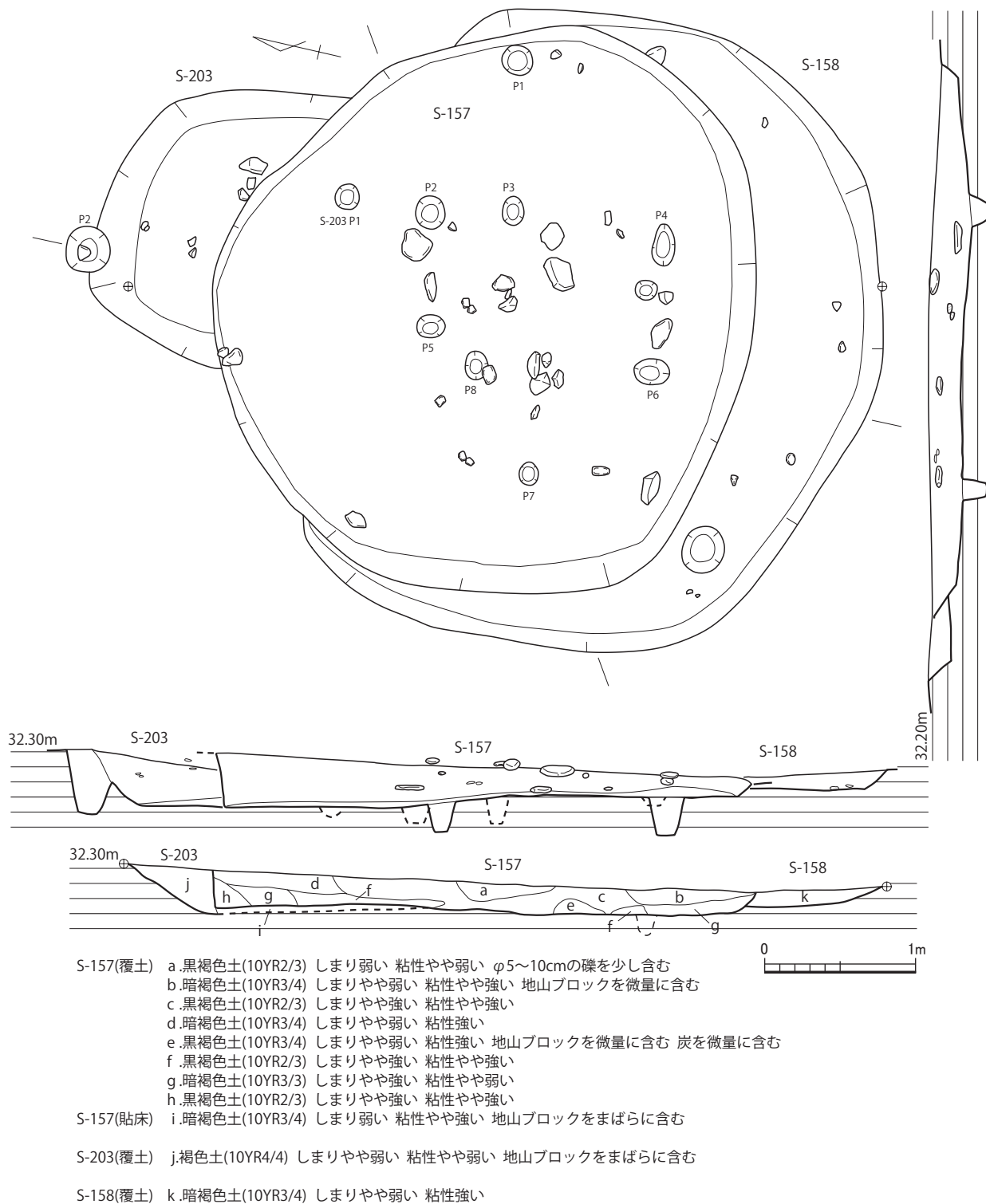


第51図 S134実測図(1/40)

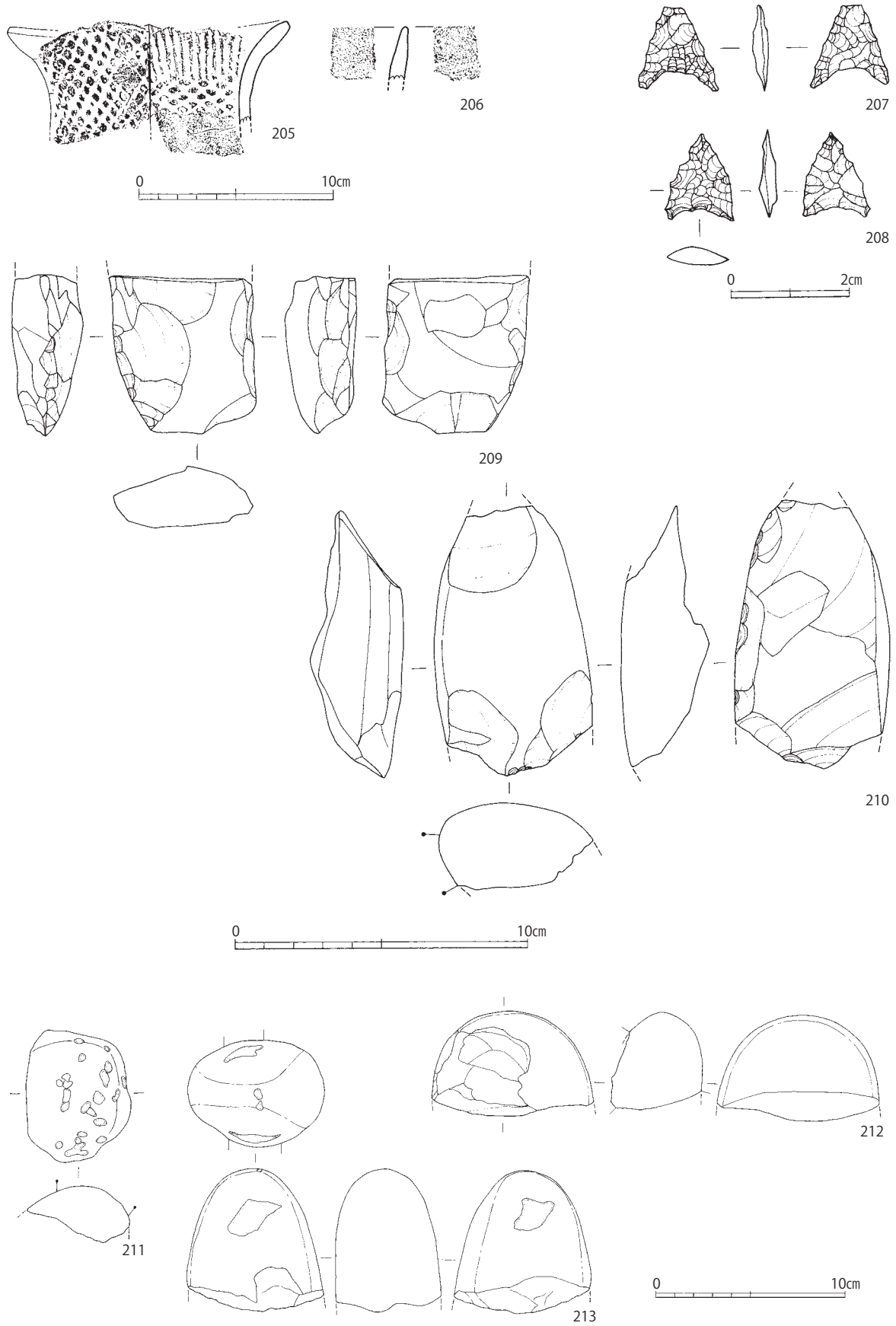


第52図 S135実測図(1/40)

S157 調査区中央部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では6E区に位置する(第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い地勢の脊梁部東端部に位置し、南方・北方・東方を臨む場所に位置する。この遺構は、埋没したS158・S203を再び掘り込み(第53図)、平面形が東西376cm・南北360cmの規模を有するやや歪な形をした円形をしている。壁の立ち上がりは37°と53°、傾斜の緩やかな部分と70°近い急な北壁部分があり、その高さは10cm～37cmある。遺構内には柱穴が10基ある。多くの柱穴は壁際ではなく、遺構内の内寄りにある。中央付近の東西に2基ずつ計4基の柱穴が対しながら配置され、それらの南側延長線上には3基が並んでいる。その他は、右列の延長線上に1基、東側の壁際に1基、西側



第53図 S157・S158・(S203土坑)実測図(1/40)



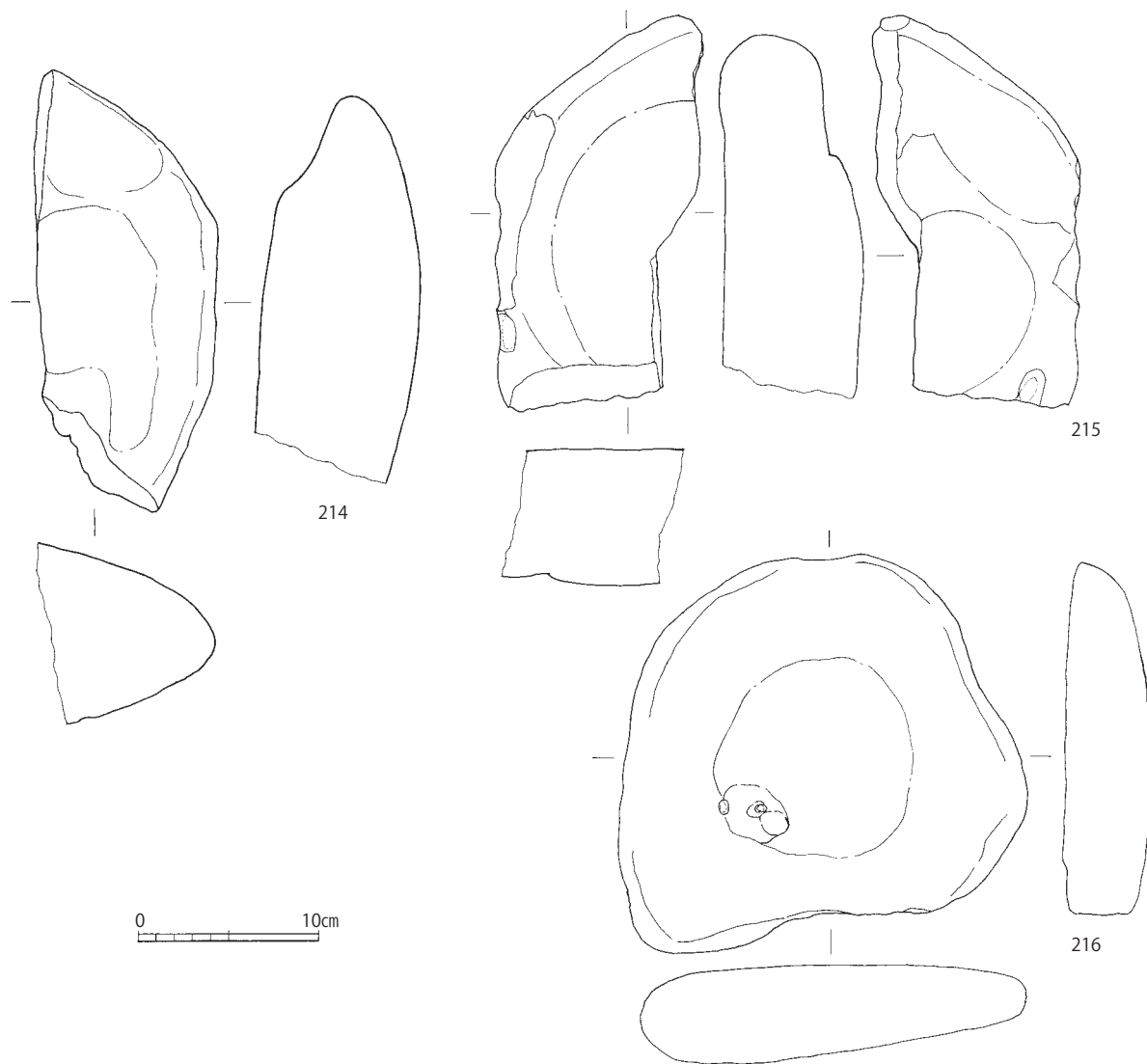
第54図 S157出土遺物実測図(1)

の壁との間に1基掘られている。柱穴の掘削深度は10 cm～26 cmの間にある。また、遺構内からは長軸部分で20 cm前後の大きさを有する大きな礫が上記の柱穴間を中心として分布している。これらは、遺構内での作業施設であった可能性が高い。

堆積層 S157の遺構内堆積は、10枚に区分できた。このうち最も下位にあるi層は整地した貼床である。

土器 押型文土器が1点と(第54図205)無文土器1点(第54図206)が出土している。押型文土器は、大きく外方に外反することに特徴があり、口縁がやや波状気味で、口径が10.45 cmの壺形土器である。また、内面にはナデ調整後に上部から下へ5.2 cm幅の横方向施文の楕円押型文があり、その上に口縁端部から下へ2 cmの短い柵状文を施している。一方、外面は幅4 cm前後の原体を縦に回転させて施文した縦方向楕円押型文がみられる。押型文土器は、混入と考えている。無文土器は、内外面をナデ調整しただけの土器で、端部が尖る。

石器 石鏃が2点出土している。一例は、両側が直線的で(第54図207)、もう一例は、両側が弧状に張るもので(208)、両例とも基部のえぐりが弧状をなす。石斧は、2点出土している。いずれも横断面が長楕円形の自然礫を使用しているとみられ、礫面が残る。礫面は、磨製石斧と同様な効果を想定したうえで残存の可能性もあるが、全体的にあまりに粗い剥離度であり、成品前の破損で破棄されたのだらう(209・210)。敲石・磨石は、3点出土している。一例は、著しい敲打によって剥離痕状に破損したと思われる、表面に楕円形をした粒状の打痕が生じている(211)。他の二例は、楕円形の川原石が使用の為か、半分に分れている(212・213)。台石とみられるのは3点出土している。うち2点は、片面に磨滅痕があるが、その後、分割されている(214・215)。もう1点は破損しておらず、230 cm×200 cm×5 cmの大きさを有するやや扁平で楕円形である(216)。



第55図 S157出土遺物実測図(2)

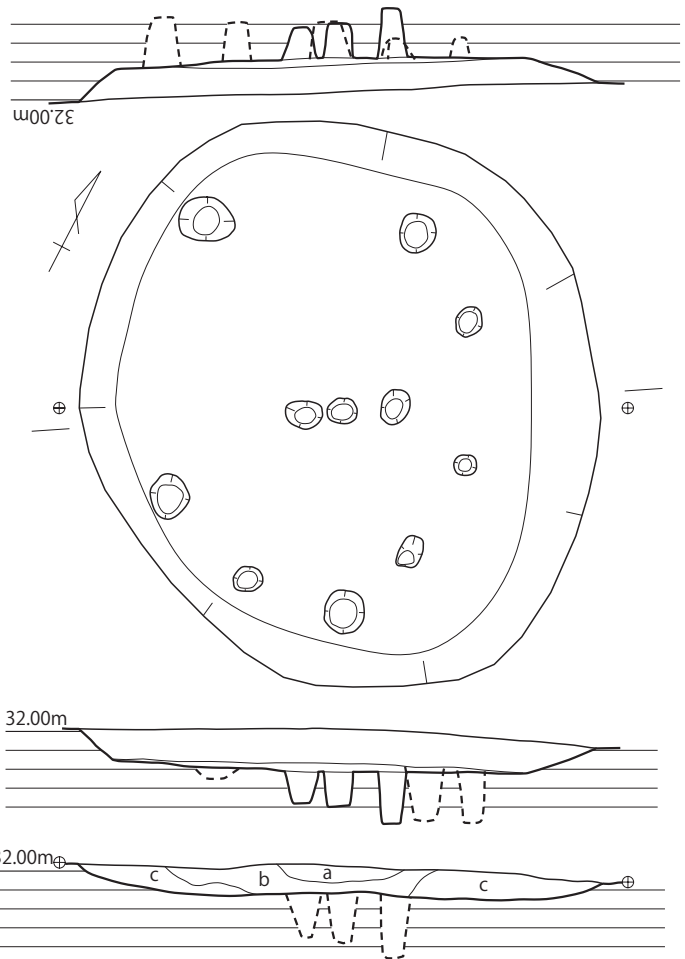
S158 調査区中央部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では6E区に位置する(第3図・第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い地勢の脊梁地形の東部に位置し、南方・北方・東方を臨む場所に位置する。

この遺構は、S157に大きく三日月形に切られている。遺構は、平面形が東西424cm・南北370cm(推定)の規模を有するやや歪な形をした楕円形をしている(第53図)。壁の立ち上がりは、曲率半径が極めて大きいゆるやかな傾斜勾配である、その高さは約10cm程度である。そのため、本来の深さであれば、もう少し外側に広がるものと思われる。遺構が大きくS157に切られているため、遺構内の全容は分からないが、南西の壁付近に柱穴が1基ある。

石器 凹基式の石鏃が1点出土している(第56図217)。石鏃の表面側右脚部を欠損しているが、曲率半径の大きいえぐりであり、急角度のえぐりではない。なお石鏃の器面調整は押圧剥離である。他に、敲石・磨石が出土している(218)。この遺構の平面形は、楕円形で、9.2cm×7.4cm×3.7cmの大きさを有している。表裏両面と側面に打痕、また表裏片面に摩滅痕が観察される。遺構内には、若干の礫があるが、明確な台石等はない。遺構の規模にしては遺物の数量が少ないが、これはS157に切られているためであり、本来の組成・数量を表していない。

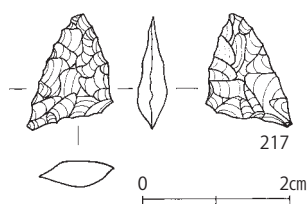
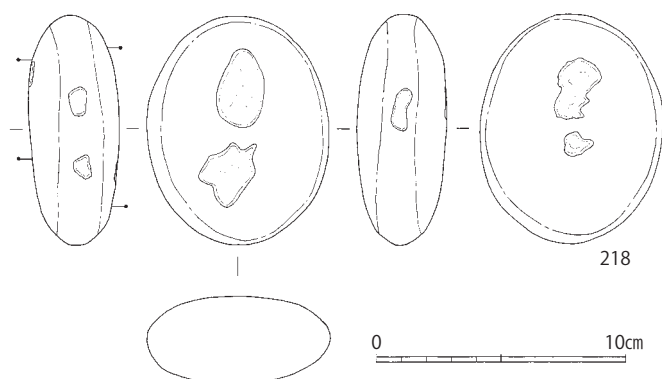
S159 調査区中央部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では6E区と7E区にまたがるように位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い地勢の脊梁地形から扇形に広がった中央部に位置し、南方・北方・東方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構は、平面形が長軸316cm・短軸275cmの規模を有する楕円形をしている(第57図)。壁の立ち上がりは、曲率半径が極めて大きいゆるやかな傾斜勾配(約20°)であり、その高さは約16cm程度である。そのため、本来の深さであれば、もう少し外側に広がるものと思われる。遺構内には柱穴が11基ある。その配置は、大小の柱穴8基が遺構内の壁よりに分布し、そして中央部に3基の柱穴が並列している。柱穴の深さは、6~27cmで、掘りは深く明瞭である。柱穴は、北部・西部でその間が大きく開いており、いずれかが入口であった可能性を有している。

土器 楕円押型文土器が1点出土している(第58図219)。内面に口縁端部から垂直方向の短い柵状文



a.暗褐色土(10YR3/4) しまりやや強い 粘性やや強い
 b.灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや弱い 粘性やや弱い
 地山ブロックをまばらに含む 土器などの遺物を少し含む
 c.暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性強い 地山ブロックを微量に含む

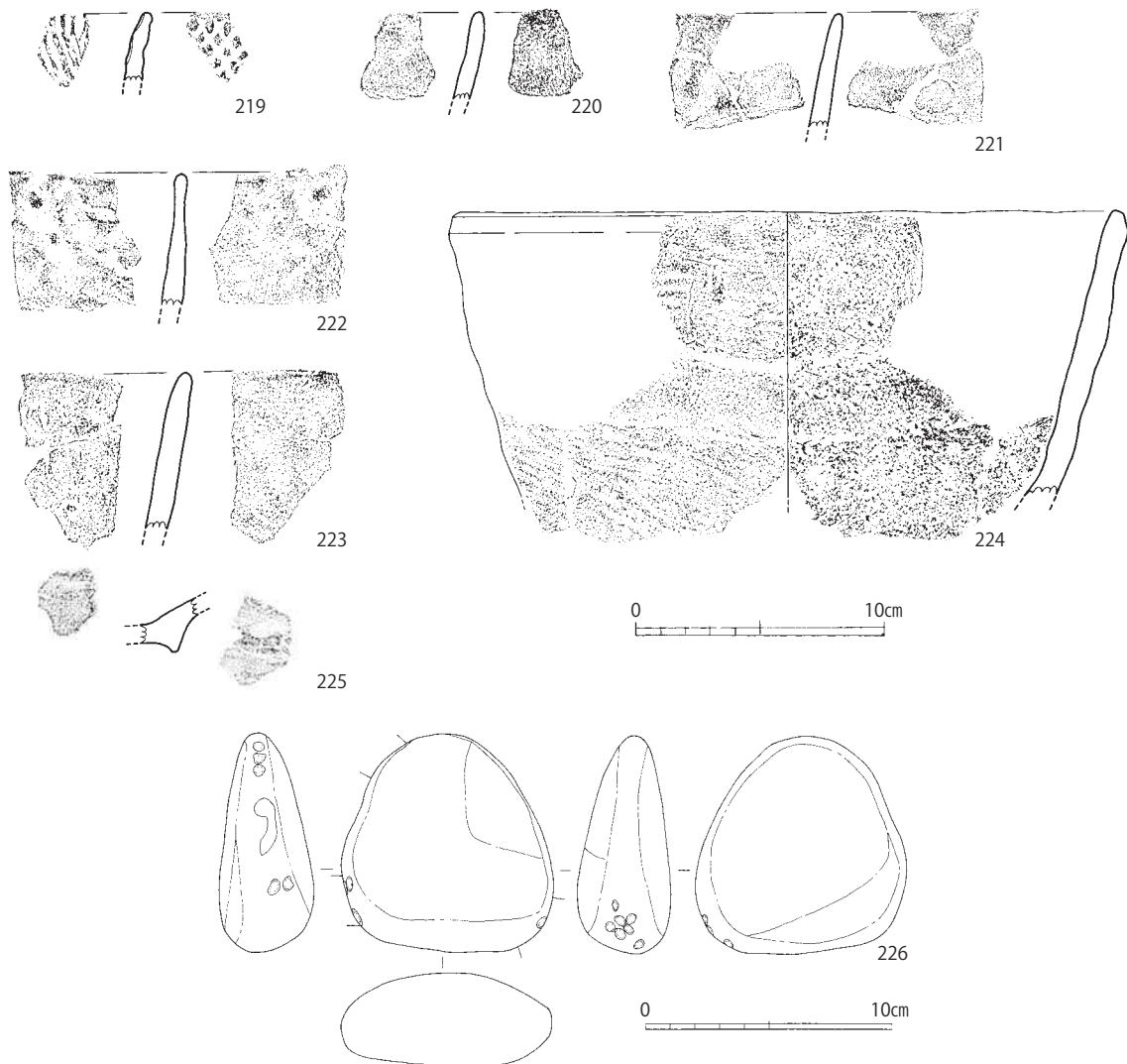
第57図 S159実測図(1/40)



第56図 S158出土遺物実測図

を施し、その後、斜行する柵状文を施す（二段柵状文）。外面側には、横方向の楕円押型文を施しており、田村式土器に包括されるものであろう。押型文土器は小片であることと、その出土レベルから混入と考えている。無文土器の口縁部破片は、5点出土している。いずれもナデ調整のみで、文様等はない。これらの無文土器は、器壁の大きさによりA/Bの2群に区分できる。Aは、土器の厚さが1cm以下の例で、口縁端部が細い例（第58図220～222）である。Bは、土器の厚さが1cm以上の例である（223・224）。Bの中に、口径復元できる例があり、22.3cmであった（224）。この例は、内外面の上から下へ6cmと9cmのところとに接合痕がみられる。さらにその下の破損面は概ね水平であることから接合面であったと推定すると、上から6cm・3cm・4cmの粘土帯が想定できる。また土器の胴部器面をみると、斜方向にナデ調整している様子がうかがえる（224）。破損面が水平である土器はAにもあり（222）、5.2cm前後の粘土帯が想定できる。無文部の破片として、底部がある。この土器の底部は、平底で、高台状の部分があり、上げ底状になっている。これまでの事例からすれば、縄文時代早期初頭において平底が出土した例はなく、縄文時代草創期の遺跡から出土している。また、無文土器も縄文時代早期前半には類例が少ないものである。したがって小さな押型文土器は混入で、平底の土器と無文土器は縄文時代草創期に遡行すると考えられる。

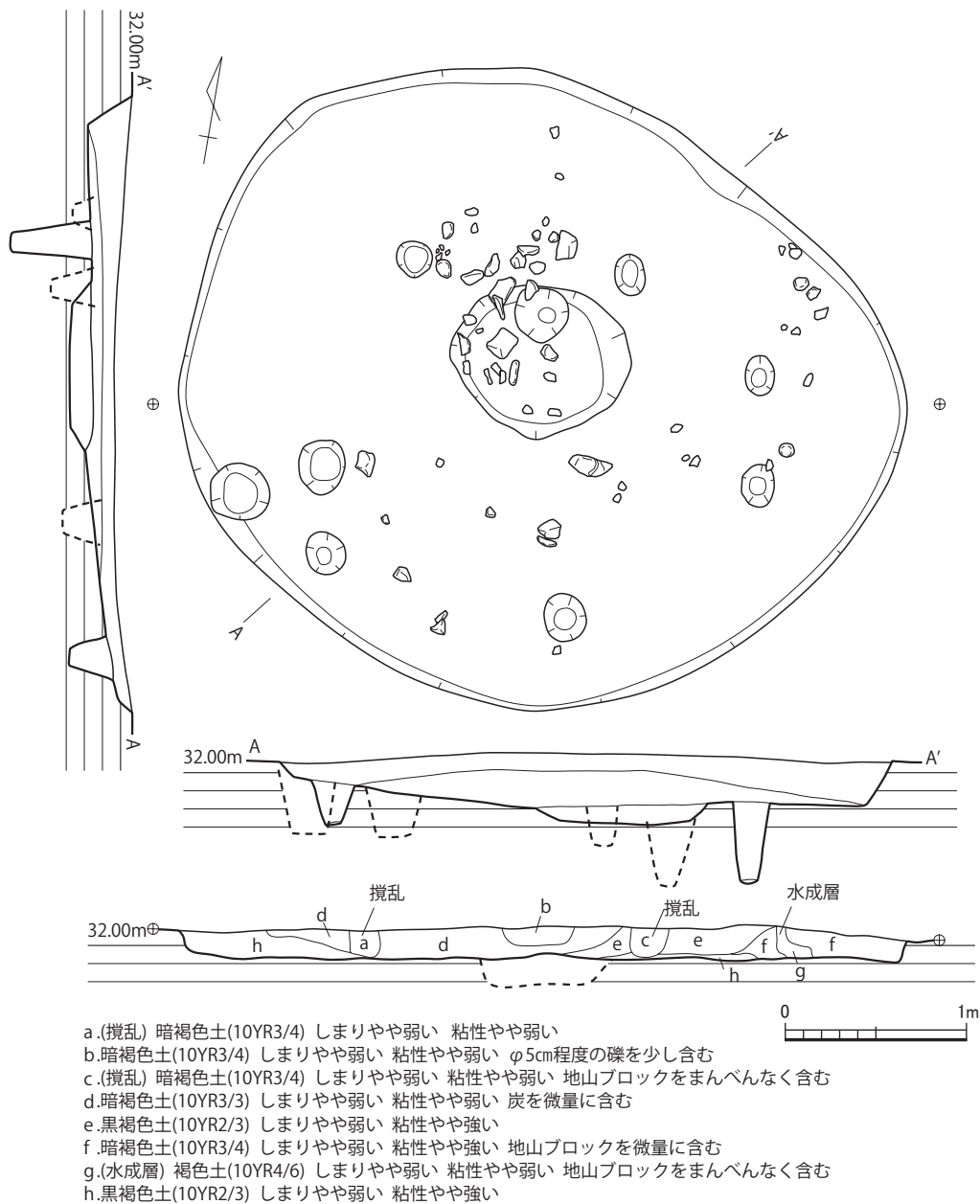
石器 石器として挙げうるのは敲石1点だけである。その大きさは、8.5cm×8.8cm×4cm（厚さ）の規模を有する平面形が隅丸三角形である。使用痕は、左側と右側下端に打痕が生じている（第58図226）。



第58図 S159出土遺物実測図

S160 調査区中央部で第II次調査区にあり、区画では6E区と6F区にまたがるように位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い地勢である脊梁地形の東部に位置する。また南方・北方・東方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構は、平面形が長軸394cm・短軸336cmの規模を有する楕円形をしている。長軸の真北からの傾きは66°(114°)である。壁の立ち上がりは、50°~60°の傾斜で、その高さは約8cmから25cm程度である(第59図)。高さが8cmの部分は遺構の南壁で、この点は遺構の中央付近から徐々に比高を上げていく傾斜面になっていることと関係する。遺構内には柱穴が9基と円形の皿状の土坑がある。皿状の土坑は、僅かに北よりの長軸線上の中央に位置し、94cm×87cmの規模を有する。床面から土坑底部までの深さは、12cmである。内部に著しい炭化物や焼土はない。柱穴の多くは、遺構の壁から30cm以上離れて構築され、中央の土坑を囲むように位置する。柱穴の深さは、15cmから46cmまでの間にあるが、その大半は22cm以上の深さを有するなど、明確なピットとなっている。

土器 無文土器の口縁部破片は、1点出土している。いずれもナデ調整のみで、文様等はない(第60図227)。この無文土器は、厚さが1.1cmあり、やや厚めの部類に入る。土器は1点だけなので、S160の土器の実態は不明である。

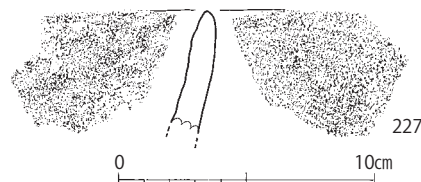


第59図 S160実測図(1/40)

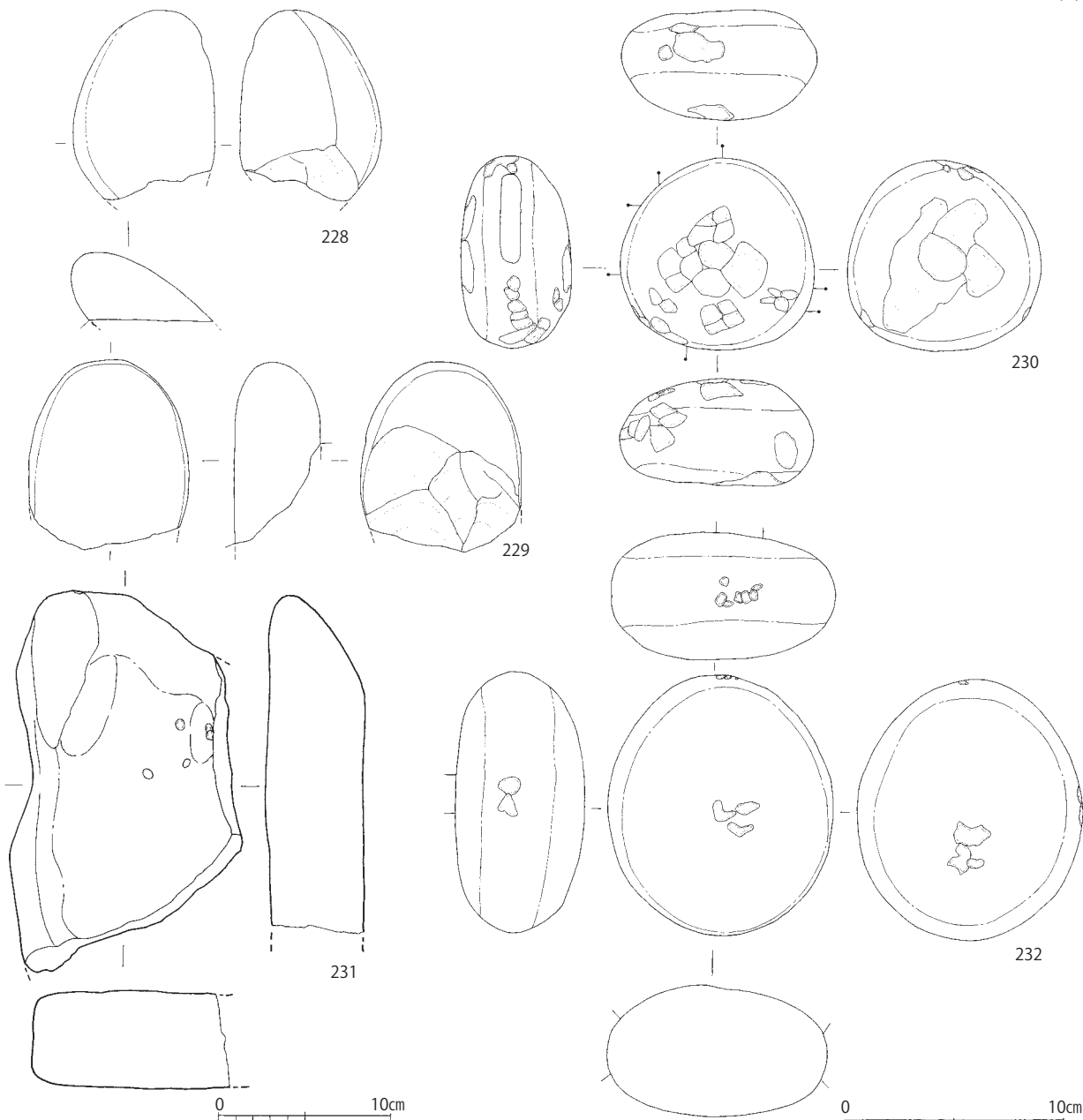
石器 石器として挙げうるのは、敲石・磨石と台石の5点である。敲石・磨石は円形もしくは楕円形をしており、前者には著しい打痕と磨滅痕がみられ(230)、後者には僅かな打痕が表裏と縁部に打痕がみられるほか著しい磨滅が表裏にある(232)。この他、破損した敲石・磨石が2点あるが(228・229)、後者は打撃によって剥離痕が生じている。台石の大きさは、長軸(破損)17cm×短軸13cm×厚さ4.2cmの規模を有し、平面形が細長い。使用痕は、表面に打痕が生じている(231)。

S162 調査区中央部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では7F区と8F区にまたがるように位置する(第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い地勢の脊梁地形の東南部に位置し、南方・北方・東方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構は、平面形が直径380cmを有する円形をしている(第62図)。壁の立ち上がりは、50°～60°の傾斜で、その高さは約8cmから25cm程度である。遺構内に柱穴が10基あり、そのうち6基が壁より井然とした六角形状の配置をしている。柱穴の深さは30cmから20cmの例が多い。S162の覆土が堆積後、中央を東西方向に炉穴(S221)が掘りこまれる。

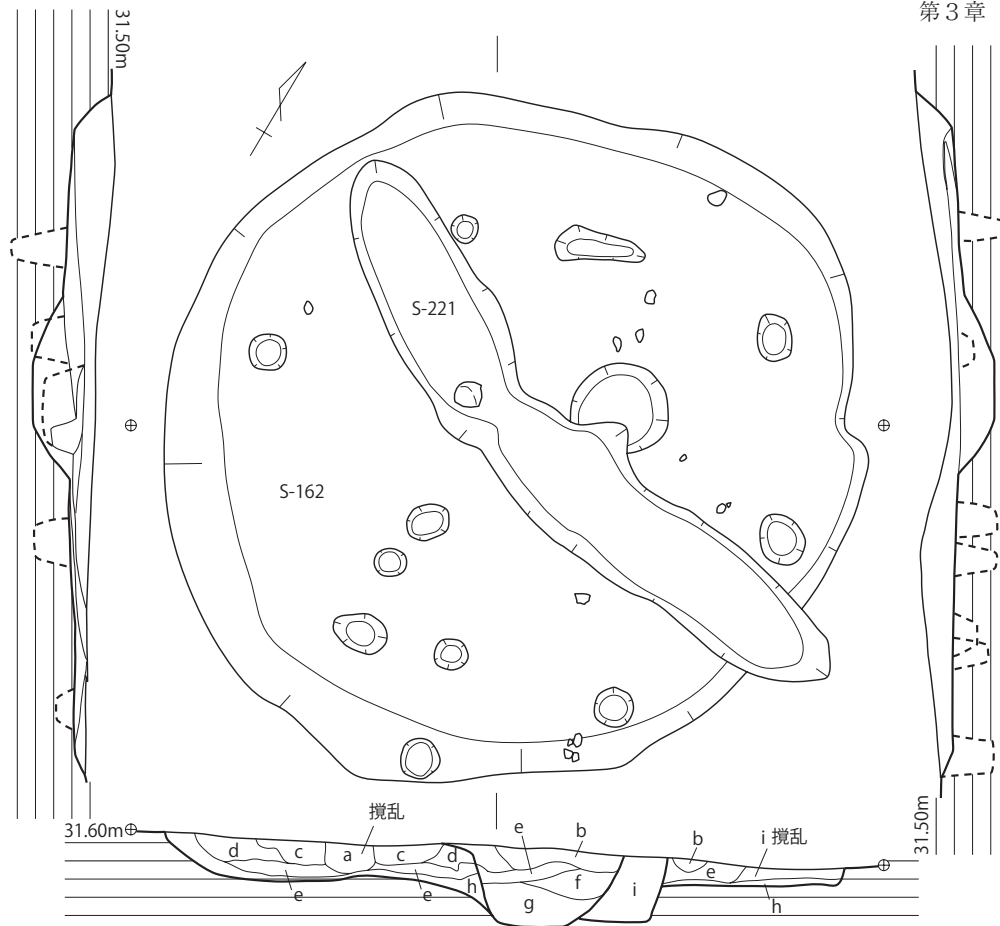
堆積層 h層はローム質土の粒が多いことから整地層で、上面は貼床面である。



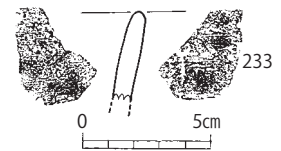
第60図 S160出土遺物実測図(1)



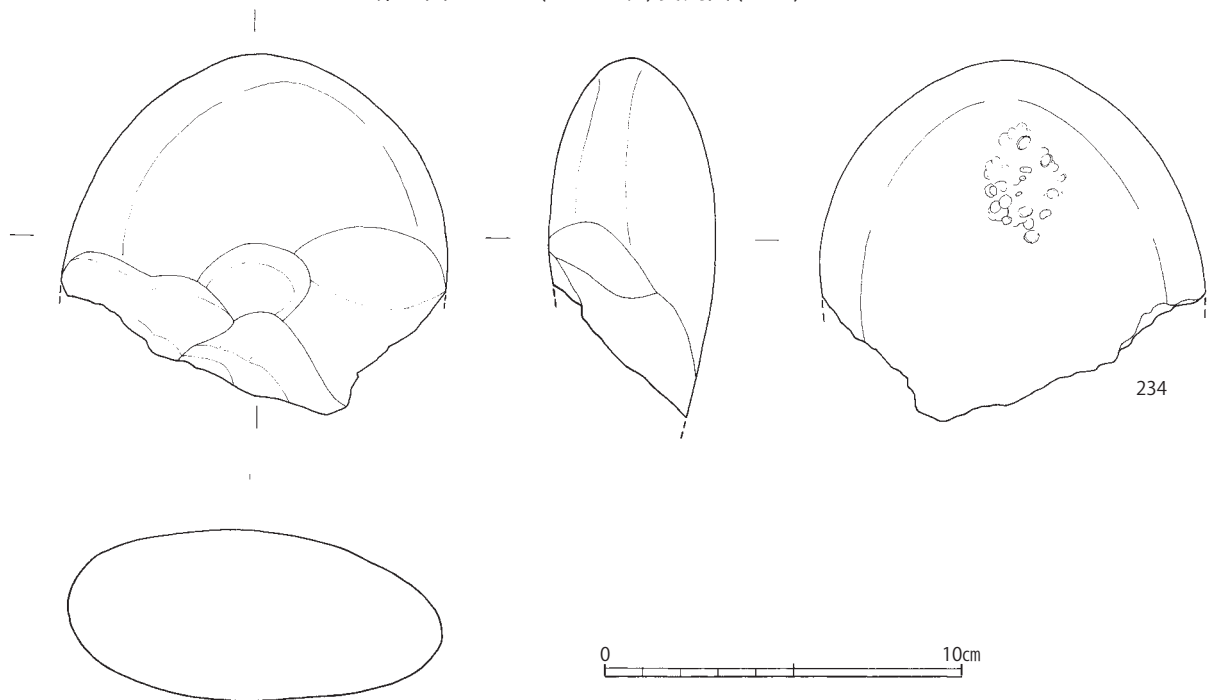
第61図 S160出土遺物実測図(2)



- a. (攪乱) 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性やや弱い
- b. 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや強い 粘性やや弱い 焼土ブロックを微量に含む
- c. 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性やや弱い 砂岩ブロックを微量に含む
- d. 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや弱い 粘性やや弱い 地山ブロックを微量に含む
- e. 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性やや強い 地山ブロックを微量に含む
- f. 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性やや強い 炭を微量に含む
- g. 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性やや強い
- h. 褐色土(10YR4/4) しまりやや強い 粘性強い 地山ブロックをまんべんなく含む
- i. (攪乱) 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性やや強い 地山ブロックをまんべんなく含む 焼土ブロックを微量に含む



第62図 S162・(S221土坑)実測図(1/40)



第63図 S162出土遺物実測図

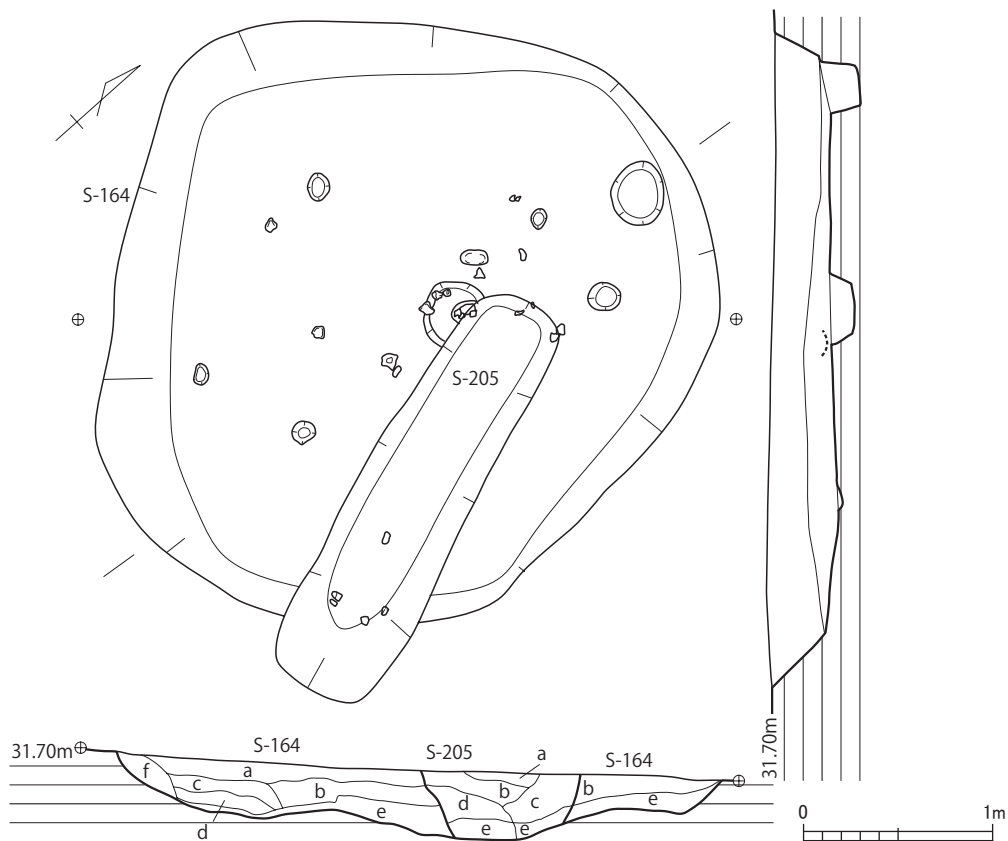
土器 S162からは、土器が1点出土している。表裏両面にをナデ調整しただけの無文土器である（第63図233）。

石器 石器は、敲石・礫器というべきもので、裏面に敲打痕、表面には裏面側からの加撃による剝離痕が生じており、礫器としての刃部作出と考えられる（第63図234）。

S164 調査区中央部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では7E区に位置する（第3図・第478図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い地勢の脊梁地形の東南部に位置し、南方・北方・東方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構の平面形は隅丸の五角形で、長軸350cm・短軸324cmの規模を有している（第64図）。壁の立ち上がりは、40°～64°の傾斜で、そのうち勾配の急な部分は北壁である。曲率半径が極めて大きい部分が西壁で、徐々に立ち上がっており、床面と壁の境界は明確ではない。壁の高さは、その高さは約16cmから30cm程度である。

遺構内には、柱穴が2基あり、その分布は遺構の中央部分と、北壁沿いにある。柱穴の深さは、11cmと16cmである。この他、径16cmから7cm、深さが5cm前後の浅い穴が6基あり散在している。深さが浅い為、柱穴であるかどうか明確ではない。なお、S164に覆土が形成された後、中央から南西にかけて煙道付炉穴1基（S205・S224）が掘りこまれている。

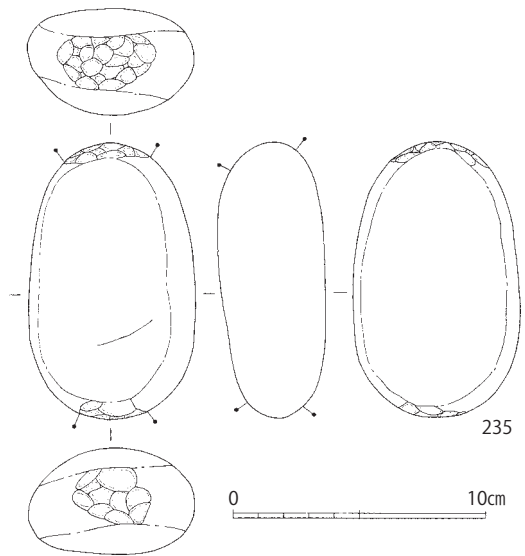
石器 S164からは提示できる資料少なく、敲石が1点出土しているだけである（第65図235）。敲石は、一方の端部よりがやや太い長楕円形の棒状礫を用いている。敲石は、長さ11cm、厚さ6.5cmの大きさで、端部に打痕が見られる。



- S-164(覆土)
- a. 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性やや強い 5mm程度の砂岩ブロックを微量に含む
 - b. 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性やや強い 地山ブロックを微量に含む 土器などの遺物を少し含む
 - c. 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性やや強い 地山ブロックを微量に含む
 - d. 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性強い 地山ブロックを微量に含む
 - e. 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや弱い 粘性強い 地山ブロックをまばらに含む
 - f. (壁崩落土)暗褐色土(10YR3/4) しまりやや強い 粘性やや強い 地山ブロックを微妙に含む
 - g. (壁崩落土)褐色土(10YR4/4) しまりやや弱い 粘性やや強い 地山ブロックをまんべんなく含む
- S-205(覆土)
- a. 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや強い 粘性強い
 - b. 暗褐色土(10YR3/3) しまり弱い 粘性やや弱い 地山ブロックを微量に含む
 - c. 黒褐色土(10YR2/3) しまり弱い 粘性やや弱い φ2～5cmの礫をわずかに含む
 - d. 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや弱い 粘性強い φ2mmから1cmの地山ブロックを微量に含む
 - e. 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性強い 地山ブロックをまばらに含む

第64図 S164・(S205土坑)実測図(1/40)

S172 調査区中央部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では6F区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南縁部に位置するが、最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構の平面形は隅丸の多角形である(第64図)。短軸は約335cmであるが、長軸は南壁を消失しており、明確ではない。そこで遺構の南壁の位置については、図示したように推定線Aと推定線Bとして復元した。推定線Aとすれば長軸は410cmとなり、遺構にかかわる柱穴は14基が含まれる。推定線Bの場合であれば、360cmの規模となり、柱穴11基が含まれることになる。壁の立ち上がりの残存が悪く5cmから10cmの厚さしかなく明確ではないが、僅かに傾斜している様子が窺える。柱穴の配置は、推定Aの範囲に含まれる柱穴の分布をみると、中央の遺構内土坑を取り巻くように分布しているが、推定線Bの場合は、南側部分で密集することになる。なお中央部の土坑は、底部が色が赤化しており、S164に伴うものとすれば屋内炉となる。

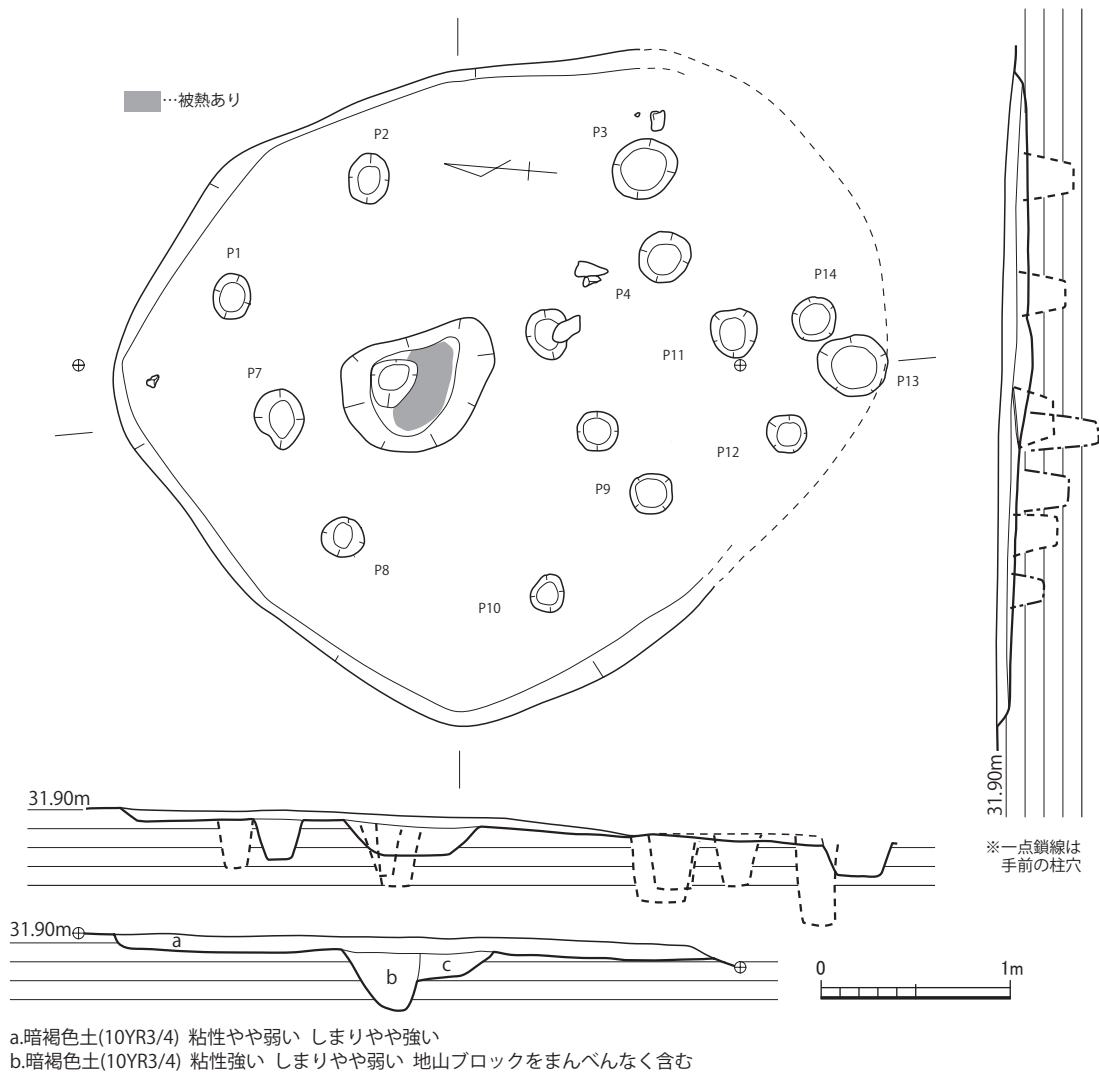


第65図 S164出土遺物実測図

土器 ナデ調整無文土器の口縁部破片が1点出土している(236)。

石器 細石刃が1点出土している(237)。腰岳・牟田系黒曜岩を石材としており、5E区で出土した細石刃核の存在から縄文時代草創期前半の楔形細石刃核に関連するものと推定する。

土器は無文土器であるが、縄文時代草創期に属する可能性を否定出来ない。なお、細石刃は共伴しない可能性が高い。



第66図 S172実測図(1/40)

a.暗褐色土(10YR3/4) 粘性やや弱い しまりやや強い
 b.暗褐色土(10YR3/4) 粘性強い しまりやや弱い 地山ブロックをまんべんなく含む

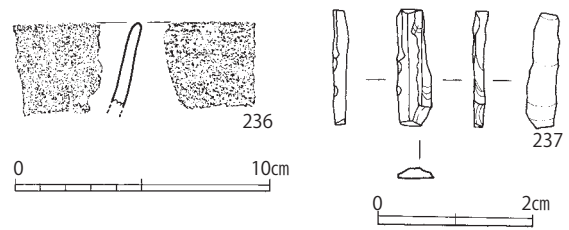
S186 調査区中央部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では7E区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の東南部に位置する。また南方・北方・東方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構の平面形は半円形の北東部分と逆三角形部分が接合したかのような歪な形をしている(第69図)。南北の壁が別の遺構に切られているので明確でないが、ほぼ長軸370cm・短軸約270cmの規模を有している。壁の立ち上がりは、31前後°の傾斜で、高さは10cm前後である。遺構内の柱穴は7基あるが、規則性に欠ける分布である。

土器 ナデ調整無文土器の口縁部破片が1点出土している(第68図238)。

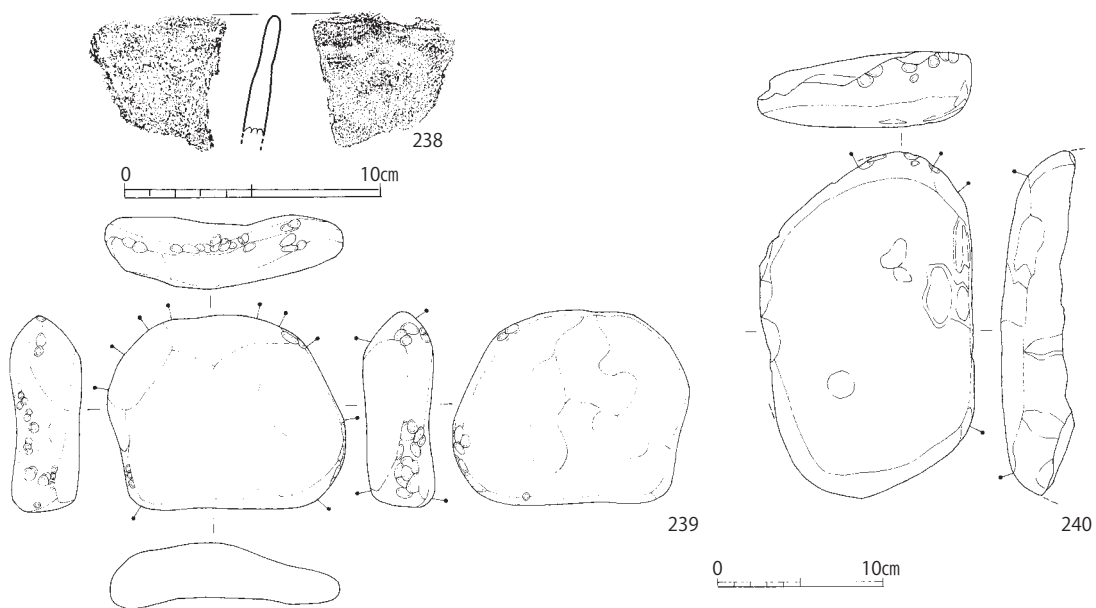
石器 敲石が2点出土している。いずれも縁部に打痕がある(239・240)。なお打痕や磨滅などの使用痕は明瞭ではないが、台石状の大きな石が数個存在していた。本来、遺構周辺の自然層に存在しない石であり、明らかに縄文人によって持ち込まれたものである。

S187 調査区中央部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では7E区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い地勢の脊梁地形の東南部に位置し、南方・北方・東方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構の平面形は楕円形をしており、S186に切られ、S168を切る関係にある(第69図)。遺構は、長軸300cm・短軸約240cmの規模を有しているが、北壁から西壁にかけて風倒木で破壊されており、明確ではない。壁の立ち上がりは、30°から40°の傾斜で、高さは20cm前後である。遺構内の柱穴は7基あるが、規則性に欠ける分布で、その深さは17cmから33cmである。

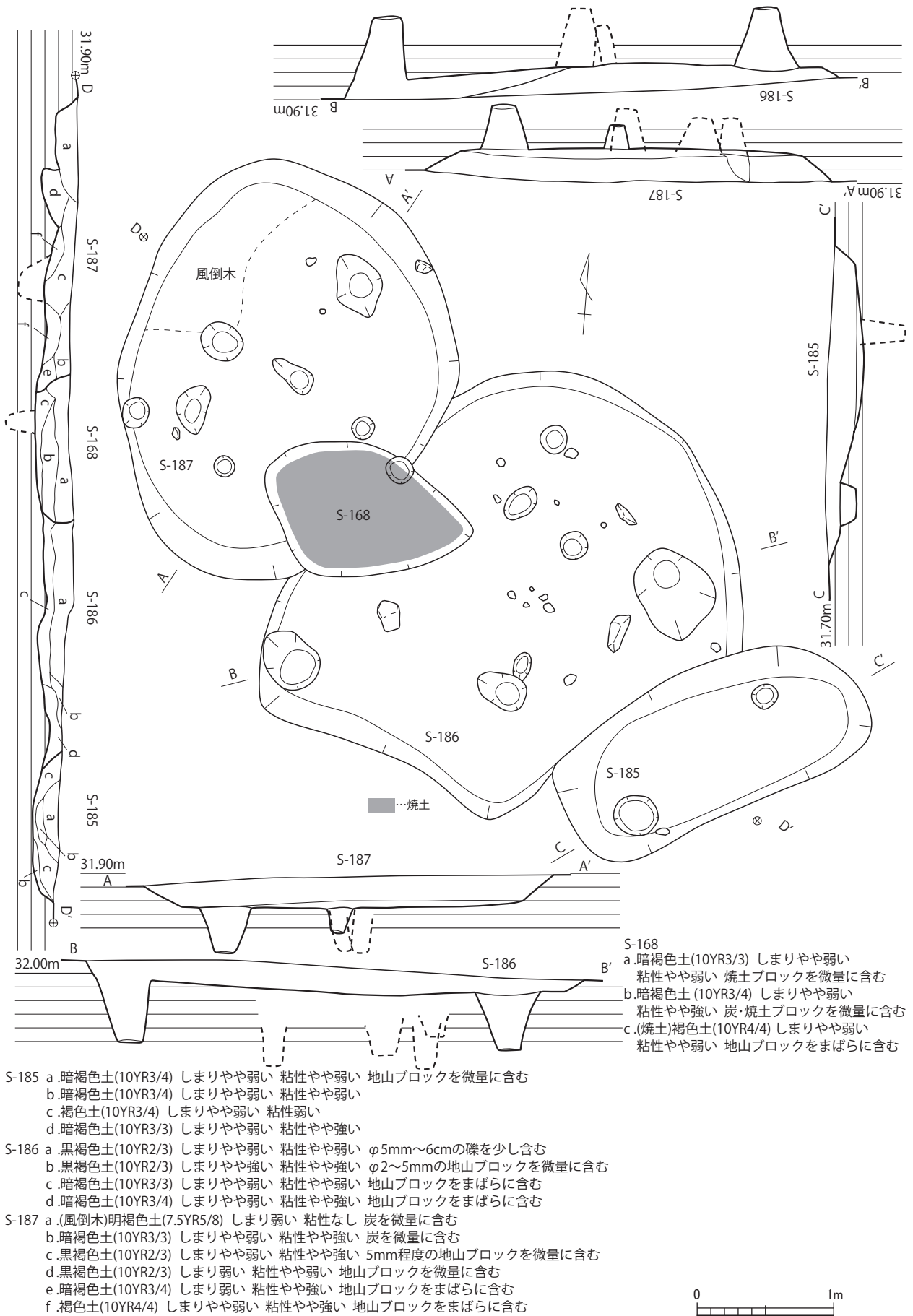
S216 調査区中央部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では6E区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形にある。しかもその南縁部沿いに位置し、南方・東方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構の平面形は歪な隅丸の六角形をしている(第71図)。遺構は、長軸275cm・短軸約235cmの規模を有している。残存状態が悪く、僅かな壁の立ち上がりが見られるにすぎない。北壁や西壁付近の傾斜はゆるく、床面と壁面の境界がはっきりする部分が少ない。特に西壁の曲率半径が大きい。高さは10cm以内である。遺構内の柱穴は3基あり、その分布は真北から42°(138°)振れた中央付近に2基が並び、さらに西側へ90度振れた場所に1基があるという偏った分布を位置している。規則性に欠ける分布であるが、深さは15cmと16cmある。



第67図 S172出土遺物実測図



第68図 S186出土遺物実測図

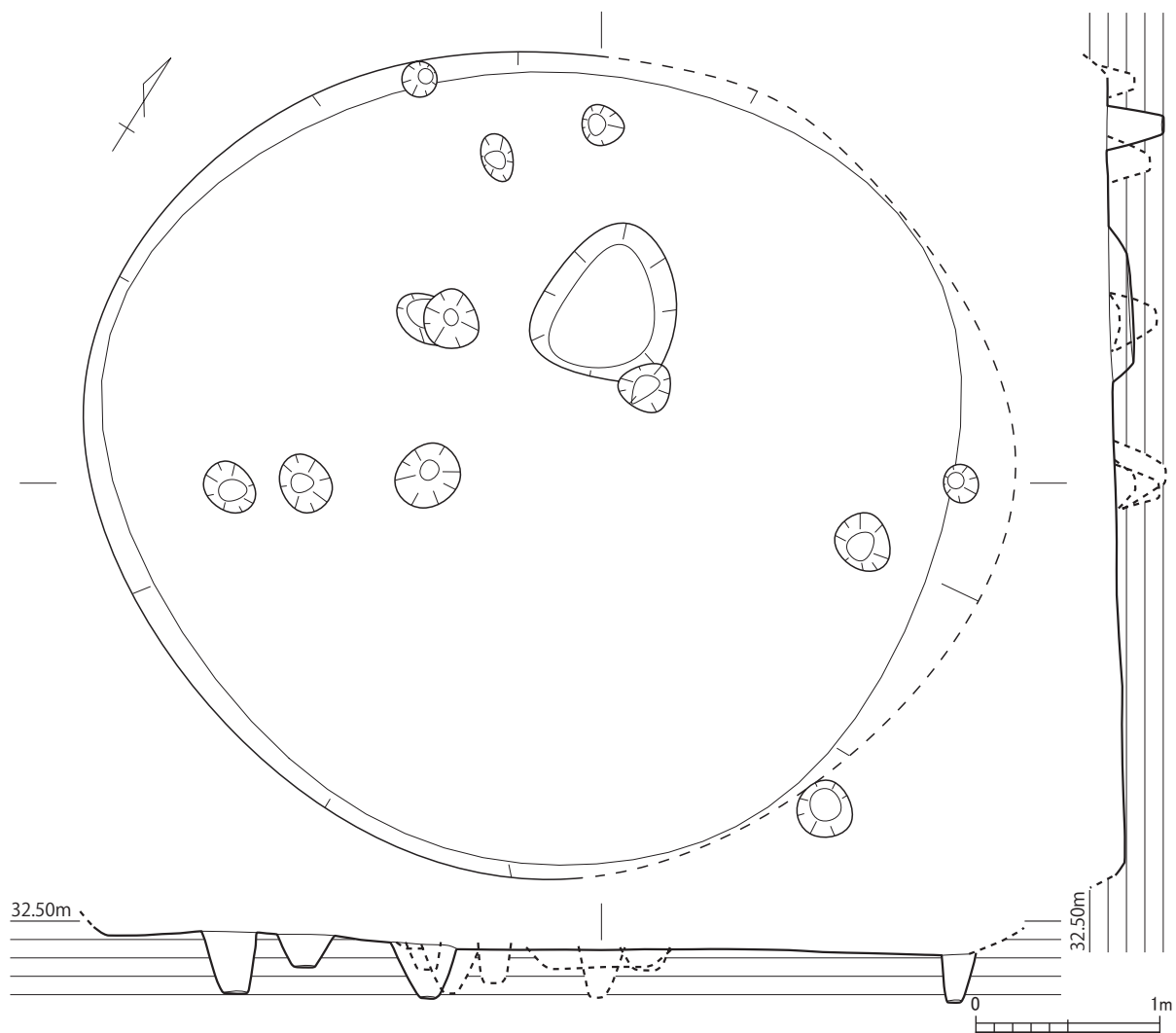


第69図 S186・S187・(S168・S185土坑)実測図(1/40)

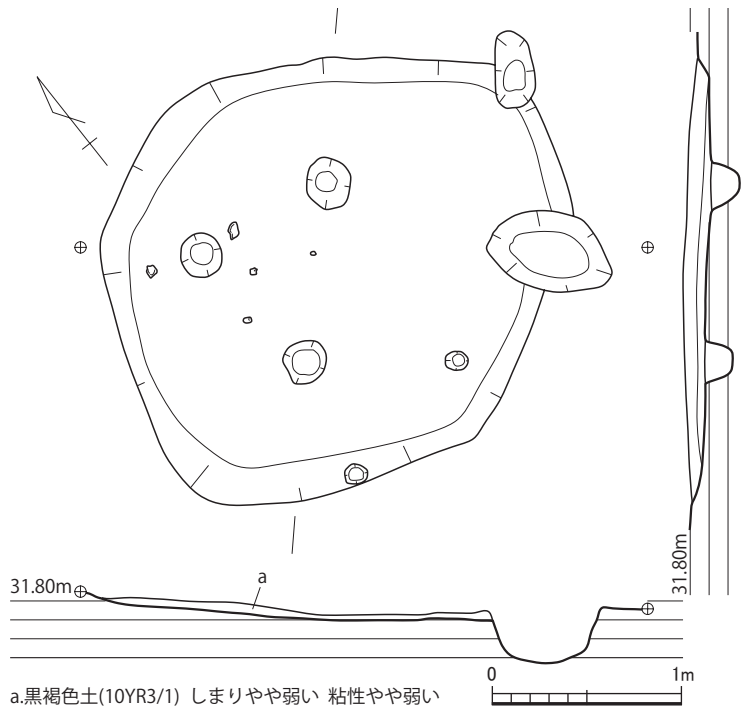
S215 調査区中央部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では5E区北部を中心に、僅かに5D区にもかかる位置である（第3図・第477図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い地勢の脊梁地形であり、その尾根部に位置する。ここは比較的に平坦な地勢であるが、尾根部に当っており、あまり地層堆積のよい場所ではない。縄文時代草創期・早期の包含層であるⅢ層は薄く20数センチしかない状況であった。

本来的にⅢ層のどのレベルで竪穴建物が掘り込まれたのかという問題はあるが、結果的にⅣ層上面まで掘り下げ、精査した段階で遺構を検出した。その際の出土状況は、壁がほぼ残存しておらず、黄色系の色調であるⅣ層との対比の中で黒ずんだ場所があるという状況であった。黒ずんだ部分は、竪穴建物掘削時に整地した整地層であり、貼り床である。僅かに残存した壁部と貼り床の存在から想定される竪穴建物の状況は以下のとおりである。

遺構の平面形は楕円形である（第70図）。東西方向の長軸は510cm、南北方向の短軸は約450cmである。竪穴建物の内部の貼り床の上に柱穴が14基見られた。柱穴の分布に規則性はなかったが、竪穴建物の西半分に多く散在する。柱穴の直径は20cmから30cmまでの大きさである。柱穴の深さは15cm～32cmに収まるものである。竪穴建物の北半部の中央に土坑が1基ある。土坑は、隅丸三角形をしており、長軸85cm、短軸75cm、深さ10cmである。

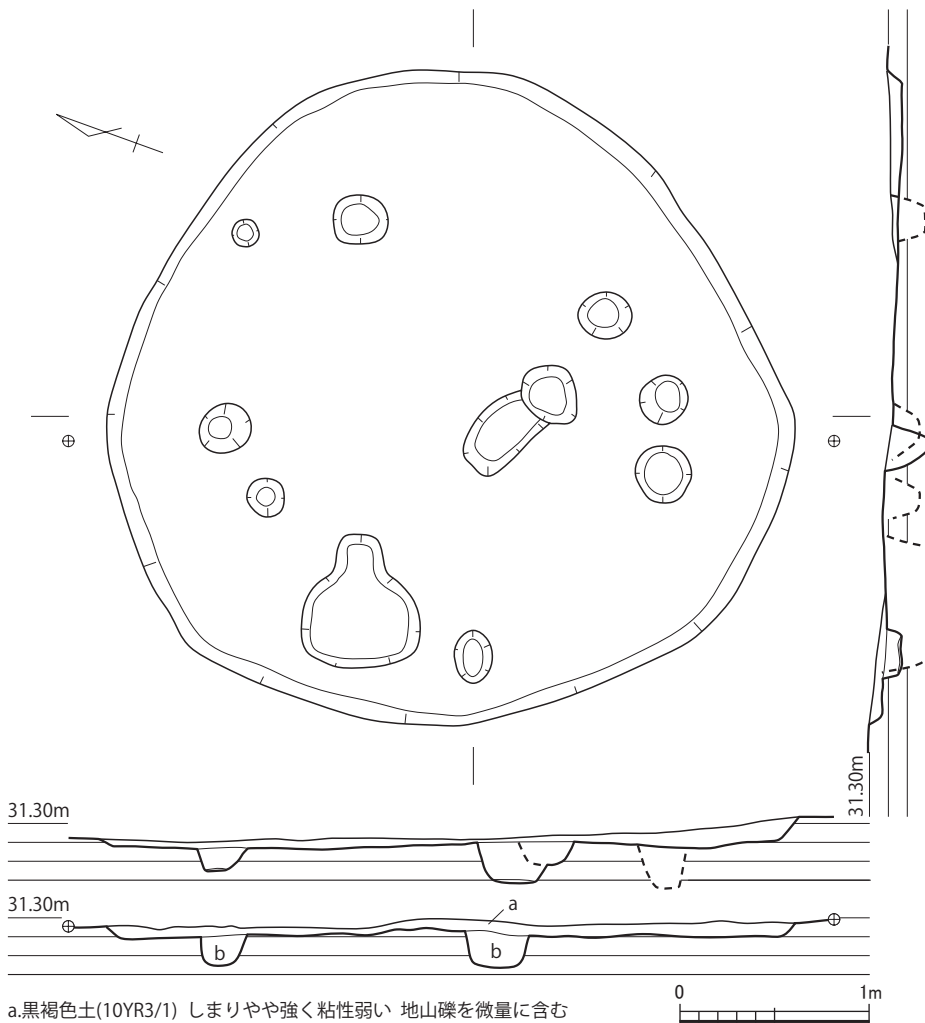


第70図 S215実測図(1/40)



a.黒褐色土(10YR3/1) しまりやや弱い 粘性やや弱い

第71図 S216実測図(1/40)



a.黒褐色土(10YR3/1) しまりやや強く粘性弱い 地山礫を微量に含む
b.黒褐色土(10YR3/2) しまりやや強く粘性弱い 小礫をまばらに含む

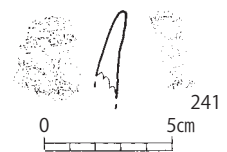
第72図 S253実測図(1/40)

S253 調査区東部で第Ⅲ次調査区にあり、区画では8D区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかにあつて標高が高い脊梁地形の東端の北縁部に位置する。主に北方・東方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構の平面形は、曲率半径の大きい隅丸の三角形である(第72図)。残存状態が悪く、3cmから10cmである。とりわけ北壁付近の残りが悪い。遺構の規模は、南北が350cm、東西が350cmである。

遺構内には柱穴が9基ある。主要な柱穴は、壁から若干の間隔を置き、中央部を囲むように配置している。また柱穴間の最も広い場所は、南西部分で、ここが出入り口であったかもしれない。主要な柱穴の径は20cmから30cm前後で、深さは17cmから20cm前後である。

なお、小さな土坑が中央部域と西壁付近にある。

土器 ナデ調整無文土器が1点出土している(第73図241)。



第73図 S253出土遺物実測図

S275 調査区東部で第Ⅲ次調査区にあり、区画では8E区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形にあつて扇形の平坦地中央部に位置する。また北方・東方・南方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構の平面形は、長楕円形と思われるが、南半分方を欠く(第74図)。現状で南北が167cm、東西は260cmの規模である。壁の立ち上がりを見ると、曲率半径が大きい。内部に柱穴が2基ある。この柱穴の径と深さは、径が12cmと10cm、深さが15cmと30cmである。

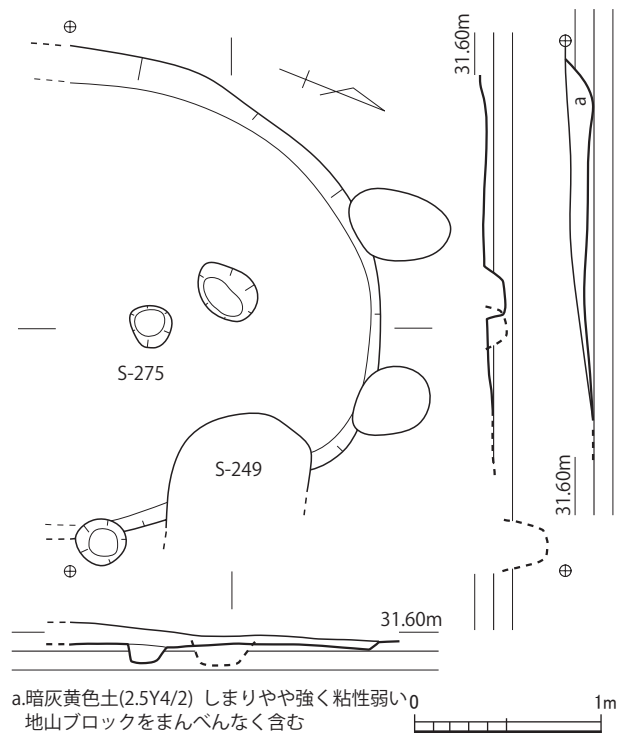
遺物 提示できる資料はない。

S347 調査区東部で第Ⅳ次調査区にあり、区画では8E区・8F区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形東部に位置し、南方・北方・東方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構の平面形は歪んだ円形で、南北500cm・東西535cmの規模を有している(第75図)。壁の立ち上がりは、曲率半径が、極めて大きく、緩やかに立ち上がっており、床面と壁の境界がゆるやかで明確でない場所が大半である。特に東壁は傾斜角が10°前後である。壁の高さは、西壁で28cm前後であるが、遺構の中央部と北壁との比高差は43cmである。

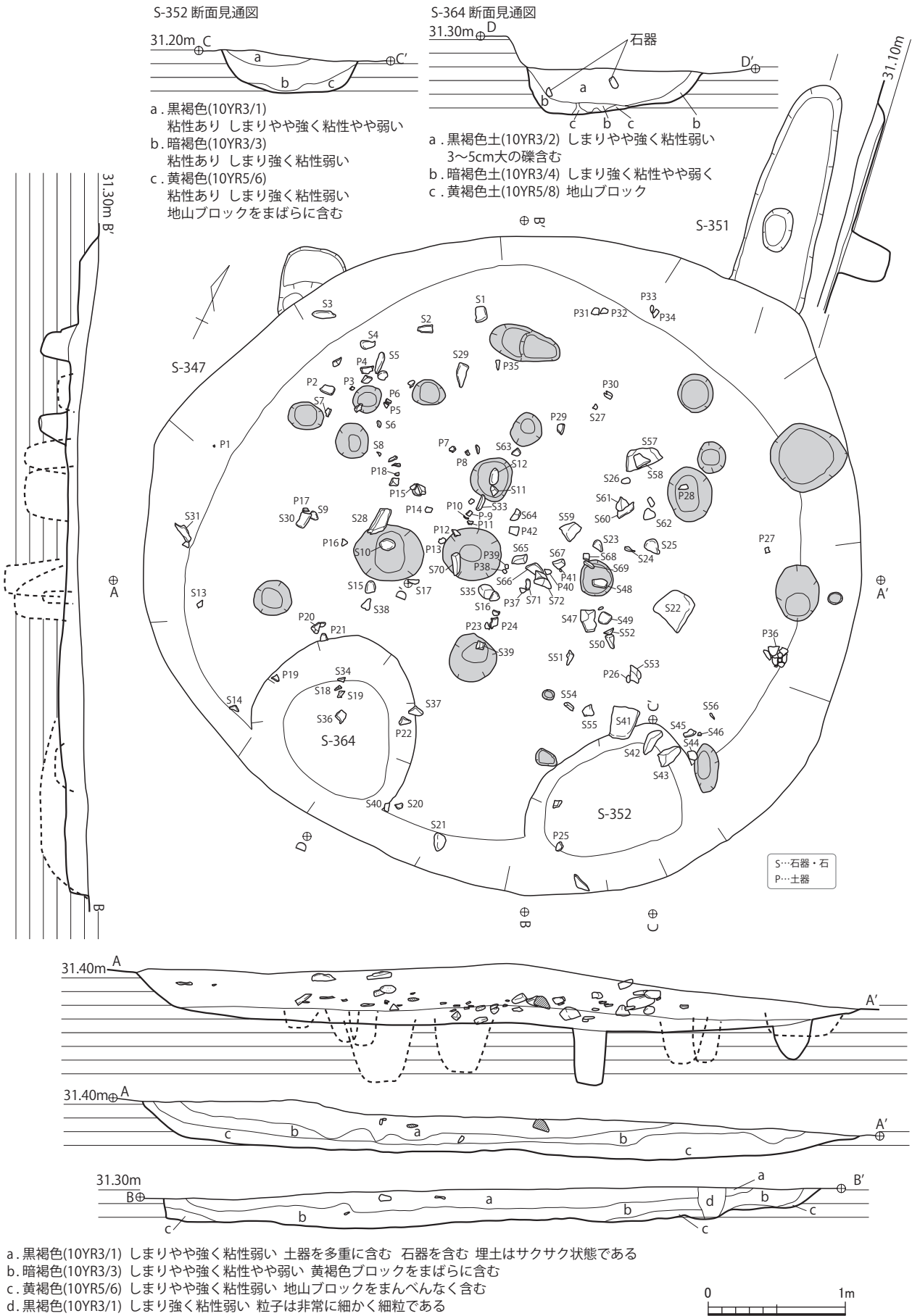
遺構内には、柱穴が18基あり、北壁から南へ遺構の2/3までの間に不規則に分布している。柱穴の深さは、30cmから40cmまでのものが六箇所もあるなど、深い柱穴が多い。この他の柱穴も、22cm前後の深さである。柱穴の径は、50cm・42cm・33cm・23cmもある。大型の柱穴が多い。なお、遺構内にあるS352・S354は当初別時期の遺構と考えていたが、覆土上面に痕跡がないことと、S347のラインに沿って構築されていることから同遺構に伴うと考えておきたい。

土器 押型文土器、ナデ調整無文土器、条痕調整無文土器が出土している。楕円押型文は器壁が1cm程度の胴部破片で、外面の楕円が小さいことに特徴がある(第76図242)。また楕円文の方向性は、やや斜行する。山形押型文土器は、山形のピッチが0.35cmと小さいことと、器壁が0.4cmと薄い点に特徴がある(243)。また山形文の方向性は、やや斜行する。無文土器の薄手の例に、口縁部が直行もしくは、やや外傾する例と(244～253、259)、内傾する例がある(254)。ただし、前者は小破片が多く、正確性にかける部分がある。これら12例の薄手無文土器の器壁の厚さを平均すると0.6cmであった。このほか、4例の薄手のナデ調整無文土器があるが、器壁の厚さは同様の傾向である(255～258)。ナデ調整無文土器には厚手のものもある(260・261)。いずれも口縁部が直行もしくは、やや外傾する例で、器壁の厚さは1.4cmと1.2cmであった。この厚手のナデ調整無文土器に関係あるのが、やはり厚手のナデ調整無文土器の底部破片で、底部が丸底である(262)。条痕調整の無文土器は、表面に斜行する条痕を有しており、器壁の厚さが1.1cmと厚手である(263)。

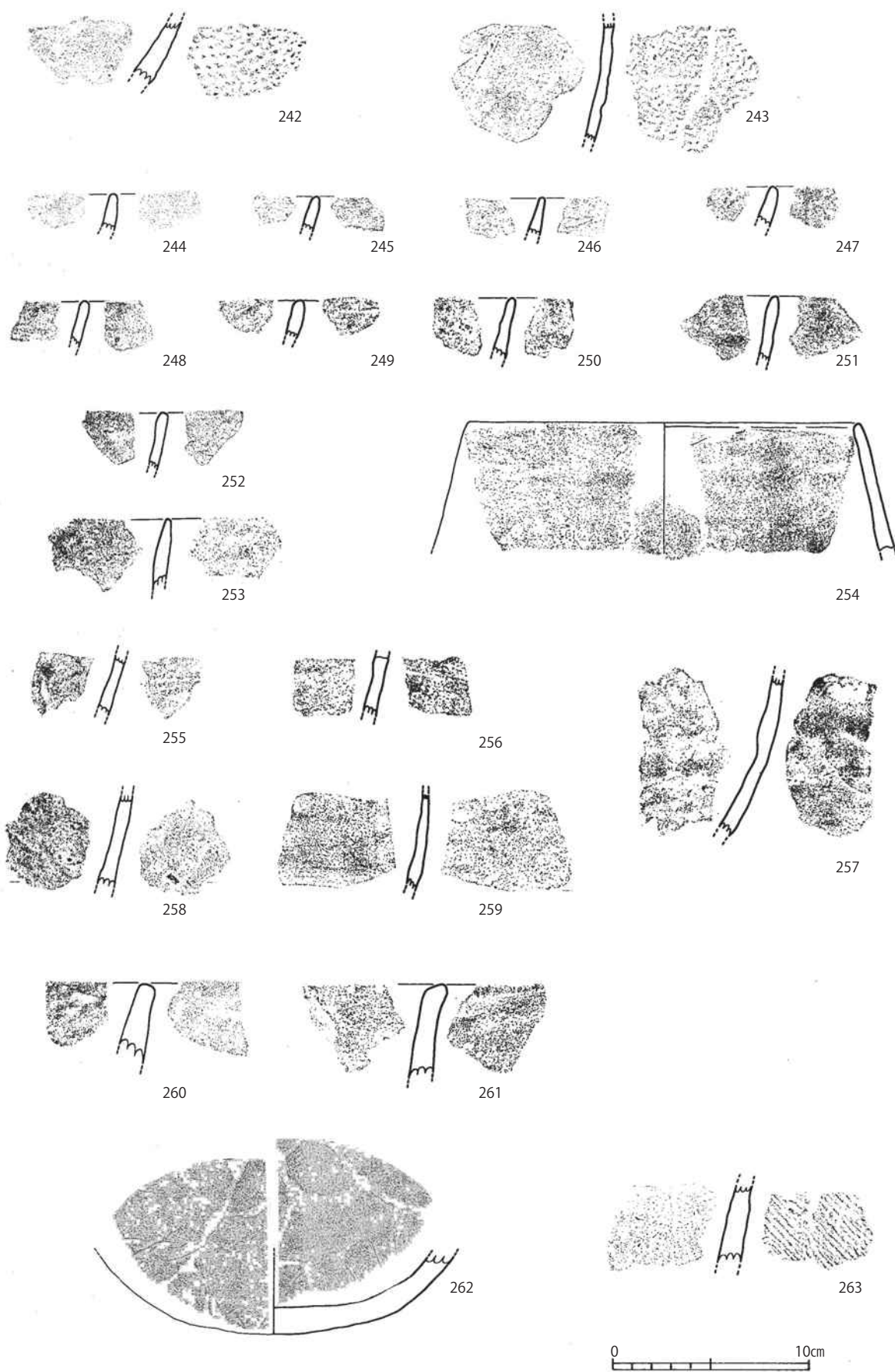
石器 石鏃が3点出土している。一例は小型の完形品で、二等辺三角形をしており、抉りはない(第77図264)。もう一例は、丁寧な押圧剥離で製作され、基部が水平に破損している(265)。三例目は、やや器長が長く、両縁が外側に張る特徴を有する(266)。この例は、裏面の右縁から下縁にかけて細かく斜行する押圧剥離を施しているが、未調整の部分や表面側の粗い調整部分もあり、あるいは未成品というべきかもしれない。使用痕ある剥片は3点あり、いずれも不定形の剥片を用いている(267・268・271)。楔形石器は1点あり、小型で正方形に近い形をしている(269)。特に裏面には上下方向からの剥離がある。剥片は、2点だけである(270・272)。礫器は3点ある。一例は角礫から割り取られた剥片を利用しており、手前の部分に両刃の刃部を作出した加工痕がある(273)。他の2点は川原石を原料として用い、手前端部に片刃の刃部を作出した加工痕がある(274・275)。敲石(第77図277)・磨石(278)・台石(276)が出土している。敲石は、長さ6.4cm、幅4.3cm、厚さ3.5cmであり、大きさから石器加工用である。磨石は表裏両面に磨滅がある。台石は、表面に磨痕があり、破損している。



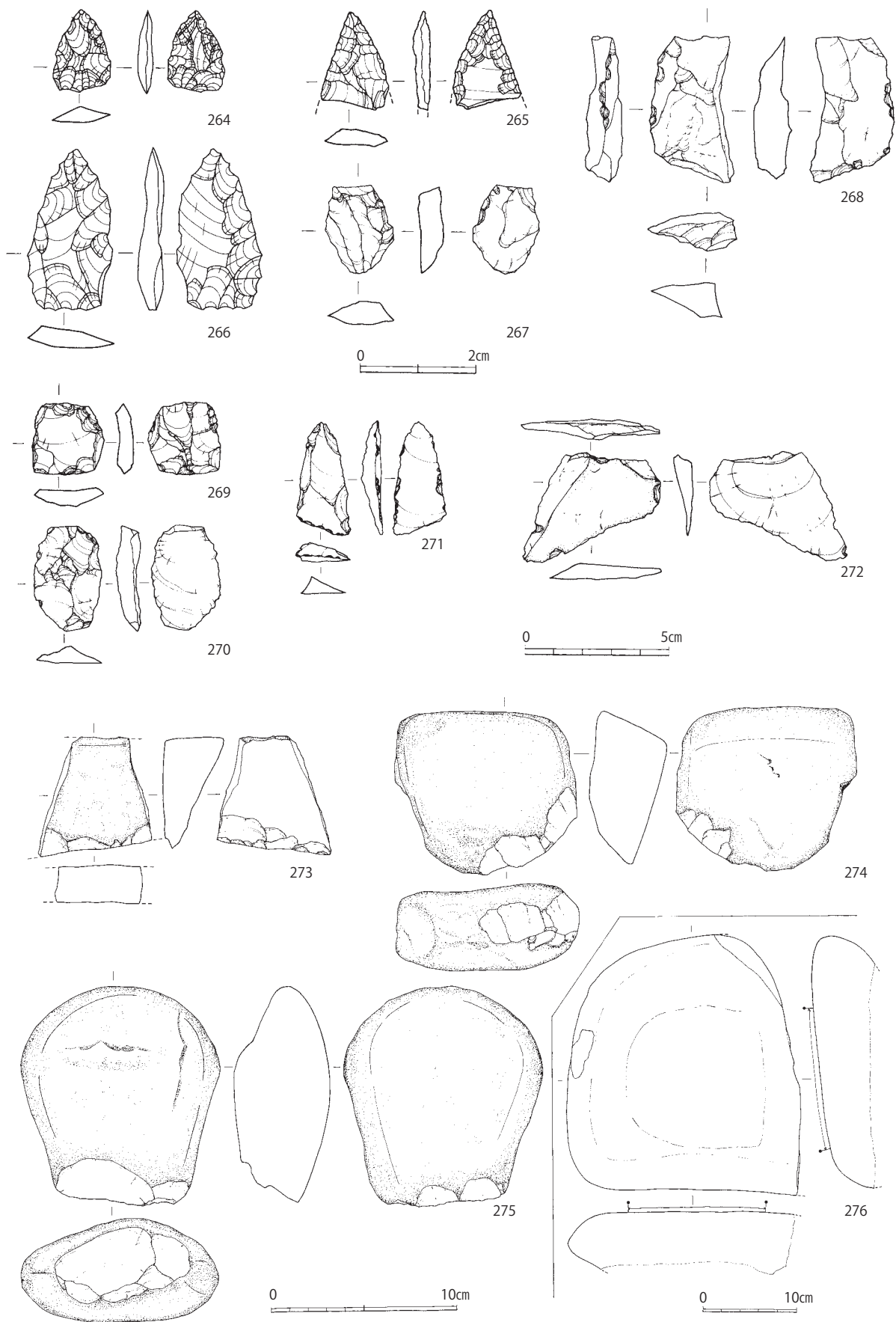
第74図 S275実測図(1/40)



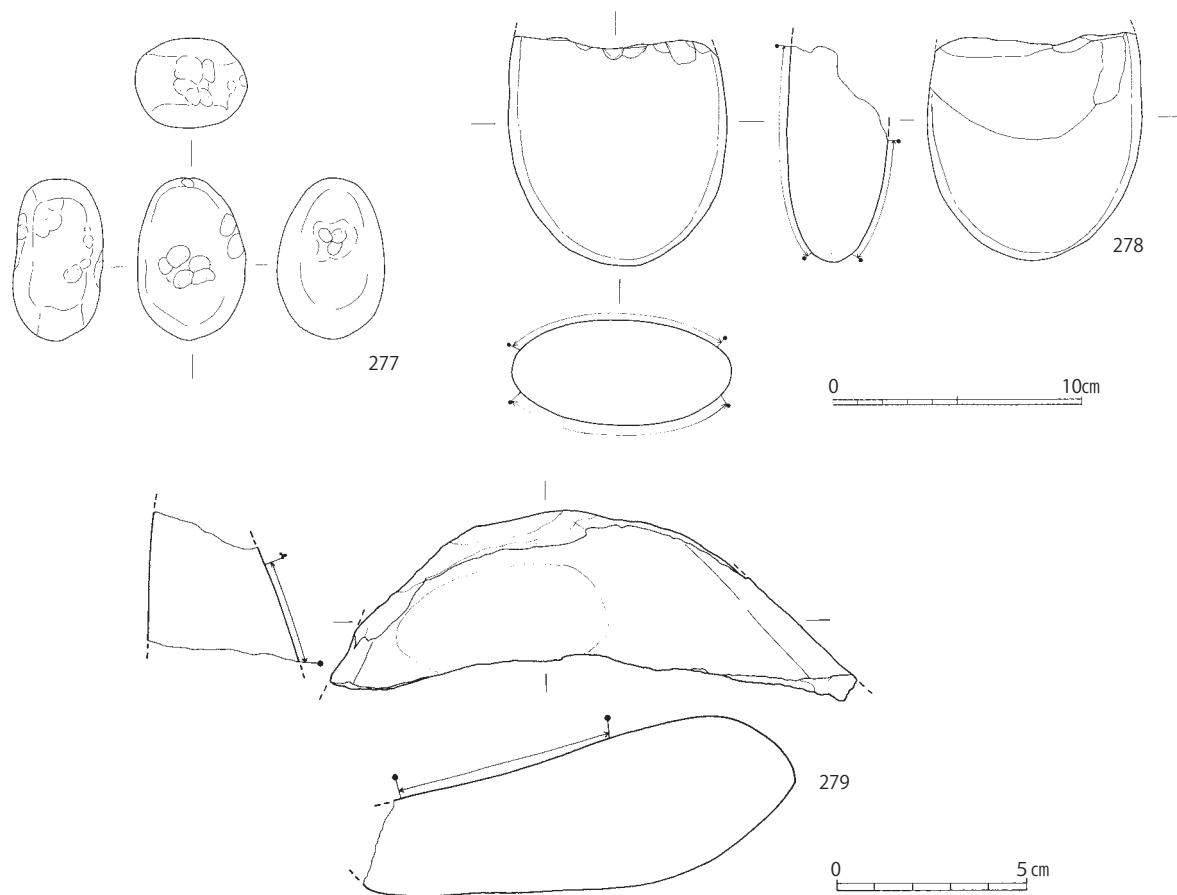
第75図 S347・(S351・S352・S364土坑) 実測図 (1/40)



第76図 S347出土遺物実測図(1)



第77図 S347出土遺物実測図(2)



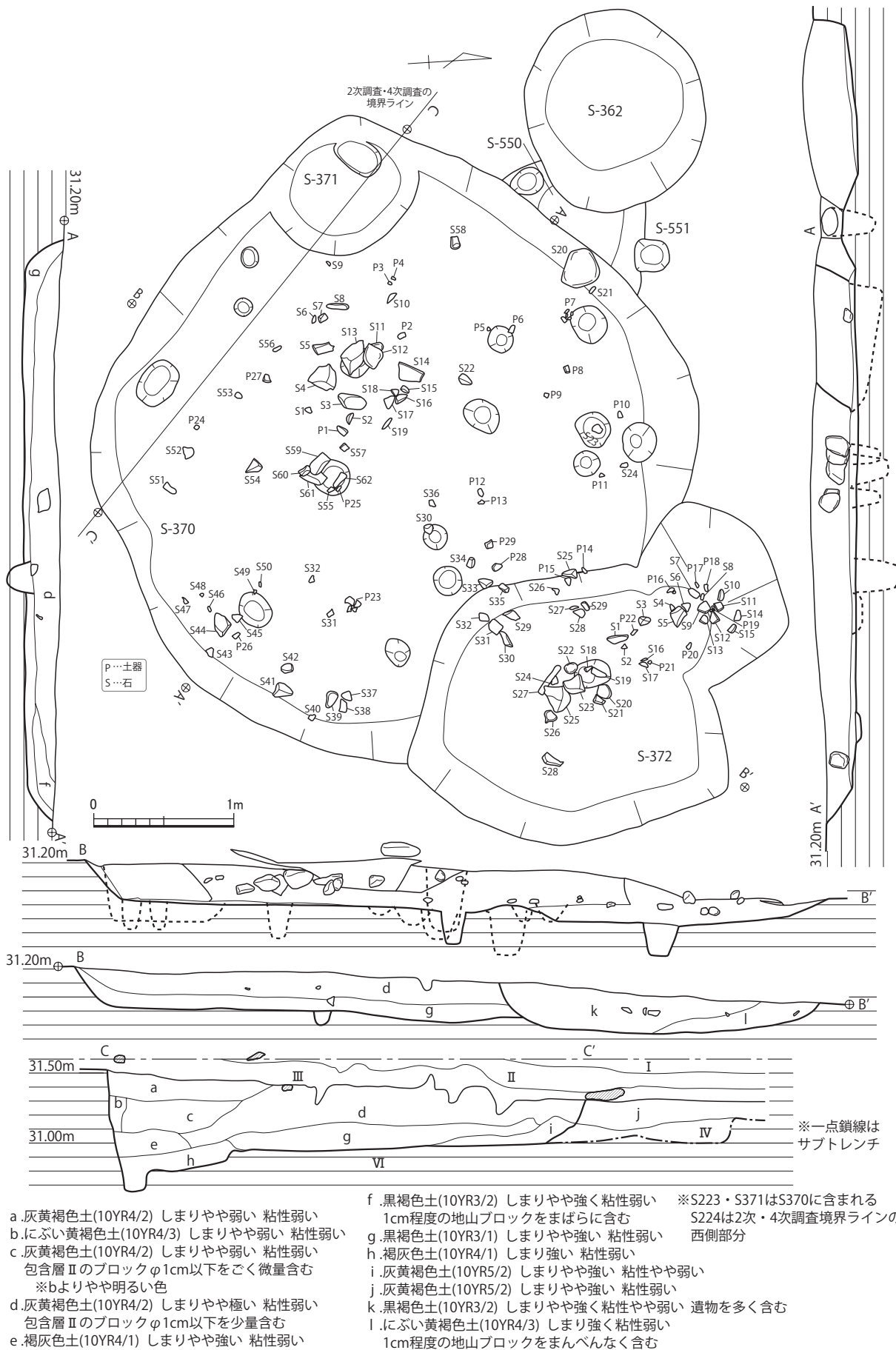
第78図 S347出土遺物実測図(3)

S370 調査区東部で第IV次調査区にあり、区画では8F区・9F区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い地勢である。脊梁地形の東部に位置し、主に東方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。

遺構の平面形は隅丸方形、もしくは方形に近い歪な円形をしている。この遺構の中央で、北から東へ 38° 振れた部分と、これに直交する線上での遺構幅が広く、前者が400cm(S372に切られているため推定値)、後者は418cmの規模を有している(第79図)。壁の立ち上がりは、 $43^\circ \sim 55^\circ$ までの勾配が多い。しかし西南の隅部付近は急傾斜で、 85° 前後ある。遺構の中央部分での床面と最も高い西壁との比高は、約35cmである。しかし挿図にあるC・C'ラインでの層位関係を観察するとII層(アカホヤ)やIII a層の下のIII層上面から掘り込まれていた(第79図)。このC・C'ラインのなかで最も高い壁のあるポイントCと遺構中心部床面との比高差は約70cmもある。層位関係の部分で補足すると、III a層の下位のIII層上面から掘り込まれていたということは、縄文時代早期後半から終わり頃の包含層であるIII a層期の遺構である可能性もある。しかし、この辺りのIII a層は、当初に層位区分を行った第II次調査区域西部のIII a層に比べて色調がやや異なることと、後述する土器に古相の押型文土器や無文土器を含む他、カクランと土壌化が進行している。なお、C・C'ラインはII次調査とIV次調査の境界であり、II次調査時に境界の南側に観察された遺構をS223・S371としていたが、IV次調査のS370と同一遺構であることからS370に含めている。遺構内には、柱穴が15箇所ある。柱穴の分布は不規則であるが、深さが24cm～35cmまでの例も多い。この他、遺構中央部のやや西よりに台石や大きな礫などが集中している部分がある。この地点については、①台石や大きな礫を用いた作業を集中して行った場所、②台石や大きな礫を廃棄した場所、などが考えられる。

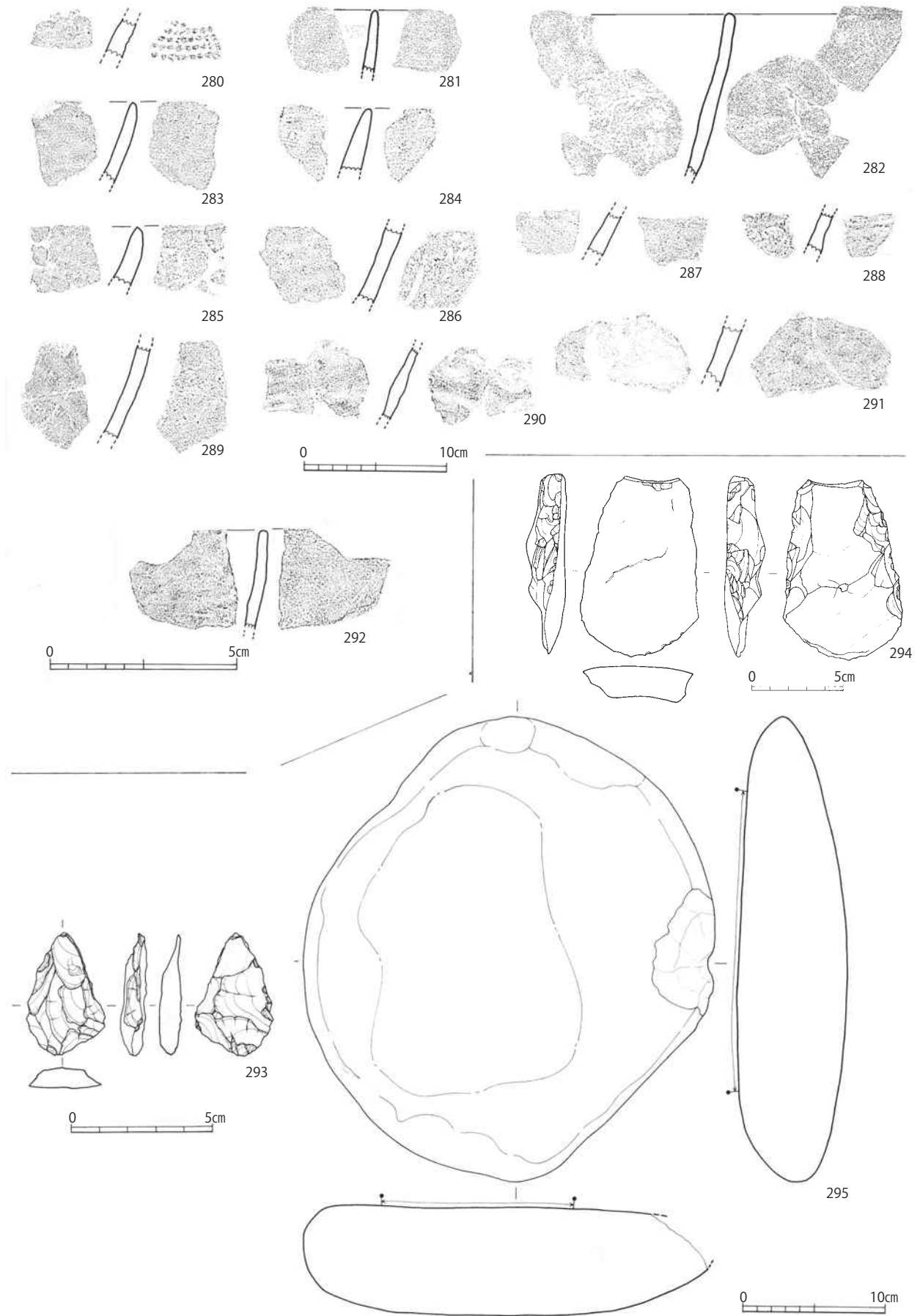
※この竪穴建物の西側隅部にS371がある。この遺構は、S370の外縁に沿って掘り込まれているため同遺構(S370)に付属する可能性が高い屋内施設と考えられる。遺構や関連する出土遺物については、他頁(第311図392)でもふれている。

土器 楕円押型文土器の胴部破片が出土しており、0.3cmから0.4cm前後の大きさの楕円文を施す(第80図280)。原体の回転は横方向である。ナデ調整無文土器は薄手の例で、口縁部が直行もしくは、やや外傾する例(281～285、290、292)で



第79図 S370 (S223・S371)・(S362・S372土坑) 実測図(1/40)

第3章 調査の成果



第80図 S370出土遺物実測図

ある。この他、ナデ調整無文土器の胴部破片もあるが、同様な土器と思われる（286～289・291）。これらの無文土器における器壁の厚さには1cmまでのものしかない。厚さの内訳をみると、0.5cmが2点、0.6cmが2点、0.7cmが2点、0.8cmが1点、0.9cmが3点、1.0cmが2点である。数値からみると0.7cmまでの例と0.9cm以上の例に区分できる。これら12例の薄手無文土器の器壁の厚さを平均すると0.75cmであった。

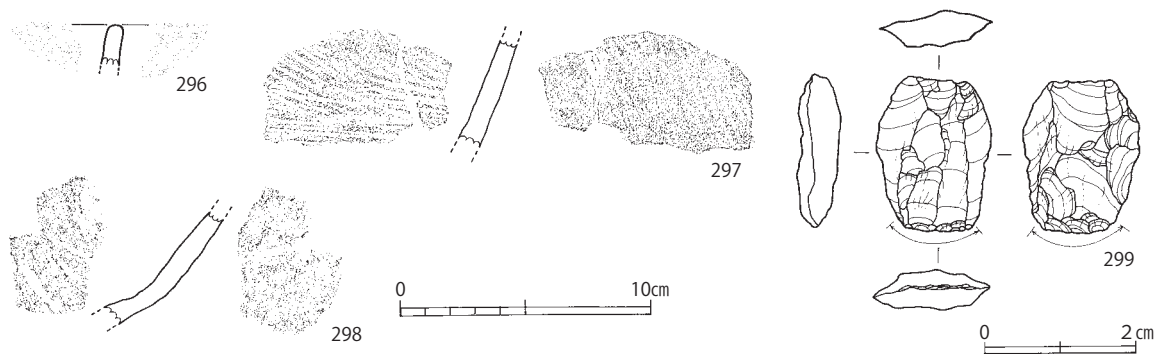
石器 石鏃は加工が粗く、平面形態も整っていないことから未成品と推定する（293）。石斧は、礫面の残る縦長の剥片を用いた小型の例である（294）。礫面側からの加撃により裏側ポジ面に剥離を施すことによって形を成形している。刃部外側に向かって弧状となるが、剥離痕はない。刃部は、表側の礫面とポジ面が接することによって磨製石斧のような効果を示したと推定される。石核が1点出土しているが（第311図392）、本例は屋内施設と考えられるS371から出土した。角礫を原材料とし、打面を転移させ剥片剥離を繰り返していく例である。

S372 S372は、S370の北東部を切る状況で位置している（第3図）。平面形は雪ダルマ形で、長軸300cm、短軸約200cmの小型堅穴建物である（第79図）。雪ダルマの頭部にあたる部分は、胴部にあたる部分と切り合い関係にある可能性もあるが、調査段階において追究しきれていない。壁の立ち上がりは曲率半径が大きく、湾曲している。遺構の中央部と、壁の比高差は28cmである。遺構の中央部に柱穴が1箇所ある。遺物は、遺構の中央部と北部に集中する傾向を示している。

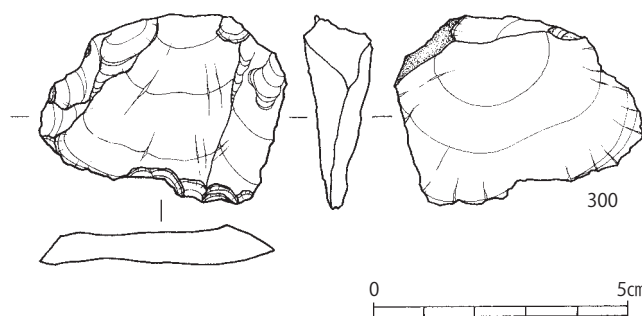
土器 ナデ調整無文土器は、口縁部の破片（第81図296、第312図393）と胴部の破片があり（第312図394）、いずれも薄手。条痕調整無文土器も1点出土している（第81図297）。調整は、内面が横方向で、外面は斜め方向に施す。外面は条痕調整後に軽くナデている。

石器 楔形石器が出土しており（299）、上下両極方向からの剥離痕がみられる。横長剥片を用いたスクレイパーも出土しており、端部に簡単な加工を施す（第82図300）。敲石も1点出土しており、平面形が小判形で、表裏両面と側縁の端部に顕著な打痕がある（第312図395）。

※第81図に図示した遺物は、S370に帰属する可能性もある。S372の遺物は、他頁でも追加報告（第312図）している。



第81図 S370・S372出土遺物実測図

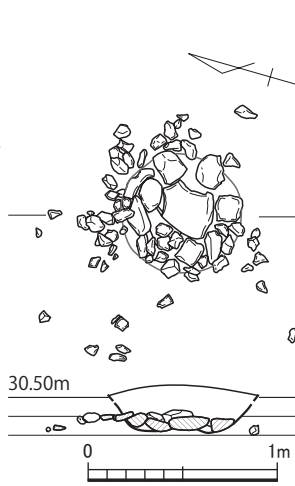


第82図 S372出土遺物実測図

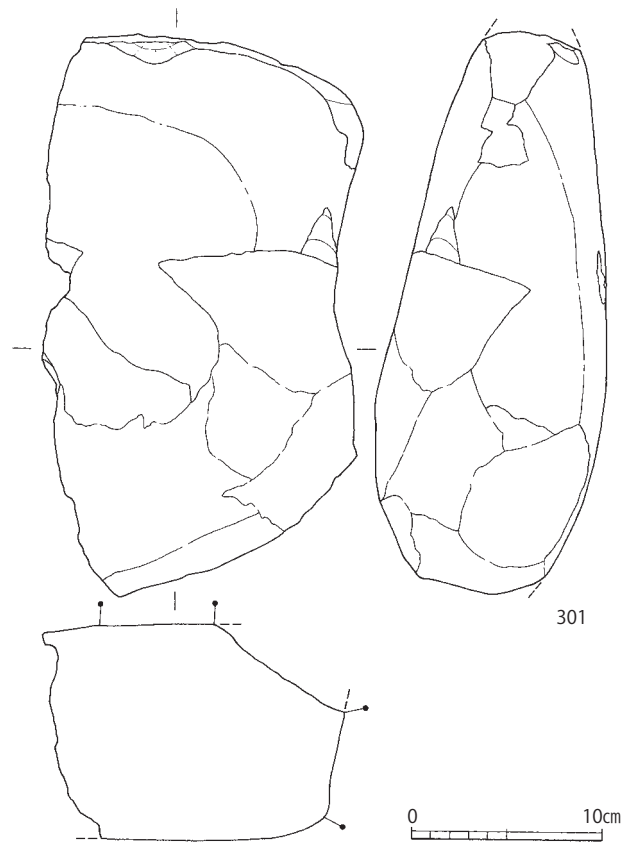
(2) 配石・石組炉・集石

S040 調査区西部で第II次調査区にあり、区画では2H区に位置する配石である(第3図・第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い場所で、その南に展開する弧状の谷地形西斜面に占地する。平面形は、ほぼ円形で、直径が70cm、深さ約13cmの浅い皿状の掘りこみで中央に長さ約30cm・幅27cm・厚さ12cmの石を据えた他、周囲にも礫を充填させた施設である(第83図)。皿状の遺構の外側にも礫が取り巻いている。これらの礫は全く被熱しておらず、はじけや赤化が見られない。その一方で、巨大な礫を割り取った痕跡がある。

石器 S 040 から出土した石器は、中央に据えた平坦大型礫で、表面に磨滅痕がある。この台石の長軸の両サイドは、大きく割れた面であるが、遺構



第83図 S040実測図(1/40)

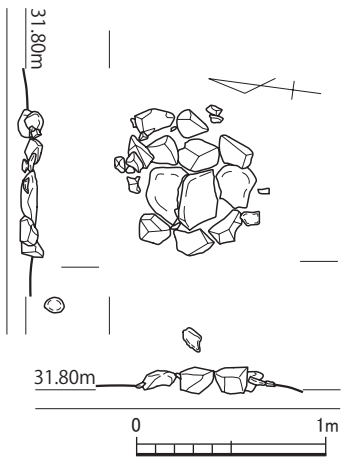


第84図 S040出土遺物実測図

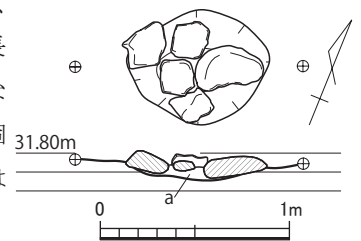
に据えられる以前に割ったことが推定できる。台石として使われたものの両サイドを割り、S 040 の石として転用したものか(第84図 301)、配石として据えることを目的に割ったのだろう。

S041 調査区西部で第II次調査区にあり、区画では1H区に位置する配石である(第3図・第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも比高の高い脊梁地形の南に展開する弧状の谷地形西斜面である。遺構は、長さが30cm前後から20cm前後の角礫がほとんどで、南北方向に2個ないし3個ずつ4列にわたって配置している(第85図)。その範囲は100cm×100cmで、平面形は円形もしくは楕円形である。これらの礫は全く被熱しておらず、はじけや赤化がない。

S050 調査区西部で第II次調査区にあり、区画では1H区に位置する(第3図・第477図)。後述するように石に被熱による赤化が観察されるので、石組炉と考えておきたい。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも比高の高い脊梁地形の南に展開する弧状の谷地形西斜面に占地する。遺構は、縦横が18cm×幅10cmの礫、9cm×9cmの礫、9cm×8cmの礫、11cm×11cmの礫、9cm×10cmの礫の大きさを有する5個の礫を、長軸36cm、短軸30cmの浅い遺構に配置している(第86図)。中央の礫2個は明瞭ではないが、他は被熱し、色が赤化している。20cm前後の角礫がほとんどで、南北方向に2個ないし3個ずつ4列にわたって配置している。その範囲は100cm×100cmで、平面形は円形もしくは楕円形である。これらの礫は熱を受け、色が赤化している。



第85図 S041実測図(1/40)



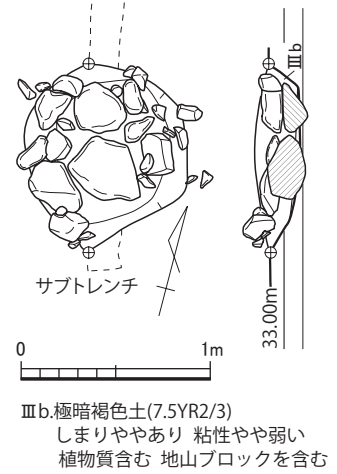
a.にぶい黄褐色土(10YR4/3)
粘性やや強い しまりやや強い

第86図 S050実測図(1/40)

S057 調査区西部で第II次調査区にあり、区画では1F区に位置する配石・集石である(第3図・第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかで、南北方向に東面する斜面が東へ回り込む地形で、その緩斜面に占地する。規模は南北100cm・東西100cmの間に大小の石を組み合わせた遺構である(第87図)。まずこの遺構は、4個の大型礫を方形に並べ、その中央や周辺に小さい礫を充填している。これらの大型礫を含め礫には被熱により赤化した礫がほとんどない。図示はしていないが、その後、南側大型礫の中央から北側にかけて15cm前後を中心とする礫が密集状態で覆っている。この小礫は、被熱により色が赤化している。下部の大型礫に顕著な被熱痕がなかったことから、色が赤化した礫は廃棄されたのかもしれない。あるいは、この場所で集石として用いた可能性もある。

土器 山形押型文土器が1点あり、口縁部の内面端部に短い柵状文がある。山形文のピッチは太く短い(第88図302)。こうした特長から稲荷山式土器と推定する。条痕調整無文土器は、外面に斜行する条痕、内面に横方向の条痕調整をかけた後に軽くナデた土器である(303)。

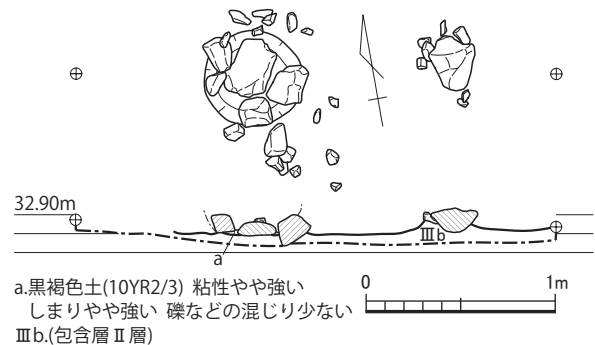
S072 調査区西部で第II次調査区にあり、区画では2E区に位置する配石である(第3図・第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも比高差のある高い脊梁地形の南縁付近にある。出土層位はIII層である。長さ33cm×幅22cmの大型角礫を中央に、その周囲に中小の角礫を置いている(第89図)。中央の大型礫は、平らな面を上に向けている。これらの礫には被熱痕がない。また、入念な観察をしたが、使用痕などの痕跡はなかった。



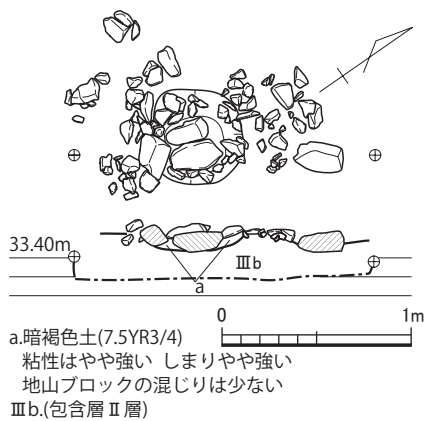
第87図 S057実測図(1/40)



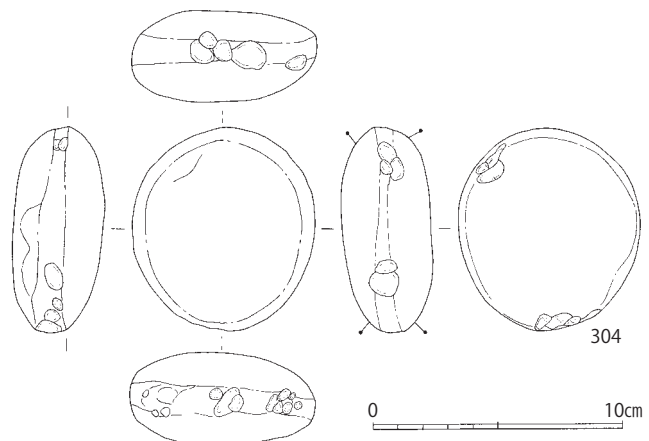
第88図 S057出土遺物実測図



第89図 S072実測図(1/40)



第90図 S075実測図(1/40)



第91図 S075出土遺物実測図

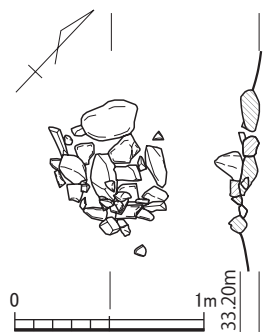
S075 調査区西部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では0E区に位置する集石である（第3図・第477図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも比高差のある高い脊梁地形のなかにあつて、南から北へ延る等高線が東へ回り込む南縁付近にある。出土層位はⅢa層もしくはⅢ層である。長軸130cm×短軸100cmの範囲に大小78個の礫から構成されている（第90図）。特に、中央からやや南部分に長さ23cm・幅11cm、長さ27cm・幅16cm、長さ31cm・幅16cm、長さ20cm・幅17cmの大きさを有する3個の礫を縦横に並べて配置し、その周囲に小礫多数を寄せた状況が窺える。この部分に、径55cm、深さ8cmの皿状の浅い円形の掘り込みを想定している。それは、この掘り込みの底部より8cm程周囲のレベルが高いことから想定した。これらの礫は、色が赤化していない。大型の礫の平らな表面に使用痕がないか調査時に入念な観察をしたが、痕跡はなかった。

石器 集石の中から敲石が1点出土している。敲石の大きさと平面形は、8.1cm×7.2cm、円形に近い楕円形である（第91図304）。最大の厚さが3.6cmの長楕円形である。使用痕は、周囲の縁部に点々と打痕があるが、S075遺構とどのように関わるのか不明であるが、礫の集中部分から出土している。形態や大きさ、あるいは豆粒状の打痕の存在からすると、石器製作用の敲石である可能性がある。

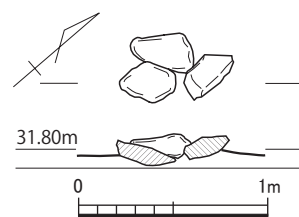
S085 調査区西部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では0F区に位置する石組炉である（第3図）。この辺りは、西から東に延びる比高差のある高い脊梁地形のなかで、南から北へ延る等高線が東へ回り込む南縁付近にある。出土層位はⅢa層もしくはⅢ層である。長軸65cm×短軸60cmの範囲に大型楕円礫や割られた中型角礫30個を周囲に配置し、中に中型で割られた角礫を充填したかのように縦・横に丁寧に並べている（第92図）。割れた礫を含め、平らな面を上に向けている。これらの礫は、被熱したようで、色が赤化した痕跡がある。使用痕などの痕跡はなかった。

S086 調査区西部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では0E区に位置する石組炉である（第3図）。この辺りは、西から東に延びる比高差のある高い脊梁地形のなかで、南から北へ延びる東面する斜面が東へ回り込んだ南縁付近にある。出土層位はⅢ層である。長軸62cm×短軸35cmの範囲に、長さ36cm・幅20cm、長さ30cm・幅22cm、長さ31cm・幅16cmの大きさを有する僅か3個の礫を一箇所に集めたかのような状況である（第93図）。これらの礫は、被熱したようで、色が赤化した痕跡がある。調査時に入念な観察をしたが、使用痕などの痕跡はなかった。周囲の土の表面に焼土は観察できない。僅か3個の石で、何かの作業を行ったとは想定できないが、以下で述べるようなS085のような石組炉から多くの石が抜き取られ、最終的に残った3個+αが現状ということも想定できる。

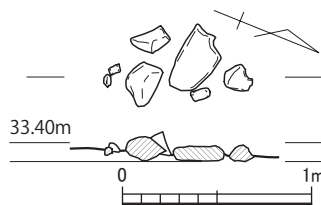
S088 調査区西部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では0F区に位置する配石である（第3図・第477図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも比高差のある高い脊梁地形のなかで、南から北へ延びる地形が東面する斜面にある。配石の出土層位は、Ⅲ層である。長軸80cm×短軸45cmの範囲に、長さ35cm・幅22cm、長さ23cm・幅16cm、長さ22cm・幅11cm、長さ16cm・幅14cmの大きさを有する4個の礫と、数cmの礫3個からなる（第94図）。特に大きめの礫は、南北方向にそろえたかのような配置となっている。この遺構も、多くの石が抜き取られ、最終的に残ったということも想定できるが、肉眼観察では被熱による赤化は観察できない。この点、どう考えるのかむずかしいが、石組炉、あるいは集石に用いるための礫をキープしていた場所であることも想定できる。



第92図 S085実測図(1/40)



第93図 S086実測図(1/40)



第94図 S088実測図(1/40)

(3) 炉穴

炉穴は、地面に平面形が細長い長楕円形、円形、あるいは歪な形に掘り下げた穴で、火を炊き食糧の煮炊きをしたり、焼いたりした穴と考えられる遺構である。深さに若干の違いがあるが、共通するのは火を炊いたことによって焼土面が底面に生じていることである。またしばしば周囲に炭化した薪の粒が散乱している。炉穴の中には、煙道付炉穴がある。これは主要な穴の端部に小さなL字状のトンネルを通し、煙だし（煙道）としたものである。この煙道付炉穴は、舌状台地の東部周縁部に近い6F区・7F区・10D区を中心とした部分に多く構築されている（第3図）。

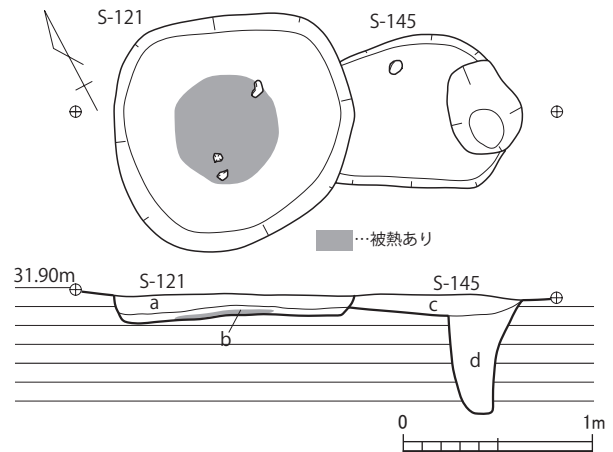
S121 調査区の中中部で第II次調査区にあり、区画では6F区に位置する（第3図・第477図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の東部に位置し、主に東方もしくは南方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区の西縁部である。この遺構はS145の西半部域を切る形で掘り込まれている。

遺構の平面形は楕円形で、その規模は東西方向の長軸が128cm、短軸が124cmである（第95図）。遺構の深さは、東壁付近が11cm、西壁付近が15cmで、東から西へ底部の標高が低くなる。この遺構の中央部に径55cmの大きさの円形焼土が形成されている。円形の焼土域の外側は25cm～35cm程度の幅で焼土のない部分がある。

S147 調査区の中中部で第II次調査区にあり、区画では7F区に位置する（第3図・第478図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の東部に位置し、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。この遺構は、炉穴のS146とS178に西端部が切られる関係にある。そしてS145の西半部域を切る形で掘り込まれている。

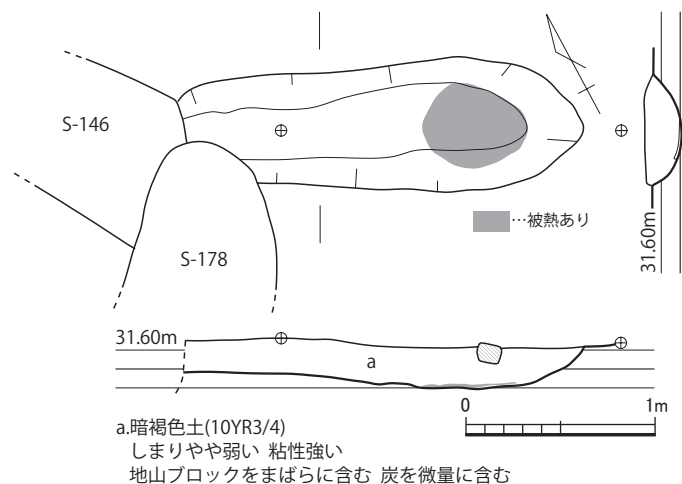
遺構の現状での規模は、長軸212cm、短軸70cmであり、その平面形は細長い長楕円形である（第96図）。長軸の方位は、真北から西へ62.5°振れている。炉穴の西端部は、他の遺構に切られているが、その東へ15cmの北壁部分で屈曲し始めているので、せいぜい20cm～30cm程度延びていたと推定する。壁の立ち上がりは、曲率半径が大きく、ゆるやかな傾斜勾配である。遺構内の底部域東端から西へ約50cmまでの間に被熱による焼土域が形成されているが、その西側底部に焼土はほとんどない。

石器 S147の炉穴内からは、長さ7.4cm程度の剥片が出土している（第97図305）。



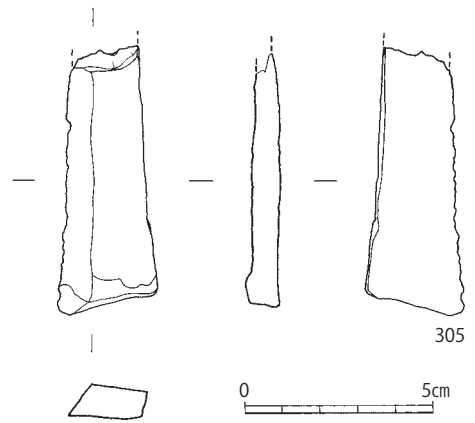
- S-121 a.黒褐色土(10YR2/1) しまり強い 粘性弱い
粒子は非常に細かく細粒である 土器などの遺物を少し含む
b.暗褐色土(10YR3/3) しまりやや強い 粘性やや弱い
地山ブロックをまばらに含む
- S-145 c.暗褐色土(10YR3/3) しまりやや強い 粘性なし
地山ブロックをまばらに含む
ピット埋土 d.褐色土(10YR4/4) しまりやや弱い 粘性なし

第95図 S121・S145土坑実測図(1/40)



- a.暗褐色土(10YR3/4)
しまりやや弱い 粘性強い
地山ブロックをまばらに含む 炭を微量に含む

第96図 S147実測図(1/40)



第97図 S147出土遺物実測図

S184 調査区の東部域で第Ⅱ次調査区にあり、区画では8F区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の東部に位置し、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がり、竪穴建物も多い地区である。

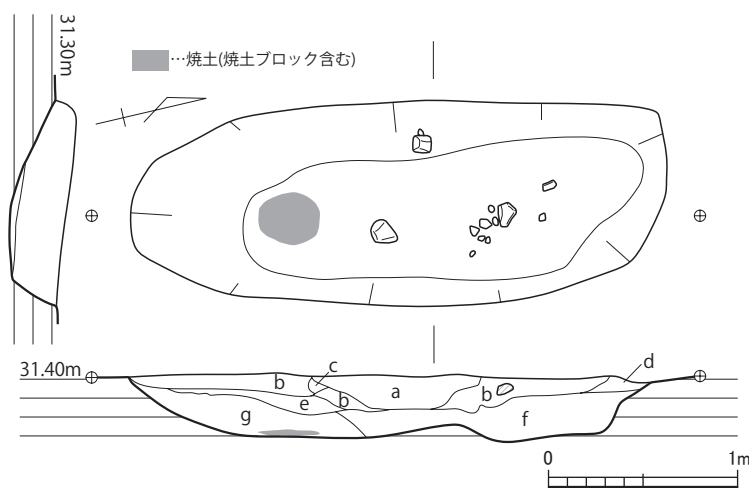
遺構の現状での規模は、長軸284cm、短軸110cmであり、その平面形は歪な細長い長楕円形である(第98図)。長軸の方位は、真北から西へ12.5°振れている。炉穴の北端部の立ち上がりは、64.5°と急傾斜であるが、南端部は曲率半径が大きく、角度の面でいえば25.5°とゆるやかな傾斜勾配である。側壁の立ち上がりは、東壁が57.5°と急であるのに対し、西壁は、底面の中央付近で高くなり約27°前後の勾配である。遺構内の底部域南端に被熱による色が赤化した焼土域が形成されているが、その北側底部に焼土はほとんどない。焼土は、長軸32cm、短軸28cmで、形は楕円形である。

遺構内堆積物は、焼土を覆うG層がまず堆積し、その後に炉穴の中央部から北側にF層が堆積している。その後、G層の上にE層・b層・D層が堆積している。その後、中央付近にかけてa層が堆積する。このように、炉穴内で焼土のあった南側付近にまず堆積していることがわかる。

土器 S184からは土器が2点出土している。いずれも条痕調整の無文土器で、二つの種類に区分できる。やや外傾気味にたちあがる口縁部破片で、口唇部が平坦である(第99図306)。内面は横方向の条痕調整で、外面調整を施して斜行する条痕調整である。条痕調整を観察すると、外面では右下から左上方にかき上げたような方向性で、内面では左から右を示している。条痕調整のなかでも、内面側は右利きの場合、内部に手を入れ右から左へ手を動かしたことになる。なお、口唇部にはピッチの細かい線上の刻みが施されている。もう一例は、直行する口縁部の破片で、口唇部から内面側1.3cmの深さまで傾斜している(307)。そのため、口縁部の端部が尖り気味である。調整は、内面がナデ調整で、外面は斜行する条痕調整である。外面の条痕調整を観察すると、右下方向性を示している。なお、口径は18.4cmである。

S188 調査区の東部域で第Ⅱ次調査区にあり、区画では8F区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の地形となり、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている。遺構は、この平坦地形の東部に位置し、竪穴建物も多い地区である。

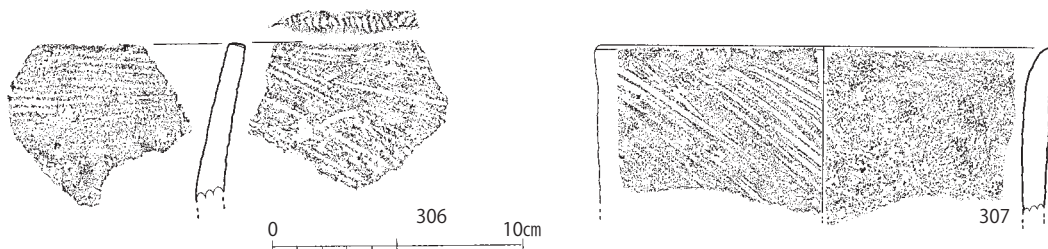
遺構の現状での規模は、長軸295cm、短軸82cmであり、その平面形は歪な細長い長楕円形と思われるが、東南の端部がS162によって切られている(第100図)。長軸の方位は、真北から西へ72.5°振れている。北西の端部に焚口と天井部・煙出しのある煙道付の炉穴で、煙道部の下面は色が赤化している。煙道付炉穴は、あらかじめ細長い土坑を掘削し、煙道部状の棒などを煙道方向に入れ、ローム質土で埋め固めた後に棒を引き抜き構築したと推定される。



- a. 黒褐色土(10YR2/3) 粘性強い しまり強い 地山ブロックを微量に含む
- b. 暗褐色土(10YR3/4) 粘性やや強い しまりやや弱い φ3~8cm礫を少し含む 土器などの遺物を少し含む
- c. 褐色土(10YR4/4) 粘性やや強い しまり弱い 粒子は細かく細砂である 炭を微量に含む
- d. 褐色土(10YR4/4) 粘性やや弱い しまりやや弱い 地山ブロックをまんべんなく含む
- e. 黒褐色土(10YR2/3) 粘性やや弱い しまりやや弱い
- f. 黒褐色土(10YR2/3) 粘性強い しまりやや弱い 地山ブロックを微量に含む
- g. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性やや弱い しまりやや弱い 焼土ブロックをまばらに含む

第98図 S184実測図(1/40)

推定される。



第99図 S184出土遺物実測図

S194 調査区の東部域で第Ⅱ次調査区にあり、区画では7E区・8E区・7F区・8F区の交点に位置する（第3図・第478図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の地形となり、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている。遺構は、この平坦地形の東部に位置し、竪穴建物も多い地区である。

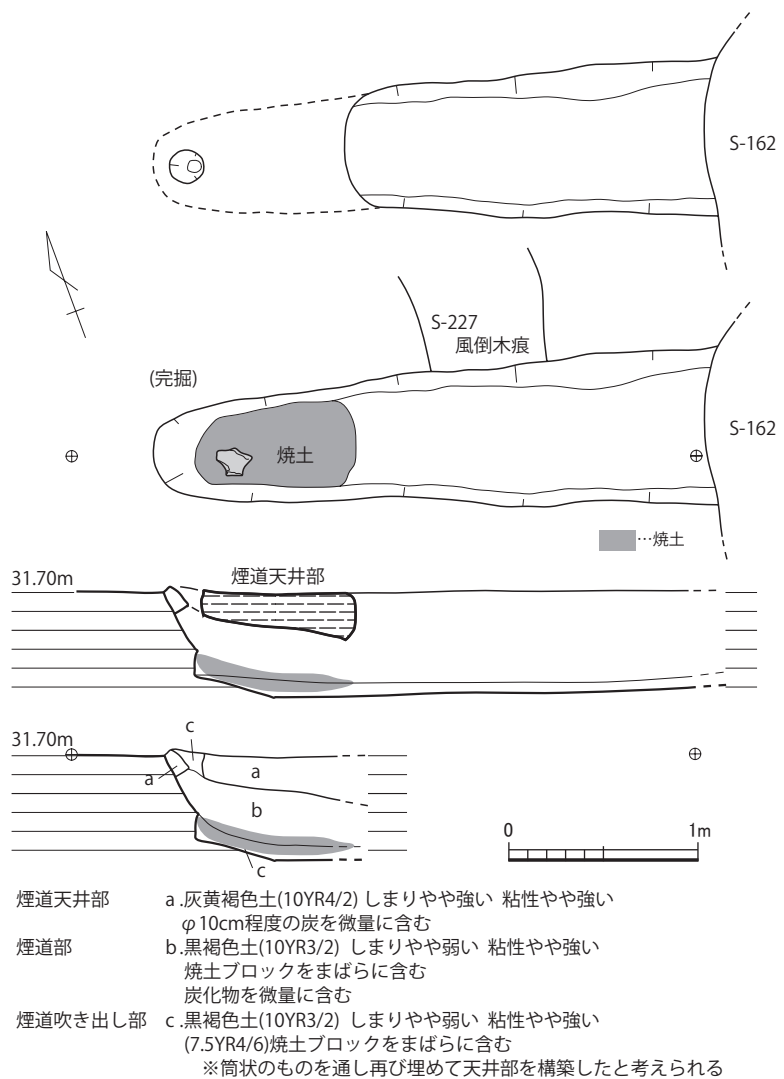
当初、S194は西半分だけであったが、その後の検討によってS243と同じ遺構であることがわかった。そのためS194(S243)としている。遺構の現状での規模は、長軸210cm、短軸184cmであり、その平面形は歪な三角形である（第101図）。遺構の南部分の平面形は、肩があり、そして突出している。西側への長軸の方位は、真北から西へ113°振れている。炉穴の北東端部の立ち上がりは、67.5°と急傾斜であるが、南西端部はゆるやかな傾斜勾配である。ここを断ち割ったところ、煙道部と天井部が見つかり、煙道付炉穴であることが分かった。遺構内の底部域中央部分に被熱により色が赤化した焼土域が形成されているが、その北側底部には焼土はほとんどない。焼土は、長軸35cm、短軸26cmで、形は楕円形である。

S205(S224) 調査区の東部域で第Ⅱ次調査区にあり、区画では7E区・8E区の境界に位置する（第3図・第478図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の東部に位置し、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がり、竪穴建物も多い地区である。

当初、S205だけであったが、その後の検討によってS224と同じ遺構であることがわかった。そのためS205(S224)としている。S205は、遺構の現状での規模は、長軸392cm、短軸53cmであり、深さは35cmである。S205は、S164と切りあい関係にあり、後者が埋没した後に覆土上面から掘りこんでいる（第64図）。S205は煙道付炉穴で断面をみると煙管状の形をしている。煙道部分の底面の最深部は焚口周辺のレベルより低くなっている。楕円形の焼土範囲が、床面の最下底部の断面データによると、b層にはまばらに焼土粒が混在している（第102図）。

土器 S205(S224)からはナデ調整無文土器の口縁部破片が1点出土している（第104図309）。器壁は薄く、やや尖りぎみに外方に開いている。

石器 S205からは剥片が1点出土しているだけである（第103図308）。

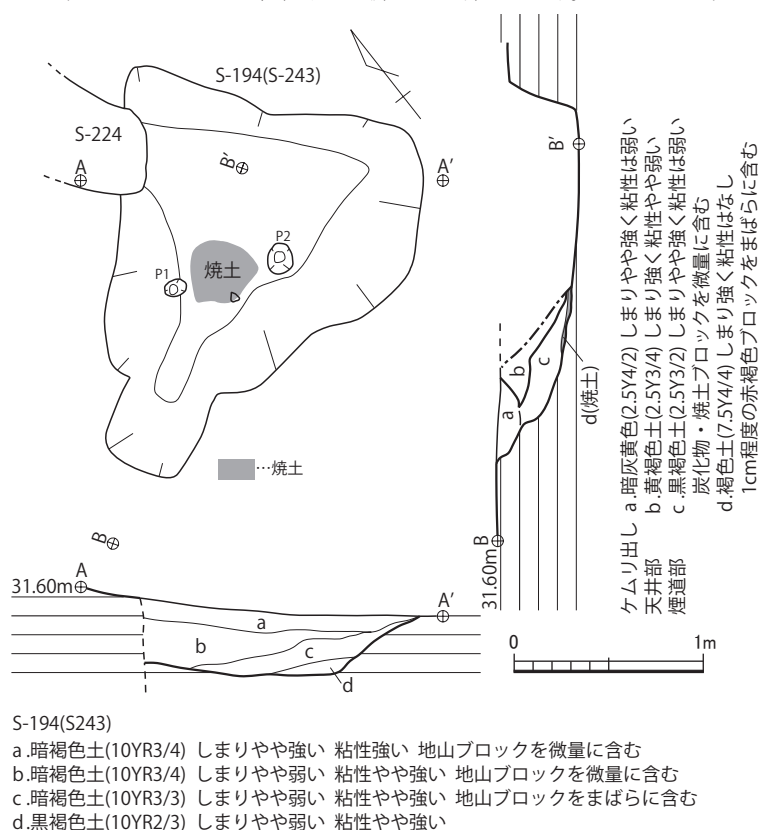


第100図 S188実測図(1/40)

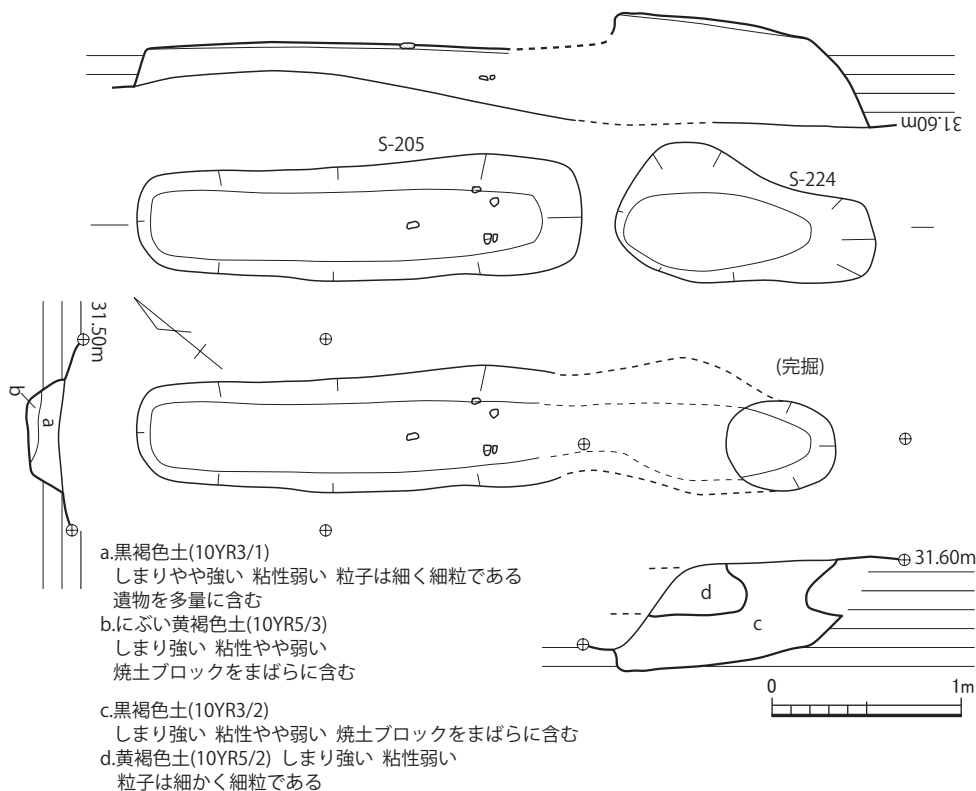
S207(S163) 調査区の東部域で第II次調査区にあり、区画では6F区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から東部にかかる場所に位置し、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がり、堅穴建物も多い地区である。

当初、S207とS163は別の遺構として遺構番号を付けたが、その後の検討によって同じ遺構であることがわかった。そのためS207(S163)としている。S207は、現状での規模は、長軸294cm、短軸82cmであり、深さは40cmである。S207は、S208やS225と切りあい関係にあり(第105図)、S208・S207・S225の順に埋没した後に覆土上面から掘りこんでいる。土坑の北西端部には燃焼口があいているが、ここから煙道と煙出し口が西よりに曲がっている。この点について燃焼部のある土坑本体の長軸からの方位をみると、真北から西へ22°振れている。さらに煙道と煙出し口を結ぶ長軸の方位は、真北から48°(132°)振れている。S207の立ち上がりは、煙道の煙出し口の断面をみると急角度である。長軸の断面では、煙管状の形をしている。また煙道部分の底面の最深部は焚口周辺のレベルより低くなっている。

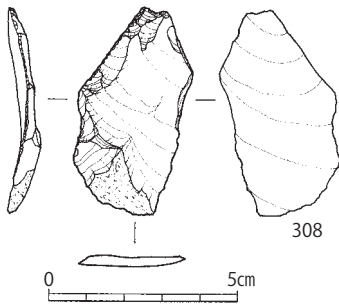
土器 S207(S163)からはナゲ調整無文土器の口縁部破片が1点出土している(第106図310)。器壁は薄く、やや内反ぎみに立ち上がる。



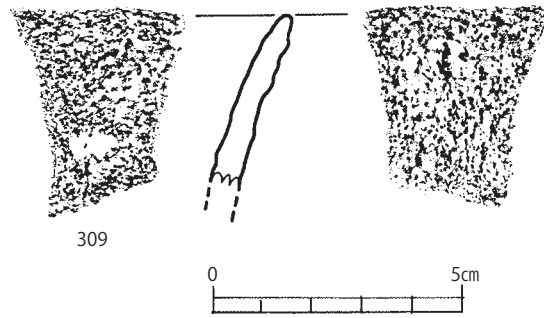
第101図 S194(S243) 実測図(1/40)



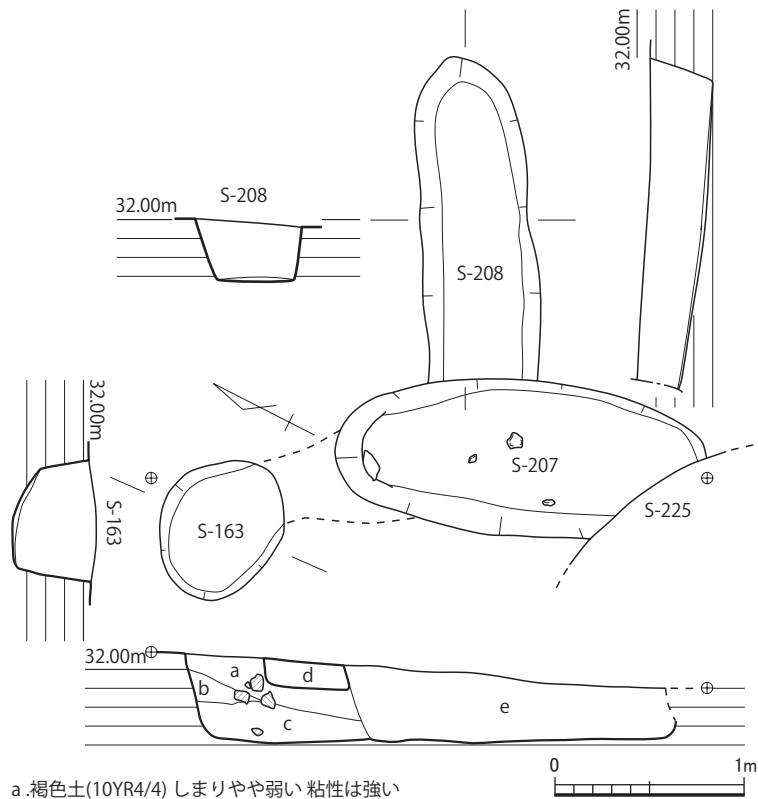
第102図 S205・(S224) 実測図(1/40)



第103図 S205(S224)出土遺物実測図

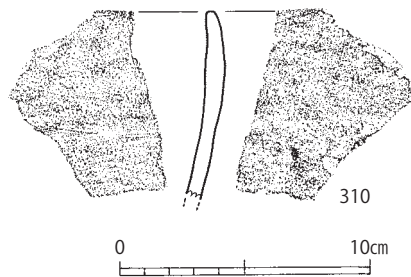


第104図 S205(S224)出土遺物実測図



- a. 褐色土(10YR4/4) しまりやや弱い 粘性は強い
φ1~10cmの礫を少し含む
- b. 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性やや強い φ3cm程度の地山ブロックを微量に含む
- c. 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性は強い φ2~5cmの礫を少し含む
- d. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや弱い 粘性弱い
- e. 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性やや弱い φ2~5cmの地山ブロックをまばらに含む
φ10cm程度の焼土ブロックを微量に含む

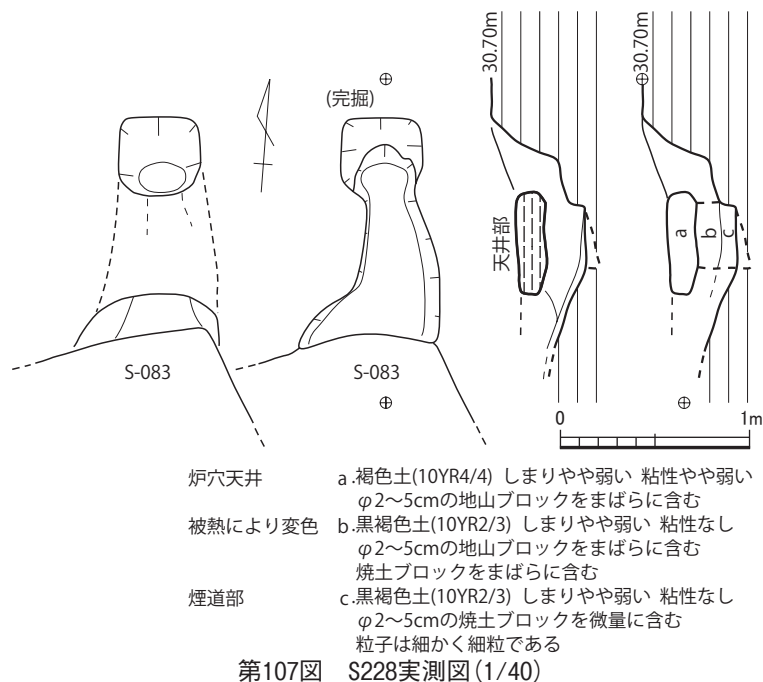
第105図 S207(S163)・(S208土坑)実測図(1/40)



第106図 S163・S207出土遺物実測図

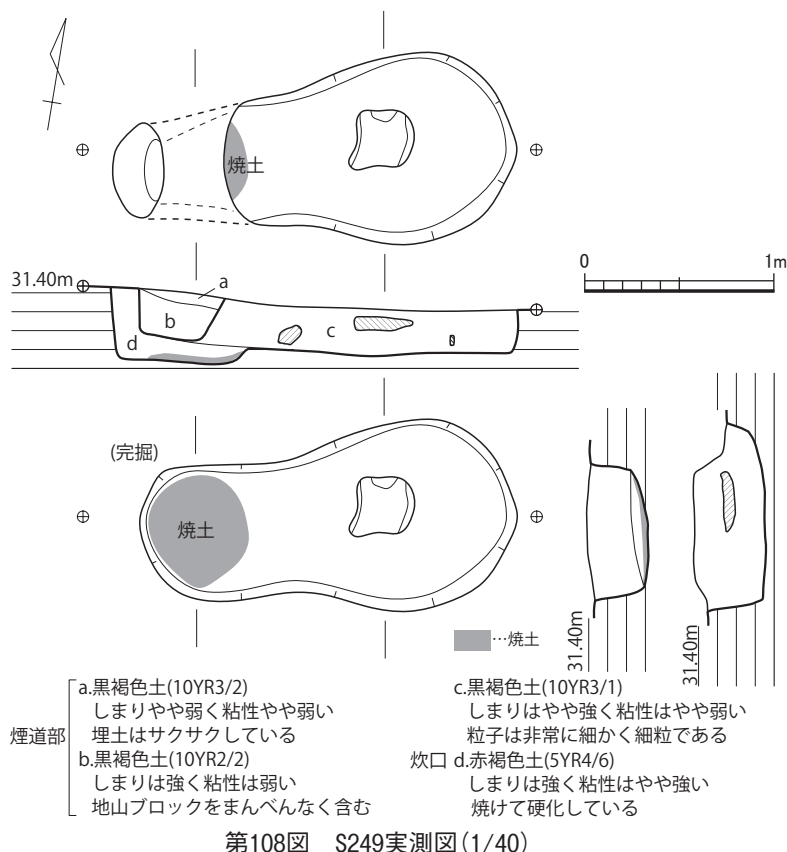
S228 調査区の東部域で第II次調査区にあり、区画では8G区の東南隅部に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかにあつて、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦地形が広がる場所で、その南側の調査区境に位置し、遺跡のなかでは東方と南方を望むことのできる場所である。このうち6G区・7G区・8G区・9G区は、ぱつたりと遺構が少なくなった場所である。標高は30 m 75 cm～31 m 00 cmの間にある。S83の掘り下げに先立って覆土の上面で遺構の検出作業を行ったが、切り込むような遺構はなかった。当初、これを滲みかとも思いながら、南に接するS83を掘り下げている際に、その北壁内に延びるS228の遺構を確認した。したがってS228はS83に切られるので先行する時期に構築されたということになる。

S83の北壁内に延びる黒色土の存在からS228が煙道付炉穴であることを確認できた(第107図)。検出面の観察では、南側の焚口との境界付近でブリッジの端部を確認し、ここから北へ50 cmのところまで煙道部分があった。煙道部内下面は、焚口に近い部分から奥へ下り勾配となり、そして斜め上方の煙だし口へと続く。煙道の上部には、ローム質土からなる厚さ15 cmのブリッジがあるが、平面的には挿図に破線で示している。この破線で示している部分は僅かな違いで認識できるが、これは煙道部を掘削後、例えば棒などを入れ、上にローム土をブリッジとするべく固めながら入れ、その後、棒を引き抜いて構築したと推定される。



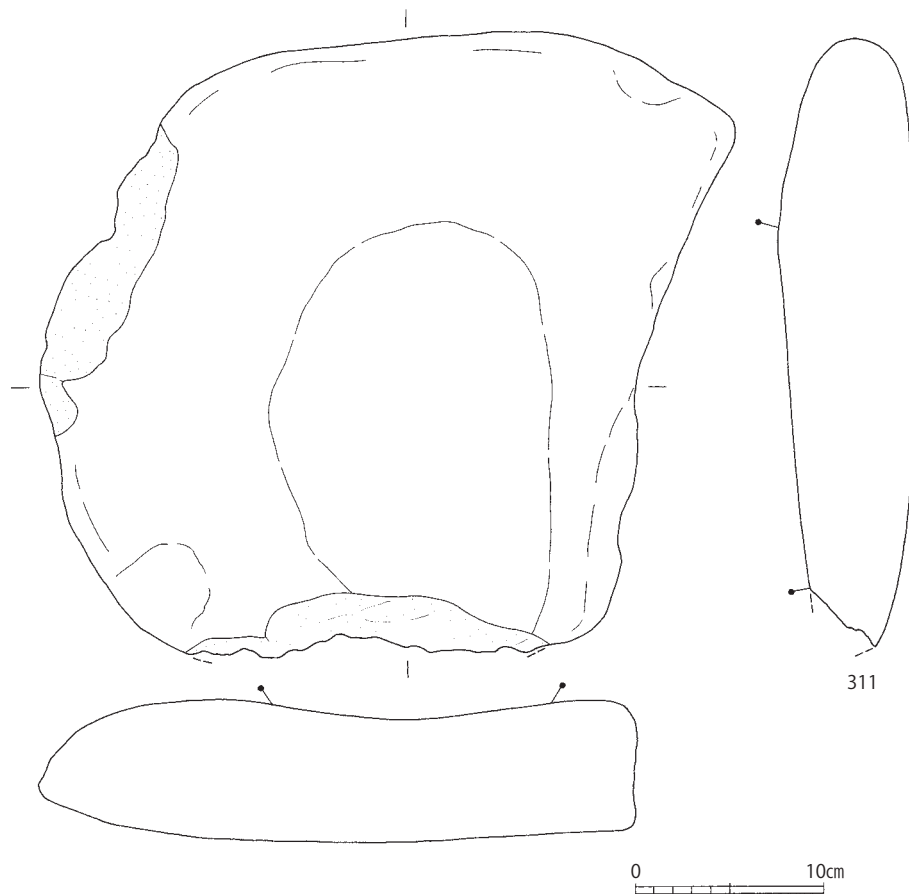
S249 調査区の東部域で第III次調査区にあり、区画では8E区の北部に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかにあつて、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦地形が広がる場所である。そのうちの北部に位置し東方と北方を望むことのできる場所である。またここは北部竪穴建物群と南部竪穴建物群との間にある竪穴建物が少ない場所である。

遺構は、平面形が瓢箪形で、現状での規模が長軸215 cm、短軸101 cmであり、深さは24 cmである(第108図)。長軸の方位は、真北から西へ83°振れた方向にある。S249は、S225と切りあい関係にあり、S225が埋没した後に覆土上面から掘りこんでいる。土坑の西側には燃焼口があり、その手前から煙道内に焼土面が広がっている。煙道の上にはブリッジがあり、その



先に煙出し口がある。煙道から煙出しまでの側面観（縦断面形）はL字状である。

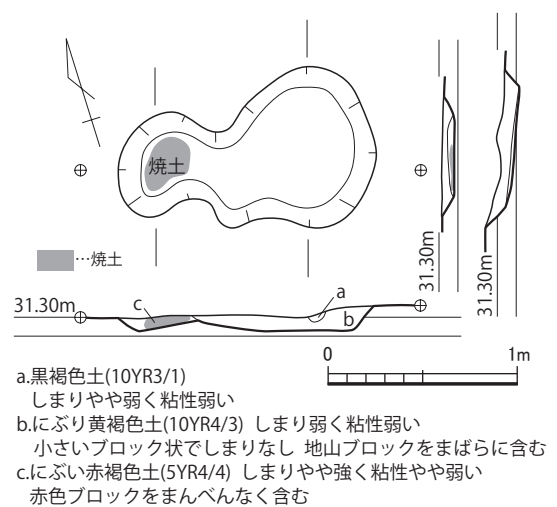
石器 炉穴の中から台石が1点出土している。平面形は歪な方形で、縦横 32.8 cm・31.8 cm、厚さ 7.2 cmの大きさであり、表面に磨滅痕がある（第109図 311）。



第109図 S249出土遺物実測図

S268 調査区の東部域で第Ⅲ次調査区にあり、区画では8D区の中部に位置する（第3図・第478図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかにあつて、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦な地形が広がっている場所であるが、そのうちの北部に位置し、東方と北方を望むことのできる場所である。またここは北部竪穴建物群の西側に接する場所である。

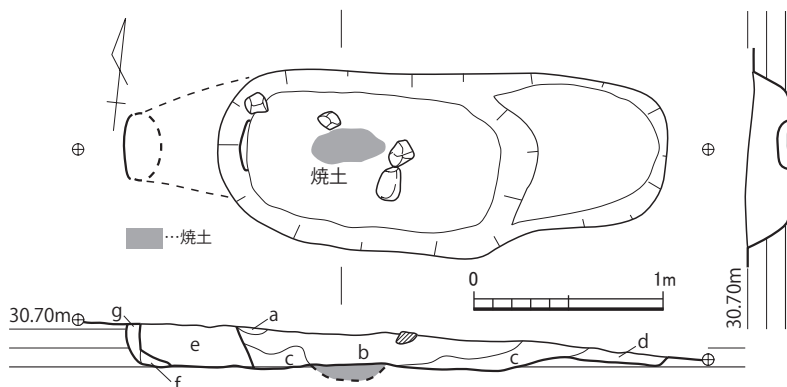
S268は、平面形態が瓢箪形で、現状での規模が長軸137 cm、短軸87 cmであり、深さは燃焼部で7 cm（第110図）。長軸の方位は、真北から西へ77°振れた方向にある。遺構は幅狭い西側と幅広い東側に区分できるが、燃焼したと思われる焼土は西側にある。堆積層を観察すると、くびれ部分で東側の堆積土が西側の堆積土の上のっており、本来は切り合い関係にある別遺構の可能性もある。



第110図 S268実測図(1/40)

S359 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9F区・9G区の境界部に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦な地形が広がっている場所で、そのうちの東端の急傾斜面際にある。ここは南部竪穴建物群の東にあって、中小の遺構は多いものの竪穴建物がない場所である。

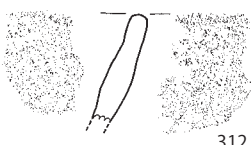
遺構は煙道付炉穴と思われるが、天井部のブリッジが陥没している。平面上において長楕円形の燃焼部の土坑と、その西側40cm~50cmの距離に煙出し部がある。現状で土坑部分の規模が長軸240cm、短軸98cmであり、深さは16cmである(第111図)。煙出し部分を含めた長軸の方位は、真北から西へ95°振れた方向にある。なお、土坑内部の西側には燃焼口があき、その手前部分に焼土面が広がっている。



- a. 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや強く粘性やや弱い 地山ブロックをまばらに含む
- b. 黒褐色土(10YR3/1) しまりやや強く粘性弱い 粒子は非常に細かく細粒である
- c. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり強く粘性やや弱い 3~5cm程度の黄褐色ブロックをまばらに含む
- d. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや強く粘性弱い 黄褐色ブロックをまんべんなく含む
- e. 黄褐色土(10YR5/6) しまりやや強く粘性弱い φ5cm前後の小石やや多く含みφ3~5cm大の礫を少量含む
- f. 黄褐色土(10YR5/6) しまりやや強く粘性やや弱い φ2~3cmの小石を少量含む
- g. にぶい黄褐色土(10YR5/4) しまり強く粘性弱い φ2~3cmの小石を少量含む

第111図 S359実測図(1/40)

土器 外方に開くナデ調整無文土器の口縁部破片(第112図312)と、やはり外方に開く条痕調整無文土器(313)が出土している。後者の調整は、左上から右下方向に延びる斜行調整である。



312

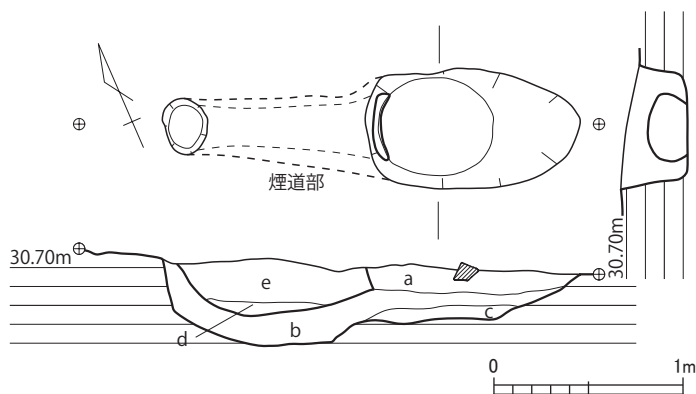


313

第112図 S359出土遺物実測図

S361 S361は、調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9F区の東部に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦な地形が広がっている場所で、そのうちの東端部急傾斜面際にある。またここは南部竪穴建物群の東にあって、中小の遺構は多いものの竪穴建物がない場所である。

遺構は煙道付炉穴で、平面上において楕円形の燃焼部の土坑と、その西側84cmの距離をおいて直径24cmの煙出しがある。現状で土坑部分の規模が長軸114cm、短軸64cmであり、深さは32cmである(第113図)。煙出し部分を含めた長軸の方位は、真北から西へ67°振れた方向にある。なお、土坑内部の西側には燃焼口があき、その手前部分に焼土面が広がっている。煙道の上には厚いブリッジ(e・D層)、その先に煙出しがあるが、煙道から煙出しまでの側面観は弧状に湾曲している。



- a. 暗褐色土(10YR3/4) しまり強く粘性やや弱い 10cm~15cm大の角礫を一部含む φ1mm大の赤色粒子を微量に含む
- b. 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや強く粘性弱い
- c. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや強く粘性やや弱い 地山ブロックをまばらに含む
- d. 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや強く粘性やや強い 地山ブロックをまばらに含む
- e. 黄褐色土(10YR5/6) しまり強く粘性やや弱い (IV層)

第113図 S361実測図(1/40)

S366 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9E区の南部に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦な地形が広がる場所で、その東端の急傾斜面際にあたる。またここは南部竪穴建物群の東にあり、中小の遺構は多いが竪穴建物がない場所である。

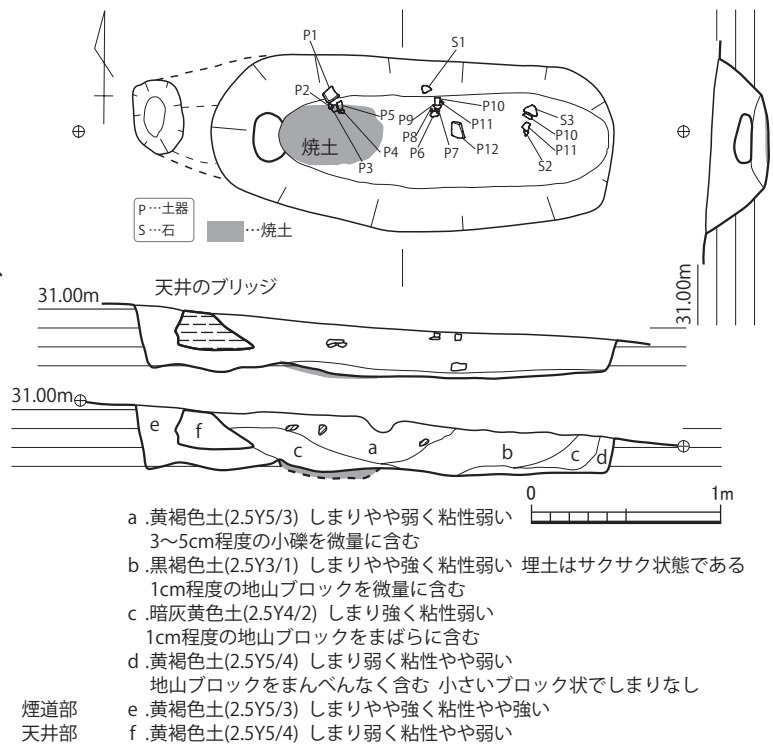
遺構は煙道付炉穴で、平面上において長楕円形の燃焼部の土坑と、その西側10cmの距離において直径24cmの煙出しがある。現状で土坑部分の規模が長軸214cm、短軸91cmであり、深さは26cmである(第114図)。煙出し部分は土坑の西側15cmにあり、これを含めた長軸の方位は、真北から西へ86°振れた方向にある。なお、土坑の西側には燃焼口があり、その手前部分に焼土面が広がっている。この焼土面は浅い皿状に窪んでいる。煙道の上にはブリッジ、その先に煙出しがあるが、煙道から煙出しまでの側面間はL字状である。

土器 ナデ調整無文土器の口縁部から胴部にかけての破片が1点出土している(第115図314)。80°近い角度で立ち上がり、口縁端部から下へ5.5cmのところから上方へ直行する。口縁端部は尖り気味となる。口径は、19.7cmである。口縁端部から角度の変わった部分の5.5cm幅と、破損部のあるその下4cm幅、さらにその下5cm幅は、粘土帯の幅を反映した可能性がある。

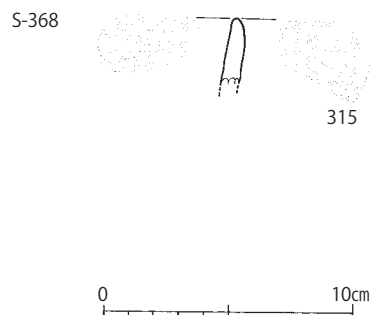
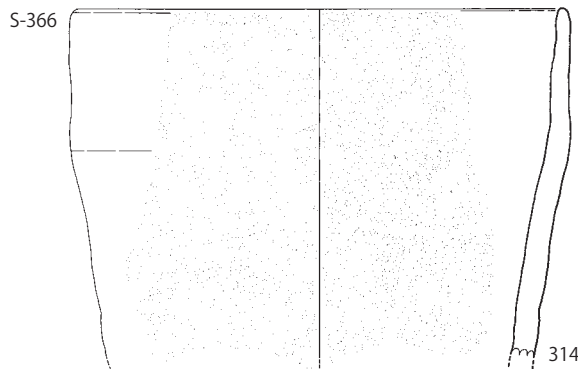
S368 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9F区の北部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦な地形が広がっている場所で、そのうちの東端の急傾斜面際にある。またここは南部竪穴建物群の東にあって、中小の遺構は多いものの竪穴建物がない場所である。

遺構は煙道付炉穴で、平面上において長楕円形の燃焼部の土坑と、その西側10cmの距離において直径24cmの煙出しがある。現状で土坑部分の規模が長軸180cm、短軸75cmであり、深さは35cmである(第116図)。煙出し部分は土坑の西側10cmにあり、これを含めた長軸の方位は、真北から西へ118°振れた方向にある。なお、土坑の西側には燃焼口があき、その手前部分に焼土面が広がっている。煙道の上にはブリッジ、その先に煙出しがあるが、煙道から煙出しまでの側面間はL字状である。

土器 S368からは、ナデ調整無文土器の口縁部破片が1点出土している。口縁端部を尖らせている(第115図315)。



第114図 S366実測図(1/40)



第115図 S366・S368出土遺物実測図

S376 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では10E区の西部に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦な地形が広がっており、その東端から急傾斜面に移り変わった場所にある。またここは南部堅穴建物群の東にあって、遺構の数が少ない場所でもある。

遺構は煙道付炉穴であるが、天井部のブリッジが崩落したような状況で出土した(第117図)。土坑の長軸に沿って堆積土の観察を行ったところ、ブリッジと思われるローム質土と、煙道と思われる部分に黒土がつかっていた。これを断面からみた構造は、土坑のほぼ中央部に煙道入口があり、西端の上部には煙出し口部分が位置している。また断面図のCがブリッジの残骸で、その下と西端の縦状の部分が煙道である。現状で土坑部分の規模が長軸147cm、短軸91cmであり、深さは43cmである(第117図)。長軸の方位は、真北から西へ93°振れた方向にある。煙道から煙出しまでの側面間はL字状である。

S379 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では10D区の中部に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦な地形が広がっており、その東端から急傾斜面移り変わった場所にある。またここは北部堅穴建物群の東にあって、遺構の数が少ない場所でもある。

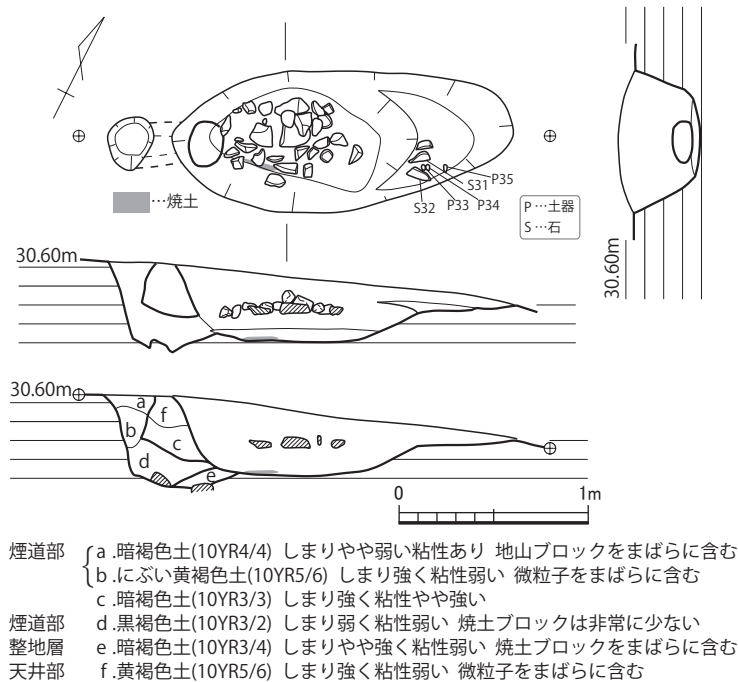
遺構は煙道付炉穴であるが、埋没後に掘られたS390によって大きく破壊されていた(第119図)。

長軸の方位は、真北から西へ82°振れた方向にあり、煙出しは西側の端部にある。現状で土坑部分の規模が長軸131cm(煙出し端部までが218cm)、短軸91cmであり、深さは43cmである(第119図)。煙道から煙出しまでの側面形はL字状である。断面からみた構造は、土坑内部の東端から煙道内のつきあたりまで下り勾配である(俯角4.5°)。土坑の西側端部に煙道入口があり、ここから天井部であるブリッジを挟む西へ42cm離れ楕円形の煙出し口がある。

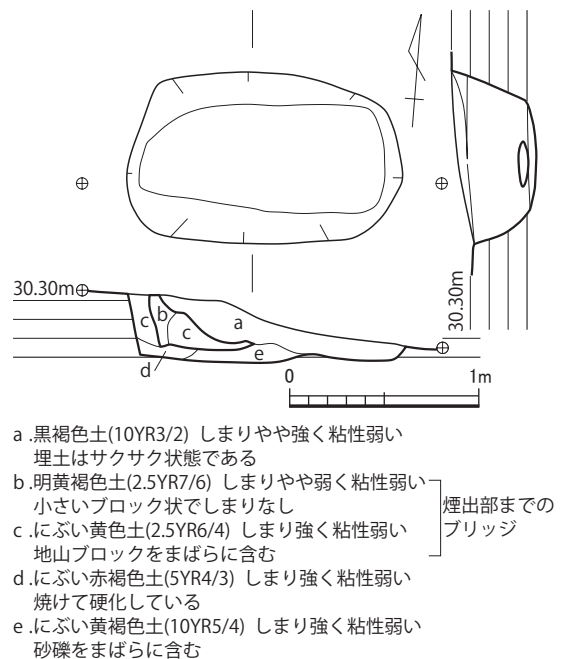
土器 S379からは、ナデ調整無文土器の胴部破片が4点出土している(第118図316~319)。このうち一例は内面に指頭圧痕がある(317)。土器は、厚手の一群(1.1cm、1.5cm、1.2cm)と薄手の一例(319:0.5cm)に区分できる。

S390 S379と同じ場所に位置する煙道付炉穴である。

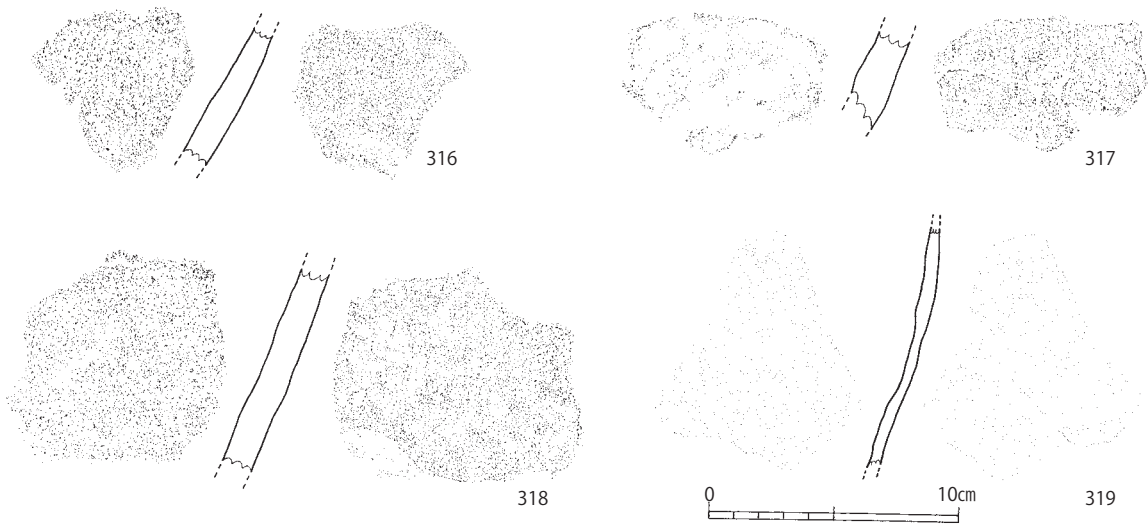
長軸の方位は、真北から西へ138°振れた方向にあり、煙出しは西側の端部にある。現状で土坑部分の規模が長軸140cm(煙出し端部までが206cm)、短軸57cmであり、深さは36cmである(第119図)。煙道から煙出し口までの側面形はL字状に近い。断面からみた構造は、土坑内部の東端から煙道口手前の燃焼部まで下り勾配で、そこから煙道内の突き当たりまで上り勾配となる。土坑の南西方向の端部煙道入口があり、ここから天井部であるブリッジを挟む西へ38cmのところ楕円形の煙出し口がある。



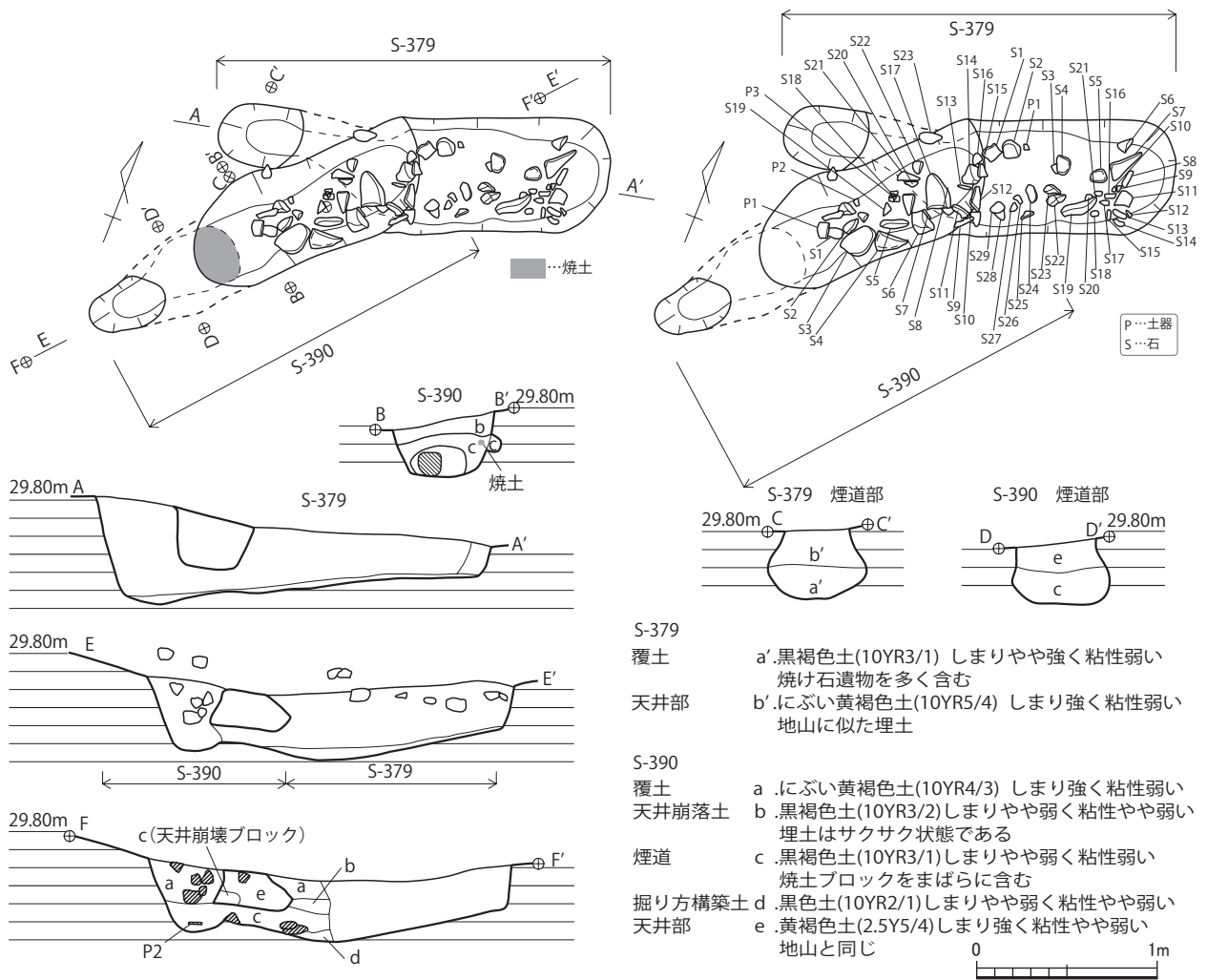
第116図 S368実測図(1/40)



第117図 S376実測図(1/40)



第118図 S379出土遺物実測図

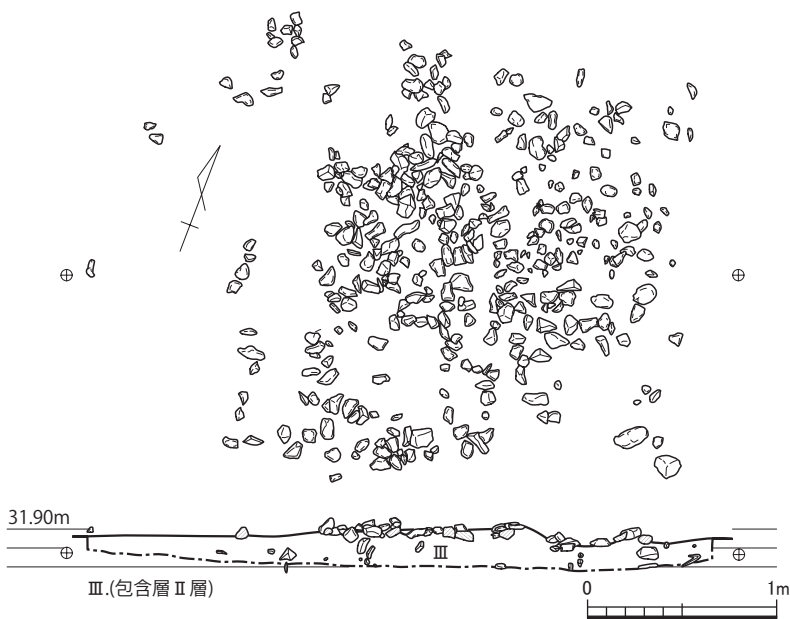


第119図 S379・390実測図(1/40)

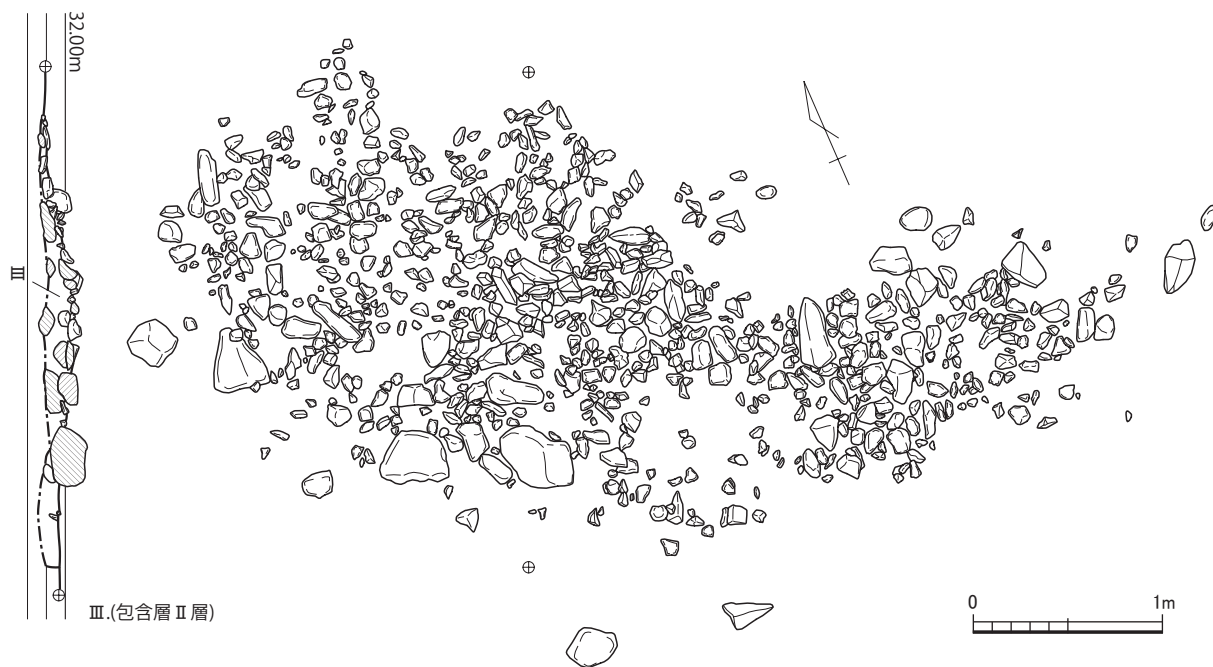
(4) 集石遺構

S035 調査区の西部域で第Ⅱ次調査区にあり、区画では1H区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある緩斜面である。またこの辺りは小遺構が点在するものの、深く掘り下げられた遺構の数が少ない場所でもある。

S035はⅢ層から出土し、南北310cm、東西340cmの間に361個の石があり、その外側には、ほとんど礫が分布していない状況であった(第120図)。特に礫が積み重なったような密集性を示しておらず、分布域の大半で同様な密度である。また下位レベルからも礫が出土する状況が窺える。これらの集石を構成する礫は、長さが10cm前後の例がほとんどである。表面を観察すると、被熱による色が赤化した例がなく、人為的な遺構でない可能性も高い。北西に隣接するS39と関連するものであろう。



第120図 S035実測図(1/40)



第121図 S039実測図(1/40)



第122図 S039出土遺物実測図

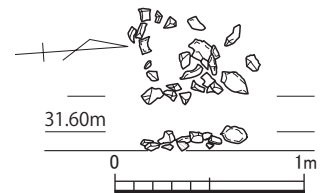
S039 調査区の西部地域で、第Ⅱ次調査区にある。区画では1H区の北半に位置する（第3図）。この辺りは、標高の高い脊梁地形の南側で等高線が湾曲した緩斜面であり、遺構の数が少ない場所でもある。

S039はⅢ層から出土し、分布の中心から見ると北西部分から東部方向へ流線形状の分布をしている（第121図）。主な分布域は、長さ550cm、幅220cmの間に莫大な数の礫がある。また中央部に長軸のように礫が盛り上がるような出土状況となっている。石の大きさは大小様々であるが、10cm～20cmまでの角礫が圧倒的に多い。礫の表面には被熱による赤化は全くない。角礫の表面は、全て風化が同程度で、新しく割れた表面はない。外側には、ほとんど分布していない状況であった。また下位レベルからも礫が出土する状況が窺えることから、基盤に近い土石流によって運ばれてきた礫が露出していたとみなすべきであろう。したがって人為的な遺構でない礫堆の可能性が高く、南東に隣接するS035も同様なものと考えられる。なお、S039の分布域からは僅かな土器・石器が出土しているが、これは礫堆が表面に露出していたことを示すものだろう。

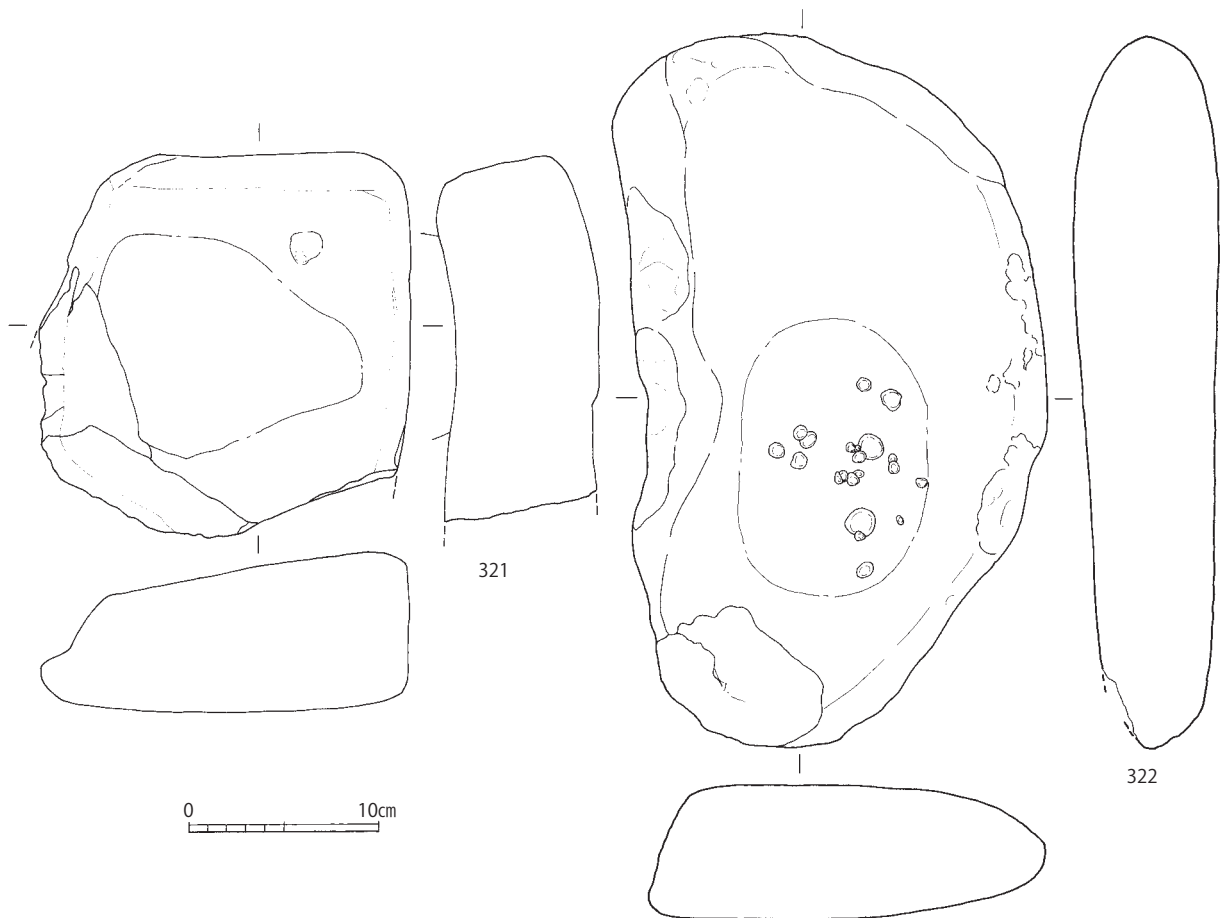
土器 山形押型文土器の口縁部破片が1点出土している（第122図320）。この土器片は、器壁が0.3cmと薄手で、内外面に横方向の山形が施文されている。山形文の頂部ピッチは0.45cmである。内面の口縁端部から直下0.35cmまでの短い柵状文が施されている。文様の特徴から、稻荷山式土器である。

S042 調査区の西部地域で、第Ⅱ次調査区にある。区画では2H区の北半に位置する（第3図）。この辺りは、標高の高い脊梁地形の南側で等高線が弧状湾曲した谷の緩斜面であり、遺構がほとんどない場所である。

S042は、南北70cm、東西50cmの範囲にあり、密集性はなく、10cm前後の礫が多い。礫は、被熱により色が赤化しているが、構成礫が26個と少なく、集石遺構の残骸であろう。また、S042の南に隣接するS40と関連する集石であろう（第123図）。



第123図 S042実測図(1/40)



第124図 S042出土遺物実測図

石器 S042の構成礫として台石が2点出土している(第124図)。一例は、打割によって方形となった例で、表面に磨滅痕があり、大きさは、縦横がほぼ20cm、厚さ8cmである(321)。もう一例は、中央部分に磨滅痕と打痕があり、大きさは、長さ34.7cm、幅21.7cm、厚さ7.6cmもある大型品である(322)。これらの台石は出土した集石のS042、あるいは南西に隣接する集石S040に関連するものと思われる。

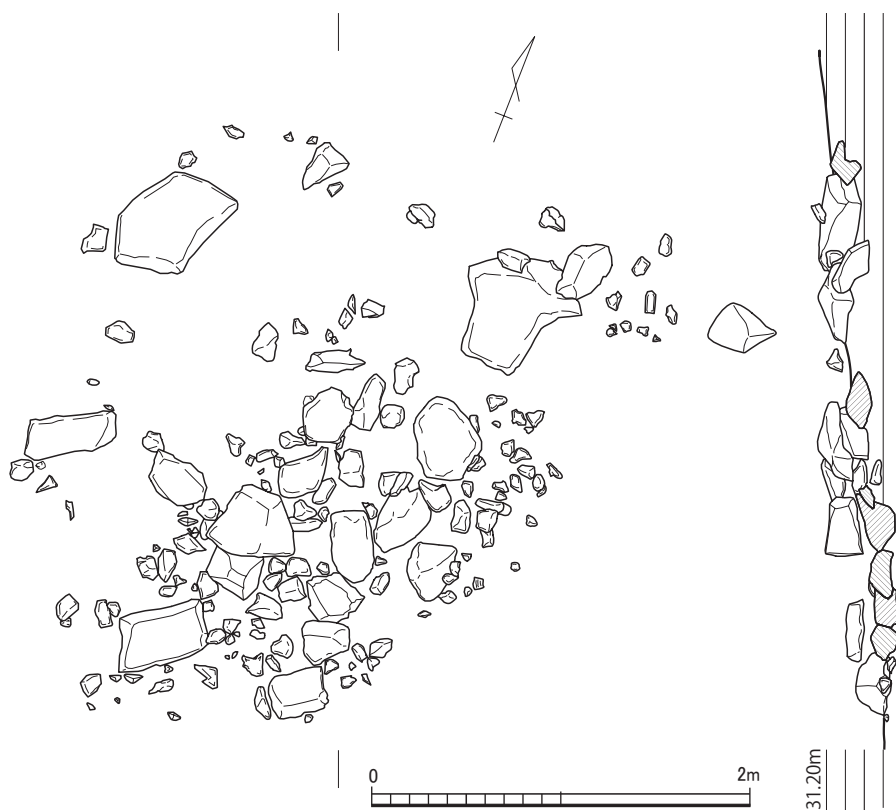
S043 調査区の西南部地域で、第II次調査区にある。区画では3H区の北半に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある弧状湾曲した谷の底部であり、周囲に遺構は少ない場所である。

S043はIII層から出土した集石と配石が複合した遺構で、南北380cm、東西300cmの間に分布する。特に密集する部分は、南北200cm、東西140cmの間に長方形に密集する(第125図)。この範囲には10cm～20cmまでの礫を主体に、台石や配石に使われるような大きめの石が並べたかのようにある。そして長方形の集石の北側・西側・南側と、半円形に大きな石を点々と配置している。それらの周囲にも小さな礫が散布するという特徴がある。これらの石は、被熱により色が赤化している。

S045 調査区の西部域で第II次調査区にあり、区画では0E区・0F区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にあつて、東面する緩斜面が東へ回り込む部分である。

S045はIII a層からIII層の上半部にかけて出土した集石である(第126図)。分布は長く、真北から西へ凡そ16°振れた長軸では約900cm、短軸の幅は幅広いところで500cmという広い分布である。この範囲に、被熱により色が赤化した極めて多くの礫が出土している。この中に、やや密集する部分があるが、ここで繰り返し集石を構築したことを示している。この他、用いた集石構成礫の廃棄場所・片づけ貯蔵場所ということも想定できる。

ここからは平楯式土器・手向山式土器などの土器や、姫島産の大型石核、環状石斧(接合)などが出土している。出土した土器と出土層位からすると縄文時代早期後半の手向山式土器・平楯式土器の段階を中心とする頃に営まれたことが窺える。



第125図 S043実測図(1/40)



第126図 S045実測図(1/40)

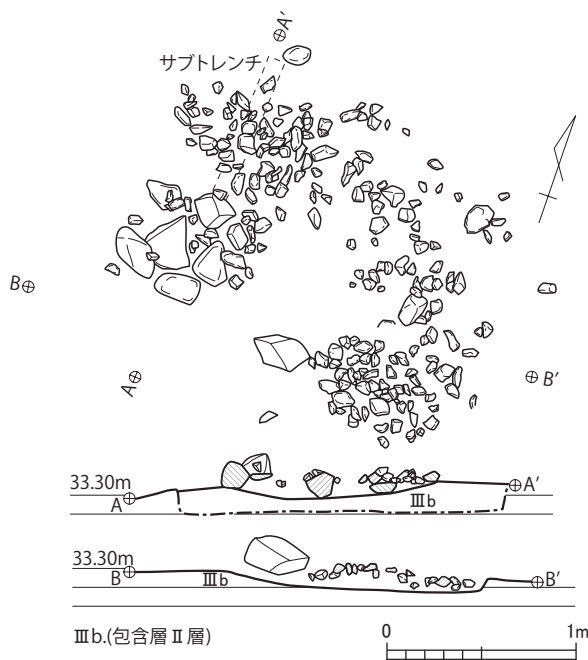
S046 調査区の西部域で第II次調査区にあり、区画では0F区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にあって、東面する緩斜面が東へ回り込む部分である。

S046はⅢa層からⅢ層の上半部にかけて出土した集石である(第127図)。この集石の広がりには、南北180cm、東西230cmの間にあり、細かく見ると西と東の二つのグループに区分できる。西の集石は、さらに西北と西南の二群に区分できる。東の集石は、10cm前後の被熱による色が赤化した礫がほとんどで、南よりに密集する部分があり、その数は59個である。そして集石の西に接するように長さ30cm・幅17cm・厚さ20cmの配石がある。北西の集石もほぼ10cm前後で、被熱による色が赤化した礫が密集しており、64個の焼礫がある。南西の群は配石、もしくは石組遺構とみられるもので、6個の大きな石(20cm~25cm前後の石)を並べ配置していることが窺え、集石遺構とは違うものの近接する集石と何らかの機能的な関連があるのだろう。またこの配石の中や周囲には小さな焼礫22個が分布している。なお東の集石と北西の集石の間は散漫ながら62個の焼礫が帯状に分布している。

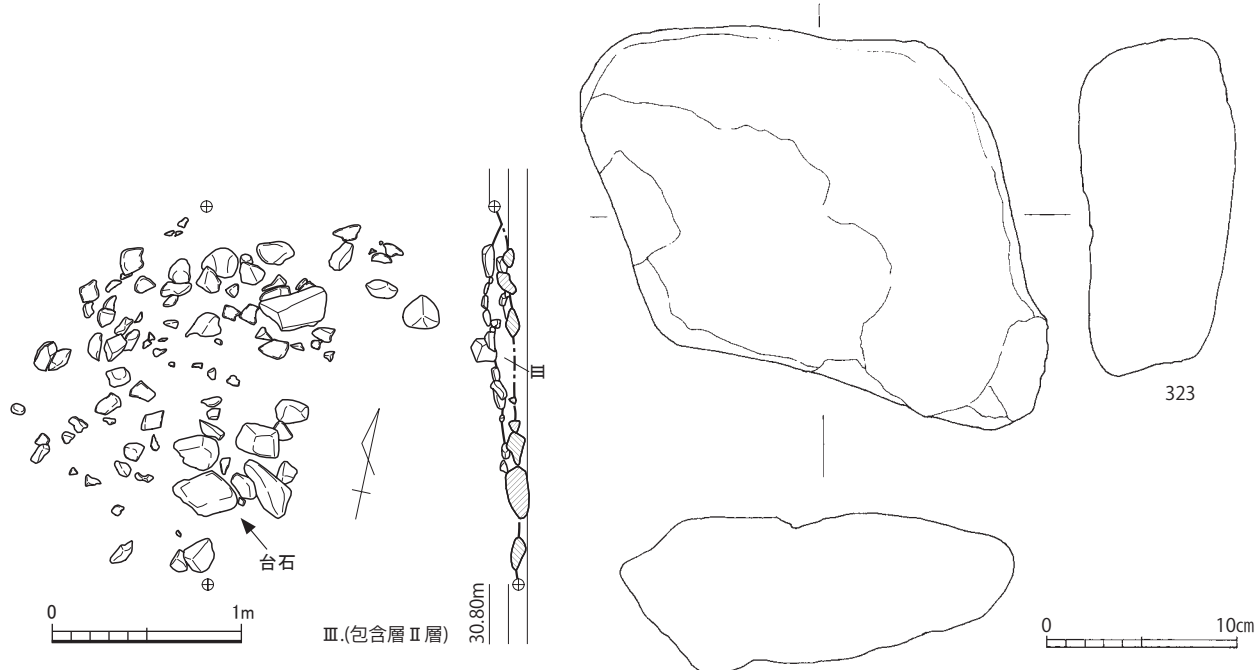
S051 調査区の西南部地域で、第II次調査区にある。区画では4H区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある弧状湾曲した谷の底部である。

S051はⅢ層から出土した集石である(第128図)。この集石の広がりには、南北220cm、東西180cmの間にあり、細かく見ると中央部に礫が疎らな部分がある。また北東と南東の礫には大型礫が多く、西側の礫には小型の例が多い。特に大型礫の多い南東の一群は4個の大型礫を中心とする配石と理解し、小型礫からなる集石との機能的な違いによる配置と理解するべきかもしれない。なお、礫は総数93個からなり、被熱により色が赤化している。

石器 配石の機能の一端を窺わせるものとして、台石が1点出土している(第129図323)。形態は、隅丸の菱形をしており、長軸29.3cm、短軸幅20cm、厚さ8.5cmの巨大な礫である。



第127図 S046実測図(1/40)



第128図 S051実測図(1/40)

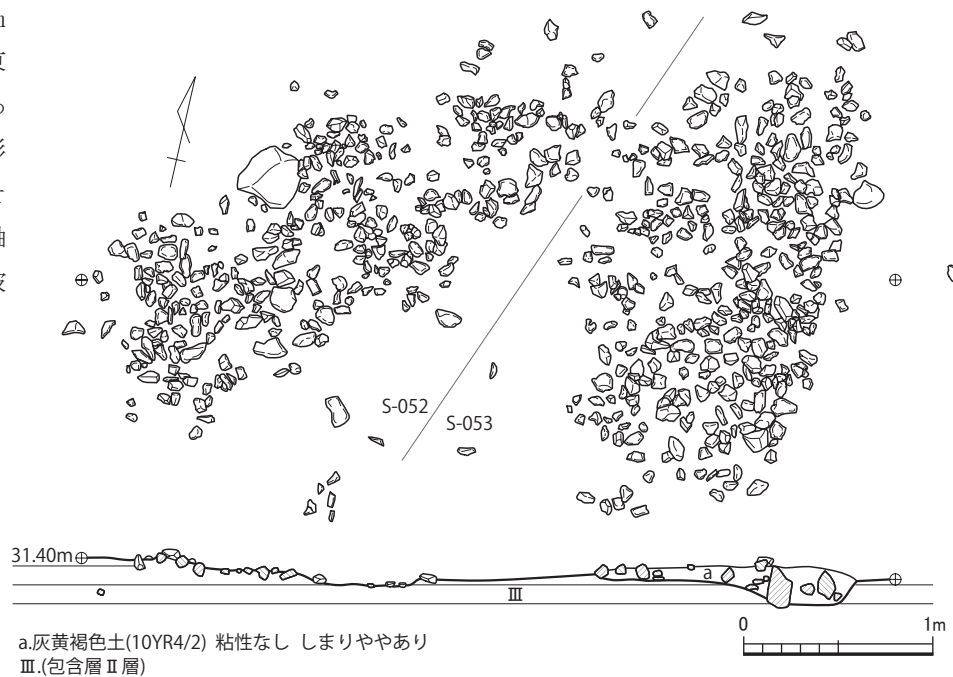
第129図 S051出土遺物実測図

S052 調査区の西南部地域で、第II次調査区にある。区画では3G区の西南に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある弧状湾曲した谷の底部である。

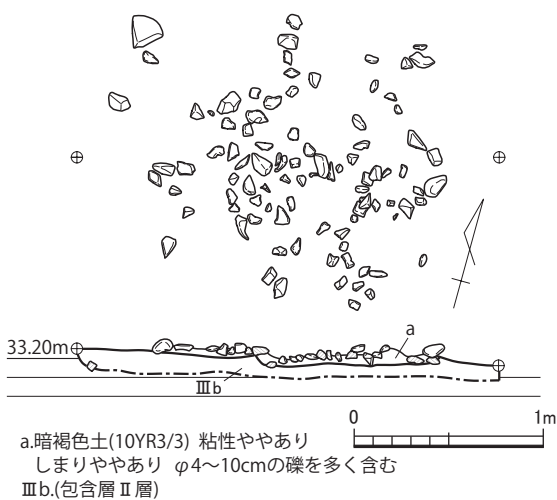
S052は、III層から出土した集石である(第130図)。この集石の広がり、中心部から見ると東北から南西方向へ方位的に斜めに分布するが、等高線に沿っている。長軸を方位で見ると真北から西へ135°振れている。集石の長軸は主要分布域で290cm、短軸120cmの間にある。しかし細かく見ると南西部から北東への長軸に沿って130cmのところまで礫がやや少なくなっている部分がある。この部分を境界としてみると、長方形に近い分布となっている。その規模は、長軸230cm・短軸120cmである。なお、礫は被熱により色が赤化している。

S053 調査区の西南部地域で、第II次調査区にある。区画では3G区の西南に位置する(第3図)。上述したS052の東に隣接する。

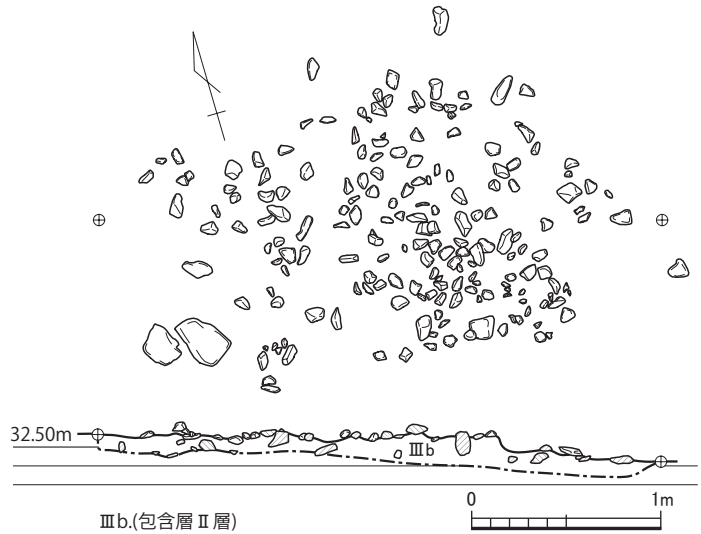
S053は、III層から出土した集石である(第130図)。この集石の広がり、中心部から見ると、ほぼ南北方向へ分布しており、真北から4.5°(175.5°)振れている。集石の長軸は主要分布域で280cm、短軸150cmの間にある。しかし細かく見ると北端から30cm、南端から30cm中央方向へ離れた部分や、東西で石の密度が多い部分がある。この範囲をみると長方形に近い分布となっている。その規模は、長軸210m・短軸120cmである。なお、礫は被熱により色が赤化している。



第130図 S052・S053実測図(1/40)



第131図 S056実測図(1/40)



第132図 S061・S062実測図(1/40)

S056 調査区の西部域で第II次調査区にあり、区画では1E区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にあって、東面する緩斜面が東へ回り込む部分である。この集石の西方に大型の集石群があり、これに関連する一連の集石の一つであろう。

S056は、III層から出土した集石である(第131図)。この集石の広がり、南北170cm、東西200cmの間にあり、あまり密集性はなく、疎らな分布である。構成礫は、18cm前後の礫が1点あるだけで、他は10cm前後の礫がほとんどである。また礫は、総数94個からなり、被熱による色が赤化・破碎がみられる。

S061 (S062) 調査区の西部地域で、第II次調査区にあり、区画では3F区の北西に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある谷地形で、S061・S062はその谷頭付近にあたる。これらの集石は当初、別々の遺構として取り扱っていたが、検討の結果、同一の集石である可能性が高くなり、ここでは一緒に報告する。

S061は、III層から出土した集石である(第132図)。この集石の広がり、南北180cm、東西290cmの間にあり、あまり密集性はないが、東南部ではやや多い。構成礫は、10cm前後の礫がほとんどである。また礫は、被熱による色が赤化・破碎がみられる。東南部27cmと約20cmの大型礫があるが、色が赤化はなく、配石であろう。台石的な用途に用いたのだろう。集石と密接な関係がうかがえる。

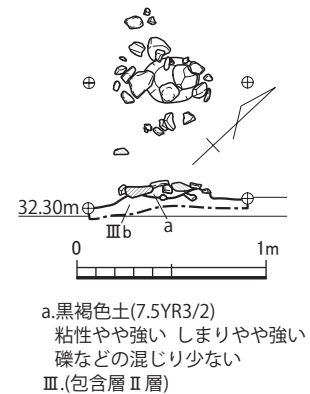
S063 調査区の西南部地域で、第II次調査区にある。区画では3F区の北部に位置する(第3図)。上述したS061の東に隣接し、谷の谷頭にあたる。

S063は、III層から出土した集石である(第133図)。この集石の広がり、南北70cm、東西60cmの間にあり、分布範囲が狭く構成礫は27個と少ないが、中央部分の密集度は高い。礫は被熱により色が赤化している。集中部分の下に、径30cm・深さ5cmの浅く小規模なピットがある。

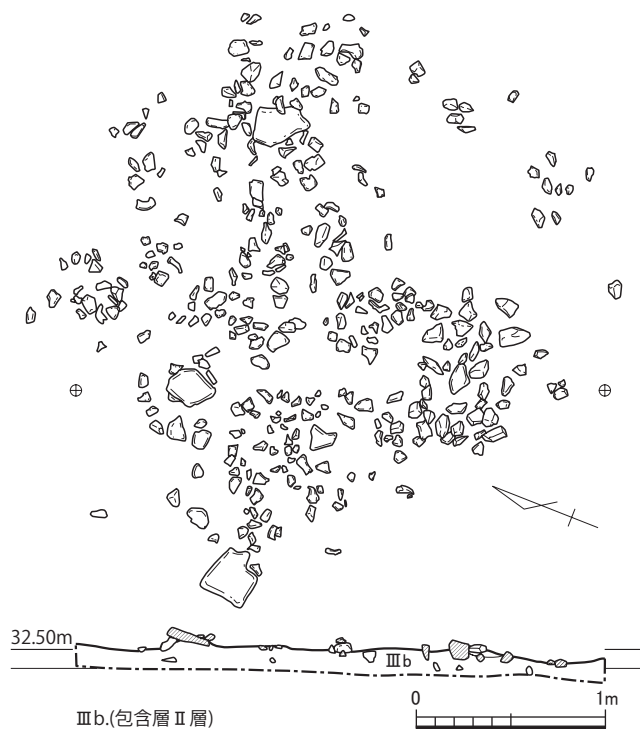
S065 調査区の西部地域で、第II次調査区にあり、区画では2F区と3F区の境界に位置する(第3図)。地形的な場所は、上記二つの集石と同様である。

S065は、III層から出土した集石である(第134図)。この集石の広がり、南北300cm、東西320cmの間にあり、分布範囲が広く構成礫は333個である。それらの礫の大半は、10cm前後の大きさで、被熱により色が赤化している。中央部分の密集度は高い。また、礫の分布域に、25cmから30cm前後の礫が三か所あるが、集石の作業に伴う台石、もしくは配石であろう。

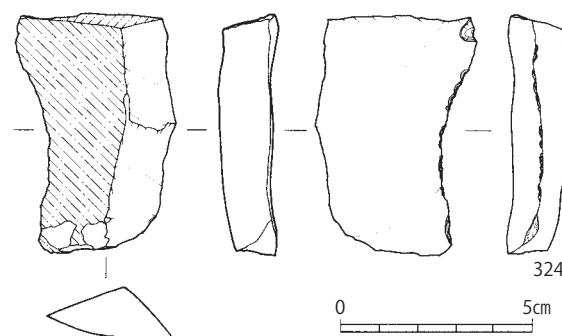
石器 S065の分布範囲からは、使用痕のある剥片が1点出土している。裏面の右側縁に刃こぼれがある(第135図324)。



第133図 S063実測図(1/40)



第134図 S065実測図(1/40)

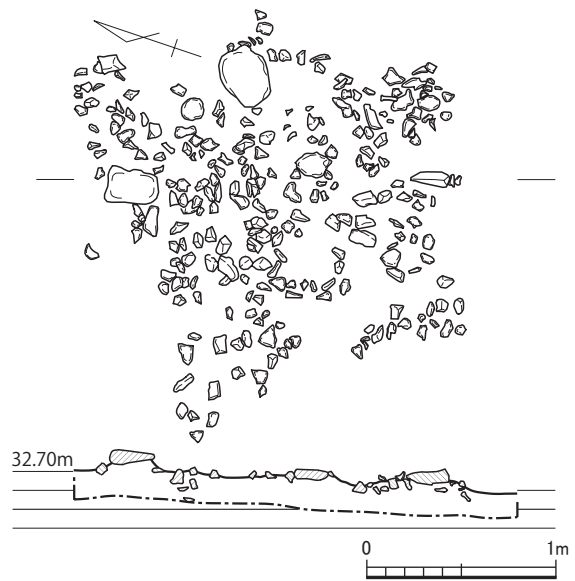


第135図 S065出土遺物実測図

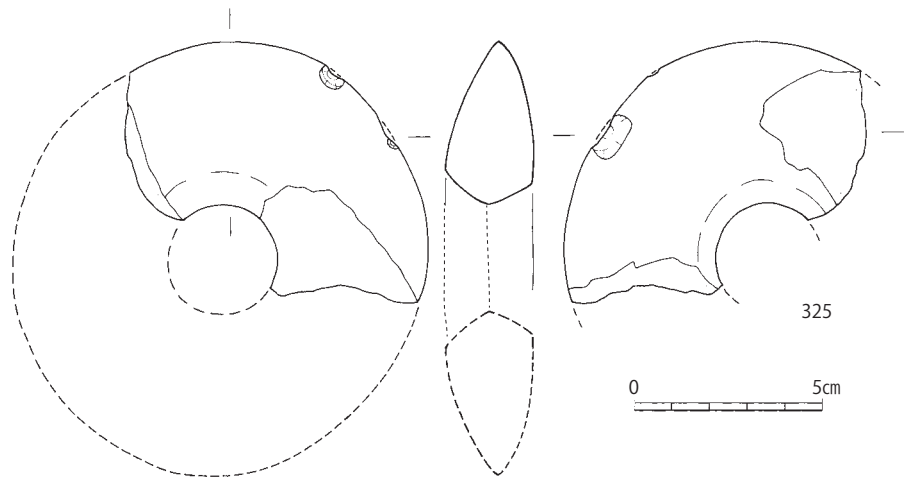
S070 調査区の西部地域で、第II次調査区にあり、区画では3E区の南部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある谷地形で、S070はその谷頭付近にあたる。集石が占地する場所は谷頭であるが等高線の開いた勾配の緩い場所である。

S070は、III層から出土した集石である(第136図)。この集石の広がり、南北260cm、東西230cmの間にあり、分布範囲が広く構成礫は254個である。それらの礫の大半は、10cm前後の大きさで、被熱により色が赤化している。中央部分の密集度は高い。また、礫の分布域に、30cm前後の礫が二か所あり、集石の作業に伴う台石、もしくは配石であろう。なお、この台石もしくは配石は集石分布の北縁・東縁付近に位置している。

石器 環状石斧の破片が1点出土している(第137図325)。環状石斧は、直径が12cm、中央にある孔の径は2.8cm、厚さは2.3cmの大きさ有するドーナツ形の石斧である。穿孔は両面から行われており、内縁は稜を形成している。穿孔部の外縁(刃部側と穿孔部側との境界にあたる稜)の径は3.8cmである。表裏両面とも、丁寧な琢磨が行われており、外縁の刃部が両刃となっている。刃部に刃こぼれが生じている。環状石斧は、他に0E区・0F区の大規模集石の上面から破損した状態で2点出土しており接合する。



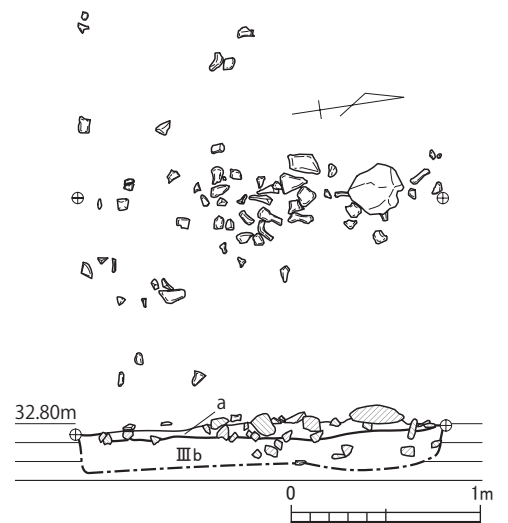
第136図 S070実測図(1/40)



第137図 S070出土遺物実測図

S073 調査区の西部地域で、第II次調査区にあり、区画では2E区と3E区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある谷地形で、S073はその谷頭付近にあたる。集石が占地する場所は谷頭であるが等高線の開いた勾配の緩い場所である。

S073は、III層から出土した集石である(第138図)。この集石の広がり、南北200cm、東西200cmの間にあり、構成礫は63個である。それらの礫の大半は、10cm前後の大きさで、被熱により色が赤化している。中央部分の南北60cmと東西40cm間の密集度は高い。また、礫の分布域に、30cm前後の礫が一個あるが、集石の作業に伴う台石、もしくは配石であろう。なお、この台石もしくは配石は集石分布の北縁付近に位置している。



a.黒褐色土(10YR2/3) 粘性ややあり
しまりややあり 地山ブロックを少し含む
III b.(包含層II層)

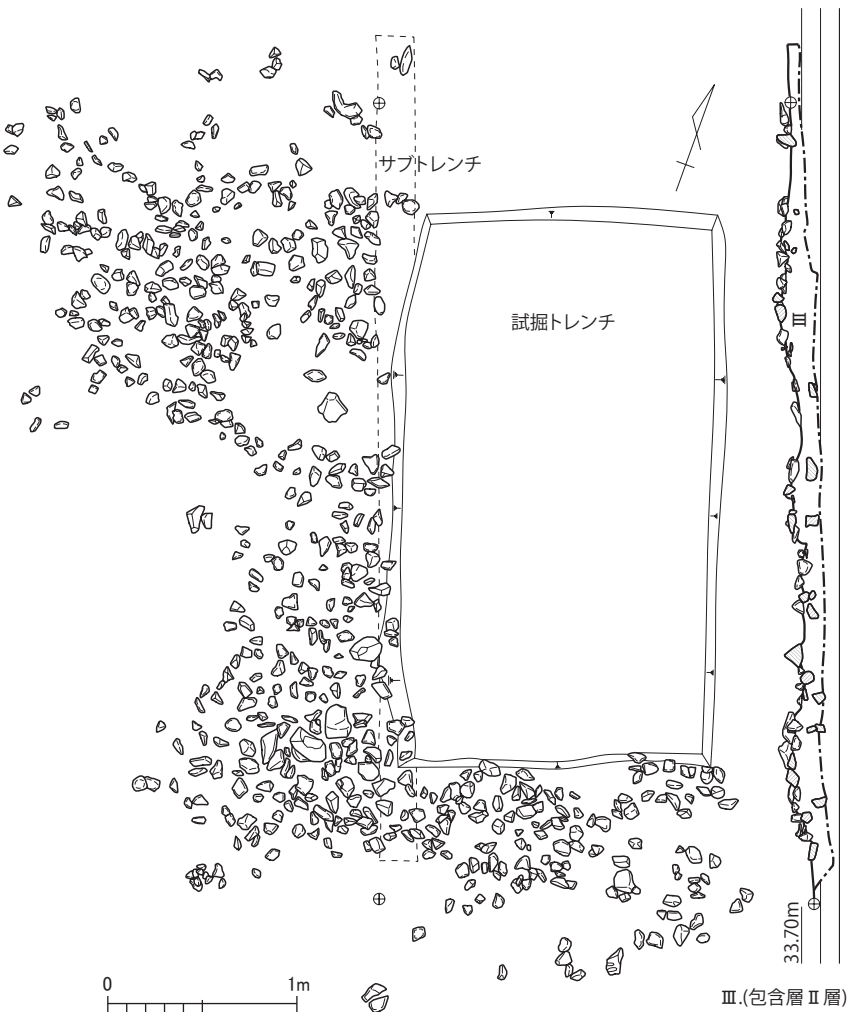
第138図 S073実測図(1/40)

S074 調査区の西部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では2E区と2F区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある谷地形で、S073はその谷頭付近に位置する。集石が占地する場所は谷頭であるが、等高線の開いた勾配の緩い場所である。

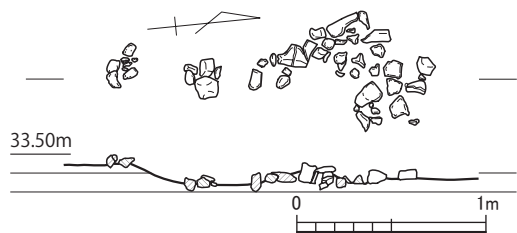
S074は、Ⅲ層から出土した集石である(第139図)。この集石の広がり、南北500cm、東西400cmの間にあり、構成礫は多い。しかし東半分の広い範囲が試掘トレンチ(南北300cm×東西160cm)によって掘削されている。おそらくその掘削範囲は集石の分布範囲の約二分の一弱に上ると推定される。出土した礫の分布を検討すると、北部の一群と南部の一群にまず二分できる。更に北部の一群は、中央にまばらな部分があるのでこの部分で東西区分できる。南部の一群も礫分布に粗密がみられ、区分できる可能性が高い。このことは、本来的には幾つかの集石が営まれていたことを窺わせる。なお、礫の大半は、10cm前後の大きさで、被熱により色が赤化している。こうした礫の垂直分布を観察するためのサブトレンチを試掘トレンチの西壁に沿うように入れ掘削したところ、礫はあまり深いところに分布していない状況であった。

S087 調査区の西部地域で第Ⅱ次調査区にあり、区画では0F区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にあつて、東面する緩斜面が東へ回り込む部分である。

S074は、Ⅲa層から出土した集石である(第140図)。この集石の広がり、南北170cm、東西60cmの間にあり、構成礫は少なく50個である。南北に長い、試掘トレンチの掘削でこのような分布になった可能性がある。北部に密集する傾向がある。分布的には、この集石の東側に位置する巨大なS45・S46などの集石に連なる可能性もある。礫の大半は、10cm前後の大きさで、被熱により色が赤化している。



第139図 S074実測図(1/40)



第140図 S087実測図(1/40)

S244 調査区の東部域で第Ⅲ次調査区にあり、区画では8C区の西よりに位置する(第3図)。この辺りは、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、その北東部にある。またここは北部堅穴建物群の北西にあって、遺構の数が少ない場所でもある。

S244は、Ⅲ層から出土した集石である(第141図)。この集石の広がり、南北220cm、東西130cmの間にあり、構成礫は301個である。それらの礫の大半は、10cm前後の大きさで、被熱により色が赤化している。分布の平面形は、胴張の長方形で、この長軸の方位は、北から西へ23°振れており、緩やかな傾斜面に直交するように構築されている。

S247 調査区の東部域で第Ⅲ次調査区にあり、区画では9C区の西よりに位置する(第3図)。この辺りは、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、ここはその北縁部にある。またここは北部堅穴建物群の間にあって、遺構の数がやや少ない場所でもある。

S247は、Ⅲ層から出土した集石である(第142図)。この集石の広がり、南北160cm、東西130cmの間にあり、構成礫は59個である。それらの礫は、10cm前後の大きさの例が多いが、20cm前後の大きさを有する大型礫も5点ある。なおこれらの礫は被熱により色が赤化している。礫の分布状況は、まばらな分布で密集性はない。集石としての使用が終了後、大きめの礫を再利用のために抜き取った痕跡かもしれない。

S248 調査区の東部域で第Ⅲ次調査区にあり、区画では8C区・9C区の境界付近に位置する(第3図)。この辺りは、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、ここはその北東部にある。またここは北部堅穴建物群の間にある。

S248は、Ⅲ層から出土した集石である(第143図)。この集石の広がり、長さ130cm、幅135cmの間にあり、構成礫は56個である。しかし配置状況をよく観察すると長軸100cm、幅60cmの大きさを有する長方形の分布が見える。これらの礫は、10cm前後の大きさの例が多いが、20cm前後の礫も半分近くある。なおこれらの礫は被熱により色が赤化している。また近接する場所に長さ46cm、幅16cmの配石が存在しているが、台石であった可能性が高い。

S329 調査区の東部域で第Ⅳ次調査区にあり、区画では10F区・11F区の境界付近に位置する(第3図)。このうち、西から東に延びる舌状台地のなかでも末端の斜面部(小規模な段丘崖)でS329は出土した。この斜面部にS329以外に遺構の可能性のあるものはない。

S329は、Ⅲ層から出土した集石である(第144図)。この集石の広がり、南北520cm、東西360cmの間にあり、構成礫は多数である。大小様々な礫が出土しているが、全く被熱しておらず、色が赤化した例はない。炭化物なども全く見られない。

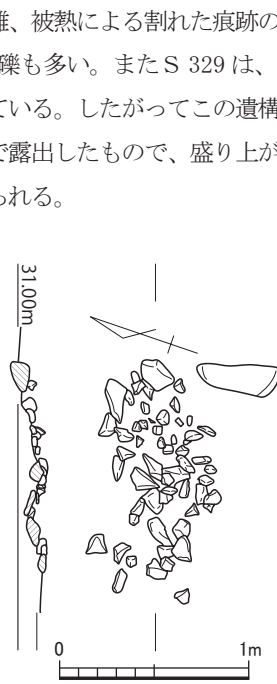
また大小様々な角礫であるものの、剝離、被熱による割れた痕跡のない自然状態のままである。下部には1cm以下の小礫も多い。またS329は、その長軸が斜面に沿って分布していることがわかっている。したがってこの遺構は集石ではなく、基盤層上位の段丘礫層などが斜面で露出したもので、盛り上がった礫堆と考えられるもので、人為性はないと考えられる。



第141図 S244実測図(1/40)



第142図 S247実測図(1/40)

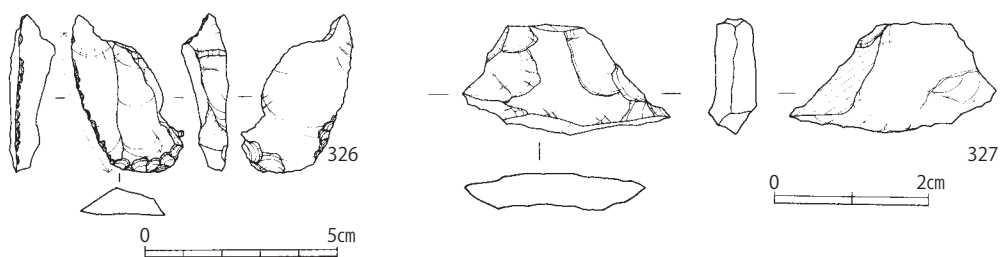


第143図 S248実測図(1/40)

石器 検出作業時に、内部から石器が2個出土している。1点は、エンド・スクレイパー（第145図326）、もう一点は幅広剥片である（327）。これらは、S 329に被ったⅢ層内から出土した。なお、エンド・スクレイパーは流紋岩を用いたもので、旧石器時代に帰属するものであろう。



第144図 S329実測図(1/40)

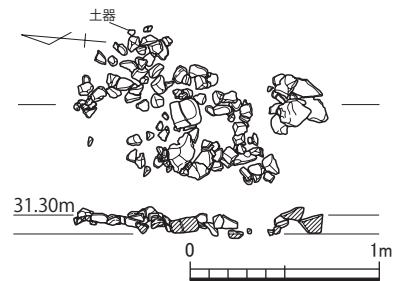


第145図 S329出土遺物実測図

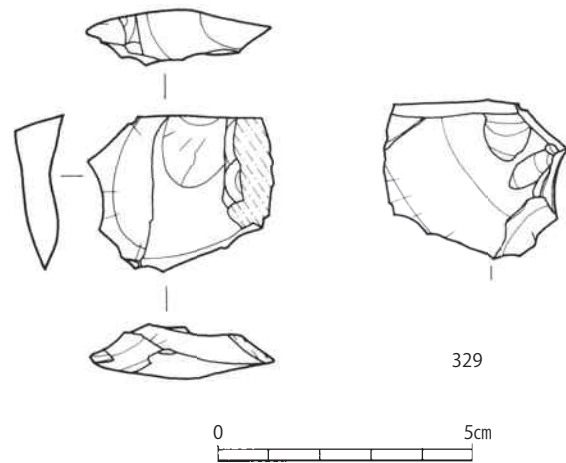
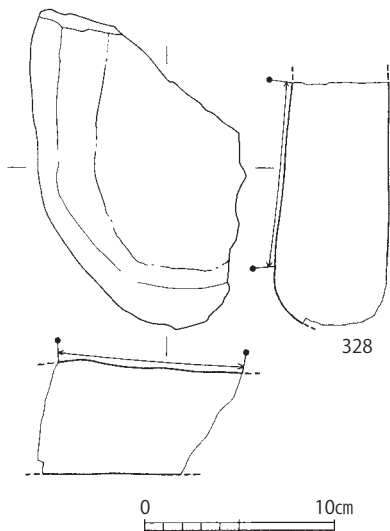
S339 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9E区の西よりに位置する(第3図)。この辺りは、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっており、ここはその中央にある。またここは北部と南部の竪穴建物群の間にあって小遺構の多いところであり、竪穴建物群の外域ということもできる。

S 339 は、Ⅲ層から出土した集石である(第146図)。この集石の広がり、長軸120 cm、短軸70 cmの間にあり、構成礫は90個である。それらの礫は、10 cm前後の大きさの例が多いが、20 cm前後の大きさを有する大型礫も数個ある。なおこれらの礫は被熱により色が赤化している。こじんまりした集石であるが、礫の分布状況を見ると密集していると同時に2群に区分できることがうかがえる。

石器 2点の石器が出ている。台石は、現状で長さ18.4 cm、幅11 cm、厚さ6 cmの大きさを有しているが(第147図328)、元々は倍近い長さを持つと推定される。上部から右側にかけて打割られている。表面側に使用による磨滅痕があるが、打割りに切られている。この台石は、集石の西よりから出土したが、集石の機能と関連するのだろう。もう1点は剥片で、未加工である(329)。



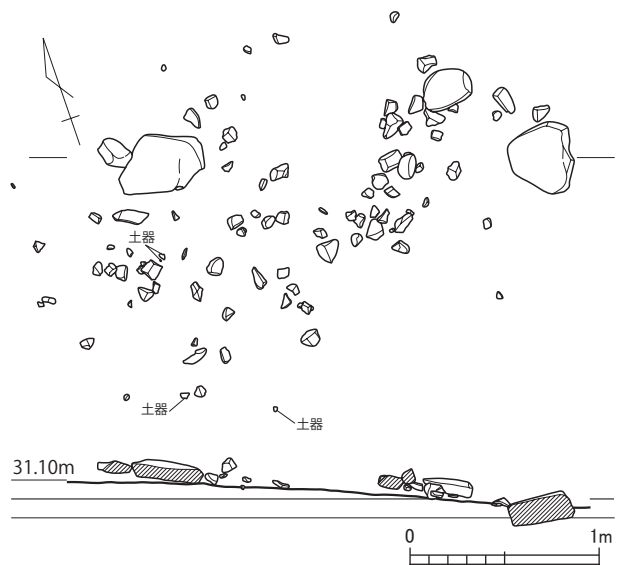
第146図 S339実測図(1/40)



第147図 S339出土遺物実測図

S340 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9E区の中央に位置する(第3図)。この辺りは、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっており、ここはその中央にある。また、ここは北部と南部の竪穴建物群の間にあって小遺構の多いところであり、竪穴建物群の外域ということもできる。

S 340 は、Ⅲ層から出土した集石である(第148図)。この集石の広がり、東西300 cm、南北190 cmの間にあり、構成礫は88個である。それらの礫の分布をみるとほぼ中央で東西に区分できる。東群の礫の総数は35個で、配石が2点、西群の総数は53個で、配石が1点である。10 cm前後の大きさの例が多いが、20 cm前後の大きさを有する大型礫も数個ある。なお、これらの礫は被熱により色が赤化している。礫の分布状況を見ると密集していることがうかがえる。



第148図 S340実測図(1/40)

(5) 土坑を伴う集石遺構

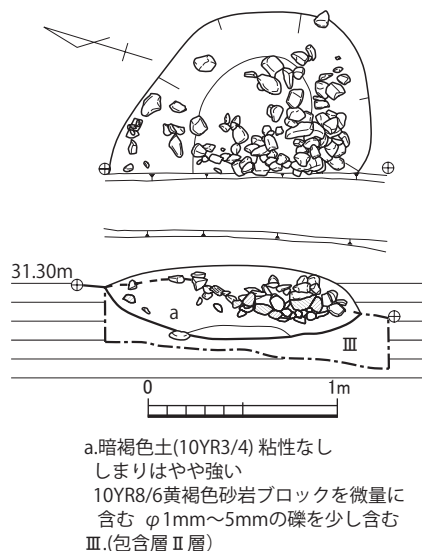
深さ 20 cm～30 cm 前後の土坑を掘り、その内部を中心として集石を用いた作業が行われた遺構である。

S004 調査区の西南部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では2I区と3I区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある谷地形で、S004はその谷底付近の斜面にあたる。集石が占拠する場所は斜面であるが、等高線の間隔が開いた勾配の緩い場所である。

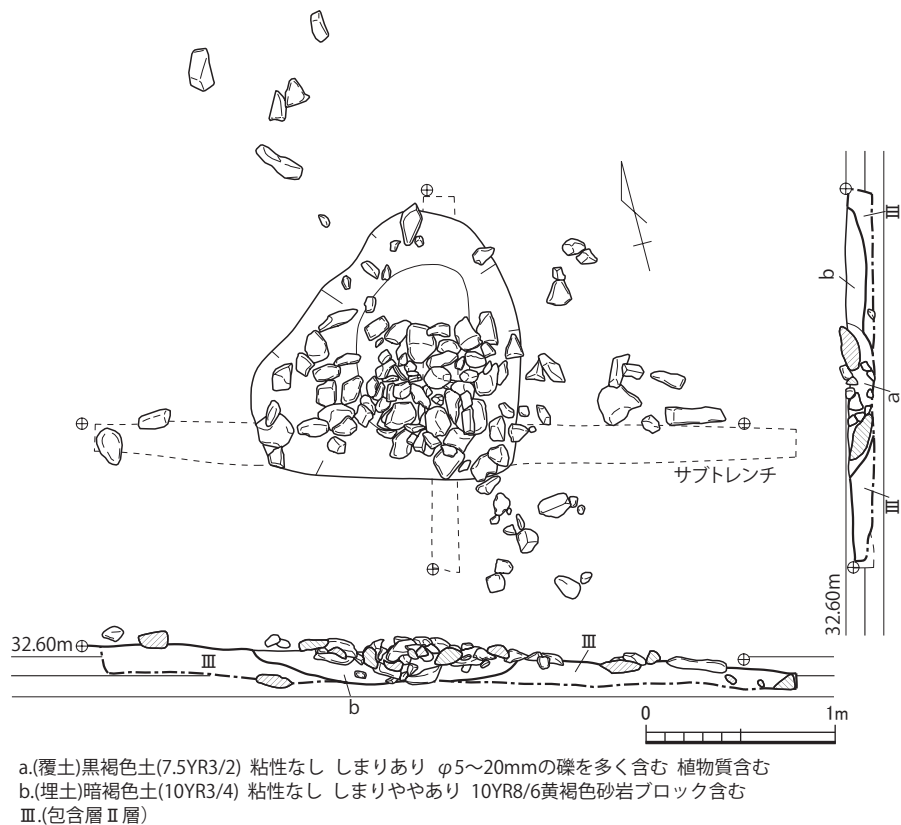
S004遺構は、Ⅲ層中に土坑を掘りこんでおり、サブトレンチによって四分の一程度が掘削されているものと推定される。その規模と形は、概ね長軸120cm、短軸110cmの楕円形と思われる(第149図)。その後、内部に三分の一程度の流入土が堆積した後に集石を入れている。窪んだ土坑に礫が入られたこともあって、あまり散乱することなく密集している。礫の大きさは大半が10cm程度の礫で、格別大きい礫はない。礫の表面は、被熱によって色が赤化しているだけでなく、割れたことも推定される。

S034 調査区の西南部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では1G区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある内湾状の谷地形で、S034はその西斜面にあたる。

S034遺構は、Ⅲ層中に土坑を掘りこんでいる。その規模と形は、概ね東西南北とも110cmで、隅丸三角形と思われる(第150図)。その後、深さ15cm程度の土坑内部に流入土が少し堆積した後に集石を入れている。窪んだ土坑に礫が入られたこともあって、あまり散乱することなく密集している。そのなかには部分的に小積んだような状況もある。土坑の外側にも礫が散在しているが、土坑を中心とする作業の残滓であろう。なお、礫の大きさは大半が15cm～20cm前後とやや大きい礫である。礫の表面は、乾くと白くなっており、被熱による色の赤化は明確ではない。



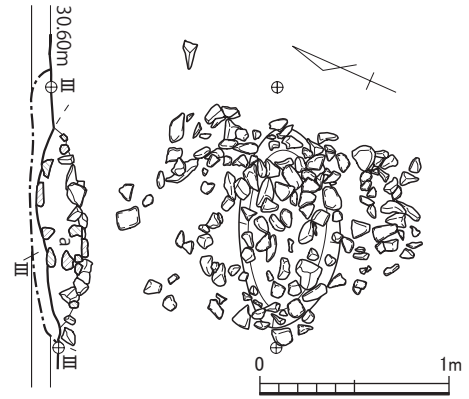
第149図 S004実測図(1/40)



第150図 S034実測図(1/40)

S044 調査区の西南部地域で、第II次調査区にあり、区画では4H区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある内湾状の谷地形で、S044はその谷底部にあたる。

S 044 遺構は、土坑と集石からなる。まずIII層中に土坑を掘りこんでいるが、その規模と形は、長軸 107 cm、短軸 53 cm の長楕円形と思われる(第151図)。長軸は、北から70.5°(109.5°)振れた方向で、等高線に対しては並行する関係にある。興味深いことに、深さ 14 cm程度の土坑内部に流入土が少し堆積した後に土坑を覆うように集石を置いている。密集し、小積んだような部分もあるが、北から西にかけてばらけたかのような状況も窺える。集石の規模と形は、南北 160 cm・東西 120 cmとの隅丸三角形である。平面形の中で、西側の礫分布ラインは、北から西へ8°振れた方位で、本来は等高線に対し直交するような長方形に近い形をしていたのかもしれない。なお、礫の大きさは大半が 15 cm~20 cm前後とやや大きい礫である。礫の表面には、被熱による色の赤化がある。

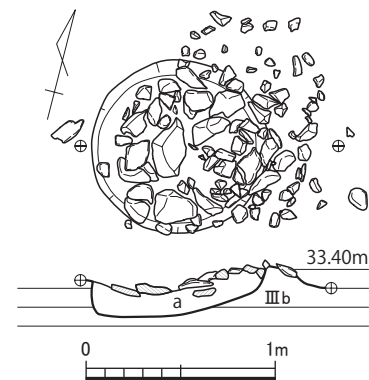


a. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性やや強い しまりやや強い III.(包含層II層)

第151図 S044実測図(1/40)

S047 調査区の西地域で、第II次調査区にあり、区画では0E区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にあつて東面する斜面が東方へ回り込む部分で、S047はその緩斜面にある。この辺りは南北方向に巨大な集石S 045が広がっており、S 047はその最も礫が密集した部分の一つである。

S 047 遺構は、土坑と集石からなる(第152図)。まずIII a層下部もしくはIII b層上部に土坑を掘りこんでいるが、その規模と形は、直径 92 cmのほぼ円形である。その後、深さ 14 cm程度の土坑内部に流入土が少し堆積した後に土坑を覆うように集石を置いている。密集し、小積んだような部分もあるが、北から東にかけて小礫がばらけたかのような状況も窺える。集石の規模と形は、最大で南北 140 cm・東西 170 cmであるが、主要な分布は南北 130 cm・東西 110 cmである。なお、礫は 32 cm~215 cmまでの比較的大きな石が土坑内にあり、それ以下の石は土坑の東壁よりからその外側、北壁の外側に分布している。礫の表面には、被熱による色の赤化がある。周辺の集石から平椀式土器が出土している。

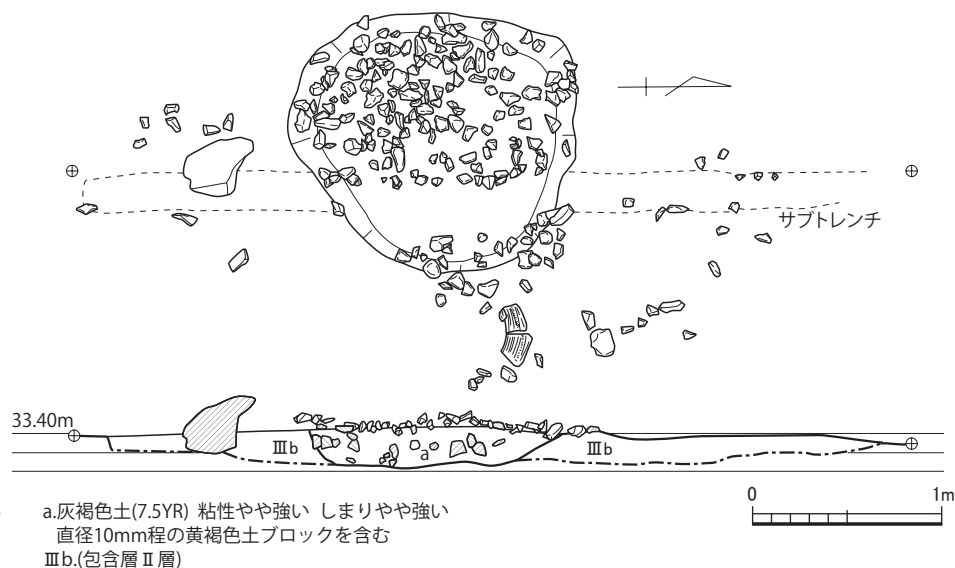


a. 灰褐色土(7.5YR4/2) 粘性やや強い しまりやや強い φ1cm程の黄褐色土ブロックを少し含む IIIb.(包含層II層)

第152図 S047実測図(1/40)

S048 S047と同様な地区にある(第3図)。S 047 遺構は、土坑と集石からなる。まずII層下部もしくはIII層上部に土坑を掘りこんでいるが、その規模と形は、南北 154

cm・東西 137 cmの隅丸三角形である(第153図)。その後、土坑内におさまるように礫を置いている。集石の主要な分布は土坑内であるが、北・東・南にかけて小礫が少量ばらけたかのような状況も窺える。なお、礫は 10 cm前後のものが多し。なお南側の土坑外には配石が1点あるほか、東側の土坑外には塞ノ神式土器の破片が出土している。礫の表面には、被熱による色の赤化がある。



a. 灰褐色土(7.5YR) 粘性やや強い しまりやや強い 直径10mm程の黄褐色土ブロックを含む IIIb.(包含層II層)

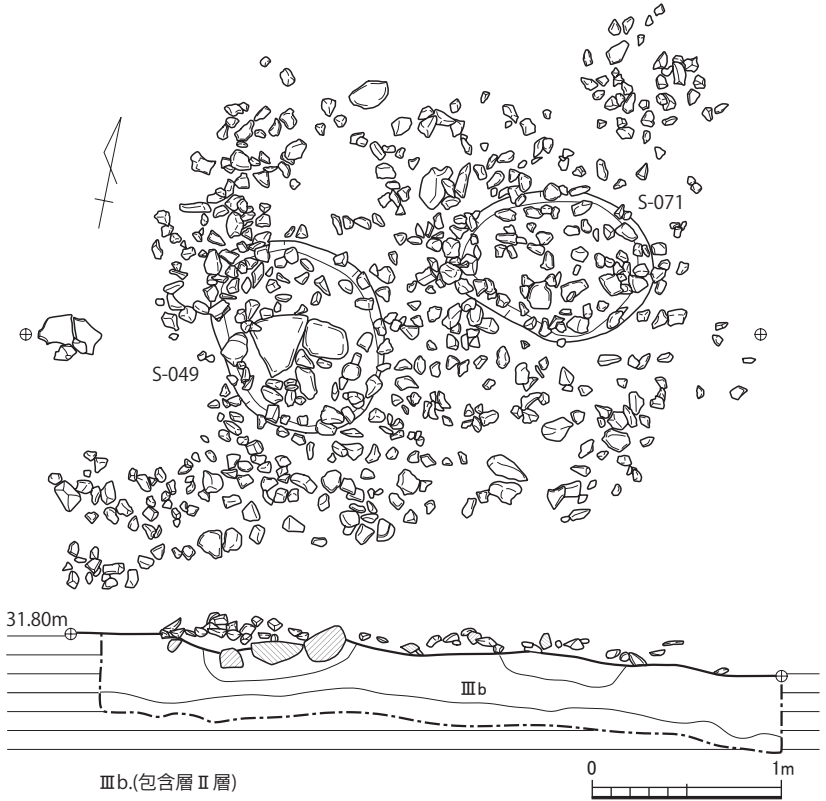
第153図 S048実測図(1/40)

S049・S071 第II次調査区の西部地域にあり、調査区画では0D区と0E区の境界付近に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形にあたる。

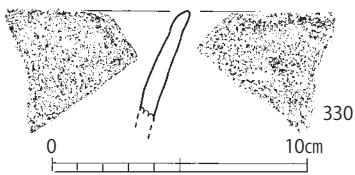
S049・S071 遺構は、土坑と集石からなる。まずII層下部もしくはIII層上部に土坑を掘りこんでいるが、S049とS071の土坑は40cmの間を開けて東西に隣接する(第155図)。その規模と形は、S049が南北150cm、東西135cm、深さ20cm、楕円形、S071が南北80cm、東西110cm、深さ12cm、横に長い長楕円形である。その後、土坑内部に流入土が少し堆積した後に土坑を覆うように集石を置いている(第155・156図)二つの土坑の上にある集石はを密集し、広範囲に分布しており、同一の集石といえる。その規模と形は、長軸450cm・短軸310cmの菱形である。大きさが15cm以下の礫が多いが、南西部に20cm～30cm前後の台石もしくは配石が分布している。礫は被熱により赤化している

集石の南側で、まばらながら、平楕式土器が出土したS045との連続性も窺え、一連の集石と思われる。早期後半と推定される。

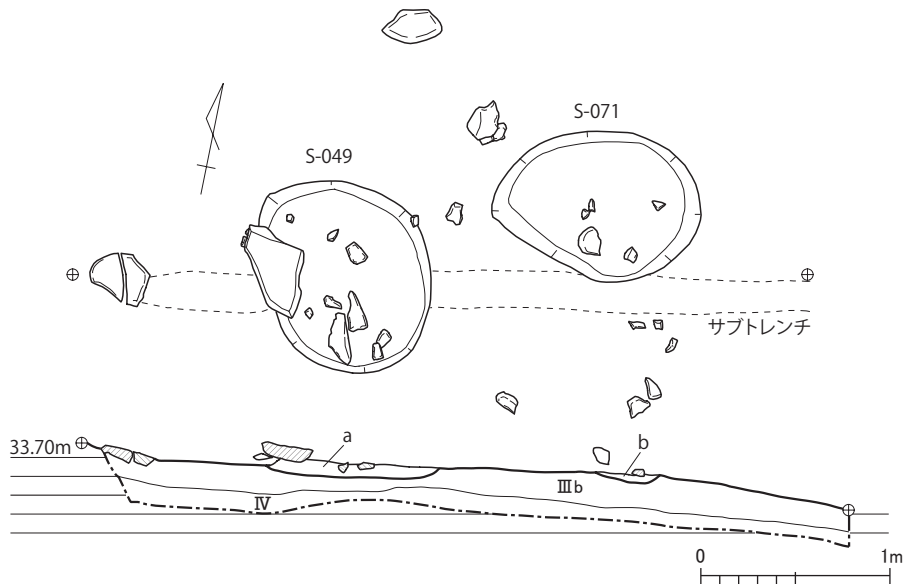
土器 ナデ調整無文土器の口縁部破片が1点出土している(第154図330)。口縁部が外傾し、端部を尖らせている。



第155図 S049・S071集石部実測図(1/40)



第154図 S049出土遺物実測図



S-049 a.暗褐色土(10YR3/4) 粘性なし しまりややあり 10YR3/2灰白色砂岩ブロックを含む
S-071 b.黒褐色土(10YR2/3) 粘性なし しまりややあり 10YR3/2灰白色砂岩ブロックを含む
φ2～3cmの礫を含む

IIIb.(包含層II層)
IV.(地山礫層)

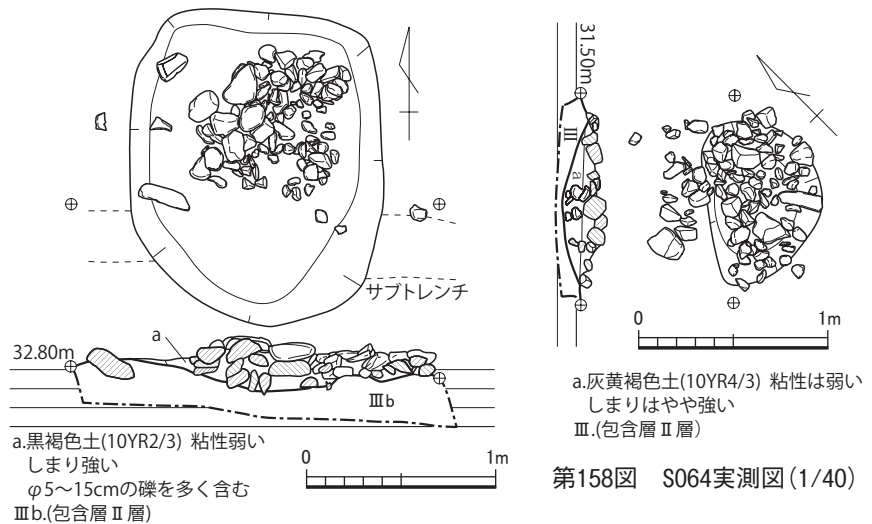
第156図 S049・S071皿状ピット部分実測図(1/40)

S058 調査区の西部域で第Ⅱ次調査区にあり、区画では1F区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にあって、東面する緩斜面が東へ回り込む部分である。

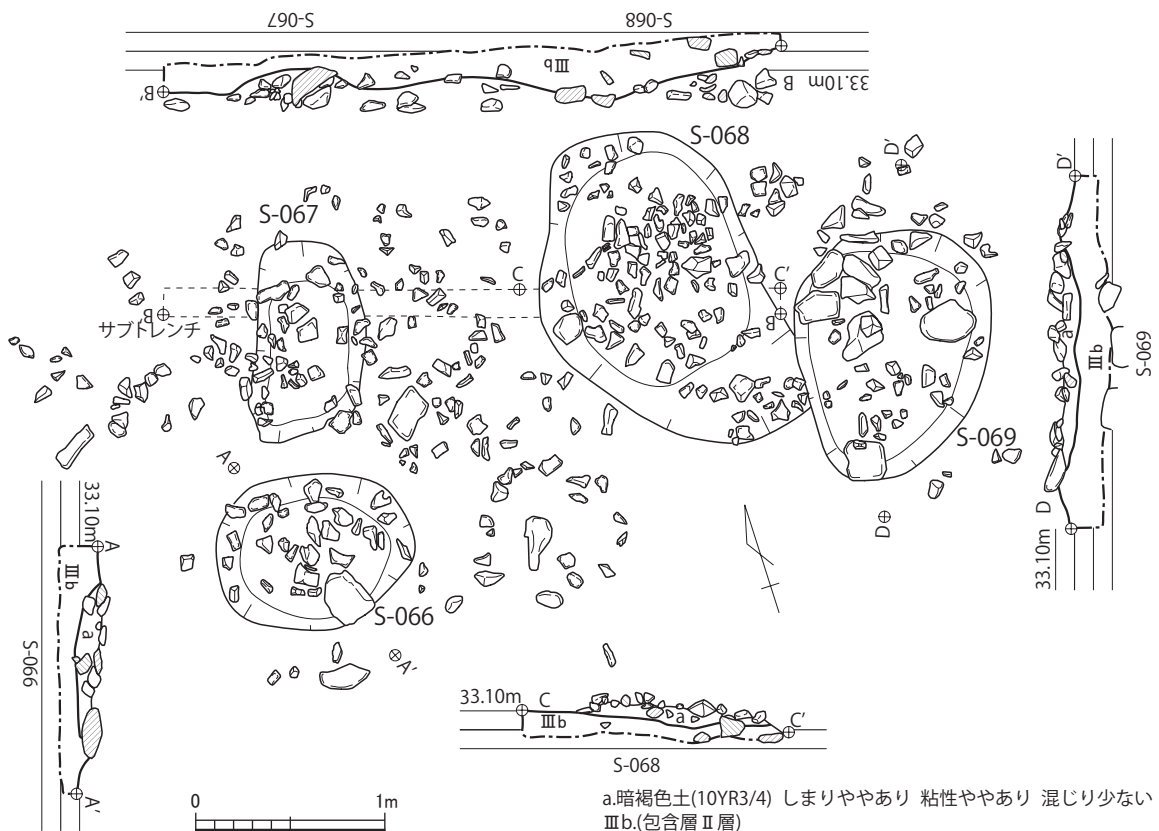
S058 遺構は、土坑と集石からなる(第157図)。まずⅢ層上部に土坑を掘りこんでいるが、その規模と形は、南北165cm・東西135cmの将棋の駒形(逆方向)である(第156図)。その後、土坑内の北半に密集するように礫を置いている。礫の分布を細かくみると、左半分が大きめの礫、右半分が細かい礫が多い状況にある。礫は角の丸い河原石が多く、被熱により赤化している。

S064 調査区の中央部の南よりで、区画では5G区に位置する(第3図)。西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある弧状に湾曲した谷部にある。

S064遺構は、土坑と集石からなる。まずⅢ層に土坑を掘りこんでいるが、その規模と形は、南北75cm・東西90cmであり(第158図)、水滴形をしている。その後、土坑の形に合うように礫を密集するように置いているが、北側の土坑外にも密集した礫が分布する。礫は被熱により赤化している。



第157図 S058実測図(1/40)



S066・S067・S068・S069 調査区の西部域で第Ⅱ次調査区にあり、区画では1E区の中央で東西に並列しながら分布する（第3図・第159図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南縁部にある。

S066の下部遺構の規模と形は、長軸105cm・短軸82cmの楕円形で（第160図）、土坑と集石からなる。深さ10cmの土坑内及びその上には散漫な状況で10cm～15cm前後の礫が多いが、27cm近い配石もある。

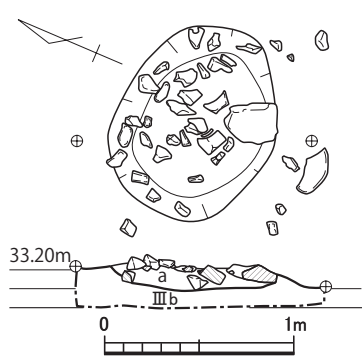
S067の下部遺構の規模と形は、長軸110cm・短軸60cmで長方形で、長軸の方位は北から西へ162°にある（第161図）。深さ10cmの土坑内及びその上には密集する状況で礫が分布している。

石器 この遺構からは石鏃が1点出土している（第162図331）。形態は二等辺三角形で、基部の左角部が破損している。

S068の下部遺構の規模と形は、長軸187cm・短軸119cmで楕円形である（第163図）。深さ10cmの土坑内及びその上には散漫する部分と中央部が密集する状況で礫が分布している。

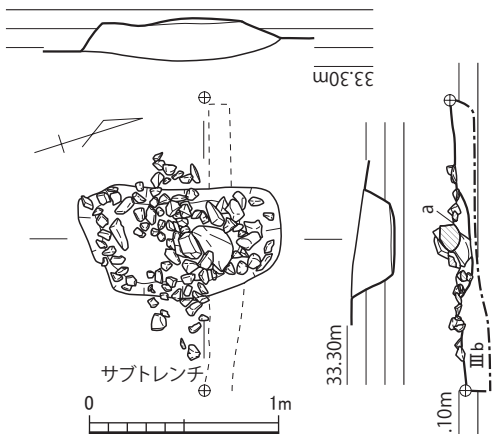
S069の下部遺構の規模と形は、長軸135cm・短軸105cmで楕円形である（第164図）。深さ10cmの土坑内及びその上には散漫する部分と密集する状況で礫が分布している。

S068とS066・S067の間にも大小の礫が多数分布しており、どの遺構に区分できるか明確でないもののこの付近での礫を使った諸作業中に分布したのだろう。



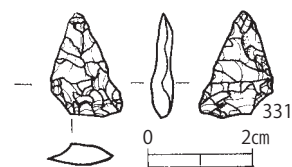
a.暗褐色土(10YR3/4) 粘性やや強い
しまりやや強い 地山ブロックの
混じり少ない
Ⅲb.(包含層Ⅱ層)

第160図 S066実測図(1/40)

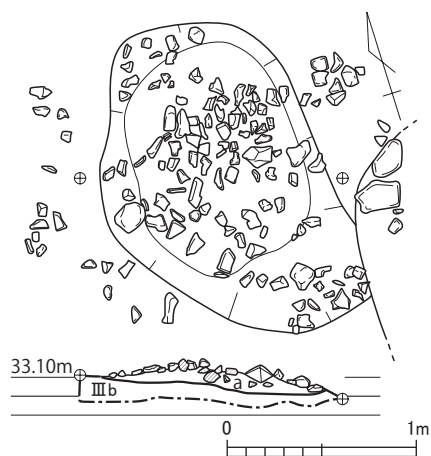


a.黒褐色土(10YR2/3) 粘性ありしまりややあり
φ4~20cmの礫を多く含む
Ⅲb.(包含層Ⅱ層)

第161図 S067実測図(1/40)

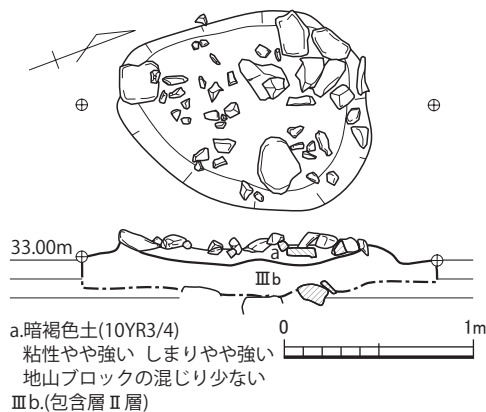


第162図 S067出土遺物実測図



a.暗褐色土(10YR3/3) 粘性やや強い
しまりやや強い 混じり少ない
Ⅲb.(包含層Ⅱ層)

第163図 S068実測図(1/40)



a.暗褐色土(10YR3/4)
粘性やや強い しまりやや強い
地山ブロックの混じり少ない
Ⅲb.(包含層Ⅱ層)

第164図 S069実測図(1/40)

S079 調査区の東南部域で第II次調査区にあり、区画では7G区に位置する。この付近は、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形から扇形に広がった部分の南部で、遺跡内では平坦な地形である(第3図)。また、南方・東方を臨む場所である。

遺構は、平面形が楕円形で、規模は長軸81cm・短軸71cmの小型遺構である(第165図)。IV層上面に掘り込まれた浅いピットの中に10cm前後の焼け礫38個があった。遺構は隣接するS078が埋まった後に構築されている。なお、礫は被熱により赤化している。

S089 調査区の東南部域で第II次調査区にあり、区画では6F区に位置する。この付近は、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形から扇形に広がり始める要の南縁部分で、遺跡では比較的平坦な地形である(第3図)。また南と東方を臨む場所である。

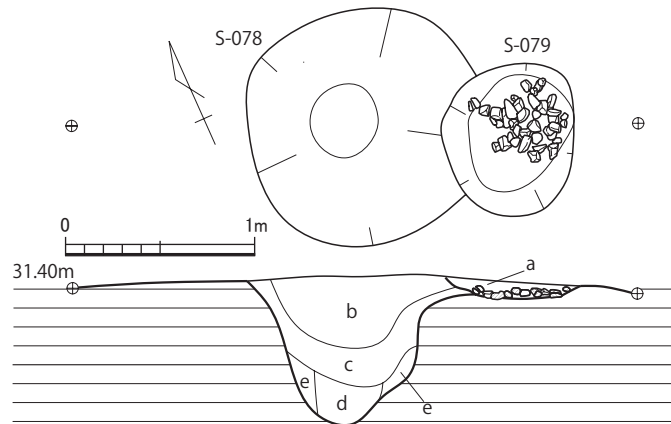
遺構は、長軸が北から西へ31°振れた長楕円形である(第166図)。遺構の規模は長軸108cm、短軸44cmである。礫は、遺構の南半分に密集するほか、遺構の北半や遺構外の北側に散漫な分布がある。なお、礫は被熱により赤化している。

S090 調査区の東南部域で第II次調査区にあり、区画では7F区に位置する。この付近は、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形から扇形に広がった部分の南部で、遺跡内では平坦な地形であり(第3図)、南を臨む場所である。

遺構は、楕円形である(第167図)。遺構の規模は長軸162cm、短軸130cmである。礫は、遺構の西半分に密集している。遺構の深さは25cmである。なお、礫は被熱により赤化している。

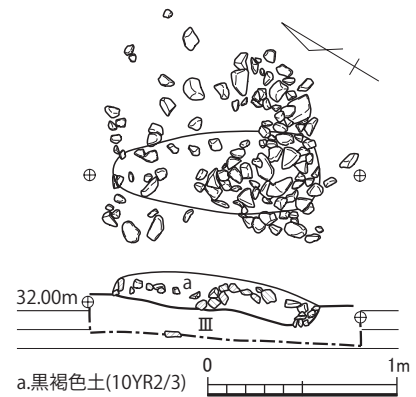
S116 調査区の西南部地域で、第II次調査区にあり、区画では3H区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも南側の弧状に湾曲した谷地形で、S116はその谷底部に位置する。

遺構の規模は、長軸115cm・短軸86cmの小型遺構である。深さ45cmの土坑内中位から上部に長さ50cmもある礫が出土しており(第168図)、台石であった可能性が高い。



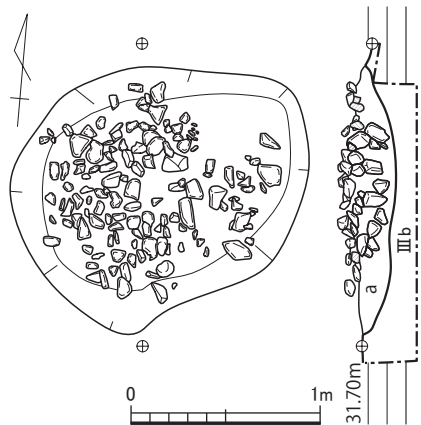
- S-079 a. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや強い 粘性弱い 明黄褐色土ブロック(層状粒状φ5mm)を少量含む
- S-078 b. 黒褐色土(10YR3/1) しまりやや強い 粘性弱いφ5mm~10mmの明黄褐色土ブロック(10YR6/6)をわずかに含む
- c. 黄灰色土(2.5Y4/1) しまり弱い 粘性弱い φ5mm程度の明黄褐色土ブロック(10YR6/6)をわずかに含む
- d. 褐灰色土(10YR4/1) しまり弱い 粘性弱い 黄褐色土が斑状に混じる
- e. にぶい黄褐色(10YR5/3) 細砂 しまり弱い 粘性弱い 1mm程度の黒色粒子を微量に含む

第165図 S079・(S078土坑)実測図(1/40)



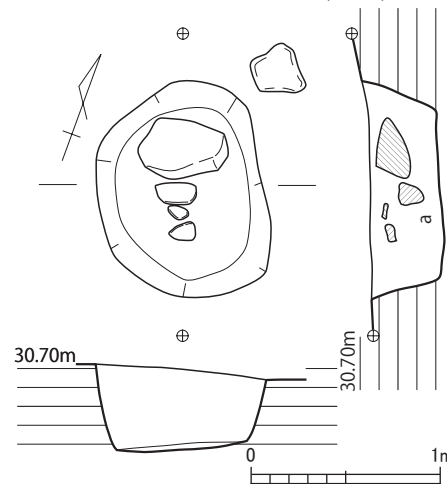
- a. 黒褐色土(10YR2/3) 粘性なし しまり弱い φ2~10cmの礫を含む 植物質含む
- III.(包含層II層)

第166図 S089実測図(1/40)



- a. 黒褐色土(10YR2/3) 粘性なし しまりなし φ2~5cmの礫を多く含む 地山ブロックを少し含む
- IIIb.(包含層II層)

第167図 S090実測図(1/40)



- a. 暗褐色土(10YR3/3) しまり強く粘性やや強い 粒子は非常に細かく細粒である 中央部分に多量の礫を含む

第168図 S116実測図(1/40)

S266 調査区の北東部地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では9D区北部に位置する(第3図)。西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形の中央部から扇形の平坦な地形が広がっており、ここはその北東部にあたる。北部竪穴建物群の分布域に位置している。

遺構の規模と形は、長軸140cm・短軸115cmで、楕円形をした小型遺構である。深さ18cmの土坑内中位から上部に長さ10cm程度の礫が出土している(第169図)。礫の分布は、土坑の南半分に集中している。なお、礫は被熱により赤化している。

S330 調査区の東部域で第Ⅳ次調査区にあり、区画では9F区の中央に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、ここはその中央で東端部にあたる。またここは南部の竪穴建物群の東で小遺構の多いところであり、竪穴建物群の外域ということもできる。

規模と平面形は、長軸110cm、短軸88cmで、楕円形である(第171図)。長軸の方位は、北から西へ125°振れている。土坑の深さは、約10cmである。土坑内部に第1段階として大型の礫を設置し(3回目)、次に10cm前後の礫を乗せ(2回目・3回目)、更に土坑の西側に長さ50cm前後の大型礫を設置している。

礫は小積んだ状況で密集しているなお、礫は被熱により赤化している。

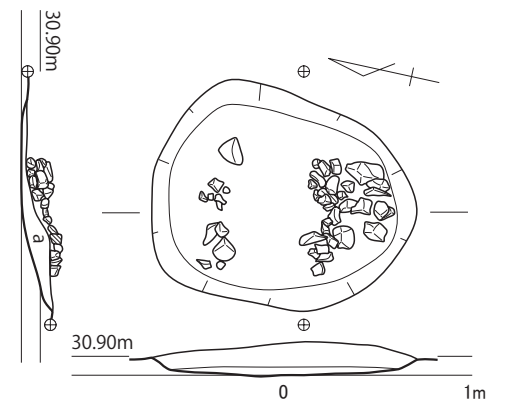
石器 打割によって三分の一を欠く台石で、長さ21cm、幅14.5cmの大きさを有し、表面には磨滅痕がある(332)。

S332・S333・S334 調査区の東部域で第Ⅳ次調査区にあり、区画では8F区の東に位置する(第3図)。西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、ここはその中央である南部竪穴建物群など遺構の多い場所である。三遺構は、いずれも近接する位置関係にあり、先行する竪穴建物であるS370が埋まって後に営まれている。なお、礫は被熱により赤化している(第172図)。

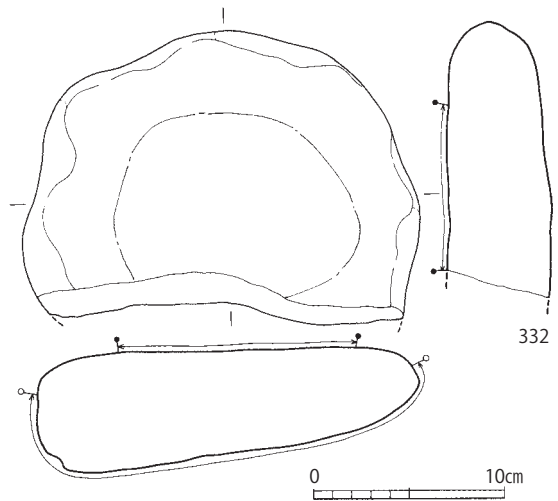
S332の規模と平面形は、長軸120cm、短軸90cmで、楕円形である(第172図)。S333が埋まってから構築されている。礫は土坑の中央付近から西と南の土坑外へも広がっている。礫の密集度は高いが、二箇所ほど分布が空白の部分があるが、何か掻き出した部分であろうか。

土器 S332から山形押型文土器が1点出土している(第173図333)。やや外反する立ち上がりの土器片で、内面に斜行する柵縄文、外面には垂下する方向への山形文を施す。下菅生B式土器であろう。

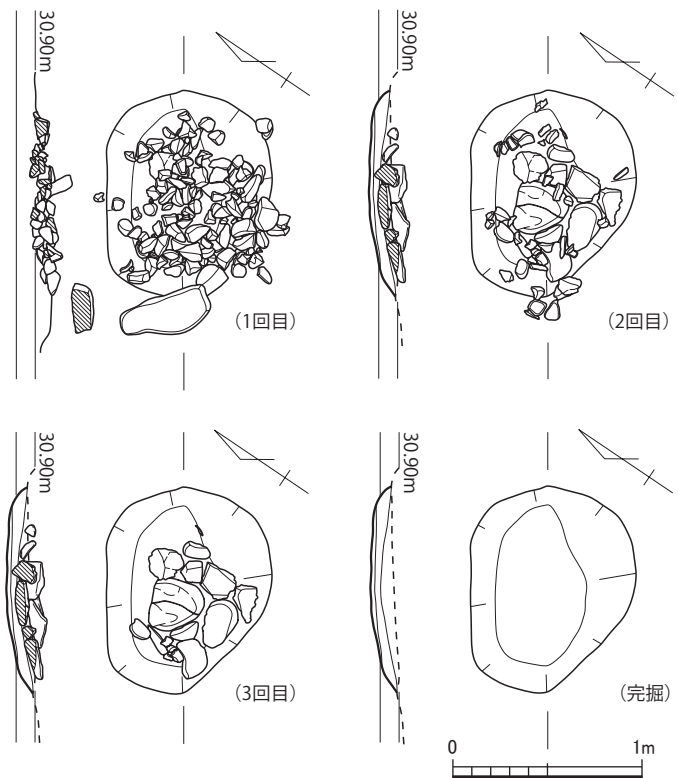
S333の規模と平面形は、長軸84cm、短軸74cmで、



a.黒褐色土(2.5Y3/1)
しまりやや強く粘性やや強い 地山ブロックをまばらに含む
第169図 S266実測図(1/40)



第170図 S330実測図(1/40)



第171図 S330出土遺物実測図

三角形である(第172図)。礫の密集度は高く、ほぼ土坑の範囲に収まっている。

S334の規模と平面形は、長軸53cm、短軸48cmで、ほぼ円形である(第172図)。礫の密集度は高く、ほぼ土坑の範囲に収まっている。

三土坑の断面を観察すると若干埋まってから集石を設置しているが、遺構の輪郭に収まるので、土坑と礫は関係あるのだろう。

石器 S334からは、石核が2点出土している。一例は断面が四角形で、それに合わせて打面を90°同じ方向に移動させながら剥離作業を行うもの(第176図335)。もう一例は、分厚い剥片の、ポジ面・ネガ面を打撃するという礫器状の剥離を行った例(336)。

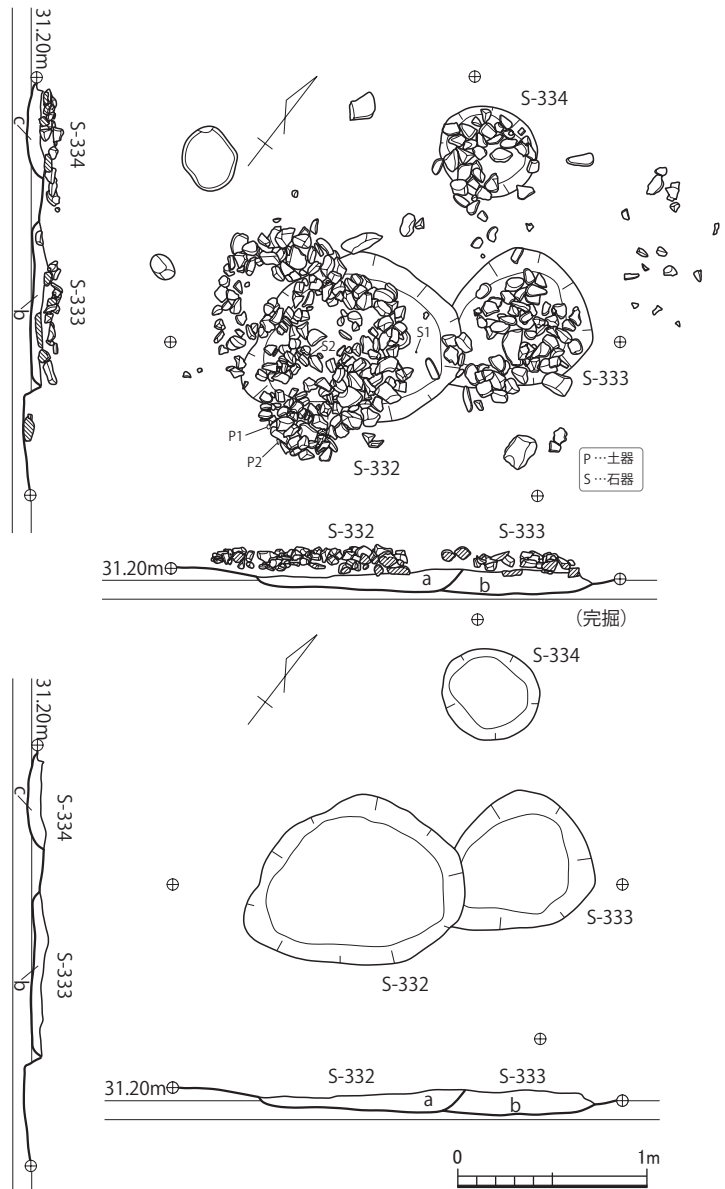
S335 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では11E区の北東隅に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地東端部の斜面を降りた低地(大越川の段丘面)で、小遺構の多い場所である。S335は、低地部のなかでも台地の斜面よりの場所に位置する。

S335の規模と平面形は、長軸90cm、短軸76cmで、円形に近い楕円形である(第174図)。土坑の深さは、約10cmである。土坑内部に第1段階として大型の礫を敷き詰めるように設置する(2回目)。次に10cm前後の礫を乗せており(3回目)、礫は小積んだ二重構造の状況で密集している。なお、礫は被熱により赤化している。

S336 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9F区に位置する(第3図)。西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、ここはその東端部にあたる。この付近は、南部竪穴建物群の東にあつて小遺構の多い場所である。

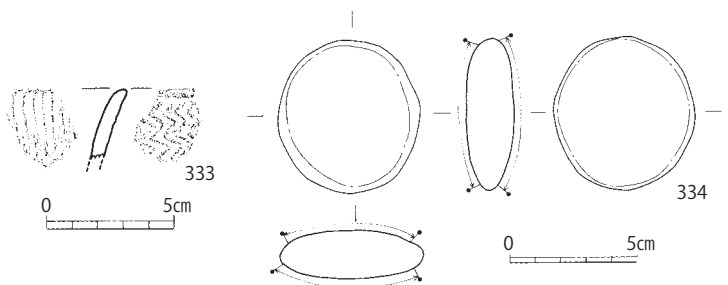
S336の規模と平面形は、長軸100cm、短軸81cmで、楕円形である(第175図)。土坑の深さは、約10cmである。土坑内部に第1段階として20cm～25cm前後の大型礫8個を東西に敷き詰めるように設置する(2回目)。次に、10cm前後の礫30個前後を乗せたり、隙間・空閑地に充填したりするなど(3回目)、礫は小積んだ二重構造で密集している。なお、礫は被熱により赤化している。

S337・S346 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9E区と9F区の境界に位置する(第3図)。場所的にはS330と同様で、南部竪穴建物群の東にあつて、小遺構の多い場所である。



S-332 a.黒褐色土(10YR3/1) しまりあり 粘性あり φ2mm前後の炭化物粒子を少量含む φ2~3mm大の黄褐色土ブロックを少量含む
 S-333 b.黒褐色土(10YR3/2) しまり強く粘性あり φ1~2mm大の炭化物粒子を少量含む
 S-334 c.黒褐色土(10YR3/3) しまりやや強く粘性弱い 黄褐色土ブロックを少量含む

第172図 S332・S333・S334実測図(1/40)



第173図 S332・S338出土遺物実測図

S337の土坑の規模と平面形は、長軸100cm、短軸81cmで、凸レンズ形である(第178図)。土坑の長軸は、北から西へ60°振れた方向である。土坑の深さは、約10cmである。土坑内の形に沿うように大小の礫を充填している。密集度は極めて高い。なお、土坑外の北西から北東・東にかけて最大で150cmの間にも大小の礫が散在している。その外側には礫がなく、S337・S346の土坑を中心とした集石のまとまりとみなせる。なお、礫は被熱により赤化している。

石器 楕円形の川原石を用いた敲石が1点出土している(第177図337)。使用時に割れたのか、右側の三分の一程度破損している。打痕が両端にある。

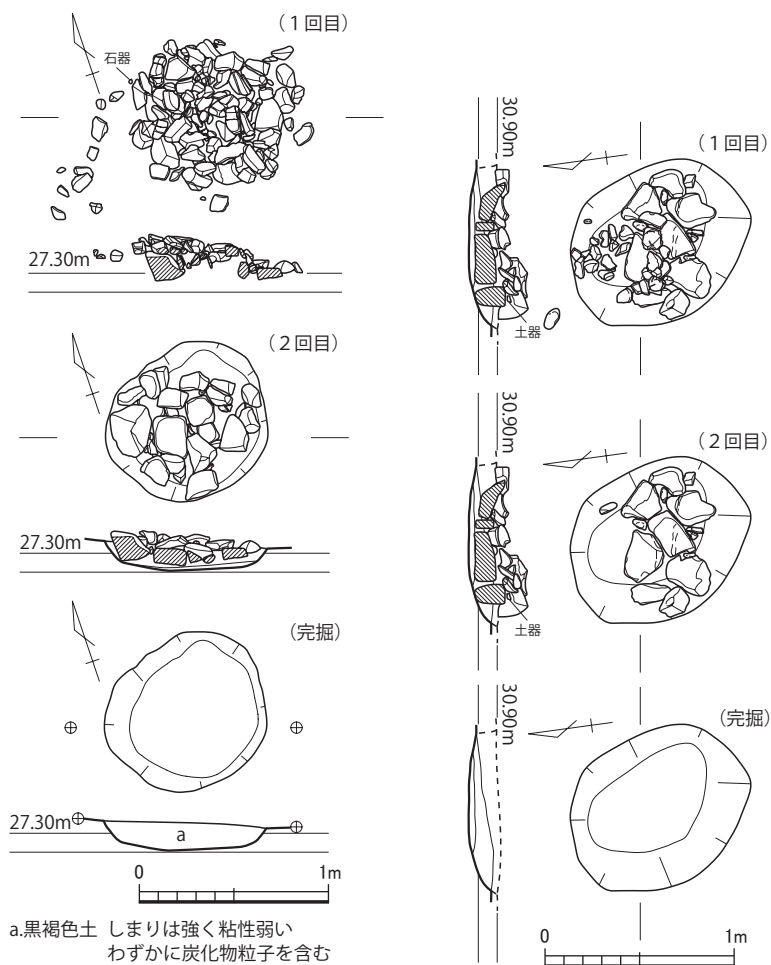
S338 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では8E区の南部に位置する(第3図)。西から東に延びる舌状台地のなかにあつて、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、ここは中央付近平坦面にあたる。この付近は、南部竪穴建物群の中にあつて大小遺構の多い場所である。なお、S338は竪穴建物のS337が埋没した後に構築された遺構である。

S338は土坑と集石からなり、前者の規模と平面形は、長軸91cm、短軸83cmで、楕円形である(第179図)。土坑の深さは、約10cmである。土坑内部から僅かにはみ出た礫もあるが、概ね10cm以内の礫を内部に入れている。礫は小積んだ状態で密集する部分もあるが、中央付近に疎らな部分があり、何かの作業痕跡と考えられる。なお、礫は被熱により赤化している。

石器 長軸6cm、短軸5.5cm、厚さ1.8cmの小型の磨石が出土している(第173図334)。

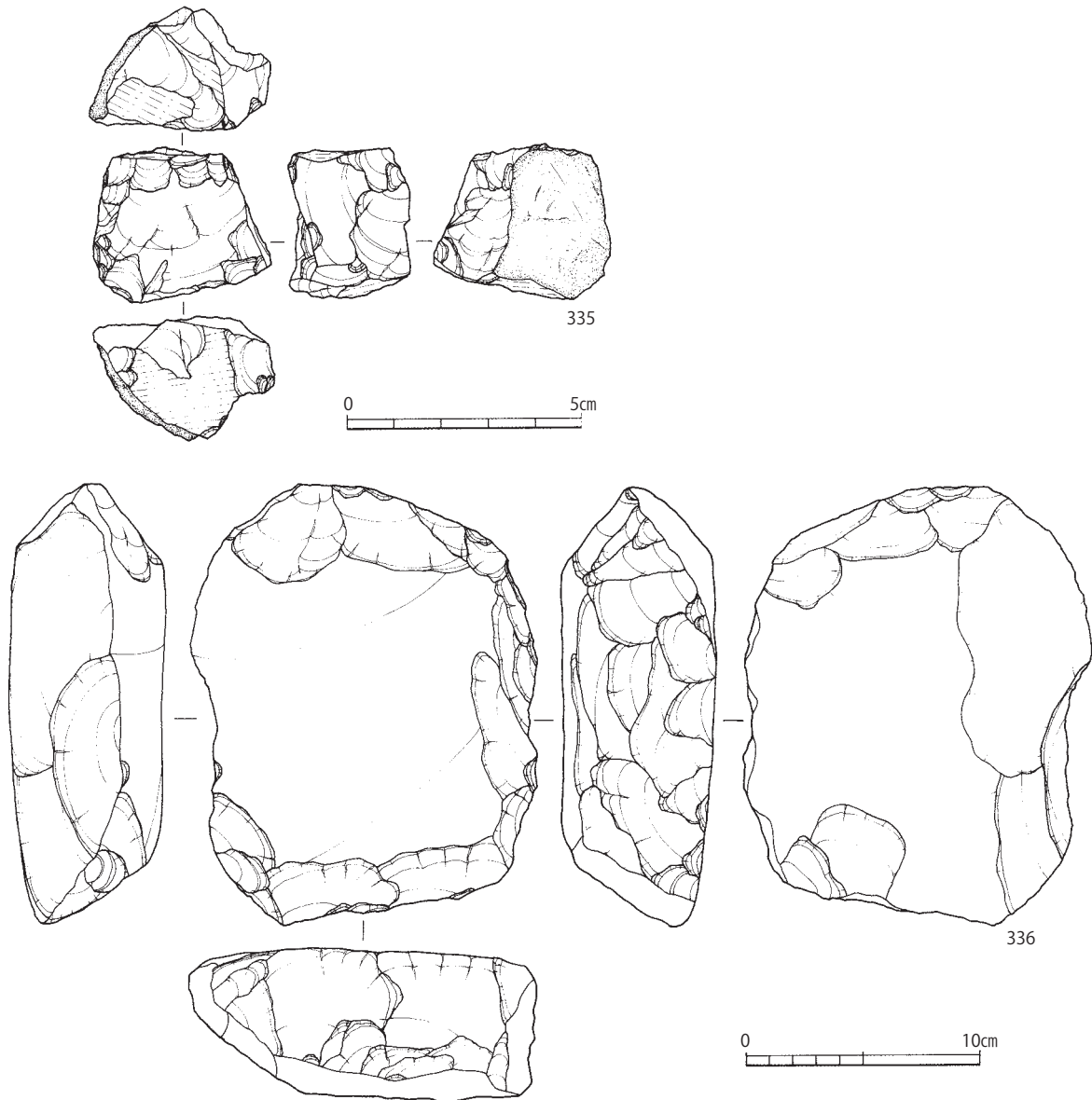
S348・S349 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9D区・10D区に位置する(第3図)。西から東に延びる舌状台地のなかにあつて、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、ここはその東端部にあたる。この付近は、北部竪穴建物群の東にあつて小遺構の多い場所である。なおS348・S349は、先行する竪穴建物S383が埋没した後に構築されている。

まずS348の下部遺構である土坑が掘り込まれる。土坑の規模と平面形は、長軸115cm、短軸96cmで、楕円形である(第180図)。土坑の深さは、約20cmである。その後、この土坑の内部に10cm～15前後の礫を入れている。小積んだような部



第174図 S335実測図(1/40)

第175図 S336実測図(1/40)



第176図 S334出土遺物実測図

分もあり、その密集性は高い。土坑内における礫の断面分布をみると（第180図）、土坑の東壁上端の肩部から西へ90cmのところでは礫の断面分布に変化点がある。この変化点の礫をS349西端の礫とし、その上に乗っている礫は西方に連なるS348の集石東端の礫とすることができる。こうしてみると、遺構の順序は、S349が構築・形成され、次に土坑のないS348が構築されていることがわかる。S348集石の主要な分布は、長軸が120cm・短軸90cm程度の長方形をしているとみられ、長軸の方位は北から東へ131°振れている。また礫の形状を見ると、S349の場合は小ぶりの角礫であるのに対し、S348の場合は20cm前後の大ぶりの角礫であることに違いがある。ともかく、両遺構の集石はその位置からすると、近い関係にあったことが窺える。なお、両遺構の礫は被熱により赤化している。

S350 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9D区・10D区に位置する（第3図）。西から東に延びる舌状台地のなかであって、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、ここはその東端部にあたる。この付近は、北部堅穴建物群の東であって小遺構の多い場所である。なおS350は、先行する堅穴建物S383が埋没した後に構築されている。上記したS349の東30cmから170cmの間に位置する。

まずS350の下部遺構である土坑が掘り込まれる。土坑の規模と平面形は、南北140cm・東西140cmで、円形である。（第180図）。土坑の深さは、約15cmである。この土坑の内部に20cm～35cm前後の礫を主体に入れている。配石遺構とするべきかもしれない。これまで述べてきたS348・S349とS350の礫の大きさは明らかに違うので、機能的な違いがありなが

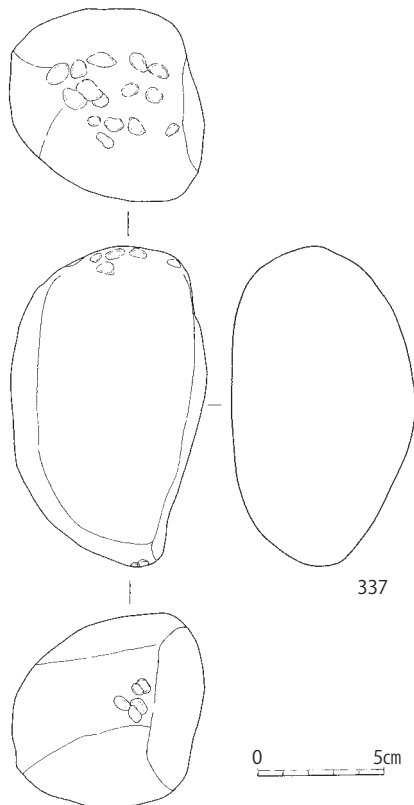
らも至近距離にあることから機能的な使い分けをした一連の遺構と考えられる。

石器 台石が1点出土している(第181図338)。現状で、長さ26.4cm、幅19cm、厚さ8cmの大きさで、表面に磨滅がある。その後、打割により周囲が割られている。割れには、剥離面のような特徴を有する部分もある。

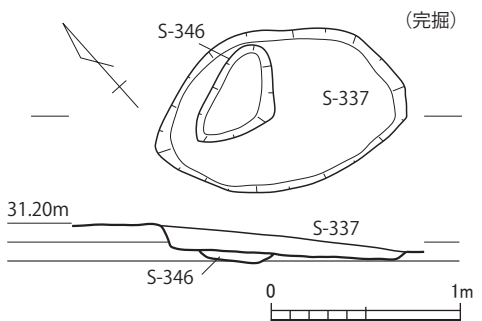
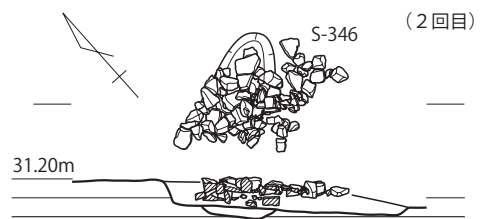
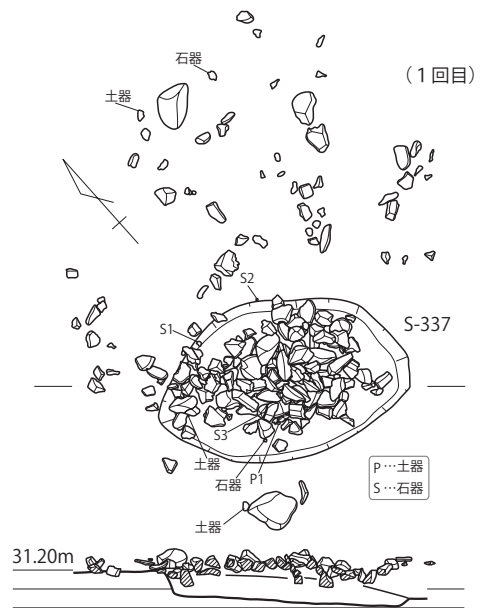
S382 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9E区に位置する(第3図)。西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、ここはその東端部にあたる。ここは、北部竪穴建物群の南にあつて遺構の少ない場所である。

まずS382の下部遺構である細長い土坑が掘り込まれる。土坑の規模と平面形は、長軸205cm、短軸80cmで、長楕円形である(第182図)。土坑長軸の方位は、北から西へ181°振れているが、南北方向の等高線に対し、直交する方向に土坑が築かれている。そして土坑内部の底面は、西側の直交方向に向かって仰角で12°である。土坑の深さは、約28cmである。この土坑の内部に五群に分かれた大小の礫が流入土中に含まれており、分布に一貫性がない。「集石炉」ではない可能性も高い。この土坑本体は、この遺跡に多い炉穴である可能性も高い。炉穴が廃絶後に、礫を廃棄したのであろう。

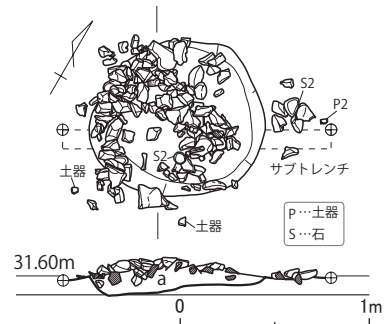
石器 S382からは台石2点出土している。一例は、現状で長軸16.5cm・短軸14cm・厚さ8cmの大きさを有する、表面の平らな面に磨滅痕があるが、その後左側を打割している(第183図339)。もう一例は、現状で長軸18.5cm・短軸15.2cm・厚さ8.2cmの大きさを有する。表面の平らな面に磨滅痕がある(340)。この他、大型の礫が出土しており、台石・配石と同様な用途で集石での作業を行う際に使われたのだろう。



第177図 S337出土遺物実測図

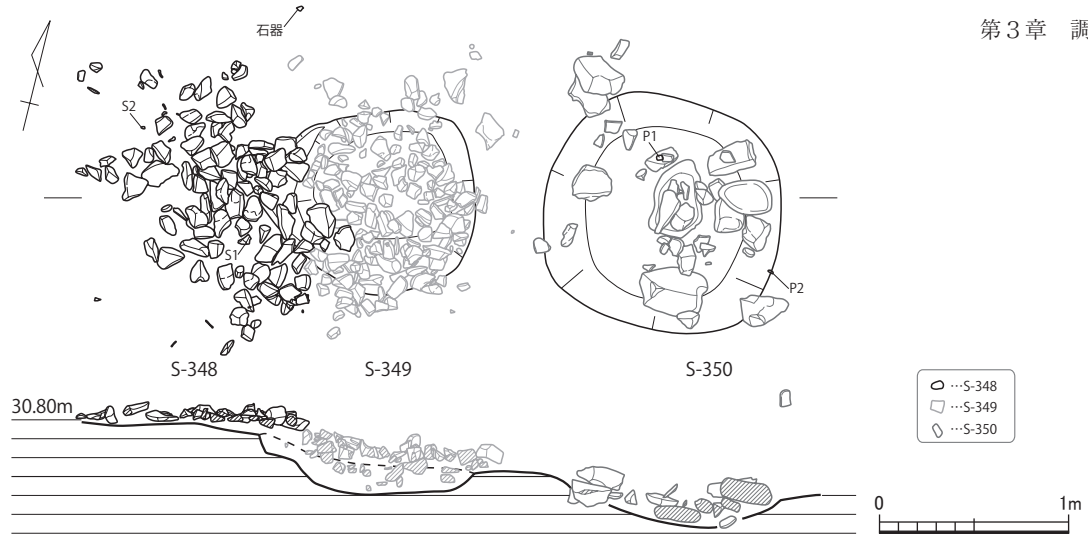


第178図 S337・S346(下部)実測図(1/40)

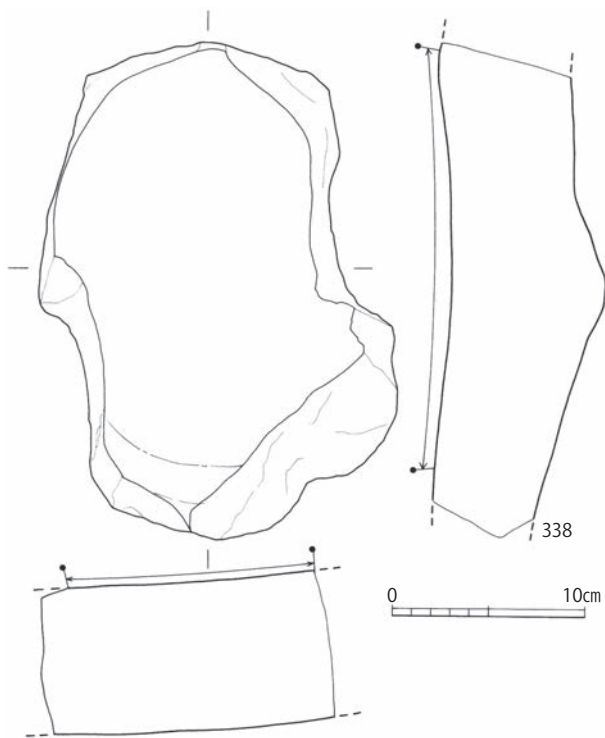


a.黒褐色土(10YR2/3) しまり強く粘性弱い
小石(φ5mm前後)を少量含む

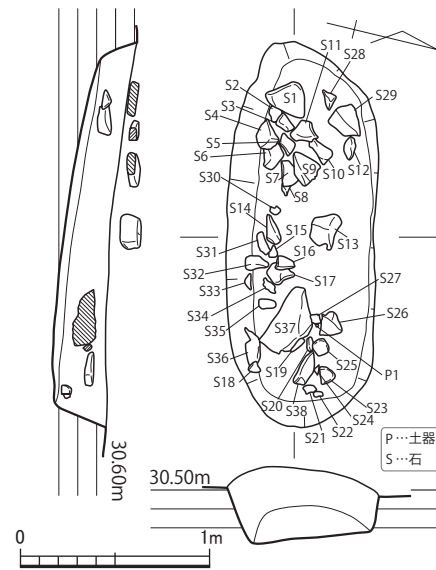
第179図 S338実測図(1/40)



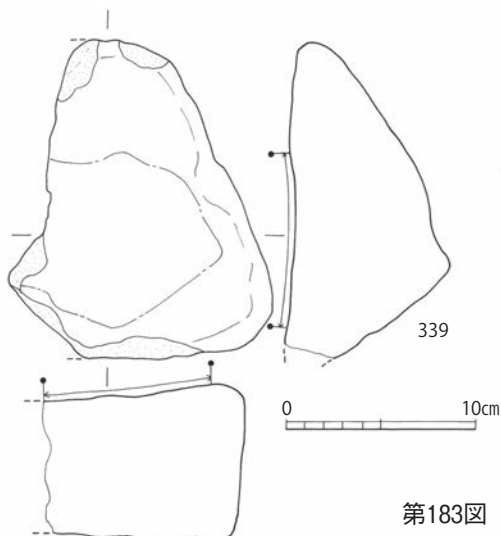
第180図 S348・S349・S350実測図(1/40)



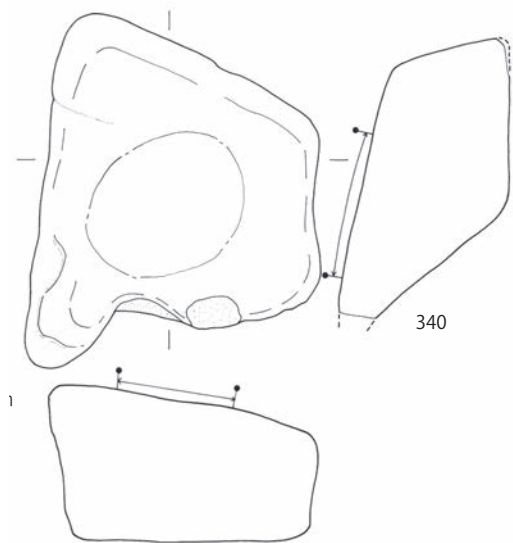
第181図 S350出土遺物実測図



第182図 S382実測図(1/40)



第183図 S382出土遺物実測図



(6) 土坑

S003 第II次調査区の西部にあり、区画では0E区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあつて東面する南北方向の斜面が東側に回り込む地勢である。遺構は、この斜面に位置し、S 045などの大きな集石が存在する地区である。

土坑の規模と平面形は、長軸65cm、短軸51cmで、隅丸長方形である(第184図)。土坑長軸の方位は、北から西へ35°振れている。深さは10cmで、壁の立ち上がりは緩やかである。土坑内両端部付近の斜面に焼土が観察される。

S005 第II次調査区の西部にあり、区画では0E区に位置する(第3図)。西から東へ延びる舌状台地脊梁部の南側には弧状に湾曲する谷地形があり、遺構は谷底部のなかでも最も南側に位置する。

土坑の規模と平面形は、調査区南部の壁にかかっており明確ではないが、現状から長軸180cm前後、短軸150cm前後で、隅丸長方形である(第185図)。土坑長軸の方位は、北から西へ165°振れている。深さは10cm前後で、壁の立ち上がりは緩やかである。土坑にかかる壁を観察すると、III層に掘り込まれている。また土坑内には覆土が観察され、その上にII層(アカホヤ)が堆積している。

S006 第II次調査区の西部にあり、区画では0E区の南部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあつて東面する南北方向の斜面が東側に回り込む地勢である。

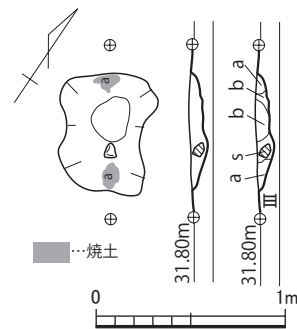
遺構は、調査区の西端にかかる斜面に位置し、数m東にS 045などの大きな集石が存在する地区である。

土坑は、調査区の境界にかかるため規模と平面形が分からない。現状で、長軸130cm、多角形である(第186図)。深さは23cmで、壁の立ち上がりは緩やかである。

土器 2点出土している。1点は、外面に縦方向の山形押型文、内面には斜行する柵状文を施した例である(第187図341)。もう1点は、外面に楕円文押型文、内面ナデ調整の無文部である(342)。

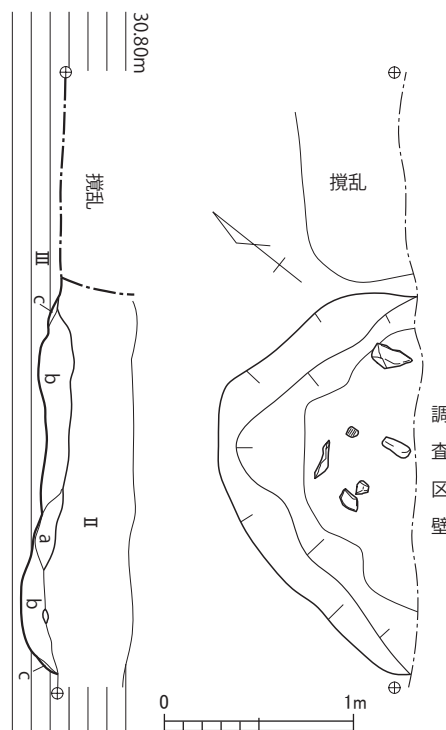
S059 第II次調査区の西部にあり、区画では0E区の南部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあつて東面する南北方向の斜面が東側に回り込む地勢である。ここに大きな集石「礫・集石範囲2」があった。ここでは、遺物のみ提示する。

石器 凹石が1点出土しており、表裏両面に凹部がある(第188図343)。大きさは、長軸9.4cm・短軸8.5cm・5.2cmである。台石も1点出土している。表面に、打痕がある。大きさは、長軸24.5cm・幅18.2cm・厚さ5.9cmである。



a.(焼土)褐色土(7.5YR4/6) 粘性なし
しまりややあり 炭を少し含む
b.褐色土(7.5YR4/3) 粘性なし
しまりややあり 炭を少し含む
III.(包含層II層)

第184図 S003実測図(1/40)



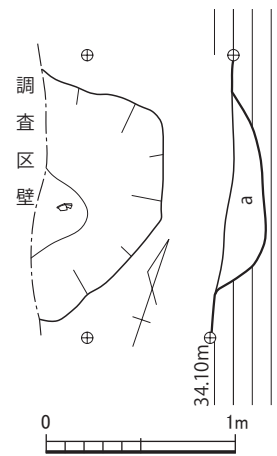
a.(焼土)明褐色土(7.5YR5/6) 粘性なし しまりなし
混じり少ない 炭を少し含む
b.褐色土(7.5YR4/4) 粘性なし しまりなし
(7.5YR5/6)明褐色土が互層で入る
c.(掘方)暗褐色土(10YR3/4) 粘性なし しまりややあり
炭を少し含む
II.(包含層I層)
III.(包含層II層)

第185図 S005実測図(1/40)

S078 調査区の東部域で第Ⅱ次調査区にあり、区画では7G区に位置する(第3図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦な地形が広がっている場所で、そのうちの東南部である。またここは南部竪穴建物群の南にあって、遺構の少ない場所である。

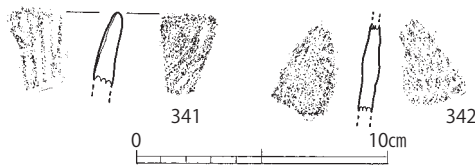
遺構は円形の土坑で、Ⅳ層上面で検出した。現状で土坑部分の径が125cmであり、深さは79cmである(第165図)。堆積層は四層あり、うち上位の2層は流入土である。その下位の二層は埋め土と思われる。土坑断面の形態からすると、陥穴の可能性は少ないが、貯蔵穴の可能性もある。

石器 細石刃が出土している(第189図345)。推定牟田産の黒曜岩(腰岳・牟田系黒曜岩)を石材とする細石刃で、中部・先端部が破損している。その他、剥片がある(346)。

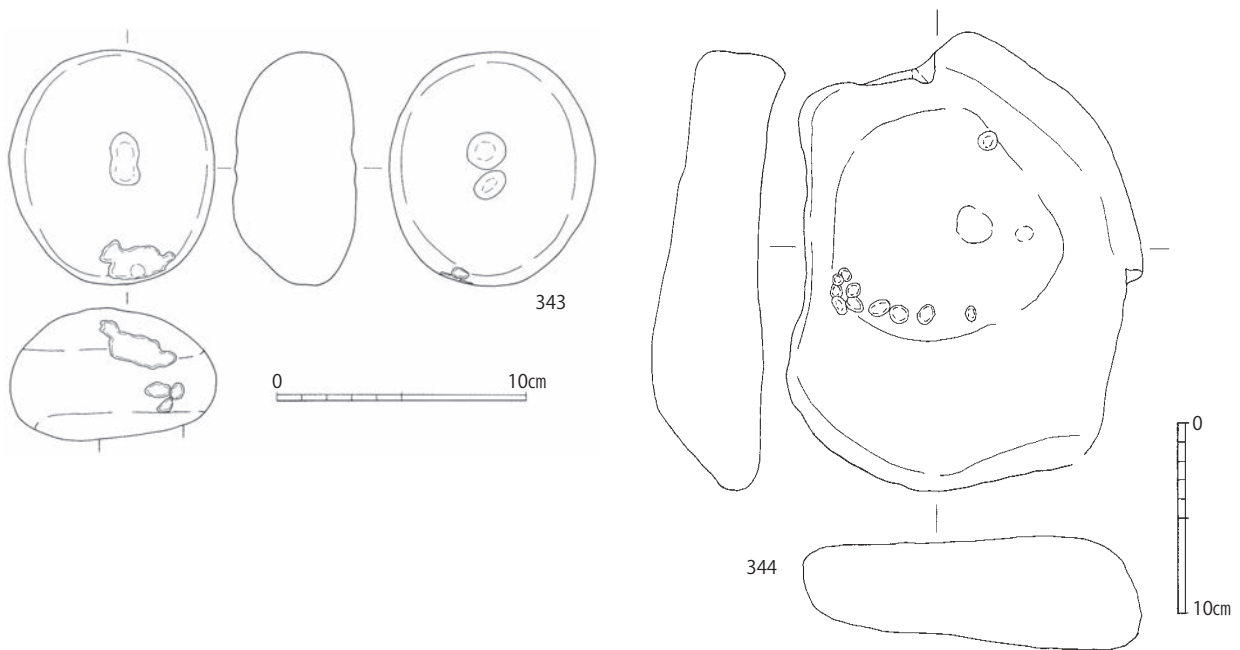


a.にぶい黄褐色土(10YR5/4)しまりやや強く粘性弱い遺物を含む

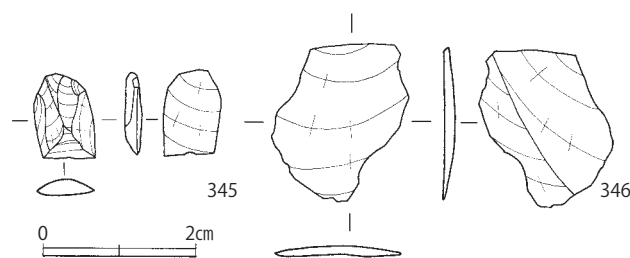
第186図 S006実測図(1/40)



第187図 S006出土遺物実測図



第188図 S059出土遺物実測図



第189図 S078出土遺物実測図

S081 調査区の西部地区に含まれ、区画では3E区に位置する(第3図)。西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の縁部で、南側に弧状に湾曲する谷部の谷頭でもある。西や南の近隣には、竪穴建物や集石などが点在するが北側に遺構はない。

遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が95cm、短軸は84cm、楕円形である。深さは12cmであるが(第190図)、削平されているのであろう。立ち上がりは緩やかな皿状を呈する。

S082 調査区の西部地区に含まれ、区画では3E区に位置する(第3図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の縁部から少し南に下がったところで、弧状に湾曲する谷部の谷頭でもある。近隣には、竪穴建物や集石などが点在する。上記S081の南東150cm程度の距離にあり、立地もほぼ同様である。

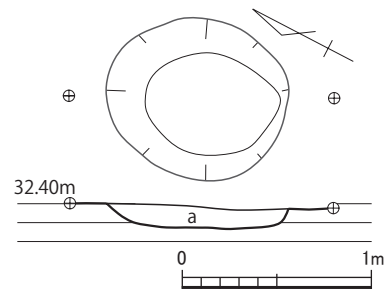
遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が117cm、短軸は100cm、楕円形である。深さは20cmであるが(第191図)、削平されているのであろう。立ち上がりは緩やかな皿状を呈する。

S084 調査区の西部地区に含まれ、区画では3F区の北部に位置する(第3図)。ここは西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の縁部から南に下がったところで、弧状に湾曲する谷部の谷頭地区に位置する。近隣には、竪穴建物や集石などが点在する。上記S082の南600cm程度の距離にあり、立地もほぼ同様である。

遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が127cm、短軸は88cm、隅丸長方形である。土坑長軸の方位は、北から西へ60°振れている。深さは32cmである(第192図)。立ち上がりは急傾斜。断面を観察すると、c層の部分で底部に屈折点があるのと、その層の状況から、一度掘削してc層が流入埋没する。さらに掘り直されてb・c層が流入したと推定される。

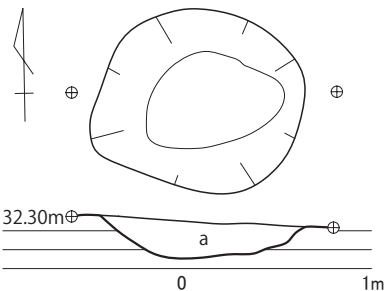
S092 調査区の西部地区に含まれ、区画では0D区に位置する(第3図)。西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い西部脊梁地形にある。近隣には、集石などが点在する。

遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が111cm、短軸は71cm、長楕円形である。土坑長軸の方位は、北から西へ97°振れている。深さは26cmである(第193図)。東西端部の立ち上がりは急傾斜で、北壁・南壁は緩やか。



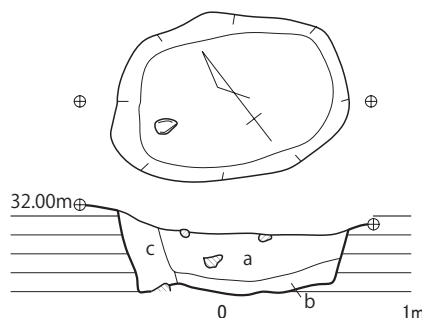
a.灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性は弱い
しまりやや強く粒子は細粒である
φ1~2cmの地山ブロックを微量に含む

第190図 S081実測図(1/40)



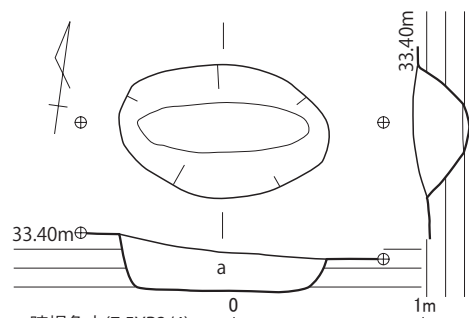
a.黒褐色土(10YR3/2) 粘性は弱い
しまりやや強く粘性は弱い
地山ブロックを微量に含む 砂礫を微量に含む

第191図 S082実測図(1/40)



a.暗褐色土(10YR3/4) 粘性やや強い しまり強い
φ5mm~2cmの地山ブロックを微量に含む
φ3~10cmの礫を含む
b.黒褐色土(10YR2/3) 粘性やや強い
しまりやや強い
φ5mm~2cmの地山ブロックを微量に含む
φ1~3cmの礫を少し含む
c.暗褐色土(10YR3/3) 粘性やや強い
しまりやや強い φ3~5cmの礫を少し含む

第192図 S084実測図(1/40)



a.暗褐色土(7.5YR3/4) 粘性やや強い しまりやや強い
粘性やや強い しまりやや強い
地山ブロックをわずかに含む

第193図 S092実測図(1/40)

S093 調査区の西部地区に含まれ、区画では0E区に位置する(第3図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い西部脊梁地形にある。近隣には、集石などが点在する。

遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が96cm、短軸は67cm、楕円形である。土坑長軸の方位は、北から西へ15°振れている。深さは26cmである(第194図)。東西端部の立ち上がりは急傾斜である。

S094 第II次調査区の西部にあり、区画では0E区・1E区の境界南部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあつて、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む地勢である。

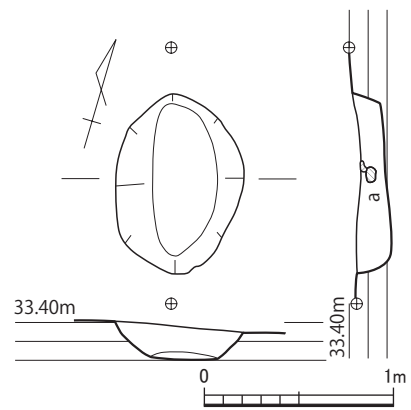
遺構は長楕円形の土坑で、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が96cm、短軸は67cm、楕円形である。土坑長軸の方位は、北から西へ117.5°振れている。深さは26cmである(第195図)。東西端部の立ち上がりは急傾斜である。

S095 第II次調査区の西部にあり、区画では0E区・0F区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあつて、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む地勢である。

遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が110cm、短軸は84cm、長楕円形である。土坑長軸の方位は、北から西へ110°振れている。深さは12cmである(第196図)。長軸の立ち上がりは自然に立ち上る状況で、短軸は急傾斜である。

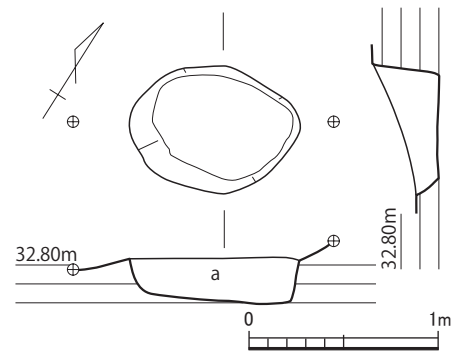
S096 第II次調査区の西部にあり、区画では0E区・0F区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあつて東面する南北方向の斜面が東側に回り込む地勢である。

遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が147cm、短軸は84cm、長楕円形である。土坑長軸の方位は、北から西へ110°振れている。内部の北半が一段深くなっており、深さは20cmである(第197図)。周囲の立ち上がりは急傾斜である。



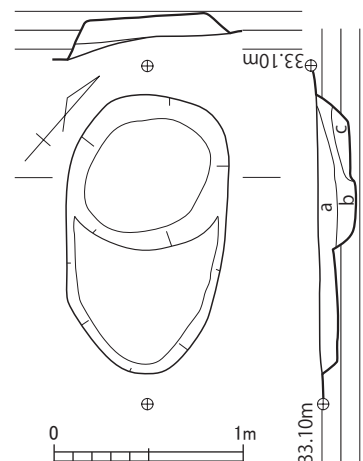
a.にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粘性強い しまりやや強い φ2~10cmの礫を少量含む

第194図 S093実測図(1/40)



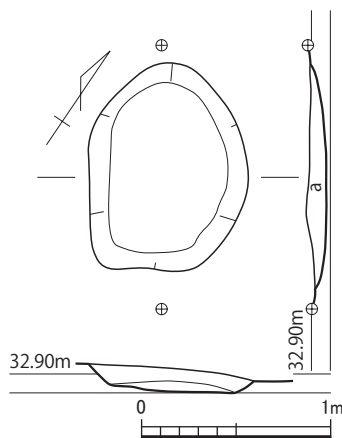
a.暗褐色土(10YR3/4) 粘性強い しまりやや強い 地山ブロックを多く含む

第195図 S094実測図(1/40)



a.黒褐色粘質土(10YR2/3) 粘性弱い しまりやや強い 地山・砂岩ブロックを含む
b.暗褐色粘質土(10YR3/4) 粘性弱い しまりやや強い 砂岩ブロックを少量含む
c.褐色粘質土(10YR4/4) 粘性弱い しまりやや強い 混じり少ない

第197図 S096実測図(1/40)



a.暗褐色土(10YR3/4) 粘性強い しまり強い 地山ブロックをわずかに含む φ1mm程度の砂利を少し含む

第196図 S095実測図(1/40)

S097 第II次調査区の西部にあり、区画では0F区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあつて東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所である。

遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が156 cm、短軸は120 cm、長楕円形である。土坑長軸の方位は、北から西へ27°振れている。深さは14 cmと浅い土坑である(第198図)。周囲の立ち上がりは急傾斜である。

S098 第II次調査区の西部にあり、区画では0F区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあつて、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所である。

遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が160 cm、短軸は99 cm、楕円形である。土坑長軸の方位は、北から西へ27°振れている。深さは33 cmである(第199図)。周囲の立ち上がりは東壁と南壁は緩やかなで、それに対し北壁が60°、西壁が70°と急傾斜である。なお土坑内に柱穴状のピットが二基あるが、土坑との関係は不明である。なお、本土坑はS 128 を切つて構築されている。

S099 第II次調査区の西部にあり、区画では0F区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあつて、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所である。北東にS 46 やS 45 などの大きな集石がある。

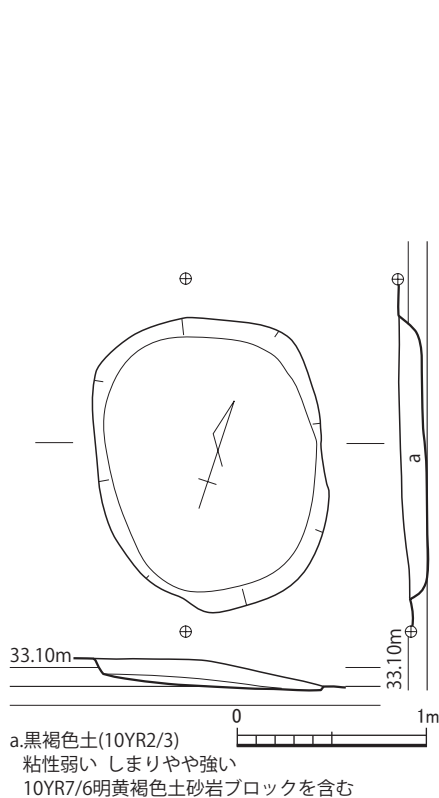
遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で直径が65 cm、楕円形である。深さは23 cmである(第200図)。壁の立ち上がりは60°と急傾斜である。なお、本土坑はS 100 に切られており、先行することがわかる。

S100 第II次調査区の西部にあり、区画では0F区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあつて、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所である。北東にS 46 やS 45 などの大きな集石がある。

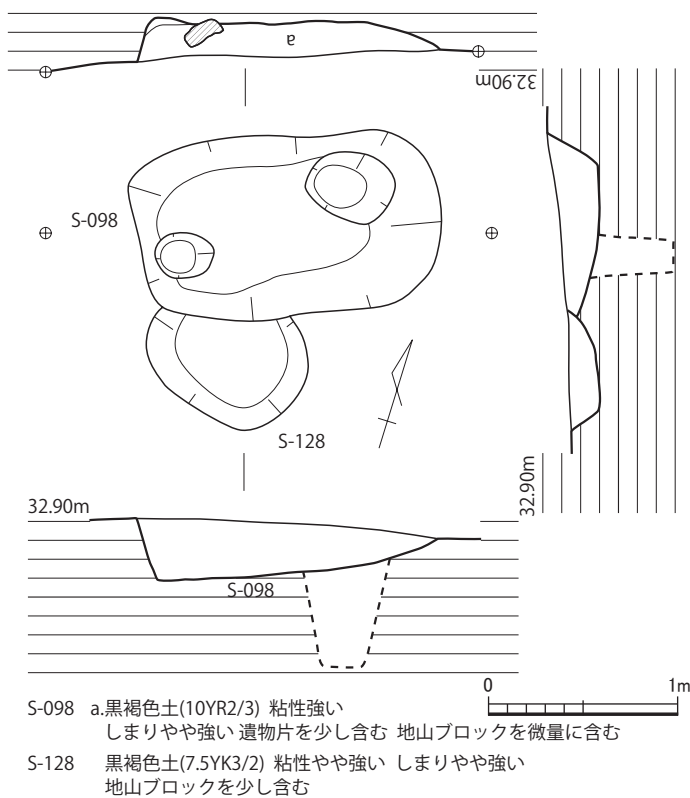
遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が143 cm、短軸89 cm、隅丸方形である。深さは20 cmである(第200図)。壁の立ち上がりは70°と急傾斜である。なお、本土坑はS 99 を切つて構築されている。

土器 山形のピッチが短い連珠状の山形押型文土器が出土している(第201図347)。これは口唇部を欠くが、口縁部の破片である。内面はナデ調整で、柵状文はない。

石器 敲石・磨石の破片と完形品が出土している(第201図348・349)。後者は両面に磨滅痕・打痕、上端に打痕がある。



第198図 S097実測図(1/40)

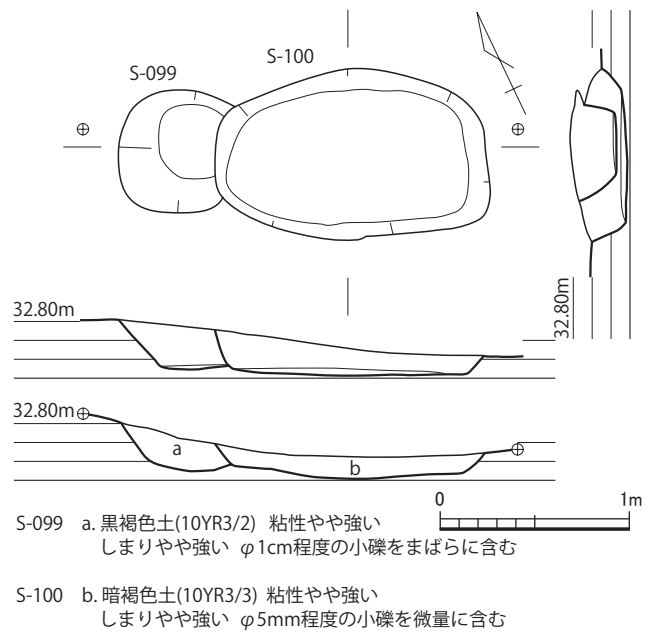


第199図 S098・S128実測図(1/40)

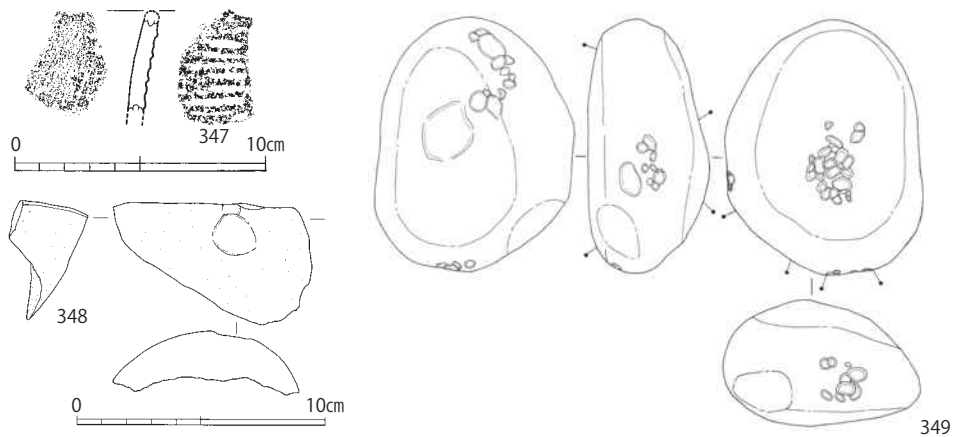
S101 第II次調査区の西部にあり、区画では0F区の南に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあって、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所である。北東にS 46やS 45などの大きな集石がある。

遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が123 cm、短軸118 cm、楕円形である。深さは34 cmである(第203図)。壁の立ち上がりは南北の壁で85°と急傾斜であるが、東西は約40°と緩やかである。なお、本土坑は二つの土坑が切りあっているとみられ、西半部が二段になっている。

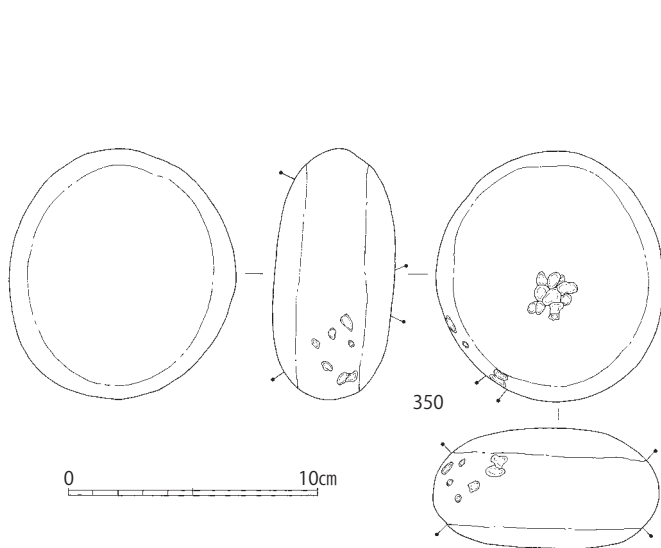
石器 敲石・磨石が出土している(第202図350)。表面に磨滅痕、裏面と周縁に打痕がある。



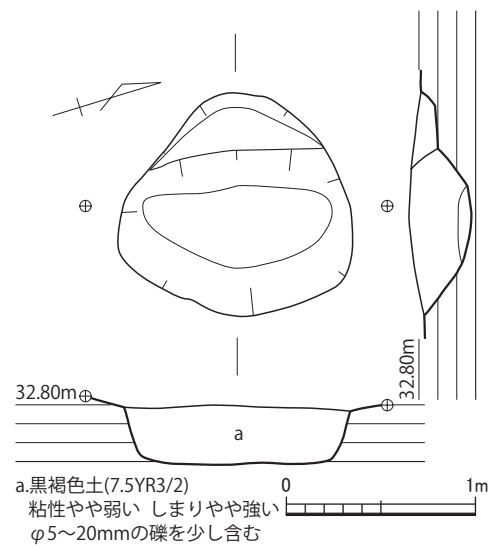
第200図 S099・S100実測図(1/40)



第201図 S100出土遺物実測図



第202図 S101出土遺物実測図



第203図 S101実測図(1/40)

S102 第II次調査区の西部にあり、区画では1E区の南に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあつて、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所である。西方にS46やS45などの大きな集石がある。

遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が123cm、短軸118cm、楕円形である。深さは34cmである(第204図)。壁の立ち上がりは南北の壁で60°前後、東西も55~75°と急傾斜。なお、本土坑は二つの土坑が切りあっているとみられ、南側が二段になっている。

S103 第II次調査区の西部にあり、区画では1E区の南に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあつて、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所である。西方にS46やS45などの大きな集石があるほか、上記のS102は東北の至近距離に位置する。

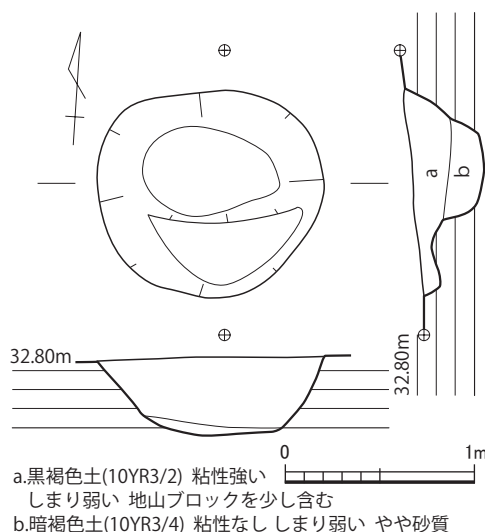
遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が155cm、短軸99cm、隅丸方形である。深さは41cmである(第205図)。壁の立ち上がりは南北の壁で89°・65°、東西で75°・80°と急傾斜である。

S104 第II次調査区の西部にあり、区画では1F区の西に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあつて、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所である。西方にS46やS45などの大きな集石がある。

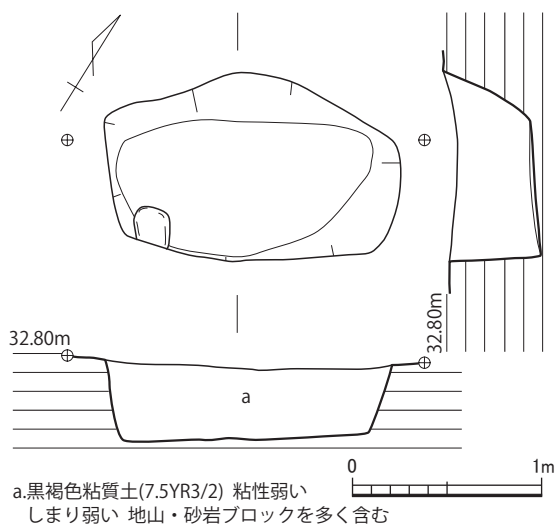
遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が112cm、短軸96cm、歪な楕円形である。深さは22cmである(第206図)。壁の立ち上がりは南北の壁で35°・46°、東西で54°・81°と急傾斜である。

S105 第II次調査区の西部にあり、区画では1F区の西に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあつて、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所であるが、この地点はやや勾配が緩い。

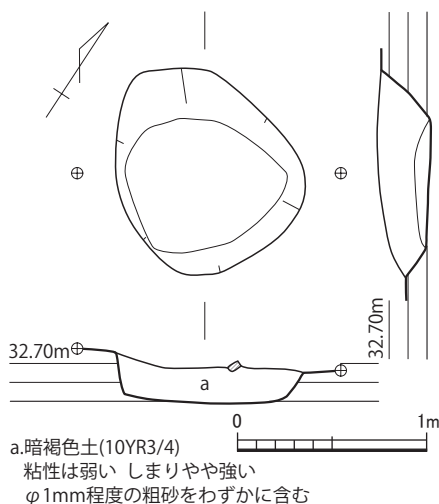
遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が132cm、短軸103cm、歪な楕円形である。深さは14cmである(第207図)。壁の立ち上がりは北壁を除いて急傾斜であるが、深さは浅い。



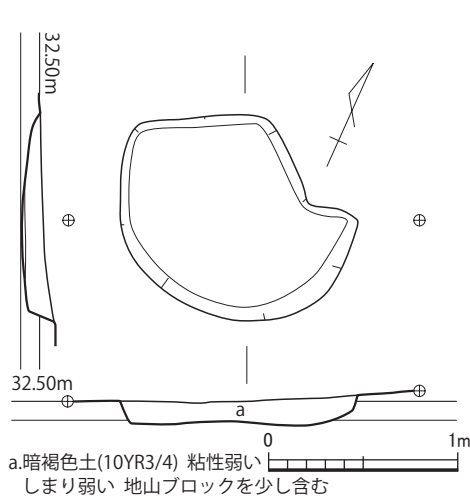
第204図 S102実測図(1/40)



第205図 S103実測図(1/40)



第206図 S104実測図(1/40)



第207図 S105実測図(1/40)

S106 S107 S108 S109 S110 S106～S110は、いずれも第Ⅱ次調査区の西部にあり、区画では1G区の西に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあって、湾曲する谷部の西側の緩斜面で、勾配が緩い場所である。

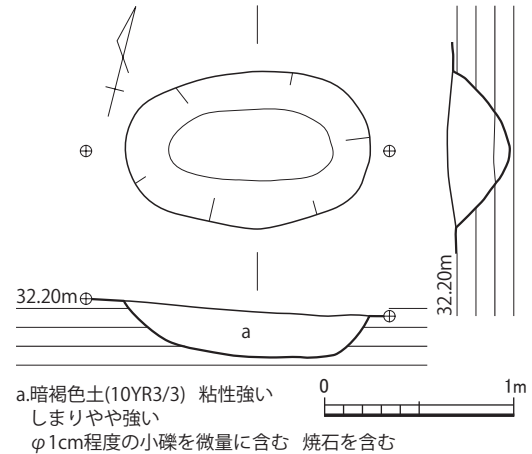
S106は、Ⅳ層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が129cm、短軸83cm、楕円形である。深さは33cmである(第208図)。壁の立ち上がりは東西が53°と43°、南北が40°と45°である。長軸は、北から西へ104°振れている。

S107は、Ⅳ層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が120cm、短軸91cm、楕円形である。深さは38cmである(第209図)。壁の立ち上がりは東西が65°で、南北は75°と80°である。長軸は、北から西へ52°振れている。

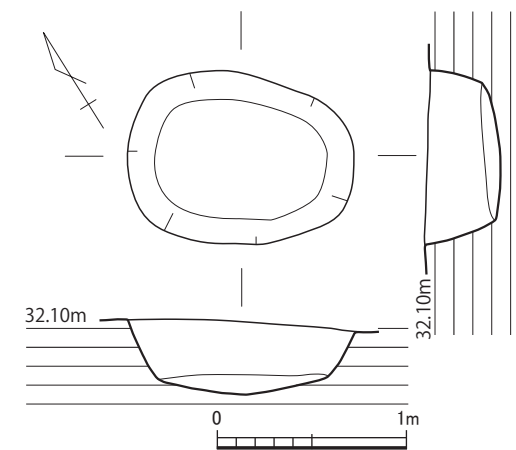
S109は、Ⅳ層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が210cm、短軸83cm、長方形である。内部が二段になっており、一段目の深ところ39cm、最も深いところで64cmである(第210図)。壁の立ち上がりは70°～80°前後と急傾斜である。長軸は、北から西へ50°振れている。

S110は、Ⅳ層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が110cm、短軸68cm、隅丸二等辺三角形である。深さは15cmである(第211図)。長軸は、北から西へ172.5°振れている。S111を切っている。

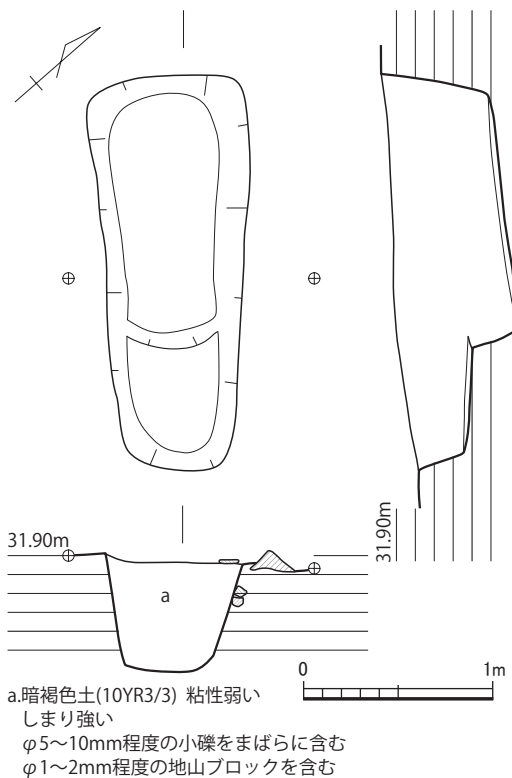
石器 S110からは、台石が1点出土している(第212図351)。



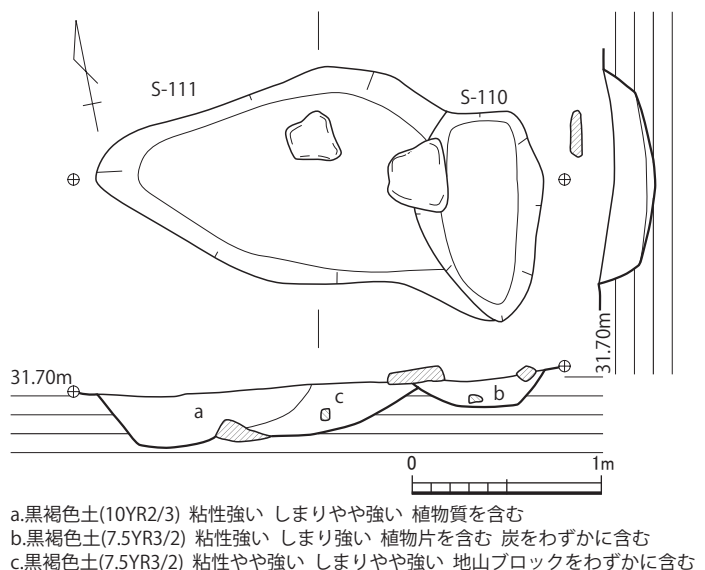
第208図 S106実測図(1/40)



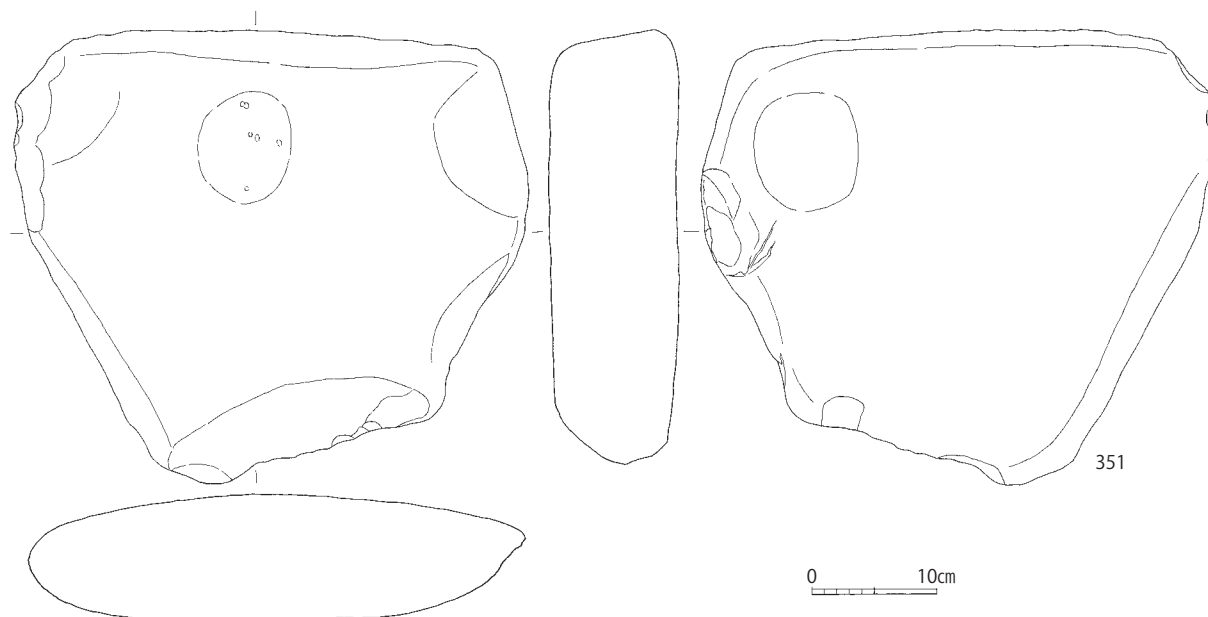
第209図 S107実測図(1/40)



第210図 S109実測図(1/40)



第211図 S110・S111実測図(1/40)



第212図 S110出土遺物実測図

S111 S 111 もS 110 と同様な場所にあり、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が175 cm、短軸116 cm、凸レンズ形である。深さは27 cmである（第211図）。壁の立ち上がりは、長軸が30°～52°、短軸が55°と72°である。長軸は、北から西へ74°振れている。S 110に切られている。

S112 第II次調査区の西部にあり、区画では1H区の西に位置する（第3図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側に展開する湾曲した谷部の西側斜面である。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で南北が185 cm、短軸176 cm、菱形である。深さは20 cmである（第213図）。壁の立ち上がりは、急傾斜である。

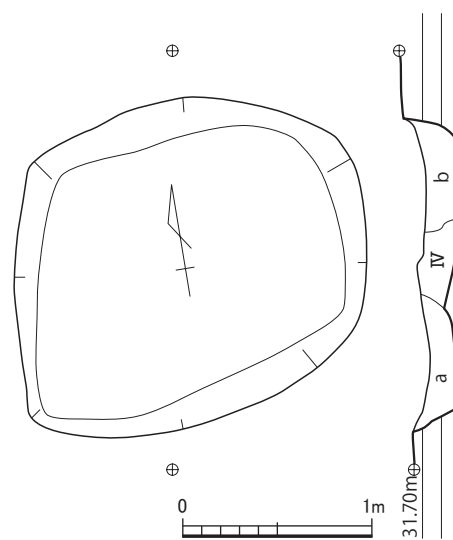
S113 第II次調査区の西部にあり、区画では2H区と3H区の境界に位置する（第3図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側に展開する湾曲した谷部の西側斜面にあたる。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で南北が275 cm、短軸140 cm、形は細長い歪な形である。深さは36 cmである（第214図）。内部は2段になっており、壁の立ち上がりは、西壁が緩やかな勾配、一段目の西壁は35°、東壁36°、北壁70°、南壁45°である。遺構の方位は、北から西へ85°振れている。

石器 旧石器時代の縦長剥片を用いたスクレイパーであり、流入品であろう。ポジティブ面側に加工を施す（第215図352）。

S114 第II次調査区の西部にあり、区画では3H区の西よりに位置する（第3図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側に展開する湾曲した谷部の西側斜面にあたる。S 113のすぐ南側にS 114は位置する。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で南北が117 cm、短軸90 cm、形は細長い歪な形である。深さは24 cmである（第216図）。壁の立ち上がりは、西壁が緩やかな勾配、西壁は52°、東壁65°、北壁71°、南壁72°である。遺構長軸の方位は、真北である。

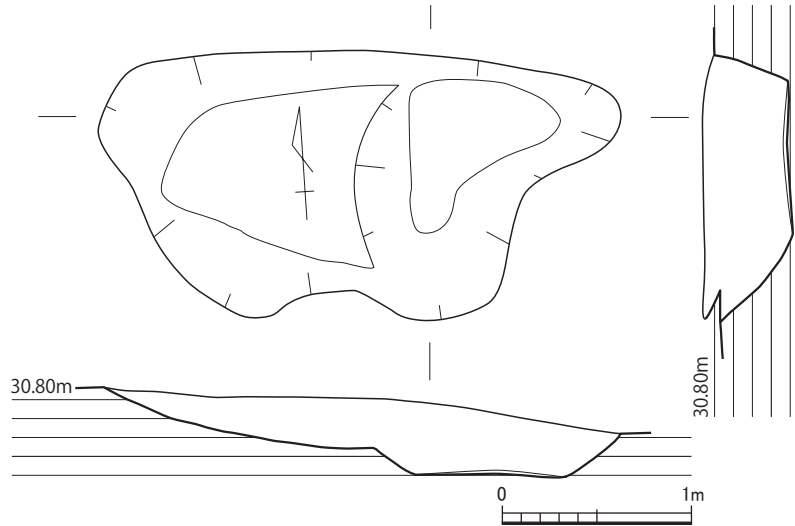


a.暗褐色土(7.5YR3/4) 粘性なし しまりやや強い
遺物片を含む
b.極暗褐色土(7.5YR3/4) 粘性強い しまりやや強い
遺物片を含む 炭・地山ブロックをわずかに含む
IV.風倒木痕

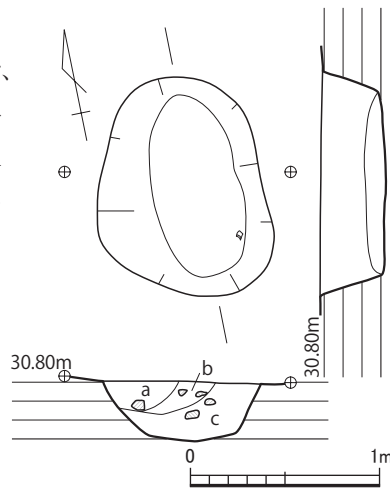
第213図 S112実測図(1/40)

S117 調査区の西部地域で、第II次調査区にあり、区画では2E区・2F区・3E区・3F区の交点に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある谷地形で、S117はその谷頭付近に位置する。この場所は谷頭であるけれど、等高線の開いた勾配の緩い場所である。なお、付近は、S70～S74・S65など集石が多い。

S117は、IV層上面から出土した土坑である(第217図)。土坑内における長軸方向の勾配は緩やかな段をもちながらも中央部で最も深くなる。短軸方向の勾配は、東壁で北壁や南壁の曲率半径が大きくゆるやかであるが、西壁では急傾斜となる。長軸の方位は、ほぼ南北方向で、等高線にほぼ平行する。規模と平面形は、南北237cm、東西110cmで、楕円形である。また最も深い部分の深さは53cmである。

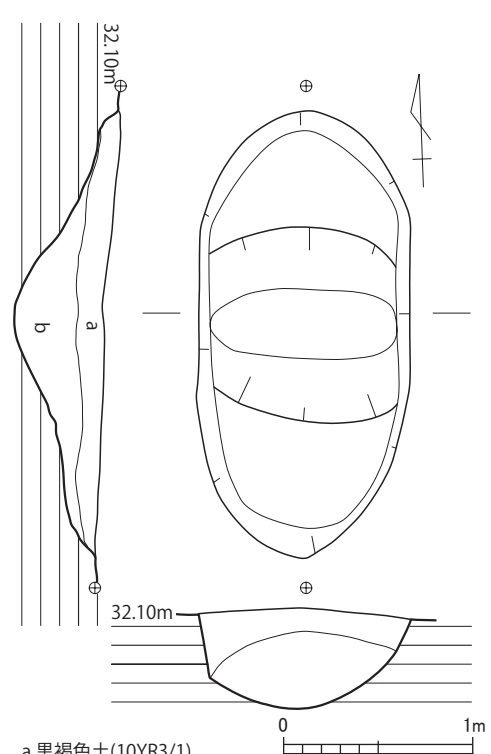


第214図 S113実測図(1/40)



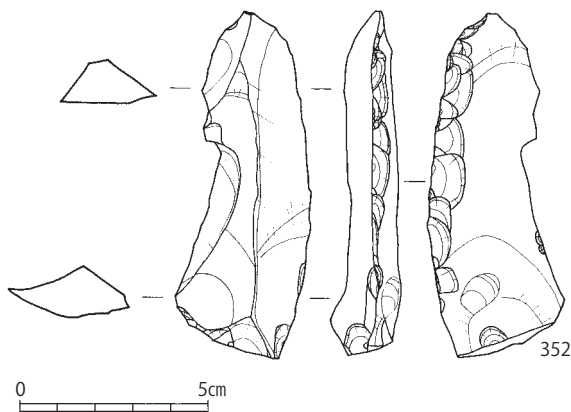
- a.(攪乱覆土) 極暗褐色土(7.5YR2/3)
粘性やや強い しまりやや強い
7.5YR5/8明褐色土ブロックを互層に含む
- b.黒褐色土(7.5YR4/4) 粘性強い しまり弱い
φ3cmの礫をわずかに含む
- c.暗褐色土(10YR3/4) 粘性強い しまり弱い
φ2~5cmの礫をわずかに含む

第216図 S114実測図(1/40)



- a.黒褐色土(10YR3/1)
しまりやや強く粘性はやや弱い
5mm程度の小礫をまばらに含む
- b.暗褐色土(10YR3/3) しまり強く粘性は弱い
5cm程度の礫をまばらに含む

第217図 S117実測図(1/40)



第215図 S113出土遺物実測図

S118 上記、S 117と同様な地区に位置する。S 117の東南に近接する。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で南北が160 cm、短軸128 cm、形は楕円形である。深さは27 cmである(第218図)。壁の立ち上がりは、東西50°・68°、南北が40°・47°である。遺構の長軸の方位は、北から西へ73°振れている。

S119 第II次調査区の西部にあり、区画では1I区の西に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側に展開する湾曲した谷部の西側斜面にある。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、南北が176 cm、短軸82 cm、長楕円形である。深さは20 cmである(第219図)。壁の立ち上がりは、南北が40°・68°、東西が65°・57°である。

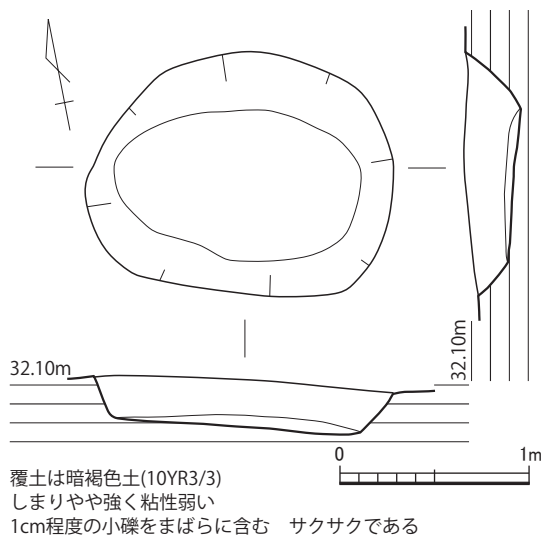
S120 第II次調査区の西部にあり、区画では1F区の西南に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側で、東面する南北方向の斜面が東へ回り込む谷部の斜面にある。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、南北が78 cm、短軸65 cm、楕円形である。深さは19 cmである(第220図)。壁の立ち上がりは、南北が72°・78°、東西が50°・45°である。

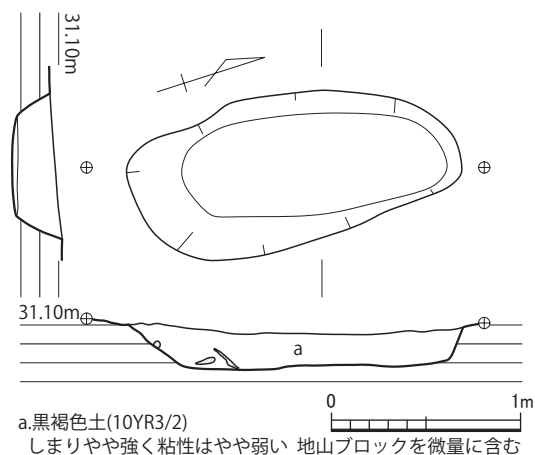
S122 第II次調査区の西部にあり、区画では1E区の西部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側で、東面する南北方向の斜面が東へ回り込む谷部の斜面にある。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、南北が120 cm、短軸110 cm、平面形は隅丸方形に近い。深さは35 cmである(第222図)。壁の立ち上がりは、東西が36°・54°である。

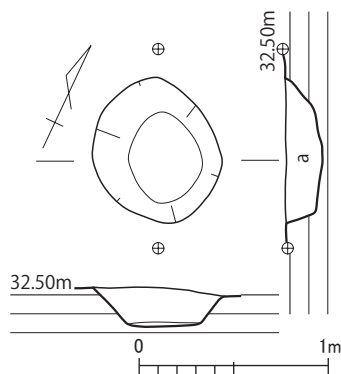
石器 幅広剥片の端部を加工したスクレイパーである(第221図353)。刃部のラインは、鋸刃状である。



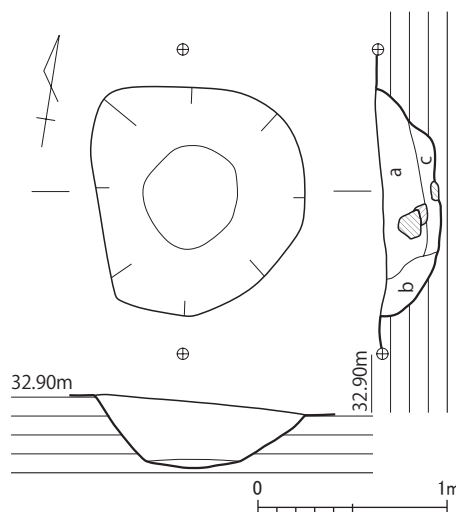
第218図 S118実測図(1/40)



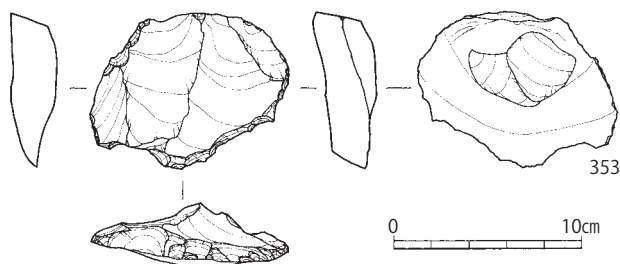
第219図 S119実測図(1/40)



第220図 S120実測図(1/40)



第222図 S122実測図(1/40)



第221図 S122出土遺物実測図

S123 調査区中央部で第II次調査区にあり、区画では6E区西南隅部に位置する。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形の上で、南側に弧状の谷部を望む縁部に位置する。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、南北が127cm、短軸113cm、平面形は楕円形に近い。深さは45cmである(第223図)。壁の立ち上がりは、南北で58°・60°である。堆積土は四層あるが、a層b層から遺物が出土している。

S125 調査区中央部で第II次調査区にあり、区画では4E区西南隅部に位置する。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形のすぐ南側に位置し、弧状の谷部の谷頭にあたる。また南側の谷部下方を望む場所である。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、径が84cm前後で、平面形は楕円形に近い円形。深さは52cmである(第224図)。壁は、南北で70°前後で碗状の断面である。

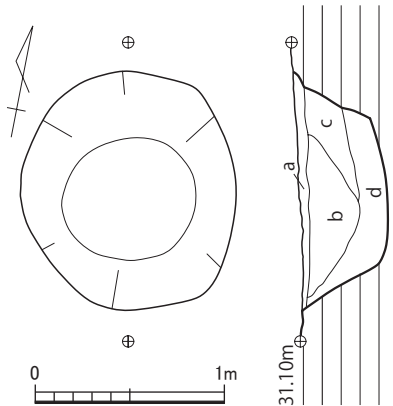
S128 第II次調査区の西部にあり、区画では0F区の西に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあつて東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所である。北方にS46等の大きな集石がある。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸が84cm、短軸が約70cmで、平面形は隅丸方形に近い楕円形。長軸の方位は、北から西へ65°振れている。深さは、15cmである(第199図)。

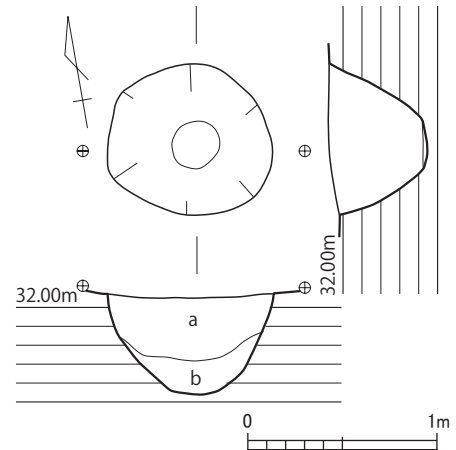
なお、S128は、先行するS098に北西部を切られている。

S129 第II次調査区で調査区中央部にあり、区画では4E区西南隅部に位置する。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかで標高の高い地勢の脊梁地形の上で、南側に弧状の谷部を望む縁部に位置する。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸が239cm、短軸が約140cmで、平面形は隅丸方形に近い楕円形。長軸の方位は、北から西へ152°振れている。深さは、36cmである(第226図)。長軸方向の、傾斜は17°と37°と緩やかで、短軸方向では65°と80°で急勾配である。

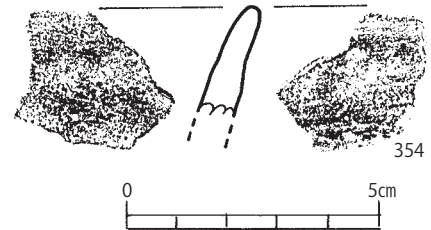


第223図 S123実測図(1/40)
 a.黒褐色土(10YR2/3) 粘性やや弱い しまりやや弱い 土器などの遺物を多く含む
 b.黒褐色土(10YR2/3) 粘性やや強い しまり弱い 土器などの遺物を多く含む
 c.黒褐色土(10YR2/3) 粘性なし しまりやや弱い 地山ブロックを微量に含む
 d.黒褐色土(10YR2/3) 粘性強い しまりやや強い

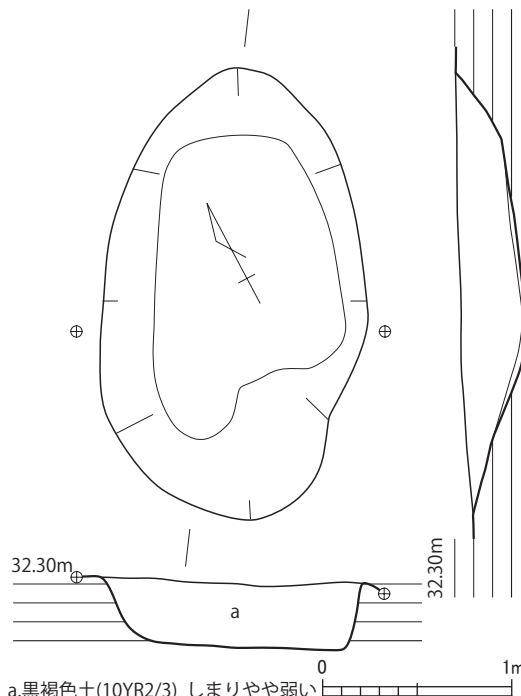


第224図 S125実測図(1/40)
 a.黒褐色土(10YR3/2) しまり強く粘性やや強い 粒子はあらくボソボソである 1mm程度の小礫を含む
 b.黒色土(10YR1.7/1) しまりやや強く粘性は弱い 粒子は細かく細粒である 1cm程度の地山ブロックを微量に含む 埋め土はサクサクしている

第224図 S125実測図(1/40)

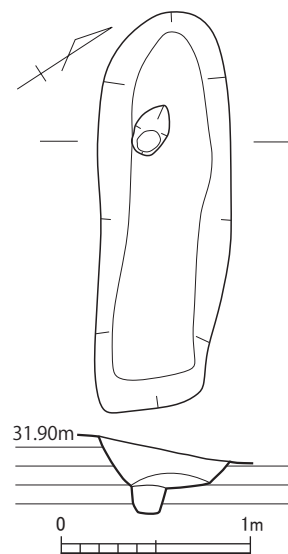


第225図 S129出土遺物実測図



第226図 S129実測図(1/40)
 a.黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性やや強い φ1mm~1cmの砂利をまんべんなく含む 土器などの遺物を少し含む

第226図 S129実測図(1/40)



第227図 S130実測図(1/40)

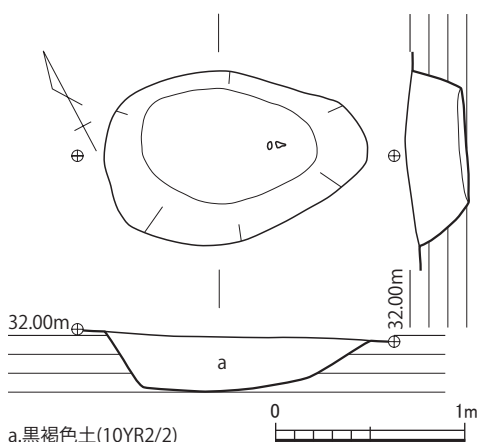
土器 S129 からナデ調整無文土器の口縁部破片が出土している (第225図 354)。外傾する。

S130・S131・S132 調査区中央部で第II次調査区にあり、区画では4F区北半部に位置する。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形のすぐ南側に位置し、弧状の谷部の上部緩斜面である。また南側の谷部下方を望む場所である。

S130の規模と平面形は、長軸が211cm、短軸が約70cmで、平面形は細長い歪な形。長軸の方位は、北から西へ57°振れている。深さは、23cmである(第227図)。長軸方向の、傾斜は17°と37°と緩やかで、短軸方向では65°と80°で急勾配。

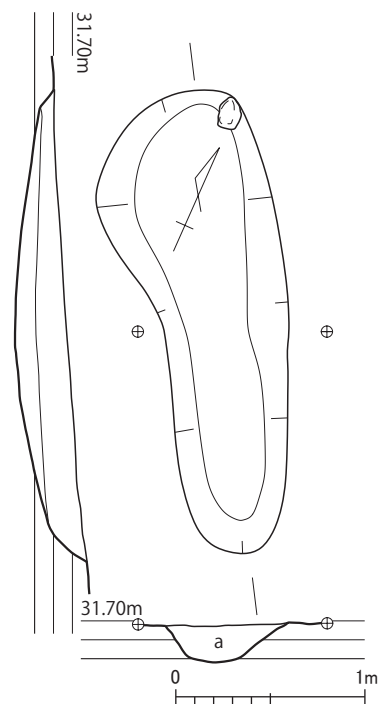
S131の規模と平面形は、長軸が149cm、短軸が約92cmで、平面形は長さの短い楕円形。長軸の方位は、北から西へ63°振れている。深さは、32cmである(第228図)。長軸方向の、傾斜は55°と30°と緩やかで、短軸方向では50°と70°である。

S132の規模と平面形は、長軸が247cm、短軸が約92cmで、平面形は細長い楕円形。長軸の方位は、北から西へ30°振れている。深さは、26cmである(第229図)。長軸方向の傾斜は40°と52°と緩やかで、短軸方向では55°と36.5°である。



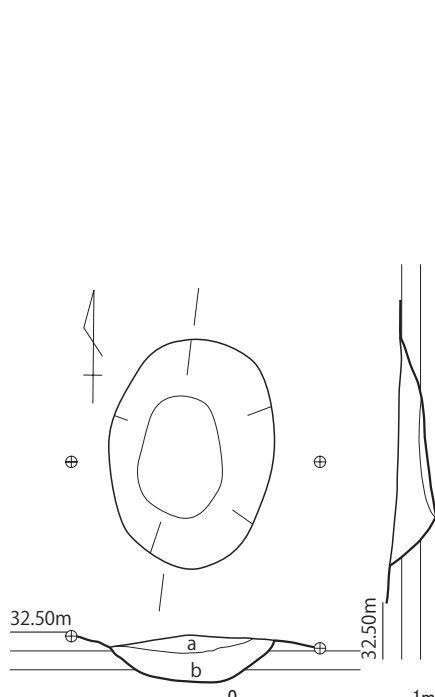
a.黒褐色土(10YR2/2) しまり強く粘性やや強い 粒子は細かく細粒である 1cm程度の地山ブロックを微量に含む

第228図 S131実測図(1/40)



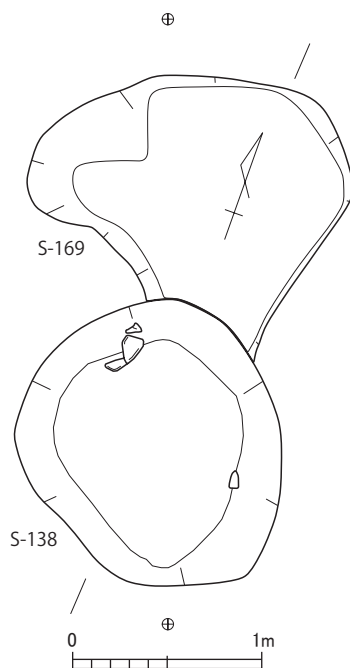
a.黒褐色土(10YR3/1) しまりやや強く粘性やや弱い 粒子は非常に細かく細粒である

第229図 S132実測図(1/40)



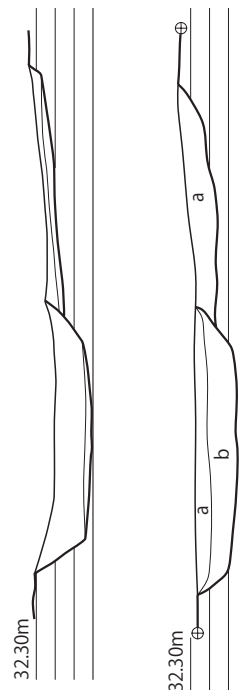
a.黒褐色土(10YR3/4) しまりやや強い 粘性やや強い 炭を微量に含む
b.にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや弱い 粘性なし 焼土ブロックを少し含む 地山ブロックをまばらに含む

第230図 S136実測図(1/40)



S-138(覆土) a.黒褐色土(10YR3/2) しまり強い 粘性弱い 粒子は細粒である 1cmから3cm程度の小礫を含む
b.灰黄褐色土(10YR4/2) しまり強い 粘性やや弱い 1mmから2mmの小礫を微量に含む 1cm程度の地山ブロックを含む
S-169(覆土) a.黒褐色土(10YR3/2) しまりやや強い 粘性やや弱い 1mmから2mmの小礫を微量に含む

第231図 S138・S169実測図(1/40)



S136 調査区の西部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では5D区の東南隅部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の上であって、標高の高い脊梁地形の尾根部から扇形に広がり始める変化点にある。地形的には緩く平坦な場所である。

遺構はⅣ層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸が122 cm、短軸が86 cmで、平面形は楕円形。長軸の方位は、北から西へ170°振れている。深さは、24 cmである(第230図)。長軸方向の、傾斜は45°と24°と緩やかで、短軸方向では曲率半径が大きいので明瞭ではないが、40°と41°前後の緩やかな勾配である。なお、堆積土のb層に焼土が含まれている。

S138 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では5E区の南西部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南縁部で、南に湾曲した谷部を望む場所。

遺構はⅣ層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸が151 cm、短軸が135 cmで、平面形は寸詰まりな楕円形。長軸の方位は、北から西へ32°振れている。深さは、24 cmである(第231図)。長軸方向の、傾斜は56°と40°の勾配である。

S140 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では4F区・5F区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形の南にある湾曲した谷部斜面である。

遺構はⅣ層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸が130 cm、短軸が60 cmで、平面形は寸詰まりな楕円形。長軸の方位は、北から西へ90°振れている。深さは、15 cmである(第232図)。土坑の長軸は、等高線に平行する。柱穴があるが、S140が埋まって後に掘り込まれている。

S141 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では5F区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形の南にある湾曲した谷部斜面にあたる。

遺構はⅣ層上面で検出した。その規模と平面形は、南北が100 cm、東西が102 cmで、平面形はほぼ円形。深さは、30 cmである(第233図)。土坑内部の立ち上がりの勾配は、南北が53°と71°、東西が46°と57°である。

S142 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では5F区・5G区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形の南にあって、湾曲した谷部斜面である。

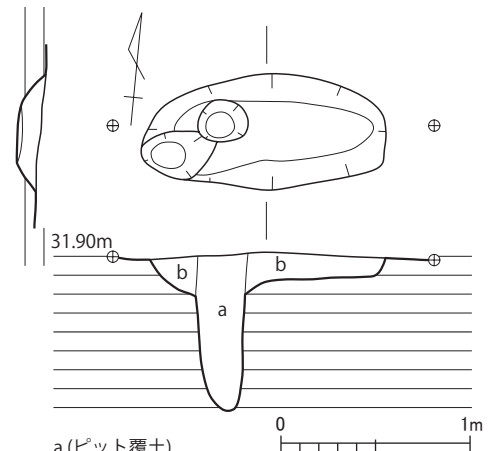
遺構はⅣ層上面で検出した。その規模と平面形は、南北が70 cm、東西が58 cmで、平面形はほぼ方形である。深さは、12 cmである(第234図)。土坑内部の立ち上がりの勾配は、緩く皿状である。

土器 ナデ調整無文土器が1点出土している(第235図355)。器壁は1 cmである。

S143 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では5G区北部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形の

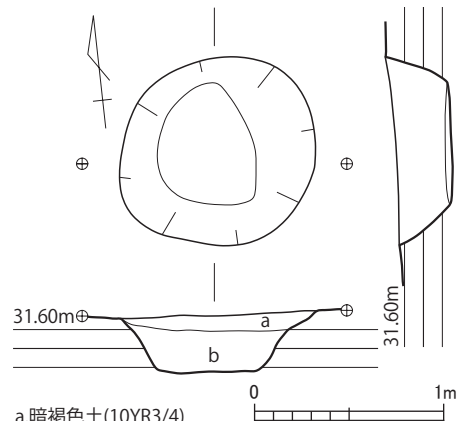


第235図 S142出土遺物実測図



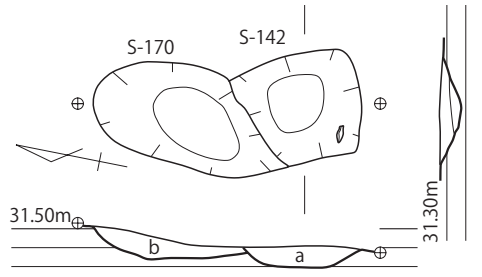
a.(ピット覆土) 暗褐色土(10YR3/3) しまり強い 粘性やや弱い 粒子は非常に細かく細粒である
b.暗褐色土(10YR3/4) しまり強い 粘性弱い 地山ブロックをまばらに含む

第232図 S140実測図(1/40)



a.暗褐色土(10YR3/4) 粘性やや弱い しまりやや弱い 地山ブロックを微量に含む
b.褐色土(10YR4/4) 粘性やや強い しまりやや弱い 地山ブロックをまんべんなく含む

第233図 S141実測図(1/40)



a.黒褐色土(10YR3/2) しまりはやや弱く粘性は弱い 埋土はボソボソである
b.暗褐色土(10YR3/3) しまりは強く粘性は弱い 地山ブロックを含む

第234図 S142・S170実測図(1/40)

南にあって、湾曲した谷部斜面である。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸が152 cm、東西が92 cmで、平面形は北東の端部側が太く、南東側が細い楕円形である。深さは、23 cmである（第236図）。土坑内部の立ち上がりの勾配は、南西端部が65°であるが、北東端部は曲率半径が大きく概ね26°程度緩い。

S145 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7F区西部に位置する（第3図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面にあって、その西南にある湾曲した谷部斜面を望む場所である。また、付近は南部竪穴建物群にふくまれ、炉穴などの遺構も多い。

遺構は、長軸90 cm、短軸80 cm、深さ10 cmである。楕円形の遺構のようであるが、S121に切られている長軸の方位は、北から西へ66°である（第95図）。東端に直径40 cm、深さ50 cmの柱穴状遺構がある。

S146 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7F区西部に位置する（第3図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その西南にある湾曲した谷部斜面を望む場所である。また、付近は南部竪穴建物群にふくまれ、炉穴などの遺構も多い。

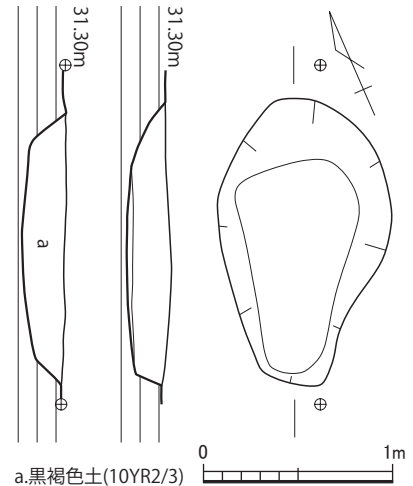
遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸が切れ明確ではないが概ね230 cm、東西は79 cmで、平面形は北東の端部側が太く、南東側が細くなる楕円形である。長軸の方位は、北から西に37°振れている。深さは、23 cmである（第237図）。土坑内部の立ち上がりの勾配は、短軸で73°・77°である。類例から炉穴と考えられる。なおS145は南東端部でS147を切り、S178に切られる関係にある。

S149 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7F区南部に位置する（第3図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面の西南部にある。炉穴群の南に隣接する。

遺構は、長軸が91 cm・短軸65 cm・深さ18 cmである。平面形は水滴形の楕円形（第238図）。長軸の方位は北から西へ93°振れている。

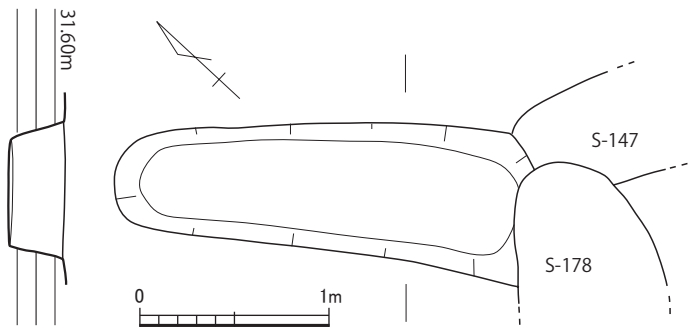
S150 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7G区中部に位置する（第3図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面の西南部にあたる。

遺構は、長軸が145 cm・短軸116 cm・深さ20 cmである。平面形は隅丸方形。長軸の方位は北から西へ21°振れている（第239図）。

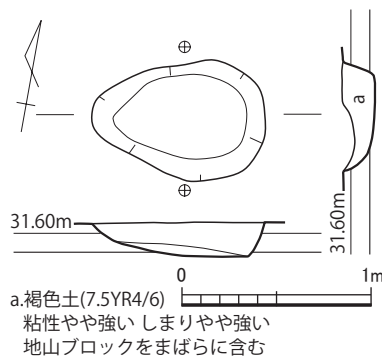


a.黒褐色土(10YR2/3)
しまりはやや弱く粘性はやや強い

第236図 S143実測図(1/40)

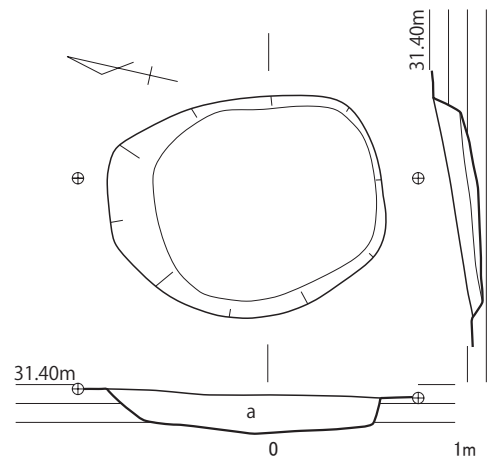


第237図 S146実測図(1/40)



a.褐色土(7.5YR4/6)
粘性やや強いしまりやや強い
地山ブロックをまばらに含む

第238図 S149実測図(1/40)



a.黒褐色土(10YR2/2)
しまりやや弱い粘性やや弱い
地山ブロックをまんべんなく含む

第239図 S150実測図(1/40)

S151 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7G区北東部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面であって、その西南部にある。

遺構はほぼ円形で浅い皿状である(第240図)。直径が89cmで、深さは19cm。

S153 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では5H区北西隅部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の南側に広がる湾曲した谷の谷底部である。

遺構はほぼ円形で、径170cm前後の規模を有する。皿状の断面形をしており、掘り込み部分が尾根側で高く、谷底側で低い(第241図)。深さは28cm。

S154 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では5F区北西隅部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の南側に広がる湾曲した谷上部の斜面に位置する。

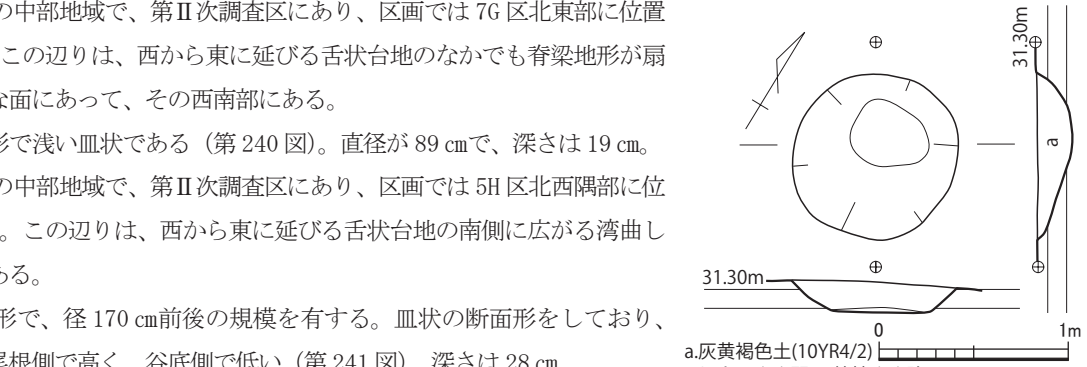
遺構は細長く一端が幅広いバチ形で、長軸148cm・短軸86cmの規模を有する(第242図)。深さ20cmで、壁の立ち上がりは長軸端部で60°と30°、短軸は30°と78°である。深さは20cm。

S155 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では5E区南東隅部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開き始めた起点近くの平坦な面である。また南西で、弧状の谷部との縁部にも近い。

遺構は胴張り状の長楕円形で、長軸182cm・短軸112cmの規模を有する(第243図)。壁の立ち上がりは長軸端部で50°、短軸は50°と41°である。深さは10cmと浅い。中央付近に台石を設置していた。

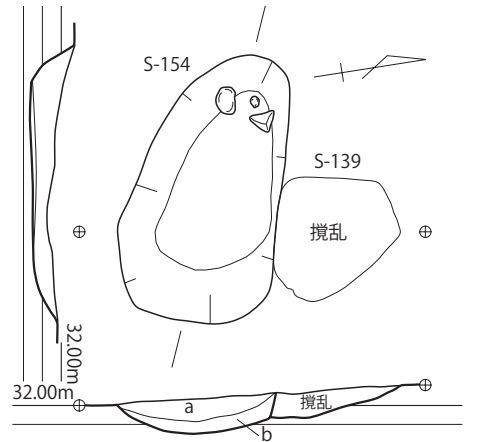
石器 台石は、

平面形が隅丸三角形をしており、長幅25cm・厚さ7.2cmで、表裏に打痕が残る(第244図356)。



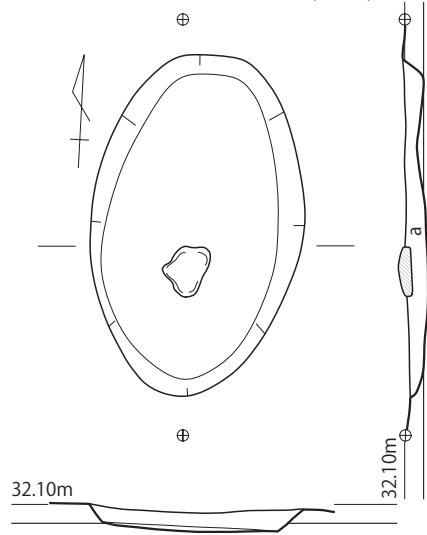
a. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや弱い粘性やや強い 地山ブロックをまばらに含む

第240図 S151実測図(1/40)



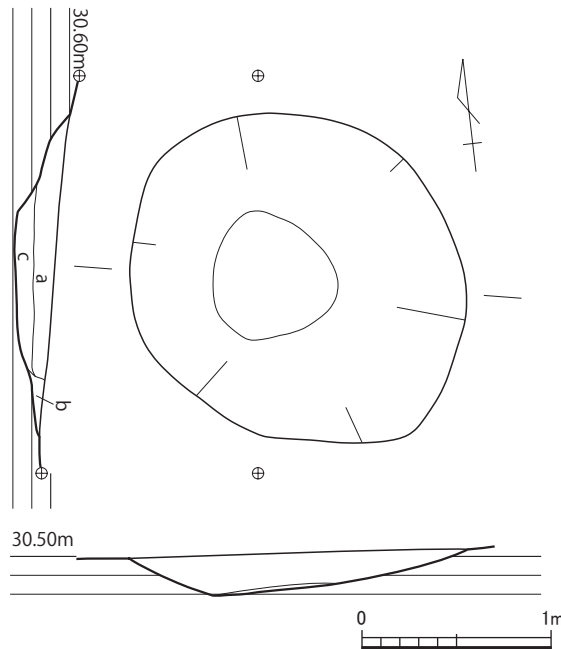
a. 黒褐色土(10YR3/2) しまりはやや強く粘性は弱い 粒子は非常に細かく細粒である
b. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりはやや強く粘性は弱い 粒子は非常に細かく細粒である 1cm程度の小礫を含む

第242図 S154実測図(1/40)



a. 黒褐色土(10YR3/2) しまり強い 粘性やや弱い 地山ブロックをまんべんなく含む

第243図 S155実測図(1/40)



a. 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性強い 地山ブロックをまばらに含む
b. 褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性やや強い
c. 暗褐色粘質土(10YR3/4) しまりやや強い 粘性強い 地山ブロックをまんべんなく含む

第241図 S153実測図(1/40)

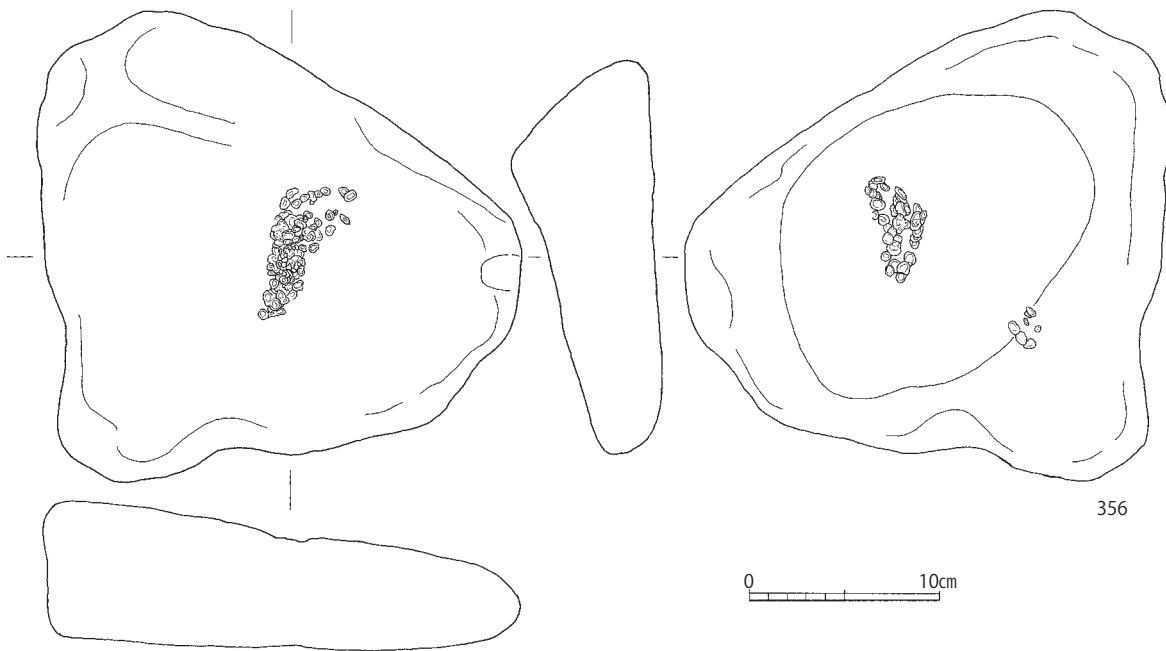
S156 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では5G区中部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の南側に広がる湾曲する谷の東側斜面である。

遺構は隅丸三角形で、長軸159cm・短軸104cm前後の規模を有する(第478図)。深さは34cmである。

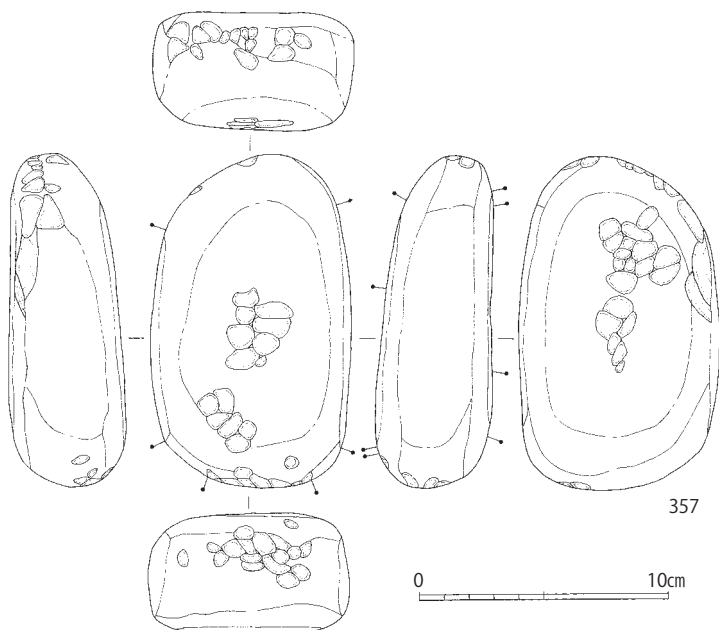
石器 石器は表裏両面・両側面が磨られ、石鱗状になった磨石で「石鱗形磨石・敲石」と呼ばれているものである(第245図357)。表裏、周縁に打痕があり、敲石としても使用されている。敲打により、両側に面が生じている。

S161 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7E区南部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面の中央部にある。

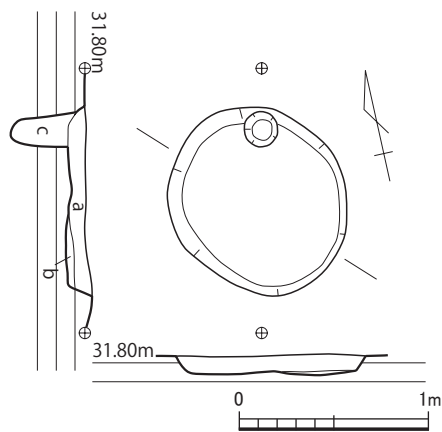
遺構は、長軸が102cm・短軸92cmで、ほぼ円形(第246図)。深さ12cmと浅い。内部は平らで、柱穴が1基ある。



第244図 S155出土遺物実測図



第245図 S156出土遺物実測図



- a. 黒褐色土(10YR2/3) 粘性強い しまり強い
地山ブロックを微量に含む
土器などの遺物を少し含む
- b. 褐色土(10YR4/4) 粘性は強い しまりやや弱い
地山ブロックをまばらに含む
- c. 褐色土(10YR4/4) 粘性やや強い しまりやや強い
地山ブロックを微妙に含む 植物質を含む

第246図 S161実測図(1/40)

S165 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では5G区北部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の南側に広がる湾曲した谷の東側斜面である。

遺構は隅丸方形で、南北54cm・東西57cmの規模を有する(第247図)。深さは12cm。

S166 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では6E区南西隅部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開き始めた起点近くの平坦な面である。また南西方向が、弧状の谷部との縁部にも近い。

遺構は、歪な隅丸方形で、南北110cm・東西107cmの規模を有する(第248図)。壁の立ち上がりは、南北で47.5°と63°、東西で55°と47°で急な勾配となっている。深さは33cmである。

S167 調査区の西部地域で、第II次調査区にあり、区画では3F区中部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある谷地形で、S167はその谷頭付近にあたる。この場所は谷頭であるけれど、等高線の開いた勾配の緩い場所である。

遺構は、楕円形で、南北107cm・東西125cmの規模を有する(第249図)。壁の立ち上がりは、南北で50°と77°、東西で64.5°と50°で急な勾配となっている。深さは31cmである。

S168 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7E区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面の中央部にある。また付近は南部竪穴建物群の分布範囲でもある。

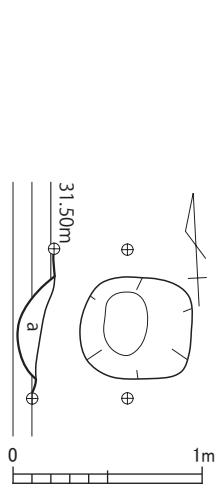
遺構は、歪な菱形で、長軸158cm・短軸100cmの規模を有する(第69図)。壁の立ち上がりは、南北で90°と63°で急な勾配となっている。深さは26cmである。S168は、S186・S187が埋没した後に掘削されている。内部に焼土がある。

S169 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では5E区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開き始める起点にあたる地区。

遺構は、歪な扇形で、東西171cm・南北120cmの規模を有するが、南側をS138によって切られている(第231図)。壁の立ち上がりは、曲率半径が極めて大きいゆるやかな傾斜勾配である。深さは16cmである。

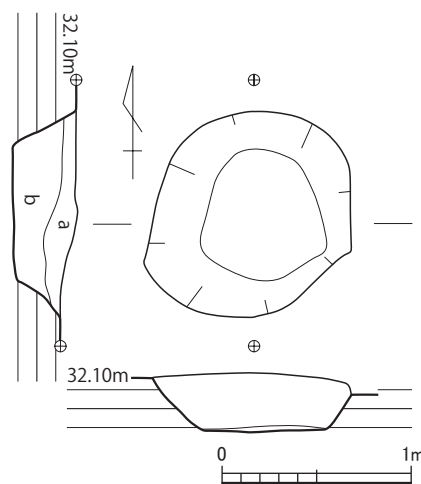
S170 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では5F区・5G区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の南側に広がる湾曲する谷の東側斜面である(第478図)。

遺構は隅丸方形で、南北110cm・東西52cmの規模を有する(第234図)。深さは12cm。S142と一連の遺構である。



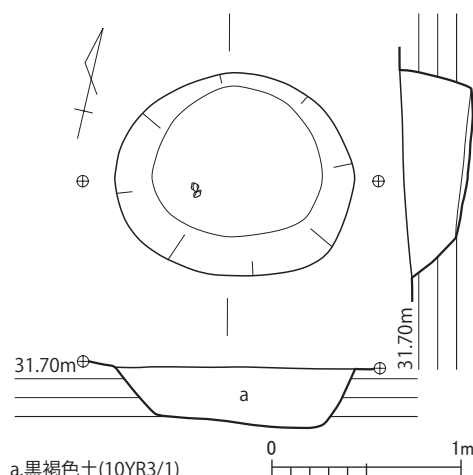
a.(焼土) 褐色土(10YR4/6)
粘性なし しまり弱い
粒子は細かく細粒である

第247図 S165実測図
(1/40)



a.暗褐色土(10YR3/3) 粘性やや強い
しまりやや強い φ2~7cmの礫を少し含む
b.暗褐色土(10YR3/4) 粘性やや強い
地山ブロックを微量に含む

第248図 S166実測図(1/40)



a.黒褐色土(10YR3/1)
しまりやや強い 粘性やや弱い
地山ブロックをまばらに含む 5mm程の小礫をまばらに含む

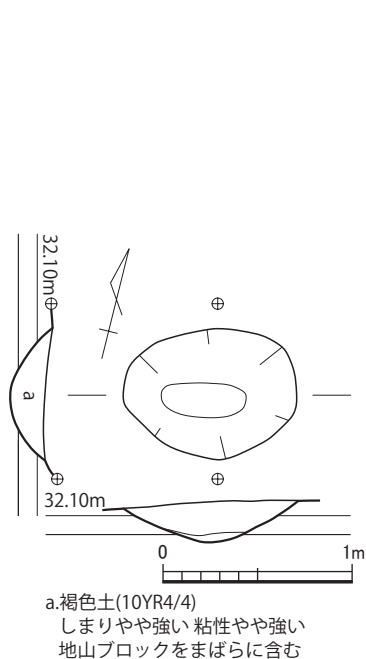
第249図 S167実測図(1/40)

S171 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では6E区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開き始める起点にあたる地区である。

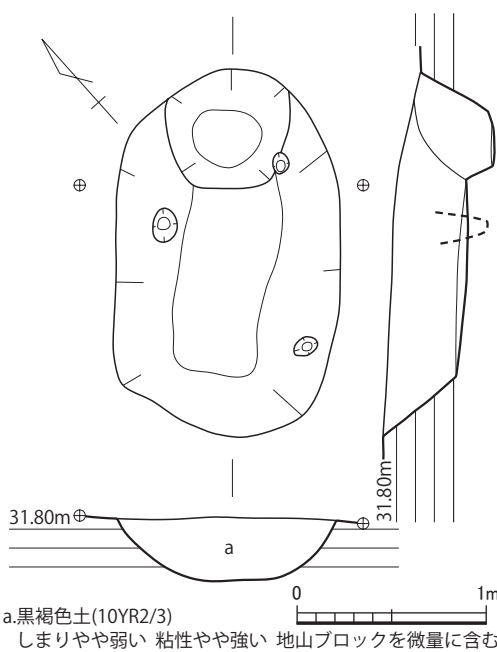
遺構は、寸詰まりの楕円形で、長軸91cm・南北70cmの規模を有する(第250図)。長軸の方向は、北から西に84°振れた方向である。深さは16cmである。

S173 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では7D区と7E区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面の中央部にある。この付近は南部竪穴建物群の北側にある。

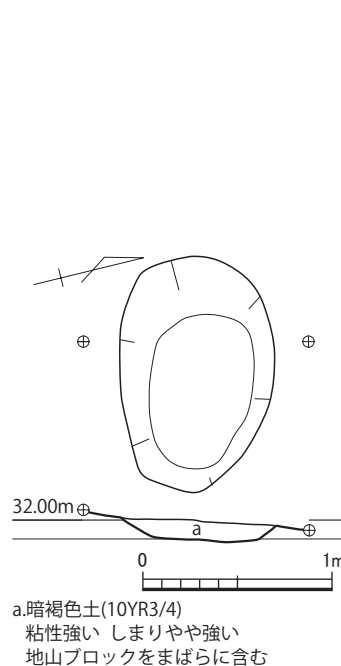
遺構は、細長い隅丸六角形で、長軸195cm・短軸119cmの規模を有する(第251図)。遺構は、北東端部に柱穴が掘りこまれているので壁の立ち上がりはわからないが、南西端部では51°と斜め勾配となっている。短軸方向の立ち上がりは曲率半径が大きく分らないが、概ね50°・62°である。遺構の深さは40cmである。



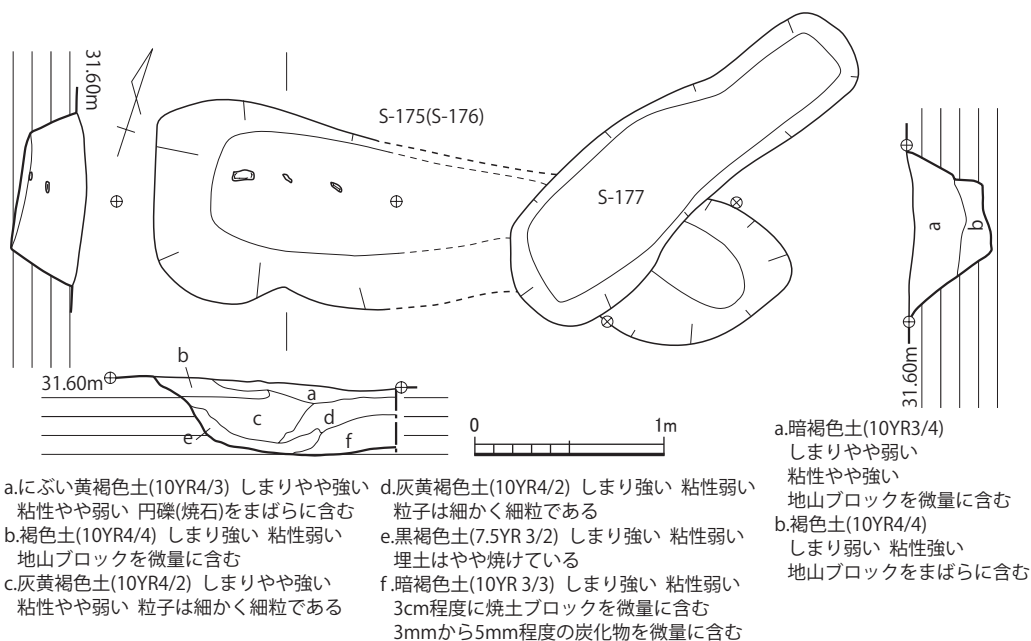
第250図 S171実測図(1/40)



第251図 S173実測図(1/40)



第252図 S174実測図(1/40)



第253図 S175(S176)実測図(1/40)

S174 調査区の中中部から東部にかけての地区で、丁度第Ⅱ次調査区にあたる。区画では7D区西南隅に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、北部よりの場所である。北側の谷を望む場所で、南部竪穴建物群の北側に位置する。付近に遺構は少ない。

遺構はⅣ層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸は概ね127cm、東西が82cmで、平面形は西側端部が太く南東側が細くなる卵形の楕円形である。長軸の方位は、北から西に74°振れている。深さは、10cmである(第252図)。土坑内部の立ち上がりの勾配は、短軸で31°・38°と緩やかである。

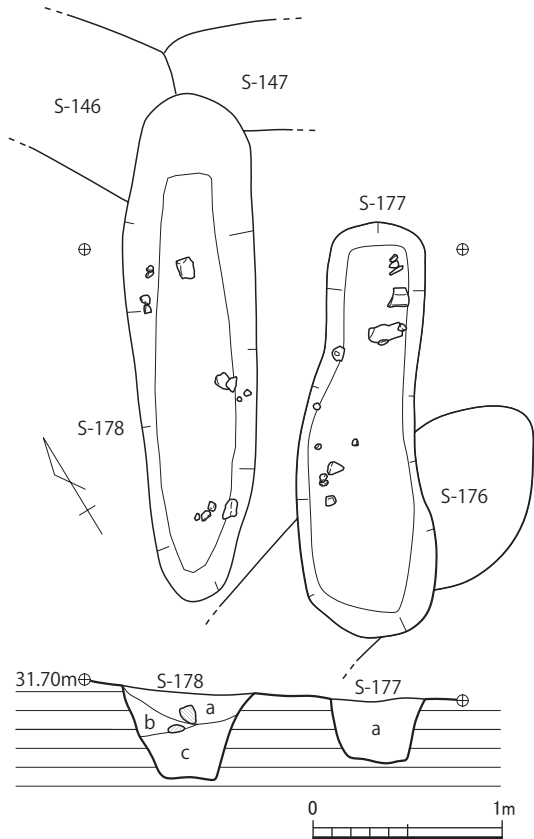
S175(S176) 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では7F区西南に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、南部よりの場所である。南部竪穴建物群の間に位置する。なお、周囲には同様な炉穴が多く位置している。S176は、S175の東方に位置するが、検討の結果同じ炉穴であり、一括して報告する。

遺構はⅣ層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸は概ね346cm、東西が107cmで、平面形は細長く歪な形である。長軸の方位は、北から西に96°振れている。深さは、30cmである(第253図)。土坑内部の立ち上がりの勾配は、短軸で67°・56°である。内部の堆積を見ると、f層で焼土が観察されることからここが燃焼部であったことが分かる。e層は細長く、黒褐色土の薄い堆積であり、やや焼けていることからすれば煙道であった可能性が高い。するとc層は本来天井部でブリッジであった可能性が高く、陥没したのであろう。

S177 上記のS175と同じ場所にあり、同遺構の埋没後に構築されている。

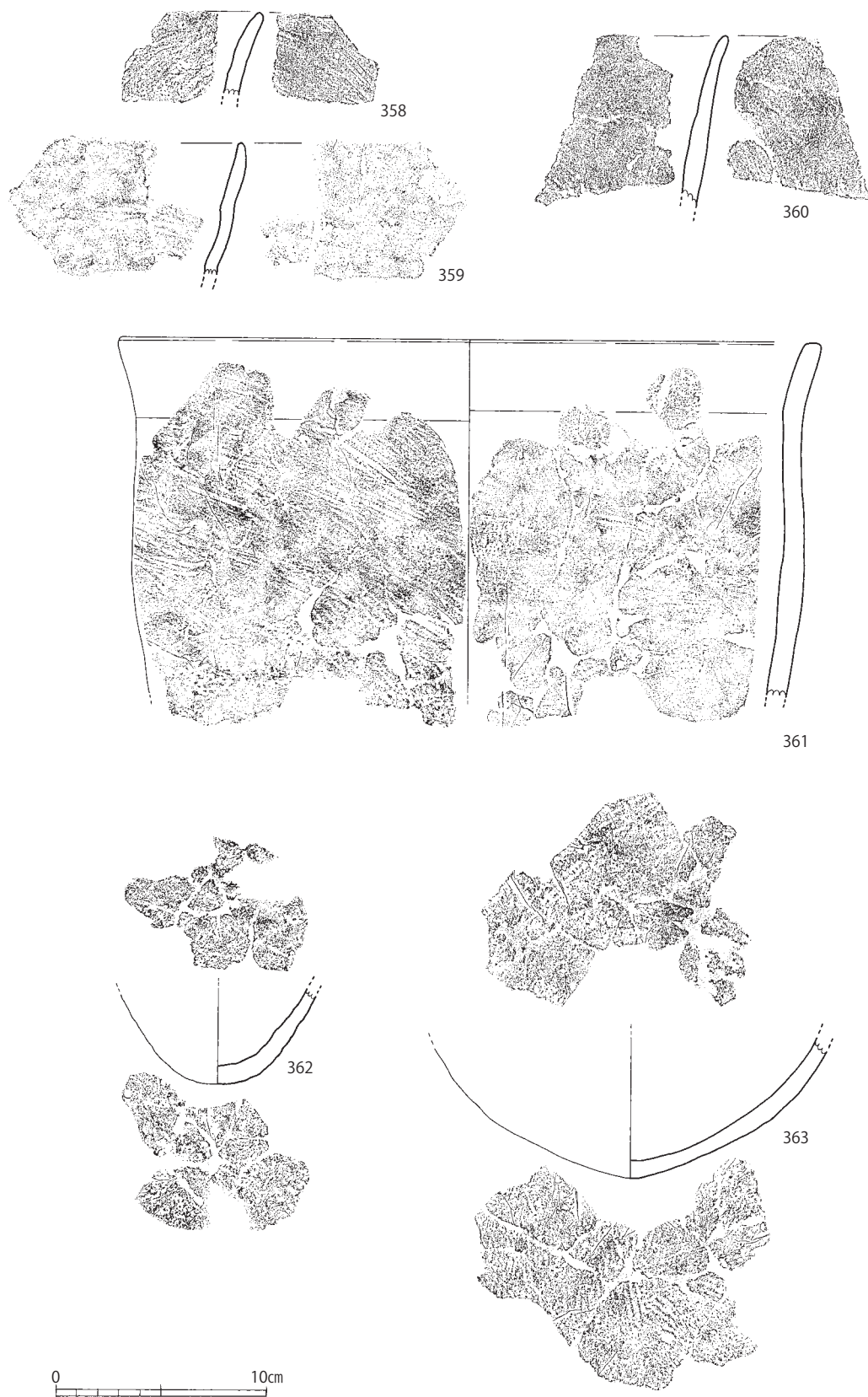
その規模と平面形は、長軸は概ね220cm、短軸が72cmで、平面形は細長く歪な長方形である。長軸の方位は、北から西に147°振れている。深さは、33cmである(第254図)。土坑内部の立ち上がりの勾配は、短軸で76°・75°である。内部の堆積には、炭が含まれている。内部構造については不明であるが、周辺の類例から炉穴であることはまちがいないだろう。

条痕調整とナデ調整を基本とした無文土器が出土している。ナデ調整無文土器は、僅かに外傾する口縁部派遣で、端部を細く伸ばしている。また調整はナデで、条痕調整を施した形跡はない(第255図360)。他は、条痕調整後にナデた例が5点ある(358～363)。このうち胴部が直行気味にたちあがるものの口縁部が外傾する例がある(361)。この例は、斜行する条痕がよく残っている。無文土器の中には、底部形態の分かる例がある。一例は、細い胴部から丸底になる例と(362)、僅かに尖り気味の丸底の例である(363)。二日市Ⅱa式土器・二日市Ⅱb式土器段階のものと推定される。



- S-177 a.暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い
粘性やや弱い 炭を微量に含む
土器などの遺物を少し含む
- S-178 a.黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い
粘性やや弱い 炭を微量に含む
土器の遺物を少し含む
- b.暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い
粘性やや弱い 炭を微量に含む
地山ブロックを微量に含む
- c.極暗褐色土(10YR3/3) しまりやや弱い
粘性強い 炭・焼土ブロックを微量に含む

第254図 S177・S178実測図(1/40)



第255図 S177出土遺物実測図

S178 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7F区西南に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、南部よりの場所である。南部竪穴建物群の間に位置する。なお、周囲には同様な炉穴が多く位置している。S 178は、S 146・S 147が埋没後に切るように構築されている。またS177の北西に20、30 cmに平行し、隣接する。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸は概ね270 cm、短軸が70 cmで、平面形は細長い長楕円形である。長軸の方位は、北から西に149°振れている。深さは、45 cmで(第254図)、立ち上がりの角度は66°と73.5°であり、断面形は逆台形となる。

土器 条痕調整無文土器と思われるものが1点ある。口縁部直下でクランク状に屈折し、立ち上る縁帯を有する例である。外面は磨滅で明瞭ではないが、内面は条痕調整後ナデている(第256図364)。

石器 磨石を片刃の礫器に再加工したものである(365)。

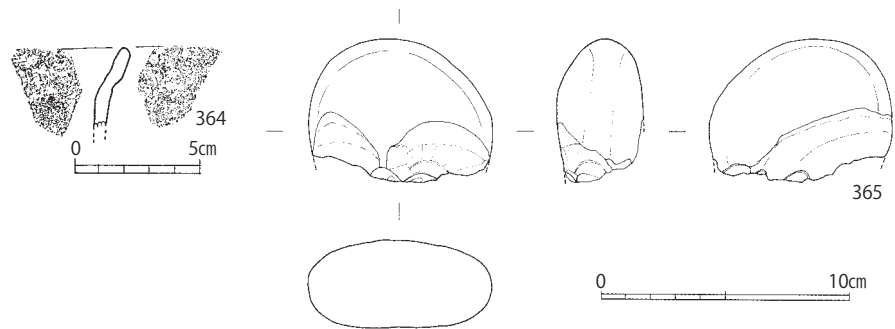
S181 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では6F区東南隅部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、南部よりの場所である。南部竪穴建物群の南に位置する。なお、周囲には同様な炉穴が多く位置している。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸は概ね200 cm、短軸が55 cmで、平面形は細長い長楕円形である。長軸の方位は、北から西に41°振れている。深さは、33 cm～44 cmで(第257図)、立ち上がりの角度は、端部で57°と64°、両側で72°と87.5°であり、断面形は逆台形となる。類例からみて炉穴であろう。

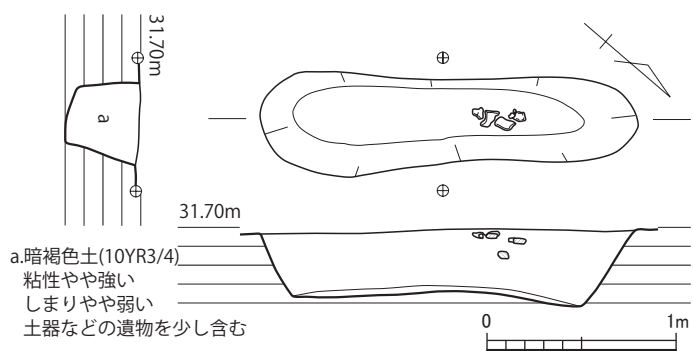
土器 ナデ調整無文土器と条痕調整無文土器がある。前者は、内面が指頭圧痕後ヨコナデで、外面はヨコナデ(第258図366)、後者は、内面がナデで、外面が斜行する条痕調整を施している(367)。

S182 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7F区・8F区東南隅部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、南部よりの場所である。なお、周囲には同様な炉穴が多く位置している。

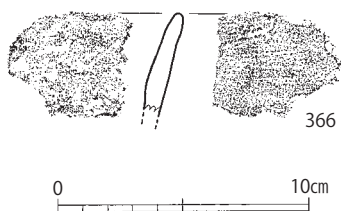
遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸は概ね225 cm、短軸が108 cmで、平面形は細長い長楕円の短冊形である。長軸の方位は、北から西に137°振れている。深さは、27 cmで(第259図)、立ち上がりの角度は、長軸で44°と46°、短軸で39°と61°であり、断面形は逆台形となる。類例からみて炉穴であろう。



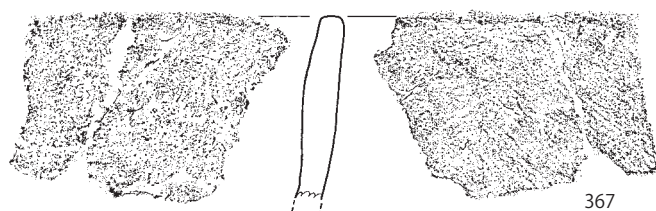
第256図 S178出土遺物実測図



第257図 S181実測図(1/40)



第258図 S181出土遺物実測図



S183A・S183B 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7F区・8F区境界南部に位置する(第3図・第479図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、南部よりの場所である。南部竪穴建物群の南に接している。なお、周囲には様々な遺構が位置している。遺構はIV層上面で検出した。

S183Aの規模と平面形は、長軸は概ね88cm(推定116cm)、短軸が91cmで、平面形は寸詰まりの楕円形である。長軸の方位は、北から西に43°振れている。深さは、22cmで(第260図)、その立ち上がりの角度は、曲率半径が大きく不明である。

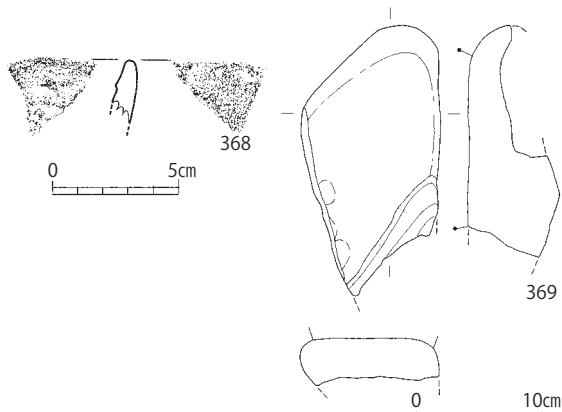
S183Bの規模と平面形は、長軸は概ね255cm、短軸は推定174cm、平面形は隅丸の半円形に近い。長軸の方位は、北から西に39°振れている。深さは、12cmである(第260図)。S183Bは、形と規模・構造から、竪穴建物の可能性がある。中央二つのピットは、炉穴であろう。この付近の遺構の切りあいからみた遺構の構築順序は、S162→S183B→S183A→S182となる。

S185 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7E区南部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、中南部よりの場所である。南部竪穴建物群の中である。なお、周囲には様々な遺構が位置している。遺構はIV層上面で検出した。

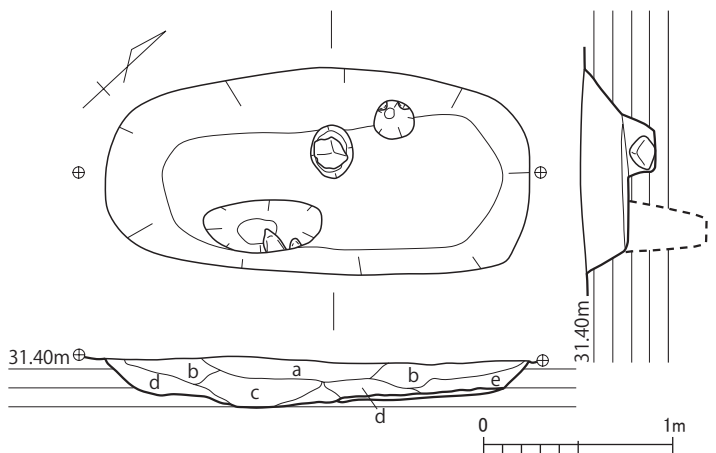
S185の規模と平面形は、長軸は概ね237cm、短軸は推定108cm、平面形は隅丸の短冊形に近い。長軸の方位は、北から西に116°振れている。深さは、19cmである(第69図)。

土器 ナデ調整無文土器の口縁部破片がある(第261図368)。

石器 打割によって破壊された台石の破片が出ている(369)。

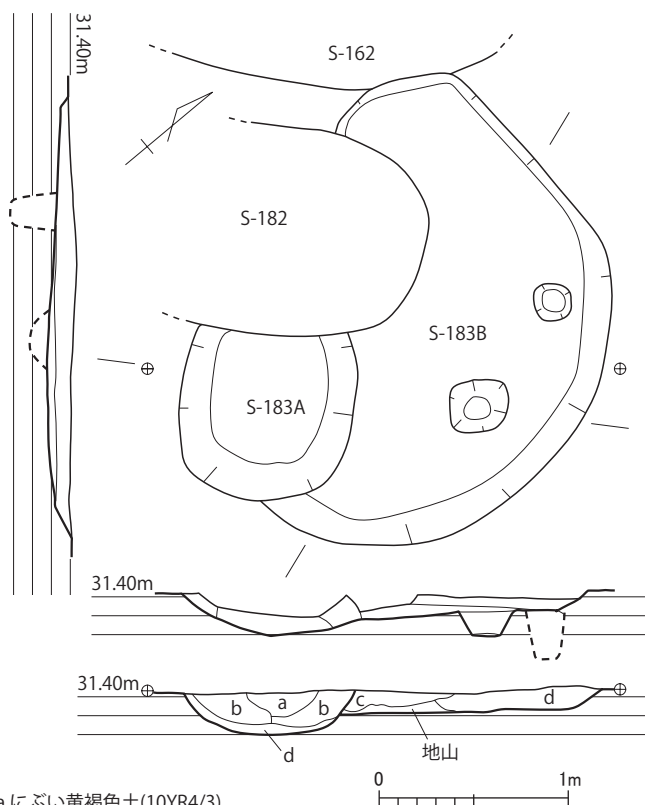


第261図 S185出土遺物実測図



- a. 黒褐色土(10YR3/1) しまり強い 粘性弱い 粒子は非常に細かく細粒である
- b. 褐灰色土(10YR4/1) しまり強い 粘性弱い 1mm程度の地山ブロックをまばらに含む
- c. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり強い 粘性弱い 粒子は非常に細かく細粒である
- d. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり強い 粘性やや弱い 2cm程度の地山ブロックをまばらに含む
- e. 褐色土(10YR3/2) しまり強い 粘性弱い 3mm程度の炭化物を微量に含む 3cm程度の地山ブロックをまばらに含む

第259図 S182実測図(1/40)



- a. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや強く粘性なし 1mm程度の地山ブロックをまんべんなく含む
- b. 褐色土(10YR4/4) しまり強く粘性やや弱い 粒子は細かく細粒である
- c. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや強く粘性弱い 1cmか2cm程度の地山ブロックをまんべんなく含む
- d. 褐色土(10YR4/4) しまり強く粘性やや弱い 1cmから2cm程度の地山ブロックをまばらに含む

第260図 S183実測図(1/40)

S192 調査区の西南部地域で、第II次調査区にあり、区画では3I区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある内湾状の谷地形で、S192はその谷底部にあたる。

S192の規模と平面形は、長軸143cm、短軸120cm、平面形は小型の楕円形。長軸の方位は、北から西に27°振れる。深さは、36cmである(第262図)。立ち上りは、短軸が39°と70°、長軸が72°と22°である。

S193 上記S192の近接地点にある(第478図)。

S193の規模と平面形は、長軸145cm、短軸120cm、平面形は小型の円形。長軸の方位は、北から西に176°振れる。深さは、27cm(第263図)。立ち上り角度は、長軸が36°と50°、短軸が60°と48°である。

S195 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では8F区北東隅部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、中南部よりの場所である。南部堅穴建物群の中である。なお、周囲には様々遺構が位置している。遺構はIV層上面で検出した。

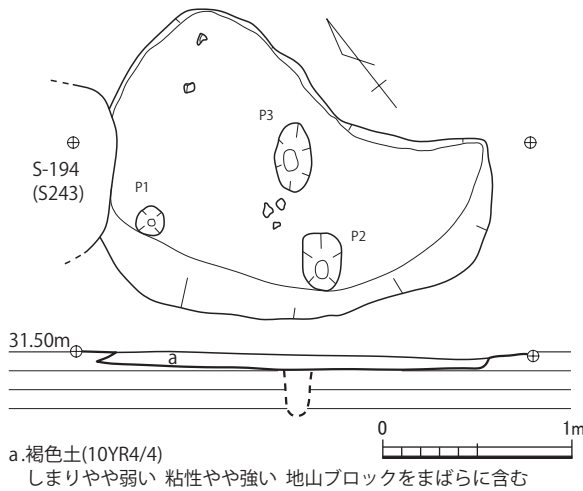
S195の規模と平面形は、長軸210cm、短軸156cm、平面形は歪な三日月形。長軸の方位は、北から西に24.5°振れる。深さは、7cm(第264図)と浅く、立ち上り角度は不明瞭。

S196 上記S195と同じ地区で、8F区の中中部に位置する。

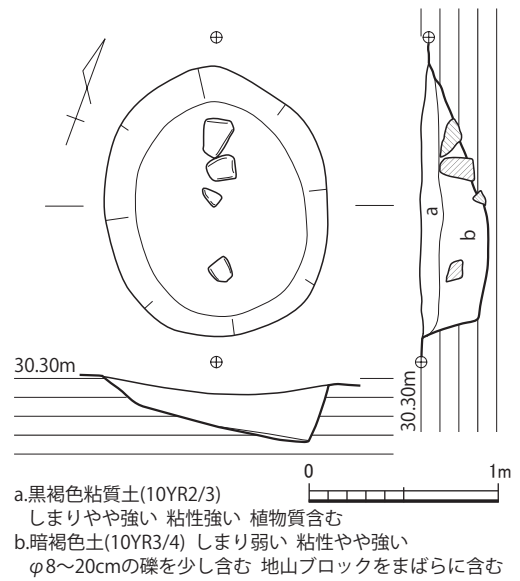
S196の規模と平面形は、長軸135cm、短軸126cm、平面形は寸詰りの楕円形。長軸の方位は、北から西に141°振れる。深さは、36cm(第265図)と浅く、立ち上り角度は、長軸で39°と70°、短軸で47.5°と50°で断面が台形となる。

S199 第II次調査区の南西部にあり、区画では3H区南側に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側に展開する湾曲した谷部の谷底部にあたる。

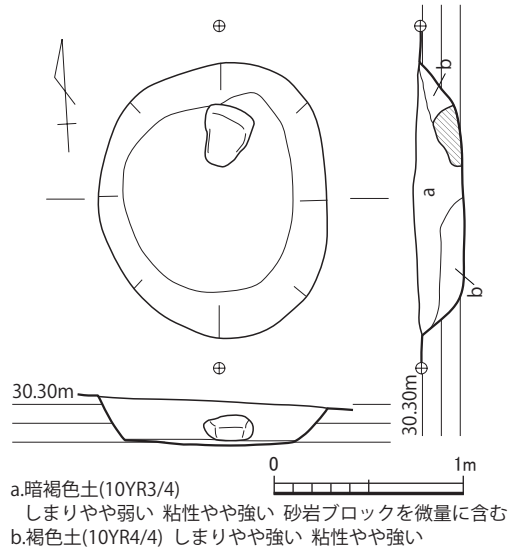
S199の規模と平面形は、長軸128cm、短軸176cm、平面形は長楕円形。長軸の方位は、北から西に105°振れる。深さは、30~42cm(第267図)、立ち上り角度は、長軸で67°と73°、短軸で80°と67°で断面が台形となる。



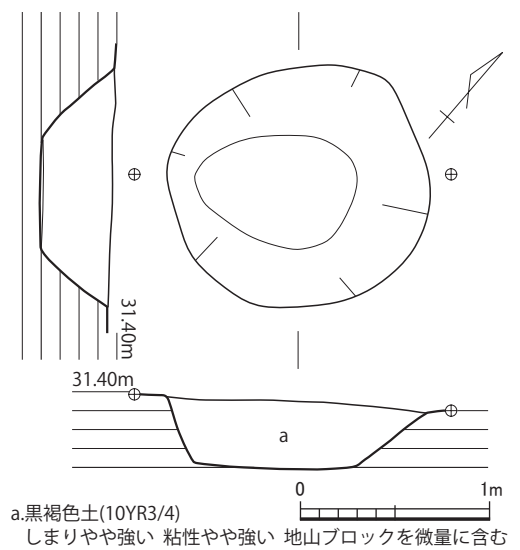
第264図 S195実測図(1/40)



第262図 S192実測図(1/40)



第263図 S193実測図(1/40)



第265図 S196実測図(1/40)

S198 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7G区北部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、中南部よりの場所である。南部竪穴建物群の南にあり、他の遺構は多くない。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S198の規模と平面形は、長軸215cm、短軸78cm、平面形は歪な短冊形である。長軸の方位は、北から西に105°振れる。深さは、12cm(第266図)と浅く、立ち上り角度は長軸方向が18°と37°、短軸方向が26°と27°である。中央部付近に、被熱による焼土面がある。

S200 第II次調査区の南西部にあり、区画では3H区中央部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側に展開する湾曲した谷部の底部にあたる。

S200の規模と平面形は、幅が166cmと201cm、平面形は隅丸台形である。深さは、19cm(第268図)と浅い。この遺構の上のIII層中には、S43の配石遺構が位置するが、そのレベルは、31.10m~30.90mの間に含まれている。その下、30cm前後にS200の上面がくる。

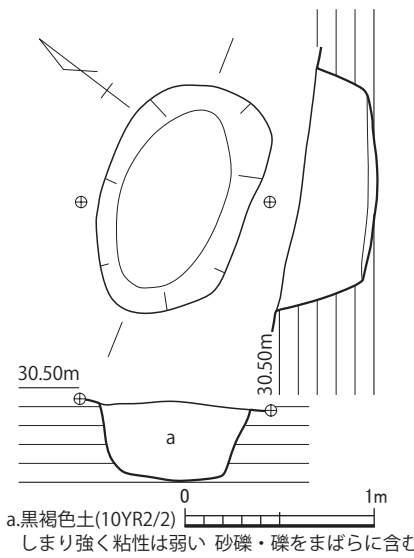
S201 調査区の南部地域で、第II次調査区にあり、区画では6H区西部に位置する(第3図)。この辺りは、扇形に開いた平坦な面の南側斜面であり、湾曲する谷の東側斜面である。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S201の規模と平面形は、長軸209cm、短軸62cm、平面形は歪な短冊形。長軸の方位は、北から西に176°振れる。深さは、29cm(第269図)と浅く、立ち上り角度は長軸方向が11.5°(北)と51°(南)、短軸方向が77°付近である。

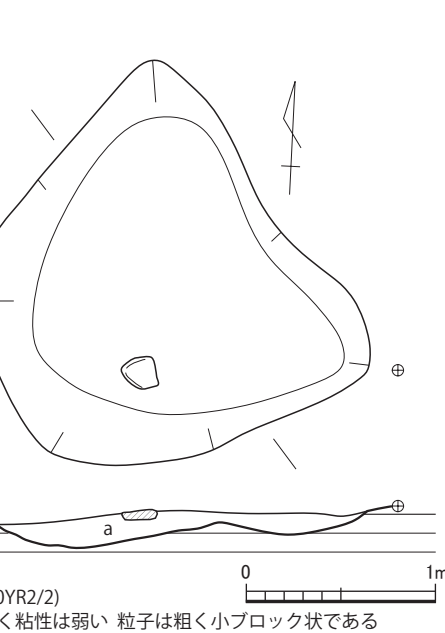
底部は北側に高度を上げる。明確な焼土は出ていないが、類例から炉穴と思われる。

S202 第II次調査区の南西部にあり、区画では4H区西部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側に展開する湾曲した谷部の谷底部にあたる。

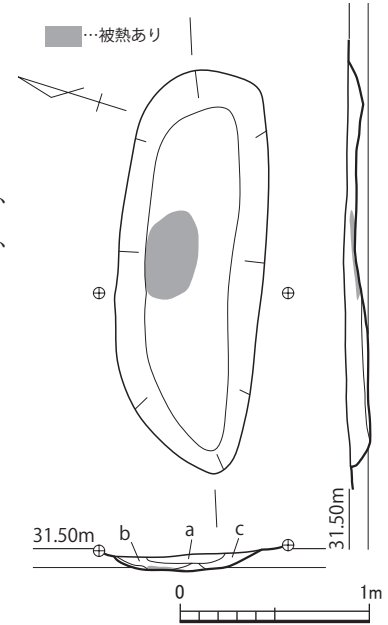
S202の規模と平面形は、長軸152cm、短軸104cm、平面形は歪な隅丸方形。長軸の方位は、北から西に120°振れる。深さは、80cm(第270図)と浅く、立ち上



第267図 S199実測図(1/40)

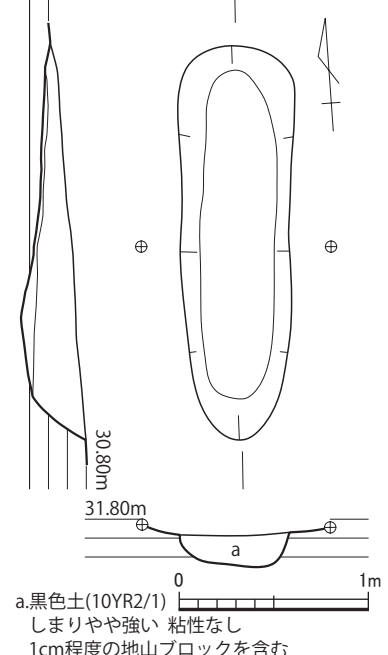


第268図 S200実測図(1/40)



- a.黒褐色土(10YR3/1)
しまりやや強く粘性なし 炭化物を含む
焼土ブロックを微量に含む
- b.赤褐色土(10YR4/6)
しまり強く粘性なし(焼土が出ている)
- c.褐色土(10YR4/4)
しまりやや強く粘性は弱い
地山ブロックをまんべんなく含む

第266図 S198実測図(1/40)



第269図 S201実測図(1/40)

り角度は長軸方向が60°と72°、短軸方向が80°と81°である。短軸の断面形は台形である。

S206 S206は、調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では7E区中部に位置する(第3図・第479図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面の中央部である。南部竪穴建物群の北に接する。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S206の規模と平面形は、長軸220cm、短軸116cm、平面形は歪な短冊形。東側が突出する。長軸の方位は、北から西に18°振れる。深さは、12cm(第271図)と浅く、立ち上り角度は長軸方向が58°と67.5°、短軸方向が43.5°と71°である。内部に小ピットがある。

S208 S208は、調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では6F区北部に位置する(第3図・第478図)。ここは、西から東に延びる脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その西南部にあたり、南部竪穴建物群の中にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

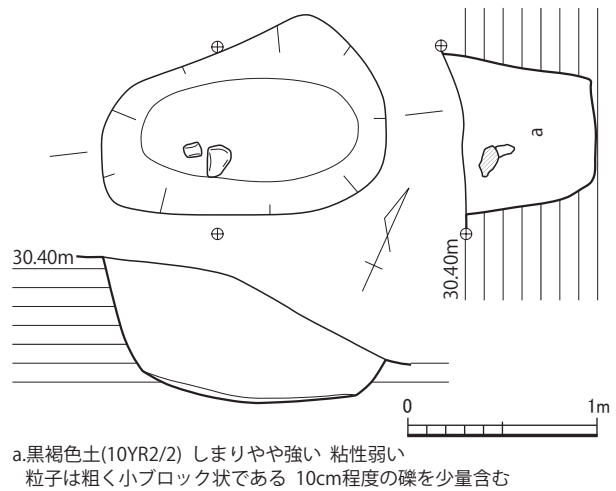
S208の規模と平面形は、長軸171(現状)cm、短軸62cm、平面形は端部の丸い短冊形。長軸の方位は、北から西に120°振れる。深さは、33cm(第105図)と浅く、立ち上り角度は長軸方向が70°、短軸方向が71°と82°である。短軸の横断面は台形で、床面は西側方向が高い。

石器 打割によって割られた磨石・敲石が出土している(第272図370)。打痕は主に縁部にみられ、表裏両面は磨痕が残る。

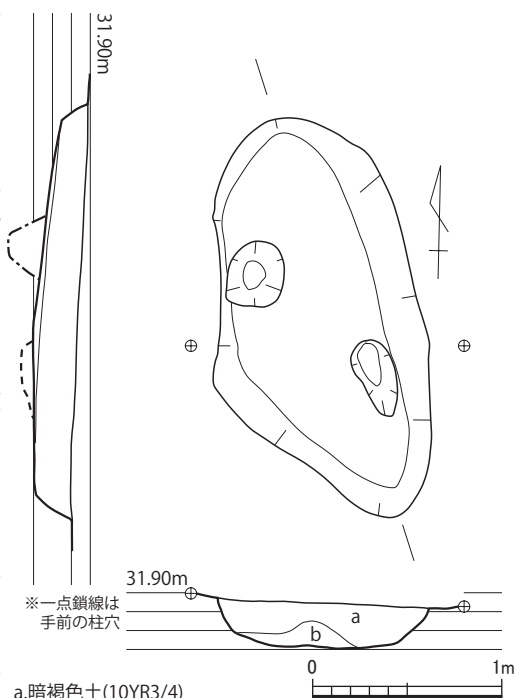
S210 調査区の東南地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では8G区北東隅部に位置する(第3図・第479図)。この辺りは、扇形に開いた平坦な面の東南部である。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S210の規模と平面形は、長軸289cm、短軸66cm、平面形は短冊形。長軸の方位は、北から西に80°振れる。深さは、10cm(第274図)と浅く、立ち上り角度は不明瞭。床面が平であることと、遺構ラインが綺麗にそろそろうように平行する。勾配が僅かに高い西側端部付近が被熱により赤化している。

土器 ナデ調整無文土器が1点出土している(第272図371)。

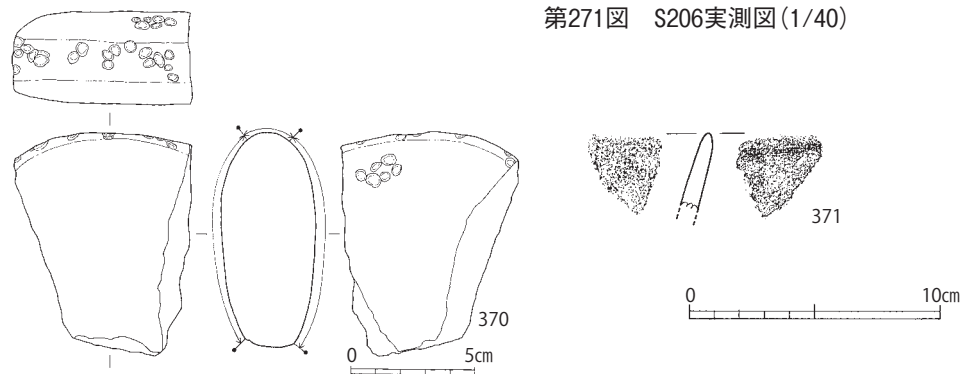


第270図 S202実測図(1/40)



a.暗褐色土(10YR3/4) しまりやや強い 粘性やや弱い
地山ブロックを微量に含む 土器などの遺物を微量に含む
b.褐色粘質土(10YR4/6) しまりやや弱い 粘性強い
地山ブロックをまんべんなく含む

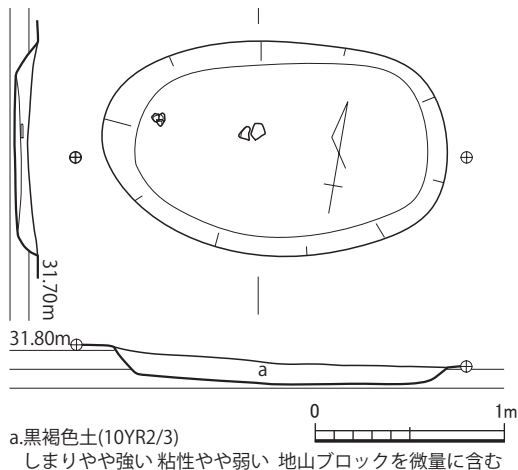
第271図 S206実測図(1/40)



第272図 S208・S210出土遺物実測図

S209 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7D区と7E区の境界で東部に位置する(第3図・第479図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、中央部である。南部堅穴建物群の北にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

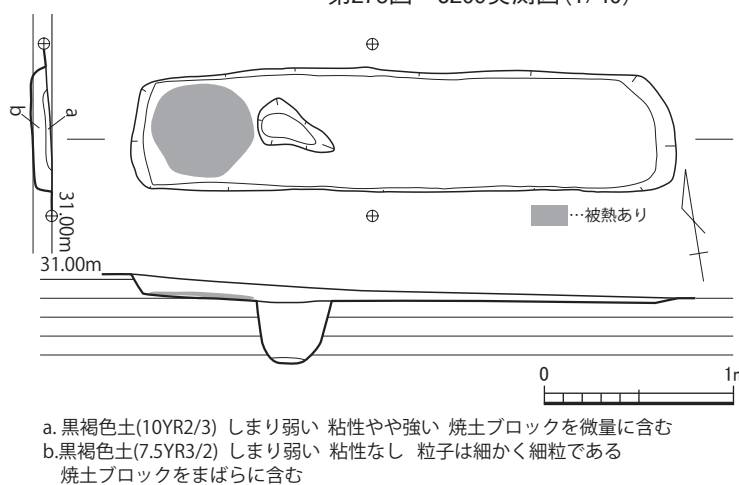
S209の規模と平面形は、長軸182cm、短軸114cm、平面形は楕円形。長軸の方位は、北から西に98°振れる。深さは、12cm(第273図)と浅く、立ち上り角度は長軸方向が38°と49°、短軸方向が36°と42°である。遺構は、内部が浅く、断面が台形となる炉穴と異なっているが、上部が削られている可能性も高い。



第273図 S209実測図(1/40)

S211 調査区の東南地域で、第II次調査区にあり、区画では8G区北部に位置する(第3図・第479図)。この辺りは、扇形に開いた平坦な面の東南部である。なお、遺構はIV層上面で検出した。

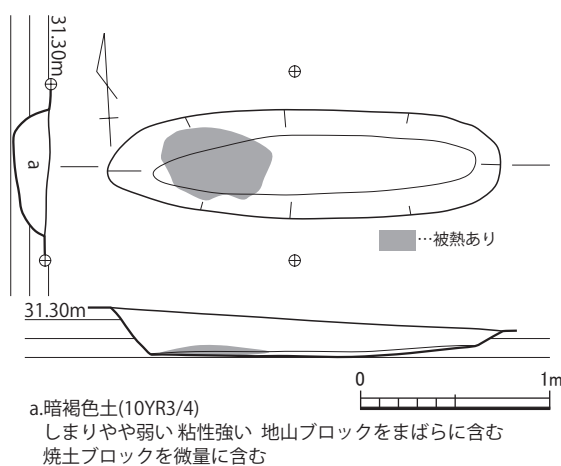
S211の規模と平面形は、長軸214cm、短軸68cm、平面形は短冊形。長軸の方位は、北から西に178°振れる。深さは、30cm(第275図)と浅く、立ち上り角度は長軸方向が42(北)°と51(南)°、短軸方向が77(西)°と42(東)°である。



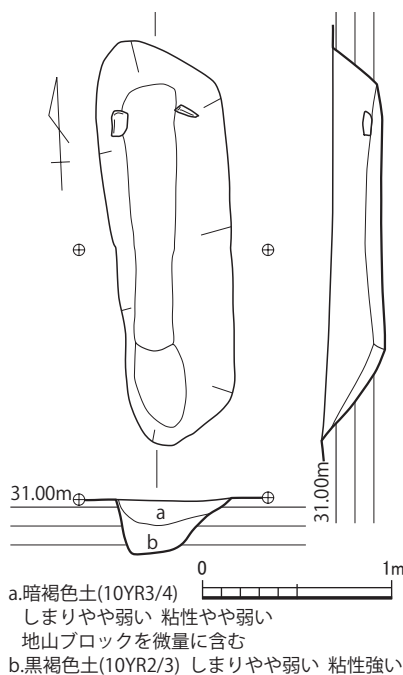
第274図 S210実測図(1/40)

S212 調査区の東南地域で、第II次調査区にあり、区画では7G区南部に位置する(第3図・第479図)。この辺りは、扇形に開いた平坦な面の東南端部に近い場所である。なお、遺構はIV層上面で検出した

S212の規模と平面形は、長軸214cm、短軸68cm、平面形は短冊形。長軸の方位は、北から西に178°振れる。深さは、30cm(第276図)と浅く、立ち上り角度は長軸方向が52(西)°と30(東)°、短軸方向湾曲しながら立ち上る。勾配が僅かに低い西側端部付近が被熱により赤化している。



第276図 S212実測図(1/40)



第275図 S211実測図(1/40)

S214 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では6D区中部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開く平坦な面の起点になる場所で、その北部よりで、北側の谷を眺望できる場所である。南部竪穴建物群の北側にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S214の規模と平面形は、長軸126cm、短軸85cm、平面形は小判形である。長軸の方位は、北から西に24°振れる。深さは、47cm(第277図)と浅く、立ち上り角度は短軸方向が69(西)°と56(東)°で、断面逆台形に立ち上る。

S217 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では6F区北西隅部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開く平坦な面の起点になる場所で、その南部よりで南側の湾曲した谷を眺望できる場所である。南部竪穴建物群の中(西より)にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

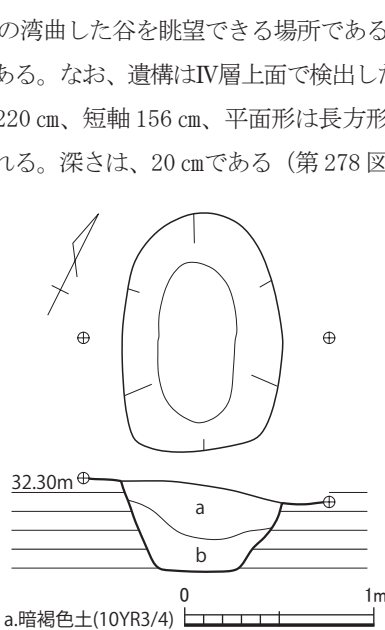
S217の規模と平面形は、長軸220cm、短軸156cm、平面形は長方形。長軸の方位は、北から西に71°振れる。深さは、20cmである(第278図)。

壁の立ち上り角度は短軸方向が36°前後で立ち上り、半ばで上方へ立ち上る。四隅が鋭角であり、構築時期が縄文時代でない可能性もある。

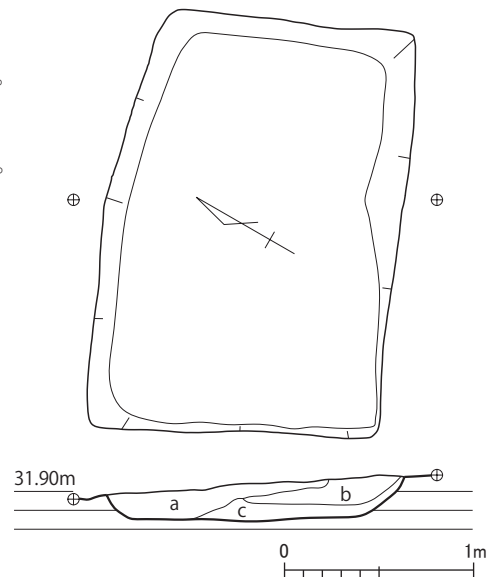
S219 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7F区北西隅部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開き始める場所で、その南部よりの場所である。南部竪穴建物群の中(西より)にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S219の規模と平面形は、長軸186cm、短軸111cm、平面形は長方形を基本としているが、北東部が鍵形に突出する。長軸の方位は、北から西に86°振れる。深さは、21cmである(第279図)。

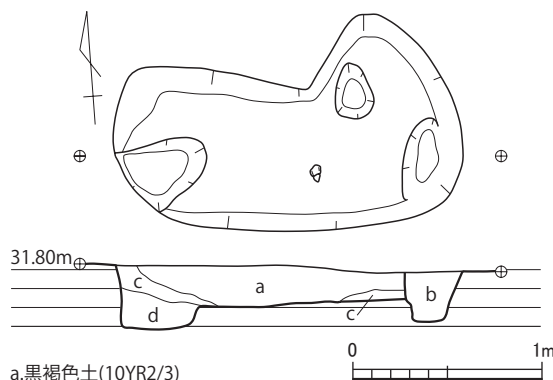
S220 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では5E区中部に位置する(第3図・第478図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開く平坦な面の起点になる場所で、その南部よりで南側の湾曲した谷を眺望できる



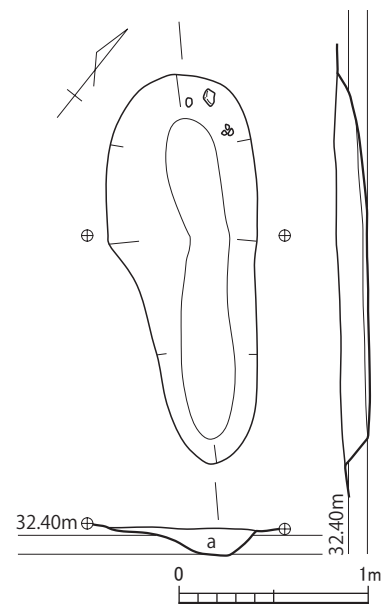
第277図 S214実測図(1/40)
 a.暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性やや弱い
 しまりやや弱い 粘性やや弱い
 b.にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや弱い 粘性やや弱い
 しまりやや弱い 粘性やや弱い
 地山ブロックをまばらに含む



第278図 S217実測図(1/40)
 a.黒褐色土(10YR2/3) しまりやや強い 粘性やや弱い
 地山ブロックを微量に含む
 b.褐色土(10YR4/4) しまりやや弱い 粘性やや弱い
 地山ブロックをまんべんなく含む
 c.にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや弱い 粘性やや弱い



第279図 S219実測図(1/40)
 a.黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性やや弱い 炭を微量に含む
 b.暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性やや弱い
 地山ブロックを微量に含む
 c.暗褐色土(10YR3/3) しまり弱い 粘性やや弱い
 地山ブロックをまばらに含む
 d.褐色土(10YR3/3) しまり弱い 粘性やや弱い
 地山ブロックをまんべんなく含む



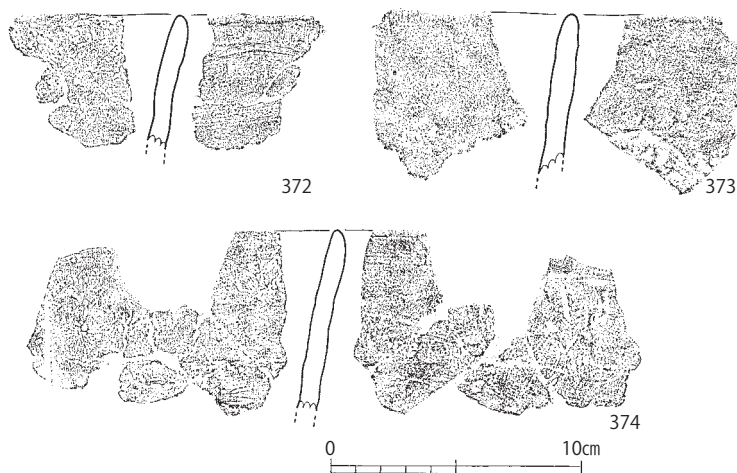
第280図 S220実測図(1/40)
 a.黒褐色土(7.5YR3/2) しまりやや弱い
 粘性やや弱い 地山ブロックを微量に含む

場所である。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S219の規模と平面形は、長軸207cm、短軸81cm、平面形は端部が丸い短冊形である。深さは17cmである。長軸は、北から西に43°振れる(第280図)。

S221 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7F区東半から8F区西部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その中央部付近に位置する。南部竪穴建物群の中(東より)にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

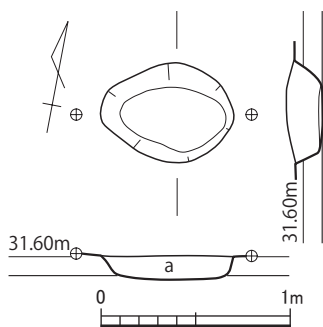
S221の規模と平面形は、両端部の間が380cmある。S221は北西の短い部分と(長さ160cm)、南東の長い部分(228cm)に区分でき、前者は北側へ26°振れている。短い部分は北から西へ57°振れ、長い方は北から西へ82°振れている。長い方の長軸は230cm、短軸54cm、平面形は長楕円形、短い方の長軸160cm、短軸56cmで、丁度蓮根が繋がっているかのような連続性を有している。中央部分での深さは、43cm(第62図)で、立ち上り角度は急傾斜である。この炉穴は、円形の竪穴建物が埋没した後に、その覆土に掘りこまれている。



第281図 S221出土遺物実測図

S222 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7F区南部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その中央部から南部よりに位置する。南部竪穴建物群の南に接し、付近には炉穴などの小遺構がある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S222の規模と平面形は、長軸70cm、短軸53cm、平面形は楕円形である。長軸の方位は、北から西に100°振れる。深さは、19cmで、その立ち上りは長軸側で80°(東)と50°(西)、短軸側で52°(北)と65°(南)である(第282図)。小型の小土坑である。

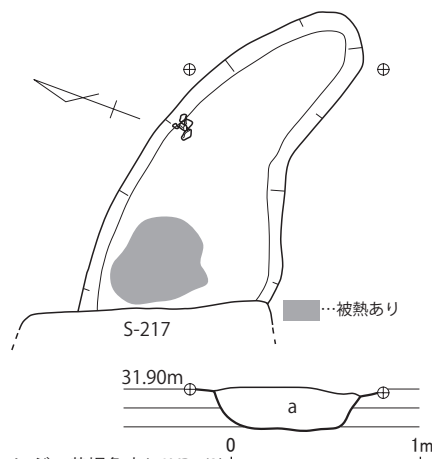


a. 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い粘性やや強い地山ブロックをまばらに含む

第282図 S222実測図(1/40)

S225 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では6F区北西部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開き始める場所で、その南部よりの場所である。南部竪穴建物群の中(西端より)にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

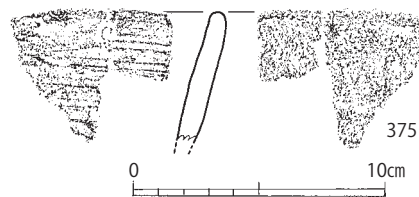
S225の規模と平面形は、S217に切られているので現状で長軸185cm、短軸97cm、平面形は細長い歪な形である。長軸の方位は、北から西に76°振れる。深さは、23cmで、その立ち上りは短軸側で58°である(第283図)。西側端部付近が被熱により赤化している。



a. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや弱い粘性やや弱いφ5cm程度の地山ブロックをまばらに含む

第283図 S225実測図(1/40)

土器 条痕調整無文土器が1点出土している(第284図375)。内面に水平方向の条痕調整を施し、外面にはナデ調整を施した口縁部で、口唇部を丸く収めている。



第284図 S225出土遺物実測図

S229 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では8F区南半部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その中央部から東部付近に位置する。南部竪穴建物群の中(東より)にある。なお、遺構はⅣ層上面で検出した。

S229の規模と平面形は、長軸151cm、短軸100cm、平面形は小判形である。長軸の方位は、北から西に123°振れる。深さは、23cm(第285図)と浅く、立ち上り角度は短軸方向が59(右)°と65(左)°である。なお、遺構はⅣ層上面で検出した。

S250 調査区の中中部地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では8D区北東部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その北東部に位置する。北部竪穴建物群の中(東より)にある。なお、遺構はⅣ層上面で検出した

S250の規模は、長軸101cm、短軸66cm、平面形は小判形である。長軸の方位は、北から西に67°振れる。この遺構は、柱穴と考えられ、深さは、77cmである(第286図)。西方の端部に柱穴があり、東方から柱穴の立ち上り部分まで斜め勾配状に掘り下げ、端部で垂直方向に掘り下げている。遺構はⅣ層上面で検出した。

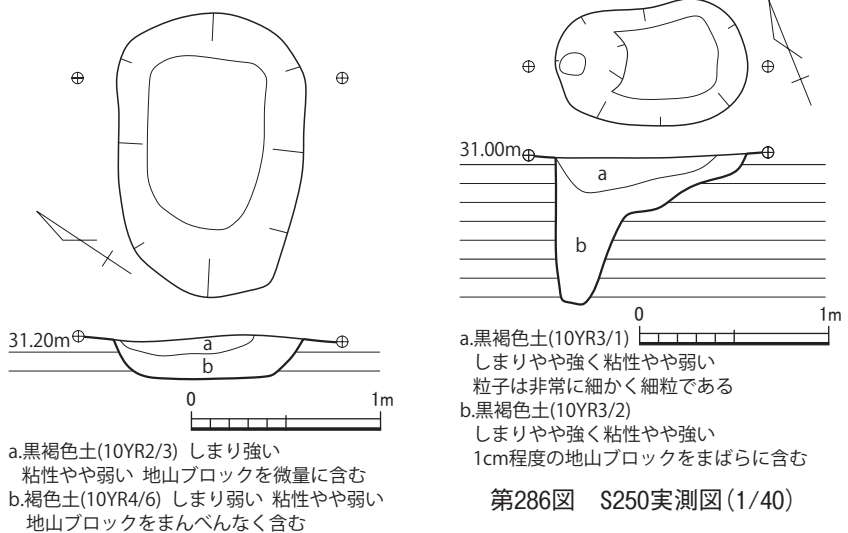
石器 条痕調整無文土器が1点出土している(第287図376)。内外面にナデ調整を施した口縁部で、口唇部を丸く収める。

S252 調査区の中中部地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では8D区北東部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その北東部に位置する。北部竪穴建物群の中(東より)にある。なお、遺構はⅣ層上面で検出した。

S252の規模と平面形は、長軸101cm、短軸80cm、平面形は寸詰まりの楕円形。長軸の方位は、北から西に130°振れる。深さは、11cmである(第288図)。

石器 半割された敲石・磨石が出土している(第289図377)。

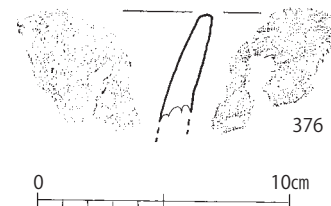
S254 調査区の東部地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では9D区南西部に位置する(第3図)。ここは、西



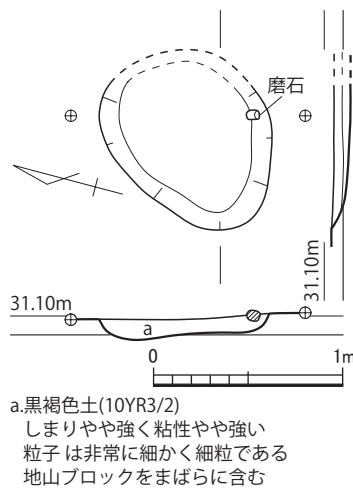
第286図 S250実測図(1/40)

a.黒褐色土(10YR2/3) しまり強い 粘性やや弱い 地山ブロックを微量に含む
b.褐色土(10YR4/6) しまり弱い 粘性やや弱い 地山ブロックをまんべんなく含む

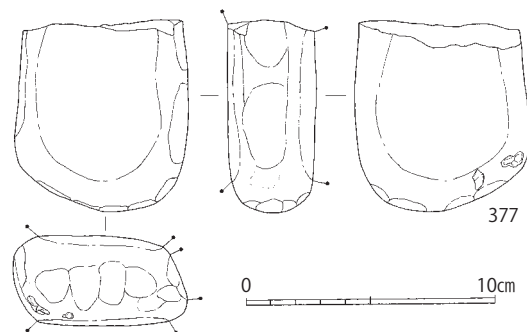
第285図 S229実測図(1/40)



第287図 S250出土遺物実測図



第288図 S252実測図(1/40)



第289図 S252出土遺物実測図

から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その北東部に位置する。北部堅穴建物群の中にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S254の規模と平面形は、長軸110cm、短軸84cm、平面形は楕円形。長軸の方位は、北から西に117°振れる。遺構は、浅い、小型のピットであり、深さは、77cmである(第290図)。内部に台石が1点出土した。

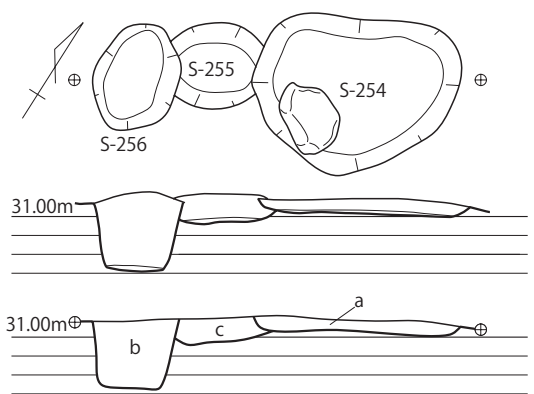
S257 調査区の東部地域で、第三次調査区にあり、区画では8D区と9D区の境界南部に位置する(第3図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その北東部に位置する。北部堅穴建物群の中にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S257の規模と平面形は、長軸115cm、短軸60cm、断面は楕円形。長軸の方位は、北から西に110°振れる。遺構は、浅い小型のピットであり、立ち上りは湾曲する。深さは、11cmである(第291図)。被熱による焼土はない。

S258 調査区の東部地域で、第三次調査区にあり、区画では8C区・9C区・8D区・9D区の境界交点に位置する(第3図)。

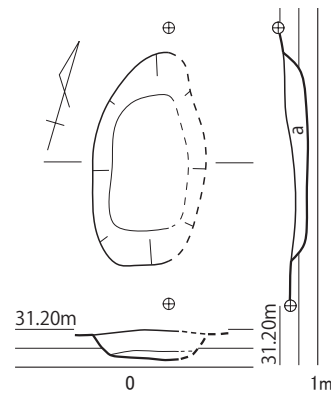
ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その北東部に位置する。北部堅穴建物群の中にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S258はS245に切られており、規模と平面形は、現状の長軸が234cm、短軸202cm、平面形は楕円形。長軸の方位は、北から西に25°振れる。遺構は、浅い小型のピット。深さは、11cmである(第292図)。被熱による焼土はない。



a.にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや強く粘性は弱い 地山ブロックをまんべんなく含む
 b.褐色土(10YR4/4) しまりやや強く粘性は弱い 粘性は非常に細かく細粘である
 c.褐灰色土(10YR4/1) しまりやや弱く粘性は弱い 埋土はサクサクしている

第290図 S254・S255・S256実測図(1/40)

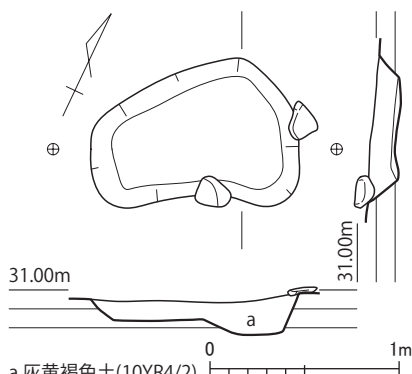


a.黄褐色土(10YR5/6) しまり強く粘性やや弱い 地山ブロックをまんべんなく含む

第291図 S257実測図(1/40)

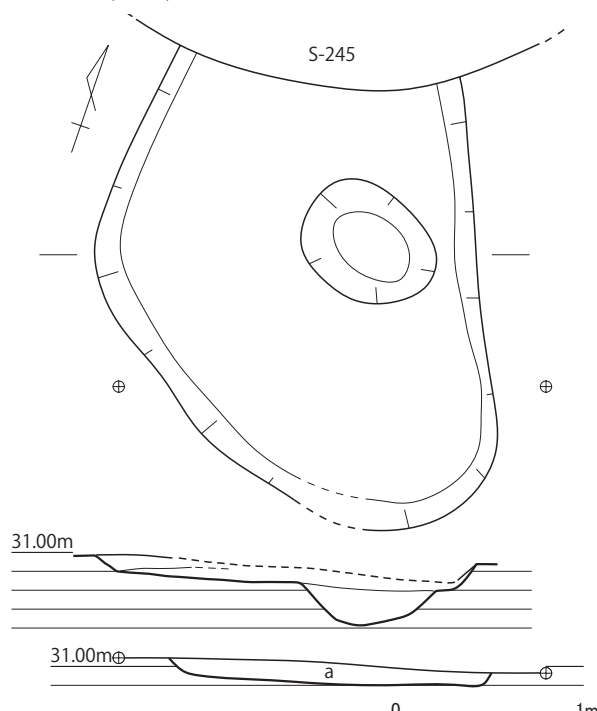
S260 調査区の東部地域で、第三次調査区にあり、区画では8C区に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その北東部に位置する。北部堅穴建物群に接する。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S260の規模は、長軸が110cm(現状)、短軸80cm、平面形は、北東部が突出した歪な形である。長軸の方位は、北から西に128°振れる。遺構の深さは、10cmである(第293図)。



a.灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや強く粘性弱い 粒子は非常に細かく細粒である

第293図 S260実測図(1/40)



a.褐色土(10YR4/4) しまりやや強く粘性やや弱い 粒子は非常に細かく細粒である

第292図 S258実測図(1/40)

S261・S262・S263・S264 調査区の東部地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では8C区南部に群集する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その北東部に位置する。北部竪穴建物群に接する。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S261は、長軸が170cm、短軸78cm、平面形は、長円形。長軸の方位は、北から西に165°振れる。遺構の深さは、15cmである(第294図)。

S262は、100cm、×85cm、平面形は、円形に近い楕円形。遺構の深さは浅く、10cmである(第295図)。

S263は、100cm、×85cm、平面形は、円形に近い楕円形。遺構の深さは浅く、10cmである(第296図)。

土器 S263からは、ナデ調整無文土器の胴部破片が出土している(第297図378)。内面に指頭圧痕が観察される。

S264は、140cm、×74cm、平面形は、円形に近い楕円形。遺構の深さは浅く、14cm~10cmである(第296図)。

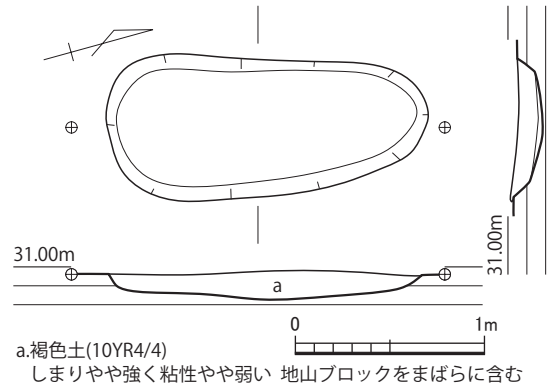
S265 調査区の東部地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では9D区北西部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その北東部に位置する。北部竪穴建物群に接する。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S265は、長軸170cm、短軸143cm、平面形は、胴張りで隅丸方形である。遺構の深さは浅く、17cmである(第298図)。東部の壁際に直径34cm・深さ21cmの柱穴がある。また南部の壁際に、台石が1個置かれていた。

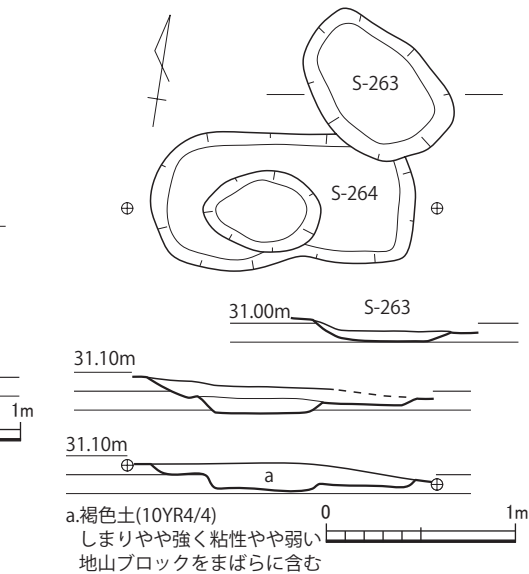
土器 早水台式楕円押型文土器の口縁部破片1点と(第297図379)、無文土器の平底の破片が2点出土した(381・382)。平底の土器は基本的に縄文時代草創期の可能性が極めて高い。

S267 調査区の東部地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では8D区東南部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その北東部に位置する。北部竪穴建物群に接する。なお、遺構はIV層上面で検出した。

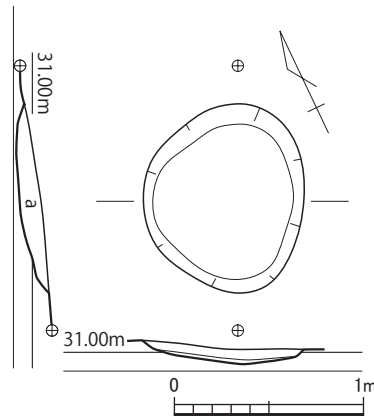
S267は、長軸240cm、短軸140cm、平面形は、歪で細長い隅丸四角形である。遺構の深さは浅く、13cmである(第299図)。近接して柱穴があるが、伴うものではない。



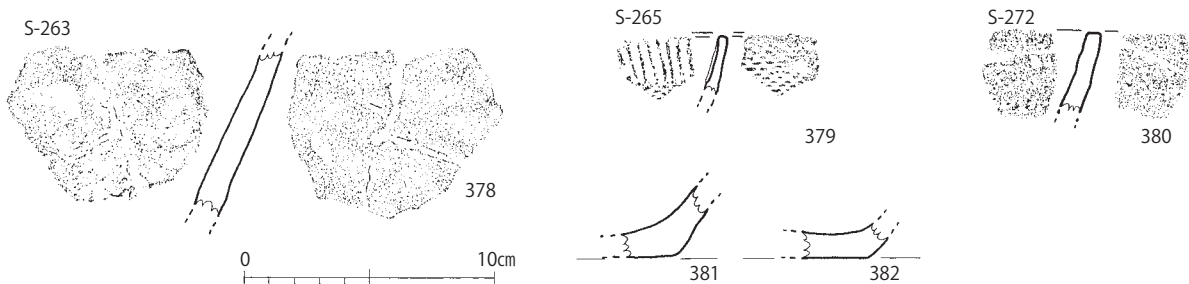
第294図 S261実測図(1/40)



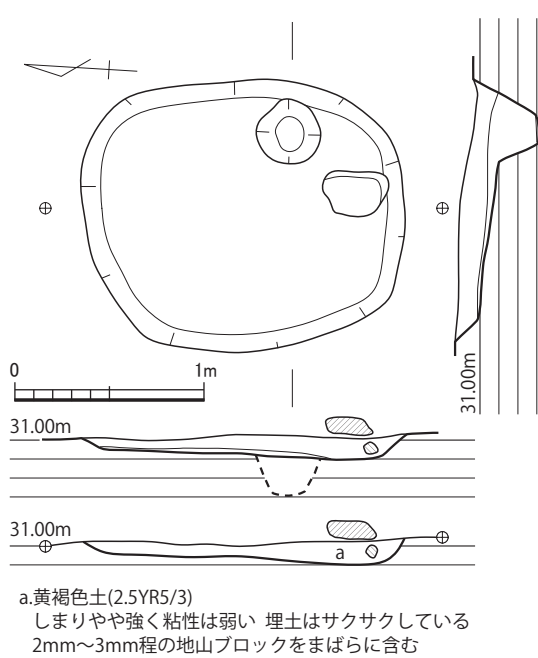
第296図 S263・S264実測図(1/40)



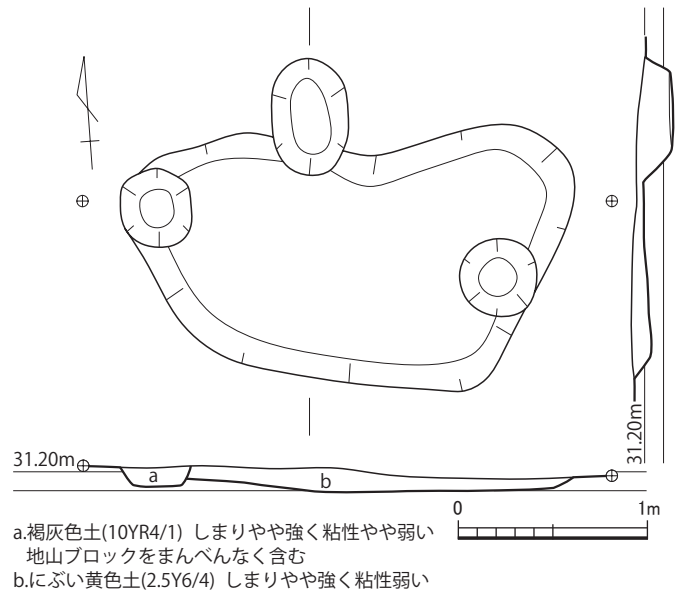
第295図 S262実測図(1/40)



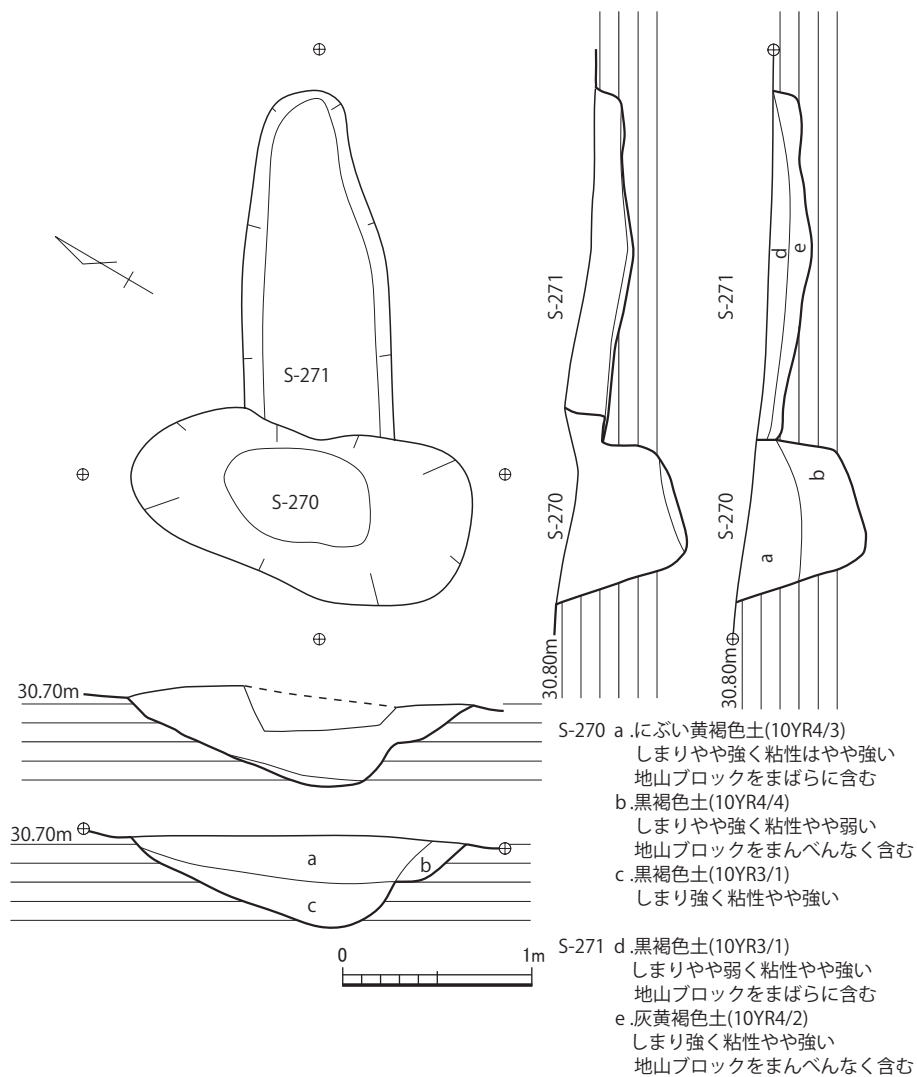
第297図 S263・S265・S272出土遺物実測図



第298図 S265実測図(1/40)



第299図 S267実測図(1/40)



第300図 S270・S271実測図(1/40)

S270・S271 調査区の東部地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では9D区北半部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面の北東部である。北部竪穴建物群に接する。なお、遺構はIV層上面で検出されており、S271をS270が切る関係にある。

S270は、長軸184(現状の数値)cm、短軸79cmの規模を有し、平面形は、細長いバチ形である。遺構の深さは、西側壁付近が15cm、東側23cmであり、東から西へ床面の勾配が高くなる(第300図)。端部の立ち上りは77°である。長軸の方位は、北から西に120.5°振れる。

S271は、長軸182cm、短軸90cmの規模を有し、平面形は、隅丸バチ形である(第300図)。遺構の深さは、中央よりやや南が最も深く49cmで、ここから概ね北へ24°・南端部45°の勾配で立ち上がっていく。短軸方向の立ち上りは、東側82°・西側72°と急勾配である。長軸の方位は、北から西に20°振れる。

S272 上記、S270の北東240cmのところに位置する(第3図)。S272は、長軸66cm・短軸58cm・深さ20cmの楕円形をした皿状の遺構。

土器 無文土器の平底の破片が1点出土している(第297図380)。

S276 上記、竪穴建物のS277と同じ位置で、同遺構に切られている(第20図)。この遺構は、長軸100cm・短軸86cm・深さ6cmの楕円形をした皿状のピット。長軸の方位は、北から西に157.5°振れる。

S278 調査区の東部地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では9C区南半部に位置する(第3図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面の北東部である。北部竪穴建物群に接する。なお、S278はIV層上面で検出されており、S247に隣接する。

S278は、南北110cm、東西118cm規模を有する隅丸の多角形をしている(第301図)。深さ13cmと浅い皿状の遺構である。

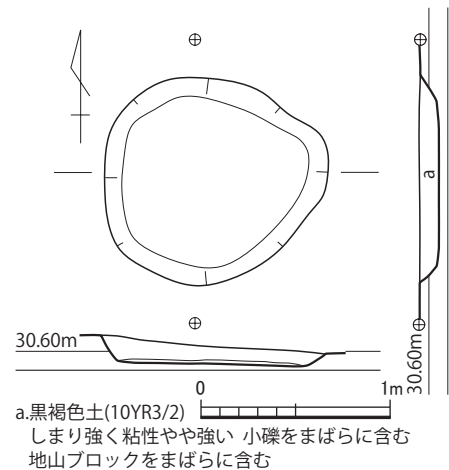
S309 竪穴建物のS277と同じ位置で、同遺構の北側に隣接する(第20図)。この遺構は、南北77cm・東西81cm・深さ13cmの楕円形をした皿状のピットである。

S331 調査区の東部地域で、第Ⅳ次調査区にあり、区画では12E区西半部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地の東側にある低地部に位置する。なお、S331はIV層上面で検出されている。

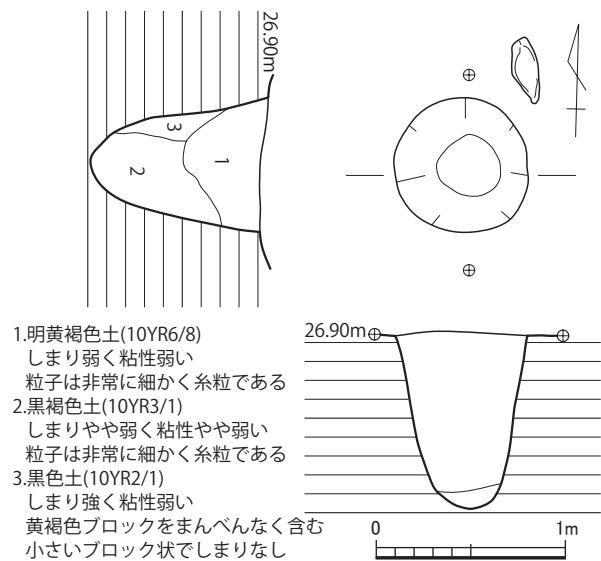
この遺構は、南北70cm・東西70cm・深さ93cmの円形をした柱穴状のピット(第302図)。

S341 調査区の東部地域で、第Ⅳ次調査区にあり、区画では9D区東南隅部に位置する(第3図)。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦な面の東端部である。北部竪穴建物群に接する。なお、S341はIV層上面で検出されており、S357に切られる。

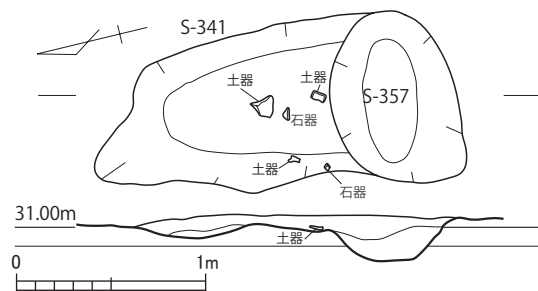
S341は、南北130cm、東西82cmの規模を有する細長い撥形をしている(第303図)。深さ12cmと浅い皿状の遺構である。



第301図 S278実測図(1/40)



第302図 S331実測図(1/40)



第303図 S341・S357実測図(1/40)

S351 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では8E区西半部に位置する(第3図)。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の中央部に位置する。なお、S331はIV層上面で検出され、竪穴建物S347に切られる関係にある。

この遺構は、長軸159cm・短軸56cmの大きさを有する端部の丸い短冊形の土坑である。深さ10cmの円形をした柱穴状のピット(第75図)。内部に深さ36cmの柱穴がある。

S353 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では8E区中央部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の中央部に位置する。なお、S353はIV層上面で検出された。

この遺構は、長軸130cm・短軸99cmの大きさを有する水滴形の土坑である。深さ17cmである(個別図なし)。

土器 条痕調整無文土器の胴部破片が1点出土している(第304図383)。条痕は、内面が水平方向、外面が斜行する。

石器 使用痕のある剥片が1点出土している(第304図385)。素材は、楔形石器の破片のようでもあるが明確ではない。裏面に微小剥離痕がある。

S354 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では8E区西部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の中央部に位置する。なお、S353はIV層上面で検出された。

この遺構は、長軸99cm・短軸68cmの大きさを有する楕円形の土坑である。深さ24cmである(個別図なし)。

土器 ナデ調整無文土器の口縁部破片が1点出土している(第304図384)。外傾する口縁部の端部を丸く収めている。

S357 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では9D区東南隅部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦な面の北東端部である。北部竪穴建物群の中にある。なお、S357はIV層上面で検出されており、竪穴建物S385・S341を切っている。

この遺構は、長軸90cm・短軸67cmの大きさを有する楕円形の土坑である。深さ24cmである(第303図)。

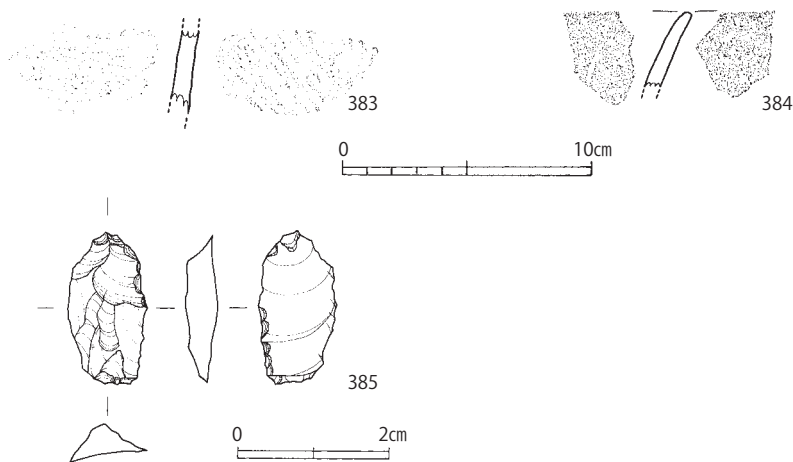
S362 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では8F区北部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の中央部に位置する。なお、S362はIV層上面で検出された。

この遺構は、直径136cmの大きさを有するほぼ円形の土坑である。深さ36cmである(第79図)。

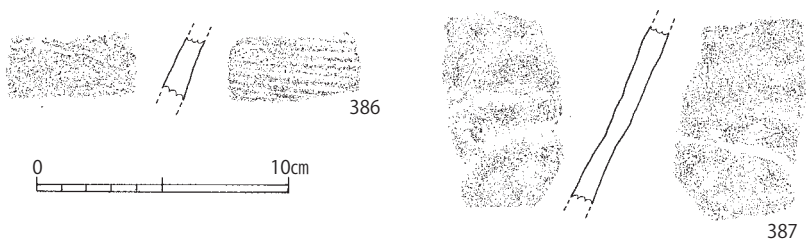
S363 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では9F区南部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の東端に位置する。なお、S363はIV層上面で検出された。東側の低地部を望む場所。

この遺構は、長軸112cm・短軸64cmの大きさを有するほぼ楕円形の土坑である。深さ19cmである(個別図なし)。

土器 条痕調整無文土器の胴部破片(第305図386)とナデ調整無文土器の胴部破片(387)が出土している。



第304図 S353・S354出土遺物実測図



第305図 S363出土遺物実測図

S367 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では9F区西部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面の東部である。南部竪穴建物群に接する。東部の低地を望むことができる場所である。なお、S367は、IV層上面で検出されている。

S367の規模と平面形は、長軸が110cm(現状)、短軸77cm、平面形は小判形(第306図)。長軸の方位は、北から西に80°振れる。遺構の深さは、14cmである(第306図)。土坑の中央部に礫や土器などが集中する。

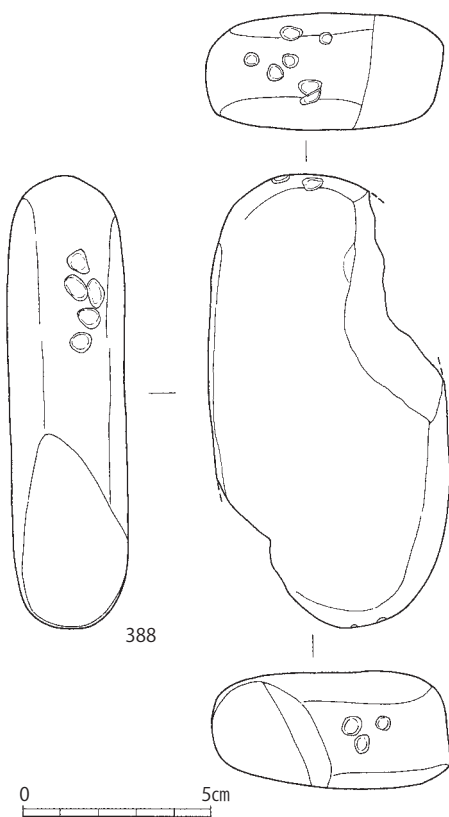
遺物 敲石・磨石が出土している(第307図388)。表裏に磨滅があるほか、端部・縁部のところどころに、打痕がある。

S369 調査区の東部地域で、第III次調査区にあり、区画では10D区北部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その北東部で端部に位置する。

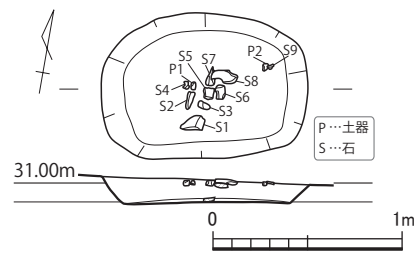
S369は、長軸177cm、短軸116cmの規模を有し、平面形は、短冊形を基本としながら南西隅部が鍵上に突出する。遺構の深さは、33cmである(第308図)。北西端部の立ち上りは44°であるが、対する南東端部は曲率半径が大きく、はっきりしないが、緩やかなスロープである。長軸の方位は、北から西に54.5°振れる。

土器 S369からは山形押型文土器の破片とナデ調整無文土器が出土している。山形押型文土器は、山形頂部のピッチが0.5cmで高さ0.3cmと、山形頂部のピッチが0.45cmで高さ0.1cmという二種類の原体が使われている(第309図389)。無文土器は、胴部破片(390)と底部破片であり、いずれもナデ調整である。後者の底部破片は、底部と胴部側の境界が明瞭な平底であるが、器形からすれば縄文時代草創期に遡る例である(391)。少なくとも、BPでいえば11,000年前から12,000年前に遡ることになる。一方の、山形押型文土器

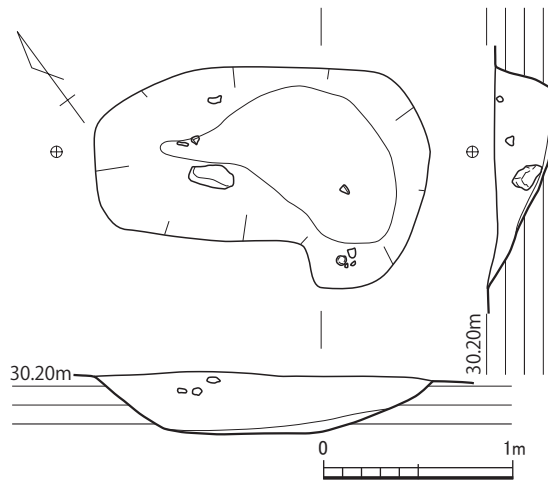
は、8,000～9,000年前のものとするれば無文土器との年代差は最短でも2,000年は開いており、両者は混在といえる。



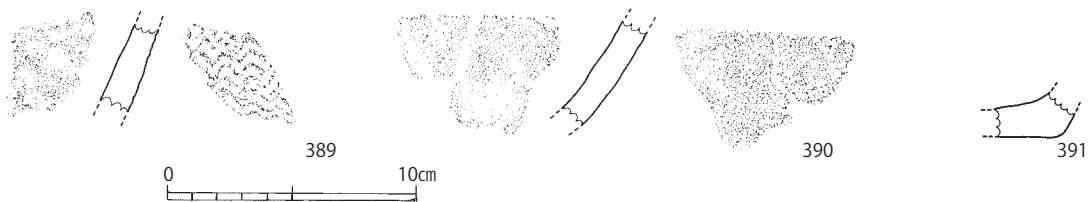
第307図 S367出土遺物実測図



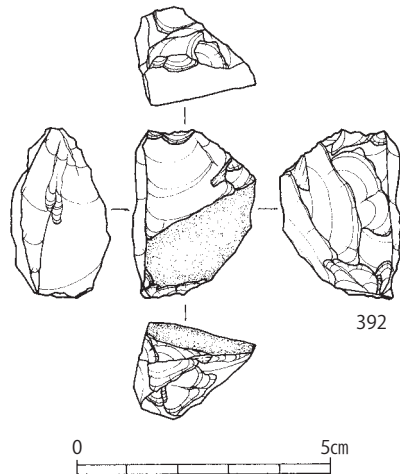
第306図 S367実測図(1/40)



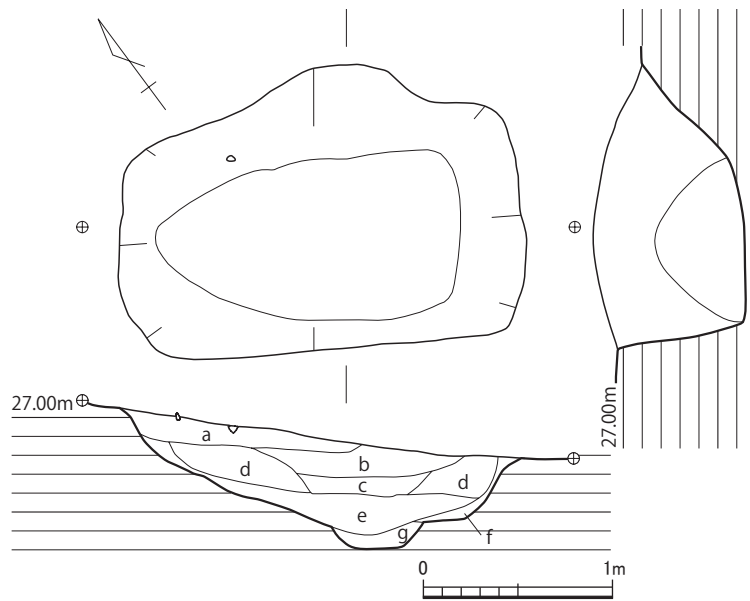
第308図 S369実測図(1/40)



第309図 S369出土遺物実測図

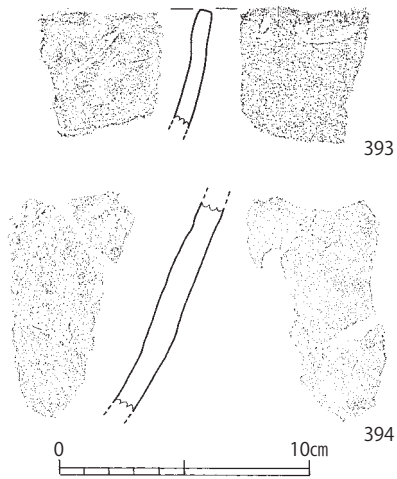


第311図 S371出土遺物実測図

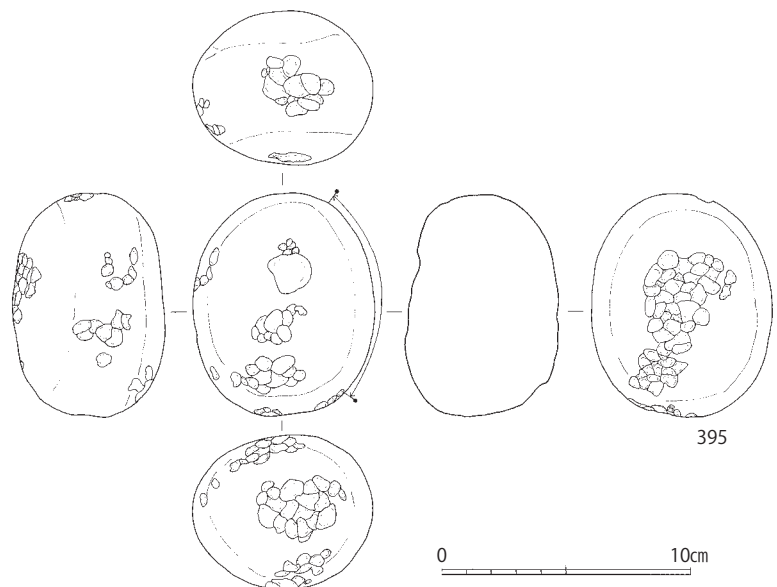


- a. 黒褐色土10YR2/1しまりやや強く粘性弱い 埋土はサクサク状態である
- b. 黒褐色土10YR2/2しまりやや強く粘性やや弱い 1cm程度の地山ブロックを微量に含む
- c. 黒褐色土10YR2/2しまりやや強く粘性やや弱い
- d. 黒色土10YR2/1しまりやや強く粘性弱い 埋土はサクサク状態である
- e. 黒色土10YR1.7/1しまりやや強く粘性弱い 5mm程度の地山ブロックをまばらに含む
- f. 黒褐色土10YR3/2しまりやや強く粘性弱い
1cm~2cm程度の地山ブロックをまんべんなく含む
- g. 黒色土10YR2/1しまり強く粘性弱い 1cm程度の地山ブロックをまんべんなく含む

第310図 S378実測図(1/40)



第312図 S372出土遺物実測図



S378 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では11E中央部付近に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地の東端部下の低地部に位置する。なお、S378はIV層上面で検出された。

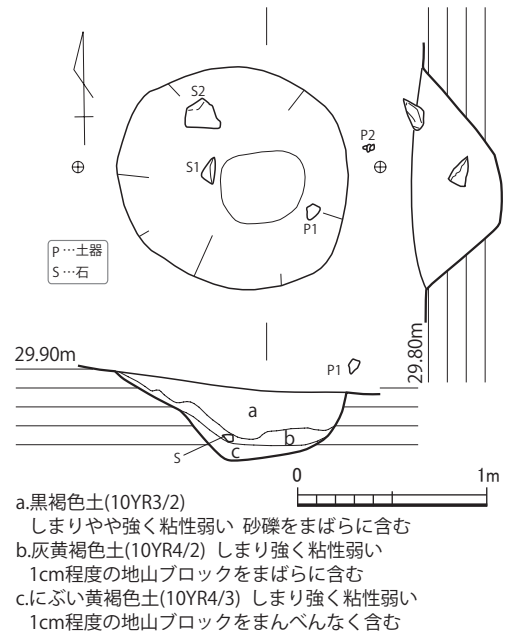
S378は、北から西へ長軸を57.5°振れた、短冊形の平面形を有する土坑である。ちょうど等高線がこんだ西側斜面を向いている。長軸が216cm、短軸150cmの規模を有しており、深さは最深いところで54cmである。内部は、東南端部の曲率半径が大きいはっきりしないが概ね55°と急勾配である。東南端部下場付近は一旦平らとなり、そして一段深くなる(12、3cm)。この深い部分からまた12cmほど立ち上がると、ここから東北端部下場まで21°の角度をもったスロープとなり、57°の角度で立ち上がる。短軸方向は、47°(北)と79.5°(南)で急勾配である。

S381 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では10D区中央部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の東端から僅かに斜面を下ったところである。なお、S381はIV層上面で検出された。東側の低地部を望む場所である。

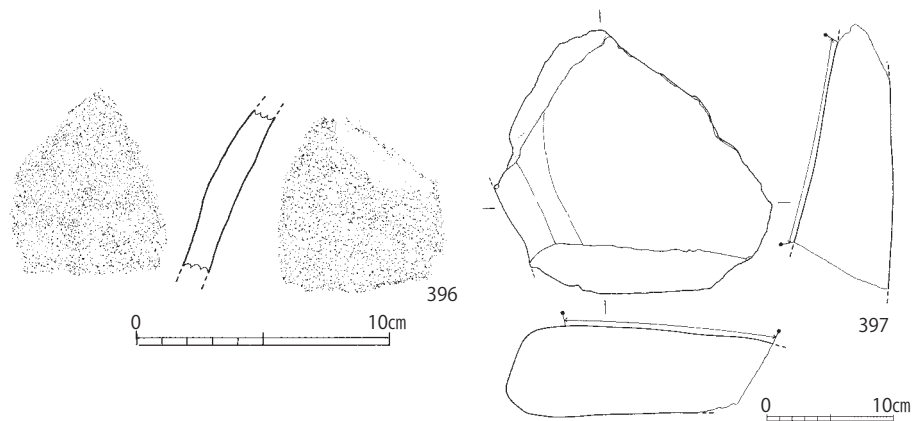
この遺構は、長軸112cm・短軸64cmの大きさを有するほぼ楕円形の土坑である。深さ19cmである(第313図)。

土器 S381からは、口縁部に近いナデ調整無文土器の胴部破片が出土している(第314図396)。

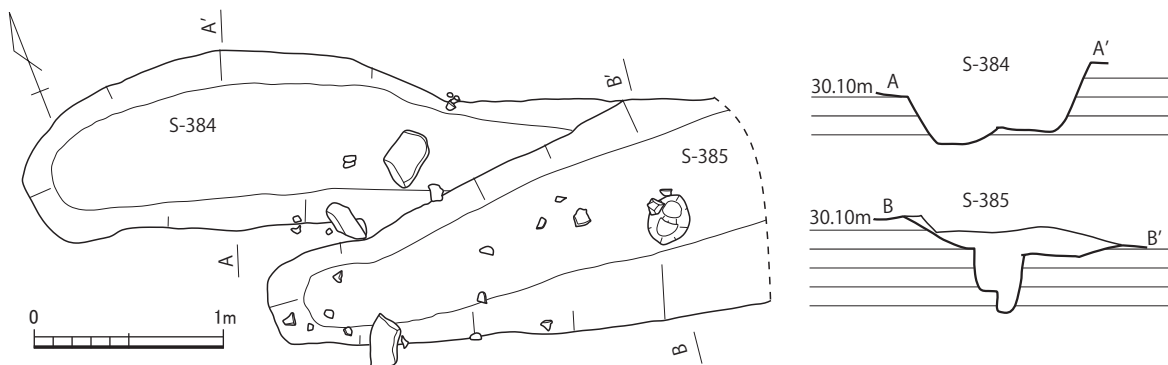
石器 台石が出土している。打割により破損しているが、片面に磨滅痕がある(第314図397)。



第313図 S381実測図(1/40)



第314図 S381出土遺物実測図



第315図 S384・S385実測図(1/40)

S384・S385 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では10D区西部に位置する（第3図・第479図）。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の東端で、東方の眼下に低地部や大越川方面が臨める場所である。なお、S384とS385はIV層上面で検出された。

両遺構は、竪穴建物のS383を切るように構築されているが、その際、等高線にやや直交するように主軸をほぼ東西方向に向けている。S384とS385も、後者が前者を斜めに切って構築されている。また両遺構は東端が斜面部にかかっているために浸食によって残存していない。

S384は、長軸320（現状の数値）cm、短軸90cmの規模を有し、平面形は、細長い長楕円形である。遺構の深さは、38cmである（第315図）。短軸の立ち上りは60°（南）と67°（北）である。長軸の方位は、北から西に70°振れる。内部に配石もしくは台石が点在する。

土器 ナデ調整無文土器の胴部破片が1点出土している（第316図398）

S385は、長軸270（現状の数値）cm、短軸118cmの規模を有し、平面形は、細長い長楕円形である。遺構の深さは、18cmである（第315図）。短軸の立ち上りは30°（南）である。長軸の方位は、北から西に85°振れる。内部に配石もしくは台石が点在する。

土器 ナデ調整無文土器の底部破片が2個体出土している（第316図399・400）。両例とも明らかな平底の破片であり、少なくとも縄文時代草創期終わり頃までの製作時期を比定できる。

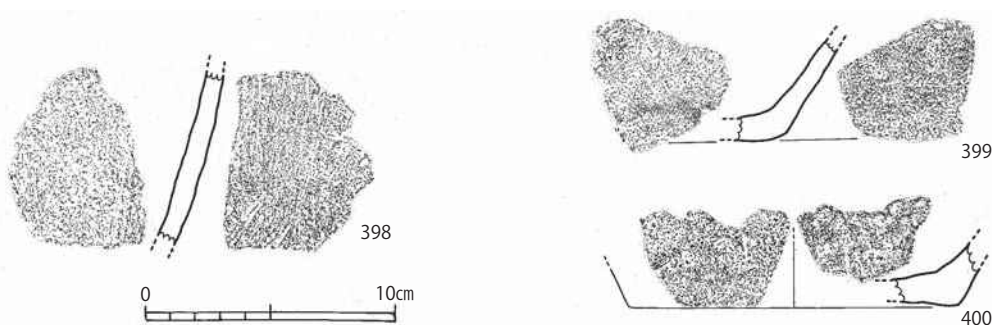
S391・S392・S393 調査区の東北部地域で、第IV次調査区にある。区画では9C区と10C区の境界にある竪穴建物S358の西北部と東南部西部が切られた状況で検出された（第3図・第479図）。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の東北部で、東方や北方の眼下に低地部や大越川方面が臨める場所である。

S391は、方形に近い土坑であったと思われるが、西側をS358で切られている。南北幅は126cm、東西幅は現状で60cm、深さは15cmである。内部の壁際に柱穴が掘り込まれており、径約40cm・深さ60cmである（第318図）。

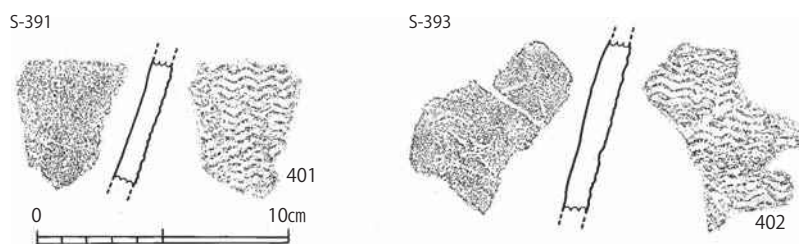
土器 山形押型文土器胴部破片が1点出土している。この土器の山形文は、山形頂部のピッチが0.5cm、山形頂部と谷部下底の幅は0.1cm～0.15cmである（第317図401）。

S392は、楕円形をした土坑であるが、東南部を斜めにS358から切られている（第318図）。内部に配石もしくは台石がある。長軸は242cm、短軸は推定で145cm前後、深さ30cmである。

S393は、東半部がS392とS358から切られており、残存部の平面形が菱形状である（第318図）。長軸は不明であるが現状で230cm、短軸180cm、深さ20cmである。

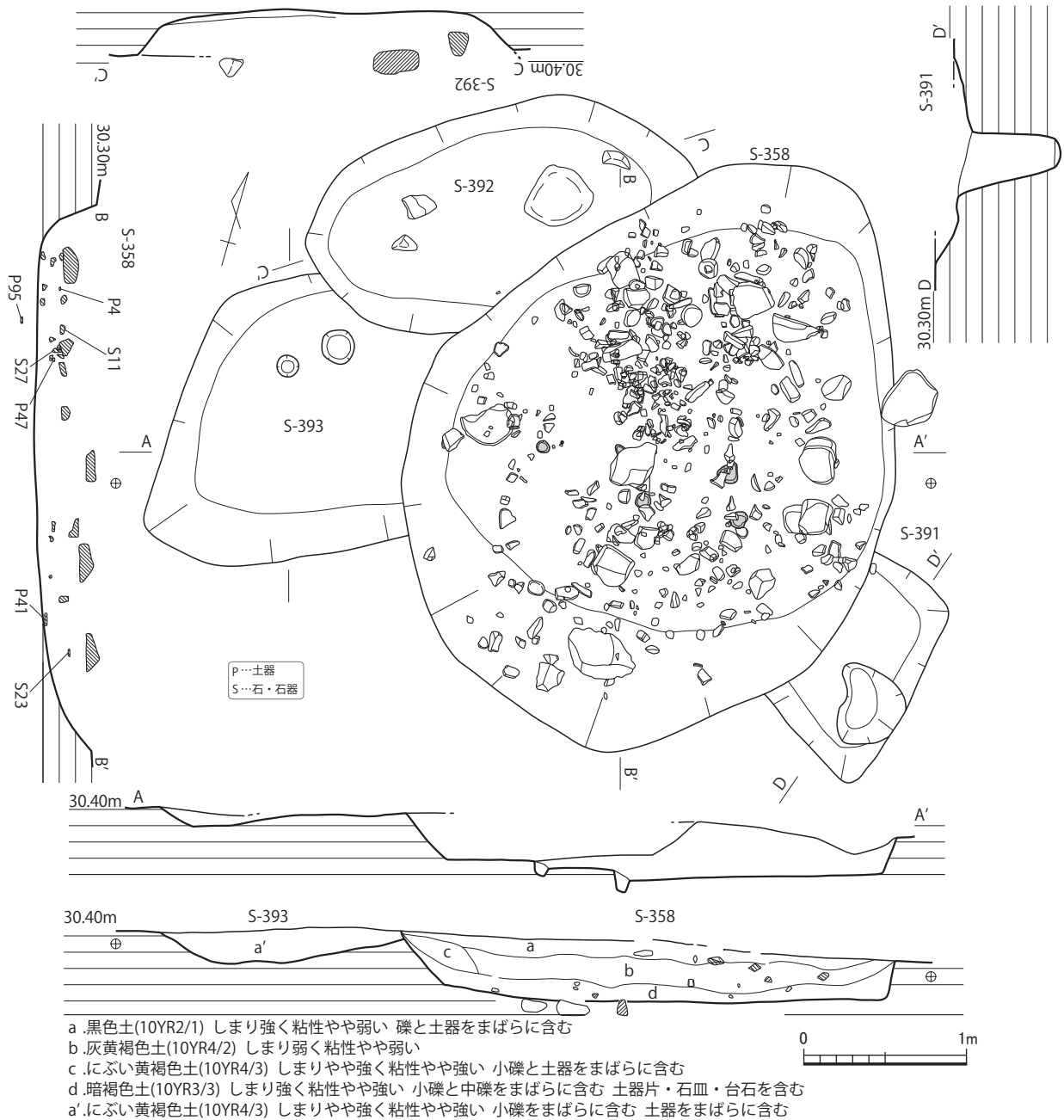


第316図 S384・S385出土遺物実測図



第317図 S391・S393出土遺物実測図

土器 山形押型文土器胴部破片が1点出土している(第317図402)。この土器の山形文は、山形の頂部のピッチが0.6cm、山形の頂部と山形の谷部下底の幅は0.1cmである。S391出土の山形文土器とほぼ同じで、あるいは同一個体の可能性を有している。



第318図 S391・S392・S393実測図(1/40)

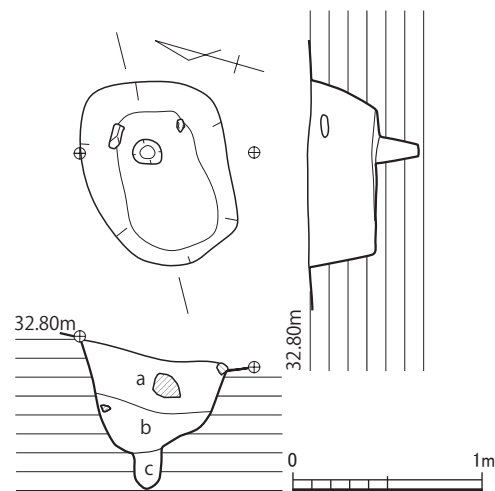
(7) 陥し穴遺構

陥し穴は、地面を掘り下げ、穴口に枝や葉を被せ、さらに土・草を加えながら蓋をし、隣接する地表面と違和感がないように偽装した穴である。その目的は、知らないで通りかかるであろう人や動物を陥れるためである。穴の中には陥れた対象への殺傷効果を高めるため逆茂木という尖らせた端部を上に向けて立てた場合もある。旧石器時代や縄文時代においては、待ちの狩猟、あるいは追い込み猟をするための仕掛けとして設置されたと考えられる。弥生時代以降においては、狩猟のほか防御に関する仕掛けとして設置されたことも想定できる。森の木遺跡からも陥し穴が見つかったが、ここで扱う陥し穴は穴の底部の一つないし、数個の逆茂木「穴」のある土坑と土坑内下部の堆積土が水平堆積の例とする。

S076 調査区の西部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では2F区と3F区境界線中央部に位置する(第3図・第476図)。ここは、西から東に延びる舌状台地の南側に広がる湾曲した谷の谷頭地区にあたる。地形図をみると、遺跡の東方から延びてきた尾根筋は、舌状台地の中で比高の高い調査区画でいうD列に連続している。それとは別に、D列のなかで32.75mの等高線が南西方向へ回り込む部分が2E区であるが、ここから湾曲する谷地形の谷頭部分へも等高線が自然に連続している。S076は、この舌状台地から谷頭頂部へ勾配が連続する延長上に設置されている。なお、S381はIV層上面で検出された。このS076遺構は、長軸100cm・短軸75cmの大きさを有する隅丸方形の土坑である。土坑底部までの深さが37cmで、そこから深さ22cmの逆茂木用の穴がある(第319図)。この遺構の長軸は、北から西へ120°振れており、丁度湾曲する谷の谷頭等高線に平行する。

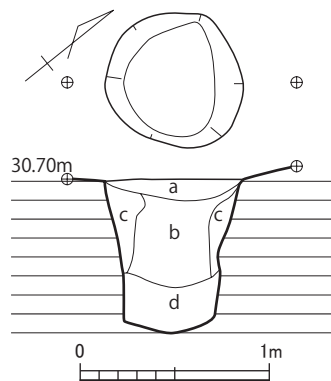
S115 調査区の西部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では3H区中央部に位置する(第3図・第478図)。ここは、西から東に延びる舌状台地の南側に広がる湾曲した谷の谷底筋と西側斜面部との中間部に設置されており、S076を下った部分である。なお、S115はIV層上面で検出された。

このS115遺構は、南北71cm・東西75cmの大きさを有するほぼ円形の土坑である。土坑底部までの深さが81cmである。この底部は、周縁部分がやや高くなる凹面鏡のような断面形をしているが、周縁端部から上方への立ち上がりが25cm～30cm程度ほぼ垂直となっている(第320図)。そして垂直部分から穴口へ僅かに開きながら立ち上がる筒状の断面形である。底部から上に24cm程度の厚さでD層が水平堆積し、その上にb層がC層に囲まれるように堆積している。堆積状況からみると、C層が堆積した後、陥没もしくは流入によるb層の堆積があったと解釈しておきたい。なお、このS115には逆茂木穴が検出されておらず、陥し穴でない可能性もある。



- a. 黒褐色土(10YR2/3) 粘性なし しまり強い
10YR8/2 灰白色砂岩ブロックを少し含む
- b. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性やや強い しまりやや強い
10YR8/2 灰白色砂岩ブロックを含む
- c. (逆茂木跡) 暗褐色粘質土(10YR3/4) 粘性強い
しまりやや強い 10YR8/2 灰白色砂岩ブロックを少し含む

第319図 S076実測図(1/40)



- a. 黒褐色土(10YR2/2) 粘性弱い
しまりやや強い 10YR8/1 灰白色砂岩
ブロックをわずかに含む
- b. 黒褐色土(10YR2/3) 粘性弱い
しまりやや強い 地山ブロック、砂岩
ブロックを少し含む
- c. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性弱い
しまりやや強い 混じり少ない
アカホヤ含む
- d. 黄褐色砂礫(10YR3/6) 粘性なし
しまりなし φ1~2cm程度の砂利を
含む 炭を少し含む

第320図 S115実測図(1/40)

S148 調査区の中中部から東南部地域で、第II次調査区にあり、区画では7F区南西部に位置する(第3図・第479図)。こ
こは、西から東に延びる舌状台地から扇形に広がる平坦面にあつて東南部よりの部分に設置されている。なお、S148はIV層
上面で検出された。

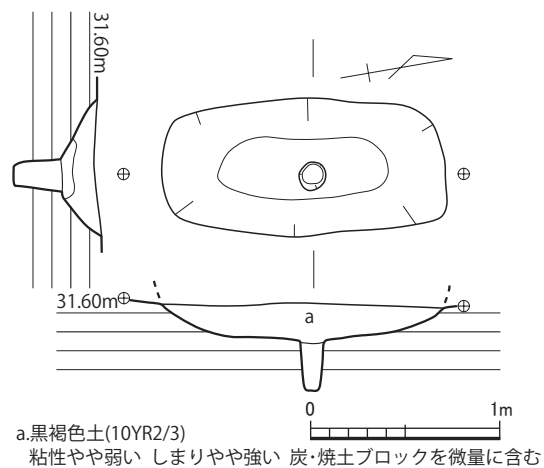
このS148の遺構は、長軸150cm・東西73cmの大きさを有する隅丸長方形の土坑である(第321図)。土坑底部までの深
さが20cmである。この底部中央に径14cm、深さ28cmの逆茂木穴が掘りこまれている。この底部から、残存部の立ち上がり
部分まで大きな曲率半径であり、緩やかに立ち上がっているが、短軸方向の断面形は、漏斗のような断面形をしている。この
遺構は長軸が北から西へ172°振れており、丁度舌状台地の東へ延びる地勢と直交気味に設置されている。

S152 調査区の中中部から東南部地域で、第II次調査区にあり、区画では8G区北西隅部に位置する(第3図・第479図)。
こは、西から東に延びる舌状台地から扇形に広がる平坦面のなかでも東南部よりの部分に設置されている。なお、S152は
IV層上面で検出された。

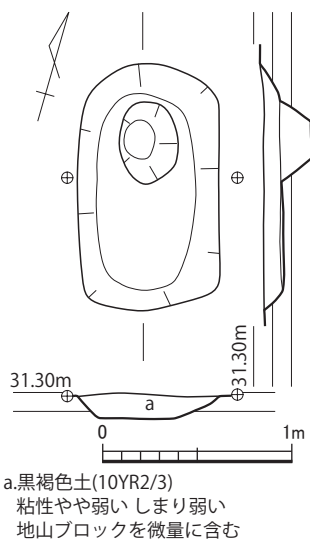
このS152遺構は、長軸131cm・東西74cmの大きさを有する隅丸長方形の土坑である(第322図)。土坑底部までの深さが
10cmである。この底部北半に径40cm、深さ18cmの逆茂木穴が掘りこまれている。しかしS152の短軸断面における底部と
逆茂木穴の径がやや幅広いことなどからS148との違いが大きく、陥し穴でない可能性も考えられることを付記しておきたい。
この遺構もS148と同様に長軸が北から西へ15°振れており、丁度
舌状台地の東へ延びる地勢と直交気味に設置されている。湾曲する
谷の谷頭等高線に平行する。

S226 調査区の中中部から東南部地域で、第II次調査区にあり、
区画では6F区西部に位置する(第3図・第479図)。こは、西
から東に延びる舌状台地から扇形に広がり始める場所で、南側に
広がる湾曲した谷の縁沿いに設置されている。なお、S152はIV層
上面で検出された。

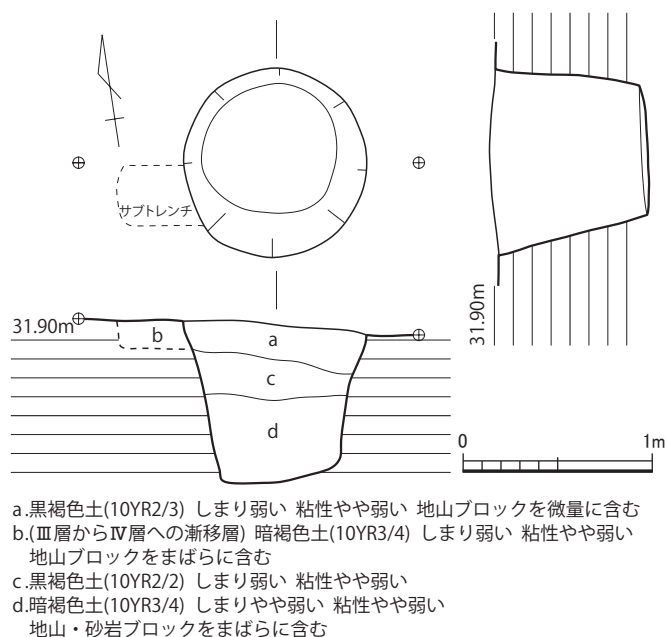
このS226遺構は、南北97cm・東西85cmの大きさを有するほぼ
円形の土坑である。土坑底部までの深さが85cmである(第323図)。
底部から土坑最上部までの立ち上がり角度は78.5°と83.5°であり、
急角度であることが特徴である。内部の堆積土は、水平堆積である。
なお、このS226には逆茂木穴が検出されておらず、陥し穴でない
可能性もある。



第321図 S148実測図(1/40)



第322図 S152実測図(1/40)



第323図 S226実測図(1/40)

(8) 柱穴その他

S241 調査区の中中部から東南部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では8F区北西隅部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地から扇形の平坦面が広がり、その中央部分にある。なお、S241はⅣ層上面で検出された。遺構は南部竪穴建物群の中にある。

このS241遺構は、南北(長軸)56cm・東西(短軸)50cmの大きさを有する楕円形の土坑である。土坑底部までの深さが15cmである(個別図なし)。

土器 山形押型文土器の口縁部破片が1点出土している(第324図403)。口縁形態は、浅い波状である。文様は、内面が上部に柵状文とその下には僅かに山形文が観察される。外面は、縦方向に回転施文した山形文が観察される。山形文は、山形頂部の間隔が1.6cm、山形の頂部と山形谷部の幅は0.2cmと幅狭い。縦方向施文と、内面の柵状文の特徴から下菅生B式土器いえる。

S255・S256 調査区の北東地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では9D区西南部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地から扇形の平坦面が広がり、その北東部分に遺構がある。なお、S255はⅣ層上面で検出された。

S255は、長軸45cm・短軸38cmの大きさを有する楕円形の土坑である。土坑底部までの深さが12cmある(個別図なし)。S251とS256に切られている。

土器 S255からはナデ調整無文土器の口縁部破片が1点出土している(第325図404)。

S256は、長軸53cm・短軸45cmの大きさを有する楕円形の土坑である。土坑底部までの深さが35cmある(個別図なし)。

S386・S387 調査区の北東地域で、第Ⅳ次調査区にあり、区画では9D区東部に位置する(第3図・第477図)。ここは、西から東に延びる舌状台地から扇形の平坦面が広がった北東部分に遺構があり、北部竪穴建物群の中に含まれる。なお、S386はⅣ層上面で検出された。

S386は、長軸186cm・短軸88cmの大きさを有する隅丸長方形の土坑で、深さは4cmである。このS386の長軸は北から西へ40°振れた方向にある。このS386の南半の床面に掘りこまれたのがS387で、長軸56cm・短軸27cmの大きさを有する楕円形の土坑で、長軸は北から西へ105°振れた方向にある。なお土坑底部までの深さが20cmある(個別図なし)。

土器 S387からは、楕円押型文土器の口縁部破片が1点出土している(第326図405)。これは、内外面とも横方向に回転させた押型文であり、柵状文もないことから稲荷山式土器に相当する土器である。

S395 調査区の東部地域で、第Ⅳ次調査区にあり、区画では11F区北部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地から扇形の平坦面が広がる台地の東側低地の緩い斜面部に相当する。なお、S395はⅣ層上面で検出された。

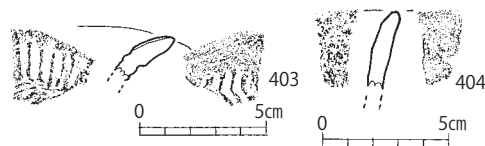
S395は、長軸39cm・短軸38cmの大きさを有するほぼ円形の土坑である。土坑底部までの深さが16cm(個別図なし)。

土器 S395からはナデ調整無文土器の口縁部破片が1点出土している(第326図406)。

(9) 遺物出土状況

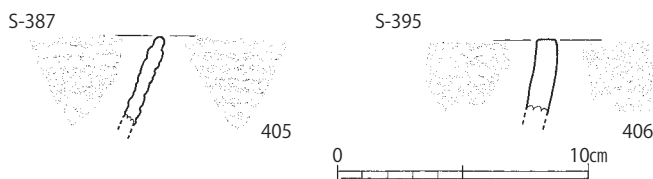
調査区の西南部は舌状台地の南側に展開する湾曲した谷地形の西斜面であるが、その1H付近は集石や配石遺構が多い地区である(第3図・第478図)。ここは、西から東に延びる舌状台地から扇形の平坦面が広がり、その中央部分にあたる。1H区付近の配石遺構として二例提示できる。

S035の南西に斜面にある配石は、台石1点と小礫12点からなり、南西方向に縦長に分布する。その範囲は、南北150cm、東西70cm前後である(第327図)。中央にある最も大きい台石は、52cm×36cmの規模を有する。表面は焼けていない。



第324図 S241
出土遺物実測図

第325図 S255
出土遺物実測図

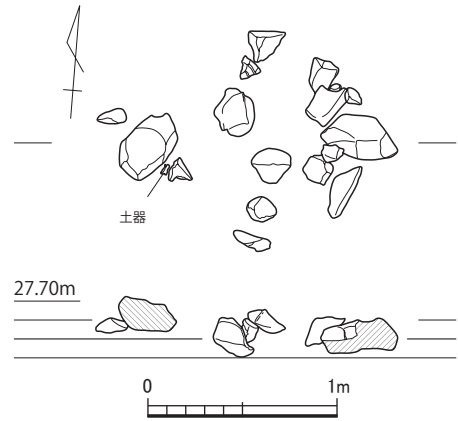


第326図 S387・S395出土遺物実測図

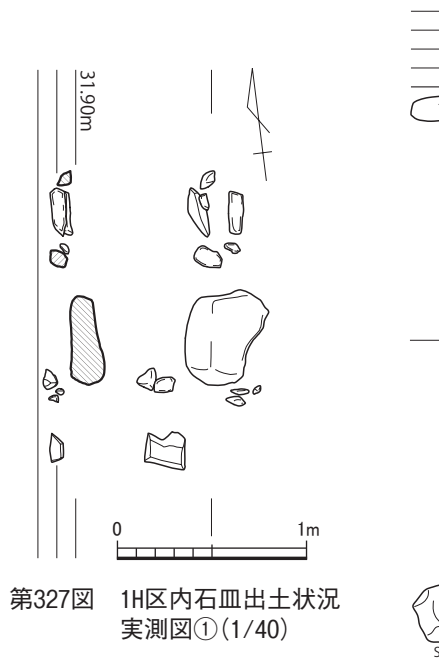
S035の西に斜面にある配石は、台石2点と小礫1点からなり、北から西へ53°振れた方向に分布する(第328図)。その範囲は、長軸90cm、短軸40cm前後である。北西よりある最も大きい台石は、40cm×37cmの規模を有する。表面は焼けていない。

西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦な面の北東端部にも配石がある。このあたりは北部竪穴建物群が広がっているが、S246も調査区の東北部地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では9D区南部に位置する(第3図・第479図)。竪穴建物S246の北側に配石が分布している(第330図)。大小32の礫から構成されている。これらには被熱による赤化がみられないが、大きさや角礫状の形から、集石と大差がないことから集石用に準備していたものかもしれない。

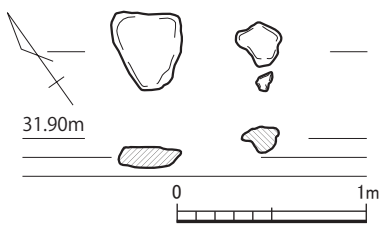
舌状台地の東側にある低地部からも配石が出土している(11F区北部・第479図)。大小17個の角礫で構成されているが(第329図)、被熱による赤化がみられないことと、弾け痕もない。また台石に用いるような平たい面のある大型礫はない。角礫であることを考えると受熱した集石の礫と大差がないことから集石用に準備していたものかもしれない。



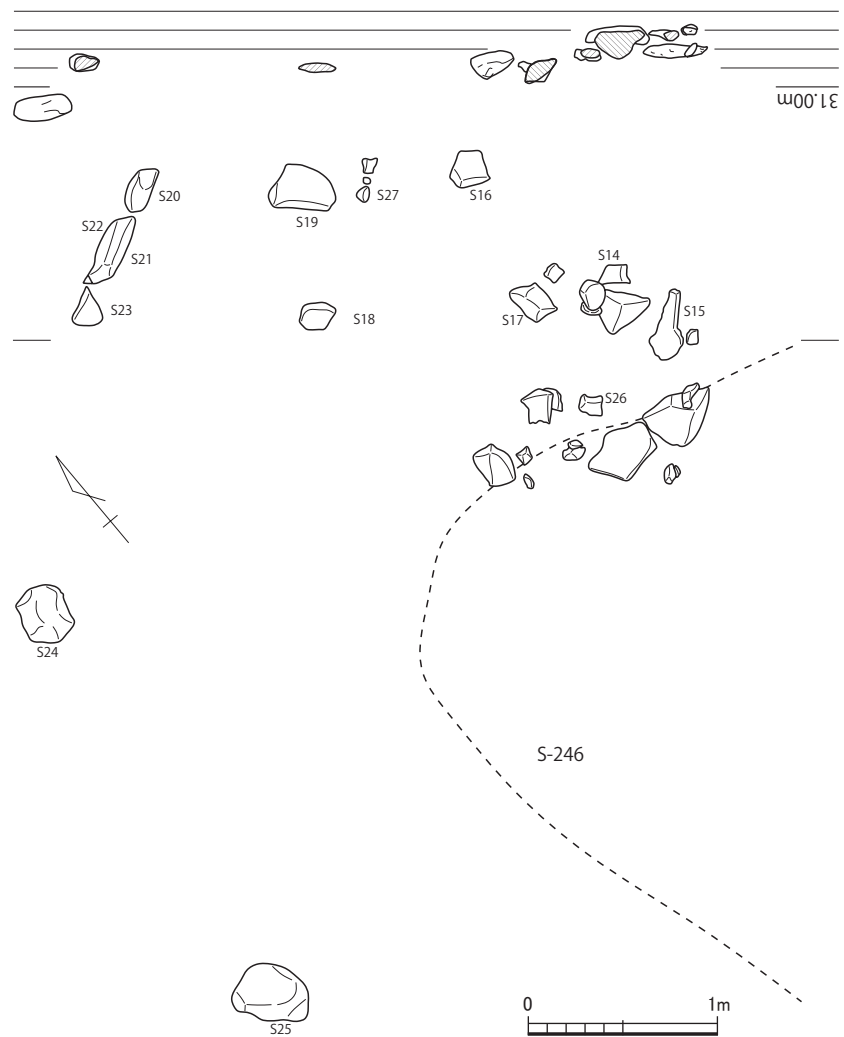
第329図 11F区配石遺構実測図(1/40)



第327図 1H区内石皿出土状況実測図①(1/40)



第328図 1H区内石皿出土状況実測図②(1/40)



第330図 9D区配石遺構実測図(1/40)

第4節 弥生時代・古墳時代の遺構と遺物

1 弥生時代

弥生時代の土器集中部分が調査区の東部地域で、第IV次調査区にある。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の東端部で、東方の眼下に低地部や大越川方面が臨める場所である。区画では9F区の北半部にある（第3図・第479図）。同一個体の土器が6cmの間をあけて分布する（第331図）。南東の一群は、胴部が押し潰れたように出土するが、その方向性は上部を西方に向け、下部を東方に向けている。北東の一群は、底部を中心とし、上部を西方に向けて潰れたように出土した。周囲に口縁部はなかった。おそらく祭祀に伴い、土器を割って配置したのであろう。土器は胴部が球形に張る壺と考えられ、内外面にヨコ刷毛・斜め刷毛痕が観察される（第475図2421）。弥生時代後期の壺であろう。

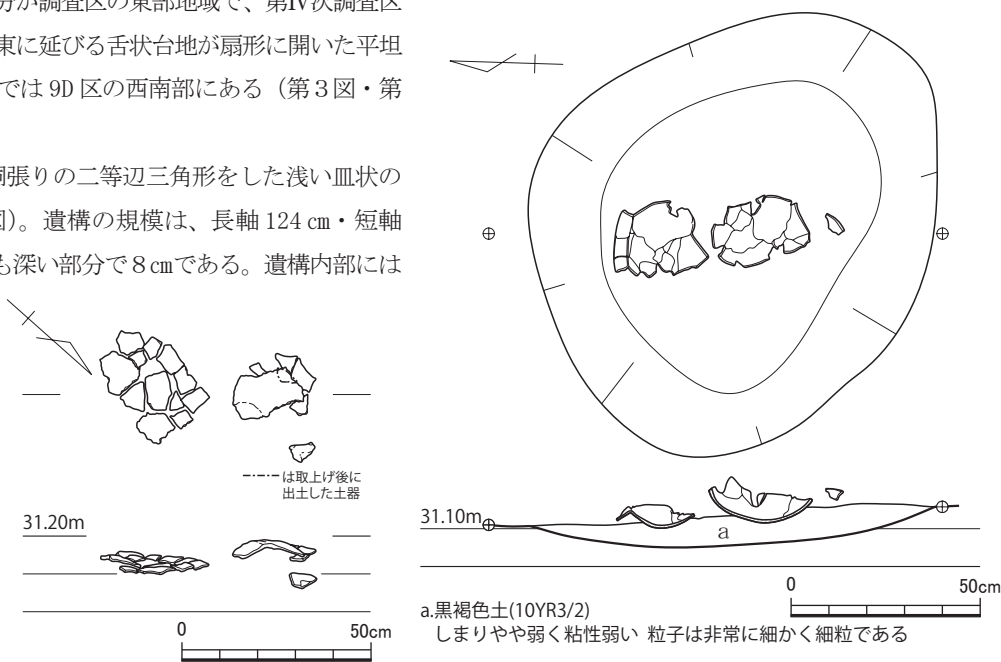
2 古墳時代

弥生時代の土器集中部分が調査区の東部地域で、第IV次調査区にある。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の北東部である。区画では9D区の西南部にある（第3図・第479図）。

S251遺構は、隅丸で胴張りの二等辺三角形をした浅い皿状のピットである（第332図）。遺構の規模は、長軸124cm・短軸104cmで、その深さは最も深い部分で8cmである。遺構内部には

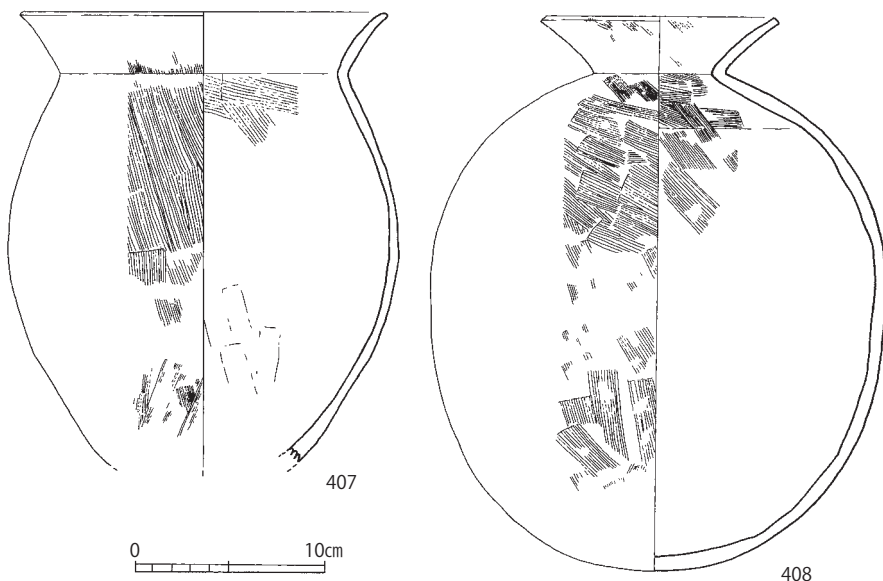
明瞭な下場部分がなく、曲線的に立ち上がる、なお、遺構の長軸は、北から西へ56°振れた方向である。この遺構内の中央で、南北に並ぶように古墳時代の土師器が出土した。その並びの長軸は、北から西へ5.5°振れた方向である。なおS251は縄文時代草創期の竪穴建物であるS246・S273の覆土の上に掘りこんでいる。

土師器 二種類の土師器がある。一つは、頸部幅が大きく、胴張りで長胴化傾向がうかがえる例である（第333図407）。二つ目は、側面形がやや楕円形ながら球形の胴をもち、頸部が著しく窄まって口縁が開く例である（第333図408）。長胴化傾向のものがあることから6世紀前半頃のものだろう。



第331図 遺物出土状況実測図(1/20)

第332図 S251実測図(1/20)



第333図 S251出土遺物実測図

第5節 中世・近世の遺構

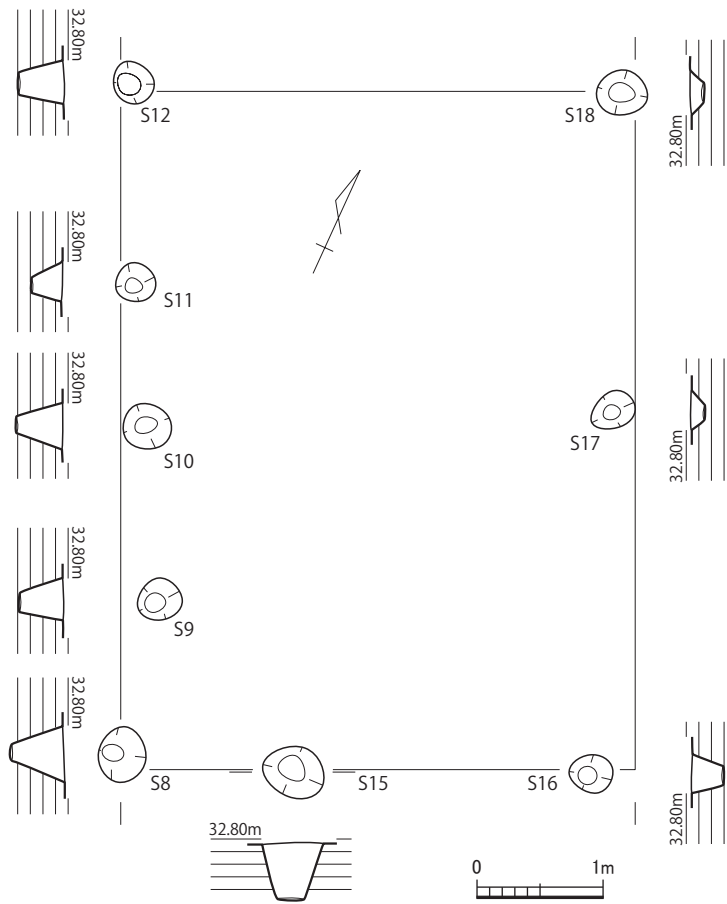
1 建物・構造物

中世もしくは近世のものと考えられる遺構は多くないが、点々と舌状台地上に点在している（第336図）。中世的なものといえ、森の木遺跡第1次調査以前には中世の石塔が立っていたようである。また既に触れたように1856年（天正14）に薩摩島津氏の兵が堅田に侵入し、その際の退却時の陣地が置かれたのがここ森の木原（森の木遺跡のある場所）であった、大規模な土木工事を伴う台地端部の斜面形成は、薩摩の兵が陣を敷いた際の切岸である可能性も指摘しておきたい。

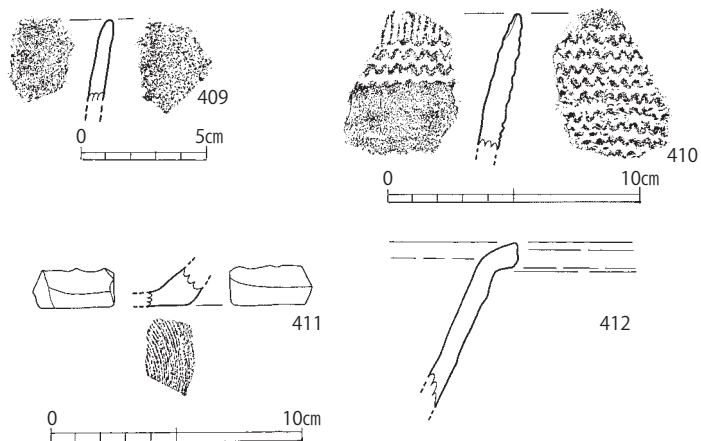
SB055a 調査区の西部地域で、第II次調査区にあり、区画では0F区南半を中心に位置する（第336図）。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで、南北方向の斜面が東方向へ回り込みはじめる地勢である。なお、この地点は西方10数mには尾根の末端がある場所である。なお、遺構は、旧石器時代の包含層であるIV層上面で検出したが、その上には縄文時代前期・早期の包含層であるII・III層が100cm程度堆積しており、生活面はかなり上位であったことが窺える。

SB055aは、深いIV層上面の深度で検出したこともあって11基の柱穴で構成されているが、本来であれば14基の柱穴がなければならない。しかし、残った柱穴から規模と構造を復元してみると、桁行4間（約545cm/18尺）・梁間3間（約390cm/13尺）の規模である。長軸の方位は、北から西へ25°振れている。建物の面積は、21.255㎡になる。したがって東側長軸面（平側）は、西から東へ延びる台地方向に向けていることになる。柱穴の大きさは（直径）、S5:37cm・S9:35cm・S10:39cm・S11:33cm・S12:32cm・S18:40cm・S17:35cm・S16:35cm・S15:45cmで、平均値は約37cmである。柱穴の底部の標高は、32.30m代が2基、32.40m代が3基、32.50m代が2基、32.60m代が2基であった。このことから、柱穴の深さは標高32.5m代としていたことが窺える。また柱穴の並びをみるときれいに並んでいないことと、等間隔でないなど出入りのある配置であることが読み取れる。これらのことから掘立柱建物の建築は粗い作りといえるだろう。このことから極めて臨時的であり、長期にわたって存続させるほどの重要性をもたなかった施設であることが想定される。

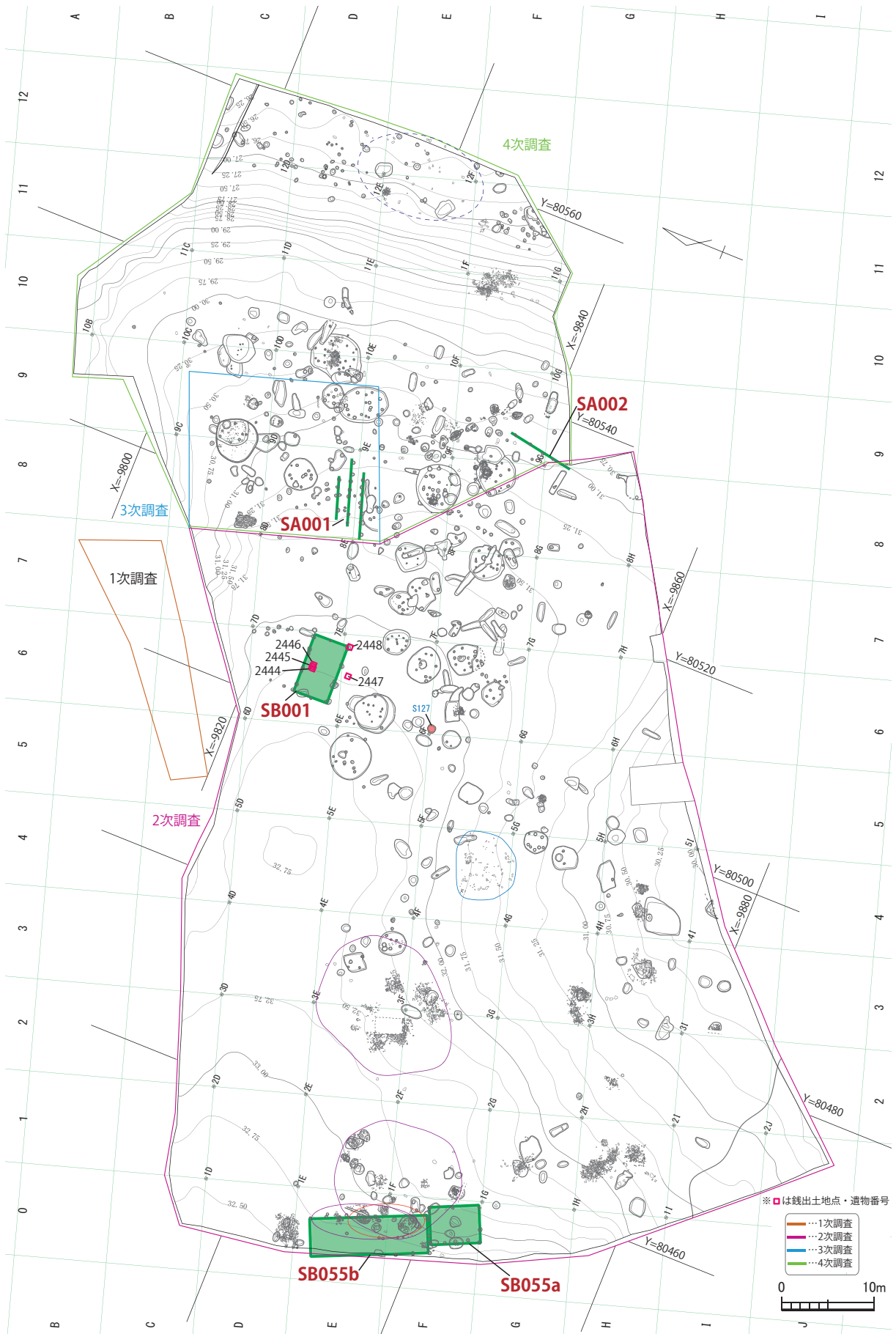
SB055aに隣接するSB055bからは土師質土器が出土しており、柱穴覆土も同じであることからSB055aも中世期の年代が考えられる。



第334図 SB055a実測図(1/60)



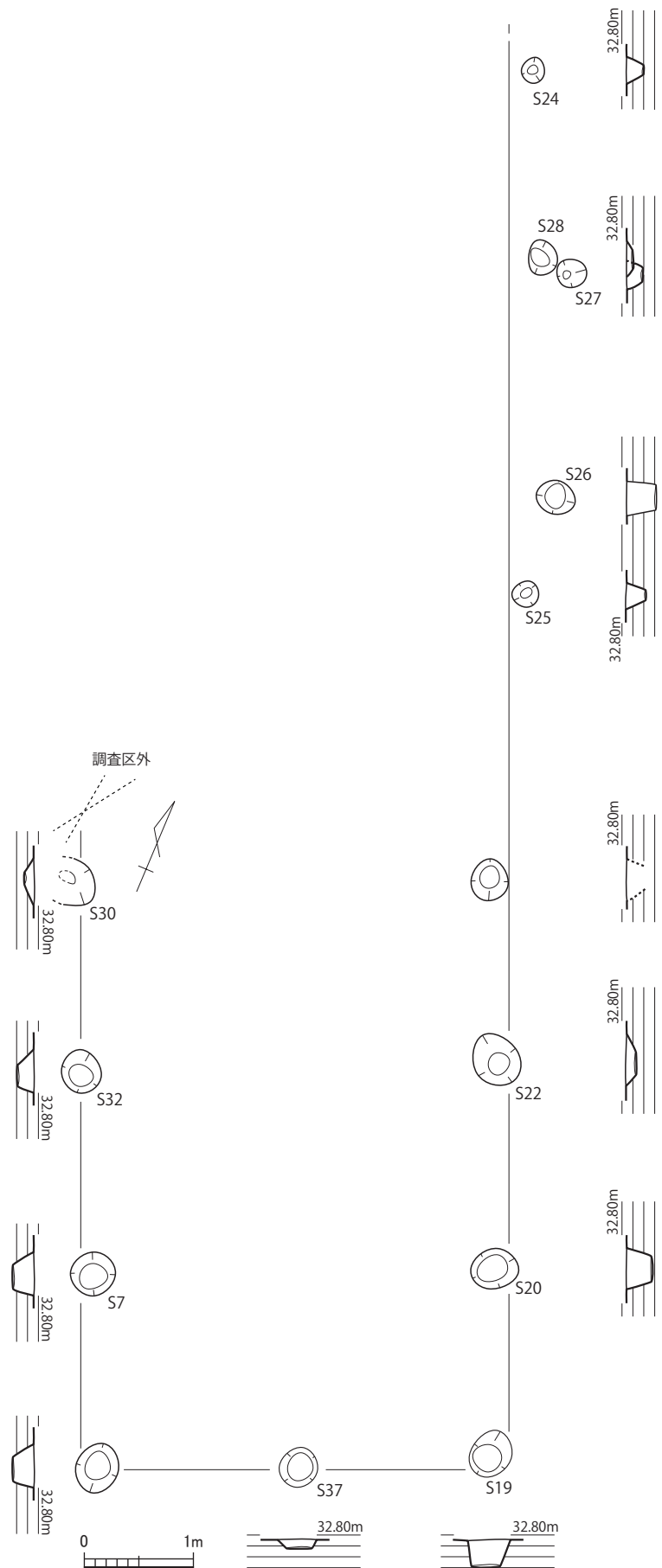
第335図 SB055a柱穴出土遺物実測図



第336図 森の木遺跡 中世・近世遺構位置図(1/600)

SB055bc SB055bc も SB055a と同様に調査区の西部地域に第II次調査区があり、区画では0E区と0F区にまたがって建てられていた(第336図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで、南北方向の斜面が東方へ回り込みはじめる地勢である。なお、この地点は西方10数mには尾根の末端がある場所である。なお、遺構は、旧石器時代の包含層であるIV層上面で検出したが、その上には縄文時代の包含層であるII・III層が100cm程度堆積しており、生活面はかなり上位であったことが窺える。

当初、SB055bc はSB055b とSB055c との別々の柵状の建物として理解していたが、柱穴の配置等を再検討したところ、同一の掘立柱建物であることが判明した(以後SB055bc)(第337・338図)。それは両遺構の南端でSB055aの北面の妻側に接する部分にも柱穴が確認され、それ以南には延びていないことも再確認したことが理由である。東の平側は、南から七つ目の柱穴S24まで確認され、その北側は確認されていない。したがってS24で西に屈折して北の妻側であったと推定する。西側の柱穴は南から四つ目のS30まで確認され、それらは東側の柱穴列に対応している。なお、S30の先は調査区外へと続いているものと考えられる。このことを踏まえ残った柱穴から規模と構造を復元してみると、桁行6間(約1,091cm/36尺)・梁間2間(約363cm/12尺)の規模である。建物の面積は、39.60㎡(11.98坪)になる。また長軸方向性、つまりの長軸の方位は、北から西へ22°振れている。したがって東側長軸面(平側)は、西から東へ延びる台地方向に向いている。SB055a とSB055bc の長軸(平側)方向の方位(北から西)の差は僅か3°と誤差の範囲と思われることと、両棟が平側を密接させながらも交差していないことから極めて同時性の高い建物群と推定される。



第337・338図 SB055bc実測図(1/60)

土器 SB055bc からは縄文土器と中世の土師質土器と瓦器が出土している。縄文土器は2点あり、一つはナデ調整無文土器の口縁部破片であり（第335図409）、もう一つは横方向の山形押型文を内外面に施し、内面の上部に柵状文を有する例である（410）。中世の土師質土器は、坏もしくは小皿の底部破片で糸切り離し痕がある（第335図411）。瓦器は、外傾しながら立ち上がり口縁部を外方に折り曲げたもので、火鉢と考えられる（412）。さしあたって土師質土器と瓦器がSB055aとSB055bcの築造・利用した年代に近いことはいえよう。口縁部形態のわかる瓦器の年代は、室町時代の14世紀頃に比定できる。

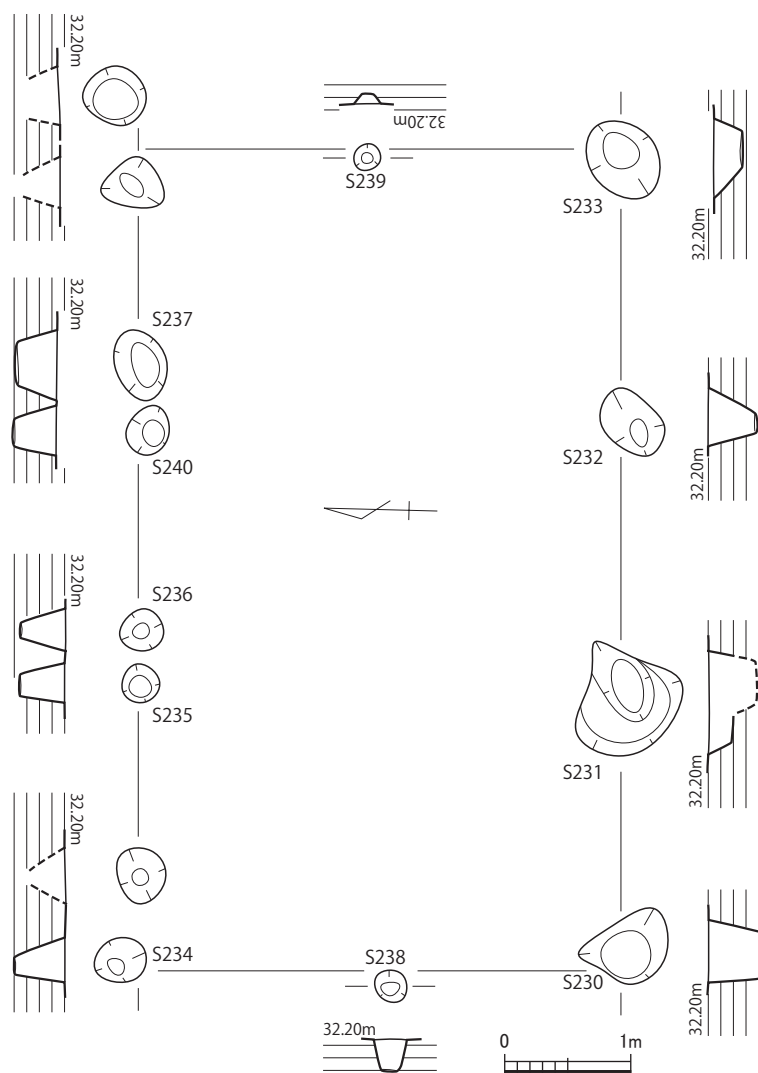
SB001 調査区の中央部地域で、第II次調査区にある。区画では6C区の南半を中心に6D区にかかる部分に位置する（第3図・第336図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形から扇形に開き始める部分にあたる。

SB001は、柱穴の分布から桁行3間・梁間2間を基本構造とする掘立柱建物で、妻側中央にある柱穴が棟持柱ということになる（第339図）。そこで構造を復元すると、桁行3間（約636cm/21尺）・梁間2間（約394cm/13尺）の規模である。建物の面積は、25.06㎡（7.58坪）になる。平側の方向、つまり長軸方向の方位は北から西へ92°振れた方向である。したがって南北に対し、SB001の長軸はほぼ直交する東西方向の掘立柱建物ということになる。またSB001の方向性は、西から東に延びる舌状台地の方向性に合わせたのかもしれない。したがって太陽のあたる南側に平側を向けている。柱穴の平面分布図を一瞥すると一目瞭然であるが、南側と北側の柱穴列（平側）に際立った違いがある。北側の柱穴は、2基の柱穴がセットになって（近接して）掘られているのに対し、南側は基本的に1基ずつである。また北側の柱穴は、径が西から35cmと44cm、30cmと35cm、40cmと55cm、40cmと47cm

というように小さいものが多い。それに対し南側の柱穴は、西から55cm、83cm、50cm、60cmと径が大きい。さらに加えて両妻側の棟持柱の柱穴の径は、25cmと20cmと極めて小さい。北側は日があたらず、湿気が多いので、入念に柱穴を2基で1単位としたのかもしれない。ともかく、棟持柱の柱穴が、他の柱穴に比べて異常に小さいことが特徴である。

古銭 このSB001の内部と付近から、永楽通宝2枚を含む銅銭が6枚出土している（第480図）。この永楽通宝の初鑄年は1411年（明：永楽9）であるが、九州で流通するようになるのは16世紀頃からといわれている。建物の年代を、16世紀代と考えておきたい。銅銭の内訳は以下のとおりである。

- 永楽通宝（第480図2444）建物の内部
- 無文鏝銭（第480図2445）建物の内部
- 元豊通宝（第480図2446）建物の内部
- 永楽通宝（第480図2447）建物の外至近
- 政和通宝（第480図2448）建物柱穴内部
- 熙寧元宝（第480図2449）6F区採集



第339図 SB001実測図(1/60)

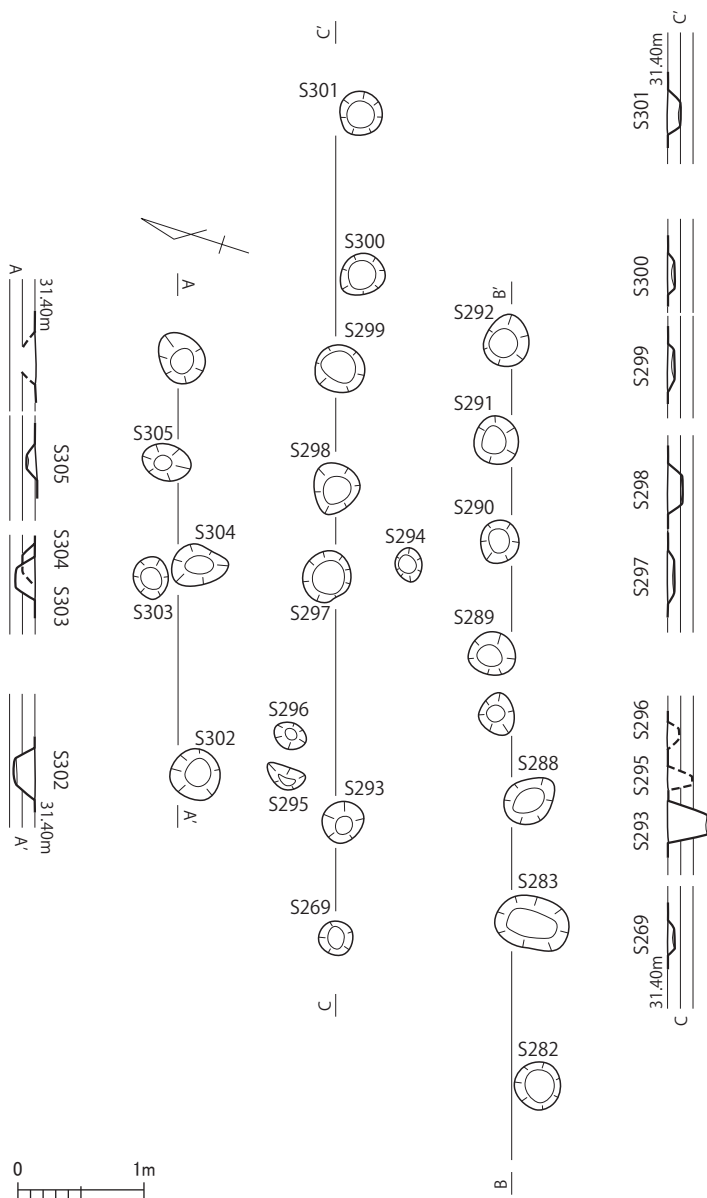
SA001 調査区の東部地域で、第Ⅲ次調査区にある。区画では8D区と9D区にまたがるように位置する(第3図・第336図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形から扇形に開いた平坦地の中央部付近でもある。

SA001は、東西に柱穴の並ぶ列が三列ある遺構である(第340図：北列・中央列・南列)。北列は5基の柱穴からなるが、西から二番目には2基の柱穴が南北に密接して構築されている。中央列は7基、南列は8基の柱穴からなっている。これらの列は、北から西へ108°振れた方位を示している。仮に引いた主軸線を中心に穴の配置をみると、南北に30cm前後ずれている場合が目立つ。また同じ列の柱穴間の距離は、30cm～50cmまでを中心に、最大で160cmの場合もある。穴の深さは、一例が30cm代のほかは10cm前後である。内部の状況は、柔らかい覆土で。根痕がないので柱穴としたが、これまでの特徴から建物や柵ではなく、植栽に伴う遺構と推定される。近世以降に開けられた穴であろう。

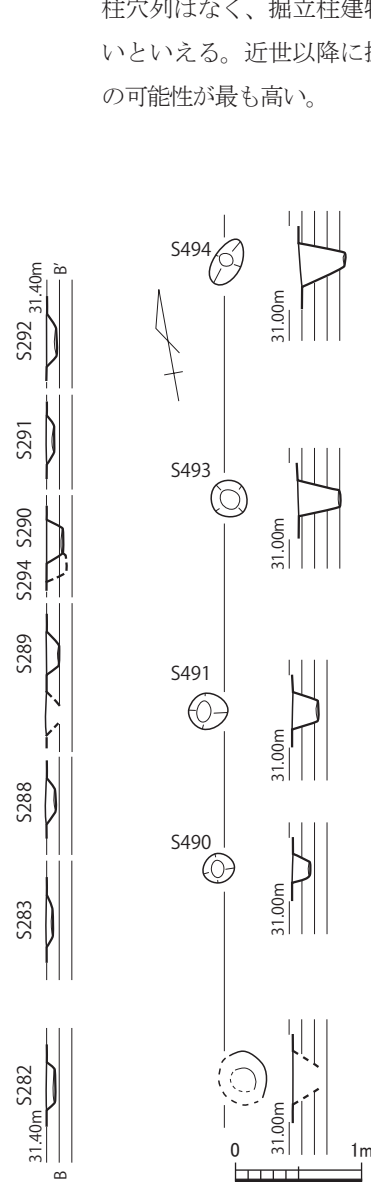
SA002 調査区の東部地域で、第Ⅲ次調査区にある。区画では9F区と9G区にまたがるように位置する(第3図・第336図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形から扇形に開いた平坦地の南東部付近である。

SA002の柱穴列は、5基の柱穴が長さ650cmにわたって設置されていた(第341図)。柱穴列の方位は北から西に169°振れた方向に設定されており、東南400cmにある斜面地形と並行するように並べていることが窺える。柱穴の特徴は、上記のSA001と比較すると、SA002の柱穴は穴の径が小さく、深さはより深いという違いがある。柱穴列の東あるいは西に対応する

柱穴列はなく、掘立柱建物の可能性は低いといえる。近世以降に掘削された柵列の可能性が最も高い。



第340図 SA001実測図(1/60)



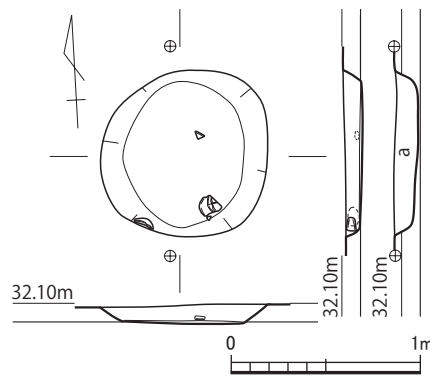
第341図 SA002実測図(1/60)

2 土坑

S127 調査区の中央部地域で、第Ⅱ次調査区にある。区画では6F区の北西隅部を中心に6E区にかかる部分に位置する（第3図・第336図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形から扇形に開き始める起点部分で、南に湾曲する谷部を望む縁部である。

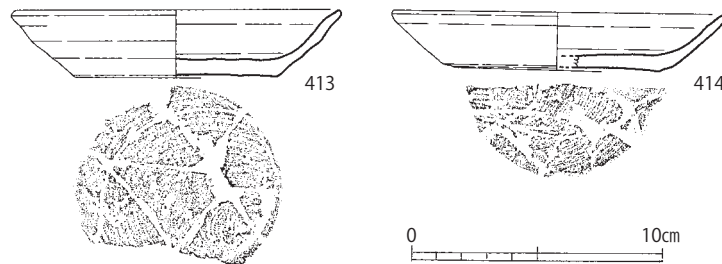
このS127遺構は、東西南北とも88cmの幅を有する円形の土坑である。土坑底部までの深さが12cmで、底部は平らである（第342図）。内部の土は、埋土と考えられ、Ⅳ層のローム質土をブロック状に含む。またこの土は、粘りもなく締まりもない。この遺構の上には外表遺構が存在したかもしれない。

土師質土器 遺構の南部壁際で25cmほどの距離をおいて土師質土器の坏が二個体出土したが、以下のような特徴がある。
 ①口径13.1cm・底径8cm・器高2.65cm・口縁部傾斜角45°の大きさを持ち、口縁端部を細く収める。底部は糸切り離しである（第343図413）。②口径13.2cm・器高2.2cm・底径8.2cm・口縁部傾斜角40°の大きさを持ち、口縁端部を細く収める。底部は糸切り離しである（第343図414）。この2点の坏の器形と法量からすると、他遺跡の出土事例に近いものは大分市植田市遺跡S T 1の事例である。S127出土の土師質土器と出土遺構の年代を13世紀～14世紀頃と考えておきたい。



a.暗褐色土(10YR3/3) しまりやや強い
 粘性弱い 埋土はサクサク状態である
 地山ブロックをまばらに含む

第342図 S127実測図(1/40)



第343図 S127出土遺物実測図

第6節 遺跡出土の遺物

1 旧石器時代後期

ここでは旧石器時代後期・縄文時代草創期前半の資料を報告する。これらの資料の大半は縄文時代草創期・早期の包含層である第Ⅲ層や遺構に混在して出土したものである。

ナイフ形石器 幅広剥片を用いた例がある。これは幅広剥片を90°右回転させ、表面の右側縁側に素材の打面部側とし、遠位端部縁辺側を左側縁側として整形加工を施した例である（第345図421）。

ナイフ形石器 ノの字形剥片を用い、基端部左側縁に整形加工を施した例（第353図519）。今峠型ナイフ形石器と思われる。

石刃尖頭器 先細りの石刃や縦長剥片を素材に用い、遠位端部の片側もしくは両側、近位端部の片側もしくは両側に腹面側から整形加工を施した例である（第345図422～424、第346図432）。なお小型の例は、これまで片島型ナイフ形石器として説明してきた例であるが、今後は片島型石刃尖頭器と称したい（第345図422・423、第346図432）。

エンド・スクレイパー 縦長剥片の遠端部を中心に腹面側から成形加工を施した例（第346図441・442）。

スクレイパー 石刃を素材とした例や（第345図426・427、第346図434）、斜軸剥片・幅広剥片を用いた例がある（第345図428、第346図435～438、第353図522、第422図1983）。

石錐 腹面側からの整形加工により背面側の周囲を成形するが、その際、遠位端部側の平面形を楕円状に、刃部（錐部）は尖らせた例である（第345図425）。

使用痕ある剥片 石刃や剥片の背面もしくは腹面側の縁辺に、微細な剥離痕が観察される例である（第345図417・418、第345図429～431、第346図439・445）。

加工痕ある不定形石器 様々な形態の剥片に部分的に加工した例であるが、あるいは他の石器の未成品段階のものかもしれない（第346図440・443、第347図447）。節理で剥がれた板状剥片を素材としたものもある（447）。

石刃1 遠位端部が尖る石刃で、小型の例と（第348図453、第349図458・463、第350図481、第353図531）、大型の例がある（第350図477・485、第351図487・490）。遠位端が尖る石刃は、遠位で垂下する稜、あるいは幅狭い部分を取り込んで収束したことに原因があろう。小型の例は、片島型石刃尖頭器の素材になりえるものであるが、頭部調整を施したものは一例しかなく（481）、あまり調整しないで石刃剥離を行っていることが窺える。

石刃2 遠位端部が尖らず幅広い石刃で、小型の例と（第348図454・456、第349図467・468・518・470～472、第350図479・480、第351図489）。大型の例がある（第348図457、第350図476・483、第351図486～488）。遠位端が幅広の事例は、当然ながら、石核に別方向の剥離痕が交差していることによって、垂下する方向の稜を取り込んで収束することができなかったからであろう。大型の石刃には縁辺に礫面を残すものがあり、角礫の縦稜付近を利用して剥離をしていることが窺えると同時に、縁辺部の出入りの有る例が多い（476・477・485）。この点は、幾つかの方向から剥片剥離が行われるなど、稜に平行する石刃を剥離するための調整が行われていないことが推定される。

なお以下で報告する石核の中に石刃核が含まれていないが、残された石刃の存在から本来石刃を剥離した石核が存在したのだろう。おそらくそれは、この付近で入手可能な泥岩・チャートの角礫から剥離をおこなったことが残された石刃類から推定される。位上、石刃を一瞥して見えるのは、技術的には高度なものではないことが窺える。

その他の石刃 折れによって、端部の形状がわからない例がある（469・478）

剥片1 縦に長い、側縁等の形が不規則な例（第350図484）

剥片2 表面に他方向からの剥離痕が観察される例（第349図462・464、第350図475、第351図492・494～499、第352図500・501・502・504・505・506・510～517、第353図520・528～530）。このような剥片は、角礫から打面転移をしながら剥片剥離をおこなったことを物語っている。

剥片3 礫面もしくは横方向の剥離痕を残した縦長剥片で、あるいは初段階の石刃核の調整剥片か（第353図523・532）。

剥片4 円盤形・板状の剥片で、打面再生剥片も含まれている（第347図448、第352図509、第353図524・525）。

剥片5 稜を取り込み、縁端部が尖った剥片である（第349図459、第350図473、第353図533）。

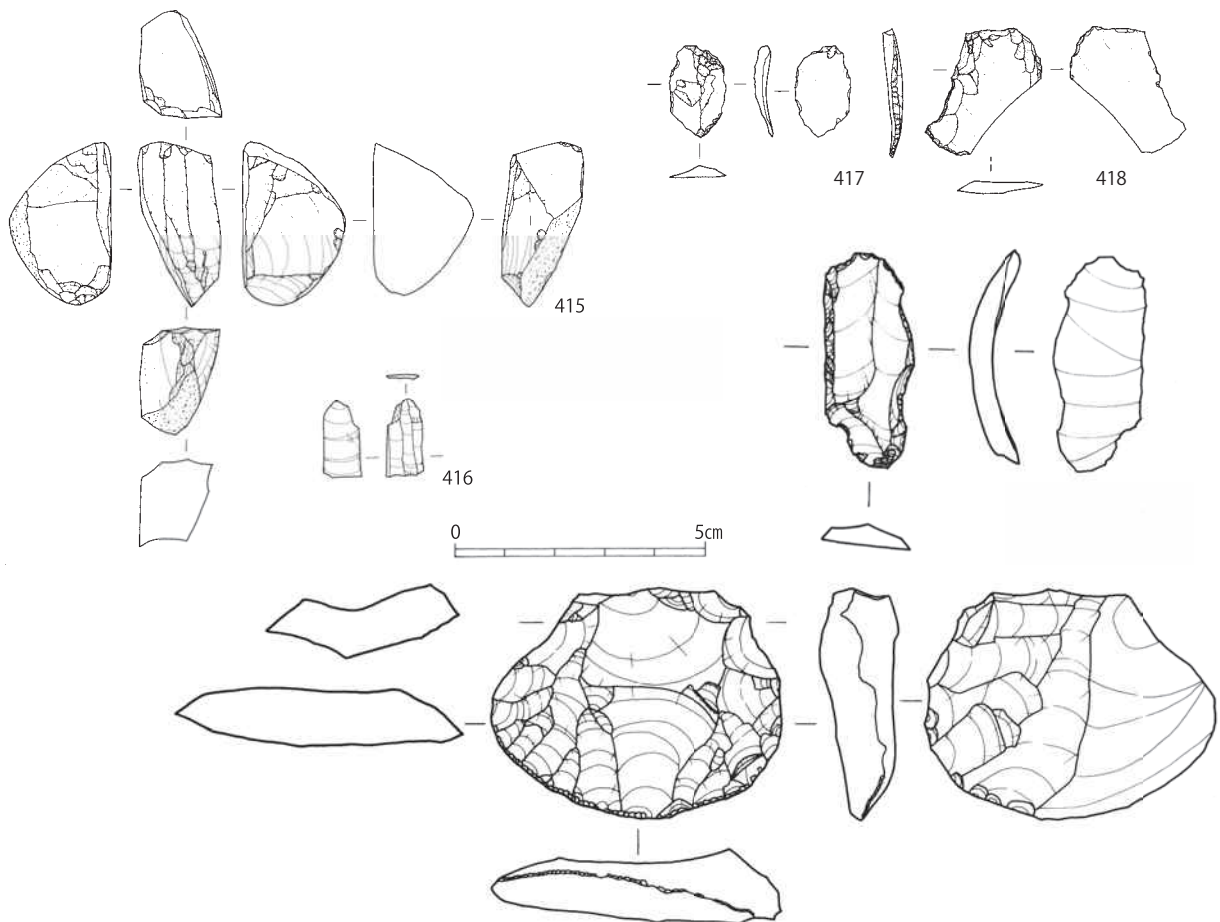
石核1 残核ともいふべき例があり（第346図444、第347図449）、最終的には上部に単一の剥離からなる打面を作出し、正面側で小剥片の剥離を行っている。最終的な剥片剥離面をみると寸詰まりの小縦長剥片が剥離されている。

石核2 角礫を素材としたもので、角礫面を利用して剥片剥離と打面を転移させながら剥片剥離を繰り返し行った石核である（第348図451・452）。幅広い剥片や縦に長い不定形剥片が剥離されている。石核1は、側面の剥離痕の特徴から、石核2の剥片剥離が進行した結果と考えられる。

石核3 主要な剥片剥離が、正面正中線の左右方向からと裏面側の左右方向からの剥片剥離によって断面が三角形となった石核である（第347図450）。剥離面の観察では、幅広い横長剥片を中心として寸詰まりの不定形剥片が剥離されている。もう一例は、正面と裏面の左右方向からの剥離痕がある例で、断面が凸レンズ状を示す（第346図446）。あるいは縄文時代早期に製作された石斧の破損品の可能性も高い。

これまでの述べてきた石器類の中に石刃があるが、これらは石核1～石核3に対応しない資料である。したがって本来的には角礫を用いた石刃核の存在が予測される。最長で12.5cmの石刃があるので（第351図487）、すくなくとも高さが12.5cm程度の石刃核であったことがわかる。また、石器類の中には、先細りで先端の尖った小型石刃を用いた片島型石刃尖頭器が存在することから、他遺跡で見つかった剥片の小口から同石器の素材を剥離した石刃核と同様な石核が存在したことも予想される。

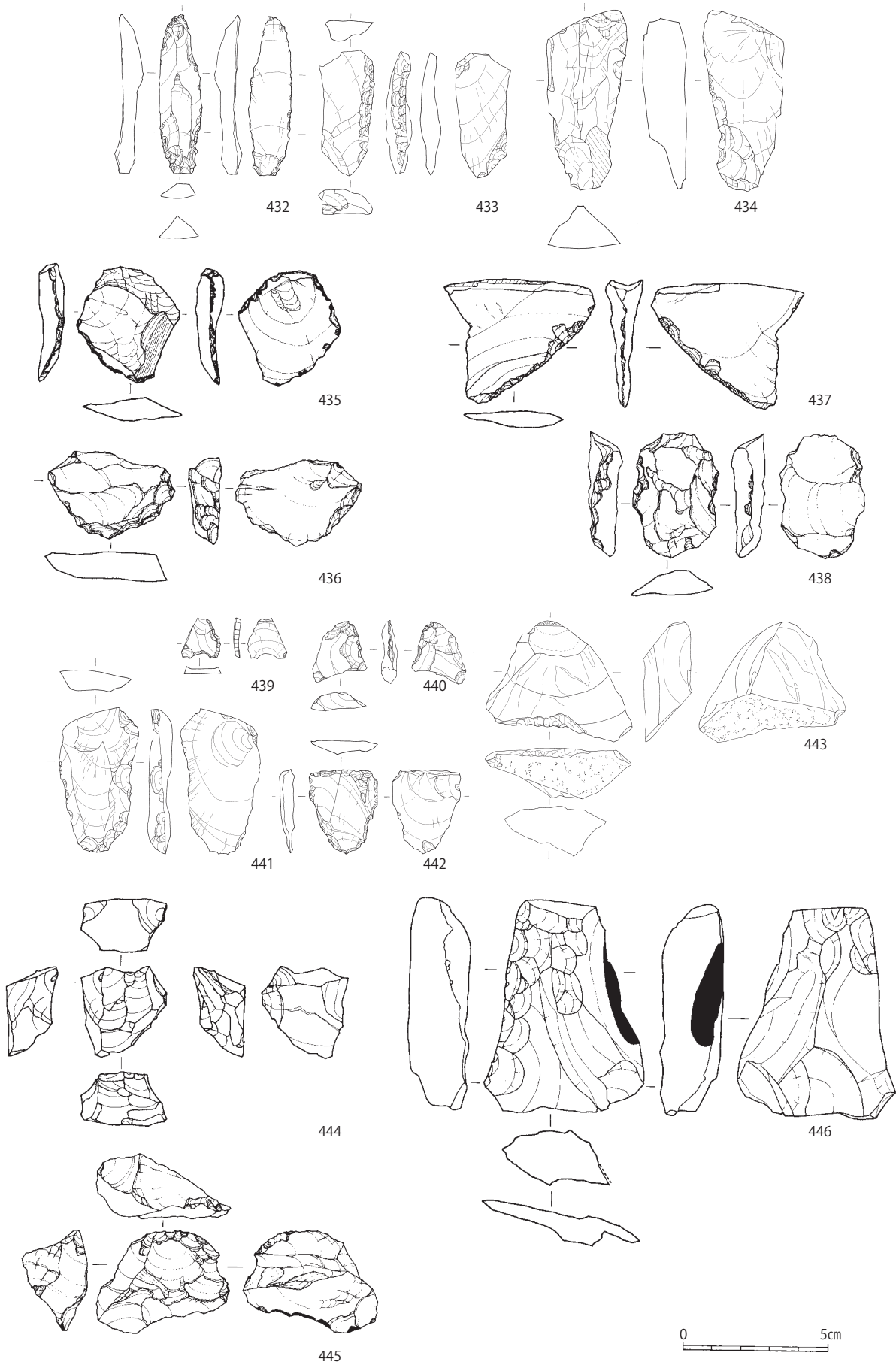
使用痕ある剥片 石刃を用いたもので、両サイドに細かい刃こぼれがある（第421図1978）。



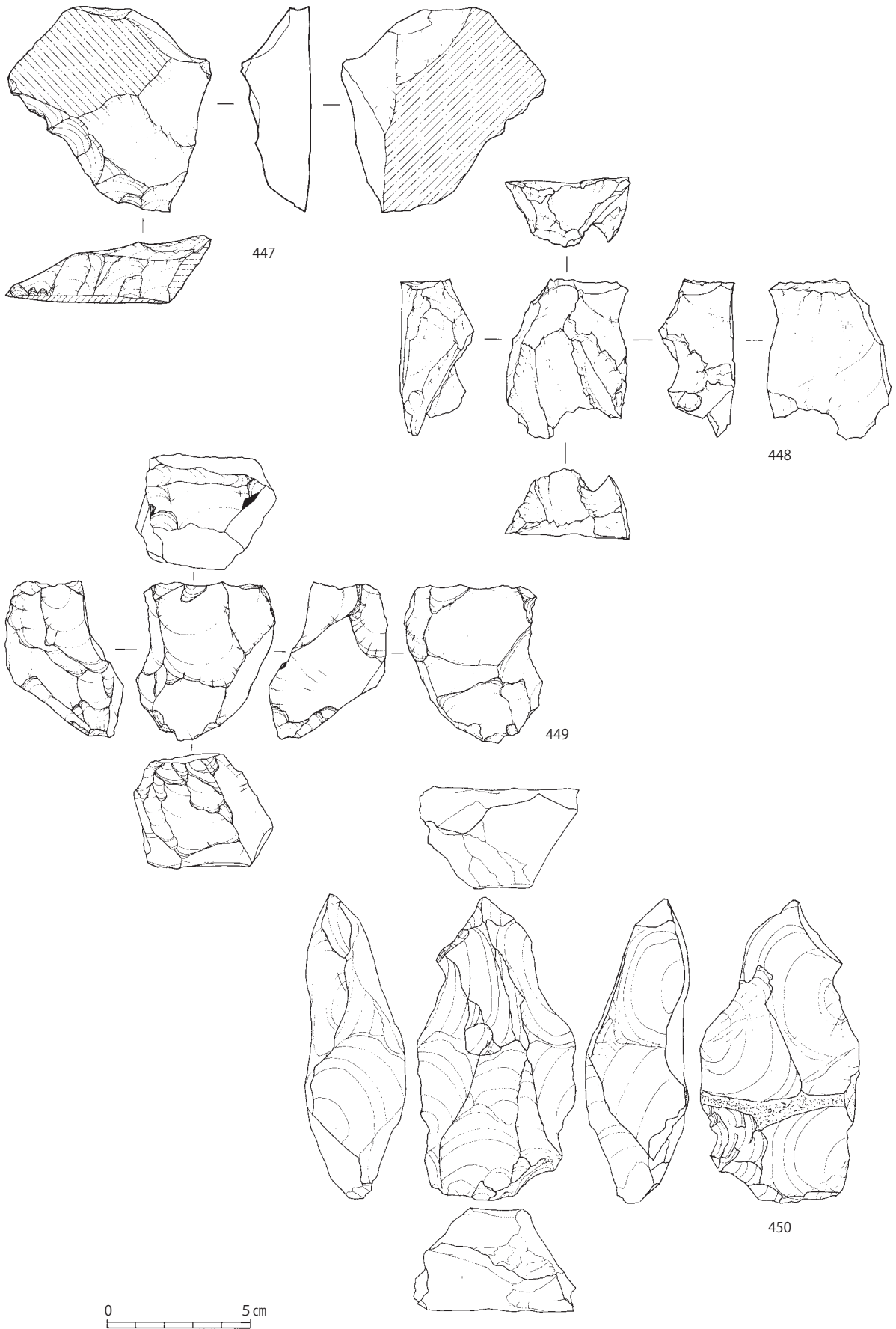
第344図 出土遺物実測図1-旧石器時代-(1)



第345図 出土遺物実測図2-旧石器時代-(2)



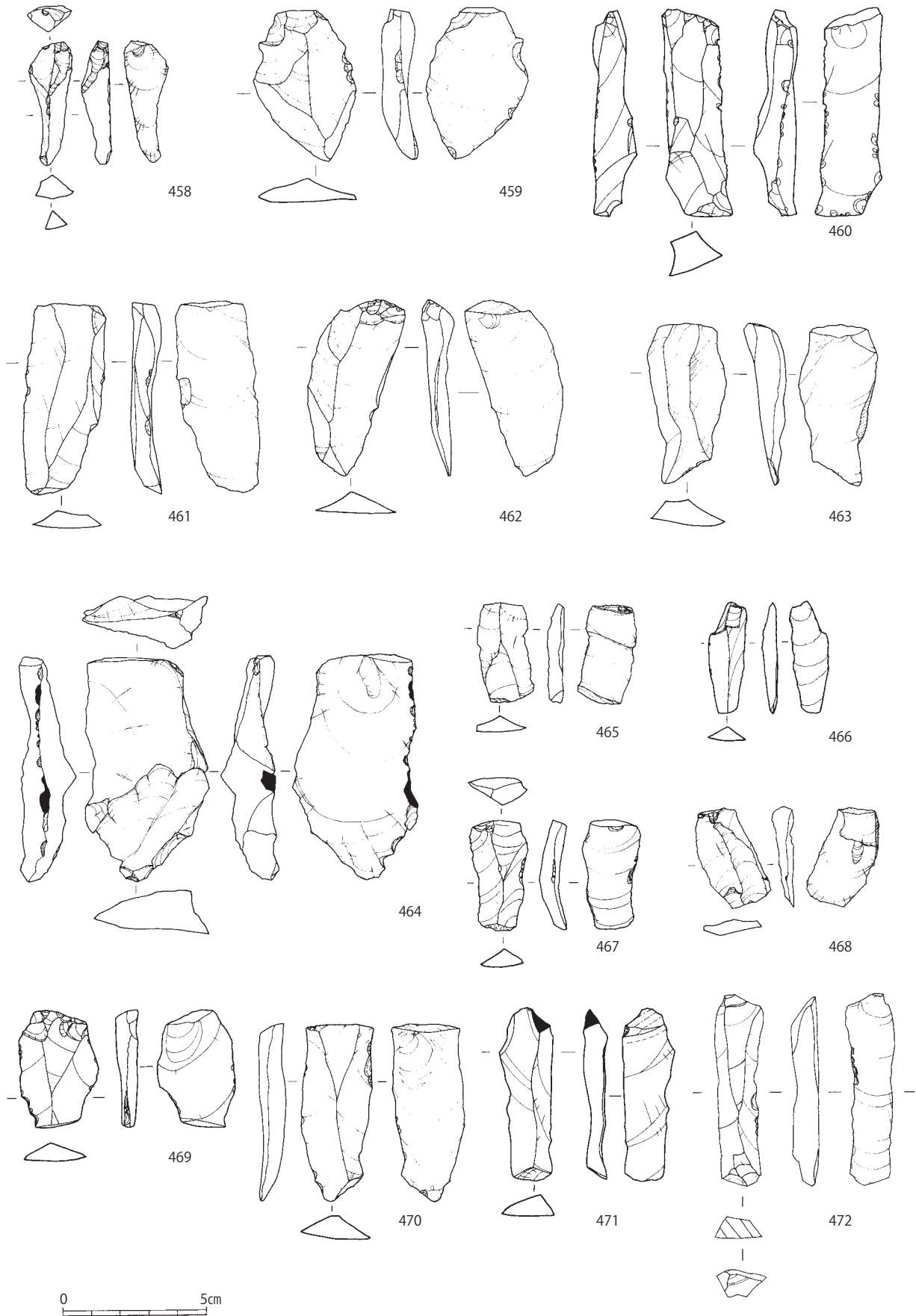
第346図 出土遺物実測図3-旧石器時代-(3) ※433は縄文時代早期



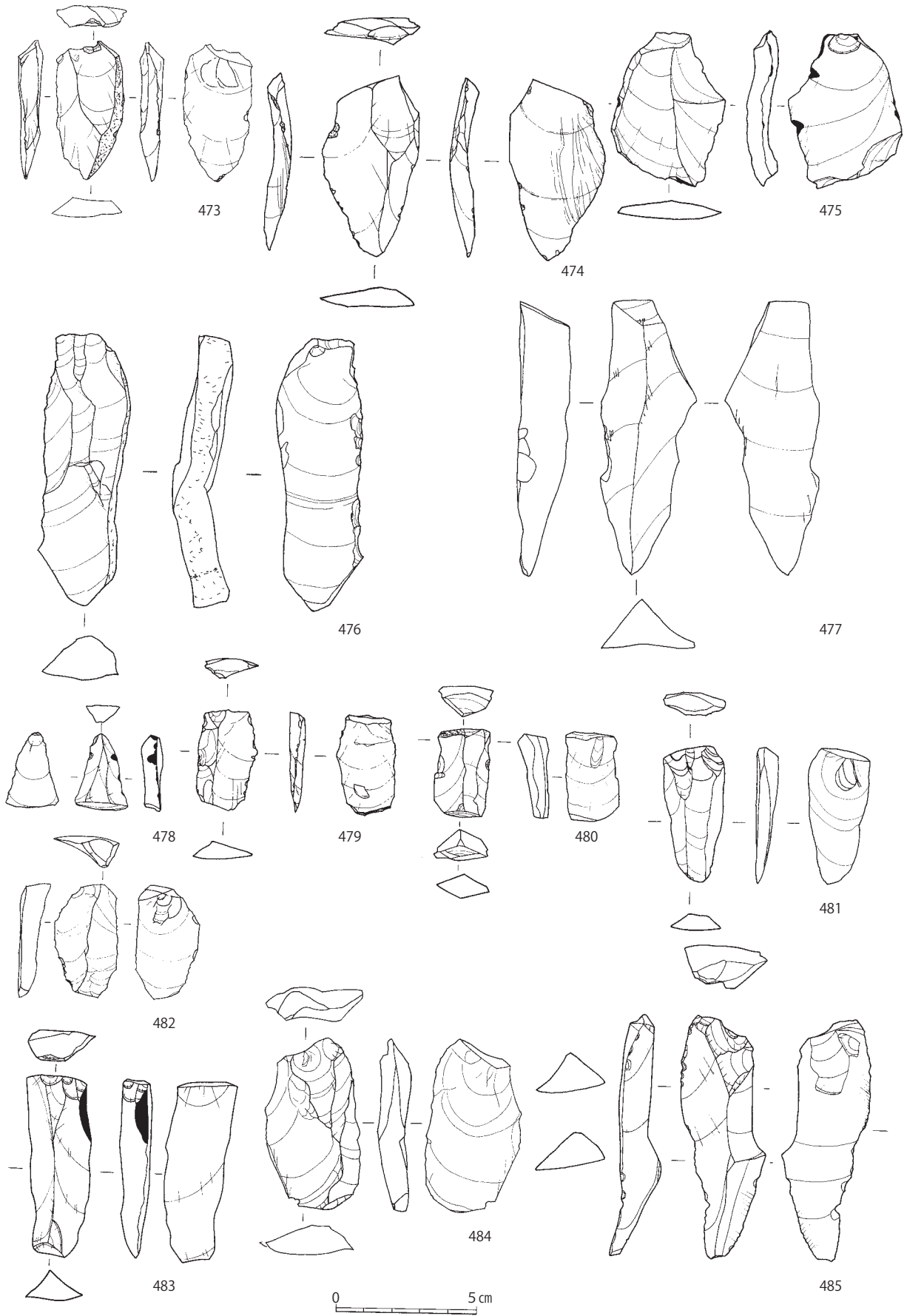
第347図 出土遺物実測図4-旧石器時代-(4)



第348図 出土遺物実測図5-旧石器時代-(5)



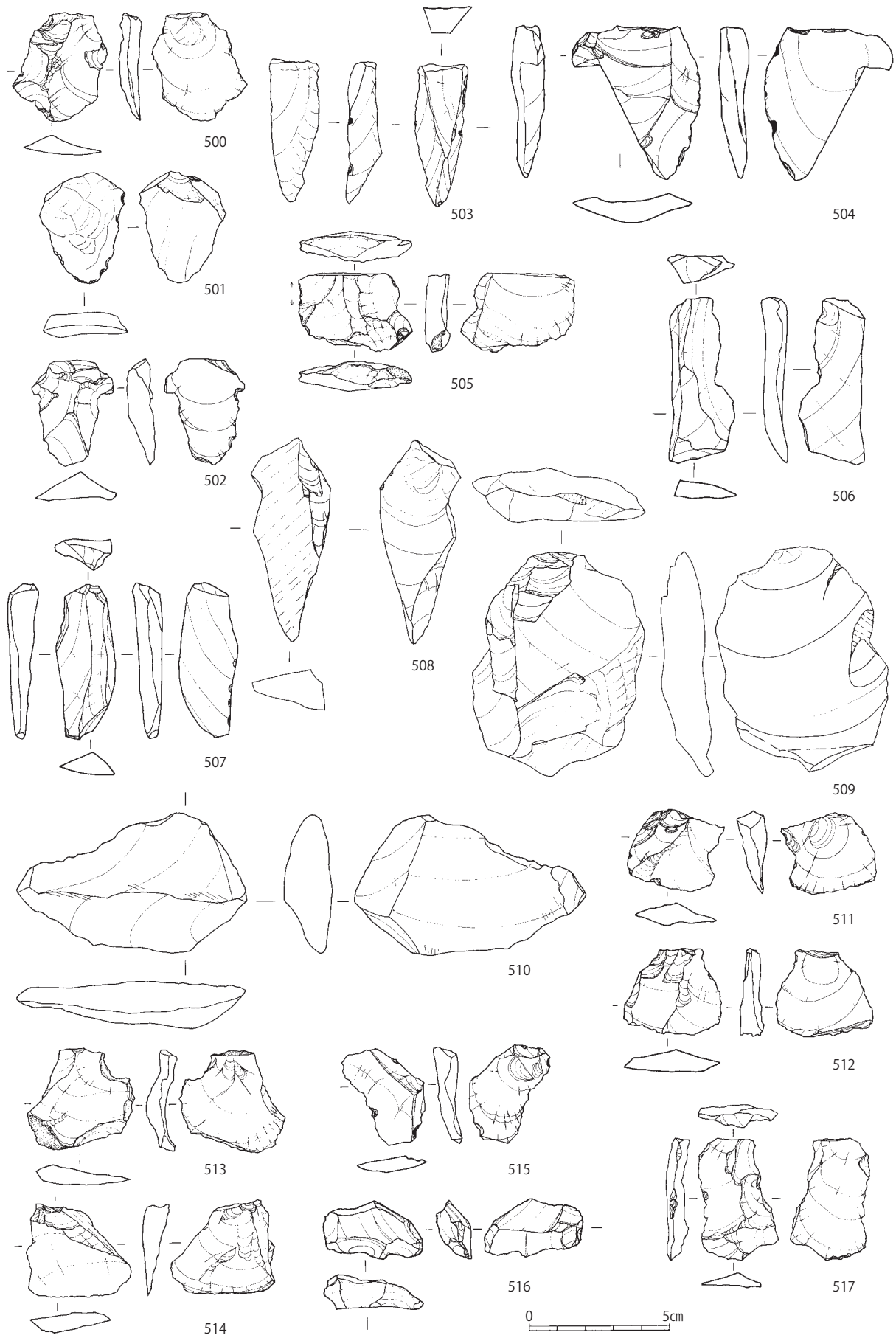
第349図 出土遺物実測図6-旧石器時代-(6)



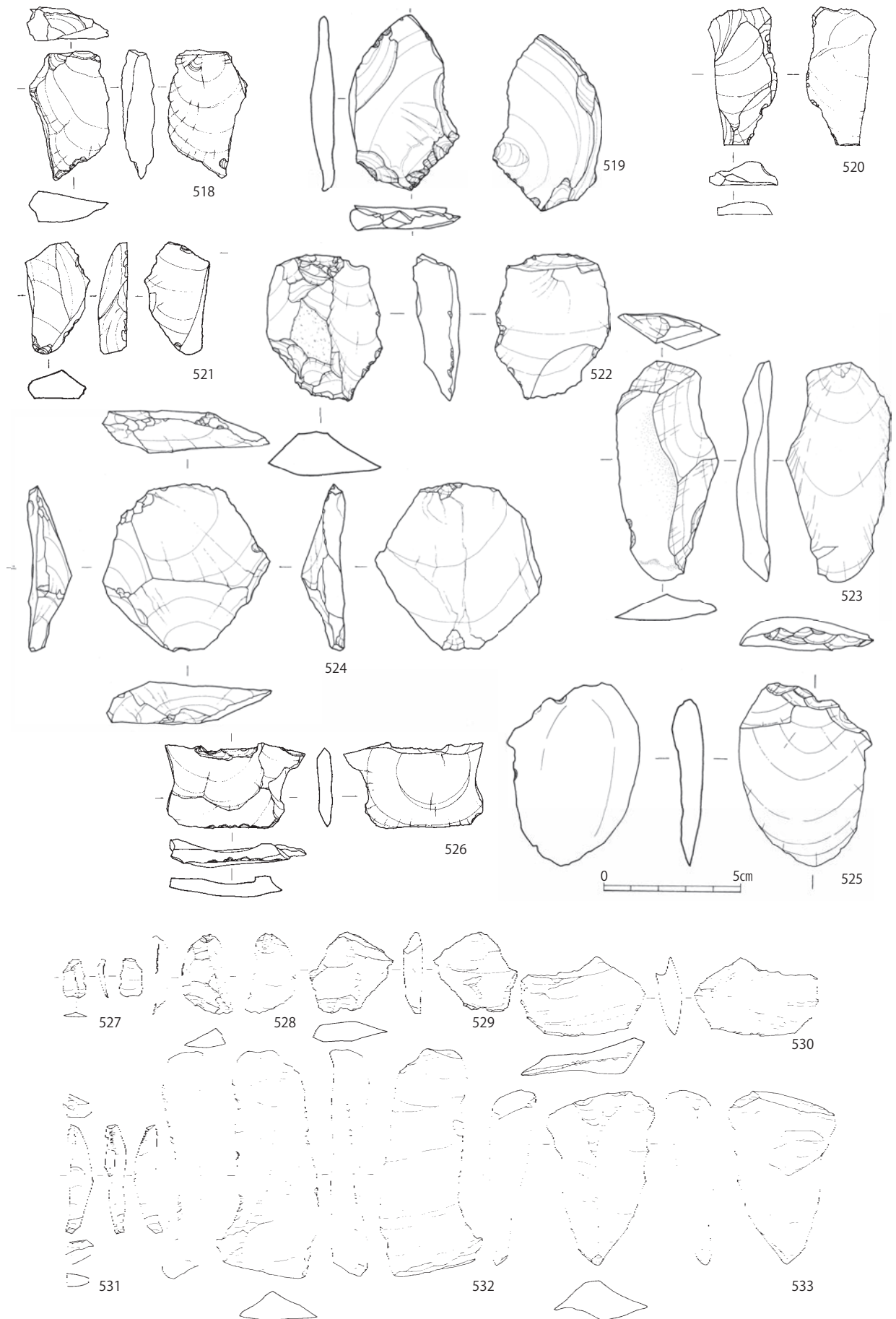
第350図 出土遺物実測図7-旧石器時代-(7)



第351図 出土遺物実測図8-旧石器時代-(8)



第352図 出土遺物実測図9-旧石器時代-(9)



第353図 出土遺物実測図10-旧石器時代-(10)

2 縄文時代

(1) 草創期の区分

縄文時代草創期に関する報告をしていくうえで最初に時期区分に関する説明をしておきたい。縄文時代草創期とは山内清男が提唱した時期区分の一時期で、押型文土器以前の燃糸文土器を含めた時期までを縄文時代草創期とした提案である。ところが千葉県東寺山石神遺跡の事例を嚆矢とする押型文土器と燃糸文土器の考古学的共伴事例が近年増加してきたなかで、押型文土器の古い部分と燃糸文土器が一部平行関係にあることが言われてきた(小笠原2003)。それは近年のAMS炭素14年代測定の事例増加でも裏付けられつつあるといっていよう。例えば、大川式土器のAMS炭素14年代は、11,100-10700 calBP(9150-8750calBC)の間に盛行し(遠部2009)、一方、稲荷台式土器(燃糸文土器)は11,090-10,690 calBP頃とされており(小林2007)、年代的には並行関係にあるようだ。したがって稲荷台式土器以降の燃糸文土器も大川式土器以降の神宮寺式土器などの押型文土器との一部並行関係は疑いない。こうした経緯からすれば、山内清男が定義した草創期の終末を押型文土器以前の燃糸文土器段階に持ってくるのは実情に合わなくなっている。ここでは、小林達雄が提案した多縄文系土器群を縄文時代草創期の終末とする。本報告では、市の久保遺跡等、長者久保・神子柴並行期の船野型細石刃核の段階を縄文時代草創期初頭(ステージ1)、福井型細石刃核を有する隆起線文土器・爪形文土器の段階を草創期前半(ステージ2)、隆帯文系土器の段階を草創期中頃(ステージ3)、平底優位のナデ調整無文土器の段階を草創期後半(ステージ4)と便宜的に区分する。

(2) 縄文時代草創期初頭

船野型細石刃核が1点出土している(第431図2085)。市の久保遺跡ではこの段階に石斧が伴う。

(3) 縄文時代草創期前半

縄文時代草創期前半は、本報告では長崎県佐世保市にある福井洞穴遺跡や泉福寺洞穴遺跡における隆起線文土器段階や爪形文土器段階に並行する時期としておきたい。福井洞穴や泉福寺洞穴では、福井技法(西海技法)によって福井型細石刃核から剥離された細石刃が隆起線文土器(豆粒文土器)や爪形文土器に伴っている。したがって、縄文時代草創期の隆起線文土器段階や爪形文土器に伴った福井型細石刃核・細石刃は縄文時代草創期に盛行したことが分かっている。

森の木遺跡においても福井型細石刃核が出土しているので、以下でその特徴を報告する。

細石刃核 礫面を有するなど不完全ながらも両面体の原形を用いている(第351図415)。それは調整の方向が、下縁付近では下から上方への剥離、上位の側面では上方から下方への剥離、また右側面では細石刃剥離作業面方向への剥離などが観察されることからわかる。そうした両面調整の剥離を切るように、細石刃剥離作業面方向からの剥離作業によって打面が作出されている(三角スポール～台形スポール)。福井型細石刃核も通例、横方向からの打面形成とその後の細石刃剥離作業面側からの細かい細帯打面調整が特徴であるが、作業面方向からのスポール剥離による打面作出・打面再生についてもしばしば観察されることである。したがって、本例も福井型細石刃核としておきたい。なお本例は、石材に腰岳・牟田系黒曜岩を用いており、持ち込まれたことがうかがえる。

スポール 腰岳・牟田系黒曜岩を石材に用いた湾曲したスポールで、側面部に原形時の両面調整痕が残る。表面には先行する縦方向のスポール剥離に伴うネガ面が残る(第344図419)。

細石刃核原形 幅広の剥片を素材にし、表裏両面への薄い調整によって表面を凸レンズ状にしあげている(第344図420)。裏面側でポジ面が残っている部分は、ポジティブ面の緩やかな曲線をそのまま利用した部分である。上端の断面観が角ばっているが、ここは素材剥離の際の打面部近くである。原形の奥深い部分まで剥離が届いていることが最大の特徴であると同時に、丁寧に縁辺部の調整を行っている。なお本例は、石材に腰岳・牟田系黒曜石を用いており、持ち込まれたことがうかがえる。

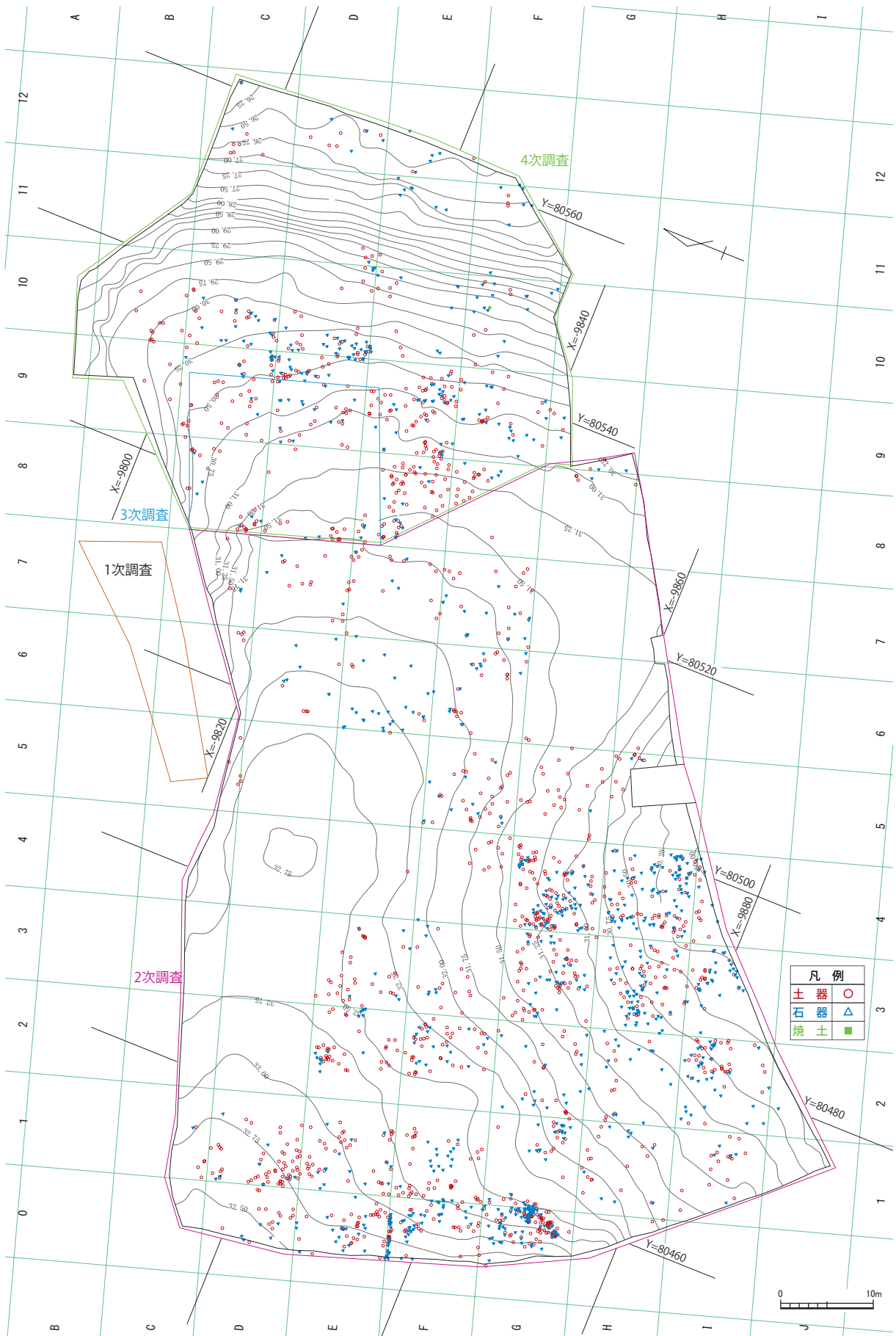
細石刃 長さが約1.5cm、幅0.7cmで、表面に先行する細石刃剥離痕が平行している(第344図416)。なお他にも細石刃関係資料があり、作業面での初期スポールと推定しているものである(第353図531)。

《参考文献》

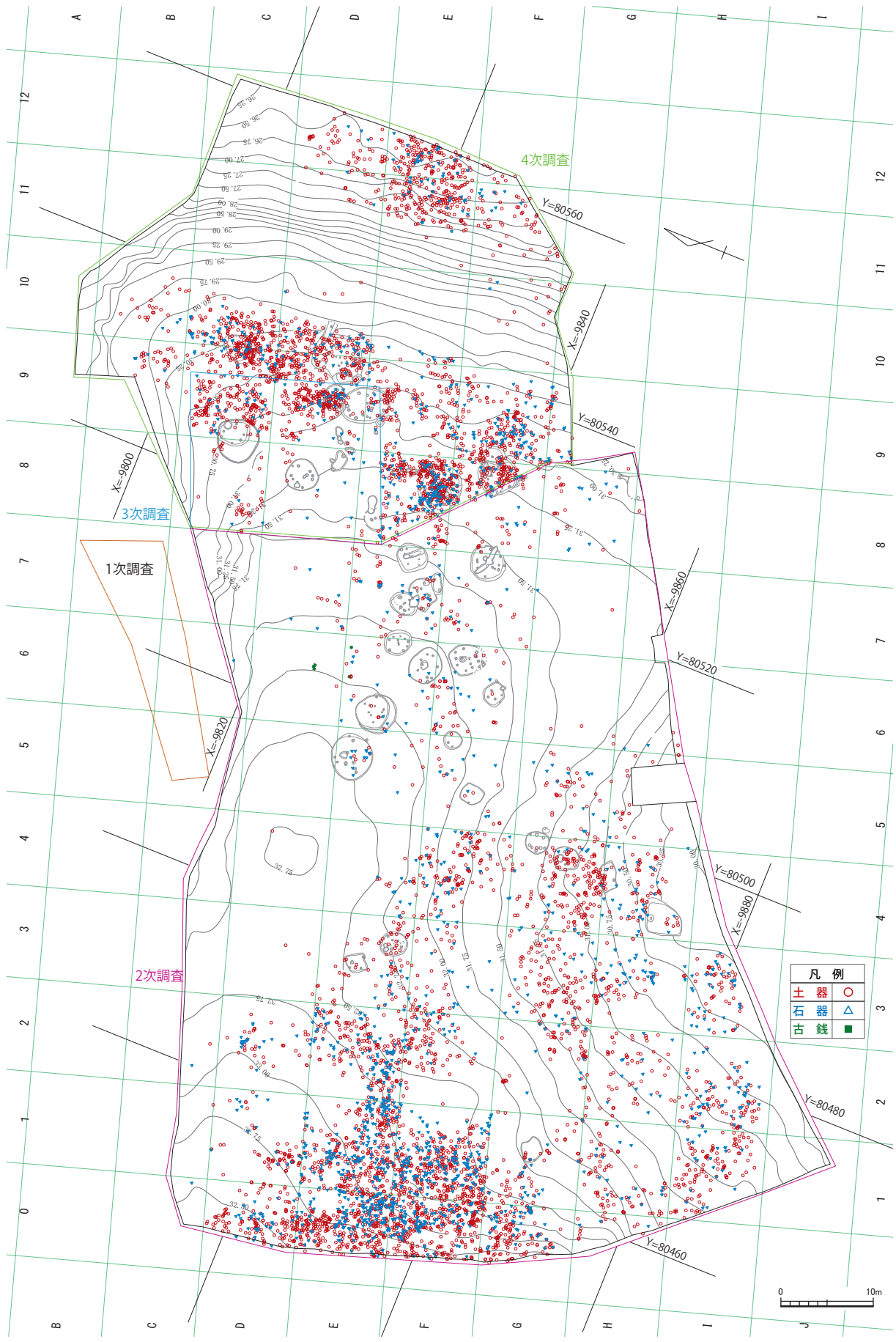
小笠原永隆 2003「千葉県内における押型文土器出現期の研究展望」『利根川』24・25号 利根川同人 125-129

遠部 慎 2009「徳島県那賀町古屋岩陰遺跡出土土器類の炭素14年代測定」『徳島県立博物館研究報告』第19号、徳島県立博物館 21-32

小林謙一 2007『AMS炭素14年代測定を利用した東日本縄文時代前半期の実年代の研究』平成17～18年度科学研究費補助金基盤研究(C)(1)研究成果報告書 国立歴史民俗博物館



第354図 森の木遺跡Ⅱ層遺物分布図(1/600)



第355図 森の木遺跡Ⅲ層遺物分布図(1/600)

(4) 縄文時代草創期中頃

ここでは包含層から出土し、取り上げた縄文時代の遺物について報告する。それらの中には、直下に関係の深い遺構が確認されている場合もある。そうした遺物については可能なかぎり記載していきたい。

分布 隆帯文土器群は、次のような範囲に分布している。4D区で1点(第357図570)、9G区で1点(第357図577)、8E区で1点(第356図561)、8D区で4点(第356図539・540・557、第357図586)、8C区で1点(第356図570)、9B区で3点(第356図544、第357図576、第358図589)、9C区で5点(第356図548・555・556、第358図592・594)、9D区で17点(第356図538・545・546・551・554・559、第357図563・568・571・579・580・585、第358図587・588・590・593・596)、9E区で5点(第356図542・549・558、第357図574・582)、10B区で1点(第356図562)、10C区で8点(第356図534・536・547・552、第357図564・566・578・581)、10D区で5点(第356図535・537・560、第357図575・584)、10E区で1点(第357図569)、11D区で1点(第357図565)、11E区で2点(第356図543・595)、11F区で1点(第358図597)、12E区で1点(第357図567)、12F区で1点(第357図583)である。このように各区画の隆帯文土器の出土傾向をみると遺跡の東北部にそのほとんどが集中する傾向にある。

口縁部外面に隆帯がなく、円形か半裁竹管状の刺突痕を口縁部沿いに2～3段施す一群(第356図534～542・556～558)

口縁部外面に幅狭い隆帯を貼り付け、その上に円形の刺突痕を1～3段施す一群(第356図545～551・561)

口縁部外面に幅狭い隆帯を貼り付け、その上に斜行ノ字形刺突痕を2～3段施す一群(第356図549、第357図564・566)

口縁部外面に幅広い隆帯を貼り付け、その上に斜行ノ字形刺突痕を口縁部沿いに3・4段施す一群(第356図555)

口縁部外面に幅狭い隆帯を貼り付け、その上や下にハの字爪形状の刺突もしくは刻みを口縁部沿いに1～2段施す一群(第356図559・561、第357図563・567～569・574)

口縁部外面に幅広く低い隆帯を貼り付け、その上にハの字形の鋸歯文を施す一群(第357図577)

口縁部外面に幅狭い隆帯を貼り付け、その上に柵状に短沈線を施す一群(第357図572・573)

口縁部外面に幅狭い隆帯を貼り付け、その上にX字状文を施す一群(第357図579～580)

口縁部外面に幅広い隆帯を貼り付け、その上にX字状文を施す一群(第357図581・582)

口縁部外面に幅狭い隆帯を貼り付け、その上に鋸歯文を施す一群(第357図576・578)

口縁部外面に幅狭い隆帯を貼り付け、その上に貝殻腹縁文を縦位に施す一群(第357図576・584)

口縁部外面に幅広く高い隆帯を貼り付け、その上に貝殻文を施す一群(第357図585)

口縁部外面に幅広く低い隆帯を貼り付け、その上に貝殻文を施す一群(第357図586)

口縁部外面に幅狭い隆帯を貼り付け、その上に半裁竹管の刺突痕を一段施す一群(第356図559)

口縁部外面に幅広く低い隆帯を貼り付け、半裁竹管状の刺突痕を口縁部沿いに2～3段施す一群(第356図560)

口縁部外面に幅狭い隆帯を貼り付けただけの一群(第358図587～593)

口縁部外面に幅広い隆帯を貼り付けただけの例(第358図597)

口縁部外面最上部とその下に横方向へ細い隆線を貼り付け、隆線上に刻目を入れた例(第416図1810)

口縁部外面最上部とその下に横方向へ細い隆線を貼り付け、更に横方向の隆線をまたぐように垂下する隆線を貼り付け、その上に刻目を入れた例(第416図1809)

口縁部外面に爪形状の圧痕の観察されるもの(第416図1811)。あるいは堂地西式土器に類するものか。

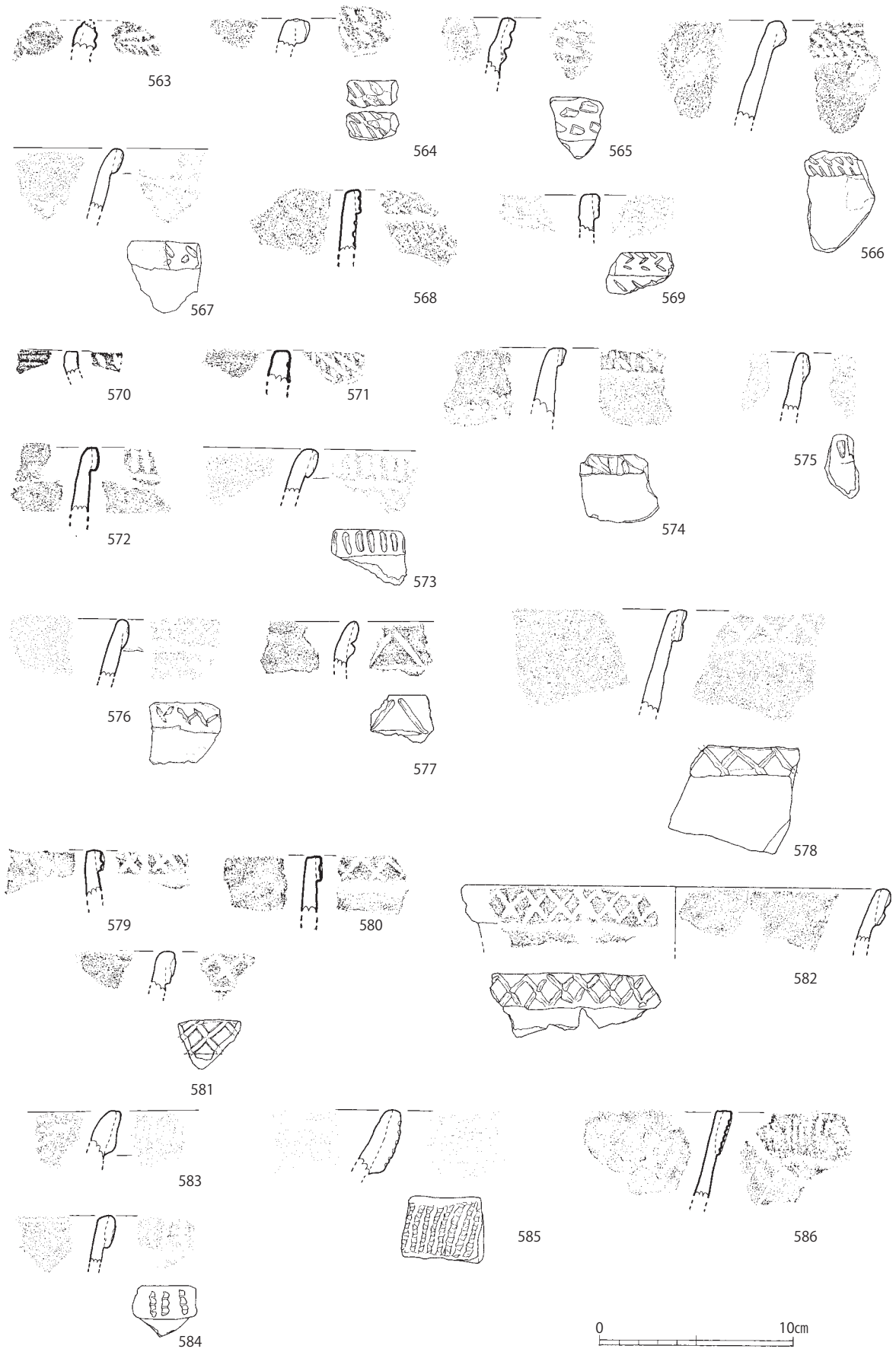
底部破片 平底形態の破片で、8CD区・9CD区など調査区の東北部を中心に出土している。このあたりは隆帯文土器やそれに伴う無文土器が密集する部分であり、それらの土器の底部と考える(第413図1754～1766・1768～1772・1774～1778・1780・1781)。

(5) 縄文時代草創期後半

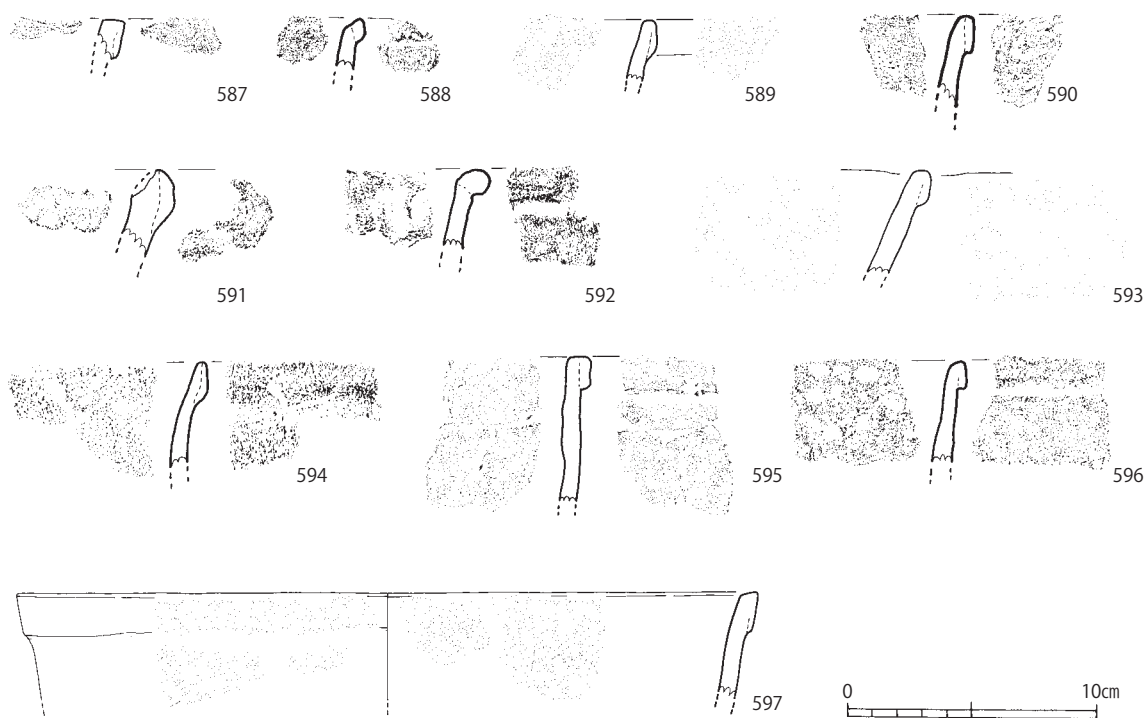
大分県二日市洞穴遺跡では、押型文以前の土器群の底部変遷が古い頃から平底、平丸底、丸底、尖底と変遷している。最古の平底の土器段階は、直後の平丸底の段階の較正年代が9,380 - 9,275CalBP (PLD-6277)なので、少なくとも11,000年近く遡ることが予測される。このように考えると、森の木遺跡出土のナゲ調整無文土器のなかに本来草創期後半に含まれる土器のあることが十分考えられる(第383図～第403図)。



第356図 出土遺物実測図11-縄文時代草創期-(1) ※553は平椀式



第357図 出土遺物実測図12-縄文時代草創期-(2)



第358図 出土遺物実測図13-縄文時代草創期-(3)

(6) 縄文時代早期前半

条痕調整無文土器・ナデ調整無文土器について報告する。これらの土器は、他の無文土器と同様に第Ⅲ層から出土している。

口縁部が直行もしくは内傾気味にたちあがり、端部を外方向に曲げた例で陽弓式土器に相当するもの（第393図 1406・1414・1417・1425・1427～1429・1432・1404～第395図 1458）このうち直交する厚手例と薄手例については（第395図 1436～1444）、二日市洞穴遺跡第4文化層下に類例があるし、胴が張り、口縁部へ内傾し端部を僅かに外方へ折り曲げた土器は押型土器直前の無文土器に特有の土器である。なお、この時期の底部としては尖底を主体に（第403図 1584～1596）、太い小型円盤を貼り付けた例もある（第402図 1582・1583）。

底部が丸底の例（第403図 1584）二日市洞穴遺跡の第7文化層（二日市Ⅱb式土器段階）に相当する例である。

直行する口縁部に近い胴部外面上部に縦形の鱗状突起を示す例（第386図 1230）この例は、宇佐市中原遺跡から出土した土器に観察される（高並垣式土器段階）。

直行する口縁部外面上部に横形の鱗状突起を示す例（第386図 1228・1220）この例は、宇佐市中原遺跡（高並垣式土器段階）と大分市野田山遺跡（野田山式土器段階）から出土した土器に観察される。

胴部から底部の開きの角度が大きく（90度以上）、底部が乳首状もしくは鈍角となる例（第403図 1595・1597～1600）これらの例は、宇佐市中原遺跡（高並垣式土器段階）と大分市野田山遺跡（野田山式土器段階）から出土した土器に観察される。

二日市洞穴遺跡の事例から図示した森の木遺跡の条痕調整無文土器は、その多くが縄文時代早期前半に位置づけられるものと考えられる（第404図 1601～第407図 1682）。この中の条痕調整無文土器のなかには大破片があり、ある程度器形のわかるものがある。

A 胴部の上位から口縁部にかけて外傾する例（第405図 1639・1641・1642、第406図 1653・1654）

B 胴部の半ばから口縁部にかけて外反する例（第405図 1640・1644・1652）

C 胴部の半ばから口縁部にかけて内湾し、口縁端部が僅かに内向きとなる例（第405図 1646・1650）

D 胴部の半ばから口縁部にかけて直行気味に立ち上る例（第405図 1637・1638・1649）

Dの場合は二日市洞穴遺跡の第9文化層～第7文化層・宇佐市中原遺跡でも出土していることや、これら条痕調整無文土器の底部は、条痕調整で広角尖底に近い例もあり（第403図 1600）、概ね野田山遺跡や中原遺跡で観察される土器の底部の事例に相当するものと推定される。

(7) 縄文時代早期中頃

縄文時代早期中頃は川原田式土器・早水台式土器・下菅生B式土器・田村式土器（高山寺式土器並行）までの押型文土器について報告する。

川原田式土器 長さ0.2cm前後の極小の楕円文を横方向に回転施文した例（第359図598～602）。その特徴は、器壁0.6cm～0.8cm前後、原帯幅1.7cm～1.9cmで薄手の土器である。

稲荷山式土器 楕円押型文土器の口縁部破片の例（第359図603～606）。この中には、器壁が0.9cm前後の薄い例（第359図603～605）と1.4cm前後の厚い例（606）があり、後者には同一個体の胴部破片がある（第374図923～925）がある。なお、内面に柵状文はない。

稲荷山式土器 山形押型文土器の口縁部破片で、山形の線の幅が小さい例（第359図607～620・622）。これらの土器は、いずれも器壁が薄いことに特徴がある。それらの内訳は、0.5cm前後の薄い例が2点（第359図617・618）、0.6cm前後の薄い例が2点（第359図607・615）、0.7cm前後の薄い例が8点（第359図608～610・613・614・616・619・620・）、0.8cm前後の薄い例が2点（第359図611・622）、0.9cm前後の薄い例が1点（第359図612）ある。次に、山形文のW頂部と頂部の幅、H頂部と谷部下底の高さについてデータを記しておこう。W 0.8 cm / H 0.3 cm（第359図607）、W 0.7 cm / H 0.2 cm（608）、W 0.6 cm / H 0.2 cm（609・610）、W 0.6 cm / H 0.3 cm（611）、W 0.8 cm / H 0.4 cm（612）、W 0.9 cm / H 0.2 cm（613）、W 0.8 cm / H 0.5 cm（614）、W 0.7 cm / H 0.3 cm（615・619・620）、W 1.0 cm / H 0.4 cm（616）、W 0.6 cm / H 0.4 cm（617）、W 0.8 cm / H 0.8 cm（618）、W 0.6 cm / H 0.05 cm（622）である。これらの特徴をみると、幅（W）と高さが正三角形に鋭く連続する例（618）、小刻みに震えるように連続していく例（609・610・622）、幅が1.0cm～0.8cmであるのに対し高さが異常に低く間延びした感じを受ける例（607・612・613）、幅が0.8cm前後であるのに対し高さが0.3cm前後低い例（608・614・615・617）などにまとめられる。なお、楕円文、山形文は数量的に後者が多い傾向にあることがわかる。この他、楕円文が連珠のように連なっている楕円文がある（第368図820～826）。この横に連なる連珠状楕円文は、その上下の連珠状楕円文と平行関係にある。おそらく原体の主軸方向と直交方向に平行線を引くように印をつけて彫り出したことに原因があると考えられる。なお、口縁最上部内面側に極短い柵状文のみられる例も数例あり、二日市洞穴遺跡第4文化層上部の例に似た土器がまとまって出土しており、これも稲荷山式土器と早水台式土器を繋ぐものと考えられ、稲荷山式の新相として理解しておく（第362図688・708・712・713、第363図721・724・725・732）。

このほかにも稲荷山式土器とすることができるものに山形文土器や楕円文土器がある（第369図835～838、第370図840～843）。この中には、山形文が細かく太いピッチで展開していくものがあるが（840・841・843）、上記した連珠状の楕円文とともに早水台式土器における文様の一特徴である。この点は、稲荷山式土器の細分と一括遺物が見つかっていないため詳らかにしえないが、あるいは稲荷山式土器と早水台式土器をつなぐ一要素かもしれない。

早水台式土器 尖底部から逆三角形に立ち上がる器形である。文様の基本的な施文方法は、楕円にしる、山形にしる、原体を横方向に回転押圧して形成させるもので、内面には垂下する密接する柵状文が観察される。文様には幾つの特徴があるので列記しよう。①回転押圧の楕円文が小さく横方向に長い例（第360図623～626・635・640・641～643は同一個体、第361図644・646）、②回転押圧の密接する菱形の例（第360図楕円文が菱形で密接する例（第360図627・637）、③回転押圧楕円文が横方向に密接しながら並ぶ連珠の例（第360図628～634・638・639、第361図647）などがある。これによく似たものに、太く短い山形文を細かく連続させた例があり、③の楕円文との区分が難しい場合もある。なお内面に施される柵状文は、その切り合い関係から楕円文が施された後に施文されたこと分かる例がある（第360図634・637・639）。また柵状文を観察すると一つ一つの沈線は切り合うことなく極めて整然と縦方向に施されている。しかも柵状文の凹部上下端部が押し込まれたような半円形態を示していることと、沈線内部に工具で擦過した痕跡のないことからすると（624・625・638）、短い棒の長軸方向に数条の平行溝を彫った原体で回転押圧した柵状押型文というべき特徴を有している。器壁の厚さは、0.7cmが9点（第360図673・624・625・628・631・633・636・637・642）、0.8cmが3点ある（第360図626・635・621）。

次に山形文について観察する（第359図621、第361図648～第365図765）。①山形文が太く小刻みに上下を繰り返す例（第361図648・651・652・654～658・661～663・665・669～684、第362図694・698・699・701・703・705・707・711、第363図714・715・720・722～724・729・730・731・733、第364図739・741～744・751・755、第365図756

～758)、②山形文が細く小刻みに上下を繰り返す例(第362図687・690・709、第363図737、第364図740・745・748)、③細い山形文で、山形の頂部間が間延びしていない例(第361図667・668、第362図691・692・693・700、第363図716・718・719・727・728・734・736、第364図747・752～754、第365図759～765)、④細い山形の頂部幅が幅広であるのに対し、高さが異常に低く間延びした感じを受ける例(第361図650・653・664・668、第362図686・689・696、第363図735)がある。

口縁部の形態は、水平口縁が大半であるが(第360図642、第361図646、第365図764)、波状口縁の例もある(第365図760～765)。

器壁の厚さは、0.5cmと薄いものもあるが(第362図690)、1.0cmまでの例が多い。

下管生B式土器 器形は、尖底部から上方に立ち上がり、口縁部が外反する例と(第366図766・768・770～774・776、第367図786～791・793～807/※786～789は同一個体、第368図808～810)、胴部上部が張り気味に内湾し、再び直行もしくは内傾する例(第366図767・769・779～785、※779～781は同一個体・782～785は同一個体)がある。主文様は楕円文と山形文があるが、前者が多い。楕円や山形を刻んだ原体を回転押圧することで施文するが、外面を縦方向・内面の上部を横方向に回転押圧することに大きな特徴がある。内面では最上部域に、横方向の回転施文を施す。内面で横方向の施文を行ったあと垂下する柵状押型文を横方向に回転施文をしている。この柵状押型文が押型文であることを示す例の中には、重機のキャタピラー痕状の回転圧痕がよく観察されることからわかる(第368図808)。これまで述べてきた土器は、尖底の深鉢・鉢形態であるが、壺形態も存在する(第367図791・792)。おそらく尖底で、胴張りから頸部がしまり外反する口縁となるのであろう(第367図786)。

楕円文は原体に斜格子状に刻みを入れて彫り出したようで、よくみると楕円間の凹部のラインが回転方向に対し斜め方向に通っている(第367図786)。したがって楕円と楕円は真横ではなく斜め方向に並んでいることと、楕円が菱形もしくはラグビーボールの側面のような形をしていることに特徴がある。なお、楕円文には早水台式土器で顕著に観察されたような連珠のようにつながるような例はない。

山形文は、基本的に早水台式土器との違いは小さいといえる。①山形文が太く小刻みに上下を繰り返す例(第367図790～792、805)、②山形文が細く小刻みに上下を繰り返す例、③細い山形文で、山形の頂部間が間延びしていない例(第361図793・799・802・803・806・802・803、802と803は同一個体)、④細い山形文で、山形の頂部間が間延びしている例(第367図795・796・798・801)がある。

山形文土器の器壁の厚さは、①0.4cmが2例(第366図767・770)、②0.5cmが1例(第367図801)、③0.6cmが4点(第366図766・774、第367図797・806)、④0.7cmは8点(第366図768・772・776・777、第367図790・802・805・807)、⑤0.8は3点(第366図769・773、第367図799)、⑥0.9cmは9点(第366図771・778・779・782、第367図786・792・794・798・804)⑦1.0cm(なし)、1.1cm(775)である。

田村式土器・高山寺式土器 ①器形は、尖底部から上方に立ち上がり、口縁部が外反する深鉢の例(第368図811～867、第370図856)がある。とりわけ特徴的なことは、柵状押型文が消えるものの、その系譜を引く斜行凹線を棒状工具で引いている例であることと、縦方向・斜方向に太い大型の楕円文を施す。高山寺式土器と田村式土器の違いは少ないが、前者は内面の斜行凹線間が広いのに対し、後者は密接するところに特徴があるといえるだろう。このほか、田村式土器と思われる土器に、②内面上部に文様を施さない鉢形土器の例(第369図829～833、※829～831は同一個体)、③口縁部内面に横方向の楕円、外面には縦方向の楕円を施した例(第369図839)や②との関係から田村式土器群の範疇に含まれる土器として、④外面上部に縦方向の山形文を施すが、内面にはない例(第370図853)がある。この他、⑥外面上部に横方向の山形文を施すが、内面にはない例(第370図847・898～901・903、※847・851～853・903は同一個体)は、④によく似るが田村式土器の範疇に入れるかどうかは保留しておきたい。

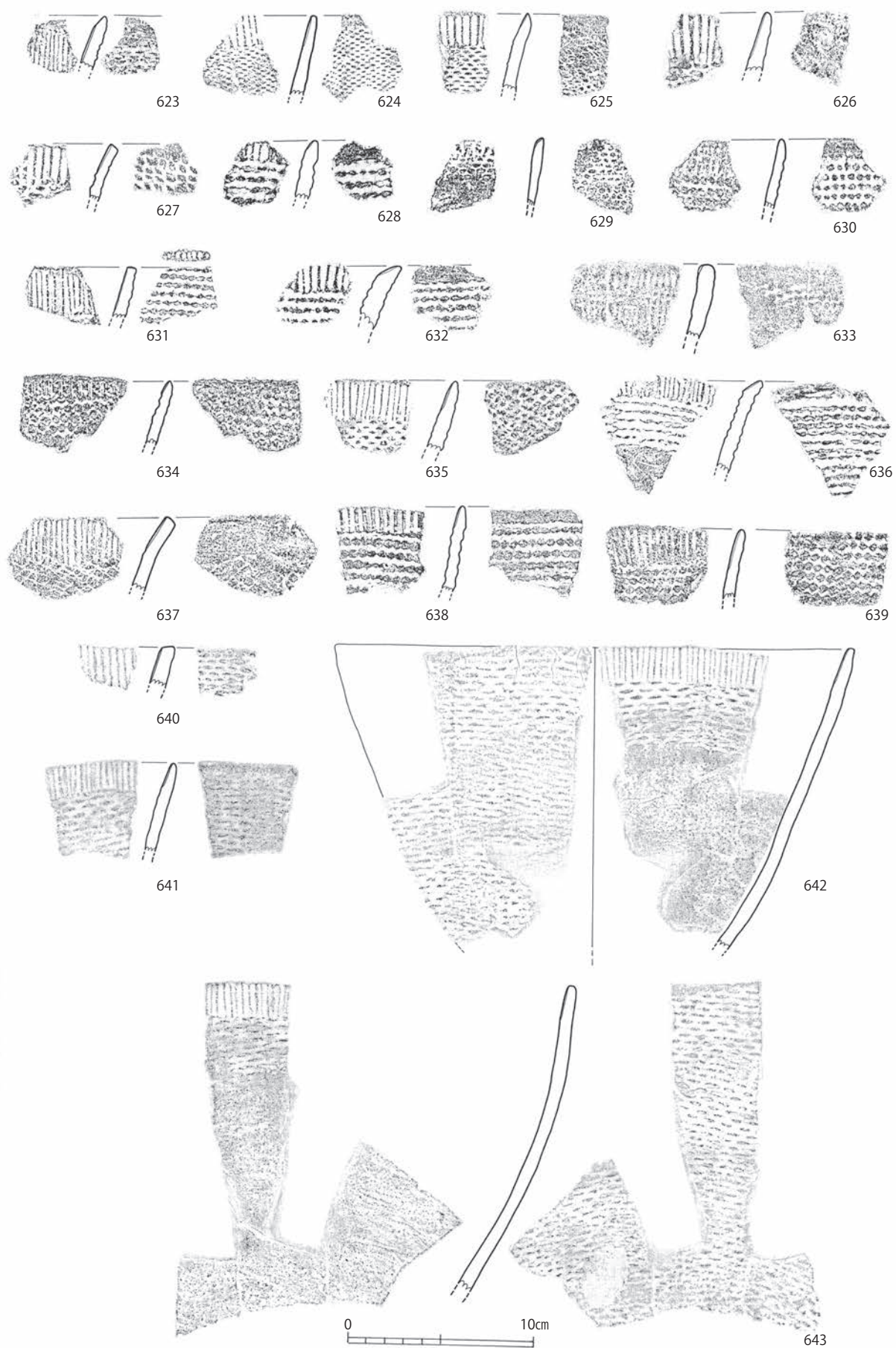
政所式土器 外面側に施された二枚貝放射肋の縁部縦圧痕が上端から下へ4cm程度の部分まで施文されており、その下はナデ調整のみである(第370図854)。

(8) 縄文時代早期後半

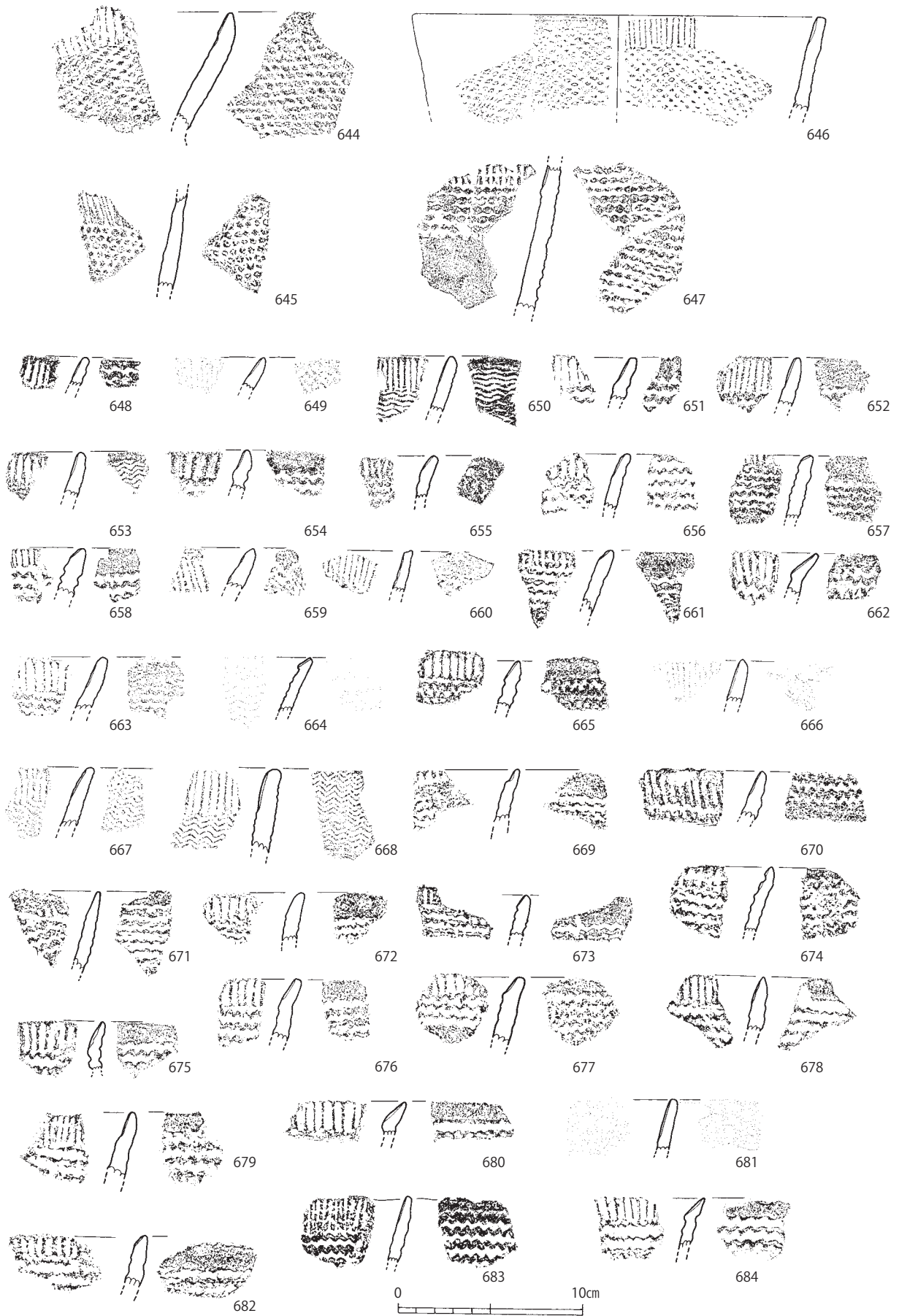
縄文時代早期後半は、手向山式土器、平椀式土器、塞ノ神式土器、からアカホヤ直上の轟3式土器までとしておきたい。関東



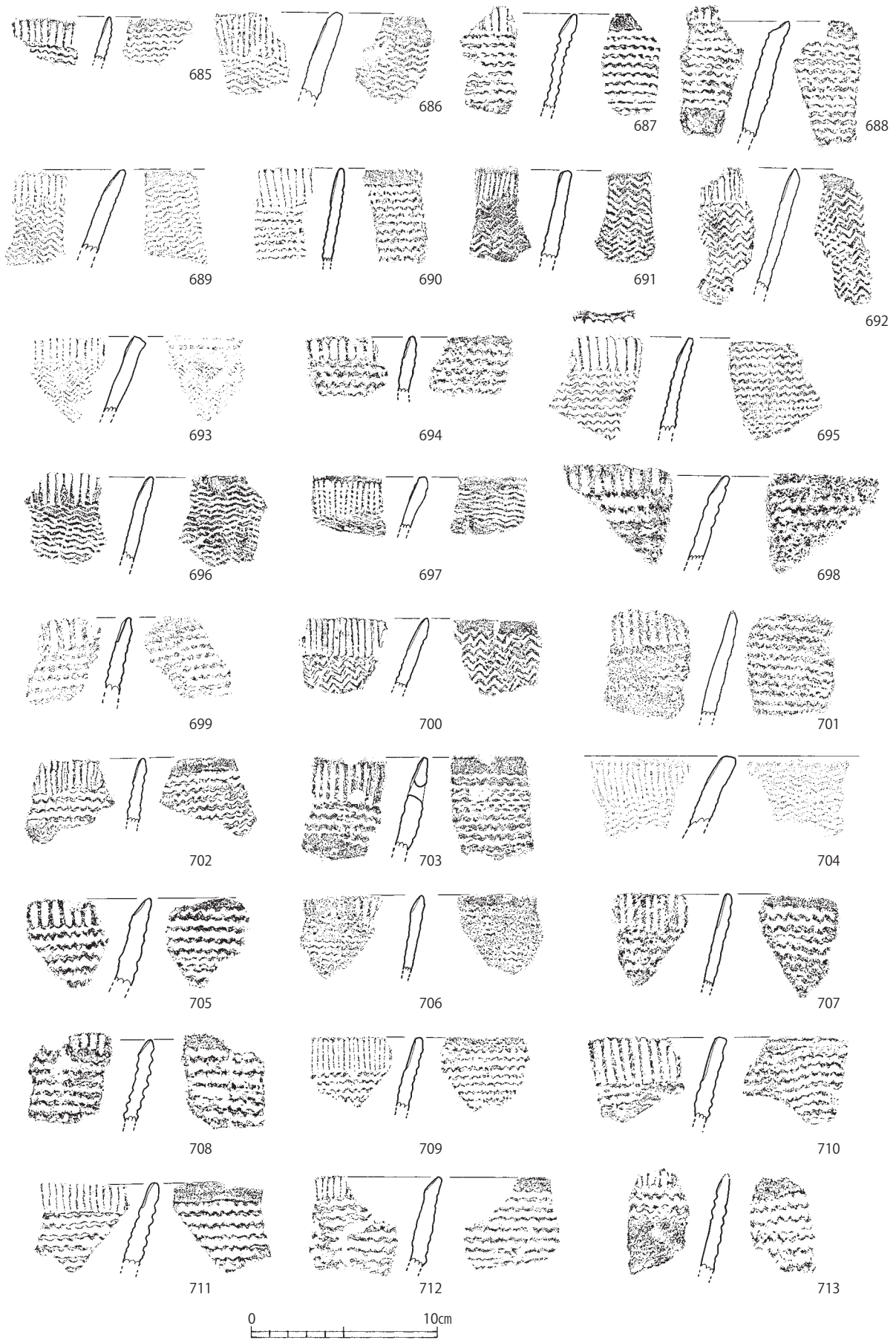
第359図 出土遺物実測図14-縄文時代早期-(1)



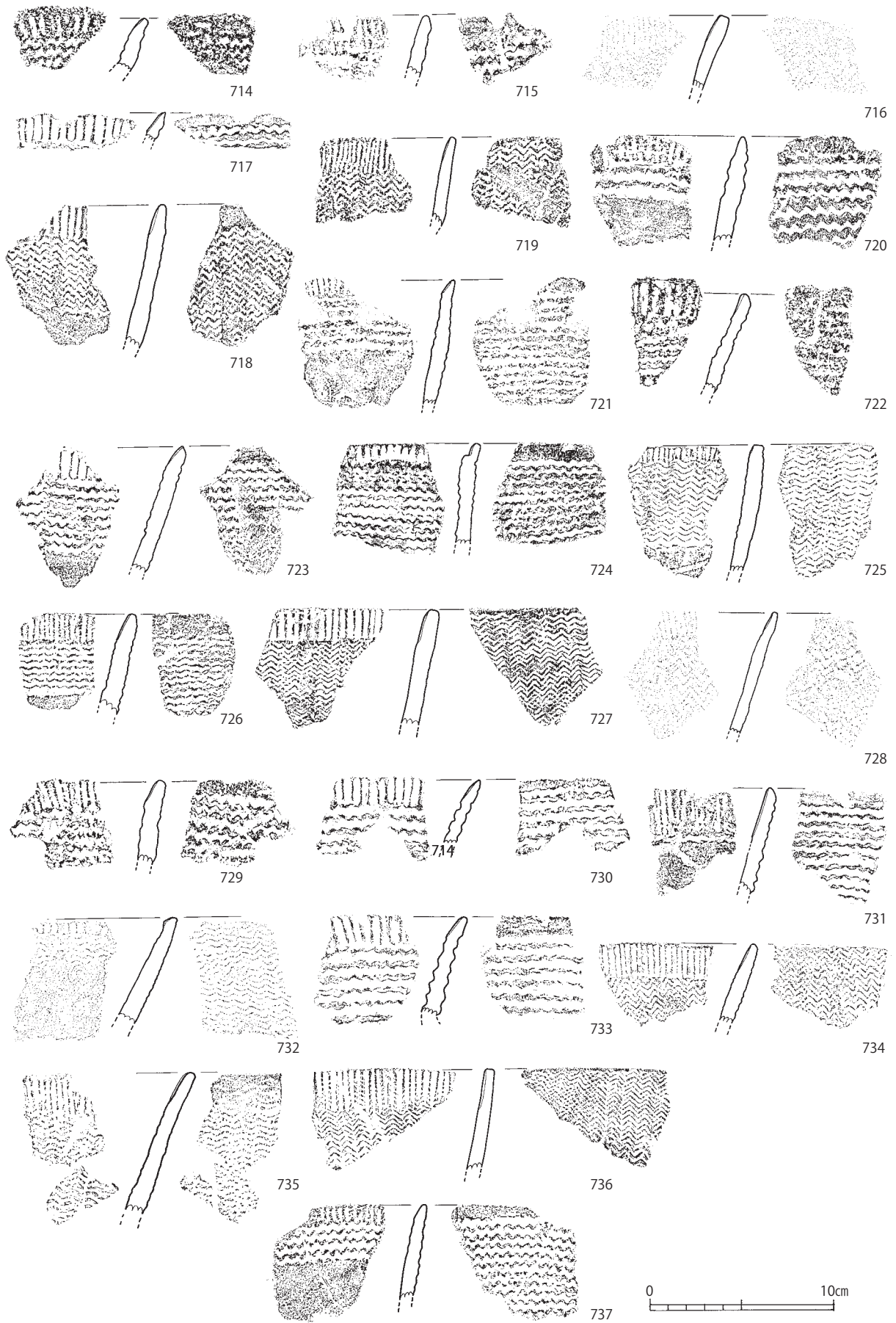
第360図 出土遺物実測図15-縄文時代早期-(2)



第361図 出土遺物実測図16-縄文時代早期-(3)



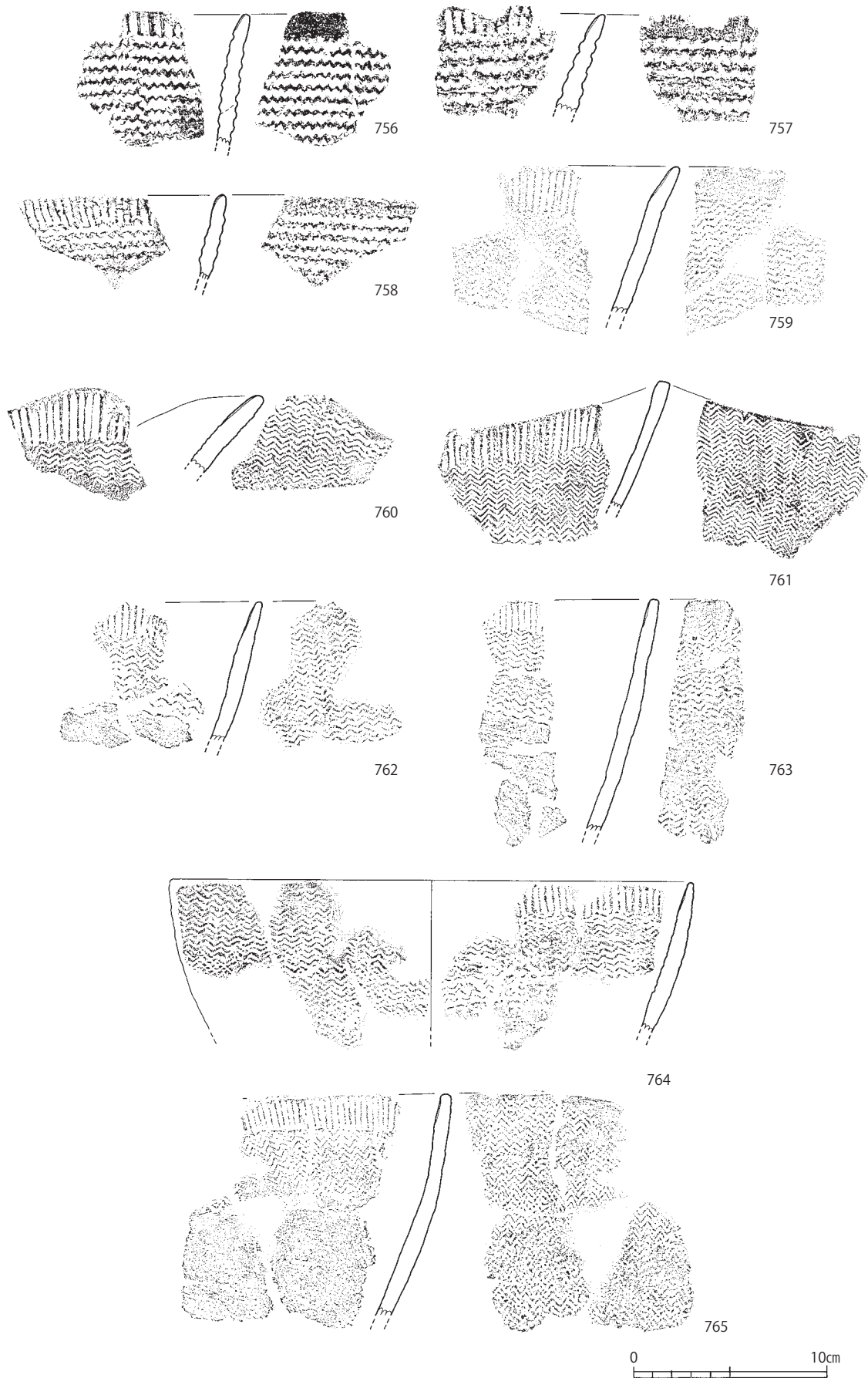
第362図 出土遺物実測図17-縄文時代早期-(4)



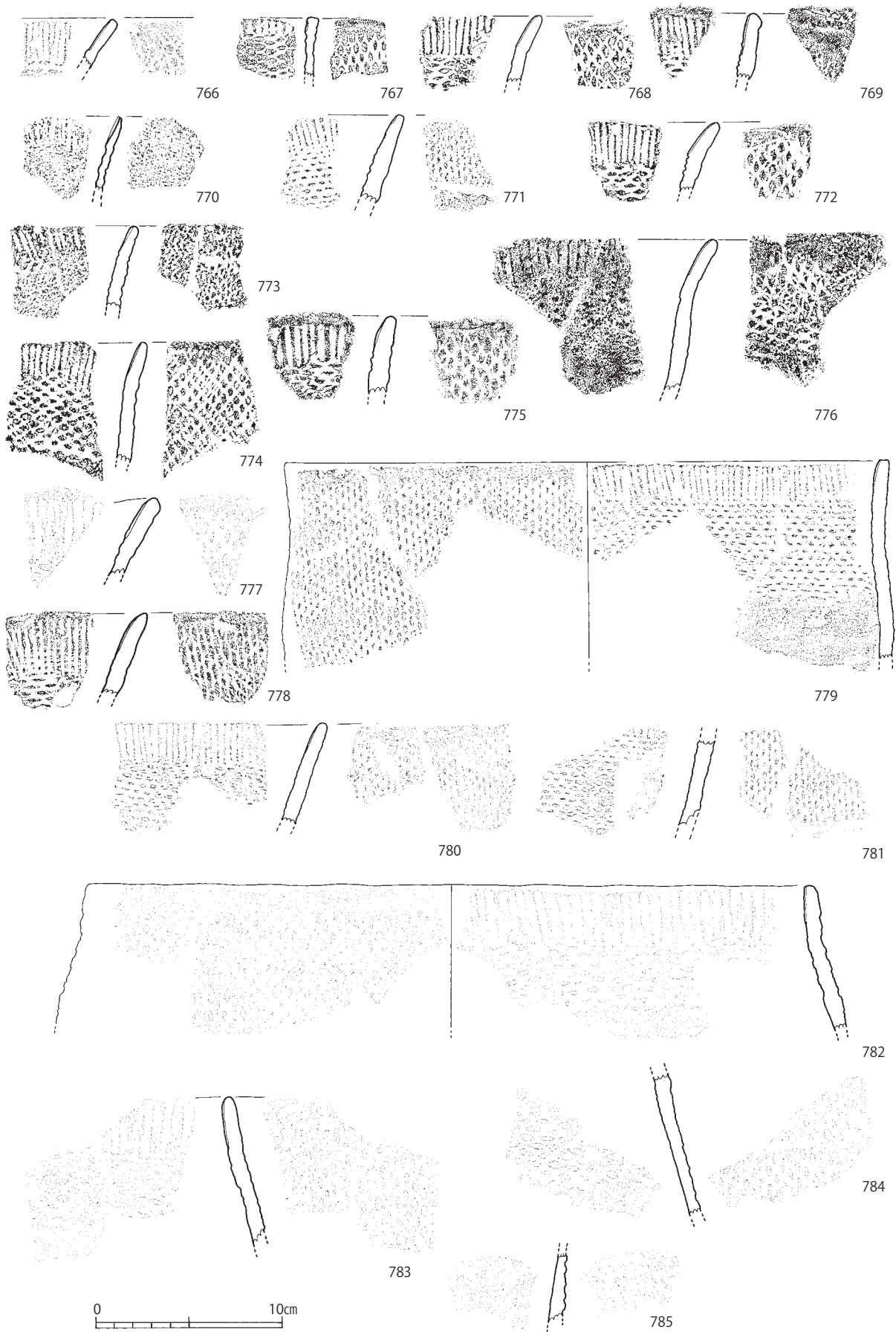
第363図 出土遺物実測図18-縄文時代早期-(5)



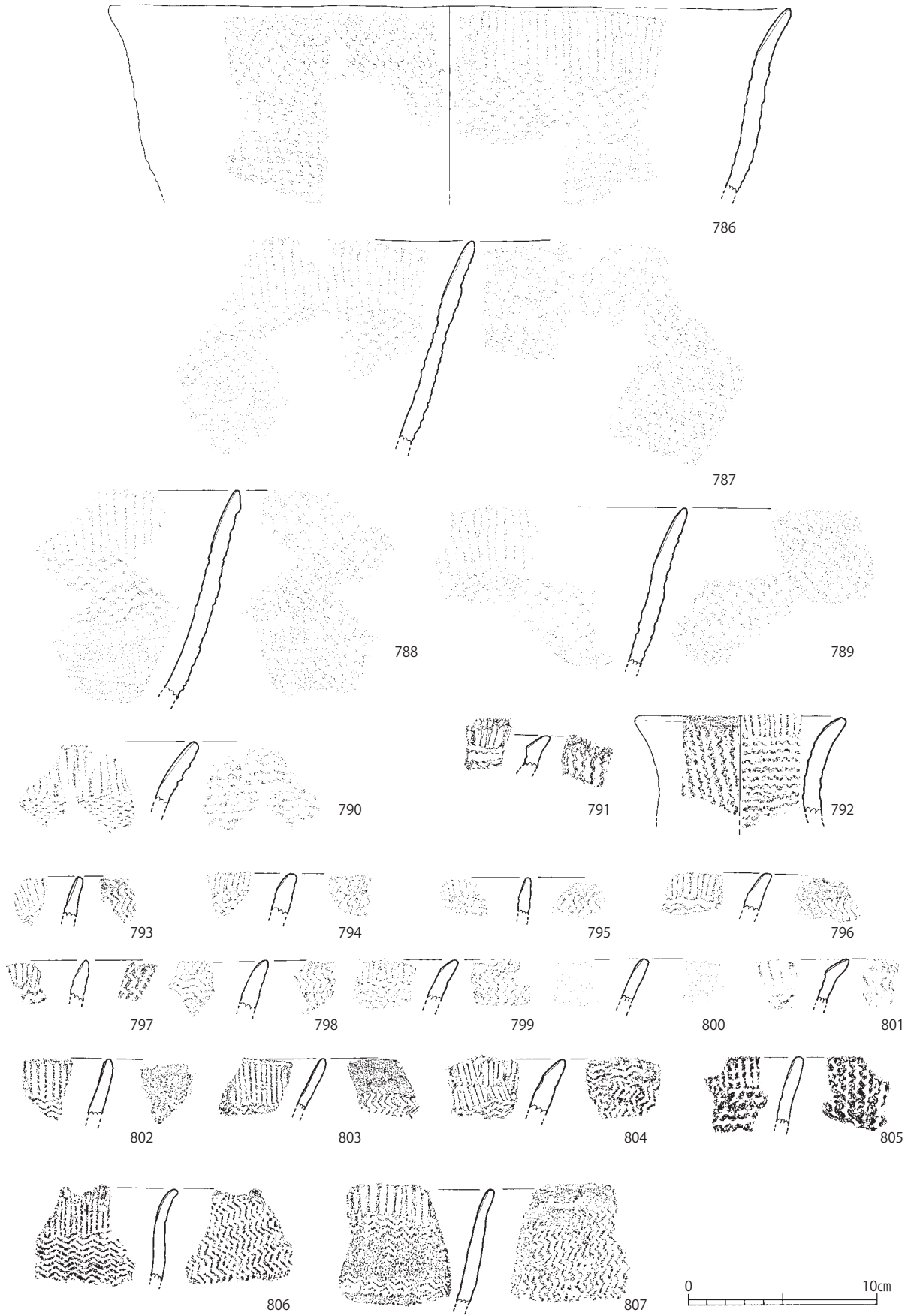
第364図 出土遺物実測図19-縄文時代早期-(6)



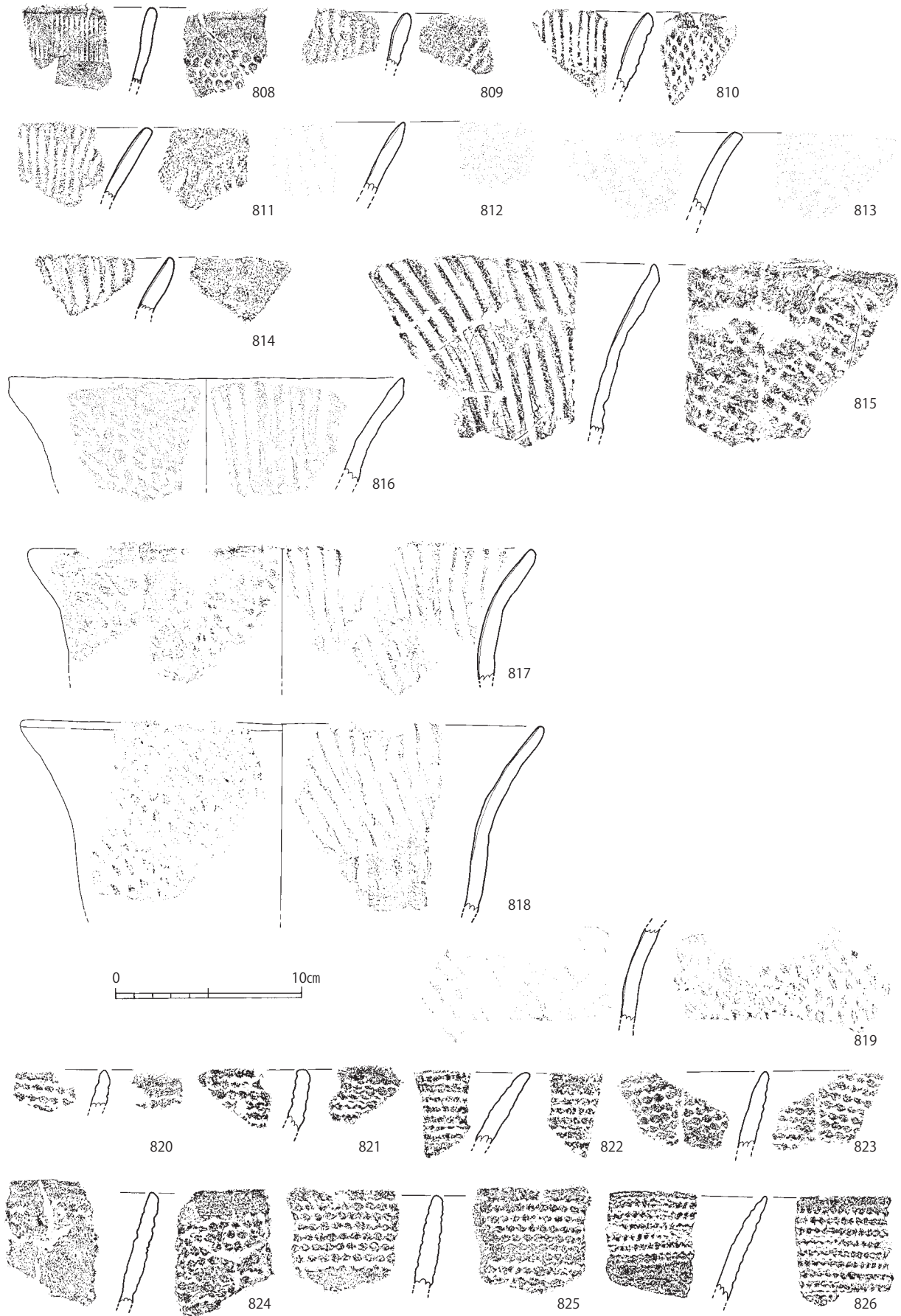
第365図 出土遺物実測図20-縄文時代早期-(7)



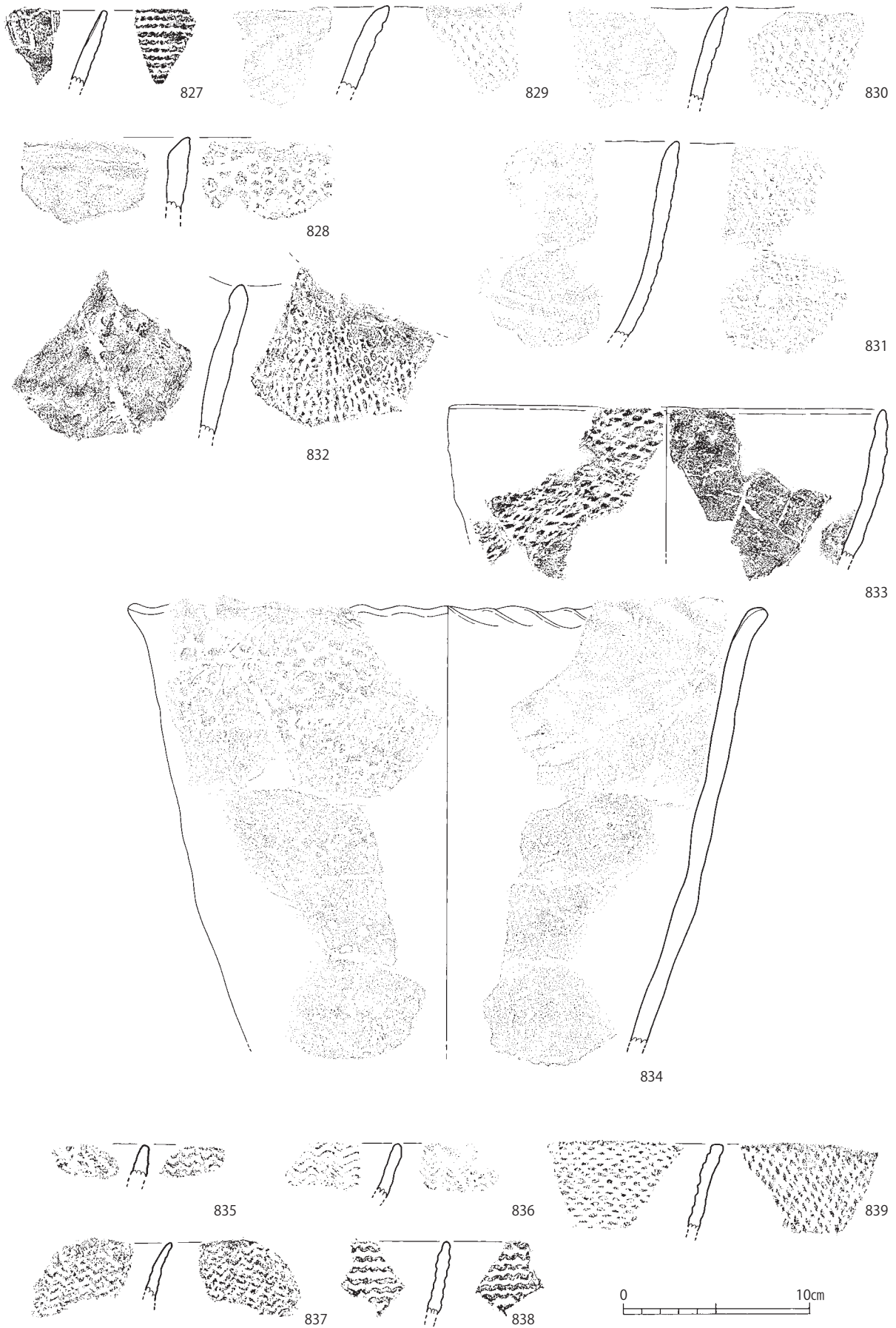
第366図 出土遺物実測図21-縄文時代早期-(8)



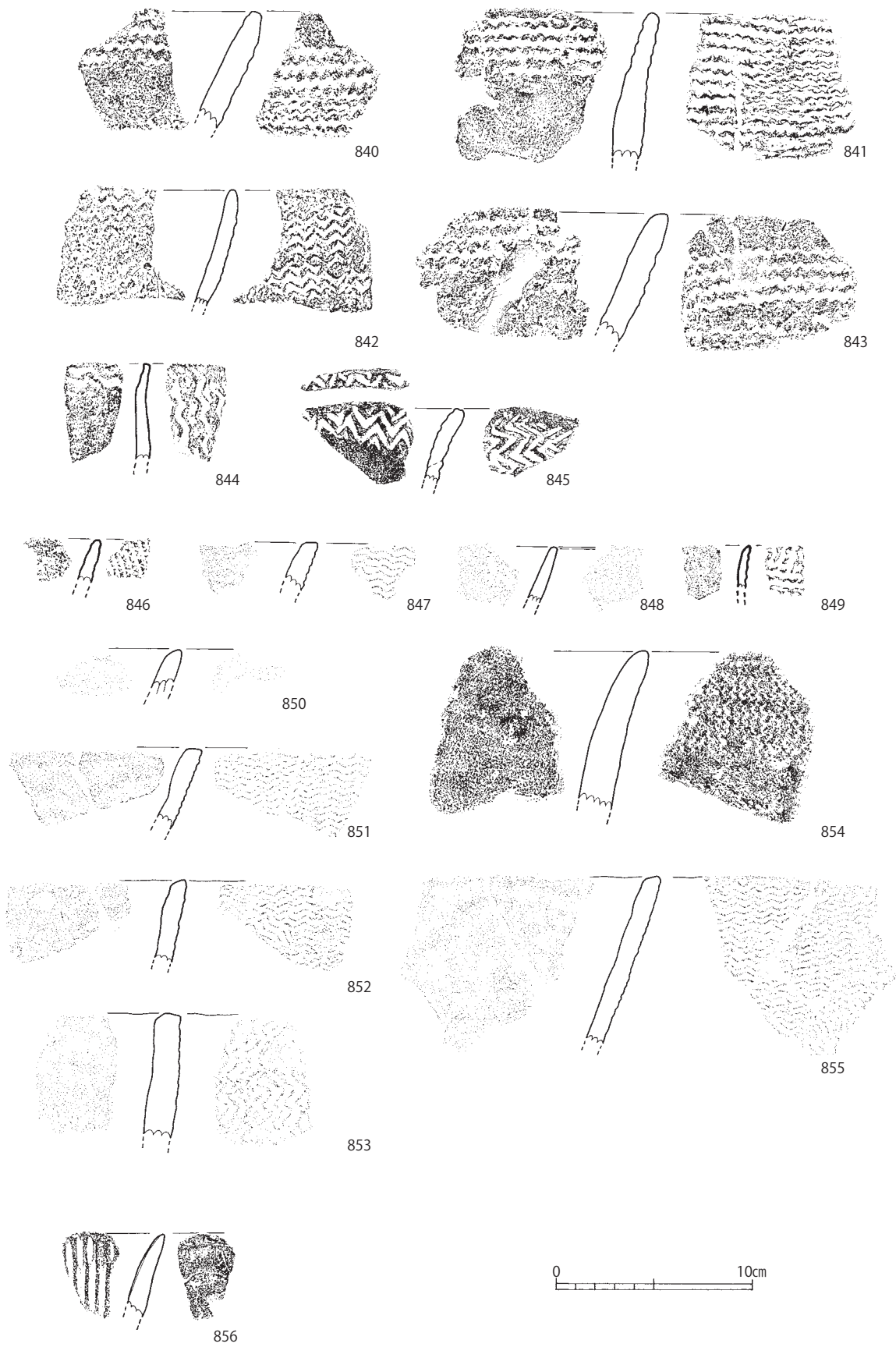
第367図 出土遺物実測図22-縄文時代早期-(9)



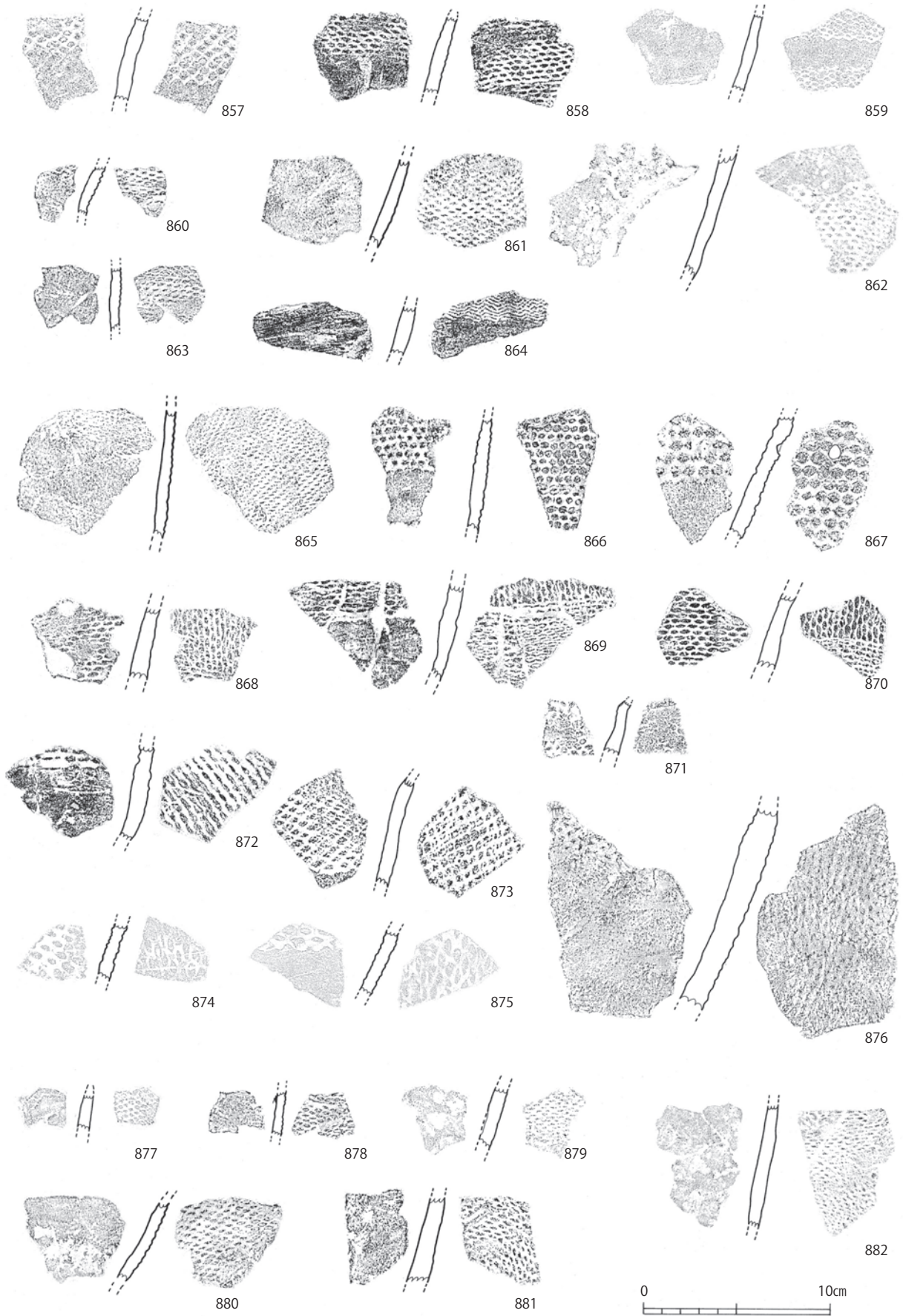
第368図 出土遺物実測図23-縄文時代早期-(10)



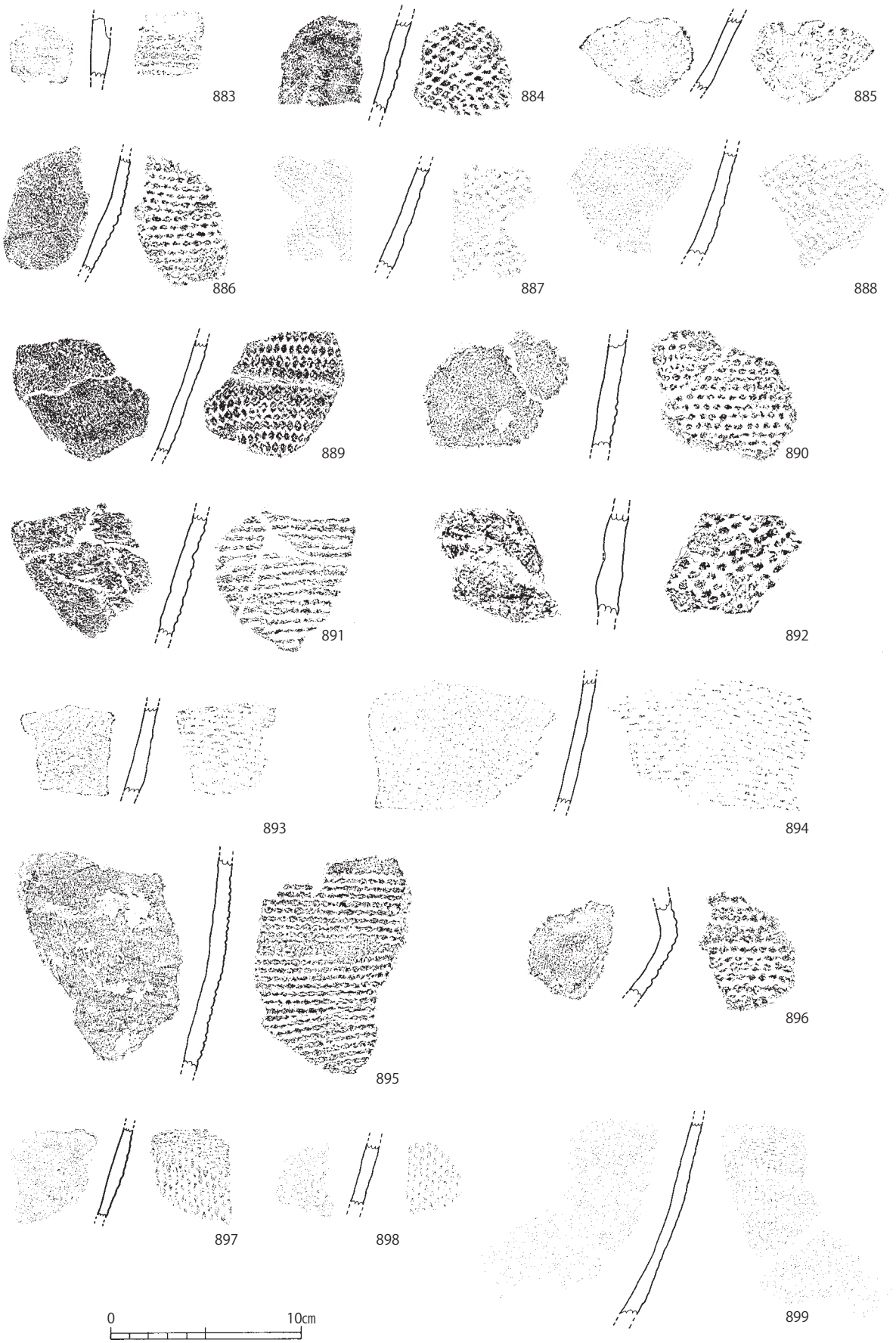
第369図 出土遺物実測図24-縄文時代早期-(11)



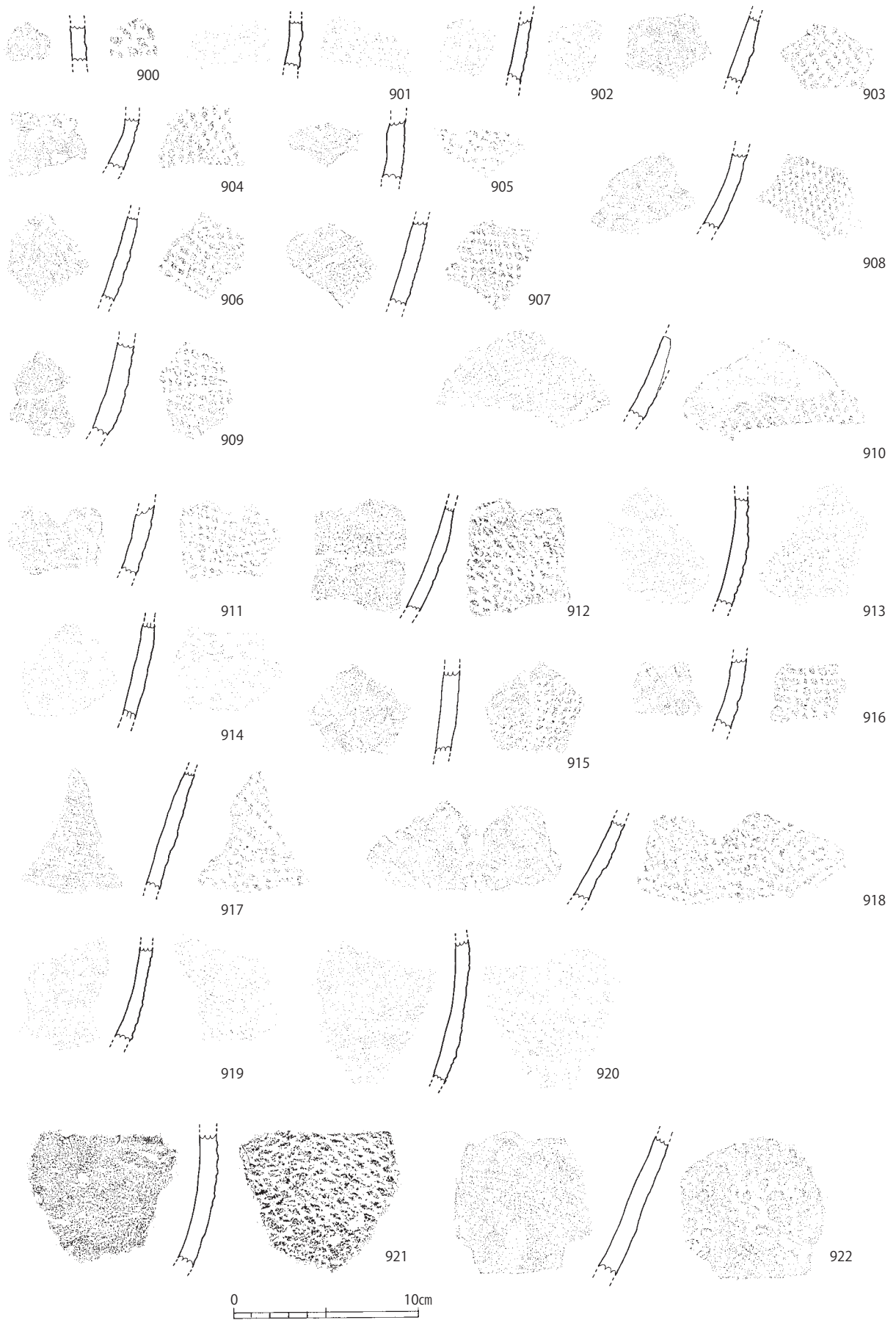
第370図 出土遺物実測図25-縄文時代早期-(12)



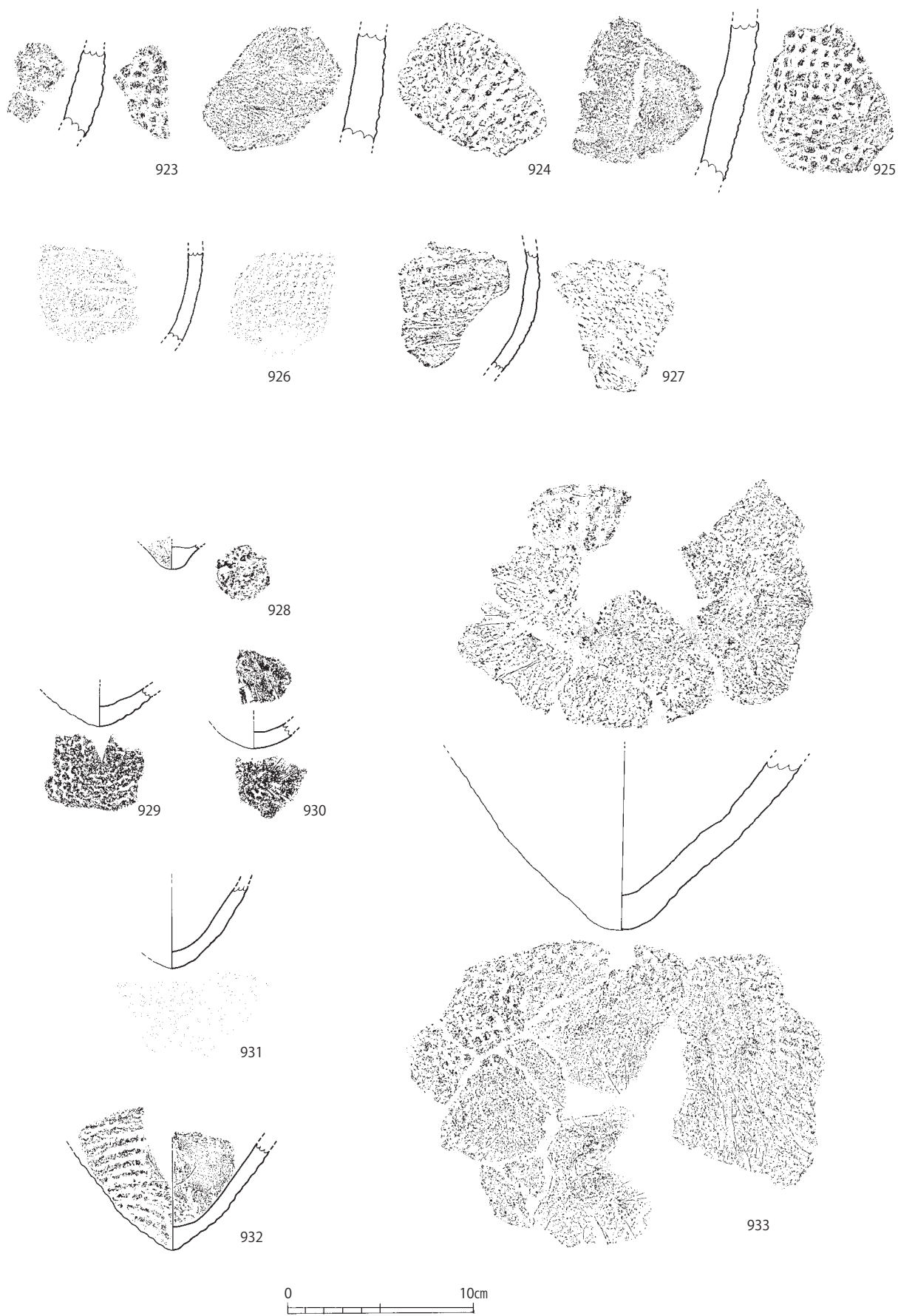
第371図 出土遺物実測図26-縄文時代早期-(13)



第372図 出土遺物実測図27-縄文時代早期-(14)



第373図 出土遺物実測図28-縄文時代早期-(15)



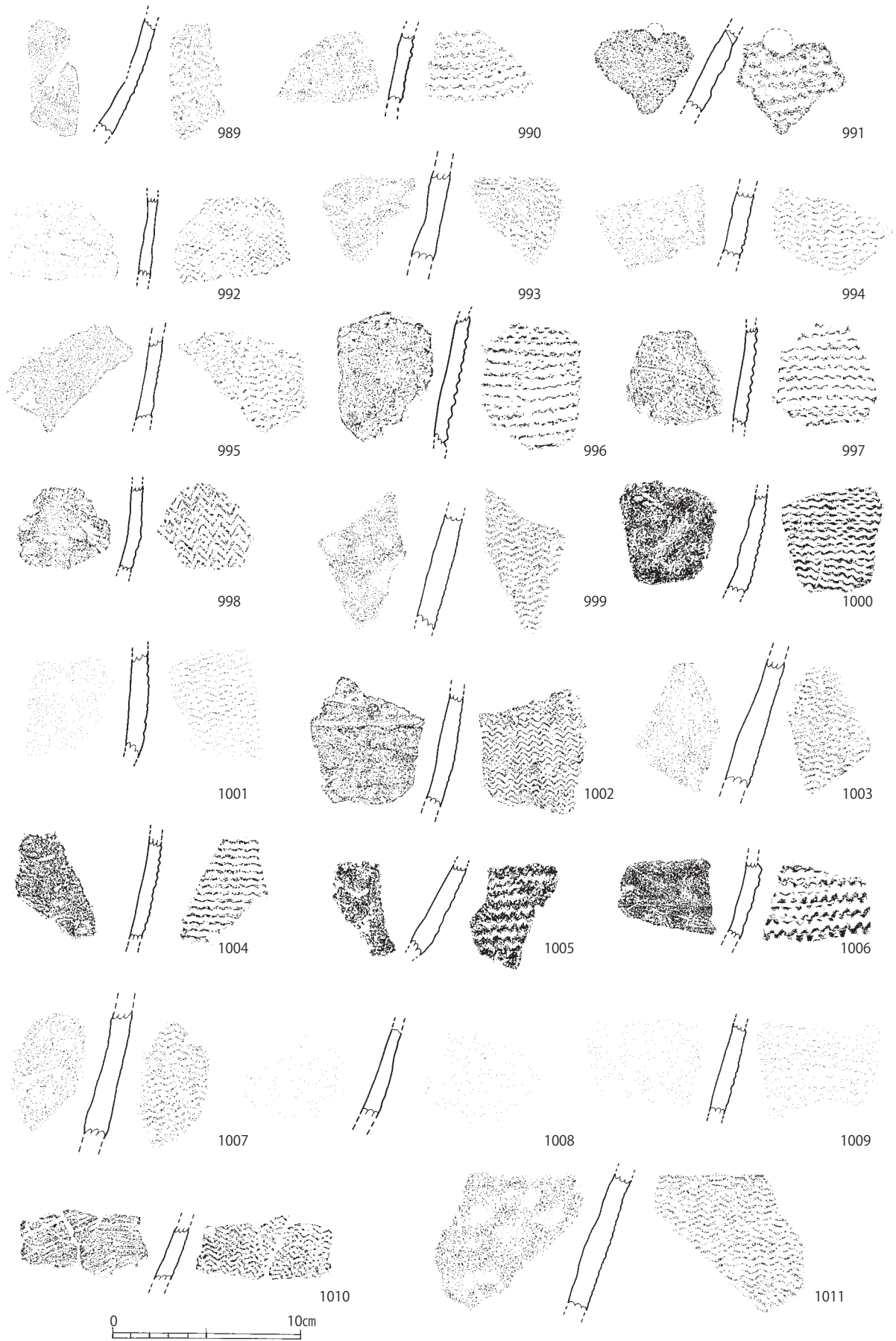
第374図 出土遺物実測図29-縄文時代早期-(16)



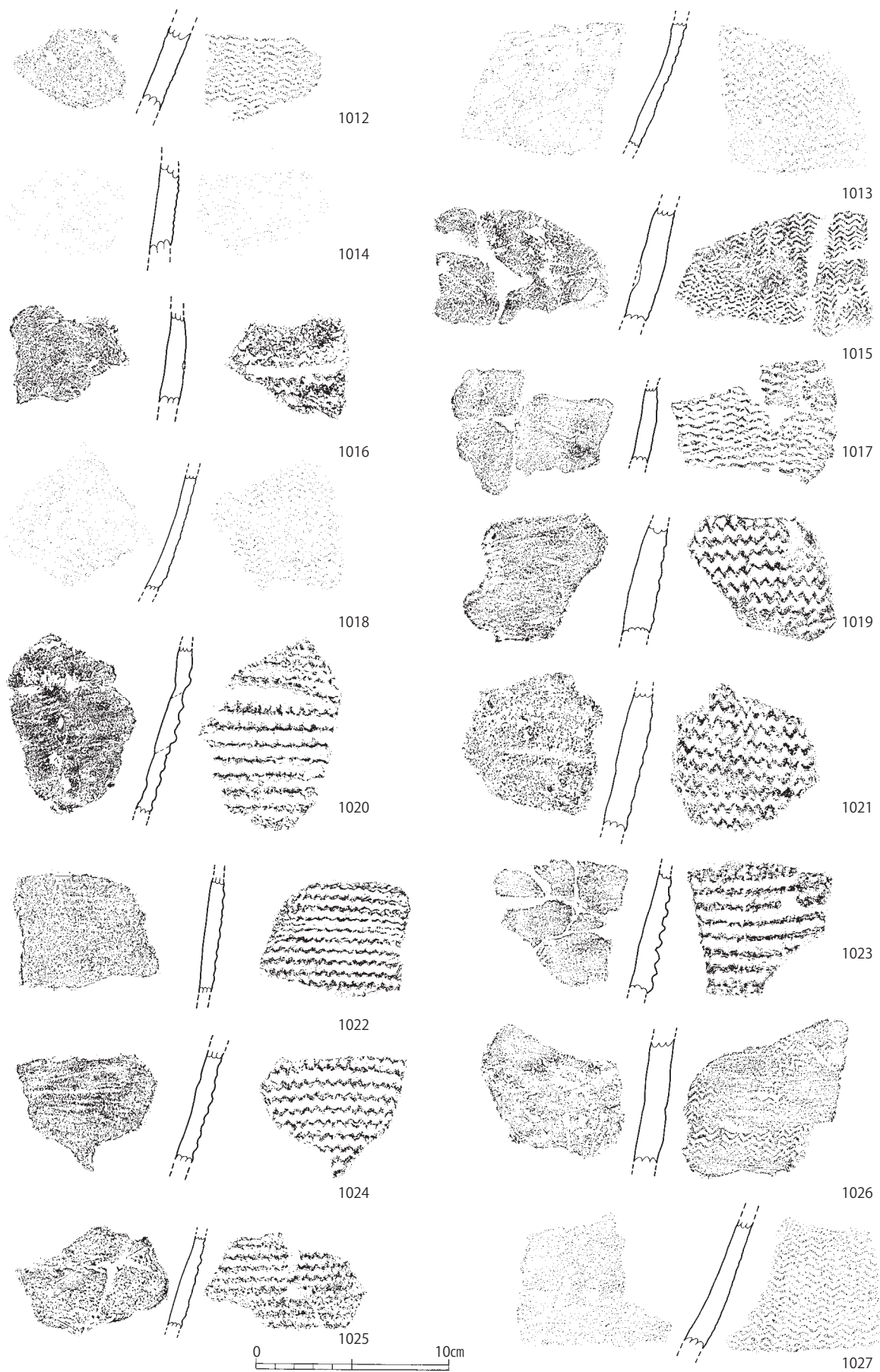
第375図 出土遺物実測図30-縄文時代早期-(17)



第376図 出土遺物実測図31-縄文時代早期-(18)



第377図 出土遺物実測図32-縄文時代早期-(19)



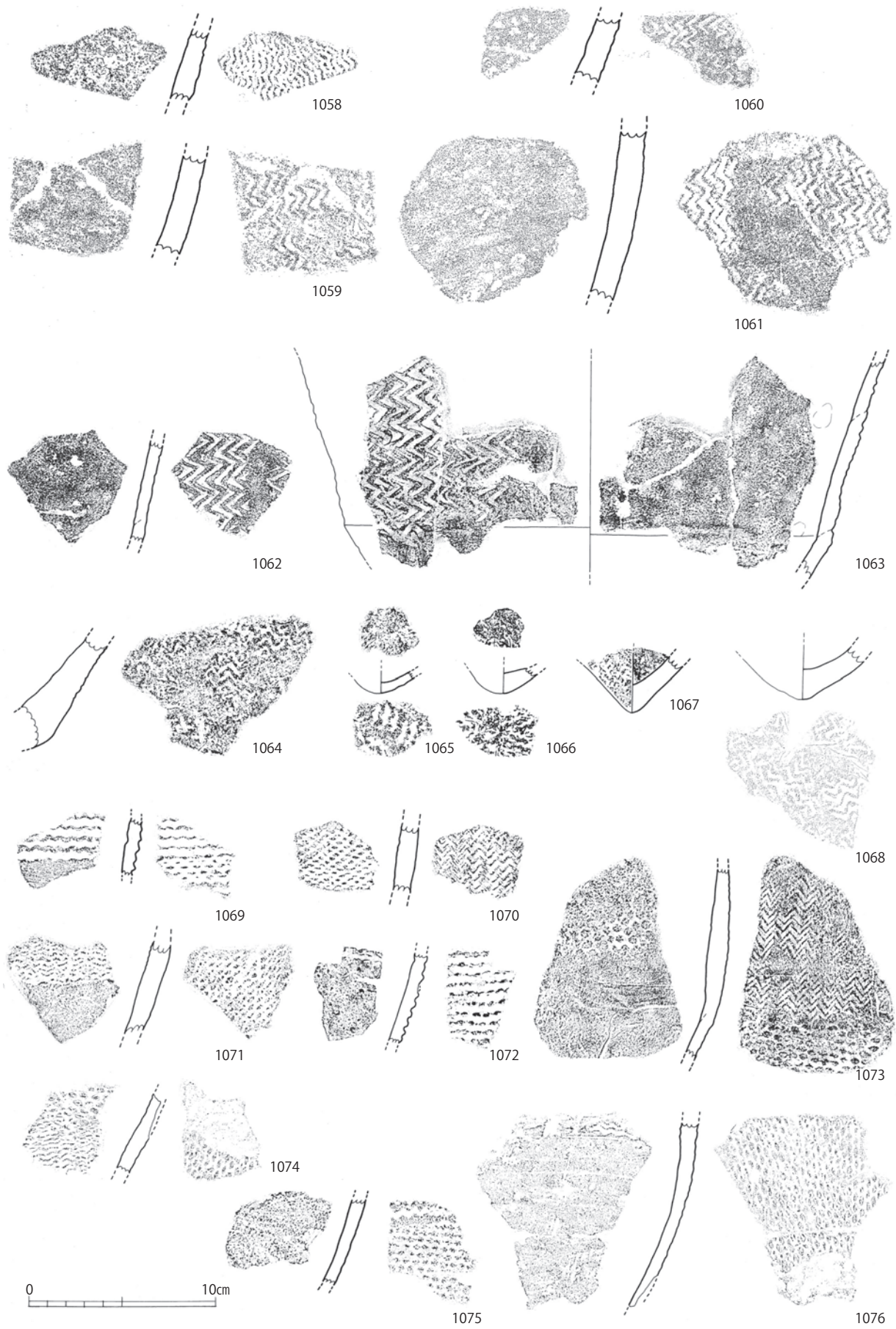
第378図 出土遺物実測図33-縄文時代早期-(20)



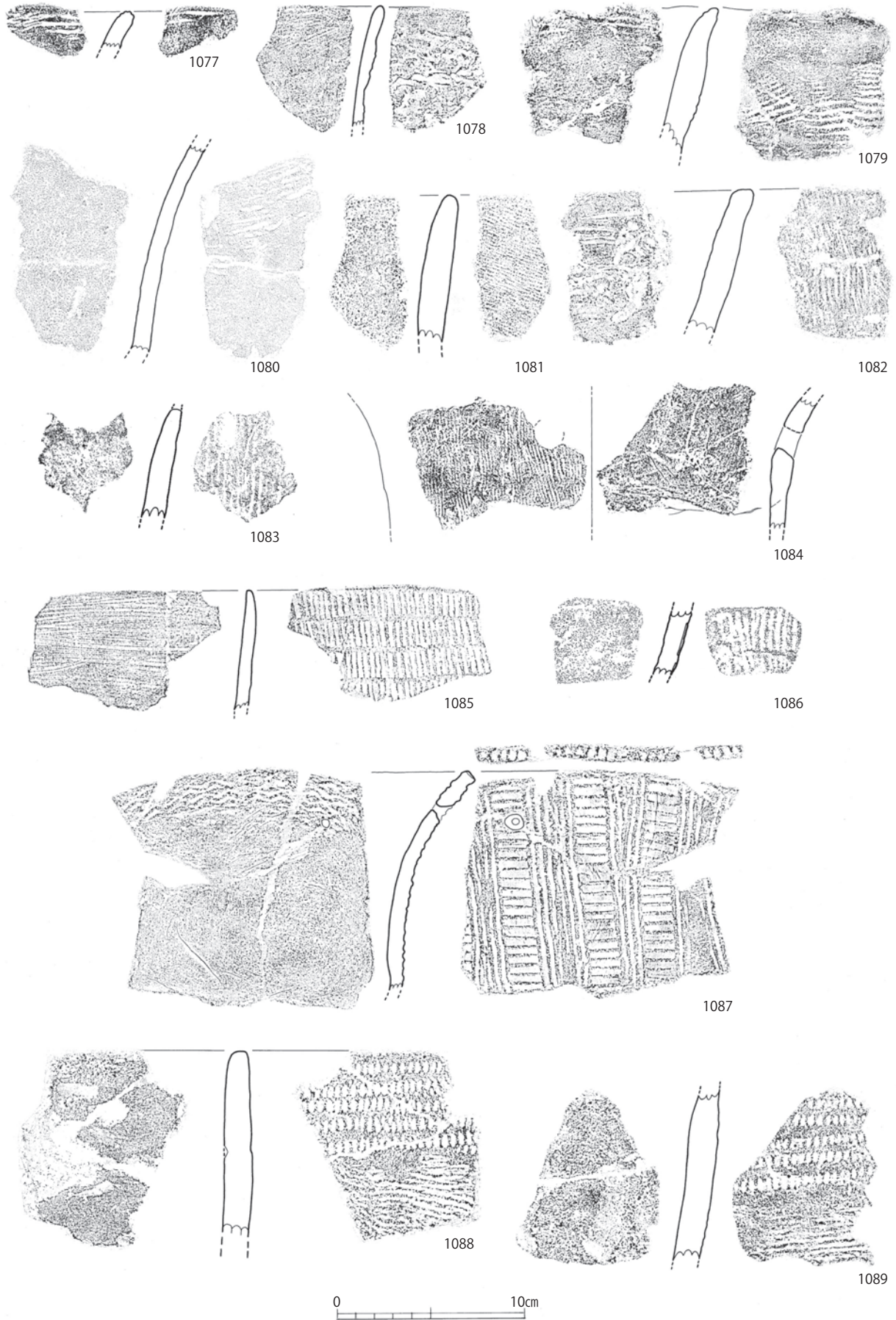
第379図 出土遺物実測図34-縄文時代早期-(21)



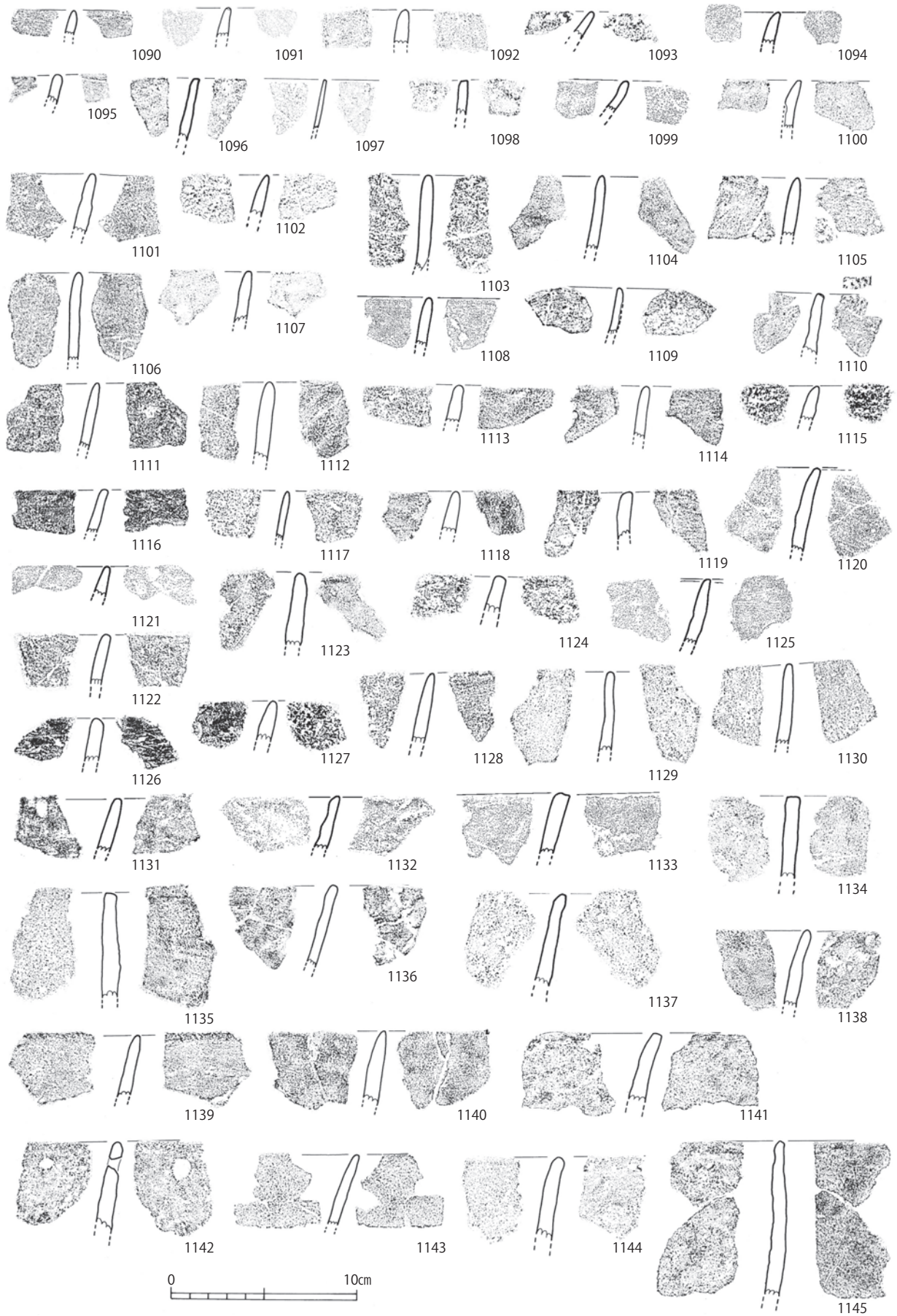
第380図 出土遺物実測図35-縄文時代早期-(22)



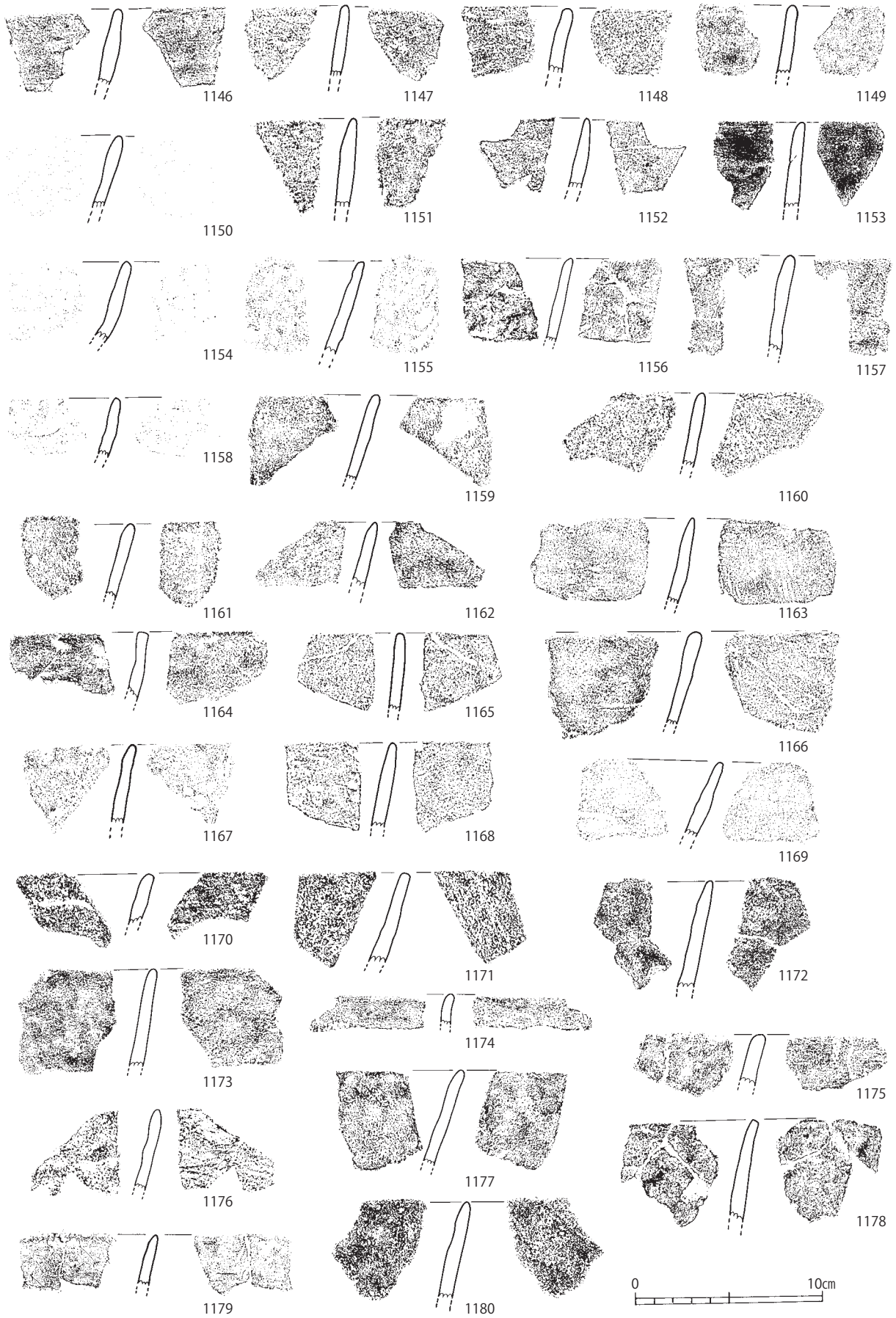
第381図 出土遺物実測図36-縄文時代早期-(23)



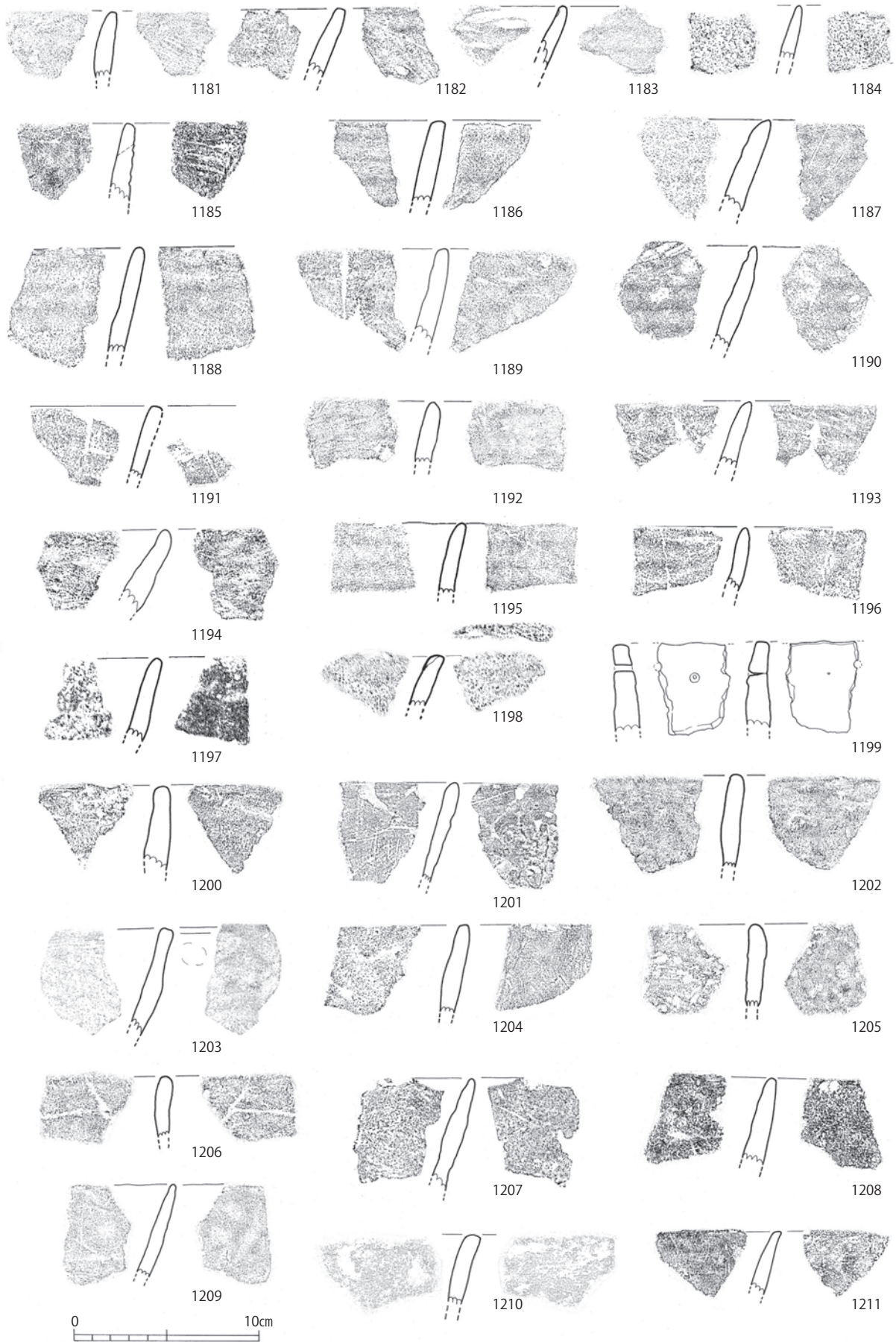
第382図 出土遺物実測図37-縄文時代早期-(24)



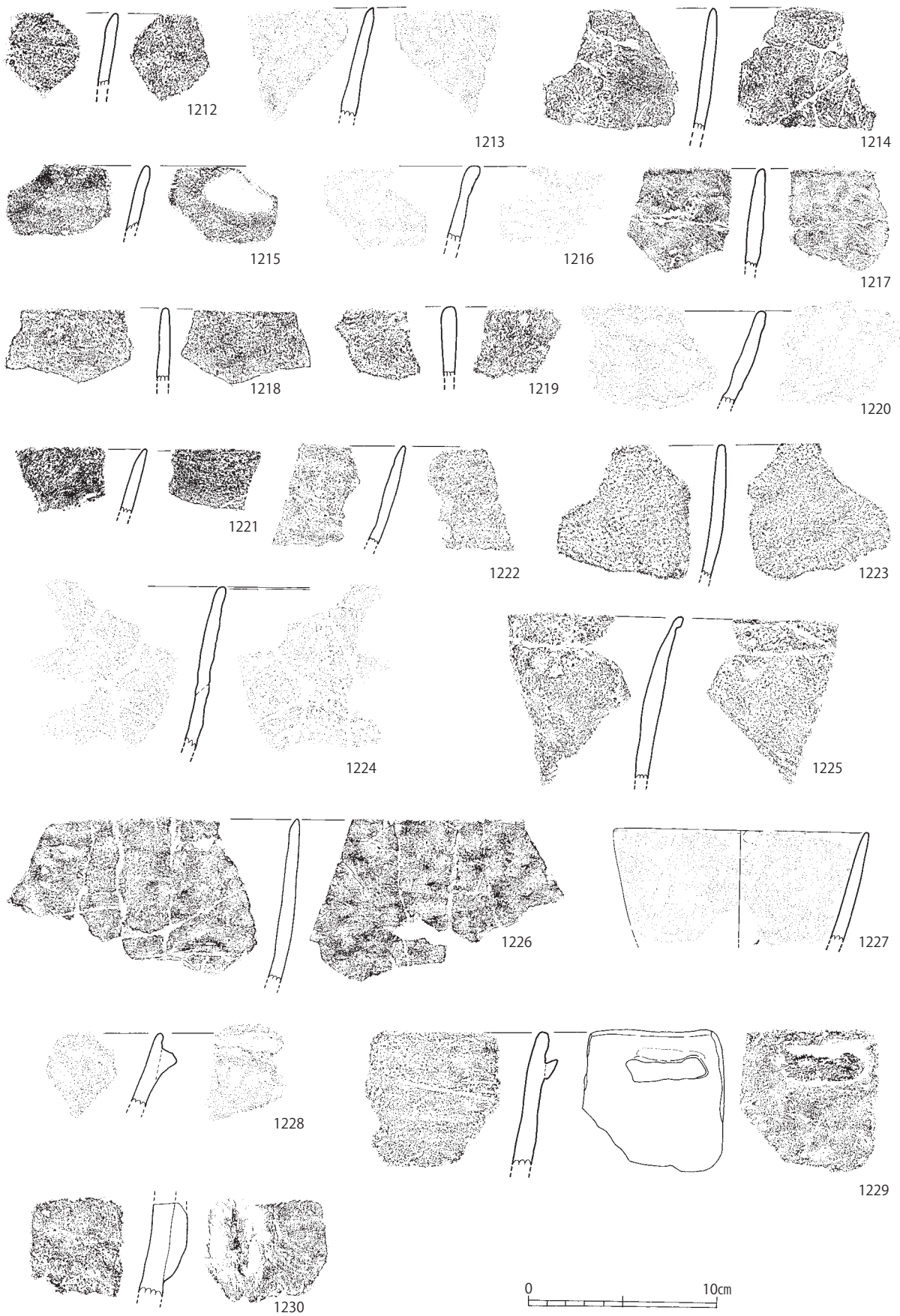
第383図 出土遺物実測図38-縄文時代早期-(25)



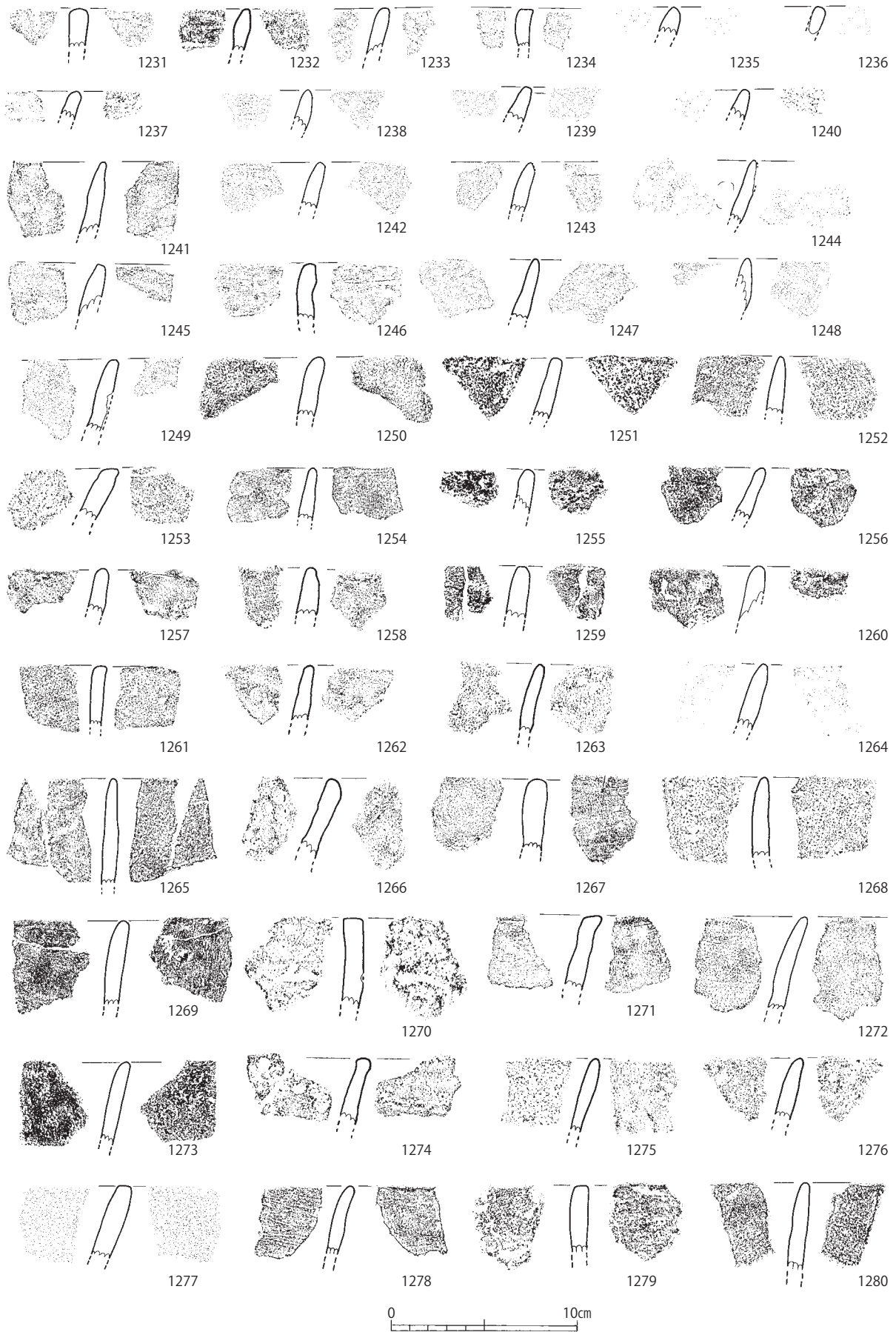
第384図 出土遺物実測図39-縄文時代早期-(26)



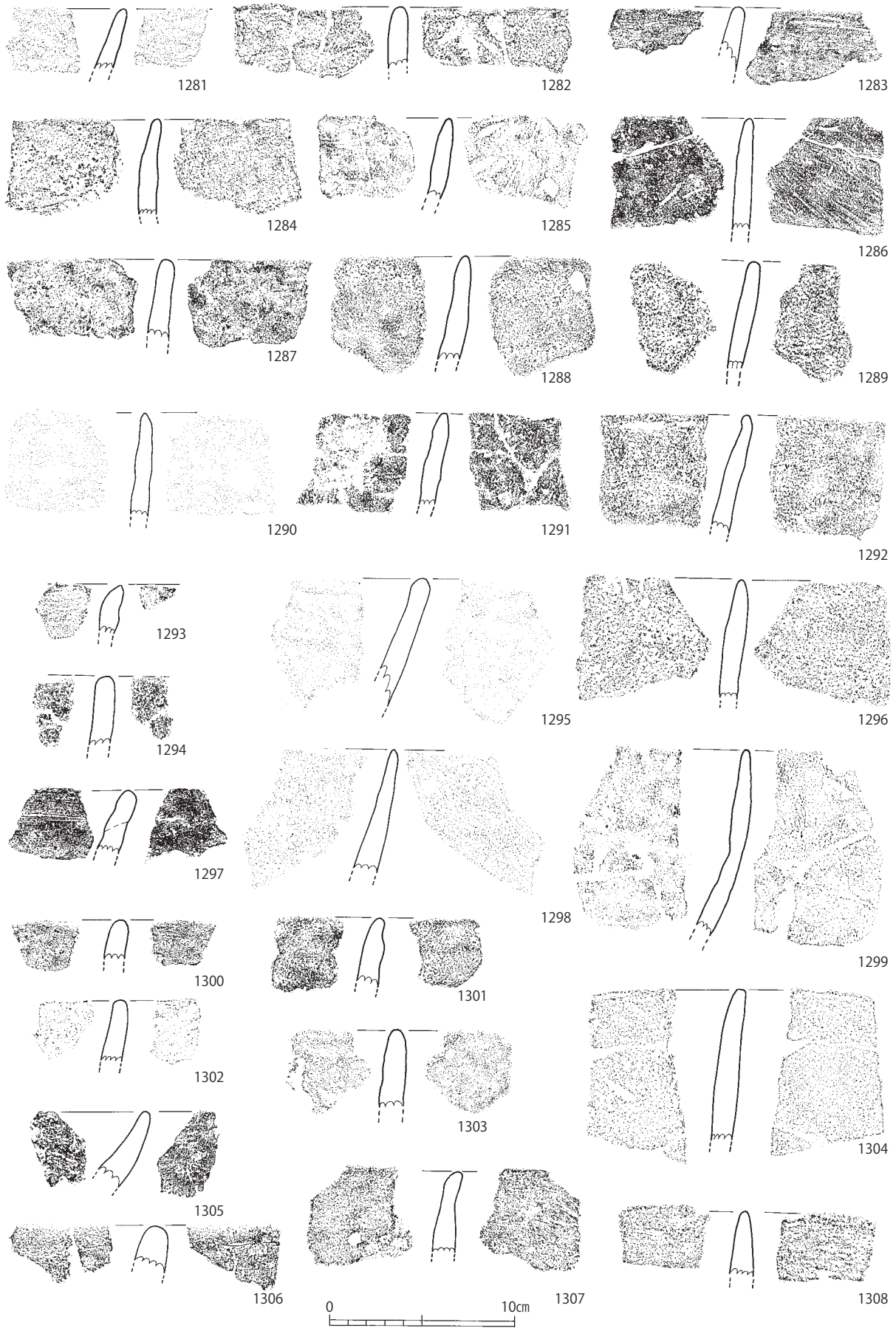
第385図 出土遺物実測図40-縄文時代早期-(27)



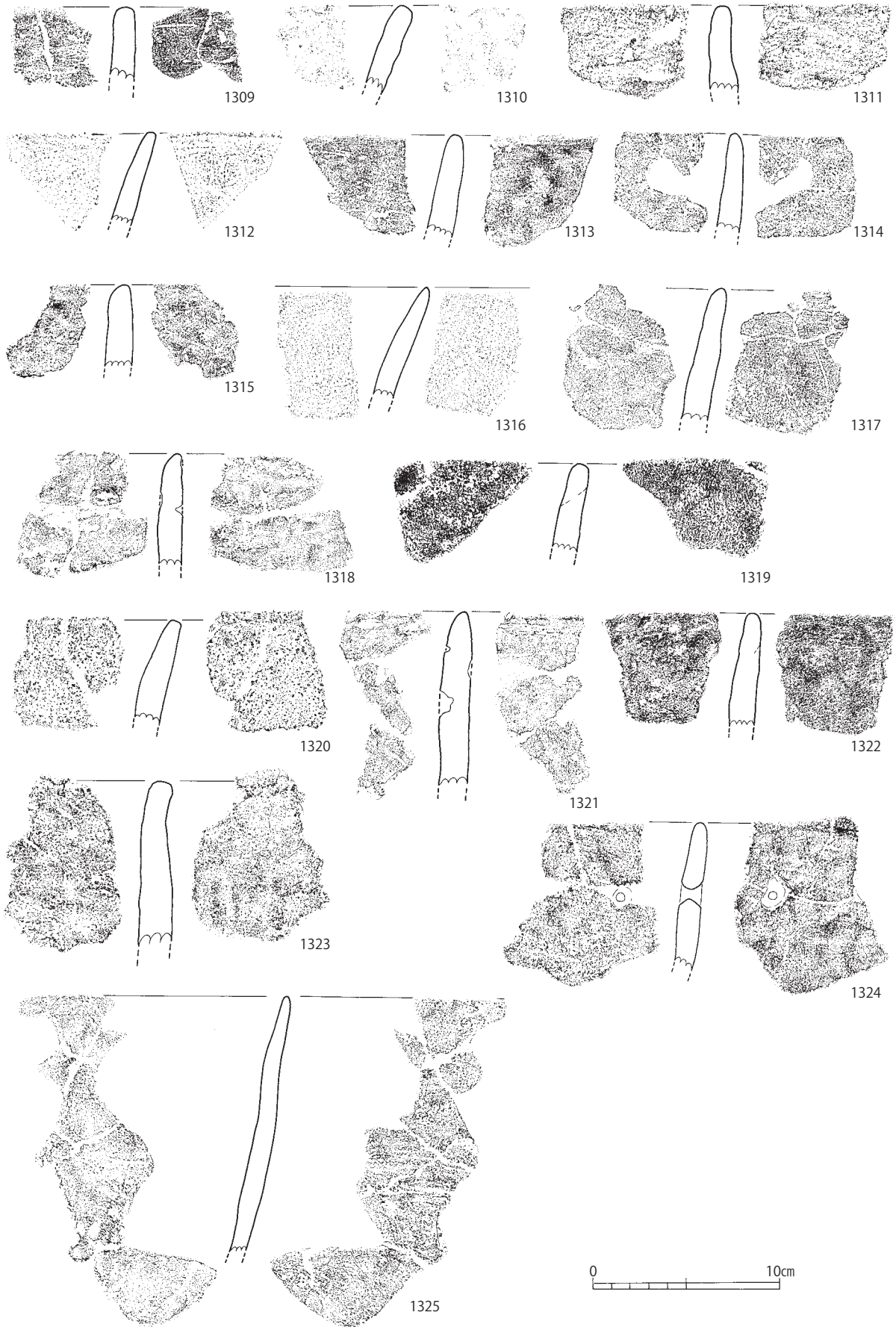
第386図 出土遺物実測図41-縄文時代早期-(28)



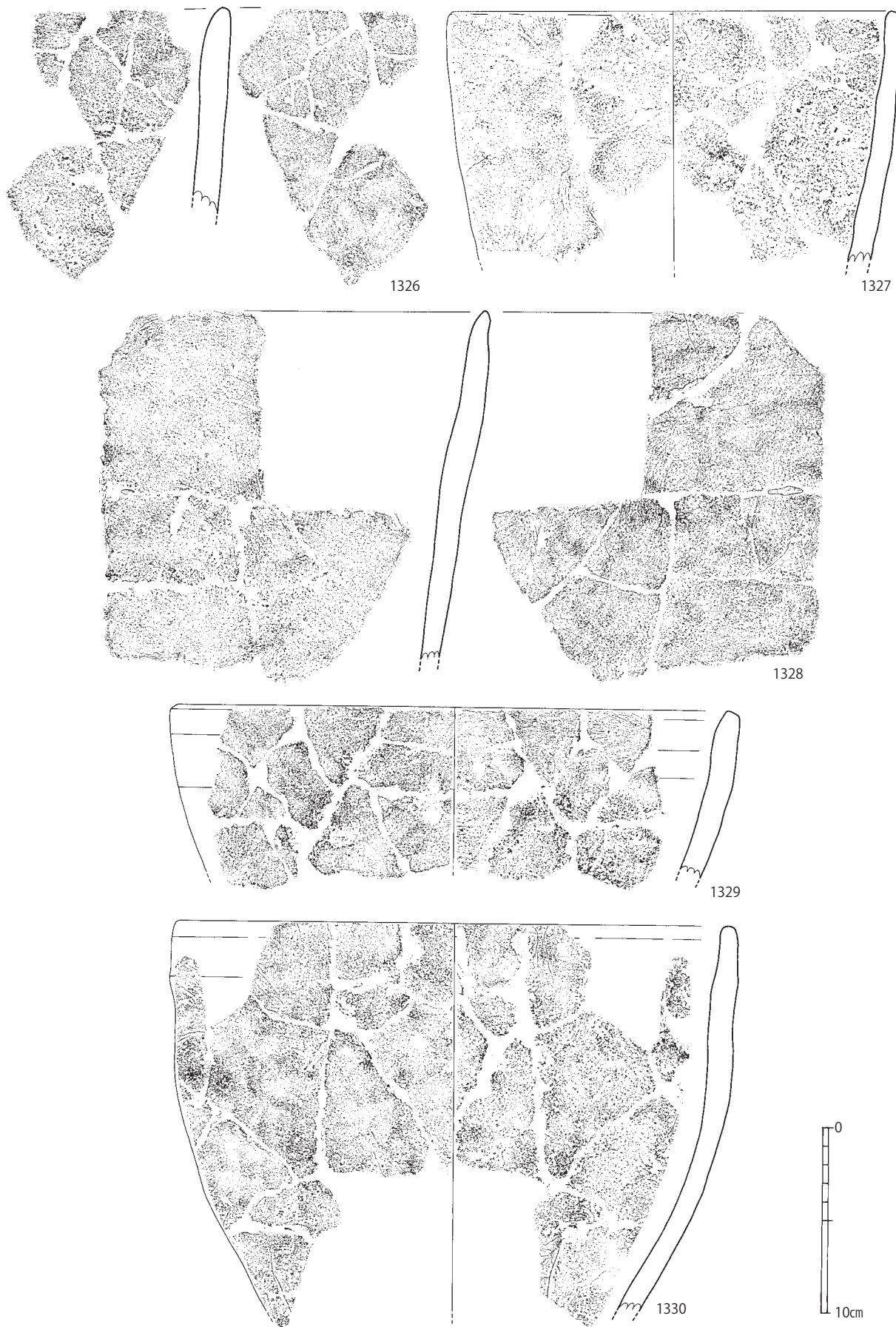
第387図 出土遺物実測図42-縄文時代早期-(29)



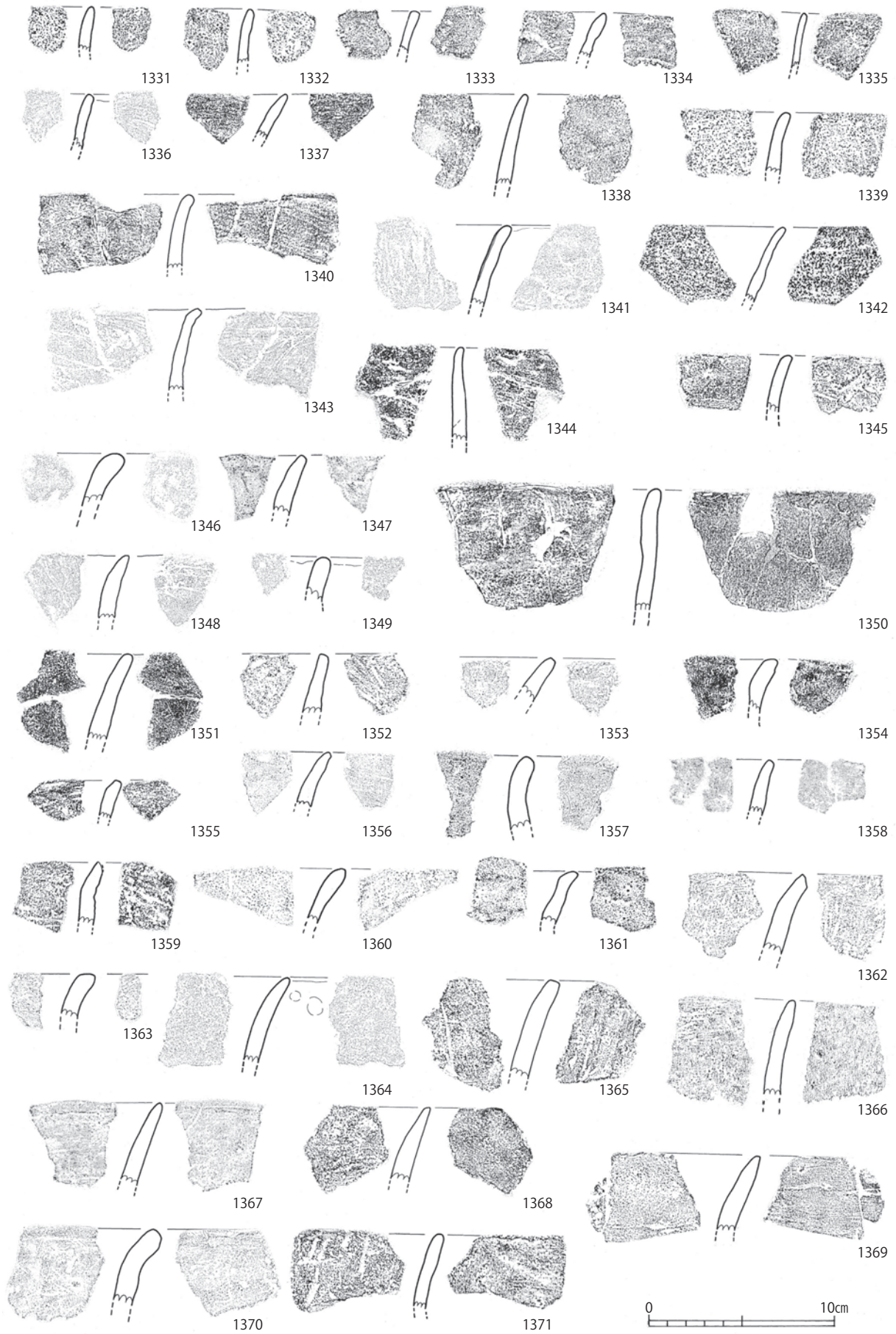
第388図 出土遺物実測図43-縄文時代早期-(30)



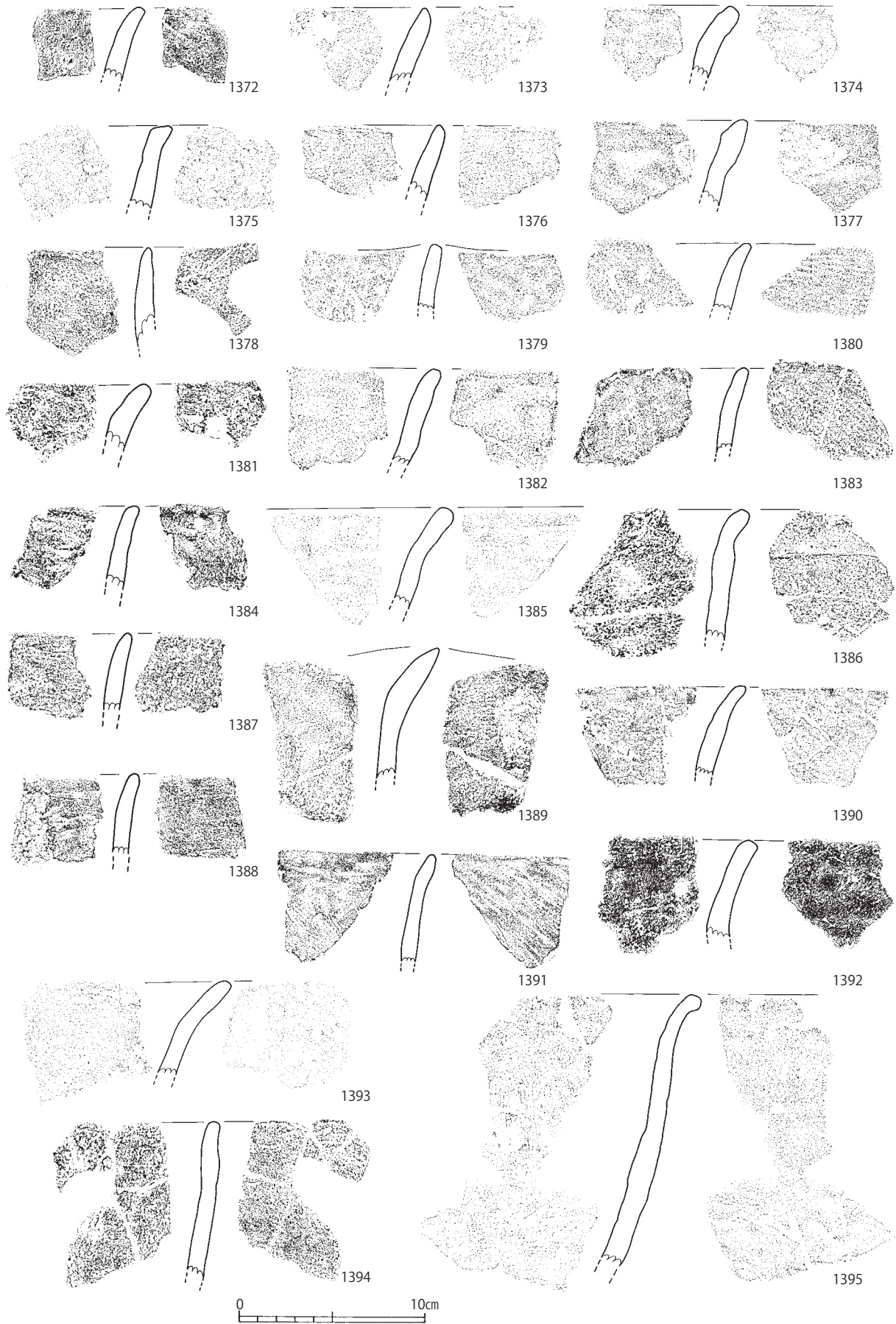
第389図 出土遺物実測図44-縄文時代早期-(31)



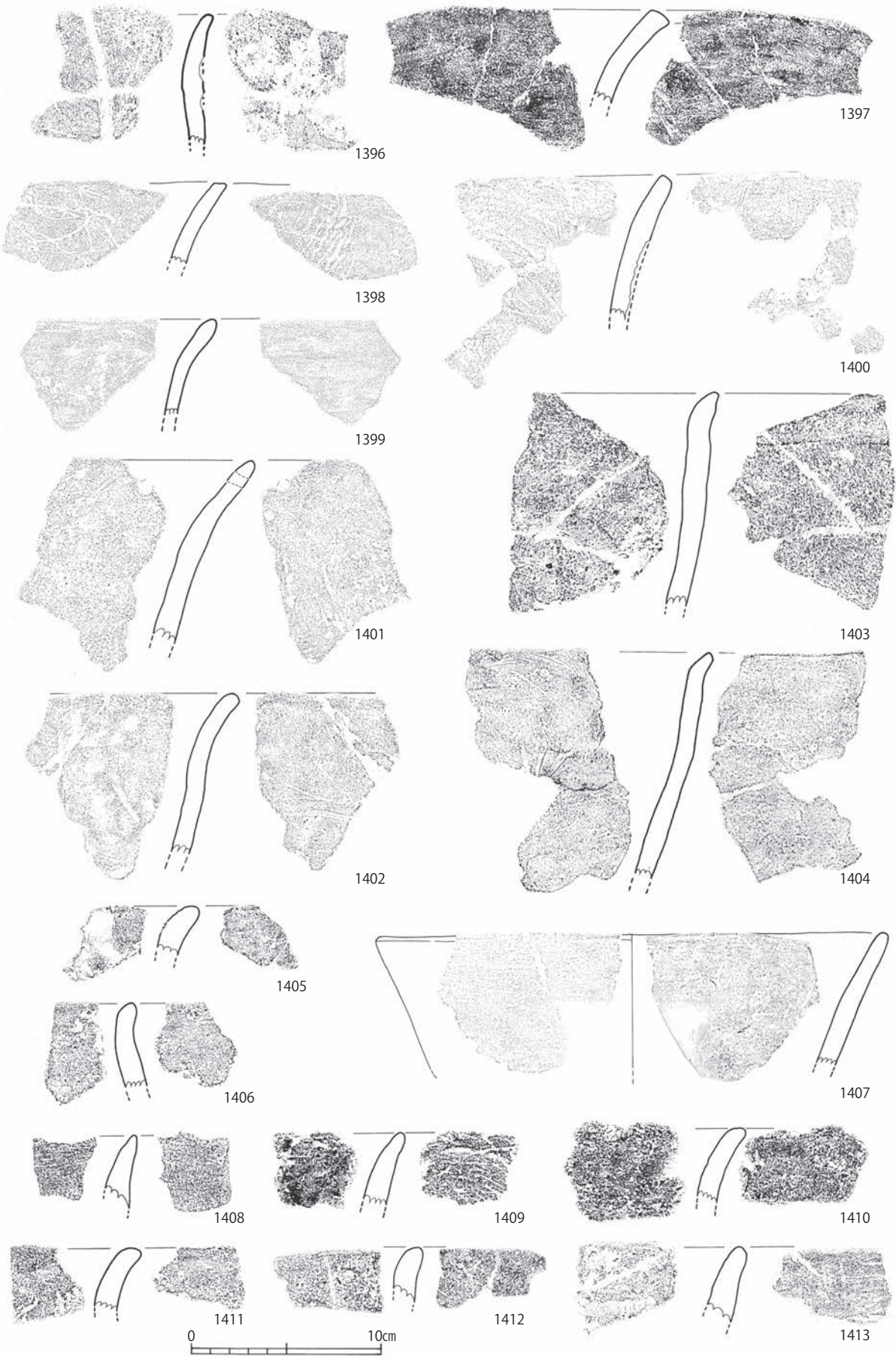
第390図 出土遺物実測図45-縄文時代早期-(32)



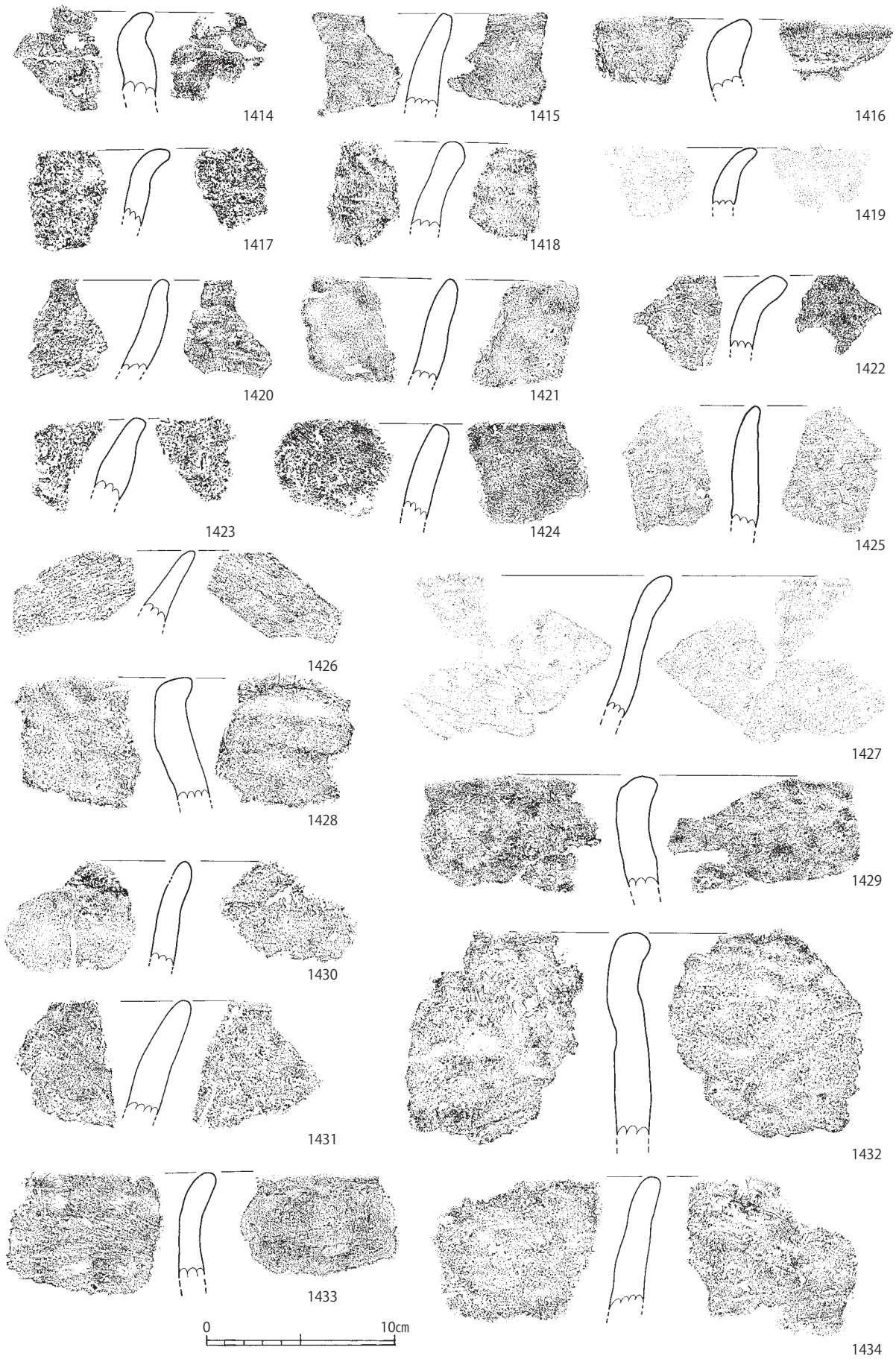
第391図 出土遺物実測図46-縄文時代早期-(33)



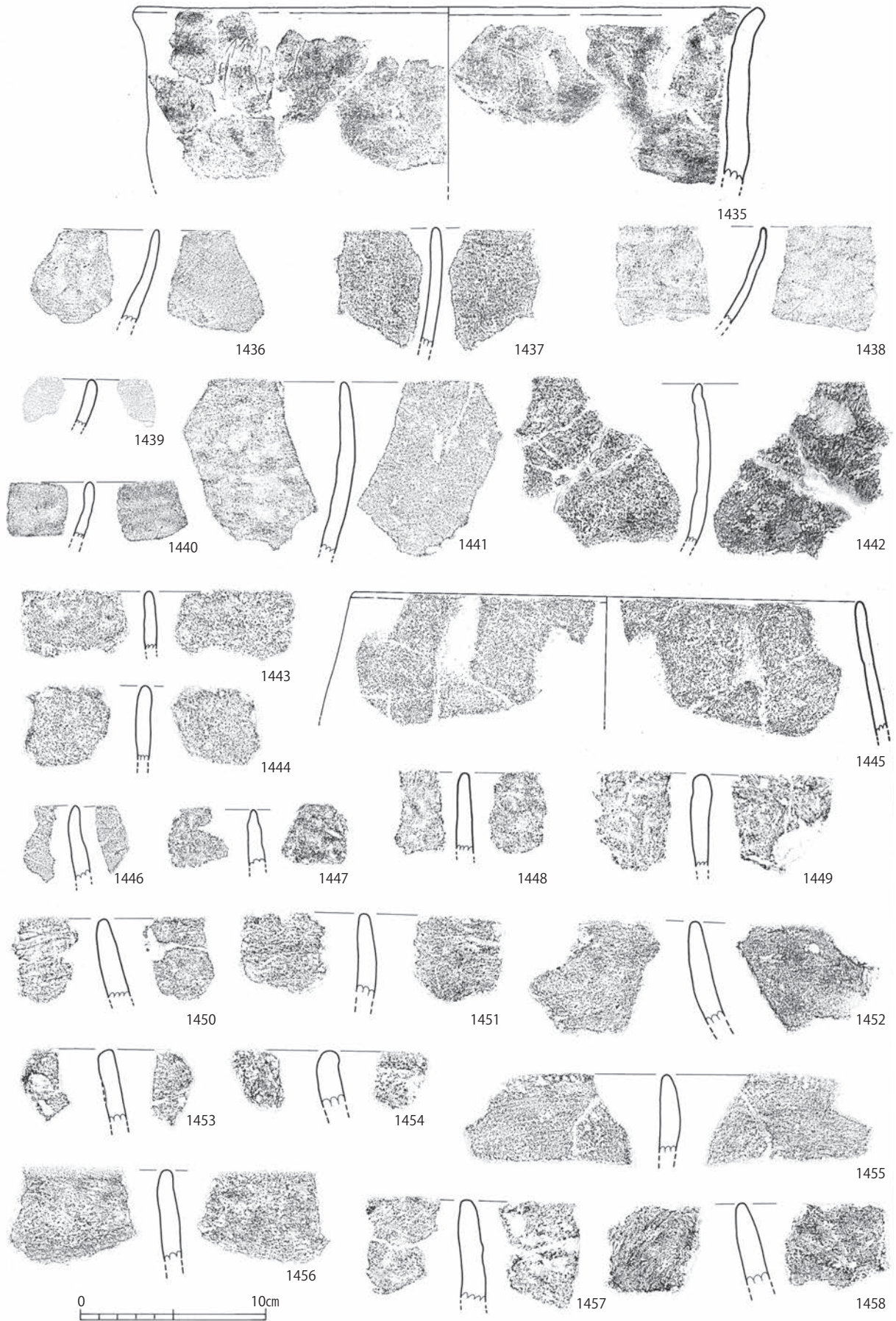
第392図 出土遺物実測図47-縄文時代早期-(34)



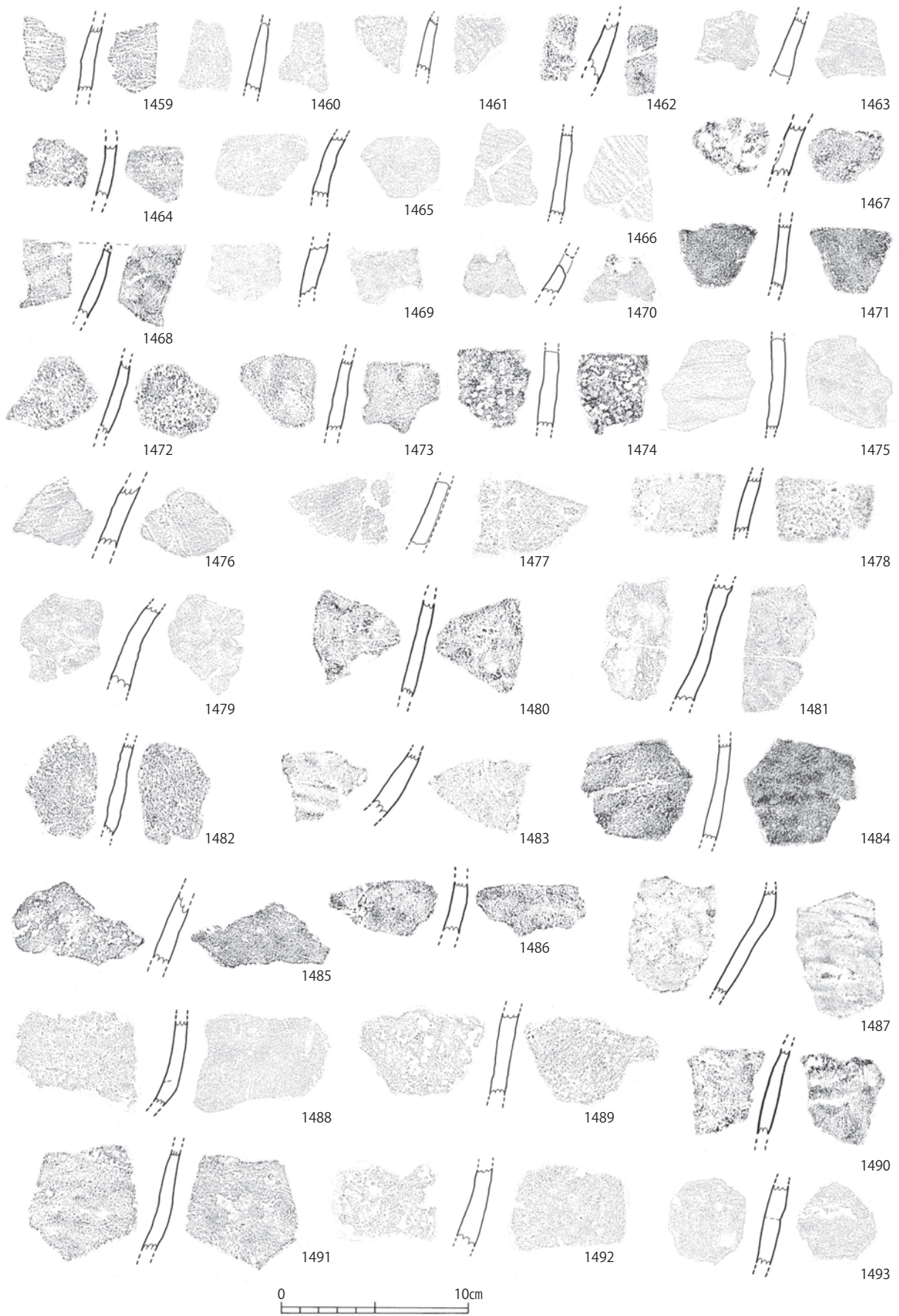
第393図 出土遺物実測図48-縄文時代早期-(35)



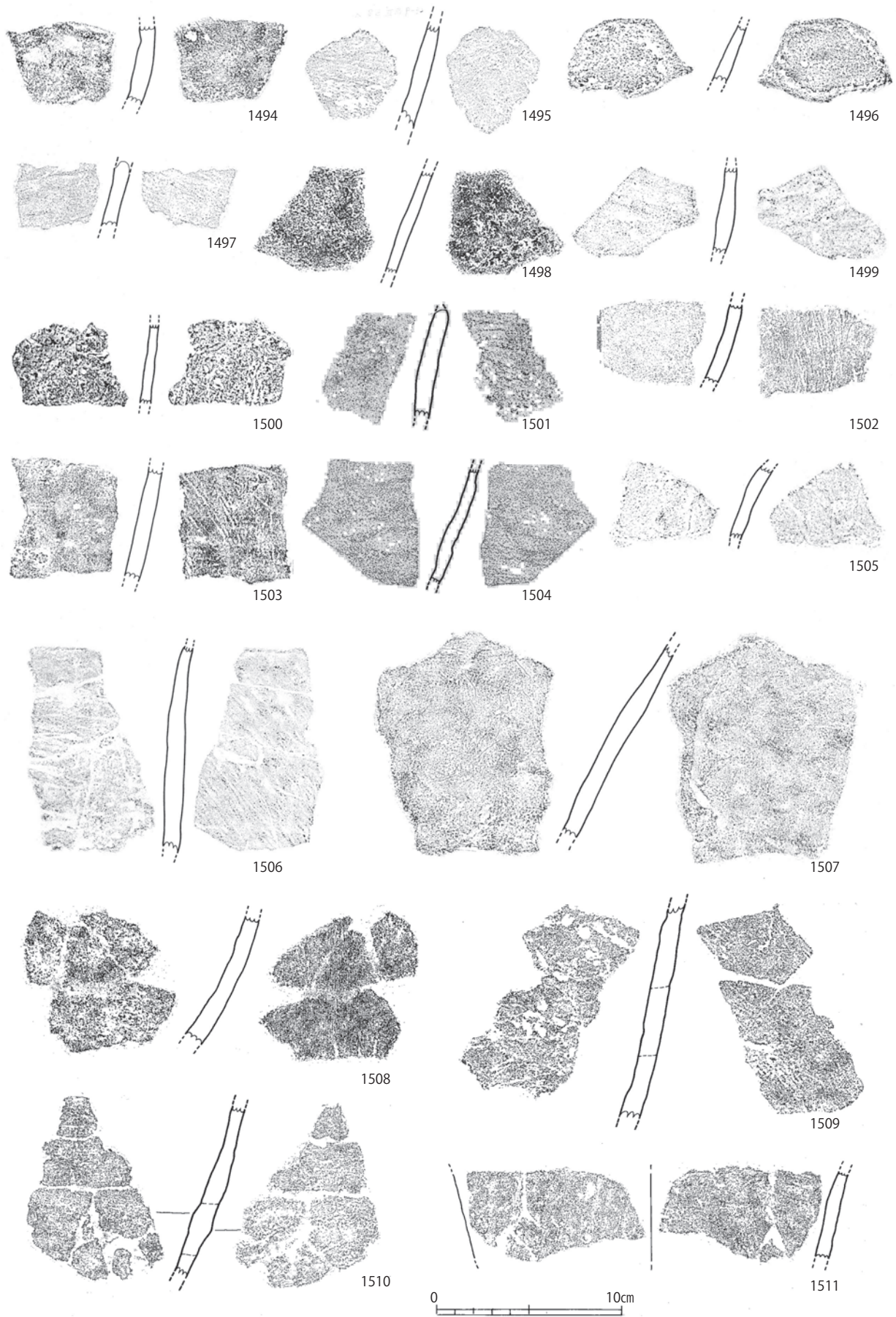
第394図 出土遺物実測図49-縄文時代早期-(36)



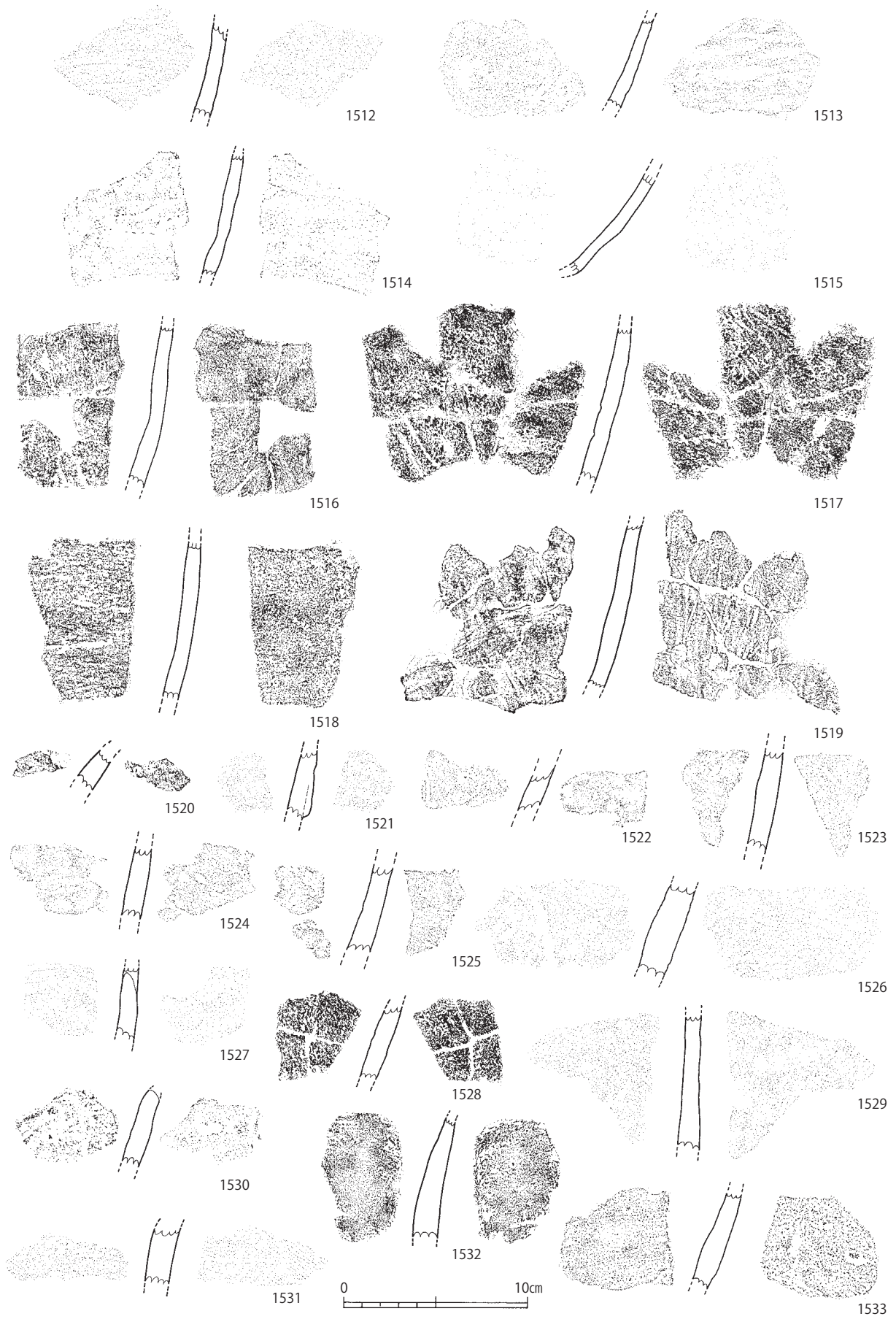
第395図 出土遺物実測図50-縄文時代早期-(37)



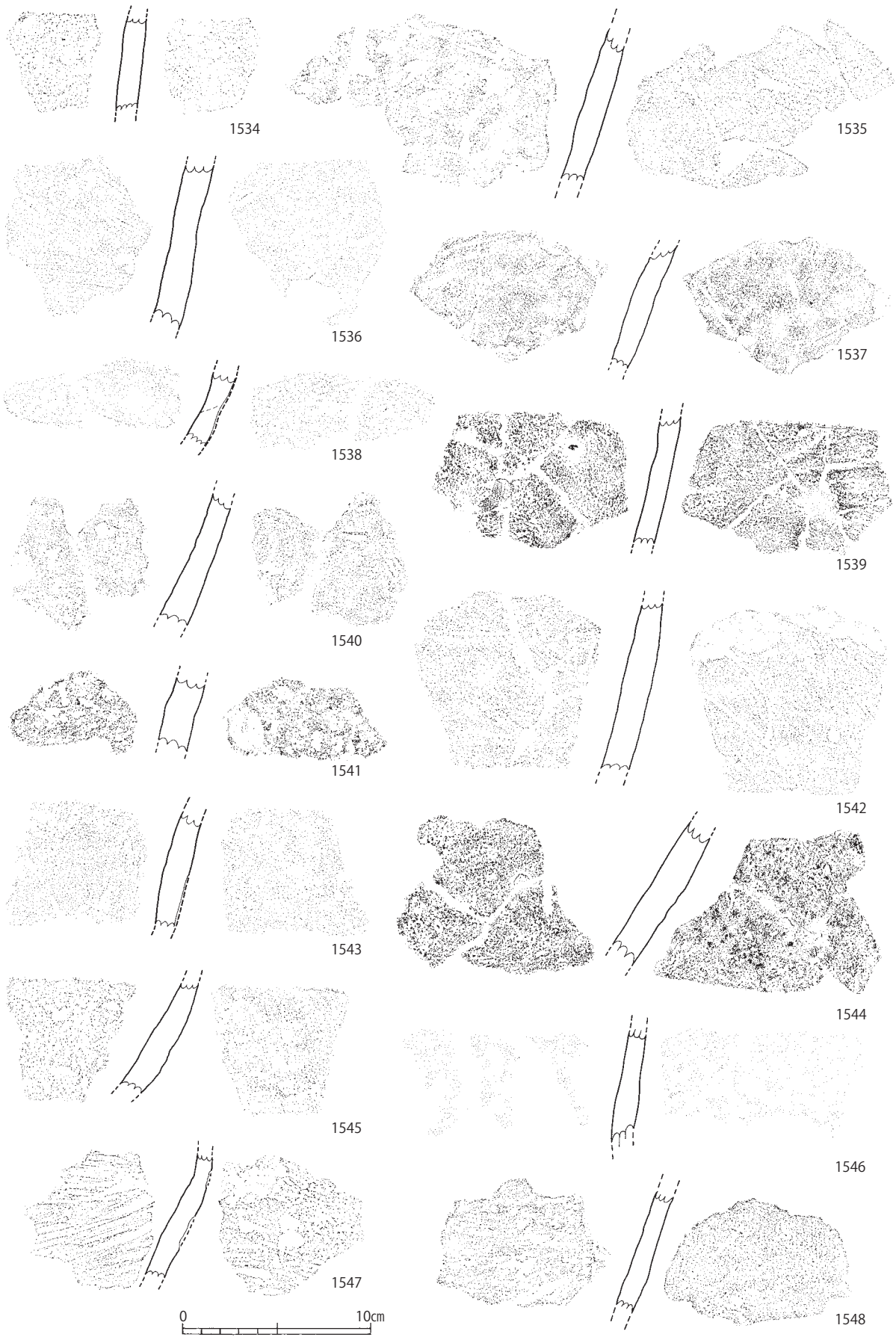
第396図 出土遺物実測図51-縄文時代早期-(38)



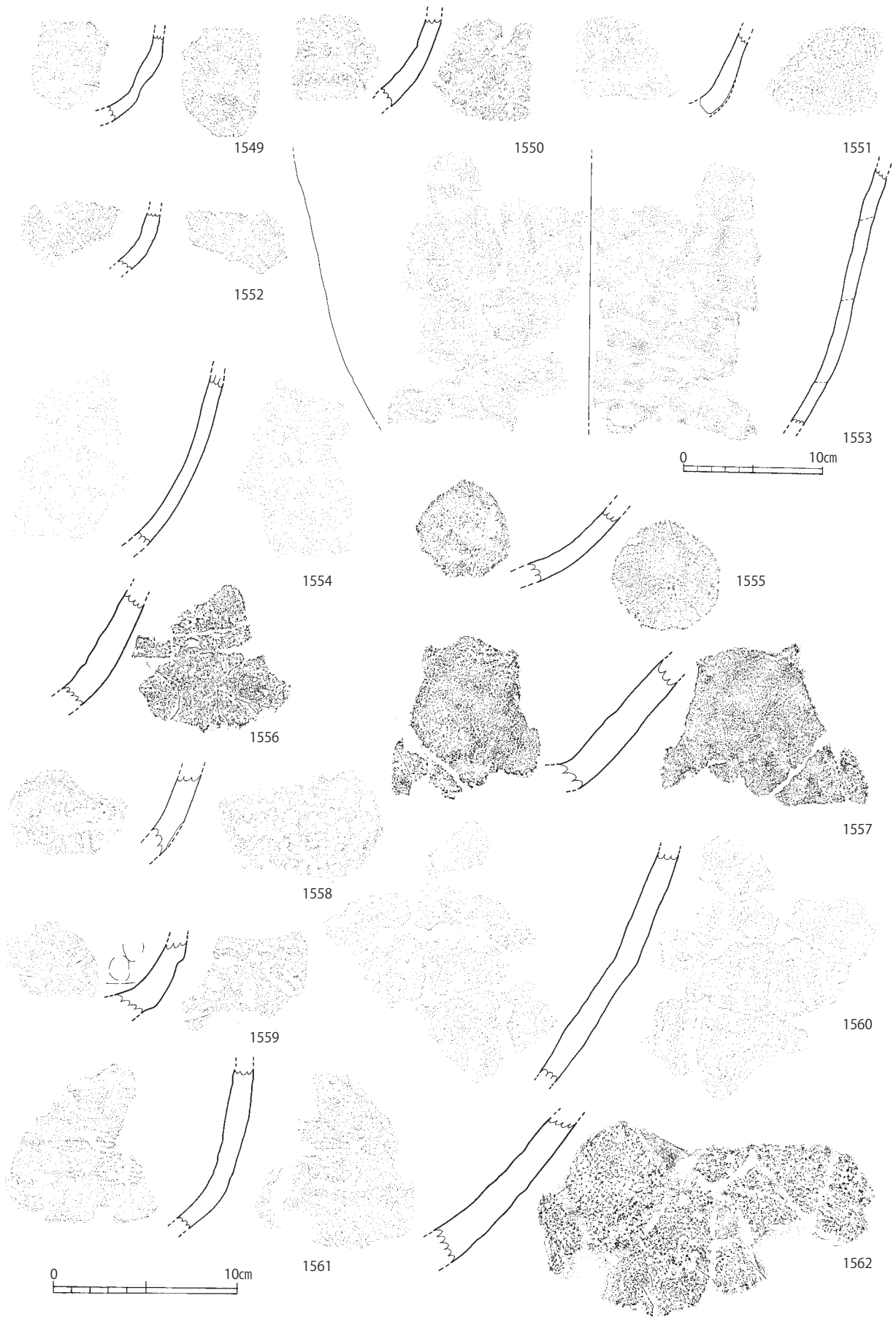
第397図 出土遺物実測図52-縄文時代早期-(39)



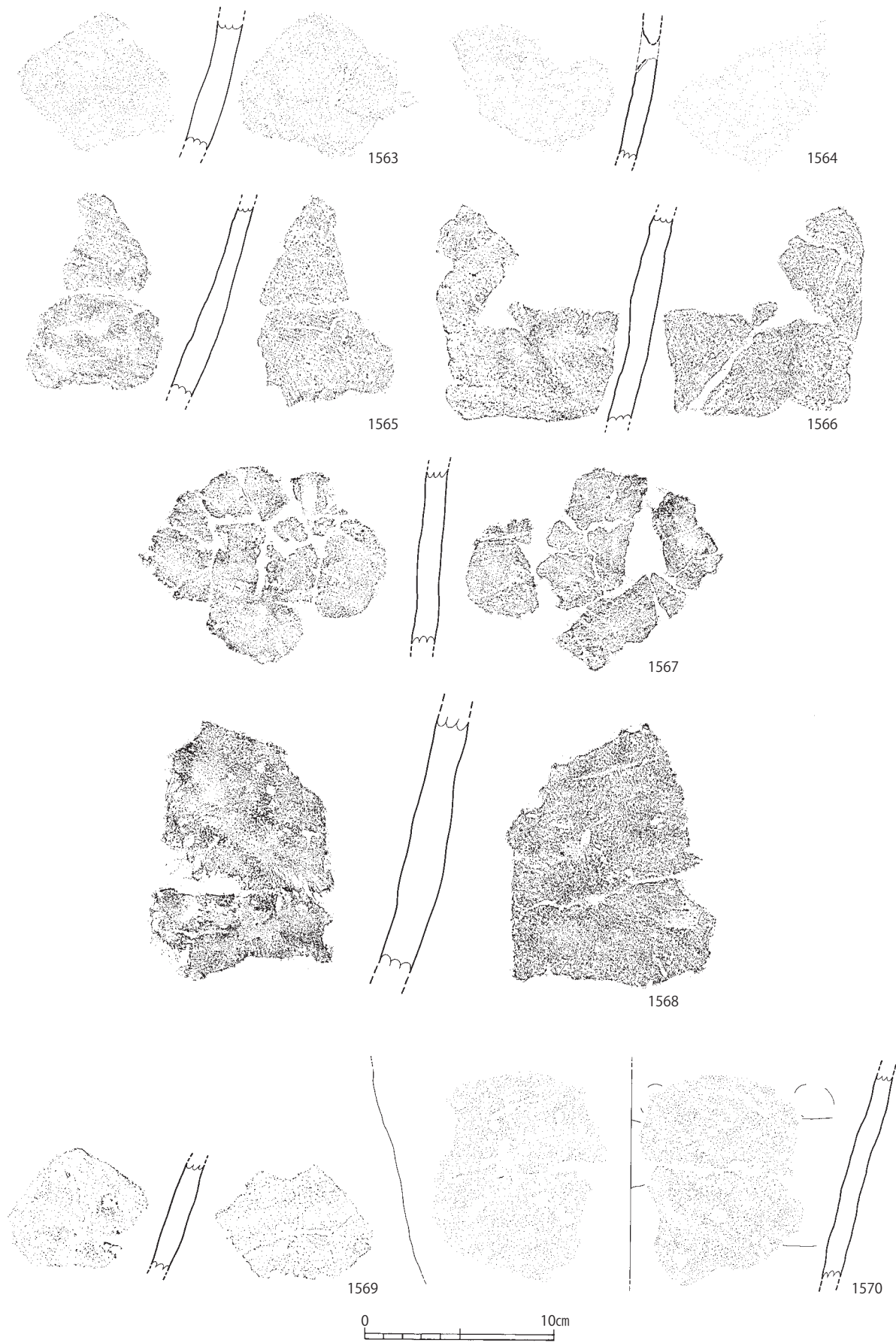
第398図 出土遺物実測図53-縄文時代早期-(40)



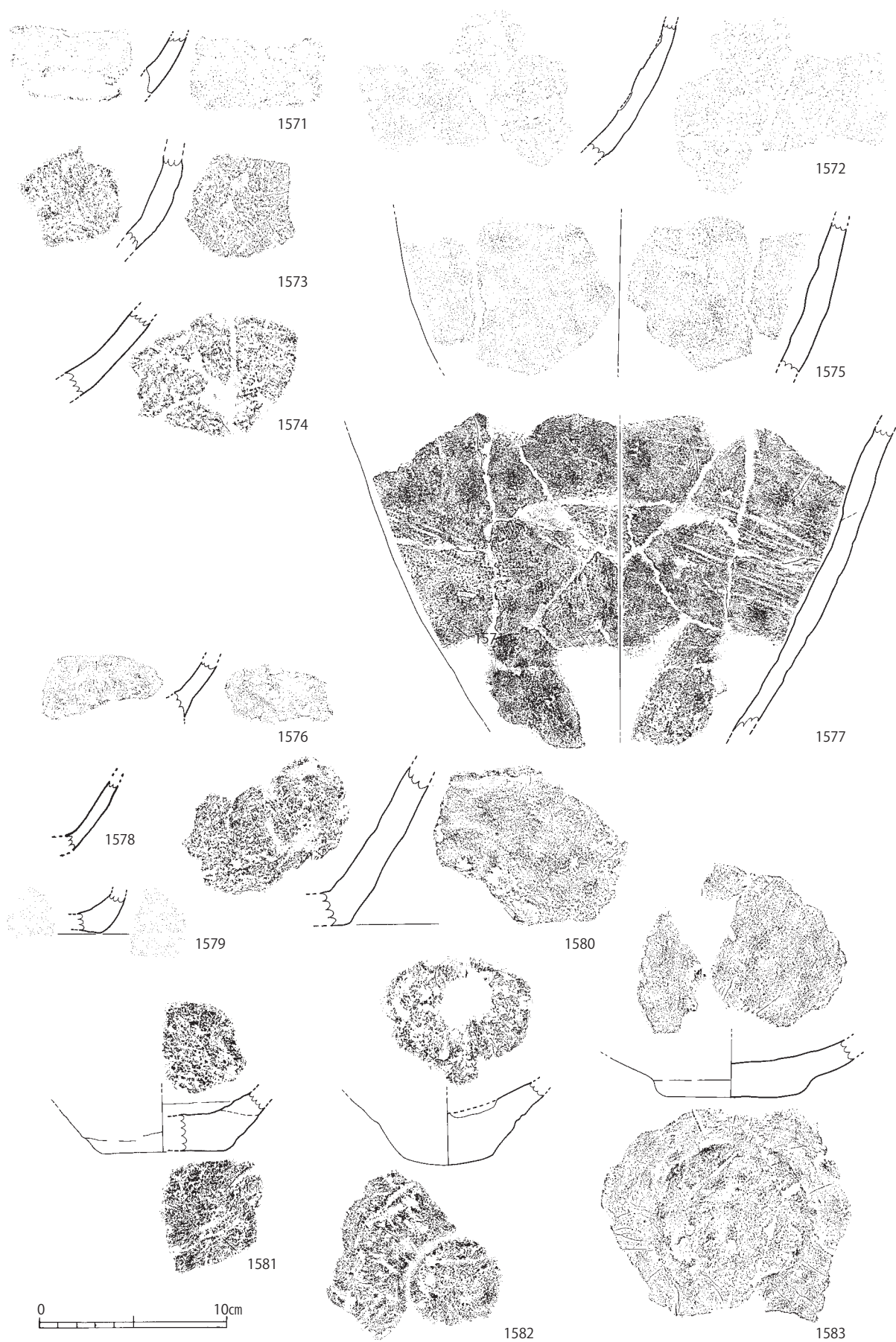
第399図 出土遺物実測図54-縄文時代早期-(41)



第400図 出土遺物実測図55-縄文時代早期-(42)



第401図 出土遺物実測図56-縄文時代早期-(43)



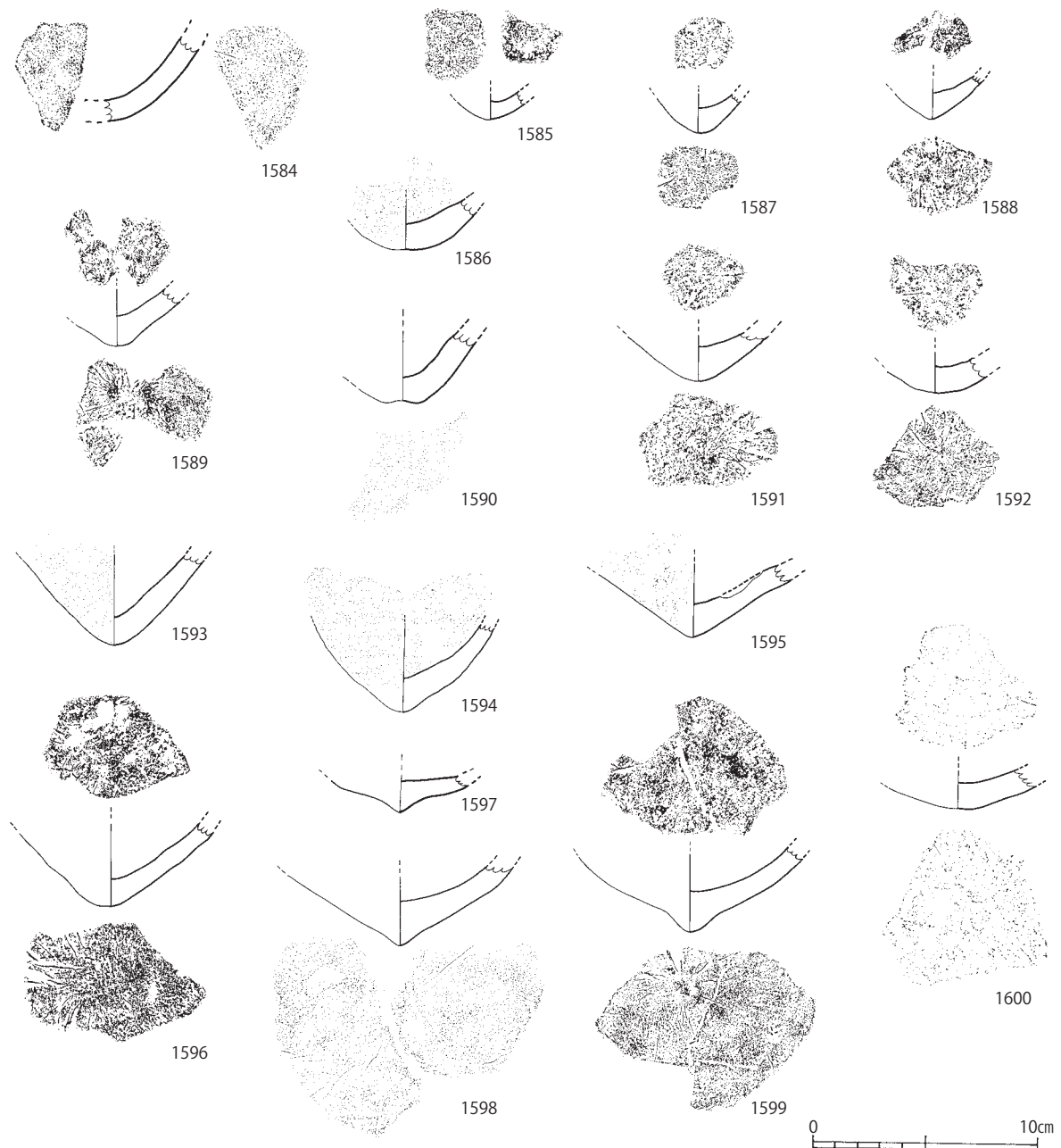
第402図 出土遺物実測図57-縄文時代早期-(44)

地方南部に分布する早期末の天神山式土器は、伊豆諸島ではアカホヤの直下から出土している（杉原・小田・丑野 1983）。そして天神山式土器より新しい下吉井式土器の新相は前期初頭の花積下層式土器と並行する（金子 2008）。したがってアカホヤ上位の轟3式土器（早期末）と下吉井式土器古相は並行関係にあり、轟4式が花積下層式と並行する前期初頭頃となる。

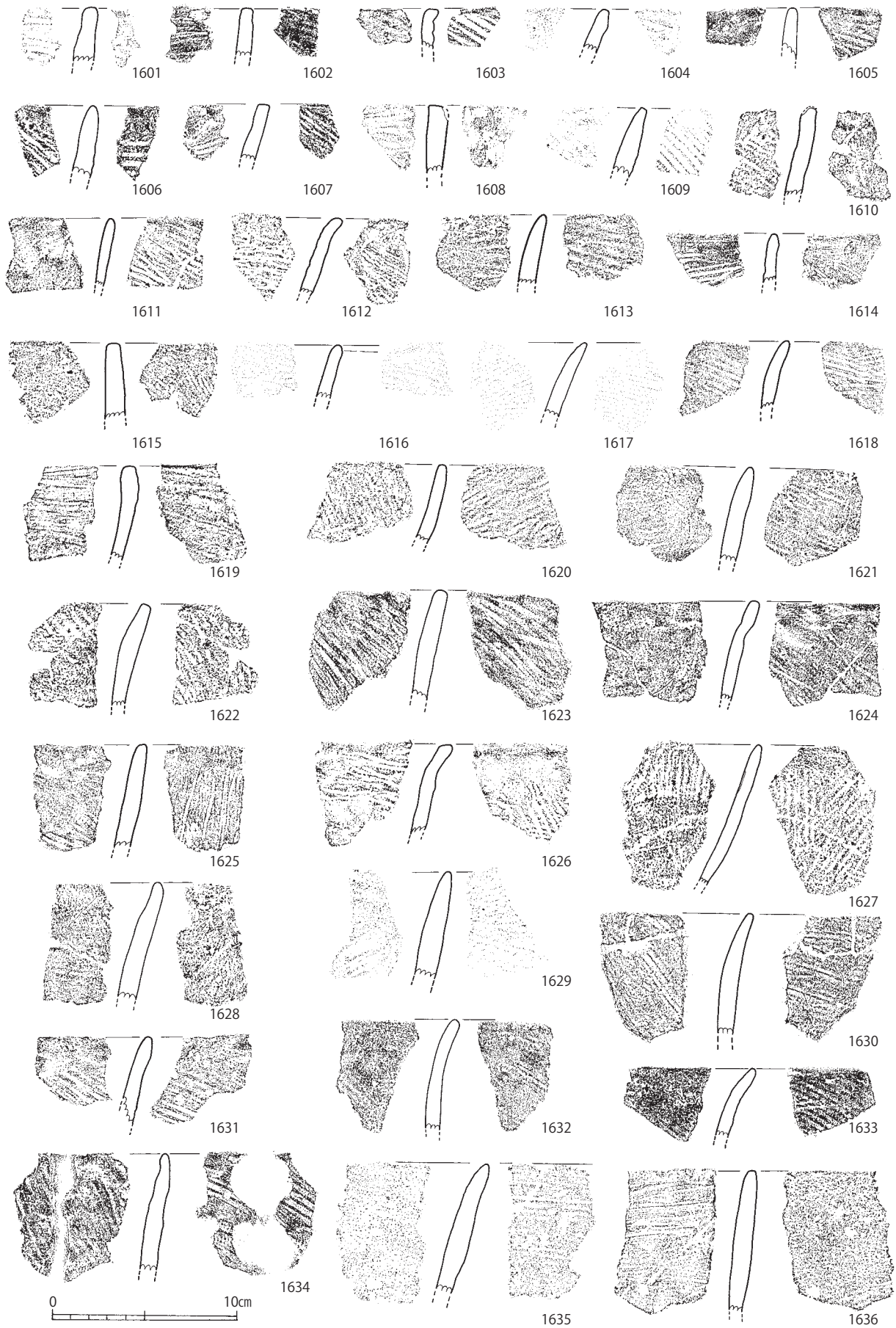
《参考文献》金子直行 2008「条痕文系土器」『総覧縄文土器』（株）アム・プロモーション 138-145

杉原重夫・小田静夫・丑野毅 1983「伊豆大島の鬼界-アカホヤ火山灰と縄文時代の遺跡」『考古学ジャーナル』224, 4-9

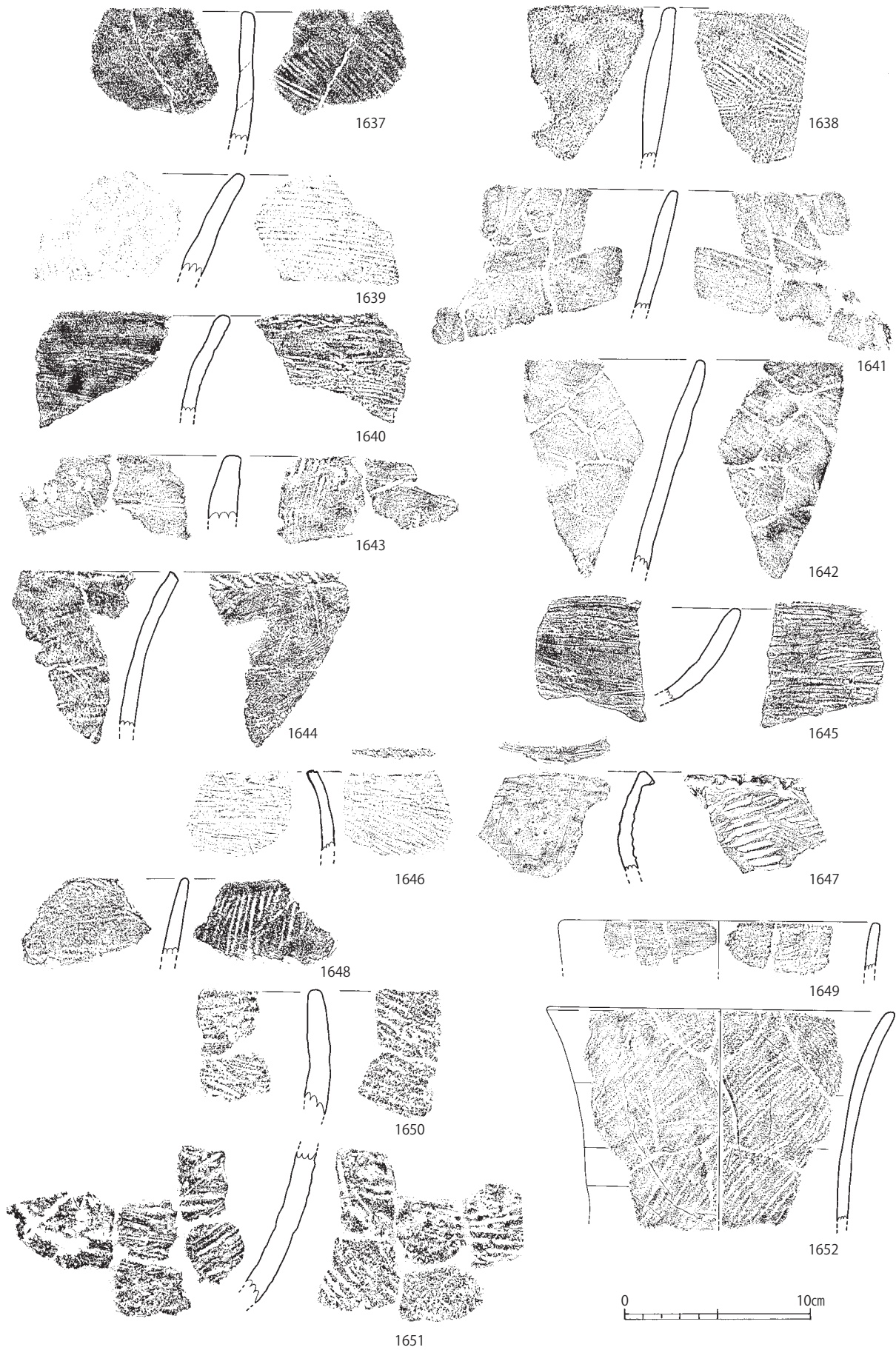
手向山式土器 胴部が鉢形もしくは椀形で胴部上位で屈曲し、ここから口頸部が大きく外反する土器で、口縁部の外面に縦方向の押型文、口縁部内面に横方向の押型文を施した例である（第370図844・845、第381図1062・1063、第382図1087、※845・1062・1063は同一個体）。口縁部内面に施されるのは間延びした山形文で共通するが、外面側は大きく異なり、①口頸部の外面に縦方向に山形文の間隔を空けて施す例（892・893・1058～1063）と、②後頸部外面に平行沈線状押型文と梯子状押型文を組み合わせた原体で縦方向に同じ文様を隣接させながら施文した例である（1087）。この平行沈線梯子状押型文は中央に梯子状押型、その周囲に2から3条の平行沈線状押型を刻んだ原体であるが、典型的な手向山式土器ではなく、あるいはプロトタイプ的な土器かもしれない。なお、この土器は0F区第3a層で出土し、内面側からの焼成前穿孔がある。



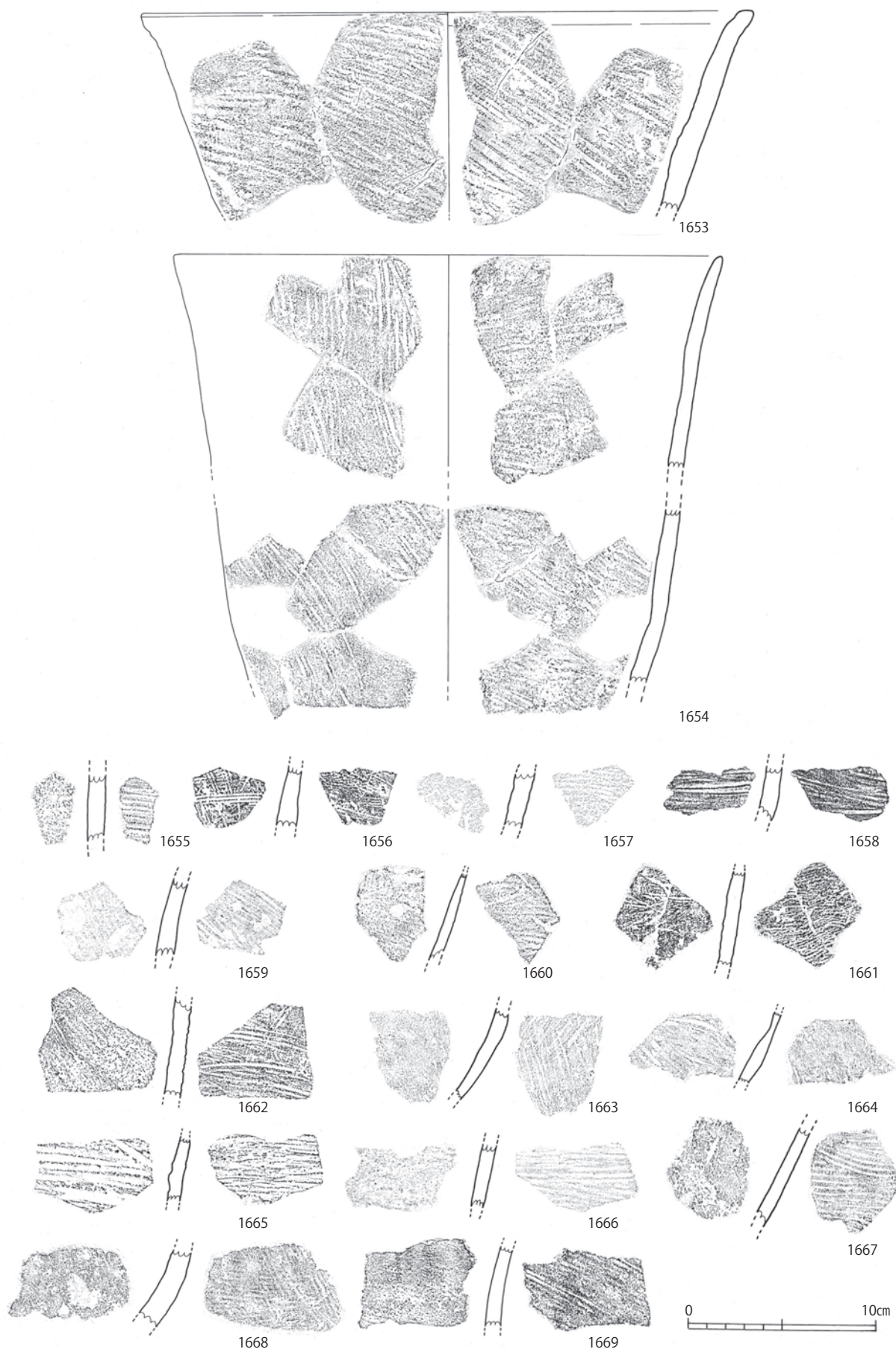
第403図 出土遺物実測図58-縄文時代早期-(45)



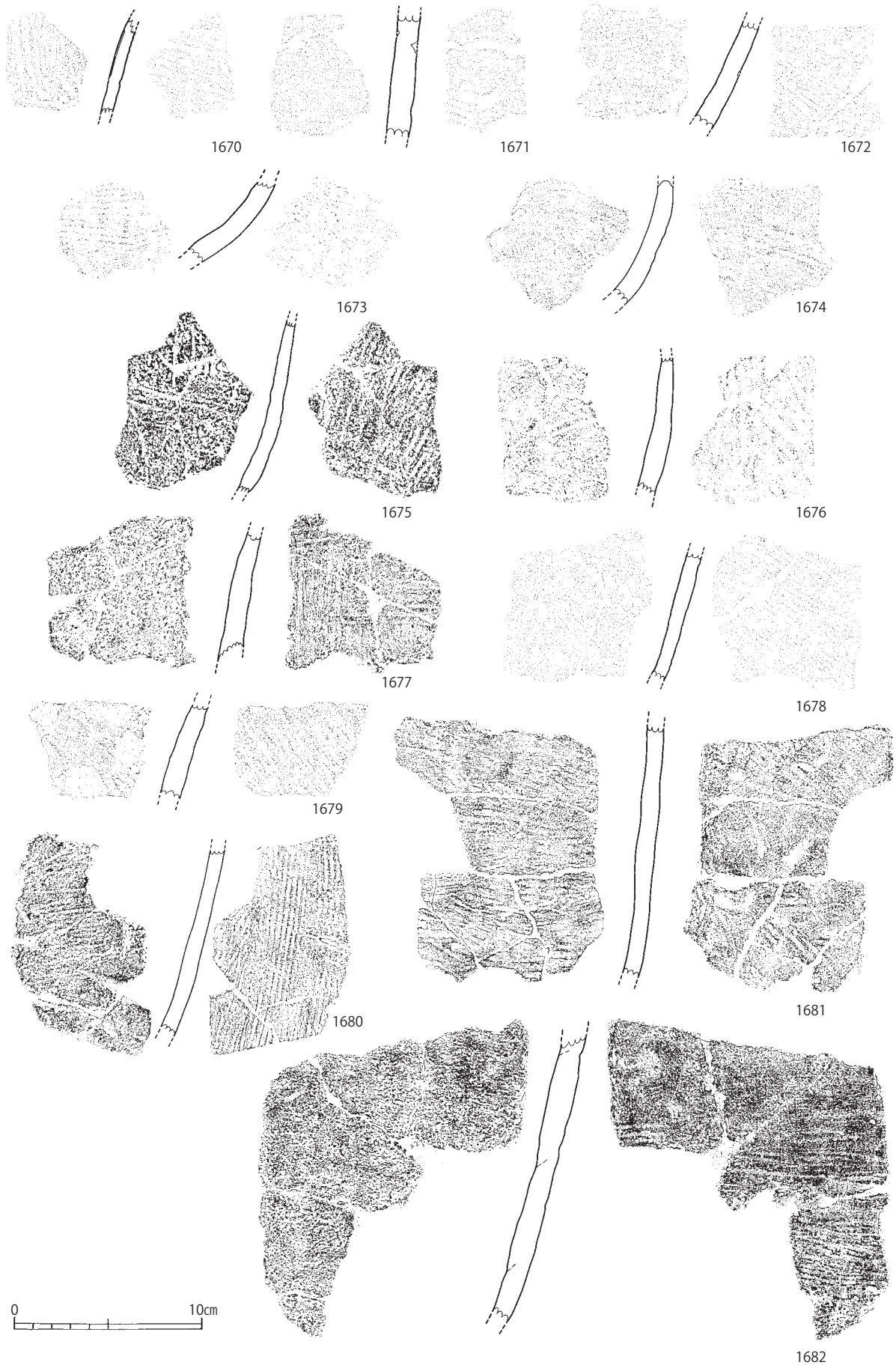
第404図 出土遺物実測図59-縄文時代早期-(46)



第405図 出土遺物実測図60-縄文時代早期-(47)



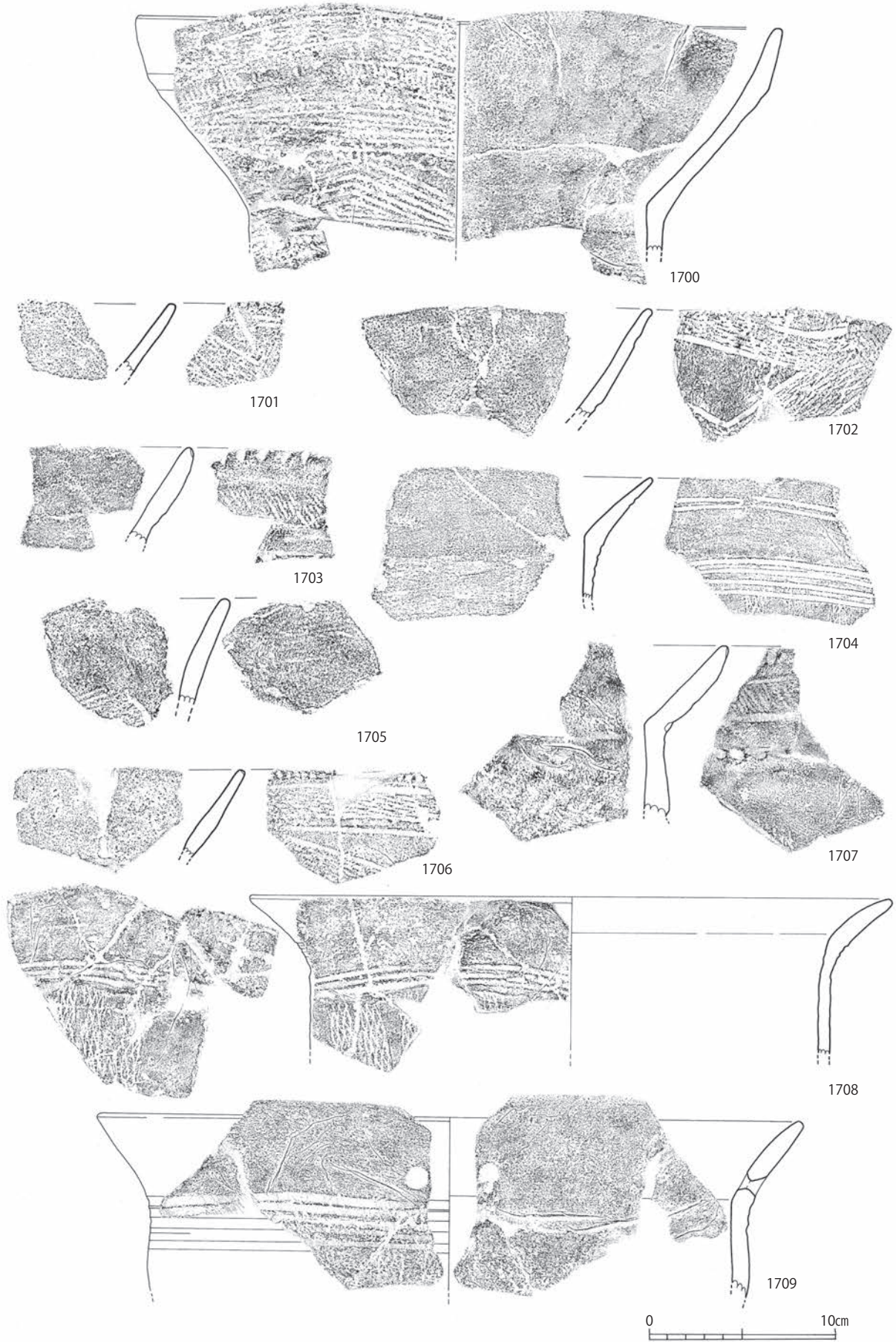
第406図 出土遺物実測図61-縄文時代早期-(48)



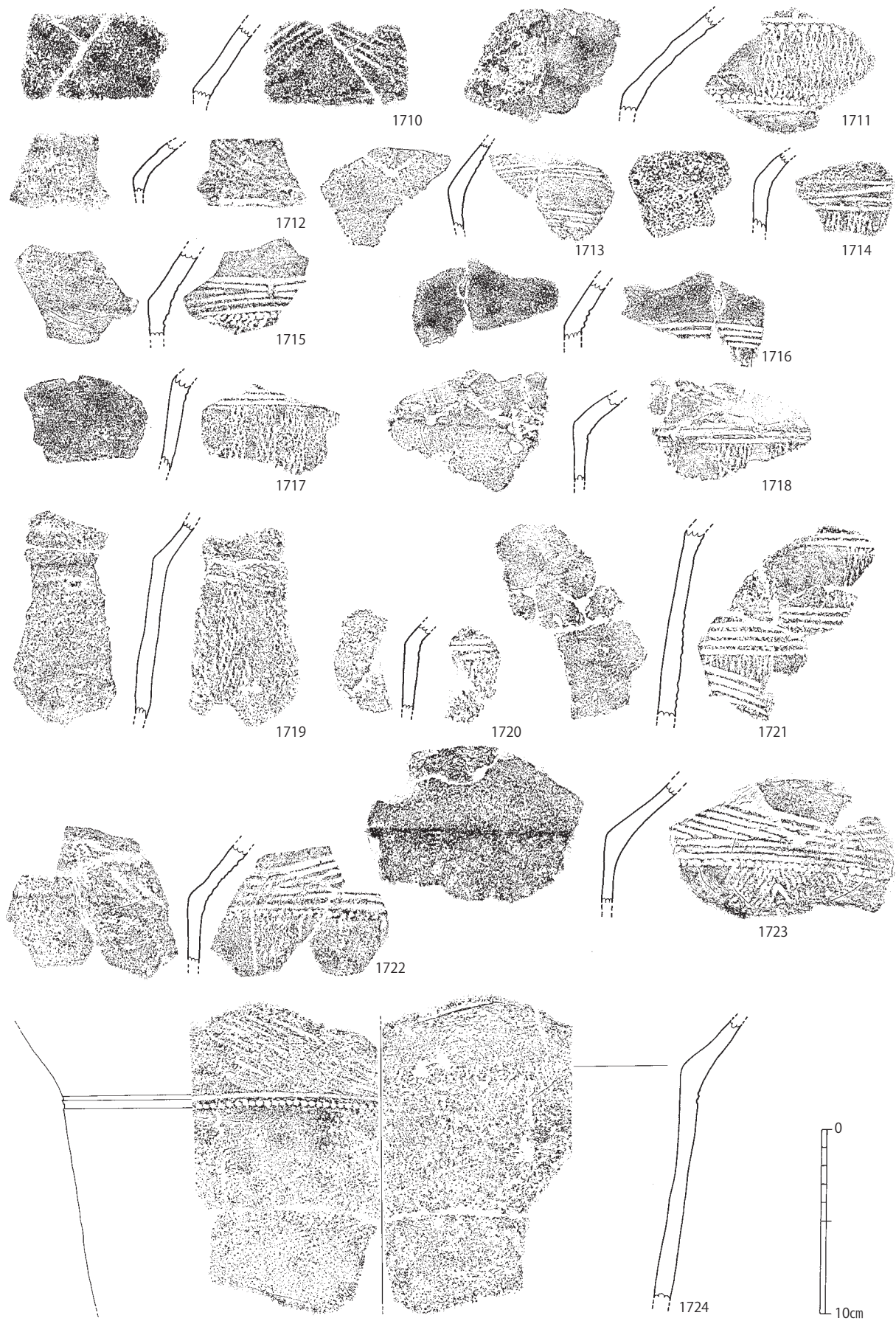
第407図 出土遺物実測図62-縄文時代早期-(49)



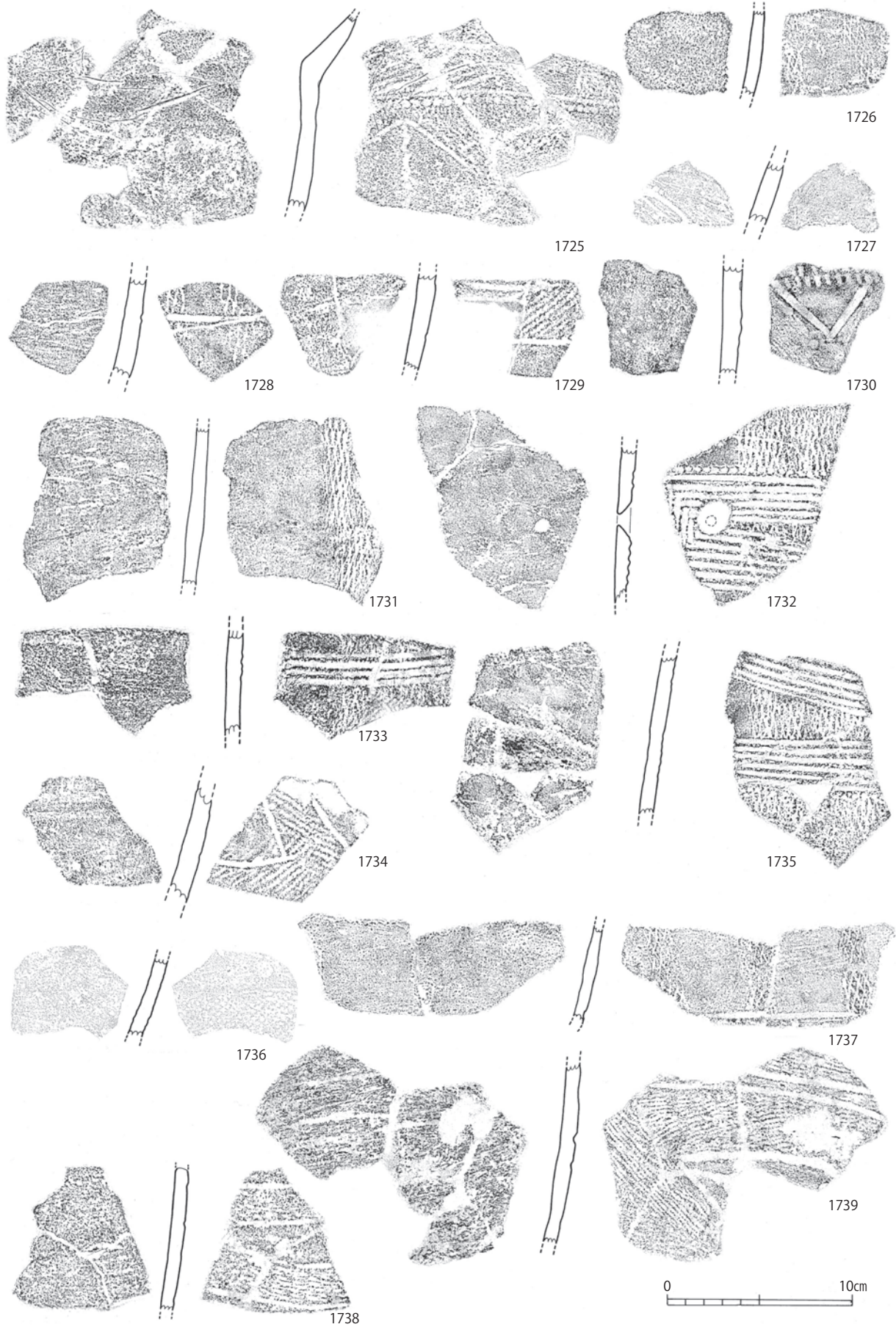
第408図 出土遺物実測図63-縄文時代早期-(50)



第409図 出土遺物実測図64-縄文時代早期-(51)



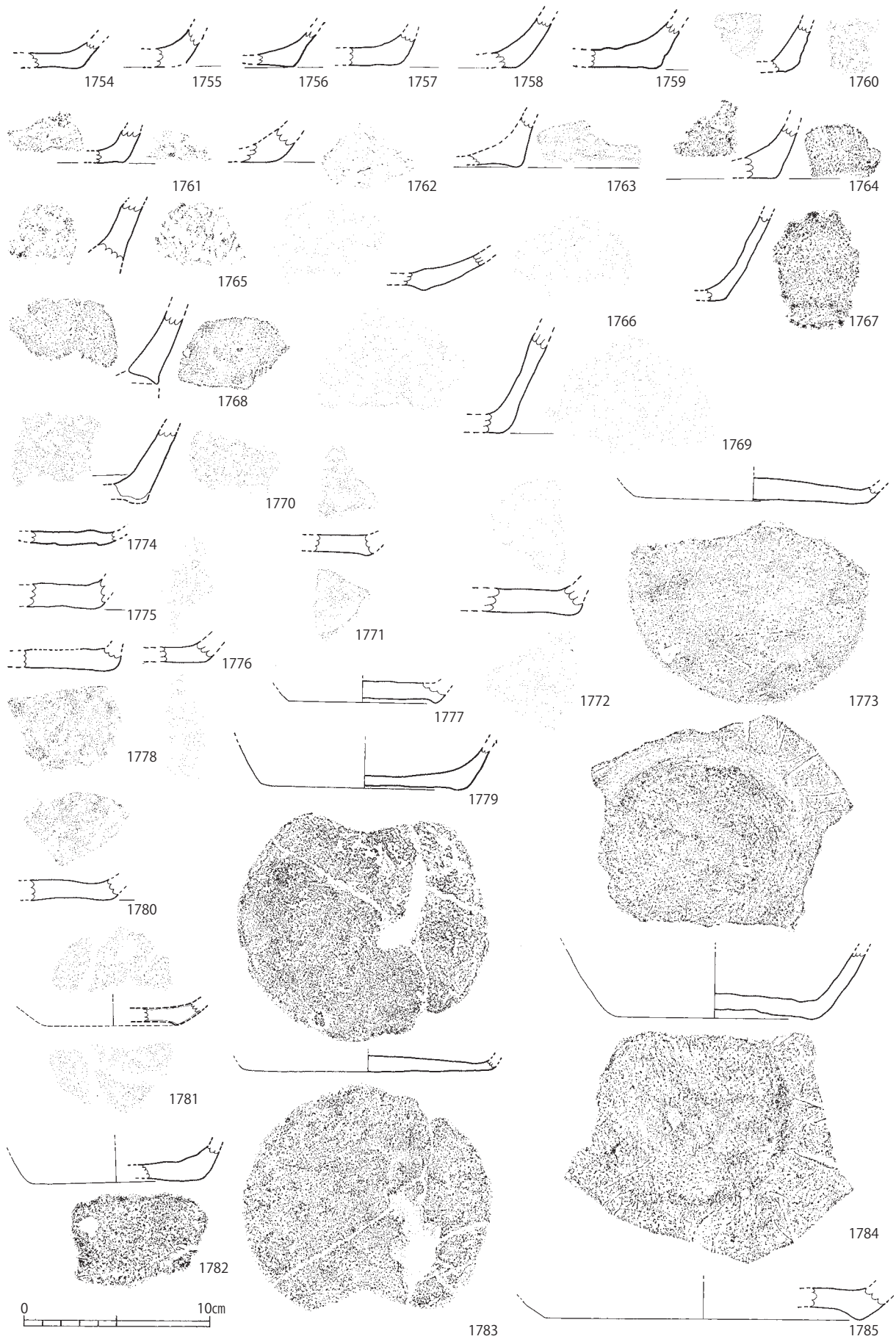
第410図 出土遺物実測図65-縄文時代早期-(52)



第411図 出土遺物実測図66-縄文時代早期-(53)



第412図 出土遺物実測図67-縄文時代早期-(54)



第413図 出土遺物実測図68-縄文時代草創期・早期-(55) ※縄文時代早期1767-1773・1777-1782-1784

平椀式土器 平椀式土器は、調査区の西端部付近に多く分布している。①胴部の最上部で屈曲し、頸部から口縁部が更に上方へ屈曲した例。口縁部が肥厚した文様帯の中に沈線を曲線状にいれ、間に列点を並べた例（第356図553、第408図1683～1686）。後者には口唇部に刻目がある。文様の特徴から平椀Ⅰ式土器に相当する土器である（註）。

塞ノ神式土器 底部平底で、円筒状に立ち上がり、上部でくの字状屈折する土器で、沈線や貝殻列点文を施す例（第408図1687～第412図1753）（註）。これらの土器は、調査区の西端部付近に多く分布している。①円筒状の胴部から頸部が斜めに外傾し、口縁部が屈折して立ち上がる例で、塞ノ神Ⅰ式土器中段階と思われる（1695・1697～1699、1700）。②口縁部と頸部の屈折が頸部側で僅かに細くなる程度で差がなくなるが、表面に刻目で表現した例がある（1696）。口頸部に数条の山形沈線文、胴部にも数条の平行沈線を引き、胴部の縦方向の区画に網目撚糸文を施した例があり（1710～1724・1732・1735・1735）、塞ノ神Ⅰ式土器新段階に相当する。③頸部と口縁部の境界がなくなり、口唇部の刻目と口縁部の列点は棒状工具で、頸部の列点は貝殻刺突を行う例で、塞ノ神Ⅱ式土器新段階に相当する（1687・1688・1690）。④口縁部が無紋で、胴部の区画文が網目状撚糸文である。口頸部の傾きが緩くなっているもので（1708・1709）、これも塞ノ神Ⅱ式土器新段階に相当する。⑤胴部の区画が幾何的な鍵状屈折した中に撚糸文を施した例で（1725～1731・1734～1739）、塞ノ神Ⅱ式土器中段階に相当する。⑥口頸部に貝殻列点文を数条施した例は（1691）、塞ノ神Ⅲ式土器中段階に相当する。⑦胴部と口頸部の屈折が緩くなり、外面に簡単な沈線が直線的・曲線的に施されるもので（1740～1752）、塞ノ神Ⅲ式土器新段階に相当する。

底部破片 やや上げ底の平底形態の底部破片であるが（第413図1767・1773・1777・1779・1782～1785）、手向山式土器・平椀式土器の可能性もある。

（9）縄文時代前期

轟式土器 九州北半の轟4式土器は（註）、外反や屈折もない単純な円筒形に近い深鉢である。隆起線は細く、上下を指によってナデつけるためミミズ腫れ状にはならない（第414図1786～1795・1798～1803・1812・1816・1817）。九州北半部の轟5式土器は、隆起線の数が少ない場合や口縁部と胴部に隆起線をもつものなどがある（第414図1796・1797・1801・1804・1805）。

羽島下層3式土器 「3」の字状刺突文ではない半裁竹管の刺突を数段にわたって施した例（第415図1819～1825）がある。また直線的で短い刺突痕のある例（第415図1826～1828）は、暫定的に羽島下層3式土器としておくが、これらの土器は西唐津海底遺跡から出土した土器にも類似していることを付け加えておきたい。

その他 胴部に一条の隆線を貼り付け、その上にやや直線的で細い爪形状刺突を施した例は（第414図1814・1815・1818）、羽島下層3式土器か。

註 平椀式土器・塞ノ神式土器・轟式土器の編年については、下記の論文を参考とした

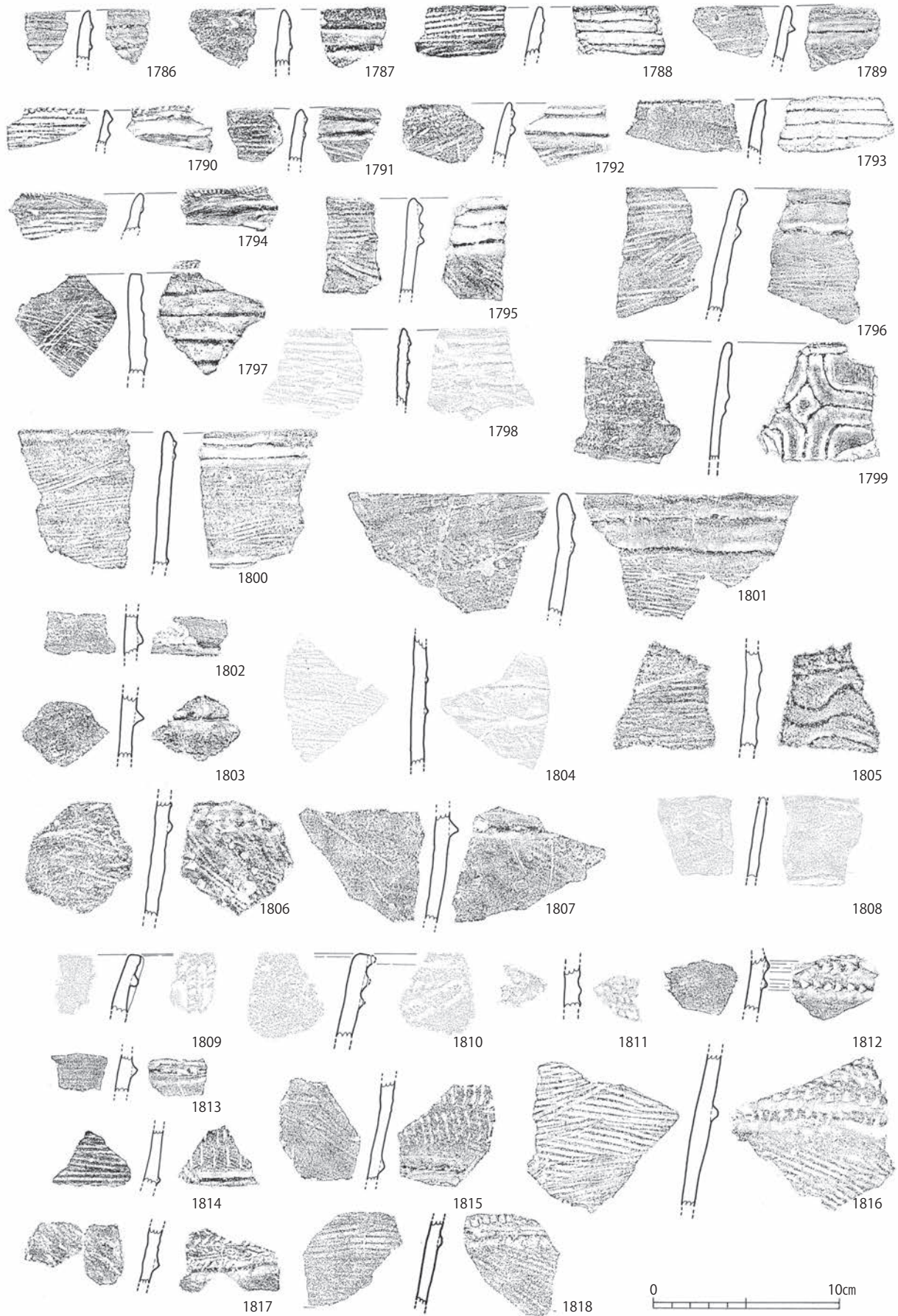
高橋信武 1989「轟式土器再考」『考古学雑誌』第75巻 第1号、日本考古学会、1-39

高橋信武 1997「平椀式土器と塞ノ神式土器の編年」『先史学・考古学論究』Ⅱ、熊本大学、1-39

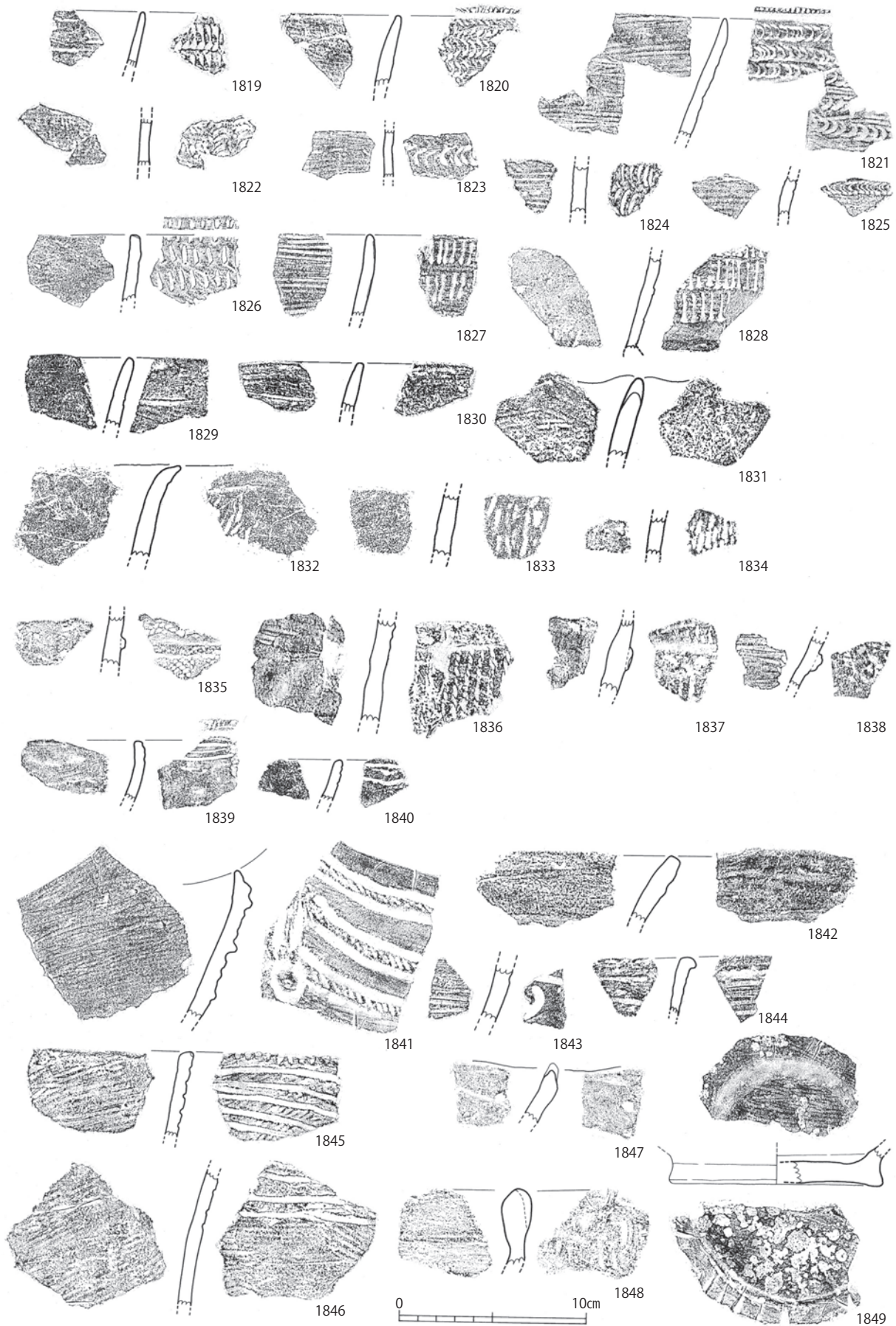
（10）縄文時代後期

福田K2式土器 波状口縁部外面の文様体に、二条で一単位の沈線が三単位あり、沈線間に磨りけし縄文が残る例で、波頂部の下に円形の沈線を施している（第415図1841）。

その他 条痕地に口縁部外面に5条前後の沈線をめぐらした例や（第415図1845・1846）、縄文時代後期の土器と思われる小破片がある（第415図1842～1844・1847～1849）。



第414図 出土遺物実測図69-縄文時代草創期・前期- ※縄文時代草創期1809-1811



第415図 出土遺物実測図70-縄文時代前期・中期・後期-

(11) 縄文時代の石器

ここでは森の木遺跡の遺構内ではなく、第Ⅱ層・第Ⅲ層(Ⅲa・Ⅲb層を含む)出土の石器類として取り上げたものを報告する。しかし第Ⅳ層上面で検出された遺構の上部堆積層として第Ⅲ層が堆積しており、本来遺構に帰属する遺物もある。遺物のうち、隆帯文系土器群については第4章で分布図として図示した。石器類については、包含層中における縄文時代各期の時期区分が不可能なので、区分は行ってないが、第Ⅱ層・第Ⅲ層の遺物分布図を提示している。第Ⅱ層は、アカホヤ及びその再堆積層であり、その直上域の黒色土を含んでおり、調査区の全域にわたって面的な取り上げ区分のできなかったことが実情である。第Ⅱ層は縄文時代前期の轟式土器や縄文時代後期の遺物を包含しているが、攪乱や自然的な要因で下層に主要包含層域のある縄文時代早期の土器も多く出土している。したがって、第Ⅱ層内の石器類には各期のものが含まれていることを示している。なお、報告・図示した石器類については巻末に観察表を掲載している。

まず土器の主要分布域について概観し、石器類の時期の参考にしておく。轟系の土器は量が少ないが、調査区の東部を中心に広範囲に広がる。手向山式土器・平袴式土器・塞ノ神式土器は、調査区の3列以西に分布の中心がある。押型文系の土器は、調査区の5列以西に分布の中心があるが、全域に広がる。無文土器は、調査区の全域に広がるものの、遺構から出土するのは縄文時代草創期後半の南部竪穴建物群として説明してきた5E区・6E区・7E区・8E区・9E区・6F区・7F区・8F区・9F区で多い。縄文時代草創期中頃の隆帯文系土器は8C区・9B区・9C区・10B区・10C区・8D区・9D区・10D区・8E区・9E区・10E区に集中し、その東側の11D区・11E区・12D区・12E区で少量出土している。

石鏃 抉りのある例(第416図1852~1886、第417図1887~1906・1911・1916・1917、第420図1961・1962、第423図2002、第430図2045)

抉りの奥部の縁部が半円形をした例 ①長さより幅広で抉りのある例で、脚部の端部が水平もしくはやや斜行する例(第416図1852・1853・1854) いずれも0D区のⅢ層から出土している。②脚部の抉りが深く逆U字形で端部が丸い例で(第416図1860・1864・1865・1866・1870・1871・1873・1877、第417図1893・1897・1899)、このタイプは、縄文時代早期押型文土器段階に多い鍬形石鏃と呼ばれている。③脚部の抉りが浅く逆U字形で端部が丸い例(第416図1875・1876・1879)、④脚部の抉りが深く端部が内側に内傾する例(第416図1858・1863・1867・1868・1878、第417図1891・1894)は、縄文時代早期押型文土器段階に多い鍬形石鏃と呼ばれている。⑤脚部の抉りが深く端部が外側に外傾する例(第416図1855・1856・1859・1872)、⑥脚部抉りが深い鋭角の二等辺三角形で脚部が尖る例(第416図1857)、⑦脚部の抉りは浅く、鈍角もしくは鋭角な二等辺三角形の例(第416図1883・1884)がある。⑧直線的な外縁で、脚部抉りが鋭角な例(第417図1901~1904)は、縄文時代前期以降に多い。⑨脚部の抉りが弧状の例(第417図1908・1910・1911・1914・1916、第425図1920~1928)

抉りのない例(第417図1907・1909・1912・1913・1918、第418図1920~1930)

抉りのない例に分類した石鏃のうち9C区と10C区から出土した例は(第417図1907・1909)、これらはこのあたりに特に多い隆帯文土器段階に帰属する可能性がある。同様に⑨に分類した抉りの浅い例の石鏃は(第417図1908)、9F区から出土しており、この辺りに多い縄文時代草創期後半期の竪穴建物などの時期に帰属する可能性がある。このほか、最大幅が中央やや下に位置し、その最大幅の2.7倍の長さを有する平基の石鏃がある(第418図1929)。これは長崎県あたりで「大久保型石鏃」と呼ばれているもので、塞ノ神式土器もしくは押型文土器に伴うとされていたものようだ(鎌田1999)。

《参考文献》鎌田洋昭1999「帖地遺跡における帖地型石鏃について - 出自と展開についての展望 -」『第6回 企画展示ドキドキ縄文さがけ展』図録』指宿市教育委員会 53-65

石鏃の未成品(第418図1933~1949、第419図1950~1952・1954・1956、第422図1986~1991、第430図2045~2048・2054)

尖頭状石器(第419図1953・1955) 石鏃の未成品とも考えたが、石鏃の完成規模からすると2倍もしくは3倍程度あることと、厚さがかなりあるので石鏃の未成品とは考えなかった。暫定的に尖頭状石器と考えておく。

トロトロ石器 上端が半円形で、下端部は石鏃の脚部のような「し」の字状突起がある。石材は、この種の石器に特徴的な青黒い縞模様と白もしくは半透明な縞模様のあるチャートを用いており、縞模様が主軸に直交するように製作されている場合が多いものである(第420図1957~1959)。トロトロ石器は、石の下に集中する状況で出土することもあって祭祀性の強い石器として知られている。

石錐 端部を尖らせた石器で、穿孔具（工具）と考えられる（第420図1960・1963、第422図1992）。大型品は、あるいは旧石器時代後期の角錐状石器とも考えたが、この時期の類例が本遺跡では出土していないことと、典型的な例からするとやや変形していることから石錐と考えた（第420図1963）。

スクレイパー ①円盤形で、両面に求心的な剥離痕が観察され（第420図1964）、端部が鑿状に湾曲している。②縦方向に長い例（第420図1965、第421図1974・1975・1979、第422図1981・1994・2001）。このうち左右の縁部に刃部の加工痕があり、下端で収束する例（1965）、右縁と刃部加工のある左縁が下端で収束する例がある（1981・1994）。③サム・スクレイパーに分類される例（第422図1995・1997、第431図2078）。④片側の縁部に直線的な刃部加工痕のある例（第346図433、第430図2057、第431図2084）。⑤鋸歯縁状の加工がある例（第428図2040）。⑥幅広の半円形のエンド・スクレイパー：縦横が11.5cm×12.8の大きさを有する。加工は表面側に半円状に施す（第433図2099）。⑦縦に長く、平面形が下膨れしたような形のエンド・スクレイパーである（第433図2103）。⑧その他、小型のスクレイパー類もある（第423図2007・2013・第430図2050・2064・2065・2067、第433図2102）。

楔形石器 ①上下両端からの剥離痕が観察される（第421図1976、第422図1985・1993、第430図2060・2061、第431図2075・2076・2077、第432図2088）。②石斧転用の楔形石器（2088）。楔形石器は、フランス語のピーエス・エスキーエ（*piece esquillee*）からきた用語で、上下両端方向から延びる両面調整状の剥離痕が存在することに特徴がある。縄文時代の各期に観察されるが、縄文時代早期に特に多い傾向がある。

石匙 ①横形の石匙（第420図1966・1967、第422図2000）：横形の石匙は、摘み部が横にずれる例と（1967・2000）、中央に位置する例がある（1966）。②縦形の石匙（第420図1968・1969）：縦形の石匙は、幅広の摘み部を有する例（1968）と幅狭い摘み部の例がある（1969）。この二例と横型の一例は（2000）、第Ⅱ層から出土しており、縄文時代前期以降の可能性はある。

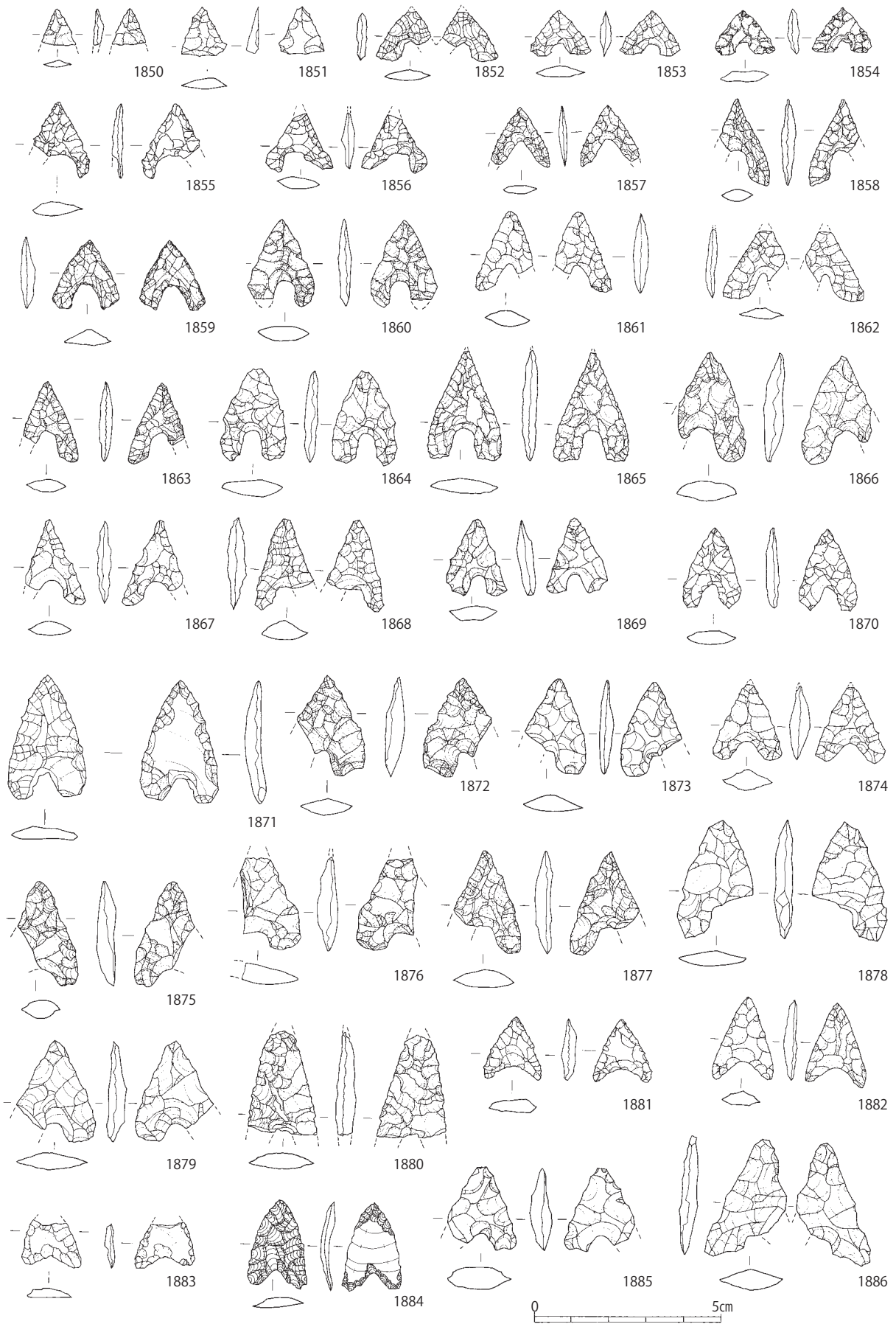
ヘラ状石器 下端部が幅広で、上端部がややすぼまる細長い形態の石器で、表裏両面を調整剥離によって整え、下端部を刃部としている（第346図446、第417図1919）。表面採集品であるが、縄文時代草創期の土器が多い第Ⅳ次調査区で出土している。ヘラ状石器は、愛媛県上黒岩遺跡9層など近畿から中部地方における縄文時代草創期前半の遺跡で特徴的に出土する。

石斧 ①単純な剥離痕であり、扁平で、平面形がダルマ状の形をした例で、石斧の未成品であろう（第432図2094・2095）。前者は、廃土から出土で、後者は0E区の第Ⅲa層から出土したので、向山式土器・塞ノ神式土器・平楯式土器など縄文時代早期後半頃の石斧である。②扁平で短冊形をした石斧で、帰属年代が縄文時代後期の可能性はある（第433図2096・2100：表面採集資料）。③細型の短冊形をした扁平な石斧で、第Ⅱ層から出土しているため、縄文時代前期以降の可能性はある。④扁平で短冊形をした石斧：幅広い剥離痕（ポジ面）を裏面側に有しており（第433図2101）、0E区Ⅲa層S045集石から出土しており（第126図）、縄文時代早期後半の塞ノ神式土器段階頃と考えられる。⑤胴部から基部側が破損しているが、平面形は下膨れしたような形態で、刃部が半円形をしている（第433図2104）。刃部側からみると、横断面観が山形・甲高であり、古相のものと考えられる。⑥幅広剥片の長軸方向の端部を研磨した小型の局部磨製石斧である（第432図2087）。剥片をそのまま研磨したとみられ、整形をした剥離痕はない。その他、石斧の破損品がある（第437図2128）。

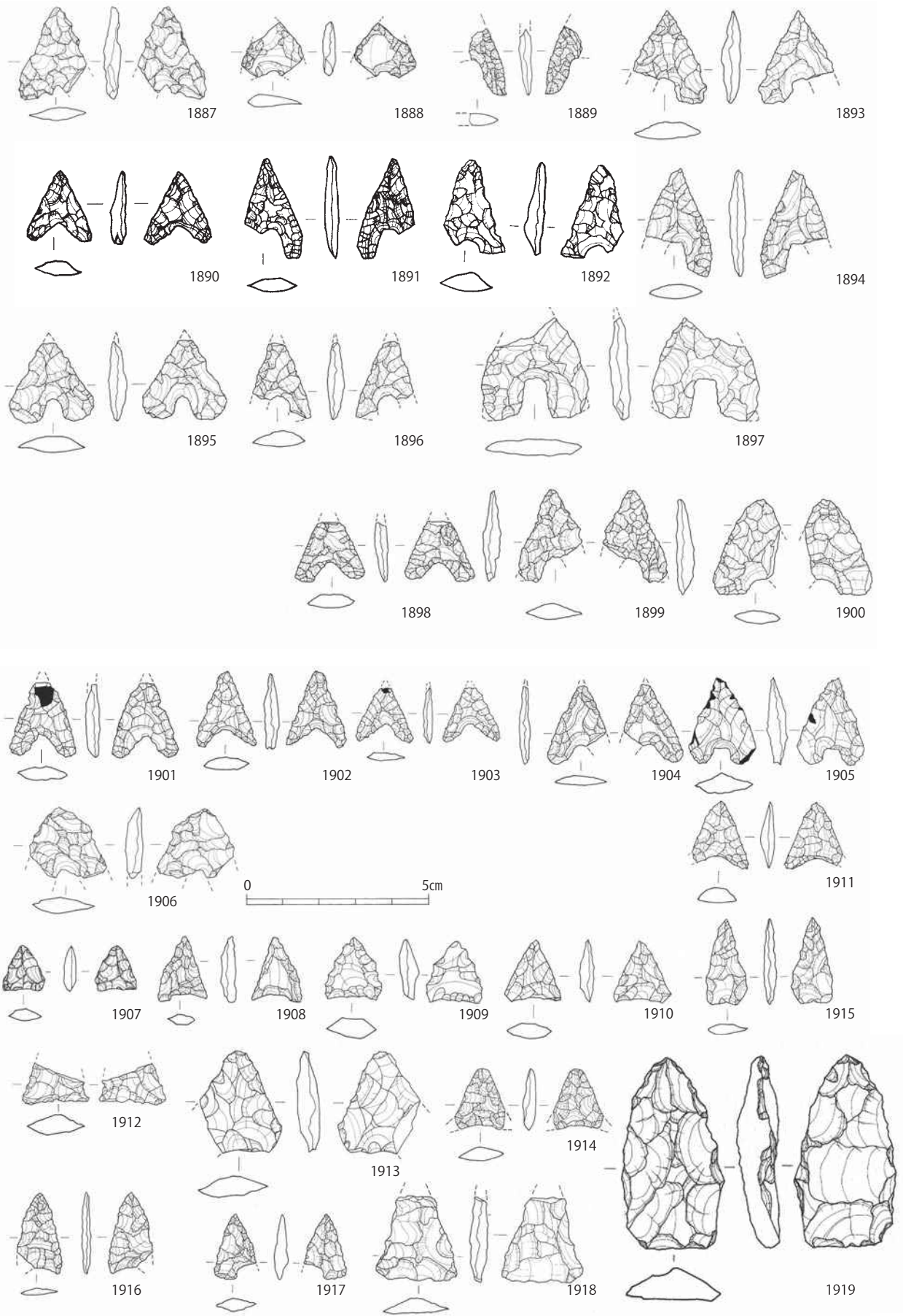
環状石斧 本例は、集石45の付近から出土したので、平楯式・手向山式・塞ノ神式土器の段階であろう（第476図2431）。

石錘 長さ5cm・幅4cm程度の石錘が5点見つかった（第475図2411～2415）。一例は第Ⅱ層からの出土で、縄文時代前期以降に帰属する可能性がある（2411）。なお、加工技術は、切目石錘が1点で（2415）、他は打ち欠き石錘である。いずれも小型の石錘で、隣接する大越川・堅田川での河川漁に用いたのだろう。

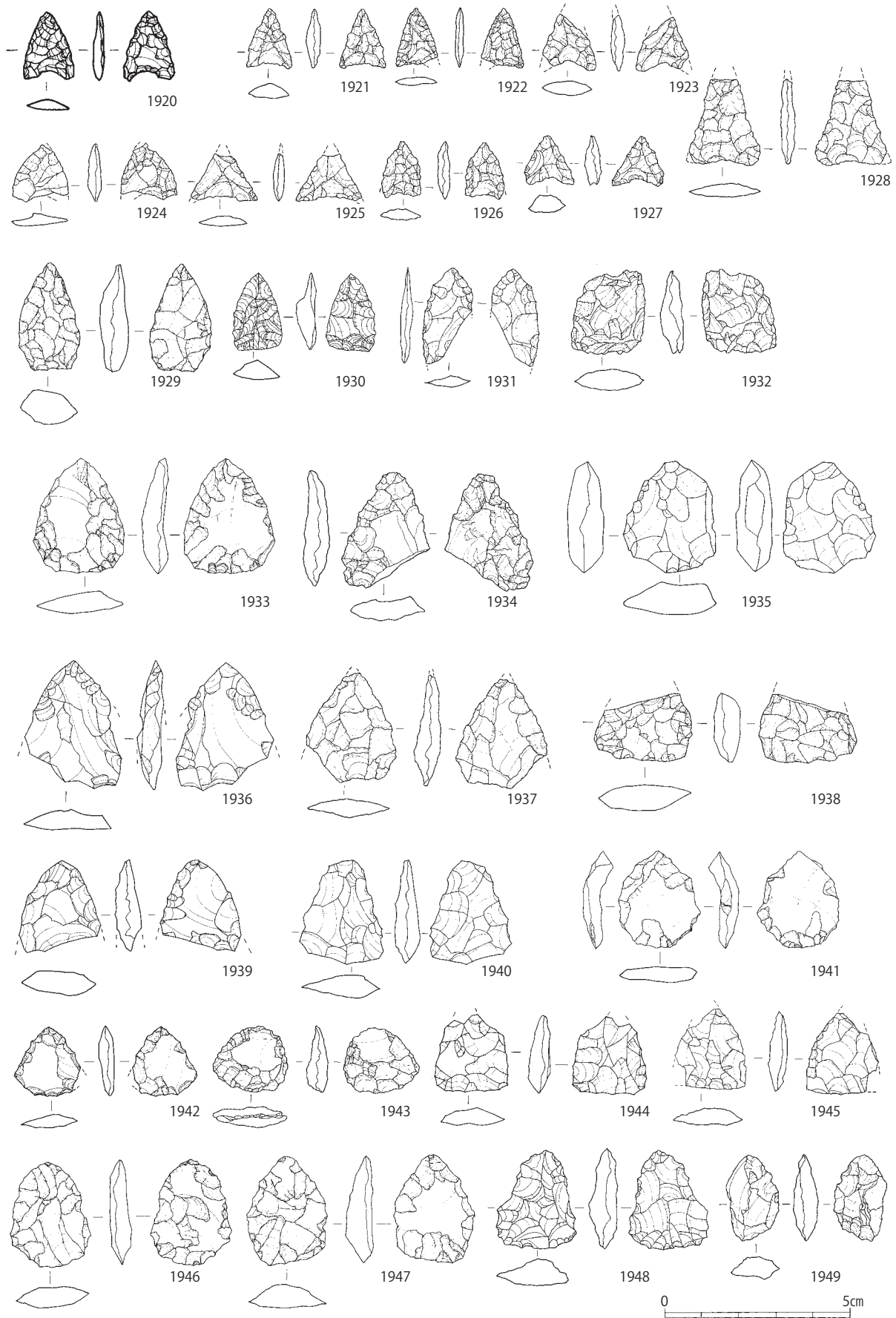
礫器 礫や礫面を多く遺した大型剥片などを素材とし、一端もしくは複数の端部を敲打によって整形した大型石器である（第434図2105～第436図2115、第460図、2320、第465図2361、第467図2365、第468図2378）。素材が様々であり、製作された礫器に形態上の規則性はほぼない。両側部に面的な調整を加えた例があるが（2115）、これは石斧の未成品である可能性もある（2115）。これらの礫器は、大分県内の縄文時代早期遺跡において、普遍的な石器であり、大分市一方Ⅰ遺跡・同市古城山遺跡・同市黒岩遺跡・日出町早水台遺跡・同町エゴノ口遺跡・佐伯市佐伯門前遺跡・同市井ノ上遺跡等、枚挙に暇がない。かつて前期旧石器に関する丹生遺跡などで大量の礫器が出土したことがあるが、今日では斧形石器を除く礫器類は縄文時代早期のものと考えられる。



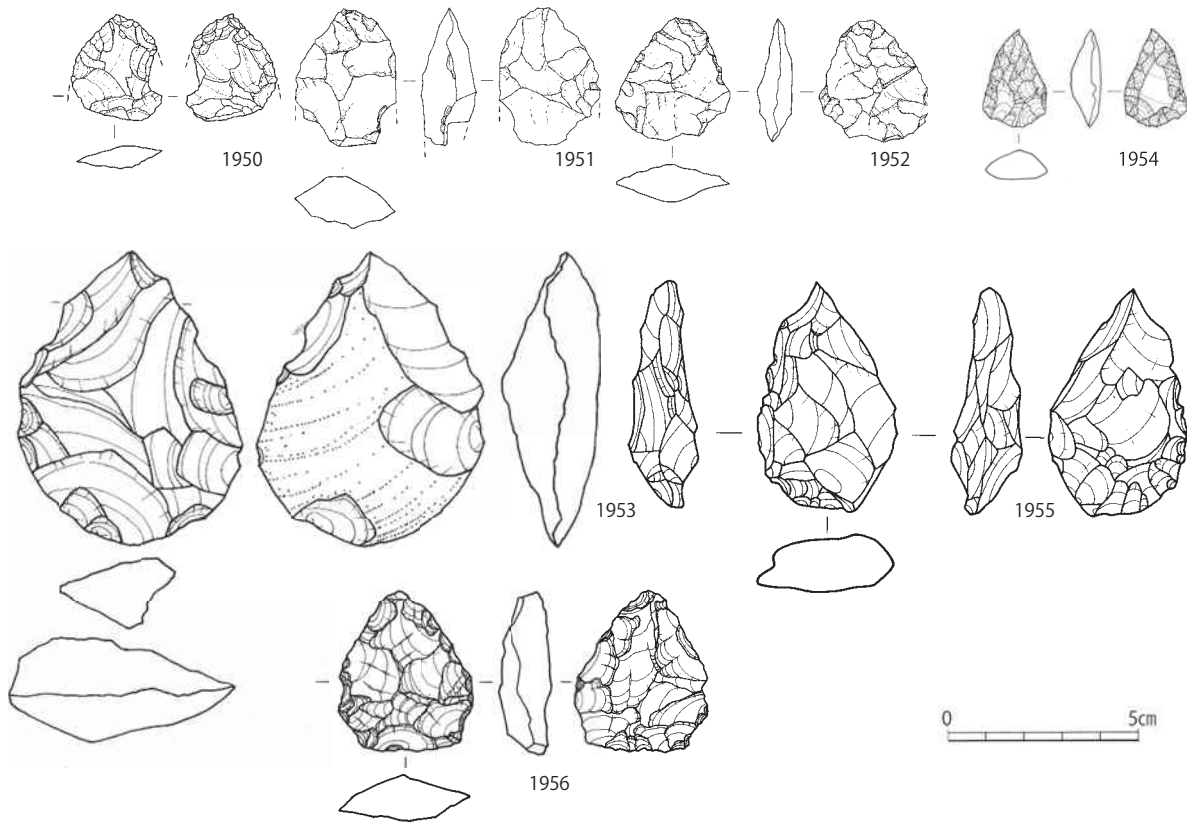
第416図 出土遺物実測図71-縄文時代の石器-(1)



第417図 出土遺物実測図72-縄文時代の石器-(2)



第418図 出土遺物実測図73-縄文時代の石器-(3)



第419図 出土遺物実測図74-縄文時代の石器-(4)

砥石 棒状の結晶変岩礫を用いた砥石で、端部を片刃状に加工しているほか、体部の長軸に対して斜行する線条痕が各面に残っている（第12図6）。その形状と線条痕の付き方から受身としての工具ではなく、むしろ鑿（やすり）のような使い方をした工具と推定される。この砥石は1H区の第Ⅲ層から出土しており、縄文時代早期中頃までの例であろう。この他、扁平な砥石が2点ある（第437図2120・2121）。

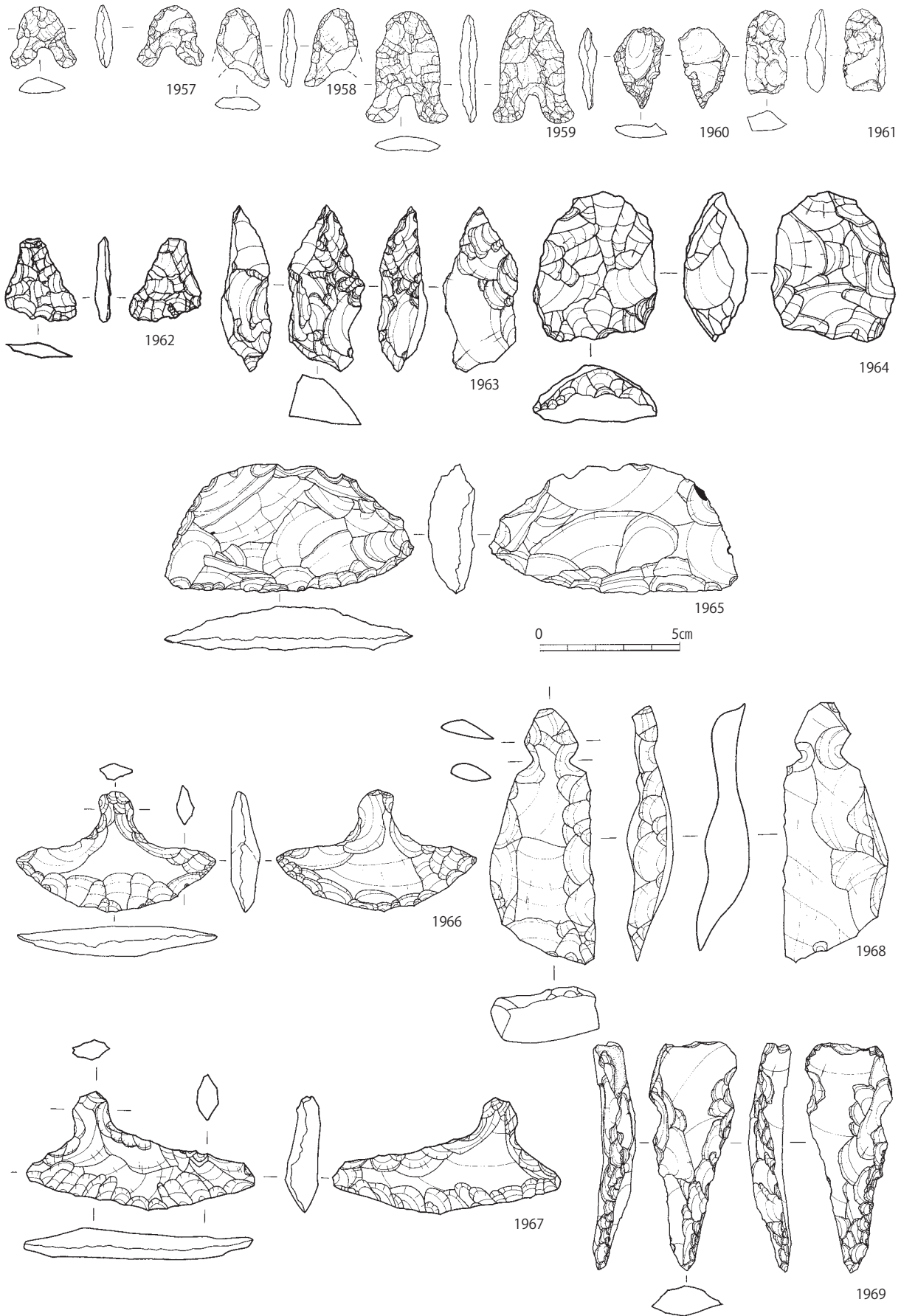
凹石 凹石は4点出土しており、平面形が円形で表裏両面に凹部がある（第443図2207、第448図2250、第454図2293、第457図2311）。これらの凹部の状態は内部が滑らかで、敲打で形成されたものではない。一例は、凹部の直径が3.5cm、窪みが著しく、0.6cm・0.7cmもある（2311）。

敲石・磨石 棒状角礫を利用したものや（第437図2117～2119・2122～2127、第438図2129～2134）、円礫を利用したものがある（第439図2135～第443図2206、第444図2208～第448図2249、第448図2251～第454図2292・2294～第457図2310・2312～第459図2318）。このうち、敲石・磨石の形態分類上「石鹼形」と呼ばれる例が三例ある（2279、2290、2308）。これは、楕円礫の長軸側の両側面が均等な敲打作業によって潰れた結果、平面形や断面形が石鹼のような形態になった例であり、縄文時代早期に特有の敲石・磨石である。

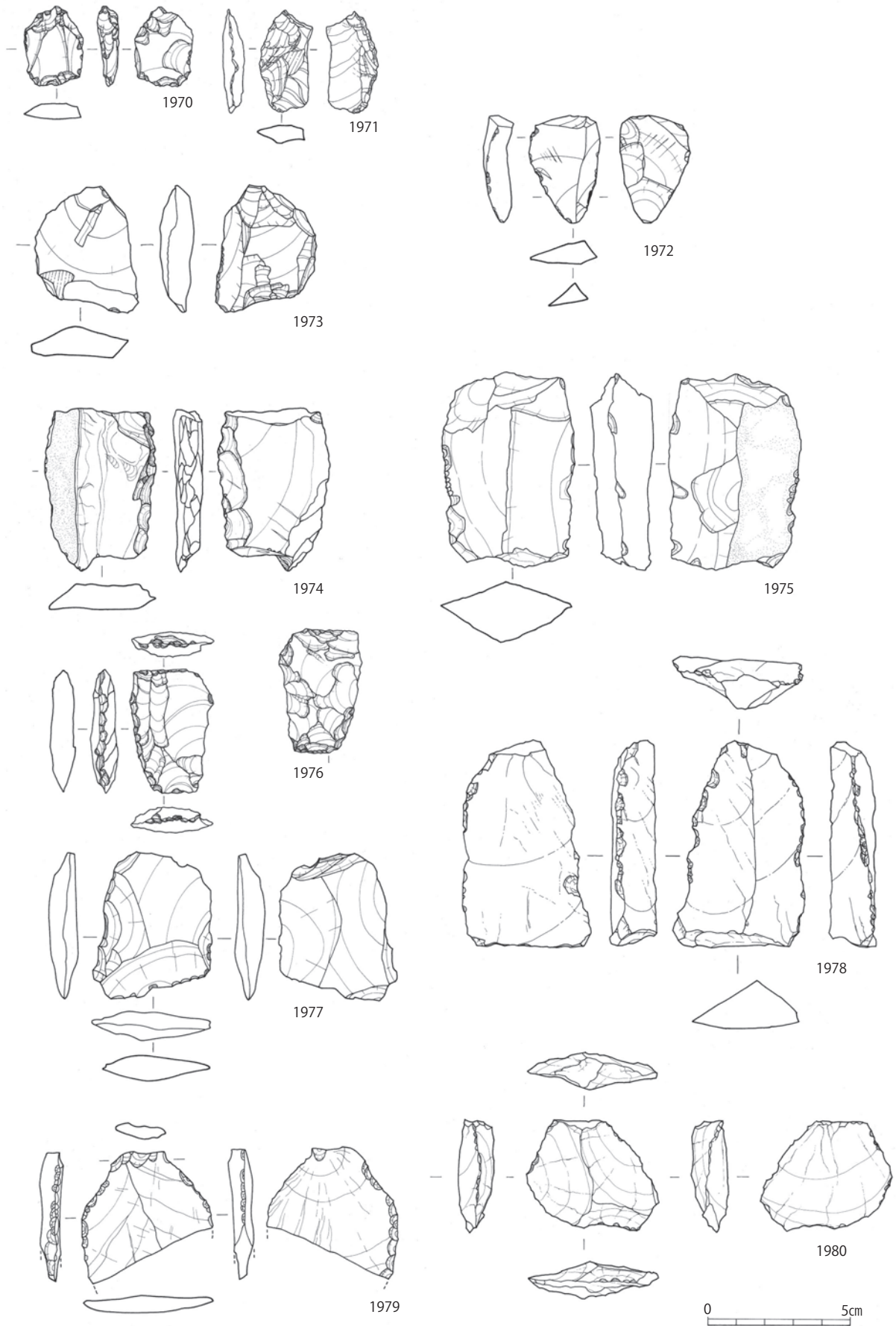
台石 大きな石の平坦面に敲打痕や磨滅痕が観察される例で、集石の近くや内部、配石の内部で発見される場合が多い（第460図2319・2321～第465図2360、第465図2362～2364、第466図2366～第468図2377・2379～第474図2410）。中には、礫器の刃部作出のように整形加工を加えた例もある（2361・2365・2378・2409）。これらの加工が、その大きさから敲打具として礫器に加工されたとは考えにくく、一案として設置する際の整形とも考えられる。

石核 剥片石器様の素材を剥離した石核である。森の木遺跡の石核は、基本的に打面を移動させて剥片剥離を行っている。

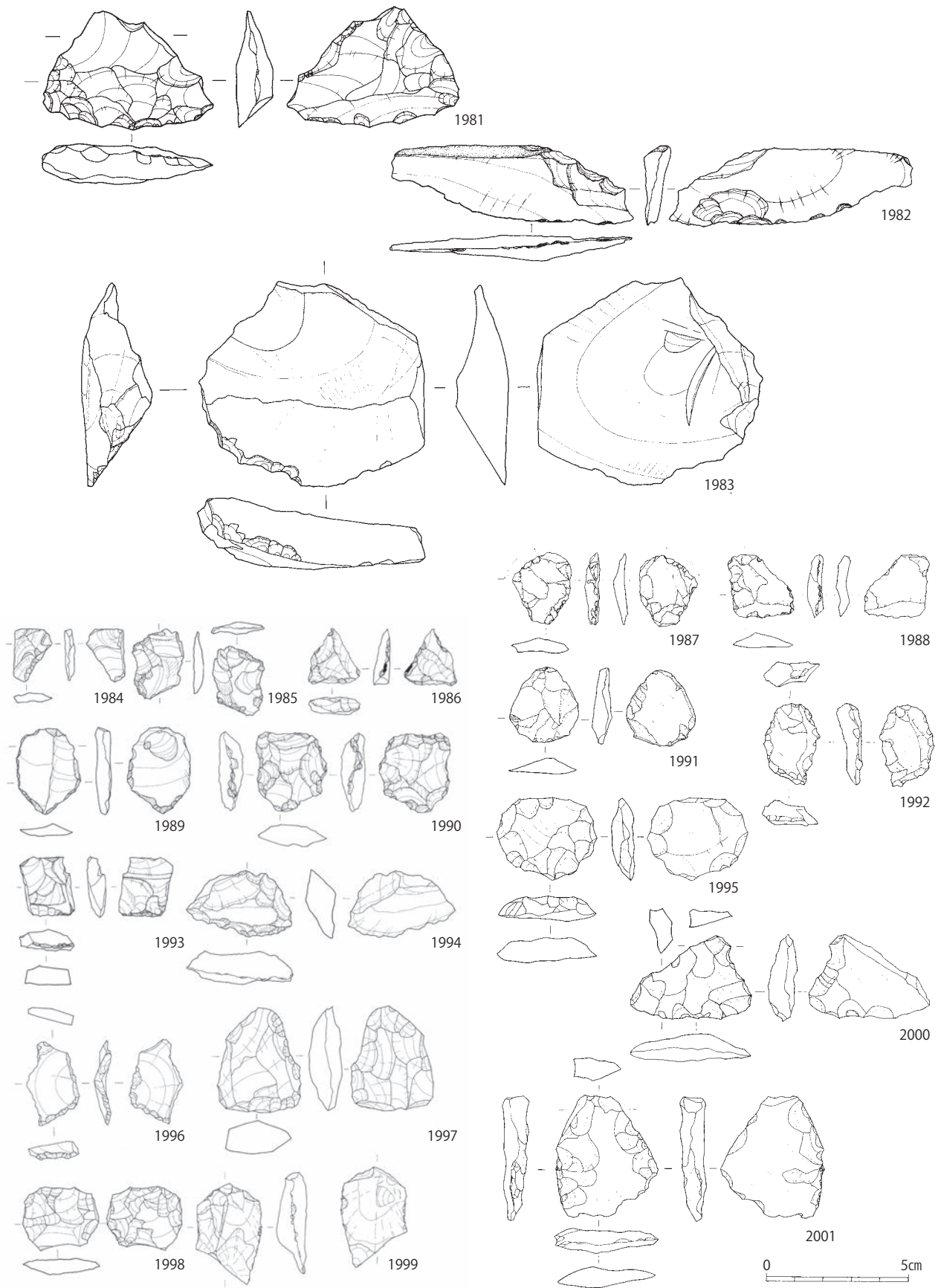
石核は近傍のチャートや泥岩など、角礫形態の原石を用いていることもあって、多面体である。①太型角柱形態で上下両端方向からの剥離の例（第425図2026・2028、第427図2041）、②太型角柱形態で打面を回転しつつ短軸方向からの剥離をした例（第425図2030、第426図2033・2034・2035、第427図2039）③扁平で表裏両面に求心的な剥離を行う例（第425



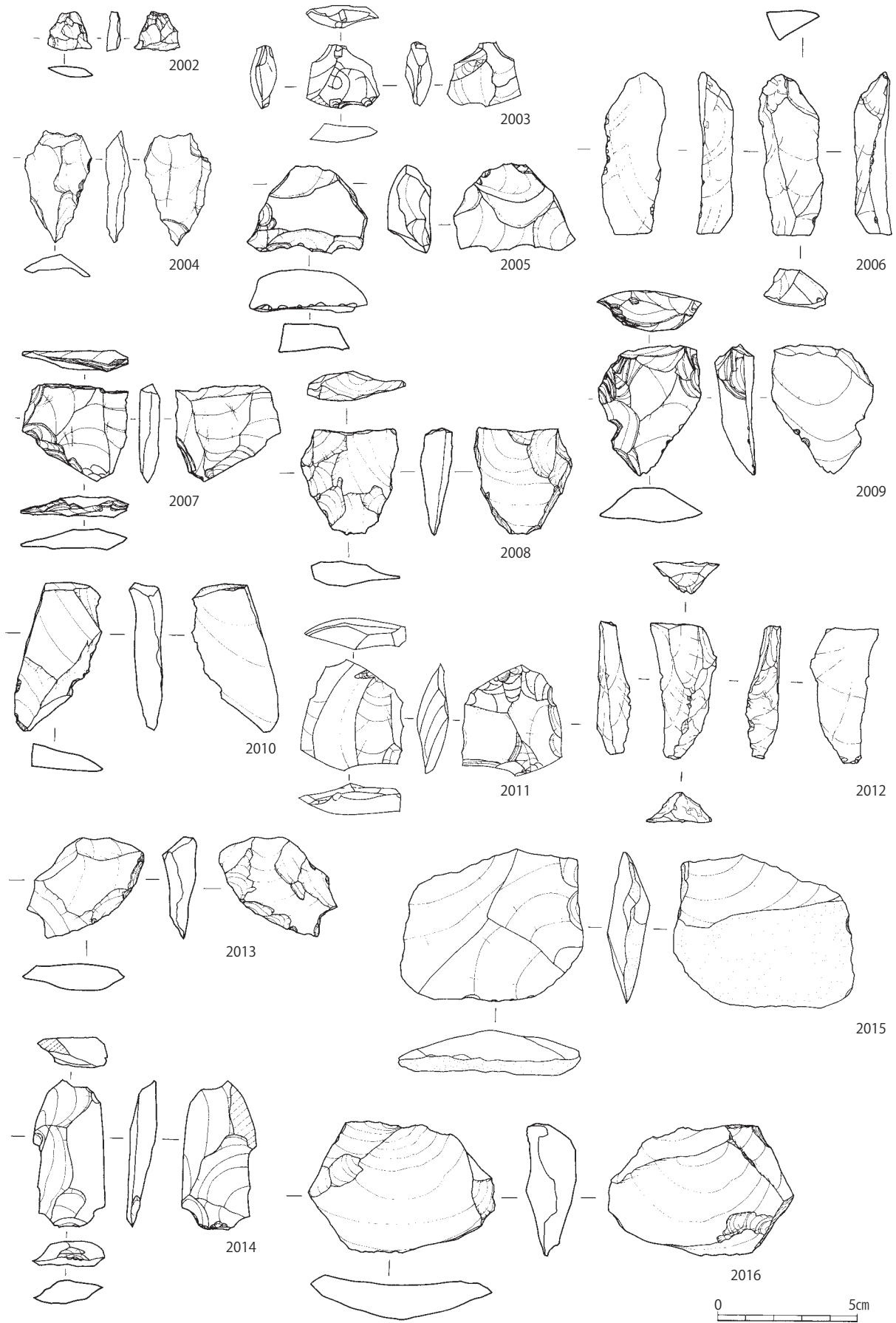
第420図 出土遺物実測図75-縄文時代の石器-(5)



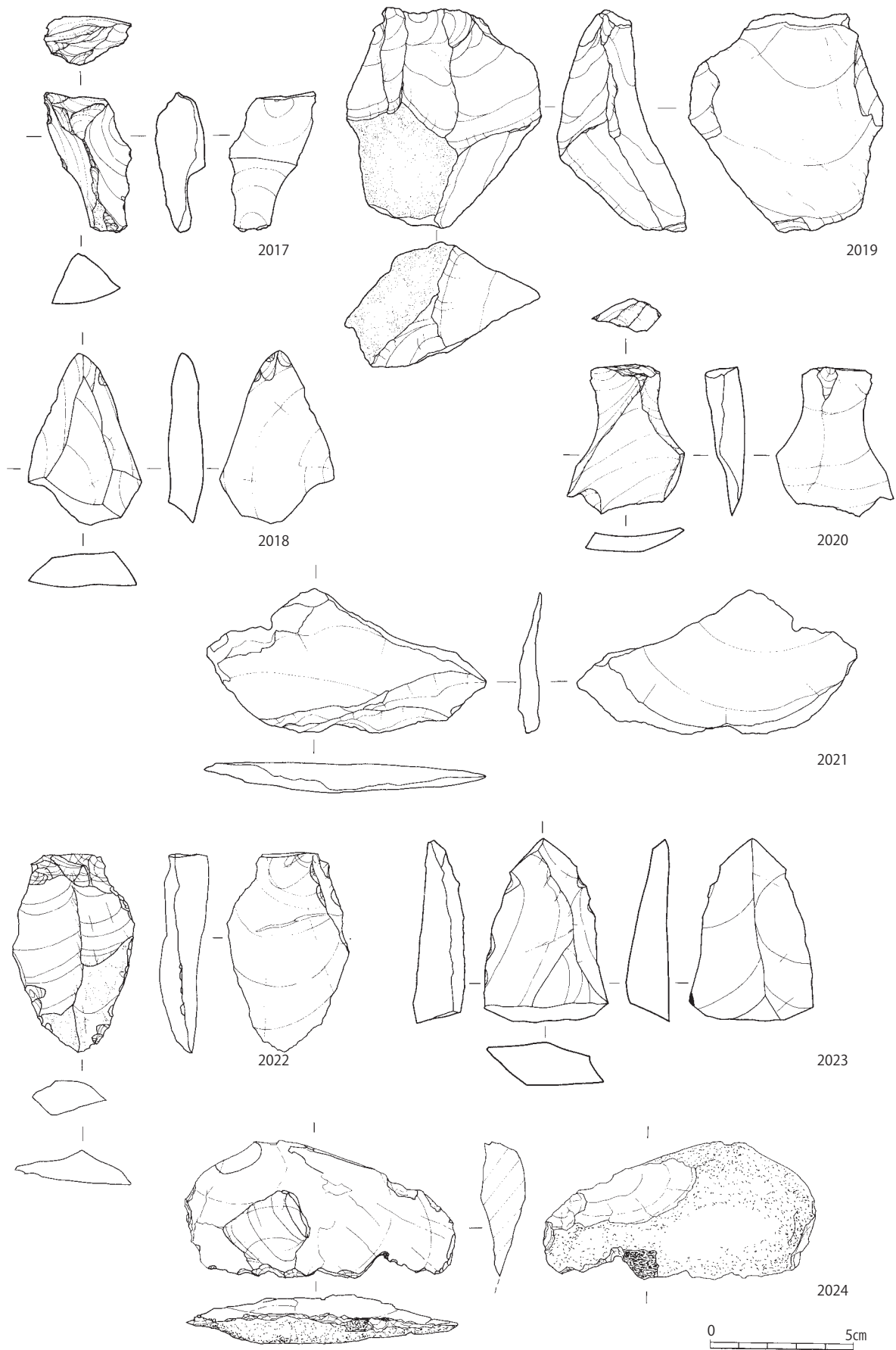
第421図 出土遺物実測図76-縄文時代の石器-(6)



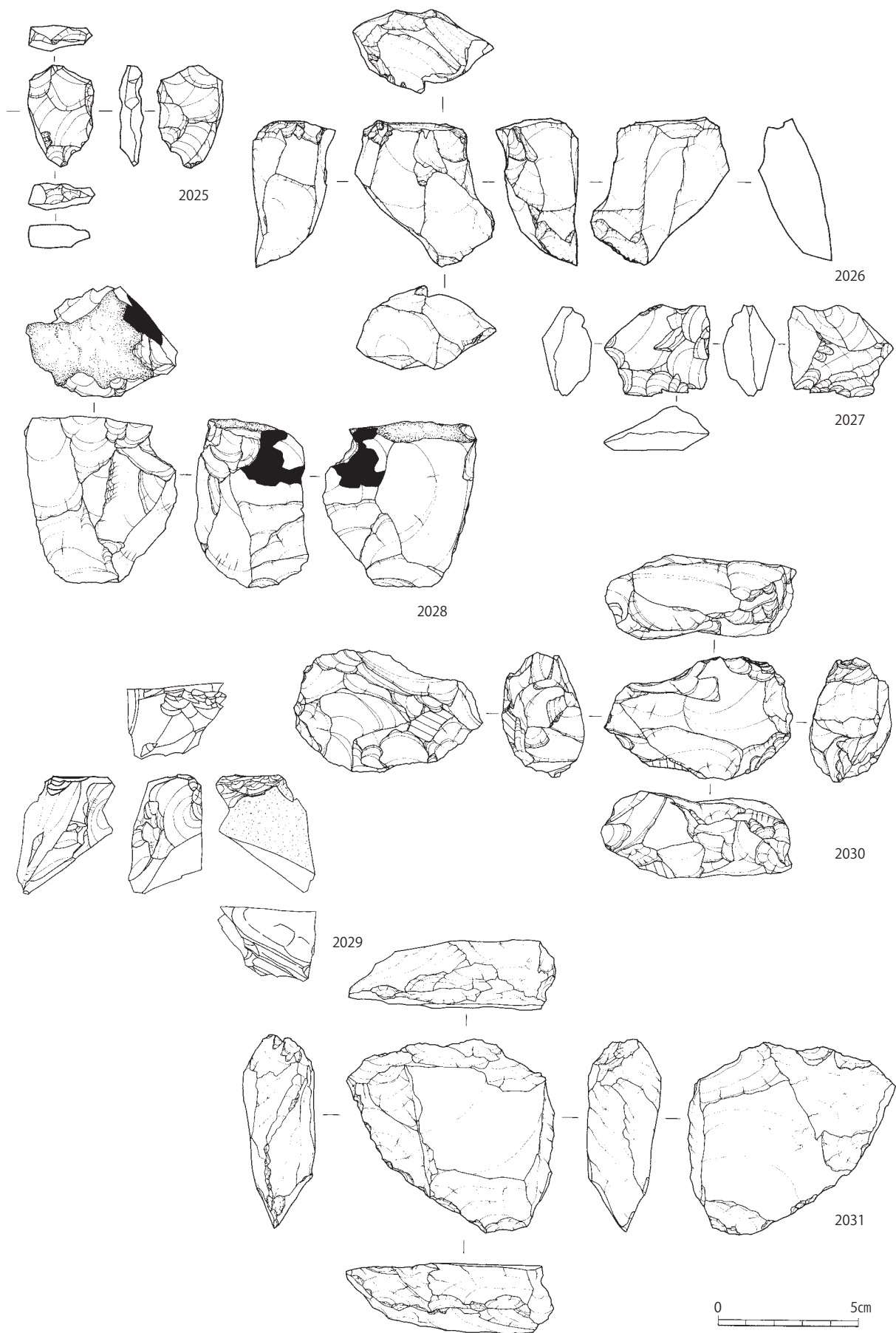
第422図 出土遺物実測図77-縄文時代の石器-(7)



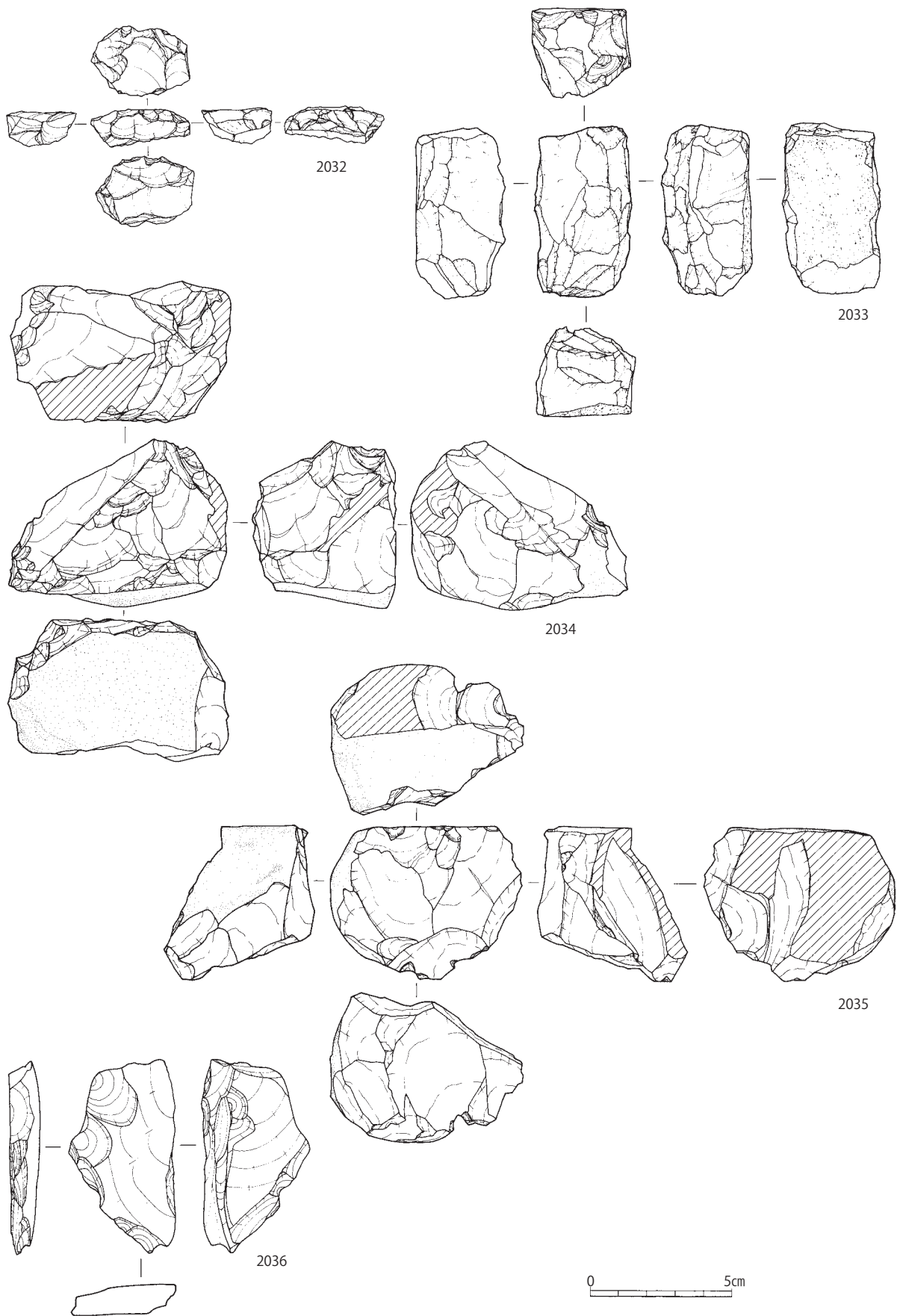
第423図 出土遺物実測図78-縄文時代の石器-(8)



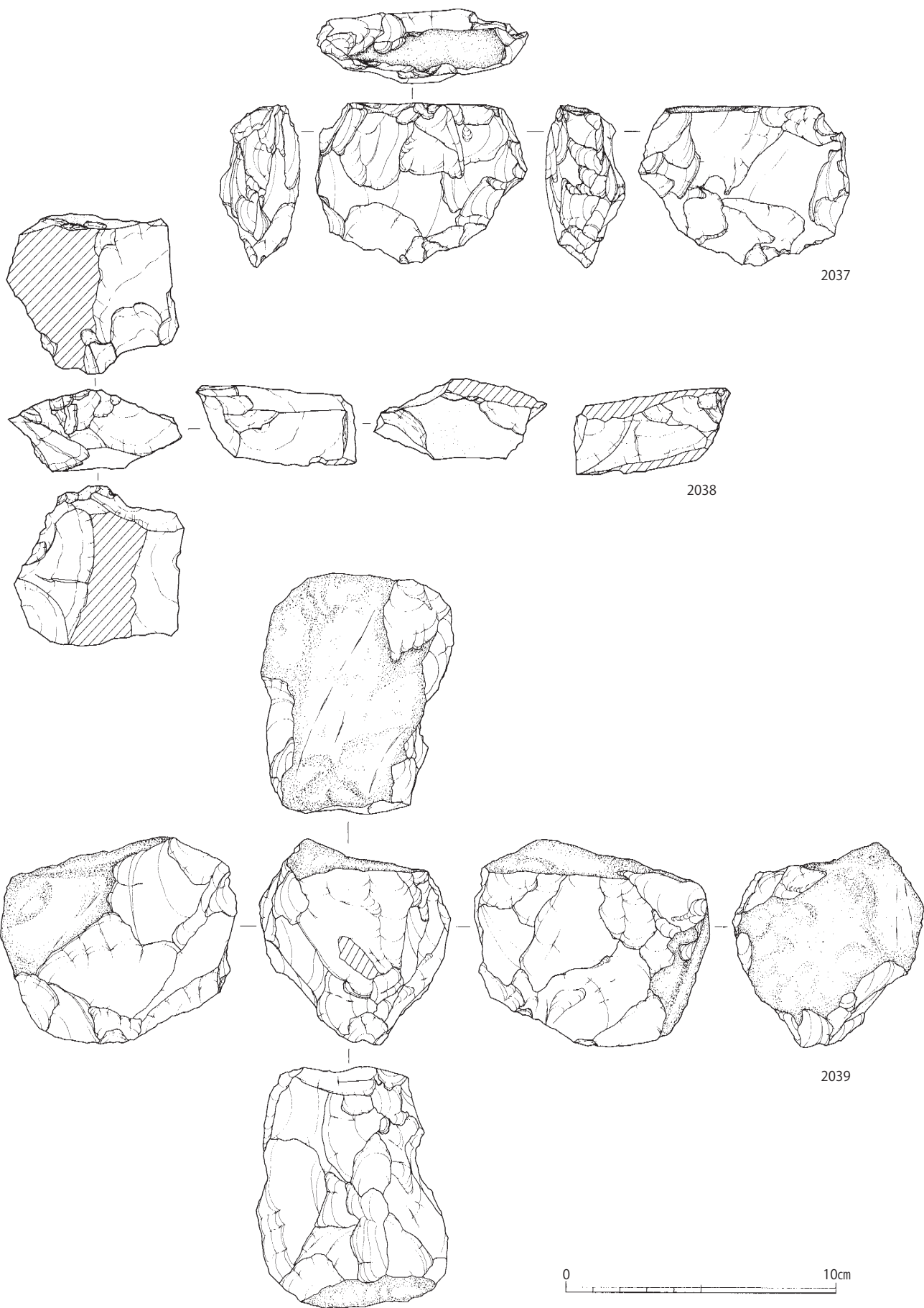
第424図 出土遺物実測図79-縄文時代の石器-(9)



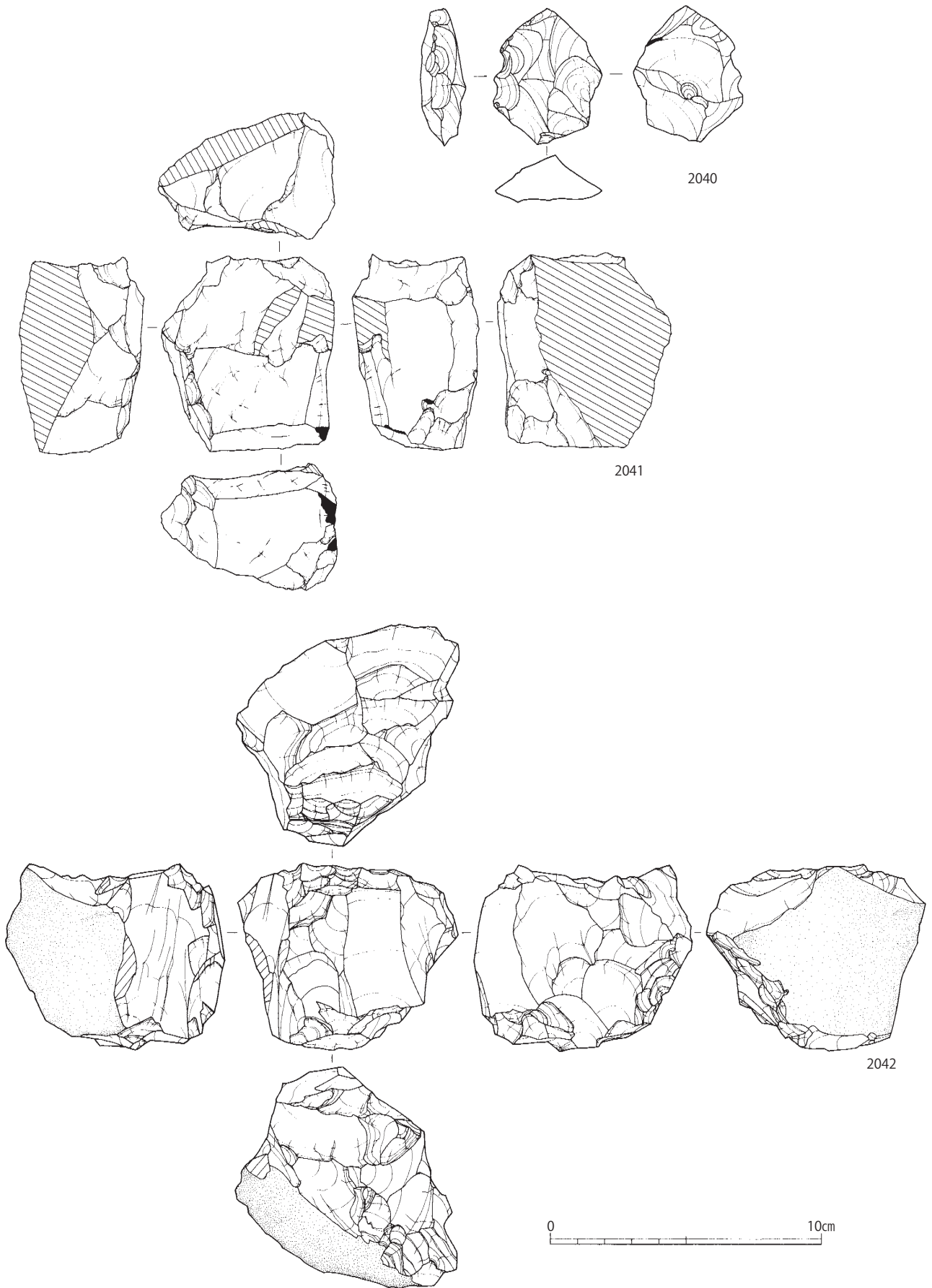
第425図 出土遺物実測図80-縄文時代の石器-(10)



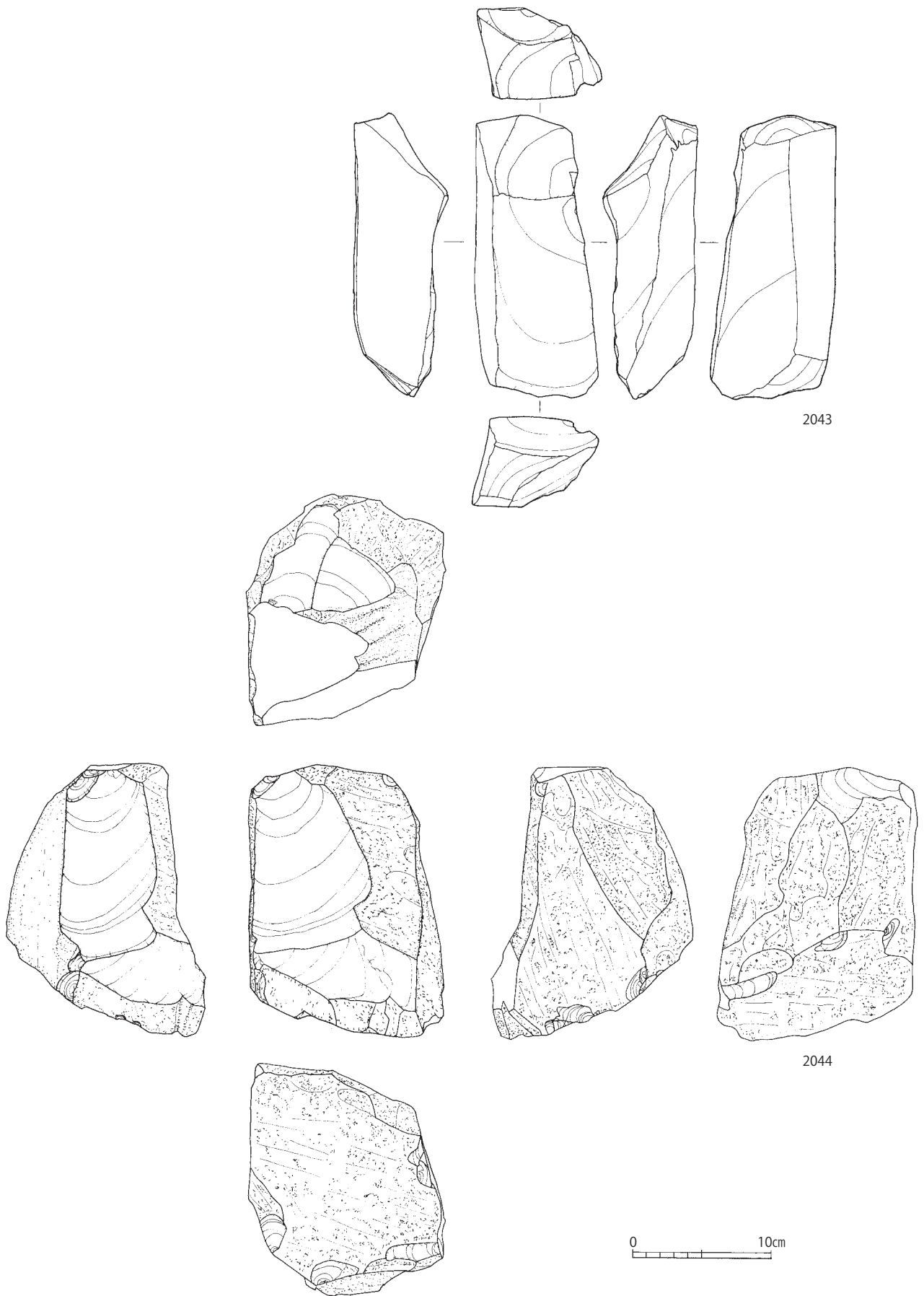
第426図 出土遺物実測図81-縄文時代の石器-(11)



第427図 出土遺物実測図82-縄文時代の石器-(12)



第428図 出土遺物実測図83-縄文時代の石器-(13)

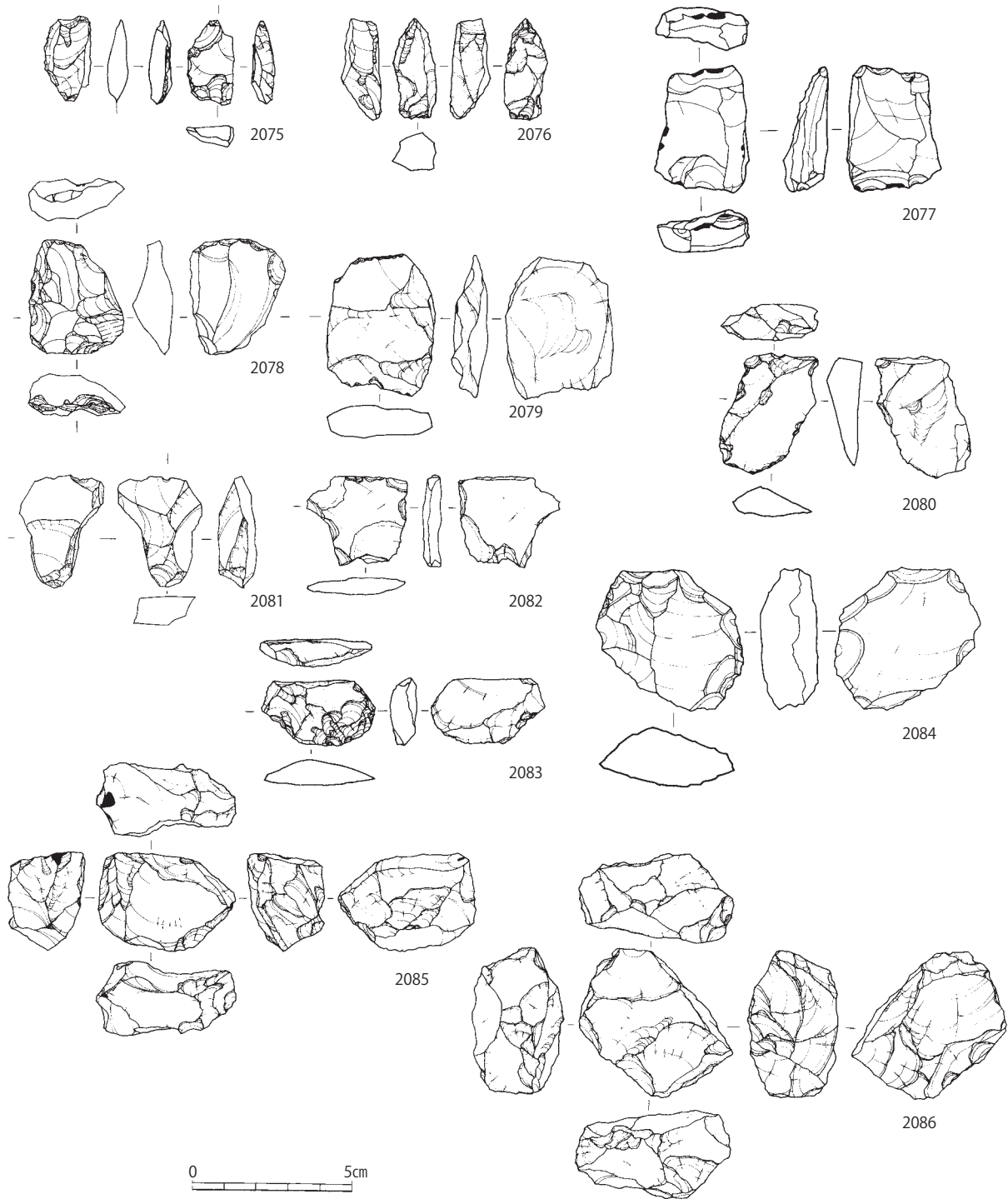


第429図 出土遺物実測図84-縄文時代の石器-(14)



第430図 出土遺物実測図85-縄文時代の石器-(15)

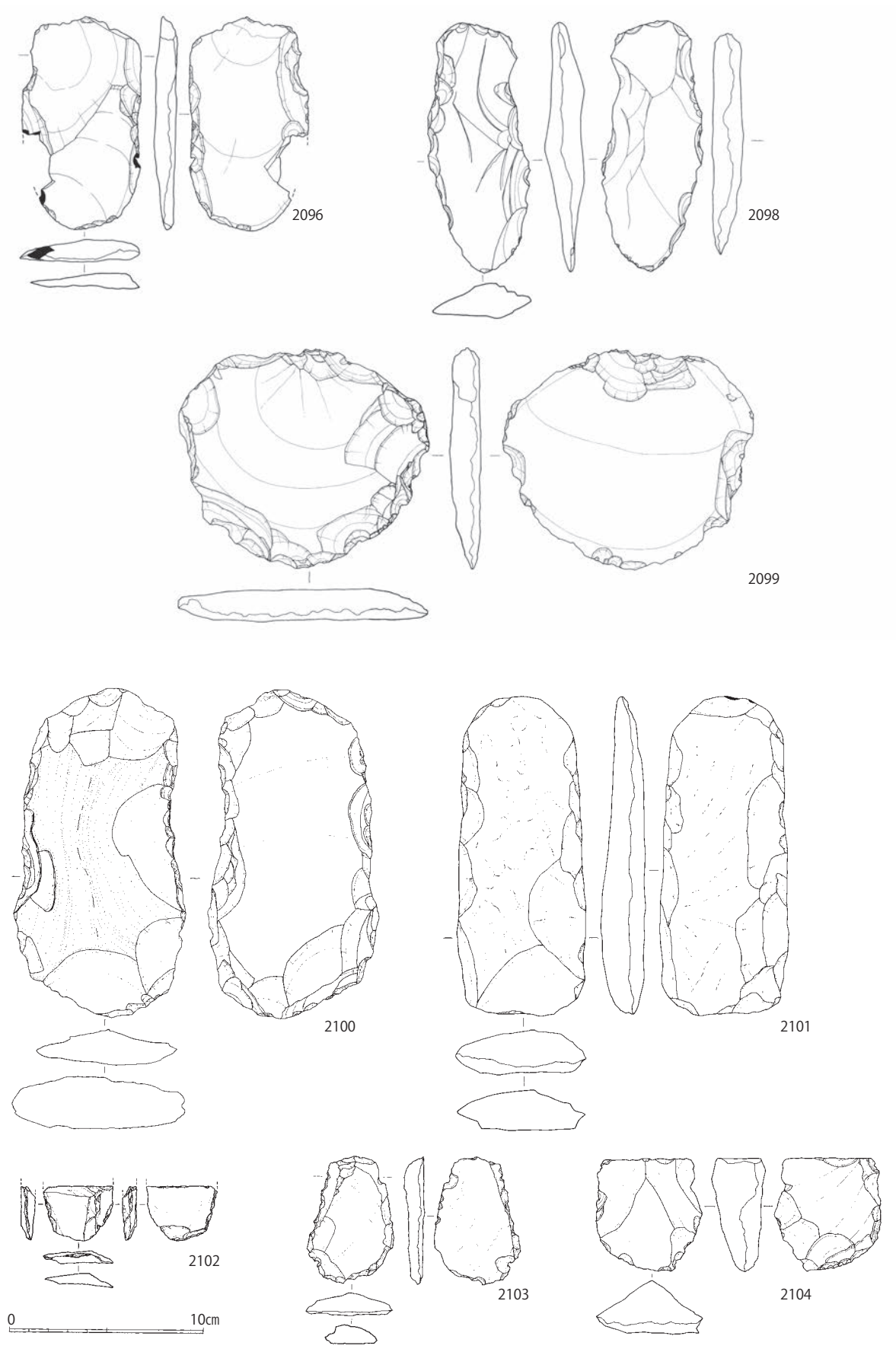
図 2031、第 427 図 2037) ④多面体の石核 (第 428 図 2042 ⑤姫島産黒曜岩の初工程の石核 (第 429 図 2044) : この石核は、風化した角礫面を有する姫島産黒曜岩の石核である。高さ 20 cm、幅 14.2 cm、奥行き 16.3 cm、重さ 3.9 kg の法量である。上端に二回の剥離で打面を作出し、打面を打撃して正面側で一、二枚の大型剥片を割りとった石核である。この石核は、0E 区の第Ⅲ a 層の S 045 集石から出土した (第 126 図)。この付近は、塞ノ神式土器が出土しており、帰属時期は縄文時代早期後半頃である。⑥その他・残核 (第 425 図 2029、第 427 図 2038、第 429 図 2043) がある。



第431図 出土遺物実測図86-縄文時代の石器-(16)



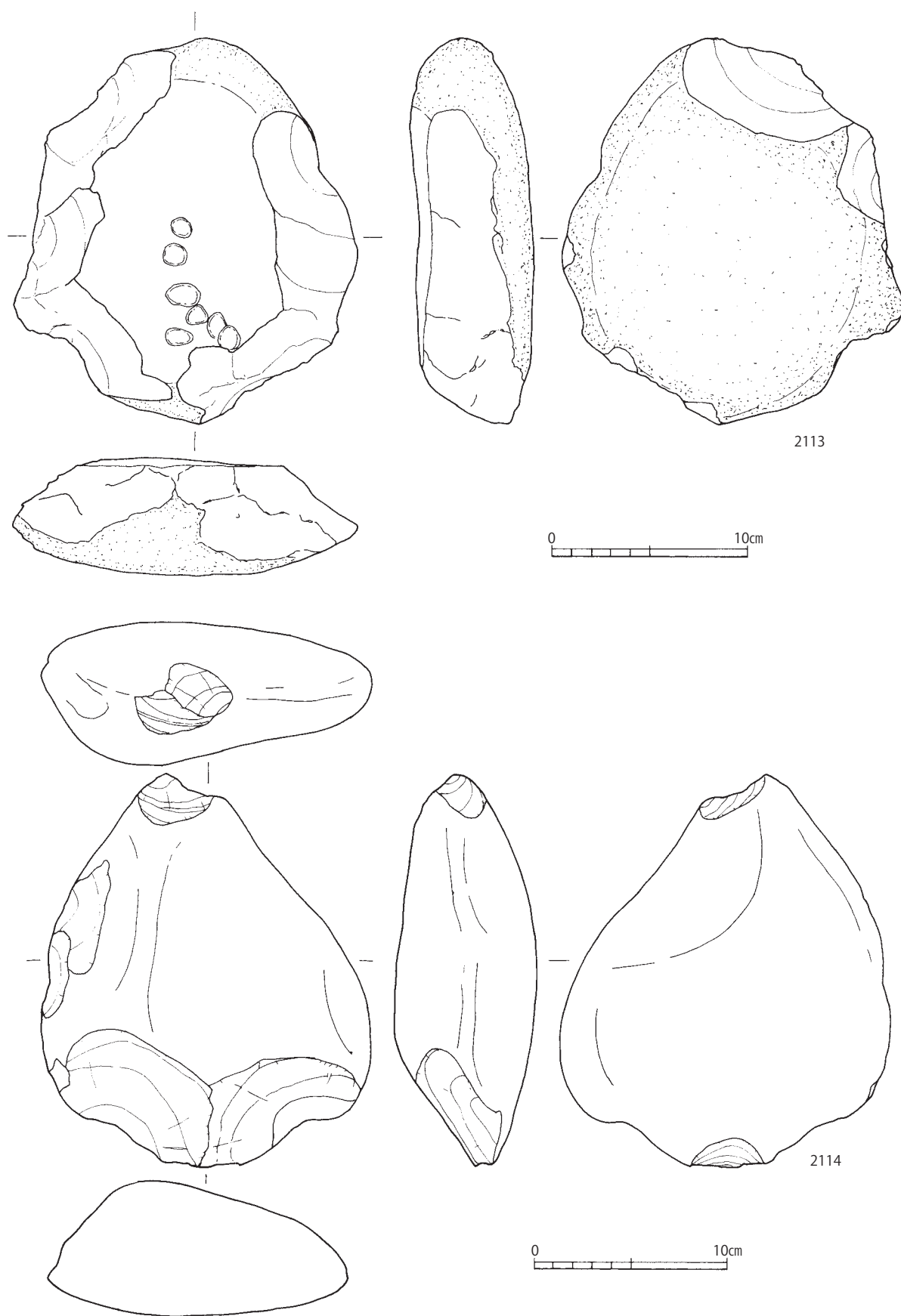
第432図 出土遺物実測図87-縄文時代の石器-(17)



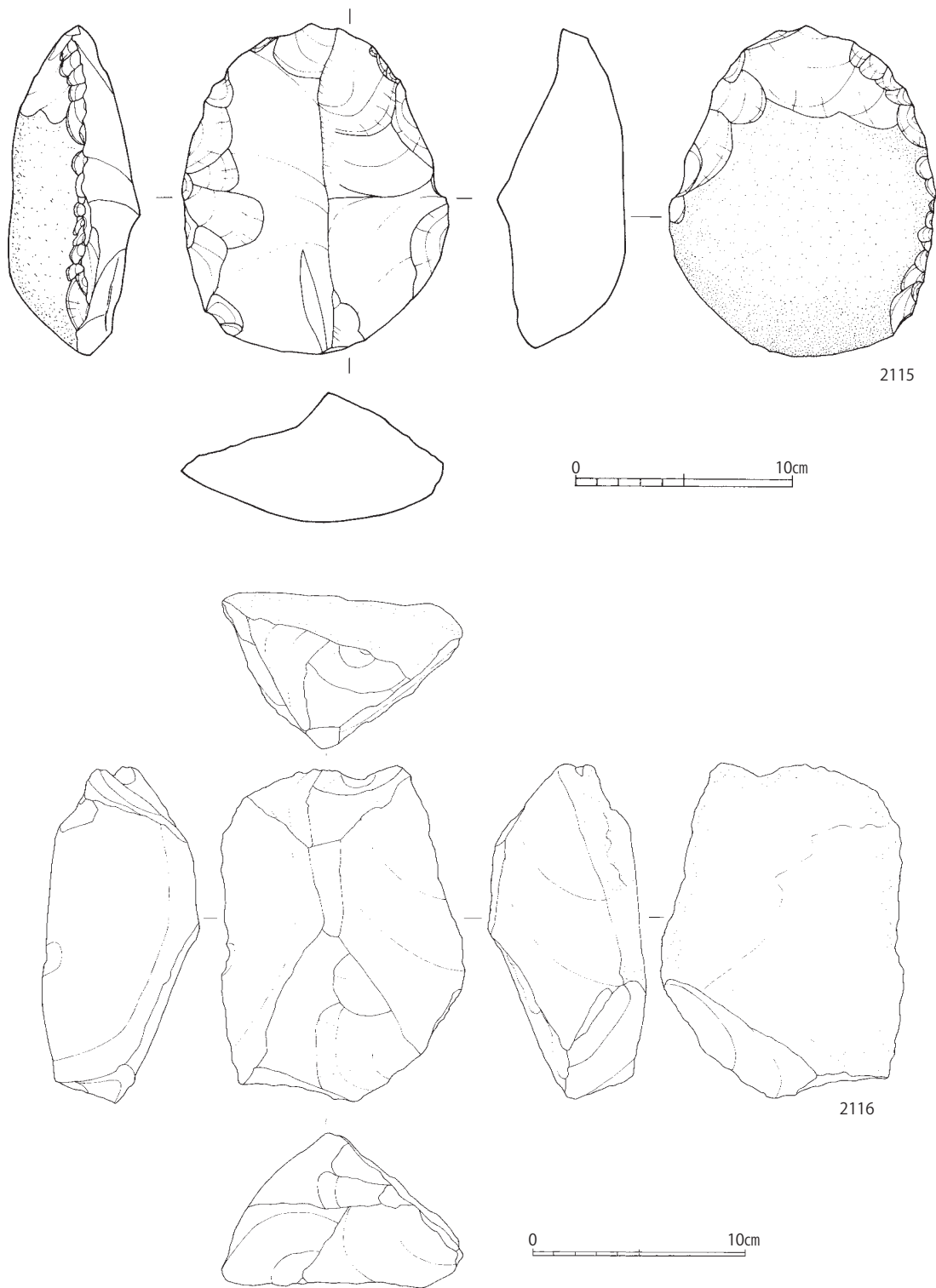
第433図 出土遺物実測図88-縄文時代の石器-(18)



第434図 出土遺物実測図89-縄文時代の石器-(19)



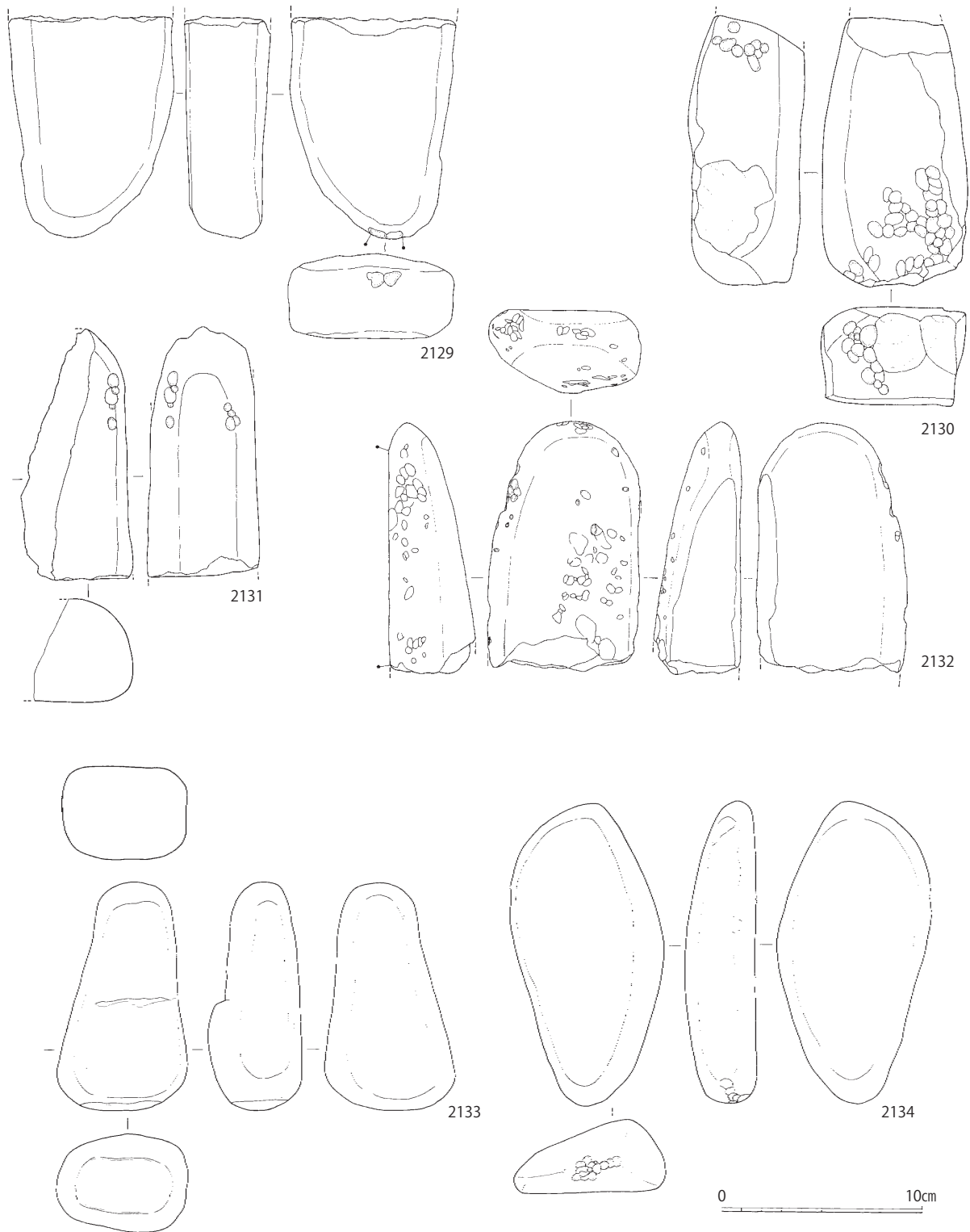
第435図 出土遺物実測図90-縄文時代の石器-(20)



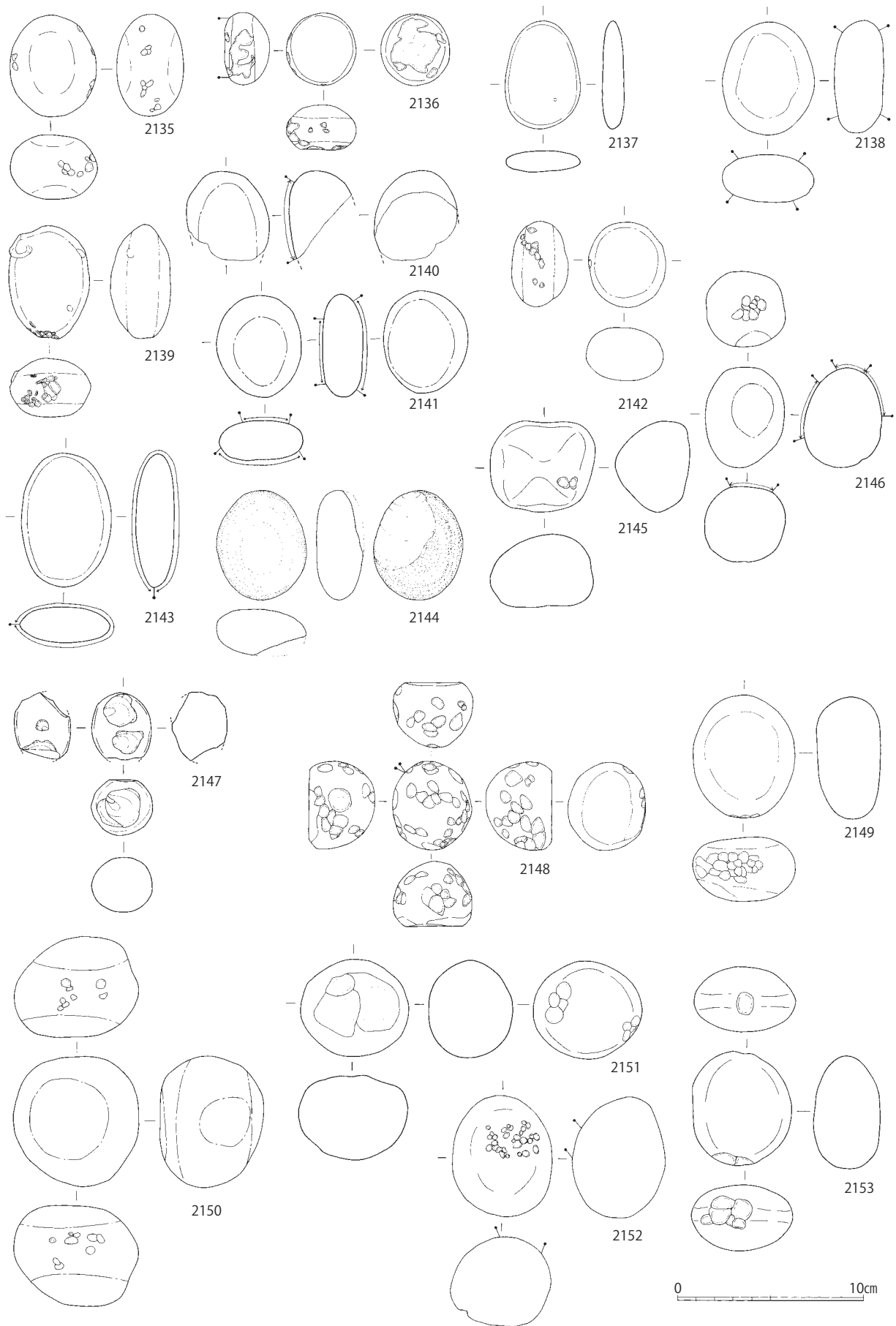
第436図 出土遺物実測図91-縄文時代の石器-(21)



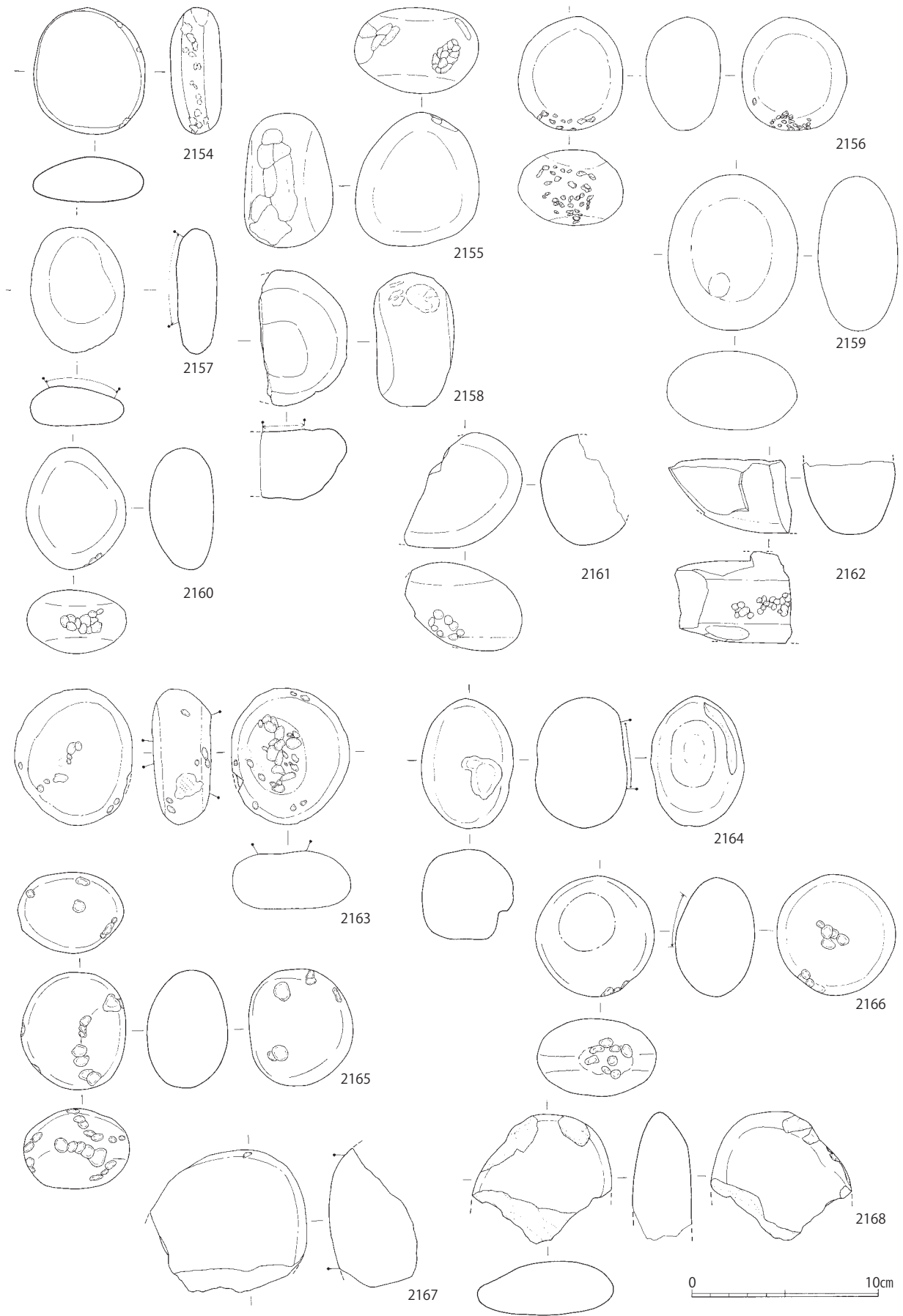
第437図 出土遺物実測図92-縄文時代の石器-(22)



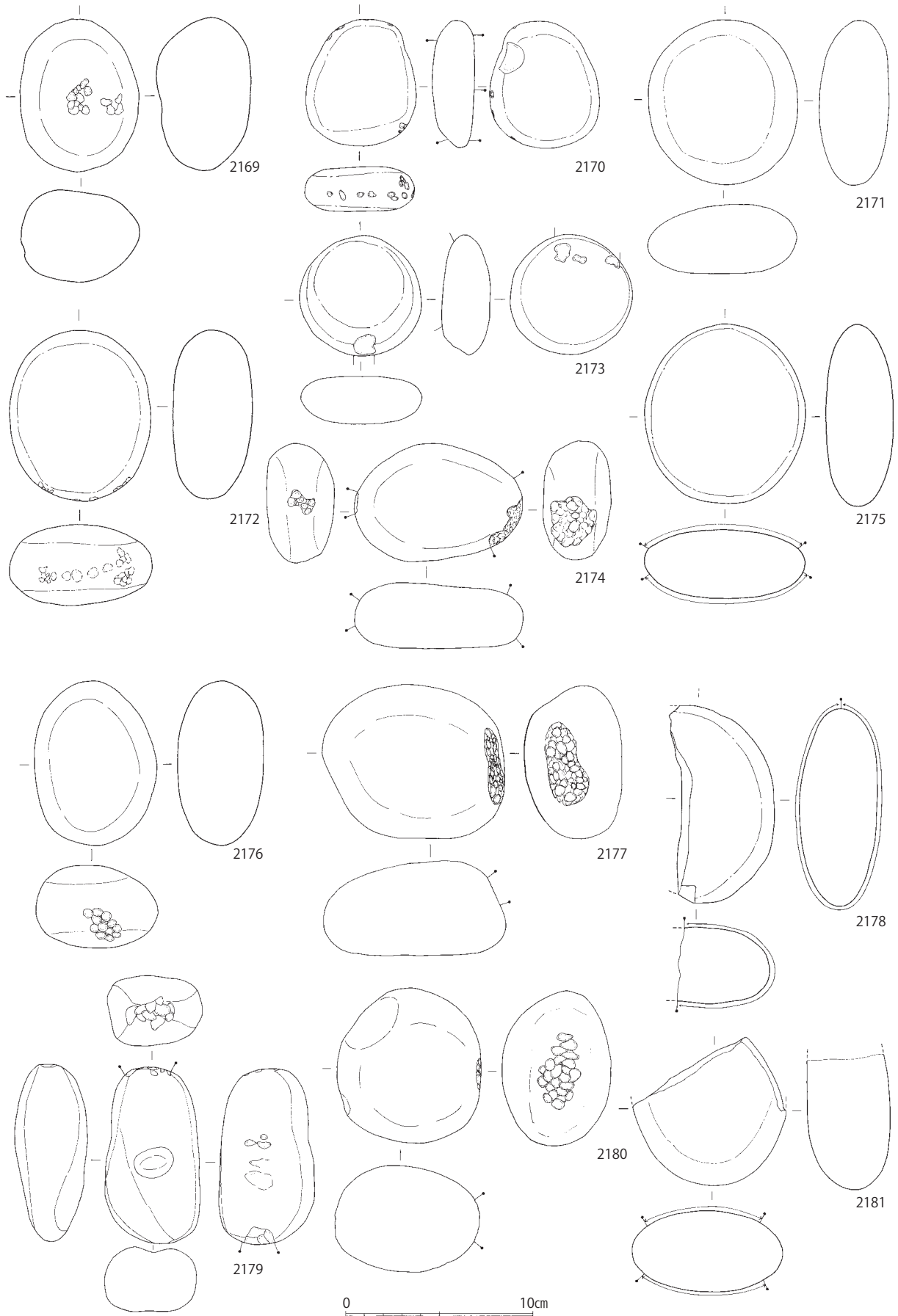
第438図 出土遺物実測図93-縄文時代の石器-(23)



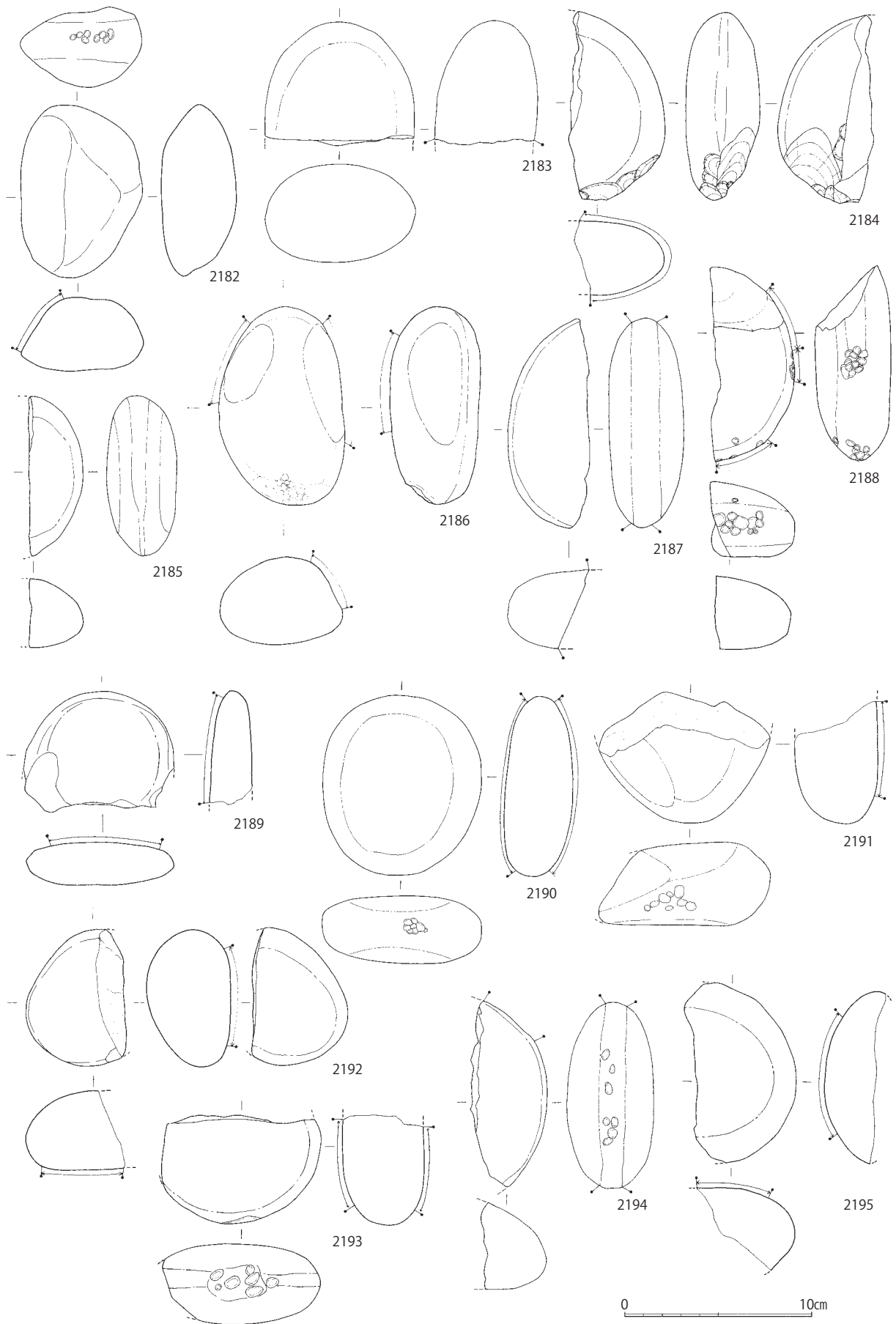
第439図 出土遺物実測図94-縄文時代の石器-(24)



第440図 出土遺物実測図95-縄文時代の石器-(25)



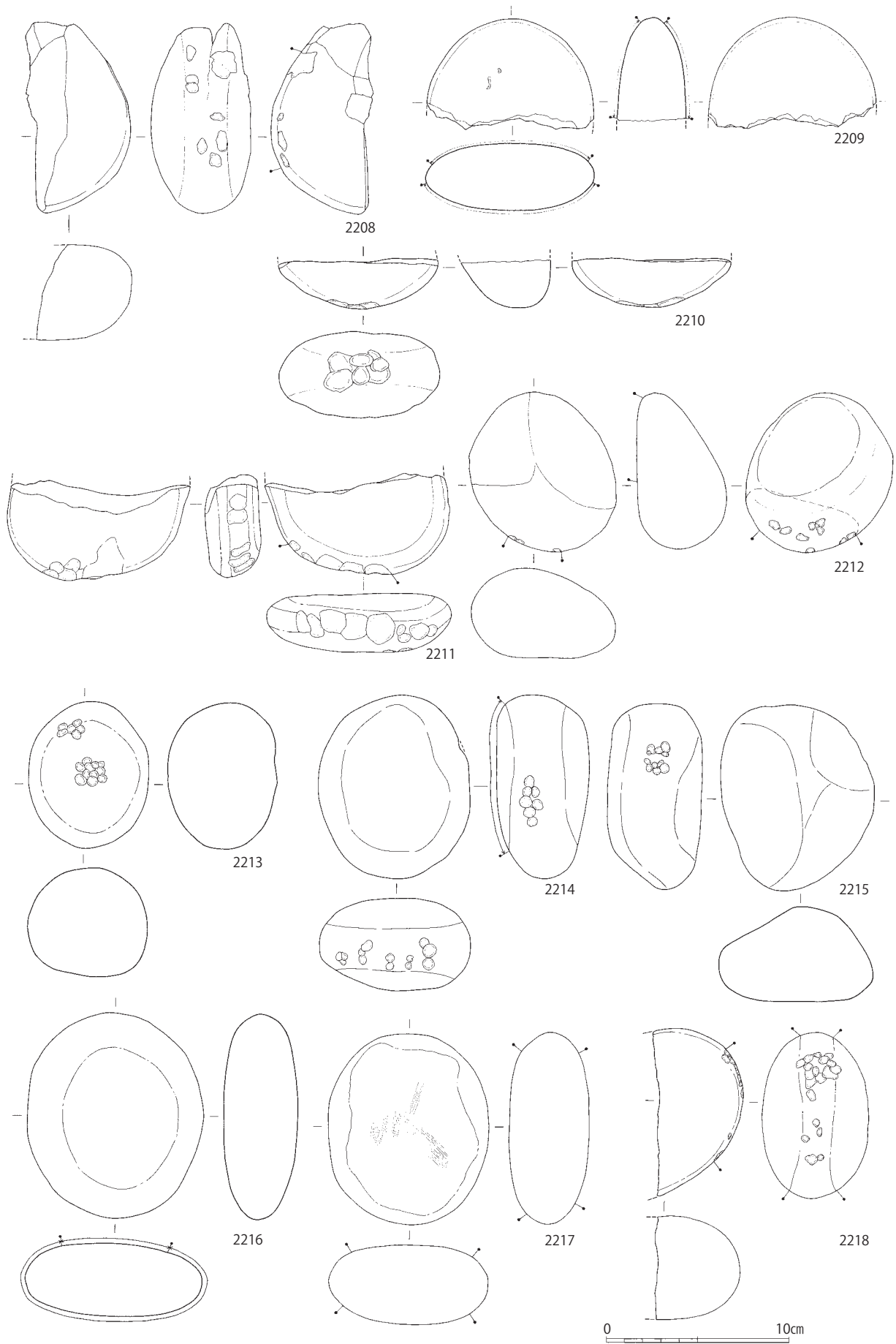
第441図 出土遺物実測図96-縄文時代の石器-(26)



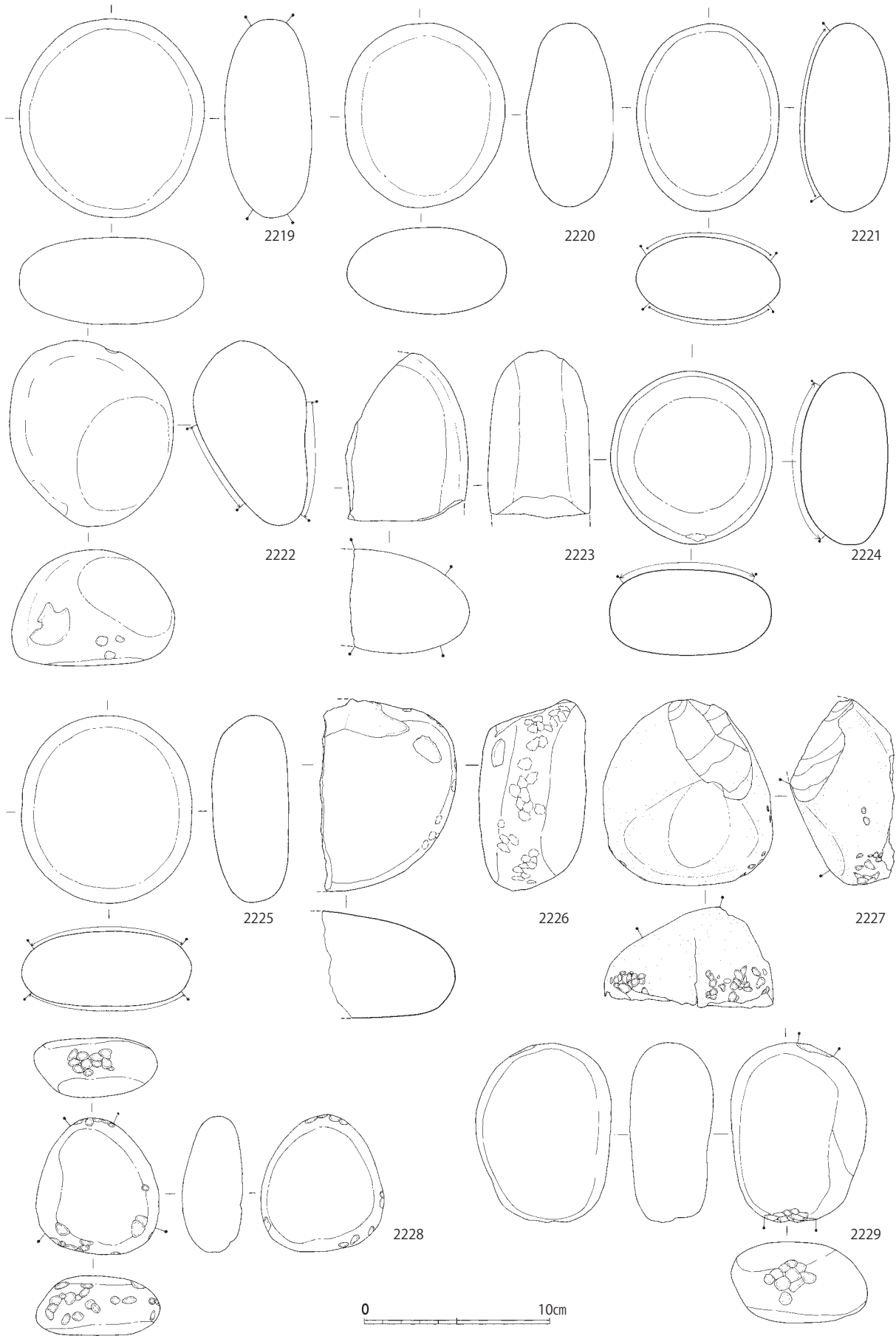
第442図 出土遺物実測図97-縄文時代の石器-(27)



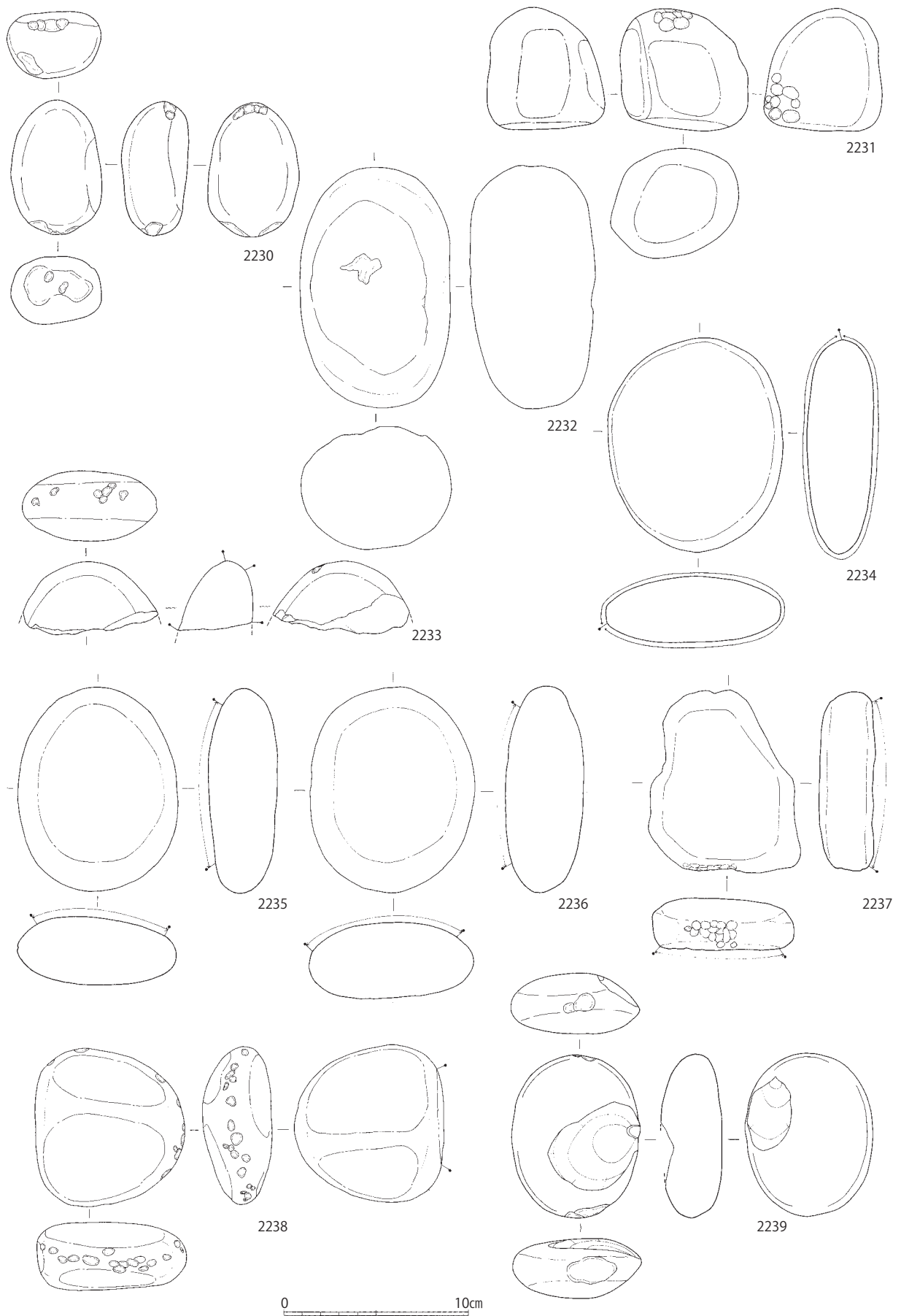
第443図 出土遺物実測図98-縄文時代の石器-(28)



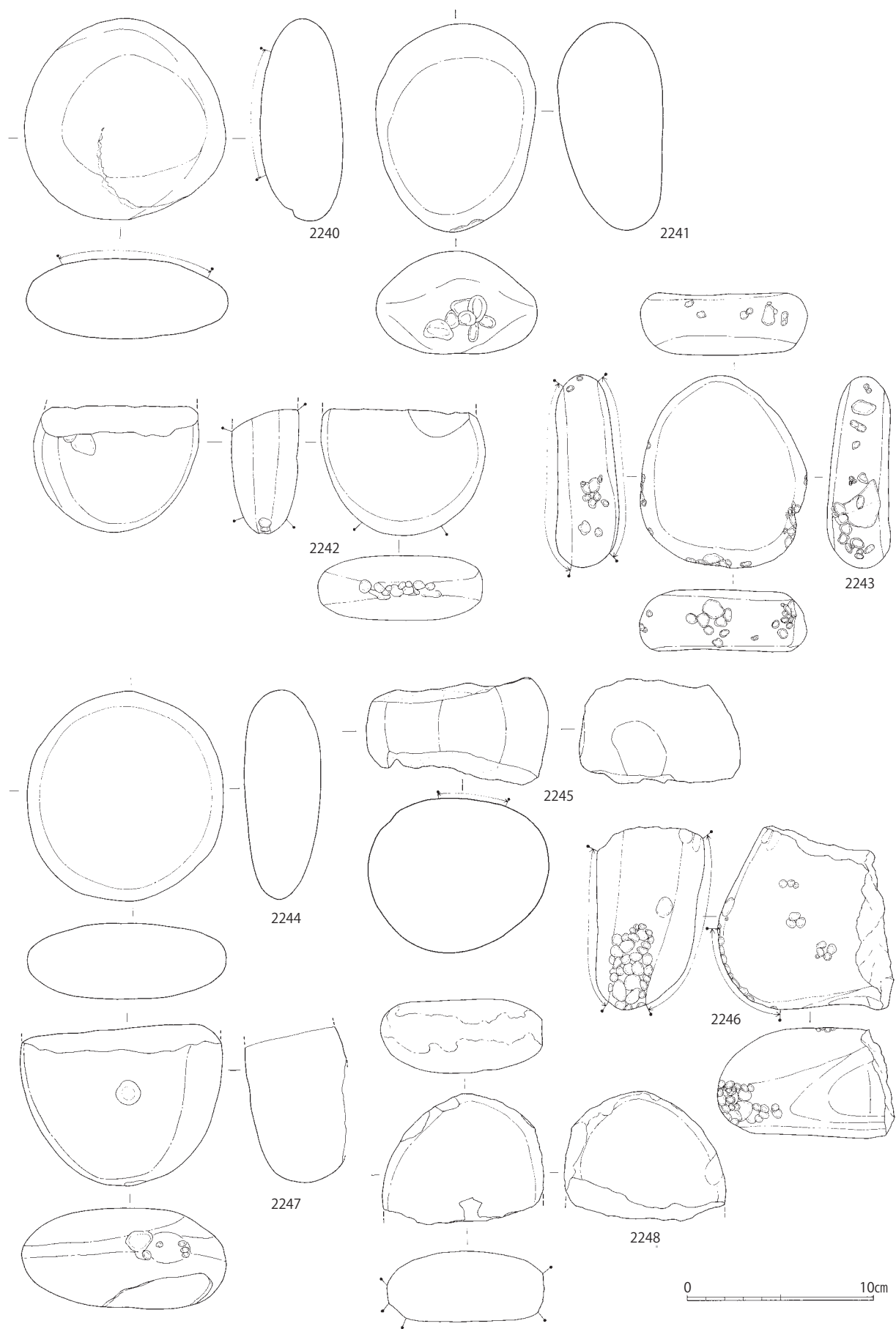
第444図 出土遺物実測図99-縄文時代の石器-(29)



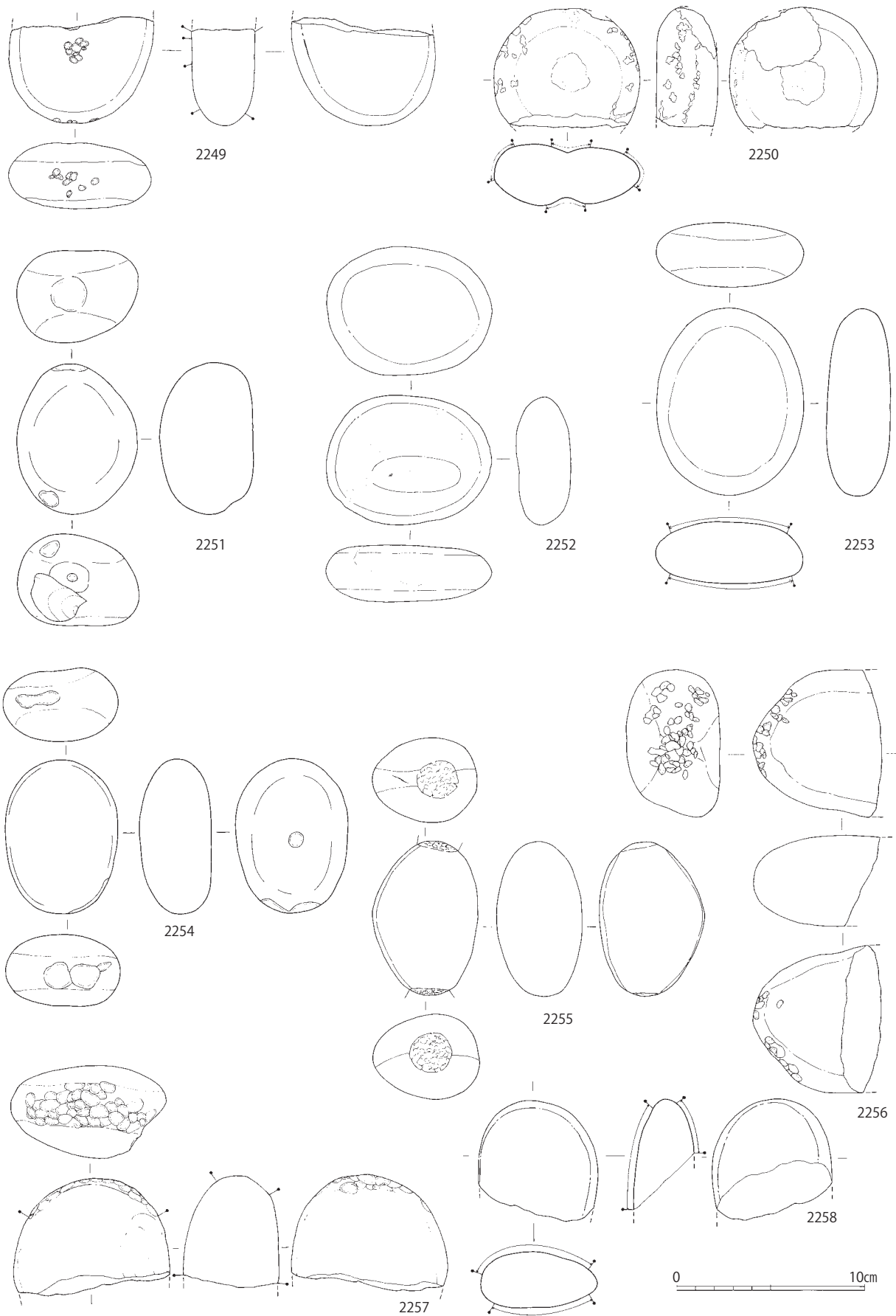
第445図 出土遺物実測図100-縄文時代の石器-(30)



第446図 出土遺物実測図101-縄文時代の石器-(31)



第447図 出土遺物実測図102-縄文時代の石器-(32)



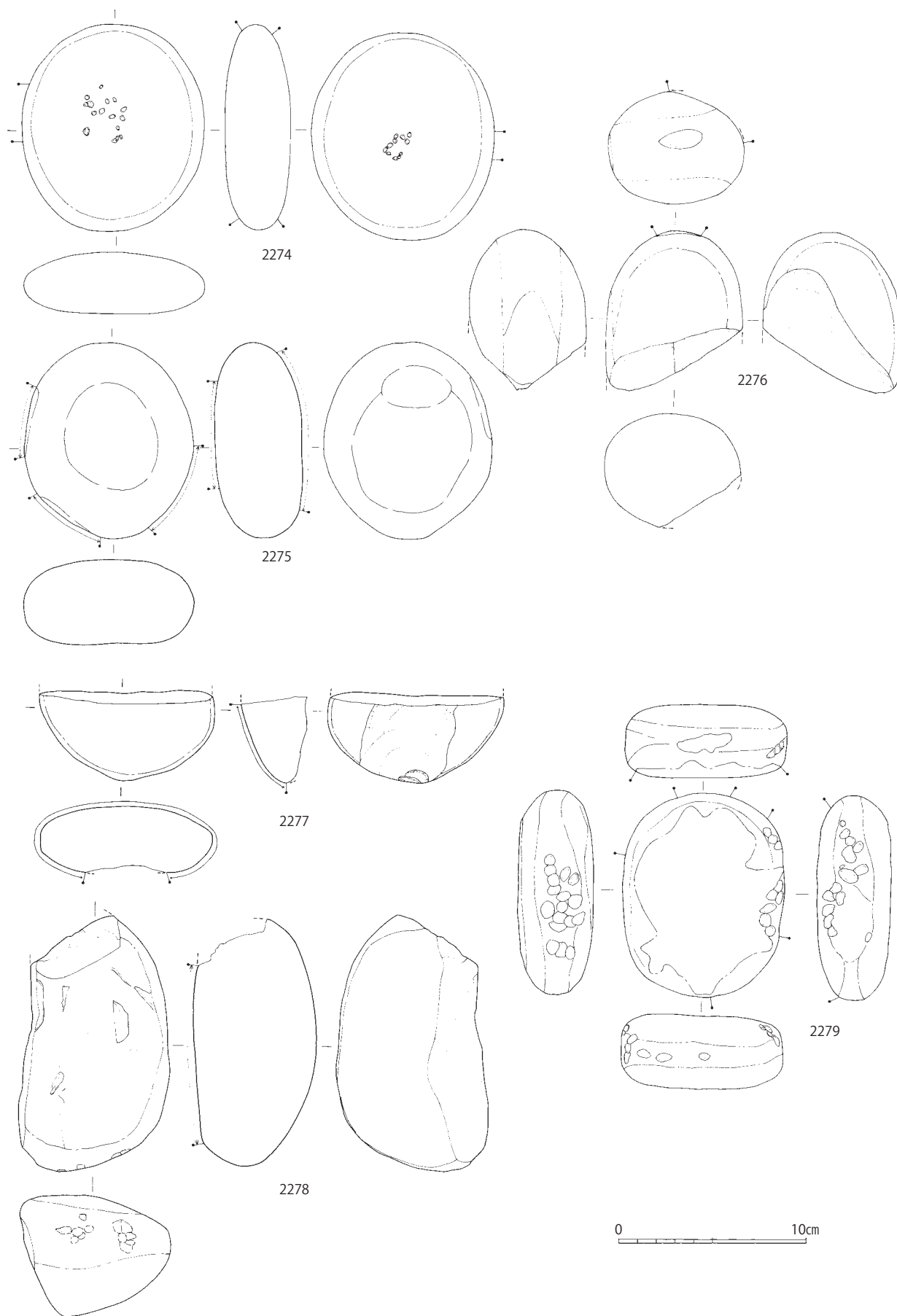
第448図 出土遺物実測図103-縄文時代の石器-(33)



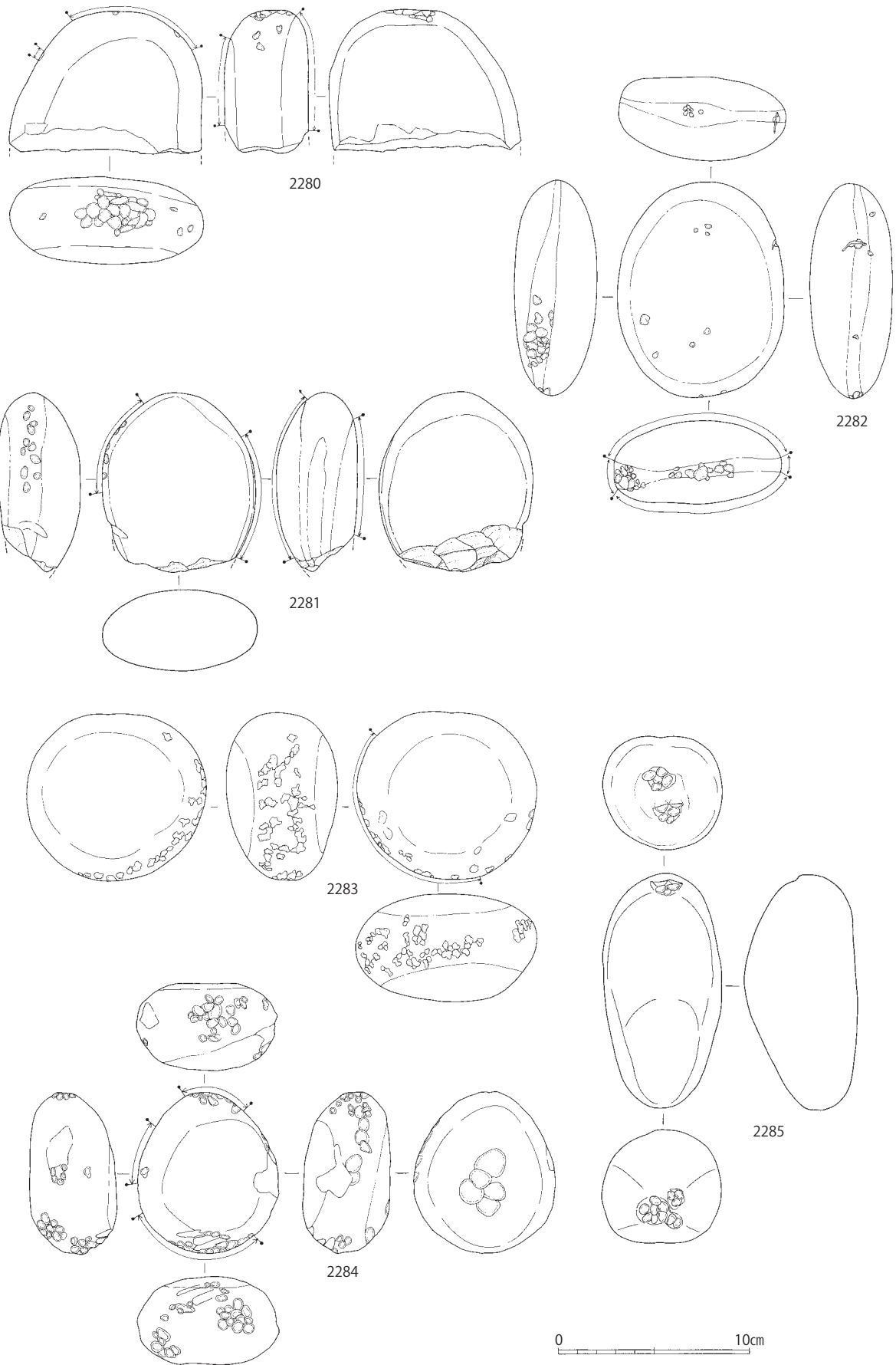
第449図 出土遺物実測図104-縄文時代の石器-(34)



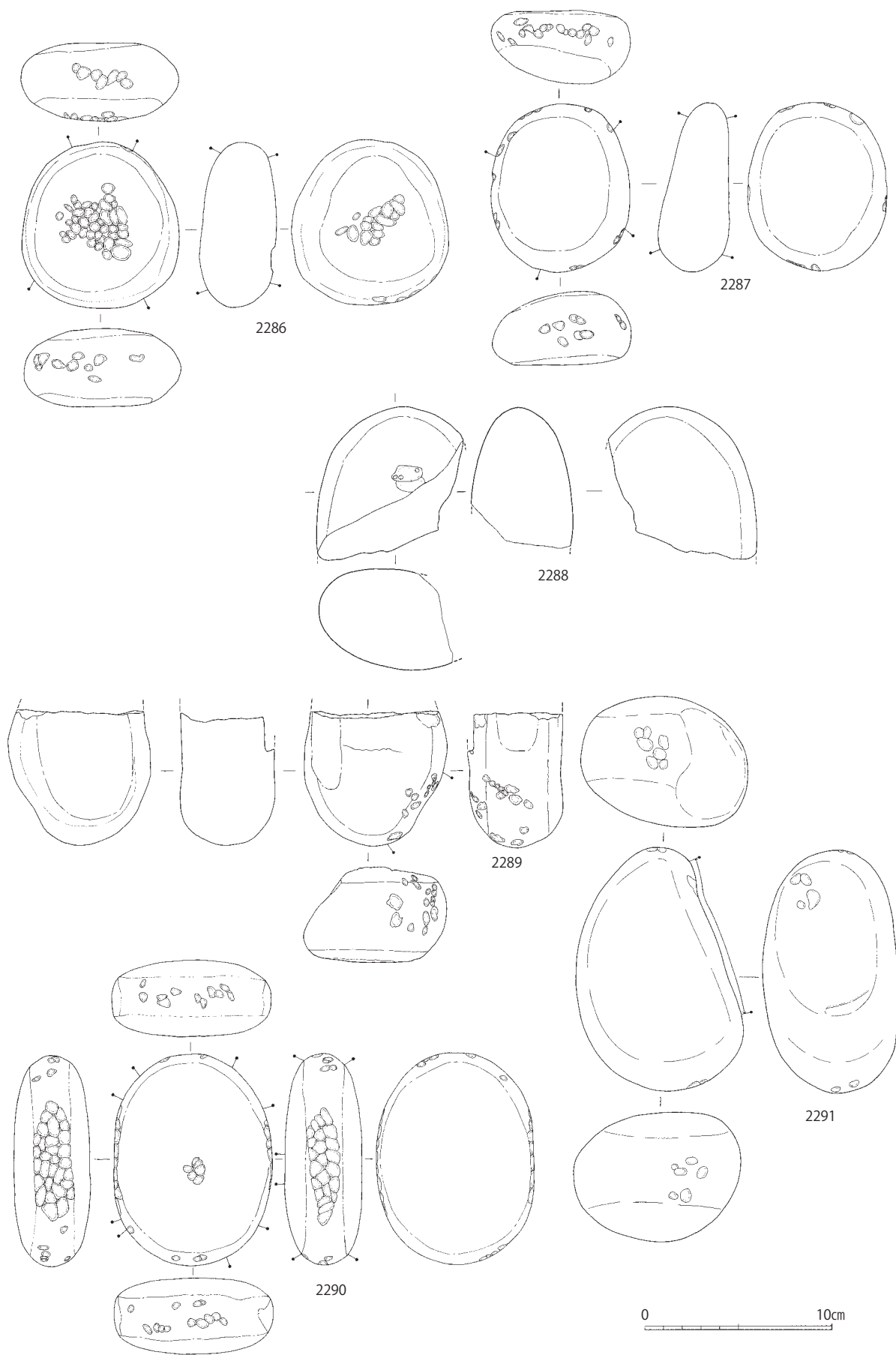
第450図 出土遺物実測図105-縄文時代の石器-(35)



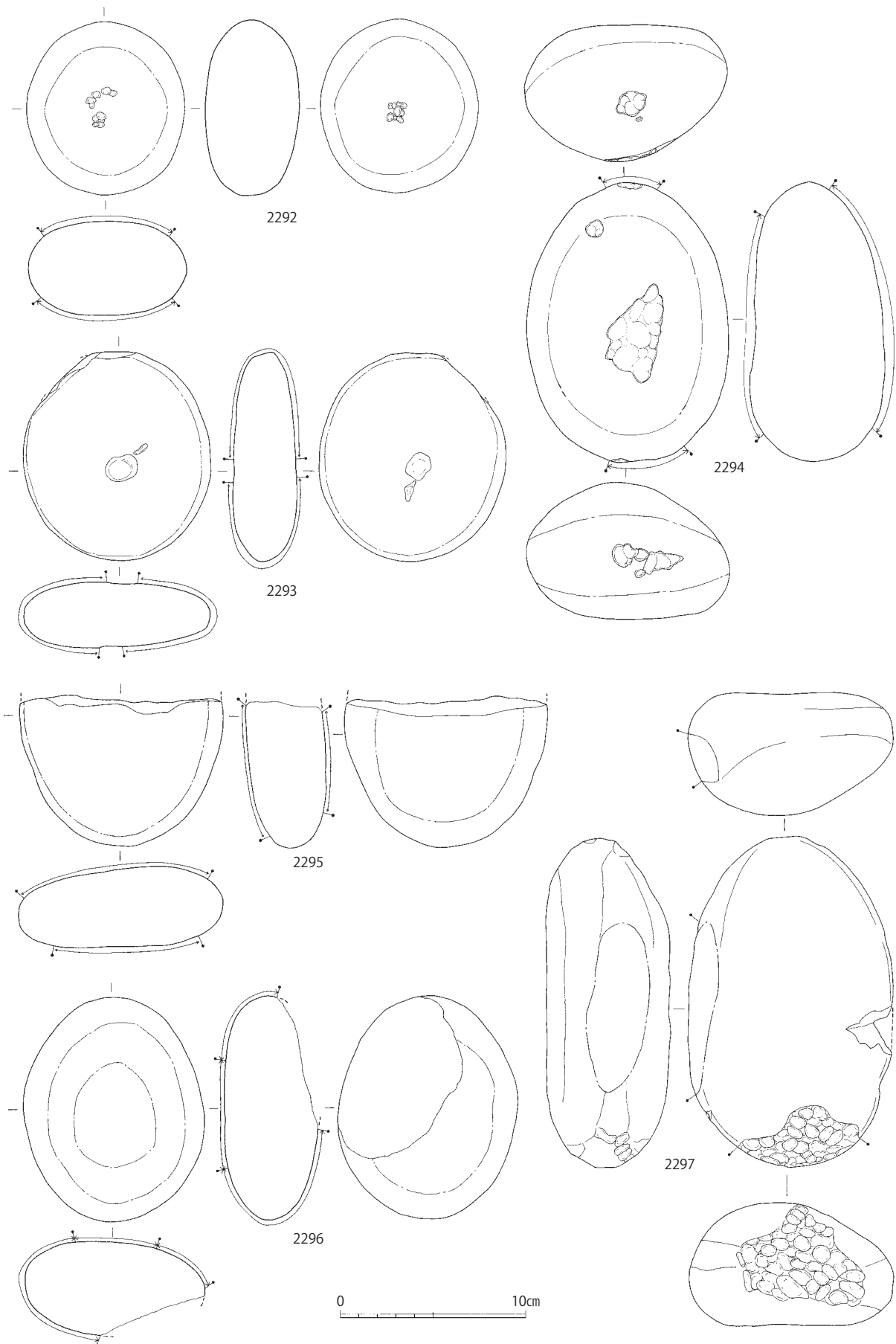
第451図 出土遺物実測図106-縄文時代の石器-(36)



第452図 出土遺物実測図107-縄文時代の石器-(37)



第453図 出土遺物実測図108-縄文時代の石器-(38)



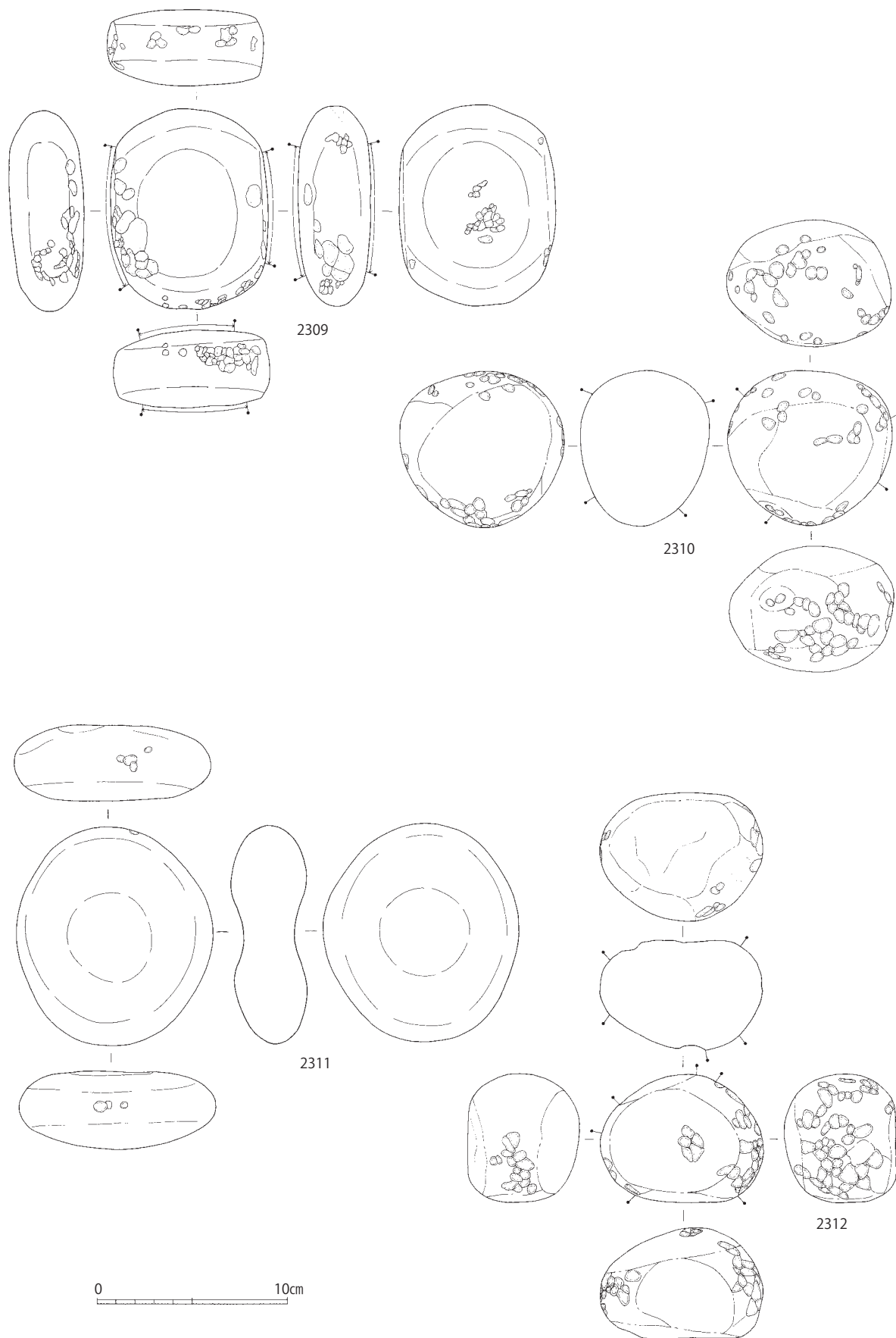
第454図 出土遺物実測図109-縄文時代の石器-(39)



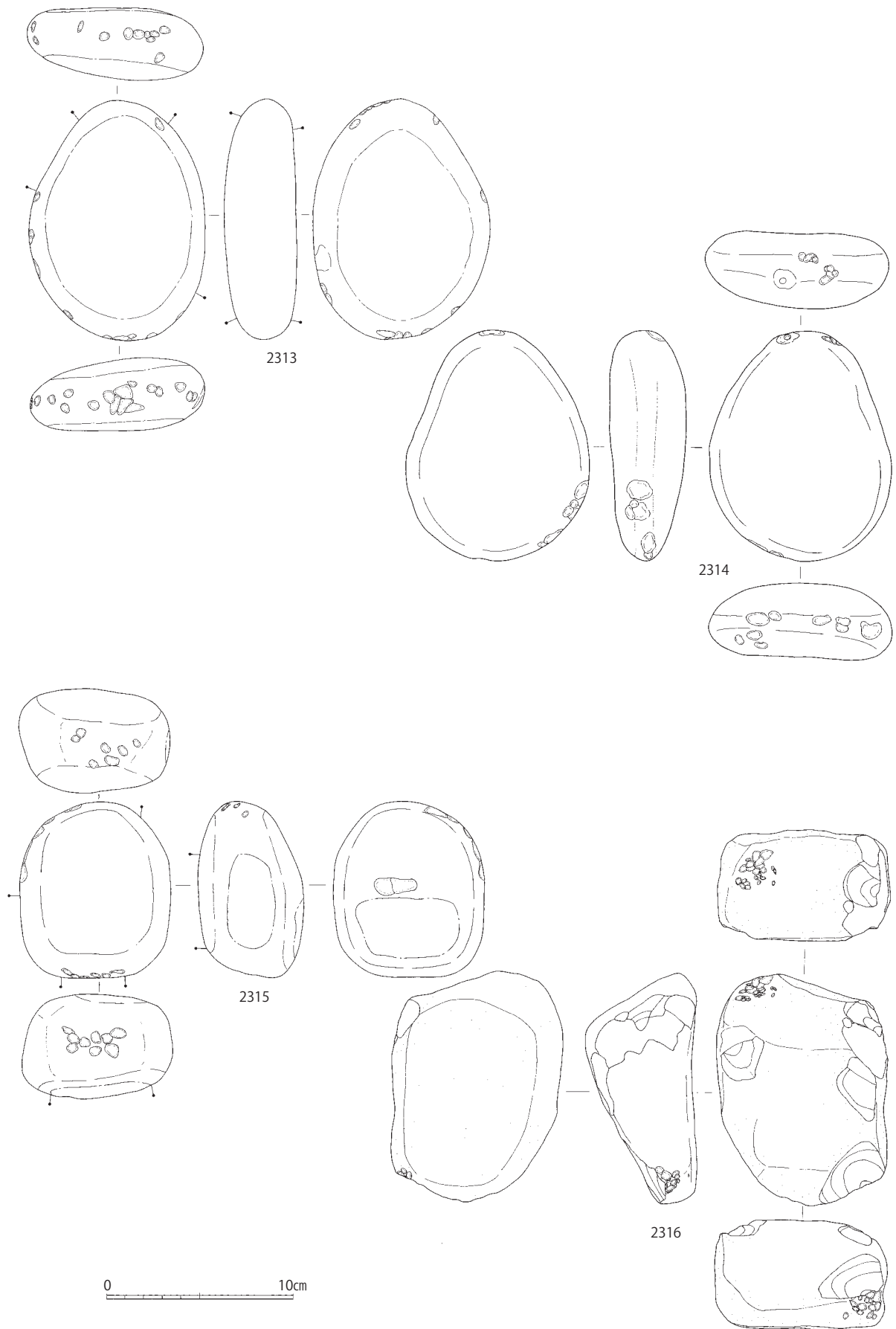
第455図 出土遺物実測図110-縄文時代の石器-(40)



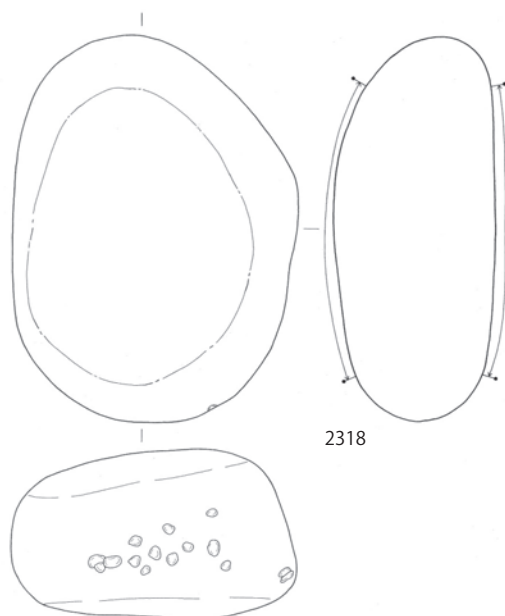
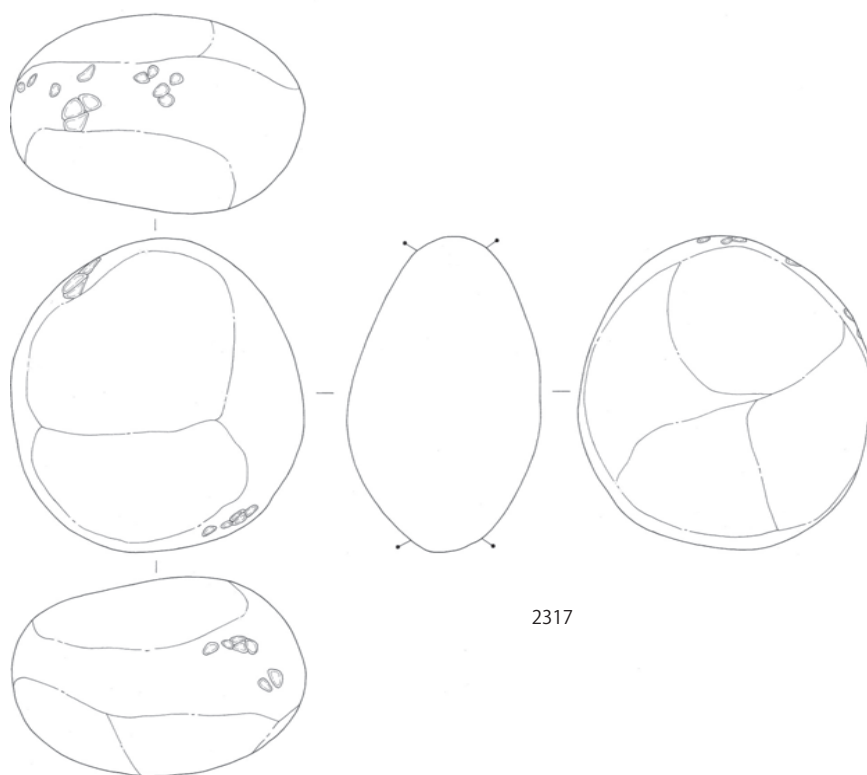
第456図 出土遺物実測図111-縄文時代の石器-(41)



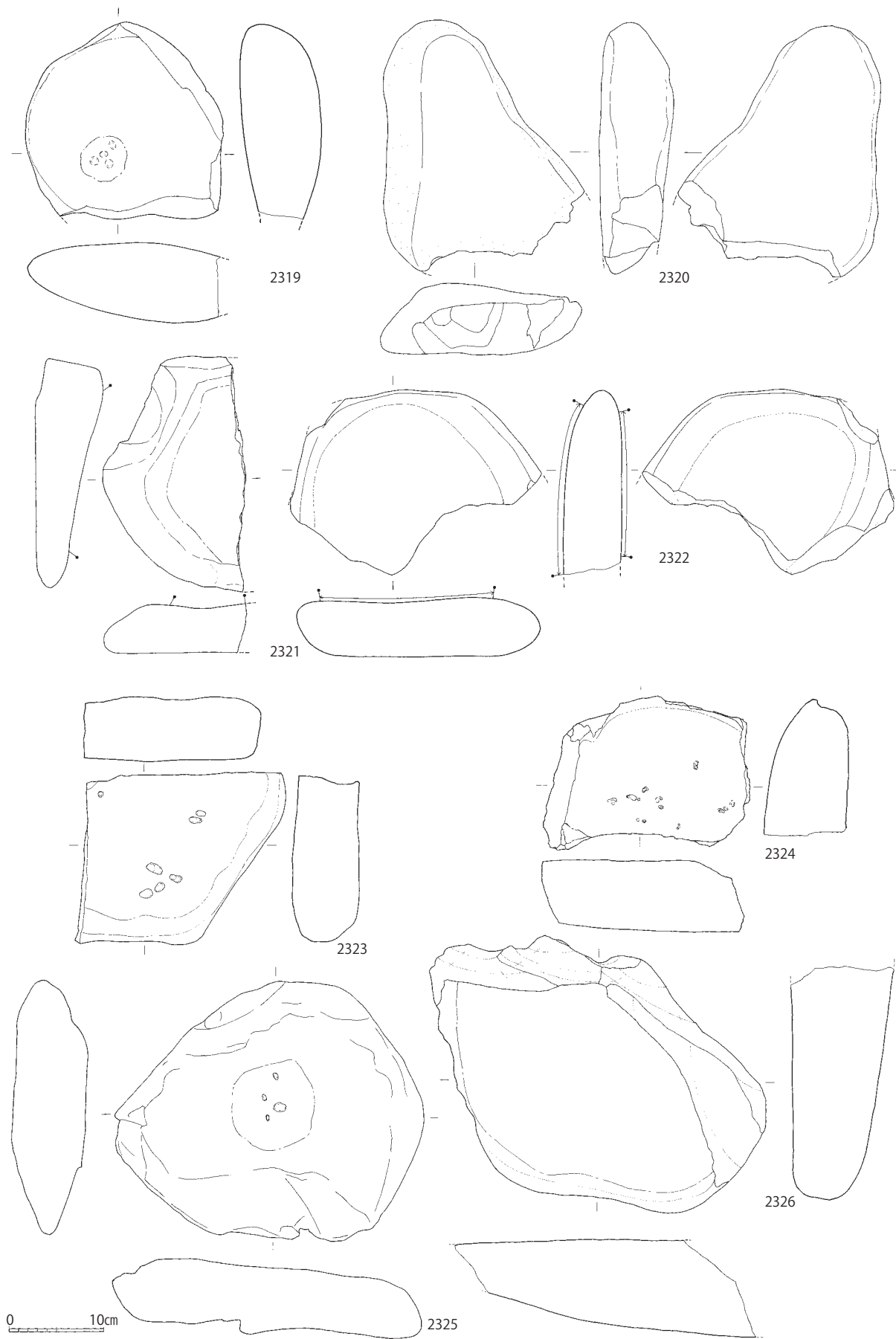
第457図 出土遺物実測図112-縄文時代の石器-(42)



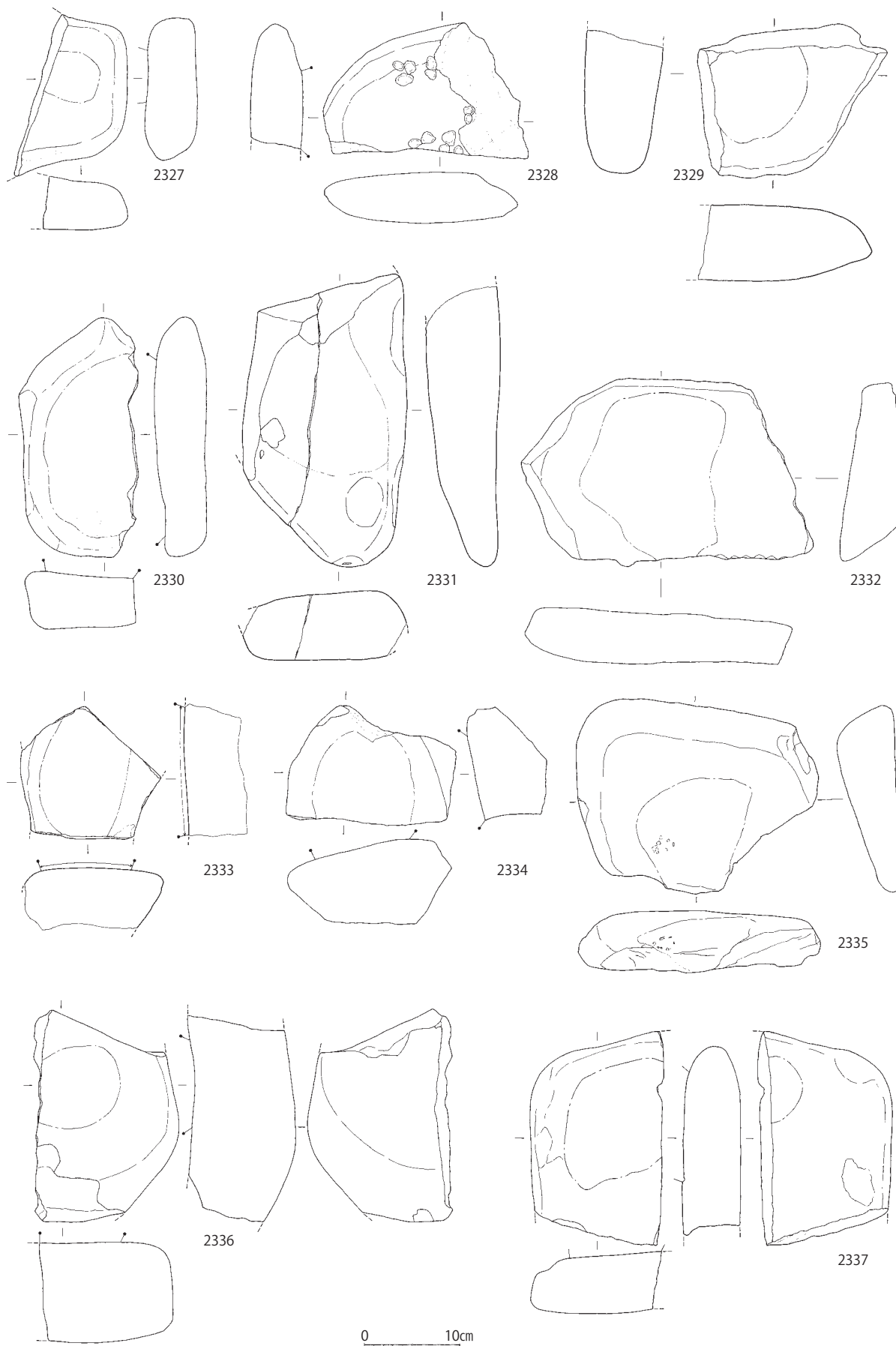
第458図 出土遺物実測図113-縄文時代の石器-(43)



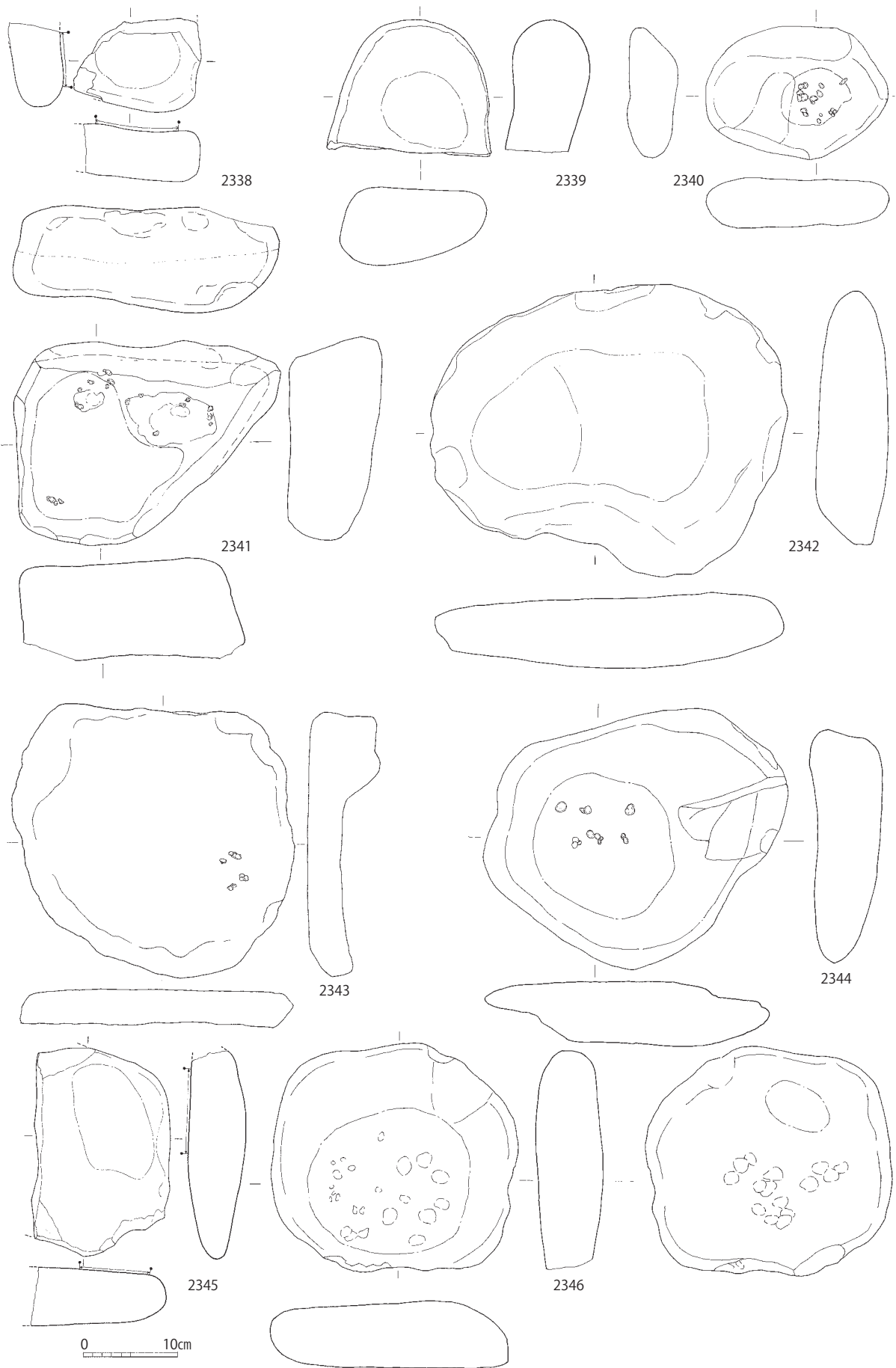
第459図 出土遺物実測図114-縄文時代の石器-(44)



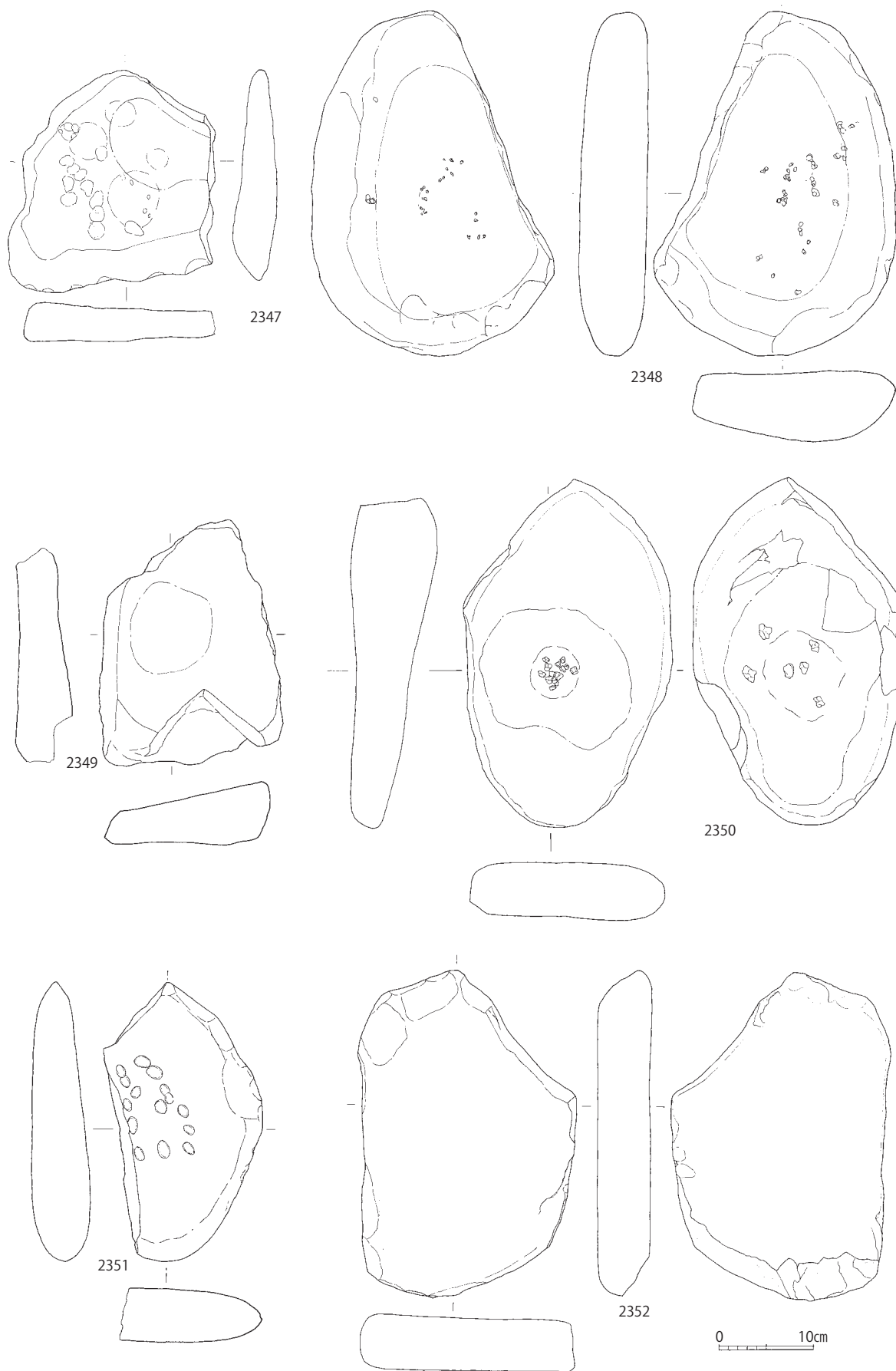
第460図 出土遺物実測図115-縄文時代の石器-(45)



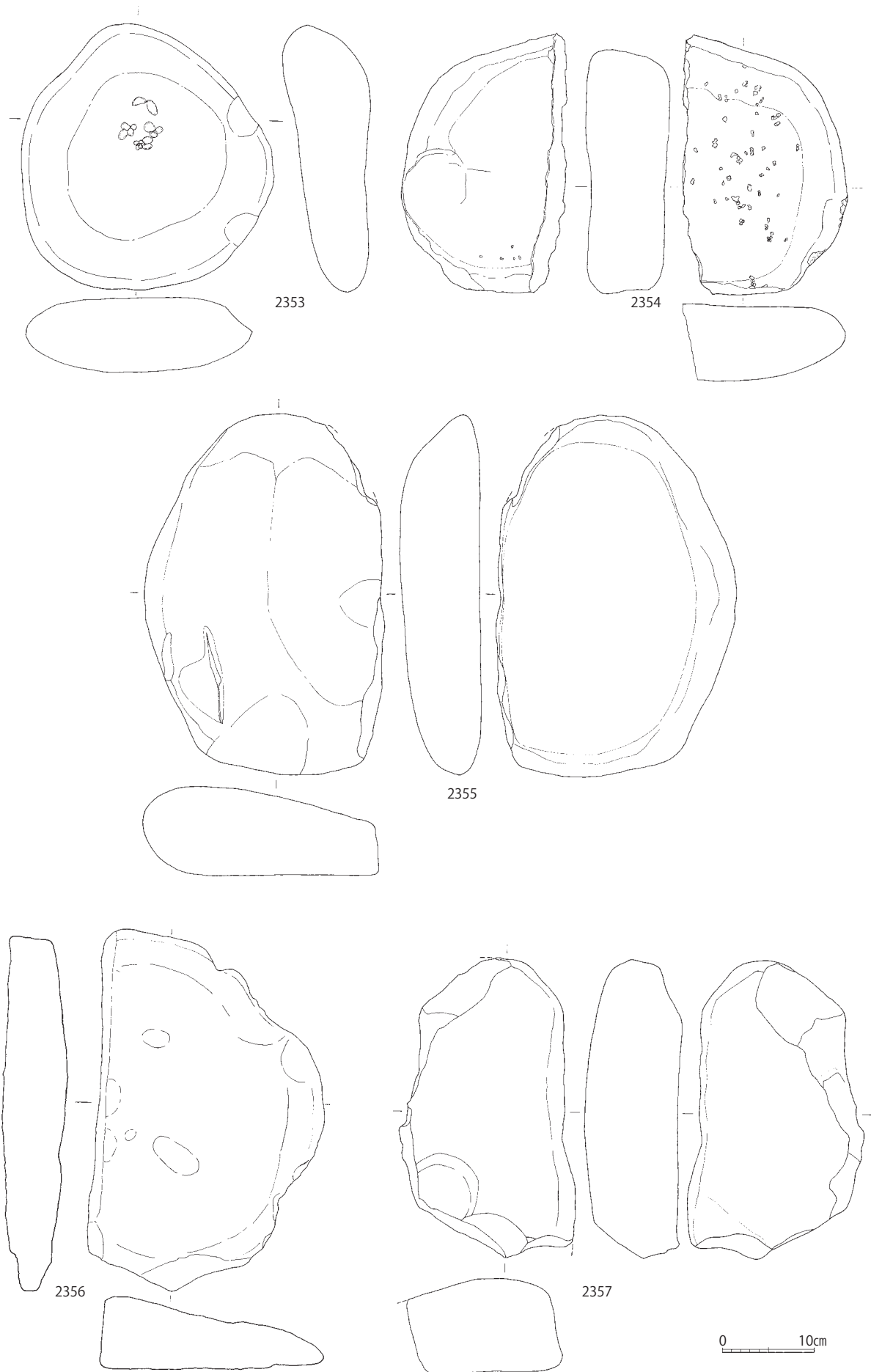
第461図 出土遺物実測図116-縄文時代の石器-(46)



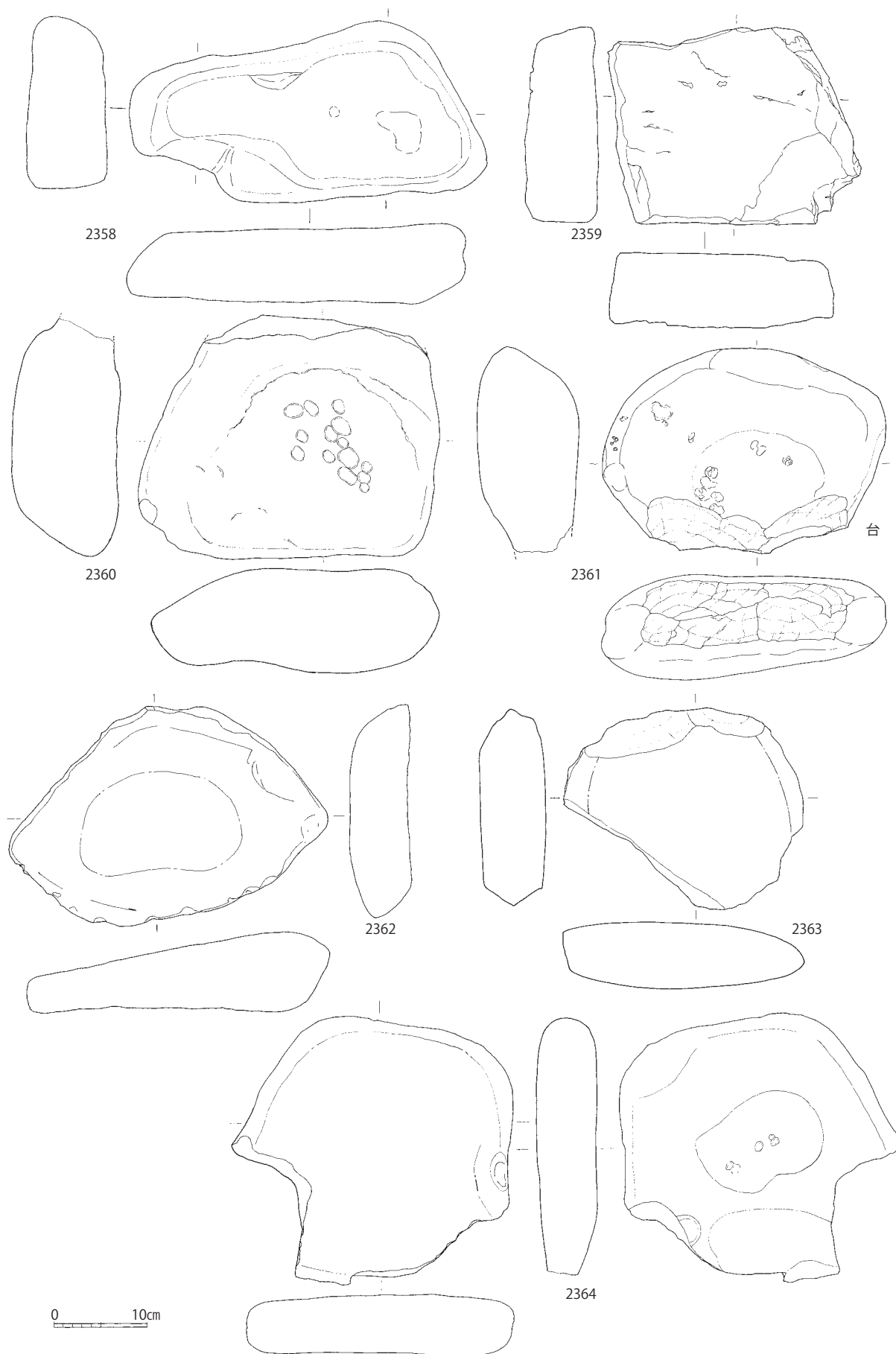
第462図 出土遺物実測図117-縄文時代の石器-(47)



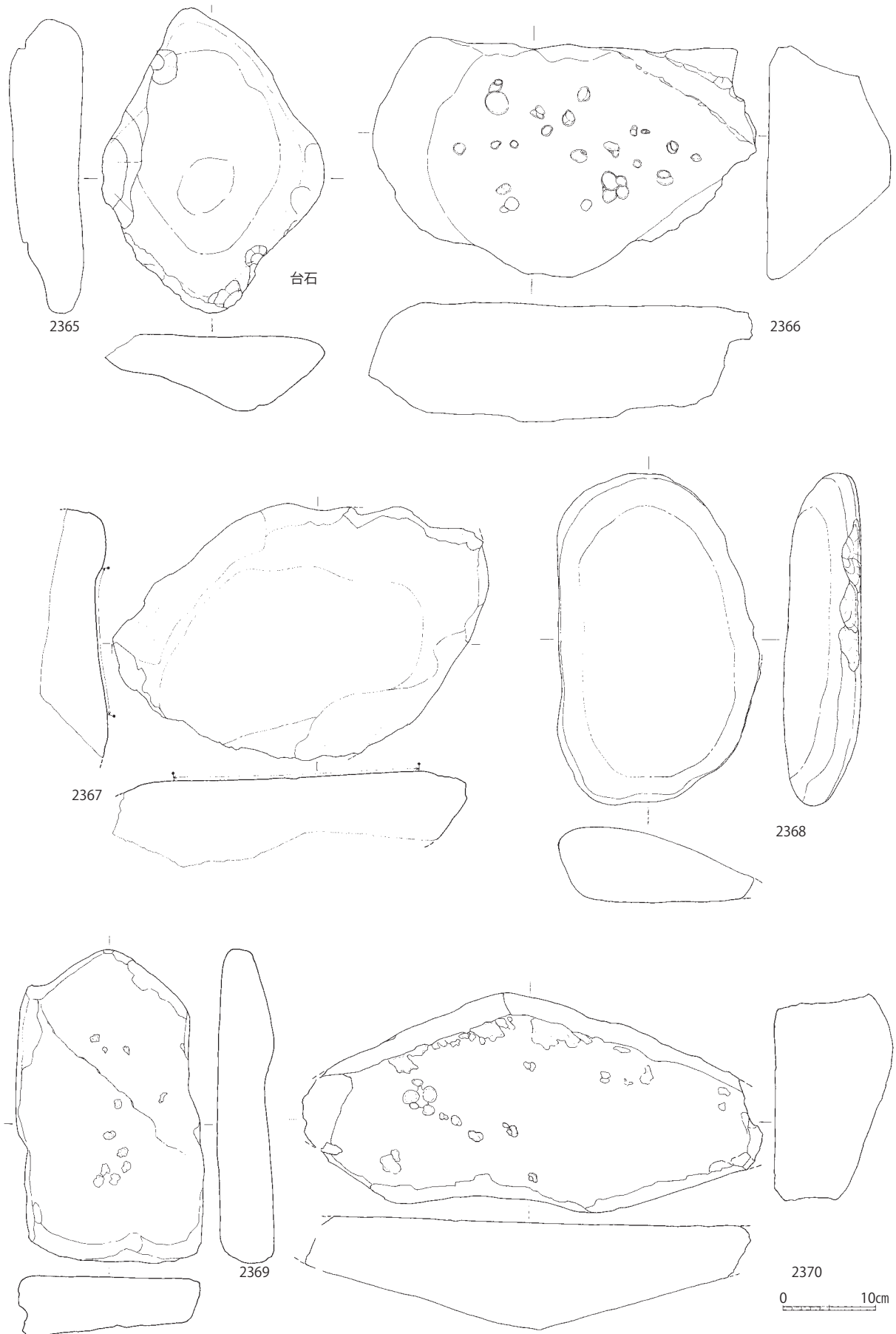
第463図 出土遺物実測図118-縄文時代の石器-(48)



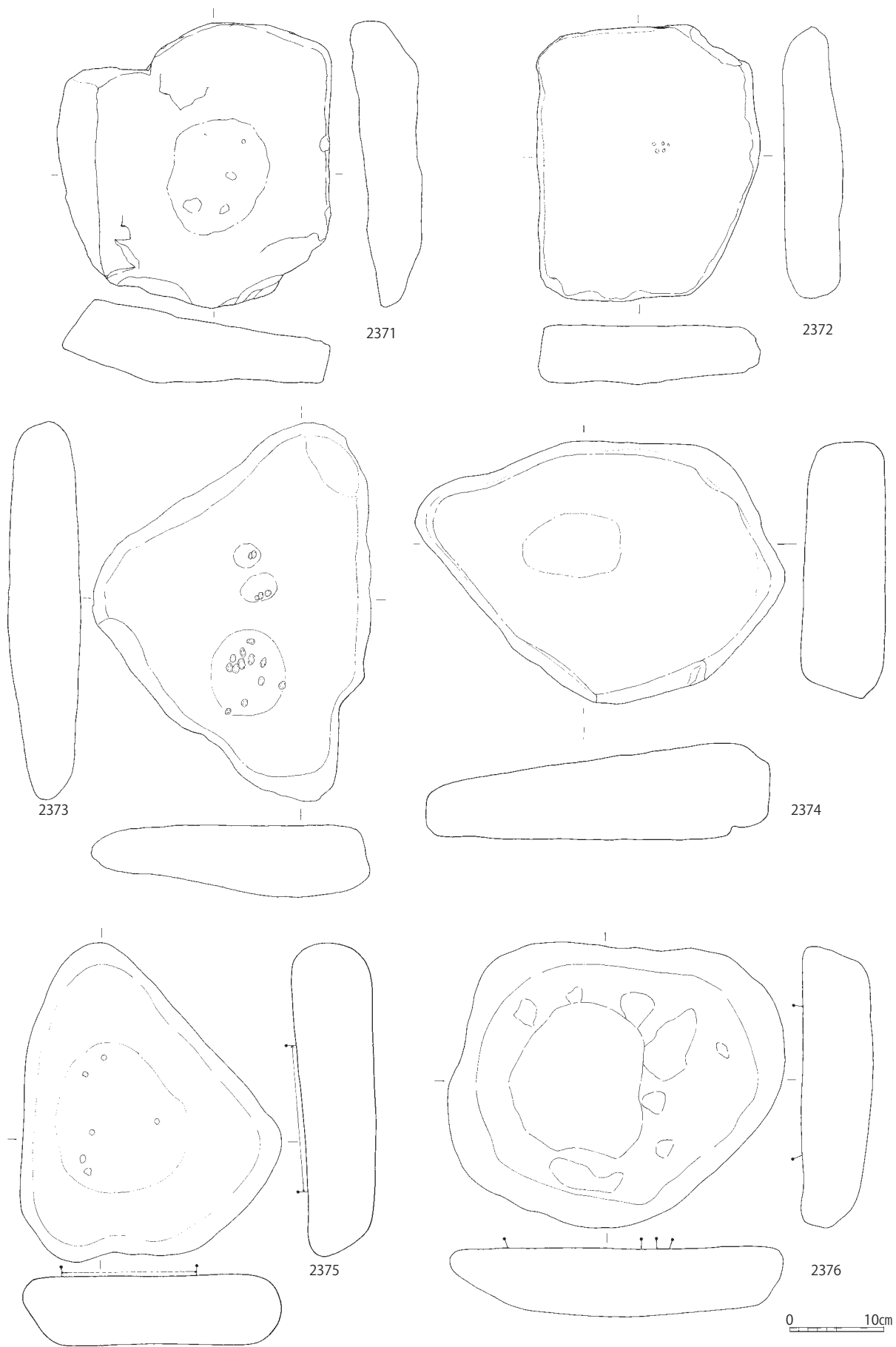
第464図 出土遺物実測図119-縄文時代の石器-(49)



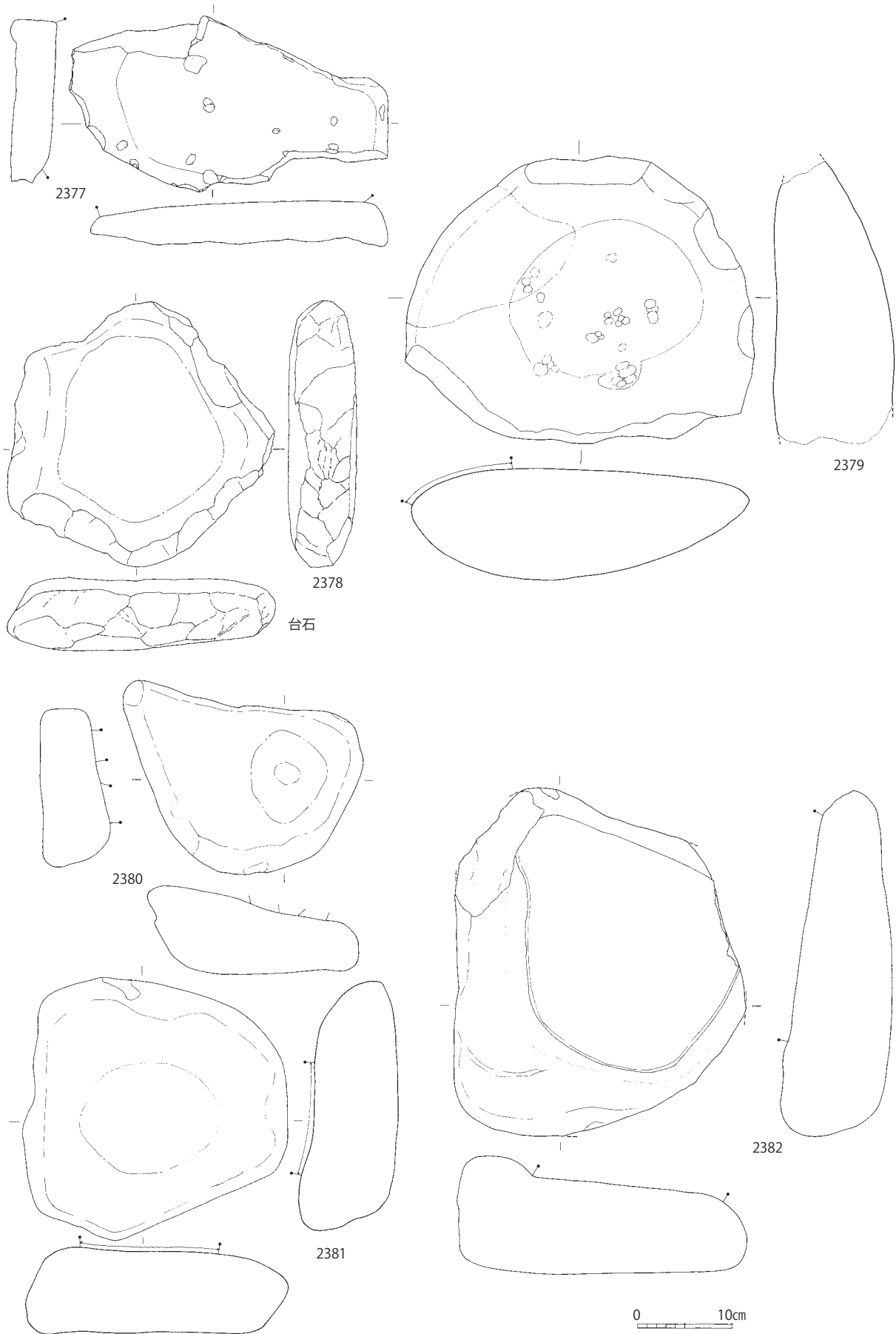
第465図 出土遺物実測図120-縄文時代の石器-(50)



第466図 出土遺物実測図121-縄文時代の石器-(51)



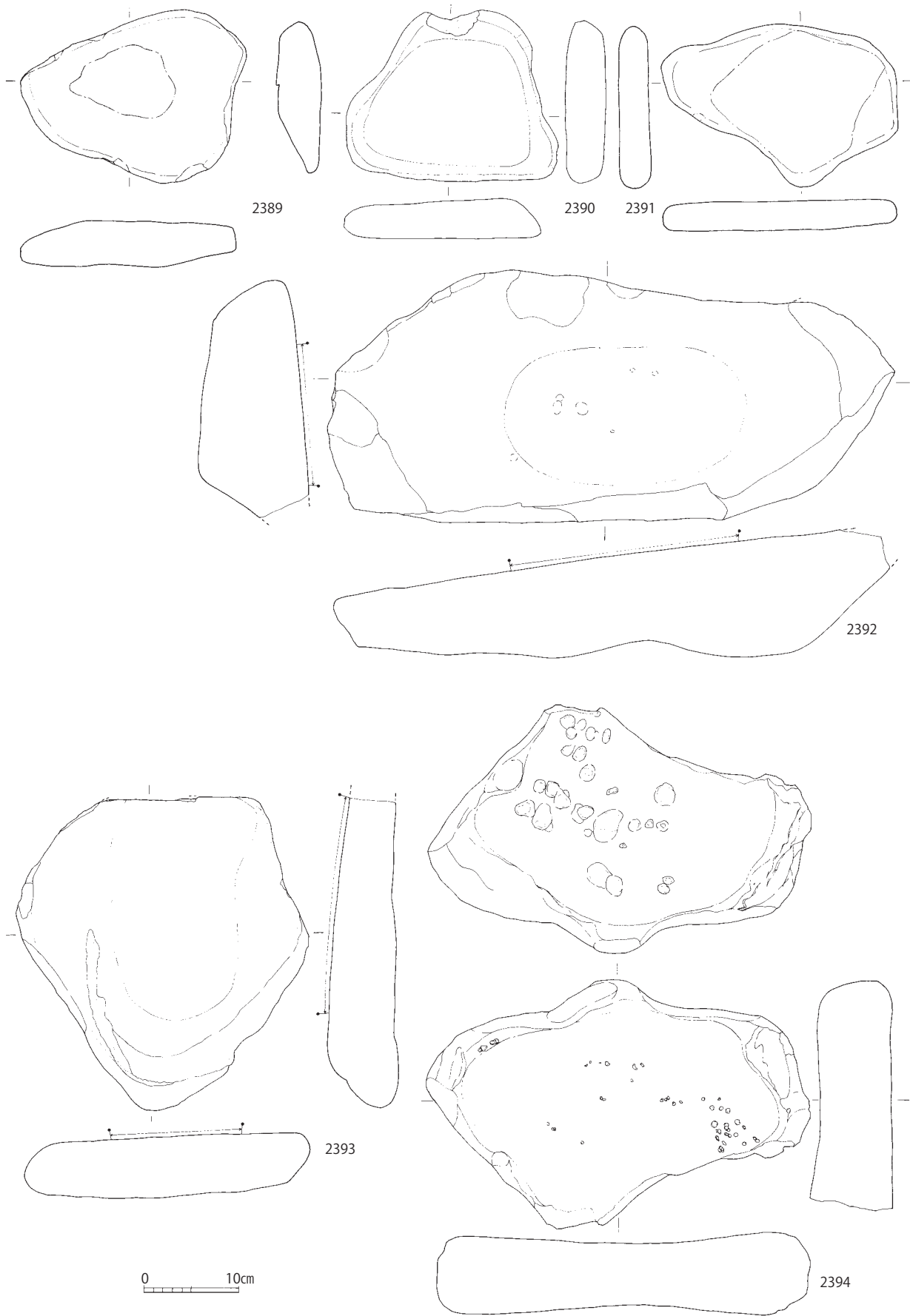
第467図 出土遺物実測図122-縄文時代の石器-(52)



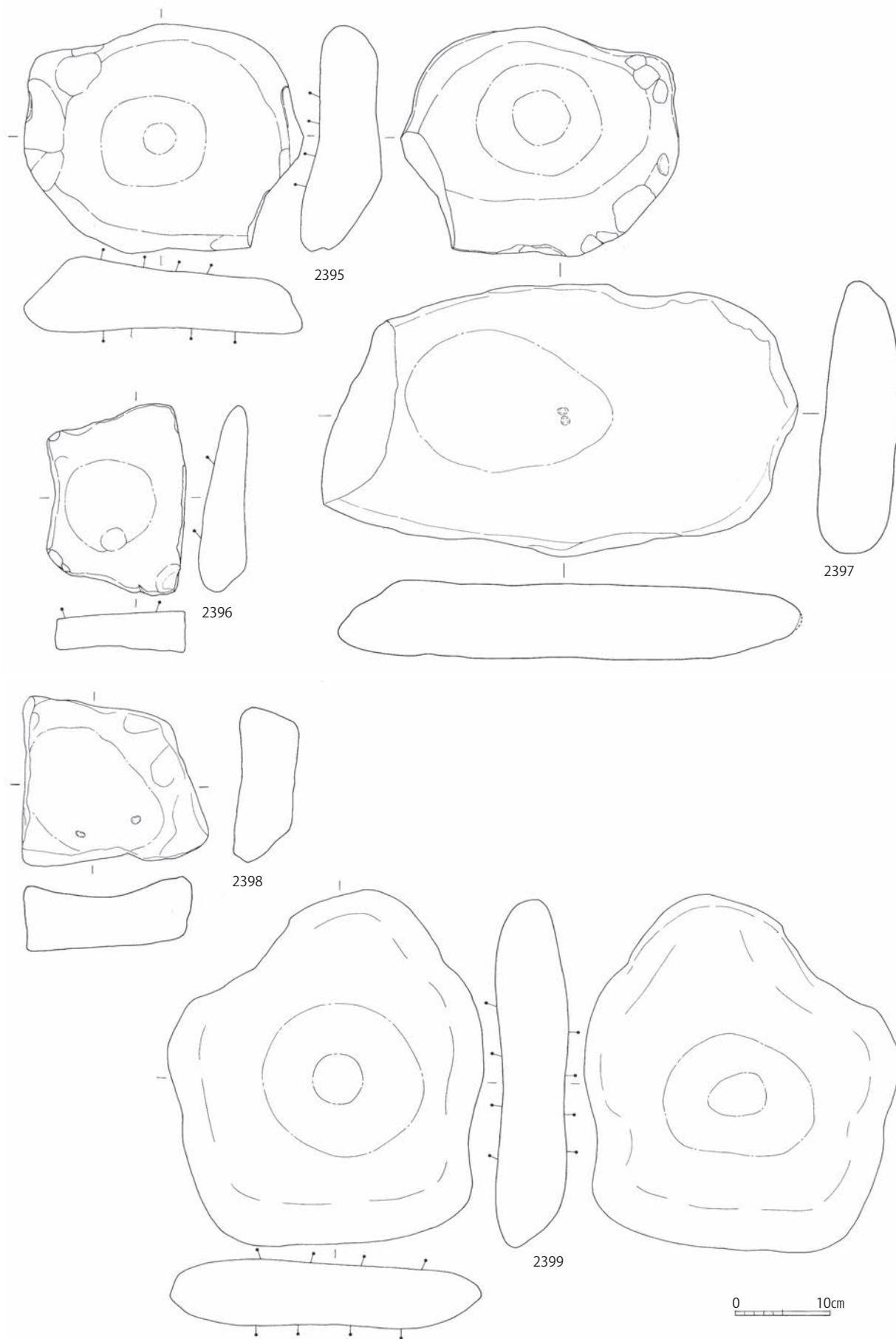
第468図 出土遺物実測図123-縄文時代の石器-(53)



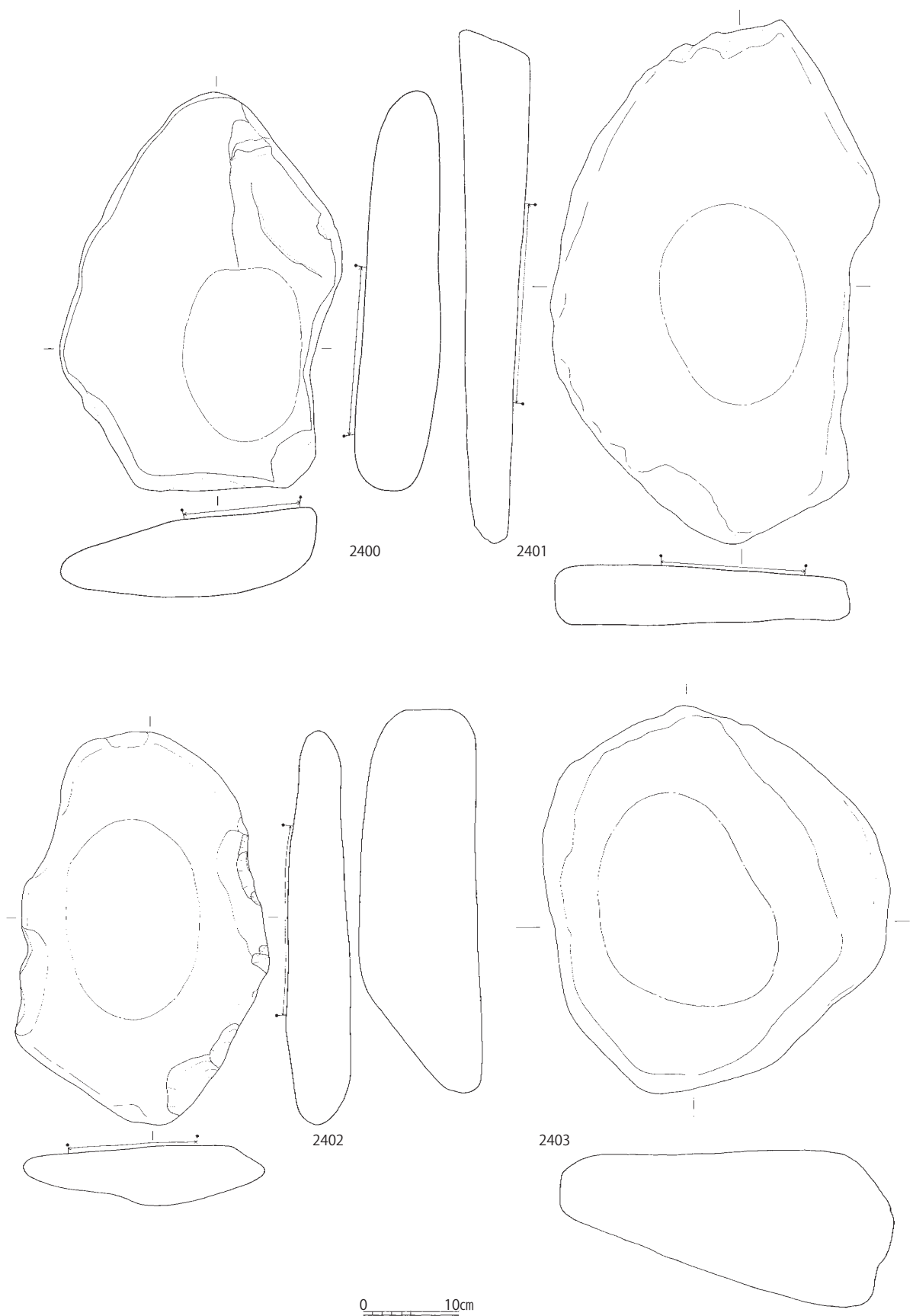
第469図 出土遺物実測図124-縄文時代の石器-(54)



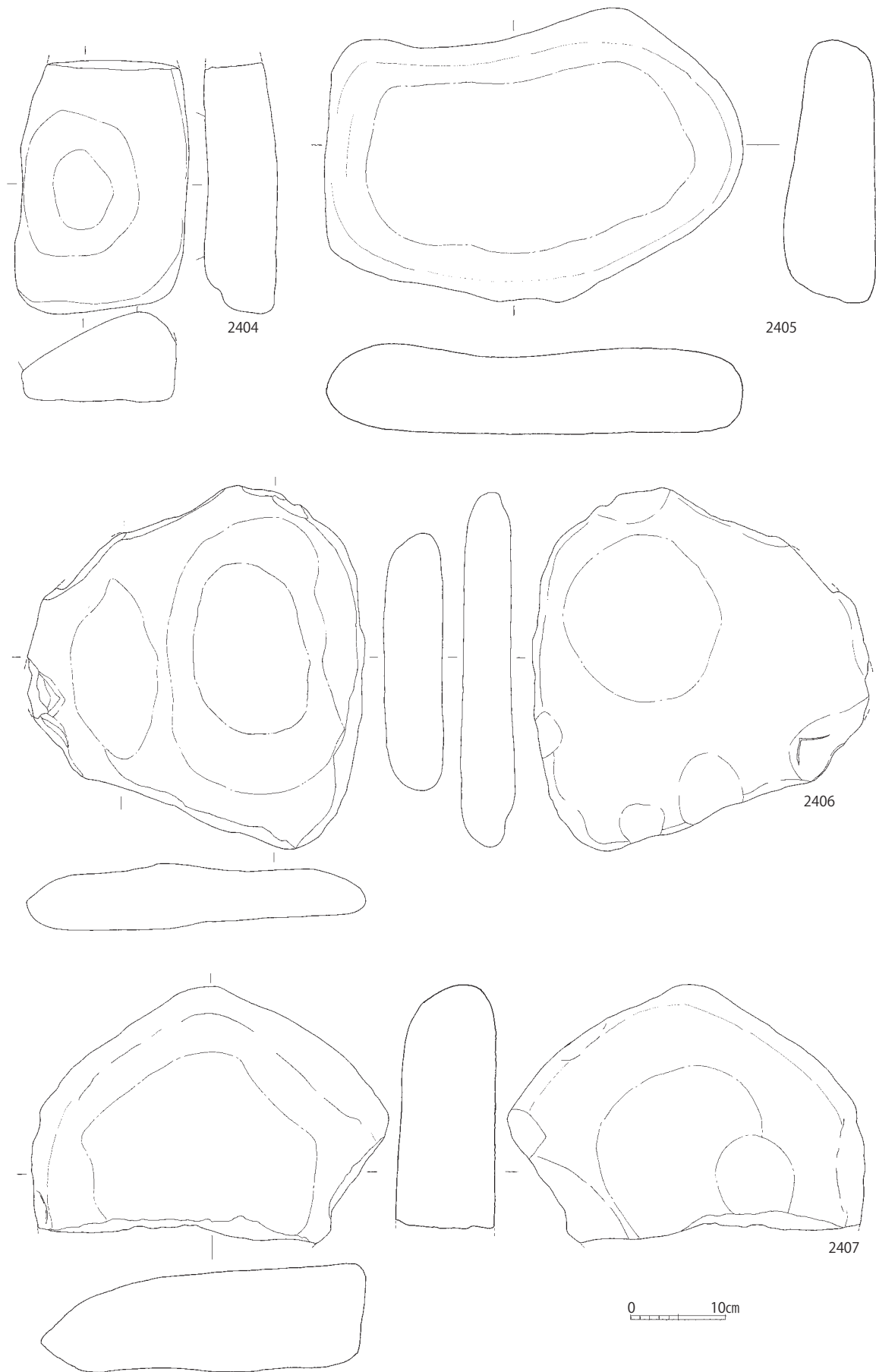
第470図 出土遺物実測図125-縄文時代の石器-(55)



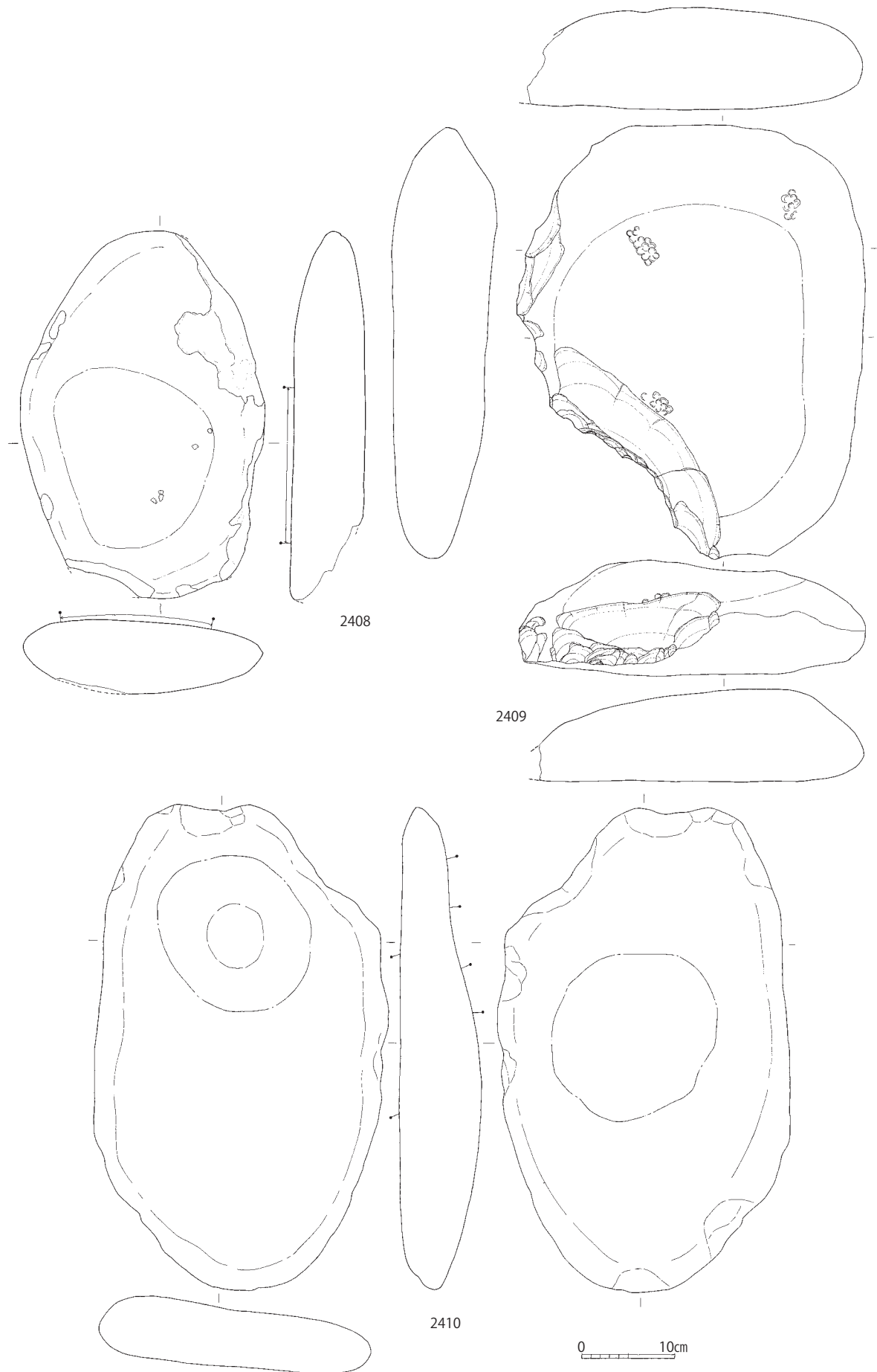
第471図 出土遺物実測図126-縄文時代の石器-(56)



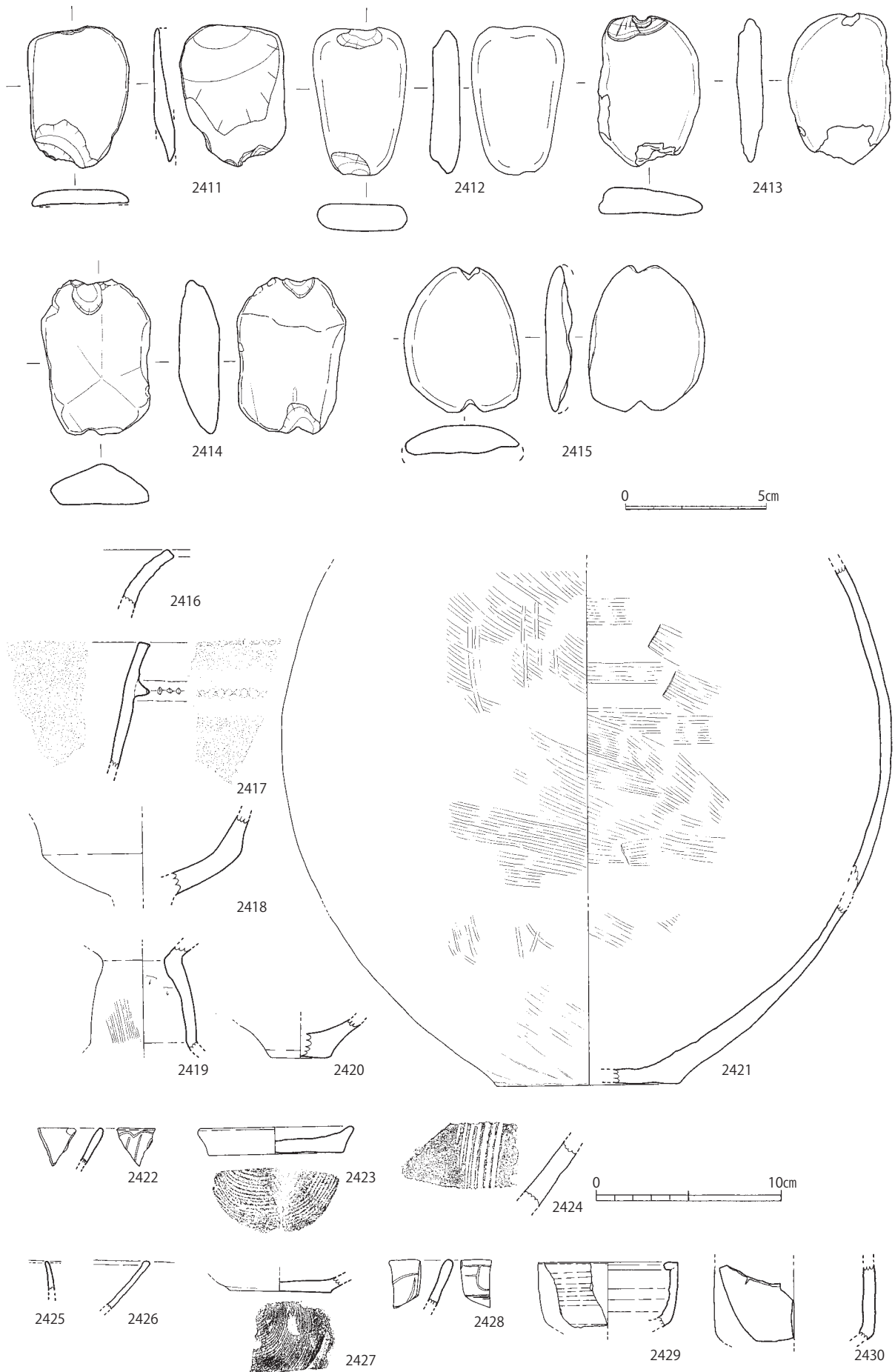
第472図 出土遺物実測図127-縄文時代の石器-(57)



第473図 出土遺物実測図128-縄文時代の石器-(58)



第474図 出土遺物実測図129-縄文時代の石器-(59)



第475図 出土遺物実測図130-縄文時代の石器-(60)-弥生時代~近世-

(12) 弥生時代以降

① 弥生時代

この時代の資料は、本文中でふれた土器以外に数例出土している。①下城式甕：外傾するタイプの例で、口縁端部のやや下に突帯を貼り付け、上に刻み目を入れている（第475図2417）。下城式甕の時期は、弥生時代中期である。②高坏：高坏の上部破片である。坏部の下半が皿状で、鋭く屈曲して口縁部が外方へ立ち上がる特徴があり（第475図2418）、弥生時代後期中頃に比定できる。③壺：壺の底部破片である（第475図2418）。径は小さいが明瞭な平底部分があり、下城式重弧文壺などの底部かもしれない。底部形態から弥生時代中期に比定できる。

② 古墳時代

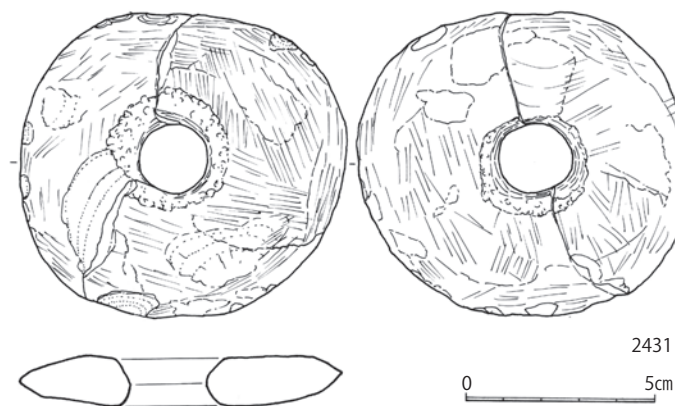
この時代の遺構と遺物としては既にふれたようにS 251 楕円形土坑から出土した土師器甕2点があるが（第332図・第333図）、包含層1点出土しているだけである。①高坏：高坏の脚部破片で、径に対し脚高が短く、なかほどが僅かに膨らむためずんぐりした印象を受ける（第475図2419）。脚部の外面は縦刷毛で、内面は縦方向のへら削りである。下部でハの字状に脚底部が広がるような様子が観察される。器形などから、山陰系の高坏のようでもあるが、はっきりしない。本例は、古墳時代の中期・5世紀頃に比定できるものであろう。

③ 中世

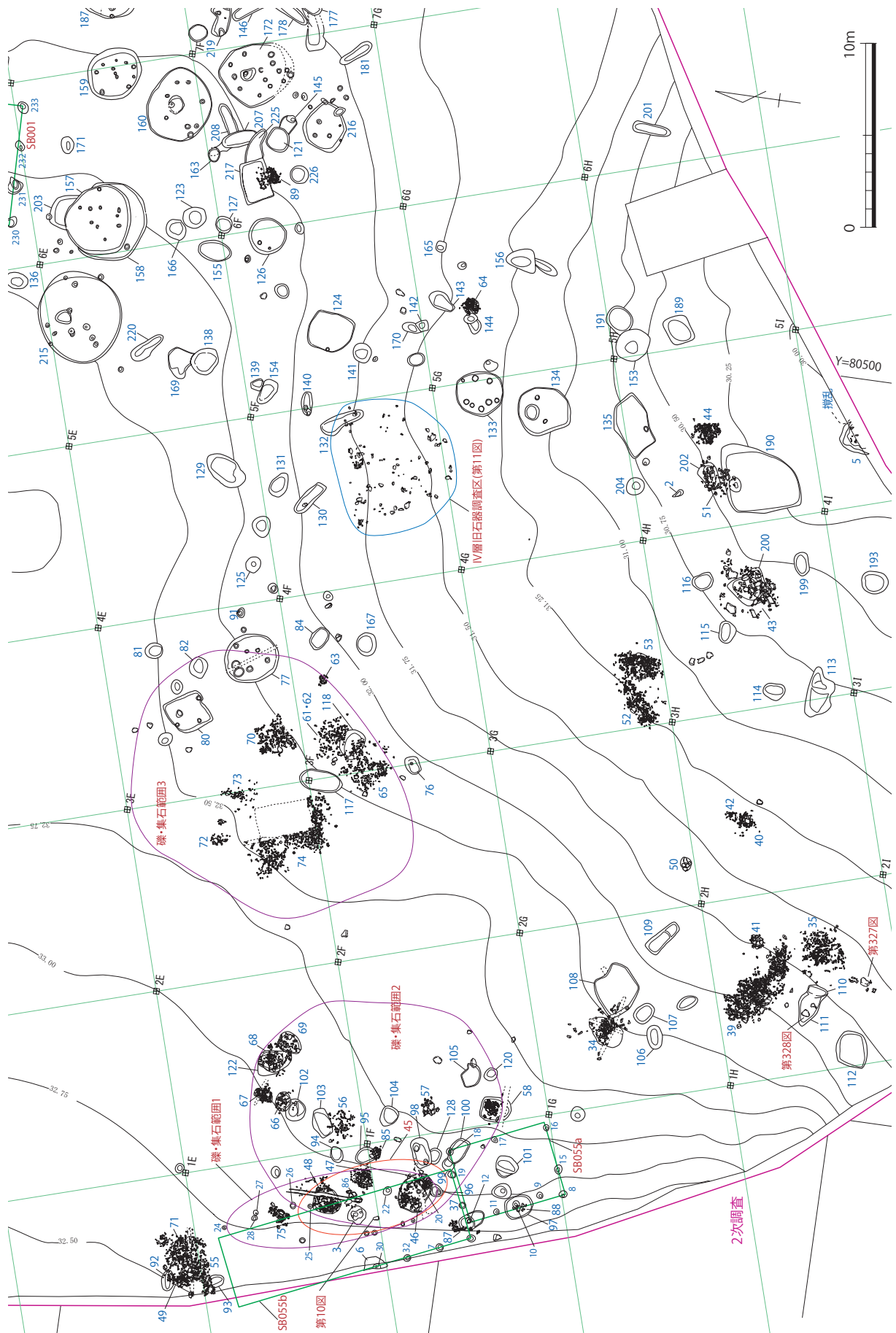
この時代の遺構と遺物としては既にふれたように多くはないが、大きく二箇所分布していた（第336図）。ここでは包含層や採集された遺物について記載しておく。①青磁碗：形骸化した蓮弁であることから、15世紀中頃から16世紀中頃の龍泉窯産の青磁碗である。この青磁碗破片は、0E区で出土しており、掘立柱建物であるSB055aやSB055bと関係があるのかもしれない（第336図）。②かわらけ：土師質土器の小皿で、口縁部が極短く立ち上がる（第475図2423）。本例は器形器形からすると14世紀頃に位置付けられる。本例も0E区から出土している。③備前焼の播鉢：播鉢の胴部破片であり、全体の器形は不明であり、0D区から出土している（第475図2424）。搔き目がの間隔が開いている点に特徴がある。14～16世紀代のものと思われるが明確ではない。

④ 近世

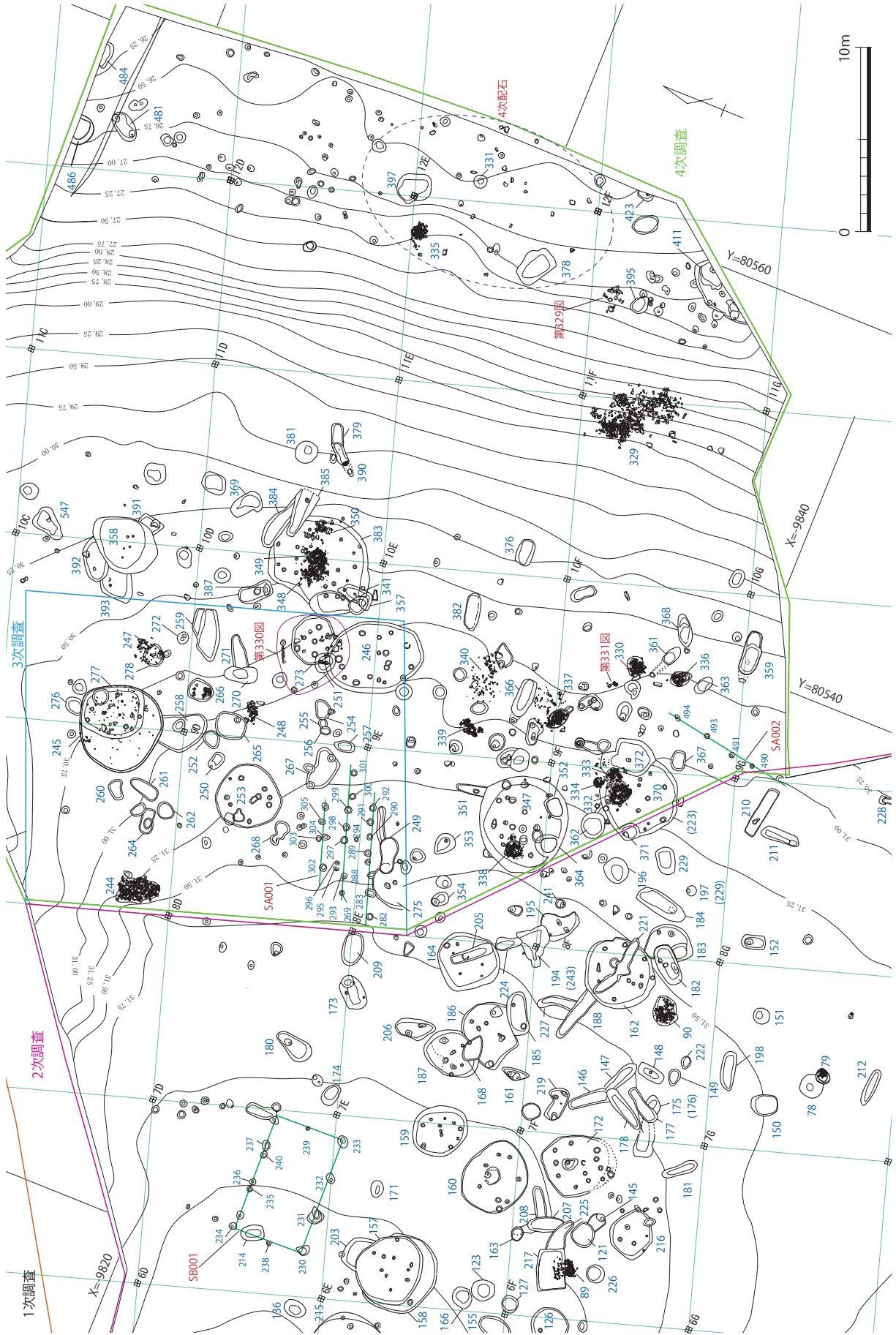
近世の遺物も散発的に出土しているが、遺構は近世のものとは推定される柵列状の痕跡しかなく、掘立柱等の遺構や土坑はない。ここに集落があったという情報はない。遺物は陶磁器の小破片が少量出ているが、時期のわかるものは少ない（第475図2425～2430、第479図2432～2433、第478図2442）。①染付碗：碗の小破片である（2428）。②青磁香炉：このあたりには発掘調査以前に石塔があったようで、そうした際の仏具であろう（2429）。③底部近くに屈折部のある筒形の青磁碗である（2430）。④播鉢：播鉢の破片であり、詳細は不明（2433）。⑤火鉢：真横に口縁部を突出させた火鉢（2435）。⑥焙烙：焙烙の可能性のあるもの（2436）。⑦関西系陶器瓶：胴部がS字状の形態で、底部が胴径と同じくらいに横へ突出している（2438）。仏具であろう。⑧土錘：5点の土錘が出土している（2439～2443）。南側を流れる大越川で用いた川漁用の土錘であるが、時期は中世の可能性もある。



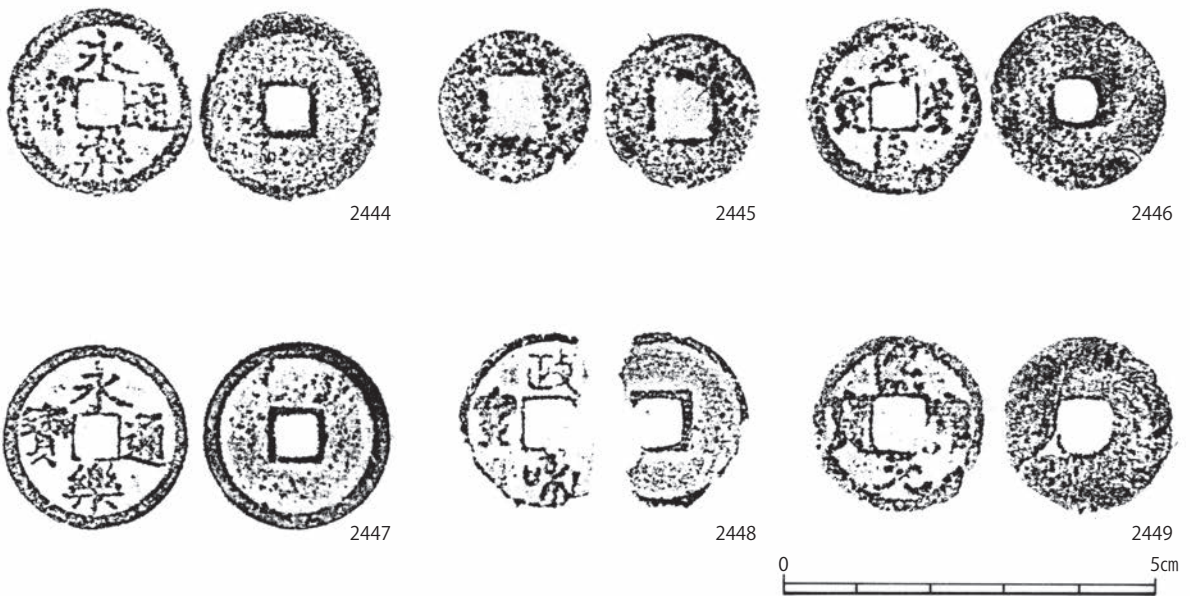
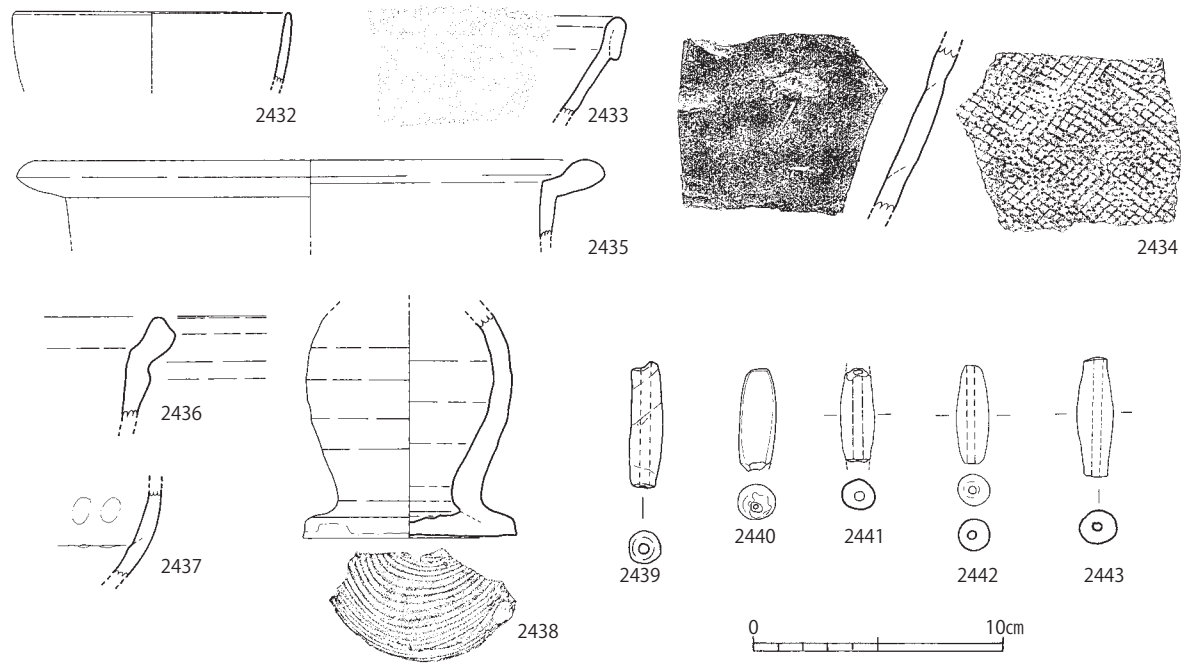
第476図 出土遺物実測図131



第477図 森の木遺跡 調査区西部遺構配置図(1/300)



第478図 森の木遺跡 調査区東部遺構配置図(1/300)



第479図 出土遺物実測図132-弥生時代~近世-

第4章 まとめ

第1節 旧石器時代後期

1 編年上の位置

旧石器時代後期の石器類は、その多くが縄文時代の遺構や包含層中から出土したもので、本来の包含層であるIV層中からの石器類はあまり多くない。そのためあって、旧石器時代の石器類と同じく同系統の泥岩を多用した縄文時代草創期・早期の石器との区分は、典型的なもの意外は困難であった。IV層の下部に約30,000年前に降灰したAT（始良Tn火山灰）が観察されたが、これによりAT降灰以後の時期での位置づけとなる。

まず、森の木遺跡出土の石器類の特徴を簡単に示しておく。やや先細りの石刃を用いた片島型石刃尖頭器4点（第345図422～424、第346図432）、片島型石刃尖頭器の平面形態に近い横長剥片素材のナイフ形石器（第345図421）、石刃を素材にした使用痕ある剥片やスクレイパーが約26点、今峠型ナイフ形石器（第353図519）1点が出土している。以上が、標識的な資料であり、時期区分の比較資料としたい。特に、片島型石刃尖頭器は、中型から小型の石刃を用いることが特徴で、初期は中型の石刃と小型の石刃を用い、後期には小型の石刃を用いることが知られている（大分県教育庁埋蔵文化財センター2009）。なお森の木遺跡からは、確実な角錐状石器、有茎剥片尖頭器、二側縁加工のナイフ形石器が出土していないことを押さえておく。

大分県内で最も旧石器時代編年の枠組みが分かる大野川中流域での層位的事例から、AT火山灰の上に①二側縁加工のナイフ形石器を主体とする段階、②狸谷型ナイフ形石器を主体とする段階、③今峠型ナイフ形石器・剥片尖頭器・角錐状石器を主体とする段階、④初期：片島型石刃尖頭器（かつて片島型ナイフ形石器と呼称したもの）を主体とする段階、⑤後期：片島型石刃尖頭器を主体とする段階という変遷が知られている。こうした変遷のなかで森の木遺跡の石器類がどのような位置にあるのかを考えたい。

今峠型ナイフ形石器は1点だけで、実体が分からないが、③の段階頃に使われたのだろう。片島型石刃尖頭器の系譜を考える為に、素材の石刃について触れておく。石刃は、二側縁加工のナイフ形石器の素材として使われるが、ATの上位では、AT直上の①の段階と、④・⑤の段階に石器の素材或使用痕ある剥片・加工痕ある剥片として使われている。特に森の木遺跡の石刃の特徴として、やや幅広であることと、表面側にボジ面がないことがある。このボジ面がないということは、剥離された石核が剥片素材の小口から剥離するというものでなかったということを示している。したがって森の木遺跡の石刃尖頭器は、幅広の例が多いことから④の段階に平行すると考えられ、多くの石刃もこの段階のものと考えられる。

なお石器の石材は、その多くが泥岩であることが分かった。この遺跡での泥岩は、拳大以上の例を含め、大小様々な石核・剥片・石器などがあるが、質的には脈が入るなど良質とはいえない角礫の石材である。しかも多くは流紋岩に比べて質が悪く、打面や打点を入れ替えて剥離した痕跡のある石核が多い。良好な石刃核はないが、その剥離面から角礫の角部を取り込むようにして剥離した形跡が窺える（第13図13・14、第350図473・476）。

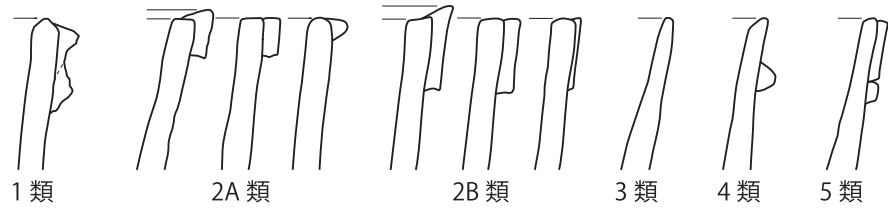
2 意義

森の木遺跡で旧石器時代資料が出土したことは、これまで県南地域における当該期の様子が多少なりとも分かったという点に意義がある。特に、この地域（県南地域）の旧石器時代の石器石材として、主体を占めていたのが泥岩ということがわかった点は大いである。これまで大野川と五ヶ瀬川地域では、傾山系の本谷山付近から流下した流紋岩を旧石器時代後期の石器石材とすることで知られていた。当然、大野川と五ヶ瀬川に挟まれた県南地域でも大野川・本谷山系の流紋岩を石材とする多量の石器の存在が予測されていたところである。しかし森の木遺跡では予測に反して泥岩を多用していたということである。筆者はかつて大野川本流沿いをその外側方向へ遠ざかるにしたがい、大野川・本谷山系の流紋岩を石材とする石核や石器が石器製作やメンテナンス等によって消耗・消費し、そして遠隔地周辺の様々な石材を臨機的に用いていることを指摘したことがある（大分県教育委員会1999）。この図式でいえば森の木遺跡での居住者たちは、遠隔地で石材を補給したということになるのである。石器石材のほとんどを近隣の泥岩を用いているのである。しかもこの遺跡の旧石器時代人は、ふんだんに泥岩を石器石材としたようで、拳大以上の石核も多い状況である。おそらく大野川と五ヶ瀬川方面から遊動してきた人々が、臨機的ではなく、泥岩を主要な石材として選択していたことが判明した点に意義がある。

第2節 縄文時代草創期

1 土器の分類

森の木遺跡の中心となるのは、多数の堅穴建物と細長い炉穴である。これらの遺構からは隆帯文系の土器とナデ調整の無文土器が大量に出土している。このことから森の木遺跡の堅穴建物群は大分県最古最大・大分



第480図 隆帯文土器口縁部分類

県初であるとともに、国内でも屈指の古さを有する集落であることは明らかである。こうした点から森の木遺跡出土の縄文時代草創期の土器群の特徴を抽出・分類・比較し、その位置づけをおこないたい。まずその方向性として、隆帯が消失し無文土器に移り代っていくことを念頭におき、草創期土器群の実体把握を目的とする。また、隆帯上に刻みや刺突がみられる例を隆帯上施文と呼び、ない例を隆帯上無文と呼ぶことにする。なお隆帯がない例に施文している場合においても、隆帯が形骸化する以前の施文伝統を引き継いでいるとみなされることから擬隆帯上施文と呼ぶ。

隆帯文系 1類：低く幅広い隆帯を口縁部外面に直下に2条貼り付けたもので、隆帯間がナデによって低く連結している。

- 〃 2類：口縁に接して1条の隆帯を貼り付けたもので、幅狭い2A類と幅広い2B類からなる。
- 〃 3類：隆帯が極めて低く目立たないか、全く貼り付けてない場合。擬隆帯上施文の元になる土器。
- 〃 4類：口縁端部外面側のやや下側に横方向の隆帯を貼り付けた例。
- 〃 5類：幅広い隆帯の直下に細い隆線を貼り付けた例で、1類と2B類の中間的な特徴を有する。

以上のうち、隆帯文系2B類は段が高いものと低いものがある。

隆帯上施文・擬隆帯上施文については、以下のような種類がある（第481図）。

隆帯上施文・擬隆帯上施文 a種：綾杉状・矢羽状の刻目を入れた例

- 〃 b種：単純な刻目を入れたもの。
- 〃 c種：垂下する短沈線（ヘラ刻み）を入れた例。
- 〃 d種：斜行する短沈線（ヘラ刻み）を入れた例。
- 〃 e種：連続して鋸刃状・山形状の刻目もしくは短沈線を入れた例。
- 〃 f種：X字状 / 格子目状の刻目を入れた例。隆帯の下にも施文する場合がある。
- 〃 g種：横位連続ハの字爪形状刻目・刺突を入れた例。
- 〃 h種：ノ字状刻目・刺突を加えた例で、2段の例と、3段の例がある。
- 〃 i種：棒状工具で円形刺突を加えたもので、1段、2段、3段の例がある。
- 〃 j種：D字状の刺突をした例で、1段、2段、3段の例がある。
- 〃 k種：半円形竹管状の刺突を入れた例で、1段、2段、3段の例がある。
- 〃 m種：円形竹管状の刺突を入れた例で、3段の例がある。
- 〃 n種：貝殻文（腹縁文を含む）
- 〃 o種：ハの字爪形状の刺突を刺突した例。
- 〃 p種：左下がりの斜行短沈線を密に引いた後、右下がり斜行短沈線を0.4cmから0.7cmの間隔を置いて施した例。
- 〃 q種：無文

以上、隆帯上施文・擬隆帯上施文の種類についてはa種～p種の15のパターンが確認された。次に隆帯の特徴である、隆帯文系1類～4類と隆帯上施文・擬隆帯上施文a種～q種の組み合わせは以下のとおりである。

隆帯文系1類 a種（S383：第35図152、S358：第31図106、S245：第21図41、S246：第24図76、S383：第35図152）

計5点

隆帯文系1類h種 (S245: 第21図41、9D区: 第31図108) 計2点

隆帯文系2A類c種(S383: 第35図150・151、9E区: 第357図574、10D区: 第357図575、9D区: 第357図572、10D区:
第357図573、12F区: 第357図583) 計7点

隆帯文系2A類d種 (S245: 第21図45、S383: 第35図146、) 2点

隆帯文系2A類e種 (S245: 第21図38、S383: 第35図145、9B区: 第357図576、9G区: 第357図577、10C区: 第357図578)
計5点

隆帯文系2A類F種 (S245: 第21図39・40、9D区: 第357図579・580、10C: 第357図581、11F/9E: 第357図582) 計6点

隆帯文系2A類G種 (12E区: 第357図567、9D区: 第357図568、10E区: 第357図569) 計3点

隆帯文系2A類h種 (S383: 第35図149、2A区: 第356図552、10C区: 第357図564) 計3点

隆帯文系2A類i種(S383: 第35図144、9D区第356図545・546・551・559、10C区第356図547、9C区: 第356図548、9E区:
第356図549、8C区: 第356図550、10D区: 第357図584) 計10点

隆帯文系2A類j種 (S190: 第37図39、S246: 第24図73、10C区: 第357図566) 計3点

隆帯文系2A類k種 (8E区: 第356図561) 計1点

隆帯文系2A類p種 (S383: 第35図148) 計1点

隆帯文系2A類q種 (S245: 第21図50、S246: 第24図77、S273: 第27図95、S277: 第28図101、S383: 第35図147・155、9B
区: 第358図589、9C区: 第358図592・594、9D区: 第358図587・588・590・591・593・596、11E区: 第358図
595) 計16点

隆帯文系2B類i種 (S245: 第21図46、S277: 第28図102、S358: 第31図105、S259: 第40図199、8D区: 第356図557)

計5点

隆帯文系2B類j種 (10D区: 第356図560、11D区: 第357図565) 計2点

隆帯文系2B類o種 (S245: 第21図48) 計1点

隆帯文系2B類p種 (9D/11F区: 第358図597) 計1点

隆帯文系2B類h種 (9C区: 第356図555) 計1点

隆帯文系2B類m種 (10B区: 第356図562) 計1点

隆帯文系2B類n種 (9D区: 第357図585、8D区: 第357図586) 計2点

隆帯文系3類c種 (S246: 第24図74) 計1点

隆帯文系3類d種 (S245: 第21図42、S277: 第28図96) 計2点

隆帯文系3類f種 (S246: 第24図75) 計1点

隆帯文系3類h種 (8D区: 第356図539) 計1点

隆帯文系3類i種 (S277: 第28図97、S358: 第31図105、9E区第356図542、9D区: 第356図538、10C区: 第356
図534・536、10D区: 第356図535・537、廃土: 第356図541、11E区: 第356図543) 計10点

隆帯文系3類j種 (S245: 第21図43/44) 計1点

隆帯文系3類k種 (9F区: 第356図558) 計1点

隆帯文系4類p種 (S245: 第21図51/52) 計2点

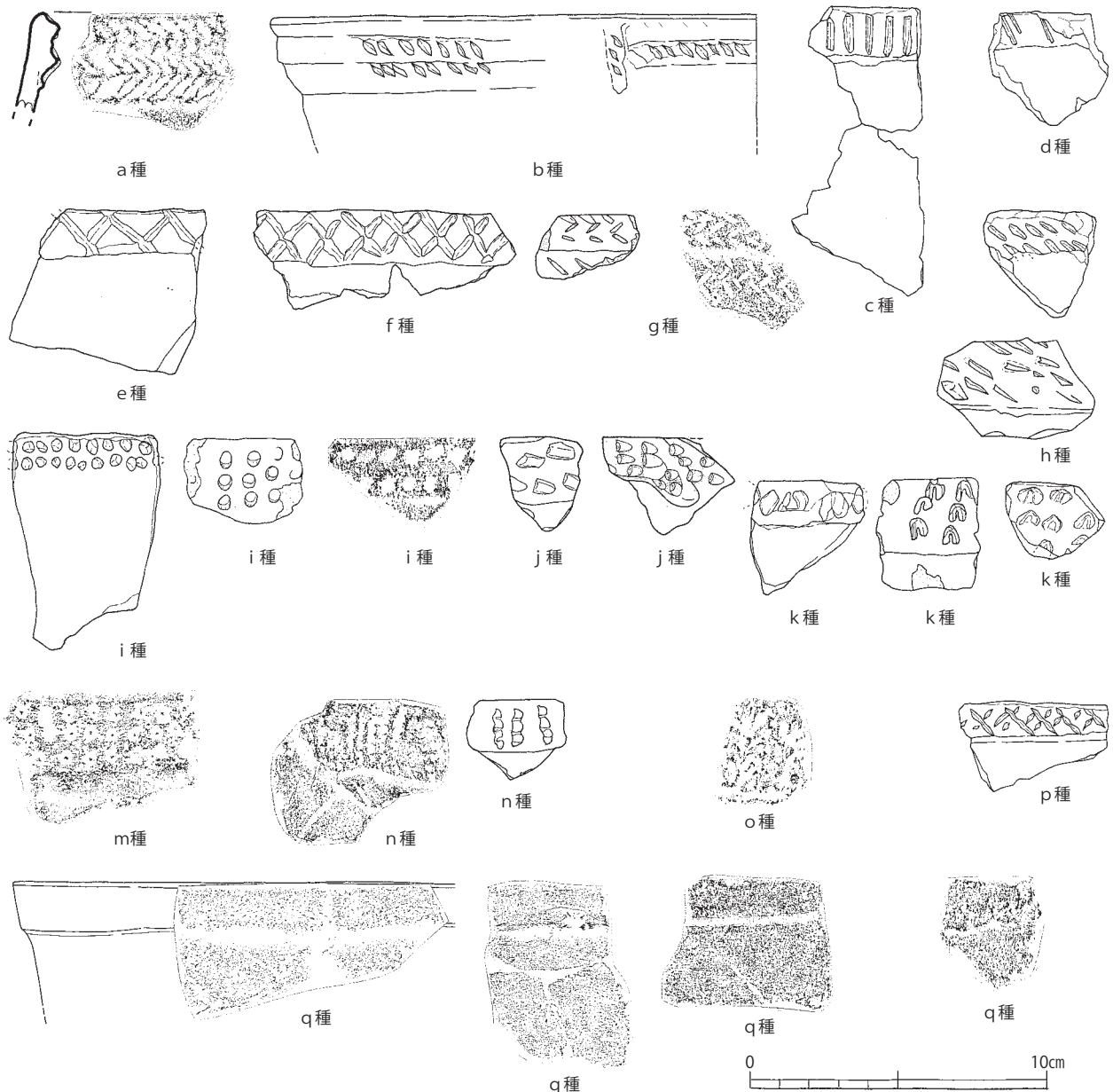
※なお隆帯上施文はあるものの、不明瞭で分類のできない隆帯文系5類がある (9D区: 第356図554)。

隆帯文系土器のなかで1類と結びつく隆帯上施文はa種・h種の3種類9点、2a類では10種類55点、2B類は7種類13点、3類は7種類17点、4類は1種類2点である。このように隆帯文系土器のなかで2a類が中心をなしている。以上のように隆帯文系土器を分類してきたが、共通する特徴もある。特に著しいのは、1類を含めて隆帯を口縁端部と高さを揃えるように貼り付けた例が多いことが挙げられ、口唇部と貼り付け部分が一体化して平坦面を形成した例も多い。また隆帯を口唇部より高く張り付けたことに起因して、隆帯の上端から口唇部の内面側にかけて斜めに低く傾斜する内向傾斜面がある(隆帯文系2A類: 第357図578、隆帯文系2B類: 第31図105、第356図562、第357図586、隆帯文系5類: 第356図554)。このように内向傾斜面は、上記分類間を越えて存在する。隆帯文系3類は各種隆帯上施文と結びつく例が多く、その中心はi種で10点あり、他

は1、2点である。このほか、大きくは1類c種に含まれるが、横方向の隆帯間が僅かに開くことと、やや細く、垂下する隆帯が横方向の隆帯上を横断する例である（第414図1809）。この例については楔形細石刃核に伴う例かもしれない（第344図415）。

隆帯文土器に伴う無文土器は、これまで触れてこなかったが、堅穴建物 S245/S246/S273/S277/S358/S383/ からも出土している。実質的には隆帯や文様のない無文土器となる。これらの土器は、ナデ調整を行っただけの土器である。この無文土器口縁部の器形が外傾・直行・外反である。底部は隆帯文土器と同様、堅穴建物から出土例をみると、平底である蓋然性が高い。隆帯文系土器も無文土器も、底部まで繋がる土器がないため詳らかでないが、堅穴建物の S245/S246/S273/S358/S383 から平底部が出土しており、平底を基本とした器形となる。隆帯文系土器においては、口縁部が直行・外傾を基本とするもので、平底部から胴下半で外傾しつつ、胴部が直行気味に立ち上る器形が推定される。無文土器も平底部から同様に立ち上がりながら、口縁部は外傾（第21図53、第31図111～114）・直行（第27図91・92、第21図54、第35図158・159）・外反（第21図55、）するという単純な器形と考えられる。

南部堅穴建物群とその周辺の遺構からはほぼ単純に無文土器が出土するが、これらの無文土器についてみてみよう。S159では、直行（第58図220～223）とやや外傾（第58図224）のナデ調整無文土器があり、これに僅かに上げ底の平底の底部破片（第58図225）が伴う。後者の土器は、残存部の最下部が底部方向に向かって傾斜が緩やかになる兆しが窺える。S160（第



第481図 隆帯文上施文・擬隆帯文上施文の分類図

60 図 227)・S162(第 63 図 223)・S186(第 68 図 238) は直行気味の破片である。S172(第 67 図 236) 外傾する破片である。S347 は、混入と推定する条痕調整無文土器 1 点・押型文土器 2 点を除く 19 点の無文土器が出土しているが、いずれもナデ調整の直行・外傾・内傾する資料である(第 76 図)。S347 には、底部平底に近い丸底の大型破片がある(第 76 図 262)。これは、半球形の丸底である二日市洞穴第 7 文化層出土の無文土器の丸底部と S347 の例は、後者が曲率が低いという違いがある(九重町教育委員会 2004)。また S347 では、1 点の条痕調整無文土器(混入と考えられる)を除くと、他は全てナデ調整無文土器であることが二日市と違っている。こうした南部堅穴建物群出土のナデ調整無文土器は、内傾する土器を除くと北部堅穴建物群で隆帯文系土器とともに出土したナデ調整無文土器との違いを識別するのは難しい。したがって南部堅穴建物群とその周辺から出土するナデ調整無文土器群も縄文時代草創期の無文土器と考えるのが自然である。なお、森の木遺跡のⅢ層からは図示してきたように多量の押型文土器が出土している。その一方で堅穴建物や炉穴などの遺構から出土する押型文土器は、1 点もしくは 2 点程度と少ない。更に言えば、これまでの研究史に照らしてみても尖底の押型文土器と平底形態のナデ調整無文土器を同一時期と考えることはできない。したがって、押型文土器は堅穴建物や炉穴などに混入したものと考えられる。

2 森の木遺跡出土の縄文時代草創期の土器編年

九州地方の縄文時代草創期の土器の時間的・層位的な変遷は、長崎県の福井洞穴遺跡、泉福寺洞穴遺跡の層位的な成果から、1 隆起線文土器(豆粒文土器・初期隆帯文土器・細隆線文土器)、2 爪形文土器と変遷し、これには西海技法・福井技法という技術にかかる福井型細石刃核(楔形細石刃核)と、それから生産された細石刃が伴う。こうした福井型細石刃核やなどは鹿児島県地域からも出土しており、少なくとも爪形文土器の段階までは広がっていたことが窺える。しかし九州地域においては、細石刃を伴う隆起線文土器と爪形文土器の間、爪形文土器以降の土器の型式学的な説明ができない。おそらく爪形文土器以降の土器は、福岡県下における最近の事例や大分県二日市洞穴第 9 文化層・帝釈峡馬渡洞穴等の底部平底土器の存在などからすると、概ね九州北半部がナデ調整無文土器、南九州は隆帯文系土器が広がっていたと考えられる。例えば、爪形文土器の C14 年代測定値は、福井洞穴 2 層 : Gak-949:12400 ± 350・IAAA-132061:12,790 ± 40・河陽 F 遺跡 13 層 : Beta-154931:12,360 ± 50、それに対し南九州の隆帯文土器は、三角山 I 遺跡 : IAAA-31693 : 11,480 ± 70・IAAA-31694 : 11,990 ± 70・IAAA-31695 : 12,040 ± 70・IAAA-31696 : 11,630 ± 60・IAAA-31697 : 11,090 ± 70・MTC-05834 : 12,080 ± 70、志風頭遺跡 : Beta-118963 : 11,860 ± 50・Beta-118964 : 11,780 ± 50 の年代が出ており、細石刃を伴う爪形文土器のほうが古い年代が出ている。したがって南九州隆帯文土器のうち古段階に置かれることの多い三角山遺跡例を含め、南九州隆帯文土器の年代は 12,000 年代の末から、その主体は 11,000 年代にあるとみるのが自然である。今のところ、南九州の隆帯文土器と福井・泉福寺系の爪形文土器は、型式学的に連続性が全く窺えないのが現状である。この点を説明するために、筆者は、かつて爪形文土器の影響が及ばなかったと考えられる種子島域に存在した北部九州系の隆起線文土器が隆帯文土器へと変化して、期間の短い爪形文土器段階(楔形細石刃核を伴う段階)の終了とともに北上したという見通しを述べたことがあるが、その点を踏まえて森の木遺跡の土器を中心に編年観を述べてみたい。まず基本的な考え方として、平底と考えられる隆帯文系の土器が環状の北部堅穴建物群の遺構内とその周辺地域で集中して出土したことで、環状という規則的な建物配置の成立は集団による集落構成上の規制と意思が働いており、仮に時間差があっても規制の効力が記憶される程度のものであったと解釈した。また出土した土器の文様は多様でありながら一条隆帯と隆帯のない施文土器に限定されるので極めて短期間であると推定した。この二つの点に立脚して編年を考えた。

さて代表的な南九州隆帯文土器編年を提示した村上昇は 4 段階 13 細分(掃除山・三角山段階→堂地西段階→椎屋形段階→水迫・岩本段階)と編年し(村上 2007)、児玉健一郎も隆帯文以前(加治屋園・塚ノ越段階)→隆帯(線)文 I 期(桐木耳取段階)→隆帯文 II 期(三角山・奥ノ仁田・三幸ヶ野・伊敷段階)→隆帯文 III 期(椎屋形・堂地西・白鳥平段階)→隆帯文 IV 期(岩本段階)に編年する(児玉 2008)(註)。両者とも大局的に同じような変遷の方向で理解している。今、この段階編年を論評する余裕はないが、森の木遺跡の隆帯文系の主要な 2 A 類・2 B 類が全く含まれていない。その中で村上の編年図のなかにある刺突文が施された宮崎 VIII 類・薩摩 V 類・種子島 VII 類は隆帯が消失したもので、水迫・岩本段階(3 細分)の中葉に位置づけている。この刺突文土器は、森の木遺跡の隆帯文系 3 類 i 種・j 種に相当するものである。その上で、森の木の隆帯文系 3 類 i 種・j 種には 2 A 類・2 B 類の他に新しい様相の無文土器を含むことを考えると村上編年のこの部分については支持しやすい。ここで森の木遺跡から出土した縄文時代草創期の土器に類似した他遺跡の状況を見ておこう。

第4章 まとめ

註 分かりやすくするために児玉健一郎の段階区分の末尾に続けて代表的な遺跡名を入れ、段階名とした。なお、福井・泉福寺系の爪形文土器と細石刃が相伴した鹿児島県上場遺跡の例を、児玉は隆帯文Ⅲ期に置いている。

隆帯文系1類 1類a種の土器は(S383:第35図152、S358:第31図106)、1、2条の隆帯を貼り付け、軽くナデた後に綾杉状・矢羽根状・斜行の刻み目を隆帯上に貼り付けた例であるが、1類b種も近いものであろう。これと同じような加飾は宮崎県堂地西遺跡のⅡ-A-1類・Ⅱ-A-2類に存在する。しかし堂地西式土器Ⅱ-A-1類・Ⅱ-A-2類の特徴は口縁端部外方に隆帯を折り曲げるように太く突出・肥厚させ、外面側の隆帯を口縁部のやや下に2条を基本としつつも3条貼り付けるのが特徴であるが、森の木1類は口縁端部が平坦・丸・緩く尖るなど、基本的に2条隆帯であるのが特徴である。そうした森の木例の特徴を有した例に宮崎県塚原遺跡の第Ⅰ類がある(宮崎埋セ2001)。隆帯上の綾杉状・矢羽根状の刻目については宮崎県王子山遺跡のものに類例がある。

隆帯文系2A類 この一群は、口縁端部直下の外面側に幅狭い半円形や箱形の隆帯を1条貼り付けており、口唇部と一体化した例も多く、表面には様々な文様が施されている。こうした幅狭い断面半円形や断面長方形の隆帯については、宮崎県王子山遺跡(都城市教育委員会2011)や宮崎県尾花A遺跡(宮崎県埋蔵文化財センター2009)のものに類例がある。文様については異なる場合が多く、特に尾花例は貝殻腹縁を利用した施文が目立つ。宮崎県木脇遺跡では、1条隆帯の上に森の木分類のc種(垂下する短沈線)とi種(刺突)の文様を施したものがある。

隆帯文系2B類 この一群は幅広い隆帯を一条貼り付けたものであるが、その厚さには高い例と低い例がある。後者は、ほとんど隆帯の意味があまりないもので、型式論的には隆帯上施文・擬隆帯上施文を施した隆帯文系土器3類に近いと言えよう。幅広い隆帯を貼り付けた土器は、尾花A遺跡と宮崎県木脇遺跡で出土している。両遺跡では、森の木遺跡の2B類n種に相当するような貝殻腹縁刺突を施した例がある。しかし尾花Aと木脇の例は、口縁端部が尖り気味が細くなるほか、幅広い隆帯の下端が貼り付け面から高くなっているという点に特徴がある。しかも隆帯上施文を施さない例(無文)についても同様な傾向が観察される。この点は、ほぼ均等な高さの森の木例と違いがある。

隆帯文系3類 この一群は、極めて低く目立たないか、全く貼り付けてない場合であるが、貼り付けてないというだけでいえば類例に宮崎県椎屋形第1遺跡(宮崎市教育委員会1996:14頁)・同県清武上猪ノ原遺跡第2地区(平成13・14年度調査:清武町教育委員会2009:22頁)などの擬隆帯上施文がある。無論、両遺跡は、おそらく堂地西式に関わる系譜だと思われ、その特徴として密接する太型爪形状文(註)を施文することで異なるが、貼り付けた隆帯が形骸化して消えるという軌を一にした方向性が窺える。この方向性は、大分県地域においては、南九州と異なって縄文時代早期前半頃に無文土器段階が続くということが知られており、これに繋がっていくものと捉えられる。なお隆帯文系3類は、円形の刺突など、i~k種の文様が目立って多い。これらについては、南九州における縄文時代草創期終末期とも言われる鹿児島県水迫遺跡7層出土の土器に例があるものの、類例はあまり多くない。

註 筆者は福井・泉福寺系の爪形文土器と南九州の「爪形文土器」を似ても似つかぬ別時期の土器と考えており、それと区別するために爪形状文としている。

隆帯文系4類 この一群は、最も数が少なく、2点出土しているにすぎないし、類例もない。隆帯上施文をしていないことから無文土器や隆帯文系2A類q種に通じるところがある。

無文土器 無文土器は北部堅穴建物群とその周辺、南部堅穴建物群とその周辺の遺構から出土している。これと同様な無文土器が出土しているのは宮崎県の木脇遺跡程度で、隆帯文土器も出土しているが、遺構から出土しておらず、その関係は不明である。通例、宮崎県や鹿児島県では同様な隆帯文系の土器だけが無文土器を伴わずに出土するケースが多い。

以上見てきたように、隆帯文系2B類・2A類・3類は、類例が少なく、尾花遺跡・木脇遺跡・王子山遺跡で森の木例に近い土器が散発的に数種ずつある。文様でみると、森の木では文様要素のi種・j種の刺突文やn種の貝殻文(この場合は復縁刺突文)があるが、これらは鹿児島県の水迫遺跡に特徴的な文様でもあることから両遺跡は近い時期にあると推定する。こうした草創期土器群に関して周辺地域からみた森の木遺跡の隆帯文系土器の特徴は、その主体をなす2A類・2B類・3類にあり、隆帯をつける場合は口縁部外面の最上部に1条貼り付け、多様な文様を施す点にある。したがって、2A類・2B類・3類に多様な文様を施した底部平底の土器を森の木1式土器とする。森の木遺跡の隆帯文系2A類・2B類・3類(森の木1式)に類似した例は尾花遺跡・木脇遺跡・王子山遺跡で出土しているが、上記した村上昇・児玉健一郎の段階編年には触れられて

いない。このことは森の木1式土器などの1条隆帯文系の土器分布が宮崎県北部から大分県地域に偏った地域的展開をしていたことを物語るのだらう。なお、森の木1式土器には既にふれたように隆帯上に刺突するパターンもあり（隆帯文系2A類i種・隆帯文系2B類i種）、その意味では隆帯が消失した村上昇編年の水迫・岩本段階中葉よりは僅かに古相と考えられる。

森の木1式土器と近い土器が出土した尾花遺跡・木脇遺跡・王子山遺跡では堂地西・椎屋形系の土器（綾杉状もしくは矢羽状の文様をもつ土器）も共伴しているが、平底と思われるナデ調整無文土器も出土している。この組み合わせは、森の木遺跡の北部堅穴建物群における出土土器の組み合わせと同様であり、時期的に近いものと推定する。森の木遺跡においては、南部堅穴建物群からも平底と推定するナデ調整無文土器群がほぼ単純な形で出土しており。これら南北堅穴建物群で出土した平底のナデ調整無文土器を森の木2式土器としておきたい（註）。そして森の木2式土器単純段階は、平底のナデ調整無文土器ということで共通する帝釈峡馬渡岩陰遺跡第IV層出土の無紋平底に並行すると考えておく。

森の木遺跡の土器編年は、これまで述べてきたように平隆帯文系土器とナデ調整無文土器が出土した北部堅穴建物群とほぼナデ調整無文土器しか出土していない南部堅穴建物群という土器様相の偏在性から、平底の隆帯文系土器と平底のナデ調整無文土器の複合段階から平底のナデ調整無文土器単純段階という変遷の方向性が捉えられる。その後は、二日市洞穴遺跡第9文化層における平底の条痕調整無文土器の段階に繋がっていくと推定する。すなわち隆帯文系の森の木1式土器とナデ調整無文土器である森の木2式土器の複合段階→森の木2式土器単純段階→二日市1式土器へと変遷していくと考える。東九州地域やその周辺では、二日市洞穴遺跡例で代表されるように押型文土器以前にナデ調整と条痕調整の無文土器の段階が続いていたことが知られている。こうした地域的な様相の始まりが東九州では森の木1式土器段階に芽生えていたということができし、他方、南九州では水迫式土器・前平式土器岩本タイプを経て円筒土器へと繋がっていくということだろう。

註 森の木2式土器は平底の底部で、口縁部が直行・外傾することを基本とした土器であるが、北部堅穴建物群とその周辺域で隆帯文系土器と共伴し、南部堅穴建物群とその周辺の遺構からほぼ単純に出土している。この二様は時期差と考えられ、例えば弥生時代早期末の夜臼Ⅱa式土器単純段階と弥生時代前期初頭の板付Ⅰ式土器と夜臼Ⅱb式土器の関係に似ていると考えている。

3 堅穴建物の分布と集落の変遷

前節でも述べたように、堅穴建物から数少ない押型文土器が出土しているが、混入と考えている。大分県下では1948年（昭和23）の6月と11月に時期に調査された長良貝塚・下城遺跡の調査から押型文土器の研究が開始されて以来、2009年の森の木遺跡の調査までの61年間、数多くの縄文時代早期の遺跡調査があったにもかかわらず堅穴建物が見つからない。このことは、縄文時代早期段階の東九州地域における住まいに通常の堅穴建物とは違った居住方法があったのかもしれない。そこで近年、鹿児島県・宮崎県下で、隆帯文土器段階の堅穴建物や煙道付炉穴が出土していることを考えると、森の木遺跡の北部堅穴建物群は南九州系の隆帯文土器の影響を受けた隆帯文土器段階の施設であったことも考慮される。そして南部堅穴建物群から出土したナデ調整無文土器と北部堅穴建物群で隆帯文土器と共伴したナデ調整無文土器との同質性からすれば、南部堅穴建物群は北部堅穴建物群の系譜を引くものと理解できる。こうした理解を基本に森の木遺跡の集落について検討する。

ここでは堅穴建物の分布と土器との関係をみていく。森の木遺跡の堅穴建物は基本的に東部が扇形に開く舌状丘陵上に分布している。この分布状況をよく観察すると不規則に分布しているのではなく、一定のまとまりをもった堅穴建物群が2群分布しているように見える。この点は極めて重要な事柄であって、一定の基準・方針・規制が存在したことを窺わせている。その上であらためて分布をみてみよう。

北部堅穴建物群 舌状台地の北東部の区画で、3F東部から3C西部、8D中部から10D西部、9E北部の区画において、6基の堅穴建物が中央の遺構が少ない空間を取り囲むように分布している。このまとまりを前章・前節までの遺構説明で「北部堅穴建物群」と便宜的に記載してきた。この堅穴建物群の中央にある広場的な空間は、対角線にあたる堅穴建物と堅穴建物の距離は概ね9m～12m前後の距離をもっている（第482図）。堅穴建物間の距離が平均で約10mとすると、概ね78.5㎡程度の面積をもつ小さくまとまった広場的空間である。この堅穴建物群を改めて北部堅穴建物群としておく。この北部堅穴建物群のうちS246・S385・S263などが接近または切りあっているが、それ以外は4m～6mの距離をおいている。これらのことから距離を保ちつつ空間を囲むという規制が働いていたと考えられる。

この北部堅穴建物群の形成時期を知るために出土した土器との関係についてふれておきたい（第482図）。北部堅穴建物群

第4章 まとめ

のうち、S 245・S 277・S 358・S 383・S 273・S 246 から隆帯文土器が出土している。これにナデ調整の無文土器が伴出している場合もあるが、時期的に違和感のある他時期ものは出土していない。したがって隆帯文土器が出土した遺構は、無文土器がセット関係にある時期に造営されたと考えておきたい。なお包含層で出土した隆帯文土器群を前章で報告したが（第356図～第358図、第414図1809～1811）、これを平面上におとしてみると調査区東端の低地部や4E区・4G区でも散発的に分布するものの、最も集中するのは北部堅穴建物群の範囲内であり、南部堅穴建物群からは1点も出土していない（第482図）。したがって、隆帯文土器の出土していないS 253を含めて北部堅穴建物群を縄文時代草創期中頃隆帯文土器段階末（森の木1式土器）の集落と推定する。

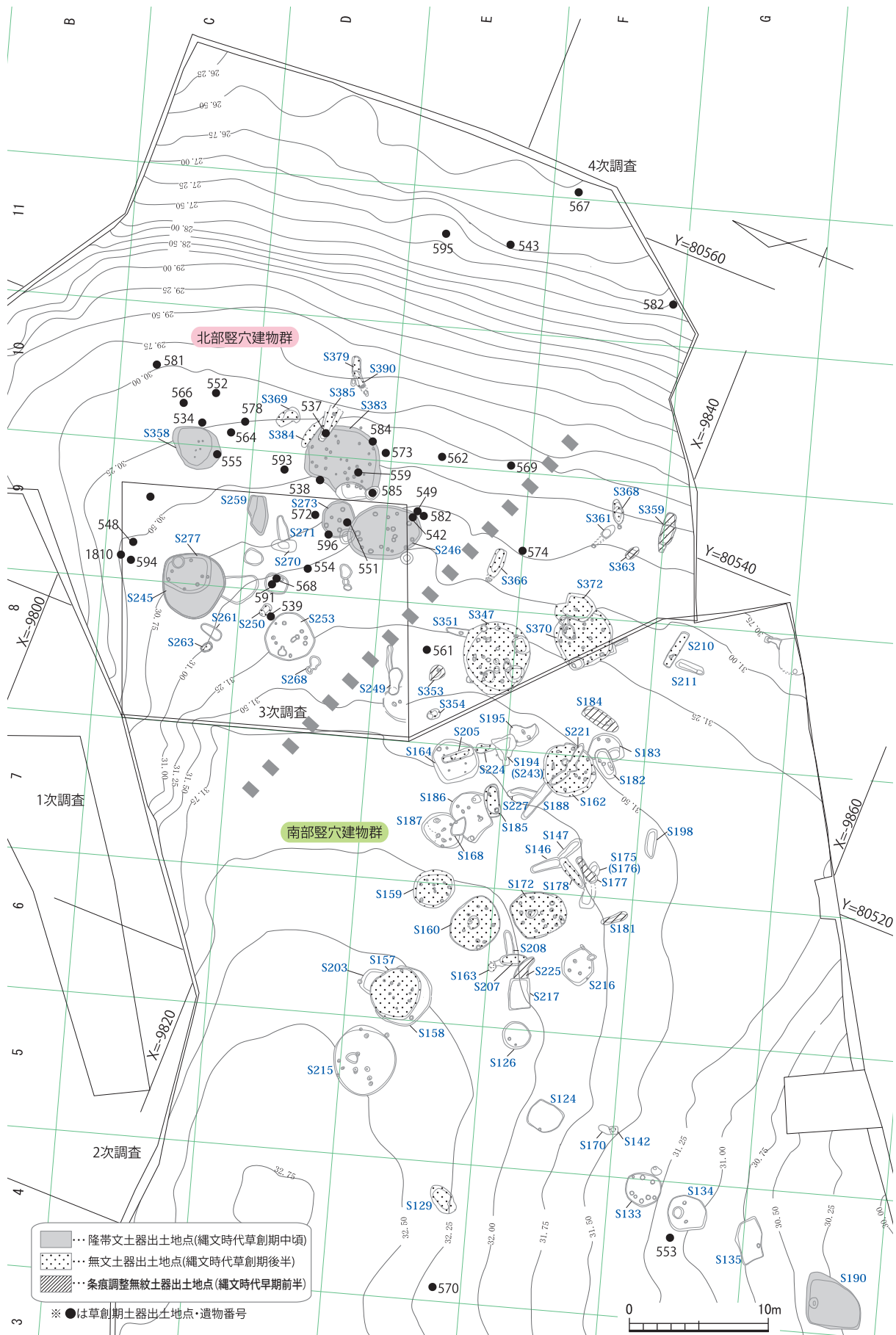
南部堅穴建物群 もう一つの堅穴建物群は、5E北部のS 215と5E北東部のS 126西端として、8E南部のS 347と8F東部のS 370を東端として、15基が帯状に連なるように、ほぼ東西方向に並んでいる。このまとまりを前章・前節までの遺構説明で「南部堅穴建物群」と便宜的に記載してきたが、改めて南部堅穴建物群としておく。こうした堅穴建物の帯状分布は、間にS 172が位置するものの概ね北側と南側の2列（北側東西列・南側東西列）に分けられる。堅穴建物群の北側東西列と南側東西列の間は、東端部で約2mと狭いが、約4m近い開きのある回廊状の空間となっている。この南部堅穴建物群のうちS 168とS 186、S 158とS 157、S 370とS 372などが切りあっているが、それ以外は切りあいがなく1m～4mの距離をおいている。これらのことから距離を保ちつつ東西に並ぶという規制が働いていたと考えられる。

南部堅穴建物群の形成時期についてはどうであろうか。北部堅穴建物群と同様に南部堅穴建物群から出土土器を見ると、極僅かに新相の押型文土器等が混入しているが、そのほかは全てナデ調整無文土器であり、これまで報告してきたとおりである。これに関連して出土した剥片石器のなかで、押型文土器段階に特徴的な鍬形鏃等の太い脚部を有する石鏃は一切出土しておらず、無文土器段階の堅穴建物と考える。

このナデ調整無文土器の出土した遺構の分布をみると（第482図）、堅穴建物が北列のS 157・S 159・S 347、南列のS 172・S 162・S 370・S 372、北列と南列との間のS 160から出土している。その他の遺構では、S 129・S 163(207)・S 185・S 224(205)・S 221・S 366・S 210からナデ調整無文土器が出土している。こうしてみるとナデ調整無文土器がほぼ純粋に多小なりとも出土した堅穴建物は南部堅穴建物群に限定される。またその他遺構の土坑や炉穴からナデ調整無文土器が出土したのも南部堅穴建物群の周辺である。このような状況からすると、南部堅穴建物群の景観が東西方向に連続するという状況は、規制が機能した結果と考えられたが、その規制の働いた期間はナデ調整無文土器の段階に限定できる。またその連続性・規則性からするとナデ調整無文土器が出土していないS 215・S 168・S 186・S 164・S 126もナデ調整無文土器の時期に含めて考えることの蓋然性が極めて高い。したがって南部堅穴建物群をナデ調整無文土器段階（森の木2式土器）の集落と、細長い炉穴の幾つかもその周辺から見つかっていることから同様な頃に造営されたと考えたい。なお、堅穴建物と炉穴は、概ね後者が前者から僅かながら距離を置いているような状況がみてとれる。また両者が切りあっている場合もあるが、集落の存続期間中に前者に較べて使用期間が短い後者が廃絶・埋没した堅穴建物の場所で掘りこんだことが考えられる。

その後の集落景観 森の木2式土器段階の後、森の木遺跡の集落景観ははっきりしないが、土器の時期でいえば縄文時代早期前半の条痕調整無文土器の段階が考えられる。詳細な土器型式名は判断つかないが、条痕調整無文土器の段階の遺構が南部堅穴建物群とその周辺から出土している。遺構はS178・S 225・S 181・S 177・S 184・S 359などで、煙道付炉穴を含む炉穴である。条痕調整無文土器段階の炉穴は、大分県大分市にある野田山遺跡や同県豊後大野市市の久保遺跡から出土した事例があるので、この段階まで残るのは確実である。堅穴建物などの住居遺構ははっきりしないが、居住空間がこの辺りにあったことが推定される。その場合も、炉穴の分布域が南部堅穴建物群（森の木2式土器）の分布域に重なっているため、あるいは縄文時代早期初頭前後頃まで引き続き集落が存続した可能性はある。

なお鱗状取っ手や口縁部形態・底部形態からみた縄文時代早期前半のナデ調整無文土器・条痕調整無文土器の時期は、大分市野田山遺跡の段階に相当する土器（第403図1599）、宇佐市中原遺跡の段階に相当する土器（第386図1227～1230）、国東市陽弓遺跡の段階に相当する土器（第394図、第395図1445）などがある。早期中頃以降については、その初頭頃の稲荷山式土器を含め、早水台式土器、下菅生B式土器、田村式土器、手向山式土器、平椀I式土器、塞ノ神II式土器、轟4式土器、轟5式土器、羽島下層3式土器、船元式土器、福田K2式土器と変遷している。この変遷をみると現在の土器型式が全てであるのではなく、欠落した土器型式もある。また手向山式土器、平椀I式土器、轟4式土器、轟5式土器、羽島下層3式



第482図 縄文時代草創期・早期前半の土器分布と集落景観図(1/400)

第4章 まとめ

土器、船元式土器、福田K2式土器は数量的に少ない。こうした土器の増減は、とりもなおさず森の木遺跡に居住した期間の長短や、集団構成員の規模に関する集落の状況を反映していると考えられる。

僅か1点しか出土していない手向山式系土器を除く押型文土器は、森の木遺跡のほぼ全域で出土している。この押型文土器段階の遺構と考えられるのが集石である。この集石も森の木遺跡の西部・東部に分布するが、最も集中するのが西部の斜面や谷部である。また手向山式系土器・轟系の土器・平椀I式土器・塞ノ神II式土器・羽島下層3式土器の分布をみると西部地区に集中する傾向が窺える。こうした状況から押型文土器段階は遺跡の全域に展開しながらもその主体は西部に、手向山式系土器以降の諸段階も居住空間の主体は西部にあったと推定される。この背景として、炉穴が地面に細長い穴の中で火を焚くのに対し、集石は地面の上に露出した状態で加熱するという特徴がある。したがって集石が南面する谷部・斜面部に大半が位置するという状況からすれば、火を焚いて集石を加熱する際の火の管理・保全を効率的に行うために風除けとなる谷間の斜面部分で行ったことを示すと思われる、これが居住空間の主体を西部に移していたことの原因であろう。

煙道付炉穴について

最後に煙道付炉穴についてふれておきたい。南部竪穴建物群の南側列周辺を中心にして細長い炉穴が多数分布している。この中に煙道付炉穴と呼ばれる遺構がある。古墳時代後期のカマドに似て、炉穴本体の焚口から離れた煙出し部分を有する炉穴である。

幾つかある煙道付炉穴のうち、S205(第102図)・S249(第108図)・S359(第111図)・S361(第113図)・S366(第114図)・S368(第116図)・S390(第119図)を挙げる。構築方法は、最初に幅60cm～100cm前後、長さ200cm～300cm程度の穴を掘る。残りのよい炉穴での短軸の横断面形は深い逆台形である。この細長い炉穴を掘り下げていくと、どちらか一方の端部近くの底部に20cm、30cm程度の直径を有する赤化した焼土面がある。この焼土面に隣接する炉穴端部の斜面下部を精査すると、焼土・炭粒・黒土等が入り混じった部分(焚口部)が出てきて、掘削すると奥に続いており、この段階で煙道付炉穴であることが分かる。次に煙道が延びている方向の外部で検出面(IV層上面:黄褐色のローム質土)を精査し、煙出し口を把握する。この焚口部と煙出し口間が地下の煙道で、その上はブリッジとしておきたい。このブリッジ部分は、IV層の土と同じローム質土であり、IV層上面の検出面周辺でみても、その痕跡はほぼわからない。煙出し口までの煙道部分の長さがS361のように90cmもある場合がある。そこで、煙道が通っていると想定されるラインに直交するサブトレンチを設定して掘り下げると、検出面から煙道幅部分まで垂下する不整合面が観察された。これが上記に挙げた遺構において、煙道が通っている部分を破線で表現した部分である。この発掘所見が意味するのは、①炉穴本体と煙道部を上から同時に掘り下げ、②焚口から煙出し口までの間に棒や草などを入れ、③掘りあげていたIV層の土を②の上にもどしかためる、④中に敷きこんでいた棒や草などをぬきとることによって煙道付炉穴が完成したということを示している。なおS390・S205・S366ではナデ調整無文土器、S359は条痕調整無文土器が出土しており、草創期後半から早期前半の運用が想定される。

《参考文献》

- 雨宮瑞生 1995「南九州縄文時代草創期土器編年研究の現状」『旧石器から縄文へ』鹿児島県考古学会 27-34
大分県教育委員会 1999『スポーツ公園内遺跡群発掘調査報告書(第2分冊)一方平I遺跡』大分県文化財調査報告書 第103輯
大分県教育庁埋蔵文化財センター『茶屋久保B遺跡』大分県教育庁埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第45集
清武町教育委員会 2009『清武上猪ノ原遺跡』2 清武町埋蔵文化財調査報告書 第26集
九重町教育委員会 2004『大分県二日市洞穴遺跡 分析編』九重町文化財調査報告 第27輯
児玉健一郎 2008「南九州隆帯文・爪形文系土器」『小林達雄先生古稀記念企画 総覧 縄文土器』アムプロモーション、28-33
村上 昇 2007「日本列島西部における縄文時代草創期土器編年」『日本考古学』第24号、日本考古学会、1-20
都城市教育委員会 2011『王子山遺跡』都城市文化財調査報告書 第107集
宮崎県教育委員会 1985『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告(堂地西遺跡)』第2集
宮崎県埋蔵文化財センター 2001『松元遺跡・井手口遺跡・塚原遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター報告書 第44集
宮崎県埋蔵文化財センター 2009『尾花A遺跡I』宮崎県埋蔵文化財センター報告書 第185集
宮崎市教育委員会 1996『椎屋形第1遺跡・椎屋形第2遺跡・上の原遺跡』

第1表 森の木遺跡遺物観察表（土器・陶磁器）

押印番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考
18	37	II	4H	7473	S190	-	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	指圧痕、ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	P27
21	38	III	9C	-	S245	III	隆帯文系土器	鉢	-	2.0+e	-	沈線文	褐色	ナデ	褐色	少	少	少	
21	39	III	8C9C	72776	S245	III b	隆帯文系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	×字状文、ナデ	黒褐色	ナデ	黒褐色	含	多	多	
21	40	III	9C	72537	S245	III	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	3.4+e	-	ナデ、×字状文	浅黄褐色	ナデ	にぶい褐色	少	少	多	
21	41	III	9C	72601	S245	III 上面	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	7.2+e	-	隆帯文、ナデ	明赤褐色	ナデ	明赤褐色	少	少	少	
21	42	III	9C	72537	S245	III	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	3.0+e	-	ナデ、沈線文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	多	少	多	
21	43	III	8C9C	72776	-	III b	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、刺突文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	多	少	多	
21	44	III	9C	72537	S245	III	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	2.0+e	-	刺突文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	少	少	
21	45	III	8C9C	72776	S245	III b	隆帯文系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	含	含	多	
21	46	III	8C	72756	S245	III	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、刺突文	にぶい黄褐色	ナデ	褐色	少	少	多	P85
21	47	III	9C	72609	S245	III 上面	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	2.5+e	-	隆帯文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	少	多	
21	48	III	9C	72537	S245	III	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	3.0+e	-	クテの矢羽根状刺突文	にぶい赤褐色	ヨコナデ	にぶい赤褐色	少	少	多	
21	49	III	9C	72582	S245	III 上面	押型土器	鉢 口縁部	-	4.1+e	-	山形文(磨滅)	暗褐色	ナデ	暗褐色	少	多	多	
21	50	III	9C	72537	S245	III	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	3.3+e	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	
21	51	III	8C9C	72776	S245	III b	隆帯文系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色			多	
21	52	III	8C9C	72776	S245	III b	隆帯文系土器	深鉢 胴部	-	-	-	貼付突起、ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	多	多	
21	53	III	9C	72702	S245	-	無文土器	鉢 口縁部	-	1.2+e	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	少	少	
21	54	III	8C	72563	S245	III 上面	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	含	多	多	
21	55	III	9C	72751	S245	III	無文土器	鉢	-	5.4+e	-	ナデ	にぶい赤褐色	ナデ	にぶい赤褐色	多	多	多	
21	56	III	8C9C	72776	S245	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	明黄褐色	ナデ	明黄褐色	含	多	多	
21	57	III	9C	72537	S245	III	無文土器	鉢 底部	-	1.1+e	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	
21	58	III	9C	72537	S245	III	無文土器	鉢 底部	-	1.6+e	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	少	少	
21	59	III	9C	72537	S245	III	無文土器	鉢 底部	-	1.4+e	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	少	少	
21	60	III	9D	72423	S245	III 上面	無文土器	鉢 胴部	-	8.7+e	Φ15.2-Φ12.2	ナデ	黒褐色	ナデ	黒褐色	多	多	多	P94
21	61	III	8C	72563	S245	III 上面	無文土器	底部-胴部	-	-	-	ナデ	明黄褐色	ナデ	明黄褐色			多	
21	62	III	9C	72537	S245	III	無文土器	鉢 底部	-	1.4+e	Φ20.0	ナデ	明赤褐色	ナデ	明赤褐色	少	少	少	
21	63	III	9C	72537	S245	III	無文土器	鉢 底部	-	2.9+e	Φ16.0	ナデ	灰白色	ナデ	灰白色	少	多	多	
21	64	III	9C	72565	S245	III 上面	無文土器	鉢 底部	-	1.2+e	-	ナデ	明赤褐色	ナデ	明赤褐色	少	少	多	
24	71	III	9D	72699	S246	III 上面	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	僅	少	少	
24	72	III	9D	72699	S246	III 上面	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	少	少	多	
24	73	IV	9E	75876	S246	-	隆帯文系土器	深鉢	-	3.4+e	-	飾り突起、隆帯文	淡褐色・暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多	多	
24	74	III	9D	72709	S246	III 上面	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、竹管文	褐色	ナデ	褐色	少	少	少	
24	75	III	9D	72641	S246	III 上面	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、刺突文?	褐色	ナデ	褐色	少	少	多	
24	76	III	9D	72650	S246	III 上面	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、刻み目突起文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多	少	P23
24	77	III	9D	72643	S246	III 上面	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	僅	多	
24	78	IV	9E	75876	S246	-	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	欠損している	茶褐色	ナデ	茶褐色	含	少	少	
24	79	III	9D	72699	S246	III 上面	草創期無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	少	少	少	
24	80	III	9D	72699	S246	III 上面	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	浅黄褐色	ナデ	褐色	多	僅	少	
24	81	III	9D	72654	S246	III 上面	無文土器	鉢 口縁部	-	4.5+e	-	ナデ	明赤褐色	ナデ	黒褐色	少	少	少	
24	82	IV	-	-	S246	-	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	浅黄色	ナデ	浅黄色	少	少	少	
24	83	III	9D	72655	S246	III 上面	無文土器	平底	-	-	-	ナデ	茶褐色	ナデ	茶褐色	少	僅	少	
24	84	III	9D	72699	S246	III 上面	無文土器	鉢 平底	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	僅	少	
24	85	III	9D	72646	S246	III 上面	無文土器	鉢 平底	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	僅	少	少	
24	86	III	9D	72656	S246	III 上面	無文土器	鉢 平底	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	少	多	
24	87	IV	9E	75876	S246	-	無文土器	深鉢 平底	-	2.6+e	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	暗褐色	多	多	多	
27	91	III	9D	72823	S273	-	草創期無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	少	少	
27	92	III	9D	72823	S273	-	草創期無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向のナデ	褐色	ヨコ方向のナデ	褐色	多	少	多	
27	93	III	9D	72823	S273	-	草創期無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	刺突文、ヨコ方向ナデ	黒褐色	横方向のナデ	褐色	少	少	多	
27	94	III	9D	72823	S273	-	無文土器	鉢 平底	-	-	-	ナデ	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	少	少	少	
27	95	III	9D	72823	S273	-	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向のナデ、刺突文	褐色	ヨコ方向のナデ	褐色	多	少	多	
28	96	III	8C	72833	S277	-	草創期無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	多	多	
28	97	III	8C	72833	S277	-	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、刺突文	黒褐色	ナデ	黒褐色	含	含	多	
28	98	III	8C9C	72847	S277	-	草創期無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	黒褐色	ナデ	黒褐色	多	多	多	
28	99	III	8C	72833	S277	-	草創期無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色	含	多	多	
28	100	III	8C	72833	S277	-	隆帯文系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色			多	
28	101	III	8C	72833	S277	-	隆帯文系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	含	多	多	
28	102	III	8C	72833	S277	-	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ 刺突文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	少	多	
31	105	IV	9C10C	76125	S358	-	隆帯文系土器	深鉢	-	2.4+e	-	剥離	にぶい黄褐色・暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多	多	
31	106	IV	9C10C	76239	S358	-	隆帯文系土器	深鉢	-	2.7+e	-	刻み目、貼付突起、ナデ(剥離)	黄褐色	ナデ	黄褐色	多	多	多	
31	107	IV	9C10C	76099	S358	-	隆帯文系土器	深鉢 胴部	-	3.0+e	-	欄状文、ナデ	黄褐色	ヨコナデ	黄褐色	多	多	多	
31	108	IV	9C10C	75832	S358	III 下部	隆帯文系土器	深鉢 口縁部	(32.3)	-	-	貼付け後刻み目文	明茶褐色	ナデ	明茶褐色	少	少	少	
31	109	IV	9C10C	75932	S358	-	田村式土器	深鉢 口縁部	-	4.5+e	-	指門文	暗褐色	欄状文、ナデ	黄褐色	多	多	多	
31	110	IV	9C10C	76162	S358	-	草創期無文土器	鉢	-	2.0+e	-	ナデ	淡黄褐色	ナデ	淡黄褐色	多	多	多	
31	111	IV	9C10C	76133	S358	-	草創期無文土器	深鉢 口縁部	-	5.6+e	-	ナデ	淡褐色・灰色	ナデ	淡褐色・灰色	少	少	多	
31	112	IV	9C10C	75947	S358	-	草創期無文土器	深鉢 口縁部	-	4.3+e	-	条痕文後ナデ	にぶい黄褐色	条痕文後ナデ	にぶい黄褐色	多	多	多	外面ス付着
31	113	IV	9C10C	75883	S358	-	草創期無文土器	深鉢 口縁部	-	7.8+e	-	ナデ	黄褐色・にぶい黄褐色	ナデ	黄褐色	多	多	多	
31	114	IV	9C10C	75909	S358	-	草創期無文土器	深鉢 口縁部	-	4.0+e	-	ナデ(剥離)	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多	多	内面ス付着

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考
31	115	IV	9C10C	76079	S358	-	草創期無文土器	深鉢 胴部	-	3.8+e	-	剥離	にぶい橙褐色	ナデ	暗褐色	多	多	多	
31	116	IV	9C10C	76190	S358	-	隆帯文系土器	深鉢 胴部	-	3.2+e	-	貼付突起、ナデ (剥離)	淡橙褐色	ナデ (剥離)	淡橙褐色	多	多	多	
31	117	IV	9C10C	76117	S358	-	草創期無文土器	深鉢 胴部	-	2.8+e	-	ナデ (剥離)	淡褐色	ナデ	淡褐色	多	多	多	外面スス付着
31	118	IV	9C10C	75918	S358	-	草創期無文土器	深鉢 口縁部	-	4.5+e	-	ナデ (剥離)	淡褐色・暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多	多	内面スス付着
31	119	IV	9C10C	100730	S358	-	草創期無文土器	深鉢 胴部	-	4.3+e	-	ナデ	淡褐色・暗褐色	ナデ	淡褐色	多	多	多	内外面スス付着
31	120	IV	9C10C	76151	S358	-	草創期無文土器	深鉢 胴部	-	4.9+e	-	ナデ	淡褐色	ナデ (剥離)	淡黄褐色	多	多	多	
31	121	IV	9C10C	76116	S358	-	草創期無文土器	深鉢 胴部	-	5.5+e	-	ナデ後隆帯文	淡橙褐色	ナデ	淡橙褐色	多	多	多	
31	122	IV	9C10C	76238	S358	-	草創期無文土器	深鉢 胴部	-	4.5+e	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	多	多	多	
31	123	IV	9C10C	75920	S358	-	草創期無文土器	深鉢 口縁部	-	5.7+e	-	ナデ (剥離)	橙褐色・暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多	多	
32	124	IV	9C10C	76158	S358	-	草創期無文土器	深鉢 口縁部	-	3.5+e	-	剥離	にぶい黄褐色・黒色	剥離	にぶい黄褐色・黒色	多	多	多	
32	125	IV	9C10C	76155	S358	-	楕円文土器か	深鉢 口縁部	-	3.2+e	-	ナデ (剥離)	淡褐色・にぶい橙褐色	ナデ	淡黄褐色	多	多	多	内外面スス付着
32	126	IV	9C10C	76095	S358	-	草創期無文土器	深鉢 胴部	-	4.0+e	-	ナデ	橙褐色・暗褐色	ナデ	橙褐色・暗褐色	多	多	多	
32	127	IV	9C10C	76085	S358	-	草創期無文土器	深鉢 口縁部	-	4.4+e	-	ナデ	にぶい橙褐色・暗褐色	ナデ	にぶい橙褐色・暗褐色	多	多	多	外面スス付着
32	128	IV	9C10C	76100	S358	-	草創期無文土器	深鉢 胴部	-	6.8+e	-	ナデ	淡褐色	ナデ	橙褐色	多	多	多	
32	129	IV	9C10C	76157	S358	-	草創期無文土器	深鉢 口縁部	-	3.5+e	-	ナデ	淡褐色	ナデ	橙褐色	多	多	多	
32	130	IV	9C10C	75916	S358	-	草創期無文土器	深鉢 口縁部	-	5.0+e	-	ナデ (剥離)	淡橙褐色	ナデ	橙褐色	多	多	多	
32	131	IV	9C10C	76180	S358	-	草創期無文土器	深鉢 胴部	-	8.5+e	-	ナデ	淡黄褐色	ナデ	淡黄褐色	多	多	多	
32	132	IV	9C10C	76172	S358	-	草創期無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	剥離	にぶい橙褐色・暗褐色	ナデ (剥離)	にぶい橙褐色・暗褐色	多	多	多	
32	133	IV	9C10C	75931	S358	-	草創期無文土器	深鉢 口縁部	-	5.7+e	-	ナデ	にぶい橙褐色	ナデ	暗褐色	多	多	多	
32	134	IV	9C10C	75912	S358	-	草創期無文土器	深鉢 胴部	-	6.3+e	-	ナデ (剥離)	橙褐色・にぶい橙褐色	ナデ	橙褐色・にぶい橙褐色	多	多	多	
32	135	IV	9C10C	75911	S358	-	草創期無文土器	深鉢 平底	-	1.9+e	(16.0)	ナデ (剥離)	にぶい橙褐色	ナデ (剥離)	にぶい橙褐色	多	多	多	
35	142	IV	9D100	76242	S383	-	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	刺突文	暗茶褐色	ナデ	暗茶褐色	少	少	少	
35	143	IV	9D100	76254	S383	-	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	刺突文?	暗茶褐色	ナデ	暗茶褐色	含	含	多	
35	144	IV	9D100	76336	S383	-	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、竹管文	淡褐色	ナデ	淡褐色	少	多	多	
35	145	IV	9D100	76359	S383	-	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	条痕文、ナデ	暗褐色	ヨコ方向のナデ	暗褐色	少	多	多	
35	146	IV	9D100	76224	S383	-	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	刺突文、ナデ	茶褐色	ナデ	茶褐色	含	含	多	
35	147	IV	9D100	76314	S383	-	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	淡褐色	ヨコナデ	淡褐色	少	多	多	
35	148	IV	9D100	76335	S383	-	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	刻み目、ヨコナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	多	多	多	
35	149	IV	9D100	76307	S383	-	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	刻み目、ナデ	赤茶褐色	ナデ	赤茶褐色			少	
35	150	IV	9D100	76336	S383	-	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	刻み目	赤茶褐色	ヨコナデ	赤茶褐色	含	含	多	
35	151	IV	9D100	76282	S383	-	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	沈線文?刻み目?ナデ 条痕文?	明赤茶褐色	ヨコナデ、指圧、ナデ	明赤茶褐色	含	含	少	
35	152	IV	9D100	76310	S383	-	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	ナデ、隆帯文	明赤褐色	ナデ	明赤褐色	含	含	多	
35	153	IV	9D100	76242	S383	-	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	ナデ	茶褐色	欠損	茶褐色	含	含	少	
35	154	IV	9D100	76318	S383	-	隆帯文系土器	胴部	-	-	-	刺突文	淡褐色	ナデ	淡褐色	含	含	少	
35	155	IV	9D100	76533	S383	-	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向のナデ	淡褐色	ヨコ方向のナデ	淡褐色	少	多	多	
35	156	IV	9D100	76242	S383	-	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	含	含	少	
35	157	IV	9D100	76338	S383	-	草創期無文土器	口縁部?	-	-	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	少	少	少	
35	158	IV	9D100	76538	S383	-	草創期無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	淡褐色	ヨコ方向のナデ	淡褐色	多	多	多	
35	159	IV	9D100	76331	S383	-	草創期無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	少	多	多	
35	160	IV	9D100	76263	S383	-	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	灰褐色	ナデ	灰褐色	含	含	多	
35	161	IV	9D100	76193	S383	-	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	赤茶褐色	ナデ	赤茶褐色	多	多	多	
35	162	IV	9D100	76195	S383	-	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ナデ、条痕文?	淡褐色	指圧、ナデ	淡褐色	多	多	多	
35	163	IV	9D100	76252	S383	-	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	茶褐色	ナデ	茶褐色	多	多	多	
35	164	IV	9D100	76296	S383	-	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	淡明褐色	指圧、ナデ	淡明褐色	多	多	多	
35	165	IV	9D100	76192	S383	-	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	暗茶褐色	指圧、ナデ	暗茶褐色	多	多	多	
35	166	IV	9D100	76268	S383	-	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	明茶褐色~暗茶褐色	指圧、ナデ	明茶褐色~暗茶褐色	含	含	多	
35	167	IV	9D100	76528	S383	-	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	多	多	少	
36	168	IV	9D100	76361	S383	-	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ナメ方向板ナデ	淡褐色	指圧、ナデ	淡褐色	多	多	多	
36	169	IV	9D100	76263	S383	-	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	暗茶褐色	ナデ	暗茶褐色	含	含	多	
36	170	IV	9D100	76320	S383	-	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	暗茶褐色	指圧、ナデ	暗茶褐色	多	多	多	
36	171	IV	9D100	76353	S383	-	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	暗茶褐色	指圧、ナデ	暗茶褐色	含	含	少	
36	172	IV	9D100	76529	S383	-	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	明茶褐色	指圧、ナデ	明茶褐色	含	含	少	
36	173	IV	9D100	76324	S383	-	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	明茶褐色	ナデ	明茶褐色	含	含	多	
36	174	IV	9D100	76302	S383	-	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ナデと条痕文?	明茶褐色	指圧、ナデ	明茶褐色	多	多	多	
36	175	IV	9D100	76348	S383	-	草創期無文土器	鉢 平底	-	-	-	ナデ	淡褐色	ヨコ方向のナデ	淡褐色	少	多	少	
36	176	IV	9D100	76336	S383	-	草創期無文土器	鉢 平底	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	少	多	多	
36	177	IV	9D100	76196	S383	-	草創期無文土器	平底	-	-	-	ナデ	明茶褐色	ナデ	明茶褐色	含	含	少	
36	178	IV	9D100	76261	S383	-	草創期無文土器	平底	-	-	-	ナデ	淡褐色	ナデ	暗淡褐色	多	多	少	
36	179	IV	9D100	76311	S383	-	草創期無文土器	鉢 平底	-	-	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	少	多	多	
36	180	IV	9D100	76531	S383	-	草創期無文土器	平底	-	-	-	ナデ	淡褐色	ヨコ方向のナデ	淡褐色	含	含	少	
40	199	III	90	72821	S259	-	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	刺突文	淡黄褐色	ナデ	淡黄褐色			少	
54	205	II	6E	7606	S157	-	楕円文土器	壺 口縁部	(14.4)	5.2	-	ナデ、楕円文	淡黄褐色	欄状文、楕円文、指圧痕	淡黄褐色	少		少	下昔生B式土器
54	206	II	6E	627	S157	a	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	少		少	
58	219	II	6E	7298	S158	-	楕円文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	淡黄褐色	欄状文	淡黄褐色	少		少	
58	220	II	6E	6799	S159	a	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗淡褐色	ナデ	暗淡褐色	少		少	
58	221	II	6E	6783	S159	a	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色			少	
58	222	II	6E	6793	S159	a	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ、ナデ	茶褐色	不底方向のナデ	茶褐色	少	少	少	

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考	
58	223	II	6E	6793	S159	a	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色				少	
58	224	II	6E	-	S159	-	草創期無文土器	口縁部	26.0	-	-	沈線文、ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	含	含		含	
58	225	II	6E	7260	S159	a	草創期無文土器	平底	-	-	-	ナデ、ヨコナデ	褐色	ナデ	褐色				少	
60	227	II	7F	7199	S161	a	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	茶褐色	ナデ	茶褐色	多	少		多	
63	233	II	8E	7054	S162	-	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ	暗茶褐色	ヨコナデ	暗茶褐色	少	少		少	
67	236	II	6F	7080	S172	-	草創期無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	茶褐色	ナデ	茶褐色	多	多		多	
68	238	II	7E	7684	S186	-	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色				少	
73	241	III	8D	72830	S253	-	草創期無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい橙色	ナデ	にぶい橙色				多	
76	242	IV	8E	75646	S347	-	草創期無文土器	鉢	-	-	-	楕円文	褐色	ナデ	褐色				少	
76	243	IV	8E	75529	S347	-	草創期無文土器	鉢	-	-	-	山形文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少			少	
76	244	IV	8E	75529	S347	-	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	条痕?	暗褐色	ナデ	暗褐色				少	
76	245	IV	8E	75529	S347	皿下部	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	少			少	
76	246	IV	8E	75529	S347	皿下部	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	少			少	
76	247	IV	8E	75529	S347	皿下部	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	灰褐色	ナデ	灰褐色	少			少	
76	248	IV	8E	75529	S347	皿下部	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色				少	
76	249	IV	8E	75529	S347	皿下部	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	条痕?	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色				少	
76	250	IV	8E	75529	S347	皿下部	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色				少	
76	251	IV	8E	75835	S347	皿下部	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少			少	
76	252	IV	8E	75529	S347	皿下部	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色				少	
76	253	IV	8E	75625	S347	皿下部	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少		少	
76	254	IV	8E	75804	S347	皿下部	草創期無文土器	口縁部	(19.6)	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	多			多	
76	255	IV	8E	75529	S347	皿下部	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	灰褐色	ナデ	灰褐色	少			少	
76	256	IV	8E	75529	S347	皿下部	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少			少	
76	257	IV	8E	75642	S347	皿下部	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ハケメ?	褐色	ナデ	褐色	含			少	
76	258	IV	8E	75638	S347	皿下部	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色				少	
76	259	IV	8E	75626	S347	皿下部	草創期無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色				少	
76	260	IV	8E	75529	S347	皿下部	草創期無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	少			多	
76	261	IV	8E	75628	S347	皿下部	草創期無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少		少	
76	262	IV	-	75879	S347	-	草創期無文土器	深鉢 丸底	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ヨコ方向のナデ	にぶい黄褐色	少	少		少	P36
76	263	IV	8E	75646	S347	皿下部	無文土器	鉢	-	-	-	条痕文	明褐色	ナデ	明褐色				含	多
80	280	IV	8F9F	75967	S370	-	草創期無文土器	胴部	-	2.0+a	-	楕円文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色				少	P14
80	281	IV	-	-	S370	皿下部	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗灰色	ナデ	暗灰色	少	少		少	
80	282	IV	-	-	S370	皿下部	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	条痕文?	浅黄色	ナデ	浅黄色	少	少		少	外面スス付着
80	283	IV	8F9F	75963	S370	-	草創期無文土器	口縁部	-	4.5+a	-	ナデ	淡褐色・暗灰色	ナデ	淡褐色・暗褐色	多	多		多	外面スス付着
80	284	IV	8F9F	75973	S370	-	草創期無文土器	口縁部	-	3.3+a	-	ナデ	淡褐色・暗褐色	ナデ	淡褐色・暗褐色	多	多		多	
80	285	IV	8F9F	75960	S370	-	草創期無文土器	口縁部	-	3.2+a	-	ナデ	淡褐色・暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多		多	
80	286	IV	8F9F	75959	S370	-	草創期無文土器	深鉢 胴部	-	4.1+a	-	ナデ	淡褐色・暗褐色	ナデ	にぶい褐色	多	多		多	
80	287	IV	8F9F	75952	S370	-	草創期無文土器	胴部	-	2.3+a	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多		多	P1
80	288	IV	8F9F	75964	S370	-	草創期無文土器	胴部	-	2.3+a	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	淡褐色	多	多		多	
80	289	IV	-	-	S370	III	草創期無文土器	胴部	-	5.0+a	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多		多	
80	290	IV	-	-	S370	I	草創期無文土器	口縁部	-	3.9+a	-	ナデ	浅黄褐色	ナデ	灰黄褐色	少	多		多	
80	291	IV	8F9F	75965	S370	-	草創期無文土器	胴部	-	3.2+a	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい褐色	少			多	P12
80	292	II	8F	7627	S223	-	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	黒褐色	ナデ	黒褐色	多	少		多	二次被熱あり、 外面スス付着
81	296	IV	-	-	S370-S372	-	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコ方向のナデ	茶褐色	ヨコ方向のナデ	茶褐色	少	少		少	
81	297	IV	-	-	S370-S372	-	条痕調整土器	胴部	-	4.2+a	-	条痕文	灰黄褐色	条痕文	灰黄褐色	多	多		多	
81	298	IV	-	-	S370-S372	-	草創期無文土器	底部か	-	1.9+a	-	ナデ	淡黄色	ナデ	黄灰色	多	多		多	
88	302	II	-	-	S57	III	山形文土器	口縁部	-	-	-	山形文	茶褐色	構状文・山形文	茶褐色	少	少		少	
88	303	II	-	-	S57	III	条痕調整土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ、ナナム方向の条痕文	淡黄色・茶褐色	ヨコ方向のナデ	淡黄色・茶褐色	少	少		少	
99	306	II	8F	7585	S184	-	条痕調整土器	口縁部	-	-	-	刻み目、条痕文(二枚具)	茶褐色	条痕文(二枚具)	茶褐色	少	多		少	多
99	307	II	8F	7582	S184	-	条痕調整土器	口縁部	-	(17.6)	-	ナナム方向の条痕文(二枚具) 後ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	多	少		多	
104	309	II	8E	7686	S224	-	草創期無文土器	深鉢	-	-	-	ナデ?磨減	黒褐色	ナデ?磨減	黒褐色	多	多		多	
106	310	II	6F	7441	S207	-	草創期無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	指圧痕、ハケ目状のナデ	黄褐色	指圧痕、ナデ	黄褐色	多	多		多	
112	312	IV	9F9G	75806	S359	-	無文土器	深鉢 口縁部	-	4.3+a	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色・暗褐色	多	多		多	
112	313	IV	9F	73615	S359	-	条痕調整土器	鉢 口縁部	-	11.8+a	-	条痕文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多		多	
115	314	IV	-	-	S366	-	草創期無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナナム方向のナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	少	少		少	P1-P13
115	315	IV	-	-	S368	-	草創期無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少		少	P1
118	316	IV	10D	76527	S379	-	草創期無文土器	鉢 胴部	-	5.0+a	-	ナデ	にぶい赤褐色	ナデ	にぶい赤褐色	多	多		多	
118	317	IV	10D	76185	S379	-	草創期無文土器	鉢 胴部	-	3.6+a	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	多		多	P3
118	318	IV	10D	76179	S379	-	草創期無文土器	鉢 胴部	-	8.0+a	-	ナデ	にぶい赤褐色	ナデ	にぶい赤褐色	多	多		多	P1
118	319	IV	8F9F	75976	S390	-	草創期無文土器	鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向のナデ	淡褐色・黒灰色	ヨコ方向のナデ	淡褐色・黒灰色	多	少		多	P23
122	320	II	1H	2917	S39	-	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	褐色	少			少	
154	330	II	-	5619	S49	-	無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ	茶褐色	ヨコナデ	茶褐色	少	少		少	
173	333	IV	8F	75319	S332	III b	山形文土器	深鉢 口縁部	-	2.8+a	-	ヨコナデ、タテ方向の山形文	暗灰色	構状文、ナデ	暗褐色・暗灰色	多	多		多	外面スス付着
187	341	II	5G	5446	S6	III	山形文土器	口縁部	-	-	-	山形文	褐色	構状文	褐色	含	含			
187	342	II	5G	5446	S6	III	楕円文土器	胴部	-	-	-	磨減	褐色	磨減	褐色	含	含			
201	347	II	0F	7164	S100	a	楕円文土器か	鉢	-	-	-	山形文?	褐色	ナデ	褐色	含	含			

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考
225	354	II 4E	7119	S129	-	無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ	灰色	ヨコナデ	灰色	僅	僅		少	
235	355	II 5F	7730	S142	-	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	含			少	
255	358	II 7F	7135	S177	a	無文土器	口縁部	-	-	-	条痕文(二枚貝)後ナデ	淡褐色・黒褐色	条痕文後ナデ	淡褐色・黒褐色	多	少		多	二次被燃あり
255	359	II 7F	5448	S177	-	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗赤褐色	ナデ	暗褐色	含				P18
255	360	II 7F	7135	S177	a	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多		多	
255	361	II 7F	-	S177	-	無文土器	深鉢	(32.0)	17.4+a	-	ナデ	黄褐色	条痕文後ナデ	黄褐色	少			少	
255	362	II 7F	7532	S177	-	無文土器	底部	-	-	-	条痕後ナデ	淡褐色	条痕後ナデ	淡褐色	少	少		多	
255	363	II 7F	7529	S177	-	無文土器	底部	-	-	-	条痕文(二枚貝)後ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	多	少		多	内面スス付着
256	364	II 7F	7141	S178	a	無文土器	口縁部	-	-	-	押型文?(磨滅)	暗褐色	押型文?(磨滅)、ヨコ方向の条痕後ナデ	暗褐色	多	多		多	
258	366	II 6F	7558	S181	-	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向のナデ	白黄色	ヨコ方向のナデ	黒色	少	多		多	
258	367	II 6F	7557	S181	-	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	条痕文後ヨコ方向のナデ	暗橙褐色	ナデ	暗橙褐色	多	多		多	
261	368	II 7E	7682	S185	-	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	橙色	ナデ	橙色	少			少	
272	371	II 8G	7648	S210	-	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	含			含		
281	372	II 7F	7524	S221	-	無文土器	口縁部	-	-	-	条痕文後ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	少	少		多	口縁部スス付着
281	373	II 7F	7522	S221	-	無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコ方向のナデ	淡褐色・黒褐色	ヨコ方向のナデ	淡褐色・黒褐色	多	少		多	
281	374	II 7F	7523	S221	-	無文土器	口縁部	-	-	-	条痕文後ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	少	少		多	口縁部スス付着
284	375	II 6F	7643	S225	-	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	黒茶褐色	貝殻条痕文	暗茶褐色	多	多		多	
287	376	III 8D	72808	S250	-	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含		多	
297	378	III 8C	72811	S263	III下部	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	橙色	多	少		多	
297	379	III 9D	72806	S265	III下部	楕円土器	鉢 口縁部	-	-	-	楕円文	黒色	楕円文	黒色	少	少		少	
297	380	III 9C	72822	S272	-	草創期無文土器	鉢 口縁部	-	3.2	-	ナデ	灰黄褐色	ナデ	灰黄褐色	少	少		多	
297	381	III 9D	72806	S265	III下部	草創期無文土器	鉢 平底	-	-	-	ヨコ方向のナデ、ナデ	浅黄褐色	ナデ	黒褐色	少	少		多	
297	382	III 9D	72806	S265	III下部	草創期無文土器	鉢 平底	-	-	-	ナデ	褐色・黒色	ナデ	橙色	多	少		多	
304	383	IV 8E	75533	S353	III下部	無文土器	鉢	-	-	-	条痕文	褐色	条痕文	褐色				少	
304	384	IV 8E	75534	S354	III下部	無文土器	深鉢 口縁部	-	3.0+a	-	ナデ	暗褐色	ナデ	淡橙褐色	多	多		多	
305	386	IV -	-	S363	-	無文土器	鉢 胴部	-	2.5+a	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多		少	
305	387	IV -	-	S363	-	無文土器	鉢 胴部	-	7.2+a	-	ナデ	淡黄色	ナデ	淡黄色	少	多		多	
309	389	IV 10D	76498	S369	-	山形文土器	鉢 胴部	-	3.3+a	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多		多	P1
309	390	IV 10D	76495	S369	-	草創期無文土器	鉢 胴部	-	4.0+a	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多		多	P4
309	391	IV 10D	76497	S369	-	草創期無文土器	鉢 平底	-	1.8+a	-	ナデ(剥離)	にぶい黄褐色	ナデ	暗褐色	多	多		多	
312	393	IV 8F9F	75975	S372	-	無文土器	鉢	-	4.5+a	-	ナデ	淡褐色・暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多		多	
312	394	IV 8F9F	75970	S372	-	無文土器	鉢 胴部	-	8.2+a	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	多	少		多	P2
314	396	IV 9D	76251	S381	-	無文土器	鉢 胴部	-	6.4+a	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多		多	P1
316	398	IV 10D	76481	S384	-	無文土器	鉢 胴部	-	-	-	ナデ	茶褐色	ナデ	茶褐色	多	少		多	P1
316	399	IV 10D	76475	S385	-	無文土器	鉢 底部	-	-	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	少	多		多	P11
316	400	IV 10D	76470	S385	-	無文土器	鉢 底部	-	-	(13.0)	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	少	多		多	P6
317	401	IV 10C	76248	S391	-	山形文土器	鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	橙褐色	ナデ	橙褐色	少	多		多	
317	402	IV -	76503	S393	-	山形文土器	鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	橙褐色	ナデ	橙褐色	少	多		多	
324	403	II 8F	7718	S241	-	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、山形文	淡褐色	楕円文、縄文?	淡褐色	少	少		多	
325	404	III 9D	72825	S255	-	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	黒褐色	ナデ	黒褐色	少	僅		多	
326	405	IV 9D	76244	S387	-	楕円土器	口縁部	-	-	-	楕円文、ナデ	淡褐色・暗褐色	楕円文、ナデ	淡褐色・暗褐色	少	多		多	
326	406	IV 11F	76558	S395	-	無文土器	鉢 胴部	-	-	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	少	多		多	
333	407	III 9D	72257	S251	-	土師器	甕	18.0	-	-	ハケ目後ナデ、工具ナデ	灰黄褐色	ハケ目後ナデ、工具ナデ	灰黄褐色				多	5世紀頃
333	408	III 9D	72258	S251	I	土師器	壺	12.0	-	-	ハケ目後ナデ、ナデ	にぶい褐色～にぶい黄褐色	ハケ目後ナデ、ナデ	にぶい褐色～にぶい黄褐色				多	5世紀頃
335	409	II 1G	77	S7	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	明黄褐色	ナデ	明黄褐色	少	少		少	
335	410	II 5F	5937	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	赤褐色	楕円文、ヨコ方向の山形、ナデ、	赤褐色	含			少	P1
335	411	II 0E	1549	SP26	-	糸切土師器	坏 底部	-	-	-	回転ヨコナデ、回転糸切り	にぶい褐色	回転ヨコナデ	にぶい褐色				少	
335	412	II 0E	1549	SP26	-	瓦質土器	瓦器 鉢	-	-	-	ナデ	灰褐色～黒色	ヨコナデ	灰褐色～黒色		含		少	外面スス付着
343	413	II 6F	7446	S127	-	糸切土師器	坏	2.6	12.8	8.0	回転ヨコナデ、回転糸切り	淡褐色	回転ヨコナデ	淡褐色	少			少	
343	414	II 6F	7444	S127	-	糸切土師器	坏	13.0	2.2	8.2	回転ヨコナデ、回転糸切り後板状痕	淡褐色	回転横ナデ	淡褐色	少				
356	534	IV 10C	75264	-	III a	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	1.4+a	-	半蔵竹管文	オリーブ黒色	ナデ	オリーブ黒色	多			多	P32
356	535	IV 10D	75254	-	III b	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、半蔵竹管文	明黄褐色	ナデ	明黄褐色				少	
356	536	IV 10C	75255	-	III a	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	1.9+a	-	ナデ、刺突文	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	多			多	
356	537	IV 10D	74767	-	III a	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	-	-	竹管文、ナデ	黄褐色	剥離	黄褐色	多	多		少	
356	538	IV 9D	74900	-	III a	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	2.7+a	-	竹管文 ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	少		少	
356	539	III 8D	72215	-	III	隆帯文系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、刻み目	褐色	ナデ	褐色	含			多	P4
356	540	III 8D	72254	-	III	隆帯文系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	瓜形文、隆帯貼付	明赤褐色	ナデ	明赤褐色				多	
356	541	II -	1122	施土	-	隆帯文系土器	口縁部?	-	-	-	ナデ、刺突文	黄褐色	ヨコナデ	黄褐色	僅	僅		少	
356	542	IV 9E	74480	-	III a	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	7.3+a	-	列点文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多		多	P86
356	543	IV 11E	73597	-	III	隆帯文系土器	鉢	-	-	-	列点文、ナデ	褐色	ナデ	褐色	少			少	
356	544	IV 9E	75713	-	III	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	-	-	貼付け後刺突文様	明赤褐色	ナデ	明赤褐色	少	少		少	
356	545	III 9D	72458	-	III	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	1.7+a	-	半蔵竹管文	褐色	ナデ	褐色				少	
356	546	III 9D	72550	-	III	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	2.7+a	-	刺突文	明赤褐色	ナデ	明赤褐色	少	少		少	
356	547	IV 10C	75514	-	III b	隆帯文系土器	鉢 口縁部	-	1.8+a	-	刺突文、ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少			多	

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角 閃	長 石	石 突	砂 粒	備 考
356	548	III 9C	72462	-	III	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	-	-	刺突文、ナデ、	赤褐色	ナデ	赤褐色	多	多	多	P96	
356	549	IV 9E	74160	-	III b	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	2.5+e	-	隆帯文、ナデ	にぶい橙色	ナデ	にぶい橙色	少	少	少	P38	
356	550	III 8C	72754	-	III	隆帯文系土器	深鉢口縁部	-	-	-	刺突文、ナデ	黒褐色	ナデ	黒褐色	合	合	多		
356	551	III 9D	72691	-	III	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	4.5+e	-	ヨコナデ、指圧痕	にぶい黄褐色	ヨコナデ、ナデ	黒褐色	少	少	少	P170	
356	552	IV 10C	75447	-	III b	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	3.5+e	-	隆帯文、ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	多	多	多	P93	
356	553	II 4G	-	-	II	平格式土器	深鉢口縁部	-	-	-	波状凹線文、刺突文	にぶい黄褐色	不明瞭	にぶい黄褐色	合		多	P36	
356	554	III 9D	72429	-	III	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	3.1+e	-	ハノ字刻み目文、ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	多	多	P100	
356	555	IV 9C	75411	-	III a	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	-	-	刺突文、ナデ	橙色	ナデ	橙色	多		多		
356	556	IV 9C	75513	-	III b	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	-	-	刺突文、ナデ	にぶい橙色	ナデ	にぶい橙色	多		多		
356	557	III 8D	72816	-	III	隆帯文系土器	深鉢口縁部	-	-	-	ナデ、刺突文	明褐色	ナデ	明褐色	合		多		
356	558	IV 9E	73068	-	II	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	2.4+e	-	列点文	浅黄色	ナデ	浅黄色	少	多	多		
356	559	IV 9D	74940	-	III a	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	3.5+e	-	隆帯文、ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	多	多	多	P273	
356	560	IV 10D	75254	-	III b	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	-	-	ナデ、半歳竹管文	暗褐色	ナデ	暗褐色			少		
356	561	II 8E	91130	-	III	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	はりつけ後刺突痕、ナデ	淡褐色	ヨコナデ、指圧後ナデ	淡褐色	合	合	合	P24	
356	562	IV 10B	74660	-	II	隆帯文系土器	深鉢口縁部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	多	多	少		
357	563	III 9D	72550	-	III	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	1.7+e	-	突帯	橙色	ナデ	橙色	少		多		
357	564	IV 10C	75384	-	III a	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	1.6+e	-	隆帯文	橙色	ナデ	橙色	少		少	P74	
357	565	IV 11D	75258	-	III b	隆帯文系土器	深鉢口縁部	-	-	-	ナデ、隆帯文	橙褐色	ナデ	橙褐色	合		多		
357	566	IV 10C	75524	-	III b	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	5.2+e	-	隆帯文、ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多		多	P114	
357	567	IV 12E	74431	-	III b	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	ナデ	淡黄色	ナデ	淡黄色	少		少		
357	568	III 9D	72507	-	III	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	3.3+e	-	刺突文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	P126	
357	569	IV 10E	74492	-	III b	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	刻み目、ナデ	暗黄褐色	ナデ	暗黄褐色			少		
357	570	II 4E	6905	-	III	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ、刺突文	黄褐色	隆起線文	黄褐色			少	P15	
357	571	III 9D	72458	-	III	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	1.7+e	-	刻線文	黒色	ナデ	にぶい黄褐色	少	多	多		
357	572	III 9D	72544	-	III	隆帯文系土器	深鉢口縁部	-	3.9+e	-	刻み目文、ナデ	黒褐色	ナデ	にぶい褐色	少		多	P162	
357	573	IV 10D	75226	-	III b	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	刻み目、ナデ	暗茶褐色	ナデ	暗茶褐色			少		
357	574	IV 9E	74065	-	II	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	3.6+e	-	条痕文、ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	多	少		
357	575	IV 10D	75254	-	III b	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	刻み目、ナデ	明黄褐色	ナデ	明黄褐色			少		
357	576	IV 9B	75713	-	III	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	刻み文、隆帯文	淡褐色	ナデ	淡褐色	合	合	多		
357	577	IV 9G	73167	-	III	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	2.4+e	-	隆帯文	褐色	ナデ	褐色	少	少	多		
357	578	IV 10C	75839	-	III b	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	5.3+e	-	隆帯文、ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多	多	P155	
357	579	III 9D	72149	調査区一括	II	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	-	-	×字状文、ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	多		多		
357	580	III 9D	72697	-	III	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	-	-	ナデ、×字状文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	多	少	多		
357	581	IV 10C	75820	-	III b	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	2.0+e	-	隆帯文	明褐色	ナデ	明褐色	少		多		
357	582	IV 11F	73428	-	III	隆帯文系土器	鉢口縁部	(21.6)	2.8+e	-	隆帯文	にぶい褐色	ナデ	褐色	少	多	多	P16	
357	583	IV 12F	73166	調査区一括	III	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	-	-	刻み目、ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	少		少		
357	584	IV 10D	74889	-	III a	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	-	-	貝殻痕	黄褐色	ナデ	黄褐色	少	少	少		
357	585	IV 9D	75252	-	III b	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	3.3+e	-	撫余文、ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多		多	P328	
357	586	III 8D	72815	調査区一括	II	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	-	-	ナデ、貝殻桑痕文	浅黄色	ナデ	浅黄色	多	多	多		
358	587	III 9D	72458	-	III	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	1.5+e	-	ナデ	にぶい赤褐色	ナデ	にぶい赤褐色	少		少		
358	588	III 9D	72796	-	III	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	2.0+e	-	刻み目突帯、ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色			少		
358	589	IV 9B	75713	-	III	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	ナデ	明茶褐色	ナデ	明茶褐色	合	合	多		
358	590	III 9D	72697	-	III	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	3.6+e	-	ナデ(調摩)	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色			多		
358	591	III 9D	72119	-	II	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色			少	P7	
358	592	III 9C	72678	-	III	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色			多	P149	
358	593	IV 9D	75581	-	III b	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	4.0+e	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多	多	P333	
358	594	III 9C	72266	-	III	隆帯文系土器	口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	黄褐色	多		多	P36	
358	595	IV 11E	74092	-	III b	隆帯文系土器	深鉢口縁部	-	-	-	隆帯文、ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	合	合	多	P124	
358	596	III 9D	72394	-	III	隆帯文系土器	鉢口縁部	-	4.0+e	-	ヨコナデ、ナデ	暗褐色	ナデ	にぶい褐色	多	多	多	P66	
358	597	IV 9D11F	75036	-	III b	隆帯文系土器	深鉢口縁部	29.1	-	-	隆帯文、ナデ	明茶褐色	ナデ	明茶褐色	多	多	多		
359	598	IV 10D	75254	-	III b	楕円文土器	口縁部	-	-	-	楕円文	明黄褐色	楕円文	明黄褐色			少		
359	599	IV 10D	75018	-	III b	楕円文土器	口縁部	-	-	-	楕円文	黄褐色	ナデ、楕円文	黄褐色			少		
359	600	III 9C	72196	-	III	楕円文土器	鉢口縁部	-	-	-	楕円文、ナデ、沈線	にぶい褐色	ナデ、楕円文	にぶい褐色	多		多	P20	
359	601	II 1F	4890	-	III	楕円文土器	鉢口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	暗褐色	ナデ、楕円文	暗褐色	多	多	多		
359	602	III 9C	72676	-	III	楕円文土器	鉢口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	明褐色	ナデ	明褐色	少		少	P147	
359	603	II 0D	3269	-	III	楕円文土器	鉢口縁部	-	-	-	ヨコ方向の楕円文	褐色	ヨコ方向の楕円文、ナデ	褐色	合	合		P120	
359	604	II 0D	2938	-	III	楕円文土器	鉢口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	合	合		P79	
359	605	II 1E	3769	-	II	楕円文土器	深鉢	-	-	-	ヨコ方向の山形文	暗褐色	ヨコ方向の山形文、ナデ	暗褐色			少	P129	
359	606	II 0G	4631	-	III	楕円文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、押型文?(磨減)	橙褐色	ナデ	橙褐色	少	多	少	P123	
359	607	II 0F	2681	-	III	山形文土器	鉢口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	暗褐色	ヨコ方向の山形文	暗褐色				P183	
359	608	IV 8E	72955	-	II	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	少	少	少		
359	609	II 0F	1548	-	III	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ、ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	合	合			
359	610	II 2F	5622	-	III	山形文土器	鉢口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	黒茶褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	黒茶褐色	多	多	多		
359	611	II 0D	2941	-	III	山形文土器	鉢口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	黄褐色	ヨコ方向の山形文	黄褐色	合	合		P82	

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考
359	612	II 5F	5951	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	橙褐色	ヨコ方向の山形文	橙褐色	含	含	少	P9	
359	613	II 2D	4630	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	山形文、ナデ	褐色	山形文	褐色	少	少	少		
359	614	II 2F	5622	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	暗茶褐色	山形文(ヨコ) ナデ	暗茶褐色	少	多	多		
359	615	IV 12F	73412	-	III	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	暗茶褐色	ナデ、ヨコ方向の山形文	暗茶褐色			少		
359	616	II 0G	1867	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	茶褐色	ヨコ方向の山形文、ナデ	茶褐色	少	少	多	P35	
359	617	II 1F	1416	-	II	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	茶褐色	ヨコ方向の山形文	茶褐色	含		少	P38	
359	618	IV 12E	73665	-	III b	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	黄橙褐色	ヨコ方向の山形文	黄橙褐色	含		少		
359	619	II 4F	5753	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文 ナデ	明茶褐色	ヨコ方向の山形文 ナデ	明茶褐色	少	多	少	P93	
359	620	II 1F	4890	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	茶褐色	ナデ、ヨコ方向の山形文	茶褐色	少	多	少		
359	621	II 1I	1392	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文、摩滅	茶褐色	横状文、ヨコ方向の山形柳型文	茶褐色			多	P85	
359	622	II 1G	3498	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	褐色	ヨコ方向の山形文	褐色	少		少	P51	
360	623	II 0G	4658	-	III	楕円文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向楕円文	茶褐色	横状文	茶褐色	少	多	多	P132	
360	624	II 1F	4414	-	III	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	淡茶-茶褐色	横状文、楕円文	淡茶-茶褐色	少	少	多	P241	
360	625	II 8G	5625	-	II	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	にぶい黄褐色	横状文、楕円文	にぶい黄褐色			少		
360	626	II 5G	5406	-	II	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	磨滅	にぶい橙色	横状文、楕円文	にぶい橙色			少	P17	
360	627	II 6E	6080	-	III	楕円文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ、楕円文	茶褐色	横状文、楕円文	茶褐色	僅	僅	少		
360	628	II 0E	5947	-	-	楕円文土器	深鉢 波状口縁	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	横状文、ヨコ方向の山形文	にぶい褐色			少		
360	629	II 3G	-	-	II	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	楕円文	灰褐色	横状文、ヨコ方向の楕円文、ナデ	灰褐色	多		少	P8	
360	630	II 5H	5272	-	III	楕円文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	にぶい黄橙色	横状文、楕円文	にぶい黄橙色	少	少	少		
360	631	II -	-	-	-	楕円文土器	口縁部	-	-	-	刻み目、楕円文	茶褐色・橙色	横状文	茶褐色・橙色	僅	僅	少		
360	632	II 4E	5815	-	-	楕円文土器	口縁部	-	-	-	山形文	橙色	横状文、山形文	橙色	僅	僅	少		
360	633	II 5G	5405	-	III	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	楕円文	黄褐色	横状文	黄褐色	含		少	P16	
360	634	II 0F	2800	-	II	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	楕円文	黒褐色	横状文、楕円文	黒褐色	含	含	少		
360	635	II 6E	6072	-	III	楕円文土器	口縁部	-	-	-	楕円文	淡黄色	横状文、楕円文	淡黄色	僅	僅	少		
360	636	II 5G	5227	-	II	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	横状文、ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	含		少	P11	
360	637	II 6F	6266	-	III	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	楕円文、ナデ	暗茶褐色	横状文、楕円文	暗茶褐色	多	多	多	P11	
360	638	II 4G	4656	-	III	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	横状文、ヨコ方向の山形文	にぶい褐色			少	P173	
360	639	II 2E	6354	-	III a	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	楕円文	暗褐色	横状文、楕円文	暗褐色	少	少	少		
360	640	IV 8F	-	-	III b	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	暗褐色	横状文	暗褐色	多	含	少		
360	641	IV 12E	-	-	III b	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	楕円文、ナデ消し	暗褐色	横状文、楕円文	暗褐色	多	少	少	P100	
360	642	IV 12E	-	-	III b	楕円文土器	鉢	-	-	-	ヨコ方向の楕円文	黄褐色	横状文、ヨコ方向の楕円文、ナデ	黄褐色	少	多	少	P113 同一個体	
360	643	IV 12E	-	-	III b	楕円文土器	鉢	-	-	-	ヨコ方向の楕円文	暗褐色	横状文、ヨコ方向の楕円文、ナデ	暗褐色	多		少		
361	644	II 6F	6270	-	III	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	楕円文、ナデ	橙褐色	横状文、楕円文、ナデ	橙褐色	少	少	多	P15	
361	645	II 2E	5152	-	III a	楕円文土器		-	-	-	楕円文	褐褐色	横状文、楕円文	褐褐色			少	P92	
361	646	IV 11F	73125	-	III	楕円文土器	鉢 口縁部	-	5.0+ e	-	ナデ、楕円文	橙色	横状文、楕円文	橙色	少	少	少	P4	
361	647	II 7F	6088	-	II	楕円文土器	口縁部	-	-	-	楕円文	淡褐色	横状文、楕円文、ナデ	淡褐色	少	少	多	P8	
361	648	II 3E	5438	-	-	山形文土器	-	-	-	-	山形文	褐色	横状文	褐色	僅	僅	少		
361	649	IV 10C	75361	-	III a	山形文土器	鉢 口縁部	-	1.8+ e	-	ナデ、たて方向の山形文	明赤褐色	横状文、ヨコ方向の山形文	明赤褐色	少	多	多		
361	650	II 5E	5913	-	III	山形文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ、山形文	淡黄色	横状文、山形文	黒褐色	僅	僅	少		
361	651	II 6F	-	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文、ヨコ方向のナデ	暗褐色	横状文、ヨコ方向の山形文	暗褐色	少	少	多		
361	652	II 6F	4634	-	III a	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	淡褐色	横状文、ヨコ方向の山形文	淡褐色	少	少	多	P126	
361	653	II 6E	6080	-	III	山形文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ、山形文	橙色	横状文、ナデ	橙色	少	少	少		
361	654	II 2H	2897	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい橙色	横状文、ヨコ方向の山形文	にぶい橙色	含	含	多		
361	655	II 5F	5914	-	II	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、タテ方向の山形文	赤褐色	横状文、ヨコ方向の山形文	赤褐色	含	含			
361	656	II 1F	4890	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	暗褐色	横状文、ヨコ方向の山形文	暗褐色	少	少	少		
361	657	II 0G	-	-	II	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	茶褐色	横状文、ヨコ方向の山形文	茶褐色	少	多	多	P58	
361	658	II 0G	2787	-	III	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	茶褐色	横状文、ヨコ方向の山形文	茶褐色	少	少	多		
361	659	IV 9G	73167	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	2.4+ e	-	ナデ、山形文	褐色	横状文	褐色	多		多		
361	660	IV 11F	73415	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	2.2+ e	-	ナデ	にぶい褐色	横状文	褐色・灰褐色	少	少	少	P3	

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考
361	661	II 0E	3222	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	明褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	明褐色	少			少	P271
361	662	II 6F	6071	-	II	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文 ナデ	茶褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	茶褐色	多	少		多	
361	663	IV 9F	73941	-	III b	山形文土器	鉢 口縁部	-	3.0+ a	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	橙色	構状文、ヨコ方向の山形文	橙色	少			少	P172
361	664	IV -	-	-	-	山形文土器	-	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	少	少		少	
361	665	II 0F	2877	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	黒褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	黒褐色	含	含			P212
361	666	IV 9F	73062	-	II	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	褐色	構状文	褐色	含	含		多	
361	667	IV 9F	73533	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	3.2+ a	-	ヨコ方向の山形文	橙色	構状文、ヨコ方向の山形文	橙色	少	少		多	
361	668	II 5G	5406	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	橙褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	橙褐色		含		少	P17
361	669	II 1G	1546	-	III	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	少			少	
361	670	II 0E	3022	-	III	山形文土器	深鉢	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	にぶい橙色	構状文、ヨコ方向の山形文	にぶい橙色				少	P243
361	671	II 4F	5660	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文、 ナデ	橙色	構状文、ヨコ方向の山形文	茶褐色		少		多	
361	672	II 1H	1771	-	III	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	淡褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	淡褐色				少	P29
361	673	II 0F	2593	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	いぶい黄褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	いぶい黄褐色	含	含			
361	674	II 1H	6638	-	III	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	灰褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	灰褐色	少			少	
361	675	II 7F	6265	-	-	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、山形文	暗褐色	構状文、山形文	暗褐色	多	少		多	
361	676	II 0F	256	-	II	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	暗褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	暗褐色	少			少	P2
361	678	II 4F	5781	-	III a	山形文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ、山形文	黒褐色	構状文、山形文	黒褐色	僅	僅		少	
361	679	II 5H	5272	-	III	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色				少	
361	680	II 5H	-	-	III	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	橙色	構状文	橙色	少	少		少	
361	681	IV 9B	75737	-	III b	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	山形文	暗褐色	タテ方向の条貫文、 山形文	暗褐色	少	少		少	
361	682	II 1G	2788	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	にぶい橙色	構状文、ヨコ方向の山形文	にぶい橙色	少			少	
361	683	II 0E	2423	-	III a	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	褐色	少			少	
361	684	II 5H	5272	-	III	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	にぶい橙色	構状文、ヨコ方向の山形文	にぶい橙色	少	少		少	
362	685	II 4G	4144	-	III a	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	暗褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	暗褐色				少	P14
362	686	IV 9D	74921	-	III b	山形文土器	鉢 口縁部	-	4.5+ a	-	ヨコ方向の山形文、 ナデ	橙色	構状文、ヨコ方向の山形文、 ナデ	橙色	少			多	P254
362	687	II 3I	1592	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	暗茶褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	暗茶褐色	少	少		多	P5
362	688	II -	-	表探	-	山形文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ、山形文	茶褐色	構状文、山形文、 ヨコナデ	茶褐色	少	少		少	
362	689	IV 9F	74470	-	III b	山形文土器	鉢 口縁部	-	4.5+ a	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	茶褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	褐色	多			多	P180
362	690	II 1F	4432	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	黄褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	黄褐色	多	少		多	P259
362	691	II 4F	-	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	黄褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	黄褐色	含				
362	692	II 8G	5798	-	II	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色				少	
362	693	IV 8E	72907	-	II	山形文土器	鉢	-	-	-	ヨコ方向の山形文	褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	褐色	少			少	
362	694	II 1F	4712	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	暗茶褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	暗茶褐色	多	多		多	P312
362	695	II 4F	5693	-	III a	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	黄褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	黄褐色	含				P50
362	696	II 7D	6488	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	山形文	茶褐色	構状文、山形文	茶褐色	含	含		多	
362	697	II 5F	5946	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	黄褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	黄褐色	含	含		少	
362	698	II 2I	1346	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	茶褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	茶褐色	含	含		多	P42
362	699	III -	72796	S22	-	山形文土器	鉢 口縁部	-	3.9+ a	-	ナデ、楕円文、山形文	にぶい赤褐色	構状文、楕円文	にぶい赤褐色	少			少	
362	700	II 8G	5801	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	含			少	

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考
362	701	II 3G	578	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	黄褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	黄褐色	含			多	P3
362	702	II 4G	4212	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色				少	P66
362	703	II 5F	6231	-	II	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	赤褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	赤褐色	含			少	P29
362	704	IV 10D	74870	-	III a	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	明黄褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	明黄褐色	含			少	
362	705	II 3E	5430	-		山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	山形文	褐色	構状文、山形文	褐色	少	僅		少	
362	706	II 2E	5053	-	III a	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、山形文	橙色	構状文、ヨコ方向の山形文	暗褐色	少			少	P73
362	707	II 1E	3578	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	黄褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	黄褐色				多	P94
362	708	II 0E	2919	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	暗褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	暗褐色					
362	709	II 1F	4710	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	暗褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	暗褐色	多	多		多	P310
362	710	II 7E	6619	-	-	山形文土器	深鉢	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	暗褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	暗褐色				少	
362	711	II -	901	-	II	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	茶褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	茶褐色	少	多		多	P73
362	712	II 0H	1976	-	III	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	褐褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	褐褐色				少	P2
362	713	II 4F	5660	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文、ヨコ方向のナデ	暗茶褐色	構状文、ヨコ方向の山形文、ナデ	暗茶褐色	少	少		多	
363	714	II 0F	3507	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	赤褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	赤褐色	含	含			P244
363	715	II 4G	4510	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	黒褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	黒褐色	含			少	P124
363	716	IV 9C	75418	-	III a	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	赤褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	赤褐色	多	少		多	
363	717	II 3G	3832	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	構状文	にぶい褐色	含	含		多	P88
363	718	II 1E	4671	-	III	山形文土器	-	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	褐色	構状文、ヨコ方向の山形文、ナデ	褐色				少	P283
363	719	II 3F	-	-	-	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	黄褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	黄褐色				少	
363	720	II 1E	4103	-	III	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	褐褐色	構状文、ヨコ方向の山形文、ナデ	褐褐色	多			少	P220
363	721	II 1F	6913	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	茶褐色	構状文、ヨコ方向の山形文、ナデ	茶褐色	多	多	多	多	
363	722	II 1D	3410	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	暗褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	暗褐色	含	含			P56
363	723	II 0G	1847	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	明赤褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	明赤褐色	含	含		多	P15
363	724	II 3H	2212	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	灰黄褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	灰黄褐色	含			少	
363	725	II 5F	5890	-	II	山形文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ、山形文	橙色・淡黄色	構状文、山形文、ヨコナデ	橙色・淡黄色		僅		少	P17
363	726	II 8F	6637	-	III	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	茶褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	茶褐色	少	少		多	
363	727	II 7D	6406	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	山形文	明褐色	構状文、山形文	明褐色	含	含		少	P4
363	728	IV 10C	75353	-	III a	山形文土器	鉢 口縁部	-	6.5+ e	-	ヨコ方向の山形文	にぶい赤褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	にぶい赤褐色	少	多		多	P44
363	729	II 3F	6307	-	III a	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	褐色				少	P18
363	730	II 5G	5406	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	含			少	P17
363	731	II 2H	-	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	構状文、ヨコ方向の山形文、ナデ	にぶい褐色		含		多	
363	732	IV 12E	73695	-	III b	山形文土器	-	-	-	-	ヨコ方向の山形文	暗茶褐色	構状文、ヨコ方向の山形文、ナデ	暗茶褐色	少	少		少	
363	733	II 6F	6071	-	II	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向のナデ、ヨコ方向の山形文	暗褐-暗褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	暗褐-暗褐色	少			多	
363	734	IV 9F	72994	-	II	山形文土器	鉢 口縁部	-	4.3+ e	-	ヨコ方向の山形文	褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	暗褐色	多	多		多	P3
363	735	III 9C	72276	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文、ナデ	褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	褐色	少			多	P467
363	736	II 8E	6629	-	III	山形文土器	-	-	-	-	ヨコ方向の山形文	赤褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	赤褐色	多			少	P19
363	737	II 1E	4340	-	III	山形文土器	口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	褐褐色	構状文、ヨコ方向の山形文、ナデ	褐褐色				少	P243
364	738	II 1G	2788	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	褐色	少			少	
364	739	II 0F	2320	-	III a	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	褐色	構状文、ヨコ方向の山形文	暗褐色	多	少		多	P31

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考
364	740	II 3E	5546	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	山形文	茶褐色	ヨコナデ、櫛状文、山形文、ナデ	茶褐色	少	少	少		
364	741	II 5G	5437	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	赤褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文	赤褐色	含			少	
364	742	II 2H	2009	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	橙色	櫛状文、ヨコ方向の山形文	橙色	含			多	P9
364	743	II 7E	6619	-	-	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	赤褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文	赤褐色				少	
364	744	II 0E	2278	-	III a	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	橙色	櫛状文、ヨコ方向の山形文	暗褐色	少			少	P85
364	745	II 1F	3912	-	III a	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	無文、ヨコ方向の山形文	暗褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文	暗褐色	含	含		少	P32
364	746	II 3G	3124	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文	褐色		含		多	P23
364	747	IV 9F	73496	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	10.5+ a	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	茶褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文	浅黄褐色	多			多	P107
364	748	II 1G	3482	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文、ナデ	褐色	少			少	P35
364	749	II 2H	2206	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文、ナデ	褐色				少	P40
364	750	II 1G	3482	-	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文、ナデ	褐色	少			少	P35
364	751	II 0E	3088	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文	褐色	少			少	P254
364	752	IV 11E	73595	-	III	山形文土器	鉢	-	-	-	ヨコ方向の山形文、穿孔	暗褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文、ナデ	暗褐色	少			少	P51
364	753	IV 9F	73697	-	III a	山形文土器	鉢 口縁部	-	5.5+ a	-	ヨコ方向の山形文	褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文、ナデ	にぶい褐色	多	多		多	P139
364	754	IV 10C	75380	-	III a	山形文土器	鉢 口縁部	-	6.0+ a	-	ヨコ方向の山形文	赤褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文	赤褐色	多	多		多	P70
364	755	II 0E	6013	-	III	山形文土器	深鉢	-	-	-	ヨコ方向の山形文	暗褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文	暗褐色	少			少	
365	756	II 3E	5510	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコナデ、山形文	茶褐色	櫛状文、山形文	茶褐色	多	多		多	
365	757	II 2I	1957	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	茶褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文	茶褐色	少	少		少	P60
365	758	II 1G	1778	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	明赤褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文	明赤褐色	少			少	
365	759	IV 9E	74054	-	II	山形文土器	深鉢 口縁部	-	7.6+ a	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文	浅黄褐色	多	多		多	P51
365	760	II 7F	6323	-	II	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	山形文	淡褐色	櫛状文、山形文	淡褐色	少	少		多	P16
365	761	II 8E	6534	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	赤褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文	赤褐色	多			少	P2
365	762	IV 8F	72942	-	II	山形文土器	深鉢 口縁部	-	7.1+ a	-	ヨコ方向の山形文	明赤褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文、ナデ	明赤褐色	多	多		多	P10
365	763	IV 11F	74081	-	III b	山形文土器	深鉢 口縁部	-	11.7+ a	-	ヨコ方向の山形文	明褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文、ナデ	褐色	多	多		多	
365	764	IV 8F	72944	-	II	山形文土器	深鉢 口縁部	(26.3)	7.7+ a	-	ヨコ方向の山形文	褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文、ナデ	褐色	少	少		多	P12
365	765	IV 9G	72963	-	II	山形文土器	深鉢 口縁部	-	11.2+ a	-	ヨコ方向の山形文	褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文、ナデ	褐色	多	多		多	P4
366	766	IV 10D	74606	-	II	楕円文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	淡黄褐色	櫛状文、楕円文	淡黄褐色	少			少	
366	767	II 7F	6265	-	-	楕円文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	褐色	櫛状文、楕円文	褐色	少	少		多	
366	768	II 4G	3916	-	II	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	楕円文	浅黄褐色	櫛状文、楕円文	浅黄褐色				多	
366	769	II 5F	5914	-	II	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	淡橙褐色	櫛状文、楕円文	淡橙褐色	含				
366	770	III 9C	72336	-	III	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	楕円文	明赤褐色-灰褐色	櫛状文、楕円文	灰褐色	多	多		多	P78
366	771	IV 11F	73642	-	III b	楕円文土器	鉢 口縁部	-	5.0+ a	-	ナデ、楕円文	浅黄褐色	櫛状文、楕円文	浅黄褐色	少	少		少	P36
366	772	II 4G	909	-	II	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	楕円文	浅黄褐色	櫛状文、楕円文	浅黄褐色				多	P81
366	773	II 0D	2919	-	III	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	タテ方向の山形文	褐色	櫛状文、ヨコ方向の山形文	褐色	含	含			
366	774	II 3F	5585	-	III	楕円文土器	深鉢	-	-	-	ナデ、ナメ方向の押型文	暗褐色	櫛状文、ナメ方向の押型文	暗褐色	少			少	
366	775	II 5F	5914	-	II	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	楕円文	浅黄褐色	櫛状文、楕円文	浅黄褐色	含			少	
366	776	II 3E	6412	-	III	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	明赤褐色	櫛状文、楕円文	明赤褐色	含	含		多	P67
366	777	IV 9C	74642	-	II	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	暗灰色	櫛状文、楕円文	暗灰色	少	少		少	
366	778	II 6F	6266	-	III	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	楕円文、ナデ	黄褐色	櫛状文、楕円文、ナデ	黄褐色	多	少		多	P11
366	779	IV 11E	73686	-	III b	楕円文土器	鉢 口縁部	Φ32.0	10.5	-	楕円文	にぶい黄褐色	櫛状文、楕円文、ナデ	にぶい黄褐色		多		多	P94
366	780	IV 11E	73990	-	III b	楕円文土器	鉢 口縁部	-	5.6+ a	-	ナデ、楕円文	黄褐色	櫛状文、楕円文	黄褐色		多		多	P108
366	781	IV 11E	73680	-	III b	楕円文土器	鉢 胴部	-	4.6+ a	-	楕円文	にぶい黄褐色・褐色	楕円文	にぶい黄褐色・褐色	少			多	P78
366	782	IV 10C9C	75359	-	III ab	楕円文土器	鉢 口縁部	(38.2)	-	-	ナデ、タテ方向楕円文	淡褐色	櫛状文、ヨコ方向の楕円文、ナデ	淡褐色	多	少		多	P50
366	783	IV 10C	75155	-	III a	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、タテ方向楕円文	淡褐色	櫛状文、ヨコ方向の楕円文、ナデ	淡褐色	多	少		多	P19

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考
366	784	IV	10C	75377	-	Ⅲ a	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	タテ方向の楕円文	淡褐色	ヨコ方向の楕円文、 ヨコ方向のナデ	淡褐色	多	少	多	P67
366	785	IV	10C	75255	-	Ⅲ a	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	楕円文	淡褐色	ヨコ方向のナデ	淡褐色	多	少	多	
367	786	IV	9C	75201	-	Ⅲ a	楕円文土器	鉢 口縁部	(35.4)	-	-	ナデ、楕円文	淡褐色	楕状文、楕円文、ナ デ	淡褐色	多	少	多	P183
367	787	IV	9C	75405	-	Ⅲ a	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	淡褐色・灰褐色	楕状文、楕円文、ナ デ	淡褐色・灰褐色	多	少	多	P208
367	788	IV	9C	75468	-	Ⅲ b	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	淡褐色	楕状文、楕円文、ナ デ	淡褐色	多	少	多	P232
367	789	IV	9C	75202	-	Ⅲ a	楕円文土器	鉢 口縁部	(20.0)	-	-	ナデ、楕円文	淡褐色・灰褐色	楕状文、楕円文、ナ デ	淡褐色・灰褐色	多	少	多	P184
367	790	IV	10D	74878	-	Ⅲ a	楕円・山形文土器	口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	黄褐色	楕状文、楕円文	黄褐色			少	
367	791	II	0D	2785	-	Ⅲ a	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	山形文	明赤褐色	楕状文、山形文		含	含		
367	792	II	1F	3716	-	Ⅲ a	山形文土器	壺	10.6	5.1	-	無文、ヨコ方向の山 形文	茶褐色	楕状文、ヨコ方向の 山形文	茶褐色			少	P65
367	793	IV	11E	73725	-	Ⅲ b	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	タテ方向の山形文	橙褐色	楕状文、山形文	橙褐色		含		
367	794	IV	9E	74059	-	Ⅱ	山形文土器	鉢 口縁部	-	2.2	-	山形文	にぶい橙色	楕状文、ヨコ方向の 山形文	にぶい橙色	少		少	P56
367	795	IV	10C	75514	-	Ⅲ b	山形文土器	鉢 口縁部	-	2.0+e	-	タテ方向の山形文	にぶい褐色	楕状文、ヨコ方向の 山形文	にぶい褐色			少	
367	796	IV	10C	75361	-	Ⅲ a	山形文土器	鉢 口縁部	-	2.0+e	-	ナデ	にぶい黄褐色	楕状文、ヨコ方向の 山形文	にぶい黄褐色	少		少	
367	797	IV	9E	74383	-	Ⅱ b	山形文土器	鉢 口縁部	-	2.1+e	-	タテ方向の山形文	にぶい橙色	楕状文、ヨコ方向の 山形文	にぶい橙色	少		少	
367	798	IV	10C	75361	-	Ⅲ a	山形文土器	鉢 口縁部	-	2.5+e	-	山形文	にぶい黄褐色	楕状文、ヨコ方向の 山形文	にぶい黄褐色	少		少	
367	799	IV	9F	73269	-	Ⅲ	山形文土器	鉢 口縁部	-	2.2+e	-	ナデ、タテ方向山形 文	橙色	楕状文、ヨコ方向の 山形文	橙色	少	少	少	P66
367	800	IV	9C	75513	-	Ⅲ b	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	タテ方向の山形文	にぶい褐色	楕状文、ナデ	にぶい褐色	少		少	
367	801	IV	8E	74267	-	Ⅲ b	山形文土器	鉢	-	-	-	ナデ、タテ方向の山 形文	にぶい黄褐色	楕状文、ヨコ方向の 山形文	にぶい黄褐色			少	
367	802	II	5G	5418	-	Ⅲ	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	タテ方向の山形文	赤褐色	楕状文、ヨコ方向の 山形文	赤褐色	含		少	P22
367	803	II	5E	5917	-	Ⅲ	山形文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ、山形文	茶褐色	楕状文、山形文	茶褐色	少	少	少	
367	804	II	6F	6071	-	Ⅱ	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ・タテ方向の山 形文、ナデ	黄褐色	楕状文、ヨコ方向の 山形文	黄褐色	多	多	多	
367	805	II	0E	5947	-	-	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	タテ方向の山形文	にぶい黄褐色	楕状文、ヨコ方向の 山形文	にぶい黄褐色	少		少	
367	806	II	3F	5532	-	Ⅲ a	山形文土器	深鉢	-	-	-	ヨコ・タテ方向の山 形文	暗赤褐色	楕状文、ヨコ方向 の山形文	暗赤褐色	多		多	P8
367	807	II	1F	3673	-	Ⅲ a	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	無文、ヨコ方向の山 形文	暗黄褐色	楕状文、ヨコ方向の 山形文、ナデ	暗黄褐色	含	含	少	P22
368	808	II	5F	5914	-	Ⅱ	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	楕円文	黄褐色	楕状文、ヨコ方向の 山形文	黄褐色	含			
368	809	II	0G	2075	-	Ⅲ	楕円文土器	口縁部	-	-	-	楕円文(磨滅)	暗褐色	楕状文	暗褐色	少	多	多	P74
368	810	II	7F	6079	-	Ⅱ	楕円文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	淡褐色	楕状文、タテ方向の 条痕、押型文	淡褐色	少	少	少	
368	811	II	1F	-	-	Ⅲ a	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	茶褐色	楕状文	茶褐色	多	多	多	P70
368	812	IV	9C	75867	-	Ⅲ b	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	磨滅	淡黄色	楕状文	淡黄色	多	少	多	P312
368	813	IV	9C	75540	-	Ⅲ b	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	にぶい黄褐色	楕状文、ヨコ方向の 山形文	にぶい黄褐色	多		多	P254
368	814	II	1F	3901	-	Ⅲ a	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	無文	黄褐色	楕状文	黄褐色	多	多	少	P22
368	815	II	0E	4385	-	Ⅲ	楕円文土器	深鉢	-	-	-	ナデ、押型文	黄褐色	楕状文	黄褐色	少		少	P299
368	816	IV	9C	75279	-	Ⅲ a	楕円文土器	鉢 口縁部	(Φ13.0)	5.7+e	-	ナデ、楕円文	橙色	楕状文	橙色	多	多	多	P188
368	817	IV	9C	-	-	Ⅲ a	楕円文土器	鉢	(26.4)	7.0	-	楕円文	橙褐色	楕状文	橙褐色	多	多	多	P187
368	818	IV	10C	-	-	Ⅲ a	楕円文土器	鉢	(27.6)	10.0	-	楕円文	暗褐色	楕状文、ナデ消し	暗褐色	多	多	多	P15
368	819	IV	9C	-	-	Ⅲ a	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	楕円文	橙褐色	楕状文	橙褐色	多	多	少	P191
368	820	II	4G	4648	-	Ⅲ	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山 形文	にぶい褐色	ナデ、ヨコ方向の山 形文	にぶい褐色			少	P165
368	821	II	3E	5471	-	Ⅲ	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコナデ、山形文	明茶褐色	山形文	明茶褐色	含	含	少	
368	822	II	0E	2400	-	Ⅲ	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山 形文	にぶい黄褐色	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	少	少	少	
368	823	II	3E	5438	-	-	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	楕円文	茶褐色	楕円文	茶褐色	僅	僅	少	
368	824	II	0F	2697	-	Ⅲ	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	にぶい黄褐色	ナデ、ヨコ方向の山 形文後ナデ	にぶい黄褐色	含	含		P199
368	825	II	1D	1494	-	Ⅱ	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	楕円文	暗褐色	楕円文	暗褐色	含	含		P14
368	826	II	0E	2248	-	Ⅲ a	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	暗褐色	ナデ、ヨコ方向の山 形文	暗褐色	少		少	P55
369	827	II	0E	2403	-	Ⅲ a	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	暗褐色	楕状文、ナデ	暗褐色	少		多	P113
369	828	IV	-	75134	-	Ⅲ b	楕円文土器	深鉢	-	-	-	楕円文	黄褐色	ナデ	黄褐色	少		少	P42
369	829	IV	9D	74832	-	Ⅲ a	楕円文土器	深鉢 口縁部	-	4.5+e	-	ナデ、楕円文	淡黄色	ナデ	淡黄色	多	多	多	P222
369	830	IV	9C	75412	-	Ⅲ a	楕円文土器	鉢 胴部	-	5.0+e	-	ナデ、楕円文	ナデ	ナデ	少	多	多	P215	
369	831	IV	9C	75759	-	Ⅲ a	楕円文土器	鉢 口縁部	-	10.5+e	-	ナデ、楕円文	にぶい黄色	ナデ、けずり	にぶい黄色	多	少	多	P283
369	832	II	8G	5871	-	Ⅲ	楕円文土器	深鉢 波状口 縁	-	-	-	楕円文	にぶい黄褐色	指押えナデ	にぶい黄褐色	含	含	含	P8
369	833	II	7D	6289	-	Ⅲ	楕円文土器	深鉢 口縁部	(23.0)	-	-	楕円文	明茶褐色	ナデ、指圧とナデ	明茶褐色	多	多	多	

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考
369	834	IV 9D	-	-	II b	楕円文土器	深鉢	(33.2)	23.3	-	楕円文、ナデ消し	黄褐色	ヨコ方向のナデ	黄褐色	多	多	多		
369	835	III 8C	72067	-	II	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	山形文	明赤褐色	横状文 (不明瞭)	明赤褐色	含		多	P3 稲荷山式	
369	836	IV 8E	74226	-	III b	山形文土器	鉢	-	-	-	ヨコ方向の山形文	黄褐色	ヨコ方向の山形文	黄褐色			少		
369	837	II 1F	3676	-	III a	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	橙褐色	横状文、ヨコ方向の山形文	橙褐色	含	多	多	P25	
369	838	II 5H	5212	-	III	山形文土器	口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	少	少	少		
369	839	II 4F	5660	-	III	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	楕円文、ナデ	暗褐色	楕円文、ナデ	暗褐色	多	多	多		
370	840	II 0E	2245	-	III a	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	にぶい橙色	ヨコ方向の山形文、ナデ	にぶい橙色			少	P52	
370	841	II 1E	3558	-	III	山形文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	橙褐色	横状文、ヨコ方向の山形文、ナデ	橙褐色	少		少	P74	
370	842	II 3F	5552	-	III a	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、コ方向の山形文	明褐色~暗褐色	横条文、ヨコ方向の山形文	明褐色~暗褐色	少		多	P13	
370	843	II 0E	2257	-	III a	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の山形文	にぶい橙色	ヨコ方向の山形文、ナデ	にぶい橙色		少	少	P64	
370	844	III -	-	排土	-	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	タテ方向の山形文	にぶい黄褐色	ヨコ方向の山形文、ナデ	にぶい黄褐色	僅	少	多		
370	845	II 8E	6552	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	タテ方向の山形文	淡褐色	ヨコ方向の山形文、ナデ	淡褐色	多	多	多	P16 1062・1063 同一個体	
370	846	III -	72817	調査区一括	-	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	僅		少			
370	847	IV 9D	74840	-	III a	山形文土器	鉢 口縁部	-	2.4+e	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	P230	
370	848	IV 9C	75197	-	III a	山形文土器		-	-	-	ヨコ方向の山形文	明茶褐色	ナデ	明茶褐色	含	含	多		
370	849	III 9D	72796	S22	III	山形文土器	鉢 口縁部	-	2.2	-	タテ方向の山形文、ヨコ方向の山形文	橙色	ナデ	橙色	少	少	少		
370	850	IV 9C	75852	-	III b	山形文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい橙色	ナデ	にぶい橙色	多		多	P298	
370	851	IV 10C	75783	-	III a	山形文土器		-	-	-	ヨコ方向の山形文	黄褐色	ナデ	黄褐色	少		少		
370	852	IV 10C	75385	-	III a	山形文土器	鉢 口縁部	-	4.2+e	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	P75	
370	853	IV 10E	-	-	III b	山形文土器	鉢 口縁部	-	6.3+e	-	タテ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	多	多	P8	
370	854	II 2I	1965	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	タテ方向の山形文	暗茶褐色	ナデ	茶褐色	含	含	多	P68	
370	855	IV 9D	74912	-	III b	山形文土器	鉢 口縁部	-	8.5+e	-	ヨコ方向の山形文	橙色	ナデ	橙色	少		少	P24	
370	856	II 5E	5913	-	III	山形土器小	口縁部	-	-	-	ナデ?	淡黄色	横状文	黄褐色	少	少	少		
371	857	IV 9D	75238	-	III b	楕円文土器	鉢 胴部	-	4.4+e	-	楕円文、ナデ	にぶい褐色	楕円文、ナデ	にぶい褐色	少	多	少	P314	
371	858	II 3E	5190	-	II	楕円文土器	深鉢 胴部	-	-	-	楕円文	明褐色	楕円文、ナデ	明褐色	含	含	少	P18	
371	859	IV 9D	74791	-	III a	楕円文土器	鉢 胴部	-	4.0+e	-	楕円文、ナデ	橙色	ナデ	橙色	少		少		
371	860	II 0G	3062	-	III	楕円文土器	胴部	-	-	-	楕円文	橙褐色	楕円文、ナデ	橙褐色	少		多	P123	
371	861	III 9C	72116	-	II	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	楕円文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少		多	P12	
371	862	IV 11E	74244	-	III	楕円文土器	鉢	-	-	-	楕円文、ナデ	にぶい褐色	ナデ、剥離	にぶい褐色			少	P155	
371	863	II 0G	2769	-	III	楕円文土器	胴部	-	-	-	ヨコ方向の楕円文	橙褐色	ナデ	橙褐色	少	少	多		
371	864	II 3E	5546	-	III	楕円文土器	深鉢 胴部	-	-	-	帯状施文、山形文	明茶褐色	ヨコ方向の条状文	明茶褐色	含	含	少		
371	865	III 9C	72332	-	III	楕円文土器	鉢 口縁部	-	-	-	楕円文	灰褐色	ナデ、楕円文	橙色	多	含	多	P74	
371	866	II 0E	2919	-	III	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	楕円文	にぶい褐色	楕円文、ナデ	にぶい褐色	含	含			
371	867	II 0G	4634	-	III a	楕円文土器	胴部	-	-	-	ヨコ方向の円文、穿孔	淡褐色	ヨコ方向の円文、ナデ	淡褐色	少	少	多	P126	
371	868	II 4E	5823	-	III	楕円文土器	胴部	-	-	-	ナメ方向の楕円文	淡黄色	タテ・ヨコ方向の楕円文	橙色	僅	僅	少	P10	
371	869	II 3E	5438	-	-	楕円文土器	胴部	-	-	-	縄文	黒褐色・淡黄色	縄文、ヨコナデ	黒褐色・淡黄色	僅	僅	少		
371	870	II 3E	5529	-	III a	楕円文土器	胴部	-	-	-	タテ・ヨコ方向の楕円文	茶褐色	ヨコ方向の楕円文	茶褐色	少	少	少	P33	
371	871	II 5E	5913	-	III	楕円文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ	褐色	楕円文	褐色	僅	僅	少		
371	872	II 5E	5913	-	III	楕円文土器	胴部	-	-	-	ナメ方向の楕円文	淡褐色	楕円文、ヨコナデ	淡褐色	僅	僅	少		
371	873	II 3F	5545	-	III a	楕円文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナメ方向の押型文	褐色	ナメ方向の押型文	褐色	少		少		
371	874	IV 10C	75381	-	III a	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	タテ方向の楕円文	淡褐色	ヨコ方向の楕円文	淡褐色	多	少	多	P71	
371	875	IV 9C	75406	-	III a	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	タテ方向の楕円文	淡褐色	ヨコ方向の楕円文、ヨコ方向のナデ	淡褐色	多	少	多	P209	
371	876	II 0G	4657	-	III a	楕円文土器	胴部	-	-	-	円文	橙褐色	円文、ナデ	橙褐色	少	多	多	P131	
371	877	IV -	75254	-	III b	楕円文土器		-	-	-	楕円文	明黄褐色	楕円文	明黄褐色			少		
371	878	II 0G	2769	-	III	楕円文土器	胴部	-	-	-	ヨコ方向の楕円文	橙褐色	ナデ	橙褐色	少	少	多		
371	879	IV 12E	74001	-	III b	楕円文土器		-	-	-	楕円文	黄褐色	ナデ (剥離)	黄褐色			少		
371	880	III 9C	72203	-	III	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	楕円文	にぶい褐色	ナデ (剥離)	にぶい褐色	少	少	多	P27	
371	881	II 1F	4010	-	III a	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	楕円文	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多	多	P197	
371	882	IV 11E	73386	-	III	楕円文土器	鉢	-	-	-	楕円文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色			少	P20	
372	883	IV 8F	-	-	III b	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	山形文	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多	多	P72	
372	884	II 3E	5521	-	III a	楕円文土器	胴部	-	-	-	楕円文	茶褐色・黄褐色	ヨコナデ	茶褐色・黄褐色	多	多	多	P30	
372	885	IV 10D	75000	-	III b	楕円文土器		-	-	-	楕円文	茶褐色	ナデ	茶褐色	少	少	少		
372	886	II 0F	5101	-	III a	楕円文土器	胴部	-	-	-	楕円文	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多	多		
372	887	IV 9C	75330	-	III a	楕円文土器	鉢 胴部	-	5.2+e	-	楕円文	にぶい黄褐色	ケズリ	にぶい黄褐色	多	多	多	P203	
372	888	IV 9C	75472	-	III b	楕円文土器	鉢 胴部	-	6.3+e	-	楕円文	にぶい黄褐色	ケズリ	にぶい黄褐色	少	少	多	P236	
372	889	II 3E	5512	-	III	楕円文土器	深鉢 胴部	-	-	-	楕円文	赤茶褐色	ナデ	赤茶褐色	含	含	少	P21	
372	890	II 0D	2802	-	III	楕円文土器	胴部	-	-	-	楕円文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	含	含		P34	
372	891	II 3I	1406	-	III	楕円文土器	深鉢 胴部	-	-	-	楕円文	明茶褐色	ナデ	明茶褐色	含	含	多		
372	892	II 1G	2188	-	III	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	楕円文	明褐色	ナデ	明褐色			少		
372	893	IV 12E	-	-	III b	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	楕円文	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	少	少	P105	
372	894	IV 12E	-	-	III b	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	楕円文	暗褐色	ヨコ方向のナデ	暗褐色	多		少	P105	
372	895	II 0F	5986	-	III	楕円文土器	胴部	-	-	-	ナデ、楕円文	にぶい黄褐色	条状文、ナデ	にぶい黄褐色	含	含		P285	

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考
372	896	II	0D	1032	-	II	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	楕円文	にぶい黄褐色	ナデ、指圧痕	にぶい黄褐色	含	含		P9
372	897	IV	11E	74100	-	III b	楕円文土器	深鉢 胴部	-	-	-	楕円文	明黄褐色	ナデ	明黄褐色	含	含		P132
372	898	IV	11E	74420	-	III b	楕円文土器	鉢 胴部	-	3.2+e	-	楕円文	黄褐色	ナデ	黄褐色	少	少	少	P163
372	899	IV	11E	73381	-	III	楕円文土器	鉢 胴部	-	10.0+e	-	楕円文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多		P15
373	900	IV	10C	75361	-	III a	楕円文土器	鉢 胴部	-	1.8+e	-	楕円文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	多	多	
373	901	IV	10C	75443	-	III b	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	タテ方向の楕円文	淡褐色	ヨコ方向のナデ	淡褐色	多	少	多	P89
373	902	IV	10C	75576	-	III b	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	タテ方向の楕円文	淡褐色	ヨコ方向のナデ	淡褐色	多	少	多	P128
373	903	IV	10C	75137	-	III a	楕円文土器	鉢 胴部	-	3.5+e	-	楕円文	淡黄色	ナデ	淡黄色	少		多	P1
373	904	IV	9D	74802	-	III a	楕円文土器	鉢 胴部	-	2.7+e	-	楕円文	淡黄色	ナデ	淡黄色	少	多	多	P192
373	905	IV	9D	74845	-	III a	楕円文土器	鉢 胴部	-	3.3+e	-	楕円文	淡黄色	ケズリ	淡黄色	多	多	多	P235
373	906	IV	9C	75325	-	III a	楕円文土器	鉢 胴部	-	4.5+e	-	楕円文	淡黄褐色	ナデ	淡黄褐色	少	多	多	P198
373	907	IV	10C	75717	-	II	楕円文土器	鉢 胴部	-	4.4+e	-	楕円文	淡黄褐色	ケズリ	淡黄褐色	少		多	P15
373	908	IV	11F	74108	-	III	楕円文土器	鉢 胴部	-	4.0+e	-	楕円文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少		P38
373	909	IV	10C	75719	-	II	楕円文土器	鉢 胴部	-	4.8+e	-	楕円文	淡黄色	ナデ	淡黄色	多	少	多	P17
373	910	IV	10C	75355	-	III a	楕円文土器	鉢 胴部	-	4.5+e	-	楕円文 (剥離)	淡黄色	ナデ	淡黄色	多	多	多	P46
373	911	IV	9C	75200	-	III a	楕円文土器	鉢 胴部	-	4.0+e	-	楕円文	淡黄色	ナデ	淡黄色	少	多	多	P182
373	912	IV	12D	75116	-	III b	楕円文土器	深鉢	-	-	-	楕円文	黄褐色	ナデ	黄褐色	少		多	P24
373	913	IV	10C	75378	-	III a	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	タテ方向の楕円文	淡褐色	ヨコ方向のナデ	淡褐色	多	少	多	P68
373	914	IV	9C	75469	-	III b	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	楕円文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	少	多	P233
373	915	IV	9E	76577	-	III b	楕円文土器	深鉢 胴部	-	-	-	楕円文	明褐色	ナデ	明褐色	少		多	P139
373	916	IV	10C	75840	-	III b	楕円文土器	鉢 胴部	-	3.9+e	-	楕円文	淡黄色	ケズリ	淡黄色	多	少	多	
373	917	IV	10C	75356	-	III a	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	楕円文	淡黄色	ケズリ	淡黄色	少		多	P47
373	918	IV	9D	74909	-	III b	楕円文土器	鉢 胴部	-	4.2+e	-	楕円文	淡黄色	ケズリ	淡黄色	多	多	多	P242
373	919	IV	10C	75320	-	III a	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	タテ方向の楕円文	淡褐色・灰褐色	ヨコ方向のナデ	淡褐色・灰褐色	多	少	多	P42
373	920	IV	9C	75407	-	III a	楕円文土器	鉢 胴部	-	-	-	タテ方向の楕円文	淡褐色	ヨコ方向のナデ	淡褐色	多	少	多	P210
373	921	II	6G	5573	-	III	楕円文土器	深鉢 胴部	-	-	-	押型文	橙色	ナデ	橙色	含	含	多	P1
373	922	IV	9D	74577	-	II	楕円文土器	鉢 胴部	-	7.4	-	楕円文	黄褐色	ナデ	黄褐色	少	多	多	P25
374	923	II	0F	5799	-	III	楕円文土器	胴部	-	-	-	円文	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多	多	
374	924	II	0F	2529	-	III	楕円文土器	胴部	-	-	-	円文	茶褐色	ナデ	茶褐色	少	多	多	P118
374	925	II	2E	4880	-	II	楕円文土器	胴部	-	-	-	円文	淡褐色	ナデ	淡褐色	少	多	少	
374	926	IV	10C	75439	-	III b	楕円文土器	鉢 胴部	-	4.3+e	-	楕円文	淡黄褐色	ナデ	淡黄褐色	少		多	P85
374	927	II	4F	5688	-	III a	楕円文土器	胴部	-	-	-	楕円文	橙色	ヨコ方向のナデ	橙色	僅	僅	少	P45
374	928	II	7E	6345	-	II	楕円文土器	底部	-	-	-	ナデ	橙色	不明瞭	橙色	少		多	P9
374	929	II	0F	2800	-	III	楕円文土器	鉢 底部	-	-	(5.6)	楕円文	明赤褐色	ナデ	明赤褐色	含	含		
374	930	II	7D	6488	-	III	楕円文土器	深鉢 底部	-	-	-	指圧、ナデ	淡褐色	指圧、ナデ	淡褐色	含	多	少	
374	931	IV	9C	75198	-	III a	楕円文土器	鉢 底部	-	-	-	楕円文	にぶい橙色	ナデ	にぶい橙色	多		多	P180
374	932	II	7E	6584	-	III	楕円文土器	底部	-	5.2+e	-	ヨコ方向の山形文	淡黄褐色	ナデ	淡黄褐色	少		少	P5
374	933	II	0F	5415	-	III a	楕円文土器	底部	-	-	-	円文、ナデ	暗褐色・茶褐色	ナデ	暗褐色・茶褐色	少	多	多	P262
375	934	II	5H	5275	-	III	山形文土器	胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	少		少	
375	935	II	5E	5913	-	III	山形文土器	胴部	-	-	-	山形文	淡黄色	山形文	淡黄色	僅	僅	少	
375	936	II	-	-	-	-	山形文土器	胴部	-	-	-	山形文	橙色	山形文	橙色	僅	僅	少	
375	937	IV	9E	75340	-	III b	山形文土器	鉢 胴部	-	4.5+e	-	ヨコ方向の山形文	淡黄褐色	ヨコ方向の山形文	淡黄褐色	少	少	少	
375	938	IV	9F	74472	-	III b	山形文土器	鉢 胴部	-	3.0+e	-	ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	ヨコ方向の山形文	淡黄褐色	多		多	P182
375	939	IV	9F	73499	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	楕円文、ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色			少	P110
375	940	II	7F	6079	-	II	山形文土器	胴部	-	-	-	山形文	淡褐色	山形文、条痕文後ナデ	淡褐色	少	少	少	多
375	941	II	5E	5913	-	III	山形文土器	胴部	-	-	-	ナメ方向の山形文	褐色	山形文、ヨコナデ	褐色	僅	僅	少	編筒式
375	942	II	1I	1780	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	山形文	明褐色	山形文、ナデ	明褐色	少	少	多	少
375	943	II	0D	3032	-	III	山形文土器	鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	暗褐色	ヨコ方向の山形文、ナデ	暗褐色	含	含		
375	944	IV	8E	73715	-	III a	山形文土器	胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	ヨコ方向の山形文、ナデ			多	多	多	
375	945	II	4H	4190	-	II	山形文土器	鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	ヨコ方向の山形文、ナデ	にぶい褐色			少	
375	946	II	1F	6913	-	III	山形文土器	鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	黄茶褐色	ヨコ方向の山形文、ナデ	黄茶褐色	多		少	
375	947	II	0F	2920	-	III	山形文土器	鉢 頸部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ヨコ方向の山形文後ナデ	にぶい黄褐色	含	含		
375	948	II	7H	5581	-	II	山形文土器	口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	ヨコ方向の山形、ナデ	にぶい褐色			少	
375	949	II	0E	3221	-	III	山形文土器	深鉢	-	-	-	ヨコ方向の山形文	暗褐色	ヨコ方向の山形文、ナデ	暗褐色			多	P270
375	950	II	2E	4898	-	II	山形文土器	胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	暗褐色	ヨコ方向の山形文、ナデ	暗褐色	少	少	少	P20
375	951	II	7F	6322	-	II	山形文土器	胴部	-	-	-	波状文	淡褐色	波状文、ヨコ方向のナデ	淡褐色	少	少	多	P15
375	952	II	5G	5451	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	暗赤褐色	ヨコ方向の山形文、ナデ	暗赤褐色	含	含	少	P31
375	953	II	1E	3798	-	III	山形文土器	胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	橙褐色	ヨコ方向の山形文、ナデ	橙褐色	少	少	少	P150
375	954	II	-	4362	-	III	山形文土器	胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	赤褐色	ヨコ方向の山形文、条痕文	赤褐色	少	少	少	P265
375	955	II	3G	3829	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	ヨコ方向の山形文、ナデ	にぶい褐色	含	含	多	P85

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考				
375	956	IV	9E	73081	-	II	山形文土器	鉢 胴部	-	5.3+e	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄色	ヨコ方向の山形文、ナデ	にぶい黄色				少	少	P41		
375	957	II	2E	6430	-	III a	山形文土器	-	-	-	山形文	褐色	山形文、ナデ	褐色							少		
375	958	II	0G	2769	-	III	山形文土器	胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	暗褐色	ヨコ方向の山形文、ナデ	暗褐色	少	多				多		
375	960	IV	9F	73206	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい橙色	ヨコ方向の山形文、ナデ	にぶい橙色	含	含	含			多	P27	
375	961	II	3G	3144	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ヨコ方向の山形文、ヨコナデ	にぶい黄褐色	含					多	P29	
376	962	II	5G	5397	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	茶褐色	ナデ	茶褐色	含					少	P39	
376	963	II	6F	7179	-	III	山形文土器	鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	暗褐色	ヨコ方向の山形文、条痕文	茶褐色	少	少				少	P8	
376	964	IV	8F	73327	-	III	山形文土器	鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	橙色	ヨコ方向の山形文、ナデ	橙色	多	多					多	
376	965	II	5E	5917	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	山形文	茶褐色	楕円文、ヨコナデ	茶褐色	少	少					少	P21
376	966	II	5F	5901	-	II	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	ヨコ方向の山形文、ハケ状ナデ	にぶい褐色	含					少		
376	967	IV	8E	73715	-	III a	山形文土器	胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	淡黄褐色	ナデ	淡黄褐色							多	P28
376	968	II	3E	5546	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	山形文	茶褐色	ナデ	茶褐色	含	含					多	
376	969	II	1E	4041	-	III	山形文土器	胴部	-	-	-	穿孔、ヨコ方向の山形文	赤褐色	ナデ	赤褐色	少						少	
376	970	IV	9E	-	-	III 下部	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	暗茶褐色	ナデ	暗茶褐色	含					多	P158	
376	971	IV	10F	73279	-	III	山形文土器	鉢 胴部	-	3.9+e	-	ヨコ方向の山形文	浅黄褐色	ナデ	褐色	多						多	
376	972	IV	9D	74831	-	III a	山形文土器	鉢 胴部	-	2.3+e	-	ヨコ方向の山形文	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	多						多	P3
376	973	IV	9E	76578	-	III b	山形文土器	鉢 胴部	-	4.3+e	-	ヨコ方向の山形文	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	多						多	P221
376	974	IV	10F	73280	-	III	山形文土器	鉢 胴部	-	2.2+e	-	ヨコ方向の山形文	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	多						多	P140
376	975	IV	8F	73327	-	III	山形文土器	鉢 胴部	-	3.7+e	-	ヨコ方向の山形文	褐色	ナデ	褐色	少	少					多	P4
376	976	II	2E	5413	-	III a	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	褐色	ナデ	褐色								
376	977	IV	10D	75209	-	III b	山形文土器	鉢 胴部	-	5.5+e	-	ヨコ方向の山形文	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	多						多	
376	978	II	3H	2203	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	褐色	ナデ	褐色	含					多		P93
376	979	II	4F	5660	-	III	山形文土器	鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	暗茶褐色	ナデ	黒茶色	少						少	
376	980	II	1I	1218	-	III	山形文土器	深鉢	-	-	-	山形文	明茶褐色	ヨコ方向のナデ	明茶褐色	含	含	含				多	
376	981	II	4G	7743	-	-	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	明褐色	ナデ	明褐色	含	含					多	P46
376	982	IV	8E	72910	-	II	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	淡褐色	ナデ	暗灰褐色	多	多					少	
376	983	IV	9D	74811	-	III a	山形文土器	深鉢 胴部	-	2.1+e	-	ヨコ方向の山形文	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	多	少					多	P39
376	984	IV	8F	73336	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	5.2+e	-	ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	ナデ	褐色	少	多					多	
376	985	IV	10F	-	-	II	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多						少	P29
376	986	IV	9E	74320	-	III a	山形文土器	深鉢 胴部	-	4.1+e	-	ヨコ方向の山形文	黒色	ナデ	浅黄褐色	多						多	
376	987	IV	11E	73380	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	山形文	にぶい褐色	多						多	P67
376	988	IV	8F	-	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	黄褐色	ナデ	黄褐色	多						多	
377	989	IV	11E	-	-	III b	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	褐色	ナデ	褐色			含				少	P28
377	990	III	9D	72694	-	III	山形文土器	胴部	-	3.0+e	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少						少	P96
377	991	II	-	2559	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	穿孔、山形文	褐色	ヨコナデ	褐色	少	少					少	P173
377	992	IV	8E	73863	-	III b	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少					少	P134
377	993	IV	10D	74861	-	III a	山形文土器	深鉢 胴部	-	4.7+e	-	ヨコ方向の山形文	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	多						多	
377	994	IV	10E	74491	-	III b	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	黄褐色	剥離	黄褐色	少						少	P28
377	995	IV	10E	74560	-	III b	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	黄褐色	ナデ	黄褐色	多						多	
377	996	II	2F	6471	-	III a	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	褐色	ケズリ後ナデ	褐色	少	多					多	
377	997	II	-	5608	-	II	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	茶褐色	条痕文	暗褐色	少	少					多	P79
377	998	II	1F	4425	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	橙茶褐色	条痕文?、ナデ	暗褐色	少	多					多	P4
377	999	IV	10D	74863	-	III a	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	多					多	P252
377	1000	II	3E	5259	-	II	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	山形文	明褐色	指圧、ナデ	明褐色	含	含					多	P30
377	1001	IV	9C	75734	-	II	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文、ナデ	明茶褐色	指圧とナデ	明茶褐色	含	含					少	P19
377	1002	II	4F	5626	-	III a	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	山形文	淡黄色	ヨコ方向のナデ	褐色	少	少					少	
377	1003	IV	9F	73316	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	6.8+e	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ	浅黄褐色	多						多	P8
377	1004	II	7H	5581	-	II	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色							少	P93
377	1005	II	0E	2225	-	III a	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	山形文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少						多	
377	1006	II	3E	5438	-	-	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	山形文	黒褐色・褐色	不定方向のナデ	黒褐色・褐色	少	少					少	P32
377	1007	IV	10D	74862	-	III a	山形文土器	深鉢 胴部	-	6.8+e	-	ヨコ方向の山形文	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	多						多	
377	1008	IV	9C	75280	-	III a	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	条痕文	にぶい褐色	多						多	P29
377	1009	IV	8E	74182	-	III b	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	黄褐色	指ナデ後工具ナデ	黄褐色	少	少					少	P189
377	1010	IV	8F	73451	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	2.7+e	-	ヨコ方向の山形文	褐色	不定方向のナデ	褐色	多	多					多	P145
377	1011	IV	10D	74871	-	III a	山形文土器	深鉢 胴部	-	7.2+e	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多					多	
378	1012	IV	9D	74917	-	III b	山形文土器	深鉢 胴部	-	4.4+e	-	山形文	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	多	少					多	
378	1013	IV	9E	74055	-	II	山形文土器	深鉢 胴部	-	6.5+e	-	ヨコ方向の山形文	褐色	ナデ	褐色	多						多	
378	1014	IV	9C	75862	-	III b	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	少					多	P52
378	1015	II	6E	6129	-	II	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	山形文	淡黄色・褐色	ヨコ方向のナデ	淡黄色・褐色	少	少					少	P307
378	1016	II	1G	3132	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	明褐色	ナデ	明褐色	少						少	P6
378	1017	II	7E	6489	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	赤褐色	条痕文後ナデ	赤褐色	多						多	P31
378	1018	IV	9F	73495	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	黄褐色	ナデ	黄褐色	含						多	
378	1019	II	0D	1702	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	褐色	ナデ	褐色	含	含						P106
378	1020	II	2I	1289	-	II	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	山形文	明茶褐色	山形文、ナデ	明茶褐色	少	少					多	P17
378	1021	II	2H	2152	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	不明瞭	にぶい褐色	少						多	P35
378	1022	II	4H	3256	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	赤褐色	ケズリ後ヨコナデ	赤褐色	少	少					少	P35
378	1023	II	0F	2384	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含						

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考
378	1024	II 5H	5387	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ハケ状のヨコナデ	明褐色	少	少	少	P72	
378	1025	II 3G	579	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	不明瞭	にぶい褐色	含		多	P7	
378	1026	II 7E	6587	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	山形文、ヨコ方向のナデ、ナデ	褐色	ナデ	褐色	少		少	P4	
378	1027	IV 9F	73511	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	6.7+ a	-	ヨコ方向の山形文	黒褐色	ナデ	浅黄褐色	多	少	多	P8	外面ス付着
379	1028	IV 11E	73377	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい褐色	ナデ、指圧痕	にぶい褐色	多		多	P122	
379	1029	II 5F	5914	-	II	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	刺突列?	暗赤褐色	ナデ	暗赤褐色	含	含		P11	
379	1030	II 2F	5150	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文、ナデ	橙茶褐色	ナデ	橙茶褐色		多	多		
379	1031	II 5G	5480	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	赤褐色	ナデ	赤褐色	含	含		P30	
379	1032	IV 9C	75404	-	III a	山形文土器	深鉢 胴部	-	10.5+ a	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	少	多		
379	1033	IV 9D	74823	-	III a	山形文土器	深鉢 胴部	-	17.8+ a	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	少	多	P208	
379	1034	IV 9D	74919	-	III b	山形文土器	深鉢 胴部	-	10.0+ a	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	少	多		
379	1035	IV 12D	75112	-	III b	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	黄褐色	ヨコナデ	黄褐色	少		少	P252	
380	1036	III 9C	72998	-	I	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	山形文	明赤褐色	山形文、ナデ	明赤褐色	少		少	P20	
380	1037	IV 9F	73302	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	4.4+ a	-	山形文	褐色	ナデ	褐色	多	多	多	P9	
380	1038	IV 10C	75843	-	III a	山形文土器	深鉢 胴部	-	4.0+ a	-	山形文	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	多		多		
380	1039	IV 11E	73677	-	III b	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	橙褐色	ナデ	橙褐色				P159	
380	1040	IV 8E	73800	-	III b	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少		少	P75	
380	1041	IV 9E	74296	-	III b	山形文土器	深鉢 胴部	-	5.3+ a	-	ヨコ方向の山形文	黒色	ナデ	浅黄褐色	多		多	P74	
380	1042	IV 9D	74803	-	III a	山形文土器	深鉢 胴部	-	5.0+ a	-	ヨコ方向の山形文	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	多	少	多	P43	内面縄が混入
380	1043	IV 9F	73273	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	山形文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	含		含		
380	1044	IV 12D	75129	-	III b	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	黄褐色	ナデ	黄褐色	少		少	P70	
380	1045	II 0F	5974	-	III	山形文土器	頸部	-	-	-	タテ方向の山形文	にぶい褐色	ヨコ方向の山形文、ナデ	にぶい褐色	含	含		P37	
380	1046	II 1E	3547	-	III	山形文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	タテ方向の山形文	褐色	ヨコ方向の山形文、ナデ	褐色	少		少	P273	
380	1047	II 0E	2400	-	III	山形文土器	深鉢	-	-	-	タテ方向の山形文	明褐色	ナデ	明褐色	少		多	P63	
380	1048	IV 9C	74642	-	II	山形文土器	深鉢	-	-	-	タテ方向の山形文	淡明褐色	ヨコ方向の山形文、ナデ	淡明褐色	含	含	少		
380	1049	IV 10B	75177	-	II	山形文土器	壺?	-	-	-	ヨコ方向のナデ、竹管文	黄褐色	ヨコ方向のナデ	橙褐色		多	少		
380	1050	II 5G	5437	-	III	山形文土器	壺 頸部	-	-	-	タテ・ヨコ方向の山形文	黄褐色	ナデ	暗褐色	含		少	P8	
380	1051	IV 12D	75101	-	III b	山形文土器	深鉢	-	-	-	タテ方向の山形文	黄褐色	ナデ	黄褐色	少	少	少		
380	1052	IV 9G	72959	-	II	山形文土器	鉢 胴部	-	3.7+ a	-	山形文	褐色	山形文	褐色	少	少	多	P9	
380	1053	II 5H	5272	-	III	山形文土器	胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ	灰黄褐色	少	少	少		
380	1054	II 5G	5223	-	II	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	明褐色	ナデ、指圧痕	明褐色	含	含	多		
380	1055	II 7F	6320	-	II	山形文土器	口縁部	-	-	-	ヨコ方向の条痕文後ナデ、山形文	暗褐色・橙褐色	山形文、ヨコ方向の条痕文後ナデ、	暗褐色・橙褐色	少	少	多	P7	
380	1056	IV 12E	73563	-	III	山形文土器	深鉢 底部	-	7.9+ a	-	ヨコ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多		多	P13	
380	1057	II 1F	4843	-	III	山形文土器	深鉢 底部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	橙黄褐色	ナデ	橙黄褐色	多	多	多	P44	
381	1058	IV 9D	74953	-	III a	山形文土器	深鉢 胴部	-	3.8+ a	-	山形文	浅黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多		多	P313	内面縄が混入
381	1059	IV 10D	74634	-	III a	山形文土器	深鉢 胴部	-	5.4+ a	-	タテ方向の山形文	明黄褐色	ナデ	明黄褐色	少		多		
381	1060	IV 12E	73573	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	3.5+ a	-	タテ方向の山形文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	多	P1	
381	1061	IV 11E	73372	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	9.2+ a	-	タテ方向の山形文、ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	多	多	P54	
381	1062	II 8E	6541	-	III	山形文土器	深鉢 胴部	-	-	-	タテ方向の山形文	茶褐色	ナデ	茶褐色	多	多	多	P6	
381	1063	II 8E	6552	-	III	山形文土器	深鉢 屈曲部	-	-	-	タテ方向の山形文	茶褐色	指圧のちナデ、ヨコナデ	茶褐色	多	多	多	P9	845・1063 同一個体
381	1064	II 0F	5981	-	III	山形文土器	深鉢 底部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	黄褐色	ナデ	黄褐色	含	含	含	P16	845・1062 同一個体
381	1065	II 2F	4833	-	II	山形文土器	鉢 底部	-	-	-	山形文	暗褐色	ナデ	暗褐色	少		多	P280	
381	1066	II 0E	5947	-	-	山形文土器	鉢 底部	-	-	-	山形文	褐色	ナデ	褐色			少		
381	1067	II 2E	4949	-	III a	山形文土器	深鉢 底部	-	3.0+ a	-	山形文、ナデ	橙褐色	ナデ	橙褐色			少		
381	1068	IV 9E	76576	-	III b	山形文土器	深鉢 底部	-	-	-	山形文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含	多	P14	
381	1069	II 2F	6433	-	III a	山形・楕円文土器	深鉢 底部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	茶褐色	ヨコ方向の山形文、ナデ	茶褐色		少	多	P138	
381	1070	II 4F	5781	-	III a	山形・楕円文土器	深鉢 底部	-	-	-	山形文	黒褐色	楕円文	褐色		僅	僅	少	
381	1071	IV 11F	73643	-	III b	山形・楕円文土器	深鉢 底部	-	4.8+ a	-	楕円文	褐色	ヨコ方向の山形文、ナデ	褐色	少	少	多		
381	1072	II 5G	5231	-	II	山形・楕円文土器	深鉢 底部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	褐色	ヨコ方向の山形文、ナデ	褐色			少	P37	
381	1073	II 1I	1197	-	III	山形・楕円文土器	深鉢 底部	-	-	-	ヨコ方向の山形文、楕円文	明茶褐色	楕円文、ナデ	明茶褐色	含	含	含	P15	
381	1074	IV 11E	73991	-	III b	山形・楕円文土器	深鉢 底部	-	4.3+ a	-	楕円文	にぶい黄褐色	楕円文、山形文	にぶい黄褐色	多		多	P25	
381	1075	II 1F	3966	-	III a	山形・楕円文土器	深鉢 底部	-	-	-	ヨコ方向の山形文、無文、楕円文	茶褐色	ナデ	茶褐色	含	含	少	P109	
381	1076	IV 11E	73379	-	III	山形・楕円文土器	深鉢 底部	-	10.3+ a	-	楕円文	にぶい黄褐色	楕円文、山形文、ナデ	にぶい黄褐色	少		多	P153	
382	1077	II 3E	5546	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ後捺糸文	明褐色	ナデ後捺糸文	明褐色	含	含	少	P13	
382	1078	II 7F	6079	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向のナデ、楕円文、縄文?	淡褐色	ヨコ後ナメ方向の条痕文(二枚貝)後ナデ	淡褐色	少	少	多		

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考	
382	1079	II	4G	4219	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、指圧痕、条痕文	明赤褐色	条痕文、ナデ	明赤褐色				少	
382	1080	IV	10C	75362	-	III a	無文土器	深鉢 口縁部	-	10.9+ a	-	捺糸文、ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	P71	
382	1081	II	5G	5421	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ハケ目文	黒褐色	ナデ	黄褐色	含	含		P52	
382	1082	IV	9E	73010	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	7.6+ e	-	条痕文	褐色	ナデ	褐色	少	少	少	P25	
382	1083	IV	8E	-	-	III b	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	条痕文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	P17	
382	1084	II	7C	6342	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	タテ方向のナデ、穿孔	明茶褐色	ナデ、接合痕	明茶褐色	多	多	多		
382	1085	II	2F	4853	-	II	羽島下層式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	刺突文	黄茶褐色	貝殻条痕文	黄茶褐色	多	多	少	P1	
382	1086	IV	-	-	表採	-	羽島下層式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	条痕文	にぶい褐色	条痕文	にぶい褐色	少	少	少	P31	
382	1087	II	0F	5058	-	III a	手向山式系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	刻み目、タテ・ヨコ方向の押型文、穿孔	暗褐色	山形文、ナデ	暗褐色	多	多	少		
382	1088	II	4H	2921	-	II	羽島下層式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	平行沈線梯子状押型文	褐色	山形文・ヨコナデ	明褐色	少	少	少	P260	
382	1089	II	3F	5248	-	III a	羽島下層式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	刺突文、条痕文	明褐色	ナデ	明褐色	多	多			
383	1090	II	0G	3064	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	少	少	多	P21	
383	1091	IV	9F	73071	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、刻み目	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	含	含	含	多	P125
383	1092	IV	9E	74478	-	III a	無文土器	口縁部	-	1.9+ e	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多			
383	1093	III	9C	72498	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少			
383	1094	IV	-	7652	-	-	無文土器	口縁部	-	-	-	条痕文	にぶい黄褐色	ヨコ方向のナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	P132	
383	1095	IV	8E	73715	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少		
383	1096	III	-	72870	調査区一括	-	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	浅黄褐色	少		少		
383	1097	IV	12D	74759	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	黒褐色	ナデ	黒褐色				少	
383	1098	III	8E	72151	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	灰黄褐色	ナデ	灰黄褐色				多	
383	1099	IV	10D	75254	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色				少	
383	1100	IV	9F	73932	-	III b	無文土器	口縁部	-	2.5+ e	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ、剥離	にぶい黄褐色	多	多	多		
383	1101	II	0G	1888	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	多	多	多	P163	
383	1102	III	8D	72213	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	無文	明赤褐色	無文	明赤褐色				少	P56
383	1103	II	2F	4839	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多	多	P2	
383	1104	II	5G	5437	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	含	少		P27	
383	1105	II	2F	5086	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	少	少	少		
383	1106	II	0G	2769	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ、ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	少	多	多	P20	
383	1107	IV	8F	-	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	指圧痕、ナデ	淡黄褐色	ヨコ方向のナデ	淡黄褐色	多	多	少		
383	1108	IV	10D	75254	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色				少	
383	1109	II	5H	5272	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ヨコ方向のナデ	にぶい黄褐色				少	
383	1110	II	0G	1405	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	刻み目、ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	少	多	多		
383	1111	II	3F	5545	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	明褐色~暗褐色	ナデ	明褐色~暗褐色	少		少		
383	1112	II	4G	4884	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	黒褐色	ナデ	黒褐色	含	含	多		
383	1113	II	4G	4565	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	不明瞭	にぶい黄褐色	不明瞭	にぶい黄褐色				少	P144
383	1114	II	4G	4554	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	含	少		P129	
383	1115	II	2D	4688	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	磨滅	淡褐色	磨滅	淡褐色	少	少	少	P118	
383	1116	II	0E	2303	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少		少		
383	1117	II	1F	4890	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	茶褐色	ナデ	茶褐色	多		少		
383	1118	II	3G	5578	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色				少	
383	1119	II	0D	3265	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	含	含			
383	1120	IV	11D	74990	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	含	含		少	P117	
383	1121	IV	-	-	表採	-	無文土器	口縁部	-	-	-	不明瞭	にぶい黄褐色	不明瞭	にぶい黄褐色	少	少	少		
383	1122	II	5H	5387	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少		少		
383	1123	II	5F	5946	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	含	少		P7	
383	1124	II	1G	2788	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色				少	
383	1125	IV	8E	74274	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコ方向の条痕文	赤茶褐色	指圧、ナデ	赤茶褐色	含	含	多		
383	1126	II	3D	5470	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	条痕文?	茶褐色	条痕?	茶褐色	含	含	少	P204	
383	1127	II	2D	4688	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	茶褐色	ナデ	茶褐色	含	含	少		
383	1128	II	1G	2788	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色				少	
383	1129	II	0F	2543	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	多	多			
383	1130	II	1F	5060	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多	少	P124	
383	1131	IV	8F	-	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコ方向のナデ	暗褐色	ヨコ方向のナデ	暗褐色	多	多	少	P327	
383	1132	IV	11E	73668	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	明黄褐色	ナデ	明黄褐色	含			P64	
383	1133	IV	12D	75124	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	多	少	少	P66	
383	1134	III	8C	72756	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	含	多		P32	
383	1135	II	0F	2768	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	条痕文	暗褐色	ナデ	暗褐色	含	含	含		
383	1136	II	1H	1804	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	少		少		
383	1137	III	8C	72172	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色				多	P46
383	1138	II	7F	6085	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	押型文? (磨滅)	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	少	多	P20	
383	1139	II	0F	5973	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、指圧痕	にぶい褐色	ナデ、指圧痕	にぶい褐色	含	含		P5	
383	1140	II	8G	5801	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含	多	P272	
383	1141	II	-	-	-	-	無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ、不定方向なナデ	褐色	ヨコナデ	褐色	僅	僅		少	
383	1142	II	-	6611	調査区一括	-	無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ、穿孔、ナデ	黒褐色	ヨコナデ、穿孔、ナデ	黒褐色	少	少	少		
383	1143	II	7F	6287	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコ方向のナデ、ナデ	茶褐色	ナデ	茶褐色	多	多	多		
383	1144	IV	9F	73711	-	III b	無文土器	口縁部	-	4.5+ a	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多	多		
383	1145	II	4F	5548	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ、ナデ	茶褐色	ヨコ方向のナデ	茶褐色	少	少	少	P153	
384	1146	II	5H	5436	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	多	少	P6	

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考
384	1147	II	4H	681	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄色	ナデ	にぶい黄色	少	少	少	
384	1148	II	5H	5476	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	P22
384	1149	II	5G	5442	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	橙褐色	ナデ	橙褐色	含	含		
384	1150	IV	9C	75513	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	暗褐色	多	少	多	
384	1151	II	2G	3171	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	少	少	少	
384	1152	II	4H	3275	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	P26
384	1153	II	5D	5918	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	明茶褐色	指圧、ナデ	明茶褐色	含	含	多	P48
384	1154	IV	8E	74223	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	少	少	
384	1155	III	9D	72519	-	III	無文土器	口縁部	-	5.0+α	-	磨滅	にぶい黄褐色	磨滅	にぶい黄褐色	少	少	多	
384	1156	II	4G	4146	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	少	少	P138
384	1157	II	4G	7743	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	含	多	P16	
384	1158	IV	11E	73608	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	灰褐色	ナデ	灰褐色	少	少	少	
384	1159	II	2E	6360	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	少	少	P64
384	1160	II	2F	2474	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	少	多	多	P155
384	1161	II	0F	5969	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含		
384	1162	II	4F	5672	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ	淡黄色	ヨコナデ	淡黄色	少	少	少	P268
384	1163	II	1E	3776	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	少	少	P29
384	1164	II	4G	4221	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	含	少	少	P136
384	1165	II	2F	4829	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	橙黄色	ナデ	橙黄色	少	多	少	P73
384	1166	II	2E	4976	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	多	少	多	P25
384	1167	III	8C	72173	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	含	含	多	P41
384	1168	II	4F	5587	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗茶褐色	ナデ	暗茶褐色	多	少	少	P21
384	1169	IV	12C	74726	-	II	無文土器	口縁部	-	4.1+α	-	ナデ	明黄褐色	ナデ	明黄褐色	多	多	多	
384	1170	II	0E	2594	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	P6
384	1171	II	0E	5947	-	-	無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ、ナデ	明黄褐色	ナデ	明黄褐色	少	少	多	
384	1172	II	7D	6239	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ヨコナデ、ナデ	暗褐色	多	多	多	
384	1173	II	3H	2396	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含	多	P2
384	1174	II	4G	4569	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含	多	
384	1175	II	2H	2202	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	含	含	多	P133
384	1176	II	3G	4247	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	不明瞭	灰褐色	不明瞭	灰褐色	含	少	多	P104
384	1177	II	4G	3916	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	浅黄色	ナデ	浅黄色	少	少	多	
384	1178	II	4F	5781	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ	褐色	ヨコナデ	褐色	少	少	少	
384	1179	II	5F	5914	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	橙褐色	ナデ	橙褐色	含	含	少	
384	1180	II	4I	2592	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗茶褐色	指圧、ナデ	暗茶褐色	含	含	多	
385	1181	II	5G	5437	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	条痕文	赤褐色	ナデ	赤褐色	含	少	多	
385	1182	IV	9F	73503	-	III	無文土器	口縁部	-	3.6+α	-	ナデ	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	少	少	多	
385	1183	IV	9C	75466	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	少	多	P114
385	1184	II	1G	3031	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	少	少	P230
385	1185	II	1I	1823	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、条痕文	明茶褐色	ナデ	明茶褐色	多	多	含	
385	1186	IV	12D	75123	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	多	多	少	
385	1187	IV	11F	73693	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	橙褐色	ナデ	橙褐色	含	含		
385	1188	IV	9F	73272	-	III	無文土器	口縁部	-	5.5+α	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	多	多	多	P88
385	1189	II	8G	5801	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	含	多	多	P69
385	1190	IV	10C	75386	-	III a	無文土器	口縁部	-	5.4+α	-	ナデ	にぶい黄褐色	条痕文、ナデ	にぶい黄褐色	少	多	多	
385	1191	IV	12D	75104	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	無文(剥離)	暗黄褐色	ナデ	暗黄褐色	少	少	少	P76
385	1192	II	5G	5402	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	暗褐色	含	少	少	
385	1193	IV	9F	73184	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	条痕文後ナデ	黒褐色	条痕文後ナデ	黒褐色	含	含	多	P13
385	1194	II	0E	1023	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ、指圧痕	にぶい黄褐色	少	少	少	P17
385	1195	IV	11E	73672	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	黄灰色	ナデ	黄灰色	含	含	少	P29
385	1196	IV	9F	73933	-	III b	無文土器	口縁部	-	3.4+α	-	ナデ	黒色	ナデ	灰黄褐色	多	多	多	P70
385	1197	IV	11E	73535	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	多	多	P164
385	1198	III	9C	72135	-	II	無文土器	口縁部	-	2.7+α	-	ナデ	黒褐色	ナデ	褐色	少	多	多	
385	1199	II	0G	1948	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、穿孔	淡褐色	ナデ、穿孔	淡褐色	少	少	多	P17
385	1200	II	6F	6071	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗茶褐色	ナデ	暗茶褐色	多	多	少	P67
385	1201	II	7F	7487	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコ方向の条痕文後ナデ	暗褐色・茶褐色	ヨコ方向の条痕文、ナメ方向の条痕文後ナデ	暗褐色・茶褐色	少	少	多	
385	1202	II	5G	5383	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	含	少	少	P15
385	1203	IV	11E	73601	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、指圧痕	にぶい黄褐色	ナデ、条痕文	にぶい黄褐色	少	少	少	
385	1204	II	0H	7099	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	不明瞭	褐色	少	少	少	P57
385	1205	II	5F	5862	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗赤褐色	ナデ	暗赤褐色	含		P13	
385	1206	II	5G	5437	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	含	少	少	
385	1207	II	0G	2079	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	少	多	多	
385	1208	II	3E	5546	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	明茶色	指圧後ナデ	明茶色	多	多	多	P78
385	1209	IV	9D	74932	-	III a	無文土器	口縁部	-	4.8+α	-	ナデ	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	多	多	多	
385	1210	IV	9C	75762	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	多	多	多	P265
385	1211	II	3G	5746	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含	多	P286
386	1212	II	2G	3857	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	少	少	
386	1213	IV	11E	73669	-	II b	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	含	含		
386	1214	II	1G	3484	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	P67
386	1215	II	2E	5199	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	少	少	P37
386	1216	IV	9C	75857	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	刺突文、ナデ	にぶい褐色	ナデ	褐色	多	多	多	
386	1217	II	5F	5914	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	含	少	少	P302
386	1218	II	4H	2791	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	明赤褐色	ナデ	明赤褐色	少	少	少	
386	1219	II	4H	853	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	浅黄色	ナデ	浅黄色	少	少	少	
386	1220	IV	-	-	表採	-	無文土器	口縁部	-	-	-	不明瞭	浅黄色	ヨコ方向のナデ	浅黄色	少	少	少	P41

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考
386	1221	II	3E	5177	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	淡褐色	ヨコナデ、ナデ	淡褐色	含	含	少	
386	1222	IV	9D	74911	-	III b	無文土器	口縁部	-	5.3+ a	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多	多	P5
386	1223	II	2F	5071	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	淡黄褐色	ナデ	淡黄褐色	多	多	多	P244
386	1224	IV	9C	75470	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	淡明褐色～暗 灰褐色	タテ方向の条痕文	淡明褐色～暗 灰褐色	含	含	多	P5
386	1225	II	1E	-	-	-	無文土器	口縁部	-	-	-	沈線文、不明瞭	橙褐色	不明瞭	橙褐色	少		少	
386	1226	II	4G	4413	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	橙色・にぶい橙	ナデ、指圧痕	橙色・にぶい橙	少		多	
386	1227	IV	8E	74396	-	III b	無文土器	口縁部	(13.1)	-	-	ヨコナデ、ナデ	淡褐色	指圧後ナデ	淡褐色	多	多	少	P13
386	1228	IV	10C	75147	-	III a	無文土器	口縁部	-	3.9+ a	-	ナデ	橙色	ナデ	橙色	少	多	多	P269
386	1229	II	1E	1450	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヒレ状突起	褐褐色	ナデ	褐褐色	少	少	少	P11
386	1230	II	3H	2916	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ヒレ状突起、ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含		多	P23
387	1231	III	9D	72403	-	III	無文土器	口縁部	-	2.0+ a	-	ヨコナデ	にぶい黄褐色	ヨコナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	
387	1232	III	9D	72152	-	III	無文土器	口縁部	-	2.2+ a	-	ナデ	明赤褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	P74
387	1233	IV	12F	73410	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、縄文	-	ナデ	-			少	
387	1234	IV	12E	73574	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色			少	
387	1235	IV	8E	72892	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色			少	
387	1236	IV	9C	75516	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	橙褐色	ナデ	橙褐色	少		少	
387	1237	IV	8E	73715	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色			少	
387	1238	IV	9F	72973	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	含	含	多	
387	1239	IV	9C	74647	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	明茶褐色	ナデ	明茶褐色	含	含	少	
387	1240	IV	11E	73391	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、条痕文	明褐色	ナデ	明褐色			少	
387	1241	II	7E	7501	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	多		少	
387	1242	IV	9D	74815	-	III a	無文土器	口縁部	-	2.5+ a	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	多	多	P24
387	1243	IV	9F	73493	-	III	無文土器	口縁部	-	2.7+ a	-	ナデ	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	少	少	多	P205
387	1244	IV	8E	73019	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ (剥離)	明褐色	ナデ、指圧痕	明褐色	少	多	多	
387	1245	IV	11F	74081	-	III b	無文土器	口縁部	-	3.0+ a	-	ナデ	褐色	ナデ	浅黄褐色	少	少	多	
387	1246	III	9D	72296	-	III	無文土器	口縁部	-	3.0+ a	-	ヨコナデ、ナデ	にぶい赤褐色	ナデ	にぶい赤褐色	少		少	
387	1247	IV	11E	74084	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	明黄褐色	ナデ	明黄褐色	含		多	P19
387	1248	IV	9F	73071	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色	含	含	多	P116
387	1249	IV	9F	73514	-	III	無文土器	口縁部	-	3.1+ a	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多	多	
387	1250	II	2E	6430	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	橙褐色	ナデ	橙褐色	少		少	P125
387	1251	II	0E	2285	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	不明 (摩耗)	暗褐色	ナデ?	暗褐色	少		少	
387	1252	II	0G	2091	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	多	多	多	P92
387	1253	III	9D	72820	-	III	無文土器	口縁部	-	2.7+ a	-	ナデ	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	少	多	多	P90
387	1254	II	0G	2769	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコ方向の条痕文 (二枚貝) 後ナデ	橙褐色	ナデ	橙褐色	少	少	多	
387	1255	II	11	1177	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、摩滅	茶褐色	ナデ、摩滅	茶褐色	多	多	含	多
387	1256	II	0E	3233	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	明黄褐色	ナデ	明黄褐色	少		少	P5
387	1257	II	1E	3517	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	橙褐色	ナデ	橙褐色			少	P282
387	1258	II	5F	5957	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	橙褐色	ナデ	橙褐色	含		少	
387	1259	II	3I	2033	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色	少	少	含	少
387	1260	II	4G	4526	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい赤褐色	ナデ	にぶい赤褐色	含		多	
387	1261	II	0F	3762	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	少	多	多	P90
387	1262	III	8D	72053	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	明黄褐色	ナデ	明黄褐色	含		多	P251
387	1263	III	8C	72156	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	含		多	P3
387	1264	IV	8E	74231	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、爪形文?	暗褐色	ナデ	暗褐色	少	多	多	P4
387	1265	II	0G	2769	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ、ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	少	多	多	
387	1266	III	8D	72815	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含		多	
387	1267	II	0F	2650	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい橙	指圧痕	にぶい橙	含	含		
387	1268	II	2F	5412	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	摩滅	暗茶褐色	摩滅	暗茶褐色	多	多	多	P152
387	1269	II	7D	6383	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	タテ方向のナデ	明褐色	ヨコナデ、指圧とナ デ	明褐色	含	含	少	
387	1270	III	9C	72469	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ (剥離)	橙褐色	ナデ	にぶい橙	多		多	
1271	III	8E	72229	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	含		多	P103	
387	1272	IV	9G	73150	-	III	無文土器	口縁部	-	5.0+ a	-	ナデ	橙褐色	ナデ	橙褐色	多	多	多	P4
387	1273	II	3E	5546	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	含	含	多	
387	1274	III	-	72870	調査区 一括	-	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向のナ デ	浅黄褐色	ナデ	橙褐色			少	少
387	1275	III	9C	72346	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	灰黄褐色	ナデ	灰黄褐色	多	少	多	
387	1276	III	8C	72157	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	含	含	多	P88
387	1277	IV	9B	75741	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	明茶褐色	ナデ	明茶褐色	含	含	多	P5
387	1278	II	4H	7514	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ハケ状のナデ	にぶい褐色	ハケ状のナデ	にぶい褐色	少	少	少	
387	1279	II	4H	2191	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい橙	ナデ	にぶい橙	少	少	少	P61
387	1280	II	5H	5272	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	
388	1281	IV	9F	73510	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	3.2+ a	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	少	多	
388	1282	II	0F	2312	-	III a	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ (磨滅)	茶褐色	ヨコ方向の条痕文 (二枚貝) 後ナデ	茶褐色	少	多	多	P121
388	1283	II	5G	5240	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコナデ、指圧痕	にぶい橙	ヨコナデ	にぶい橙		含	多	P23
388	1284	II	2F	5279	-	III a	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	橙茶褐色	ナデ	黒色	多	多	多	P21 内面スス付着
388	1285	III	8E	72089	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、指押え	ナデ、指押え	ナデ、指押え	ナデ	含		多	P39
388	1286	II	7D	6336	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナメ方向の条痕文、 ナデ	淡褐色	ナデ、指圧とナデ	淡褐色	含	含	少	
388	1287	II	4E	7741	-	-	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	不定方向のナデ	茶褐色	ヨコナデ	茶褐色	少	僅	多	P11
388	1288	II	1E	4276	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	橙褐色	ナデ	橙褐色			少	
388	1289	II	2G	545	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色	少	少	少	P227
388	1290	IV	9D	75043	-	III b	無文土器	深鉢 口縁部	-	5.2+ a	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	P12

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角 閃	長石	石英	砂粒	備考
388	1291	II	4C	5620	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	淡明褐色	ナデ	淡明褐色	少	少	少	P306
388	1292	II	1H	2035	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多			
388	1293	IV	9F	73720	-	III b	無文土器	深鉢 口縁部	-	2.7+ a	-	ナデ、剥離	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	少	少	少	
388	1294	II	3E	5662	-	III a	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	僅	僅	少	P160
388	1295	IV	9F	73247	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	含	含	多	
388	1296	II	0G	4601	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	茶褐色	ナデ	茶褐色	多	多	多	P49
388	1297	II	8E	6543	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	明褐色	ヨコナデ	明褐色	少	少	少	P85
388	1298	IV	12E	74017	-	III b	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗黄褐色	ナデ	暗黄褐色	多	多	多	P10
388	1299	III	8D	72051	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含	多	
388	1300	II	5F	5914	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗赤褐色	ナデ	赤褐色	含		少	P1
388	1301	II	2E	4847	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	橙褐色	ナデ	橙褐色	多		少	
388	1302	IV	8F	-	-	III a	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多	多	P8
388	1303	II	5G	5580	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	含	含	多	P73
388	1304	IV	8F	-	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多	少	
388	1305	II	0E	1118	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少		少	P50
388	1306	II	7G	5582	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含		多	P32
388	1307	II	0F	5984	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、指圧痕	にぶい褐色	ナデ、指圧痕	含	含			
388	1308	II	1F	3869	-	III a	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	磨滅	暗茶褐色	磨滅	暗茶褐色	多	多	少	P283
389	1309	II	5E	5913	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコナデ	淡黄色	ヨコナデ	淡黄色	少	僅	少	P90
389	1310	IV	8E	74231	-	III b	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	少		多	
389	1311	II	4F	5758	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	茶褐色	ナデ	茶褐色	多	多	多	
389	1312	IV	8F	-	-	III a	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向のナデ、タテ方向のナデ	灰黄褐色	ナデ	淡黄色	少	多	多	P98
389	1313	II	8G	5869	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、指圧痕	にぶい赤褐色	ナデ、指圧痕	にぶい赤褐色	含	含	多	P77
389	1314	II	8F	6685	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	小	多	P6
389	1315	II	3G	3119	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	明赤褐色	ナデ	明赤褐色	含		多	
389	1316	IV	12D	75115	-	III b	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	多	多	多	
389	1317	II	7F	6604	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の条痕後ナデ	茶褐色	ヨコ方向のナデ	茶褐色	小	小	多	
389	1318	II	5F	5894	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	暗赤褐色	含	含		P3
389	1319	II	2D	4751	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	指圧、ナデ	暗褐色	含	含	多	P21
389	1320	II	0D	2919	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	含	含		P23
389	1321	II	5G	5437	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色				P112
389	1322	II	8E	6551	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコナデ、指圧の後ナデ	茶褐色	ヨコナデ、指圧後ナデ	茶褐色	含	含	多	
389	1323	II	-	-	表採	-	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコナデ、ヨコ方向のナデ	淡褐色	ヨコナデ後指圧痕	淡褐色	小	小	僅	P15
389	1324	II	4G	4171	-	III a	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	穿孔、不明瞭	明褐色	穿孔、指圧痕	明褐色	含	含	多	
389	1325	II	1E	6008	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色				P41
390	1326	II	-	6639	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色			小	P310
390	1327	IV	11E	73579	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	指圧痕、ナデ	明赤褐色	ナデ?	明赤褐色	少	少	多	
390	1328	II	2E	5494	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少		小	
390	1329	II	1E	4675	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	30.0	8.5+ a	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色			小	P146
390	1330	II	2E	5494	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	29.4	20.6+ a	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色			小	P287
391	1331	II	1F	4418	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	茶褐色	ナデ	茶褐色	多	多	多	P146
391	1332	II	0F	2335	-	III a	無文土器	口縁部	-	-	-	磨滅	淡褐色	ナデ	淡褐色	多	多	多	P245
391	1333	II	0F	2768	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	含	含		P46
391	1334	II	7F	6079	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコ方向の条痕後ナデ、竹管文?	黒褐色・暗褐色	ナデ	黒褐色・暗褐色	多	多	多	
391	1335	II	0F	2593	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	いぶい黄褐色	ナデ	いぶい黄褐色	含	含		
391	1336	IV	8E	74377	-	III b	無文土器	口縁部	-	-	-	ナナメ方向の条痕文	明茶褐色	指圧、ナデ	明茶褐色	少	少	少	
391	1337	II	0E	978	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ			少	P257
391	1338	II	1E	5931	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	少	少	小	P3
391	1339	II	4F	5785	-	II	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	黒褐色~黒茶色	ナデ	黒褐色	多	多	多	P305
391	1340	II	3G	3824	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナナメ方向の条痕文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	含		少	P1
391	1341	IV	9C	75470	-	III b	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、楕円文	淡明褐色~暗灰褐色	楕円文、ナデ	淡明褐色~暗灰褐色	含	含	多	P80
391	1342	II	0E	2269	-	III a	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	黄褐色~暗褐色	ナデ	黄褐色~暗褐色	小	多	多	
391	1343	IV	10C	75145	-	III	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	少	多	P76
391	1344	II	3I	1606	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	指圧後ナデ	褐色	多	多	多	P9
391	1345	II	5H	5901	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少		少	P19
391	1346	IV	9C	75281	-	III a	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	楕円文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	多		多	
391	1347	IV	8E	73735	-	III b	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少		多	P190
391	1348	IV	10C	75140	-	III a	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	少	多	P9
391	1349	IV	9C	75725	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	明茶褐色	ナデ	明茶褐色	含	含	少	P4
391	1350	II	1G	3850	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	少	少	
391	1351	II	3E	5546	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	ヨコナデ、ナデ	淡白褐色	ヨコナデ、ナデ	淡白褐色	含	含	少	P57
391	1352	IV	9F	73623	-	III	無文土器	鉢 口縁部	-	3.0+ a	-	条痕文	黒褐色	ナデ	黒褐色	少	少	多	
391	1353	IV	10D	74696	-	II	無文土器	-	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	少		少	
391	1354	II	3E	5471	-	III	無文土器	口縁部	-	-	-	指圧後ナデ	茶褐色	指圧後ナデ	茶褐色	含	含	少	
391	1355	II	1E	4356	-	III	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ヨコ方向の条痕文	褐色	少		少	
391	1356	IV	11D	74990	-	III b	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	橙褐色	ナデ	橙褐色				P259
391	1357	II	5F	5946	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗赤褐色	含		少	
391	1358	IV	8E	74040	-	III b	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	少		少	
391	1359	II	2F	5200	-	III	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	不明瞭	暗褐色	不明瞭	暗褐色	少	少	少	
391	1360	III	9C	72193	-	III	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多		多	

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考
391	1361	II	0F	3010	-	III	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗赤褐色	ナデ	暗赤褐色	含	含	多	P17
391	1362	IV	11F	73628	-	III b	無文土器	鉢 口縁部	-	4.3+ e	-	ナデ	浅黄褐色	ナデ	灰褐色	多	多	多	P23
391	1363	IV	8E	74237	-	III b	無文土器	鉢 口縁部	-	2.6+ e	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	多	少	
391	1364	IV	9C	74709	-	II	無文土器	深鉢	-	-	-	指圧、ナデ	暗灰褐色	ナデ	暗灰褐色	多	多	多	
391	1365	II	3G	4253	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい赤褐色	ナデ	にぶい赤褐色	含	多	多	
391	1366	III	9D	72433	-	III下部	無文土器	深鉢 口縁部	-	4.7+ e	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ、条痕文	にぶい黄褐色	多	多	多	P110
391	1367	IV	8F	-	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向のナデ	暗褐色	ヨコ方向のナデ	暗褐色	少	多	少	P104
391	1368	II	3G	5578	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含	少	P3
391	1369	II	0H	-	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	含	含	少	
391	1370	IV	9E	73053	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	4.1+ e	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	少	多	P14
391	1371	II	2F	5200	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	少	多	多	P31
392	1372	II	0E	5947	-	-	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	灰黄褐色	ヨコナデ	灰黄褐色	少	多	少	
392	1373	IV	9F	73504	-	-	無文土器	深鉢 口縁部	-	4.0+ e	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	黒色	多	多	多	
392	1374	IV	9E	74331	-	III b	無文土器	深鉢 口縁部	-	3.9+ e	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多	多	P115
392	1375	IV	11E	74422	-	III b	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	含	多	多	P78
392	1376	IV	9F	73945	-	III b	無文土器	深鉢 口縁部	-	4.0+ e	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	多	多	P165
392	1377	IV	9E	73103	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	4.6+ e	-	ナデ	明赤褐色	ナデ	明赤褐色	多	多	多	P176
392	1378	II	2H	2200	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	不明瞭	にぶい褐色	不明瞭	にぶい褐色	含	含	多	
392	1379	IV	9D	75047	-	III b	無文土器	深鉢 口縁部	-	3.5+ e	-	ナデ	灰黄色	ナデ	灰黄色	多	多	多	
392	1380	IV	9E	74329	-	III a	無文土器	深鉢 口縁部	-	3.6+ e	-	条痕文	にぶい黄褐色	条痕文	にぶい黄褐色	多	多	多	P310
392	1381	II	2G	3157	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	多	少	P76
392	1382	IV	12C	74721	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	5.2+ e	-	ナデ	浅黄色	ナデ	褐色	少	多	多	P17
392	1383	II	0F	2398	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含	少	P1
392	1384	II	2G	3428	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	明赤褐色	ナデ	明赤褐色	少	少	少	
392	1385	IV	10D	74875	-	III a	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	淡黄褐色	ナデ	淡黄褐色	多	多	少	
392	1386	II	0E	2271	-	III a	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ 指圧痕	にぶい褐色	ナデ 指圧痕	にぶい褐色	少	多	少	
392	1387	II	5H	5272	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多	少	P78
392	1388	II	5H	5501	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	
392	1389	II	2E	4906	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	少	少	少	
392	1390	IV	8F	-	-	III b	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	指圧痕、ヨコ方向のナデ	暗褐色	指圧痕、ヨコ方向のナデ	暗褐色	多	多	多	P28
392	1391	II	7E	6626	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ナナメ方向の条痕文	暗褐色	ナデ、ナナメ方向の条痕文	暗褐色	多	多	少	P94
392	1392	II	3E	6414	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	指圧後ナデ	茶褐色	ヨコナデ、ナデ	茶褐色	多	多	多	P22
392	1393	IV	9F	73238	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色	含	含	多	P69
392	1394	II	3F	5585	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	不明(磨滅)	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多	少	P44
392	1395	IV	8E	73715	-	III a	無文土器	深鉢 口縁部	-	14.6	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	多	多	
393	1396	III	9C	72095	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	6.8+ e	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	少	多	
393	1397	II	4E	5817	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	黒褐色	ナデ	黒褐色	多	多	多	P6
393	1398	IV	10C	74985	-	III b	無文土器	深鉢 口縁部	-	4.4+ e	-	ナデ	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	多	少	少	P4
393	1399	IV	9C	95853	-	III b	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	少	多	
393	1400	IV	10D	75229	-	III b	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	条痕文(剥離)	淡黄褐色	条痕文	淡黄褐色	多	多	少	
393	1401	IV	9F	73261	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	10.0+ e	-	ナデ、穿孔	浅黄褐色	ナデ、穿孔	黒褐色	多	多	多	
393	1402	IV	8E	73777	-	III b	無文土器	深鉢 口縁部	-	8.5+ e	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	多	P58
393	1403	II	0E	2428	-	III a	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	多	少	
393	1404	III	9C	72180	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	不明瞭	明赤褐色	ナデ	明赤褐色	少	多	多	P138
393	1405	II	5E	5913	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	多	多	P4
393	1406	II	2F	6433	-	III a	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多	多	
393	1407	IV	8F	-	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	(26.4)	7.9	-	ヨコ方向のナデ	暗褐色	ヨコ方向のナデ	暗褐色	少	多	多	
393	1408	II	3F	6384	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	多	少	P58
393	1409	II	2D	4746	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	条痕文?	茶褐色	ナデ	茶褐色	少	少	少	
393	1410	II	3E	6414	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	指圧後ナデ	茶褐色	ヨコナデ、ナデ	茶褐色	含	含	多	P18
393	1411	II	2F	5127	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	茶褐色	ナデ	茶褐色	多	多	多	P69
393	1412	II	2H	3848	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	不明瞭	褐色	不明瞭	褐色	含	多	多	P21
393	1413	IV	9E	74307	-	III b	無文土器	深鉢 口縁部	-	4.0+ e	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	少	多	P48
394	1414	II	4E	5815	-	-	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコナデ、ナデ	褐色	ヨコナデ、ナデ	褐色	僅	僅	少	P54
394	1415	II	3G	4245	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい赤褐色	ナデ	にぶい赤褐色	含	含	多	
394	1416	II	2E	5413	-	III a	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	少	多	少	P102
394	1417	II	-	2426	-	III a	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色	少	多	少	
394	1418	II	4G	4149	-	III a	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、指圧痕	黄褐色	ナデ、指圧痕	黄褐色	含	多	多	P136
394	1419	IV	11D	76216	-	III b	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	含	多	多	P19
394	1420	II	0E	1580	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、条痕文?	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	多	少	P16
394	1421	II	2E	4974	-	III a	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	少	多	少	P3
394	1422	II	3F	5525	-	III a	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色	少	多	少	P39
394	1423	II	0E	2372	-	III a	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	多	少	P3
394	1424	II	3I	1619	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	明赤褐色	ナデ	明赤褐色	多	多	多	P107
394	1425	II	5G	5437	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	含	含	多	P32
394	1426	II	3G	3135	-	III	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	褐色・黄褐色	ナデ	褐色・黄褐色	含	含	多	
394	1427	IV	8E	72927	-	II	無文土器(早期)	鉢 口縁部	-	7.5+ e	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	褐色	少	少	少	P30
394	1428	II	2H	2015	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	指押えナデ	明褐色	指押えナデ	明褐色	含	多	多	P49
394	1429	II	3E	5567	-	III a	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ヨコナデ	褐色	少	少	多	P15
394	1430	II	1E	3442	-	III	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向のナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	多	多	少	P46
394	1431	II	3G	4245	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	指押えナデ	にぶい褐色	指押えナデ	にぶい褐色	含	多	多	P13
394	1432	II	4F	5636	-	III a	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、強いナデ、ナデ	褐色	ヨコ方向のナデ	褐色	多	多	少	P102

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考	
394	1433	II	4H	2921	-	II・III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色				少	P18
394	1434	II	4G	4549	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	貼付突起、指ナデ	明褐色	指押えナデ	明褐色	含			多	
395	1435	IV	8E	72905	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	32.4	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色				少	P113
395	1436	IV	9F	73721	-	III a	無文土器	鉢 口縁部	-	5.0+e	-	ナデ	茶褐色	ナデ	灰褐色	多	多		多	
395	1437	II	4H	3077	-	III	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色				多	P161
395	1438	III	8E	72081	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	含	含		多	P32	
395	1439	IV	-	-	表採	-	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	条痕文?	茶褐色	条痕文?	茶褐色	少	少		少	P3
395	1440	II	6E	6072	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコナデ	褐色	横ナデ	褐色	少	少		少	
395	1441	II	4F	5612	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	淡黄褐色	指圧痕、ナデ	暗褐色	多	多		少	
395	1442	II	2D	4608	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	茶褐色	指圧後ナデ	茶褐色	多	多		多	P8
395	1443	II	2F	2474	-	II	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	無文	黒茶褐色	無文	黒茶褐色	多	多		多	P3
395	1444	II	4H	857	-	II	無文土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少			少	
395	1445	IV	8E	72881	-	II	無文土器	口縁部	(26.7)	-	-	ナデ	黒褐色	ナデ	黒褐色	多	多		多	P45
395	1446	II	8F	6685	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	少	少		多	P10
395	1447	II	0F	6012	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含			
395	1448	II	1F	4416	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	茶褐色	ナデ	茶褐色	少	多		少	
395	1449	II	4F	5755	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	淡黄褐色	ナデ	暗茶褐色	多	多		多	P243
395	1450	II	1F	4402	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	茶褐色	条痕文後ナデ	茶褐色	少	少		多	P95
395	1451	II	4H	3067	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色	多			少	P229
395	1452	II	6H	5243	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい橙色	ナデ	にぶい橙色	多	多		少	P22
395	1453	-	-	-	-	-	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少			少	P1
395	1454	II	1G	64	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい橙色	ナデ	にぶい橙色				少	
395	1455	II	4H	2921	-	II・III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少			少	P2
395	1456	II	1G	2788	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	褐色	少	少		少	
395	1457	II	1F	4709	-	III	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	橙褐色	ナデ	橙褐色	多	多		少	
395	1458	II	3G	663	-	II	無文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色	少			少	P309
396	1459	IV	11F	75334	-	III b	無文土器	胴部	-	3.5+e	-	条痕文	明赤褐色	条痕文	褐色	少	少		多	P51
396	1460	IV	-	-	表採	-	無文土器	胴部	-	-	-	不明瞭	暗黄色	不明瞭	暗黄色	少	少		少	P45
396	1461	IV	9F	73182	-	III	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	褐灰色	ナデ	褐灰色	含	含		多	
396	1462	III	8D	72816	-	III	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含		多	P15
396	1463	IV	-	76552	調査区 残土	-	無文土器	胴部	-	-	-	条痕文	にぶい橙色	ヨコ方向のナデ	にぶい橙色	少	少		少	
396	1464	III	8C	72707	-	II	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含			多	
396	1465	IV	-	-	表採	-	無文土器	胴部	-	-	-	条痕文	にぶい橙色	条痕文	にぶい橙色	少	少		少	P6
396	1466	IV	8E	74206	-	III b	無文土器	胴部	-	-	-	貝殻条痕文	浅黄色	貝殻条痕文	浅黄色	少	少		少	
396	1467	III	9D	72255	-	III	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	にぶい橙色	ナデ(剥離)	褐色	多			多	P160
396	1468	III	8D	72148	-	III	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	黒褐色	ナデ	黒褐色	含	含		多	
396	1469	IV	11D	75258	-	III b	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	明黄褐色	ナデ	明黄褐色	含	含			
396	1470	IV	10C	75376	-	III a	無文土器	胴部	-	1.5+e	-	穿孔、ナデ	浅黄色	ナデ	浅黄色	少	多		少	
396	1471	II	2E	6365	-	II a	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	少		少	P66
396	1472	III	9C	72327	-	III	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色~黒褐色	多			多	
396	1473	IV	11F	74114	-	III b	無文土器	胴部	-	3.9+e	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	黒色	多	多		多	
396	1474	II	8G	5801	-	III	無文土器	胴部	-	-	-	押型文(磨減)	褐色	磨減	褐色	含	含		多	P44
396	1475	IV	-	-	表採	-	無文土器	胴部	-	-	-	条痕文	暗灰色	条痕文	暗灰色	少	少		少	
396	1476	IV	8E	73776	-	III b	無文土器	胴部	-	3.0+e	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	褐色	多			多	
396	1477	IV	10C	75458	-	III b	無文土器	胴部	-	3.3+e	-	磨減	褐色	ナデ	褐色	少			多	P50
396	1478	IV	10B	75501	-	III	無文土器	胴部	-	-	-	ヨコ方向の山形文	橙褐色	ナデ、タテ方向の山形文	橙褐色	少	多		多	P104
396	1479	IV	8E	73888	-	III b	無文土器	胴部	-	-	-	タテ方向のナデ	浅黄色	ナデ	浅黄色	少	少		少	P14
396	1480	III	9C	72345	-	III	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	褐色~灰褐色	ナデ	褐色	多			多	P111
396	1481	IV	11E	74387	-	III b	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	明黄褐色	ナデ	明黄褐色	含	含		多	P87
396	1482	II	0G	1405	-	III	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	橙褐色・黒褐色	ナデ	橙褐色・黒褐色	多	多		多	
396	1483	IV	10D	74892	-	III a	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	橙黄色	ナデ	橙黄色	多			少	
396	1484	II	3H	2212	-	III	無文土器	胴部	-	-	-	不明瞭	褐色	不明瞭	にぶい黄褐色	含			多	P59
396	1485	IV	11F	74113	-	III b	無文土器	胴部	-	4.0+e	-	ナデ後沈線文	茶褐色	ナデ	褐色	少	多		多	
396	1486	III	9E	72108	-	II	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少		少	P43
396	1487	IV	10D	74779	-	III a	無文土器	胴部	-	-	-	ヨコ方向のナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多		多	P1
396	1488	IV	9B	75829	-	III b	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	含	多		多	P21
396	1489	IV	12E	74294	-	III b	無文土器	胴部	-	-	-	条痕文、ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	少			多	
396	1490	III	9C	72733	-	III	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	少		多	
396	1491	IV	9F	73718	-	III b	無文土器	胴部	-	5.3+e	-	ナデ	褐色	ナデ	黒褐色	多	多		多	P160
396	1492	IV	10C	75604	-	III b	無文土器	胴部	-	4.3+e	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多		多	P158
396	1493	IV	8E	74347	-	III b	無文土器	胴部	-	-	-	接合痕	明茶褐色	指圧、ナデ	明茶褐色	含	含		多	P135
397	1494	II	3H	20071	-	II	無文土器	胴部	-	-	-	不明瞭	にぶい黄褐色	指圧痕	にぶい黄褐色	含	含		多	P226
397	1495	IV	8E	72903	-	II	無文土器	胴部	-	5.9+e	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	少		多	
397	1496	II	0D	2989	-	III	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	含			多	P32
397	1497	IV	12E	74117	-	III b	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	多			少	P97
397	1498	II	4I	2592	-	III	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	茶褐色	ナデ	茶褐色	含	含		多	
397	1499	IV	10D	-	-	III b	無文土器	胴部	-	-	-	ヨコ方向のナデ	暗褐色	ヨコ方向のナデ	暗褐色	少	多		少	
397	1500	II	0E	2367	-	III a	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ、巻糸文	暗褐色	ナデ	暗褐色				少	P104
397	1501	IV	8E	73871	-	III b	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色				少	P102
397	1502	IV	11E	76213	-	III b	無文土器	胴部	-	-	-	条痕文	橙褐色	ナデ	橙褐色	含	含		多	
397	1503	II	8G	5875	-	III	無文土器	胴部	-	-	-	条痕文、ナデ	にぶい橙色	ナデ	にぶい橙色	含	含		多	P169
397	1504	IV	8E	73736	-	III b	無文土器	胴部	-	-										

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考
397	1507	II	5G	5580	-	III	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	暗褐色	含	含	-	-
397	1508	IV	9E	74554	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	6.8+ e	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多	多	-
397	1509	IV	8E	72904	-	II	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	板ナデ?	赤茶褐色	指圧、ナデ	赤茶褐色	少	少	少	P130
397	1510	IV	9E	75793	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向のナデ	淡茶褐色	ヨコ方向のナデ	淡茶褐色	含	含	多	P33
397	1511	IV	10C	75370	-	III a	無文土器	深鉢 胴部	-	4.7+ e	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多	少	-
398	1512	IV	8E	73867	-	III b	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	浅黄色	貝殻条痕文	浅黄色	少	少	少	P60
398	1513	IV	10C	75456	-	III b	無文土器	胴部	-	5.0+ e	-	条痕文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	少	多	P90
398	1514	IV	8F	-	-	III b	無文土器	胴部	-	-	-	指圧痕、ヨコ方向のナデ	暗褐色	指圧痕、ヨコ方向のナデ	暗褐色	多	少	少	P102
398	1515	IV	9C	75471	-	III b	無文土器	胴部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	褐色	多	多	多	P118
398	1516	II	4G	4884	-	III	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色	含	含	多	P235
398	1517	II	11	1821	-	III	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	茶褐色	ナデ	茶褐色	含	含	多	P144
398	1518	II	4F	3071	-	III	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	褐色	ケズリ後ナデ	褐色	多	少	多	P99
398	1519	II	6F	6256	-	III	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	暗褐色	多	多	少	P26
398	1520	III	9C	72481	-	III	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	明赤褐色	多	少	少	P1
398	1521	IV	9C	75438	-	III a	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	無文隆帯貼付	明茶褐色	ナデ	明茶褐色	含	含	多	P115
398	1522	IV	8E	73747	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	2.6+ e	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多	多	-
398	1523	IV	8E	73763	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	5.8+ e	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	褐色	少	少	多	P21
398	1524	IV	8E	72932	-	II	無文土器	深鉢 胴部	-	3.9	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	多	P37
398	1525	IV	8E	73715	-	III a	無文土器	深鉢 胴部	-	4.8+ e	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	褐色	少	少	多	P54
398	1526	IV	8E	73882	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向のナデ	暗黄色	ナデ	暗黄色	少	少	多	-
398	1527	IV	8E	74395	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	浅黄色	条痕文	浅黄色	少	少	少	P105
398	1528	II	3E	5546	-	III	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	暗茶褐色	ナデ	暗茶褐色	多	多	多	P268
398	1529	IV	10C	75154	-	III a	無文土器	深鉢 胴部	-	7.3+ e	-	ナデ	浅黄色	ナデ	浅黄色	多	少	少	-
398	1530	IV	8E	73764	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	多	P18
398	1531	IV	8E	72880	-	II	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	縄文?	暗茶褐色	ナデ	明茶褐色	多	少	多	-
398	1532	II	2E	5094	-	III a	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	不明瞭	暗褐色	不明瞭	暗褐色	少	少	少	-
398	1533	IV	9E	74484	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	5.3+ e	-	ナデ	浅黄色	ナデ	浅黄色	多	多	多	P79
399	1534	IV	8F	-	-	III a	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	格子木目文、貝殻文	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多	多	P90
399	1535	IV	8E	73773	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	7.9+ e	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	褐色	多	多	多	P75
399	1536	IV	8E	75058	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向のナデ	浅黄色	ヨコ方向のナデ	浅黄色	少	少	少	P47
399	1537	IV	9E	74315	-	III a	無文土器	深鉢 胴部	-	6.5+ e	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多	多	P279
399	1538	IV	9E	75757	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	不明瞭	明褐色	ナデ	明褐色	含	含	多	P62
399	1539	II	2E	4956	-	III a	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	褐色	不明瞭	褐色	多	少	小	-
399	1540	IV	9E	73045	-	II	無文土器	深鉢 胴部	-	7.0+ e	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色	多	多	多	P21
399	1541	IV	9E	74164	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	3.8+ e	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	小	多	P23
399	1542	IV	9D	74847	-	III a	無文土器	深鉢 胴部	-	8.8+ e	-	ナデ	浅黄色	ナデ	浅黄色	多	多	多	p42
399	1543	IV	9C	75827	-	III a	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	無紋(磨減)	明茶褐色	ナデ、無文(磨減)	明茶褐色	含	含	多	P237
399	1544	II	0E	3020	-	III	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	-
399	1545	IV	12E	74018	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	暗茶褐色	少	少	少	P241
399	1546	IV	9C	75858	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	多	多	多	-
399	1547	IV	12E	74008	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	条痕文(剥離)	淡黄褐色	条痕文	淡黄褐色	多	少	少	-
399	1548	IV	8E	73768	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	6.4+ e	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい褐色	少	少	多	-
400	1549	IV	12E	74012	-	III b	無文土器	鉢 胴部	-	-	-	条痕文、ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	少	少	少	P42
400	1550	IV	11E	73591	-	III	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	含	含	多	-
400	1551	IV	10C	75520	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	4.5+ e	-	磨減	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多	多	P47
400	1552	IV	10C	75376	-	III a	無文土器	鉢 胴部	-	3.0+ e	-	ナデ	浅黄色	ナデ	浅黄色	少	少	少	P110
400	1553	IV	10D	74772	-	III a	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多	多	P66
400	1554	IV	9C	75856	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	多	多	-
400	1555	IV	11F	73629	-	III b	無文土器	深鉢 底部	-	5.8+ e	-	ナデ	茶褐色	ナデ	浅黄褐色	多	多	多	P301
400	1556	II	2F	5293	-	III a	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	少	多	多	P27
400	1557	II	1E	3581	-	III	草創期無文土器	深鉢 平底	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多	多	P53
400	1558	IV	9E	73234	-	III	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の条痕文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	含	含	多	P97
400	1559	IV	9C	75189	-	III a	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	指圧とナデ	淡褐色~灰褐色	ナデ	淡褐色~灰褐色	含	含	少	P40
400	1560	IV	8E	72917	-	II	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	タテ・ヨコ方向のナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	少	少	-
400	1561	IV	10C	75141	-	III a	無文土器	深鉢 胴部	-	9.6+ e	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	多	P46
400	1562	II	2F	6221	-	III a	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	少	少	多	P5
401	1563	IV	10F	73092	-	II	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	少	少	多	P71
401	1564	IV	8E	72895	-	II	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	板ナデ、穿孔	赤茶褐色	指圧、ナデ	赤茶褐色	少	少	少	-
401	1565	IV	9E	73048	-	II	無文土器	深鉢 胴部	-	10.0+ a	-	ナデ	にぶい黄褐色	ケズリ	にぶい黄褐色	少	少	多	P24
401	1566	II	0G	1846	-	III	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	褐色	ヨコ方向のナデ	褐色	少	少	多	P26
401	1567	II	2E	5327	-	III a	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	褐色	不明瞭	褐色	多	少	少	P14
401	1568	II	6H	5430	-	III	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ 指圧痕	褐色	多	少	少	P118
401	1569	IV	10D	75219	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向のナデ	褐色	ヨコ方向のナデ	褐色	少	多	多	P1
401	1570	IV	8E	72911	-	II	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	指圧、ナデ	淡褐色~灰褐色	指圧、ナデ	淡褐色~灰褐色	多	多	多	P103
402	1571	IV	10C	-	-	II	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	多	多	多	P40
402	1572	IV	8E	74201	-	III b	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	タテ方向のナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	P11
402	1573	IV	11F	73632	-	III b	無文土器	鉢 胴部	-	5.3+ e	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多	多	P155
402	1574	II	2F	5072	-	III a	無文土器	底部	-	-	-	ナデ	淡茶褐色	ナデ	淡茶褐色	多	少	多	P30
402	1575	IV	11E12E	73369	-	III	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	含	含	多	P6
402	1576	IV	11E	74414	-	III b	無文土器	鉢 平底	-	-	-	ナデ	明黄褐色	ナデ	明黄褐色	含	含	多	-
402	1577	II	7D	7126	-	III	無文土器	深鉢 胴部	-	-	-	指圧後ナデ、条痕文	明茶褐色	指圧後ナデ、条痕文	明茶褐色	多	多	多	P157
402	1578	III	9C	72092	-	II	無文土器	鉢 底部	-	3.9+ e	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	P8
402	1579	IV	-	-	表採	無文土器	平底	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	少	少	P3	
402	1580	II	0E	1658	-	III	草創期無文土器	深鉢 平底	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	-

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考
402	1581	II 11	276	-	II	無文土器	深鉢 平底	-	-	6.4	ナデ	茶色	ナデ	茶色	含	含	含	多	P16
402	1582	II 4G	4188	-	III	無文土器(早期)	深鉢 尖底部	-	-	-	ナデ、無文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少		多	
402	1583	II 7F	6083	-	II	無文土器	深鉢 丸底	-	-	7.8-8.4	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	少	多	少	多	P58
403	1584	III 8C	72713	-	III	無文土器(早期)	深鉢 尖底部	-	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色	含	含		多	P3
403	1585	II 1E	4074	-	III	無文土器(早期)	深鉢 尖底部	-	-	-	ナデ	橙褐色	ナデ	橙褐色	多			少	P25
403	1586	IV 8E	74270	-	III b	無文土器(早期)	-	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少		少	P91
403	1587	II 0F	2321	-	III a	無文土器(早期)	深鉢 尖底部	-	-	-	ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色	少	多	少	多	P200
403	1588	II 0E	2622	-	III	無文土器(早期)	深鉢 尖底部	-	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色				少	P32
403	1589	II 3G	-	-	III	無文土器(早期)	深鉢 尖底部	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色				多	P208
403	1590	IV 9C	75423	-	III a	無文土器(早期)	鉢 底部	-	-	-	ナデ	にぶい橙色	ナデ	にぶい橙色	多	少		多	P71
403	1591	II -	6638	-	III	無文土器(早期)	深鉢 尖底部	-	-	-	山形文(摩耗)、ナ デ	橙色	ヨコナデ	橙色	僅	僅		少	P226
403	1592	II 4F	5673	-	III a	無文土器(早期)	深鉢 尖底部	-	-	-	ヨコナデ	淡黄色	ナデ	淡黄色	僅	僅		少	
403	1593	IV -	-	表採	-	無文土器(早期)	深鉢 尖底部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少		少	P30
403	1594	IV 8E	75059	-	III b	無文土器(早期)	深鉢 尖底部	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色		少		少	
403	1595	IV 8E	73788	-	III b	無文土器(早期)	深鉢 尖底部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少		多	P280
403	1596	II 0E	5947	-	-	無文土器(早期)	深鉢 尖底部	-	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色	多			少	
403	1597	III 8E	72227	-	III	無文土器(早期)	広角尖底部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含		多	
403	1598	IV 9F	73228	-	III	無文土器(早期)	広角尖底部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含		多	P2
403	1599	II 3G	5666	-	II	無文土器(早期)	広角尖底部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含	含	多	P34
403	1600	IV 8F	-	-	-	無文土器(早期)	丸底	-	-	-	条痕文、ナデ	黄褐色	条痕文、ナデ	暗褐色	多			多	P1
404	1601	IV 8F	-	-	II	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	条痕文	淡橙褐色	ナデ	淡橙褐色	少			多	P26
404	1602	II 6C	6074	-	II	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	条痕文	明橙褐色	条痕文	明橙褐色	少	少		少	
404	1603	II -	-	表採	-	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	ヨコナデ、ナナム方 向の条痕文	淡黄色	ヨコナデ	淡黄色	僅	僅		少	
404	1604	IV 11E	73396	-	III	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	ナデ、条痕文	明褐色	ナデ	明褐色	少			少	
404	1605	II 3H	2212	-	III	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	条痕文	にぶい橙色	ナデ	にぶい橙色	含			多	P30
404	1606	II 1H	2035	-	III	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ向の条痕 文	暗褐色	ナデ、ナナム方向 の条痕文	暗褐色	少			少	
404	1607	II 1H	2035	-	III	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	ナデ、ナナム方向 の条痕文	灰褐色	ナデ	灰褐色	少	少		少	
404	1608	III 9C	72323	-	III	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	ナデ(剥離)	明褐色	条痕文	明褐色	多			多	
404	1609	IV 8E	74186	-	III b	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	条痕文(貝殻)?	黄褐色	ナデ	黄褐色	少			多	P65
404	1610	II 6F	6283	-	III	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	ナデ	茶褐色	条痕文、ナデ	茶褐色	少	少		多	
404	1611	II 4F	6070	-	III 下部	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	貝殻条痕文	暗褐色	指圧痕、ナデ	暗褐色	多			多	P22
404	1612	II 4F	5660	-	III	撫糸文土器	口縁部	-	-	-	撫糸文、ナデ	橙褐色	撫糸文、ナデ	暗褐色	少			多	P4
404	1613	II 1F	4403	-	III	撫糸文土器	口縁部	-	-	-	ナデ、条痕文後ナデ	橙黄褐色	不明瞭	橙黄褐色	含	多		少	
404	1614	II 5G	5442	-	III	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	条痕文	暗褐色	条痕文	暗赤褐色	含	含		多	P230
404	1615	II 6F	6276	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	条痕文、ナデ	茶褐色	ヨコ方向のナデ	茶褐色	多	多	多	多	
404	1616	IV 8E	74346	-	III b	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	ナナム方向の条痕文	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多		多	P21
404	1617	IV 9D	74930	-	III b	無文土器(早期)	口縁部	-	4.0+a	-	条痕文、ナデ	にぶい橙色	条痕文、ナデ	にぶい橙色	多			多	P225
404	1618	II 5G	5477	-	III	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	条痕文	黄褐色	条痕文	黄褐色	含			少	P263
404	1619	II 6F	6162	-	III	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	条痕文、ナデ	茶褐色	貝殻条痕文、ナデ	暗褐色	多			多	
404	1620	II 2F	5288	-	III a	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	貝殻条痕文	暗褐色	貝殻条痕文	暗褐色	多			多	
404	1621	II 7E	6594	-	III	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	ナデ、ナナム方向 の条痕文	暗褐色	条痕文後ナデ	暗褐色				少	P48
404	1622	II 1H	1764	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、条痕文後ナデ	暗橙褐色	ナデ、条痕文後ナデ	暗橙褐色				少	P15
404	1623	II 3H	523	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ナナム方向の条痕文	にぶい褐色	ナナム方向の条痕文	にぶい褐色	含	含		多	P22
404	1624	II 0E	5994	-	III	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	タテ方向のナデ、指 圧痕、条痕文	にぶい黄褐色	指圧痕ナデ、ナデ	にぶい黄褐色	少			少	P4
404	1625	II 6E	6027	-	II	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	条痕文、ナデ	暗褐色	ハケ状のナデ、条痕 文	暗褐色	少	多		少	P312
404	1626	II 4F	5614	-	II	撫糸文土器	口縁部	-	-	-	撫糸文、ナデ	黄褐色	撫糸文、ナデ	黄褐色	少	多	多	多	P7
404	1627	II 0E	4770	-	III	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	ヨコ方向のナデ、条 痕	褐色	櫛状文、ナデ	褐色	多			多	P10
404	1628	II 3G	4252	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	橙色	ナデ	橙色				多	P302
404	1629	IV 8F	-	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	貝殻条痕文、ナデ	暗茶褐色	貝殻条痕、ナデ	暗茶褐色	多	多		多	P109
404	1630	II 4H	4191	-	III a	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	条痕文	にぶい黄褐色	条痕文	にぶい黄褐色	少			少	P65
404	1631	II 6F	-	-	II	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	ヨコ方向のナデ、沈 線文	暗褐色	条痕文、ナデ	暗褐色	多	多		多	
404	1632	II 4G	4148	-	III a	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	条痕文	にぶい黄褐色	不明瞭	にぶい黄褐色	含	含		多	P15
404	1633	II 7D	6488	-	III	無文土器(早期)	口縁部	-	-	-	ナナム方向の条痕文	淡褐色	ヨコナデ、ナデ	淡褐色	少	少		少	P18
404	1634	II 7D	6244	-	II	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ナナム方向の条痕文、 爪型文とナデ	灰褐色	指圧痕、ナナム方向 の条痕文	灰褐色	多	多		多	
404	1635	IV 12C	74722	-	II	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	7.0+a	-	条痕文	橙色	ナデ	橙色	多	多		多	P5
404	1636	II 2F	5412	-	III a	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	橙褐色	ハケ状のナデ	橙褐色	少	多		多	P2
405	1637	II 4I	2592	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の条痕文	淡褐色	指圧痕ナデ	淡褐色	多	多		多	
405	1638	II 3G	3145	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	条痕文	にぶい黄褐色	指圧痕、ナデ	にぶい黄褐色	含	含		多	
405	1639	IV 8E	73797	-	III b	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	条痕文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少			少	P40
405	1640	II 5C	5915	-	II	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の条痕文	淡明褐色	ナデ、ヨコ方向の条 痕文	淡明褐色	少	少		少	P71
405	1641	II 7E	6877	-	-	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	少			少	
405	1642	II 7E	6619	-	-	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	条痕文後ナデ	淡褐色	ナデ	淡褐色				少	
405	1643	II 7E	6330	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	タテ方向の条痕文後 ナデ	黄褐色	ヨコ方向の条痕文後 ナデ	黄褐色				少	

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考
405	1644	II	5E	5921	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	刻み目、ヨコナデ後押圧文	黒褐色	ナデ	黒褐色	僅	僅	少	P5
405	1645	II	5C	5908	-	II	無文土器(早期)	鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の条痕文	灰褐色	ヨコナデ、ヨコ方向の条痕文	灰褐色	少	少	少	P2
405	1646	III	9D	72796	S22	III	無文土器(早期)	鉢 口縁部	-	4.3+e	-	条痕文	にぶい赤褐色	条痕文	にぶい赤褐色	少	少	少	P2
405	1647	II	5F	5884	-	II	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	条痕文	黄褐色	ヨコ方向のナデ	黄褐色	含			
405	1648	II	4H	5485	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	条痕文	暗赤褐色	条痕文後ナデ消し	暗赤褐色	多	少	少	P11
405	1649	IV	11F	73424	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	2.5+e	-	ナデ	灰褐色	ナデ	にぶい橙色	多	多	多	P50
405	1650	II	1H	2035	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、条痕文	にぶい橙色	条痕文	にぶい橙色	少		少	P12
405	1651	II	1H	2035	-	III	無文土器(早期)	深鉢 胴部	-	-	-	条痕文	にぶい橙色	条痕文	にぶい橙色	少		少	同一個体
405	1652	II	2E	6441	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	(18.4)	11.2+a	-	ナメ方向の条痕文	赤褐色	ナメ方向の条痕文	赤褐色	多		少	
406	1653	II	1H	2035	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	(32.0)	10.0+a	-	ナデ、ナメ方向の条痕文	褐褐色	ナメ方向の条痕文	褐褐色	多		少	P156
406	1654	IV	9F	73521	-	III	無文土器(早期)	深鉢 口縁部	-	11.2+a	-	条痕文	明褐色	条痕文	明褐色	多	多	多	P81 同一個体
406	1654	IV	9F	73304	-	III	胴部	-	9.2+e	-	条痕文	にぶい黄褐色	条痕文	にぶい黄褐色	多	多	多		
406	1655	IV	9G	72959	-	II	無文土器(早期)	胴部	-	3.6+e	-	条痕文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	多	少	多	
406	1656	II	0E	2222	-	III a	無文土器(早期)	胴部	-	-	-	条痕文	灰黄褐色	条痕文			少		
406	1657	IV	8E	72931	-	II	塞ノ神式土器	胴部	-	-	-	撫糸文	赤茶褐色	指圧、ナデ	赤茶褐色	含	含	多	P29
406	1658	II	5E	5913	-	III	無文土器(早期)	胴部	-	-	-	条痕文	橙色	条痕文	淡黄色	僅	僅	少	P53
406	1659	IV	11E	73587	-	III	無文土器(早期)	胴部	-	-	-	条痕文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少		多	
406	1660	IV	11F	73627	-	III b	無文土器(早期)	胴部	-	4.8+e	-	条痕文	浅黄褐色	条痕文	浅黄褐色	少	少	多	P43
406	1661	II	8E	6620	-	-	無文土器(早期)	胴部	-	-	-	ヨコ方向の撫糸文	茶褐色	ヨコ方向の撫糸文	茶褐色	少	少	少	P25
406	1662	II	0G	33	-	II	無文土器(早期)	胴部	-	-	-	ヨコ方向の条痕文(二枚貝)後ナデ	淡褐色	ナメ方向の条痕文(二枚貝)後ナデ	淡褐色	多	多	少	
406	1663	IV	11E	73996	-	III b	無文土器(早期)	胴部	-	-	-	条痕文	橙褐色	ナデ	橙褐色	含			P31
406	1664	IV	11E	76214	-	III b	無文土器(早期)	胴部	-	-	-	条痕文	明橙褐色	条痕文	明橙褐色	含			P114
406	1665	II	2F	4809	-	II	無文土器(早期)	胴部	-	-	-	貝殻条痕文	暗褐色	貝殻条痕文	暗褐色	多	多	多	P170 外面スス付着
406	1666	IV	11E	73378	-	III	無文土器(早期)	胴部	-	-	-	条痕文	暗赤褐色	ナデ	暗赤褐色	少	少	多	
406	1667	III	9C	72321	-	III	無文土器(早期)	胴部	-	-	-	ヨコ方向の条痕文	にぶい橙色	ナデ	にぶい橙色	多	少	多	P12
406	1668	IV	9E	73046	-	II	無文土器(早期)	胴部	-	4.0+e	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多	多	P63
406	1669	II	3G	3824	-	III	無文土器(早期)	胴部	-	-	-	ナメ方向の条痕文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	含	含	多	P24
407	1670	IV	8E	74394	-	III b	無文土器(早期)	胴部	-	-	-	ナメ方向の条痕文	明橙褐色	構状文、ナメ方向の条痕文	明橙褐色	多	多	多	P80
407	1671	IV	8E	74211	-	III b	無文土器(早期)	深鉢 胴部	-	-	-	爪形文	にぶい褐色	ヨコ方向のナデ	にぶい褐色	少	少	少	P267
407	1672	IV	8E	74210	-	III b	無文土器(早期)	深鉢 胴部	-	-	-	条痕文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	P165
407	1673	IV	11D	74988	-	III b	無文土器(早期)	胴部	-	-	-	条痕文	明黄褐色	条痕文	明黄褐色	含	含		P164
407	1674	IV	9F	73235	-	III	無文土器(早期)	胴部	-	-	-	条痕文後ナデ	明黄褐色	ナデ	明黄褐色	含	含	多	
407	1675	II	0E	2407	-	III a	無文土器(早期)	深鉢 胴部	-	-	-	条痕文?	にぶい褐色	条痕文、ナデ	にぶい褐色	多	多	多	P41
407	1676	IV	8F	-	-	III	無文土器(早期)	深鉢 胴部	-	-	-	貝殻条痕文	暗赤褐色	条痕文後ナデ	黒褐色	多	多	多	P117
407	1677	II	0F	2668	-	III	無文土器(早期)	深鉢 胴部	-	-	-	条痕文	暗褐色	ナデ	暗褐色	含	含	含	
407	1678	IV	8E	74286	-	III b	無文土器(早期)	深鉢 胴部	-	-	-	条痕文	暗赤褐色	ナデ	暗赤褐色	少	少	少	P170
407	1679	IV	9E	73006	-	-	無文土器(早期)	深鉢 胴部	-	5.0+e	-	条痕文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多	多	P216
407	1680	II	4G	4645	-	III	無文土器(早期)	深鉢 胴部	-	-	-	タテ・ナメ方向の条痕文	にぶい褐色	ヨコ方向の条痕文	にぶい褐色	含	含	多	P13
407	1681	II	1E	4671	-	III	無文土器(早期)	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の条痕文		タテ方向の条痕文後ナデ		少		少	P162
407	1682	II	3I	2128	-	III	無文土器(早期)	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の条痕文、ナデ	暗茶褐色	ナデ	暗茶褐色	含	含	多	P283
408	1683	II	4G	884	-	II	平格式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	波状凹線文、刺突文	黒褐色	不明瞭	黒褐色	含	含	多	P50
408	1684	II	3F	5411	表採	II	平格式土器	深鉢 口縁部	(32.6)	3.5+e	-	波状凹線文	暗褐色	ナデ	暗褐色			多	P56
408	1685	II	3F	5411	-	II	平格式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	刻み目、刺突文、沈線、ナデ	褐色	ナデ	褐色	少		少	
408	1686	II	4F	5781	-	III a	平格式土器	口縁部	-	-	-	刻み目、竹管文	茶褐色	ヨコナデ	淡黄色	僅	少	少	
408	1687	II	3H	2049	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	刺突文	にぶい黄褐色	不明瞭	にぶい黄褐色	含	含	多	
408	1688	II	3G	604	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	刺突文	にぶい黄褐色	不明瞭	にぶい黄褐色	含	含	多	P44
408	1689	II	9G	5664	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	条痕文、押引文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色			含	多
408	1690	II	5G	5220	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	(26.4)	-	-	刻み目、沈線文、押引文	明褐色	ナデ	明褐色	含	含	含	P1
408	1691	II	3I	553	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	貝殻文	明茶褐色	ナデ、指圧のちナデ	明茶褐色	含	含	多	P4
408	1692	II	6D	6077	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	刺突文	淡褐色	ナデ	淡褐色	多	多	多	P8
408	1693	II	2F	4840	-	II	塞ノ神式土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、貝殻による刺突文	暗褐色	ナデ	暗褐色	少	多	多	
408	1694	II	1E	3558	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、刺突文、沈線文	橙褐色	剥離	橙褐色	少		少	P28
408	1695	II	3F	5411	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ後刺突文、ナデ、沈線	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少		少	P74
408	1696	II	1E	3647	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	刻み目、ナデ、押引き	黒褐色	ナデ	黒褐色	多	多	少	
408	1697	II	0F	2345	-	III a	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	(29.6)	6.2+e	-	ヨコ方向の条痕、刻み目、ナデ	暗赤褐色	ナデ	暗赤褐色	少		少	P121
408	1698	II	1E	1448	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	爪形文、沈線文、ナデ	橙色	ナデ	橙色	多		少	P56
408	1699	II	0F	1564	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	沈線文、刻み目突帯、ナデ	淡黄褐色	ナデ	淡黄褐色	含	含	含	P21
409	1700	II	0E	5416	-	III a	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	34.0	11.9+e	-	ヨコ方向の条痕、刻み目、ナデ	暗赤褐色	ナデ	暗赤褐色			少	P13

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考
409	1701	II 1F	1150	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	沈線文	茶褐色	ナデ	茶褐色	含	含	少	P307	
409	1702	II 1G	1725	-	III	塞ノ神式土器	鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、条痕文	黄褐色	ナデ	黄褐色	少		少	P22	
409	1703	II 3H	116	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	刻み目、燃糸文、ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	灰黄褐色			少	P7	
409	1704	II 1F	4845	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ後沈線文、燃糸文	暗茶褐色	ケズリ後ナデ	暗茶褐色	多	多	多	P7	
409	1705	II 2G	3643	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	条痕文後ナデ消し	橙色	ナデ	橙色	少		少	P315	
409	1706	II 1F	3975	-	III a	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	刻み目、沈線文、条痕文	暗茶黄色	ナデ	暗茶黄色	多	多	多	P37	
409	1707	II 3H	2134	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	刻み目、沈線文、燃糸文、竹管文、ナデ	灰黄褐色	ナデ	灰黄褐色			少	P162	
409	1708	II 5H	5204	-	III a	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	(34.0)	-	-	ヨコナデ、条痕文、燃糸文	淡黄色・黒褐色	ヨコナデ、ナデ	淡黄色・黒褐色	少	少	多	P7	
409	1709	II 3F	5307	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	(36.8)	9.4+a	-	ナデ、穿孔、沈線	褐色	ナデ	褐色	少		少	P1	
410	1710	II 3E	5472	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	線刻文	暗茶褐色	ナデ	暗茶褐色	含	含	多	P9	
410	1711	II 1F	4463	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	沈線文、燃糸文、ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色			少		
410	1712	II 0F	2530	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	条痕文、ナデ	いぶい黄褐色	ナデ	いぶい黄褐色			多	P290	
410	1713	II 2F	6468	-	III a	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ後沈線文	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多	少	P119	
410	1714	II 3F	6416	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ条痕文、燃糸文	黄褐色～暗褐色	ナデ	黄褐色～暗褐色	多	含	多	P77	
410	1715	II 0F	2020	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の沈線文、刺突文、燃糸文	暗褐色・黒褐色	ナデ	暗褐色・黒褐色	少	多	多	P24	
410	1716	II 2I	1271	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	沈線文	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多	多		
410	1717	II 3F	5541	-	III a	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	突帯、沈線文、燃糸文	褐色	条痕文?	褐色	多		多	P17	
410	1718	II 0D	2851	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 頸部	-	-	-	ナデ、沈線文、タテ方向の条痕	暗褐色	ナデ	暗褐色	含	含		P10	
410	1719	II -	2220	-	III a	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、燃糸文	褐色	ナデ	褐色	少		少	P69	
410	1720	II 1F	1145	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 頸部	-	-	-	沈線文、ナデ	暗茶褐色	ナデ	暗茶褐色	多		多	P27	
410	1721	II 2F	4811	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 胴部	-	-	-	沈線、ナデ、燃糸文	暗褐色	ナデ	暗褐色	少		少	P17	
410	1722	II 0F	2327	-	III a	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向の沈線文、刺突文、タテ方向の燃糸文(磨滅)	黒褐色	ナデ	黒褐色	少	多	多	P13	
410	1723	II 5H	5215	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 頸部	-	-	-	条痕文、列点文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少		少	P38	
410	1724	II 0D	2804	-	III a	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	条痕文、ナデ、沈線文、刻目突帯	褐色	ナデ	褐色	含	含		P6	
411	1725	II 0E	2275	-	III a	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	刺突文、沈線文	暗褐色	ナデ	暗褐色	少		少	P36	
411	1726	II 2F	4794	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ後燃糸文	暗褐～暗褐色	ナデ	暗褐～暗褐色	多	多	少	P82	
411	1727	IV 8E	74278	-	III b	塞ノ神式土器	鉢 胴部	-	3.4+a	-	ナデ	橙色	ナデ	橙色	少	少	多	P3	
411	1728	II 4F	-	-	III a	塞ノ神式土器	深鉢 胴部	-	-	-	燃糸文、条痕文	淡黄色	ヨコナデ	淡黄色	少	少	少	P208	
411	1729	II 6F	5411	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 胴部	-	-	-	縄文、縄文	暗黄褐色	ナデ	暗黄褐色	多		多	P5	
411	1730	II 2H	1792	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 胴部	-	-	-	縄文、刺突文、沈線文、ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含	多		
411	1731	II 3G	3177	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ、燃糸文	黄褐色	ナデ	黄褐色	含		多		
411	1732	II 1E	4673	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ、燃糸文、沈線文、穿孔	暗褐色	ナデ	暗褐色			少	P46	
411	1733	II 3G	616	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 胴部	-	-	-	燃糸文、沈線文	褐色	ナデ	褐色	少		少	P285	
411	1734	II -	4231	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 胴部	-	-	-	縄文、沈線文	淡黄色	ヨコ方向のナデ	淡黄色	少	少	多	P34	
411	1735	II 0E	1003	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 胴部	-	-	-	沈線文、燃糸文	暗褐色	ナデ	暗褐色	多		多	P92	
411	1736	IV 8E	74172	-	III b	塞ノ神式土器	深鉢 胴部	-	-	-	格子目文	にぶい黄褐色	ヨコ方向のナデ	にぶい黄褐色	少	少	少	P28	
411	1737	II 0F	2558	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ、燃糸文	明褐色	ナデ	明褐色	含	含	少	P135	
411	1738	II 2F	5200	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ後沈線文、縄文	暗茶褐色	ナデ	暗茶褐色	多		多	P133	
411	1739	II 1H	216	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ、ナメ方向の条痕文、沈線文、条痕文	暗褐色	ナデ	暗褐色			少		
412	1740	II 4G	4537	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	刺突文、沈線文	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含	多	P8	
412	1741	II 1F	3662	-	III a	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ後沈線文	黒茶褐色	ナデ	黒茶褐色	多	多	多	P101	
412	1742	II 2F	5082	-	III a	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、沈線文	暗茶褐色	磨滅	暗茶褐色	多	多	多	P11	
412	1743	II 2F	5411	-	II	平格式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ後沈線文、列点文	暗褐色	ナデ	暗褐色	多		多		
412	1744	II 2H	112	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	条痕文	黒褐色	不明磨	黒褐色		含	多		
412	1745	II 0E	2234	-	III a	塞ノ神式土器	深鉢 胴部	-	-	-	不明(磨耗)	暗褐色	ナデ	暗褐色			少		
412	1746	II 0E	2404	-	III a	塞ノ神式土器	深鉢 胴部	(30.8)	-	-	口縁不明(磨滅)、条痕文	暗褐色	条痕文、不明(磨滅)	暗褐色	少		少	P41	
412	1747	II 1D	3401	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含		P114	
412	1748	II 0F	2800	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 頸部	-	-	-	ナデ、沈線文	黒褐色	ナデ	黒褐色	含	含		P47	
412	1749	II 0F	3756	-	III a	塞ノ神式土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ、ヨコ方向の沈線文	暗褐色	ナデ	暗褐色	少	多	少	多	
412	1750	IV 10C	-	-	II	塞ノ神式土器	頸部	-	-	-	条痕文(貝殻)、ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	多		少	P245	
412	1751	II 0F	2880	-	III	塞ノ神式土器	頸部	-	-	-	ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	含	含	含	P11	
412	1752	II 3E	5186	-	III	塞ノ神式土器	深鉢 胴部	-	-	-	ヨコ方向の条痕文	暗灰褐色	指圧後ナデ	暗灰褐色	多	多	多	P215	
412	1753	IV 10B	74661	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 胴部	-	-	-	ナデ	淡茶褐色	ナデ	淡茶褐色	少	多	少		
413	1754	III 9E	72256	-	III	-	鉢 底部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	暗褐色	少	僅	少	P2	

挿入番号	次	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂	備考	
413	1755	III	9C	72495	-	III	-	鉢 底部	-	-	-	ナデ (剥離)	橙色	ナデ	にぶい黄橙色	多				
413	1756	III	9E	72256	-	III	-	鉢 底部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	僅			P129	
413	1757	IV	10C	75606	-	III b	-	鉢 底部	-	1.8+ a	-	磨減	にぶい黄褐色	磨減	にぶい黄褐色	多				
413	1758	III	9D	72827	-	III	-	鉢 底部	-	2.6+ a	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	黒褐色	少	多		P137	
413	1759	III	9D	-	-	II	-	底部	-	-	-	ヨコ方向のナデ、ナデ	浅黄褐色	ナデ	褐色	少	僅			
413	1760	IV	10E	73107	-	II	-	-	-	-	-	縄文、ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色				少	
413	1761	IV	8E	73751	-	III b	-	-	-	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色				少	
413	1762	IV	11F	73604	-	III	-	鉢	-	-	-	ナデ	黄褐色	剥離	黄褐色				少	
413	1763	IV	12D	75109	-	III b	-	深鉢 底部	-	-	-	ナデ	黄褐色	剥離	黄褐色	少			P60	
413	1764	IV	11F	73414	-	III	-	鉢 底部	-	3.0+ a	-	ナデ	灰褐色	ナデ	褐色	多	少		多	
413	1765	IV	8F	-	-	III a	-	-	-	-	-	条痕文	暗茶褐色	?	暗茶褐色	少	多		P2	
413	1766	IV	9C	75854	-	III b	-	鉢 底部?	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多		P84	
413	1767	II	0F	2564	-	III	-	底部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	明褐色	多			P299	
413	1768	IV	11F	72969	-	II	-	鉢 底部	-	4.0+ a	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	浅黄褐色	少	少		P139	
413	1769	IV	9C	75485	-	III b	-	鉢 底部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多		多	
413	1770	IV	9C	75185	-	II	-	鉢 底部	-	-	-	ナデ	明茶褐色	ナデ	明茶褐色	少	少		P249	
413	1771	IV	10D	75254	-	III b	-	底部	-	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	含			少	
413	1772	IV	9C	75536	-	III b	-	鉢 底部	-	-	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	少		多	
413	1773	II	0F	5796	-	III	塞ノ神式土器	平底	-	10.9	ナデ	褐色	ナデ	褐色	含	含			P250	
413	1774	III	9D	-	-	II	-	鉢 底部	-	(7.0)	ナデ	褐色	ナデ	浅黄褐色	少	僅			P265	
413	1775	IV	9E	74516	-	III b	-	鉢 底部	-	1.6+ a	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多		P15	
413	1776	IV	9C	75864	-	III b	-	鉢 底部	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	少	少		P109	
413	1777	IV	9D	74844	-	III a	-	鉢 底部	-	1.1+ a	Φ7.8	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少		P309	
413	1778	IV	11D	76256	-	III b	-	深鉢 底部	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色				P234	
413	1779	III	8D	72815	-	II	-	深鉢 底部	-	-	-	ナデ	にぶい赤褐色	ナデ	にぶい赤褐色	含			P18	
413	1780	IV	10C	75452	-	III b	-	鉢 底部	-	3.7+ a	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	少		少	
413	1781	IV	9B	75754	-	-	-	深鉢 底部	-	-	6.8	磨減	暗茶褐色	磨減	暗茶褐色	含	含		P98	
413	1782	II	0F	2513	-	III	塞ノ神式土器	平底	-	7.2	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	含	含				
413	1783	II	0F	2792	-	III a	塞ノ神式土器	平底	-	13.0	ナデ	茶褐色	ナデ	茶褐色	多	多			P102	
413	1784	II	0G	1842	-	III	塞ノ神式土器	平底	-	10.4	ナデ	茶褐色・黒褐色	ナデ	茶褐色・黒褐色	少	多			P210	二次被熱あり、内面スス付着
413	1785	IV	9D	75241	-	III b	塞ノ神式土器	鉢 底部	-	1.8+ a	Φ16.6	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多			P10	
414	1786	II	0G	124	-	II	縄式系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	隆起線文、ナデ	淡褐色	ヨコ方向の条痕文 (二枚貝) 後ナデ	淡褐色	多	多	少		P317
414	1787	II	0E	1000	-	II	縄式系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、隆起線文、貼付突帯	暗赤褐色	ナデ	暗赤褐色	少			P61	
414	1788	II	0E	2303	-	III a	縄式系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ナデ、隆起線文	灰黄褐色	条痕	灰黄褐色	少			P25	
414	1789	II	0G	3	-	II	縄式系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	隆起線文、条痕文 (二枚貝)	黒褐色	ヨコ方向のナデ	黒褐色	多	多		多	
414	1790	II	1F	3999	-	III a	縄式系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	刻み目、ヨコ方向のナデ	黄灰色	貝殻条痕文	黄灰色	多			P1	
414	1791	II	0G	14	-	II	縄式系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	隆起線文	黒褐色	ヨコ方向の条痕文 (二枚貝)	黒褐色	少	多		P186	
414	1792	II	4G	735	-	II	縄式系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	隆起線文	褐色	条痕文	褐色	含	含		P12	
414	1793	II	2F	4838	-	II	縄式系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向のナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多		P8	
414	1794	II	4G	1882	-	II	縄式系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	刻み目、隆起線文、ヨコナデ	暗黄褐色	条痕文	暗黄褐色	含	含		P26	
414	1795	II	2H	157	-	II	縄式系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	隆起線文、条痕文	黒褐色	条痕文	褐色	含	含		P54	
414	1796	II	7E	7574	-	III	縄 5 式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	隆起線文、ナデ、ヨコ方向の条痕文	暗褐色	条痕文	暗褐色	多			少	
414	1797	II	4E	5589	-	III	縄 5 式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	刻み目、隆起線文	黒褐色	条痕文	黒褐色	少	少		P29	
414	1798	IV	-	-	表採	-	縄式系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	隆起線文	暗灰色	貝殻文	暗灰色	少	少		少	
414	1799	II	3G	607	-	II	縄式系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	隆起線文	にぶい褐色	ヨコ方向のナデ	にぶい褐色	少			少	
414	1800	II	1F	1143	-	II	縄 4 式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコ方向のナデ、条痕文	暗茶褐色	ヨコ方向のナデ、条痕文	暗茶褐色	多			P25	
414	1801	II	0G	82	-	II	縄式系土器	深鉢 口縁部	-	-	-	ヨコナデ、隆起線文、ヨコ方向の条痕文 (二枚貝) 後ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	多			P15	
414	1802	II	0G	133	-	II	縄式系土器	胴部	-	-	-	ナデ、隆起線文	淡褐色・黒褐色	ヨコ方向の条痕文 (二枚貝) 後ナデ	淡褐色・黒褐色	多	少		P34	
414	1803	II	1H	1748	-	III	縄式系土器	胴部	-	-	-	ナデ、隆起線文貼付	暗褐色	ナデ	暗褐色	少			P70	
414	1804	IV	-	-	表採	-	縄 5 式土器	胴部	-	-	-	隆起線文	暗灰色	貝殻文	暗灰色	少	少		P6	
414	1805	II	0F	5980	-	III	縄 5 式土器	胴部	-	-	-	ナデ、隆起線文	暗褐色	ナデ	暗褐色	含	含			
414	1806	II	-	-	表採	-	縄 4 式土器	胴部	-	-	-	貼り付け突帯、ヨコナデ後条痕文	褐色	ヨコナデ後条痕文	褐色	多	少		P279	
414	1807	II	0G	18	-	II	縄式系土器	胴部	-	-	-	ナデ、隆起線文	暗褐色	ナデ	暗褐色	多	多		少	二次被熱あり、外面スス付着
414	1808	IV	8E	75529	S347	III 下部	縄式系土器	胴部	-	-	-	ヨコ方向のナデ	暗灰褐色	ヨコ方向のナデ	暗灰褐色	少	少		P16	
414	1809	IV	9C	75256	-	III a	隆帯文土器	深鉢 口縁部	-	-	-	突帯文	淡褐色	ナデ	淡褐色	少	少		少	
414	1810	IV	9C	74741	-	II	塞ノ神式土器	深鉢 口縁部	-	-	-	突帯、刻目文様	赤茶色~黒色	ナデ	赤茶色~黒色	少	少		多	
414	1811	IV	12D	-	-	III b	隆帯文土器	胴部	-	-	-	瓜型文	明黄褐色	ナデ	明黄褐色				少	
414	1812	II	2F	6067	-	III	下城式土器	胴部	-	-	-	ヨコナデ後刻目突帯	暗褐色	ヨコナデ	暗褐色	少	多		少	外面スス付着
414	1813	II	0G	91	-	II	縄式系土器	胴部	-	-	-	ヨコナデ、隆起線文、ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	少	多		多	P70

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考
414	1814	II	5G	5144	-	II	羽島下層式土器	胴部	-	-	-	貝殻条痕文、貼付突起	褐色	条痕文	褐色		含	多	P41
414	1815	II	0G	113	*7/1レナ	II	羽島下層式土器	胴部	-	-	-	瓜形文後ナデ、隆起線文	暗褐色	ヨコ方向の条痕文 (二枚貝) 後ナデ	暗褐色	多	多	多	
414	1816	II	1F	1130	-	II	轟4式土器	胴部	-	-	-	貝殻条痕文、刻み目突起、ヨコナデ	暗茶褐色	貝殻条痕文	暗茶褐色	多	多	少	内外面スス付着
414	1817	II	2E	5440	-	-	轟4式土器	胴部	-	-	-	ナデ、刺突文	暗褐色	ヨコ方向の条痕文	暗褐色	少	少	少	P2
414	1818	IV	-	-	表採	-	羽島下層式土器	胴部	-	-	-	隆起線文、貝殻文	茶褐色	貝殻文	茶褐色	少	少	少	
415	1819	II	3G	612	-	II	羽島下層3式土器	鉢口縁部	-	-	-	瓜形文	灰褐色	ナデ	灰褐色			少	
415	1820	II	4H	726	-	II	羽島下層3式土器	鉢口縁部	-	-	-	瓜形文	にぶい褐色	ヨコナデ	にぶい褐色	少		少	P30
415	1821	II	3H	414	-	II	羽島下層3式土器	深鉢口縁部	-	-	-	瓜形文	黒褐色	条痕文	黒褐色		含	少	
415	1822	II	2G	343	-	III	羽島下層3式土器	鉢口縁部	-	-	-	瓜形文	褐色	ナデ	褐色	少		少	P11
415	1823	II	0G	117	-	II	羽島下層3式土器	胴部	-	-	-	ナデ後瓜形文	淡褐色	ヨコ方向の条痕文 (二枚貝) 後ナデ	淡褐色	少	多	多	P3
415	1824	II	0F	2116	-	III	羽島下層3式土器	鉢口縁部	-	-	-	沈線文	暗褐色	条痕文	暗褐色	含	含		P54
415	1825	II	0F	1070	-	III	羽島下層3式土器	胴部	-	-	-	瓜形文、ナデ	暗褐色	条痕文、ナデ	暗褐色	含	含		P30
415	1826	II	0G	32	-	II	羽島下層3式土器	口縁部	-	-	-	刻み目、条痕文 (二枚貝) 後瓜形文	黒褐色	条痕文 (二枚貝) 後ナデ	黒褐色	多	少	多	P24
415	1827	II	4C	5620	-	II	羽島下層3式土器	深鉢	-	-	-	ナデ、刺突文	茶褐色	刻み目、ヨコ方向の条痕文	茶褐色	含	含	多	P30
415	1828	II	0F	1550	-	III	羽島下層3式土器	胴部	-	-	-	刺突文、ナデ	暗褐色	ナデ	暗褐色	含	含		
415	1829	II	7F	6615	-	-	無文土器	口縁部	-	-	-	条痕文 (二枚貝)、ヨコ方向の沈線文	淡褐色	条痕文 (二枚貝)	淡褐色	多	多	少	多
415	1830	II	1G	67	-	II	無文土器	口縁部	-	-	-	ハケ状のナデ	にぶい黄褐色	ハケ状のナデ	にぶい黄褐色	少		少	
415	1831	II	1F	1154	-	II	-	鉢口縁部	-	-	-	ナデ	暗褐色	条痕	暗褐色	多	多	多	P5 外面スス付着
415	1832	IV	10C	75144	-	III a	-	鉢口縁部	-	4.9+e	-	ナデ ヨコナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	多	多	多	P23
415	1833	IV	10C	75451	-	III b	平椀式土器	胴部	-	3.3+e	-	沈線文	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色	多	多	多	P8
415	1834	IV	10D	74982	-	III b	-	胴部	-	-	-	ナデ	暗褐色	刺突文	暗褐色	多	多	多	P97
415	1835	II	7E	6618	-	-	船元式土器	胴部	-	-	-	縄文、ナデ、隆起線文貼付	褐色	ナデ	褐色	少	少	少	
415	1836	II	0E	2247	-	III a	船元式土器	胴部	-	-	-	燃糸文、指圧痕	赤褐色	条痕文、刺圧痕、ナデ	赤褐色			多	
415	1837	II	0E	3016	-	III	船元式土器	胴部	-	-	-	燃糸文	明褐色	ナデ	褐色			多	P54
415	1838	II	0G	87	-	II	船元式土器	胴部	-	-	-	刺突文、隆起線文?	黒褐色	ヨコ方向の条痕文 (二枚貝) 後ナデ	黒褐色	少	多	多	P237 二次燃熱あり、外面スス付着
415	1839	II	2F	4809	-	II	縄文後期土器	鉢口縁部	-	-	-	ナデ後沈線文、刻み目	暗茶褐色	ハケ状のヨコ方向のナデ	暗茶褐色	少	多	少	P37 外面スス付着
415	1840	II	3E	5438	-	-	縄文後期土器	口縁部	-	-	-	沈線文、ヨコナデ	黒褐色	ヨコナデ	黒褐色	少	僅	少	
415	1841	II	4C	5620	-	II	福田K II 式土器	口縁部	(24.8)	-	-	ヘラミガキ、磨り消し縄文	明褐色	ヨコ方向のヘラミガキ	明褐色	少	少	少	
415	1842	II	4I	569	-	II	縄文後期土器	深鉢口縁部	-	-	-	ヨコ方向の条痕文?	淡褐色	ヨコナデ、ヨコ方向のナデ	淡褐色	少	少	多	多
415	1843	II	5E	5913	-	III	縄文後期土器	胴部?	-	-	-	ヨコナデ、条痕文	褐色	条痕文	褐色	少	少	少	P9
415	1844	II	0E	1002	-	II	縄文後期土器	深鉢口縁部	-	-	-	ナデ、条痕文	にぶい褐色	ナデ、条痕文	にぶい褐色	少		少	
415	1845	II	3H	487	-	II	縄文後期土器	深鉢口縁部	-	-	-	刻み目、ナメ方向の条痕文後沈線文	にぶい黄褐色	条痕文	にぶい黄褐色	含	含	多	P27
415	1846	II	3H	495	-	II	縄文後期土器	深鉢口縁部	-	-	-	条痕文、沈線文	にぶい黄褐色	条痕文	にぶい黄褐色	含	含	多	P29
415	1847	IV	9D	74927	-	III b	縄文後期土器	鉢口縁部	-	3.2+e	-	ナデ	にぶい黄褐色	ナデ	にぶい黄褐色	少	多	多	P37
415	1848	II	2E	4984	-	III a	縄文後期土器	口縁部	-	-	-	ヒレ状突起、条痕文	淡褐色	ヨコ方向のナデ	淡褐色			少	P260
415	1849	II	5C	5915	-	-	-	鉢 平底	-	-	11.2	ヨコ方向のヘラミガキ、底部ナデ (剥離)	茶褐色	ヘラミガキ	茶褐色	多	多	多	P49
475	2416	II	0D	-	-	III	-	寛口縁部	-	-	-	ヨコナデ、剥離	褐色	ヨコナデ、ヘラ状工具ナデ	褐色	含	含		
475	2417	IV	9C	74655	-	II	下城式土器	寛口縁部	-	-	-	刻み目、ヨコナデ、貼付突起、ナデ	暗茶褐色	ナデ	暗茶褐色	含	含	少	P33
475	2418	II	3F	-	-	III	-	高坏	-	-	-	ナデ	にぶい褐色	ナデ	にぶい褐色			少	
475	2419	II	7F	6615	-	-	-	高坏 脚部	-	-	-	ヨコナデ、タテハケ後ナデ	灰黄色	ナデ、削り後ナデ	灰黄色	少	少	少	
475	2420	II	0F	988	-	II	-	深鉢 底部	-	-	(3.2)	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色	少		多	
475	2421	IV	9F	72991	-	II	弥生土器・中期	壺 胴部	-	-	-	ハケ後粗いミガキ	浅黄褐色	ヨコ、ナメハケ後ナデ	浅黄褐色	多	多	多	P13 外面に黒斑あり、同一個体
475	2421	IV	9F	72992	-	II	弥生土器・中期	壺 底部	-	-	13.0	ハケ後粗いミガキ	浅黄褐色	ナメハケ後ナデ	浅黄褐色	多	多	多	P4 同一個体
475	2422	II	0E	5947	-	-	龍泉窯 青磁	碗 口縁部	-	-	-	施釉	灰オリーブ色	施釉	灰オリーブ色			少	P5
475	2423	II	0E	976	-	II 上面	糸切土師器	小皿	(8.3)	1.4	(7.2)	回転ヨコナデ、回転糸切り	にぶい褐色	回転横ナデ、ナデ	にぶい褐色			少	
475	2424	II	0D	1713	-	III	-	播鉢	-	-	-	ヨコナデ	にぶい褐色	播目、ヨコナデ	にぶい褐色			少	P1
475	2425	II	0F	1055	-	III	-	口縁部	-	-	-	ナデ、ミガキ	褐色	ナデ	褐色			少	P23 備前か
475	2426	IV	9E	73103	-	II	-	寛口縁部	-	2.5+e	-	ヨコナデ	浅黄色	ヨコナデ	浅黄色	多	多	多	P9
475	2427	II	7D	6488	-	III	糸切土師器	底部	-	-	-	ナデ、回転糸切り痕	明褐色	ナデ	明褐色	含	含	多	
475	2428	II	0E	5947	-	-	龍泉窯 青磁碗	口縁部	-	-	-	施釉	明緑灰色	施釉	明緑灰色			少	
475	2429	II	-	-	表採	-	青磁	香炉 口縁部	(7.4)	-	-	施釉	白色・うすい青色	露胎	白色・うすい青色				
475	2430	II	5F	7730	S142	-	青磁	香炉 胴部	-	-	-	施釉	淡灰緑色	無釉	淡灰緑色				
479	2432	IV	-	-	表採	-	青磁 碗	-	10.6	2.8+e	-	回転ヨコナデ	オリーブ灰色	回転ヨコナデ	オリーブ灰色				
479	2433	IV	-	-	表採	-	播鉢	-	-	-	-	ヨコナデ	茶褐色	ヨコナデ	茶褐色	少		少	
479	2434	II	4D	5845	-	III	須恵器か	寛	-	-	-	格子目タタキ	灰褐色	指圧、ナデ	灰褐色	含	含	少	

挿入番号	次数	区域	遺物番号	遺構	層位	種別	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	底部径 (cm)	外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	角閃	長石	石英	砂粒	備考	
479	2435	IV 9F	73071	-	II	瓦質土器	-	(21.8)	-	-	ナデ	黒褐色	ナデ	黒褐色					少	P1
479	2436	II 0E	1121	-	II	瓦質土器	鉢	-	-	-	ヨコナデ	灰褐色~黒褐色	ヨコナデ	灰褐色~黒褐色					少	外面スス付者
479	2437	IV 12F	73074	-	II	赤生土器	壺か	-	-	-	ナデ	黄褐色	指圧痕、ナデ	黄褐色					少	西南四国型土器か
479	2438	II -	1046	表採	-	関西系陶器	瓶 胴部	-	-	(8.3)	灰釉、露胎、回転糸切り	橙色	灰釉、自然釉	淡黄色					少	釉を2回使用

第2表 森の木遺跡遺物観察表 (石器)

挿入番号	次数	区域	取上番号	遺物番号	遺構	層位	種類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
12	1	II 2H	S-3	6654	-	IV	Uフレ	-	6.9	5.0	1.8	56.8	旧石器
12	2	II 1H	-	1791	-	III	Uフレ	砂岩	9.5	4.6	1.5	78.4	旧石器
12	3	II 4F	No20	7755	-	IV	スクレイパー	泥灰岩	9.1	6.5	1.4	88.6	旧石器
12	4	II 3E	S-3	6485	-	IV	Uフレ	流紋岩	9.1	3.4	1.3	52.9	旧石器
12	5	II 0F	S-1	6641	-	IV	Rフレ	泥岩	10.2	6.1	3.2	148.1	
12	6	II 1H	-	2590	-	III	Rフレ	結晶片岩	9.8	1.3	1.1	20.4	
12	7	II 2H	S-8	6926	-	IV	Uフレ	泥岩	2.6	5.7	0.9	16.0	旧石器
13	8	II 4F	S-25	6901	-	IV	石核	ドロマイト	5.5	8.5	4.2	162.6	旧石器
13	9	II 1H	S-66	6460	-	III	石匙	チャート	3.9	3.0	1.7	13.8	
13	10	II 4F	No42	7777	-	IV	石核	ドロマイト	6.2	9.2	7.3	431.9	旧石器
13	11	II 5E	S-2	6683	-	IV	細石刃	腰岳半田系黒曜岩	2.3	1.1	1.05	0.3	
13	12	IV 9E	S-8	73023	-	II	石刃	泥岩	4.5	2.2	0.9	9.5	
13	13	II 4F	No36	7771	-	IV	石刃	泥岩	9.7	2.9	2.9	83.3	旧石器
13	14	II 1F	S-1	6916	-	IV	石刃	-	10.25	2.5	1.7	32.4	旧石器
14	15	II 4F	S-13	6671	-	IV	剥片	泥灰岩	8.5	3.4	1.5	66.6	旧石器
14	16	II 4F	No38	7773	-	IV	剥片	泥岩	8.5	5.0	2.2	86.2	旧石器
14	17	II 4F	S-3	5826	-	IV	剥片	凝灰岩	6.9	4.0	1.0	32.6	
14	18	II 4F	No45	-	-	IV	剥片	泥岩	6.1	5.1	1.8	41.5	
14	19	II 3E	S-2	6906	-	IV	剥片	泥岩	4.8	2.9	0.6	11.4	旧石器
14	20	II 1G	S-1	6645	-	IV	Uフレ	-	7.0	4.25	1.25	29.0	旧石器
14	21	II 5E	S-1	6682	-	IV	剥片	チャート	4.6	2.7	1.0	8.2	
14	22	II 4F	S-16	6674	-	IV	剥片	泥岩	7.0	5.9	0.9	52.5	旧石器
15	23	II 4F	No28	7763	-	IV	剥片	泥岩	4.25	6.25	1.45	24.8	旧石器
15	24	II 4F	S-20	6896	-	IV	剥片	泥灰岩	4.7	5.5	0.8	27.2	旧石器
15	25	II 4F	No31	7766	-	IV	剥片	-	7.45	6.65	2.35	52.7	旧石器
15	26	II 4F	S-2	5784	-	IV	剥片	流紋岩	6.3	7.6	2.2	144.7	旧石器
15	27	II 3E	S-1	6378	-	IV	Uフレ	流紋岩	6.6	9.8	2.4	162.3	旧石器
16	28	III 9D	S-18	72792	-	III	台石	砂岩	17.7+ a	17.0+ a	6.7	2600.0	
16	29	II 2E	No4	7750	-	IV	台石	砂岩	16.3	26.2	6.7	4000.0	
16	30	II 3H	No6	7752	-	IV	台石	砂岩	27.8	33.7	11.7	14000.0	
16	31	II 0E	No1	7747	-	IV	台石	砂岩	20.7	26.8	10.2	9700.0	
16	32	II 2F	No3	7749	-	IV	台石	安山岩	23.3	32.1	10.4	12500.0	
16	33	II 0E	No2	7748	-	IV	台石	砂岩	35.0	21.4	7.9	7550.0	
16	34	II 4F	No33	7768	-	IV	台石	砂岩	25.7	37.3	7.5	9500.0	
17	35	II 1H	S-23	2932	-	IV	台石	安山岩	25.5	26.2	7.4	12000.0	
17	36	II 3G	No5	7751	-	IV	台石	砂岩	35.1+ a	42.5	14.8	24500.0	
22	65	III 8C	No104	72775	S245	-	磨石	砂岩	10.6	5.1	3.0	267.8	
22	66	III 9C	No66	72617	S245	-	磨石	砂岩	10.4+ a	11.6	6.6	1100.0	
22	67	III 8C	No99	72770	S245	-	磨石	安山岩	9.7	7.0+ a	5.9	449.8	
22	68	III 9C	No100	72771	S245	-	台石	安山岩	29.0	22.8	8.8	8000.0	
22	69	III 8C	No101	72772	S245	-	台石	砂岩	19.8	16.8	6.9	3650.0	
22	70	III 8C	No102	72773	S245	-	台石	砂岩	23.6	29.5	5.5	5900.0	
25	88	IV -	No57	-	S246	-	台石	砂岩	17.2	16.0	5.1	2000.0	
25	89	IV -	No64	-	S246	-	台石	安山岩	15.7	16.7	8.4	2100.0	
25	90	IV -	No54	-	S246	-	台石	安山岩	13.6	17.1	10.3	3100.0	
28	103	III 8-9C	No20	72855	S277	-	石核	砂岩	13.6	11.8	6.2	1200.0	
28	104	III 8-9C	No21	72856	S277	-	台石	砂岩	10.7+ a	9.6+ a	5.5	738.0	
33	136	IV 9-10C	S-31	76083	S358	-	エンド・スクレイパー	チャート	3.2	1.9	0.6	3.4	
33	137	IV 9-10C	S-39	76108	S358	-	石核	頁岩	3.1	2.4	2.5	31.2	
33	138	IV 9-10C	No4	75887	S358	-	台石	砂岩	19.7	20.7	8.7	7000.0	
33	139	IV 9-10C	No18	75935	S358	-	台石	砂岩	13.4	16.9	8.0	2450.0	
33	140	IV 9-10C	No20	75937	S358	-	台石	砂岩	19.7	10.9	5.7	1200.0	石全体が焼熟
33	141	IV 9-10C	No35	76093	S358	-	台石	安山岩	34.4	29.0	9.1	13000.0	
36	181	IV 9-10D	No54	76420	S383	-	石鏝	チャート	2.2	1.3	0.5	1.1	
36	182	IV 9-10D	S-10	76372	S383	-	石鏝未成品	-	2.0	1.4	0.6	1.9	
36	183	IV 9-10D	No45	76408	S383	-	石鏝未成品	サヌカイト	2.6	2.1	0.5	2.6	
36	184	IV 9-10D	S-67	76433	S383	-	サム・スクレイパー	-	2.6	1.9	0.7	3.3	
36	185	IV 9-10D	-	76242	S383	-	剥片	チャート	2.5	2.1	0.8	3.6	
37	186	IV 9-10D	S-98	76464	S383	-	スクレイパー	珪化泥岩	2.7	2.7	0.7	4.5	
37	187	IV 9-10D	-	-	S383	-	剥片	泥板岩	3.1	2.5	0.9	6.0	
37	188	IV 9-10D	-	76242	S383	-	剥片	泥岩	3.8	3.4	0.6	10.3	
37	189	IV 9-10D	S-16	76378	S383	-	剥片	流紋岩?	2.2	4.2	1.0	8.2	
37	190	IV 9-10D	S-65	76431	S383	-	剥片	泥岩	2.8	5.1	1.1	16.7	
37	191	IV 9-10D	-	76242	S383	-	スクレイパー	流紋岩?	3.9	4.3	1.4	30.8	
37	192	IV 9-10D	-	-	S383	-	砥石	粘板岩?	4.0	2.4	0.6	9.6	
37	193	IV 9-10D	No27	76389	S383	-	砥石	-	7.0	6.7	4.0	261.0	

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	取上番号	遺物番号	遺構	層位	種類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考	
37	194	IV	9-10D	No5	76367	S383	-	台石	安山岩	30.2	20.0	7.5	5200.0	
38	195	IV	9-10D	No94	76460	S383	-	台石	安山岩	20.8	19.2	8.1	5000.0	
38	196	IV	9-10D	No52	76418	S383	-	台石	砂岩	21.5	14.4	8.5	4000.0	
38	197	IV	9-10D	No89	76455	S383	-	台石	安山岩	24.1	12.7	6.5	2400.0	
38	198	IV	9-10D	No95	76461	S383	-	台石	砂岩	24.7	23.5	6.5	6400.0	
42	200	II	3E	No10	6454	S077	I	台石・石皿	砂岩	20.5+ α	21.0+ α	10.7	6000.0	
45	201	II	8G	-	5866	S083	-	石鏝未成品	黒曜岩	1.8	0.9	0.2	0.3	
45	202	II	8G	No22	6187	S083	-	敲石	砂岩	6.2+ α	4.2+ α	1.6+ α	54.3	破片
45	203	II	8H	No61	7724	S083	-	敲石	砂岩	6.2	7.9	5.7	382.3	
48	204	II	5F	No6	7304	S124	-	台石	砂岩	11.2+ α	20.3	8.4	2800.0	
54	207	II	6E	No58	6754	S157	a	石鏝	赤色頁岩	1.5	1.3	0.25	0.4	尖端が破損
54	208	II	6E	-	7014	S157	a	石鏝	サヌカイト	1.5	1.0	0.3	0.4	
54	209	II	6E	-	7612	S157	-	石斧	無珪晶安山岩	5.5	4.8	2.1	85.4	製作時の破損
54	210	II	6E	-	7612	S157	-	石斧	無珪晶安山岩	9.3	5.2	3.0	169.0	製作時の破損
54	211	II	6E	No198	7327	S157	-	敲石	砂岩	6.7	5.4	2.6	-	
54	212	II	6E	No19	6715	S157	a	磨石	泥岩	5.4	8.4	4.7	-	
54	213	II	6E	No2	6698	S157	a	敲石	泥岩	7.3	7.2	5.5	-	
55	214	II	6E	No199	7328	S157	-	台石・石皿	砂岩	23.6+ α	9.8+ α	9.8	2500.0	破損
55	215	II	6E	No183	7312	S157	-	台石・石皿	砂岩	21.3+ α	11.1+ α	7.9	2600.0	破損
55	216	II	6E	No196	7325	S157	-	台石・石皿	砂岩	21.3	22.3	5.2	3400.0	
56	217	II	6E	No16	7340	S158	-	石鏝	サヌカイト	1.5	1.1	0.35	0.5	右脚を破損
56	218	II	6E	No49	7599	S158	-	敲石・磨石	輝石安山岩	9.1	7.3	3.4	345.6	
58	226	II	6E	No59	7267	S159	a	敲石	砂岩	8.6	8.6	3.8	-	
61	228	II	6E	No69	7247	S160	a	敲石・磨石	泥岩	8.6	6.7	3.1	-	破損
61	229	II	6E	No52	7230	S160	a	敲石・磨石	ホルンフェルス	8.3	7.1	3.8	-	破損
61	230	II	6E	No43	7221	S160	a	敲石・磨石	砂岩系安山岩	8.7	8.6	4.9	-	
61	231	II	6E	No56	7234	S160	a	台石	砂岩	22.7+ α	13.6+ α	5.7	2900.0	破損
61	232	II	6E	No71	7249	S160	a	敲石・磨石	砂岩	11.9	10.0	5.8	-	
63	234	II	7F	677	7353	S162	-	敲石・礮器	凝灰岩	9.3	10.1	4.4	470.3	敲石転用の礮器
65	235	II	7E	No7	7375	S164	-	敲石	砂岩	11.0	6.5	4.2	459.3	
67	237	II	6F	-	7080	S172-4	-	細石刃	腰岳半田系黒曜岩	1.5	0.45	0.2	0.1	縄文時代草創期
68	239	II	7E	No1	7397	S186	-	敲石・磨石	-	7.6	9.4	2.2	269.3	
68	240	II	7E	No8	7404	S186	-	敲石・磨石	砂岩	13.5	8.5	2.8	391.6	
77	264	IV	8E	-	75530	S347	-	石鏝	チャート	1.5	1.0	0.3	0.4	
77	265	IV	8E	-	75530	S347	-	石鏝	チャート	1.7	1.2	0.3	0.5	
77	266	IV	8E	-	75530	S347	-	石鏝	チャート	2.8	1.5	0.5	1.6	未成品か
77	267	IV	-	-	-	S347	-	Uフレ	チャート	1.6	1.2	0.4	0.9	
77	268	IV	8E	-	75530	S347	-	Uフレ	チャート	2.6	1.5	0.6	2.4	
77	269	IV	8E	-	75530	S347	-	楔形石器	赤チャート	2.5	2.6	0.6	5.1	
77	270	IV	8E	-	75530	S347	-	剥片	泥岩	3.7	2.3	0.8	6.5	
77	271	IV	8E	-	75530	S347	-	Uフレ	珪化泥岩	4.0	1.9	0.7	3.8	
77	272	IV	8E	S-14	75660	S347	-	剥片	泥岩	3.9	4.8	0.6	8.0	
77	273	IV	8E	-	75709	S347	-	礮器	硬砂岩	6.2	6.1	3.1	115.0	
77	274	IV	8E	S-1	75647	S347	-	礮器	砂岩	8.6	9.8	4.4	492.1	
77	275	IV	8E	S-15	75661	S347	-	礮器	砂岩	11.6	10.7	5.4	799.3	
77	276	IV	8E	No22	75668	S347	-	台石	安山岩	27.3+ α	25.1+ α	6.5+ α	7500.0	
78	277	IV	8E	-	75530	S347	-	敲石	砂岩	6.3	4.3	3.6	129.3	
78	278	IV	8E	23	-	S347	-	磨石	角閃石安山岩	8.4	8.8	4.1	448.6	
78	279	IV	8E	-	75687	S347	-	台石	砂岩	9.5	27.9	7.9	2150.0	破損
80	293	IV	8-9F	S-31	76042	S370	-	石鏝未成品	チャート	4.4	2.8	0.9	10.1	所謂「尖頭状石器」
80	294	IV	8-9F	S-58	76168	S370	-	石斧	流紋岩	9.5	6.4	2.1	145.9	
80	295	IV	8-9F	No20	75999	S370	-	台石	安山岩	33.5	28.5	8.0	10500.0	
81	299	IV	-	-	-	S372	-	楔形石器	チャート	2.0	1.6	0.5	1.9	S370に帰属する可能性有
82	300	IV	-	-	-	S372	-	スクレイパー	チャート	3.7	4.9	1.3	17.9	
84	301	II	2H	No1	3845	S040	-	石皿	輝石安山岩	29.3	15.8	11.6	8000.0	2H No1 と 2H No3 接合
91	304	II	0E	-	2626	S075	III	敲石・磨石	硬砂岩	8.1	7.3	3.6	317.3	1F No 4861 と 4862 接合
97	305	II	7F	-	-	S147	-	剥片	堆積岩	7.0+ α	2.6	0.9	19.6	
103	308	II	7E	No3	7382	S205	-	剥片	腰岳半田系黒曜岩	5.4	2.8	0.25	1.2	
109	311	III	8E	No1	72818	S249	-	台石・石皿	砂岩	32.4	31.7	7.4	13000.0	
124	321	II	2H	27	5748	S042	III	石皿	輝石安山岩	19.1	19.5	8.0	5000.0	
124	322	II	2H	No1	5747	S042	III	台石・石皿	砂岩	37.3	23.1	7.7	8700.0	
129	323	II	4H	-	5100	S051	III	台石	安山岩?	21.0	24.5	8.2	5650.0	
135	324	II	2E	-	5334	S065	III a	Uフレ	流紋岩	6.3	4.0	1.4	37.2	
137	325	IV	3E	No1	6227	S070	III a	環状石斧	砂岩	6.8+ α	8.1+ α	2.3	123.7	
145	326	IV	10F	S-1	73645	S329	-	エンド・スクレイパー	流紋岩	4.2	2.9	1.0	8.1	旧石器
145	327	IV	10F	S-2	74381	S329	III b	剥片	珪化泥岩	1.5	2.7	0.5	2.1	
147	328	IV	9E	No1	75711	S339	III b	台石	砂岩	16.6	11.4	5.9	1400.0	石全体が破損
147	329	IV	-	-	-	S339	III b	剥片	流紋岩	3.6	3.0	1.0	11.6	
162	331	III	1E	-	6213	S067	-	石鏝	チャート	2.1	1.5	0.4	1.1	左脚部破損
170	332	IV	-	No150	-	S330	-	石皿	砂岩	15.6	20.8	6.3	2800.0	
173	334	IV	8E	17	-	S338	III b	磨石	安山岩	6.1	5.6	1.9	97.5	
176	335	IV	-	-	-	S334	-	石核	泥岩	3.2	3.8	2.5	37.7	
176	336	IV	-	-	-	S334	-	石核	砂岩	18.4	14.7	5.9	2500.0	
177	337	IV	-	-	-	S337	-	磨石	角閃石安山岩	12.7	7.7	7.3	931.9	半割破損
181	338	IV	-	No30	-	S350	-	台石	安山岩	26.2	18.3	8.8	5850.0	
183	339	IV	-	No20	-	S382	-	台石	砂岩	15.7	14.0	10.0	2150.0	
183	340	IV	-	No13	-	S382	-	台石	砂岩	18.5	15.6	9.0	3500.0	
188	343	II	0E	-	2461	S059	III a	凹石	砂岩	9.3	8.2	4.9	506.1	

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	取上番号	遺物番号	遺構	層位	種類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考	
188	344	II	0F	-	2872	S059	III	台石・石皿	砂岩	24.1	18.8	6.9	4000.0	
189	345	II	7G	-	5916	S078	III	細石刃	黒曜岩	1.1	0.8	0.2	0.2	
189	346	II	7G	-	5916	S078	III	剥片	黒曜岩	2.0	1.6	0.1	0.5	
201	348	II	0F	-	7163	S100	a	敲石・磨石	砂岩	4.8	8.0	2.0	65.4	破損
201	349	II	0F	-	7163	S100	a	敲石・磨石	砂岩	10.2	8.0	5.0	503.2	
202	350	II	0F	-	5138	S101	III a	敲石・磨石	砂岩	10.0	9.0	4.8	-	
212	351	II	1H	-	7753	S110	-	台石・石皿	砂岩	36.3	40.7	10.4	24000.0	鎌器状のハツリ
215	352	II	3H	No3	7431	S113	-	スクレイパー	流紋岩	9.1	3.3	1.3	42.2	旧石器
221	353	II	1E	No1	7167	S122	a	スクレイパー	珪質泥岩	4.05	5.2	1.45	28.1	
244	356	II	5E	No1	7754	S155	-	台石	砂岩	24.2	25.2	7.6	6500.0	
245	357	II	1E	-	4677	S156	III	石彫形敲石	砂岩	13.3	8.0	4.7	787.5	被熱あり
256	365	II	7F	-	7146	S178	a	礫器	硬岩	5.7	7.3	3.5	187.8	
261	369	II	7E	No1	7409	S185	-	台石	砂岩	10.8+α	5.5	3.6	213.0	石全体が被熱
272	370	II	6F	No1	7436	S208	-	敲石・磨石	角閃石安山岩	8.5	7.1	3.9	341.9	
289	377	III	8D	No1	72819	S252	III	敲石・磨石	砂岩	8.1+α	7.5	3.8	394.4	
304	385	IV	8E	-	75533	S353	-	Uフレ	チャート	2.0	1.0	0.4	0.8	
307	388	IV	9F	8?	-	S367	-	敲石	砂岩	11.9	6.2	3.6	317.9	
311	392	II	8F	-	-	S370	-	石核	泥岩・チャート	3.4	2.4	1.9	15.4	S370内の土坑 S371 出土
312	395	IV	8-9F	No22	76030	S372	-	敲石	砂岩	8.0	7.2	6.1	560.0	
314	397	IV	9D	No2	76253	S381	-	台石	砂岩	21.1	22.0	7.7	4000.0	
344	415	II	5E	P-4	5923	-	III	細石刃石核	腰岳半田系黒曜岩	3.2	4.5	2.05	10.0	旧石器
344	416	II	1G	S-11	3133	-	III	細石刃	腰岳半田系黒曜岩	1.5	1.2	0.05	0.2	旧石器
344	417	II	2E	S-82	6359	-	III a	Uフレ	腰岳半田系黒曜岩	1.8	1.1	0.2	0.5	旧石器
344	418	II	7E	-	6618	-	-	Uフレ	腰岳半田系黒曜岩	2.45	1.3	0.25	6.7	旧石器
344	419	II	7E	S-1	6236	-	III	Rフレ	腰岳半田系黒曜岩	4.25	2.7	0.45	4.1	旧石器
344	420	II	7D	S-2	6405	-	III	細石核原形	腰岳半田系黒曜岩	4.5	5.6	1.0	34.68	旧石器
345	421	III	8E	S-4	72803	-	III	ナイフ形石器	泥岩	4.0	2.0	0.5	6.5	旧石器
345	422	II	4F	S-4	5643	-	III a	石刃尖頭器	泥岩	4.6	1.6	1.0	6.2	旧石器
345	423	IV	-	-	-	表採	-	石刃尖頭器	珪化泥岩	6.3	2.4	1.1	11.9	旧石器
345	424	II	3F	S-11	5655	-	III	石刃尖頭器	チャート	8.3	2.2	1.5	26.0	旧石器
345	425	IV	11F	-	73724	-	III b	石錐	チャート	2.1	1.9	0.4	1.4	旧石器
345	426	IV	11F	S-5	73636	-	III b	スクレイパー	チャート	4.7	2.7	1.1	17.8	旧石器
345	427	II	2I	S-26	1297	-	II	スクレイパー	チャート	4.8	3.4	1.0	19.3	旧石器
345	428	IV	-	-	-	表採	-	スクレイパー	流紋岩	4.9	3.5	1.0	19.7	旧石器
345	429	II	5F	No10	7101	S126	-	Uフレ	泥岩	4.7	3.0	1.1	14.9	旧石器
345	430	II	2D	S-14	4758	-	III	Uフレ	流紋岩	9.2	4.3	2.3	74.4	旧石器
345	431	II	0G	S-12	1934	-	III	Uフレ	安山岩	6.8	5.0	0.75	33.7	旧石器
346	432	II	8F	No2	7688	S183	-	石刃尖頭器	流紋岩・泥岩	5.4	1.5	0.8	5.6	旧石器
346	433	II	0G	S-47	-	-	II	ナイフ形石器	姫島産黒曜岩	4.25	1.9	0.5	6.1	旧石器
346	434	II	2I	S-26	1383	-	III	スクレイパー	流紋岩	5.9	2.8	1.4	22.9	旧石器
346	435	IV	12E	S-16	74029	-	III b	スクレイパー	チャート	4.0	3.6	0.8	10.3	旧石器
346	436	IV	-	-	-	表採	-	スクレイパー	流紋岩?	3.1	4.4	1.2	15.4	旧石器
346	437	IV	11F	S-6	73637	-	III b	スクレイパー	チャート	4.4	5.2	0.5	18.3	旧石器
346	438	IV	10D	S-20	75020	-	III b	スクレイパー	チャート	4.4	3.0	1.1	14.6	旧石器
346	439	II	0G	S-25	60	-	II	Uフレ	姫島産黒曜岩	1.3	1.4	0.2	0.5	旧石器
346	440	IV	11E	-	73618	-	III	Rフレ	チャート	2.1	1.9	0.6	1.8	旧石器
346	441	II	0G	S-44	4639	-	III a	エンド・スクレイパー	流紋岩	4.8	2.5	0.6	12.5	旧石器
346	442	II	6F	-	6162	-	III	エンド・スクレイパー	泥岩	2.8	2.3	0.45	2.9	旧石器
346	443	III	9D	S-22	72796	-	III	Rフレ	安山岩?	7.2	9.7	3.2	207.1	旧石器
346	444	IV	8E	S-99	75076	-	III b	石核	チャート	3.1	2.8	1.6	13.8	旧石器
346	445	IV	8E	S-110	75087	-	III b	Uフレ	珪化泥岩	3.6	4.6	2.4	-	旧石器
346	446	II	7D	P-15	6340	-	II	ヘラ状石器	流紋岩?	7.5	5.5	1.9	79.7	旧石器
347	447	II	0E	S-115	3252	-	III	Rフレ	珪質頁岩	7.25	7.05	2.15	88.5	旧石器
347	448	II	2F	S-14	4832	-	II	剥片	流紋岩	5.6	4.2	2.6	54.6	旧石器
347	449	IV	-	-	-	表採	-	石核	泥岩	5.6	4.9	3.6	110.6	旧石器
347	450	II	2J	S-2	3861	-	II	石核	泥岩	11.0	5.7	3.5	176.0	旧石器
348	451	IV	-	-	-	表採	-	石核	泥岩	4.4	4.5	6.2	141.5	旧石器
348	452	IV	-	-	-	表採	-	石核	泥岩	6.1	7.1	6.4	301.0	旧石器
348	453	IV	-	-	-	表採	-	石刃	泥岩	5.3	2.6	1.0	12.9	旧石器
348	454	IV	-	-	-	表採	-	石刃	流紋岩	5.7	2.3	1.1	13.9	旧石器
348	455	IV	-	-	-	表採	-	石刃	サヌカイト	3.9	1.9	0.7	4.7	旧石器
348	456	II	-	-	1046	表採	-	石刃	流紋岩	5.7	2.85	0.95	14.3	旧石器
348	457	IV	-	-	-	表採	-	石刃	泥灰岩	7.8	3.2	1.3	33.8	旧石器
349	458	IV	-	-	-	表採	-	石刃	流紋岩	4.3	1.5	0.8	4.3	旧石器
349	459	IV	-	-	-	表採	-	剥片	泥岩	5.3	3.6	1.3	18.4	旧石器
349	460	IV	-	-	-	表採	-	石刃	流紋岩	7.1	1.9	1.5	21.6	旧石器
349	461	IV	-	-	-	表採	-	石刃	泥岩	6.7	2.8	1.1	20.2	旧石器
349	462	IV	-	-	-	表採	-	剥片	泥岩	6.2	3.4	1.1	13.7	旧石器
349	463	IV	-	-	-	表採	-	石刃	泥岩	5.7	2.7	1.4	15.3	旧石器
349	464	IV	-	-	-	表採	-	剥片	泥岩	7.9	4.3	1.9	48.0	旧石器
349	465	IV	9F	S-10	72986	-	II	剥片	チャート	3.5	2.0	0.6	4.5	旧石器
349	466	IV	9C	-	75611	-	II	細石刃	頁岩?	3.8	1.3	0.4	2.0	旧石器
349	467	II	2I	S-20	1291	-	-	石刃	泥岩	3.9	2.05	0.65	5.0	旧石器
349	468	IV	10C	S-9	74681	-	II	石刃	珪化泥岩	3.5	2.6	0.7	4.8	旧石器
349	469	II	4H	S-13	704	-	II	石刃	泥岩	4.2	2.7	0.2-0.6	9.1	旧石器
349	470	II	2I	S-32	1303	-	II	石刃	流紋岩	6.2	2.4	0.8	13.8	旧石器
349	471	II	3G	-	632	-	II	石刃	流紋岩	6.1	1.8	0.7	8.4	旧石器
349	472	II	3H	S-10	434	-	II	石刃	流紋岩	6.7	1.5	0.7	10.8	旧石器
350	473	II	8F	No8	7630	S223	-	剥片	泥岩	4.9	2.4	0.8	9.0	旧石器

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	取上番号	遺物番号	遺構	層位	種類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考	
350	474	II	2F	-	5439	-	石刃	泥岩	6.5	3.5	1.0	14.4	旧石器	
350	475	IV	10F	-	73072	表採	剥片	安山岩	5.4	3.7	0.7	19.3	旧石器	
350	476	II	1G	-	2788	-	石刃	泥岩	9.7	3.2	1.55	53.6	旧石器	
350	477	II	6E	S-11	6140	-	石刃	砂岩	9.8	3.3	1.6	-	旧石器	
350	478	IV	8E	S-11	73811	-	III b	石刃	泥岩	2.7	1.9	0.6	2.9	旧石器
350	479	II	3F	S-8	5603	-	III a	石刃	泥岩	3.6	2.1	0.65	4.5	旧石器
350	480	II	4G	S-11	4573	-	III	石刃	チャート	3.1+a	1.8	0.8	5.8	旧石器
350	481	II	1G	-	2788	-	III	石刃	-	4.85	2.2	0.75	7.8	旧石器
350	482	II	-	-	6639	-	III	Uフレ	泥岩	4.05	2.25	0.9	6.4	旧石器
350	483	II	3H	S-9	2144	-	III	石刃	泥岩	6.4	2.1	1.0	17.9	旧石器
350	484	II	1I	-	1780	-	III	剥片	-	6.1	3.4	1.05	20.9	旧石器
350	485	II	6H	S-2	6463	-	III	石刃	泥岩	8.7	2.5	1.1-1.4	26.8	旧石器
351	486	II	1E	S-71	4124	-	III	石刃	流紋岩	7.05	4.65	1.35	43.6	旧石器
351	487	II	3I	-	1407	表採	III	石刃	泥岩	11.3	3.0	1.7	57.2	旧石器
351	488	II	2D	S-4	4620	-	III	石刃	泥岩	7.4	3.15	0.95	25.5	旧石器
351	489	IV	9D	S-44	74966	-	III a	石刃	流紋岩	2.8	1.4	0.5	2.3	旧石器
351	490	II	1G	S-13	3852	-	III	石刃	流紋岩	7.2	2.3	0.9	14.9	旧石器
351	491	IV	-	-	-	表採	-	ナイフ形石器	サヌカイト	3.5	2.6	1.1	9.5	旧石器
351	492	IV	-	-	-	表採	-	剥片	珪化泥岩	4.4	4.7	1.8	41.2	旧石器
351	493	IV	-	-	-	表採	-	剥片	珪化泥岩	2.9	4.4	0.8	10.2	旧石器
351	494	II	6F	S-9	6110	-	II	剥片	チャート	3.3	1.3	0.6	1.9	旧石器
351	495	II	8F	No.30	7048	S162	-	剥片	チャート	2.4	2.3	0.8	3.2	旧石器
351	496	IV	11F	S-6	73097	-	II	剥片	流紋岩	2.6	1.9	0.6	2.6	旧石器
351	497	IV	9G	-	72959	-	II	剥片	流紋岩	3.1	2.3	0.9	5.9	旧石器
351	498	IV	9G	-	72959	-	II	剥片	チャート	2.4	3.5	0.7	4.5	旧石器
351	499	IV	12E	S-3	73102	-	II	剥片	流紋岩	3.3	2.5	0.9	8.0	旧石器
352	500	IV	8E	-	72957	-	II	剥片	泥岩	3.9	3.4	0.6	7.4	旧石器
352	501	II	1G	S-34	329	-	II	剥片	チャート	4.0	3.05	8.0	9.6	旧石器
352	502	IV	10C	S-15	75722	-	II	剥片	珪化泥岩	3.7	2.9	0.9	7.6	旧石器
352	503	II	4G	S-10	771	-	II	剥片	ガラス質安山岩	5.1	1.95	1.2	9.0	旧石器 姫島産
352	504	IV	8F	S-4	72951	-	II	剥片	流紋岩	5.4	4.3	1.0	18.1	旧石器
352	505	IV	10F	-	72970	表採	II	剥片	チャート	2.8	4.0	0.9	10.6	旧石器
352	506	II	3H	S-12	436	-	II	剥片	流紋岩	5.9	2.1	0.6	10.4	旧石器
352	507	II	4G	S-18	779	-	II	石刃	流紋岩	5.5	2.0	0.8	10.0	旧石器
352	508	II	4F	No.44	7779	-	IV	剥片	泥岩	7.3	2.85	1.45	25.5	旧石器
352	509	II	4G	S-34	917	-	II	剥片	-	8.0	6.1	1.8	92.8	旧石器
352	510	II	0E	S-120	1015	-	II	剥片	砂岩	5.0	8.1	1.6	53.7	旧石器
352	511	IV	10D	S-18	74899	-	III a	剥片	泥岩	2.9	3.4	1.0	6.7	旧石器
352	512	IV	9F	-	73533	-	III	剥片	流紋岩	3.1	3.4	0.7	7.1	旧石器
352	513	IV	9F	-	73533	-	III	剥片	泥岩	3.7	3.7	0.6	8.7	旧石器
352	514	IV	8E	-	-	-	III	剥片	泥岩	3.4	3.7	1.0	8.1	旧石器
352	515	IV	10C	S-11	75394	-	III a	剥片	流紋岩	3.5	2.9	0.8	5.5	旧石器
352	516	III	2E	S-50	5161	-	III a	剥片	チャート	1.1	3.5	1.2	-	旧石器
352	517	IV	9D	S-41	74963	-	III a	剥片	-	4.4	2.8	0.6	6.8	旧石器
353	518	IV	9F	S-18	73216	-	III	剥片	泥岩	4.8	2.9	1.2	16.2	旧石器
353	519	IV	11E	S-7	73612	-	III	ナイフ形石器	流紋岩	3.8	6.4	0.8	22.0	旧石器
353	520	II	-	-	3429	-	III	剥片	泥岩	5.1	2.5	0.9	7.7	旧石器
353	521	II	4G	S-6	4224	-	III	剥片	泥岩	4.15	2.35	1.1	10.0	旧石器
353	522	II	3F	S-15	6069	-	III	Uフレ	珪化泥岩	5.3	4.1	1.6	35.2	旧石器
353	523	II	1I	S-6	1255	-	III	剥片	泥岩	8.1	3.7	1.1	29.1	旧石器
353	524	II	4F	S-24	5772	-	III	剥片	安山岩	6.2	6.1	1.6	48.7	旧石器
353	525	II	3F	S-5	5554	-	III a	剥片	安山岩	6.8	4.6	1.3	36.9	旧石器
353	526	IV	8E	S-39	73903	-	III b	Uフレ	流紋岩	3.2	5.2	0.7	13.5	旧石器
353	527	II	0E	S-30	2296-②	-	III a	チップ	チャート	1.35	0.8	0.2	0.2	旧石器
353	528	IV	10D	-	74549	表採	-	剥片	チャート	2.8	1.8	0.7	2.9	旧石器
353	529	II	0D	S-3	3307-②	-	III	剥片	チャート	2.95	2.4	0.65	5.5	旧石器
353	530	II	2I	S-11	363	-	II	剥片	流紋岩	2.7	4.6	0.8	11.4	旧石器
353	531	II	4G	S-3	764	-	II	石刃	流紋岩	3.8	0.8	0.5	2.7	旧石器
353	532	II	2I	S-22	1379	-	III	剥片	流紋岩	7.9	3.6	1.0	32.8	旧石器
353	533	II	2I	S-21	1292	-	II	剥片	流紋岩	6.0	3.9	1.3	26.9	旧石器
416	1850	IV	-	-	-	表採	-	石鏃	頁岩?	1.0+a	0.9+a	0.2	0.2	尖端部
416	1851	II	1G	S-28	300	-	II	石鏃	緑色頁岩	1.3	1.2	0.3	0.4	
416	1852	II	0D	S-14	2844	-	III	石鏃	チャート	1.4+a	1.5+a	0.3	0.4	
416	1853	II	0D	S-26	2993	-	III	石鏃	チャート	1.3	1.6	0.3	0.4	
416	1854	II	0D	S-26	2993	-	III	石鏃	チャート	1.2	1.6	0.5	0.4	
416	1855	II	3F	S-1	5249	-	III a	石鏃	腰岳半田系黒曜岩	2.0	1.3	0.35	0.7	
416	1856	II	4G	S-45	928	-	II	石鏃	チャート	1.5+a	1.8	0.3	0.6	
416	1857	II	0G	S-9	44	-	II	石鏃	姫島産黒曜岩	1.7	1.6	0.2	0.3	
416	1858	IV	-	-	-	表採	-	石鏃	腰岳半田系黒曜岩	2.3	1.3+a	0.3	0.6	
416	1859	IV	9G	S-3	72872	-	II	石鏃	チャート	1.9	1.8	0.4	1.0	
416	1860	II	1E	S-53	4106	-	III	石鏃	チャート	2.4	1.8	0.4	1.2	
416	1861	II	2I	S-33	1974	-	III	石鏃	チャート	2.1	1.5+a	0.4	0.8	
416	1862	II	0G	S-69	1910	-	II	石鏃	姫島産黒曜岩	1.8+a	1.6+a	0.3	0.5	
416	1863	II	2F	S-7	5134	-	III	石鏃	チャート	2.2	1.5	0.3	0.7	
416	1864	II	1F	S-66	4025	-	III a	石鏃	チャート	2.6	1.8	0.4	1.5	鍬形石鏃
416	1865	IV	10D	S-23	74706	-	II	石鏃	チャート	3.0+a	2.0	0.4	1.8	鍬形石鏃
416	1866	II	1F	S-27	3629	-	III	石鏃	泥岩	2.9	1.8	0.5	2.3	鍬形石鏃
416	1867	II	1F	S-4	3737	-	III a	石鏃	姫島産ガラス質安山岩	2.3	1.7	0.35	0.9	
416	1868	II	0D	S-8	2838	-	III	石鏃	チャート	2.0	1.6	0.5	1.3	

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	取上番号	遺物番号	遺構	層位	種類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考	
416	1869	II	2H	S-5	2061	-	III	石畿	姫島産黒曜岩	2.0	1.6	0.4	0.8	
416	1870	II	3F	S-4	5256	-	II	石畿	チャート	2.2	1.5	0.3	0.8	
416	1871	II	4H	S-17	708	-	II	石畿	チャート	3.3	2.1	0.3	2.6	
416	1872	II	1E	S-3	3605	-	III	石畿	チャート	2.7	1.8	0.5	1.9	
416	1873	IV	9F	S-4	72980	-	II	石畿	針尾産黒曜岩?	2.6	1.6	0.4	1.2	
416	1874	II	0G	S-4	1925	-	III	石畿	チャート	2.1	1.8	0.55	1.3	
416	1875	II	1E	S-32	3634	-	III	石畿	チャート	2.8	1.6	0.5	1.8	
416	1876	II	3E	S-7	5269	-	II	石畿	チャート	2.5	1.6	0.5	2.0	
416	1877	II	2F	S-4	5090	-	III a	石畿	チャート	2.8	1.8	0.5	1.7	
416	1878	II	3G	S-27	649	-	II	石畿	チャート	3.2	2.0	0.4	2.2	
416	1879	II	7D	S-1	6247	-	II	石畿	チャート	2.8	2.0	0.4	2.1	
416	1880	IV	8E	S-11	72956	-	II	石畿	姫島産黒曜岩	2.8+ <i>a</i>	1.8+ <i>a</i>	0.4	2.2	
416	1881	II	6F	S-6	6282	-	III	石畿	チャート	1.7	1.5	0.35	0.6	
416	1882	II	0G	S-1	1891	-	III	石畿	姫島産黒曜岩	2.3	1.6	0.4	0.8	
416	1883	II	2F	-	-	-	-	石畿	姫島産黒曜岩	1.3+ <i>a</i>	1.6	0.3	0.4	
416	1884	IV	8E	N692	74490	-	III b	石畿	姫島産黒曜岩	2.4	1.6	0.3	0.8	
416	1885	II	1F	S-29	3925	-	III a	石畿	チャート	2.2	1.9	0.6	1.7	
416	1886	II	1D	S-11	3426	-	III	石畿	チャート	3.25	2.1	0.5	2.5	
417	1887	II	0F	-	5102	-	III a	石畿	チャート	2.6	1.8	0.5	1.4	
417	1888	II	0D	S-3	3307	-	III	石畿	姫島産黒曜岩	1.45	1.7	0.35	0.8	基部・先端欠
417	1889	II	4E	-	5815	表採	-	石畿	チャート	1.8	1.0	0.3	0.5	
417	1890	III	2E	S-67	5336	-	III a	石畿	チャート	1.9	1.7	0.4	-	
417	1891	III	2E	S-61	5172	-	III a	石畿	チャート	2.7	1.5	0.4	-	
417	1892	III	1E	S-163	4684	-	III	石畿	チャート	2.5	1.5	0.5	1.5	
417	1893	IV	-	-	-	表採	-	石畿	チャート	2.5	2.0+ <i>a</i>	0.5	1.4	
417	1894	IV	-	-	-	表採	-	石畿	チャート	3.0+ <i>a</i>	1.8+ <i>a</i>	0.4	1.5	
417	1895	IV	-	-	-	表採	-	石畿	チャート	2.1+ <i>a</i>	2.3	0.4	1.7	
417	1896	IV	-	-	-	表採	-	石畿	チャート	2.1	1.6	0.4	0.9	
417	1897	IV	-	-	-	表採	-	石畿	チャート	2.8	2.9	0.5	3.6	
417	1898	IV	-	-	-	表採	-	石畿	チャート	1.6	1.9	0.4	1.0	
417	1899	IV	-	-	-	表採	-	石畿	チャート	2.5	1.7	0.4	1.3	
417	1900	IV	-	-	-	表採	-	石畿	チャート	2.6	1.4+ <i>a</i>	0.4	1.9	
417	1901	II	-	-	1046	表採	-	石畿	チャート	2.1+ <i>a</i>	1.9	0.4	1.2	
417	1902	II	-	-	-	表採	-	石畿	姫島産黒曜岩	2.1	1.6	0.35	0.8	
417	1903	II	-	-	213	掘土	-	石畿	チャート	1.5+ <i>a</i>	1.6	0.2	0.3	
417	1904	IV	-	-	-	表採	-	石畿	姫島産黒曜岩	2.1+ <i>a</i>	1.6+ <i>a</i>	0.3	0.6	
417	1905	II	-	-	-	表採	-	石畿	安山岩	2.4	1.8	0.45	1.6	
417	1906	IV	-	-	-	表採	-	石畿	チャート	1.9	2.1	0.5	1.9	破損
417	1907	IV	10C	S-34	75597	-	III b	石畿	チャート	1.2	1.1	0.3	0.4	
417	1908	IV	9F	-	73623	-	III	石畿	チャート	1.8	1.4	0.3	0.7	
417	1909	IV	9C	S-26	75288	-	III a	石畿	-	1.6	1.5	0.5	1.1	
417	1910	II	1F	S-50	3946	-	III a	石畿	チャート	1.7	1.6	0.4	0.9	
417	1911	II	2I	S-4	1361	-	III	石畿	チャート	1.8	1.5	0.4	0.8	
417	1912	II	2C	S-1	5116	-	III	石畿	姫島産黒曜岩	1.1	1.9	0.045	0.7	
417	1913	II	1F	S-63	4022	-	III a	石畿	チャート	2.8	2.3	0.55	3.2	未成品段階か
417	1914	II	3E	S-1	5191	-	II	石畿	チャート	1.7	1.4	0.4	0.7	
417	1915	IV	-	-	-	表採	-	石畿	チャート	2.3	1.1	0.3	0.7	
417	1916	IV	10E	S-2	74493	-	III b	石畿	チャート	2.2	1.2	0.2	0.6	破損品
417	1917	IV	-	-	76560	表採	-	石畿未成品	チャート	1.8	1.1	0.4	0.3	破損品
417	1918	IV	-	-	-	表採	-	石畿	泥岩	2.3+ <i>a</i>	2.2	0.4	2.2	破損品
417	1919	IV	-	-	-	表採	-	ヘラ状石器	チャート	5.2	2.9	1.1	15.4	
418	1920	III	2E	S-54	5165	-	III a	石畿	姫島産黒曜岩	1.8	1.3	0.3	-	
418	1921	IV	-	-	-	表採	-	石畿	珪化泥岩	1.6	1.2	0.4	0.6	
418	1922	IV	-	-	76560	表採	-	石畿	チャート	1.6	1.1	0.2	0.3	
418	1923	IV	-	-	-	表採	-	石畿	姫島産黒曜岩	1.5+ <i>a</i>	1.4+ <i>a</i>	0.4	0.6	
418	1924	IV	-	-	-	表採	-	石畿	チャート	1.5+ <i>a</i>	1.5+ <i>a</i>	0.3	0.7	
418	1925	IV	-	-	-	表採	-	石畿	姫島産黒曜岩	1.3+ <i>a</i>	1.8+ <i>a</i>	0.3	0.4	
418	1926	IV	-	-	-	表採	-	石畿	チャート	1.5	1.1	0.3	0.5	
418	1927	II	-	-	-	表採	-	石畿	安山岩	1.3	1.3	0.45	0.7	
418	1928	IV	-	-	-	表採	-	石畿	珪化泥岩	2.3	1.9	0.4	1.5	
418	1929	II	2E	-	6371	-	III	石畿	チャート	2.9	1.6	0.9	3.5	
418	1930	IV	8E	N675	74403	-	III b	石畿	チャート	2.1	1.3	0.5	1.2	
418	1931	II	0G	S-71	1912	-	II	石畿	金山産サヌカイト	2.6+ <i>a</i>	1.2+ <i>a</i>	0.3	0.9	
418	1932	IV	8C	S-5	74751	-	II	楔形石器	チャート	2.2	2.0	0.6	2.9	
418	1933	II	0E	S-34	2375	-	III a	石畿未成品	チャート	3.1	2.5	0.6	5.0	
418	1934	IV	10C	S-26	75464	-	III b	石畿未成品	チャート	3.3	2.1	0.5	3.9	
418	1935	II	3H	S-11	435	-	II	石畿未成品	チャート	2.6	2.8	0.9	7.6	
418	1936	IV	10C	S-21	75459	-	III b	石畿未成品	チャート	3.2	2.4	0.6	5.6	
418	1937	IV	8E	S-42	73906	-	III b	石畿未成品	チャート	2.9+ <i>a</i>	3.4+ <i>a</i>	0.4	3.7	
418	1938	II	2F	S-14	6225	-	III a	石畿未成品	チャート	1.8	2.6	0.7	3.7	
418	1939	IV	11E	S-6	73611	-	III	石畿未成品	チャート	2.2	2.0	0.7	3.5	
418	1940	II	7D	S-2	6341	-	II	石畿未成品	泥岩	2.8	2.2	0.6	3.5	
418	1941	IV	10C	S-7	74679	-	II	石畿未成品	チャート	2.6	2.2	0.5	3.1	
418	1942	II	1E	-	4932	表採	III	石畿未成品	チャート	1.85	1.75	0.35	1.2	
418	1943	IV	12E	S-2	73363	-	III	石畿未成品	チャート	1.8	2.0	0.6	1.8	
418	1944	II	1F	S-19	1426	-	II	石畿未成品	チャート	2.1	2.0	0.5	2.6	
418	1945	IV	9F	S-72	75350	-	III b	石畿未成品	チャート	2.2	1.9	0.4	1.8	
418	1946	IV	-	-	-	表採	-	石畿未成品	チャート	2.8	2.2	0.6	3.8	
418	1947	IV	-	-	-	表採	-	石畿未成品	チャート	2.9	2.2	0.7	4.6	

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	取上番号	遺物番号	遺構	層位	種類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考		
418	1948	II	-	-	-	-	石籬未成品	チャート	2.7	2.1	0.7	3.7			
418	1949	IV	-	-	-	-	石籬未成品	チャート	2.3	1.4	0.6	1.9			
419	1950	IV	-	-	-	-	石籬未成品	チャート	2.1	1.8+ a	0.4	1.9			
419	1951	IV	-	-	-	-	石籬未成品	チャート	2.3	2.0	1.1	4.9			
419	1952	IV	-	-	-	-	石籬未成品	チャート	2.0	2.5	0.8	3.2			
419	1953	II	-	-	-	-	尖頭状石器	安山岩	6.9	4.5	2.1	46.3			
419	1954	II	1E	-	1127	-	II	石籬未成品	チャート	2.2	1.4	0.7	1.8		
419	1955	II	5G	S-6	5446	-	III	尖頭状石器	チャート	4.45	2.7	1.0	13.8		
419	1956	IV	-	-	-	-	石籬未成品	チャート	3.2	2.6	0.9	8.0			
420	1957	IV	-	-	-	-	表採	-	トロトロ石器	チャート	1.6	1.8	0.4	0.9	
420	1958	IV	-	-	-	-	表採	-	トロトロ石器か	チャート	2.1	1.2	0.3	1.0	
420	1959	IV	10D	S-13	74894	-	III a	トロトロ石器	チャート	2.9	2.2	0.4	2.9		
420	1960	IV	9E	S-17	74488	-	III	石籬	チャート	1.8	1.3	0.3	1.1		
420	1961	IV	-	-	-	-	表採	-	石籬	チャート	2.2	1.1	0.6	1.7	
420	1962	III	2E	S-70	5339	-	III a	石籬	チャート	2.3	1.9	0.4	-		
420	1963	IV	-	-	-	-	表採	-	石籬	チャート	4.4	2.0	1.2	9.3	角錐状石器?
420	1964	II	3I	S-3	389	-	II	スクレイパー	姫島産黒曜岩	3.9	3.2	1.6	21.0		
420	1965	II	-	-	-	-	表採	-	スクレイパー	安山岩	4.6	8.6	1.5	58.0	
420	1966	II	0G	S-2	1892	-	III	石匙	安山岩	4.2	7.15	1.0	22.2		
420	1967	II	4H	-	2914	-	III	石匙	安山岩	4.2	8.2	1.1	25.0		
420	1968	II	1G	S-1	71	-	II	石匙	姫島産黒曜岩	4.4	1.8	0.7	5.5		
420	1969	II	3F	S-7	5349	-	II	石匙	サスカイト	8.2	3.1	1.2	26.4		
421	1970	II	0E	S-107	3244	-	III	サムエンド	泥岩	2.8	2.1	0.7	4.4		
421	1971	IV	9D	S-35	74957	-	III b	スクレイパー	チャート	3.6	1.8	0.6	4.6		
421	1972	II	4H	S-82	950	-	II	石籬	珪化頁岩	3.7	2.4	0.8	7.8		
421	1973	II	3I	S-27	557	-	II	スクレイパー	ガラス質安山岩	4.4	3.4	1.1	20.2		
421	1974	IV	9C	S-39	75553	-	III b	スクレイパー	泥板岩	5.8	3.9	0.8	27.0		
421	1975	II	-	-	-	-	-	スクレイパー	流紋岩	6.9	4.7	2.1	66.5		
421	1976	IV	8E	S-103	75080	-	III b	楔形石器	珪化泥岩	4.3	2.9	0.8	11.6		
421	1977	II	3H	S-32	456	-	II	スクレイパー	緑泥片岩	4.7	3.8	0.9	21.5		
421	1978	II	1F	S-1	6912	-	IV	スクレイパー	流紋岩	7.3	4.6	1.3	52.2	旧石器	
421	1979	II	0G	S-12	47	-	II	スクレイパー	安山岩	4.0+ a	4.6	0.6	14.9		
421	1980	II	4F	N61	7120	S130	-	Uフレ	熔結凝灰岩	3.9	4.7	1.3	20.4		
422	1981	II	1H	S-24	249	-	II	スクレイパー	チャート	4.2	6.0	1.3	31.7		
422	1982	IV	9F	S-7	73199	-	III	剥片	サスカイト	2.7	8.2	0.9	14.2		
422	1983	II	2E	S-1	6610	-	IV	スクレイパー	泥岩	7.2	8.0	1.8	110.0	旧石器	
422	1984	IV	9F	-	73714	-	III b	Rフレ	チャート	1.9	1.4	0.4	0.9		
422	1985	IV	9D	S-44	74966	-	III a	楔形石器	珪化泥岩	1.8	2.4	0.3	1.6		
422	1986	IV	11E	-	73108	-	II	石籬未成品	姫島産黒曜岩	2.0	1.8	0.6	1.6		
422	1987	IV	8E	S-17	73853	-	III a	石籬未成品	チャート	2.5	2.1	0.5	2.3		
422	1988	IV	-	-	-	-	表採	-	石籬未成品	泥岩	2.2	2.3	0.5	2.6	
422	1989	II	1E	S-157	4678	-	III	石籬未成品	珪質泥岩	3.05	2.25	4.0	3.4		
422	1990	IV	11E	S-4	73116	-	II	石籬未成品	チャート	2.8	2.5	0.7	5.8		
422	1991	II	0E	S-62	2482	-	III	石籬未成品	チャート	2.7	2.4	0.55	3.8		
422	1992	II	3F	S-5	5257	-	II	石籬	チャート	2.9	1.9	0.9	3.3		
422	1993	IV	10D	S-27	74737	-	II	楔形石器	チャート	2.0	1.6	0.6	3.0		
422	1994	IV	12E	S-10	73662	-	III b	スクレイパー	チャート	2.4	3.7	1.1	8.2		
422	1995	II	1F	S-14	1421	-	II	サム・スクレイパー	チャート	3.0	3.6	0.8	10.2		
422	1996	II	1F	-	-	-	-	石籬	姫島産黒曜岩	3.0	1.8	0.6	2.2		
422	1997	II	4G	S-59	942	-	II	スクレイパー	赤チャート	3.7	2.3	1.1	12.9		
422	1998	II	0D	S-12	2842	-	III	石籬未成品	チャート	2.3+ a	2.7	0.55	4.2		
422	1999	II	2I	S-43	2123	-	III	剥片	チャート	6.1	4.5	1.95	53.7		
422	2000	II	-	S-12	1419	-	III	石匙	大型チャート	2.9	4.1	0.8	9.8		
422	2001	II	-	S-52	3948	-	III a	スクレイパー	チャート	4.3	3.6	0.75	13.9		
423	2002	III	1E	S-149	4378	-	III	石籬	姫島産黒曜岩	1.4	1.6	0.5	1.0		
423	2003	IV	10C	S-25	75463	-	III b	Rフレ	流紋岩	2.2	2.6	0.9	4.3		
423	2004	IV	9F	-	73533	-	III	剥片	安山岩	4.0	2.3	0.6	5.2		
423	2005	II	4H	S-14	3211	-	III	スクレイパー	流紋岩	3.1	4.3	1.3	23.5		
423	2006	II	3F	-	-	-	III a	Rフレ	泥岩	5.75	2.3	1.1	15.1	旧石器か?	
423	2007	IV	10D	S-1	74612	-	II	スクレイパー	頁岩	3.4	3.7	0.7	9.8		
423	2008	II	7E	S-11	6600	-	III	Uフレ	チャート	3.8	3.3	0.95	12.6		
423	2009	IV	10D	-	74901	-	III a	Rフレ	凝灰岩	4.5	3.6	1.3	19.6		
423	2010	II	1E	S-153	4382	-	III	剥片	ガラス質安山岩	4.3	2.4	0.9	14.6		
423	2011	III	9C	-	72537	-	III	Rフレ	チャート	3.5	3.9	1.0	12.7		
423	2012	II	4F	S-3	5602	-	III a	剥片	泥岩・安山岩	4.8	2.4	1.15	8.4	旧石器か?	
423	2013	II	1E	S-92	4295	-	III	剥片	泥岩	3.3	3.7	1.0	14.0		
423	2014	II	0H	S-2	2914	-	III	剥片	緑色片岩	5.3	2.5	0.9	10.4		
423	2015	II	4F	S-34	6229	-	III	剥片	泥岩	5.4	6.4	1.4	48.5		
423	2016	II	2D	S-13	4757	-	III	剥片	珪質泥岩	4.65	6.5	1.35	51.1		
424	2017	II	0E	S-30	2296	-	III a	剥片	チャート	4.9	2.4	1.7	15.5		
424	2018	II	4G	S-15	4595	-	III	剥片	砂岩	6.0	3.9	1.1	28.5		
424	2019	IV	9C	-	72959	表採	II	剥片	泥岩・硬砂岩	7.6	6.7	4.3	138.3		
424	2020	II	-	S-45	2447	-	III a	剥片	姫島産黒曜岩	5.2	3.5	1.0	14.9		
424	2021	II	0F	S-70	3339	-	III	剥片	千枚岩	5.0	8.8	0.7	31.6		
424	2022	III	9D	S-22	72796	-	III	剥片	チャート	6.9	4.2	1.3	38.6		
424	2023	II	7D	-	6493	-	III	剥片	砂岩	6.4	4.3	1.5	41.7		
424	2024	II	6F	S-8	6051	-	II	剥片	安山岩	4.8	9.3	1.7	68.3		
425	2025	II	2H	S-11	2631	-	III	楔形石器	チャート	3.1	2.3	0.8	8.7		
425	2026	II	1E	S-169	5795	-	III	石核	流紋岩	5.2	4.9	2.5	66.2		

挿入番号	次数	区域	取上番号	遺物番号	遺構	層位	種類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考	
425	2027	II	3H	S-54	517	-	II	スクレイパー	チャート	3.3	3.7	1.7	17.3	
425	2028	II	3F	S-14	6068	-	III	石核	ドロマイト	6.0	5.4	3.6	128.4	
425	2029	IV	9-10C	S-39	76108	S358	-	石核	頁岩	3.1	2.4	2.5	31.2	
425	2030	II	0E	S-68	2585	-	III	石核	石灰岩	4.4	6.7	2.8	90.2	
425	2031	II	6F	S-5	6036	-	II	石核	安山岩	6.9	7.4	2.5	146.5	
426	2032	IV	8E	-	72957	-	II	石核	チャート	1.3	3.4	1.3	11.7	
426	2033	II	5C	S-1	7672	-	III	石核	珪質頁岩	6.0	3.45	3.15	90.3	
426	2034	II	4F	No40	7775	-	IV	石核	ドロマイト	5.8	7.5	5.5	246.4	
426	2035	II	2E	S-64	5333	-	III a	石核	ドロマイト	5.4	6.7	4.6	185.4	
426	2036	II	1E	S-159	4680	-	III	スクレイパー	泥岩	6.8	3.7	1.0	30.0	
427	2037	II	0E	S-53	2455	-	III a	石核	泥岩	5.8	7.8	2.6	135.2	
427	2038	II	1F	S-164	7177	-	III	スクレイパー	ドロマイト	2.9	5.8	5.4	108.9	
427	2039	IV	9F	S-59	73948	-	III b	石核	チャート	7.5	7.1	8.9	534.1	赤茶色
428	2040	II	3H	S-38	501	-	II	スクレイパー	安山岩	4.8	3.9	1.6	27.1	
428	2041	II	3F	S-13	5929	-	III	石核	ドロマイト	7.0	6.4	4.4	240.5	
428	2042	II	3E	S-5	6228	-	III	石核	ドロマイト	6.7	7.8	7.9	453.8	
429	2043	II	0G	S-6	1927	-	III	石核	砂岩?	20.4	8.4	6.6	1310.0	
429	2044	II	0E	S-112	3249	-	III	石核	姫島産黒曜岩	20.0	14.2	16.3	3900.0	
430	2045	II	1E	-	1127	-	II	石核未成品	姫島産黒曜岩	1.8	1.5	0.5	0.8	
430	2046	II	2F	-	5412	-	III a	石核未成品	姫島産黒曜岩	3.2	2.0	0.8	3.9	
430	2047	IV	10D	S-13	74624	-	II	石核未成品	流紋岩?	2.3	1.9	0.6	1.9	
430	2048	II	2F	-	-	-	-	石核未成品	頁岩	1.5	1.9	0.4	1.0	
430	2049	II	0E	S-49	2451	-	III a	チップ	泥岩	2.35	0.95	0.3	0.6	
430	2050	II	7E	S-4	6335	-	II	スクレイパー	チャート	3.0	2.6	1.4	7.7	
430	2051	II	3F	S-19	-	-	III a	剥片	チャート	2.3	2.0	0.5	1.8	
430	2052	II	4G	S-10	4232	-	III a	剥片	姫島産黒曜岩	2.2	2.0	0.7	2.1	
430	2053	II	2I	S-18	1375	-	III	スクレイパー	チャート	3.4	3.1	1.55	15.8	
430	2054	II	1E	S-171	5813	-	III	石核未成品	チャート	2.45	1.6	6.0	2.2	
430	2055	II	1E	S-116	4319	-	III	Rフレ	チャート	1.95	3.15	5.0	4.7	
430	2056	II	2F	S-13	4831	-	II	チップ	姫島産黒曜岩	2.5	0.7	0.4	0.6	
430	2057	II	2I	S-44	2124	-	III	スクレイパー	チャート	5.1	4.3	0.9	27.8	
430	2058	II	0G	S-34	105	-	II	スクレイパー	姫島産黒曜岩	1.7	2.1	0.5	3.0	
430	2059	IV	12E	S-14	74027	-	III b	剥片	チャート	3.0	2.4	0.5	4.4	
430	2060	IV	10C	S-22	75460	-	III b	楔形石器	ガラス質安山岩	2.5	1.7	0.6	2.5	
430	2061	II	5F	-	5914	-	II	楔形石器	泥岩・チャート	2.7	2.1	0.8	4.6	
430	2062	II	4F	S-9	5648	-	III a	スクレイパー	チャート	2.3	2.4	0.9	6.1	
430	2063	II	0E	S-27	2293	-	III a	スクレイパー	姫島産黒曜岩	2.15	2.1	0.5	3.3	
430	2064	II	7E	-	6382	表採	II	スクレイパー	チャート	2.1	2.2	0.9	3.2	
430	2065	IV	10C	-	75255	-	III a	スクレイパー	ガラス質安山岩	2.1	1.9	0.8	2.4	
430	2066	II	2I	S-14	1371	-	III	楔形石器・石核	チャート	3.8	1.9	1.1	6.9	
430	2067	II	3G	S-6	628	-	II	スクレイパー	チャート	2.8	2.8	0.9	8.1	
430	2068	II	2I	S-27	1384	-	III	石核未成品	チャート	2.9	2.4	1.1	6.9	
430	2069	IV	11E	S-1	-	S345	-	石核	チャート	2.2	1.9	1.3	6.0	
430	2070	II	-	-	1046	表採	-	石匙	チャート	3.2	3.3	0.8	7.6	
430	2071	IV	12E	S-9	73661	-	III b	剥片	チャート	2.1	1.7	0.6	3.7	
430	2072	IV	8E	S-94	75071	-	III b	石核	チャート	2.4	2.1	1.8	10.1	
430	2073	II	0D	-	2919	-	III	剥片	チャート	2.05	2.0	0.45	1.9	
430	2074	II	0G	S-38	135	-	II	石核未成品	姫島産黒曜岩	1.7	3.1	0.6	2.9	
431	2075	IV	-	-	-	表採	-	楔形石器	チャート	2.7	1.4	0.7	2.8	
431	2076	IV	-	-	-	表採	-	楔形石器	チャート	3.2	1.3	1.2	5.5	
431	2077	IV	-	-	-	表採	-	楔形石器	サヌカイト	4.0	2.9	1.3	15.3	
431	2078	IV	-	-	-	表採	-	エンド・スクレイパー	珪化泥岩	3.6	2.9	1.3	13.0	
431	2079	IV	-	-	-	表採	-	Uフレ	珪化泥岩	3.4	4.5	1.1	18.5	
431	2080	IV	-	-	-	表採	-	剥片	チャート	3.8	2.9	1.2	10.5	
431	2081	IV	-	-	-	表採	-	ナイフ形石器	サヌカイト	3.5	2.6	1.1	9.5	
431	2082	IV	-	-	-	表採	-	剥片	泥岩	2.9	3.2	0.5	5.5	
431	2083	IV	-	-	-	表採	-	スクレイパー	チャート	2.1	3.6	0.9	7.3	
431	2084	II	-	-	-	表採	-	スクレイパー	流紋岩	4.4+a	4.4	1.8	39.7	
431	2085	IV	-	-	-	表採	-	石核	流紋岩?	3.1	4.3	2.3	35.8	
431	2086	IV	-	-	-	表採	-	石核	泥岩	4.7	4.9	2.8	57.4	
432	2087	II	3F	S-7	5556	-	III a	局部磨製石斧	スレート(粘板岩)	9.9	3.3	1.7	76.1	
432	2088	II	4G	S-18	4662	-	III	楔形石器	硬質砂岩	7.6	6.0	3.2	244.1	石斧転用
432	2089	III	9C	S-17	72684	-	III	礫器	安山岩	6.4+a	7.7+a	3.6	199.5	
432	2090	II	7E	S-5	6578	-	III	石鎌	黒色片岩	4.7	5.1	1.1	26.4	
432	2091	II	3I	S-16	470	-	II	スクレイパー	緑色片岩	5.1	5.3	1.2	38.3	
432	2092	II	1F	S-105	4493	-	III	スクレイパー	千枚岩	6.6	8.6	1.3	84.5	
432	2093	II	0F	S-111	6523	-	III a	加工品	泥岩	8.4	7.1	1.1	94.9	
432	2094	II	-	-	381	-	排土	石斧	-	6.9	9.95	1.2	86.0	未成品
432	2095	II	0E	S-124	5790	-	III a	石斧	泥岩	13.3	10.0	2.7	401.7	未成品
433	2096	II	-	-	6612	表採	-	石斧	粘板岩	11.3	6.2	0.9	79.8	
2097 欠番														
433	2098	IV	12C	S-2	74728	-	II	石斧	泥板岩	13.0	5.1	1.9	121.9	
433	2099	II	6F	S-7	6050	-	II	スクレイパー	安山岩	11.5	12.8	1.6	351.8	
433	2100	II	-	-	-	表採	-	石斧	安山岩	17.3	8.9	2.5	498.2	
433	2101	II	0E	S-113	3250	-	III	石斧	ホルンフェルス	16.8	6.6	2.2	319.7	
433	2102	IV	-	-	-	表採	-	スクレイパー	サヌカイト	3.5	2.9	0.8	7.8	
433	2103	II	-	-	-	表採	-	エンド・スクレイパー	緑色片岩	6.7	4.5	1.0	34.0	
433	2104	II	-	-	-	表採	-	石斧	安山岩	5.8	5.5	2.6	87.7	
434	2105	II	2I	S-7	359	-	II	礫器	緑色片岩	3.85	6.2	0.85	31.4	

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	取上番号	遺物番号	遺構	層位	種類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考	
434	2106	IV	9F	S-57	73544	-	III	礫器	泥岩	9.5	7.1	5.1	482.1	
434	2107	II	5E	-	5913	-	III	礫器	泥岩	7.8	6.0	4.1	232.0	
434	2108	II	3I	S-7	1635	-	III	礫器	砂岩	9.6	5.9	1.2	96.8	
434	2109	II	3G	S-29	-	-	II	礫器	砂岩系	11.6	9.2	4.5	504.0	
434	2110	II	4F	No25	7760	-	IV	礫器	ドロマイト	10.5	7.6	5.3	437.2	
434	2111	II	3G	S-18	7734	-	III	礫器	砂岩系	11.2	9.1	3.0	358.9	
434	2112	II	4H	S-72	845	-	II	礫器	砂岩	11.85	9.5	4.7	619.1	
435	2113	II	00	S-19	2849	-	III	礫器	安山岩	20.1	17.6	5.5	2500.0	
435	2114	II	0G	S-14	1937	-	III	礫器	砂岩	10.2	6.8	6.9	2460.0	
436	2115	II	1F	S-21	3754	-	III a	礫器	砂岩	15.3	12.1	6.0	978.2	石斧の未成品か
436	2116	II	3H	S-2	525	-	III	礫器	砂岩	25.4	11.5	7.2	1250.0	
437	2117	II	4H	S-1	692	-	II	礫石	砂岩	9.5	3.6	3.3	170.4	
437	2118	II	4H	S-3	2986	-	III	礫石	砂岩	5.9	6.4	3.7	193.9	
437	2119	II	1H	S-15	1817	-	III	礫石	砂岩	8.5+ a	3.4	1.1	53.2	剥離痕のある礫
437	2120	II	1G	-	2788	-	III	礫石	-	11.1	2.2	1.5	57.5	
437	2121	II	2E	-	6492	表採	III a	礫石	砂岩	10.9	4.1	1.5	113.7	
437	2122	II	2G	S-5	3165	-	III	礫石	砂岩	11.0	5.4	3.7	323.1	
437	2123	II	7E	-	6877	-	-	礫石	結晶片岩	12.9	5.0	2.5	306.4	
437	2124	II	1H	S-62	3055	-	III	礫石	砂岩	12.8	5.0	5.1	458.8	
437	2125	II	2I	S-32	1973	-	III	磨石	砂岩	7.9+ a	7.4	4.2	510.0	
437	2126	II	6D	S-4	6123	-	II	礫石	砂岩	10.2+ a	4.7	2.5	128.5	
437	2127	II	3I	S-16	1644	-	II	礫石・磨石	砂岩	10.0	5.9	3.1	262.0	
437	2128	II	2E	S-81	5469	-	III	石斧	砂岩	12.7	6.1	3.1	422.4	
438	2129	II	0F	S-49	2712	-	III	礫石	砂岩	10.9	7.8	4.1	569.6	石全体が被熱
438	2130	II	3H	S-14	2859	-	III	礫石	砂岩	13.1+ a	5.2+ a	4.9	874.9	
438	2131	II	3H	S-12	2857	-	III	礫石・台石	砂岩	12.5	4.8	5.1	458.5	
438	2132	II	3H	-	2591	-	III	礫石・磨石	砂岩	12.3+ a	7.4	4.2	455.4	
438	2133	II	1D	S-6	1541	-	II	礫石	砂岩	11.0	6.5	4.5	427.8	
438	2134	II	1D	S-5	3420	-	III	磨石	砂岩	14.55	7.6	3.0-3.5	478.6	
439	2135	II	1G	S-7	1831	-	III	礫石	砂岩	5.5	4.6	3.6	119.0	
439	2136	II	6E	S-5	6253	-	III	礫石	泥岩	4.0	3.7	2.4	-	
439	2137	II	4H	-	2959	-	III	磨石か	角閃石安山岩	5.9	4.0	1.2	43.2	
439	2138	III	9C	S-8	72283	-	III	磨石?	砂岩?	6.6	5.2	2.8	121.2	被熱
439	2139	II	7E	S-17	7503	-	III	礫石	泥岩	6.2	4.3	3.2	175.0	
439	2140	II	1D	S-7	3422	-	III	磨石	砂岩	4.8+ a	4.4	3.3	74.1	
439	2141	II	4H	-	3256	-	III	磨石	砂岩	5.6	4.5	2.1	86.8	
439	2142	II	2E	-	6492	-	III a	礫石	安山岩	4.7	4.1	2.9	79.9	
439	2143	II	3H	-	5492	-	III	磨石	砂岩	7.3	4.8	2.0	97.7	
439	2144	II	2D	S-19	5113	-	III	礫石	砂岩	12.0	9.6	4.6+ a	729.7	
439	2145	II	3H	S-35	2969	-	III	礫石	砂岩	4.9	5.5	3.9	152.8	
439	2146	II	0D	S-4	3308	-	III	礫石・磨石	砂岩	5.4	4.2	4.1	127.0	
439	2147	II	4H	S-4	2987	-	III	礫石	-	3.7	3.3	3.0	45.7	
439	2148	II	1E	S-144	4373	-	III	礫石	砂岩	4.8	4.2	3.5	92.5	
439	2149	II	0G	S-14	49	-	II	礫石	砂岩	6.7	5.4	3.4	180.0	
439	2150	II	3H	S-27	2925	-	III	礫石・磨石	凝灰岩	7.1	6.7	5.5	376.6	
439	2151	II	3H	S-28	2926	-	III	礫石	堆積岩	5.3	5.8	4.5	192.3	
439	2152	III	9D	S-4	72120	-	II	礫石	砂岩	6.6	5.3	4.9	229.3	
439	2153	II	4H	S-21	5434	-	III	礫石	砂岩	6.1	5.3	3.5	137.9	
440	2154	II	5H	S-1	5389	-	III	礫石	砂岩	6.9	5.9	2.5	144.6	
440	2155	II	1G	S-5	1829	-	III	礫石	砂岩	7.3	6.5	4.7	248.5	
440	2156	III	9C	S-3	72207	-	III	礫石	砂岩	6.6	6.0	4.3	229.9	
440	2157	II	7F	S-5	6096	-	II	磨石	砂岩	6.8	5.0	2.2	98.8	
440	2158	II	4H	S-54	827	-	II	磨石	砂岩	7.3	4.6	3.8	193.7	
440	2159	III	9C	No65	72616	S245	III層 上面	磨石	砂岩	8.5	6.9	4.3	362.0	
440	2160	II	0G	S-1	36	-	II	礫石	砂岩	6.6	5.3	3.45	155.0	
440	2161	II	4G	S-7	4225	-	III	礫石	砂岩	6.0	5.05	3.7+ a	202.9	
440	2162	II	3H	S-14	438	-	II	礫石	砂岩	3.9+ a	6.0+ a	4.9	150.1	
440	2163	II	5F	S-1	5835	-	II	礫石	砂岩	7.4	6.2	3.1	199.1	
440	2164	II	3H	-	2922	-	III	礫石・磨石	砂岩	7.0	4.8	4.9	219.3	
440	2165	II	4H	S-7	3080	-	III	礫石	砂岩	6.3	5.5	4.3	187.3	
440	2166	II	3G	S-7	3194	-	III	礫石・磨石	砂岩	6.6	6.4	4.2	227.9	
440	2167	II	1F	S-122	4510	-	III	磨石	輝石安山岩	7.7	8.2	4.4	357.2	
440	2168	IV	11E	-	73289	表採	III	礫石・石核	流紋岩	7.1	7.4	3.1	178.0	
441	2169	II	3H	S-11	2856	-	III	礫石	砂岩	8.3	6.3	4.85	358.9	
441	2170	II	6E	S-7	6315	-	III	礫石	砂岩	6.9	6.8	2.3	-	
441	2171	III	9C	No67	72618	S245	III層 上面	磨石	砂岩	9.0	8.9	3.7	399.0	
441	2172	II	3I	-	1407	表採	III	礫石・石器?	安山岩	9.3	7.5	4.3	445.0	
441	2173	II	1F	S-129	4716	-	III	磨石	砂岩	6.5	6.4	2.6	144.8	
441	2174	II	1F	S-20	3753	-	III a	礫石	安山岩	6.4	9.0	3.6	276.5	焼けている
441	2175	II	8G	S-2	5835	-	III	礫石	凝灰岩	9.8	8.6	3.7	448.8	
441	2176	II	5G	S-10	5483	-	III	礫石	砂岩	8.9	6.5	4.5	327.0	
441	2177	III	9D	S-10	72144	-	II	礫石	砂岩	8.4	9.7	5.1	588.1	
441	2178	II	3G	S-8	3195	-	III	磨石	輝石安山岩	10.7	4.9+ a	4.1	350.6	
441	2179	II	1F	S-110	4498	-	III	凹石	砂岩	9.6	5.1	3.6	235.9	
441	2180	III	9C	S-1	72133	-	II	礫石	砂岩	8.4	7.7	5.8	465.3	
441	2181	II	1G	S-2	1826	-	III	磨石	輝石安山岩	6.9+ a	8.0	4.4	376.0	
442	2182	II	3H	S-36	2970	-	III	礫石	砂岩	9.4	6.5	4.0	315.2	

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	取上番号	遺物番号	遺構	層位	種類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考	
442	2183	Ⅲ	8C	S-3	72722	-	Ⅲ	磨石	角四石安山岩	7.2+a	8.5	5.8	567.4	全体的に磨耗
442	2184	Ⅱ	2G	S-3	315	-	Ⅱ	敲石	片岩	10.2	5.1	4.0	261.0	
442	2185	Ⅱ	2H	-	2034	-	Ⅲ	磨石	砂岩	8.7	2.9	3.8	124.9	
442	2186	Ⅱ	7F	S-1	6092	-	Ⅱ	敲石・磨石	砂岩	10.8	6.7	4.8	483.8	
442	2187	Ⅱ	5F	S-4	5864	-	Ⅱ	磨石	砂岩	11.4	4.0	4.2	255.9	
442	2188	Ⅱ	3F	S-18	6437	-	Ⅲ a	敲石・磨石	砂岩	10.6	4.5	3.9	228.8	
442	2189	Ⅳ	-	-	-	表採	-	燧石	砂岩	6.6+a	8.0	2.3	158.8	
442	2190	Ⅱ	1G	S-12	3504	-	Ⅲ	敲石・磨石	輝石安山岩	9.8	8.5	2.6	453.0	
442	2191	Ⅱ	11	S-5	1254	-	Ⅲ	敲石	-	6.7+a	9.0+a	4.5	309.6	石全体が被熱
442	2192	Ⅱ	31	S-23	2038	-	Ⅲ	磨石	砂岩	7.4	5.3	4.5	228.3	
442	2193	Ⅱ	3H	S-33	2967	-	Ⅲ	敲石・磨石	砂岩	5.8	8.3	4.3	326.9	石全体が被熱
442	2194	Ⅱ	4F	S-12	5720	-	Ⅲ a	敲石・磨石	輝石安山岩	10.1	4.0	4.7	218.9	
442	2195	Ⅱ	3H	S-7	431	-	Ⅱ	磨石	砂岩	9.4	5.3	2.7	212.6	
443	2196	Ⅱ	-	-	2921	-	Ⅲ	磨石	砂岩	9.8	5.7	-	361.9	
443	2197	Ⅱ	4H	S-15	706	-	Ⅱ	磨石	砂岩	9.8	4.5	-	183.6	
443	2198	Ⅱ	0E	S-72	2623	-	Ⅲ	磨石	角四石安山岩	9.6	6.8+a	4.2	393.9	
443	2199	Ⅱ	4F	S-29	5777	-	Ⅲ	磨石	安山岩	9.9	4.9	4.0	267.2	
443	2200	Ⅱ	4H	S-12	3209	-	Ⅲ	磨石	泥岩	9.1	4.0	3.7	185.8	
443	2201	Ⅱ	3G	S-5	3151	-	Ⅲ	敲石	硬砂岩	7.1+a	6.6	2.6	184.6	
443	2202	Ⅱ	11	S-19	1952	-	Ⅲ	敲石・磨石	砂岩	9.5	9.4	4.7	625.0	
443	2203	Ⅱ	0D	S-6	2837	-	Ⅲ	敲石・磨石	砂岩	6.8	7.0	5.1	284.8	
443	2204	Ⅱ	4F	34?	7769	-	Ⅳ	磨石	砂岩	10.4	10.4	3.1	360.4	
443	2205	Ⅲ	9D	S-12	72241	-	Ⅱ	凹石	砂岩	7.6+a	7.2	3.6	274.3	
443	2206	Ⅱ	7F	S-175-1	7551	-	-	磨石	安山岩質	9.9	7.0	2.8	308.0	
443	2207	Ⅱ	4F	S-33	6011	-	Ⅲ	敲石	砂岩	9.1	9.5	4.4	507.6	
444	2208	Ⅱ	4F	S-26	5774	-	Ⅲ	敲石	砂岩	10.4	5.3	5.2	332.8	石全体が被熱
444	2209	Ⅳ	9F	No53	73540	-	Ⅲ	磨石	安山岩	6.1	8.9	3.7	275.0	
444	2210	Ⅱ	3G	S-3	3149	-	Ⅲ	敲石	砂岩	2.6+a	8.6	4.8	128.2	
444	2211	Ⅱ	0E	S-78	2763	-	Ⅲ	敲石	砂岩	5.6+a	9.9	3.2	209.0	
444	2212	Ⅱ	4F	S-30	5778	-	Ⅲ	磨石	砂岩	8.6	7.7	5.0	401.1	
444	2213	Ⅱ	3H	S-25	2923	-	Ⅱ	敲石・磨石	砂岩	8.0	6.5	5.9	388.0	
444	2214	Ⅱ	5G	S-11	5576	-	Ⅲ	敲石・磨石	砂岩	10.0	8.2	5.0	570.7	
444	2215	Ⅱ	5G	S-1	5410	-	Ⅲ	敲石	砂岩	10.7	8.3	5.1	577.0	
444	2216	Ⅱ	4G	S-13	4575	-	Ⅲ	磨石	凝灰岩	11.3	9.6	4.0	656.2	
444	2217	Ⅲ	9D	S-22	72796	-	Ⅲ	磨石	角四石安山岩	11.2	9.4	4.2	758.6	
444	2218	Ⅱ	1F	S-125	4513	-	Ⅲ	敲石・磨石	砂岩系	9.1	4.4	5.7	321.0	
445	2219	Ⅲ	9C	S-16	72683	-	Ⅲ	磨石	角四石安山岩	11.5	10.7	5.0	872.2	
445	2220	Ⅱ	7E	S-14	6603	-	Ⅲ	磨石	角四石安山岩	9.9	8.6	4.7	600.0	
445	2221	Ⅱ	3G	-	4690	表採	-	磨石	砂岩	10.2	7.7	4.5	508.9	
445	2222	Ⅱ	21	S-31	1972	-	Ⅲ	敲石・磨石	砂岩	10.0	8.8	6.1	598.9	
445	2223	Ⅲ	9D	S-2	72117	-	Ⅱ	磨石	砂岩	9.0+a	6.6+a	5.5	483.3	
445	2224	Ⅱ	5H	S-4	5435	-	Ⅲ	磨石	砂岩	9.3	8.7	4.7	579.2	
445	2225	Ⅱ	1G	S-1	1825	-	Ⅲ	磨石	輝緑石	10.1	9.1	4.1	651.0	
445	2226	Ⅱ	31	S-19	1648	-	Ⅲ	敲石	砂岩	10.4	7.1	5.6	559.3	
445	2227	Ⅱ	4F	No43	7778	-	Ⅳ	敲石	砂岩	10.0	9.1	5.3	557.1	
445	2228	Ⅱ	4E	S-4	5843	-	Ⅲ	敲石	砂岩	7.4	6.6	3.2	179.7	
445	2229	Ⅱ	1F	S-121	4509	-	Ⅲ	敲石	砂岩	9.7	7.2	4.3	424.0	
446	2230	Ⅱ	4H	S-11	3208	-	Ⅲ	敲石	砂岩?	7.3	4.9	3.6	161.1	
446	2231	Ⅱ	3H	S-30	2964	-	Ⅲ	敲石・磨石	砂岩	6.5	6.8	6.1	347.2	
446	2232	Ⅲ	9D	S-9	72696	-	Ⅲ	凹石	砂岩	14.2	8.7	7.2	1320.0	
446	2233	Ⅱ	0F	S-106	5989	-	Ⅲ	敲石・磨石	輝石安山岩	3.7	7.3	4.0	122.0	
446	2234	Ⅱ	3G	S-15	5930	-	Ⅲ	磨石	角四石安山岩	11.7	9.4	3.6	603.4	
446	2235	Ⅱ	7F	S-11	6102	-	Ⅱ	磨石	凝灰岩	11.2	8.6	3.7	554.0	
446	2236	Ⅱ	7F	S-13	6104	-	Ⅱ	磨石	凝灰岩	11.3	8.9	4.2	623.0	
446	2237	Ⅱ	7F	S-3	7184	-	Ⅲ	敲石	砂岩	10.0	8.2	2.9	393.7	
446	2238	Ⅱ	4F	S-21	5741	-	Ⅲ a	敲石・磨石	砂岩	8.7	8.0	3.7	366.5	
446	2239	Ⅱ	4H	-	3256	-	Ⅲ	敲石	砂岩	8.9	6.9	3.3	247.5	石全体が被熱
447	2240	Ⅱ	7F	S-12	6103	-	Ⅱ	磨石	砂岩	10.0	10.8	4.4	737.9	
447	2241	Ⅱ	3G	S-9	3196	-	Ⅲ	敲石	砂岩	11.3	8.6	5.6	647.8	石全体が被熱
447	2242	Ⅱ	0E	S-71	2589	-	Ⅲ	敲石・磨石	硬砂岩	6.9+a	8.8	3.6	319.1	石線形
447	2243	Ⅱ	6F	S-4	6280	-	Ⅲ	敲石・磨石	砂岩	10.4	8.9	3.4	470.0	石全体が被熱
447	2244	Ⅱ	7E	S-1	6233	-	Ⅱ	磨石	角四石安山岩	11.4	10.8	4.1	750.0	
447	2245	Ⅱ	4H	S-8	699	-	Ⅱ	磨石	安山岩	8.2	9.7	8.4	601.4	
447	2246	Ⅱ	8F	S-7	7696	-	Ⅲ	台石	砂岩	9.9	9.4	5.8	850.0	石全体が被熱
447	2247	Ⅱ	3H	-	2591	-	Ⅲ	磨石	砂岩	8.6	10.9	5.4	755.8	石全体が被熱
447	2248	Ⅲ	9D	S-11	72145	-	Ⅱ	敲石・磨石	砂岩	7.1+a	8.5	3.8	355.1	
448	2249	Ⅱ	5F	S-6	5904	-	Ⅱ	敲石・磨石	砂岩	5.2	7.6	3.3	218.8	
448	2250	Ⅳ	9G	No5	73163	-	Ⅲ	敲石	砂岩	6.5	7.8	3.3	247.0	
448	2251	Ⅱ	2H	S-5	7736	-	Ⅳ	敲石	砂岩	8.1	6.4	4.9	342.5	
448	2252	Ⅱ	2E	S-38	5045	-	Ⅲ a	磨石	砂岩	7.0	8.8	2.8	293.3	
448	2253	Ⅱ	1G	S-15	3854	-	Ⅲ	磨石	凝灰岩	10.5	7.8	3.35	407.0	
448	2254	Ⅱ	4H	S-13	3210	-	Ⅲ	敲石	砂岩	8.4	5.9	3.8	250.2	
448	2255	Ⅱ	1F	S-81	4469	-	Ⅲ	敲石	砂岩	8.4	5.6	4.6	281.0	
448	2256	Ⅲ	9D	S-27	72802	-	Ⅲ	敲石	砂岩	8.6	7.3+a	5.3	420.2	
448	2257	Ⅱ	2F	S-5	4807	-	Ⅱ	敲石・磨石	砂岩	6.3	8.2	5.0	304.7	
448	2258	Ⅳ	-	-	-	表採	-	磨石	砂岩	6.5+a	6.2	3.0	187.8	
449	2259	Ⅲ	9D	S-8	72142	-	Ⅱ	磨石	砂岩	11.5	9.5	4.4	673.7	
449	2260	Ⅱ	4H	S-24	5489	-	Ⅲ	磨石?	砂岩	12.2	9.9	5.3	936.9	
449	2261	Ⅱ	0D	S-6	1043	-	Ⅱ	磨石	砂岩	10.4	8.5	4.2	574.5	

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	取上番号	遺物番号	遺構	層位	種類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考	
449	2262	II	5F	S-7	5905	-	II	敲石・磨石	砂岩	9.9	6.9	2.2	236.8	
449	2263	II	0E	S-121	5787	-	III a	敲石	砂岩	13.3	6.7	6.4	732.0	
449	2264	II	7D	S-4	6473	-	III	磨石	安山岩	9.9	9.1	4.8	626.7	
449	2265	II	1H	-	2210	表採	III	磨石?	砂岩	4.2	8.3	5.0	226.1	
449	2266	III	9D	S-14	72788	-	III	磨石	砂岩	14.8	12.5	6.3	1600.0	
450	2267	II	4E	S-6	5912	-	-	敲石	泥岩	10.8	7.8	4.7	551.7	
450	2268	II	5F	S-1	5944	-	III	礫器	砂岩	10.8	8.7	4.0	484.3	
450	2269	II	1F	S-8	1163	-	II	礫器・焼石	砂岩	9.2+a	8.0	4.5	410.8	
450	2270	II	2G	S-4	550	-	III	磨石	砂岩	9.0	8.0	4.5	439.4	
450	2271	II	6D	S-5	6252	-	II	敲石・磨石	砂岩	9.3	8.4	5.4	599.3	
450	2272	II	2F	S-18	4837	-	II	敲石・磨石	砂岩	9.7	7.8	4.4	466.9	
450	2273	II	4G	S-5	4223	-	III	磨石	凝灰岩	9.8	9.2	4.2	571.5	
451	2274	II	0E	S-10	-	-	II	磨石	砂岩	11.2	9.6	3.4	570.6	
451	2275	II	-	-	5441	-	III	磨石	砂岩	10.7	9.0	4.6	643.9	
451	2276	II	1E	S-178	6372	-	III	敲石・磨石	砂岩	8.8	7.3	6.2	471.9	
451	2277	II	2G	S-11	6066	-	III	敲石	砂岩	4.7	9.2	3.3+a	208.3	
451	2278	II	3I	S-2	2036	-	III	磨石	砂岩	14.2	8.1	6.5	873.8	
451	2279	II	1F	S-10	1171	-	II	敲石・磨石	砂岩	11.2	8.6	4.0	614.4	石齧形
452	2280	II	0C	S-1	5106	-	III	敲石・磨石	砂岩	7.2+a	10.0	4.5	514.9	
452	2281	II	1E	S-162	4683	-	III	礫器	硬砂岩	9.4	8.0	4.2	438.4	
452	2282	II	6F	S-6	6037	-	II	敲石・磨石	砂岩	11.2	8.7	4.3	650.0	
452	2283	IV	9F	No.32	73252	-	III	敲石	砂岩	8.7	9.4	5.8	600.0	
452	2284	II	3F	S-17	6376	-	III a	敲石	砂岩	8.4	7.4	4.6	342.6	石全体が被熱
452	2285	II	4H	S-16	3213	-	III	敲石	砂岩	12.2	6.2	5.9	565.2	
453	2286	II	3E	S-9	6439	-	III a	敲石・磨石	砂岩	8.8	8.4	4.1	433.3	
453	2287	II	1E	S-64	4117	-	III	敲石・磨石	砂岩	9.0	7.4	2.9	334.1	
453	2288	II	3H	S-31	2965	-	III	敲石・磨石	凝灰岩	7.1+a	7.0+a	5.3	447.4	
453	2289	II	5E	-	5913	-	III	敲石・磨石	砂岩	7.0	7.5	5.0	386.8	
453	2290	II	1E	S-7	1471	-	II	敲石・磨石	砂岩	11.3	8.4	4.1	592.0	石齧形
453	2291	II	1I	S-19	2928	-	III	敲石・磨石	砂岩	12.0	8.7	6.8	1040.0	
454	2292	II	4G	S-12	4574	-	III	磨石	砂岩	9.4	8.5	5.0	583.6	
454	2293	II	3G	S-13	4258	-	III	凹石	硬砂岩	11.2	10.0	3.3	594.7	石全体が被熱?
454	2294	II	7E	S-18	7504	-	III	敲石・磨石	砂岩	15.0	10.3	7.3	1500.0	
454	2295	II	4H	S-19	5432	-	III	磨石	輝石安山岩	8.0	10.9	4.1	547.9	
454	2296	II	2D	S-19	5113	-	III	磨石	砂岩	12.0	9.6	4.6+a	729.7	
454	2297	II	1F	S-154 S-155	4861 4862	-	III a	台石	砂岩	17.8	10.9	6.5	600.0	1F No.4861 と 4862 接合
455	2298	II	0F	-	2399	-	III	敲石・磨石	砂岩	10.0	8.8	4.5	575.6	
455	2299	II	0E	S-122	5789	-	III a	敲石	砂岩	9.7	9.5	7.6	812.3	
455	2300	IV	-	-	-	表採	-	敲石	角閃石安山岩	12.8	10.3	7.2	1.37	
455	2301	II	4F	S-21	7756	-	IV	敲石・磨石	砂岩	10.4	8.0	7.1	798.1	
455	2302	II	2F	S-15	4834	-	II	磨石	砂岩	9.6	9.9	6.2	957.0	
455	2303	II	2F	S-10	4827	-	II	敲石・磨石	砂岩	8.4	9.1	4.7	491.4	
456	2304	IV	-	-	-	表採	-	磨石	安山岩	12.0	8.9	5.6	864.7	
456	2305	II	1F	S-151	4847	-	III	敲石・磨石	砂岩	9.5	8.5	6.9	759.2	
456	2306	II	2E	S-63	5332	-	III a	敲石・磨石	砂岩	7.5	9.0	5.0	494.8	
456	2307	II	2E	S-84	6362	-	III a	敲石	砂岩	8.7	8.2	6.0	632.8	
456	2308	II	5F	-	-	-	II	敲石・磨石	砂岩	9.9	5.2	5.2	461.2	
457	2309	IV	-	-	-	表採	-	敲石・磨石	砂岩	10.6	8.2	3.9	550.0	
457	2310	II	3E	S-1	5596	-	III	敲石・磨石	砂岩	8.2	8.7	7.7	635.3	
457	2311	II	1I	S-20	2929	-	III	凹石	砂岩	11.5	10.2	3.9	696.0	
457	2312	II	1E	S-63	4116	-	III	凹石	砂岩	6.8	8.5	5.8	431.2	
458	2313	II	4E	S-1	5599	-	III	敲石・磨石	砂岩	12.9	9.4	3.8	699.2	
458	2314	II	2G	S-9	3169	-	III	敲石	砂岩	12.4	9.8	4.0	673.6	石全体が被熱
458	2315	II	0E	S-123	5788	-	III a	敲石	砂岩	9.5	8.0	5.6	579.6	
458	2316	II	4F	No.23	7758	-	IV	敲石	砂岩	12.4	9.1	5.7	876.0	
459	2317	II	1E	S-173	6373	-	III	敲石・磨石	砂岩	11.7	12.4	7.9	1200.0	
459	2318	II	1I	S-17	1819	-	III	台石	-	15.3	11.3	6.4	1750.0	
460	2319	II	4F	S-31	5779	-	III	台石・石皿	砂岩	21.2	21.2	8.6	5000.0	
460	2320	II	3I	S-18	1647	-	III	礫器	砂岩	13.5	10.7	3.9	635.0	
460	2321	III	9C	No.69	72620	S245	III層 上面	台石	安山岩	25.3	15.2+a	7.0	3150.0	
460	2322	IV	12E	No.29	74524	-	III b	台石	安山岩	19.9	26.7	6.3	4400.0	
460	2323	II	2C	S-6	3166	-	II	台石	-	18.3	21.1	7.0	5000.0	
460	2324	II	4H	S-17	3214	-	III	台石	砂岩	16.6	22.0	8.8	4500.0	
460	2325	II	0E	S-76	2761	-	III	台石・石皿	砂岩	27.9	32.9	8.4	9400.0	
460	2326	II	1H	S-67	6568	-	III	台石	砂岩	29.7	36.0	11.0	13000.0	
461	2327	II	1F	S-150	4846	-	III a	石皿	砂岩	15.2	10.1	5.2	1400.0	
461	2328	II	1F	-	-	-	III	台石	砂岩	13.5	20.4	5.5	2100.0	
461	2329	II	4H	S-20	5433	-	III	台石	砂岩?	15.1+a	19.8+a	8.1	3400.0	
461	2330	III	8C	No.71	72622	S245	III a	台石	砂岩	25.5	11.8	6.0	3050.0	
461	2331	II	2H	S-9	2194	-	III	台石	砂岩	31.3+a	17.3+a	7.8	5500.0	
461	2332	II	1G	S-10	3123	-	III	台石	砂岩	20.2	30.9	6.0	5150.0	
461	2333	IV	12E	No.26	74521	-	III b	台石	安山岩	14.3	14.8	6.6	2000.0	
461	2334	III	9C	S-14	72681	-	III	台石	砂岩	12.7	17.8	9.0	2400.0	
461	2335	II	8G	S-1	5834	-	III	台石	砂岩	20.9	25.5	6.0	4150.0	
461	2336	III	9C	No.64	72615	S245	III層 上面	台石	砂岩	22.5	15.0	11.1	6100.0	
461	2337	II	2E	S-92	6575	-	III	台石	砂岩	22.9	14.2	6.6	3450.0	

森の木遺跡遺物観察表

挿入番号	次数	区域	取上番号	遺物番号	遺構	層位	種類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考		
462	2338	IV	12E	No31	74526	-	Ⅲ a	台石	砂岩	10.0+ a	13.5+ a	6.2	1200.0		
462	2339	II	3H	S-29	2927	-	Ⅲ	台石	砂岩?	14.3	17.5	8.2	3050.0		
462	2340	II	6E	S-6	6314	-	Ⅲ	台石・石皿	砂岩	14.8	19.8	5.3	2000.0		
462	2341	II	4H	S-8	3081	-	Ⅲ	台石・石皿	砂岩	21.5	28.0	11.5	8500.0		
462	2342	II	2H	S-15	2189	-	II	台石・石皿	安山岩	31.1	37.8	8.0	12800.0		
462	2343	II	4G	S-14	4576	-	Ⅲ	台石	砂岩	28.4	29.0	7.5	7600.0		
462	2344	II	0G	S-40	3476	-	Ⅲ	台石	砂岩	24.5	30.3	6.7	8750.0		
462	2345	IV	11E	No25	74529	-	Ⅲ b	石皿	砂岩	22.4	14.7	6.1	3000.0		
462	2346	II	1H	S-5	2186	-	Ⅲ	台石	砂岩	24.3	25.8	7.1	7350.0		
463	2347	II	2H	S-6	2191	-	Ⅲ	台石	砂岩	23.1	21.4	4.6	3000.0		
463	2348	II	5G	S-13	6576	-	Ⅲ	台石・石皿	砂岩	35.8	25.0	7.4	8800.0		
463	2349	II	1G	S-9	3122	-	Ⅲ	台石	砂岩	25.5	18.9	5.8	4000.0		
463	2350	II	4H	S-2	2985	-	Ⅲ	台石	砂岩?	36.4	21.3	9.0	8050.0		
463	2351	II	1E	S-173	6215	-	Ⅲ	台石	砂岩	28.9	16.5+ a	5.5	3600.0		
463	2352	Ⅲ	9O	S-19	72793	-	Ⅲ	台石	硬質砂岩	33.5	22.8	5.4	7000.0		
464	2353	II	-	-	-	-	-	台石	砂岩	29.0	27.2	8.7	8500.0		
464	2354	II	5F	S-6	7157	-	Ⅲ	台石	砂岩	28.5	18.0+ a	9.0	7000.0		
464	2355	II	2I	S-39	2067	-	Ⅲ	台石	-	39.0	26.2	9.5	11400.0		
464	2356	II	0D	S-6	2907	-	Ⅲ	台石	砂岩	39.5	25.5	6.7	9050.0		
464	2357	II	2I	S-40	2068	-	Ⅲ	台石	砂岩	32.7	16.9	10.1	9000.0		
465	2358	II	4H	S-79	852	-	II	台石	砂岩	19.6	37.5	8.0	8900.0		
465	2359	II	5H	S-1	5238	-	II	台石・石皿	砂岩?	21.2	26.9	7.8	7000.0		
465	2360	II	2H	S-16	2190	-	II	台石	砂岩	26.2+ a	31.7	11.3	13500.0		
465	2361	II	3I	S-25	2040	-	Ⅲ	台石	砂岩	22.1	29.8	11.2	10500.0	碟器状の整形痕がある。	
465	2362	II	1G	S-3	1827	-	Ⅲ	台石	砂岩	23.6	33.7	8.5	7350.0		
465	2363	II	1I	S-24	2933	-	Ⅲ	台石	砂岩	21.1	25.2	7.2	5000.0		
465	2364	II	8G	S-3	5836	-	Ⅲ	台石・石皿	砂岩	28.7	29.7	6.5	8000.0		
466	2365	II	-	-	-	-	-	台石	砂岩	32.9+ a	23.6+ a	8.0	6600.0	碟器状の整形痕がある。	
466	2366	II	0F	S-103	5140	-	Ⅲ a	台石	砂岩	23.2	40.7	13.0	16500.0		
466	2367	IV	-	-	-	S358	-	石皿	砂岩	27.4	47.0	10.2	11000.0		
466	2368	II	0G	S-41	3477	-	Ⅲ	台石・石皿	砂岩	35.2	21.9	7.9	8900.0		
466	2369	II	5H	S-2	5239	-	II	台石・石皿	砂岩	33.7	20.1	6.5	7000.0		
466	2370	II	3H	S-13	2858	-	Ⅲ	台石	砂岩	23.8	49.1	12.5	16500.0		
467	2371	II	8G	S-4	5837	-	Ⅲ	台石	砂岩	30.2	29.5	7.8	9800.0		
467	2372	II	3H	S-24	2869	-	Ⅲ	台石	砂岩?	29.4	24.0	6.1	7450.0		
467	2373	II	8G	S-5	5838	-	Ⅲ	台石・石皿	砂岩	40.9	29.4	7.8	11500.0		
467	2374	II	2G	-	373	-	II	台石	安山岩	28.4	39.1	10.4	16000.0		
467	2375	IV	8F	No29	75773	-	Ⅲ b	台石	安山岩	34.7	27.6	9.0	11500.0		
467	2376	II	1H	S-29	2184	-	II	台石	砂岩	30.5	35.0	7.5	13000.0		
468	2377	Ⅲ	9D	S-15	72789	-	Ⅲ	台石	砂岩	20.6	36.0	5.3	4600.0		
468	2378	II	1E	S-180	6573	-	Ⅲ	台石	砂岩	28.3	28.6	7.1	7700.0	碟器状の整形痕がある。	
468	2379	IV	-	No20	-	-	II	台石	-	31.1+ a	36.8	12.7	19000.0		
468	2380	Ⅲ	9D	S-23	72797	-	Ⅲ	台石	砂岩	20.9	25.4	8.7	5800.0		
468	2381	IV	8F	No14	75776	-	II	台石	安山岩?	28.5	28.0	9.4	12000.0		
468	2382	Ⅲ	9D	S-25	72799	-	Ⅲ	台石	安山岩	37.7	30.6	12.2	19000.0		
469	2383	II	5E	S-7	7669	-	Ⅲ	台石	砂岩	23.5	18.5	9.6	8000.0		
469	2384	II	1H	S-67	3060	-	Ⅲ	台石・石皿	安山岩	24.3	32.1	9.5	10100.0		
469	2385	II	2H	S-7	2192	-	Ⅲ	台石	砂岩	22.0	28.3	9.0	8000.0		
469	2386	II	2I	S-38	2066	-	Ⅲ	台石	砂岩	21.3	20.5	5.7	3200.0		
469	2387	II	0E	S-101	3084	-	Ⅲ	台石・石皿	砂岩	28.6	18.0	5.8	4500.0		
469	2388	II	2H	S-13	2187	-	IV	台石・石皿	砂岩	41.5	25.0	10.2	15000.0		
470	2389	II	0E	S-64	2484	-	Ⅲ	台石	砂岩	16.3	22.6	5.0	2500.0		
470	2390	II	1F	S-3	1153	-	II	石皿	砂岩	18.3	22.1	4.1	2900.0		
470	2391	II	1F	S-152	4848	-	Ⅲ a	台石	砂岩	17.7	24.8	3.3	2000.0		
470	2392	IV	9D	No33	76240	-	II	台石	安山岩	27.4	58.9	13.8	28600.0		
470	2393	IV	9E	S-23	75778	-	Ⅲ a	台石	安山岩	33.9	30.6	7.4	10000.0		
470	2394	II	2I	S-37	2065	-	Ⅲ	台石・石皿	砂岩	26.9	40.0	9.0	12000.0		
471	2395	Ⅲ	9D	S-24	72798	-	Ⅲ	台石	砂岩	26.7	31.4	8.9	10000.0		
471	2396	Ⅲ	9C	S-13	72680	-	Ⅲ	台石	砂岩	22.5	15.6	5.4	2800.0		
471	2397	IV	8F	No5	-	-	II	台石	-	29.4	50.4	8.8	19500.0		
471	2398	II	0E	S-63	2483	-	Ⅲ	台石・石皿	砂岩	18.3	19.5	8.3	4000.0		
471	2399	Ⅲ	9E	S-1	72864	-	II	台石	安山岩	38.2	33.2	7.9	15000.0		
472	2400	IV	-	No36	-	S350	-	台石	安山岩	42.0	29.7	9.3	14500.0		
472	2401	IV	9-10D	No121	76548	-	S383	-	台石	砂岩	55.2	34.4	8.0	18000.0	
472	2402	IV	12D	No4	76571	-	Ⅲ a	台石	安山岩	41.4	26.6	6.7	9400.0		
472	2403	II	9D	S-29	72804	-	Ⅲ	台石・石皿	砂岩	40.8	36.3	16.3	28600.0		
473	2404	II	1E	S-175	6217	-	Ⅲ	台石	砂岩	26.6	18.2	9.4	-		
473	2405	II	2I	S-35	2063	-	Ⅲ	台石	-	31.0	43.8	8.5	20000.0		
473	2406	II	2G	S-7	3167	-	Ⅲ	台石	安山岩	38.5	35.4	6.9	12500.0		
473	2407	II	5G	S-14	6577	-	Ⅲ	台石	砂岩	27.0+ a	37.7	11.4	15700.0		
474	2408	IV	9F	No74	75771	-	Ⅲ a	台石	安山岩	39.6+ a	26.0+ a	8.2	10800.0		
474	2409	II	0E	S-27/No2	2996	S 29	Ⅲ	台石	砂岩	46.9	37.4	11.3	25000.0	碟器状の整形痕がある。	
474	2410	Ⅲ	8C	S-4	72865	-	II	台石	-	52.0	31.6	8.9	19000.0		
475	2411	II	4H	S-52	825	-	II	石鏢	泥板岩	5.0	3.6	0.2-0.6	16.4		
475	2412	IV	-	-	-	表採	-	石鏢	砂岩	5.3	3.3	1.1	30.8		
475	2413	IV	-	-	-	表採	-	石鏢	結晶片岩	5.3	3.6	0.9	27.9		
475	2414	II	-	-	1128	表採	-	石鏢	砂岩	5.4	3.9	1.4	38.9		
475	2415	IV	-	-	-	表採	-	石鏢	泥岩	5.1	4.0	1.0	25.4		
476	2431	I	-	-	-	S45付近	Ⅲ	環状石斧	緑泥片岩	8.4	8.7	1.55	130.28	番号 6410 と 6411 の接合	

森の木遺跡遺物観察表・森の木遺跡遺構一覧表

第3表 森の木遺跡遺物観察表（土錘）

神田番号	遺物番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	出土区・遺構名	
479	2439	7702	土錘	5.0	1.3	0.4	7.80	Ⅱ次6D/W-1/
479	2440	262	土錘	4.0	1.5	0.20	9.1	Ⅱ次1 P5/2層
479	2441		土錘	3.7	1.3	0.35	5.8	Ⅳ次表採
479	2442	72994	土錘	3.9	1.3	0.30	5.4	Ⅳ次9F/P-7/2層
479	2443	2704	土錘	4.0	1.5	0.35	9.1	Ⅱ次0F/P206/2層

第4表 森の木遺跡遺物観察表（銭貨）

神田番号	遺物番号	遺構名	銭貨名	国・王朝名	初 鋳 年	重さ (g)	直径 (cm)	書 体	
479	2444	6398	6DⅢ層K-1	永楽通宝	日本	中世末期～近世初頭	2.8	2.5	
479	2445	6399	6DⅢ層K-2	無文	日本	中世・不詳	0.9	2.1	
479	2446	6400	6DⅢ層K-3	元豊通宝	中国	北宋 1078	2.5	2.3	行書
479	2447	7697	6DK-4	永楽通宝	日本	中世末期～近世初頭	2.5	2.5	
479	2448	7698	6DK-5	政和通宝	中国	北宋 1111	1.1	2.4	篆書
479	2449	6494	6F一括	熙寧元宝	中国	北宋 1068	2.2	2.4	真書

第5表 森の木遺跡遺構一覧表

遺構番号	次 数	グリッド 番号	種 別	時 期	備 考	遺構番号	次 数	グリッド 番号	種 別	時 期	備 考
S001					欠番	S056	Ⅱ	1E	集石遺構		
S002	Ⅱ	4H	土坑	縄文時代早期		S057	Ⅱ	1F	石組炉	縄文時代早期	
S003	Ⅱ	0E	土坑	縄文時代早期		S058	Ⅱ	1F	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
S004	Ⅱ	3I	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期		S059	Ⅱ	0/1-E/F	土坑	縄文時代早期	
S005	Ⅱ	4I	土坑	縄文時代早期		S060	Ⅱ	2/3-E/F	竈・集石範囲		
S006	Ⅱ	0E	土坑	縄文時代早期		S061	Ⅱ	3F	集石遺構	縄文時代早期	
S007	Ⅱ	0F	柱穴	中世	SB055 b cの柱穴	S062	Ⅱ	3F	集石遺構	縄文時代早期	
S008	Ⅱ	0F	柱穴	中世	SB055aの柱穴	S063	Ⅱ	3F	集石遺構	縄文時代早期	
S009	Ⅱ	0F	柱穴	中世	SB055aの柱穴	S064	Ⅱ	5G	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
S010	Ⅱ	0F	柱穴	中世	SB055aの柱穴	S065	Ⅱ	3F	集石遺構	縄文時代早期	
S011	Ⅱ	0F	柱穴	中世	SB055aの柱穴	S066	Ⅱ	1E	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
S012	Ⅱ	0F	柱穴	中世	SB055aの柱穴	S067	Ⅱ	1E	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
S013	Ⅱ	0F	ピット			S068	Ⅱ	1E	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
S014	Ⅱ	0F	ピット			S069	Ⅱ	1E	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
S015	Ⅱ	0F	柱穴	中世	SB055aの柱穴	S070	Ⅱ	3E	集石遺構	縄文時代早期	
S016	Ⅱ	0F	柱穴	中世	SB055aの柱穴	S071	Ⅱ	0D	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
S017	Ⅱ	0F	柱穴	中世	SB055aの柱穴	S072	Ⅱ	2E	石組炉	縄文時代早期	
S018	Ⅱ	0F	柱穴	中世	SB055aの柱穴	S073	Ⅱ	2E	集石遺構	縄文時代早期	
S019	Ⅱ	0F	柱穴	中世	SB055bcの柱穴	S074	Ⅱ	2E	集石遺構	縄文時代早期	
S020	Ⅱ	0F	柱穴	中世	SB055bcの柱穴	S075	Ⅱ	0E	石組炉	縄文時代早期	
S021	Ⅱ	0F	ピット			S076	Ⅱ	2F	陥し穴	縄文時代早期	
S022	Ⅱ	0F	柱穴	中世	SB055bcの柱穴	S077	Ⅱ	3E	住居跡	縄文時代草創期か	
S023	Ⅱ	0F	ピット			S078	Ⅱ	7G	土坑	縄文時代早期	
S024	Ⅱ	0E	柱穴	中世	SB055bcの柱穴	S079	Ⅱ	7G	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
S025	Ⅱ	0E	柱穴	中世	SB055bcの柱穴	S080	Ⅱ	3E	住居跡	縄文時代草創期か	
S026	Ⅱ	0E	柱穴	中世	SB055bcの柱穴	S081	Ⅱ	3E	土坑	縄文時代早期	
S027	Ⅱ	0E	柱穴	中世	SB055bcの柱穴	S082	Ⅱ	3E	土坑	縄文時代早期	
S028	Ⅱ	0E	柱穴	中世	SB055bcの柱穴	S083	Ⅱ	8G	住居跡	縄文時代早期	
S029	Ⅱ	0E	ピット			S084	Ⅱ	3F	土坑	縄文時代早期	
S030	Ⅱ	0E	柱穴	中世	SB055bcの柱穴	S085	Ⅱ	0E	石組炉	縄文時代早期	
S031	Ⅱ	0E	ピット			S086	Ⅱ	0E	石組炉	縄文時代早期	
S032	Ⅱ	0F	柱穴	中世	SB05 b の柱穴	S087	Ⅱ	0F	集石遺構	縄文時代早期	
S033	Ⅱ	0F	ピット			S088	Ⅱ	0F	石組炉	縄文時代早期	
S034	Ⅱ	1G	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期		S089	Ⅱ	0F	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
S035	Ⅱ	1H	集石遺構	縄文時代早期		S090	Ⅱ	0F	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
S036	Ⅱ				欠番	S091	Ⅱ	3E	ピット		
S037	Ⅱ	0F	柱穴	中世	SB055bcの柱穴	S092	Ⅱ	0D	土坑	縄文時代早期	
S038	Ⅱ	0F	ピット			S093	Ⅱ	0E	土坑	縄文時代早期	
S039	Ⅱ	1H	集石遺構	縄文時代早期		S094	Ⅱ	0E	土坑	縄文時代早期	
S040	Ⅱ	2H	石組炉	縄文時代早期		S095	Ⅱ	0E	土坑	縄文時代早期	
S041	Ⅱ	1H	石組炉	縄文時代早期		S096	Ⅱ	0F	土坑	縄文時代早期	
S042	Ⅱ	2H	集石遺構	縄文時代早期		S097	Ⅱ	0F	土坑	縄文時代早期	
S043	Ⅱ	3H	集石遺構	縄文時代早期		S098	Ⅱ	0F	土坑	縄文時代早期	
S044	Ⅱ	4H	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期		S099	Ⅱ	0F	土坑	縄文時代早期	S099→S100
S045	Ⅱ	0-E/F	集石遺構	縄文時代早期	竈・集石範囲 下部からS046～048を確認	S100	Ⅱ	0F	土坑	縄文時代早期	S099→S100
S046	Ⅱ	0F		縄文時代早期		S101	Ⅱ	0F	土坑	縄文時代早期	
S047	Ⅱ	0E	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期		S102	Ⅱ	1E	土坑	縄文時代早期	
S048	Ⅱ	0E	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期		S103	Ⅱ	1E	土坑	縄文時代早期	
S049	Ⅱ	0D	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期		S104	Ⅱ	1F	土坑	縄文時代早期	
S050	Ⅱ	1G	石組炉	縄文時代早期		S105	Ⅱ	1F	土坑	縄文時代早期	
S051	Ⅱ	4H	集石遺構	縄文時代早期		S106	Ⅱ	1G	土坑	縄文時代早期	
S052	Ⅱ	3G	集石遺構	縄文時代早期		S107	Ⅱ	1G	土坑	縄文時代早期	
S053	Ⅱ	3G	集石遺構	縄文時代早期		S108	Ⅱ	1G	住居跡	縄文時代早期か	
S054	Ⅱ				欠番	S109	Ⅱ	1G	土坑	縄文時代早期	
S055	Ⅱ	0-E/F	掘立柱建物	中世・近世	SB055	S110	Ⅱ	1H	土坑	縄文時代早期	
						S111	Ⅱ	1H	土坑	縄文時代早期	

森の木遺跡遺構一覧表

遺構番号	次数	グリッド番号	種別	時期	備考	遺構番号	次数	グリッド番号	種別	時期	備考
S112	II	1H	土坑	縄文時代早期		S192	II	3I	土坑	縄文時代早期	
S113	II	3H	土坑	縄文時代早期		S193	II	3I	土坑	縄文時代早期	
S114	II	3H	土坑	縄文時代早期		S194	II	8E	炉穴	縄文時代草創期	S243と同一遺構
S115	II	3H	陥し穴	縄文時代早期		S195	II	8F	土坑	縄文時代草創期	S194→S195
S116	II	3H	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期		S196	II	8F	土坑	縄文時代早期	
S117	II	2F	土坑	縄文時代早期		S197	II	8F			S229と同一遺構
S118	II	2F	土坑	縄文時代早期		S198	II	7G	土坑	縄文時代早期	
S119	II	1I	土坑	縄文時代早期		S199	II	3H	土坑	縄文時代早期	
S120	II	1F	土坑	縄文時代早期		S200	II	3H	土坑	縄文時代早期	
S121	II	6F	炉穴	縄文時代早期		S201	II	6H	土坑	縄文時代早期	
S122	II	1E	土坑	縄文時代早期		S202	II	4H	土坑	縄文時代早期	
S123	II	6E	土坑	縄文時代早期		S203	II	6E	土坑	縄文時代草創期か	
S124	II	5F	住居跡	縄文時代草創期か		S204	II	4H	土坑	縄文時代早期	
S125	II	4E	土坑	縄文時代早期		S205	II	7E	炉穴	縄文時代草創期	S224と同一遺構
S126	II	5F	住居跡	縄文時代草創期か		S206	II	7E	土坑	縄文時代早期	
S127	II	6F	土坑			S207	II	6F	炉穴	縄文時代草創期	S163と同一遺構 S208・225→S207
S128	II	0F	土坑	縄文時代早期		S208	II	6F	土坑	縄文時代草創期	
S129	II	4E	土坑	縄文時代草創期		S209	II	7E	土坑	縄文時代早期	
S130	II	4F	土坑	縄文時代早期		S210	II	8G	土坑	縄文時代草創期	
S131	II	4F	土坑	縄文時代早期		S211	II	8G	土坑	縄文時代草創期	
S132	II	4F	土坑	縄文時代早期		S212	II	7G	土坑	縄文時代早期	
S133	II	4G	住居跡	縄文時代草創期か		S213	II	7D			欠番
S134	II	4G	住居跡	縄文時代草創期か		S214	II	6D	土坑	縄文時代早期	
S135	II	4H	住居跡	縄文時代早期か		S215	II	5E	住居跡	縄文時代草創期か	
S136	II	6D	土坑	縄文時代早期		S216	II	6F	住居跡	縄文時代草創期か	
S137	II	5E	土坑	中世	擾乱	S217	II	6F	土坑	縄文時代早期	S225→S217
S138	II	5E	土坑	縄文時代早期		S218	II	6D			欠番
S127	II	6F	土坑			S219	II	7F	土坑	縄文時代早期	
S140	II	4F	土坑	縄文時代早期		S220	II	5E	土坑	縄文時代早期	
S141	II	5F	土坑	縄文時代早期		S221	II	7F	土坑	縄文時代早期	
S142	II	5F	土坑	縄文時代草創期	S170→S142	S222	II	7F	土坑	縄文時代早期	
S143	II	5G	土坑	縄文時代早期		S223	II	8F	住居跡		
S144	II	5G	土坑			S224	II	7E	炉穴	縄文時代草創期	S205と同一遺構
S145	II	6F	土坑		S121→S145	S225	II	6F	土坑	縄文時代早期	
S146	II	7F	土坑	縄文時代早期		S226	II	6F	陥し穴	縄文時代早期	
S147	II	7F	炉穴	縄文時代早期		S227	II	7F	土坑		
S148	II	7F	陥し穴	縄文時代早期		S228	II	8G	炉穴	縄文時代早期	
S149	II	7F	土坑	縄文時代早期		S229	II	8F	土坑	縄文時代早期	
S150	II	7G	土坑	縄文時代早期		S230	II	6D	柱穴	中世	SB001の柱穴
S151	II	7G	土坑	縄文時代早期		S231	II	6D	柱穴	中世	SB001の柱穴
S152	II	8G	陥し穴	縄文時代早期		S232	II	6D	柱穴	中世	SB001の柱穴
S153	II	5H	土坑	縄文時代早期		S233	II	6D	柱穴	中世	SB001の柱穴
S154	II	5F	土坑	縄文時代早期		S234	II	6D	柱穴	中世	SB001の柱穴
S155	II	5E	土坑	縄文時代早期		S235	II	6D	柱穴	中世	SB001の柱穴
S156	II	5G	土坑	縄文時代早期		S236	II	6D	柱穴	中世	SB001の柱穴
S157	II	6E	住居跡	縄文時代草創期	S158・203→S157	S237	II	6D	柱穴	中世	SB001の柱穴
S158	II	6E	住居跡	縄文時代草創期か		S238	II	6D	柱穴	中世	SB001の柱穴
S159	II	6E	住居跡	縄文時代草創期		S239	II	6D	柱穴	中世	SB001の柱穴
S160	II	6E	住居跡	縄文時代草創期		S240	II	6D	柱穴	中世	SB001の柱穴
S161	II	7F	土坑	縄文時代早期		S241	II	8F	柱穴	縄文時代早期	
S162	II	7F	住居跡	縄文時代草創期	S188→S162	S242	II	8F	ビット		
S163	II	7F	炉穴	縄文時代草創期	S207と同一遺構	S243	II	8E	炉穴		
S164	II	7E	住居跡	縄文時代草創期か		S244	III	8C	集石遺構	縄文時代早期	III層上面にて検出
S165	II	5G	土坑	縄文時代早期		S245	III	8/9-C	住居跡	縄文時代草創期	
S166	II	6E	土坑	縄文時代早期		S246	III	9-D/E	住居跡	縄文時代草創期	IV層上面にて検出 S273→S246
S167	II	3F	土坑	縄文時代早期		S247	III	9C	集石遺構	縄文時代早期	III層中より検出
S168	II	5E	土坑	縄文時代早期		S248	III	9D	集石遺構	縄文時代早期	IV層上面にて検出
S169	II	5E	土坑	縄文時代早期		S249	III	8E	炉穴	縄文時代早期	S275・287→S249
S170	II	5F	土坑	縄文時代早期		S250	III	8D	土坑	縄文時代草創期	IV層上面にて検出
S171	II	6E	土坑	縄文時代早期		S251	III	9D	土坑	古墳時代	III層上面にて検出 堯が横たわった状態で出土
S172	II	6F	住居跡	縄文時代草創期		S252	III	8D	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出
S173	II	7E	土坑	縄文時代早期		S253	III	8D	住居跡	縄文時代草創期か	IV層上面にて検出
S174	II	7D	土坑	縄文時代早期		S254	III	9D	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出 S235→S254
S175	II	6F	土坑	縄文時代早期	S176と同一遺構	S255	III	9D	柱穴	縄文時代早期	IV層上面にて検出 S255→S254
S176	II	7F	土坑	縄文時代早期	S175と同一遺構	S256	III	9D	土坑		IV層上面にて検出 S255→S256
S177	II	7F	土坑	縄文時代早期		S257	III	8D	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出
S178	II	7F	土坑	縄文時代草創期		S258	III	8/9-C/D	土坑	縄文時代草創期	IV層上面にて検出 S258→S245
S179	II	7F	土坑			S259	III	9D	土坑	縄文時代草創期	IV層上面にて検出
S180	II	7F	土坑			S260	III	8C	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出
S181	II	6F	土坑	縄文時代早期		S261	III	8C	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出
S182	II	8F	土坑	縄文時代早期		S262	III	8C	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出
S183	II	8F	土坑	縄文時代草創期か		S263	III	8C	土坑	縄文時代草創期	IV層上面にて検出
S184	II	8F	炉穴	縄文時代早期		S264	III	8C	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出
S185	II	7E	土坑	縄文時代草創期	S186→S185						
S186	II	7E	住居跡	縄文時代草創期か	S186→S168・185・187						
S187	II	7E	住居跡	縄文時代草創期か							
S188	II	7F	炉穴	縄文時代草創期							
S189	II	5H	土坑	縄文時代草創期							
S190	II	4H	住居跡	縄文時代草創期							
S191	II	5H	土坑								

森の木遺跡遺構一覧表

遺構番号	次数	グリッド番号	種別	時期	備考	遺構番号	次数	グリッド番号	種別	時期	備考
S265	Ⅲ	8/9-D	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出	S319	Ⅲ	9C	ビット		IV層上面にて検出
S266	Ⅲ	9-C/D	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	Ⅲ層上面にて検出	S320	Ⅲ	8D	ビット		IV層上面にて検出
S267	Ⅲ	8D	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出	S321	Ⅲ	9C	ビット		IV層上面にて検出
S268	Ⅲ	8D	炬穴	縄文時代早期	IV層上面にて検出	S322	Ⅲ	9C	ビット		IV層上面にて検出
S269	Ⅲ	8D	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S323	Ⅲ	9C	ビット		IV層上面にて検出
S270	Ⅲ	9D	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出 S271→S270	S324	Ⅲ	9C	ビット		IV層上面にて検出
S271	Ⅲ	9D	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出 S271→S270	S325	Ⅲ	8C	ビット		IV層上面にて検出
S272	Ⅲ	9C	土坑			S326	Ⅲ	8C	ビット		IV層上面にて検出
S273	Ⅲ	9D	住居跡	縄文時代草創期	IV層上面にて検出 S273→S246	S327	Ⅲ	8C	ビット		IV層上面にて検出
S274	Ⅲ	8D	ビット			S328	Ⅲ	8C	ビット		IV層上面にて検出
S275	Ⅲ	8E	住居跡	縄文時代早期	IV層上面にて検出	S329	Ⅳ	10/11-F	集石遺構	縄文時代早期	Ⅱ～Ⅲ層上面で検出
S276	Ⅲ	9C	土坑			S330	Ⅳ	9F	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	Ⅲ層上面にて検出
S277	Ⅲ	8/9-C	住居跡	縄文時代草創期	IV層上面にて検出 S277→S245・276	S331	Ⅳ	12E	土坑	縄文時代早期	Ⅲ層上面にて検出 埋土はアカホヤ
S278	Ⅲ	9C	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出	S332	Ⅳ	8F	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	Ⅲ層中にて検出 S333・334と重複
S279	Ⅲ	8D	ビット			S333	Ⅳ	8F	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	Ⅲ層中にて検出 S333・334と重複
S280	Ⅲ	7D	土坑			S334	Ⅳ	8F	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	Ⅲ層中にて検出 S333・334と重複
S281	Ⅲ	8E	ビット			S335	Ⅳ	11E	土坑を伴う集石遺構	縄文時代草創期	Ⅲ層中にて検出
S282	Ⅲ	8E	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S336	Ⅳ	9F	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	Ⅲ層中にて検出
S283	Ⅲ	8E	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S337	Ⅳ	9E	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	Ⅲ層中にて検出
S284	Ⅲ	8E	ビット			S338	Ⅳ	8E	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	Ⅲ層中にて検出
S285	Ⅲ	8E	ビット			S339	Ⅳ	9E	集石遺構	縄文時代早期	Ⅲ層中にて検出
S286	Ⅲ	9E	ビット			S340	Ⅳ	11/12-E/F	集石遺構	縄文時代早期	石礫を中心に残存
S287	Ⅲ	8E	溝			S341	Ⅳ	9D	土坑	縄文時代早期	Ⅱ層にて検出 S341→S357
S288	Ⅲ	8E	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S342	Ⅳ				欠番
S289	Ⅲ	8E	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S343	Ⅳ				欠番
S290	Ⅲ	8E	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S344	Ⅳ				欠番
S291	Ⅲ	8E	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S345	Ⅳ				欠番
S292	Ⅲ	8E	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S346	Ⅳ	9E	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	Ⅲ層中にて検出 S337→S346
S293	Ⅲ	8D	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S347	Ⅳ	8E	住居跡	縄文時代草創期	IV層上面にて検出
S294	Ⅲ	8D	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S348	Ⅳ	9/10-D	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	Ⅲ層中にて検出 S350→S349→S348
S295	Ⅲ	8D	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S349	Ⅳ	9/10-D	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	Ⅲ層中にて検出 S350→S349→S348
S296	Ⅲ	8D	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S350	Ⅳ	9/10-D	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	Ⅲ層中にて検出 S350→S349→S348
S297	Ⅲ	8D	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S351	Ⅳ	8E	土坑	縄文時代早期	S347→S351 埋土はアカホヤ
S298	Ⅲ	8D	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S352	Ⅳ	8E	土坑	縄文時代早期	S347の屋内土坑
S299	Ⅲ	8D	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S353	Ⅳ	8E	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出
S300	Ⅲ	8D	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S354	Ⅳ	8E	土坑	縄文時代草創期	IV層上面にて検出
S301	Ⅲ	8D	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S355	Ⅳ	8E	土坑	縄文時代草創期	IV層上面にて検出
S302	Ⅲ	8D	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S356	Ⅳ	8E	土坑		S347→S356 埋土はアカホヤ
S303	Ⅲ	8D	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S357	Ⅳ	9D	土坑	縄文時代早期	
S304	Ⅲ	8D	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S358	Ⅳ	10C	住居跡	縄文時代草創期	IV層上面にて検出 S392・293→S358
S305	Ⅲ	8D	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA001の柱穴	S359	Ⅳ	9F	炬穴	縄文時代早期	IV層上面にて検出 燻道確認 床面に焼土
S306	Ⅲ	8D	ビット			S360	Ⅳ	9F	ビット		IV層上面にて検出
S307	Ⅲ	8D	ビット			S361	Ⅳ	9F	炬穴	縄文時代早期	IV層上面にて検出 燻道確認 床面に焼土
S308	Ⅲ	8D	ビット			S362	Ⅳ	8F	土坑		IV層上面にて検出
S309	Ⅲ	9C	土坑			S363	Ⅳ	9F	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出
S310	Ⅲ	8D	ビット			S364	Ⅳ	8F	土坑	縄文時代早期	S347の屋内土坑
S311	Ⅲ	8D	ビット			S365	Ⅳ	12C	溝		Ⅱ層上面にて検出
S312	Ⅲ	9D	ビット			S366	Ⅳ	9E	炬穴	縄文時代草創期	IV層上面にて検出
S313	Ⅲ	8D	ビット			S367	Ⅳ	9F	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出
S314	Ⅲ	8D	ビット			S368	Ⅳ	9F	炬穴	縄文時代草創期	IV層上面にて検出
S315	Ⅲ	9D	ビット			S369	Ⅳ	10D	土坑	縄文時代草創期	IV層上面にて検出
S316	Ⅲ	9D	ビット			S370	Ⅳ	8/9-F	住居跡	縄文時代草創期	IV層上面にて検出 S370→S371・S372
S317	Ⅲ	8D	ビット			S371	Ⅳ	8F	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出 S370→S371
S318	Ⅲ	8D	ビット			S372	Ⅳ	9F	土坑	縄文時代草創期	IV層上面にて検出 S370→S372
						S373	Ⅳ	9C	土坑		IV層上面にて検出
						S374	Ⅳ	10D	土坑		IV層上面にて検出
						S375	Ⅳ	10C	土坑		IV層上面にて検出
						S376	Ⅳ	10E	炬穴	縄文時代早期	IV層上面にて検出 下層部に礫が敷かれる
						S377	Ⅳ				欠番

森の木遺跡遺構一覧表

遺構 番号	次 数	グリッド 番号	種 別	時 期	備 考	遺構 番号	次 数	グリッド 番号	種 別	時 期	備 考
S378	IV	11E	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出	S446	IV	11D	土坑		IV層上面にて検出
S379	IV	10D	炉穴	縄文時代早期	IV層上面にて検出 S380・S390と重複	S447	IV	11D	ビット		IV層上面にて検出
S380	IV					S448	IV	12D	ビット		IV層上面にて検出
S381	IV	10D	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出	S449	IV	12D	ビット		IV層上面にて検出
S382	IV	9E	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	IV層上面にて検出 礫が多く出土	S450	IV	11D	ビット		IV層上面にて検出
S383	IV	9/10-D	住居跡	縄文時代草創期	IV層上面にて検出 S384→S385→S383	S451	IV	11D	土坑		IV層上面にて検出
S384	IV	9/10-D	土坑	縄文時代草創期	IV層上面にて検出 S383・S385→S384	S452	IV	11D	ビット		IV層上面にて検出
S385	IV	9/10-D	土坑	縄文時代草創期	IV層上面にて検出	S453	IV	11D	ビット		IV層上面にて検出
S386	IV	9D	土坑		IV層上面にて検出	S454	IV	11D	ビット		IV層上面にて検出
S387	IV	9D	柱穴	縄文時代早期	S386床面より検出	S455	IV	12D	ビット		IV層上面にて検出
S388	IV				欠番	S456	IV	12D	ビット		IV層上面にて検出
S389	IV	9D	ビット		S386床面より検出	S457	IV	12D	ビット		IV層上面にて検出
S390	IV	9D	炉穴	縄文時代早期		S458	IV	12D	ビット		IV層上面にて検出
S391	IV	10C	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出 S358と重複	S459	IV	12D	ビット		IV層上面にて検出
S392	IV	10C	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出 S358と重複	S460	IV	12D	ビット		IV層上面にて検出
S393	IV	9C	土坑	縄文時代早期	IV層上面にて検出 S358・S393と重複	S461	IV	12D	ビット		IV層上面にて検出
S394	IV	9D	ビット		IV層上面にて検出	S462	IV	11D	ビット		IV層上面にて検出
S395	IV	11F	柱穴	縄文時代早期	IV層上面にて検出	S463	IV	12D	ビット		IV層上面にて検出
S396	IV	11F	ビット		IV層上面にて検出	S464	IV	11D	ビット		IV層上面にて検出
S397	IV	11/12-E/ F	土坑		IV層上面にて検出	S465	IV	12C	ビット		IV層上面にて検出
S398	IV	9D	ビット		IV層上面にて検出	S466	IV	12C	ビット		IV層上面にて検出
S399	IV	11F	ビット		IV層上面にて検出	S467	IV	12C	ビット		IV層上面にて検出
S400	IV	11F	ビット		IV層上面にて検出	S468	IV	11C	ビット		IV層上面にて検出
S401	IV	11F	ビット		IV層上面にて検出	S469	IV	11C	ビット		IV層上面にて検出
S402	IV	11F	ビット		IV層上面にて検出	S470	IV	11C	ビット		IV層上面にて検出
S403	IV	11F	ビット		IV層上面にて検出	S471	IV	11C	ビット		IV層上面にて検出
S404	IV	11F	ビット		IV層上面にて検出	S472	IV	11C	ビット		IV層上面にて検出
S405	IV	11F	ビット		IV層上面にて検出	S473	IV	11C	ビット		IV層上面にて検出
S406	IV	11F	ビット		IV層上面にて検出	S474	IV	11C	ビット		IV層上面にて検出
S407	IV	11F	ビット		IV層上面にて検出	S475	IV	11C	ビット		IV層上面にて検出
S408	IV	11F	ビット		IV層上面にて検出	S476	IV	12D	ビット		IV層上面にて検出
S409	IV	11F	土坑		S411と重複	S477	IV	12C	ビット		IV層上面にて検出
S410	IV	11F	ビット		S409床面より検出	S478	IV	12C	ビット		IV層上面にて検出
S411	IV	11F	不明遺構		住居又は土坑か	S479	IV	12C	ビット		IV層上面にて検出
S412	IV	11F	ビット		S411と重複	S480	IV	11C	ビット		IV層上面にて検出
S413	IV	11F	ビット		S411の床面より検出	S481	IV	11C	土坑		
S414	IV				欠番	S482	IV	11C	ビット		IV層上面にて検出
S415	IV	11F	ビット		IV層上面にて検出	S483	IV	11C	ビット		IV層上面にて検出
S416	IV	11F	ビット		IV層上面にて検出	S484	IV	12C	土坑		IV層上面にて検出
S417	IV	11F	ビット		IV層上面にて検出	S485	IV	12C	ビット		IV層上面にて検出
S418	IV	11F	ビット		IV層上面にて検出	S486	IV	12C	土坑		IV層上面にて検出
S419	IV	11F	ビット		IV層上面にて検出	S487	IV	10F	土坑		IV層上面にて検出
S420	IV	11F	ビット		IV層上面にて検出	S488	IV	9F	ビット		IV層上面にて検出
S421	IV	11F	ビット		IV層上面にて検出	S489	IV	9F	ビット		IV層上面にて検出
S422	IV	11F	焼土坑		IV層上面にて検出 床面に焼土を確認	S490	IV	9G	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA002の柱穴
S423	IV	11F	土坑		IV層上面にて検出	S491	IV	9F	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA002の柱穴
S424	IV	12F	土坑		IV層上面にて検出	S492	IV	9F	ビット		IV層上面にて検出
S425	IV	12E	ビット		IV層上面にて検出	S493	IV	9F	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA002の柱穴
S426	IV	11E	ビット		IV層上面にて検出	S494	IV	9F	柱穴	近世	IV層上面にて検出 SA002の柱穴
S427	IV	11E	ビット		IV層上面にて検出	S495	IV	9F	ビット		IV層上面にて検出
S428	IV	12E	ビット		IV層上面にて検出	S496	IV	9F	ビット		IV層上面にて検出
S429	IV	12E	ビット		IV層上面にて検出	S497	IV	9F	ビット		IV層上面にて検出
S430	IV	12E	ビット		IV層上面にて検出	S498	IV	9F	土坑		IV層上面にて検出
S431	IV	11E	ビット		IV層上面にて検出	S499	IV	9F	土坑		IV層上面にて検出
S432	IV	11E	ビット		IV層上面にて検出	S500	IV	9F	ビット		IV層上面にて検出
S433	IV				欠番	S501	IV	9F	土坑		IV層上面にて検出
S434	IV	11D	ビット		IV層上面にて検出	S502	IV	9F	ビット		IV層上面にて検出
S435	IV	11D	ビット		IV層上面にて検出	S503	IV	9F	ビット		IV層上面にて検出
S436	IV	12D	土坑		IV層上面にて検出	S504	IV	9F	ビット		IV層上面にて検出
S437	IV	12D	ビット		IV層上面にて検出	S505	IV	9F	土坑		IV層上面にて検出
S438	IV	12D	ビット		IV層上面にて検出	S506	IV	9F	ビット		IV層上面にて検出
S439	IV	11D	ビット		IV層上面にて検出	S507	IV	9F	土坑		IV層上面にて検出
S440	IV	11D	ビット		IV層上面にて検出	S508	IV	9E	ビット		IV層上面にて検出
S441	IV	11D	ビット		IV層上面にて検出	S509	IV	9E	土坑		IV層上面にて検出
S442	IV	11D	ビット		IV層上面にて検出	S510	IV	9E	土坑		IV層上面にて検出
S443	IV	11D	ビット		IV層上面にて検出	S511	IV	9E	ビット		IV層上面にて検出
S444	IV	11D	ビット		IV層上面にて検出	S512	IV	9E	ビット		IV層上面にて検出
S445	IV	11D	ビット		IV層上面にて検出	S513	IV	9E	土坑		IV層上面にて検出
						S514	IV	9E	ビット		SS13床面から検出
						S515	IV	9E	土坑		IV層上面にて検出
						S516	IV	9E	ビット		SS15床面から検出
						S517	IV	9E	ビット		IV層上面にて検出
						S518	IV	9E	ビット		IV層上面にて検出
						S519	IV	9E	土坑		IV層上面にて検出
						S520	IV	9E	ビット		IV層上面にて検出
						S521	IV	9E	土坑		IV層上面にて検出

森の木遺跡遺構一覧表

遺構 番号	次 数	グリッド 番号	種 別	時 期	備 考
S522	IV	9E	ピット		IV層上面にて検出
S523	IV	9E	ピット		IV層上面にて検出
S524	IV	8E	ピット		IV層上面にて検出
S525	IV	8E	ピット		IV層上面にて検出
S526	IV	8F	ピット		IV層上面にて検出
S527	IV	8F	ピット		IV層上面にて検出
S528	IV	8F	ピット		IV層上面にて検出
S529	IV	8F	ピット		IV層上面にて検出
S530	IV	8F	ピット		IV層上面にて検出
S531	IV	8E	ピット		IV層上面にて検出
S532	IV	8E	ピット		IV層上面にて検出
S533	IV	8E	ピット		IV層上面にて検出
S534	IV	9E	ピット		IV層上面にて検出
S535	IV	9E	ピット		IV層上面にて検出
S536	IV	9E	ピット		IV層上面にて検出
S537	IV	10E	ピット		IV層上面にて検出
S538	IV	10E	ピット		IV層上面にて検出
S539	IV	9D	ピット		IV層上面にて検出
S540	IV	9D	ピット		IV層上面にて検出
S541	IV	10D	ピット		IV層上面にて検出
S542	IV	10D	ピット		IV層上面にて検出
S543	IV	9D	ピット		IV層上面にて検出
S544	IV	10C	ピット		IV層上面にて検出
S545	IV	9C	ピット		IV層上面にて検出
S546	IV	9C	ピット		IV層上面にて検出
S547	IV	9/10-C	土坑		IV層上面にて検出
S548	IV	10C	ピット		IV層上面にて検出
S549	IV	10B	ピット		IV層上面にて検出
S550	IV		土坑		
S551	IV		土坑		
S552	IV				欠番
S553	IV		土坑		



森の木遺跡空中写真（2次調査）南西から北東方向



森の木遺跡空中写真（2次調査） 南から北方向

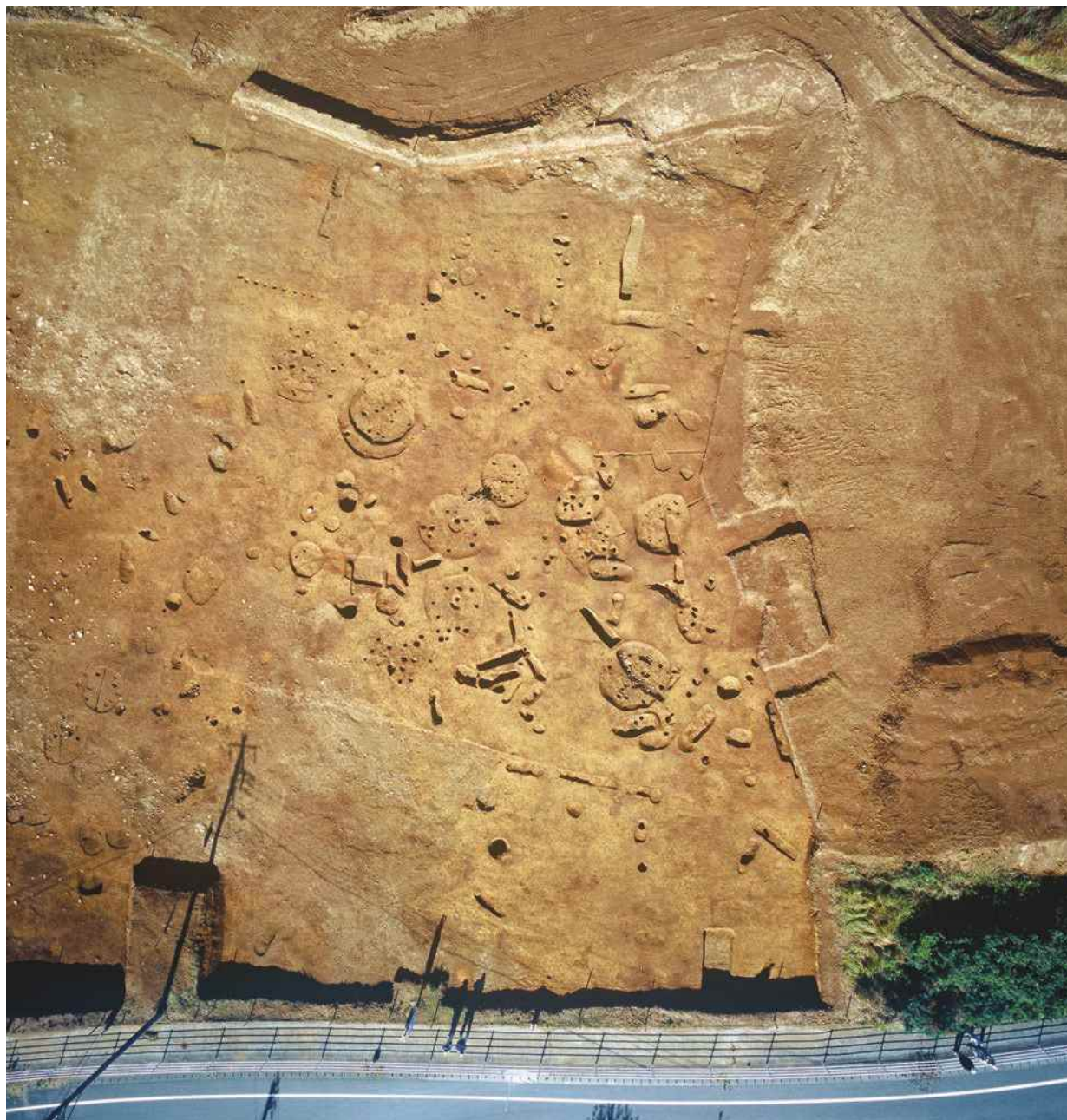


森の木遺跡空中写真（2次調査） 北から南方向



森の木遺跡空中写真（4次調査）

2次調査～4次調査の遺構分布



森の木遺跡空中写真（2次調査） 上が北
縄文時代草創期の南側竪穴建物群を中心とした遺構群



森の木遺跡空中写真（2次調査） 上が北
縄文時代草創期の南側竪穴建物群を中心とした遺構群



森の木遺跡空中写真（3次調査） 上が北
中央の区画が3次調査区 縄文時代草創期の北側竪穴建物群を中心とした遺構群で、
その下が2次調査区の南側竪穴建物群が広がる



森の木遺跡空中写真（4次調査） 上が北



2次 4H東壁中央 土層断面 (西から)



2次 基本土層 土層断面 (南から)



2次 4F旧石器 出土状況①



2次 4F旧石器 出土状況②



2次 旧石器（集石か） 遺物出土状況（北から）



2次 S190 完掘状況（南東から）



3次 S245・S277 出土状況（東から）



3次 S245・S277 出土状況（東から）



4次 S246 遺物出土状況（南から）



4次 S246 完掘状況（南から）



3次 S273 完掘状況（東から）



4次 S358 遺物出土状況（南から）



4次 S358 完掘状況（南から）



4次 S383 遺物出土状況（西から）



4次 S383・S384・S385 完掘状況（北西から）



3次 S259 土層断面 (南から)



3次 S259 完掘状況 (東から)



2次 S077 完掘状況（東から）



2次 S080 完掘状況（西から）



2次 S083 検出状況（北から）



2次 S083 遺物出土状況（北から）



2次 S108 土層断面（南から）



2次 S124 土層断面 (東から)



2次 S126 完掘状況 (西から)



2次 S133 完掘状況 (西から)



2次 S134 完掘状況（北から）



2次 S135 完掘状況（南から）



2次 S157・S158・S203 遺物出土状況（南西から）



2次 S157・S158・S203 完掘状況（西から）



2次 S159 完掘状況（西から）



2次 S160 遺物出土状況・土層断面（南から）



2次 S162・S188・S221・S227 完掘状況（東から）



2次 S164・S205 完掘状況（東から）



2次 S172 完掘状況（東から）



2次 S168・S185・S186・S187 土層断面（南西から）



2次 S168・S187 土層断面 (西から)



2次 S185・S186 土層断面 (西から)



2次 S168・S185~S187 完掘状況（北から）



2次 S168・S185~S187 完掘状況（南東から）



2次 S215 完掘状況（南東から）



2次 S216 遺物出土状況（南西から）



2次 S216 完掘状況（北西から）



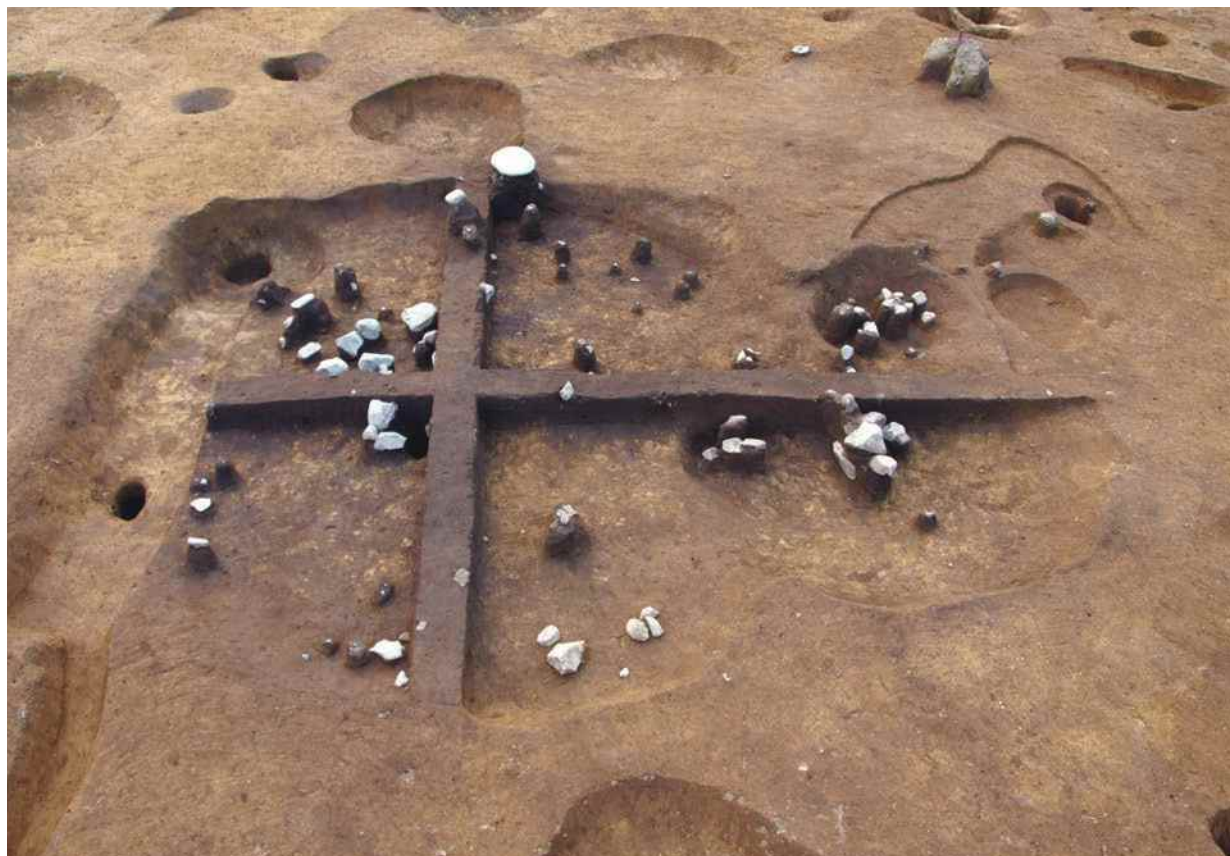
3次 S253 完掘状況（北から）



4次 S347 遺物出土状況（西から）



4次 S347 完掘状況（西から）



4次 S370・S371・S372 遺物出土状況（南から）



4次 S370 完掘状況（西から）



2次 S040・S042 検出状況（東から）



2次 S041 検出状況（東から）



2次 S050 検出状況 (南から)



2次 S050 完掘状況 (南から)



2次 S057 検出状況 (南から)



2次 S057 (下層部) 検出状況 (東から)



2次 S072 検出状況 (北から)



2次 S072 土層断面 (北から)



2次 S085 検出状況（北東から）



2次 S086 検出状況（北西から）



2次 S088 検出状況（東から）



2次 S121 土層断面 (南西から)



2次 S121・S145 遺物出土状況 (東から) ※中央が赤化



2次 S184 遺物出土状況（南東から）※中央やや左が被熱により赤化



2次 S188 検出状況（南東）※左側煙道前の焚口が被熱により赤化



2次 S188 土層断面（北から） ※煙道付炉穴の断ち割りで、下部に黒土がみえる。



2次 S243 土層断面（北東から） ※煙道付炉穴の断ち割り。



2次 S243 完掘状況（東から） ※煙道付炉穴



2次 S224 土層断面（北から） ※煙道付炉穴の断ち割り。



2次 S224 完掘状況（南から） ※煙道付炉穴



2次 S207・S208・S225 完掘状況（北から）



2次 S207・S208・S225 完掘状況（北東から）



2次 S228 土層断面（南西から） ※煙道付炉穴



2次 S228 完掘状況（南西から） ※煙道付炉穴



2次 S084 遺物出土状況（東から）



3次 S249 出土状況（東から）



4次 S359 遺物出土状況（東から） ※端部に被熱による赤化がある。



4次 S361 完掘状況（東から）



4次 S361 土層断面（南東から）



4次 S366 遺物出土状況（東から） ※端部の斜面裾部に被熱による赤化がある。



4次 S366 完掘状況（東から） ※煙道付炉穴



4次 S368 遺物出土状況（東から）



4次 S368 土層断面（南東から）



4次 S390 検出状況（東から） ※煙道付炉穴



4次 S390 検出状況（南東から） ※煙道付炉穴



4次 S390・S379 完掘状況（東から） ※煙道付炉穴



2次 S035 検出状況（北から）



2次 S039・S041 検出状況（東から）



2次 S041 堀方掘削後(南から)



2次 S043 検出状況(南から)



2次 S045 検出状況(南から)



2次 S045 検出状況(北東から)



2次 S046 検出状況（東から） ※S046は写真のほぼ中央



2次 S051 検出状況（南から）



2次 S052・S053 検出状況（西から）



2次 S056 検出状況（南から）



2次 S061 検出状況（北東から）



2次 S062 検出状況（北東から）



2次 S063 検出状況（北から）



2次 S065 検出状況（西から）



2次 S070 検出状況 (北から)



2次 S073 検出状況 (南から)



2次 S074 検出状況（北東から）



3次 S244 検出状況（西から）



3次 S247 検出状況（西から）



3次 S248 土層断面（北から）



2次 S004 検出状況(西から)



2次 S034 土層断面(南東から)



2次 S034 完掘状況(東から)



2次 S044 検出状況(東から)



2次 S047 検出状況 (東から)



2次 S047 検出状況 (東から)



2次 S047(下部) 検出状況 (南から)



2次 S048 土層断面（西から） ※手前の土器は、第409図1700



2次 S048(下部) 検出状況（西から）



2次 S049 検出状況（東から）



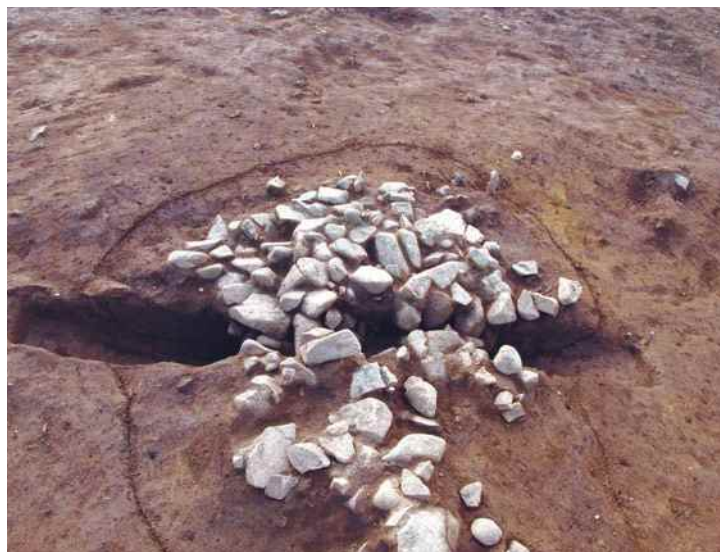
2次 S049・S071 完掘状況（北から）



2次 S058 検出状況（東から）



2次 S064 検出状況（南東から）



2次 S090 土層断面 (東から)



2次 S066・S067 検出状況 (北から)



2次 S068・S069 検出状況 (北東から)



2次 S066 土層断面 (西から)



2次 S068 土層断面 (南から)



2次 S069 土層断面 (南から)



2次 S078・S079 土層断面 (南西から)



2次 S079 検出状況 (南西から)



2次 S089 検出状況 (南東から)



2次 S090 検出状況 (西から)



2次 S090 完掘状況 (北から)



3次 S266 検出状況 (南から)



4次 S330・S332~4・S336~8 集石遠景（南東から）



4次 S330・S332~4・S336~8 集石遠景（北西から）



4次 S330 検出状況（東から）



4次 S330・S336 検出状況（北から）



4次 S330 検出状況（北から）



4次 S332・S333・S334 検出状況 (南から)



4次 S335 検出状況 上部 (南西から)



4次 S335 検出状況 下部 (南西から)



4次 S336 検出状況（北から）



4次 S337 検出状況（南から）



4次 S337・S346 土層断面（西から）



4次 S338 検出状況 (南から)



4次 S348・S349・S350 検出状況 (南から)



4次 S349 土坑内の状況 (南から)



4次 S382 遺物出土状況（東から）



2次 S003 土層断面（北から）



2次 S003 完掘状況（東から）



2次 S005 検出状況（北から）



2次 S005 完掘・土層断面（北から）



2次 S081 完掘状況（東から）



2次 S046 完掘状況 (南から)



2次 S082 完掘状況 (北から)



2次 S084 完掘状況 (北から)



2次 S108 完掘状況



2次 S135 土層断面 (西から)



2次 S092 完掘状況 (東から)



2次 S104 土層断面 (南から)



2次 S109 土層断面 (南から)



2次 S112 土層断面 (西から)



2次 S117 遺物出土状況（南から）



2次 S129 完掘状況（北東から）



2次 S130 完掘状況（東から）



2次 S131 完掘状況（南東から）



2次 S132 完掘状況（南から）炉穴

※炉穴の端部付近に被熱による赤化部分がある。



2次 S136 完掘状況（南から）



2次 S140 完掘状況（東から）



2次 S146 土層断面（北東から）



2次 S141 完掘状況（西から）



2次 S147 完掘状況（北西から）



2次 S149 土層断面（南から）



2次 S150 土層断面（東から）



2次 S151 土層断面（東から）



2次 S173 完掘状況（南西から）※被熱により赤化



2次 S155 遺物出土状況（西から）



2次 S175・S177・S178 遺物出土状況（東から）



2次 S174 完掘状況（南東から）



2次 S182 完掘状況（東から）※被熱により赤化



2次 S181 遺物出土状況（北から）



2次 S183 完掘状況（東から）



2次 S195 遺物出土状況（西から）



2次 S196 完掘状況（南から）



2次 S198 完掘状況（北から）



2次 S201 完掘状況（南西から）



2次 S209 土層断面（南から）



2次 S210 土層断面（南西から）



2次 S211 遺物出土状況・土層断面（南から）



2次 S212 完掘状況（西から）※被熱により赤化



2次 S222 完掘状況（東から）



2次 S225 土層断面（西から）※被熱により赤化



2次 S229 完掘状況 (北から)



3次 S260 完掘状況 (北から)



3次 S258 完掘状況 (東から)



3次 S261 完掘状況 (北から)



3次 S263・S264・S265 完掘状況 (西から)



3次 S265 完掘状況 (南から)



3次 S267 完掘状況 (南から)



3次 S270・S271 完掘状況 (南から)



3次 S127 完掘状況 (南西から)



4次 S331 遺物出土状況 (南から)



4次 S341 完掘状況 (北から)



4次 S367 遺物出土状況 (南東から)



4次 S369 遺物出土状況 (南西から)



4次 S384・S385 完掘状況 (南東から)



2次 S076 土層断面 (西から)



2次 S115 完掘状況 (南から)



2次 S226 完掘状況 (西から)



2次 1F区6410 遺物出土状況 (北西から)



2次 1F区6411 遺物出土状況 (南東から)



2次 9Fグリッド 遺物出土状況 (東から)



2次 古銭 出土状況 (北から)



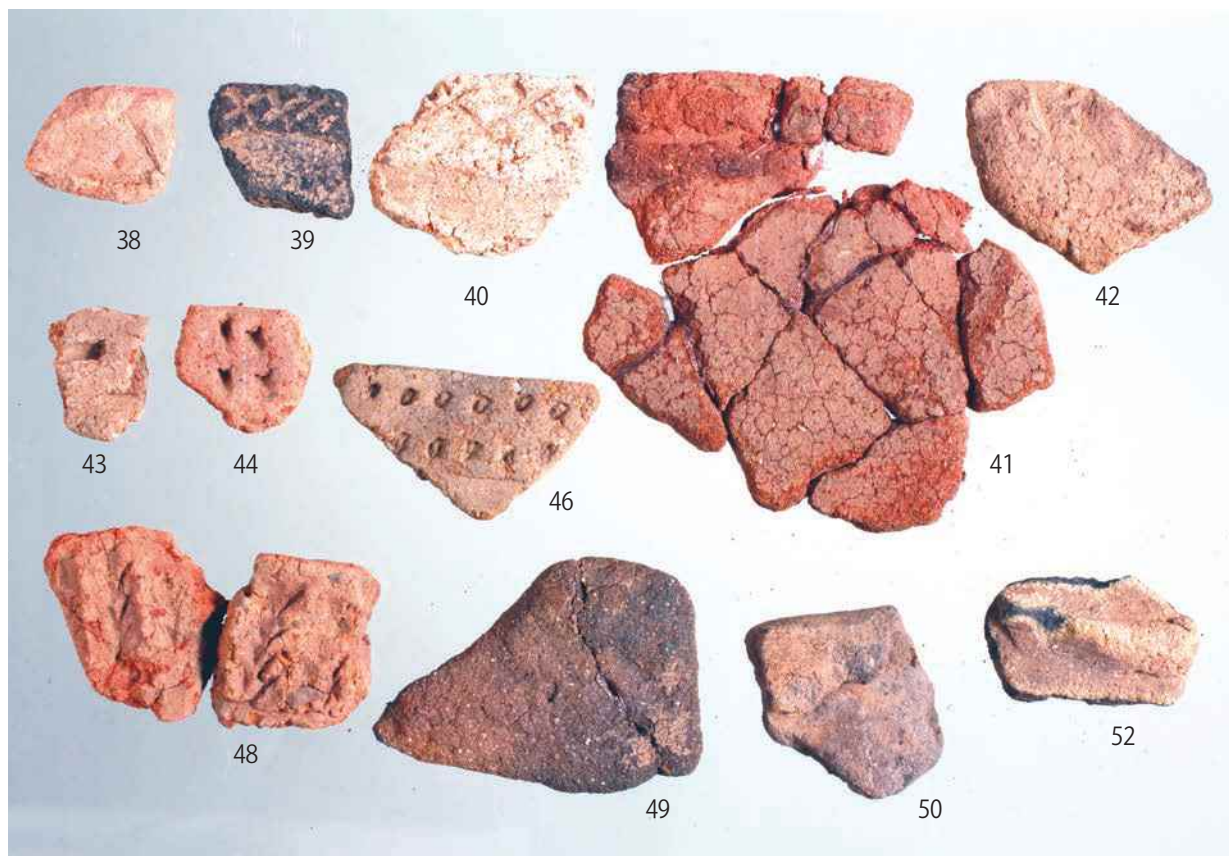
2次 1Eグリッド 遺物出土状況(西から)



2次 0Eグリッド 遺物出土状況(北から)



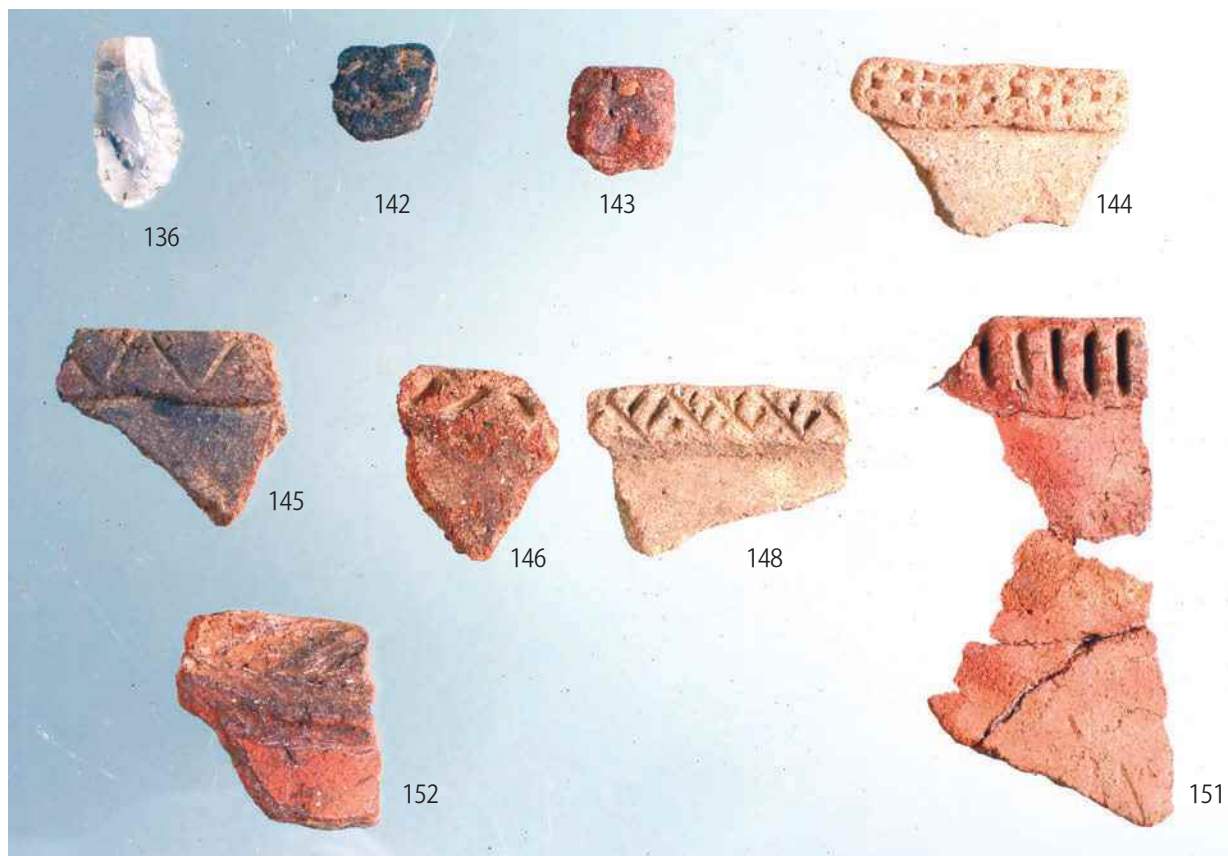
3次 S251 出土状況(西から)



隆帯文系土器



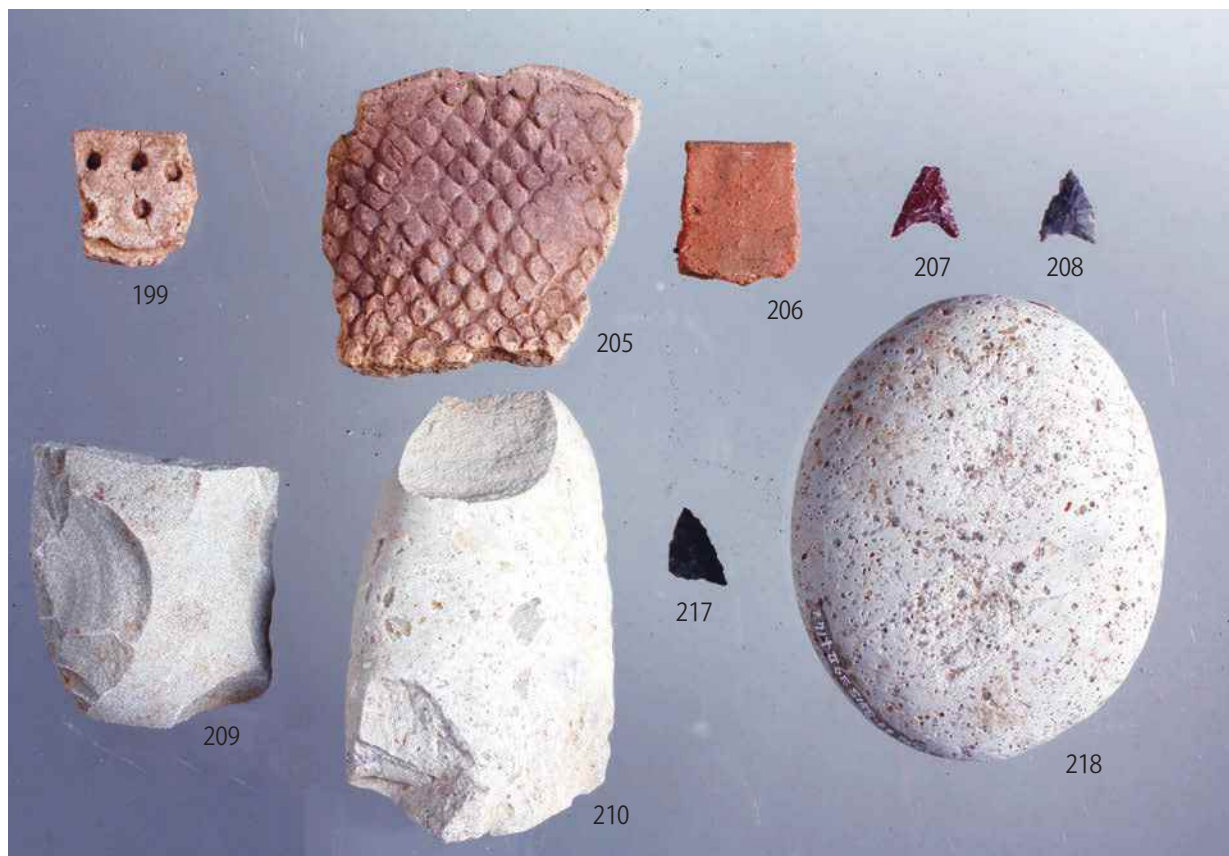
隆帯文系土器と草創期無文土器



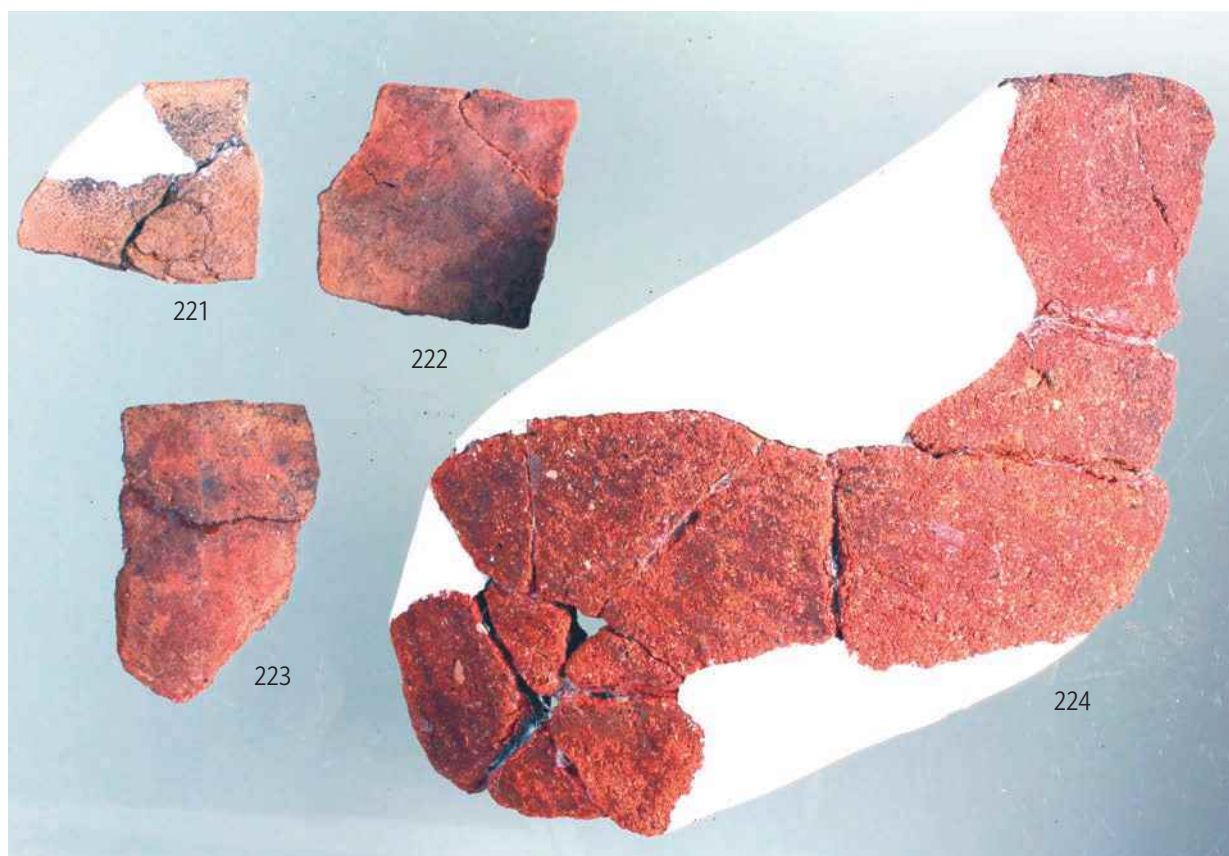
石器と隆帯文系土器



草創期石器



草創期の土器・石器と早期の土器・石器



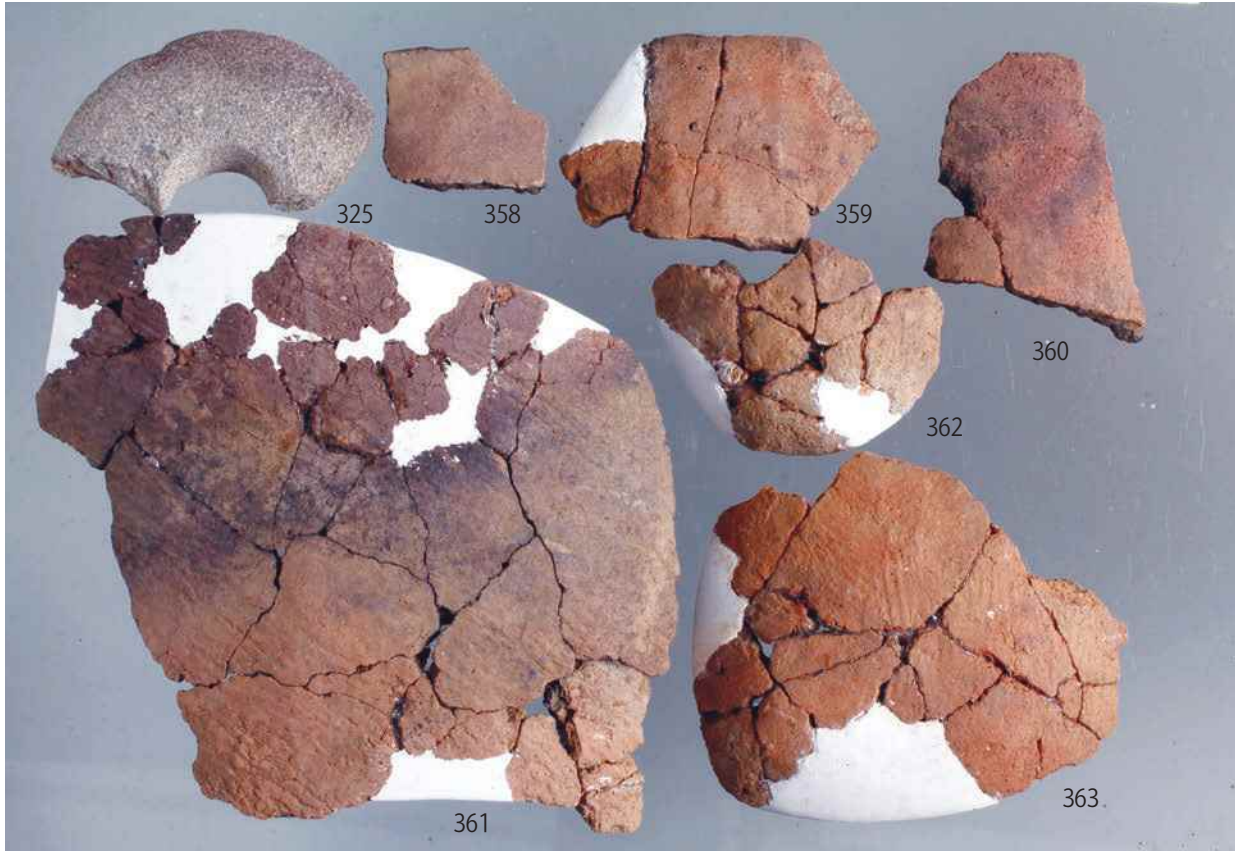
草創期・早期の土器



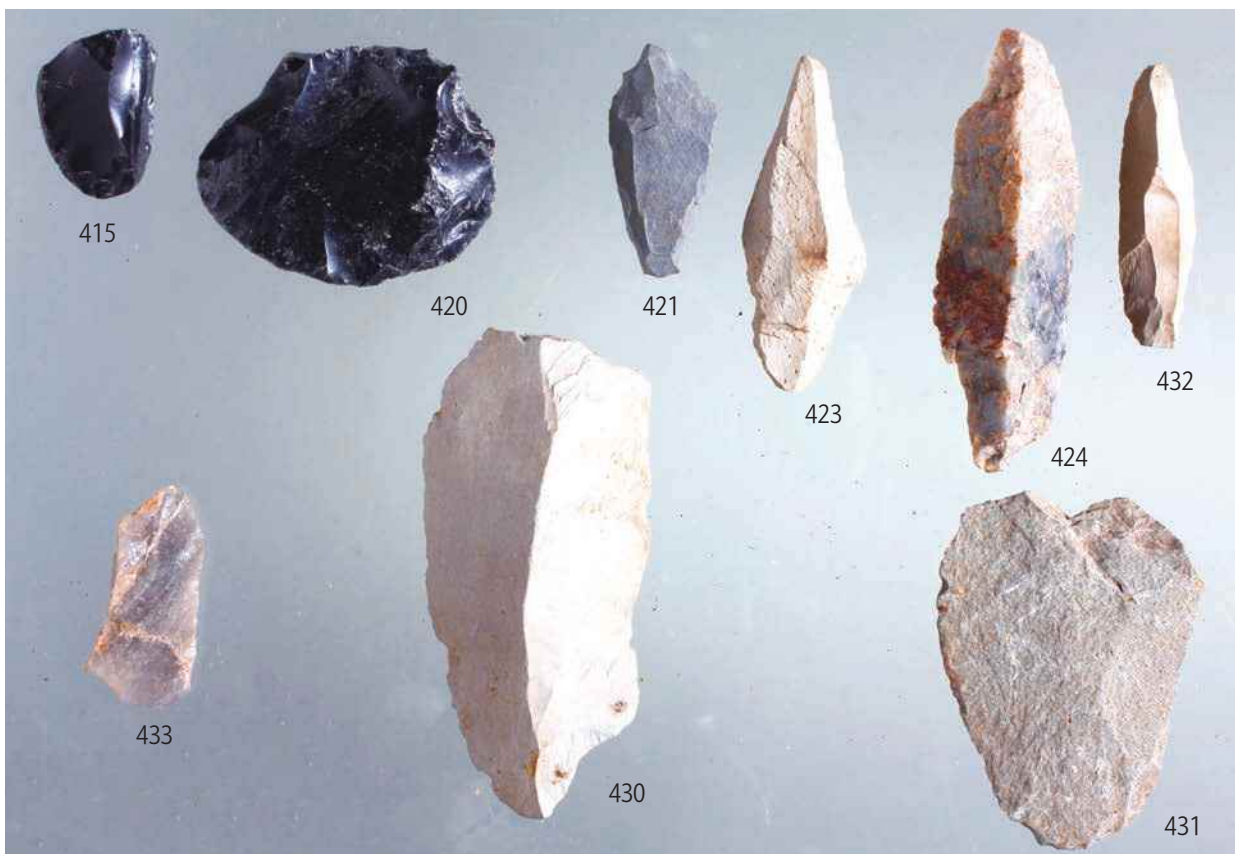
草創期の土器・石器



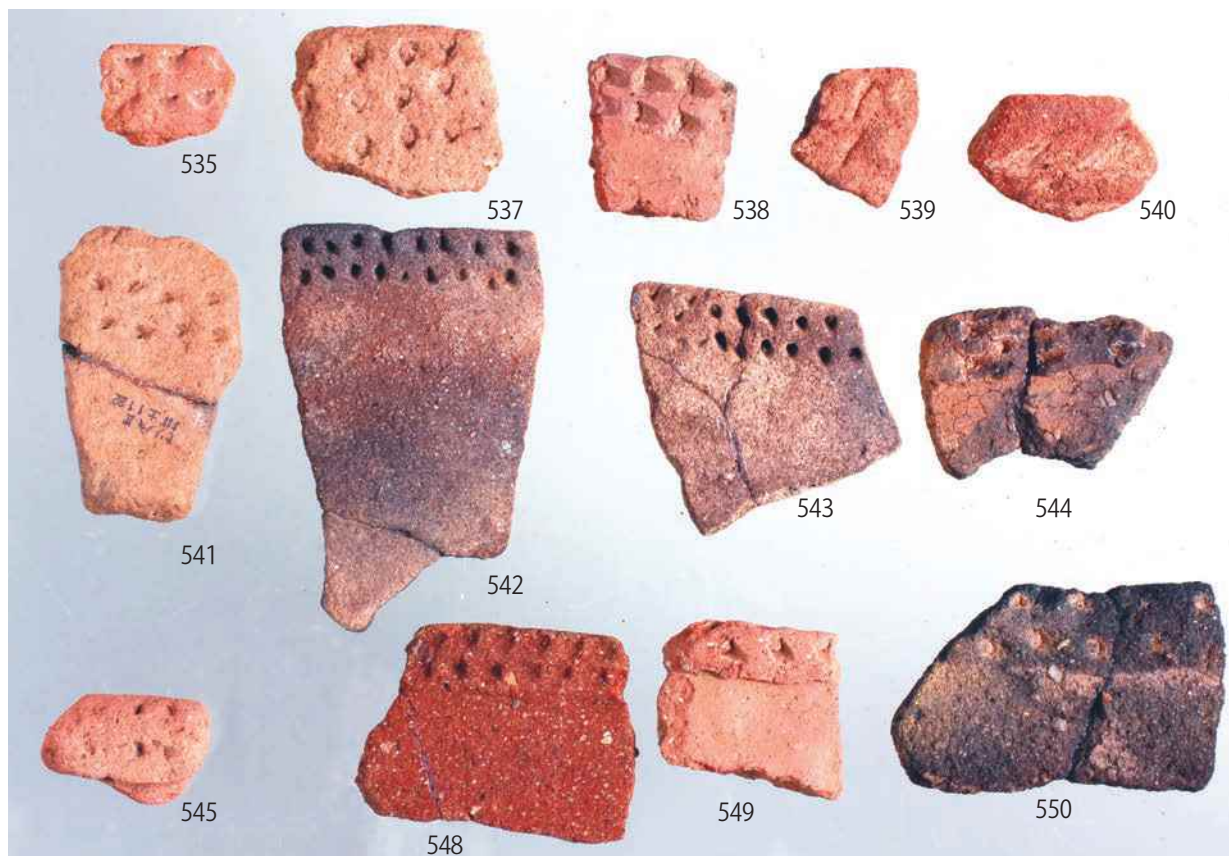
草創期の土器



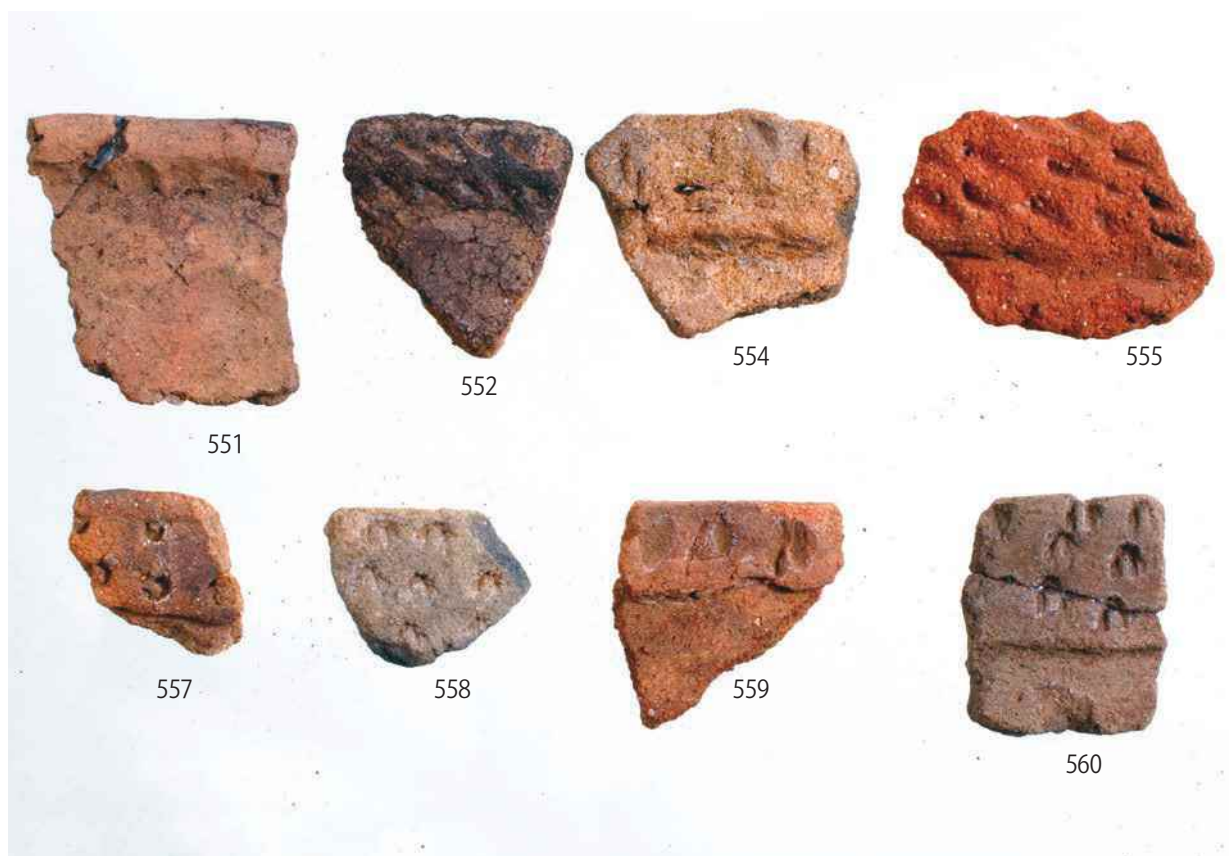
早期の石器・草創期の土器



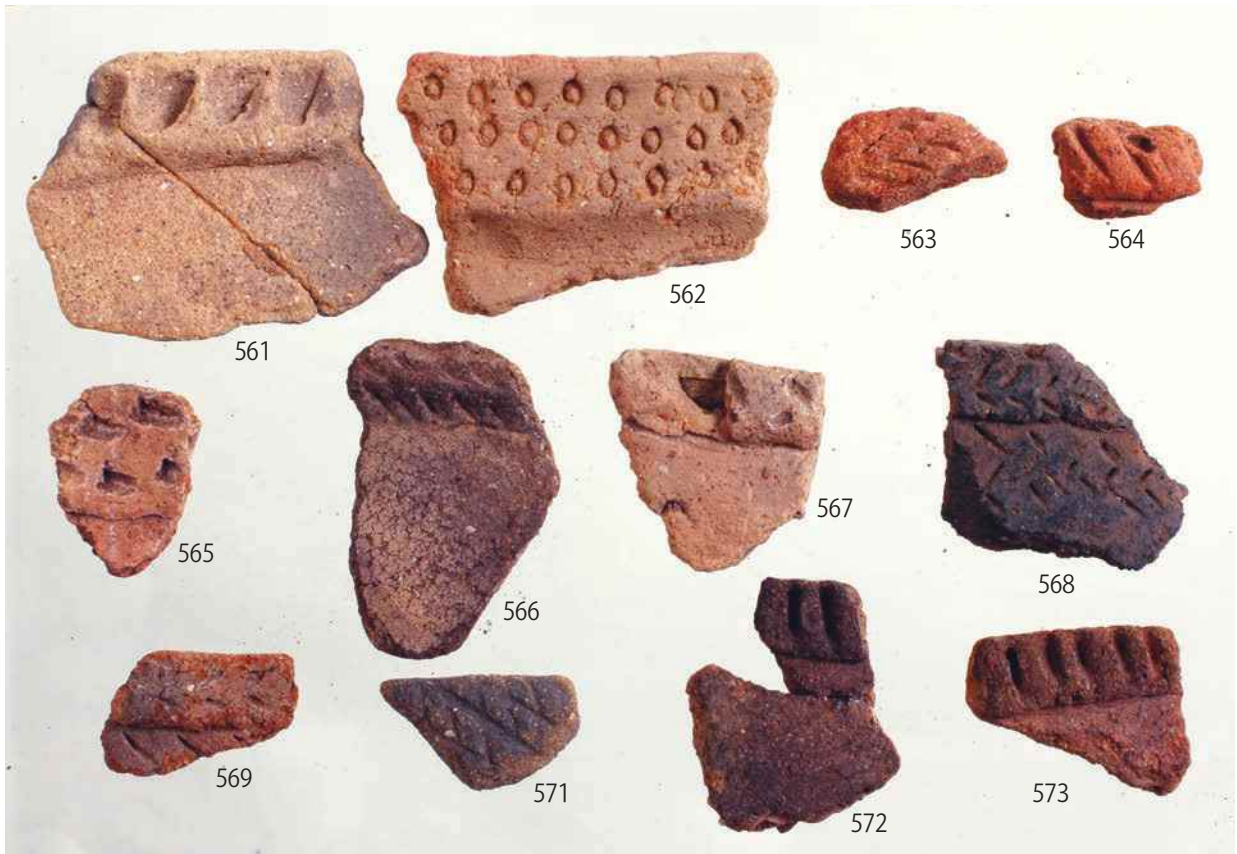
草創期前半の石器・旧石器時代のナイフ形石器等・縄文時代早期の石器



隆帶文系土器群



隆帶文系土器群



隆帯文系土器



隆帯文系土器

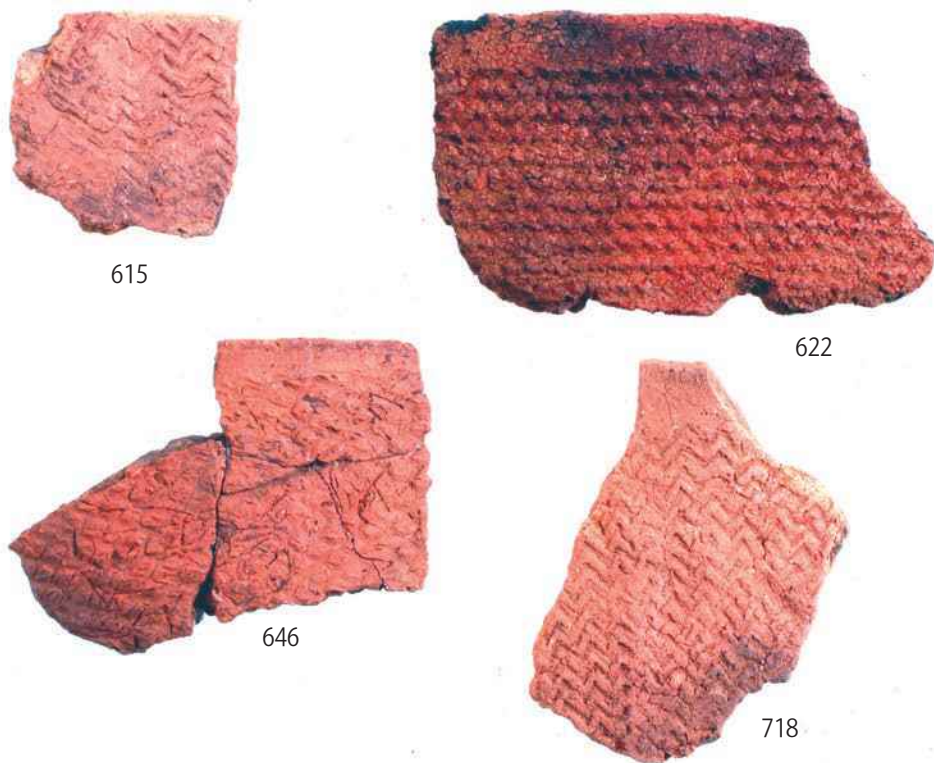


隆帯文系土器

※603のみ楕円文土器



縄文時代草創期の土器



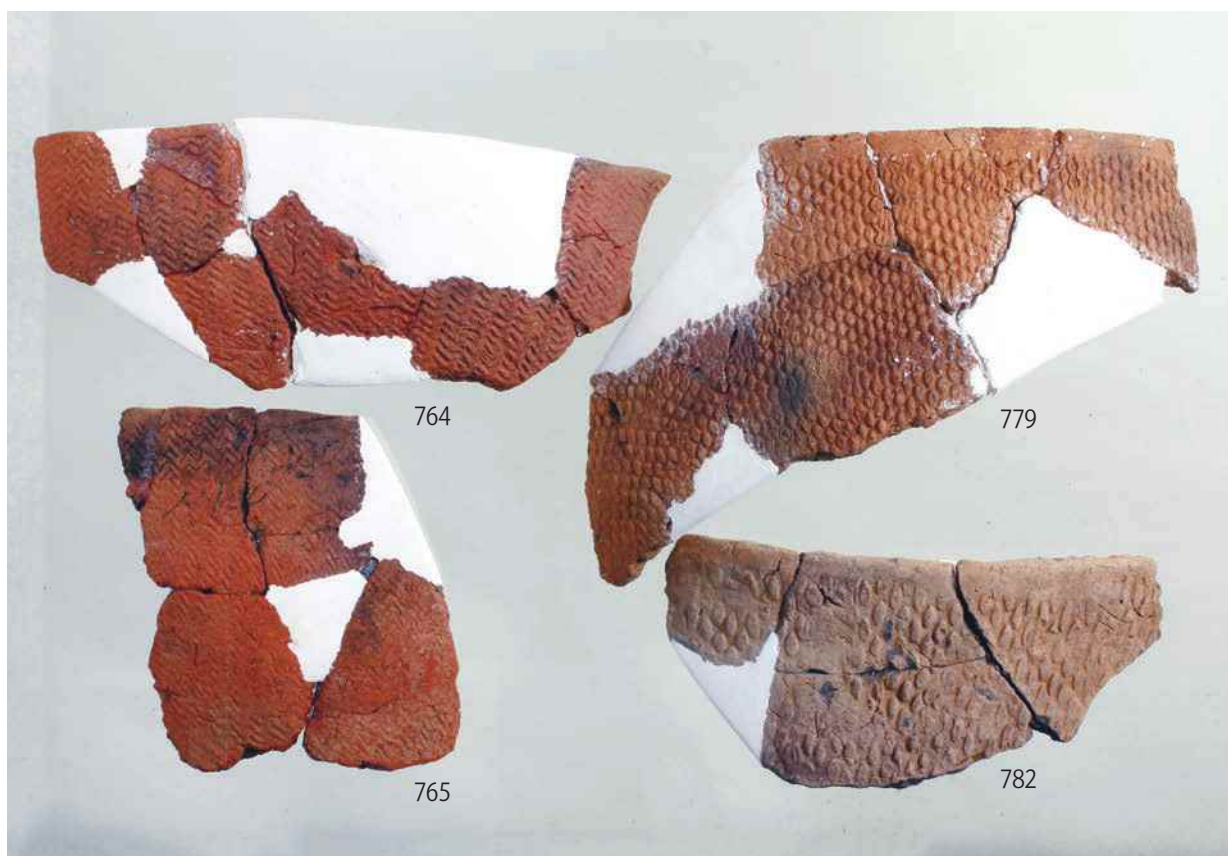
縄文時代早期の土器



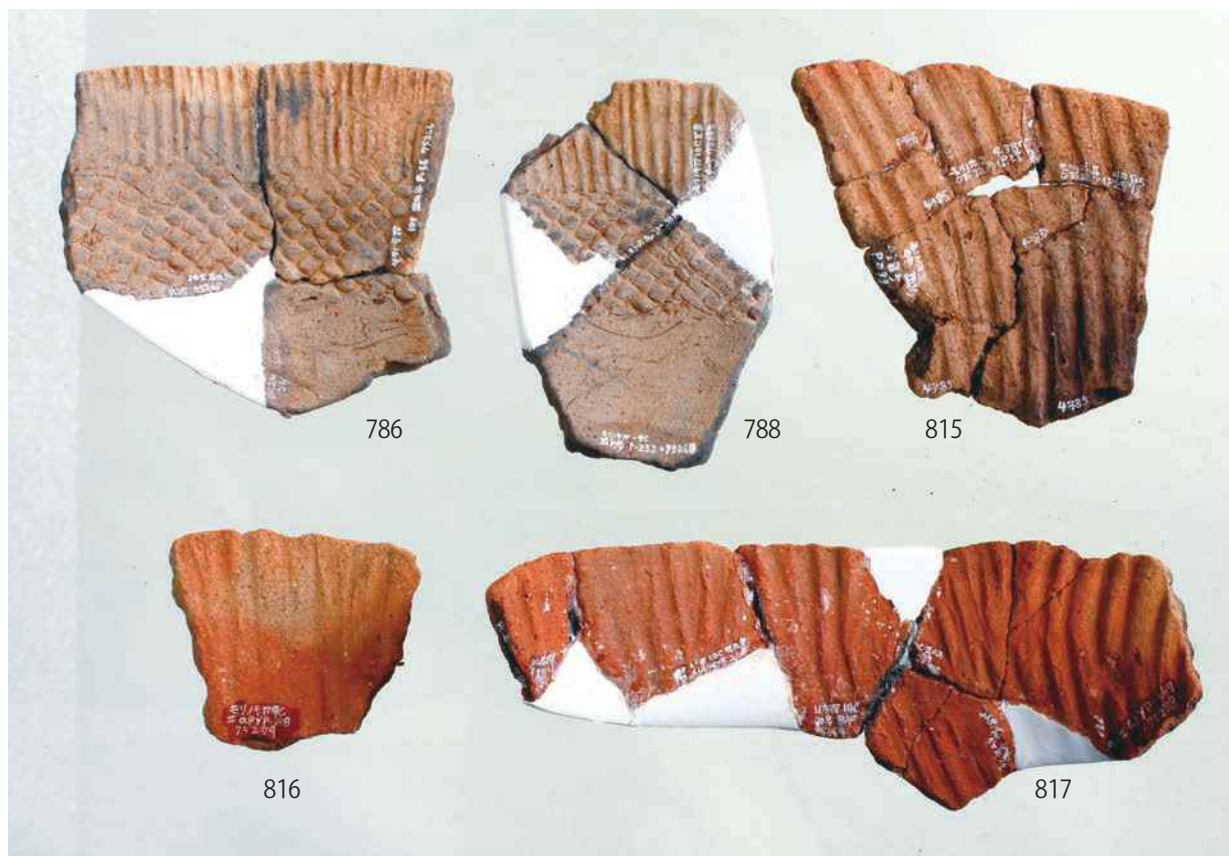
縄文時代早期の土器



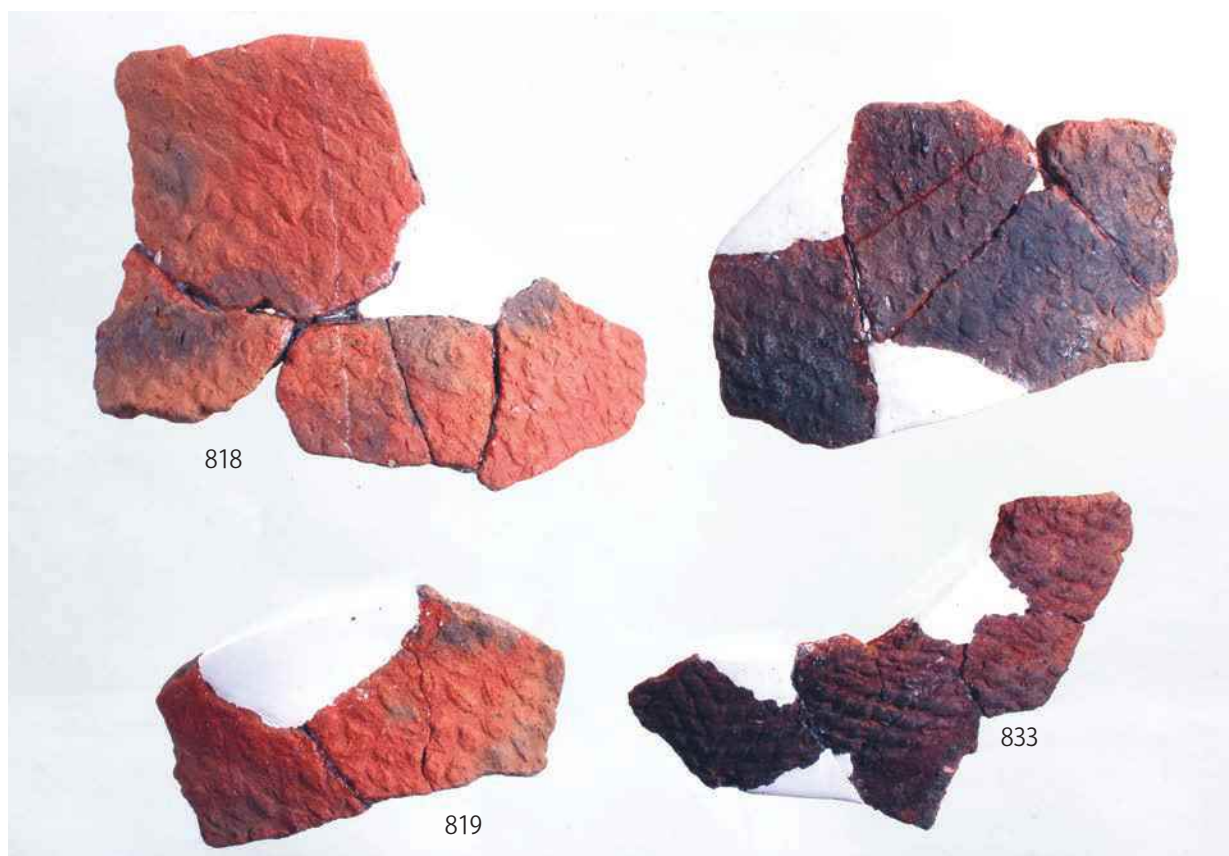
縄文時代早期の土器



縄文時代早期の土器



縄文時代早期の土器



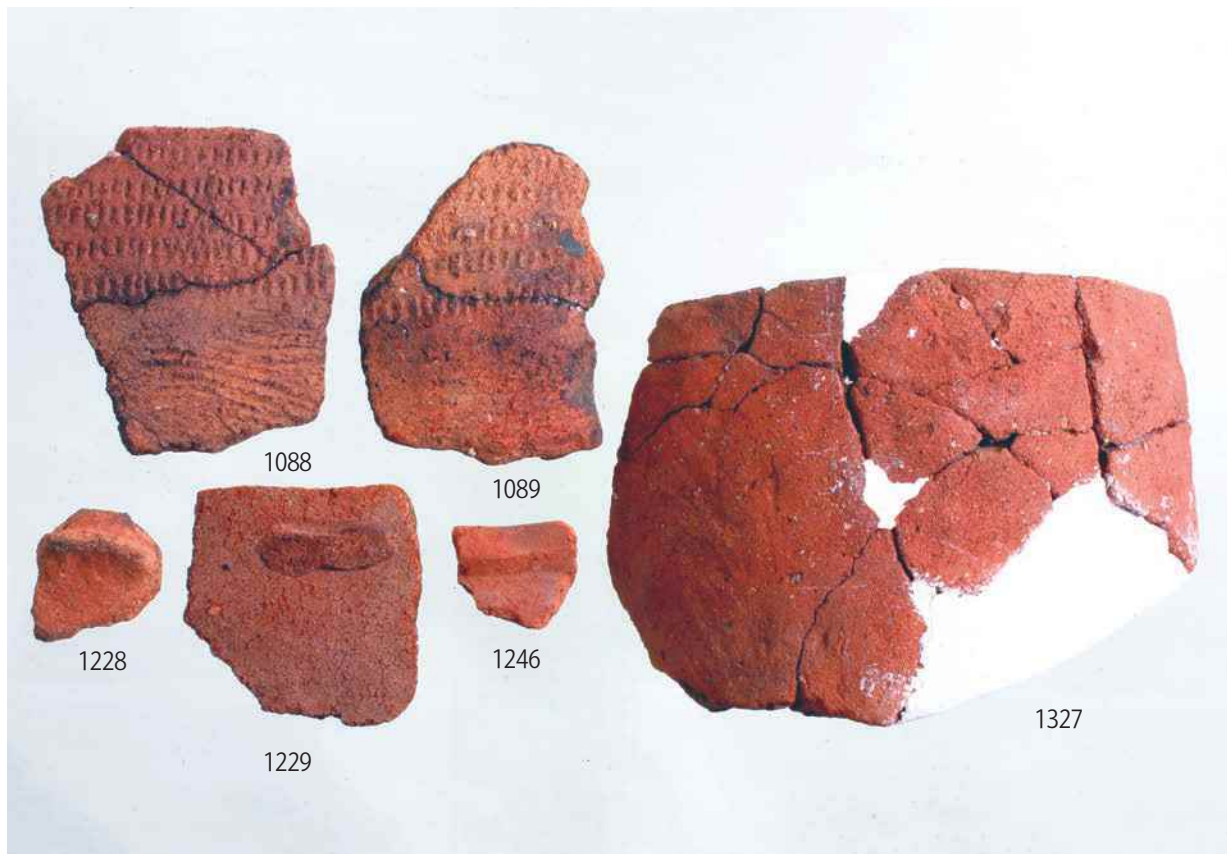
縄文時代早期の土器



縄文時代早期の土器



縄文時代早期・前期初頭の土器



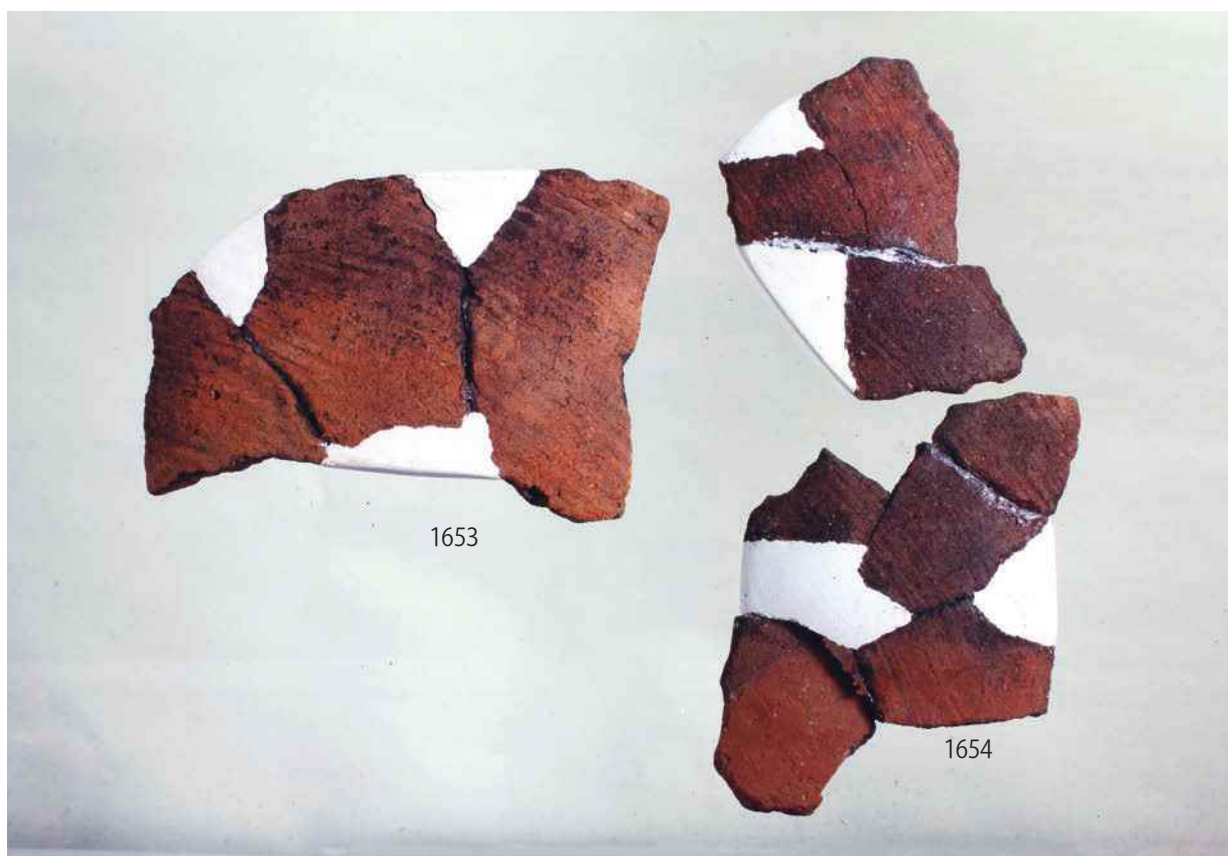
縄文時代早期・前期初頭の土器



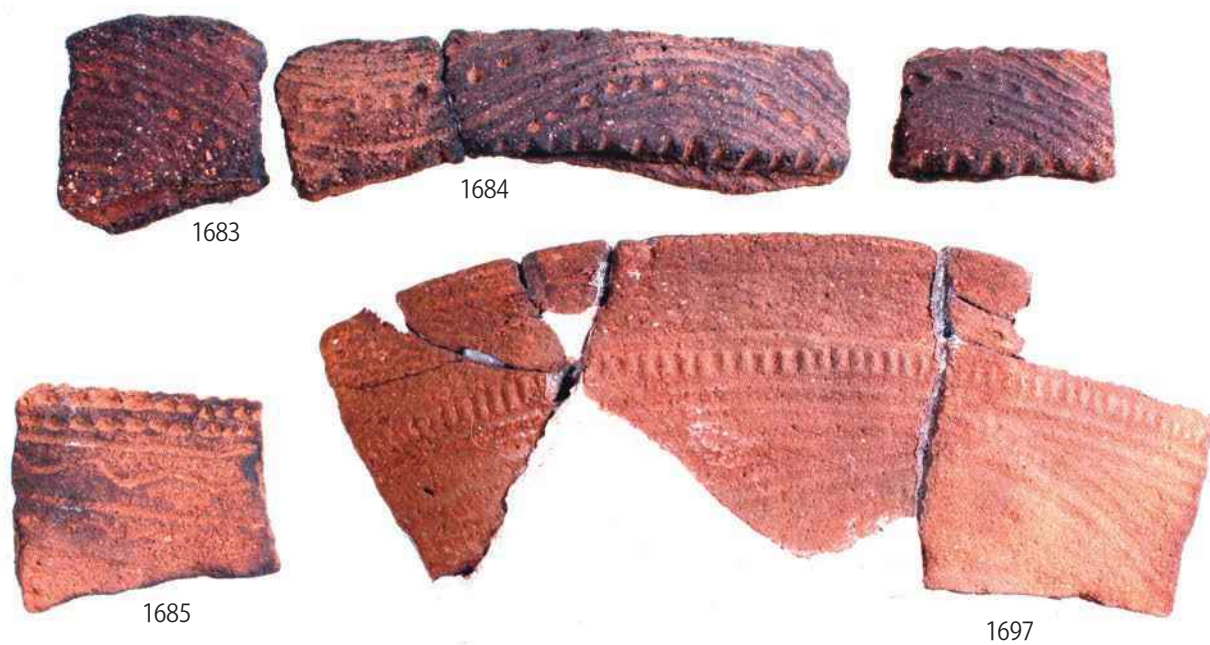
縄文時代早期の土器



縄文時代早期の土器



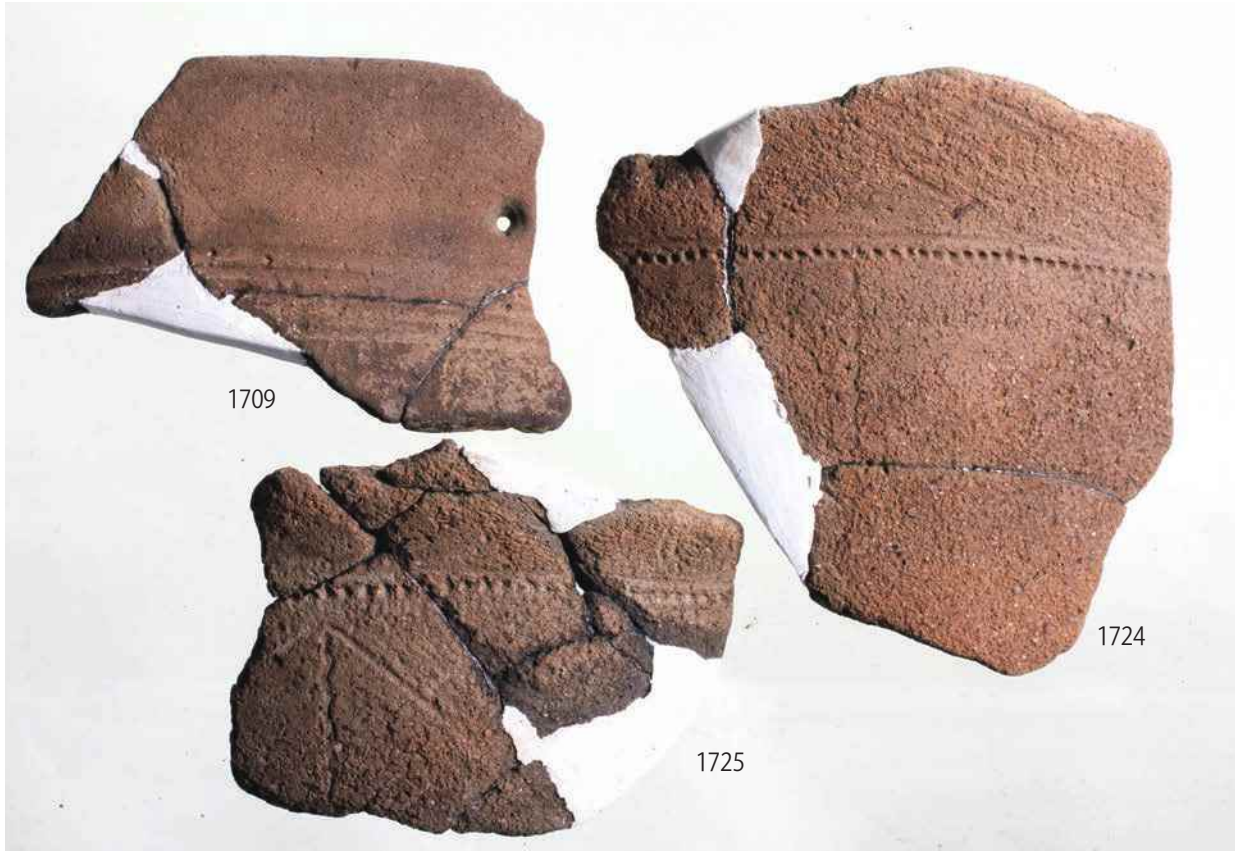
縄文時代早期の土器



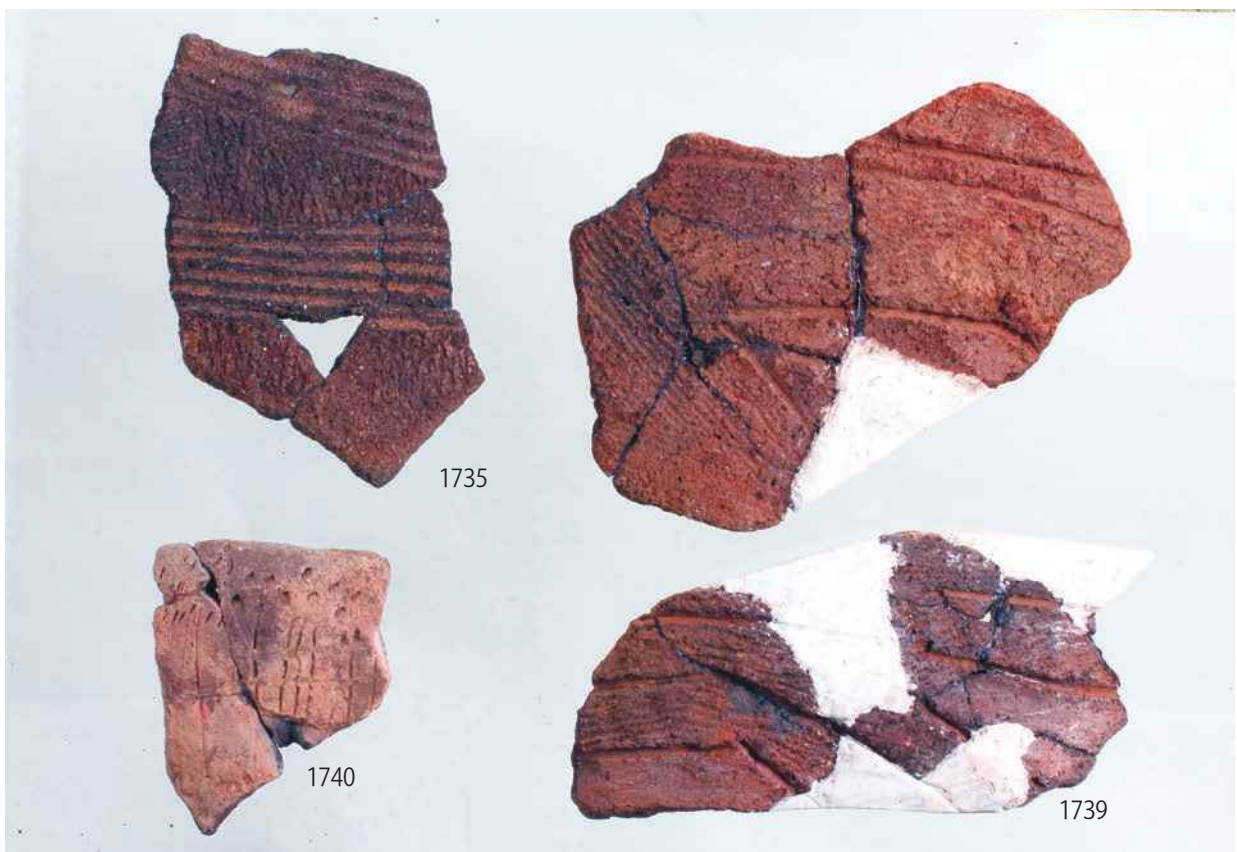
縄文時代早期の土器



縄文時代早期の土器



縄文時代早期の土器

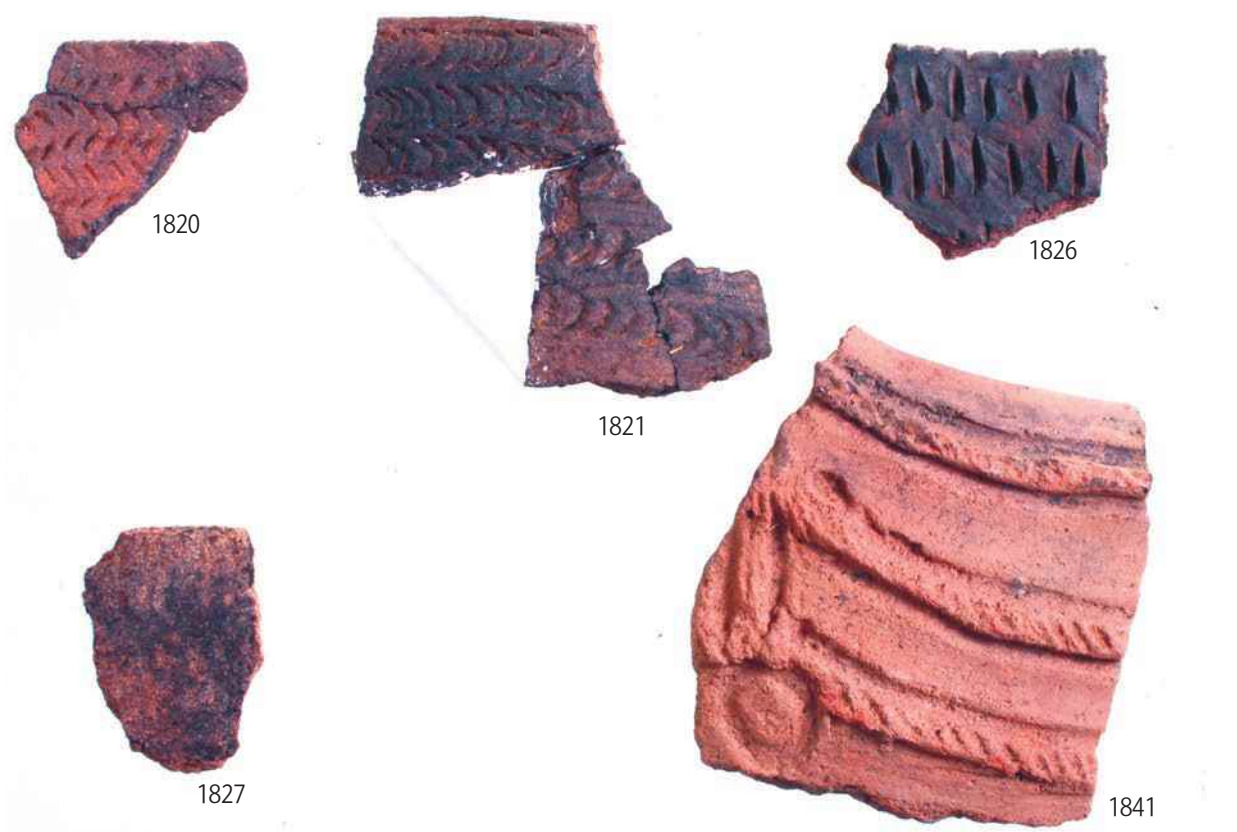


縄文時代早期の土器



縄文時代前期の土器

※1809のみ縄文時代草創期の隆起線文土器



縄文時代前期・後期の土器



縄文時代早期の石器



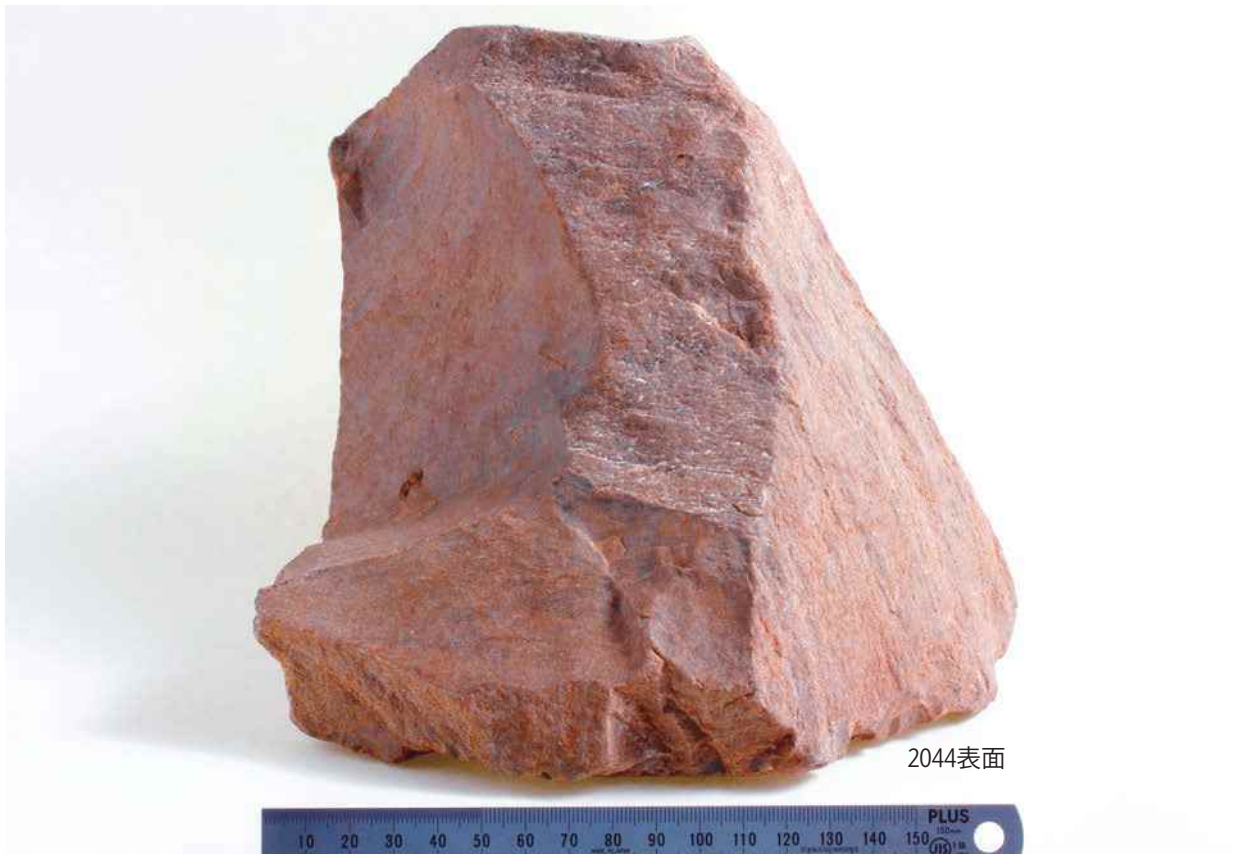
縄文時代早期の石器



縄文時代早期の石器



縄文時代早期の石器



2044表面

縄文時代早期の石核 スケールは15cm

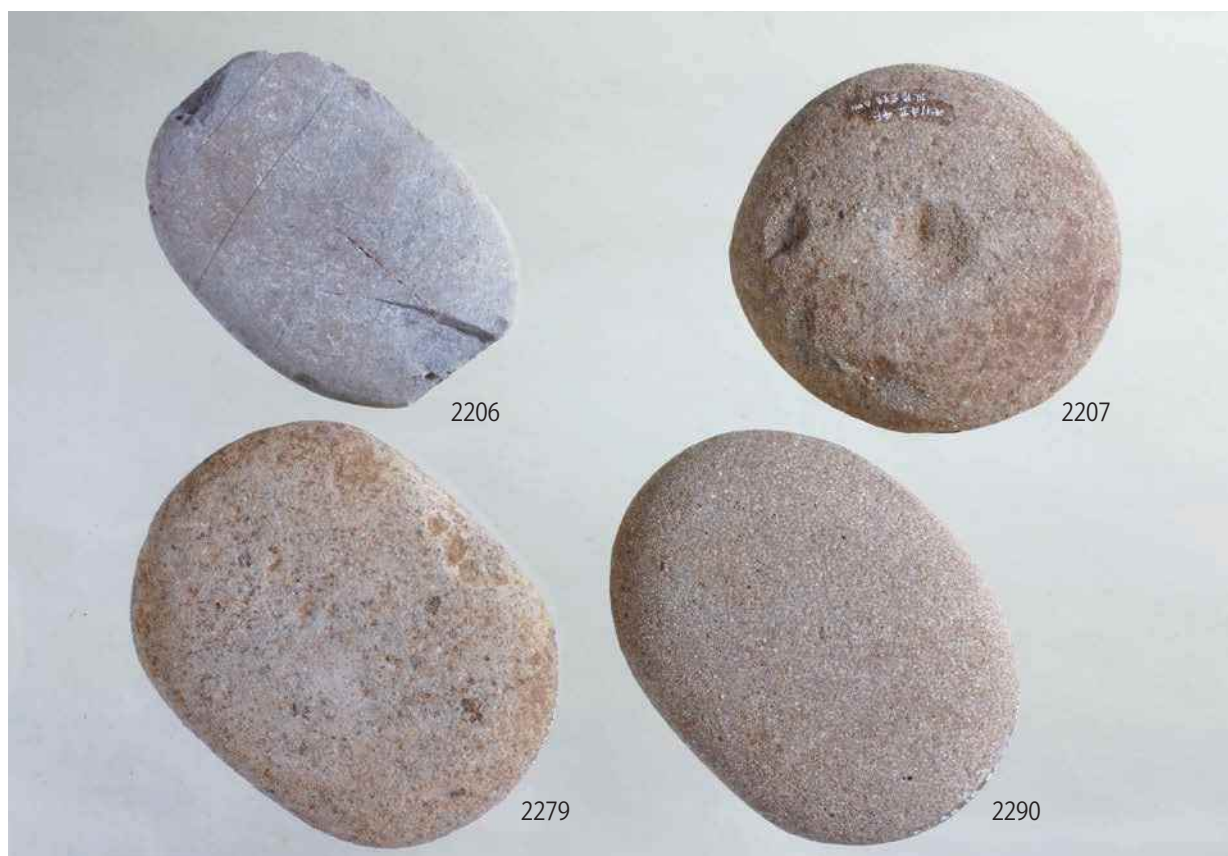


2044裏面

縄文時代早期の石核 スケールは15cm



縄文時代早期の石器 楔形石器、エンド・スクレイパー、石斧等



縄文時代早期の石器 磨石・凹石



縄文時代早期の石器



縄文時代早期の石器 石錘

スケールは15cm



2361

縄文時代早期の台石

スケールは15cm



縄文時代早期の台石



縄文時代早期の台石

スケールは15cm

森の木遺跡発掘調査報告書の抄録

ふりがな	もりのきいせきはくつちょうさほうこくしょ
書名	森の木遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ	大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第88集
編集・執筆者	大分県教育庁埋蔵文化財センター 綿貫俊一・坂本嘉弘
所在地	870-1113 大分県大分市大字中判田ビワノ門1977番地
発行年月日	平成28年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	しょざいち 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査 期間	調査 面積	調査 原因
		市町村	遺跡 番号					
もりのきいせき 森の木遺跡	おおいたけんさいきしおおあざながたにあざもりのき 大分県佐伯市大字長谷字森の木	205	023	32° 52' 45"	131° 51' 45"	2次 2009.07.02 ～ 2009.12.03 3次 2010.01.05 ～ 2010.02.10 4次 2010.04.26 ～ 2010.08.17	2次 4,450㎡ 3次 350㎡ 4次 1,765㎡ 計 6,565㎡	道路 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
森の木遺跡	集落跡ほか	旧石器時代後期 縄文時代草創期 縄文時代早期	竪穴建物 炉穴 集石	石刃尖頭器 隆帯文土器 環状石斧	縄文時代草創期中頃と後半の二集落跡が出土した。
要約	縄文時代草創期中頃の集落跡→草創期後半の集落跡→縄文時代早期の遺構への変遷が判明した。				

森の木遺跡発掘調査報告書

大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第88集

平成28年3月31日

発行 大分県教育庁埋蔵文化財センター

〒870-1113

大分市大字中判田ビワノ門1977番地

TEL 097-597-5675

印刷 株式会社インタープリント

〒870-0945

大分市津守563番地の7

TEL 097-568-8123
